

Oracle® Fusion Cloud EPM Tax Reporting の管理



F26045-21



Oracle Fusion Cloud EPM Tax Reporting の管理、

F26045-21

Copyright © 2019, 2024, Oracle and/or its affiliates.

著者: EPM Information Development Team

This software and related documentation are provided under a license agreement containing restrictions on use and disclosure and are protected by intellectual property laws. Except as expressly permitted in your license agreement or allowed by law, you may not use, copy, reproduce, translate, broadcast, modify, license, transmit, distribute, exhibit, perform, publish, or display any part, in any form, or by any means. Reverse engineering, disassembly, or decompilation of this software, unless required by law for interoperability, is prohibited.

The information contained herein is subject to change without notice and is not warranted to be error-free. If you find any errors, please report them to us in writing.

If this is software, software documentation, data (as defined in the Federal Acquisition Regulation), or related documentation that is delivered to the U.S. Government or anyone licensing it on behalf of the U.S. Government, then the following notice is applicable:

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs (including any operating system, integrated software, any programs embedded, installed, or activated on delivered hardware, and modifications of such programs) and Oracle computer documentation or other Oracle data delivered to or accessed by U.S. Government end users are "commercial computer software," "commercial computer software documentation," or "limited rights data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, reproduction, duplication, release, display, disclosure, modification, preparation of derivative works, and/or adaptation of i) Oracle programs (including any operating system, integrated software, any programs embedded, installed, or activated on delivered hardware, and modifications of such programs), ii) Oracle computer documentation and/or iii) other Oracle data, is subject to the rights and limitations specified in the license contained in the applicable contract. The terms governing the U.S. Government's use of Oracle cloud services are defined by the applicable contract for such services. No other rights are granted to the U.S. Government.

This software or hardware is developed for general use in a variety of information management applications. It is not developed or intended for use in any inherently dangerous applications, including applications that may create a risk of personal injury. If you use this software or hardware in dangerous applications, then you shall be responsible to take all appropriate fail-safe, backup, redundancy, and other measures to ensure its safe use. Oracle Corporation and its affiliates disclaim any liability for any damages caused by use of this software or hardware in dangerous applications.

Oracle®, Java, MySQL and NetSuite are registered trademarks of Oracle and/or its affiliates. Other names may be trademarks of their respective owners.

Intel and Intel Inside are trademarks or registered trademarks of Intel Corporation. All SPARC trademarks are used under license and are trademarks or registered trademarks of SPARC International, Inc. AMD, Epyc, and the AMD logo are trademarks or registered trademarks of Advanced Micro Devices. UNIX is a registered trademark of The Open Group.

This software or hardware and documentation may provide access to or information about content, products, and services from third parties. Oracle Corporation and its affiliates are not responsible for and expressly disclaim all warranties of any kind with respect to third-party content, products, and services unless otherwise set forth in an applicable agreement between you and Oracle. Oracle Corporation and its affiliates will not be responsible for any loss, costs, or damages incurred due to your access to or use of third-party content, products, or services, except as set forth in an applicable agreement between you and Oracle.

目次

ドキュメントのアクセシビリティについて

ドキュメントのフィードバック

1 EPM センター・オブ・エクセレンスの作成および実行

2 Tax Reporting 概要

税引当プロセス	2-1
最初に行うタスク	2-3

3 アプリケーションの作成

ビジネス・プロセスの作成	3-1
EPM Enterprise Cloud Service アプリケーションの作成	3-1
アプリケーションについて学ぶ	3-3
アプリケーションの「概要」タブ	3-4
アプリケーションの「キューブ」	3-4
アプリケーションの「ディメンション」	3-5
アプリケーションの「アクティビティ・レポート」および「アクセス・ログ」	3-6
受信ボックス/送信ボックス・エクスプローラの使用	3-8
アプリケーションの作成の前提条件	3-9
アプリケーションの作成のワークフロー	3-9
Tax Reporting アプリケーションの作成	3-10
新規アプリケーションの作成	3-10
サンプル・アプリケーションの作成	3-14
アプリケーションの機能の有効化	3-16
管轄およびエンティティの構成	3-20
国の管轄の作成	3-21
地域の管轄の作成	3-24

エンティティの作成	3-26
通貨の追加	3-29
管轄とエンティティの構成後のデータベースのリフレッシュ	3-30
アプリケーションの削除	3-32

4 セキュリティの管理

セキュリティの概要	4-1
アーティファクトとデータ・アクセスの管理	4-2
アーティファクトへのユーザー・アクセス権の割当て	4-4
データへのユーザー・アクセス権の割当て	4-4
ディメンションのセキュリティの有効化または無効化	4-5
ディメンション・メンバーへのセキュリティの割当て	4-6
セル・レベル・セキュリティの定義	4-7
セル・レベル・セキュリティの理解	4-7
セル・レベル・セキュリティ定義の作成	4-8
セル・レベル・セキュリティ定義の表示	4-10
セル・レベル・セキュリティ定義のフィルタ	4-10
セル・レベル・セキュリティ定義のインポートとエクスポート	4-11
セル・レベル・セキュリティのテスト	4-13
セル・レベル・セキュリティ定義リストの並替え	4-14

5 アプリケーションの管理

アプリケーションの概要	5-1
アプリケーション・モデル	5-2
自分が持っているアプリケーション・モデル	5-3
パフォーマンス設定	5-4
データ・ソース・ディメンションのパフォーマンス設定の変更(非ハイブリッド・モードのみ)	5-4
ハイブリッド集約のアプリケーション・モデルの最適化	5-6
アプリケーション・モデルのハイブリッド最適化(DSO)への変換	5-6
ハイブリッド最適化の一環としての更新の実行	5-8
アプリケーションをハイブリッド用に最適化した後の変換後の手順の実行	5-9
ディメンション、メンバー、別名、フォームの命名規則	5-9
Essbase アウトラインの検証	5-12
メタデータのインポート	5-13
メタデータ・インポート・ファイルの作成	5-15
他のサポートされている区切り文字	5-16
メタデータ・インポート・ファイルのロード	5-17

メタデータのエクスポート	5-19
メタデータ検証メッセージ	5-22
データ統合	5-22
データ統合のベスト・プラクティス	5-23
Tax Reporting ハイブリッド最適化(DSO)アプリケーションからのデータのエクスポート	5-23
Tax Reporting アプリケーションにインポートするための Financial Consolidation and Close アプリケーションからの年次累計(YTD)データのエクスポート	5-26
データのコピー	5-26
データのコピー・ジョブの使用	5-32
データのコピー・ジョブの保存	5-34
データのコピー・ジョブのスケジュール	5-35
データのコピー・ジョブの監査	5-36
例: 構成の除外、代替変数、ジョブのスケジュール	5-36
データのクリア	5-37
データのクリア・ジョブの使用	5-42
キューブのクリア・ジョブの作成	5-43
データベースのリフレッシュ	5-44
メタデータの検証	5-46
有効な交差の定義	5-48
有効な交差の理解	5-48
有効交差グループ	5-48
有効交差ルール	5-48
アンカーおよび非アンカー・ディメンション	5-49
有効交差ルールの冗長または重複	5-49
共有メンバーおよび有効交差ルール	5-49
代替変数および有効交差ルール	5-49
評価順序	5-49
有効な交差の作成	5-50
有効な交差の管理	5-52
有効交差の表示	5-52
有効な交差のフィルタ	5-53
交差のインポートとエクスポート	5-53
有効交差グループの評価順序の変更	5-56
有効交差グループの無効化および有効化	5-56
有効交差グループの詳細の編集	5-57
有効交差グループの複製	5-58
有効交差グループの削除	5-58
フォームでの有効交差の操作	5-58

フォーム内の無効データの抑制	5-60
無効な交差レポートの管理	5-62
無効な交差レポートの作成	5-62
無効な交差レポートの編集	5-63
無効な交差レポートの複製	5-63
無効な交差レポートの実行	5-64
無効な交差レポートの削除	5-64
アプリケーションに関する推奨事項の表示	5-65
アクティビティ・レポートとアクセス・ログの操作	5-69

6 アプリケーションおよびシステムの設定の管理

アプリケーション設定の指定	6-1
アプリケーション所有権の管理	6-9
Enterprise Performance Management Cloud デプロイメントへのフォントのアップロード	6-10
アプリケーションの外観のカスタマイズ	6-11
通知用電子メールの設定	6-13
変数の操作	6-14
ユーザー変数の作成	6-14
代替変数の作成	6-15
お知らせの作成	6-15
アーティファクト・ラベルの指定	6-16

7 EPM Cloud での環境の接続

EPM Cloud 環境の接続について	7-1
EPM Cloud 接続を移行する際の考慮事項	7-3
他の EPM Cloud 環境への接続の作成、編集および削除	7-4
外部 Web サービスへの接続	7-6
外部接続の詳細設定オプションの指定	7-7
EPM Cloud 環境間の移動	7-8
他の EPM Cloud 環境にアクセスするためのナビゲーション・フローのカスタマイズ	7-9
他の EPM Cloud 環境からクラスタへのカードのグループ化	7-9
複数 EPM Cloud 環境からのタブのあるカードの構成	7-13
接続された環境を統合するための直接 URL の使用	7-16
個々の URL のコピー	7-17
CSV ファイルへのすべての URL のエクスポート	7-17

8 カスタム・ナビゲーション・フローの設計

ナビゲーション・フローの理解	8-1
ビジネス・プロセス・インタフェースでカスタマイズできる内容	8-1
ナビゲーション・フローのカスタマイズ・カテゴリ	8-2
ナビゲーション・フローの権限	8-3
事前定義済のナビゲーション・フロー	8-3
インポート後のナビゲーション・フロー・ステータスの理解	8-3
ナビゲーション・フローの表示と操作	8-4
ナビゲーション・フロー設計のベスト・プラクティスと命名に関する考慮事項	8-5
ナビゲーション・フローの作成と複製	8-6
ナビゲーション・フローの編集	8-7
ナビゲーション・フローのアクティブ化と非アクティブ化	8-8
ナビゲーション・フローでの検証を使用した欠落アーティファクトの検出	8-9
警告アイコンを表示するナビゲーション・フローの解決	8-10
カード、タブおよびクラスタのラベルのカスタマイズ	8-10
カードおよび垂直タブのアイコンのカスタマイズ	8-11
クラスタ、カードおよびタブの表示および非表示	8-12
ホーム・ページ上のカードの表示順序の変更	8-12
カードの追加	8-12
表形式ページへのタブの追加	8-15
EPM Cloud アプリケーションにサード・パーティ・ページを埋め込むための URL の使用について	8-18
ナビゲーション・フロー、カードおよびタブの削除	8-18
クラスタへのカードのグループ化	8-19
ナビゲーション・フローのリロード	8-21
実行時のナビゲーション・フローの切替え	8-22

9 インフォレットの設計

インフォレットについて	9-1
インフォレットの詳細分析	9-3
インフォレットの内容の決定	9-6
インフォレットのフォームの設計	9-7
インフォレットのチャートの設計	9-7
インフォレット・デザイナの使用	9-8
インフォレットの作成	9-11
インフォレットの操作	9-11
インフォレットにアクセスするアプリケーション・インタフェースのカスタマイズ	9-12

10 ダッシュボードの設計

ダッシュボードのメリット	10-1
ダッシュボード設計の概念	10-3
ダッシュボードの設計手順	10-4
ダッシュボードのレイアウトについて	10-6
ゲージ・チャート・タイプについて	10-6
タイル・チャート・タイプについて	10-8
ダッシュボードの色のカスタマイズ	10-10
折れ線グラフおよび組合せグラフの線幅の設定	10-11
グローバル POV とローカル POV について	10-12
ダッシュボードの POV および有効交差	10-14
ダッシュボードの表示	10-14
ダッシュボード 1.0 のダッシュボードの 2.0 への変換	10-17
ダッシュボード 2.0 の作成および管理	10-18
ダッシュボード 2.0 のダッシュボード設計の概念	10-19
オブジェクト・パレット	10-22
ダッシュボード・ツールバー	10-23
ダッシュボード・ワークスペース	10-24
プロパティ・パネル	10-25
ダッシュボード・コンポーネント	10-29
ダッシュボード 2.0 の考慮事項	10-30
ダッシュボード 2.0 のダッシュボードの作成	10-32
ダッシュボード 2.0 の設計時のメンバー・セレクトタの操作	10-32
ダッシュボード 2.0 のフォーム 2.0 のグリッドについて	10-33
ジオマップ・チャート・タイプについて	10-34
ピラミッド・チャート・タイプについて	10-36
ウォーターフォール・チャート・タイプについて	10-37
ダッシュボードでの表の使用	10-39
ダッシュボード 2.0 のゲージ・チャート・タイプについて	10-41
ダッシュボード 2.0 のレーダー・チャート・タイプについて	10-44
ダッシュボード 2.0 の組合せチャート・タイプについて	10-46
ダッシュボード 2.0 のタイル・チャート・タイプについて	10-48
ダッシュボード 2.0 のグローバル POV とローカル POV について	10-50
クイック分析について	10-53

11 フォームの管理

フォーム・グリッド・プロパティの設定	11-1
フォーム・ディメンション・プロパティの設定	11-3

印刷オプションの設定	11-4
フォームの編集	11-5

12 ディメンションの操作

ディメンションの概要	12-1
勘定科目ディメンション	12-2
勘定科目プロパティの定義	12-5
勘定科目の課税属性の定義	12-8
会社間勘定属性の値の設定	12-13
連結 ETR カスタム属性の設定	12-14
期間ディメンション	12-15
連結ディメンション	12-17
データ・ソース	12-19
データ・ソースの課税属性の定義	12-22
通貨ディメンション	12-23
会社間ディメンション	12-24
エンティティの会社間プロパティ	12-27
エンティティ・ディメンション	12-27
エンティティの課税属性の定義	12-31
増減ディメンション	12-33
増減の課税属性の定義	12-36
複数 GAAP ディメンション	12-36
管轄ディメンション	12-38
シナリオ・ディメンション	12-39
シナリオの課税属性の定義	12-40
ビュー・ディメンション	12-41
年ディメンション	12-41
ディメンションの表示および編集	12-42
ナビゲーションを使用したディメンション階層の操作	12-43
ディメンション階層の展開および縮小	12-43
ディメンション階層の移動	12-44
ディメンションまたはメンバーの検索	12-44
メンバーのソート	12-44
ディメンション階層内でのメンバーの移動	12-45
メンバーの祖先の表示	12-46
メンバーの用途の表示	12-46
カスタム・ディメンションの追加(ハイブリッド・モードのみ)	12-46
集約オプション	12-48

データ・ストレージ・オプション	12-49
動的計算について	12-49
保管データ・ストレージ	12-49
共有データ・ストレージ	12-49
非共有データ・ストレージ	12-49
ラベルのみのデータ・ストレージ	12-49
ディメンション・プロパティの設定	12-50
メンバーの操作	12-51
選択	12-51
メンバーの関係	12-54
ワイルドカードを使用した検索	12-55
シード済ディメンション・メンバー	12-56
動的メンバー	12-57
メンバーの追加または編集	12-58
メンバーの削除	12-62
親メンバーの削除	12-62
共有メンバーの操作	12-63
共有メンバーの作成	12-63
メンバー式の操作	12-63
式の確認結果の表示	12-65
メンバー式の解決順(ハイブリッド・モードのみ)	12-65
解決順序の設定(ハイブリッド・モードのみ)	12-68
メンバー式のベスト・プラクティス	12-69
代替階層の作成	12-69
エンティティ・ディメンションでの代替階層の作成	12-71

13 簡易ディメンション・エディタでのディメンションの編集

簡易ディメンション・エディタでのディメンションの編集について	13-1
簡易ディメンション・エディタへのアクセス	13-2
簡易ディメンション・エディタを使用したディメンションの操作	13-2
他のディメンションへの切替え	13-3
列レイアウトのカスタマイズ	13-3
祖先の表示	13-3
アプリケーションでのメンバーの用途の表示	13-4
編集のフォーカス	13-4
メンバーの検索	13-5
メンバーのソート	13-5
別の階層へのメンバーの移動	13-5

Microsoft Excel からのメンバー名のコピー	13-5
メンバー式の操作	13-6
ディメンション・プロパティの編集	13-6
簡易ディメンション・エディタを使用したメンバー・プロパティの編集	13-8

14 データのインポートとエクスポート

データのインポート	14-1
データ・インポート・ファイルの作成	14-2
ロード方法	14-3
ロード方法の例	14-3
データ・インポート・ファイルのロード	14-4
データのエクスポート	14-6
データ・インポートおよびエクスポートのステータスの表示	14-9

15 データ管理を使用したデータのインポートとエクスポート

データ管理を使用したデータのインポート	15-1
データ管理を使用したデータのエクスポート	15-2

16 税率の設定

税率の設定	16-1
税率の入力	16-2
繰延税金のオーバーライド・レート(国)の適用	16-4
繰延税金のオーバーライド・レート(地域)の適用	16-7
今年度のすべての増減への期末レートの適用	16-9
前年度調整(繰延のみ)列への期首税率の適用	16-10

17 データの連結

連結プロセス	17-1
連結ディメンションのデータ・フロー	17-3
会社間消去	17-3
データの連結	17-3
連結ロジック	17-5
換算プロセス	17-5
データの換算	17-6
換算方法	17-6
連結および換算ルール	17-10

連結および換算セキュリティ・アクセス	17-13
計算ステータス	17-13
連結の進行状況の表示	17-15
出資比率の管理の操作	17-15
出資比率の管理	17-15
アプリケーションでの「出資比率の管理」の有効化	17-17
出資比率の変更の処理	17-24
非支配持分(NCI)の設定	17-28
出資比率連結メソッド	17-30
出資比率設定の変更	17-32
出資比率データのインポートおよびエクスポート	17-34
出資比率データの再計算	17-38
フォームでの出資比率設定	17-39
TRCS_出資比率詳細の表示	17-40
TRCS_加重出資比率詳細の表示	17-41
前年比出資比率設定	17-42

18 ジョブの管理

ジョブの概要	18-1
ジョブのスケジュール	18-2
ジョブの表示	18-4
連結以外のジョブの表示	18-5
保留中のジョブおよび最近のアクティビティの表示	18-6
ジョブの編集および削除	18-7
ジョブの複製	18-9
キューブのクリア・ジョブの開始および削除	18-9

19 ロールオーバーの実行と構成のコピー

ロールオーバーについて学習	19-1
ロールオーバーの実行	19-3
エンティティによるロールオーバーの実行	19-7
シナリオ、年および期間全体の構成のコピー	19-8
エンティティ全体の構成のコピー	19-11

20 税金自動化の使用

税金自動化について学ぶ	20-1
データ・ソース・ディメンションへの税金自動化ルールの追加	20-2

複数のルールの組合せを使用した税金自動化の作成	20-4
税金自動化(国)の操作	20-7
税金自動化(地域)の操作	20-17
税金自動化ロジックの例	20-27
複数法定住所の税金自動化ルールの管理	20-30

21 トレースの操作

税金自動化トレースの操作	21-1
税金自動化トレースについて学ぶ	21-1
税金自動化トレースの有効化	21-2
税金自動化トレース・フォームへのアクセス	21-3
税金自動化トレースの使用	21-5
例: ユース・ケース	21-6
例: ロジック	21-9

22 会社間消去の操作

税引当での会社間消去の実行	22-1
---------------	------

23 申告額の未払処理調整(RTA)自動化の操作

RTA の操作	23-1
RTA 自動化ルールの定義	23-2
RTA 金額への前年度レートの適用	23-4
RTA 分岐の操作	23-5
RTA 分岐の有効化	23-5
RTA 分岐の使用	23-6
ユース・ケース例	23-11

24 CbCR 自動化の使用

CbCR 自動化の設定	24-1
CbCR 自動化のルールの追加	24-4

25 現在の未払税自動化(国と地域)の操作

現在の未払税自動化の有効化	25-1
現在の未払税自動化のマッピングの作成	25-2
「現在の未払税自動」フォームでの列の追加と削除	25-5

26 TAR 自動化および TAR 自動化帳簿残高の操作

TAR 自動化および TAR 自動化帳簿残高レポートの構成	26-1
一般会計の列のメタデータの作成	26-2
TAR 支払および払戻増減メンバーに対するデータソースの設定	26-4
デフォルト・マッピングの生成	26-5
カスタム・マッピングの生成	26-8
国内または国外としての TAR 勘定科目の分類	26-11
TAR フォーム検証メンバー式の更新	26-12
TAR 自動化ロールオーバーの生成	26-14

27 期限切れの年別課税損失/税額控除の操作

期限切れの年別課税損失/税額控除の有効化	27-1
メタデータの設定	27-1

28 純営業損失(NOL)/控除の操作

純営業損失(NOL)/控除について学ぶ	28-1
NOL/控除自動化の有効化	28-2
「NOL 自動化」画面へのアクセス	28-3
NOL 自動化列の操作	28-3
NOL 自動化ルールの管理	28-5
NOL 自動化ルールの定義	28-6
NOL 自動化ルールのコピー	28-8
NOL 自動化ルールの削除	28-8
NOL 自動化計算ルールについて学ぶ	28-8
課税損失の繰延	28-9
繰延ルールの定義: 例	28-9
ユース・ケース例: 繰延	28-9
課税損失/税額控除の使用	28-12
計算例	28-13
使用ルールの定義	28-15
ユース・ケース例: 使用	28-18
課税損失/税額控除の期限切れ	28-20
期限切れルールの定義	28-20

29 Pillar 2 の操作

Pillar 2 について学ぶ	29-1
Pillar 2 の有効化	29-1
前提条件	29-1
Pillar 2 へのアクセス	29-2
Pillar 2 ダッシュボードの表示	29-2
Pillar 2 フォームの操作	29-3
Pillar 2 の構成	29-4
Pillar 2 エンティティの構成	29-4
Pillar 2 管轄の構成	29-6
GloBE 所得、対象税金および実質ベースの調整勘定科目の構成	29-6
対象税金の一時差異増減の構成	29-7
対象税金のその他の繰延税金増減の構成	29-8
GloBE 所得および対象税金自動化の構成	29-9
その他の勘定科目およびその他の勘定科目自動化の構成	29-10
Pillar 2 グローバル税率の入力	29-11
Pillar 2 データ・フローの管理	29-11
Pillar 2 対象税金の操作	29-15
Pillar 2 ルールの操作	29-16
レポート通貨換算	29-17
構成のコピー	29-17
セキュリティに関する考慮事項	29-17

30 アーティファクトの移行

アーティファクトのエクスポート	30-1
アーカイブのアップロード	30-3

31 承認ユニット階層の管理

承認ユニット階層の作成	31-1
承認ユニット階層の設定	31-2
承認ユニット階層のメンバーの選択	31-3
承認ユニットの所有者と確認者の割当て	31-4
シナリオへの承認ユニット階層の割当て	31-5
承認ユニット階層の編集	31-6
承認ユニット階層の使用状況の表示	31-7

承認ユニット階層の同期	31-7
承認ユニット階層の削除および名前変更	31-9
承認ユニット階層のエクスポート	31-9
承認ユニット階層のインポート	31-9

32 承認プロセスの管理

承認プロセスの概要	32-1
承認の有効化	32-2
CbCR のための個別承認の設定	32-2
承認プロセスの開始	32-6
承認ユニットの移動パス	32-7
承認ユニット注釈レポートの作成	32-7
承認ステータス・レポートの作成	32-8
データ検証ルール	32-10
フォームへのデータ検証ルールの組込み	32-11
エンティティのロックとロック解除	32-12

33 タスクおよびデータの監査

監査タスクの構成	33-1
監査情報の概要	33-1
監査詳細の表示	33-4
タスク・マネージャおよび補足データの監査詳細の表示	33-6

34 タスク・マネージャの設定

タスク・マネージャの用語	34-1
タスク・マネージャの概要	34-2
サンプル・タスク・フロー	34-3
タスク・マネージャのビュー、リストおよびフィルタの管理	34-4
タスク・マネージャのリストの表示	34-5
タスク・マネージャの列の定義	34-6
タスク・マネージャ・システム設定の管理	34-13
グローバル統合トークンの管理	34-13
グローバル統合トークンの作成	34-14
トークンの削除	34-15
タスク・マネージャの組織単位の管理	34-15
組織単位の追加	34-15
組織単位のインポート	34-16

組織単位を選択	34-17
タスクの休日ルール管理	34-17
休日ルールの作成	34-17
組織単位への休日ルールの適用	34-18
スケジュール・テンプレートへの休日ルールの適用	34-18
休日日付のインポート	34-19
休日ルールの編集	34-19
休日ルールの複製	34-20
休日ルールの削除	34-20
構成設定の変更	34-20
コメントの削除の許可	34-21
タスクの削除の許可	34-21
電子メール通知の有効化	34-21
タスク・マネージャ・ガバナーの設定	34-31
再割当て要求の承認の許可	34-32
タスクを再度開く	34-32
タスク・マネージャ・レポートの設定	34-33
Excel フォーマットへのエクスポートの設定	34-33
Smart View でのタスク表示の指定	34-34
ワークリストおよびようこそパネルでの今後のタスクの表示	34-34
タスク・マネージャ属性管理	34-35
タスク・マネージャ属性の定義	34-35
計算属性の定義	34-37
リスト属性のインポート	34-40
属性の編集	34-41
属性の複製	34-41
属性の削除	34-42
属性の表示	34-42
属性の検索	34-42

35 タスク・マネージャのチームの管理

タスク・マネージャのチームおよびメンバーの追加	35-1
タスク・マネージャのチームおよびメンバーの編集	35-2
チームおよびメンバーの検索およびフィルタ	35-2
チームおよびメンバーの削除	35-3
タスク・マネージャ・ユーザーの管理	35-4
バックアップ割当ての管理	35-5

タスク・マネージャでの再割当ての要求	35-6
--------------------	------

36 タスク・タイプの管理

タスク・タイプ	36-1
タスク・タイプの作成	36-1
タスク・タイプのプロパティの設定	36-2
タスク・タイプ・パラメータの設定	36-2
タスク・タイプの指示の指定	36-3
タスク・タイプの質問の指定	36-4
タスク・タイプ属性の割当て	36-6
タスク・タイプ・ルールの操作	36-7
タスク・タイプ履歴の表示	36-9
タスク・タイプの編集	36-9
タスク・タイプの表示	36-10
タスク・タイプの検索	36-10
タスク・タイプのインポート	36-11
タスク・タイプのエクスポート	36-12
タスク・タイプの削除	36-13

37 タスク・テンプレートの管理

タスク・テンプレートの作成	37-1
テンプレート・プロパティの設定	37-2
テンプレートの指示の指定	37-3
テンプレートへの参照者の割当て	37-4
テンプレート属性の適用	37-5
日ラベルの指定	37-5
埋込みテンプレート	37-6
テンプレート・ルールの操作	37-7
テンプレート履歴の表示	37-9
テンプレートを開く	37-10
テンプレートへのタスクの追加	37-10
テンプレートの編集	37-11
テンプレートへのタスクのインポート	37-11
タスクのインポート・ファイル・フォーマット	37-13
Microsoft Excel へのタスクのエクスポート	37-16
テンプレートでのユーザーの再割当て	37-16
テンプレートからのスケジュールの作成	37-17

テンプレートからスケジュールを作成する際の「パラメータのオーバーライド」オプションの使用	37-20
テンプレートの手動検証	37-21
タスク・マネージャ・テンプレートの表示	37-22
テンプレートの検索	37-22
テンプレートの削除	37-23

38 タスクの管理

タスクの作成	38-1
タスク・プロパティの設定	38-2
タスク・パラメータの設定	38-3
タスクの指示の指定	38-4
ワークフローの選択	38-6
タスクの質問の追加	38-8
タスク参照者の設定	38-10
先行タスクの設定	38-10
タスクの属性の適用	38-12
タスク・ルールの操作	38-13
タスク履歴の表示	38-15
「タスク」ダイアログ・ボックスの操作	38-15
タスクのインポートおよびエクスポート	38-16
タスクの編集	38-18
添付の追加	38-18
タスクのソート	38-19
タスクの検索	38-19
タスクの移動	38-19
タスクの切り取り、コピー、貼付け	38-19
手動タスクおよび自動タスクの再開	38-20
タスクの送信	38-23
タスクの承認または却下	38-23
タスクの請求またはリリース	38-24
タスクの再割当ての管理	38-25
タスクの取消し	38-26
タスクの削除	38-26
サービスの管理	38-26

39 スケジュールの管理

スケジュールの手動作成	39-1
スケジュール・プロパティの設定	39-2
スケジュールへの指示の追加	39-3
スケジュール参照者の割当て	39-4
スケジュール属性の適用	39-5
日ラベルの追加	39-5
スケジュール・ルールの操作	39-6
必要なタスク・パラメータの設定	39-7
スケジュールを開く	39-7
スケジュールの編集	39-8
スケジュールへのタスクの追加	39-8
スケジュールへのタスクのインポート	39-9
スケジュール内のタスクの更新	39-10
スケジュールでのユーザーの再割当て	39-11
プロセスが自動化されたタスクの許可	39-12
スケジュール・ステータスの設定	39-14
スケジュール履歴の表示	39-15
スケジュールの検証	39-15
スケジュールのロック	39-16
スケジュールの表示	39-16
スケジュールの検索	39-17
スケジュールの削除	39-17

40 タスク・マネージャ統合の管理

EPM Cloud Services との統合の管理	40-2
EPM Cloud 内の事前作成済の統合の追加	40-2
EPM Cloud 用のエンド・ユーザー統合	40-4
EPM Cloud 用の自動化統合	40-6
統合ファイルのコピーおよび削除	40-28
クラウドおよびオンプレミス・アプリケーションとの統合の管理	40-30
Oracle Cloud ERP 用のエンド・ユーザー統合	40-31
Oracle Cloud ERP に対するイベント・モニタリング統合	40-35
オンプレミス・アプリケーション用のエンド・ユーザー統合	40-41
統合の設定	40-50
オンプレミスの Oracle E-Business Suite (EBS)統合	40-53
カスタム統合の作成	40-63
エンド・ユーザー統合の作成	40-63

カスタムのプロセス自動化統合の作成	40-63
カスタムのイベント・モニタリング統合の作成	40-67
統合の操作	40-72
統合の作成	40-72
統合のプロパティの設定	40-72
統合のパラメータの設定	40-73
統合の表示	40-74
統合の編集	40-75
統合の検索	40-75
統合の検証	40-76
統合の削除	40-76
接続の管理	40-76
接続の追加	40-77
接続の編集	40-77
接続の削除	40-78

41 タスク・マネージャおよび補足データ・マネージャに対するアラート・タイプの管理

アラート・タイプの作成	41-1
アラート・タイプのプロパティの設定	41-2
アラート・タイプの指示の指定	41-4
アラート・タイプ・ワークフローの選択	41-5
アラート・タイプ参照者の割当て	41-6
アラート・タイプの質問の追加	41-6
アラート・タイプ属性の適用	41-8
アラート・タイプ履歴の表示	41-8
アラート・タイプの表示	41-9
アラートの列の定義	41-9
アラート・タイプの編集	41-11
アラート・タイプの検索	41-11
アラート・タイプの削除	41-12

42 タスク・マネージャおよび補足データ・マネージャのレポートの使用

タスク・マネージャおよび補足データ・マネージャのカスタム・レポートの生成	42-1
タスク・マネージャ問合せの作成	42-2
補足データ問合せの作成	42-6
テンプレートの作成	42-10

レポート・グループの設定	42-11
レポートの作成	42-11
問合せ、レポート・グループまたはレポートの検索とフィルタ	42-13
レポートの生成	42-14
レポート・セキュリティの理解	42-15
タスク・マネージャ・レポート・バインダの使用	42-17
レポート・バインダの生成	42-17
レポート・バインダの表示	42-18

43 補足データの管理

補足データ・プロセスの概要	43-1
補足データ・マネージャのビュー、リストおよびフィルタの管理	43-3
補足データ・マネージャのリストの表示	43-3
補足データの列の定義	43-4
補足データ・システム設定の管理	43-4
補足データ・マネージャでの電子メール通知の設定	43-4
補足データのプリファレンスの設定	43-5
補足データ・ガバナーの設定	43-5
補足データ分析ダッシュボードの操作	43-6
補足データ・マネージャでのディメンション属性の管理	43-7
補足データのディメンションの追加	43-8
ディメンション属性の追加	43-8
ディメンション属性の編集	43-10
ディメンション属性の削除	43-10
補足データのディメンション・メンバーのインポート	43-11
補足データのディメンション・メンバーのエクスポート	43-11
収集間隔の操作	43-12
収集間隔の作成	43-12
データ収集期間の構成	43-13
収集間隔履歴の表示	43-14
補足データ収集の操作	43-15
収集の作成	43-15
サブ収集の作成	43-16
収集属性の追加	43-16
収集リスト属性のインポート	43-23
収集履歴の表示	43-24
収集属性の削除	43-25
収集の編集	43-25

収集のコピー	43-25
収集の削除	43-26
補足データ・マネージャ・フォーム・テンプレートの作成	43-26
フォーム・テンプレートの指示の指定	43-27
補足データ・マネージャ・フォーム・セクションの操作	43-27
「フォーム・テンプレート」セクション: 「列」タブ	43-28
「フォーム・テンプレート」セクション: 「検証」タブ	43-30
「フォーム・テンプレート」セクション: 「グループ化基準」タブ	43-31
「フォーム・テンプレート」セクション: 「マッピング」タブ	43-32
「フォーム・テンプレート」セクション: 「履歴」タブ	43-32
ワークフローの割当て	43-33
フォーム・テンプレートの質問の指定	43-35
フォーム・テンプレートのアクセス権の設定	43-36
フォーム・テンプレートの履歴の表示	43-37
フォーム・テンプレートの編集	43-37
フォーム・テンプレートの複製	43-37
フォーム・テンプレートの削除	43-37
データ収集期間へのフォーム・テンプレートのデプロイ	43-38
フォーム・テンプレートのデプロイ解除	43-39
補足データ・フォームの再オープン	43-40
収集へのデータのバルク・ロード	43-41
補足データ・マネージャでのユーザーの再割当て	43-42
勘定科目残高に対する補足データ合計の検証	43-42
「補足データ分析」ダッシュボードでのデータの表示	43-44
Smart View での補足データの使用	43-45
通貨換算の使用	43-46
エンティティ・メンバーのデフォルト通貨の表示	43-47
換算用の通貨属性の設定	43-47

44 補足データ・マネージャ・チームの管理

補足データ・マネージャのチームおよびメンバーの追加	44-1
補足データ・マネージャのチームおよびメンバーのインポートおよびエクスポート	44-2
補足データ・マネージャ・ユーザーのエクスポート	44-4
補足データ・マネージャのチームおよびメンバーの編集	44-5
補足データ・マネージャのチームおよびメンバーの削除	44-5
補足データ・マネージャ・ユーザーの管理	44-5
バックアップ割当ての管理	44-7

45 ビューおよびフィルタの操作

フィルタの操作	45-1
フィルタについて	45-1
既存の保存済フィルタの表示	45-2
新規フィルタの作成	45-2
フィルタ・バーを使用した表示の調整	45-3
フィルタ条件のクリア	45-4
フィルタの削除	45-4
フィルタの編集	45-5
フィルタの複製	45-5
フィルタの保存	45-5
保存済フィルタの適用	45-6
フィルタの公開	45-6
フィルタの削除	45-6
フィルタの列の表示	45-6
フィルタの列の順序変更	45-7
ビューの操作	45-7
ビューについて	45-8
ビューでのデータのフィルタリングについて	45-8
リスト・ビューの操作	45-9
リスト・ビューについて	45-9
リスト・ビューのカスタマイズ	45-10
タスク・マネージャの例: スケジュール・タスクのリスト・ビューのカスタマイズ	45-10
補足データ・マネージャの例: 補足データ・タスクのリスト・ビューのカスタマイズ	45-11
ピボット・ビューの操作	45-11
ピボット・ビューについて	45-11
ピボット・ビューのカスタマイズ	45-12
例: タスク・ステータスに基づいた組織単位の表示	45-14
例: ステータスに基づいて補足データ・フォームを表示するためのテンプレートのグループ化	45-15
チャート・ビューの操作	45-16
チャート・ビューの概要	45-16
チャート・ビューの作成	45-19
例: タスク・ステータスを月別に表示するチャートの作成	45-22
例: プランと実際の終了日を対比して表示するチャートの作成	45-24
例: タスク実行を組織単位別に表示するチャートの作成	45-26

例: フォームとそのステータスを表示するチャートの作成	45-27
例: フォーム・テンプレートの期間とステータス(および説明)を表示するチャートの作成	45-29
ガント・チャート・ビューの操作	45-31
カレンダー・ビューの操作	45-31
ビューの保存	45-32
保存済ビューの編集	45-33
ビューの発行	45-33
デフォルト・ビューの設定	45-34
リスト・ビューおよびピボット・ビューのエクスポート	45-34

46 操作ダッシュボードの管理

操作ダッシュボードの概要	46-1
操作ダッシュボードの表示および開く手順	46-2
操作ダッシュボード: 設計モード	46-3
操作ダッシュボードの作成	46-4
操作ダッシュボードのプロパティの定義	46-5
操作ダッシュボードへのアクセスの定義	46-6
操作ダッシュボード内でのオブジェクト・タイプの設定	46-7
操作ダッシュボードの表示オプションの指定	46-8
操作ダッシュボードの編集	46-8
操作ダッシュボードの複製	46-9
操作ダッシュボードの削除	46-9
操作ダッシュボードのエクスポート	46-9
操作ダッシュボードのインポート	46-10
操作ダッシュボードの実行	46-11
操作ダッシュボードを表示するための列の表示	46-11
操作ダッシュボードを表示するための列の順序変更	46-11
操作ダッシュボードの URL のコピー	46-12
操作ダッシュボードに表示されるデータへのフィルタの適用	46-12
例: タスク・マネージャの操作ダッシュボード	46-13
チャート・ビュー: タスク完了 - プランと実績の対比	46-14
チャート・ビュー: 遅延完了タスク	46-15
チャート・ビュー: 労働日別ステータス	46-16
チャート・ビュー: 地域別完了	46-18
例: 補足データ・マネージャのダッシュボード	46-19
チャート・ビュー: タイプ別補足データ収集	46-20
チャート・ビュー: 期間のフォーム完了	46-22

チャート・ビュー: エンティティ別債務タイプ
チャート・ビュー: 投資組合せ

46-23
46-25

A Tax Reporting のベスト・プラクティス

B EPM Cloud に関するよくある質問(FAQ)

ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクルのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>)を参照してください。

Oracle サポートへのアクセス

サポートをご契約のお客様には、My Oracle Support を通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info> か、聴覚に障害のあるお客様は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs> を参照してください。

ドキュメントのフィードバック

このドキュメントに対するフィードバックを送るには、Oracle Help Center トピックのページの下部にあるフィードバック・ボタンをクリックします。電子メールで epmdoc_ww@oracle.com 宛てに送信していただくことも可能です。

1

EPM センター・オブ・エクセレンスの作成および実行

EPM のベスト・プラクティスは、CoE (センター・オブ・エクセレンス)を作成することです。

EPM CoE は、導入およびベスト・プラクティスを確実にするための統合された取組みです。パフォーマンス管理およびテクノロジー対応ソリューションの使用に関連するビジネス・プロセスの変革を促進します。

クラウドの導入により、組織がビジネス・アジリティを改善し、革新的なソリューションを促進することが可能になります。**EPM CoE** はクラウド・イニシアチブを監督し、投資を保護および維持し、効果的な使用を促進するのに役立ちます。

EPM CoE チーム:

- クラウドの導入を確実にし、組織が **Cloud EPM** の投資を最大限に活用することを支援します
- ベスト・プラクティスの運営委員会として機能します
- **EPM** 関連の変更管理イニシアチブをリードし、変革を促進します

すでに **EPM** を実装済の顧客を含めて、すべての顧客が **EPM CoE** からメリットを得られます。

使用を開始する方法

クリックして、**EPM CoE** のベスト・プラクティス、ガイダンスおよび戦略を取得します: **EPM センター・オブ・エクセレンスの概要**。

さらに学習

- クラウド・カスタマ・コネクト Web セミナーを見る: [Cloud EPM のセンター・オブ・エクセレンス\(CoE\)の作成および実行](#)
- ビデオを見る: [概要: EPM センター・オブ・エクセレンスおよびセンター・オブ・エクセレンスの作成](#)。
- **EPM センター・オブ・エクセレンスの作成および実行**の **EPM CoE** のビジネス上のメリットおよび価値提案の確認。



2

Tax Reporting 概要

Tax Reporting は、GAAP (Generally Accepted Accounting Principles) または IFRS (International Finance Reporting Standards) に従って報告を行う多国籍企業のための包括的でグローバルな税引当ソリューションです。このソリューションは、税金自動化、データ収集、税引当計算、申告額の未払処理調整自動化、税金レポートおよび分析、および国別レポート (CbCR) などの企業の税引当プロセスのすべてのステージを網羅しています。

ノート:

このガイドは、Tax Reporting アプリケーションの実装および保守を行う管理者を対象としています。

Tax Reporting では、Tax Reporting アプリケーションを新たに実装する場合の出発点が提供されます。

Tax Reporting は、税引当を目的とした企業のグローバルな税引当、有効税率、繰延税金を計算します。アプリケーションは、US GAAP および IFRS での法人税の会計基準に準拠します。

Tax Reporting では、企業の決算処理と同じプラットフォームを使用できるため、同じメタデータを活用して直接統合することも可能です。1つのソリューションとして、連結ベースの税引前利益を法的エンティティ別にレポートし、連結ベースの法人税引当を計算できます。企業会計で期末の決算処理が終了し、必要なすべての金額(永久差異と一時差異、税率、外国為替レートなど)がシステムに入力されると、Tax Reporting によって、法的エンティティ別および管轄別に当期および繰延法人税引当金が自動的に計算されます。

引当の計算から、Tax Reporting は仕訳および、付属明細書を伴ったドラフトの法人税財務諸表開示を生成します。付属明細書では、次のような財務諸表の法人税注記に必要な開示の詳細が提供されます。

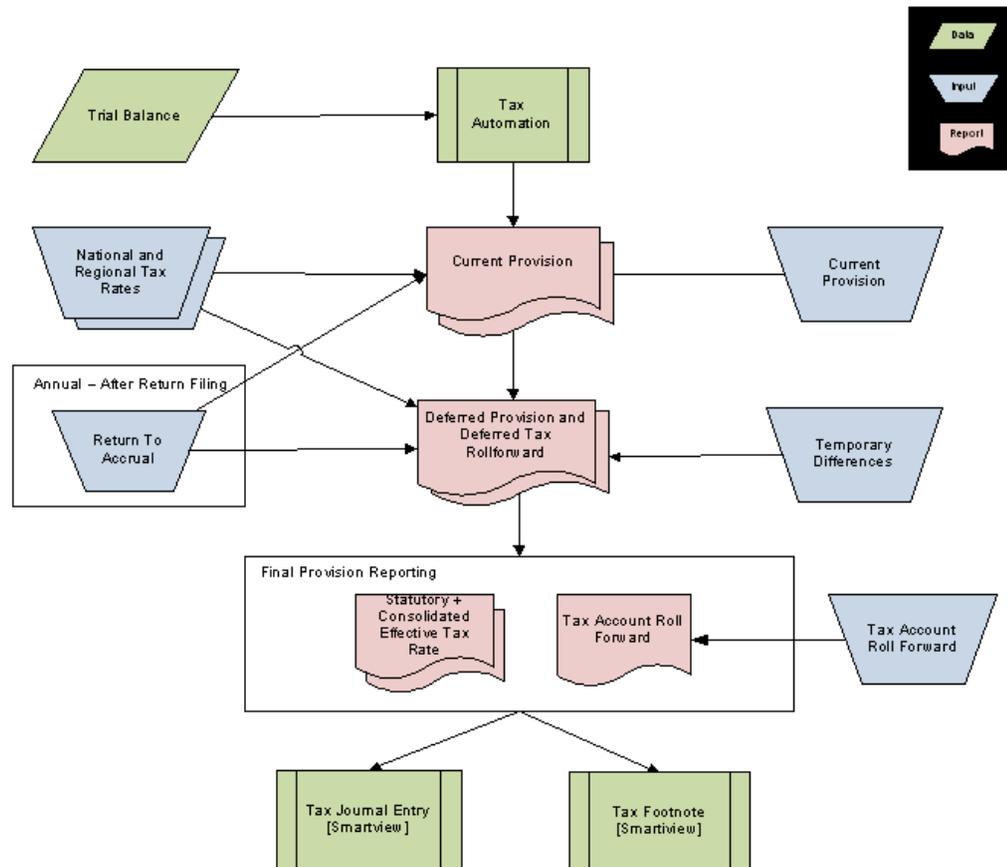
- 国外および国内のエンティティ別の税引前利益
- 当期および繰延税金費用別の連結ベースの税引当
- 連結および法定有効税率調整
- 繰延税金資産、負債および評価引当金の内訳(必要な場合)

概要ビデオをご覧ください:  [Tax Reporting Cloud スタート・ガイド](#)。

税引当プロセス

Tax Reporting プロセスでは、当会計年度の初めから今日までの数字に基づいて完全な税引当の準備を行えます。グローバルな引当プロセスは、使用する報告基準(たとえば、US GAAP や IFRS など)およびローカル通貨を使用し、法的エンティティ・レベルで開始されます。

次のフローチャートに、Tax Reporting の税金プロセスの詳細を示します。



プロセスを開始するには、管理者が法的エンティティ別の試算表データを Tax Reporting にインポートします。

データがロードされたら、管理者は税金自動化プロセスを実行して試算表のデータ(税引前純利益、および選択した永久差異、一時差異など)を引当スケジュールにロードおよび移入します。

税金自動化プロセスが完了したら、あらかじめ作成してあったデータ・フォームを使用して、あるいは Oracle Smart View for Office からの送信によって残りのデータを入力します。このデータには次のようなものがあります。

- 税率
- 税引前利益調整または組替えの非自動化金額
- 永久差異および一時差異の非自動化金額
- その他の引当項目
- 申告額の未払処理調整金額
- 税金勘定科目ロールフォワードの手動アクティビティ(たとえば、支払、払戻、組替えなど)
- 試算表内にある可能性のある差異(たとえば、食事接待費に含まれる出張費用)を除去するための自動化金額に対する調整

自動および手動の金額が入力されたら、システムで次の計算が行われます。

- 当期引当
- 繰延引当
- 繰延税金ロールフォワード
- 税金勘定科目ロールフォワード
- レポート通貨およびローカル通貨での有効税率調整

アプリケーションで、次のフォームおよびレポートが使用可能です。

- 当期引当
- 一時差異ロールフォワード
- 繰延税金ロールフォワード
- 有効税率調整 - 連結
- 有効税率調整 - 法定
- 税金勘定科目ロールフォワード
- 税金仕訳(Smart View を使用し、税金勘定科目ロールフォワードに基づく)
- 税金の注記(Smart View を使用し、当期引当および繰延税金ロールフォワードに基づく)

最初に行うタスク

Tax Reporting を使用してタスクを実行する前に、このトピックを熟読してください。

- *Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者のためのスタート・ガイド*の内容をよく理解します。*Oracle Enterprise Performance Management Cloud ユーザーのためのスタート・ガイド*についても理解できます。
- *Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者のためのスタート・ガイド*のEPM Cloud コンポーネントの操作に関する項の、ブラウザおよびその他の要件を満たします。

-  「アカデミ」にアクセスして次のようなビデオを視聴し、Tax Reporting の知識を得ます。

- 概要: Tax Reporting Cloud スタート・ガイド
- 概要: Tax Reporting Cloud のツアー
- Oracle Tax Reporting Cloud での税レポート・アプリケーションの作成
- 概要: 税レポート・アプリケーションの構成
- 概要: Tax Reporting Cloud でのセキュリティの理解
- 概要: Tax Reporting Cloud でのメタデータの処理
- 概要: Tax Reporting Cloud でのデータのロード
- Tax Reporting Cloud でのエンティティおよび管轄の構成
- Tax Reporting Cloud での永久差異の構成

- [Tax Reporting Cloud](#) での一時差異の構成
- 概要: [Tax Reporting Cloud](#) の補足データ
- 概要: [Oracle EPM Cloud](#) での国別レポート.

管理者向けの情報:

次の追加機能の理解:

- 日次バックアップとメンテナンス時間の処理について理解します。[Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者のためのスタート・ガイド](#)のメンテナンス・スナップショットを使用した環境のバックアップおよびリストアに関する項を参照してください。
- [Oracle Cloud Email](#) に対する Sender Policy Framework (SPF)レコードを構成します。[Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者のためのスタート・ガイド](#)の [Oracle Cloud](#) の電子メール検証に対する SPF レコードの構成に関する項を参照してください。
- セキュリティについて理解し、ユーザーを作成して役割を割り当てます。[Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者のためのスタート・ガイド](#)の [EPM Cloud](#) の保護に関する項を参照してください。
- レディネス情報を確認します。[Tax Reporting](#) の [Oracle Cloud レディネス・サイト](#) へのリンクをたどり、各リリースの最新情報を確認できます。

ノート:

2021年10月以降の新機能を確認するには、[レディネス・アプリケーション](#)を使用します。[EPM Cloud 機能ツール](#)を使用すると、2018年3月から2023年6月までにリリースされた機能のみが表示されます。2023年6月以降は更新されません。

- [カスタマ・コネク](#)に参加します。[Oracle Applications カスタマ・コネク](#)へのリンクをたどり、ディスカッションに参加したり、質問したり、情報を共有できます。

3

アプリケーションの作成

関連トピック

- [アプリケーションについて学ぶ](#)
- [アプリケーションの作成の前提条件](#)
- [アプリケーションの作成のワークフロー](#)
- [Tax Reporting アプリケーションの作成](#)
- [アプリケーションの機能の有効化](#)
- [管轄およびエンティティの構成](#)
- [アプリケーションの削除](#)

ビジネス・プロセスの作成

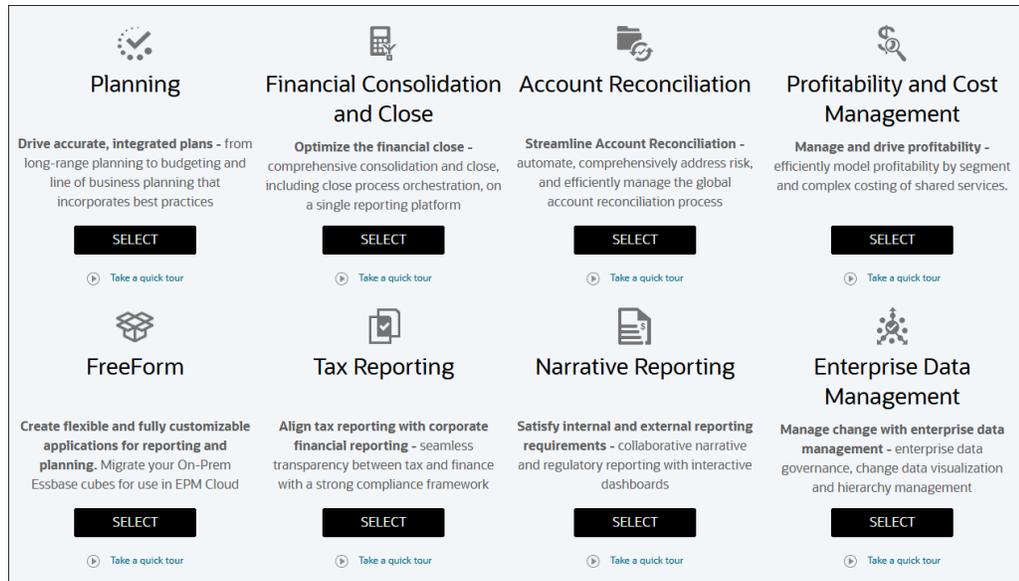
2つの環境は、アクティブ化プロセスの一部として Oracle Enterprise Performance Management Cloud インスタンスを作成したときに作成されます。*Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者スタート・ガイド*の [EPM Cloud インスタンスの作成](#) を参照してください。最初に、サービス管理者が環境にサインインし、アプリケーションを作成します。

環境へのサインイン手順は、*Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者スタート・ガイド*の [EPM Cloud へのアクセス](#) を参照してください。新規のお客様には、購入したサブスクリプションのタイプに応じて、次のページが表示されます:[EPM Enterprise Cloud Service アプリケーションの作成](#)

アプリケーションの作成後にログインすると、アプリケーションのホーム・ページが表示され、ランディング・ページは表示されなくなります。

EPM Enterprise Cloud Service アプリケーションの作成

ランディング・ページは、アプリケーションを作成したり、開始に役立つ概要ビデオを表示するための開始点です。



EPM Enterprise Cloud Service の各サブスクリプションに対して 1 つのアプリケーションを作成できます。**Tax Reporting** のアプリケーション説明の下にある **SELECT** をクリックし、**Tax Reporting** ビジネス・プロセスの作成に使用できるオプションを表示します。

EPM Enterprise Cloud Service のランディング・ページには、作成できるアプリケーションが表示されます。

Note:

アプリケーションの作成を開始した後、ランディング・ページには戻れません。ランディング・ページに戻って異なるアプリケーションを作成する場合は、最初に環境を当初の状態にリセットする必要があります。**Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者スタート・ガイドの異なるビジネス・プロセスへの切替え**を参照してください。

Tax Reporting ビジネス・プロセスの作成

ビジネス・プロセスを作成するための 3 つのオプションがあります：

- サンプル・アプリケーションを作成
- 新規アプリケーションが作成されます
- 既存のスナップショットを使用してアプリケーションを作成します

これらのオプションは、次の図のようなビジネス・プロセス固有のランディング・ページに表示されます。



- **サンプル・アプリケーションを作成:** **作成**をクリックし、サンプル・メタデータ、データおよび関連アーティファクトを使用してビジネス・プロセスを作成します。これにより、すぐに様々な操作を試行、計算を実行、またはデータを入力できます。[サンプル・アプリケーションの作成](#)を参照してください
- **新規アプリケーションを作成:** **START** をクリックし、**Tax Reporting** ビジネス・プロセスを作成します。アプリケーションの作成時、年数および主要通貨を定義し、アプリケーションで複数通貨を使用するかどうかを指定します。その後、メタデータおよびデータを手動またはフラット・ファイルを使用してロードできます。次を参照してください:
 - [アプリケーションの作成の前提条件](#)
 - [アプリケーションの作成のワークフロー](#)
 - [新規アプリケーションの作成](#)
 - [アプリケーションの機能の有効化](#)
- **移行:** **移行**をクリックし、以前に環境にアップロードしたスナップショットからビジネス・プロセスをインポートします。前提条件およびスナップショットの互換性については、[EPM Standard Cloud Service](#) および [EPM Enterprise Cloud Service](#) に移行可能なアプリケーションを参照してください。
[Oracle Enterprise Performance Management Cloud 移行の管理](#)のこれらのトピックを参照してください:
 - [アーティファクトとアプリケーションのバックアップ](#)
 - [サービスへのアーカイブのアップロード](#)
 - [スナップショットからのアーティファクトとアプリケーションのインポート](#)

アプリケーションについて学ぶ

Tax Reporting で作業を開始する場合、データ、ディメンションおよびフォームを管理するアプリケーションを作成します。環境ごとに作成できるアプリケーションは1つのみです。

許可されたサービス管理者のみがアプリケーションを作成できます。サービス管理者は、次のタスクも実行できます。

- ディメンションおよびメンバーの作成、編集、削除などの継続メンテナンスの実行
- データのインポートおよびエクスポート

アプリケーションを作成する場合、表示およびプロセスを管理する設定を構成する必要があります。**ERP** または財務システムからメタデータをインポートしたり、既存のメタデータ・リポジトリからあらかじめフォーマットされたメタデータ・フラット・ファイルをロードしてアプリケーションのディメンションに移入できます。

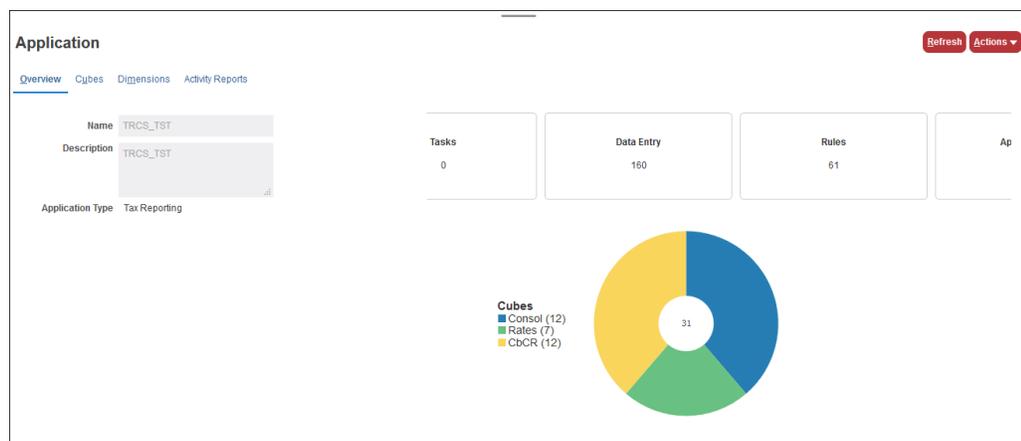
アプリケーションの作成後は、ホーム・ページで「**アプリケーション**」を選択し、アプリケーションを表示したり管理します。

次のタブを選択して、アプリケーションの詳細を表示します。

- アプリケーションの「概要」タブ
- アプリケーションの「キューブ」
- アプリケーションの「ディメンション」
- アプリケーションの「アクティビティ・レポート」および「アクセス・ログ」

アプリケーションの「概要」タブ

アプリケーションの概要には、アプリケーションのプロパティおよびアプリケーション統計(アプリケーション内のタスク、データ・エントリ、ルールおよび承認ユニットや関連付けられているキューブの数など)が表示されます。



ノート:

ハイブリッドは、アプリケーション・タイプ後に「有効」と表示され、ハイブリッド・モード用に構成されたアプリケーションを示します。[アプリケーションの概要](#)および[アプリケーション・モデルのハイブリッド最適化\(DSO\)への変換](#)も参照してください

アプリケーションの「キューブ」

「キューブ」タブには、アプリケーションに関連付けられているキューブの名前およびタイプが表示されます。デフォルトでは、複数通貨アプリケーションには次の3つのキューブがあります。

- **Consol** - 連結
- **Rates** - 外国為替レート
- **CbCR** -- 国別
- **Config** - 構成

Application Refresh Actions ▾

Overview **Cubes** Dimensions Activity Reports

Type	Name	Cube
	Consol	Consol
	Rates	Rates
	CbCR	CbCR
	Config	Config

アプリケーションの「ディメンション」

「ディメンション」タブには、このアプリケーションに含まれるディメンションと次のプロパティが表示されます。

- 「キューブ」ドロップダウン・リストで、表示するキューブを選択するか、「すべて」を選択してすべてのキューブのディメンションを表示します。
- ディメンションのタイプおよび名前
- 順序
- 密ディメンション - ディメンションの順序プロパティと密プロパティは、アプリケーション・モデルに従って設定されます。たとえば、非ハイブリッド・アプリケーションでは、勘定科目ディメンションのみが「密」に設定され、他のすべてのディメンションは「疎」に設定される場合があります。順序プロパティおよび密プロパティは、まとめてアプリケーション・パフォーマンス設定と呼ばれ、直接変更することはできません。パフォーマンス設定を間接的に変更するハイブリッド用にアプリケーション・モデルを最適化できます。[パフォーマンス設定](#)を参照してください。
- 評価順序
- 「変更済」には、最後にディメンションを変更したユーザーおよび変更日が表示されます。

Type	Name	Order	Dense	Evaluation Order	Modified
Account	683 Members		<input checked="" type="checkbox"/>	4	1/29/19 epm_default_clo
Data Source	104 Members	^ v	<input checked="" type="checkbox"/>	1	1/29/19 epm_default_clo
Multi-GAAP	2 Members	^ v	<input type="checkbox"/>	-	1/29/19 epm_default_clo
Consolidation	6 Members	^ v	<input type="checkbox"/>	-	1/29/19 epm_default_clo
Period	16 Members	^ v	<input type="checkbox"/>	-	1/29/19 epm_default_clo
Currency	28 Members	^ v	<input type="checkbox"/>	-	1/29/19 epm_default_clo
Intercompany	3 Members	^ v	<input type="checkbox"/>	-	1/29/19 epm_default_clo
Scenario	3 Members	^ v	<input type="checkbox"/>	-	1/29/19 epm_default_clo
Years	10 Members	^ v	<input type="checkbox"/>	-	1/29/19 epm_default_clo
Jurisdiction			<input type="checkbox"/>		1/29/19

アプリケーションの「アクティビティ・レポート」および「アクセス・ログ」

アクティビティ・レポート

アクティビティ・レポートには、最後の自動メンテナンス・ウィンドウ以降アプリケーションで実行されたアクションのサマリーおよび詳細が示されます。

アクティビティ・レポートは毎日自動的に生成され、これによってサービス管理者はアプリケーションの使用状況を把握できます。アプリケーションのパフォーマンスに影響を与える計算スクリプトおよびユーザー要求を特定し、アプリケーションの設計を合理化することにも役立ちます。このレポートに含まれる情報には、次のようなものがあります。

- ユーザー情報(毎日、毎時間、過去7日間、過去30日間でアプリケーションにサインインしたユーザーの数など)
- 完了に10秒を超えてかかったリクエストのパーセンテージ
- 期間ごとのリクエストのランキング
- 完了に10秒より長くかかったリクエストのランキング
- レポート期間に発生したアプリケーション設計の変更の数

ノート:

アプリケーション・アクティビティ・レポートでは、管理者のタイム・ゾーン(メンテナンス・ウィンドウ画面で設定)を使用します。



アクセス・ログについて

ビジネス・プロセスにアクセスした IP アドレスと実行されたアクティビティの詳細が含まれたカンマ区切り値(CSV)ファイルをダウンロードすることもできます。アクセス・ログは毎日生成されます。アクセス・ログは、日時、ユーザーがアクセスしたリソース、ユーザー・アクティビティの期間、ユーザーがビジネス・プロセスに接続した IP アドレス、およびユーザーがビジネス・プロセスで実行したアクションなど、Financial Reporting のアクティビティに対する可視性を提供します。

アクティビティ・レポートを表示したり、アクセス・ログをダウンロードするには、ホーム・ページで「アプリケーション」、「概要」、「アクティビティ・レポート」タブの順にクリックします。

アクティビティ・レポートとアクセス・ログの保持ポリシー

アクティビティ・レポートとアクセス・ログは、過去 60 日間分のみ保持されます。

監査用に必要な場合は、downloadfile EPM 自動化ユーティリティ・コマンドを使用して、送信ボックスからローカル・コンピュータにアクティビティ・レポートおよびアクセス・ログをダウンロードします。『Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作』のコマンド・リファレンスに関する項を参照してください。

アクティビティ・レポートの表示とアクセス・ログのダウンロード

アクティビティ・レポートの表示およびアクセス・ログのダウンロードを行うには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」、「概要」、「アクティビティ・レポート」の順に選択します。
2. アクションを行います:
 - アクティビティ・レポートを開くには、ダウンロードするログの日付を示す行の「**アクティビティ・レポート**」の下の「**表示**」をクリックします。
 - アクセス・ログをダウンロードするには、ダウンロードするログの日付を示す行の「**アクセス・ログ**」の下の「**ダウンロード**」をクリックします

アクティビティ・レポートのダウンロードの自動化

アクティビティ・レポートは便利なツールで、アプリケーションの使用状況を監査したり、その日に発生した可能性のあるサービスの問題を診断できます。さらに、レポートを使用して使用状況とパフォーマンスを、過去のレポートに含まれるものと比較できます。

Oracle が提供するスクリプトを使用して、事前設定されたスケジュールでアクティビティ・レポートをダウンロードできます。詳細は、『Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作』の次のトピックを参照してください。

- シナリオ 11: ローカル・コンピュータへのアクティビティ・レポートのダウンロードの自動化

- スクリプトの実行の自動化
- EPM 自動化ユーティリティのインストール
- EPM 自動化ユーティリティの実行

アクティビティ・レポートの表示とアクセス・ログのダウンロード

アクティビティ・レポートの表示およびアクセス・ログのダウンロードを行うには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」、「概要」、「アクティビティ・レポート」の順に選択します。
2. アクションを行います:
 - アクティビティ・レポートを開くには、ダウンロードするログの日付を示す行の「アクティビティ・レポート」の下の「表示」をクリックします。
 - アクセス・ログをダウンロードするには、ダウンロードするログの日付を示す行の「アクセス・ログ」の下の「ダウンロード」をクリックします

受信ボックス/送信ボックス・エクスプローラの使用

受信ボックス/送信ボックス・エクスプローラを使用すると、ファイルをサーバー/受信ボックスにアップロードし、ファイルをサーバーからローカル・コンピュータにダウンロードできます。また、受信ボックス/送信ボックス・エクスプローラ内に存在するファイルを表示し、ファイルを使用してインポートおよびエクスポート・ジョブをスケジュールできます。名前でフィルタし、リストをリフレッシュし、サーバーからファイルをアップロードできます。

受信ボックス/送信ボックス・エクスプローラ内のファイルを表示するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「概要」をクリックします。
2. 「アクション」から、「受信ボックス/送信ボックス・エクスプローラ」を選択します。
3. **オプション:** ファイルのリストをフィルタするには、「フィルタ」アイコン  をクリックして名前を入力し、「適用」をクリックします。
4. **オプション:** ファイルのリストをリフレッシュするには、「リフレッシュ」をクリックします。

ファイルをアップロードするには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「概要」をクリックします。
2. 「アクション」から、「受信ボックス/送信ボックス・エクスプローラ」を選択します。
3. 受信ボックスまたは送信ボックス・エクスプローラで、「アップロード」をクリックします。
4. 「ファイルのアップロード」ボックスで、「参照」をクリックしてファイルを選択します。
5. **オプション:** 「ファイルの上書き」をクリックします。
6. 「ファイルのアップロード」をクリックします。

アプリケーションの作成の前提条件

アプリケーションを作成するには、次の条件を満たしている必要があります。

- 使用可能な履歴データの分析後、一連の要件を作成してその要件をサポートするアプリケーションの設計を開発しました。
- セキュリティ・コンポーネントが設定されています。[Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者スタート・ガイドのユーザーと役割の管理](#)を参照してください
- 少なくとも1人のユーザーがアプリケーション・インスタンスのサービス管理者の役割を付与されています。

関連トピック:

[アクセス制御の概要](#)、[グループの管理](#)および[多数のグループへのユーザーの割当て](#)については、[Oracle Enterprise Performance Management Cloud アクセス制御の管理](#)を参照してください。

アプリケーションの作成のワークフロー

表 3-1 アプリケーションの作成のワークフロー

タスク	説明	参照
アプリケーションを作成します。	アプリケーションを作成します。	Tax Reporting アプリケーションの作成
アプリケーションの設定の構成	アプリケーションの設定を構成します。 <ul style="list-style-type: none"> • アプリケーションの機能の有効化 • 数値のフォーマット • 承認の構成 • 通知の設定 • レポート通貨の設定 • 日時表示の設定 • 別名の設定 • データベース・リフレッシュ・オプションの設定 	アプリケーションおよびシステムの設定の管理 を参照してください
メタデータのインポート		メタデータのインポート
税金自動化の実行		税金自動化について学ぶ
データのインポート	ディメンションおよびそのメンバーをロード・ファイルからアプリケーション内にロードします。	データのインポート
セキュリティの割当て		Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者スタート・ガイドのユーザーと役割の管理 を参照してください
ロールオーバー		ロールオーバーの実行と構成のコピー

Tax Reporting アプリケーションの作成

Tax Reporting アプリケーションでは、国および地域レベルで当期税金および繰延税金を計算およびレポートできます。1つの環境で作成できるアプリケーションは1つのみです。

始める前に、アプリケーションの範囲を検討し、含めるデータとその編成方法を決定します。アプリケーションを作成する際、開始および終了の年を指定します。アプリケーションは、設定時に選択したオプションに対応する、あらかじめ作成された内容を使用して作成されます。

次のいずれかのオプションを使用してアプリケーションを作成できます。

- **新規** アプリケーションを作成します。アプリケーションは、必要なフォームおよび計算を提供します。アプリケーションの作成時、年数および主要通貨を定義し、アプリケーションで複数通貨を使用するかどうかを指定します。その後、メタデータおよびデータを手動またはフラット・ファイルを使用してロードできます。[新規アプリケーションの作成](#)を参照してください。
- **サンプル**・アプリケーションを作成します。サンプル・アプリケーションには、あらかじめロードされたサンプル・メタデータ、データおよび関連アーティファクトが用意されており、すぐに様々な操作を試行、計算を実行、またはデータを入力できます。設定などを行わずに使用できるこの環境を使用して **Tax Reporting** の機能およびパフォーマンスを確認し、フォームおよび操作に慣れることで、準備が整った際にサンプルを参照して独自のアプリケーションをより簡単にモデル化できます。[サンプル・アプリケーションの作成](#)を参照してください。

ノート:

「サンプル・アプリケーション」オプションは、Enterprise Performance Management System Workspace でのみ使用できます。

新規アプリケーションの作成

新規アプリケーションの作成時に、アプリケーションの開始年と終了年を定義し、デフォルト・アプリケーション通貨を選択して、有効にする機能を選択します。

アプリケーションの作成の一環として、次の必須機能が自動的に適用されます。

- **複数ソース・データ入力の追跡** - 「補足データ」と「管理対象データ」
- **会社間** - 「会社間データ」と「会社間消去の追跡」
- **レポート標準** - 複数 GAAP レポート

次の追加の機能を有効にすることもできます。

- 「**IFRS**」を選択して、未認識繰延税金(DTNR)を計算し、IFRS フォーマットで連結有効税率(CETR)をレポートします。
- **CbCR** (CBC データ・エントリ表、サマリー表および提出レポート)で、移転価格戦略の結果としてのリスクを評価する分析の計算を行います。
- 「**中間引当**」で、中間引当を有効にし、年間推定有効税率(AEETR)に個別税額を加えて月間または四半期の税引当を計算します。

- 「加重平均」で、加重平均を有効にし、各基本または親エンティティの税引前純利益の平均外貨換算レートを計算します。
- 「出資比率の管理」では、「シナリオ」、「年」および「期間」の組合せごとに、各親子エンティティの組合せに対して出資比率と連結メソッドを割り当てることができます。

 ノート:

アプリケーションの作成時にオプションの機能を選択せず、後から考えが変わった場合は、アプリケーションの作成後に機能を有効にできます。一旦有効にすると、その機能を無効にすることはできません。「動的計算管轄」は、「機能を使用可能にする」画面でのみ有効にできます。[アプリケーションの機能の有効化](#)を参照してください。

アプリケーションの作成の詳細は、次の概要ビデオをご覧ください:  [Oracle Tax Reporting Cloud](#) での税レポート・アプリケーションの作成。

新規アプリケーションを作成するには:

1. インスタンスに対応する URL を使用し、Tax Reporting にシステム管理者としてログ・オンします。
2. 「Tax Reporting」画面で、「新規アプリケーションを作成」の下の「開始」を選択します。



3. 「アプリケーションの作成: 一般」で新規アプリケーションの名前と説明を入力し、「次」をクリックします。

4. 「アプリケーションの作成: 詳細」で、次のタスクを実行します。

- a. 「期間と年」で、アプリケーションに含める期間を確認します。
- 12 か月期間(P1-P12)
 - デフォルトの RTA 期間(P13) - 申告額の未払処理調整
 - デフォルトの監査期間(P14)
- これらの値は変更できません。
- b. 「開始年と終了年」で、必要な範囲を選択します。
- c. 「通貨」で、レポートするアプリケーションの**主要通貨**を選択します。
- d. デフォルトでは、「複数通貨」オプションが選択されます。複数通貨を使用する予定がない場合は、「はい」チェック・ボックスをクリアします。

 **ノート:**

複数通貨は、アプリケーションの作成後に変更できません。

- e. 「次」をクリックします。
5. 「アプリケーションの作成: 機能」で、アプリケーションに使用するオプション機能ごとに「有効化」をクリックします。次を参照してください: [アプリケーションの機能の有効化](#)

Create Application: Features

< Back General Details **Features** Review Next >

Tax Reporting Cloud provides reporting and analysis by selecting the accounting standard and methodology that you require. You can enable the IFRS reporting features to calculate and report on the tax provision using the balance sheet approach. You can enable Country by Country (CbC) reporting to capture Tables 1, 2 and 3 and calculate risk analytics in accordance with OECD requirements.

IFRS Enable
Enable IFRS to calculate Deferred Tax Not Recognized (DTNR), and report on the Consolidated Effective Tax Rate (CETR) in an IFRS format.

CbCR Enabled
Enable CbC Reporting to calculate analyses which assess risk as a result of transfer pricing strategies.

Interim Provision Enable
Enable interim provision to calculate monthly or quarterly tax provision using an annualised estimated effective tax rate ("AEETR") plus discrete tax amounts

Custom Dimension Enable
Enable Custom Dimension(s). Custom dimension cannot be enabled/removed once the application is created

Dimension 1 Dimension 2

Weighted Average Enabled
Enable weighted average to calculate the average foreign currency translation rate for the net income before tax for each base entity

6. 「次」をクリックします。

7. 「アプリケーションの作成: 確認」で、アプリケーションの構造および機能に関するすべての入力を確認します。「機能」の下に、必須機能が表示されます。「IFRS」、「CbCR」、「中間引当」、「加重平均」、「出資比率の管理」およびその他のオプションは、これらが選択された場合にのみ表示されます。

ORACLE Administrator

Create Application: Review

< Back General Details Features **Review** Create

TRCS
Tax Reporting Application

Time Periods and Years

Periods 12 Months, RTA, Audit (14 Periods)
Start and End Year 2022 - 2031 (10 Years)

Currency

Currency USD
Multicurrency Yes

Features

- Track Multi-Source Data Input
- Supplemental Data
- Managed Data
- Intercompany
- Intercompany Data
- Track Intercompany Elimination
- Reporting Standard
- Multi-GAAP Reporting

8. すべて正しい場合、「作成」をクリックします。アプリケーションの作成プロセスが開始されます。このプロセスには数分の時間を要するため、アプリケーションの作成が正常に完了したことを示すステータス・メッセージが表示されるまでブラウザ・ウィンドウを閉じないでください。

作成時に選択したオプションに基づき、標準のディメンションとメタデータを使用してアプリケーションが作成されます。

ノート:

新しいアプリケーションの作成時にのみ、アプリケーションのニーズに基づいてカスタム・ディメンションを作成することもできます。[カスタム・ディメンションの追加\(ハイブリッド・モードのみ\)](#)を参照してください

9. 完了メッセージで「OK」をクリックします。ホーム・ページから、独自のアプリケーションの作成を開始できます。

サンプル・アプリケーションの作成

Tax Reporting では、あらかじめロードされたメタデータ、データおよび関連アーティファクトを含むサンプル・アプリケーションを作成することができます。設定などを行わずに使用できるこの環境で試行錯誤して、Tax Reporting の機能およびパフォーマンスを確認でき、サンプル・アプリケーションを参照して、メタデータおよびデータを使用する独自のビジネス・プロセスをより簡単にモデル化できます。

ノート:

「サンプル・アプリケーション」オプションは、Enterprise Performance Management System Workspace でのみ使用できます。

サンプル・アプリケーションの作成の一環として、次の必須機能が自動的に適用されます。

- **複数ソース・データ入力の追跡** - 「補足データ」と「管理対象データ」
- **会社間** - 「会社間データ」と「会社間消去の追跡」
- **レポート標準** - 複数 GAAP レポート
- 次の機能を含む、アプリケーションの「IFRS」レポート標準
 - 未認識繰延税金(DTNR)
 - 連結有効税率調整
- **CbC** (国別レポート)では、表 1、2 および 3 への入力により、移転価格戦略の結果としてのリスクを評価する分析を計算できます。

ノート:

アプリケーションに「IFRS」または「CbC」を使用しない場合、[新規アプリケーションの作成](#)に概説されているようにそれらの機能を有効にせずに新規アプリケーションを作成する必要があります。
アプリケーションで「**中間税引当**」を使用する場合、[アプリケーションの機能の有効化](#)を参照してその機能を有効にします。

サンプル・アプリケーションを作成するには:

1. インスタンスに対応する URL を使用し、Tax Reporting にシステム管理者としてログ・オンします。
2. 「Tax Reporting」画面で、「**サンプル・アプリケーションを作成**」の下の「**作成**」を選択します。



3. 「サンプル・アプリケーションの作成」画面で、次の各役割のユーザーを選択します。

- **パワー・ユーザー** - サンプル・アプリケーションのパワー・ユーザーとするユーザーを選択します。選択したパワー・ユーザーには、明示的なパワー・ユーザー・ロールが割り当てられている必要があります。この役割では、読取りおよび書込みアクセス権が付与され、エンティティに対する税金自動化を実行する機能、およびエンティティにデータをインポートする機能を持ちます。
- **サービス管理者** - サンプル・アプリケーションのシステム管理者とするユーザーを選択します。この役割では、読取りおよび書込みアクセス権が付与され、すべてのエンティティに対するメタデータを含むビジネス・プロセス・データを更新する機能を持ちます。

 **ノート:**

ユーザーにサービス管理者とパワー・ユーザーの両方の役割が割り当てられている場合でも、パワー・ユーザーとサービス管理者の役割に同じユーザーを使用しないでください。各役割は、異なるユーザーに割り当てる必要があります。

4. 「OK」をクリックすると、アプリケーションの作成プロセスが開始されます。

 ノート:

これには数分かかるため、完了メッセージが表示されるまでブラウザ・ウィンドウを閉じないでください。

5. 完了メッセージで「OK」をクリックします。
ホーム・ページから、サンプル・アプリケーションを確認および使用し、独自のアプリケーションを作成できます。

アプリケーションの機能の有効化

アプリケーションの作成後にレポート機能やその他のオプションの機能を有効にできますが、これらの機能はいったん有効にすると無効にできません。機能を削除するには、新しいアプリケーションを作成する必要があります。

アプリケーションで機能を有効にするには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」、「構成」の順にクリックします。
2. 「構成」画面で「機能を使用可能にする」をクリックします。
3. アプリケーションに対して有効化する機能を1つ以上選択します。
 - アプリケーションの「IFRS」レポート標準。次の機能のいずれかまたは両方を選択できます。
 - 「未認識繰延税金(DTNR)」で、税効果基準の未認識繰延税金を損益額または非損益額として入力します。
 - 「連結有効税率調整」で、税引当合計の国または地域の ETR を計算します。「連結有効税率調整」を選択すると、アプリケーションで次のフォームが自動的にアクティブになります:
 - * エンティティ 別連結 ETR IFRS 率

- * エンティティ CETR IFRS 率を使用して計算された勘定科目を表示する「エンティティ別連結 ETR IFRS」
- 「**国別レポート(CbCR)**」で、移転価格戦略の結果としてのリスクを評価する分析を計算します。

 **ノート:**

CbCR を有効にすると、アプリケーションで「カスタム・ディメンション」を有効にすることはできません。

- **中間税引当(18.08 より前に作成されたアプリケーション)**- このオプションは選択できなくなりました。リリース 18.08 より前に中間税引当を有効にしていた場合、引き続きこのオプションを使用できます。手動でデータを入力し、年間推定有効税率に個別税額を加えて月間または四半期の税引当を計算します。履歴データは、中間税引当に対して指定された予測または他のシナリオに格納されます。

 **ノート:**

「**中間税引当(18.08 より前に作成されたアプリケーション)**」の場合は例外ですが、機能を有効にした後、無効にすることはできません。機能の削除が必要になった場合は、新しいアプリケーションを作成する必要があります。以前に「**中間税引当(18.08 より前に作成されたアプリケーション)**」を有効にし、そのバージョンが不要になった場合は、新しいアプリケーションを作成する必要はなく、「**中間税引当**」下にあるオプションのいずれか、または両方を選択できます。18.08 より前に作成されたアプリケーションについて存在する履歴データは、中間引当に使用された予測または他のシナリオに対して格納されます。

- 「**中間税引当**」で、年間推定有効税率(AEETR)に個別税額を加えて月間または四半期の税引当を計算します。データは、予測に使用される TRCS_Interim Forecast シナリオ・メンバーに自動的に格納されます。次の機能のいずれかまたは両方を選択できます。
 - **合計 AEETR** で、予測シナリオに対し、連結有効税率から合計 AEETR の値を取得します。
 - **詳細 AEETR(当期と繰延)**で、当期税金と繰延税金を足し、税金合計を表示します。
- **カスタム・ディメンション**: この機能は、新しいアプリケーションを作成する場合にのみ有効にできます。アプリケーションが作成された後は、カスタム・ディメンションを有効にしたり削除したりできないことに注意してください。[カスタム・ディメンションの追加\(ハイブリッド・モードのみ\)](#)を参照してください

 **ノート:**

アプリケーションで「カスタム・ディメンション」を有効にしている場合、CbCR を有効にすることはできません。

- 「加重平均」で、加重平均を有効にし、各基本エンティティの税引前純利益の平均外貨換算レートを計算します。
- **動的計算管轄**: この機能を有効にして、TRCS_AllNational、TRCS_AllRegionなどの管轄ディメンションの即時利用可能な親メンバーのデータ・ストレージ・タイプを「動的計算」に更新できます。

▲ 注意:

この機能を有効にすると、連結のパフォーマンスが向上する可能性があります。広範なカスタム・メンバー式が含まれる状況などでは、連結のパフォーマンスに悪影響を与える可能性もあります。本番環境でこの機能を有効化する前に、テスト環境でパフォーマンスへの影響を評価することをお勧めします。

✎ ノート:

動的計算管轄は、非ハイブリッド・モードのみのオプションです。ハイブリッド最適化(DSO)アプリケーション・モデルでは、すべての親メンバーが動的計算であり、この機能は適用されません。

- 「出資比率の管理」では、「シナリオ」、「年」および「期間」の組合せごとに、各親子エンティティの組合せに対して出資比率と連結メソッドを割り当てることができます。アプリケーションでの「出資比率の管理」の有効化も参照してください

✎ ノート:

非ハイブリッド・アプリケーションで、「出資比率の管理」が有効になっている場合は、データ・ソース・ディメンションが「疎」に設定されていることを確認する必要があります。非ハイブリッド・アプリケーションのパフォーマンス設定を確認または変更するには、[データ・ソース・ディメンションのパフォーマンス設定の変更\(非ハイブリッド・モードのみ\)](#)を参照してください。

- 「現在の未払税自動化」で自動化機能を有効にすると、ユーザーがカレンダー年損益(CY P&L)課税額自動、資本/OCI 自動および RTA (P&L)自動をマップし、調整値を入力できるようになります。この機能には、「現在の未払税自動」および「現在の未払税詳細」フォームも用意されています。詳細フォームは、ユーザーが支払、払戻および振替を追跡するのに役立ちます。[Tax Reporting の操作の現在の未払税自動および詳細フォームの管理](#)および[現在の未払税\(地域\)自動および詳細フォームの管理](#)を参照してください。

 ノート:

現在の未払税自動化機能を有効にすると、新しい構成キューブが作成されま
す。現在の未払税自動化に関連するすべてのマッピングは、構成キューブに
保存されます。現在の未払税自動化のマッピングの作成を参照してくださ
い。

- **NOL 自動化:** 課税損失をシステムで自動的に繰延、使用または期限切れにして対応する相殺金額を計上する方法を定義するルールを構成できます。純営業損失(NOL)/控除の操作を参照してください
- **RTA 分岐:** 資本逆仕訳ターゲット勘定科目としてタグ付けされたすべての永続的および一時的な勘定科目からデータを自動的にプルする新しいメタデータがあります。この機能は、アプリケーションで RTA 自動化が有効な場合に現在の引当金フォームでの手動調整を回避するために役立ちます。RTA 分岐の操作を参照してください
- **期限切れの年別課税損失/税額控除:** 異なる期末繰越データを期限切れの年別に簡単にグループ化できます。課税損失/税額控除フォームから期限切れの年別に課税損失/税額控除スケジュールの期末繰越詳細を表示できます。期限切れの年別課税損失/税額控除の操作を参照してください
- **株主資本に対する繰延税金費用:** 合計繰延税金費用(地域)を株主資本に再分類します。この分類は、エンティティおよび管轄に固有です。この機能を有効にすると、次のようになります:

- 戻し繰延税金費用の増減に対して合計繰延税金費用が戻されます
- 戻される繰延税金費用が再分類繰延税金費用に再分類され、その後、合計資本調整にロールオーバーされます。

関連項目: *Tax Reporting* の操作の株主資本に対する合計繰延税金費用(地域)の再分類

- **ハイブリッド増減期間密モードの有効化(DSO):** この画面からこのオプションを直接選択することはできません(読取り専用で表示されます)。ただし、ハイブリッドがアプリケーションで有効かどうかにかかわらず表示されます。ハイブリッド・アプリケーションへの移行については、アプリケーション・モデルのハイブリッド最適化(DSO)への変換を参照してください
- **シナリオ - 株主資本に対するエンティティの税率変更:** この機能は、「エンティティ」ディメンションおよび「シナリオ」ディメンションに固有です(エンティティ・ディメンションおよびシナリオ・ディメンションを参照)。この機能を有効にし、特定のシナリオのカスタム属性(<シナリオ>_RC など。カスタム属性の詳細は、エンティティの課税属性の定義も参照)をエンティティに適用すると、その特定のエンティティおよびシナリオのすべての勘定科目に株式資本に対する税率変更の動作が設定されます。

エンティティが連結されると、税率データの変更の影響は、すべての一時差異勘定科目の資本における税率変更の影響列に移動されます。

関連項目: *Tax Reporting* の操作の国の繰延税金の操作および地域の繰延税金の操作

4. 「有効化」をクリックして、選択した機能を有効にします。
5. システムに、機能が有効化されたというメッセージが表示されたら、「OK」をクリックします。
6. ログオフしてから再度ログオンして、有効化された機能を確認します。

管轄およびエンティティの構成

管轄によって国または地域レベルで法人税の引当が分類されます。アプリケーションの管轄を作成し、関連付ける通貨およびエンティティを作成する必要があります。このタスクは、システムの設定時、実装時、または業務の拡大に伴って実行されます。

管轄ディメンションで、各法的エンティティに対する主たる事業所を定義します。このディメンションを使用して、税引当に対応する国および地域を定義します。

次の管轄のレベルを作成できます。

- **国**の管轄は、連邦または国レベルの税を表します。
- **地域**の管轄は、州、県、地域やその他の区域を表します。控除のため、地域税額が国税の計算に自動的に引き継がれるよう設定できます。地域税引当は、法的エンティティ別に個別に計算することも合計で計算することもできます。

地域が関連付けられている国の管轄ごとに、対応する<jurisdiction_name>_Regions 親メンバーが TRCS_AllRegions 下に作成される必要があります。

ノート:

国とその地域に別個の税がない場合、各国に個別の地域を設定する必要はありません。

ディメンション・エディタを使用してアプリケーションに対して必要な管轄、エンティティおよび通貨を構成するには、次の項を参照してください。

- [国の管轄の作成](#)
- [地域の管轄の作成](#)
- [エンティティの作成](#)
- [通貨の追加](#)
- [管轄とエンティティの構成後のデータベースのリフレッシュ](#)

表 3-2 ビデオ

目的	参照するビデオ
エンティティおよび管轄の構成	 Tax Reporting でのエンティティおよび管轄の構成

表 3-3 チュートリアル

目的	方法の学習
EPM Cloud Tax Reporting でのエンティティおよび管轄の構成方法の学習	 エンティティおよび管轄の構成

国の管轄の作成

国の管轄では、連邦または国レベルで法人税の引当が分類されます。

管轄ディメンションの詳細は、[管轄ディメンション](#)を参照してください。

管轄を作成するには:

1. ホーム・ページで**ナビゲータ** 、「**ディメンション**」の順に選択します。
2. 「**ディメンション**」ドロップダウンから、「**管轄**」を選択します。
3. 「**TRCS_TotalJurisdiction**」を展開し、「**TRCS_AllNational**」を選択して展開します。
4. 「**子の追加**」  をクリックし、国の管轄に関する次の情報を入力します。
 - a. 「**名前**」で、「CA」または「US」などの管轄用の2文字を入力します。管轄名には2文字のISOコードが推奨されています(ISO-3166 Alpha 2 国コードなど)。

▲ 注意:

"CAN"または"USA"などの3文字以上の文字が使用されている場合、その名前は、エンティティ属性の法定住所作成で機能しません。

- b. 管轄に対して表示する**別名**を入力します。
- c. 「**データ・ストレージ**」を「**保管**」または「**共有しない**」に設定します。

✎ ノート:

これは疎ディメンションであるため、「**データ・ストレージ**」フィールドを「**動的計算**」に設定しないでください。

- d. 「**プラン・タイプ**」を**連結**に設定し、「**加算**」を選択します。

Dimensions
Add Child : Jurisdiction : CA

Member Properties UDA Member Formula

Name CA

Description

Alias Table Default

Alias Canada

Data Storage Store

Two Pass Calculation

Allow Upper-Level Entity Input

Consol Addition

Plan Type

Rates Addition

Data Type Unspecified

Smart Lists <None>

Enable for Dynamic Children

Number of Possible Dynamic Children 10

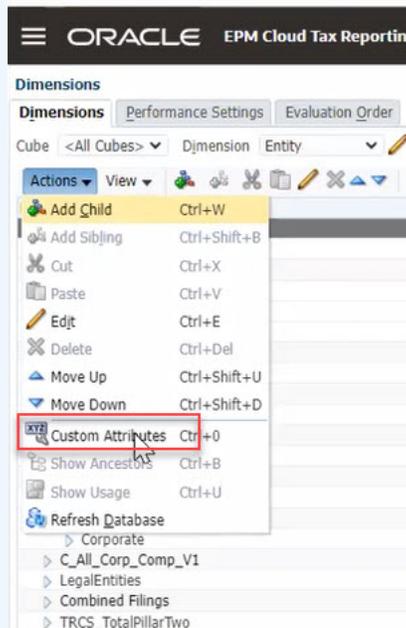
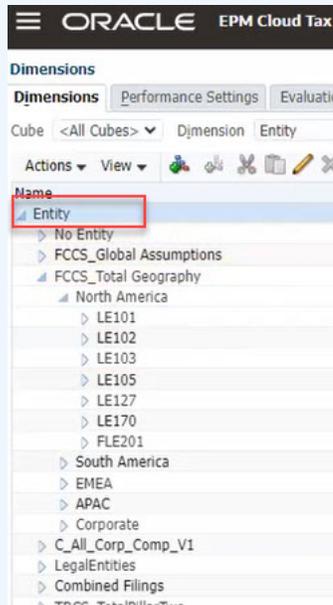
Access Granted to Member Creator Inherit

- e. 「保存」をクリックします。

 ノート:

場合によっては、新しく作成した国の管轄メンバーが、「エンティティ」ディメンションの**法定住所**カスタム属性に表示されないことがあります。そのような場合は、次のステップに従って、**法定住所**カスタム属性を新しく作成した国の管轄メンバーと同期します:

1. 「ディメンション」ドロップダウンから「エンティティ」を選択します。
2. 「エンティティ」の最上位のディメンション・メンバーを選択し、「アクション」で「カスタム属性」ボタンをクリックします。



3. **法定住所**属性を選択し、「参照属性メンバーの同期」ボタンをクリックします。



4. 新しく追加した法定住所が、**法定住所の「属性値」** ツリーの右側にある法定住所のリストに表示されます。
新しい法定住所は、国全体での位置に関係なく、リストの一番下に表示されます。

[地域の管轄の作成](#)に概説されているように地域の管轄の作成に進みます。

地域の管轄の作成

地域の管轄では、連邦または国レベルで法人税の引当が分類されます。

地域の管轄は、州、県、地域やその他の区域を表せます。控除のため、地域税額が国税の計算に自動的に引き継がれるよう設定できます。地域税引当は、法的エンティティ別に個別に計算することも合計で計算することもできます。

管轄ディメンションの詳細は、[管轄ディメンション](#)を参照してください。

地域の管轄を作成するには:

1. ホーム・ページでナビゲータ 、「ディメンション」の順に選択します。
2. 「ディメンション」ドロップダウンから、「管轄」を選択します。
3. 「TRCS_TotalJurisdiction」を展開し、「TRCS_AllRegional」を選択して展開します。

 ノート:

地域を持つ国の管轄ごとに、対応する **<jurisdiction_name>_Regions** 親メンバーが **TRCS_AllRegions** 下に作成される必要があります。

次の命名規則を使用してください:

- 地域の親メンバーは 2 文字の法定住所コードで始まり、**_Region** で終わる必要があります。たとえば、米国が法定住所(国の管轄)であるとする、親メンバーは **US_Regions** となります。
- 親メンバーの下の各メンバーは 2 文字の法定住所コードで始まり、その後アンダースコア()を付けて、州名で終わる必要があります。例: **US_AL**

管轄ディメンション階層の例は次のとおりです:



4. 「子の追加」  をクリックし、必要な地域の管轄ごとに次の情報を入力します。

- 管轄の**名前**およびオプションの説明を入力します。たとえば、カナダのオンタリオ州の場合、**CA_ON** です。
- 管轄に対して表示する**別名**(Ontario など)を入力します。
- 「データ・ストレージ」を「保管」または「共有しない」に設定します。

 ノート:

これは疎ディメンションであるため、「データ・ストレージ」フィールドを「動的計算」に設定しないでください。

- 「プラン・タイプ」を**連結**に設定し、「加算」を選択します。
- 「保存」をクリックします

Dimensions

Add Child : Jurisdiction : TRCS_AllRegional

Member Properties UDA Member Formula

Name: CA_ON

Description:

Alias Table: Default

Alias: Ontario

Data Storage: Store

Two Pass Calculation:

Plan Type: Consol Addition Rates Addition

Data Type: Unspecified

Smart Lists: <None>

Enable for Dynamic Children:

Number of Possible Dynamic Children: 10

Access Granted to Member Creator: Inherit

5. 「保存」をクリックします。
6. エンティティの作成で概説されている、関連付けるエンティティの作成に進みます。

エンティティの作成

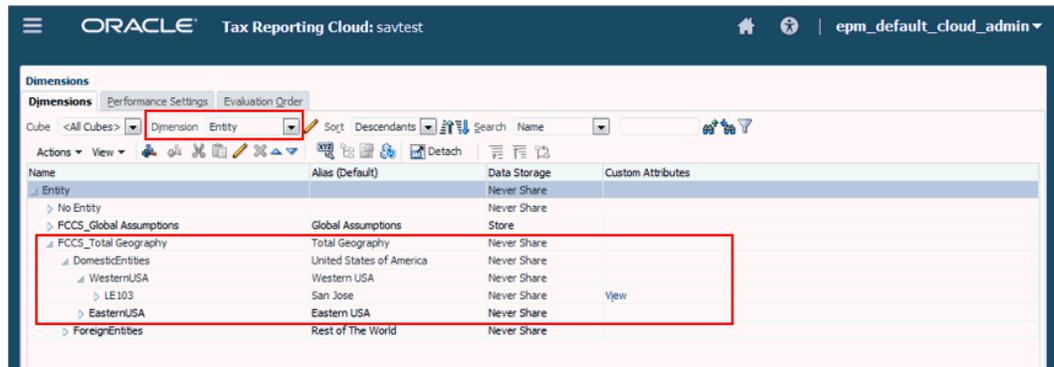
ディメンションは階層形式で、組織の法的エンティティ構造に基づきます。アプリケーションの適切なエンティティ・メンバーが反映されるようエンティティ階層構造を変更する必要があります。

エンティティを作成するには:

1. ホーム・ページで「ナビゲータ」  を選択し、「作成および管理」で「ディメンション」を選択します。
2. 「ディメンション」ドロップダウンから「エンティティ」を選択し、「FCCS_TotalGeography」を展開して必要なエンティティ(たとえば、EasternUSA など)まで展開します。

ノート:

法的エンティティ構造などの代替階層を追加できます。基本エンティティは階層間で共有できます。代替階層の作成を参照してください。



3. 「子の追加」  をクリックし、次のステップを実行します。
 - a. 「名前」に、新規エンティティの名前を入力します。
 - b. エンティティに対して表示する**別名**を入力します。
 - c. 「基本通貨」で、エンティティの通貨を選択します。
 - d. 「データ・ストレージ」を「保管」または「共有しない」に設定します。

 **ノート:**

これは疎ディメンションであるため、「データ・ストレージ」フィールドを「動的計算」に設定しないでください。

- e. 「プラン・タイプ」で、すべてのキューブ(「Consol」、「Rates」および「CbCR」)に対して集計タイプを「無視」に設定します。エンティティ・ディメンションは連結プロセスの一環として集計されるため、ネイティブ Essbase 計算については**無視**に設定する必要があります。他のオプションを選択した場合、データベースのリフレッシュ時に「無視」にデフォルト設定されます。

- f. 「属性値」タブで、エンティティの税金属性を構成します(関連項目: [エンティティの課税属性の定義](#))。次のステップを実行して、最も一般的なエンティティの属性を定義します:
- i. **オプション:** 基本エンティティのみの場合、このエンティティの地域税が国の管轄で控除可能であれば、**地域控除**属性値を追加します。
 - ii. **オプション:** エンティティが会社間トランザクションに参加する場合、「**会社間**」属性を追加します。
 - iii. **オプション:** **法定住所**属性を追加して国の税管轄を割り当て、法定住所を強調表示します。この属性は、すべての基本エンティティ、および親の税金計算が有効になっている親エンティティにも設定する必要があります。許可される法定住所は1つのみです。

 **ノート:**

法定住所属性に予定した法定住所が表示されない場合は、**法定住所**カスタム属性を同期する必要がある場合があります。[国の管轄の作成](#)で説明されている同期ステップに従います。

- g. 「保存」をクリックします

すべてのエンティティが作成される場合、[通貨の追加](#)で概説されているように通貨を追加します。

通貨の追加

Tax Reporting メタデータ・ファイルには、ほとんどの各国通貨が 3 文字の ISO 通貨コードを使用して定義されています。**Tax Reporting** のデフォルト換算は、エンティティのデフォルト通貨に基づいて処理されます。

通貨を確定する前に、エンティティとそれに必要な通貨の変更を終える必要があります。デフォルトでは、通貨は作成された順に表示されます。通貨を削除する場合、削除する通貨がデフォルト通貨として使用されていないか、すべてのエンティティを確認する必要があります。

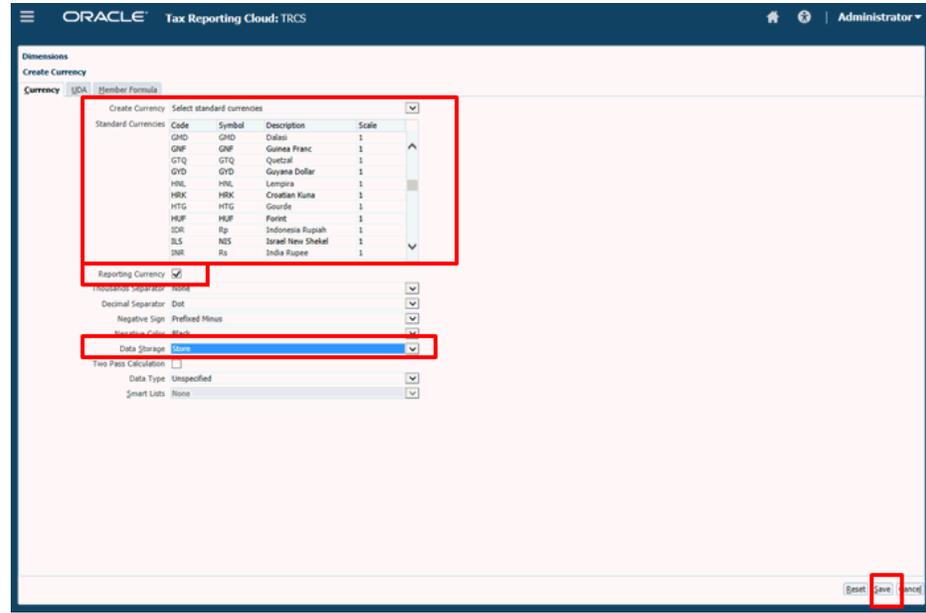
ノート:

最終的なメタデータ・ファイルの通貨ディメンションには、現在必要な通貨および近い将来必要となる通貨のみを保持することをお勧めします。不必要な通貨コードを保持すると、パフォーマンスの低下を招くことがあります。通貨ディメンションは、エンティティの通貨にのみ使用されることに注意してください。

通貨ディメンションの詳細は、[通貨ディメンション](#)を参照してください。

通貨を追加するには:

1. ホーム・ページで**ナビゲータ**、「**ディメンション**」の順に選択します。
2. 「**ディメンション**」で「**通貨**」を選択し、**入力通貨**を展開します。
3. 「**通貨の追加**」をクリックします。
4. 「**通貨の作成**」で、次のステップを実行します。
 - a. 「**標準通貨の選択**」で、管轄に使用する ISO 通貨コードを選択します。たとえば、カナダ・ドルの場合は **CAD**、米ドルの場合は **USD** です。
 - b. **オプション**: 「**レポート通貨**」でチェック・ボックスを選択し、レポート通貨メンバーに通貨を追加します。
 - c. 「**データ・ストレージ**」を「**保管**」に設定します。



5. 「保存」をクリックします。
6. 管轄とエンティティの構成後のデータベースのリフレッシュで概説されているようにデータベースをリフレッシュし、すべての更新を取得します。

管轄とエンティティの構成後のデータベースのリフレッシュ

構成を完了したら、データベースをリフレッシュしてすべての更新を組み込み、エンティティと管轄を有効な交差に追加する必要があります。

エンティティのデータは、国および地域の所在地管轄メンバーについてのみ入力できます。

データベースをリフレッシュするには:

1. ホーム画面で「アプリケーション」、「概要」の順に選択します。
2. 「アプリケーション」画面で、「アクション」、「データベースのリフレッシュ」の順にクリックします
3. 「データベースのリフレッシュ」画面で、「作成」をクリックします。
4. 「データベースのリフレッシュ」をクリックします。

Refresh Database Save as Job Refresh Database Close

Before Refresh Database

Enable Use of the Application for

All users Administrators

Log off all users

Stop all active requests

After Refresh Database

Enable Use of the Application for

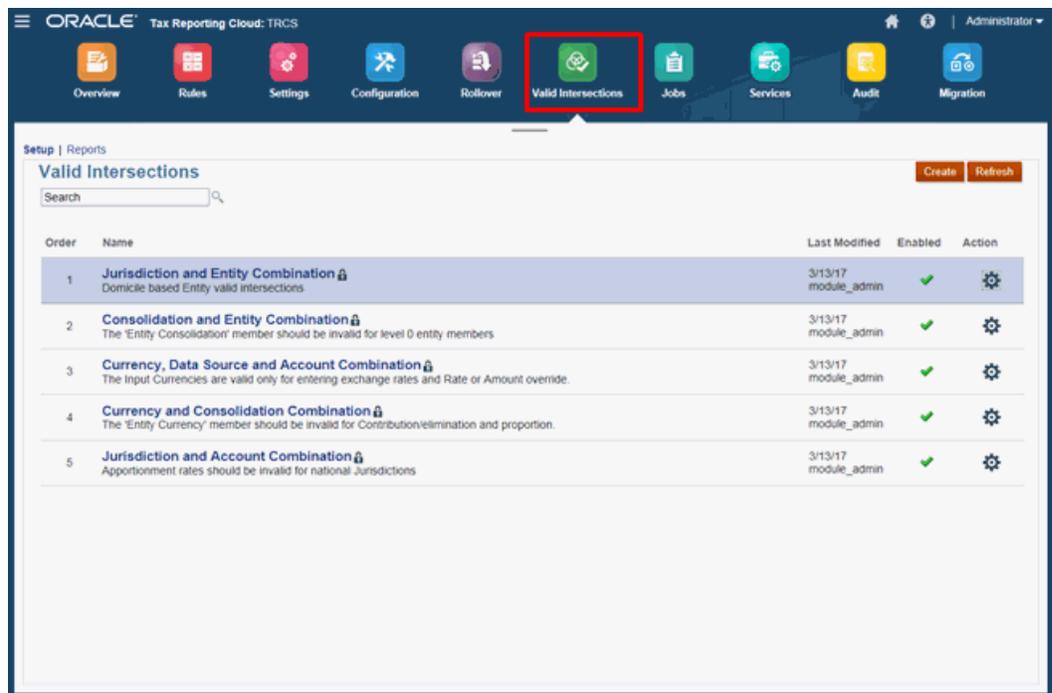
All users Administrators

- 先に進む前にアウトライン・ファイルをバックアップし、すべてのデータベースからデータをエクスポートして、データが失われないようにします。

▲ 注意:

リフレッシュを実行すると、このアプリケーションに対する **Planning** の現在のメタデータ定義に基づいて、このアプリケーションで使用されたすべての **Oracle Essbase** キューブのアウトラインが再作成されます。次のステップでのリフレッシュに進む前にアウトライン・ファイルをバックアップし、すべてのデータベースからデータをエクスポートします。

- 「リフレッシュ」をクリックします。
- ホーム画面で「アプリケーション」、「有効な交差」の順に選択し、**管轄とエンティティの組合せ**を選択します。



- 管轄とエンティティの組合せ**をダブルクリックし、有効な交差を表示します。

Jurisdiction	Entity	
Czech Republic	Vision Czech Republic, ...	✘
France	Vision France, No Entity	✘
Ukraine	Vision Ukraine, No Entity	✘
Argentina	Vision Argentina, No En...	✘
Switzerland	Vision Switzerland, No ...	✘
Spain	Vision Spain, No Entity	✘
Brazil	Vision Brazil, No Entity	✘
Netherlands	Vision Netherlands, No ...	✘
Thailand	Vision Thailand, No Entity	✘
Germany	Vision Germany, No Entity	✘

アプリケーションの削除

アプリケーションを削除すると、アプリケーションとそのすべてのコンテンツが削除されます。アプリケーションに対してスケジュールされたジョブも削除されます。このアクションは元に戻せません。

▲ 注意:

アプリケーションを削除する前にアプリケーションをバックアップすることをお勧めします。

アプリケーションを削除するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」、「**概要**」の順にクリックします。
2. 「**アクション**」で「**アプリケーションの削除**」を選択します。
3. 警告メッセージで「**はい**」をクリックし、アプリケーションを削除します。

4

セキュリティの管理

関連トピック

- [セキュリティの概要](#)
- [アーティファクトとデータ・アクセスの管理](#)
- [セル・レベル・セキュリティの定義](#)

ノート:

ユーザーが次の操作を実行した場合、Tax Reporting にはセル・レベル・セキュリティは適用されません:

- ロールオーバー
- データのコピー/クリア
- 構成のコピー
- ビジネス・ルール(連結や換算など)

セキュリティの概要

Tax Reporting では、セキュリティ・レイヤーをいくつか実装してセキュリティを確保しています。Oracle によって実装および管理されるインフラストラクチャ・セキュリティ・コンポーネントは、ビジネス・プロセスに対する安全性の高い環境を作成します。ビジネス・プロセスでは、パスワードで保護されたシングル・サインオンと、データおよびアーティファクトに対する役割ベースのアクセスによってセキュリティが保証されます。

セキュリティの設定には次のタスクが必要です。

表 4-1 セキュリティの要素

名前	実行者および説明	リンク
ユーザーを作成してアプリケーションに対するアクセス権を割り当てます	アイデンティティ・ドメイン管理者は、ユーザーを作成してアプリケーションに対するアクセス権を割り当てます。	Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者スタート・ガイドのユーザーの作成を参照してください
アプリケーションに対する事前定義済役割のアクセス権のユーザーへの割当て	アイデンティティ・ドメイン管理者は、アプリケーションに対する役割のアクセス権をユーザーに割り当てます: サービス管理者、パワー・ユーザー、ユーザー、参照者。	Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者スタート・ガイドの事前定義済役割の理解および Tax Reporting を参照してください

表 4-1 (続き) セキュリティの要素

名前	実行者および説明	リンク
グループを作成および管理します	管理者は、「アクセス制御」の「 グループの管理 」を使用して、グループを定義してユーザーを移入できます。	グループの作成および管理については、 Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者スタート・ガイドのグループの管理 を参照してください
アーティファクトに対するアクセス権をユーザーに割り当てます	ユーザーは、アプリケーションのアーティファクトに対するアクセス権を割り当てられます。これらのアーティファクトには、フォーム、タスク・リストおよびレポートが含まれます。このアクセス権は、アーティファクトの作成者またはサービス管理者によってユーザーに付与されます。	アーティファクトへのユーザー・アクセス権の割当て を参照してください。
データに対するアクセス権をユーザーに割り当てます	管理者は、ディメンション・メンバーに対するアクセス権を介してデータに対するアクセス権を割り当てます。ユーザーは、ディメンションのメンバーに対する「変更」、「表示」または「なし」のアクセス権を割り当てられます。	データへのユーザー・アクセス権の割当て を参照してください

セキュリティの概要は、次のビデオを参照してください。
[でのセキュリティの理解](#)



アーティファクトとデータ・アクセスの管理

サービス管理者は、次のアプリケーション要素のセキュリティを構成できます。

- フォーム
- タスク・リスト
- Financial Reporting のレポート
- ディメンション
- 統合
 - Oracle Smart View for Office
 - 移行
 - データ管理
 - Oracle Hyperion Financial Close Management

システム管理者またはパワー・ユーザーの役割が割り当てられているユーザーは、次の権限が明示的に割り当てられていない場合もデータ管理にアクセスできます。

- 統合の実行

- ドリル・スルー
- 統合の作成

参照者またはユーザーの役割が割り当てられているユーザーは、次の権限が明示的に割り当てられている場合に、データ管理の「ワークフロー」および「設定」タブにアクセスできます。

- 統合の実行
- ドリル・スルー
- 統合の作成

次の表に、各役割の機能を示します。

表 4-2 役割ごとの機能

機能	参照者	ユーザー	パワー・ユーザー	サービス管理者
フォームを介したデータの表示	はい	はい	はい	はい
データ分析ツールを介したデータの表示 (FR、フォーム、Smart View、アド・ホック・グリッド)	はい	はい	はい	はい
フォームを介したデータの入力		はい	はい	はい
FDMEE を介したデータのロード			はい	はい
承認のためのデータの送信		はい	はい	はい
ソース・システムへのドリル・スルー	はい	はい	はい	はい
データの連結		はい	はい	はい
フォームの作成と管理			はい	はい
Smart View ワークシートの作成		はい	はい	はい
プロセス・コントロール・ユニットに対する承認プロセスの作成と開始		はい	はい	はい
プロセス・コントロール承認ユニットに対するアクションの実行		はい	はい	はい
アプリケーションのすべての機能アクティビティの実行(ユーザー役割の作成と割当てを除く)				はい
ディメンション管理				はい
メンバー式の管理				はい

アーティファクトへのユーザー・アクセス権の割当て

管理者は、フォーム、タスク・リスト、Financial Reporting レポートなどのアーティファクトにセキュリティを割り当てます。次のアクセス権を割り当てることができます。

- 変更
- 読取り
- なし

たとえば、フォームを表示するには、**読取り**アクセス権のみが必要です。**変更**アクセス権は、ユーザーに、フォームを変更する権限を付与します(パワー・ユーザーまたは管理者のみ)。

デフォルトのセキュリティ・アクセス権は、どのアーティファクトに対しても「**なし**」です。

データへのユーザー・アクセス権の割当て

セキュリティ・アクセス権(なし、読取り、書込み)はディメンションのメンバーに割り当てられます。管理者は、セキュリティを割り当てるディメンションを定義します。

デフォルトでは、セキュリティは Tax Reporting のビュー・ディメンションについてのみ有効になります。

ノート:

ビュー・ディメンションのセキュリティは無効にしないでください。ビュー・ディメンションのメンバーに割り当てられたセキュリティ・アクセス権限により、参照者の役割を持つユーザーにはすべてのデータへの読取りアクセス権が割り当てられ、その他の役割を持つユーザーには即時利用可能な書込みアクセス権が割り当てられます。

親レベルでそのすべての子孫を対象にセキュリティを割り当てることができるため、各ディメンション・メンバーに別個にセキュリティを割り当てる必要はありません。任意のディメンションに対してセキュリティを無効化できますが、少なくとも1つのディメンションに対してセキュリティを有効化する必要があることに注意してください。

データ・レベルのセキュリティは、各ディメンションに対するセキュリティ・アクセスの交差に基づきます。最も厳しい制限のあるセキュリティ・アクセスは、システムによって使用されるものです。

表 4-3 すべてのメンバーに対するディメンションのアクセス権の表示

グループ・アクセス	アクセス権	関係
パワー・ユーザー	書込み	メンバー
ユーザー	書込み	メンバー
参照者	読取り	メンバー

ヒント

データ・ソース・メンバー **FCCS_Supplemental Data** および **FCCS_Managed Data** は、それぞれ、補足データ・マネージャ、データ管理によって送信されるデータ用に予約されています。これらのメンバーに関連付けられたデータを対話形式で変更することを非管理者ユーザーに対して制限するように、データ・アクセス・セキュリティを構成できます。たとえば、すべての非管理ユーザーに対して、**FCCS_Supplemental Data** および **FCCS_Managed Data** メンバーへの読取りアクセス権を割り当てることができます。

ディメンションのセキュリティの有効化または無効化

ユーザー定義のカスタム・ディメンションを含め、ディメンションのセキュリティを有効化できます。ディメンションのセキュリティを有効にしていない場合は、すべてのユーザーがそのディメンションのメンバーにアクセスできます。

デフォルトでは、セキュリティはビュー・ディメンションに対して有効になります。必要に応じて、エンティティなど、その他のディメンションのセキュリティを有効にできます。

ノート:

ビュー・ディメンションのセキュリティは無効にしないでください。ビュー・ディメンションのメンバーに割り当てられたセキュリティ・アクセス権限により、参照者の役割を持つユーザーにはすべてのデータへの読取りアクセス権が割り当てられ、その他の役割を持つユーザーには即時利用可能な書込みアクセス権が割り当てられます。

ユーザーおよびグループのディメンション・メンバーにセキュリティを割り当てることができます。セキュリティは、メンバー・レベルまたは親レベルで割り当てることが可能です。

ディメンションのセキュリティを有効化または無効化するには:

1. 「ナビゲータ」アイコン  をクリックします。
2. 「ディメンション」からディメンションを選択し、「編集」をクリックします。
3. 「ディメンション・プロパティの編集」ページで、オプションを選択します。
 - セキュリティを有効化するには、「セキュリティの適用」を選択します。

ノート:

このオプションを選択しないと、ディメンションにはセキュリティが設定されず、ユーザーはそのメンバーに制限なしにアクセスできます。

- セキュリティを無効化するには、「セキュリティの適用」をクリアします。
4. 「保存」をクリックします。

ディメンション・メンバーへのセキュリティの割当て

ユーザー定義のカスタム・ディメンション・メンバーにアクセス権を割り当てる前に、ディメンションの「プロパティ」タブで「セキュリティの適用」チェック・ボックスを選択する必要があります。

メンバー・レベルまたは親レベルでディメンション・メンバーにセキュリティを割り当てることができます。

ディメンション・メンバーにセキュリティを割り当てるには:

1.  をクリックします。
2. 「作成および管理」で「ディメンション」をクリックします。
3. メンバーを選択します。
4. 「アクセス権の割当て」をクリックします。
5. 「アクセス権の追加」をクリックします。
6. 選択したメンバーにアクセスするユーザーおよびグループを選択します。
「ユーザー」をクリックするとすべてのユーザーが表示され、「グループ」をクリックするとすべてのグループが表示されます。
7. 「アクセス権タイプ」からオプションを選択します。
 - 読取り
 - 書込み
 - なし
8. オプション: メンバー・レベルを選択します。
たとえば、「子」を選択して、選択したメンバーの子にアクセス権を割り当てます。
 - メンバー
 - 子
 - 子(含む)
 - 子孫
 - 子孫(含む)
9. 「追加」をクリックします。
10. 「閉じる」をクリックします。

アクセス権を変更するには:

1. 「アクセス権の編集」をクリックします。
2. 選択したメンバーについて、表示されているユーザーまたはグループのアクセス権のタイプを選択します。
3. オプション: メンバー・レベルを選択します。
たとえば、「子」を選択して、選択したメンバーの子にアクセス権を割り当てます。
 - メンバー

- 子
 - 子(含む)
 - 子孫
 - 子孫(含む)
4. 「設定」をクリックします。
 5. 「閉じる」をクリックします。

アクセス権を削除するには:

1. 選択したメンバーに対するアクセス権を削除するユーザーおよびグループを選択します。
2. 「アクセス権の削除」、「OK」の順にクリックします。
3. 「閉じる」をクリックします。

セル・レベル・セキュリティの定義

フォーム内の特定のセル交差のデータ表示をユーザーとグループに対して制限するセキュリティ・ルールを定義します。

次も参照:

- [セル・レベル・セキュリティの理解](#)
- [セル・レベル・セキュリティ定義の作成](#)
- [セル・レベル・セキュリティ定義の表示](#)
- [セル・レベル・セキュリティ定義のフィルタ](#)
- [セル・レベル・セキュリティ定義のインポートとエクスポート](#)
- [セル・レベル・セキュリティのテスト](#)
- [セル・レベル・セキュリティ定義リストの並替え](#)

セル・レベル・セキュリティの理解

セル・レベル・セキュリティについて

セル・レベル・セキュリティを適用するサービス管理者は、標準のセキュリティによってユーザーが通常アクセスできるセルへのアクセスを拒否できます。したがって、セル・レベル・セキュリティは、既存のメンバー・セキュリティの例外として定義されます。たとえば、部門マネージャは、自分の部門についてはすべての勘定科目にアクセスする必要がありますが、他のすべての部門については特定の勘定科目のみにアクセスする必要があります。通常のメタデータ・セキュリティでは、マネージャはすべての部門のすべての勘定科目にアクセスできますが、セル・レベル・セキュリティを使用すると、サービス管理者はすべての勘定科目とマネージャの部門との交差、および他のすべての部門の特定の勘定科目のみを管理できます。

セル・レベル・セキュリティでは、有効な交差ルールと同様のルールを使用して、セルが表示されている場所(フォーム、実行時プロンプト、**Smart View**、レポート、ダッシュボード、インフォレットなど)で、特定のセル交差を表示しているユーザーの読取りまたは書込みアクセスを拒否します。セル・レベル・セキュリティ・ルールが適用されると、読取りアクセス

権を持つユーザーは、セルのデータ値を参照できますが、セルは編集できません。ユーザーがセルへの読取りアクセスを拒否されている場合、セルに表示される値は #noaccess です。

サービス管理者は、セル・レベル・セキュリティ・ルールを定義して、任意のユーザーまたはグループに割り当てることができます。セル・レベル・セキュリティはサービス管理者には影響しません。

アンカーおよび非アンカー・ディメンション

セル・レベル・セキュリティ定義では、アンカー・ディメンションと非アンカー・ディメンションを使用します:

- セル・レベル・セキュリティ定義で使用されるキューブでは、アンカー・ディメンションは常に必須ディメンションです。
- 非アンカー・ディメンションが必須である場合、または必須でない場合:
 - 非アンカー・ディメンションが必須である場合、そのディメンションを使用しないキューブでは、そのディメンションが必須としてタグ付けされているセル・レベル・セキュリティ定義は無視されます。
 - 非アンカー・ディメンションが必須でない場合、そのディメンションを使用しないキューブでは、そのディメンションが必須でないとして含まれているセル・レベル・セキュリティ定義も評価され、キューブで使用されている定義内の他のディメンションの定義が評価されます。
 - デフォルトでは、非アンカー・ディメンションは必須ではありません。非アンカー・ディメンションを必須にするには、非アンカー・ディメンションの横の  をクリックし、「**必須**」をクリックします。
- デフォルトでは、ルールで指定されていないアンカー・ディメンション・メンバーがセキュリティ定義に含まれていますが、アンカー・ディメンションの横にある  をクリックし、次に「**選択したメンバーにのみ適用**」をクリックすることで、このオプションをクリアできます。

セル・レベル・セキュリティ定義の作成

セル・レベル・セキュリティ定義を作成するには:

- 「**アプリケーション**」、「**セル・レベル・セキュリティ**」の順にクリックします。
- 定義を作成します:
 - 「**作成**」をクリックします。
 - 定義の名前と説明を入力します。
 - 「**有効**」チェック・ボックスは、デフォルトで選択されています。定義を無効にするには、「**有効**」チェック・ボックスの選択を解除します。**セル・レベル・セキュリティ定義**ページで定義を直接有効または無効にすることもできます。
 - キューブ固有のセキュリティを定義するには、「**キューブ**」をクリックし、キューブのリストから選択するか、「**すべて**」を選択します。
 - アンカー・ディメンションは必須です。アンカー・ディメンションを選択するには、「**アンカー・ディメンションの選択**」をクリックします。アンカー・ディメンションおよび非アンカー・ディメンションの詳細は、[セル・レベル・セキュリティの理解](#)を参照してください

- f. **オプション:** デフォルトでは、ルールで指定されていないアンカー・ディメンション・メンバーがセキュリティ定義に含まれています。このオプションをクリアするには、アンカー・ディメンションの横の  をクリックし、「**選択したメンバーにのみ適用**」をクリックします。
 - g. 追加のディメンション(非アンカー・ディメンションと呼ばれます)を選択するには、「**ディメンションの追加**」をクリックします。
 - h. **オプション:** デフォルトでは、非アンカー・ディメンションは必須ではありません。非アンカー・ディメンションを必須にするには、非アンカー・ディメンションの横の  をクリックし、「**必須**」をクリックします。
3. セル・レベル・セキュリティ・ルールを定義します:
- a. 「**ルールの追加**」をクリックします。
 - b. 「**ユーザー、グループ**」列で、 をクリックして、セル・レベル・セキュリティ・ルールに含めるユーザーとグループを見つけます。
 - c. 「**制限**」に、「**読取り不可**」(デフォルト)または「**書込み不可**」を選択します。「**読取り不可**」は最も厳しい制限であるため、デフォルトのオプションです。ユーザーがセルへの読取りアクセスを拒否されている場合、セルに表示される値は#noaccess です。「**書込み不可**」アクセス権を持つユーザーは、セルのデータ値を参照できますが、セルは編集できません。
 - d. 新しいルールのディメンションの横にある  をクリックします:
 - 「**編集**」をクリックして**メンバーの選択**ページを開き、セル・レベル・セキュリティ・ルールに含めるメンバー、代替変数および属性を選択します。
 - 「**除外**」または「**すべて除外**」をクリックして、ルールから除外するディメンション・メンバーを定義します:
 - **除外:** このオプションを選択した場合、メンバーは ID を基準にして除外されます。指定されたメンバー(基本または共有)のみが除外されます。
 - **すべて除外:** このオプションを選択した場合、メンバーは名前を基準にして除外されます。基本メンバーが指定されている場合、基本とそのすべての共有メンバーが除外されます。共有メンバーが指定されている場合、このメンバー、その基本メンバー、およびこのメンバーの他のすべての共有メンバーが除外されます。
 - 「**クリア**」をクリックして、選択をクリアします。
- ルールを削除するには、 をクリックします。
4. 「**保存**」をクリックします。

新しいセル・レベル・セキュリティ定義がリストの最後に追加されます。定義は、リストに表示されている順に評価されます。定義リストを並べ替える手順は、[セル・レベル・セキュリティ定義リストの並替え](#)を参照してください。

定義を作成した後、フォームで定義をテストして、ユーザーのパースペクティブからフォームがどのように表示されるのかを確認できます。[セル・レベル・セキュリティのテスト](#)を参照してください。

セル・レベル・セキュリティ定義の表示

セル・レベル・セキュリティ定義を表示するには:

1. 「アプリケーション」、「セル・レベル・セキュリティ」の順にクリックします。
2. リスト全体で特定の定義を検索するには、「検索」ボックスに検索条件を入力し、をクリックして、検索条件を満たす定義のみを表示します。
3. フィルタ条件を満たす定義のみが表示されるようにリストをフィルタするには、次のフィルタ・オプションを指定します:
 - : クリックすると、「フィルタ」ページが表示され、フィルタ・オプションの堅牢なリストから選択できます。フィルタ・オプションとその説明の完全なリストは、[セル・レベル・セキュリティ定義のフィルタ](#)を参照してください。
 - : クリックすると、「有効な割当」、「使用可能」および「制限」のすべてのフィルタがクリアされます。
 - **有効な割当**: 特定のユーザーまたはグループに影響する定義のみを表示するようにリストをフィルタします。
 - **使用可能**: 有効になっている(「はい」)または有効になっていない(「いいえ」)定義のみを表示するようにリストをフィルタするか、「すべて」を選択します。
 - **制限**: 「読取り不可」または「書き込み不可」制限が割り当てられている定義のみを表示するようにリストをフィルタするか、「すべて」を選択します。
4. **セル・レベル・セキュリティ定義**ページで、次のタスクを実行することもできます:
 - 「アクション」メニュー: 定義のインポートおよびエクスポートについては、[セル・レベル・セキュリティ定義のインポートとエクスポート](#)を参照してください。
 - **テスト**: [セル・レベル・セキュリティのテスト](#)を参照してください。
 - **作成**: [セル・レベル・セキュリティ定義の作成](#)を参照してください。
 - **リフレッシュ**: クリックして定義リストをリフレッシュします。
5. 定義ページの各リストに対して、次のタスクを実行できます:
 - 「使用可能」列: 定義が有効かどうかを示します。定義の横にあるチェック・マークをクリックして、定義を無効または有効にします。緑色のチェック・マークは、定義が有効になっていることを示します。
 - 「アクション」列: **...**をクリックし、定義を編集、複製または削除したり、定義をリストの順序で上または下に移動します。

セル・レベル・セキュリティ定義のフィルタ

セル・レベル・セキュリティ定義のリストは、キューブ、制限、日付など、特定の条件でフィルタできます。フィルタすると、フィルタ条件を満たす定義のみが**セル・レベル・セキュリティ定義**ページに表示されます。

セル・レベル・セキュリティ定義をフィルタするには:

1. 「アプリケーション」、「セル・レベル・セキュリティ」の順にクリックします。
2.  をクリックして、フィルタ条件を指定します:
 - **キューブ:** 選択したキューブ内の定義のみを表示するか、「すべて」を選択します。
 - **使用可能:** 有効になっている(「はい」)または有効になっていない(「いいえ」)定義のみを表示するか、「すべて」を選択します。
 - **制限:** 「読取り不可」または「書込み不可」制限が割り当てられている定義のみを表示するか、「すべて」を選択します。
 - **変更:** 特定の日時より前または後に変更された定義、あるいは日付または時間の範囲内に変更された定義のみを表示します。「後」、「前」または「次の値の間」を選択し、 をクリックして日時の条件を指定します。
 - **変更者:** 選択したユーザーによって変更された定義のみを表示します。
 - **有効な割当:** 選択したユーザーまたはグループに影響する定義のみを表示します。
3. 「その他」をクリックして、フィルタ条件をさらに絞り込みます:
 - **ディメンション**
 - **アンカー・ディメンション**
 - **アンカー・ディメンション: 選択したメンバーにのみ適用:** 「はい」、「いいえ」または「すべて」を選択します。
 - **その他のディメンションが必要:** 「はい」、「いいえ」または「すべて」を選択します。
4. 「適用」をクリックします。

セル・レベル・セキュリティ定義のインポートとエクスポート

セル・レベル・セキュリティ定義のインポートとエクスポートについて

セル・レベル・セキュリティ定義のフィルタされたリストをリスト・ページからローカル・コンピュータの場所にエクスポートするか、サーバーにエクスポートできます。リスト・ページでフィルタが定義されていない場合は、すべてのセル・レベル・セキュリティ定義がエクスポートされます。

インポート・アクションを使用して、セル・レベル・セキュリティ定義をローカル・コンピュータ上の場所からアプリケーションにインポートするか、サーバーからインポートします。インポートを実行すると、定義に違反する内容がないかについてインポート・ファイルがテストされます。たとえば、キューブが欠落している場合、アンカー・ディメンションがない場合、またはサブルールが見つからない場合は、エラー・ファイルにエラーが記録されます。インポート・ジョブは、インポート・ファイルにエラーがない場合にのみ正常に完了します。

Note:

サブルールでは、ルール(サブルール)の各メンバーのユーザー割当て、アンカーおよび非アンカー・ディメンションのメンバー選択または除外、各サブルールに適用される制限タイプなど、ルールの内容に関する情報が提供されます。

選択したエクスポートまたはインポートの場所に応じて、アプリケーション定義は Excel ファイル形式(XLSX)または zip ファイル形式のいずれかでエクスポートまたはインポートされます。

セル・レベル・セキュリティのインポート・ファイル

Excel インポート・ファイルには、1 番目と 2 番目のシートに次の名前の 2 つのシートが必要です:

1. Rules
2. Sub Rules

Rules シートには、次の列見出しがあります:

- **名前**
- **位置**
- **説明**
- **有効**
- **有効なキューブ** - この列には、All またはカンマ区切りのキューブ名のリスト (Plan1, Plan2 など)のいずれかが含まれます
- **アンカー・ディメンション名**
- **選択されていないメンバーへのアンカー・ディメンションの適用**
- **Dim1**
- **Dim1 必須**
- **Dim2**
- **Dim2 必須**
- **DimX**
- **DimX 必須**

Sub Rules シートには、次の列見出しが必要です:

- **名前** - この列には、1 番目のシートのルールの名前が含まれている必要があります
- **ユーザー**
- **ユーザー・グループ**
- **制限** - この列には「読取り不可」または「書込み不可」が含まれます
- **アンカー・メンバー**
- **アンカーの除外**
- **アンカーをすべて除外**
- **Dim1 メンバー**
- **Dim1 の除外**
- **Dim1 をすべて除外**
- **Dim2 メンバー**
- **Dim2 の除外**

- DimX メンバー
- DimX の除外
- DimX すべて除外

セル・レベル・セキュリティ定義のエクスポートおよびインポート

セル・レベル・セキュリティ定義をエクスポートおよびインポートするには:

1. 「アプリケーション」、「セル・レベル・セキュリティ」の順にクリックします。
2. 必要に応じて、リストにフィルタを適用します。セル・レベル・セキュリティ定義のフィルタを参照してください。
3. エクスポートするには、「アクション」、「エクスポート」の順にクリックし、エクスポート・ファイルのターゲットの場所を選択します:

- **ローカル:** エクスポート・ファイルをローカル・コンピュータ上の場所に保存します。このオプションを選択した場合は、「エクスポート」をクリックし、XLSX エクスポート・ファイルを保存する場所を指定します。
- **送信ボックス:** エクスポート・ファイルを zip 形式でサーバーに保存するジョブを実行します。保存されたファイルは、即時にダウンロードするか、後でエクスポート・ジョブをスケジュールする際に使用できます。このオプションを選択した場合は、「保存してジョブを実行」をクリックします。

送信ボックスからエクスポート・ファイルをダウンロードするには:

- a. 「アプリケーション」をクリックし、「ジョブ」をクリックします。
 - b. 「最近のアクティビティ」で、CLS のエクスポート・ジョブをクリックします。
 - c. **ジョブの詳細**ページで、 をクリックしてセル・レベル・セキュリティのエクスポート・ファイルのダウンロード場所を選択します。また、ビジネス・プロセスの「受信ボックス/送信ボックス・エクスプローラ」からエクスポート・エラー・ファイルをダウンロードできます。
4. Excel でエクスポート・ファイルを編集する場合は、Excel ファイルに Rules と Sub Rules の2つのシートがあることに注意してください。
 5. インポートするには、「アクション」、「インポート」の順にクリックし、インポート・ソース・ファイルの場所を選択します:
 - **ローカル:** 自分のコンピュータの場所からインポート・ファイルをロードします。「ソース・ファイル」の「参照」をクリックしてコンピュータ上のインポート・ファイルを選択し、「インポート」をクリックします。
 - **受信ボックス:** サーバーからインポート・ファイルをロードするジョブを実行します。インポート・ファイルは zip ファイル形式である必要があります。「ソース・ファイル」にファイル名を入力して「保存してジョブを実行」をクリックし、「ジョブとして保存」ダイアログで「名前」および「エラー・ファイル」を指定します。エラー・ファイルにより、インポートされなかった定義に関する情報が提供されます。ビジネス・プロセスの「受信ボックス/送信ボックス・エクスプローラ」からエラー・ファイルをダウンロードできます。

セル・レベル・セキュリティのテスト

セル・レベル・セキュリティを定義して有効にした後は、影響を受けるユーザーがフォームを表示したときに表示される内容を確認するためにテストできます。テストにより、許可さ

れているセルの値のみがユーザーに表示され、それより多くのセル値が表示されないことが確認されます。定義をテストするには、定義を有効にする必要があります。

セル・レベル・セキュリティをテストするには:

1. 「アプリケーション」、「セル・レベル・セキュリティ」の順にクリックします。
2. テストする定義を有効にします。
3. 「テスト」をクリックし、テストするフォームを選択します。
4. 「ユーザー名を選択または入力」テキスト・ボックスで、ユーザー名を指定するか、 をクリックしてユーザーを選択し、「OK」をクリックします。

 **Note:**

一度にテストできるユーザーは1人のみです。

フォームには、各セルへのユーザー・アクセスが「読取り」、「書込み」または「なし」と表示されます。

セル・レベル・セキュリティ定義リストの並替え

セル・レベル・セキュリティ定義は、たとえば、リストの最初のセル・レベル・セキュリティ定義が評価され、次に2番目の定義が評価されるなど、定義リストに表示されている順序で評価されます。

リストのセル・レベル・セキュリティ定義の位置を変更するには:

1. 「アプリケーション」、「セル・レベル・セキュリティ」の順にクリックします。
2. セル・レベル・セキュリティ定義の右側で、**...**をクリックします。
3. 「上へ移動」または「下へ移動」を選択します。

 **Tip:**

セル・レベル・セキュリティ定義をドラッグして、リスト内で上または下に移動することもできます。

5

アプリケーションの管理

関連トピック

- [アプリケーションの概要](#)
- [ディメンション、メンバー、別名、フォームの命名規則](#)
- [メタデータのインポート](#)
- [メタデータのエクスポート](#)
- [データ統合](#)
- [データのコピー](#)
- [データのクリア](#)
- [キューブのクリア・ジョブの作成](#)
- [データベースのリフレッシュ](#)
- [有効な交差の定義](#)
- [無効な交差レポートの管理](#)

アプリケーションの概要

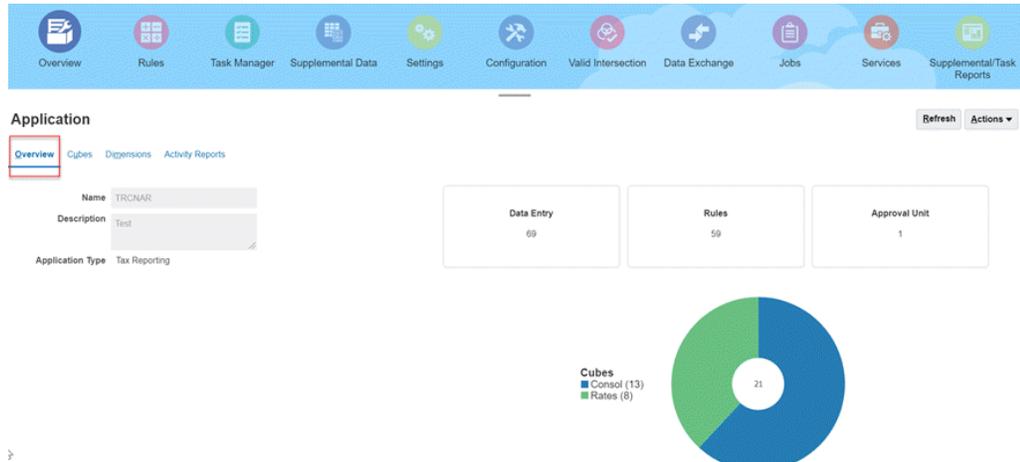
アプリケーションを作成した後、ホーム・ページから「アプリケーション」にアクセスすることで、それを表示および管理できます。

アプリケーションを管理するには、サービス管理者である必要があります。

アプリケーションの概要には、アプリケーションのプロパティおよびアプリケーション統計 (アプリケーション内のタスク、フォーム、ルールおよび承認階層の数など)が表示されます。これには、アプリケーションで使用されているディメンションもリストされます。

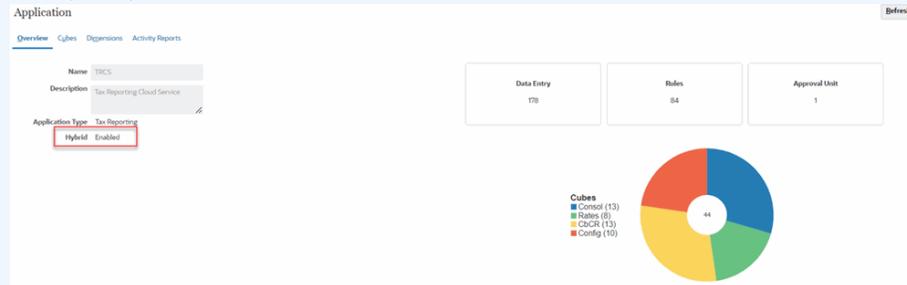
ディメンションを管理するには、[ディメンションの操作](#)を参照してください。

アプリケーションの概要を表示するには、ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「概要」を選択します。



ノート:

ハイブリッドは、アプリケーション・タイプの後には「有効」と表示され、ハイブリッド・モード用に構成されたアプリケーションを示します。関連項目:
[アプリケーションの概要](#)および[アプリケーション・モデルのハイブリッド最適化\(DSO\)への変換](#)



アプリケーション・モデル

Tax Reporting は、次のタイプのアプリケーション・モデルをサポートしています:

1. **密として勘定科目がある非ハイブリッド:** このモデルでは、勘定科目ディメンションは密であり、残りのディメンションは疎です。これは、Tax Reporting でリリースされた最初のモデルでした。このモデルは、レガシー Essbase およびハイブリッド対応 Essbase でサポートされています。
2. **勘定科目を持つ非ハイブリッドでデータ・ソースが密:** このモデルでは、勘定科目およびデータ・ソースのディメンションは密であり、残りのディメンションは疎です。このモデルは、レガシー Essbase およびハイブリッド対応 Essbase でサポートされています。
3. **期間および増減が密(DSO)のハイブリッド:** このモデルでは期間ディメンションと増減ディメンションは密であり、残りのディメンションは疎です。このモデルは、ハイブリッド対応の Essbase でのみサポートされています。

 **Note:**

- 期間および増減が密のハイブリッドが、新しいアプリケーション作成時のデフォルトのアプリケーション・モデルです。
- 密として勘定科目がある非ハイブリッドまたは勘定科目を持つ非ハイブリッドでデータ・ソースが密から、期間および増減が密のハイブリッドに、「ツール」->「構成」の「パフォーマンス設定」オプションから移行できます。データ・ソース・ディメンションのパフォーマンス設定の変更(非ハイブリッド・モードのみ)を参照してください

関連項目: [自分が持っているアプリケーション・モデル](#)

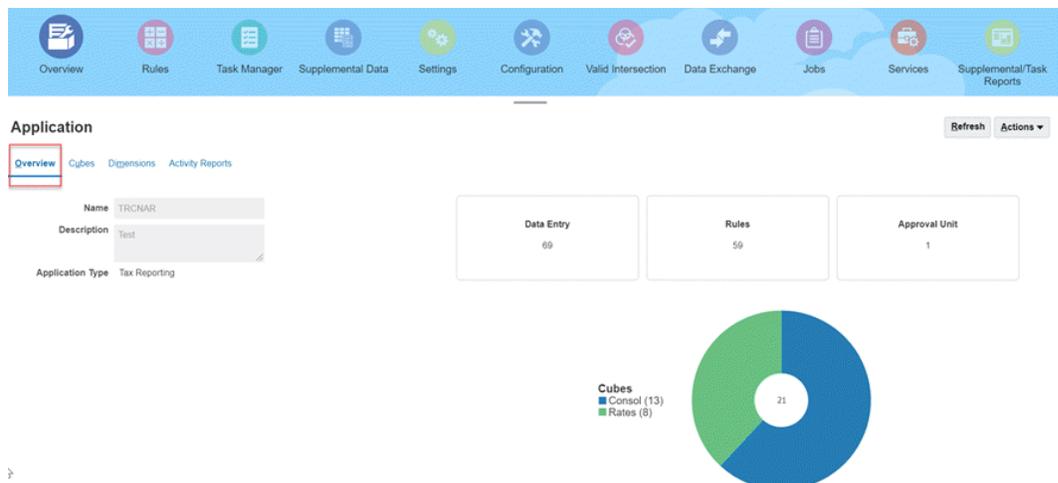
自分が持っているアプリケーション・モデル

- ハイブリッド・モードが有効になっているかどうかを確認するには、[アプリケーションの「概要」タブ画面](#)を参照してください。

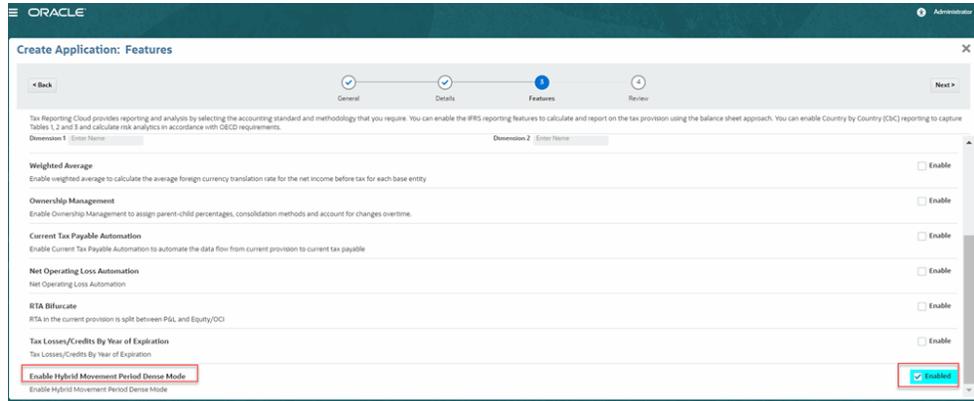
ハイブリッド・アプリケーション



非ハイブリッド・アプリケーション



- [アプリケーションの機能の有効化画面](#)を参照して、アプリケーションで「**ハイブリッド増減期間密モードの有効化**」が有効になっているかどうかを確認してください。



- アプリケーションの「ディメンション」画面を参照して、勘定科目、データ・ソース、増減、および期間の密/疎および順序設定を確認します。

Application

Overview Cubes Dimensions Activity Reports

Cube: Consol Dimension Type: Essbase

Type	Name	Order	Dense	Evaluation Order
Period	16 Members	1	<input checked="" type="checkbox"/>	1
Movement	455 Members	2	<input checked="" type="checkbox"/>	2
Data Source	120 Members	3	<input type="checkbox"/>	3
Scenario	3 Members	4	<input type="checkbox"/>	4
Years	10 Members	5	<input type="checkbox"/>	5
Multi-GAAP	5 Members	6	<input type="checkbox"/>	6
Intercompany	3 Members	7	<input type="checkbox"/>	7

パフォーマンス設定

関連トピック:

- データ・ソース・ディメンションのパフォーマンス設定の変更(非ハイブリッド・モードのみ)
- ハイブリッド集約のアプリケーション・モデルの最適化

データ・ソース・ディメンションのパフォーマンス設定の変更(非ハイブリッド・モードのみ)

デフォルトでは、データ・ソース・ディメンションは、パフォーマンスが向上する設定である「疎」に構成されます。

19.05 より前に作成されたレガシー・アプリケーションでは、データ・ソースは「密」に構成されます。レガシー・アプリケーションのデータ・ソース・ディメンションは「疎」に再構成することをお勧めします。

▲ 注意:

パフォーマンス設定を変更した場合、データベースをリフレッシュする必要があります。このリフレッシュにより Essbase データベースの再構築が発生するため、完了するまで時間がかかることがあります(システムによっては数時間)。他のユーザーがシステムを使用していない停止期間中にパフォーマンスの設定を更新することを検討してください。データベースのリフレッシュを開始する**前に**:

- システムにアクティブなユーザーがないことを確認してください。
- このアクションが自動メンテナンス・ウィンドウと重複していないことを確認してください。

✎ ノート:

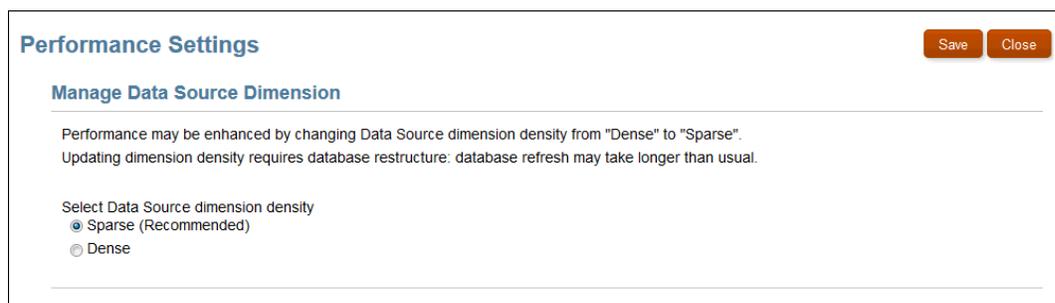
これは、従来の Essbase アプリケーションでのみ使用できます。

アプリケーションの現在のパフォーマンス設定を確認するには:

1. ホーム・ページから、「ナビゲータ」アイコンをクリックします。
2. 「作成および管理」で、「ディメンション」を選択し、次に「パフォーマンス設定」タブを選択します。
3. 必要なキューブを選択します。
4. 「データ・ソース」ディメンションの場合、「密度」の下に現在の設定が「密」または「疎」として表示されます。

パフォーマンス設定を設定するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」、「構成」の順に選択します。
2. 「構成」画面で、「パフォーマンス設定」を選択します。



Performance Settings Save Close

Manage Data Source Dimension

Performance may be enhanced by changing Data Source dimension density from "Dense" to "Sparse".
Updating dimension density requires database restructure: database refresh may take longer than usual.

Select Data Source dimension density

Sparse (Recommended)

Dense

3. 必要なデータ・ソース・ディメンション密度を選択します。
 - 疎(推奨)
 - 密

デフォルトで、密度は「疎」に設定されます。
4. 「保存」をクリックしてデータベースをリフレッシュします。

5. 「データベースのリフレッシュ」ダイアログ・ボックスで、「OK」をクリックします。
6. **オプション:** ホーム・ページで「アプリケーション」、「ジョブ」の順に選択し、リフレッシュのステータスを確認します。

ハイブリッド集約のアプリケーション・モデルの最適化

Tax Reporting では、アプリケーションを作成するときに、最大2つのカスタム・ディメンションを構成でき、アプリケーション・モデルはハイブリッド集約用に最適化されます。ハイブリッド・アプリケーション・モデルは、ディメンションのパフォーマンス設定(「増減」ディメンションと「期間」ディメンションは密として構成されています)、ディメンション・メンバーのデータ・ストレージ構成、Essbase 構成設定など、いくつかの重要な点で非ハイブリッド・アプリケーション・モデルとは異なります。

また、既存のアプリケーションをハイブリッド密疎最適化(DSO)アプリケーション・モデルに変換することもできます。関連項目: [アプリケーション・モデルのハイブリッド最適化\(DSO\)への変換](#)

ハイブリッド集約の利点

- 構成可能なディメンション - 最大2つのカスタム・ディメンションを使用して新しいアプリケーションを構成できます。
- データベースの高速更新 - ハイブリッド最適化(DSO)アプリケーションの勘定科目ディメンションは疎として構成されます。これにより、時間のかかる Essbase の密な再構築をトリガーせずに勘定科目ディメンションを変更でき、データベースの更新にかかる時間が大幅に短縮されます。
- データベース管理による疎の動的計算メンバーのエクスポート。Oracle *Enterprise Performance Management Cloud* データ統合の管理の [すべてのデータ・データの抽出オプション](#)を参照してください。
- Essbase データベースの縮小 - 勘定科目が疎ディメンションになるため、通常はブロック・サイズが小さくなり、疎ブロックが少なくなるため、Essbase データベースのサイズが大幅に縮小できる場合があります。
- パフォーマンス - システムは、ハイブリッド集約と最適化されたディメンション・パフォーマンス設定(DSO)を活用して、パフォーマンスの高い統合とデータ取得を推進します。

Note:

このオプションは、ハイブリッドが有効な Essbase で実行されているアプリケーションにのみ適用されます。ハイブリッド対応 Essbase へのアップグレードの詳細は、[EPM Cloud の Essbase について](#)を参照してください。

アプリケーション・モデルのハイブリッド最適化(DSO)への変換

事前移行に必要なステップ

アプリケーションの変換を開始する前に、次の処理を完了する必要があります:

- 保留中のメタデータ変更がなく、「データベースのリフレッシュ」が正常に実行されたことを確認

- アプリケーションのバックアップを作成
- スケジュール設定されたジョブの無効化
- アプリケーションの変換中に開始されなくなるように、自動メンテナンス・ウィンドウのスケジュールを変更
- アプリケーションが管理者モードであることを確認

移行ステップ

1. ホーム・ページで「アプリケーション」、「構成」の順に選択します。
2. 「構成」画面で「パフォーマンス設定」を選択します。

Name	Type	Status
RTA Automation Reel Adjustment	Maintenance Optional	Not Configured
Exchange Rates Manage Rates	Maintenance Optional	Not Configured
Tax Rates Manage Rates	Maintenance Optional	Not Configured
Consolidated Tax Rates Manage Rates	Maintenance Optional	Not Configured
Tax Automation Migration Perform Migration of Tax Automation Data	Maintenance Optional	Completed
Rollover Perform Periodic Rollover	Maintenance Optional	Not Configured
OCR Data Migration for Separate Approval Process Performs Migration of OCR Historical Data to newly created OCR Scenario(s)	Maintenance Optional	Not Configured
OCR Automation Migration Perform Migration of OCR Automation Data	Maintenance Optional	Not Configured
Performance Settings Manage Performance Settings	Maintenance Optional	Completed
TAR Synchronization	Maintenance	—

3. 検証が開始されます。

Enable Hybrid Mode [Next] [Close]

Please confirm that below activities are completed to begin

- There are no pending metadata changes and Refresh Database is run successfully.
- I took a full LCM backup of the application.
- I have disabled scheduled jobs and also rescheduled automatic maintenance window.
- Please confirm the application is in admin mode.

This action cannot be undone.

Validation Status

Validation started...

Validate dimensions

4. 変更のサマリーを確認して保存します。



5. 「起動」をクリックして、アプリケーションを変換します。プロセスが開始されると、既存のすべてのユーザーがログオフされ、すべてのアクティブな要求が停止されます。
6. アプリケーションが変換されるまで待ちます。このプロセスでは、かなりの時間がかかる可能性のある密なデータベースの再構築を実行する必要があります。このとき、「アプリケーション」->「ジョブ」のジョブ・コンソールで、「期間および増減を密にする」ジョブの進行状況をモニターできます。
7. プロセスが完了したら、アプリケーションからログアウトし、再度ログインします。

 **Note:**

アプリケーションをハイブリッド最適化モデルに変換した後、元に戻すことはできません。

ハイブリッド最適化の一環としての更新の実行

変換プロセスは、次の変更で構成されます:

- **データ・ストレージ**プロパティが**動的計算**に設定されていないすべての親メンバーが、**データ・ストレージ**プロパティ値**動的計算**に更新されます。これは、エンティティを除くすべてのディメンションに適用されます。ハイブリッド・モードでのベスト・プラクティスとして、すべての親メンバーの**データ・ストレージ**プロパティを**動的計算**に設定する必要があります。
- **データ・ストレージ**プロパティが**動的計算**で、メンバー式がないレベル0メンバーは、**データ・ストレージ**プロパティ値**保管**に更新されます。これは、エンティティを除くすべてのディメンションに適用されます。
- 特定の即時利用可能なディメンション・メンバーの**解決順**が設定されます。
- 期間ディメンションと増減ディメンションの密度は「密」に設定されます。勘定科目ディメンションの密度は「疎」に設定されます。他のディメンションの密度は「疎」のままです。ディメンションのパフォーマンス順も更新されます
- 次の Essbase 設定は、アプリケーション構成でオンになっています:
 - IGNORECONSTANTS - データベース管理の「すべてのデータ」オプションを使用して、疎ディメンションの動的に計算されたメンバーをエクスポートでき

るようにします(すべてのデータ - データの抽出オプションを参照)。つまり、定数を含むメンバー式は、オペランドとして使用される交差のいずれかが欠落していない場合にのみ値を返します。

 **Note:**

データベース管理統合への影響とメンバー式のベスト・プラクティスについては、アプリケーションをハイブリッド用に最適化した後の変換後の手順の実行を参照してください。

- ASODYNAMICAGGINBSO - 問合せにハイブリッド集約モードを使用します。つまり、ブロック・ストレージ問合せは、可能なかぎり、集約ストレージ・データベースと同様の効率で実行されます。
- 勘定科目が疎ディメンションになり、一般にブロック・サイズが小さくなり、ブロック内の疎性が低下するため、Essbase データベースのサイズが大幅に縮小される場合があります。
- アプリケーションが正常に最適化された後、ジョブ・コンソールの「期間および増減を密にする」ジョブで概要ログを確認できます。

アプリケーションをハイブリッド用に最適化した後の変換後の手順の実行

アプリケーションをハイブリッド最適化に変換した後、次のステップを実行します:

- すべてのユーザー定義メンバー式、構成可能な計算ルール(挿入位置とも呼ばれます)およびオンデマンド・ルールを確認し、これらがベスト・プラクティスに従って記述されていることを確認します。シード・メンバー式を確認する必要はありません。
- 保存されたデータ・エクスポート・ジョブを再作成して、ドライバー・ディメンションとして勘定科目のかわりに期間または増減(密ディメンション)を使用します。
- **Tax Reporting** ハイブリッド最適化(DSO)アプリケーションからのデータのエクスポートのガイドラインに従って、移行された DSO アプリケーションからデータをエクスポートする既存のデータ統合を変更します。
- 変換後、すでに連結されている期間の再連結は必要ありません。

ディメンション、メンバー、別名、フォームの命名規則

ディメンション、メンバーおよび別名を命名する場合は、次のルールに従います。

- ディメンション、メンバーまたは別名の場合は、80 文字までとします。

 **ノート:**

エンティティ・メンバーには、76 文字の長さを超える名前やカンマを使用できません。

- メンバー名、ディメンション名、別名、説明では、HTML タグは使わないでください。
- ディメンション名、メンバー名および別名で制限されていて使用できない文字のリストを次に示します:

表 5-1 ディメンション名、メンバー名および別名で制限されている文字

文字	意味
"	引用符
[]	大カッコ
\	円記号(バックスラッシュ)
/	スラッシュ

 ノート:

- 大カッコ[]は認められていますが、ブロック・ストレージ・アウトラインでは推奨されていません。これは、集約ストレージ・アウトラインに変換する場合にエラーの原因となることがあるためです。
- メンバー名および別名には、ASCII 置換文字(ゼロ幅スペース文字) 0x1A を使用しないでください。

- ディメンション名、メンバー名および別名の先頭で使用できない文字のリストを次に示します:

表 5-2 ディメンション名、メンバー名および別名の先頭で制限されている文字

文字	意味
@	アット・マーク
&	アンパサンド
\	円記号(バックスラッシュ)
[]	大カッコ
,	カンマ
-	ダッシュ、ハイフンまたはマイナス記号
=	等号
<	小なり記号
()	丸カッコ
.	ピリオド
+	プラス記号
"	引用符
/	スラッシュ
_	アンダースコア
	縦棒

 ノート:

前述の文字を含むメンバー名は、ビジネス・プロセスのデータ・エクスポート・ジョブでは許可されていません。

- 名前の最初または最後には、スペースを挿入しないでください。そのスペースは無視されます。
- メンバー名ではスラッシュ(/)は使わないでください。
- カスタム・カレンダーの期間で、接頭辞にスペースは使用できません。
- ディメンション名またはメンバー名に、次の語を使用しないでください。
 - 計算スクリプト・コマンド、演算子およびキーワード。
 - オブジェクト名の前に OEP_、OFS_、OCX_、OWP_、OPF_、FCCS_、TRCS_、ARCS_、OQP_、OGS_ を付けないでください。たとえば、TRCS_A の接頭辞は無効です。ただし、A_TRCS、BTRCS、TRCSB など、オブジェクト名には頭字語を使用できます。
 - 関数名と関数引数。
 - 他のディメンションおよびメンバーの名前(メンバーが共有されていない場合)。
 - 動的時系列が使用可能な場合、履歴、年、季、期間、四半期、月、週または日は使用しません。
- ディメンション名、メンバー名および別名で制限されていて使用できない語のリストを次に示します:

表 5-3 ディメンション名、メンバー名および別名で制限されている語

制限されている語	制限されている語	制限されている語
ALL	AND	ASSIGN
AVERAGE	CALC	CALCMBR
COPYFORWARD	CROSSDIM	CURMBRNAME
DIM	DIMNAME	DIV
DYNAMIC	EMPTYPARM	EQ
EQOP	EXCEPT	EXP
EXPEROR	FLOAT	FUNCTION
GE	GEN	GENRANGE
GROUP	GT	ID
IDERROR	INTEGER	LE
LEVELRANGE	LOCAL	LOOPBLOCK
LOPPARMS	LT	MBR
MBRNAME	MBRONLY	MINUS
MISSING	MUL	MULOP
NE	NON	NONINPUT
NOT	OR	PAREN
PARENPARM	PERCENT	PLUS

表 5-3 (続き) デイメンション名、メンバー名および別名で制限されている語

制限されている語	制限されている語	制限されている語
RELOP	SET	SKIPBOTH
SKIPMISSING	SKIPNONE	SKIPZERO
STATUS	TO	TOLOCALRATE
TOP	TRAILMISSING	TRAILSUM
TYPE	UMINUS	UPPER
VARORXMBR	XMBRONLY	\$\$UNIVERSE\$\$
#MISSING	#MI	

Essbase アウトラインの検証

Essbase アウトラインを事前検証して、アプリケーションがハイブリッド Essbase バージョンと互換性があることを確認します。

ハイブリッド・ブロック・ストレージ・オプション(BSO)キューブをサポートする Oracle Essbase バージョンにすべての環境をアップグレードするための取組みの一部として、環境をハイブリッド Essbase バージョンにアップグレードするときに円滑に移行できるように Essbase アウトラインを事前検証するプロセスが追加されました。

Note:

Essbase バージョンの詳細は、*Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者スタート・ガイド*の EPM Cloud の Essbase についてを参照してください。

アプリケーションがハイブリッド Essbase バージョンと互換性があることを確認するために、環境内のメンバー式を検証して、問題を修正できるようにレポートを提供する新しいユーティリティが実装されています。アプリケーションの概要ページで、「アクション」メニューの「Essbase アウトライン検証」メニュー・オプションにある次のオプションを使用します:

- **アウトラインの事前検証:** アプリケーションの検証を実行します
- **アウトライン事前検証レポート:** ハイブリッド Essbase バージョンと互換性を持つために修正する必要があるメンバー式のリストを表示します

 **Note:**

- 「**Essbase アウトライン検証**」メニュー・オプションが表示されるのは、環境が非ハイブリッド Essbase バージョン上にある場合のみです。環境がハイブリッド Essbase バージョン上にある場合、「**Essbase アウトライン検証**」メニュー・オプションは使用できなくなります。
- 環境がハイブリッドと非ハイブリッドのどちらの Essbase バージョン上にあるかを調べるもう1つの方法は、「**アクティビティ・レポート**」で **Essbase バージョンがハイブリッド・ブロック・ストレージ・オプションをサポート**の値を確認することです。この値が「**はい**」である場合、環境がハイブリッド Essbase バージョン上にあることを意味します。この値が「**いいえ**」である場合、環境は非ハイブリッド Essbase バージョン上にあります。

環境内の Essbase アウトラインを検証し、メンバー式で検出されたエラーを修正するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**概要**」をクリックします。
2. 「**アクション**」をクリックし、「**Essbase アウトライン検証**」を選択して、次のオプションから選択します:
 - 検証を実行するには、「**アウトラインの事前検証**」を選択します。
 - 検証中に検出されたエラーのレポートを表示およびダウンロードするには、「**アウトライン事前検証レポート**」を選択します。

メンバー式を修正したら、「**アウトラインの事前検証**」オプションを再度使用して、すべての問題が解決されていることを確認できます。

メタデータのインポート

カンマ区切り、タブ区切りまたは他の形式で、メタデータをファイルからインポートできます。

Tax Reporting はシステムで検証を行い、計算が有効であることを確認します。たとえば、当期引当および繰延引当は合計有効税率(ETR)と等しいです。

インポートでは次のアーティファクトがサポートされています。

- ディメンション
- スマート・リスト
- 為替レート

次の情報に基づいて、メタデータのインポートに使用するフォーマットを決定します。

• **CSV ファイルを使用する**

- csv ファイルは MS Excel で簡単に編集できます。
- すべてのメタデータ設定をファイル内で設定できます。
- 属性値ごとに列があります。
- ディメンションのインポート後、データベース・リフレッシュの実行を促すメッセージが表示されます。

 **ノート:**

.csv フォーマットの場合、親/子の組合せや階層の全体像を捉えることができないため、階層の保守が難しくなります。

• **ナビゲータからディメンション・エディタを使用する**

- 階層が表示されるため、メンバーを簡単に配置できます。
- メタデータを抽出またはロードする必要がありません。

 **ノート:**

ディメンションの更新後、忘れずにデータベース・リフレッシュを実行する必要があります(これを促すメッセージは表示されません)。

• **統合されたディメンション・エディタを使用する**

ホーム・ページで「アプリケーション」を選択し、「ディメンション」タブを選択して編集するディメンションを選択します。「メンバー・プロパティの編集」タブでは、すべてのディメンションを編集できるほか、属性値を含め、すべてのプロパティを保守できます。

- すべての Excel 機能を使用して、行のコピーや貼付け、挿入といった操作を実行できます。
- メタデータを抽出またはロードする必要がありません。
- ディメンション階層を表示できます。
- すべてのプロパティでドロップダウン・ボックスを使用できます。
- 属性値を保守できます。

 **ノート:**

ディメンションの更新後、忘れずにデータベース・リフレッシュを実行する必要があります(これを促すメッセージは表示されません)。

• **統合されたディメンション・エディタを使用する**

ホーム・ページで「アプリケーション」を選択し、「ディメンション」タブを選択して、編集するディメンションを選択します。「メンバー・プロパティの編集」タブでは、すべてのディメンションを編集できるほか、属性値を含め、すべてのプロパティを保守できます。

- すべての Excel 機能を使用して、行のコピーや貼付け、挿入といった操作を実行できます。
- メタデータを抽出またはロードする必要がありません。
- ディメンション階層を表示できます。
- すべてのプロパティでドロップダウン・ボックスを使用できます。

- 属性値を保守できます。

ノート:

ディメンションの更新後、忘れずにデータベース・リフレッシュを実行する必要があります(これを促すメッセージは表示されません)。

メタデータをインポートするには、次のタスクを実行します。

- インポートする各アーティファクトのインポート・ファイルを作成します。[メタデータ・インポート・ファイルの作成](#)を参照してください。
- インポート・ファイルまたはファイルをロードします。(同時に複数のディメンション・ファイルをインポートできます)。[メタデータ・インポート・ファイルのロード](#)を参照してください。

Tax Reporting でのメタデータ操作についてさらに学習します。



概要: [Tax Reporting](#) でのメタデータの処理

メタデータ・インポート・ファイルの作成

ロードを開始する前に、インポートする各アーティファクト(ディメンション、スマート・リストおよび為替レート表)のインポート・ファイルを作成する必要があります。インポート・ファイルにはヘッダー・レコードが含まれている必要があり、ヘッダー・レコードの下には、インポートまたは更新するメタデータ・レコードのリストが含まれている必要があります。ファイルの形式は、.csv (カンマ区切り)または.txt (タブ区切りまたは他の区切り文字)にできます。

ファイルは次のセクションで構成されています。

- ヘッダー・レコード、ファイルの最初の行:
 - 後続のメタデータ・レコードで使用されるディメンションおよびメンバーのプロパティをリストします。ヘッダー・レコードおよび後続のレコードは、すべてのプロパティを含める必要はありません。含まれていないプロパティは、対応する親のデフォルトのプロパティ値から継承されます
 - 大文字と小文字が区別されます
 - 後続のメタデータ・レコードが同じ順序であるかぎり、任意の順序でプロパティをリストできます
 - カンマまたはタブ区切り文字を使用できます。他の区切り文字は、その区切り文字がサポートされていて同じ区切り文字がファイル全体で使用されている場合に、使用できます。サポートされている区切り文字と例外のリストは、[他のサポートされている区切り文字](#)を参照してください。
- ヘッダー・レコードの後の、インポートするメタデータ・レコードのリスト。各メタデータ・レコードには、ヘッダー・レコードで指定された順序に一致するプロパティ値の区切りリスト(カンマ、タブまたはその他)が含まれています。メタデータ・レコードは、ヘッダー・レコードで指定されているプロパティをスキップできます。この場合、デフォルトのプロパティが指定されているものとして処理されます。

他のサポートされている区切り文字

▲ 注意:

リストされているすべての文字が、すべてのインポートおよびエクスポート・シナリオで使用できるわけではありません。後述するメタデータのセクションの例外およびデータの区切り文字の例外に注意してください。

Tax Reporting では、カンマやタブに加え、インポートおよびエクスポート・ファイルで次の区切り文字もサポートされます。

- チルダ(~)
- 重アクセント(`)
- 感嘆符(!)
- シャープ記号(#)
- 疑問符(?)
- ドル記号(\$)
- パーセント記号(%)
- キャレット(^)
- アンパサンド(&)
- アスタリスク(*)
- 丸カッコ()
- ハイフンマイナス(-)
- プラス(+)
- コロン(:)
- セミコロン(;)
- 山カッコ(< >)
- 円記号(バックスラッシュ) (\)
- スラッシュ(/)
- 垂直棒(|)
- アポストロフィ(')
- 中カッコ({ })
- アンダースコア(_)
- 大カッコ([])
- アット・マーク(@)
- ピリオド(.)

区切り文字用にサポートされるのは1文字のみです。たとえば、1つの縦棒(|)はサポートされていますが、2つの縦棒(||)はサポートされていません。

インポートおよびエクスポート・メタデータの区切り文字の例外

メタデータのインポートおよびエクスポート・ファイルで次の区切り文字は使用しないでください。

表 5-4 インポートおよびエクスポート・メタデータの区切り文字の例外

区切り文字	例外の理由
二重引用符(" ")	空のファイルが作成されます
プラス(+)	メタデータ・インポート・ファイルにこれらの文字を使用する集計プロパティが含まれている場合、エラーが発生します
マイナス(-)	
スラッシュ(/)	
パーセント記号(%)	
山カッコ(<>)	プロパティで値<none>を使用している場合、エラーが発生します

ノート:

メンバー名の文字と競合する文字を使用すると、エラーが発生します。

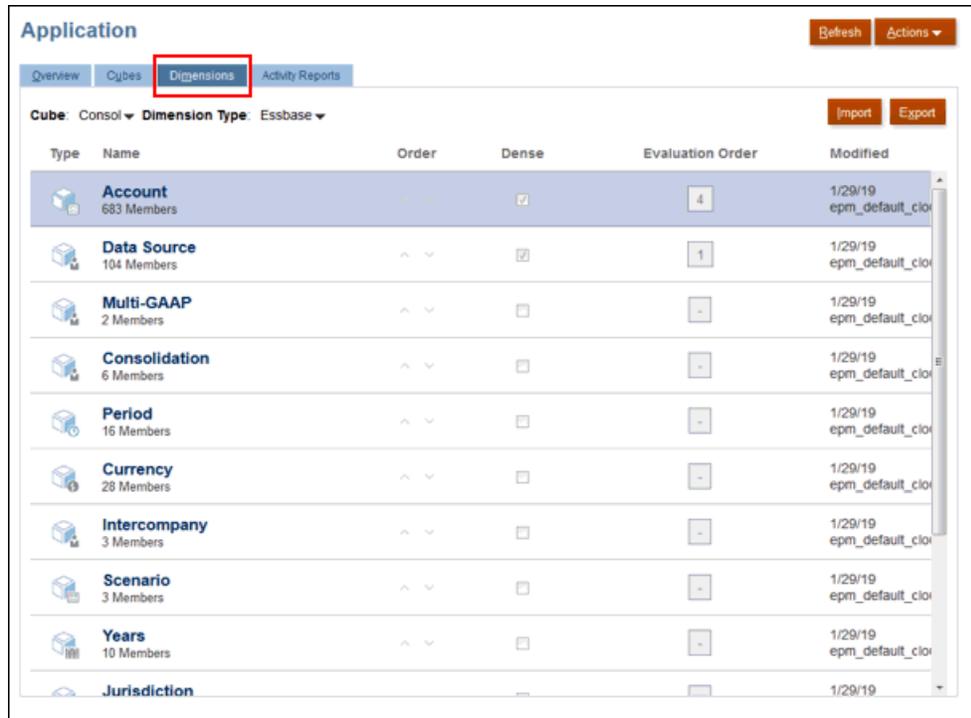
表 5-5 インポートおよびエクスポート・データの区切り文字の例外

区切り文字	例外の理由
丸カッコ()	データ・インポート・ファイルで使用すると、エラーが発生します
二重引用符(" ")	空のファイルが作成されます
ハイフンマイナス(-)	データ・インポート・ファイルで使用すると、エラーが発生します

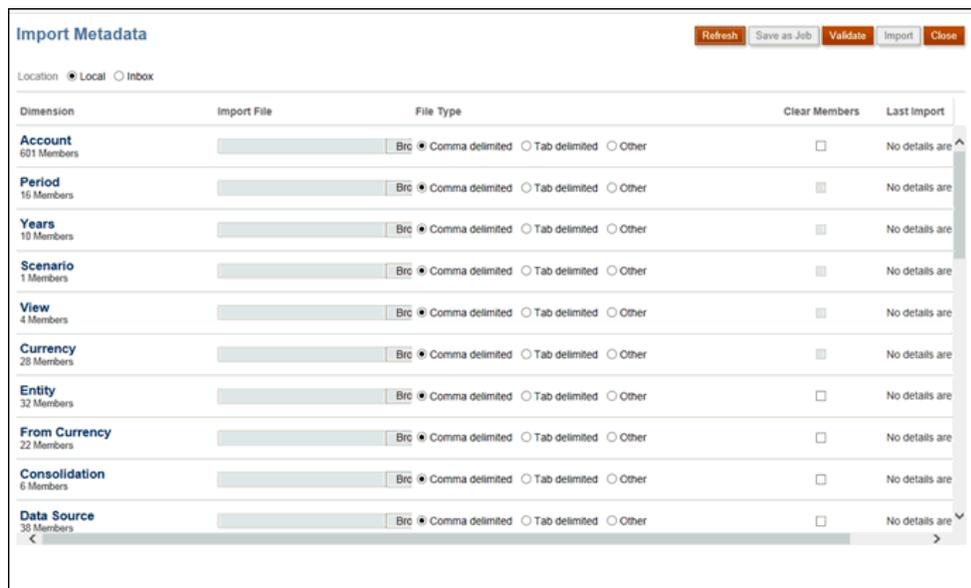
メタデータ・インポート・ファイルのロード

メタデータ・インポート・ファイルをロードするには:

1. インポートする各アーティファクト(ディメンション、スマート・リストおよび為替レート表)のインポート・ファイルを作成します。[メタデータ・インポート・ファイルの作成](#)を参照してください。
2. ホーム・ページで、「アプリケーション」をクリックします。
3. 「概要」をクリックして「ディメンション」タブをクリックし、「インポート」をクリックします。



4. 「メタデータのインポート」 ページで、「作成」 をクリックします。



5. インポート・ファイルの場所を選択します。
- **ローカル** - 自分のコンピュータの場所からインポート・ファイルをロードします。「ファイルのインポート」で、「参照」をクリックして、インポートするアーティファクトのインポート・ファイルを自分のコンピュータ上で選択します。
 - **受信ボックス** - サーバーからインポート・ファイルをロードします。「ファイルのインポート」内にファイルの名前を入力します。

6. 「**ファイル・タイプ**」で、次のオプションを選択します。
 - カンマ区切り
 - タブ区切り
 - その他。インポート・ファイルで使用する区切り文字を入力します。サポートされている区切り文字と例外のリストは、[他のサポートされている区切り文字](#)を参照してください。
7. インポートを実行する前に、「**メンバーのクリア**」を選択し、ロード・ファイルで明示的に指定されていないメンバーを削除します。
次のガイドラインに注意してください。
 - ディメンションをインポートした後、指定されていないメンバーはアウトラインから削除されますが、これが、指定されたメンバーの祖先である場合または指定された共有メンバーの基本メンバーである場合は削除されません。
 - 「**メンバーのクリア**」が選択されていない場合、インポート・プロセスでは既存のメンバーの追加または更新のみが実行されます。ファイルを正常にロードするには、「**メンバーのクリア**」を選択せずにメタデータ・ファイルをロードすることをお勧めします。次に、「**メンバーのクリア**」を選択して、インポート・プロセスを再度実行します。
8. **オプション:** 選択した場所が「**受信ボックス**」の場合、「**ジョブとして保存**」をクリックしてインポート操作をジョブとして保存します。ジョブは、即座に実行するようスケジュールすることも、後で実行するようスケジュールすることもできます。
インポート操作をジョブとして保存すると、ロード・シーケンスをバッチ処理する場合に便利です。たとえば、メタデータをインポートし、次にデータをインポートして、データのロードが完了したらルールを実行します。
9. **オプション:** 選択した場所が「**ローカル**」の場合、「**検証**」をクリックして、インポート・ファイルの形式が正しいかどうかをテストします。
10. 「**インポート**」をクリックして、インポート操作を実行します。
インポート・プロセスに成功すると、「データベースのリフレッシュ」ダイアログ・ボックスによって、データベースをリフレッシュするよう要求されます。リフレッシュするには、「**OK**」をクリックします。

ジョブ・コンソールでインポート・ステータスを表示できます。[保留中のジョブおよび最近のアクティビティの表示](#)を参照してください

環境のクローニングの一部としてメタデータ・ロードを実行したり、移行または EPM 自動化を使用してスナップショットをインポートするとき、EPM Cloud では複数パス・ソリューションを使用します。このソリューションでは、以前のメタデータのロードでレコードが却下された場合、同じメタデータ入力ファイルの別のロードが自動的に開始されます。

メタデータのエクスポート

.csv (カンマ区切り)または.txt (タブ区切りまたは他の区切り文字)形式でメタデータをファイルにエクスポートできます。エクスポート・プロセスでは次のアーティファクトがサポートされています。

- ディメンション
- スマート・リスト
- 為替レート

システムでは、アーティファクトごとにエクスポート・ファイル(ファイル・タイプに応じて.csvまたは.txt)が作成され、すべてのエクスポート・ファイルが1つのzipファイルに統合されます。ファイルをインポート・ファイルとして使用する場合(たとえば、別のアプリケーションにインポートする場合は)、zipファイルから.csvまたは.txtファイルを抽出する必要があります。

ファイルにメタデータをエクスポートするには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「概要」をクリックします。
2. 「アプリケーション」画面で、「ディメンション」タブをクリックし、「エクスポート」をクリックします。

The screenshot shows the 'Application' page with the 'Dimensions' tab selected. The table below lists the dimensions:

Type	Name	Order	Dense	Evaluation Order	Modified
Account	683 Members		<input checked="" type="checkbox"/>	4	1/29/19 epm_default_clo
Data Source	104 Members		<input checked="" type="checkbox"/>	1	1/29/19 epm_default_clo
Multi-GAAP	2 Members		<input type="checkbox"/>	-	1/29/19 epm_default_clo
Consolidation	6 Members		<input type="checkbox"/>	-	1/29/19 epm_default_clo
Period	16 Members		<input type="checkbox"/>	-	1/29/19 epm_default_clo
Currency	28 Members		<input type="checkbox"/>	-	1/29/19 epm_default_clo
Intercompany	3 Members		<input type="checkbox"/>	-	1/29/19 epm_default_clo
Scenario	3 Members		<input type="checkbox"/>	-	1/29/19 epm_default_clo
Years	10 Members		<input type="checkbox"/>	-	1/29/19 epm_default_clo
Jurisdiction			<input type="checkbox"/>	-	1/29/19

3. 「メタデータのエクスポート」ページで「作成」をクリックし、次の「メタデータのエクスポート」画面を表示します。

Dimension	File Type	Last Export
<input type="checkbox"/> Account 371 Members	<input checked="" type="radio"/> Comma delimited <input type="radio"/> Tab delimited <input type="radio"/> Other	No details are available.
<input type="checkbox"/> Period 16 Members	<input checked="" type="radio"/> Comma delimited <input type="radio"/> Tab delimited <input type="radio"/> Other	No details are available.
<input type="checkbox"/> Years 10 Members	<input checked="" type="radio"/> Comma delimited <input type="radio"/> Tab delimited <input type="radio"/> Other	No details are available.
<input type="checkbox"/> Scenario 1 Members	<input checked="" type="radio"/> Comma delimited <input type="radio"/> Tab delimited <input type="radio"/> Other	No details are available.
<input type="checkbox"/> View 4 Members	<input checked="" type="radio"/> Comma delimited <input type="radio"/> Tab delimited <input type="radio"/> Other	No details are available.
<input type="checkbox"/> Currency 51 Members	<input checked="" type="radio"/> Comma delimited <input type="radio"/> Tab delimited <input type="radio"/> Other	No details are available.
<input type="checkbox"/> Entity 22 Members	<input checked="" type="radio"/> Comma delimited <input type="radio"/> Tab delimited <input type="radio"/> Other	No details are available.
<input type="checkbox"/> From Currency 24 Members	<input checked="" type="radio"/> Comma delimited <input type="radio"/> Tab delimited <input type="radio"/> Other	No details are available.
<input type="checkbox"/> Consolidation 6 Members	<input checked="" type="radio"/> Comma delimited <input type="radio"/> Tab delimited <input type="radio"/> Other	No details are available.
<input type="checkbox"/> Data Source	<input checked="" type="radio"/> Comma delimited <input type="radio"/> Tab delimited <input type="radio"/> Other	No details are available.

4. 「場所」で、エクスポート・ファイルのターゲットの場所を選択します。
 - **ローカル** - エクスポート・ファイルをローカル・コンピュータ上の場所に保存します。
 - **送信ボックス** - エクスポート・ファイルをサーバーに保存します。
5. エクスポートするディメンションを選択します。
6. 「ファイル・タイプ」で、次のオプションを選択します。
 - **カンマ区切り** - 各アーティファクトのカンマ区切りの.csv ファイルを作成します。
 - **タブ区切り** - 各アーティファクトのタブ区切りの.txt ファイルを作成します。
 - **その他** - 各アーティファクトの.txt ファイルを作成します。エクスポート・ファイルで使用する区切り文字を入力します。サポートされている区切り文字と例外のリストは、[他のサポートされている区切り文字](#)を参照してください。
7. データをエクスポートするアクションを選択します。
 - 選択した場所が「**送信ボックス**」の場合、「**ジョブとして保存**」をクリックしてエクスポート操作をジョブとして保存します。ジョブは、即座に実行するようスケジュールすることも、後で実行するようスケジュールすることもできます。
 - 選択した場所が「**ローカル**」の場合、「**エクスポート**」をクリックしてデータ・エクスポート・ファイルを保存する場所を指定します。
8. 選択したディメンションが格納された zip ファイルを保存します。
9. **オプション:** .csv ファイルを開いて、必要な変更を加えます。適切な親の勘定科目メンバーを探し、メンバーが適切な位置に配置されている(例: FCCS_Income Statement の子になっている)ことを確認します。

10. 変更を保存します。
11. 修正した.csv ファイルを Tax Reporting にインポートします。

メタデータ検証メッセージ

メタデータ検証チェックは、データ整合性問題、パフォーマンス問題またはその他の問題が発生する可能性のある状況に対して警告するために、メタデータ内の特定の関係を対象に適用されます。データ整合性の問題のリスクを最小限に抑え、ベスト・プラクティスのパフォーマンスに関する考慮事項を活用するために、検証エラーの推奨事項を適用することをお勧めします。

プライマリ・メンバーは共有メンバーの前に存在している必要がある

プライマリ・メンバーは、次のディメンションで共有メンバーの前に(階層内で共有メンバーより上に)存在している必要があります。

- シナリオ
- 期間
- 勘定科目
- 会社間
- 増減
- データ・ソース
- 複数 GAAP (存在する場合)
- ユーザー作成済カスタム・ディメンション

検証メッセージの例:

共有メンバーは、プライマリ・メンバーより前に存在してはなりません。

解決方法:

共有メンバーを、プライマリ・メンバーより下の位置に移動します。

ディメンション内のメンバーの別名は同じにしない

ディメンション内のメンバーには同じ別名を指定しないでください。リストされているメンバーの別名を更新してください。

別名はディメンション全体のメンバーで同じにしない

ディメンション全体のメンバーには同じ別名を指定しないでください。リストされている各ディメンションのメンバーの別名を更新してください。

関連項目: [アプリケーションに関する推奨事項の表示](#)

データ統合

データ統合は、Tax Reporting での統合プロセスの実行の基礎となるメカニズムです。ファイルベース統合と直接統合のソースの定義、ソース・データを必要なターゲット・フォーマットに変換するためのマッピング・ルールの作成、および定期的なデータ・ロード・プロセスの実行と管理が可能になります。一般的な統合タスクは、作業方法

をサポートし、それに準拠する、ナビゲートしやすいインターフェースを使用して行います。

データ統合にアクセスするには、**Tax Reporting** のホーム・ページの「アプリケーション」から直接、またはナビゲータで、「アプリケーション」の下にある「データ交換」を選択します。「データ統合」ページから統合を作成できます。また、既存の統合を実行して、ソースからデータを抽出し、フィルタ条件に基づいてターゲットにロードできます。

Oracle Enterprise Performance Management Cloud データ統合の管理の Tax Reporting を使用のお客様に関する項を参照してください。

データ統合にアクセスするには、サービス管理者であることが必要です。

データ統合にアクセスするには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」を選択し、次に「**データ交換**」を選択します。「**データ統合**」ページが表示されます。
2. 統合を検索するには、「**検索**」をクリックした後、名前、場所、ソースまたはターゲットで検索します。
3. 統合のリストをソートするには、条件を指定します。ソート結果は、昇順(A から Z)または降順(Z から A)で表示できます。
4. 統合を作成するには、 「**統合の作成**」をクリックし、統合の作成ウィザードを使用して統合の詳細を指定します。
5. 統合を編集するには、リストから統合をダブルクリックし、必要に応じて統合詳細を編集します。
6. 統合を実行するには、リストから統合を選択し、「**実行**」 をクリックします。

データ統合のベスト・プラクティス

関連トピック:

- [Tax Reporting ハイブリッド最適化\(DSO\)アプリケーションからのデータのエキスポート](#)
- [税レポート・アプリケーションへのインポートのための Financial Consolidation and Close アプリケーションからの年次累計\(YTD\)データのエキスポート](#)

関連項目: [Oracle Enterprise Performance Management Cloud データ統合の管理のデータ統合](#)

Tax Reporting ハイブリッド最適化(DSO)アプリケーションからのデータのエキスポート

DSO アプリケーションでは、期間ディメンションと変動ディメンションの密度は「**密**」に設定され、勘定科目ディメンションの密度は「**疎**」に設定されます。他のディメンションの密度は「**疎**」です。これは、**Tax Reporting DSO** アプリケーションからデータをファイルにエキスポートする場合に影響します。データのエキスポート時に、期間ディメンションを**スライス定義**の列として選択する必要があります。

Tax Reporting アプリケーションをハイブリッド・モード(DSO)に移行し、**Tax Reporting** アプリケーションからファイルにエキスポートした既存のデータ統合がある場合、次の推奨事項を確認し、既存のデータ統合をそれに従って変更する必要があります。

- エクスポート・ファイル定義に期間を含めます(データ・エクスポート・ファイル・アプリケーションの登録を参照)。期間を表す列の「**ディメンションの分類**」をターゲット・アプリケーション定義で「**期間**」に設定し、**データ表列名**は必ず空白のままにします(アプリケーションのディメンションの詳細の定義を参照)。これにより、エクスポート・ファイルの生成時に、システムが期間ディメンションを適切に処理できるようになります。勘定科目とエンティティにマッピングする列の「**ディメンションの分類**」も、それぞれ勘定科目とエンティティとして定義されていることを確認してください。金額はデフォルトで最後の列として追加されるため、エクスポート・ファイル定義に金額を含める必要はありません。たとえば、列ヘッダー ACCOUNT、BUSINESS_UNIT、ACCOUNTING_PERIOD、および Amount を持つファイルのエクスポート・ファイル定義を参照してください。ACCOUNTING_PERIOD の「**データ表列名**」が空白であり、ACCOUNTING_PERIOD の「**ディメンションの分類**」が「**期間**」に設定されていることを確認します。

Application Details: Data Export File

Dimension Name	Dimension Classification	Data Table Column Name	Mapping Sequence
ACCOUNT	Account	ACCOUNT	
ACCOUNTING_PERIOD	Period		
BUSINESS_UNIT	Entity	ENTITY	

- 特定の日付形式をエクスポートするには、「**データ交換**」の**期間マッピング**の下にあるターゲット・データ・ファイル・アプリケーションの**アプリケーション・マッピング**を構成する必要があります。次の例は、P12-FY21 を 12 月 21 日にマッピングしてファイルに出力する方法を示しています。

Period Mapping

Period Key	Prior Period Key	Period Name	Target Year	Target Period - Month	Target Period - Quarter	Target Period - Year
12/31/2021	11/30/2021	P12-FY21	2021	Dec 21		

- 期間が**データ統合**のディメンション、**ディメンションのマッピング**として表示されている場合は、削除します。

Edit Integration: Data Export

Account	Amount	Entity
ACCOUNT	Amount	BUSINESS_UNIT

- 直接データ統合オプション**で「**データの抽出オプション**」を指定します。DSO アプリケーションでは、非ハイブリッド・アプリケーションよりも動的に計算される「**疎**」ディメンション・メンバーが多くなる可能性があります。これは、すべての親メンバーが DSO で「**動的計算**」として構成されているためです。勘定科目ディメンションは DSO アプリケーションでは「**疎**」であり、多くの「**動的計算**」親勘定科目のメンバーの可能性を生み出すことに注意することが重要です。DSO アプリケーションからデータをエクスポートする場合、「**疎**」ディメンションの「**動的計算**」メンバーを「**すべてのデータ**」を「**データの抽出オプション**」として選択してエクスポートできます。Oracle Enterprise Performance Management Cloud デ

データ統合の管理の[直接統合オプションの定義](#)を参照してください。「すべてのデータ」では、任意のディメンションの保存されたメンバーと「動的計算」メンバーの両方をエクスポートできます。

Edit Integration: Data Exp

General Map Dimensions Map Members Options

Filters Options

General Option

Category: Actual-GAAP

Source Cube: Consol

Period Mapping Type: Default

Calendar:

Data Extract Option: All Data

「すべてのデータ」オプションは、ディメンション・フィルタによって制限されていない場合、巨大なデータ・セットを生成し、長い時間がかかる可能性があります。[Oracle Enterprise Performance Management Cloud データ統合の管理のフィルタの定義](#)を参照してください。たとえば、期間と年以外のすべてのディメンションには、エクスポートが必要な交差のみに制限されるように、以下で指定されたフィルタがあります。

Edit Integration: Data Exp Save Cancel

General Map Dimensions Map Members Options

Dimension Name	Filter Condition	
Account	@ILV0Descendants("TRCS_TARFCurrent").@ILV0Descendants("TRCS_TARFDeferred")	EX
Consolidation	"FCCS_Entity Total"	EX
Currency	"Entity Currency"	EX
Data Source	"TRCS_TARP"	EX
Entity	@ILV0Descendants("FCCS_Total Geography")	EX
Intercompany	"FCCS_No Intercompany"	EX
Jurisdiction	"US"	EX
Movement	"TRCS_TARFClosingbalance"	EX
Multi-GAAP	"FCCS_Local GAAP"	EX
Scenario	"Actual"	EX
View	"FCCS_Periodic"	EX

たとえば、勘定科目ディメンションでフィルタを指定しない場合、システムは、親を含む勘定科目ディメンションのすべてのメンバーのデータを取得しようとします。

 **Note:**

疎ディメンションの動的計算されたメンバーをエクスポートする必要がない場合、[保管されたデータのみ](#)オプションまたは[保管された動的算出データ\(密のみ\)](#)オプションを使用してください。

Tax Reporting アプリケーションにインポートするための Financial Consolidation and Close アプリケーションからの年次 累計(YTD)データのエクスポート

Tax Reporting にインポートされるデータは YTD である必要があります。Financial Consolidation and Close アプリケーションから Tax Reporting にデータをインポートする場合は、Financial Consolidation and Close の YTD データをエクスポートする必要があります。これを行う方法は、エクスポート元の Financial Consolidation and Close アプリケーションのタイプによって異なります:

- **拡張ディメンション DSO アプリケーション** - 「[データ統合](#)」、「[オプション](#)」、ビュー・ディメンションの[フィルタ](#)フィルタで YTD メンバーを指定します。「[疎](#)」ビュー・ディメンションの動的に計算された YTD メンバーをエクスポートするには、[すべてのデータ](#) オプションを指定する必要があります。
- **拡張ディメンション非 DSO アプリケーション** - YTD データは、YTD メンバーに格納されるか、YTD_Rule メンバーで動的に計算されます。
 - 保管済 YTD - Financial Consolidation and Close アプリケーション管理者に、エクスポートする必要があるデータが、保管された YTD メンバーで利用可能であることを確認します。[累計ビューの保管の管理](#)オプションが有効かどうかと、アプリケーションの管理方法に応じて、保管済 YTD メンバーにデータが存在する場合と存在しない場合があります。エクスポートする YTD メンバー交差にデータが存在することを確認した場合は、「[データ統合](#)」、「[オプション](#)」、ビュー・ディメンションの「[フィルタ](#)」フィルタで YTD メンバーを指定できます。保管済 YTD メンバーをエクスポートするために、[すべてのデータ](#) オプションを指定する必要はありません。
 - 動的に計算された YTD_Rule - 「[データ統合](#)」、「[オプション](#)」、ビュー・ディメンションの「[フィルタ](#)」フィルタで YTD_Rule メンバーを指定します。「[疎](#)」ビュー・ディメンションの動的に計算された YTD_Rule メンバーをエクスポートするには、[すべてのデータ](#) オプションを指定する必要があります。
- **レガシー(非ハイブリッド) Financial Consolidation and Close アプリケーション** - YTD データを直接エクスポートすることはできません。メンバー・マッピングを使用して、定期的なデータをエクスポートし、前の期間を集計して YTD データを生成できます。残高勘定科目を集約するのではなく、勘定タイプに注意する必要があります。

データのコピー

ソース POV から宛先 POV へデータをコピーできます。これにより、データのバルク・コピーを実行できます。これにより、ユーザーは、勘定科目、複数 GAAP、増減、

会社間、管轄、データ・ソース別などでメンバーをフィルタし、詳細なレベルでデータをコピーできます。複数のシナリオ、年および期間から、データをコピーできます。

データをコピーするには、そのデータへの書込みアクセス権があるサービス管理者である必要があります。ソースおよび宛先の **POV** ルールは次のとおりです。

- エンティティ・ディメンションでは、Region 1、Region 2 など、複数のメンバー選択が可能です。エンティティに加えて、データ・ソース、勘定科目、増減、会社間、複数 **GAAP**、直轄などのその他のディメンションでも、「ソース」で複数選択が可能です。
- エンティティ・ディメンションの場合、ユーザーが「ソース **POV**」で複数選択を行うと、ソースからの同じ値が「宛先」にコピーされます。宛先メンバーは、ソースで選択されたメンバーと同じです。

構成の除外が選択されている場合、「シナリオ」、「年」および「期間」とは別のその他すべてのディメンションでは、ターゲットがロック済となり、選択がソースと同じになります。

- ロックされた宛先エンティティにはデータをコピーできません。ソース・エンティティでロックしておくことはできますが、宛先がロックされている場合、コピー操作は成功しません。
- 税率、外国為替(FX)レート、オーバーライド・レートなどのすべてのレート関連データも、**Consol** キューブと **CbCR** キューブの両方の宛先にコピーされます。
- 構成キューブ内にあるすべての自動関連データもコピーされます。

ドリルスルー情報は宛先にコピーされません。ドリルスルー情報は、現在、補足データ・マネージャの転記済データと、データ管理のロード済データで使用できます。これはコピー操作であるため、ソースで使用可能なドリルスルー情報は宛先にコピーされません。

ノート:

データのコピーでのセキュリティ・レイヤーの概要は、[セキュリティの管理](#)を参照してください。

データのコピーでの代替変数

メンバー・セレクトで代替変数を入力できます。[代替変数の作成](#)も参照してください。

Variabiles

User Variables | Substitution Variables

Search

Cube	Name	Value
Consol	PMPeriod2	P2
Consol	PMPeriod3	P3
Consol	PMPeriod4	P4
Consol	PMPeriod5	P5
Consol	PMPeriod6	P6
Consol	PMPeriod7	P7
Consol	PMPeriod8	P8
Consol	PMPeriod9	P9
Consol	testEnt3	TestEntity3
Consol	▼ prevYear	FY20
Consol	▼ currYear	FY21

たとえば、現在の年 FY21 の代替変数を &currYear として作成し、前年 FY20 の代替変数を &prevYear として作成できます。次に、これらの値をデータのコピーの「ソース年」および「ターゲット年」にそれぞれ入力できます。このデータ・コピー・タスクを実行することも、このタスクをジョブとして保存することもできます(データのコピー・ジョブの保存を参照)。これにより、翌年に必要となるのは、FY21 を prevYear にして FY22 を currYear にするなど、単に代替変数値を更新することのみです。

ノート:

- 代替変数は、&で始まる必要があります。
- 代替変数値が有効なメンバーとなるよう評価する必要があります。
- 代替変数値にカンマ区切り値を含めることは一切できません。
- 代替変数値に関数を含めることは一切できません。
- 代替変数値に関数にすることはできません。たとえば、代替変数 allChildrenOfTotGeo を作成し、その値を ILvl10Descendants("FCCS_Total Geography") とすると、データのコピーは失敗し、エラー・メッセージを受け取ります。

コピーできるのは、次のタイプのデータです。

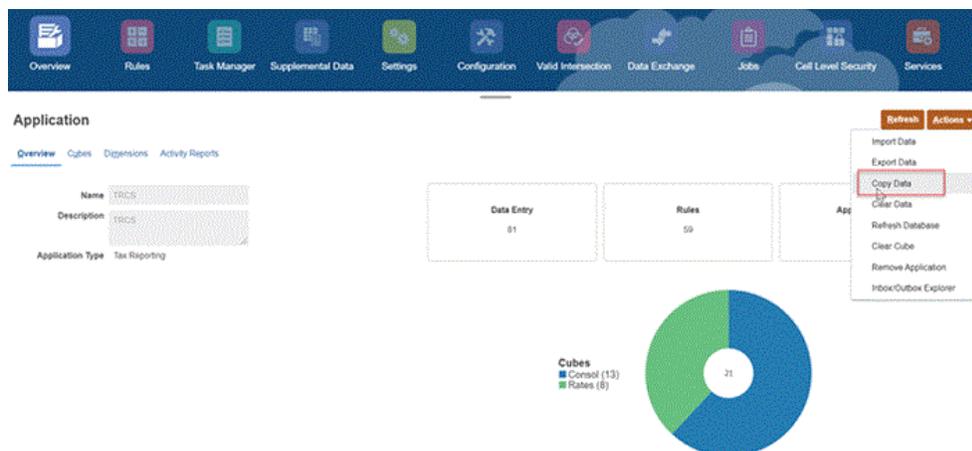
- 税引当 - Consol キューブ・データ
- CbCR - CbCR キューブ・データ

税引当および CbCR の場合、データをマージするか置換するかを指定できます。

コピー・プロセス後、すべての宛先エンティティの計算ステータスは「影響」に変わります。連結を実行して値を更新する必要があります。

データをコピーするには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」、「概要」の順にクリックします。
2. 「アクション」、「データのコピー」の順にクリックします。



3. 「データのコピー・ジョブ」画面で「作成」をクリックします。

Copy Data Jobs

4. 「データのコピー」画面が開きます。
5. コピーするモジュールを選択します。
 - **税引当**
 - **CbCR** - CbCR 機能が有効でない場合、このオプションは表示されません。
 - **構成データの除外** - 「構成データの除外」が選択されていない場合は、「シナリオ」、「年」、「期間」、「データ・ソース」を選択できます。構成の除外が選択されている場合は、「シナリオ」、「年」、「期間」、「データ・ソース」とは別に、「勘定科目」、「増減」、「会社間」、「複数 GAAP」、「管轄」など、その他のディメンションを選択できます。
6. 「税引当」および「CbCR」で、「オプションのコピー」から、実行するコピーのタイプを選択します。
 - **置換** - 宛先データのセルはすべて、ソース・データのセル値によって置換されます。
 - **マージ** - ソース・データのセル値が宛先データのセル値にマージされます。ソース選択の一部ではない既存の宛先データ・セルは変更されません。
7. 「構成データの除外」では、構成データのコピーを含めるか除外するかに応じて、チェック・ボックスを選択または選択解除できます。

構成データの除外

「構成データの除外」チェック・ボックスを選択すると、データのコピー機能を実行するとき、次の構成に関連するデータが除外されます:

- 税金自動化ルール
- 中間引当損失エンティティ
- TAR 自動化ルール
- CbCR ファイリング

- CbCR 自動化
- 税率
- 課税損失/税額控除の期限切れの年
- FX レート
- 現在の未払税自動化

 **ノート:**

「構成データの除外」を選択すると、「勘定科目」、「増減」、「データ・ソース」、「会社間」、「管轄」、「エンティティ」などのすべてのディメンションでフィルタできます。これらのディメンション・メンバーにはターゲットを選択できないことに注意してください。「ソース」に入力する値は、「ターゲット」にも反映されます。

 **注意:**

自動化されたデータおよび計算されたデータも宛先にコピーされ、ユーザーが連結を実行すると、これらのデータはクリアされます。これらのデータをコピーしない場合は、増減ディメンションに対してフィルタを適用できます。

構成データを含める

「構成データの除外」の選択が解除されている場合、データのコピーに構成データも含まれます。

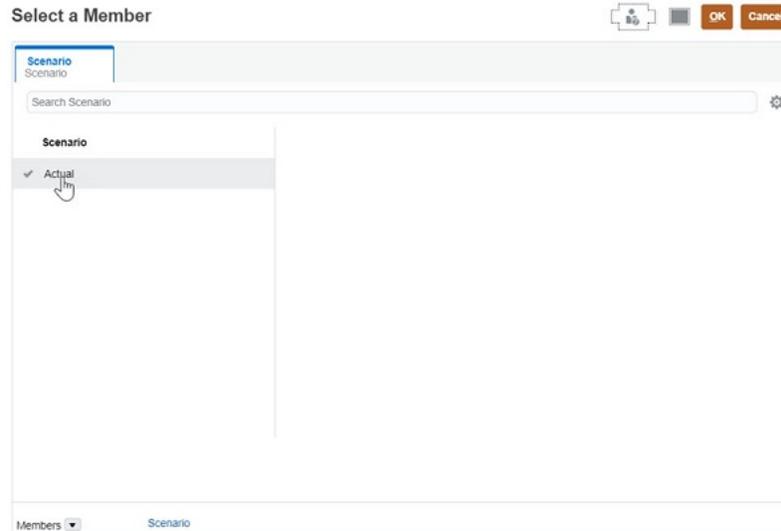
 **ノート:**

データのコピー機能では、出資比率データはコピーされません。

8. 「ソース」および「ターゲット」で、



をクリックして「メンバーの選択」ダイアログを開き、「メンバーの選択」ダイアログから、「シナリオ」、「年」、「期間」を1つずつ、および1つ以上の「データ・ソース」を選択し、「OK」をクリックします。



ソースおよびターゲットのシナリオ、年、期間およびエンティティのメンバーを選択するには、メンバー・セレクタを使用します(手動で入力することもできます)。複数選択も可能ですが、「シナリオ」、「年」および「期間」の「ターゲット」に限定されます。

エンティティおよびその他のディメンション(データ・ソース、勘定科目、増減、会社間、複数 GAAP、直轄など)はフィルタとして機能し、「構成データの除外」チェック・ボックスが選択されている場合にのみ使用できます。

9. メンバー・セレクタを使用してデータ・ソース・メンバーを選択するか、有効なデータ・ソース・メンバーの場合には入力します。

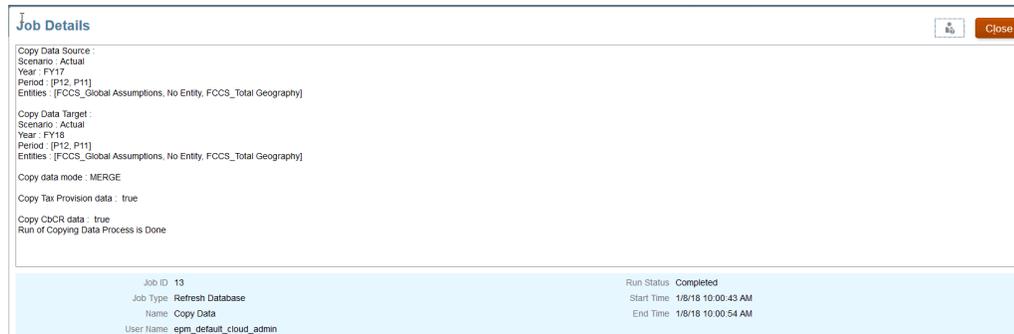
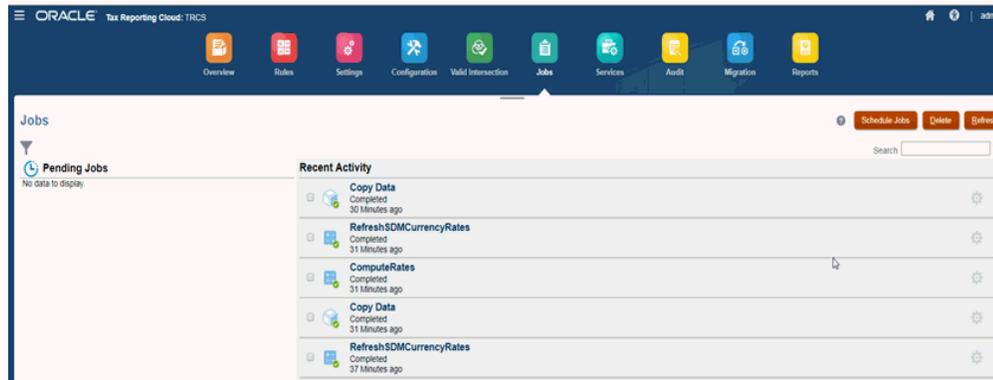
ノート:

データソースとして FCCS_Supplemental Data が選択され、データ・セルに SDM フォームから転記された値がある場合、SDM フォームの転記の戻しまたは再オープンが行われます。フォームの転記の戻しまたは再オープンが行われると、Tax Reporting に保管されているデータおよびドリル・リンクがクリアされ、フォーム・ステータスはワークフローの最初のステージに戻り、策定者に割り当てられます。要約すると、SDM 詳細の転記の戻しまたは再オープンが行われると、データ・セルの値は自動的にクリアされますが、ユーザーがフォーム・テンプレートを再デプロイする場合を除き、サポートしている SDM 詳細データを削除しないでください。

データソースとして FCCS_Managed Data が選択されている場合や、「データ管理」リンクが含まれるものが選択されている場合、データ・セルおよびドリル・リンクの値は常にクリアされます。

10. 「ターゲット」で、データをコピーするシナリオ、年、期間を1つずつ、および1つ以上のエンティティ・ディメンションを選択します。エンティティはフィルタとして機能しますが、「構成データの除外」チェック・ボックスを選択していない場合には選択できません。
11. 「実行」をクリックしてデータ・コピー・タスクを発行し、プロンプトが表示されたら「はい」をクリックして続行します。「税引当」または「CbCR」の選択に関係なく、レート・データはデフォルトでコピーされます。

データ・コピー・タスクが発行されたというメッセージが表示されます。タスク・ステータスはジョブ・コンソールでモニターできます。「アプリケーション」ページで「ジョブ」をクリックしてジョブを選択すると、詳細が表示されます。



関連トピック:

- データのコピー・ジョブの使用
- データのコピー・ジョブの保存
- データのコピー・ジョブのスケジュール
- データのコピー・ジョブの監査
- 例: 構成の除外、代替変数、ジョブのスケジュール

データのコピー・ジョブの使用

データのコピー・プロセスのメンバーを選択した後に、そのメンバーをデータのコピー・ジョブとして保存できます。これにより、コピー・プロセスの情報を後で取得でき、メンバーを再度選択する必要はありません。

「データのコピー」を選択すると、保存したコピー・ジョブのリストが表示されます。ジョブを選択してデータのコピー・プロセスを実行したり、ジョブを編集して保存したり、変更済のジョブとして保存できます。既存のジョブを複製したり、不要になったジョブを削除できます。

データのコピー・ジョブの作成

データのコピー・ジョブを作成するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックします。
2. 「**概要**」をクリックし、「**アクション**」から「**データのコピー**」を選択します。
3. コピーするアイテムを選択します。
4. 「**保存**」をクリックします。
5. 「**コピー・ジョブの保存**」で、ジョブの**名前**と**説明**を入力して「**保存**」をクリックします。名前は、30文字までの一意の名前である必要があります。説明は128文字まで入力できます。
6. 保存確認のメッセージで、「**OK**」をクリックします。

「データのコピー・ジョブ」リストにジョブが表示されます。

関連項目: [データのコピー](#)

データのコピー・ジョブの編集

データのコピー・ジョブを編集するには:

1. 「データのコピー・ジョブ」リストから、ジョブを選択して開きます。
2. 必要に応じて選択内容を編集します。
3. 「**保存**」をクリックします。ジョブを同じ名前で保存するか、必要に応じて名前を変更できます。
4. 「**名前を付けて保存**」をクリックして、変更したジョブを新規ジョブとして保存し、名前と説明を入力します。

データのコピー・ジョブの複製

1. 「データのコピー・ジョブ」リストから、ジョブを選択します。
2. 「**アクション**」メニューから、「**複製**」を選択します。

複製したジョブは、接尾辞「_Copy」が付いて「データのコピー・ジョブ」リストに表示されます。

たとえば、Test_Copy_Job を複製すると、複製ジョブは Test_Copy_Job_Copy という名前になります。

データのコピー・ジョブの削除

データのコピー・ジョブを削除するには:

1. 「データのコピー・ジョブ」リストから、ジョブを選択します。
2. 「**アクション**」メニューから、「**削除**」を選択します。
3. 選択したジョブの削除を確認するプロンプトから、「**確認**」をクリックします。
4. ジョブの削除確認で、「**OK**」をクリックします。

関連項目: *Oracle Enterprise Performance Management Cloud の REST API の Tax Reporting の「データのコピー」*

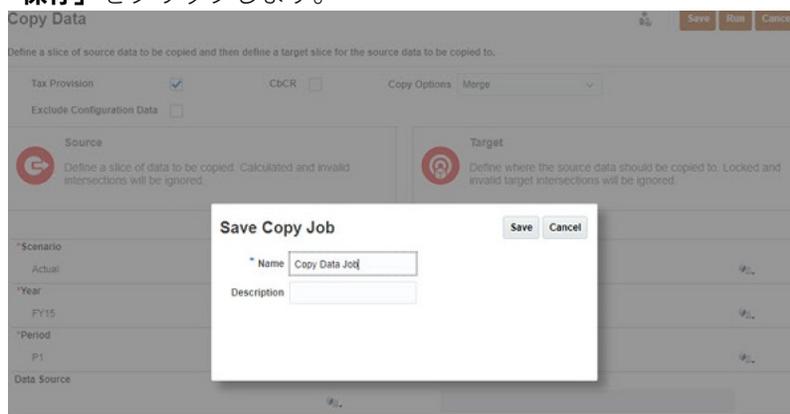
データのコピー・ジョブの保存

「データのコピー」機能では、「データのコピー」の選択内容をジョブとして保存できます。データのコピー・ジョブに対して次の操作を実行できます：

- 複製および変更
- 削除
- スケジュール

データのコピー・ジョブを保存するには：

1. 「**データのコピー**」ウィンドウを開きます。[データのコピー](#)を参照してください。
2. 「シナリオ」、「年」および「期間」に次の(例の)値を入力します。
 - **シナリオ**: ソース –実績、ターゲット –実績
 - **年**: ソース –FY15、ターゲット –FY15
 - **期間**: ソース –P1、ターゲット –P2
3. 「**保存**」をクリックします。
4. 「コピー・ジョブの保存」ウィンドウが表示されます。**名前**および**説明**を入力し、「**保存**」をクリックします。



5. ジョブは正常に保存されました。
6. 「**名前を付けて保存**」をクリックして、作成したジョブのコピーを作成することもできます。
7. 「コピー・ジョブとして保存」ウィンドウで**名前**および**説明**を入力し、保存します。
8. ジョブを選択し、「**アクション**」アイコンを右クリックして「**複製**」または「**削除**」を選択することで、ジョブを複製または削除することもできます。



データのコピー・ジョブのスケジュール

データのコピー・ジョブをスケジュールするには:

1. 「ジョブのスケジュール」画面に移動します。 [ジョブのスケジュール](#) も参照してください。
2. 左側のナビゲーションで「**データのコピー**」オプションを選択します。
3. **名前**および「**スケジュール開始日**」のスケジュール時間を入力し、「**次**」をクリックします。ジョブをすぐに実行する場合は、「**今すぐ実行**」オプションを選択することもできます。

4. 「**次**」をクリックします。

5. 「ジョブのスケジュール」画面を確認し、「終了」をクリックします。



Review

Review your choices carefully before you finish.

Name Copy Data Job Scheduler
 Job Type Copy Data
 Scheduled Run Time 6/2/21 4:18 AM
 Repeats Occurs Daily
 Scheduled End Time Forever
 Time Zone Pacific Standard Time

6. スケジュール・プロセスが開始すると、スケジュール・ジョブが「保留中のジョブ」リストに表示されます。



データのコピー・ジョブの監査

ジョブ実行の監査エントリ・オプションは、直接またはスケジューラから使用できます。[タスクおよびデータの監査](#)も参照してください。

Task	Time	Property	Action	Value
Business Rule	4/14/21 5:17 AM		Execute by epm_default_d...	TRCS_TAREndingBalanceAsPerBookReadOnly
Business Rule	4/14/21 5:14 AM		Execute by epm_default_d...	RefreshSDMCurrencyRates
Copy Data	4/14/21 5:14 AM	Copy Data Run From Copy Data UI Copy Data Source: Scenario - ActualYear - FY16Period...	Execute by epm_default_d...	Copy Data Target: Scenario - ActualYear - FY16Period - IPBData Source Run From Copy Data UI Copy Data Source: Scenario - ActualYear - FY16Period...
Business Rule	4/14/21 5:14 AM		Execute by epm_default_d...	ComputeRates

監査エントリにより、次の情報が取り込まれます:

- タスク・タイプ: データのコピー
- 実行時間
- プロパティ: タスク・タイプ、実行元(UI から実行されたのか、スケジュール済ジョブから実行されたのか)およびソース POV
- アクション: 実行者
- 値: ターゲット POV および実行元

例: 構成の除外、代替変数、ジョブのスケジュール

ユース・ケース:

- ユーザーは、シナリオ: 実績、年: FY21、期間: P12 のデータをシナリオ: 実績、年: FY22、期間: P12 にコピーする必要があります
- ユーザーは構成データをコピーする必要はありません。

- ユーザーは勘定科目: NIBT とエンティティ: Region 1 のデータのみをコピーする必要があります
- ユーザーはコピー・タスクを定期的に(毎月、四半期ごと、毎年など)実行する必要があります。

アクション:

1. 次の年の2つの代替変数を作成します:
 - **現在の年:** FY21
 - **翌年:** FY22
2. データのコピー・タスクを作成します。
3. 「**構成データの除外**」チェック・ボックスを選択します。
4. ソースおよびターゲットのシナリオ、年、期間を入力します。「年」では、作成した代替変数を入力できます: 「**ソース年**」: 「現在の年」、「**ターゲット年**」: 「翌年」。
5. 「勘定科目」フィルタを選択し、勘定科目名「NIBT」を入力します。
6. 「エンティティ」フィルタを選択し、エンティティ名「Region 1」を入力します。
7. 「**ジョブとして保存**」をクリックします。ジョブの**名前**と**説明**を指定し、「**保存**」を選択します。
8. ジョブが保存された後、「ジョブのスケジュール」画面に移動して、使用可能なリストから「データのコピー」を選択します。
9. 次に、開始日時、終了日時および繰返し頻度を指定して保存したデータのコピー・ジョブをスケジュールできます。
10. スケジュールされたジョブは、指定された日時に指定された一定間隔で実行されます。
11. これで、翌年同じデータを FY22 から FY23 にコピーするときに、「代替変数」ページに移動して、**現在の年:** FY22 および**翌年:** FY23 の値を更新できます。
12. スケジュールされたジョブが次回実行される時、更新された代替変数値が使用されます。

データのクリア

次のタイプのデータに対する特定のシナリオ、年および期間、または期間の範囲から選択したエンティティのデータをクリアできます。

- 税引当
- CbCR データ

外国為替(FX)レート・データの場合、この操作により、連結(Consol)キューブと CbCR キューブの両方で選択されたエンティティのすべてのレート・データ(グローバル・レートを除く)がクリアされます。

データをクリアするには、サービス管理者の役割を持つユーザーである必要があります。ロックされているエンティティまたは開始されていないエンティティのデータはクリアできません。

次のディメンションのメンバーは固定のため、クリア・プロセスで選択することはできません。

- ビュー - 期別
- 通貨 - 「データ・ソース」ドロップダウンで「すべて」が選択されていない場合のエンティティ通貨。「データ・ソース」ドロップダウンで「すべて」が選択されている場合は、エンティティ通貨およびすべてのレポート通貨のデータがクリアされます。
- 勘定科目 - <全メンバー>
- 増減 - <全メンバー>
- 複数 GAAP - <全メンバー>
- カスタム - <全メンバー>
- ICP - <全メンバー>
- 連結 - 「データ・ソース」ドロップダウンで「すべて」が選択されていない場合のエンティティ入力。「データ・ソース」ドロップダウンで「すべて」が選択されている場合は、すべての連結メンバーのデータがクリアされます。

クリア・プロセスの後、連結を実行して影響を受ける値を更新する必要があります。

「データ・ソース」ドロップダウンで「すべて」を選択すると、次のロジックに基づいてエンティティの計算ステータスが設定されます:

- レベル 0 エンティティが選択されている場合は、選択されたエンティティとそのインスタンス(ある場合)が「データなし」に設定され、(選択されたレベル 0 エンティティとその共有インスタンスの)すべての祖先が「影響」に設定されます。
- 親エンティティが選択されている場合は、その子エンティティの計算ステータスがチェックされます。選択されたエンティティのすべての子の計算ステータスが「データなし」の場合は、親エンティティとその共有インスタンス(ある場合)の計算ステータスも「データなし」になります。それ以外の場合は、選択した親エンティティと共有インスタンス、およびそれらすべての祖先の計算ステータスが「影響」になります。
- たとえば、IDescendants()関数によってエンティティの子孫が選択された場合は、すべての子孫エンティティとそれらのエンティティの共有インスタンスの子孫のデータがクリアされ、その計算ステータスが「データなし」に更新されます。(子孫エンティティおよび共有インスタンスの)すべての祖先が「影響」としてマークされます。祖先は親の税金計算の有効化および親のデータ入力の有効化が可能なため、祖先エンティティのすべてのデータがクリアされないかぎり、その計算ステータスは「影響」のままにする必要があります。

 ノート:

- 「すべて」のかわりに、「データ・ソース」ドロップダウンからその他のデータ・ソース(「管理対象データ」、「補足データ」または「その他のデータ」)を選択すると、レベル0 エンティティの計算ステータスは「影響」としてマークされます。「すべて」を選択した場合のみ、計算ステータスが「データなし」に設定されません。
- 「すべて」のかわりに、「データ・ソース」ドロップダウンからその他のデータ・ソース(「管理対象データ」、「補足データ」または「その他のデータ」)を選択すると、親エンティティの計算ステータスは「影響」としてマークされます。データ・ソースに「すべて」を選択すると、次のようになります:
 - 親エンティティの計算ステータスは、すべての子の計算ステータスが「データなし」として開始された場合にのみ、「データなし」としてマークされません。
 - 選択した親エンティティのいずれかの子の計算ステータスが「データなし」の場合、計算ステータスは「影響」としてマークされます。

「データなし」のエンティティは、クリア・プロセスの処理に含まれません。承認ステータスが「ロック済」または「未開始」のエンティティの計算ステータスは変更されません。

 ノート:

データのクリアでのセキュリティ・レイヤーの概要は、[セキュリティの管理](#)を参照してください。

 ノート:

エンティティのデータをクリアすると、自動化ルールもすべてエンティティからクリアされます。税金自動化(グローバル)および法定住所ルールが特定のエンティティに存在する場合にそれを再適用するには:

- ルール・カードから「税金自動化グローバル保存」を実行します
- 「アプリケーション」->「構成」で税金自動化(グローバル)法定住所ルールを変更し、保存します。

ユース・ケース・シナリオの例

すべてのエンティティのステータスは「データなし」以外であり、承認ステータスが「ロック済」または「未開始」であるエンティティはなく、すべての例で「すべて」のデータ・ソース・オプションが選択されています。

TESTGRANDPARENT1
TESTPARENT1
TESTENTITY4
TESTENTITY5

TESTGRANDPARENT2
TESTPARENT2
TESTENTITY4(SHARED)
TESTENTITY6
TESTENTITY7
TESTENTITY8

TESTGRANDPARENT3
TESTPARENT3
TESTENTITY7(SHARED)

ユース・ケース 1: 親のデータのクリア(TESTENTITY4)

- TESTENTITY4 とその共有インスタンスのデータがクリアされます。
- 子(TESTENTITY5)の計算ステータスが「**データなし**」以外の場合、TESTENTITY4 とその共有インスタンスの計算ステータスは「**影響**」になります。それ以外の場合、TESTENTITY4 とその共有インスタンスの計算ステータスは「**データなし**」に更新されます。
- TESTENTITY4 の祖先とその共有インスタンス(TESTPARENT1、TESTPARENT2、TESTGRANDPARENT1 および TESTGRANDPARENT2)はすべて「**影響**」になります。

ユース・ケース 2: レベル 0 のデータのクリア(TESTENTITY7)

- TESTENTITY7 とその共有インスタンスのデータがクリアされます。
- TESTENTITY7 とその共有インスタンスの計算ステータスは「**データなし**」に更新されます。
- 祖先 TESTENTITY6、TESTPARENT2、TESTPARENT3、TESTGRANDPARENT2 および TESTGRANDPARENT3 は「**影響**」になります。

ユース・ケース 3: 子孫(含む)のデータのクリア(TESTPARENT2)

- TESTPARENT2、TESTENTITY4、TESTENTITY4(共有)、TESTENTITY5、TESTENTITY6、TESTENTITY7、TESTENTITY7(共有)および TESTENTITY8 のデータがクリアされます。
- 前述のインスタンスの計算ステータスは「**データなし**」に更新されます。
- 祖先 TESTPARENT1、TESTPARENT3、TESTGRANDPARENT1、TESTGRANDPARENT2 および TESTGRANDPARENT3 は「**影響**」になります。

ユース・ケース 4: 祖先のデータのクリア(TESTENTITY4)

- TESTPARENT1、TESTPARENT2、TESTGRANDPARENT1 および TESTGRANDPARENT2 のデータがクリアされます。
- 前述のインスタンスの計算ステータスは、その子ステータスに基づいて更新されます。

- TESTPARENT2 の子の計算ステータスが「データなし」以外の場合、TESTPARENT2 および TESTGRANDPARENT2 は「影響」となり、それ以外の場合、それらの計算ステータスは「データなし」になります。
- TESTPARENT1 の子の計算ステータスが「データなし」以外の場合、TESTPARENT1 および TESTGRANDPARENT1 は「影響」となり、それ以外の場合、それらの計算ステータスは「データなし」になります。

データをクリアするには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」、「概要」の順にクリックします。
2. 「アクション」、「データのクリア」の順にクリックします。
3. 「データのクリア」ダイアログ・ボックスで、クリアするモジュールを選択します。
 - 税引当
 - CbCR - CbCR が有効でない場合、チェック・ボックスは表示されません。

4. 「ターゲット」下で、 をクリックしてディメンションの隣にあるチェック・マークを選択し、次の項目を選択して「OK」をクリックします。
 - シナリオ
 - 年
 - 期間または期間の範囲
 - 1つ以上のエンティティ・メンバーまたは関数

 **ノート:**

シナリオおよび年ディメンションでは、1つのみ選択できます。

5. 「**データ・ソース**」で、クリアするデータ・ソースを選択します。
 - **すべて** - リストされたすべてのオプションが含まれます。
 - **管理対象データ** - データ管理からシステムにコピーまたは移動されたデータ
 - **補足データ** - 補足データ・マネージャから転記されたデータ
 - データ・ソースとして「**補足データ**」が選択され、データ・セルに補足データ・マネージャ(SDM)フォームから転記された値がある場合は、Tax Reporting のデータおよび関連するドリル・リンクが常にクリアされます。
 - データソースとして「**管理対象データ**」が選択されている場合、またはデータ管理ドリル・リンクが含まれているその他のデータ・ソースの場合は、Tax Reporting のデータおよび関連するドリル・リンクが常にクリアされます。
 - **その他のデータ** - 管理対象データおよび補足データとは別のすべてのデータ。税、税引前、配賦、TAR、BVT などのすべての入力データです。

 **ノート:**

データ・ソース・オプションが選択されたソースの場合、**ターゲット**・メンバーを選択する必要はありません。ソースで選択されたターゲット・データ・ソースと同じものが自動的に使用されます。1 つの選択の場合も複数の選択の場合もあります。

6. 「**実行**」をクリックしてデータ・クリア・タスクを発行し、プロンプトが表示されたら「**はい**」をクリックして続行します。
データ・クリア・タスクが発行されたというメッセージが表示されます。
7. タスク・ステータスをモニターするには、ホーム・ページで「**アプリケーション**」を選択し、「**ジョブ**」をクリックし、「**データのクリア**」ジョブをクリックして詳細を表示します。

データのクリア・ジョブの使用

データのクリア・プロセスのメンバーを選択した後に、メンバーをデータのクリア・ジョブとして保存できます。これにより、データのクリア・プロセスの情報を後で取得でき、メンバーを再度選択する必要はありません。

「データのクリア」を選択すると、保存したクリア・ジョブのリストが表示されます。ジョブを選択してデータのクリア・プロセスを実行したり、ジョブを編集して保存したり、変更済のジョブとして保存できます。既存のジョブを複製したり、不要になったジョブを削除できます。

データのクリア・ジョブの作成

データのクリア・ジョブを作成するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックします。
2. 「**概要**」をクリックし、「**アクション**」から「**データのクリア**」を選択します。
3. クリアするアイテムを選択します。
4. 「**保存**」をクリックします。

5. 「**クリア・ジョブの保存**」で、ジョブの**名前**と**説明**を入力して「**保存**」をクリックします。名前は、30文字までの一意の名前である必要があります。説明は128文字まで入力できます。
6. 保存確認のメッセージで、「**OK**」をクリックします。
「データのクリア・ジョブ」リストにジョブが表示されます。

関連項目: [データのクリア](#)

データのクリア・ジョブの編集

データのクリア・ジョブを編集するには:

1. 「データのクリア・ジョブ」リストから、ジョブを選択して開きます。
2. 必要に応じて選択内容を編集します。
3. 「**保存**」をクリックします。ジョブを同じ名前で保存するか、必要に応じて名前を変更できます。
4. 「**名前を付けて保存**」をクリックして、変更したジョブを新規ジョブとして保存し、名前と説明を入力します。

データのクリア・ジョブの複製

1. 「データのクリア・ジョブ」リストから、ジョブを選択します。
2. 「**アクション**」メニューから、「**複製**」を選択します。

複製したジョブは、接尾辞「_Copy」が付いて「データのクリア・ジョブ」リストに表示されます。たとえば、Test_Clear_Job を複製すると、複製ジョブは Test_Clear_Job_Copy という名前になります。

データのクリア・ジョブの削除

データのクリア・ジョブを削除するには:

1. 「データのクリア・ジョブ」リストから、ジョブを選択します。
2. 「**アクション**」メニューから、「**削除**」を選択します。
3. 選択したジョブの削除を確認するプロンプトから、「**確認**」をクリックします。
4. ジョブの削除確認で、「**OK**」をクリックします。

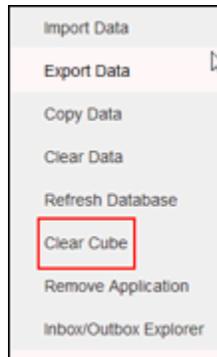
関連項目: [Oracle Enterprise Performance Management Cloud の REST API の Tax Reporting の「データのクリア」](#)

キューブのクリア・ジョブの作成

ユーザーは、「**キューブのクリア**」オプションを使用して、キューブ・データを削除できます。

キューブのクリア・ジョブを作成するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**概要**」をクリックします。
2. 「**アプリケーション**」画面で、「**アクション**」、「**キューブのクリア**」の順にクリックします。



3. 「**キューブのクリア**」ページで、「**作成**」をクリックし、ジョブ名を入力し、キューブを選択して、クリア・オプションを選択します。
 - **すべてクリア**—「**すべてクリア**」オプションで選択したエンティティに関連付けられたキューブ内のすべてのデータを削除します。次のいずれかを選択します。
 - **サポート詳細**
 - **コメント**
 - **添付**
 - **Essbase データ**
 - **クリアする対象**
 - **上位レベル・ブロック**-上位レベル・ブロック内のデータを削除します
 - **非入力のブロック**-非入力のブロック内のデータを削除します
 - **動的ブロック**-動的ブロック内のデータを削除します
 - **空のブロック**-#MISSING 値のあるブロックを削除します
4. 「**保存して閉じる**」をクリックします。
5. 「**キューブのクリア**」リスト・ページにジョブを表示するには、「**リフレッシュ**」をクリックします。

 **ノート:**

Consol キューブに対して「**キューブのクリア**」オプションを実行し、Rates キューブに対して実行しなかった場合は、「**レートの計算**」ビジネス・ルールを実行して、Consol キューブにレート情報を取得する必要があります。

キューブのクリア・ジョブをすぐに開始するかジョブを削除するには、[キューブのクリア・ジョブの開始および削除](#)を参照してください

データベースのリフレッシュ

「アプリケーション」ページで、アプリケーションのデータを保管するために使用されるアプリケーション・データベースをリフレッシュできます。データベースはディメ

ンション、階層メンバー、属性およびアプリケーションで指定される他のデータに基づいて構成されます。

アプリケーションの構造を変更した場合、アプリケーション・データベースを必ずリフレッシュしてください。アプリケーションのデータベースをリフレッシュするまで、アプリケーションの変更がユーザーによるデータの入力および承認タスクに影響を与えることはありません。たとえば、エンティティ・メンバーのプロパティ修正、シナリオの追加またはアクセス権限の変更が行われた場合、これらの変更はアプリケーション・データベースがリフレッシュされるまでリレーショナル・データベースに保管されます。

データベースをリフレッシュする前に、リフレッシュ・プロセス中にすべてのユーザーがメンテナンス・モードでアプリケーションを使用できるようにするか、現在の管理者のみが使用できるようにするかを選択できます。すべてのユーザーをログオフすることや、アクティブなアプリケーション要求を終了することもできます。データベースのリフレッシュ後に、ユーザーがアプリケーションを使用できるようにすることが可能です。

▲ 注意:

リフレッシュする前に、すべてのデータベースのアウトライン・ファイルおよびエクスポート・データをバックアップすることをお勧めします。

データベースをリフレッシュするには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**構成**」をクリックします。
2. 「**アプリケーション**」タブの「**アクション**」で、「**データベースのリフレッシュ**」を選択します。
3. 「**データベースのリフレッシュ**」ページで、「**作成**」をクリックします。

4. 「**データベースのリフレッシュ前**」の選択を行います。
 - **アプリケーションを使用可能にする** - リフレッシュ中に、すべてのユーザーまたは管理者(現在ログインしている管理者)がメンテナンス・モードでアプリケーションにアクセスできるようにします。
 - **すべてのユーザーのログオフ** - リフレッシュを開始する前にすべてのユーザーをログオフします
 - **すべてのアクティブな要求の停止** - リフレッシュを開始する前にアプリケーションでアクティブな要求を終了します。
5. 「**データベースのリフレッシュ後**」の選択を行います:

- **アプリケーションを使用可能にする** - リフレッシュ後、すべてのユーザーまたは管理者(または、現在ログインしている管理者)がメンテナンス・モードでアプリケーションにアクセスできるようにします。
- **メタデータの検証**: デフォルトでは、このオプションは選択されていません。このオプションが選択されている場合は、ビジネス・プロセスと Oracle Essbase の間のメンバー・アイデンティティ (ID) の不一致がスキャンされ、リフレッシュ・プロセス後に自動的に解決されます。「**メタデータの検証**」を選択すると、リフレッシュ・プロセスにかかる時間が長くなることがあります。詳細は、[メタデータの検証](#)を参照してください。

 **ノート:**

「**メタデータの検証**」オプションは、ハイブリッド・ブロック・ストレージ・オプション(BSO)キューブ(ハイブリッド BSO、ASO および BSO)をサポートする Essbase バージョンで実行されているストレージ・オプションがあるキューブで使用できます。このオプションは、ハイブリッド BSO キューブをサポートしていない従来の Essbase バージョンで実行されているキューブでは使用できません。

6. オプションを選択します。
 - すぐにデータベースをリフレッシュするには、「**データベースのリフレッシュ**」をクリックし、確認メッセージを確認して、「**リフレッシュ**」をクリックします。
 - データベースのリフレッシュ・ジョブをスケジュールするには、「**ジョブとして保存**」をクリックして、ジョブの名前を入力し、「**保存**」をクリックします。

 **ノート:**

反復するデータベースのリフレッシュ・ジョブをスケジュールする場合、選択するリフレッシュ・ジョブ・オプションはジョブを実行するたびに適用できます。選択内容を編集するには、「ジョブ」コンソールでジョブの名前をクリックしてから、「**保存**」をクリックします。

メタデータの検証

「メタデータの検証」について

データベース・リフレッシュ・プロセスの一部として「**メタデータの検証**」設定(以前は「**エラーの自動修正**」と呼ばれていました)を使用し、ビジネス・プロセスと Oracle Essbase の間のメンバー・アイデンティティ (ID) の不一致をスキャンして自動的に解決します。

▲ Caution:

「**メタデータの検証**」を選択すると、リフレッシュ・プロセスにかかる時間が長くなる場合があります。

特定のケースで、アプリケーションが使用するマルチディメンショナル・データベースで完全には認識されない方法で、メンバーのアイデンティティが変更される場合があります。システムのすべての部分でメンバーのアイデンティティが完全には正確に確立されていない場合、メンバー順序の不正などの階層の問題が発生することがあります。つまり、該当するメンバーの子の不足、兄弟の一部の不足、特定のプロパティの不足などが発生することがあります。「**メタデータの検証**」を選択すると、そのようなメンバーが検出されてアイデンティティが自動的に解決されます。これにより、これらのメンバーと、プロパティおよび兄弟を含む階層が完全で正確に認識されるようになり、システムのすべての部分で使用可能になります。

メンバーの移動および削除を詳しく記したレポートの表示

メンバー ID の修正後に、メンバーが削除または移動されることがあります。メンバーの移動(異なる親への移動)または削除を詳しく記したレポート・ファイルが生成され、csv (カンマ区切り)ファイル・フォーマットで送信ボックスに配置されます。レポートを確認して、子の階層が変更された可能性のある保管された親メンバーの一部を再集約します。

例:

Action	Member	Parent	Dimension	Cube	New Parent
Delete	Member1	Parent1	Scenario	Plan1	
Move	Member2	Parent2	Account	Plan2	Parent3

CSV ファイルが「送信ボックス」フォルダに生成され、アプリケーション名の後に `_autocorrect.csv` が付いたファイル名が自動的に生成されます(例: `vision_autocorrect.csv`)。このファイルは、実行のたびに上書きされます。

「**メタデータの検証**」設定を使用して「**データベースのリフレッシュ**」ジョブを実行した後、送信ボックスからエクスポート・ファイルをダウンロードできます。

ファイルをダウンロードするには:

1. 「**アプリケーション**」をクリックし、「**ジョブ**」をクリックします。
2. 「**最近のアクティビティ**」で、ジョブをクリックします。
3. 「**ジョブの詳細**」の上部で、エクスポート・ファイル・オプションをクリックしてダウンロード場所を選択します。

有効な交差の定義

有効な交差の理解

有効交差を使用してルールを定義できます。このルールは有効交差ルールと呼ばれ、ユーザーがデータを入力したり実行時プロンプトを選択する場合に、ユーザーに対して特定のセル交差をフィルタします。たとえば、ある期間や一部の部署にのみ特定のプログラムが有効であることを指定できます。

有効交差を定義した後は、無効なデータを含むセルは読取り専用になります。この制限により、連結プロセスのスピードが向上し、ユーザーに使用可能な情報が最適化されます。

有効交差グループ

有効交差グループで次の内容を定義します:

- 含まれるディメンション
- ディメンションのいずれかをアンカー・ディメンションとする
- 非アンカー・ディメンションが必要かどうか
- 指定されないまたは参照されないアンカー・ディメンション・メンバーは有効か、無効か

有効交差ルール

有効交差ルール:

- 有効交差グループ内で定義されたディメンションと同じディメンションを使用する必要があります
- 有効交差のみを定義します
- 同じ有効交差グループ内の有効交差ルールは明らかな競合や重複が生じると、いずれかの有効交差ルールの条件が満たされた場合に、有効とマークされます
- 明らかな冗長または重複を発生させる、異なる有効交差グループ内の有効交差ルールは、すべての有効交差グループの要件を満たしている場合、有効とマークされます
したがって、有効交差グループが交差を無効とマークしている場合、他の有効交差グループがその交差を有効とマークしているかどうかにかかわらず、その交差は無効とマークされます無効なグループは有効なグループの結果を上書きします。

ノート:

有効交差を削除する場合は、他の有効交差グループが許可しているかどうかにかかわらず、このルールは異なる有効交差グループに属する必要があります。

アンカーおよび非アンカー・ディメンション

アンカーおよび非アンカー・ディメンション:

- アンカー・ディメンションは、常に、有効交差の評価で使用されるタイプの必須ディメンションです。
- 非アンカー・ディメンションが必須である場合、または必須でない場合:
 - 非アンカー・ディメンションが必須である場合、そのディメンションを使用しないタイプは有効交差グループ(そのディメンションが有効交差を評価すると、必須とタグ付けされます)を無視します。
 - 非アンカー・ディメンションが必須でない場合、そのディメンションを使用しないタイプは、そのディメンションを含む有効交差グループを必須でないとして評価し、そのタイプに含まれる有効交差グループの他のディメンションの交差を評価します。
- 選択していないアンカー・ディメンション・メンバーはデフォルトで有効ですが、「選択されていないメンバーは有効です」オプションをクリアすると、これらを無効としてマークできます。このオプションでは、このルールで選択されていないアンカー・ディメンションを含むすべての交差を無効としてマークします。

有効交差ルールの冗長または重複

同じ交差グループ内の有効交差ルールで、明らかな競合や重複が生じると、いずれかの有効交差ルールの条件が満たされた場合に、有効とマークされます。

異なる有効交差グループが、アンカー・ディメンション、必須および必須でない非アンカー・ディメンション、および「選択されていないメンバーは有効です」属性などの同じ属性を共有している場合、これらは、同じ有効交差グループのルールとして扱われます。

共有メンバーおよび有効交差ルール

共有メンバーは、有効交差ルールでサポートされています。基本メンバーが有効交差ルールに対して選択されている場合、共有メンバーもルールに含まれます。あるいは、共有メンバーが有効交差ルールに対して選択されている場合、基本メンバーもルールに含まれます。

代替変数および有効交差ルール

有効交差ルールで代替変数を使用できます。ユーザー変数はサポートされていません。代替変数は、サーバー、アプリケーションまたはデータベース・レベルで設定できます。同じ代替変数が複数のレベルで存在します。システムは、次の順序で検索するときに検出される最初の代替変数を使用します。

1. データベース
2. アプリケーション
3. サーバー

評価順序

有効交差グループの評価順序は、無効な結果セットをできる限り速く順序付けし、有効交差の評価全体の速度および効率性を向上させます。

たとえば、システムでは、リスト内の最初の有効交差グループ、次に 2 番目のグループというように順番に評価されます。無効として定義された交差は、他の有効交差ルールの結果より優先されるため、リスト内の 2 番目のグループで無効な交差が検出されると、リストの残りの評価は中止されます。

有効な交差の作成

有効交差を作成するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックします。
2. 「**有効な交差**」をクリックします。

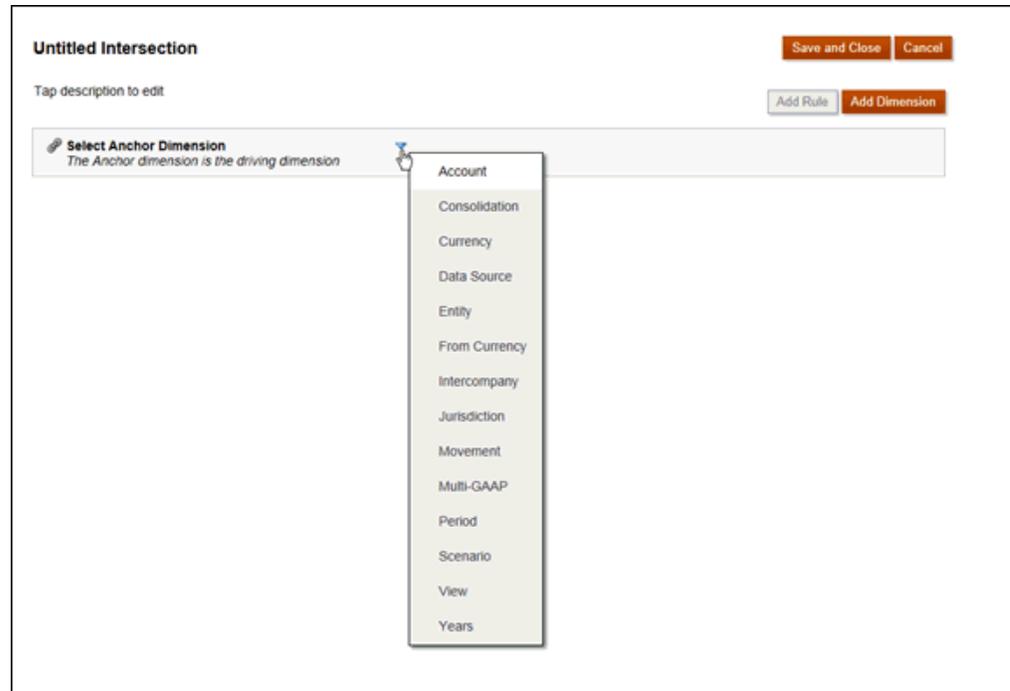
Order	Name	Last Modified	Enabled	Action
1	Scenario and Account Combination This is required to handle separate CDCR Approval Process	1/29/19 module_admin	✓	...
2	Consolidation and Entity Combination The 'Entity Consolidation' member should be invalid for level 0 entity members	1/29/19 module_admin	✓	...
3	Jurisdiction and Entity Combination Domicile based Entity valid intersections	1/29/19 module_admin	✓	...
4	Currency, Data Source and Account Combination The Input Currencies are valid only for entering exchange rates and Rate or Amount override	1/29/19 module_admin	✓	...
5	Currency and Consolidation Combination The 'Entity Currency' member should be invalid for Contribution/elimination and proportion.	1/29/19 module_admin	✓	...
6	Jurisdiction and Account Combination Apportionment rates should be invalid for national Jurisdictions	1/29/19 module_admin	✓	...
7	TRCS_CbCR Filing Combination CDCR Filing Combination	1/29/19 module_admin	✓	...
8	Interim Movement and Account Combination Movement and Account Combination for Interim Provision	1/29/19 module_admin	✓	...
9	Interim Movement and Account Combination AEETR Movement and Account Combination for Interim Provision AEETR	1/29/19 module_admin	✓	...

3. まだ選択されていない場合は、「**セットアップ**」タブをクリックします。

Note:

レッドウッド・エクスペリエンスが有効になっている場合、「**設定**」タブはページの下部にあります。

4. 有効交差グループを作成します。
 - a. 「**作成**」をクリックします。



- b. 有効交差グループの名前と説明を入力します。
 - c. 「有効」チェック・ボックスは、デフォルトで選択されています。有効交差グループを無効化するには、「使用可能」チェック・ボックスの選択を解除します。「有効な交差」ページで直接、有効交差グループを有効化または無効化することもできます。[有効交差グループの無効化および有効化](#)を参照してください
 - d. 「定義タイプ」で、次のいずれかを選択します:
 - 有効な交差
 - 無効な交差
 - e. アンカー・ディメンションを選択するには、「アンカー・ディメンションの選択」の横の下矢印  をクリックします。
 - f. オプション: デフォルトでは、有効交差ルールで指定されていないアンカー・ディメンション・メンバーが有効とマークされます。このオプションをクリアするには、アンカー・ディメンションの横の下矢印  をクリックして、「選択されていないメンバーは有効です」をクリックします。[アンカーおよび非アンカー・ディメンション](#)を参照してください
 - g. 追加のディメンション(非アンカー・ディメンションと呼ばれます)を選択するには、「ディメンションの追加」をクリックします。
 - h. オプション: デフォルトでは、非アンカー・ディメンションは必須ではありません。非アンカー・ディメンションを必須にするには、非アンカー・ディメンションの横の下矢印  をクリックして、「必須」をクリックします。
5. 有効交差ルールを定義します。
 - a. 「ルールの追加」をクリックします。

b. 有効交差に対して含める、除外するまたは削除するメンバーの範囲を選択するには、新規ルール横の下矢印をクリックします。

- 「編集」をクリックして「メンバーの選択」ページを開き、有効な交差ルールに含めるメンバー、代替変数および属性を選択します。[メンバーの操作](#)を参照してください
- 「除外」または「すべて除外」をクリックして、ルールから除外するディメンション・メンバーを定義します:
 - **除外:** このオプションを選択した場合、メンバーは ID を基準にして除外されます。指定されたメンバー(基本または共有)のみが除外されます。
 - **すべて除外:** このオプションを選択した場合、メンバーは名前を基準にして除外されます。基本メンバーが指定されている場合、基本とそのすべての共有メンバーが除外されます。共有メンバーが指定されている場合、このメンバー、その基本メンバー、およびこのメンバーの他のすべての共有メンバーが除外されます。
- 「クリア」をクリックして、選択をクリアします。

ルールを削除するには、「削除」



をクリックします。

6. 「保存して閉じる」をクリックします。
新しい有効交差グループが、有効交差リストの最後に追加されます。リスト内のルールの順序を変更するには、[有効交差グループの評価順序の変更](#)を参照してください

有効な交差の管理

有効交差の表示

有効交差を表示するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「有効な交差」をクリックします。
2. 次のタスクを実行します:
 - 有効交差グループを作成します。[有効な交差の作成](#)を参照してください。
 - 無効な交差グループの順序を変更します。[有効交差グループの評価順序の変更](#)を参照してください。
 - 有効交差グループを無効化および有効化します。[有効交差グループの無効化および有効化](#)を参照してください。
 - 有効交差グループのディメンションの追加または削除など、有効交差の詳細を編集します。[有効交差グループの詳細の編集](#)を参照してください。
 - 既存の有効交差グループを複製して、新しい交差グループを迅速に作成できるようにします。[有効交差グループの複製](#)を参照してください。
 - 有効交差グループを削除します。[有効交差グループの削除](#)を参照してください。

有効な交差のフィルタ

交差が有効になっているかどうか、定義が有効であるか無効であるか、変更時期、変更者など、特定の条件によって交差のリストをフィルタできます。フィルタすると、フィルタ条件を満たす交差のみが「**有効な交差**」ページに表示されます。

交差をフィルタするには:

1. 「**アプリケーション**」をクリックし、「**有効な交差**」をクリックします。
2.  をクリックして、フィルタ条件を指定します:
 - **使用可能:** 有効になっている(「はい」)または有効になっていない(「いいえ」)交差のみを表示するか、「すべて」を選択します。
 - **定義タイプ:** 「**有効な交差**」または「**無効な交差**」タイプの交差のみを表示するか、「すべて」を選択します。
 - **変更:** 特定の日時より前または後に変更された交差、あるいは日付または時間の範囲内に変更された交差のみを表示します。「**後**」、「**前**」または「**次の値の間**」を選択し、 をクリックして、日付と時刻の条件を指定します。
 - **変更者:** 選択したユーザーによって変更された交差のみを表示します。
3. 「**増やす**」をクリックして、フィルタ条件をさらに絞り込みます:
 - **ディメンション**
 - **アンカー・ディメンション**
 - **選択されていないメンバーは有効です:** 「はい」、「いいえ」または「すべて」を選択します。
 - **その他のディメンションが必要:** 「はい」、「いいえ」または「すべて」を選択します。
4. 「**適用**」をクリックします。

交差のインポートとエクスポート

有効な交差のインポートとエクスポートについて

有効な交差のフィルタされたリストをリスト・ページからローカル・コンピュータ上の場所にエクスポートするか、それらをサーバーにエクスポートできます。リスト・ページでフィルタが定義されていない場合は、すべての交差がエクスポートされます。

交差をローカル・コンピュータ上の場所からアプリケーションにインポートするか、それらをサーバーからインポートするには、「インポート」アクションを使用します。インポートを実行すると、定義に違反する内容がないかについてインポート・ファイルがテストされます。たとえば、キューブが欠落している場合、アンカー・ディメンションがない場合、またはサブルールが見つからない場合は、エラー・ファイルにエラーが記録されます。インポート・ジョブは、インポート・ファイルにエラーがない場合にのみ正常に完了します。

 **Note:**

サブルールでは、アンカーおよび非アンカー・ディメンションのメンバー選択または除外、各サブルールに適用される制限タイプなど、ルールの内容に関する情報が提供されます。

選択したエクスポート場所またはインポート場所に応じて、交差は Excel ファイル・フォーマット(XLSX)か zip ファイル・フォーマットでエクスポートまたはインポートされます。

 **Note:**

ロックされている有効交差ルールは、有効な交差のエクスポート時にエクスポートされません。ロックされている有効交差ルール(および FCCS_、OCX_、OEP_、OFS_、OPF_、OWP_、TRCS_などの制限付き接頭辞で始まるルール)は、有効な交差のインポート時にインポートされません。

有効な交差のインポート・ファイル

Excel インポート・ファイルには2つのシートが必要であり、最初のシートと2番目のシートの名前は次のとおりです:

1. Rules
2. Sub Rules

Rules シートには次の列見出しがあります:

- **名前**
- **位置**
- **説明**
- **使用可能**
- **定義タイプ**
- **アンカー・ディメンション名**
- **選択したメンバーへのアンカー・ディメンションの適用**
- **Dim1**
- **Dim1 必須**
- **Dim2**
- **Dim2 必須**
- **DimX**
- **DimX 必須**

Sub Rules シートには、次の列見出しがあります:

- **名前** - この列には、最初のシートのルールの名前を含める必要があります

- アンカー・メンバー
- アンカーの除外
- アンカーをすべて除外
- Dim1 メンバー
- Dim1 の除外
- Dim1 をすべて除外
- Dim2 メンバー
- Dim2 の除外
- Dim2 をすべて除外
- DimX メンバー
- DimX の除外
- DimX すべて除外

有効な交差のインポートとエクスポート

交差をエクスポートおよびインポートするには:

1. 「アプリケーション」をクリックし、「有効な交差」をクリックします。
2. 必要に応じて、リストにフィルタを適用します。有効な交差のフィルタを参照してください。
3. エクスポートするには、「アクション」、「エクスポート」の順にクリックし、エクスポート・ファイルのターゲットの場所を選択します:
 - **ローカル:** エクスポート・ファイルをローカル・コンピュータ上の場所に保存します。このオプションを選択する場合は、「エクスポート」をクリックした後、エクスポート・ファイルを保存する場所を指定します。
 - **送信ボックス:** エクスポート・ファイルを zip 形式でサーバーに保存するジョブを実行します。保存されたファイルは、即時にダウンロードするか、後でエクスポート・ジョブをスケジュールする際に使用できます。このオプションを選択した場合は、「保存してジョブを実行」をクリックします。送信ボックスからエクスポート・ファイルをダウンロードするには:
 - a. 「アプリケーション」をクリックし、「ジョブ」をクリックします。
 - b. 「最近のアクティビティ」で、エクスポート・ジョブをクリックします。
 - c. 「ジョブの詳細」ページで、 をクリックして、エクスポート・ファイルのダウンロード場所を選択します。また、ビジネス・プロセスの「受信ボックス/送信ボックス・エクスプローラ」からエクスポート・エラー・ファイルをダウンロードできます。
4. Excel でエクスポート・ファイルを編集する場合は、Excel ファイルに Rules と Sub Rules の2つのシートがあることに注意してください。
5. インポートするには、「アクション」、「インポート」の順にクリックし、インポート・ソース・ファイルの場所を選択します:

- **ローカル:** 自分のコンピュータの場所からインポート・ファイルを読み込みます。「ソース・ファイル」の「参照」をクリックしてコンピュータ上のインポート・ファイルを選択し、「インポート」をクリックします。
- **受信ボックス:** サーバーからインポート・ファイルを読み込むジョブを実行します。インポート・ファイルは zip ファイル形式である必要があります。「ソース・ファイル」にファイル名を入力して「保存してジョブを実行」をクリックし、「ジョブとして保存」ダイアログで「名前」および「エラー・ファイル」を指定します。エラー・ファイルでは、インポートされなかった交差に関する情報が提供されます。ビジネス・プロセスの「受信ボックス/送信ボックス・エクスプローラ」からエラー・ファイルをダウンロードできます。

有効交差グループの評価順序の変更

有効交差グループの評価順序は、無効な結果セットをできるかぎり早く順序付けし、無効な交差の評価全体の速度および効率性を向上させます。

評価順序についてさらに学習するには、[評価順序](#)を参照してください。

リスト内の有効交差グループの位置を変更するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「有効な交差」をクリックします。

2. 「アクション」



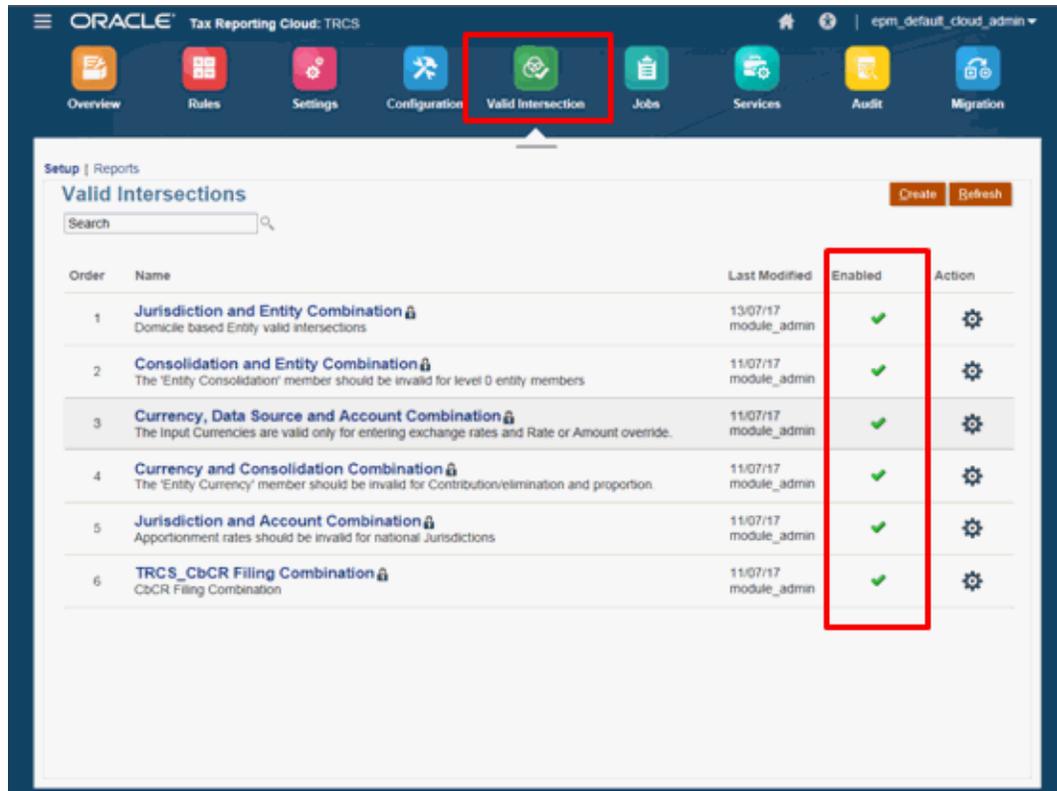
をクリックし、「上へ移動」または「下へ移動」を選択します。

有効交差グループの無効化および有効化

有効交差グループは、デフォルトで作成時に有効になります。有効交差グループを評価または使用しない場合、「有効な交差」タブでこれを無効化できます。有効な交差を無効にすると、フォームまたはビジネス・ルールを表示する際に、そのグループの有効交差ルールは適用されなくなります。無効化されている有効交差グループを再度有効化できます。

有効交差グループを無効化および有効化するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「有効な交差」をクリックします。



- 有効交差リストの「有効」列で、有効交差グループの横にあるチェック・マークをクリックし、グループを有効化または無効化します。

📌 ノート:

グループが有効化されている場合、チェック・マークは緑色です。

- 有効化されている残りのグループが、有効交差リストに正しい評価順序でまだリストされていることを確認します。そうではない場合、順序内で上または下に移動します。

有効交差グループの詳細の編集

有効交差グループの詳細を編集するには、メンバー・セクタでディメンション・メンバーを操作します。また、有効交差ルールで除外を定義できます。

有効交差グループの詳細を編集するには:

- ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「有効な交差」をクリックします。
- 編集する有効交差グループの名前をクリックします。

- ディメンションの詳細を編集するには、ディメンションの横の「下」をクリックして、有効交差ルールに対して含める、除外するまたは削除するメンバーを選択します。
 - 「編集」をクリックして「メンバー選択」ページを開き、有効交差ルールに含めるメンバーを選択します。メンバーまたは関数に入力することもできます。

- 「除外の追加」をクリックして、ルール内の除外を定義します。除外するメンバーを選択できます。たとえば、Q1の子を除外することにより、Q1の子を除く、年合計のすべての子を選択または含めることができます。
 - 「クリア」 をクリックして、選択をクリアします。
 - 有効交差グループからディメンションを削除するには、ディメンションの横の「下」をクリックして、「削除」をクリックします。
 - 有効交差グループからルールを削除するには、「削除」をクリックします。
 - 有効交差グループにディメンションまたはルールを追加するには、「ルールの追加」または「ディメンションの追加」をクリックします。
3. 「保存して閉じる」をクリックします。

有効交差グループの複製

有効交差グループの作成を高速化するために、既存の有効交差を複製し、編集できます。

有効交差グループを複製するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「有効な交差」をクリックします。
2. 複製する有効交差グループの右側で「アクション」をクリックし、「複製」を選択します。
3. 複製した有効交差グループを開き、編集します。
4. 必要に応じて、有効交差グループの順序を変更します。

有効交差グループの削除

グループを削除した後、有効交差グループの順序が変更されます。3つの有効交差グループがあり、順序内の2番目の有効交差グループが削除された場合、3番目の検証グループが2番目となります。

有効交差グループを削除するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「有効な交差」をクリックします。
2. 削除する有効交差グループの右側で「アクション」をクリックし、「削除」を選択します。
3. 必要に応じて、残りの有効交差の順序を変更します。

フォームでの有効交差の操作

有効交差を使用すると、該当する有効交差グループの定義に従い無効な交差のデータ入力を防ぐことができます。フォーム内で影響を受けるセルは、読取り専用の標準、

読取り専用の色コーディングで表示されます。無効な交差にカーソルを置くと、無効な交差として定義されているので、セルが読取り専用であることを示すツール・チップが表示されます。

有効交差グループは、フォームの視点およびページ軸に最初に適用されます。視点の交差がすべて無効の場合、警告メッセージが表示され、有効交差が選択されるまでフォームにはデータ・グリッドがレンダリングされません。

視点に有効交差がある場合、行と列は無効な交差でのデータ入力を制限するようにフィルタされます。フォームの「無効なデータの抑制」オプションが有効化されている場合、フォームでは無効な行または列(あるいはその両方)が必要に応じて抑制されます。

有効交差と無効交差で構成される行または列は、その交差がそれぞれ有効または無効として表示されます。無効な交差は、標準の読取り専用の網掛けで表示され、データ入力できません。

選択をクリアすることにより、フォームを閉じたり再度開いたりすることなく、視点をデフォルト(フィルタを解除したリスト)にリセットできます。選択をクリアして、他のディメンションに対するより多くの選択を開くこともできます。有効なメンバーを各ディメンションに選択する必要があるため、ディメンションがクリアされた状態ではフォームをレンダリングできません。

メンバー・セレクトアでは、無効なメンバーは有効交差ルールのために抑制されます。「無効なメンバーの表示」オプションを使用すると、メンバー・セレクトアで無効なメンバーを表示できます。無効なメンバーは表示されますが、選択できません。

 **ノート:**

有効交差グループは、ディメンション・メンバーに対してアクセス権を付与しません。有効交差グループは、ユーザーにすでに付与されているディメンション・メンバーの有効交差をさらに制限します。

表 5-6 有効交差が適用されている場合のフォームの動作

アクション	動作
フォームを開く	フォームは、フォーム定義での定義どおりにメンバーが選択されてレンダリングされ、ディメンションに対するユーザーのアクセス権が順守され、現在の選択として最近使用された有効交差グループが適用されます。

表 5-6 (続き) 有効交差が適用されている場合のフォームの動作

アクション	動作
視点ディメンションからメンバーを選択	<ul style="list-style-type: none"> • 視点でのメンバーの選択を有効化します • 視点ディメンション用のメンバー・セレクタで、残っている有効交差のフィルタ済みリストから選択できます。このリストは、他の視点ディメンションに選択されたメンバーに基づいています • ディメンションの選択時、有効交差グループに含まれているディメンションからメンバーを選択すると、有効交差グループに含まれているディメンションの残りのディメンション・メンバーが必要に応じて動的にフィルタされるため、視点ディメンション・メンバーが選択される順序を無視します • 無効なメンバーをディメンション・リストで非表示にする、または視点で選択できないようにするオプションを提供します • 選択をクリアすることにより、フォームを開いたり再度開いたりすることなく、フィルタをすべて解除したリストに視点をリセットする機能を提供します

 **ノート:**

Smart View のアド・ホック・フォームでは、有効交差グループに従って、ページまたは視点メンバーがフィルタされません。

「実行」を選択して、視点の選択内容に基づいてフォームをレンダリング。フォームの視点の右矢印をクリックすることも可能。

データを入力して保存

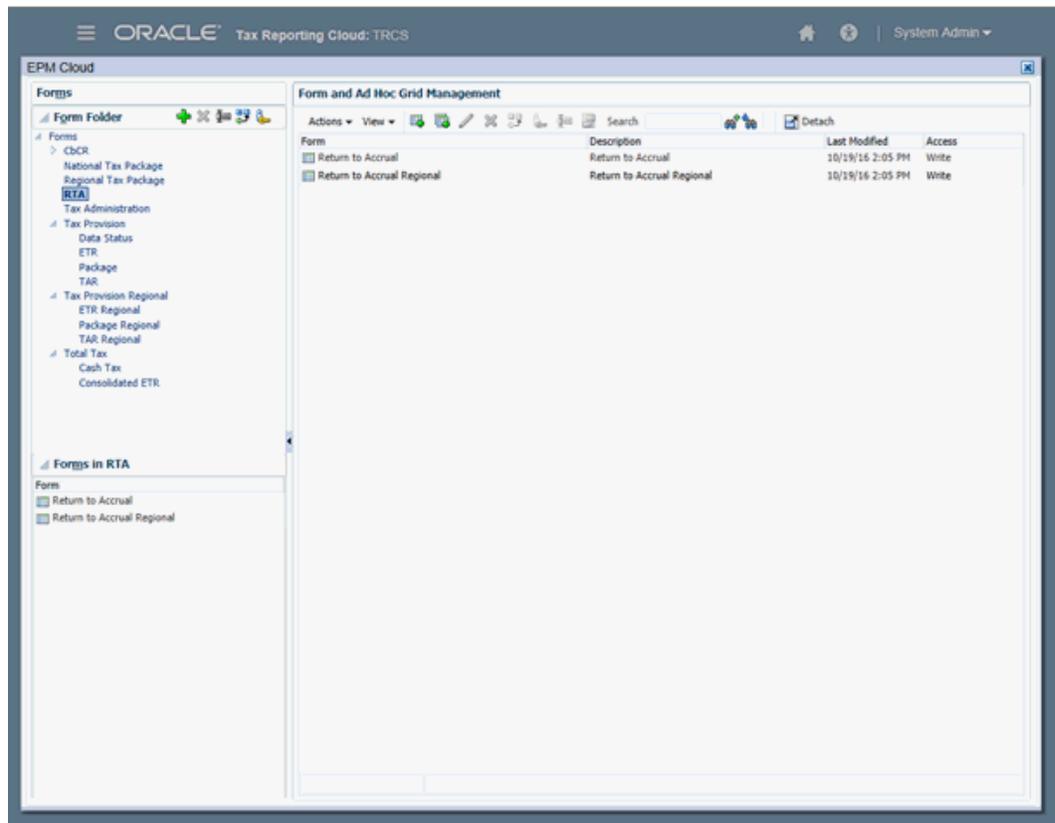
フォームは、有効な視点交差に基づいて定義どおりにレンダリングされます。
フォーム・データが入力および保存されます。

フォーム内の無効データの抑制

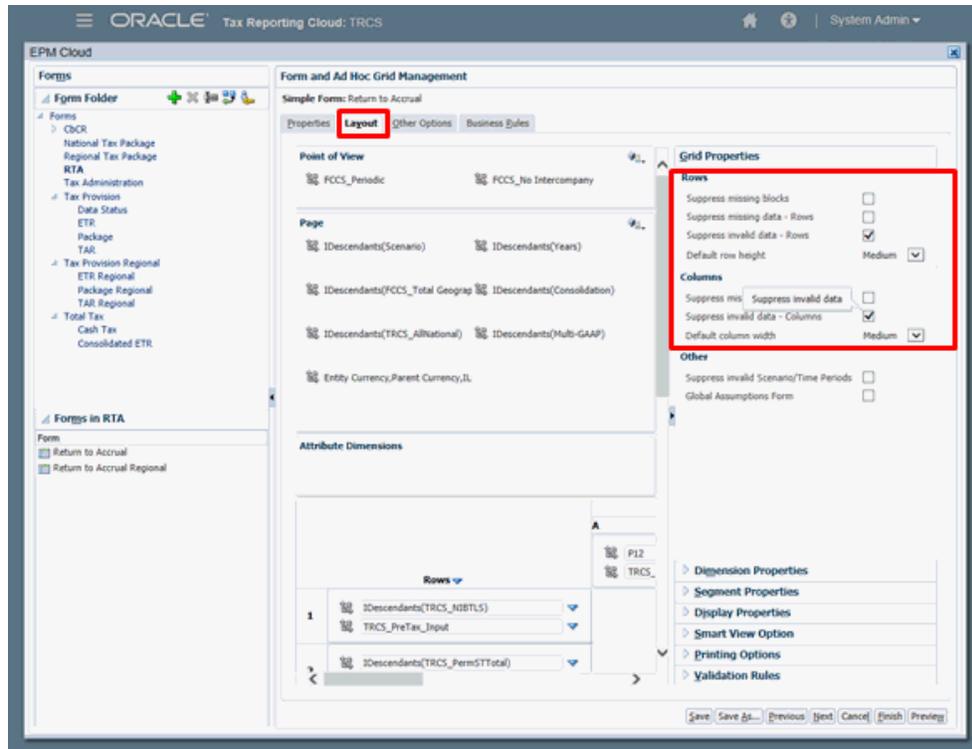
無効データの抑制により、無効データを含むフォームの行または列が非表示になります。このオプションを選択しない場合、システムで無効データを含むセルを含んでいる行または列が表示されます。無効なデータを含むセルは読取り専用です。

フォーム内の無効データを抑制するには:

1. ナビゲータの「設定管理」で「フォーム」をクリックします。



2. 「フォームとアド・ホック・グリッドの管理」パネルの「フォーム」で、開くフォームをクリックし、「レイアウト」をクリックします。



3. 「グリッドのプロパティ」の下の「無効なデータの抑制 - 行」または「無効なデータの抑制 - 列」、あるいはその両方を選択します。
4. 「保存」をクリックします。

無効な交差レポートの管理

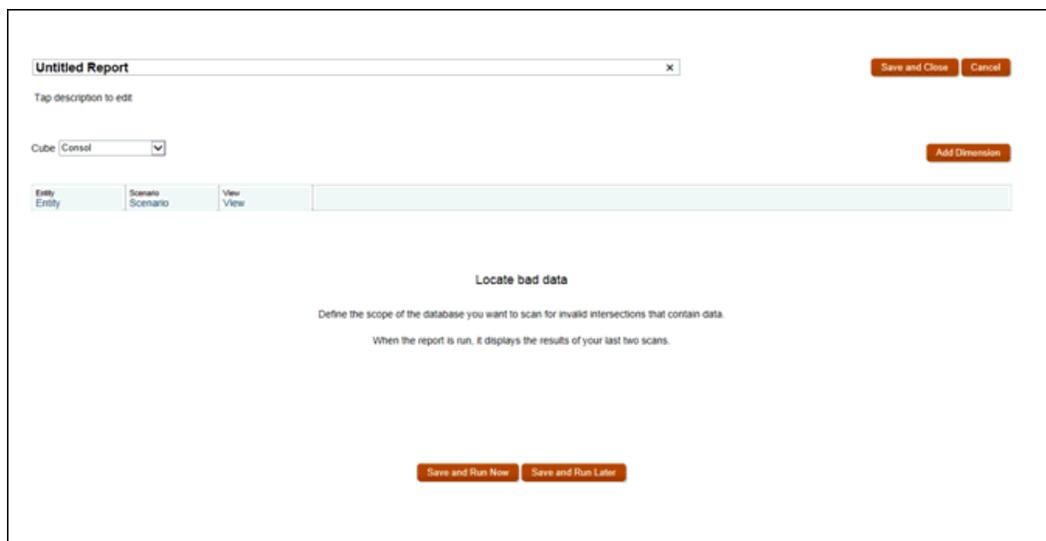
無効な交差レポートの作成

無効な交差レポートを作成するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「有効な交差」をクリックします。
2. 「レポート」タブをクリックします。
3. 「作成」をクリックします。



4. 「無題のレポート」画面でレポートの名前と説明を入力します。



5. 無効な交差を検索するためにスキャンする**キューブ**を選択します。
6. 「**エンティティ**」、「**シナリオ**」および「**ビュー**」をクリックし、スキャンに含めるメンバーを選択します。
7. **オプション**: レポートを今実行するか、後で実行するかのオプションを選択します。
8. **オプション**: レポートの基準を変更し、レポートを再実行します。
9. 「**保存して閉じる**」をクリックします。

無効な交差レポートの編集

無効な交差レポートを編集し、名前、説明およびレポート基準を変更できます。

無効な交差レポートを編集するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**有効な交差**」をクリックします。
2. 「**レポート**」タブをクリックします。
3. レポートのリストから、レポートを選択します。
4. 「**アクション**」  をクリックし、「**編集**」を選択します。
5. **オプション**: レポートの名前または説明を編集します。
6. **オプション**: 異なるレポート基準を選択します。
7. **オプション**: レポートを今実行するか、後で実行するかのオプションを選択します。
8. 「**保存して閉じる**」をクリックします。

無効な交差レポートの複製

無効な交差レポートを複製するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**有効な交差**」をクリックします。

2. 「レポート」タブをクリックします。
3. レポートのリストから、レポートを選択します。
4. 「アクション」  をクリックし、「複製」を選択します。
5. 「複製」ダイアログ・ボックスで新しいレポートの名前を入力し、「OK」をクリックします。

無効な交差レポートの実行

無効な交差レポートを実行するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「有効な交差」をクリックします。
2. 「レポート」タブをクリックします。
3. レポートのリストから、レポートを選択します。

ヒント:

レポートを検索するには、検索条件を入力して「検索」をクリックします。

4. 「アクション」

をクリックし、「実行」を選択します。

無効な交差レポートの削除

無効な交差レポートを削除するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「有効な交差」をクリックします。
2. 「レポート」タブをクリックします。
3. レポートのリストから、レポートを選択します。

ヒント:

レポートを検索するには、検索条件を入力して「検索」をクリックします。

4. 「アクション」

をクリックし、「削除」を選択します。

アプリケーションに関する推奨事項の表示

サービス管理者は、アプリケーションを最適化する方法(構成タスクの実行、代替変数の有効化など)に関する推奨事項を表示できます。推奨事項リストには、優先度、カテゴリ、モジュール、アーティファクト、推奨事項の説明、および実装方法の手順が含まれます。推奨事項を CSV ファイルにエクスポートすることもできます。

推奨事項ページには、最新の推奨事項でデータベースを更新するためにバックグラウンドで実行されるジョブを作成する**システムの再スキャン**・オプションが用意されています。ジョブ・コンソールで再スキャン・ジョブのステータスを確認した後、「**リフレッシュ**」をクリックして推奨事項ページのリストをリフレッシュできます。このページには、再スキャン・プロセスが最後に実行された日時を示すタイムスタンプも含まれます。

アプリケーションに関する推奨事項を表示するには:

1. 「**アプリケーション**」をクリックし、「**推奨事項**」を選択します。
2. 「**推奨事項の表示**」をクリックします。
3. 最新の推奨事項でデータベースを更新するには、**システムの再スキャン**をクリックします。

再スキャンはジョブとして起動され、データの量によっては時間がかかる場合があります。「ジョブ」コンソールでステータスを参照できます。

1. 「**リフレッシュ**」をクリックして、推奨事項のリストをリフレッシュします。
2. **オプション:** 推奨事項メッセージを CSV ファイルにエクスポートするには、「**エクスポート**」をクリックし、「**ファイルの保存**」を選択して、「**OK**」をクリックします。ファイルの保存場所を選択し、「**保存**」をクリックします

メタデータ検証

Tax Reporting では、潜在的なメタデータの問題を識別できるメタデータ・バリデータを使用できます。このバリデータによって、確認して実装できる警告および提案が推奨事項モジュールに表示されます。

「**エクスポート**」をクリックすると、すべての推奨事項をダウンロードできます。

「推奨事項」リストで、「優先度」ステータスは「高」、「中」または「低」、「カテゴリ」は「一般」、「モジュール」は「メタデータ」、「アーティファクト」は「キューブ名」(コンソール勘定科目、コンソール全ディメンションなどのディメンション名)としてマークされます。

Table 5-7 メタデータ検証

優先度	カテゴリ	モジュール	アーティファクト	推奨事項	実装方法
高	一般	メタデータ	Consol 勘定科目	次の TRCS_TempGSTotal、 TRCS_TempSTTotal、 TRCS_TaxLossesCFS Total、 TRCS_TaxCreditTotal 、TRCS_VATotal、 TRCS_RTempTotal、 TRCS_RTaxLossesPre CFSTotal、 TRCS_RTaxCreditTot al、TRCS_RVATotal お よび TRCS_RTaxAttribTot alのレベル0の子孫 には、CETR属性を割 り当てることができ ません: <listOfMembers>	TRCS_TempGSTotal、 TRCS_TempSTTotal、 TRCS_TaxLossesCFS Total、 TRCS_TaxCreditTotal 、TRCS_VATotal、 TRCS_RTempTotal、 TRCS_RTaxLossesPr eCFSTotal、 TRCS_RTaxCreditTot al、TRCS_RVATotal お よび TRCS_RTaxAttribTot alのレベル0の子孫 すべてで CETR 属性 を削除してくださ い。ここをクリック します。
高	一般	メタデータ	Consol 勘定科目	次の TRCS_TaxAccounts のレベル0の子孫に は、TaxType および TaxDataType 両方の 属性を割り当てる必 要があります: <listOfMembers>	TRCS_TaxAccounts のレベル0の子孫す べてに TaxType およ び TaxDataType 属性 を追加してください。
高	一般	メタデータ	Consol 勘定科目	次の TRCS_CurrentAddtlT otalのレベル0の子 孫は、 TRCS_CurrentAddtlE TRTotalの共有子孫で もある必要がありま す: <listOfMembers>	TRCS_CurrentAddtlT otalのレベル0の子 孫すべてを TRCS_CurrentAddtlE TRTotalの子孫として 共有してください。

Table 5-7 (Cont.) メタデータ検証

優先度	カテゴリ	モジュール	アーティファクト	推奨事項	実装方法
中	一般	メタデータ	<p>Consol および CbCR に対して実行されます</p> <p><DimensionName></p> <p>次のディメンションに対して検証が実行されます:</p> <ul style="list-style-type: none"> 勘定科目 増減 データ・ソース シナリオ 会社間 複数 GAAP 連結 管轄 エンティティ <p>Consol キューブに対してのみ検証が実行されます。</p> <p>この検証は、次のディメンションに対しては実行されません:</p> <ul style="list-style-type: none"> 年 期間 ビュー 通貨 	<p>次の共有メンバーはプライマリ・メンバーの前に置かれています:</p> <p><parentMemberName>.<sharedMemberName></p>	<p>共有メンバーをそれぞれのプライマリ・メンバーの後に移動してください。ここをクリックしてください。</p>
高	一般	メタデータ	<p>Consol エンティティ</p>	<p>次のレベル 0 のエンティティには、法定住所属性を割り当てる必要があります:<listOfMembers></p>	<p>法定住所属性をレベル 0 のエンティティすべてに追加してください。ここをクリックしてください。</p>

Table 5-7 (Cont.) メタデータ検証

優先度	カテゴリ	モジュール	アーティファクト	推奨事項	実装方法
高	一般	メタデータ	Consol エンティティ	親の税金計算属性が割り当てられた次の親エンティティには、法定住所属性を割り当て、「上位レベルのエンティティ入力」を許可」プロパティを有効にする必要があります。 す:<listOfMembers>	親の税金計算属性のあるすべてのエンティティに対して、法定住所属性を追加し、「上位レベルのエンティティ入力」を許可」プロパティを選択してください。ここをクリックしてください。
低	一般	メタデータ	Consol および CbCR に対して実行されます <DimensionName>	次のメンバーに同じ別名が設定されています:<aliasNameOfThe Member> : <memberNames>	リストされたメンバーの別名を更新してください。ここをクリックしてください。
低	一般	メタデータ	Consol および CbCR のすべてのディメンションに対して実行されます	示されたディメンションで、次のメンバーに同じ別名が設定されています:<aliasName> : <dimName1>=<memberName>, <dimName2>=<memberName>	リストされた各ディメンションでメンバーの別名を更新してください。ここをクリックしてください。
中	一般	メタデータ	年、期間、通貨を除く、Consol、CbCR および構成キューブのすべてのディメンションに対して実行されます。	動的計算データ・ストアを持つ次のレベル 0 の子孫にメンバー式が添付されています:<listOfMembers>	動的計算としてタグ付けされたレベル 0 のメンバーにデータをロードすることはできません。ここをクリックしてください



Note:

<listOfMembers>には、ランタイムで検証に失敗したすべてのメンバーが列挙されます。

Priority	Category	Module	Artifact	Recommendations	How to Implement
High	General	Metadata	Consol Account	The below level 0 descendants of TRCS_TempGSTotal and TRCS_TempSTTotal must not have the CETR attribute assigned: TempG50006	Remove CETR attribute for all level 0 descendants of TRCS_TempGSTotal and TRCS_TempSTTotal. For more details click here
High	General	Metadata	Consol Account	The below level 0 descendants of TRCS_CurrentAdditTotal must also be shared descendants of TRCS_CurrentAdditETRTotal: CurrentAdditManual001	Share all the Level 0 descendants of TRCS_CurrentAdditTotal as descendant of TRCS_CurrentAdditETRTotal. For more details click here
Low	General	Metadata	Consol Account	The following members have the same alias: General Business Credit : TaxCredit0002, TaxCredit0002 AccAlias : IncomeAccount, AccountMember Current Tax Charge : RCurrentAdditManual002...	Update the aliases for the members listed. For more details click here
Medium	General	Metadata	Consol Account	The below shared members are placed before the primary member: TRCS_TaxAccounts.PrimaryMember	Move the shared member(s) after its respective primary member. For more details click here
High	General	Metadata	Consol Entity	The below level 0 Entities must have the Domicile attribute assigned: FLE300 FLE400 FLE500	Add the Domicile attribute to all level 0 Entities. For more details click here
Low	General	Metadata	Consol All Dimensions	The following members have the same alias across the noted dimensions: Balance : Movement+BalanceMovement, Account=BalanceSheetAccount	Update the aliases for the members in each dimension listed. For more details click here

 **Note:**

- **プライマリ・メンバーの前に置かれた共有メンバー:**
 - 次のディメンションに対して検証が実行されます: 勘定科目、増減、データ・ソース、シナリオ、会社間、複数 GAAP、連結、管轄およびエンティティ(コンソール・キューブの場合のみ)
 - 次のディメンションに対して検証は実行されません: 年、期間、ビューおよび通貨
- **ディメンション内およびディメンション間での別名の重複:** すべてのディメンションに対して検証が実行されます。

関連項目: [メタデータ検証メッセージ](#)

アクティビティ・レポートとアクセス・ログの操作

アクティビティ・レポートについて

アクティビティ・レポートは毎日自動的に生成され、これによってサービス管理者はアプリケーションの使用状況を把握できます。アプリケーションのパフォーマンスに影響を与える計算スクリプトおよびユーザー要求を特定し、アプリケーションの設計を合理化することにも役立ちます。さらに、レポートを使用してサービスの使用状況とパフォーマンスを過去のレポートと比較できます。このレポートに含まれる情報には、次のようなものがあります。

- サービスにアクセスしたユーザーの数。
 特定日のユーザー数に対する平均使用期間に加え、レポートでは過去 1 週間、過去 7 日間、過去 30 日間にログインした 1 日あたりのユーザー数も表示されます。
- 完了に 10 秒以上かかった UI 要求の比率と、完了に時間がかかった要求の上位 7 位
 UI リクエストは、サインイン、データのロード、フォームの操作およびルールの検証などのユーザー・アクションです。低パフォーマンス下位 30 位のセクションでは、ユーザー、アクションの期間、そのユーザーが実行したアクティビティ、およびユーザーが表示した画面が示されます。
- 実行別のユーザー・インタフェース上位 15 位
- 時間別の平均サービス・レスポンス時間および使用期間別のユーザー数

- 期間別のアクティブなユーザーと非アクティブなユーザー 上位 10 位
- 1 分以上かかったパフォーマンスの低い計算スクリプト・コマンドの 下位 5 位
- 時間別の計算スクリプト上位 10 位
この表は、実行に最も長い時間がかかったビジネス・ルールを示しています。提供される情報には、計算スクリプトの名前、スクリプトが実行された回数および期間が含まれます。
- サポート対象外のブラウザのバージョンと、それを使用したユーザーの数。
- サービスへのアクセスに使用されたブラウザのバージョンと、それを使用したユーザーの数。
- レポート期間に発生したアプリケーション設計の変更
この項では、アプリケーションの設計変更(存在する場合)の監査証跡を示します。アプリケーション名、変更された設計アーティファクトのタイプと名前、アーティファクトを変更したいユーザーの ID、および変更の日時などの情報があります。データ変更は、この表には反映されません。
- 使用されている Oracle Smart View for Office のバージョンと、それを使用したユーザーの数
- 最新バージョンの Smart View を使用していない、最もアクティブな Smart View ユーザー上位 10 位

 **Note:**

アプリケーション・アクティビティ・レポートでは、管理者のタイム・ゾーン(メンテナンス・ウィンドウ画面で設定)を使用します。

アクセス・ログについて

サービスにアクセスした IP アドレスとそのアクティビティの詳細が含まれたカンマ区切り値(CSV)ファイルをダウンロードできます。アクセス・ログは毎日生成されます。アクセス・ログに含まれる情報には、日時、ユーザーがアクセスしたリソース、ユーザー・アクティビティの長さ、ユーザーがサービスに接続した IP アドレス、およびユーザーがサービスで実行したアクションなどがあります。

アクティビティ・レポートとアクセス・ログの保持ポリシー

アクティビティ・レポートとアクセス・ログは、過去 60 日間分のみ保持されます。監査用に必要な場合は、downloadfile コマンドを使用して、送信ボックスからローカル・コンピュータにアクティビティ・レポートおよびアクセス・ログをダウンロードします。**Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作のコマンド・リファレンス**を参照してください。

アクティビティ・レポートの表示およびアクセス・ログのダウンロードを行うには:

1. サービスにアクセスします。
2. 「アプリケーション」、「概要」、「アクティビティ・レポート」の順にクリックします。
3. アクションを実行します(次から選択):

- アクティビティ・レポートを開くには、表示するレポートの日付を示す行の「**アクティビティ・レポート**」の下の「**表示**」をクリックします
- アクセス・ログをダウンロードするには、ダウンロードするログの日付を示す行の「**アクセス・ログ**」の下の「**ダウンロード**」をクリックします

6

アプリケーションおよびシステムの設定の管理

関連トピック

- [アプリケーション設定の指定](#)
- [アプリケーション所有権の管理](#)
- [Enterprise Performance Management Cloud デプロイメントでのフォントのアップロード](#)
- [アプリケーションの外観のカスタマイズ](#)
- [通知用電子メールの設定](#)
- [変数の操作](#)
- [お知らせの作成](#)
- [アーティファクト・ラベルの指定](#)

アプリケーション設定の指定

「アプリケーション設定」ページを使用してビジネス・プロセスのプリファレンスを設定します。

ビジネス・プロセス設定を設定するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」、「**設定**」の順にクリックします。
2. 次のアプリケーションの設定にデフォルトを指定します。

表 6-1 アプリケーション設定

アプリケーション設定	説明
別名設定	別名テーブルの選択「 メンバーのラベルの表示形式 」で、アプリケーション全体のメンバー・セレクトタにメンバー・データのタイプが表示されるようにするオプションを選択し、表示するラベルを入力します。 <ul style="list-style-type: none">• デフォルト - フォーム、グリッドまたはディメンション設定によって決定されるデータ• メンバー名 - メンバー名のみ• 別名 - メンバーの別名のみ(定義されている場合)• メンバー名: 別名 - 名前に続けて別名(定義されている場合)• 別名: メンバー名 - 別名(定義されている場合)に続けて名前

表 6-1 (続き) アプリケーション設定

アプリケーション設定	説明
数値のフォーマット	<p>次のフォーマット・オプションを設定します:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 3桁ごとの区切り文字(なし、カンマ、ドットまたはスペース) • 小数点(ドットまたはカンマ) • 負数の表示(数値の前または後にマイナス符号を付けるか、数値をカッコで囲む) • 負数の表示色(黒または赤) <p>「アプリケーション設定」で数値のフォーマットを変更できます。選択した結果は、現在のアプリケーションでアクセス権のあるすべてのフォームのすべての通貨に適用されます。これらの選択は、サービス管理者によって設定された個別の通貨設定を上書きします。</p>
承認	<p>別名を表示するか、開始されていない承認ユニットを表示するか、承認通知で別名として承認ユニットを表示するかどうかを選択します。</p>
通知	<p>タスク・リスト、承認およびジョブ・コンソールで通知を有効化します。</p>
デジタル・アシスタント設定	<p>Oracle EPM Digital Assistant の構成設定を指定します。</p> <p>ノート: これらの設定は、デジタル・アシスタントを使用できるようにするための大きな構成プロセスの一部です。デジタル・アシスタントを使用する前に、構成手順を完了する必要があります。<i>Oracle Cloud Enterprise Performance Management デジタル・アシスタント・スタート・ガイド</i>の EPM デジタル・アシスタントの実装(管理者)を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • チャンネル ID - デジタル・アシスタントの Oracle Web チャンネルを作成したときに生成されたチャンネル ID を入力します。 • サービス名 - デジタル・アシスタント URL を入力します。これは、サービスにログインしたときに表示される Oracle Digital Assistant サービス URL です。http://または https://を前に付けずに URL を入力します。 <p><i>Oracle Cloud Enterprise Performance Management デジタル・アシスタント・スタート・ガイド</i>の EPM デジタル・アシスタントの使用の開始も参照してください。</p>

表 6-1 (続き) アプリケーション設定

アプリケーション設定	説明
ページ	<p>ページでのメンバーのインデントおよびページ・ドロップダウンのアイテム数の設定に対するデフォルトを設定します。</p> <div style="border: 1px solid #0070C0; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p> ノート:</p> <p>「ページ」ドロップダウンの項目数 オプションを使用すると、メンバー・リストを短くできるため、「検索」ボックスが見やすくなります。たとえば、リストを 10 メンバーに減らすと、スクロールしなくても「検索」ボックスが表示されます。</p> </div>

表 6-1 (続き) アプリケーション設定

アプリケーション設定	説明
<p>その他オプション</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 日付フォーマット - 日付フォーマットを選択するか、「自動検出」を選択してシステムのロケール設定を使用します。 • 属性ディメンション日付フォーマット - 属性ディメンションの日付フォーマットを選択します。 • 部分グリッド・フェッチ・サイズ - フォームが大きく、開くのに長時間かかる場合、このオプションを使用してフォームの一部を開きます。開く行および列の数をカンマ(,)区切りで入力します。 • Smart View でアプリケーション管理オプションを抑制 - 新しいアプリケーションが作成されると、デフォルトですべてのアプリケーション管理オプションが Smart View で管理者に表示されます。アプリケーション管理オプションを非表示にするか表示するかを選択できます。「はい」を選択すると、アプリケーション・オプションは Smart View に表示されません。「いいえ」を選択すると、アプリケーション・オプションが Smart View に表示されます。 • アド・ホック読取り専用役割のデータ・ロードの有効化 - デフォルトは「いいえ」です。アド・ホック読取り専用役割を持つユーザーのデータ・ロードを有効にするには、「はい」を選択します。 • 連結ルール・ロギングの有効化 — 連結ルールのロギングを有効にする場合に選択します。 • ルールがバックグラウンドで実行されるまでの秒数の設定—0 から 600 までの値を入力します。 • クライアント・ログ・レベル - ログに必要な詳細のレベルを設定します。接続したデータ・ソースからのエラー・メッセージ、警告メッセージおよび情報メッセージはすべて発生時に表示されますが、どのメッセージ・レベルのものをブラウザ・コンソール・ログ・ファイルに記録するかは選択できません。この設定は、Oracle JET テクノロジを使用する Web インタフェースでのみ使用できます。表示および記録するメッセージ・レベルの選択: <ul style="list-style-type: none"> – 「なし」: すべてのメッセージを抑制します。 – 「情報」: 警告およびエラーを含む、すべてのメッセージ — 問題を診断する際に推奨。パフォーマンスに悪影響を与える可能性があります。 – 「警告」: 警告レベルおよびエラー・レベルのメッセージ。パフォーマンスに悪影響を与える可能性があります。

表 6-1 (続き) アプリケーション設定

アプリケーション設定	説明
	<ul style="list-style-type: none"> - 「エラー」: エラー・メッセージのみ — 一般的な使用に推奨。パフォーマンスへの影響が最小になります。 - 「一般」: 情報レベルのメッセージとすべてのサーバー・レスポンスおよびリクエスト。パフォーマンスに悪影響を与えます。 • アド・ホックのユーザー式の有効化: 「はい」を選択すると、アド・ホック・グリッドでメンバー式が添付されたセルにカーソルを置いたときに、セルに関連付けられているメンバー式が表示され、計算をオンザフライで実行できます。 • 「セグメント」ドロップダウンでの除外メンバーのフィルタ処理—デフォルトは「はい」です。「いいえ」を選択すると、フォームで行のドロップダウン POV に除外メンバーが表示されます。

3. 次の「**システム設定**」のオプションを指定します。

表 6-2 システム設定

システム設定	説明
ユーザーのフル・ネームの表示	選択すると、ユーザーのフル・ネームが表示されます(Victoria Hennings など)。クリアすると、ユーザーの ID(たとえば、VHennings)が表示されます。
キューブのリフレッシュに共有メンバーを含める	選択すると、共有メンバーが基本メンバーに割り当てられたセキュリティ・アクセスを継承します。 選択を解除すると、共有メンバーは、基本メンバーと共有メンバーの親に割り当てられているアクセスの組合せに基づいて、最大のセキュリティ・アクセスを継承します。
電子メールの文字セット	たとえば、 UTF-8 、「 地域設定 」などがあります。
ビジネス・ルール通知	「 はい 」に設定すると、(Calculation Manager で通知が有効になっている)ルールが完了するか、エラーが発生した場合にユーザーまたはグループに通知されます。 ユーザーに通知 で、通知するユーザーまたはグループを選択します。

表 6-2 (続き) システム設定

システム設定	説明
<p>アド・ホック・フォームでの共有メンバーに対するドリルダウンを許可</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 「はい」では、アド・ホック・グリッドで共有メンバーに対するドリルダウンが許可されます。 「はい」に設定すると、「ベースのすべてのレベルにドリル」チェック・ボックスが表示されます。 このオプションが「はい」に設定されている場合、ブロックの抑制はサポートされません。ブロック抑制を無効にするには: <ul style="list-style-type: none"> - Oracle Smart View for Office の場合、「オプション」の「データ・オプション」で、「欠落ブロックの抑制」を無効にします。 - Web の場合、「プリファレンス」の「アド・ホック・オプション」で、「行で欠落しているブロック」を無効にします。 • いいえの場合、アドホック・グリッドでの共有メンバーに対するドリルダウンは無効です。 <p>共有メンバーの複数セルのズーム・インはサポートされていません。Oracle Smart View for Office の操作の EPM Cloud の共有メンバーのズーム・インも参照してください。</p>
<p>ベースのすべてのレベルにドリル</p>	<p>アド・ホック・グリッド・ユーザーは、共有メンバーからベース階層内のすべてのレベルにドリルダウン(またはズーム・イン)できます。このチェック・ボックス・オプションは、標準モードのアプリケーションにのみ適用されます。</p> <p>「ベースのすべてのレベルにドリル」チェック・ボックスは、「アド・ホックでの共有メンバーに対するドリルダウンを許可」が「はい」に設定されている場合に表示されます。</p> <p>共有メンバーは、多くの場合、その基本階層の親メンバーです。「ベースのすべてのレベルにドリル」チェック・ボックスを有効にすると、ユーザーはズーム・オプション「すべてのレベル」または「最下位レベル」を使用して、共有メンバーから基本階層にドリルダウンできます。</p> <p>「ベースのすべてのレベルにドリル」チェック・ボックスが無効になっている場合、ユーザーは、「次のレベル」ズーム・オプションを使用して一度に 1 レベルずつ基本階層の各レベルにズーム・インできます。</p>

表 6-2 (続き) システム設定

システム設定	説明
承認プロセスの電子メールの最小化	承認の使用時にユーザーが受信する電子メールの数を減らします。デフォルトは「いいえ」です。 「はい」を選択すると、ユニットの新しい所有者にメール通知(承認された親エンティティに関する)が 1 通のみ送信されます。ユニット階層のすべての子エンティティに個別の電子メール通知が送信されるわけではありません。「いいえ」を選択すると、親ノードで設定されている所有者が、選択したノートについてのメールも、各子ノードについてのメールも受信します。
アプリケーションの使用可能	バックアップ中などの管理モードのときに、ユーザーがアプリケーションにアクセスできるかどうかを判別します。「管理者」を選択すると、非管理者ユーザーがアプリケーションにログオンしている場合、ユーザーは強制的にシステムからログオフされ、ログオンできなくなります。すべてのユーザーがアプリケーションにアクセスできるように戻すには、「すべてのユーザー」を選択します。
アプリケーションの所有者の割当	アプリケーションの所有権を別の管理者に割り当てます。
代替変数の表示を使用可能にする	ユーザーが、ビジネス・ルールで実行時プロンプトへの応答時に「メンバー選択」ダイアログ・ボックスに代替変数をどう表示させるかを次のように設定します。「すべて表示」では、すべての代替変数が表示されます。「何も表示しない」では、代替変数は表示されません。「フィルタの使用可能」では、実行時プロンプトに有効な代替変数のみが表示されます。
Smart View 抑制の動作	行と列にデータの欠落やゼロがある場合、Oracle Smart View for Office で、抑制動作を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> レガシーを選択すると、「データなし」、「欠落」または「ゼロ」のいずれか(両方ではない)を含む行、列、またはその両方が抑制されます。 標準を選択すると、「データなし」、「欠落」と「ゼロ」の両方を含む行、列、またはその両方が抑制されます。

表 6-2 (続き) システム設定

システム設定	説明
Smart View アド・ホック動作	<p>新規および再作成されたアプリケーションはすべて、自動的に「標準」に設定されます。</p> <p>既存および移行されたアプリケーションの場合は、Oracle Smart View for Office で拡張アド・ホック機能および動作を有効にするかどうかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ネイティブ(デフォルト) - 拡張アド・ホック機能を有効化しません。 すべての Smart View リリースでサポートされます。 • 標準 - 拡張アド・ホック機能を有効化します。 リリース 11.1.2.5.900 以降の Smart View でサポートされます。 <p>標準モードで使用可能な拡張アド・ホック機能の完全な説明は、Oracle Smart View for Office の操作の EPM Cloud での Smart View の動作オプションを参照してください。</p>
リフレッシュ時にすべての別名表を使用	<p>アド・ホック・グリッドに入力された別名を、現在選択されている別名表を使用して評価するか、すべての別名表に対して評価するかを指定します</p> <ul style="list-style-type: none"> • はい: 入力、すべての別名表およびすべてのメンバー名に対して評価されます。 • いいえ: 入力、現在選択されている別名表およびすべてのメンバー名に対して評価されます。これがデフォルトの設定です。 <p>入力が有効なメンバー名または別名として識別できなかった場合、その入力はコメントとして表示されます。</p>
日次メンテナンス時に増分データ・インポートのために EPM Cloud スマート・リストのテキスト・データをエクスポート	<p>日次メンテナンス・プロセス中に完全なエクスポートを実行するか、アプリケーション・バックアップを作成するかを選択します:</p> <ul style="list-style-type: none"> • はい(デフォルト) - 完全なエクスポートを実行することで、スマート・リスト・データを含むデータをアプリケーションに増分的にインポートできます(このオプションではメンテナンス・プロセスの時間が長くなる可能性があります) • いいえ — メンテナンス・プロセス時にアプリケーションのバックアップを作成することで、全面的な復元の一部としてデータを使用できます

表 6-2 (続き) システム設定

システム設定	説明
デフォルトで勘定科目をリンク	<p>ブロック・ストレージ(入力)キューブの場合、デフォルトで勘定科目メンバーを相互参照リンクするかどうかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • はい(デフォルト) - 相互参照は勘定科目メンバーで作成され、ビジネス・プロセスは以前のリリースと同じように機能します。 • いいえ — 相互参照は勘定科目メンバーで作成されず、ビジネス・プロセスのパフォーマンスを向上できます。「いいえ」を選択すると、「キューブのリフレッシュ」を実行した後、勘定科目メンバーの既存の相互参照はすべて削除され、非ソース・キューブではソース・キューブのデータが表示されなくなります。
属性ディメンション並替えしきい値	<p>0 から 500 までのしきい値を入力します(500 がデフォルト値です)。</p> <p>属性ディメンションについては、特定の親の下のメンバー数が、指定したしきい値を超えると、メタデータのロード中ではなく、ロードの終了時にメンバーが並べ替えられます。属性ディメンションの特定の形状によっては、この数値を調整すると、パフォーマンスに影響が生じることがあります。一般に、属性ディメンションのロード時間が許容可能なレベルを下回らないかぎり、この設定は無視できます。</p>
レポート・オプションの設定	<p>「レポート設定」をクリックします。「レポート設定」から、レポートの作成に使用する TrueType フォントをアップロードできます。Enterprise Performance Management Cloud デプロイメントへのフォントのアップロードを参照してください。</p>

4. 「**保存**」をクリックして、アプリケーション設定を保存します。

アプリケーション所有権の管理

アプリケーションを作成したサービス管理者には、アプリケーション所有者機能が自動的に割り当てられます。アプリケーション所有者の役割を持つサービス管理者が削除された場合や、ユーザーに事前定義された役割の割当てがダウングレードされた(例: サービス管理者からパワー・ユーザーなど)場合、アプリケーション所有者の役割は、アプリケーションで次に(アルファベット順)使用可能なサービス管理者ユーザーに再割当てされます。その後、現在のアプリケーション所有者ユーザーの役割が削除または変更されて、アクセス制御と同期されます。

使用可能なサービス管理者がない場合、サービス管理者ユーザーの削除や役割の変更は行われません。問題を解決するための以降の手順について **Oracle** からご連絡します。

任意のサービス管理者が、「**システム設定**」を使用して、アプリケーション所有者の役割を任意の使用可能なサービス管理者に引き継いだり再割当てできます。

関連項目: [アプリケーション設定の指定](#)

Enterprise Performance Management Cloud デプロイメントへのフォントのアップロード

会社でレポートの作成に使用するいずれかの TrueType フォントをレポート・デザイナーがアップロードすることをお勧めします。「**アプリケーション設定**」を使用して、個々のフォント・ファイルまたは複数の TrueType フォントが格納された zip ファイルを「**フォント**」フォルダにアップロードできます。

フォント・ファイルは TrueType フォントである必要があります。フォント・フォルダ構造にすでに存在するファイルはアップロードできません。重複するフォントをアップロードすると、フォント・ファイルが重複する(または無効な)ことを示すエラー・メッセージが表示されます。複数のフォントを zip ファイルでアップロードした場合は、他の有効なファイルすべてがロードされます。

フォントをアップロードするときには、フォント・ファミリー自体の一部である「**標準**」、「**斜体**」、「**太字**」、「**太字斜体**」フォントなどのバリエーションがそのフォントにあるかどうかを確認する必要があります。この場合、システム内で使用される標準フォント・ファイルをアップロードするのではなく、完全なフォント・ファミリーを zip ファイルとしてアップロードすることをお勧めします。

フォント・ファミリーとそのバリエーションの詳細は、[Microsoft 社のフォント・ライブラリ](#)を参照してください。

Enterprise Performance Management Cloud のデプロイメントにフォントをアップロードするには:

1. Oracle Enterprise Performance Management Cloud サービスから、「**アプリケーション**」、「**設定**」の順にクリックします。詳細は、[アプリケーション設定の指定](#)を参照してください。
2. レポート・オプションを指定するには、**レポート・オプションの設定**から「**レポート設定**」をクリックします。
3. 「設定」ダイアログで、**フォントの管理**をクリックします。
4. 「フォント」ダイアログで、

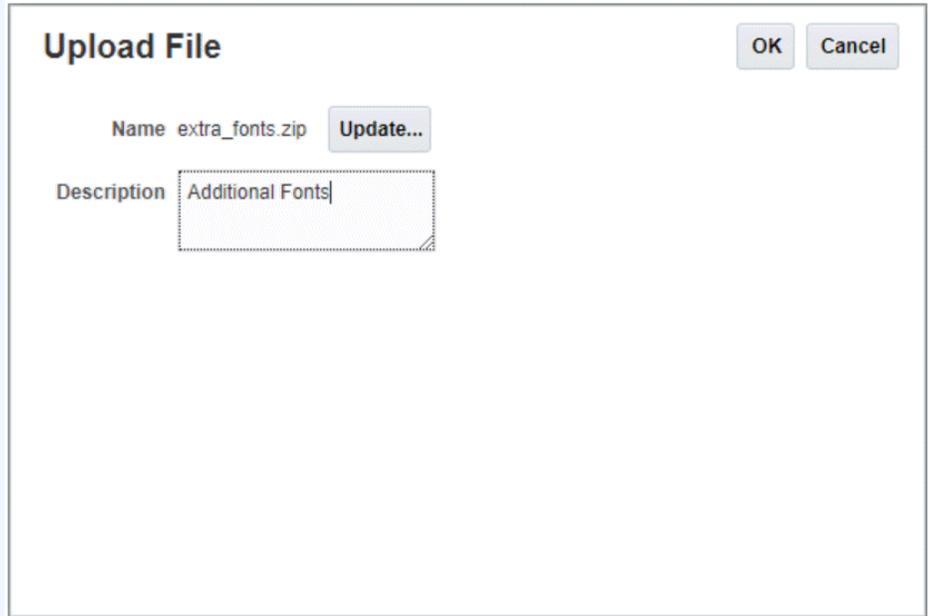
をクリックし、「**ファイルのアップロード**」を選択します。
5. 「ファイルのアップロード」ダイアログで「**参照**」をクリックして、アップロードする TrueType フォントに移動し、「**OK**」をクリックします。

ノート:

複数のフォントをアップロードする場合は、zip ファイルを作成します。

 ノート:

フォント・ファイルのサイズによっては、アップロードの実行に時間がかかる可能性があることに注意してください。



The screenshot shows a dialog box titled "Upload File". In the top right corner, there are "OK" and "Cancel" buttons. The main area of the dialog contains a "Name" field with the text "extra_fonts.zip" and an "Update..." button to its right. Below the "Name" field is a "Description" field with the text "Additional Fonts".

アプリケーションの外観のカスタマイズ

外観ページで、Oracle Enterprise Performance Management Cloud 環境の全般的なルック・アンド・フィールを変更できます。レッドウッド・エクスペリエンスを有効にすると、新しいアプリケーションのルック・アンド・フィールが提供されるのみでなく、動的タブなど、他のテーマでは使用できない特定の機能も含まれています。レッドウッド・エクスペリエンスを使用しないことを選択した場合は、かわりに、様々な背景色やアイコン・スタイルなど、事前定義されたクラシック・テーマのリストから選択できます。ブランド・ロゴと背景イメージをホーム・ページに追加して、ビジネス・プロセス名を非表示にすることもできます。

 ノート:

- ビジネス・プロセスの外観をカスタマイズするには、サービス管理者である必要があります。
- 「**ユーザー・プリファレンス**」でプロファイル・ピクチャを設定して、ホーム・ページの「お知らせ」パネルの上部に表示できます。「**ツール**」に続いて、「**ユーザー・プリファレンス**」をクリックします。詳細は、*Tax Reporting* の操作の [プロファイル・ピクチャの設定](#) を参照してください。

表示の外観をカスタマイズするには:

1. ホーム・ページで「ツール」をクリックし、「外観」をクリックします。
2. 次のカスタマイズ・オプションから選択します:
 - **レッドウッド・エクスペリエンスの有効化**—最新のユーザー・エクスペリエンスを利用し、レッドウッド・エクスペリエンスでのみ使用可能な機能を利用する場合に選択します。このオプションを無効にすると、「テーマ」オプションが表示されます。
 - **テーマ**—「レッドウッド・エクスペリエンスの有効化」オプションの選択を解除した場合のみ使用可能になります。事前定義されたクラシック・テーマのリストからオプションを選択します。
 - **「ロゴ・イメージ」および「背景イメージ」**—事前定義された Oracle ロゴとテーマベースの背景イメージを独自のイメージに置き換えます。「ファイル」を選択し、ローカルに保存されているカスタム・イメージのファイルを選択するか、「URL」を選択してカスタム・イメージの URL を選択します。サポートされているグラフィック形式は、.jpg、.png または.gif であり、ファイル・アップロードは 5MB に制限されています。テーマベースのロゴおよび背景イメージを選択するには、「事前定義」を選択します。
 - **ビジネス・プロセス名の表示**—デフォルトでは、ビジネス・プロセス名は、ホーム・ページのロゴの横と、ブラウザのタブを開いたときのタブに表示されます。「いいえ」が選択されている場合、ホーム・ページではビジネス・プロセス名が非表示になり、ブラウザのタブには「Oracle Applications」が表示されます。

ノート:

- 事前定義済テーマを編集することも、削除することも、カスタム・テーマを作成することもできません。
- ロゴおよび背景イメージの両方をカスタマイズできます。幅 125px、高さ 25px より小さいロゴ・イメージは、スケーリングなしで収まります。大きいイメージ・ロゴの場合、そのイメージが歪みなしでスケーリングされるように、5:1 の比率を維持することをお勧めします。

背景イメージのデフォルト・サイズは 1024x768 です。これより大きな背景イメージを使用できますが、画面の解像度設定に適合するようにイメージがスケーリングされ、イメージが水平方向に中央揃えされます。背景イメージをブラウザとモバイル・デバイスの両方に適合させる場合、最大画面(または最高解像度のデバイス)に適合するようにイメージをサイズ調整することをお勧めします。
- カスタムの背景イメージを使用しているお客様は、新しいテーマに切り替えるとき、アイコンおよびラベルの色のコントラストが適切であることを確認する必要がある場合があります。解決するには、異なるテーマまたは適切な背景を選択することを検討してください。

3. 「保存」をクリックします。
4. 更新内容を確認するには、ビジネス・プロセスをサインアウトしてから再度サインインします。

通知用電子メールの設定

タスク・リスト、承認およびジョブ・コンソールで発生した変更を電子メールでユーザーに知らせる通知を設定できます。タスク・マネージャの通知は、通知を起動するイベントの発生した翌日に、まとめてユーザーに送信されます。電子メールが設定され、通知が有効化されると、ユーザーが承認ユニットの所有者になったときや、確認アクションを通知するユーザーとして指定されたときに、ユーザーに通知が行われます。

通知は、次の場合に送信されます：

- 遅延通知 - 遅延通知は、タスクの期限日の翌日にユーザーに送信されます。
- ステータス変更通知 - タスクの作業準備が完了したという通知が、タスク・ステータスの変更時に送信されます。
- 期限日リマインダ - リマインダは、タスクの期限日の指定した日数前にユーザーに送信されます。

通知を非アクティブにするには、「通知」チェック・ボックスをクリアし、「通知する」に「なし」を選択します。

電子メール通知を設定して有効化するには：

1. ホーム・ページで、**ツール**、「**ユーザー・プリファレンス**」の順にクリックします。
2. 「**通知**」をクリックします。

The screenshot shows the 'Preferences' page with the 'Notifications' section active. The left sidebar has 'Notifications' highlighted. The main content area includes an 'Email Address' field with the value 'name@email.com', a 'Use Administrator's Settings' checkbox, and three checked notification categories: 'Task Lists', 'Approvals', and 'Job Console'. Below these are 'Email Start Time' and 'Email End Time' dropdowns, both set to '12:00 AM'. A table lists various notification types and their corresponding 'Notify Me' frequencies.

Notification Type	Notify Me
Late Notification	Once a day
Financial Close Cloud Service	Once a day
You are the task approver and task approver is late	Once a day
You are the task assignee and task assignee is late	Once a day
You are the task owner and task assignee is late	Once a day
You are the task owner and task approver is late	Once a day
Status Change Notification	Mixed
Due Date Reminder Notification	Once a day

3. オプション: 管理者の場合は、「**管理者の設定を使用**」を選択できます。
4. **電子メール・アドレス**に、電子メール・アドレスを入力します。
5. 「**通知**」で、通知を送信するアプリケーション更新を選択します。
 - **タスク・リスト**

- 承認
 - ジョブ・コンソール
6. 「電子メール開始時間」 および 「電子メール終了時間」 を選択します。
 7. 「通知タイプ」 で通知のタイプを選択し、ビジネス・プロセスを展開して、通知を受け取るユーザーのオプション(例: あなたはタスク承認者です。タスク承認者が遅延しています)を選択します。
 8. 「通知する」 で、ドロップダウン・リストから通知の送信頻度を選択します:
 - 1日に1回
 - 2時間ごと
 - 3時間ごと
 - 4時間ごと
 - 6時間ごと
 - 混在
 - なし - (ステータス変更通知および期限日リマインダに適用)
 9. 「保存」 をクリックします。

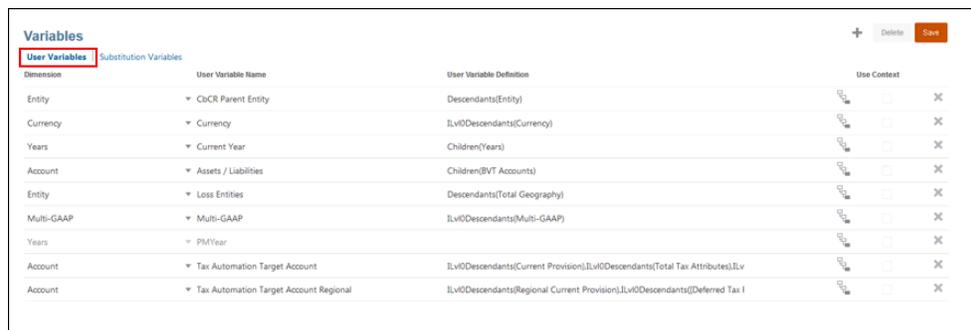
変数の操作

ユーザー変数の作成

ユーザー変数はフォームでフィルタとして機能し、ユーザーは部署、特定の時間枠、勘定科目などの特定のメンバーのみに集中できます。ユーザー変数は、管理者が作成します。

ユーザー変数を作成するには

1. ホーム・ページで 「ツール」 を選択し、 「変数」 を選択します。
2. 「ユーザー変数」 タブを選択します。



Dimension	User Variable Name	User Variable Definition	Use Context
Entity	↳ CbCR Parent Entity	Descendants(Entity)	🔍 📄 ✕
Currency	↳ Currency	ILvIDDescendants(Currency)	🔍 📄 ✕
Years	↳ Current Year	Children(Years)	🔍 📄 ✕
Account	↳ Assets / Liabilities	Children(BVf Accounts)	🔍 📄 ✕
Entity	↳ Loss Entities	Descendants(Total Geography)	🔍 📄 ✕
Multi-GAAP	↳ Multi-GAAP	ILvIDDescendants(Multi-GAAP)	🔍 📄 ✕
Years	↳ FY/Year		🔍 📄 ✕
Account	↳ Tax Automation Target Account	ILvIDDescendants(Current Provision),ILvIDDescendants(Total Tax Attributes),ILv	🔍 📄 ✕
Account	↳ Tax Automation Target Account Regional	ILvIDDescendants(Regional Current Provision),ILvIDDescendants(Deferred Tax I	🔍 📄 ✕

3. 「追加」 **+** をクリックします。新規行が表に追加されます。
4. 「ユーザー変数」 タブで、「ディメンション」の下でユーザー変数を作成するディメンションを選択します。
5. 「ユーザー変数名」 で、新しいユーザー変数の名前を入力します。

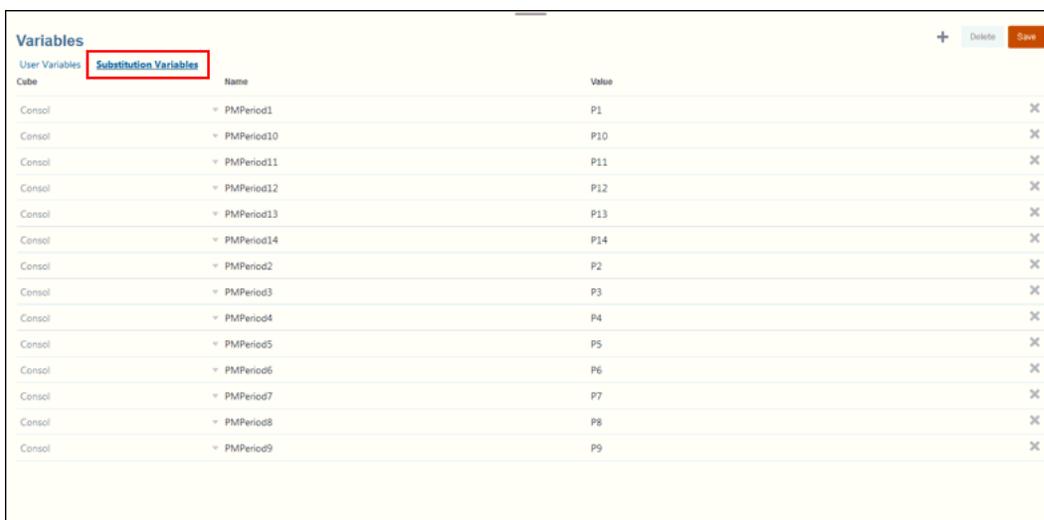
6. 「ユーザー変数定義」で、「メンバー・セレクタ」 をクリックしてユーザー変数に必要なメンバーを選択します。
7. オプション: 「コンテキストの使用」を選択して、ユーザー変数が視点で使用できるようにします。この設定では、ユーザー変数の値はフォームの内容により動的に変更されます。
8. 「OK」をクリックします。これで、フォームにユーザー変数を関連付けることができます。

代替変数の作成

代替変数は定期的に変化する情報のグローバルなプレースホルダとして機能します。たとえば、フォームやレポート・スクリプトで月の値を毎月更新しなくてもよいように、現在の月メンバーを代替変数 `CurMnth` に設定できます。

代替変数を作成するには

1. ホーム・ページで「ツール」を選択し、「変数」を選択します。
2. 「代替変数」タブを選択します。



Cube	Name	Value
Censol	PMPeriod1	P1
Censol	PMPeriod10	P10
Censol	PMPeriod11	P11
Censol	PMPeriod12	P12
Censol	PMPeriod13	P13
Censol	PMPeriod14	P14
Censol	PMPeriod2	P2
Censol	PMPeriod3	P3
Censol	PMPeriod4	P4
Censol	PMPeriod5	P5
Censol	PMPeriod6	P6
Censol	PMPeriod7	P7
Censol	PMPeriod8	P8
Censol	PMPeriod9	P9

3. 「追加」 をクリックします。新規行が表に追加されます。
4. 「キューブ」で、変数の作成に使用するキューブを選択します。
5. 「名前」で、代替変数の名前を入力します。
6. 「値」で、代替変数の値を入力します。
7. 「保存」をクリックします。

お知らせの作成

管理者は、システム・メンテナンスなどの近々のイベントに関するお知らせを作成してユーザーに送信できます。お知らせは、アプリケーションのホーム・ページの「お知らせ」領域に表示されます。

1. ホーム・ページで「**ツール**」をクリックし、「**お知らせ**」をクリックします。
2. 「**作成**」をクリックします。
3. お知らせの情報を入力します。
 - **件名** - お知らせの目的。
 - **開始日** - お知らせをいつ送信するか。
 - **終了日** - オプション。
 - **内容**。テキストを入力する前に編集モード(リッチ・テキストまたはソース・コード)を選択する必要がある場合があります。
4. お知らせを保存するには、「**保存して閉じる**」をクリックします。

アーティファクト・ラベルの指定

「アーティファクト・ラベル」ページで、ロケールごとにアーティファクト・ラベルを定義します。アーティファクト・ラベルは、他のファイルからインポートおよびエクスポートできます。

ノート:

アーティファクト・ラベルを操作するには、サービス管理者である必要があります。

アーティファクト・ラベルを指定するには:

1. ホーム・ページで、「**ツール**」をクリックします。
2. 「**アーティファクト・ラベル**」をクリックします。
3. **オプション**: アーティファクト・ラベルのリストをフィルタするには:
 - a. 「**フィルタ**」  をクリックします。
 - b. 「**フィルタ**」ダイアログ・ボックスで、「**アーティファクト**」と「**プロパティ**」のフィルタを選択し、「**適用**」をクリックします。
4. アーティファクトの言語を追加するには、アーティファクトを選択し、「**言語の追加**」ドロップダウンから言語を選択します。
5. 「**保存**」をクリックします。

アーティファクト・ラベルをインポートするには:

1. ホーム・ページで、「**ツール**」をクリックします。
2. 「**アーティファクト・ラベル**」をクリックします。
3. 「**アーティファクト・ラベル**」ページで、「**アクション**」アイコンをクリックし、「**インポート**」を選択します。
4. 「**アーティファクト・ラベルのインポート**」ページで、インポート・ファイルの場所を選択します。
 - **ローカル** - 自分のコンピュータ上の場所からファイルをインポートします。

- **受信ボックス** - サーバーからインポート・ファイルをインポートします。
5. ソース・ファイルを入力または選択します。
 - 「**ローカル**」を選択した場合、「**参照**」をクリックし、ファイルに移動します。
 - 「**受信ボックス**」を選択した場合、「**ソース・ファイル**」にファイルの名前を入力します。
 6. 「**インポート**」をクリックします。

アーティファクト・ラベルをエクスポートするには:

1. ホーム・ページで、「**ツール**」をクリックします。
2. 「**アーティファクト・ラベル**」をクリックします。
3. 「**アーティファクト・ラベル**」ページで、「**アクション**」アイコンをクリックし、「**エクスポート**」を選択します。
4. 「**アーティファクト・ラベルのエクスポート**」ページで、インポート・ファイルの場所を選択します。
 - **ローカル** - 自分のコンピュータ上の場所からファイルをインポートします。
 - **受信ボックス** - サーバーからインポート・ファイルをインポートします。
5. 「**エクスポート**」をクリックします。

7

EPM Cloud での環境の接続

次も参照:

- [EPM Cloud 環境の接続について](#)
- [EPM Cloud 接続を移行する際の考慮事項](#)
- [他の EPM Cloud 環境への接続の作成、編集および削除](#)
- [外部 Web サービスへの接続](#)
- [外部接続の詳細設定オプションの指定](#)
- [EPM Cloud 環境間の移動](#)
- [他の EPM Cloud 環境にアクセスするためのナビゲーション・フローのカスタマイズ](#)
- [接続された環境を統合するための直接 URL の使用](#)

EPM Cloud 環境の接続について

概要

サービス管理者は、次のタイプの EPM Cloud 環境を複数接続できます:

- Account Reconciliation
- Enterprise Profitability and Cost Management
- Financial Consolidation and Close
- フリーフォーム
- Narrative Reporting
- Planning
- Planning モジュール
- Profitability and Cost Management
- Sales Planning
- Strategic Workforce Planning
- Tax Reporting

サービス管理者が接続を設定すると、EPM Cloud サブスクリプション間でアクセス権のあるユーザーは、1回のログインで1つのアクセス・ポイントから、それらの間を移動できます。また、フォーム、ダッシュボードなど環境間のアーティファクトは、ナビゲーション・フローのカードでクラスタ内またはタブ内に混在させることができます。ターゲット環境のアーティファクトは、ユーザーの役割に基づいてアクセスできます。

 ノート:

Oracle Analytics Cloud Enterprise Edition または Professional Edition 5.6 と EPM Cloud プラットフォームの両方のサービスを所有している場合は、これらを直接接続することもできます。接続を構成すると、EPM Cloud ビジネス・プロセスからのデータを Oracle Analytics Cloud 内でビジュアル化できます。EPM データをメタデータ・リポジトリ (RPD) ファイル内にモデル化することなく、Oracle Analytics Cloud 内でビジュアライゼーションやダッシュボードを作成できるようになります。詳細は、Oracle Analytics Cloud ドキュメントを参照してください。

さらに、Oracle NetSuite Account Reconciliation および Oracle NetSuite Planning and Budgeting を接続できます。

接続できる環境

ソース環境とは、接続の作成元となる環境です。ターゲット環境は、ソース環境から接続する先の環境です。

これらのソース環境を接続できます(これらの環境はターゲット環境になることもできます):

- Enterprise Profitability and Cost Management
- フリーフォーム
- Financial Consolidation and Close
- Oracle NetSuite Planning and Budgeting
- Planning
- Planning モジュール
- Sales Planning
- Strategic Workforce Planning
- Tax Reporting

ソース環境をこれらのターゲット環境に接続することもできます(これらの環境がソース環境になることはできません):

- Account Reconciliation
- Narrative Reporting
- Oracle NetSuite Account Reconciliation
- Profitability and Cost Management

他の EPM Cloud 環境に接続する方法

- 「ナビゲータ」メニューで、ソース環境とターゲット環境を切り替えます。EPM Cloud 環境間の移動を参照してください。
- ソース環境のナビゲーション・フローをカスタマイズして、ホーム・ページから他のターゲット環境のクラスタ、カードおよびアーティファクトにアクセスできるよ

うにします。他の EPM Cloud 環境にアクセスするためのナビゲーション・フローのカスタマイズを参照してください。

- 直接 URL を使用して、接続された環境をシームレスに統合します。接続された環境を統合するための直接 URL の使用を参照してください。

考慮事項

- サービス管理者のみが、環境間の接続を作成します。
ユーザーがナビゲーション・リンクをクリックすると、リンク先の環境が開きます。リンク先の環境内でのアクセスは、ユーザーに割り当てられた事前定義済の役割とアクセス権限(存在する場合)によって決まります。
- 環境間の移動をシームレスにするために、環境間のナビゲーション・フローを設定する環境インスタンスはすべて、同じアイデンティティ・ドメインに属する必要があります。

ノート:

ターゲットとソースの環境インスタンスが同じアイデンティティ・ドメインに属していない場合は、それらのインスタンス間の接続を確立できません。

- サービス管理者が、企業の SSO (アイデンティティ・プロバイダ)資格証明を使用して環境間接続を構成することはできません。
環境が SSO 用に構成されている場合は、環境間接続を構成するサービス管理者に、アイデンティティ・ドメイン資格証明が保持されている必要があります。アイデンティティ・ドメイン資格証明によるサインインの有効化を参照してください。
- 特定のコース・ケース・シナリオでは、テスト環境と本番環境の間で環境間の接続を移行すると、問題が発生することがあります。詳細は、EPM Cloud 接続を移行する際の考慮事項を参照してください。
- 環境間接続でバニティ URL はサポートされていません。

トラブルシューティング

環境の接続中に発生する一般的なエラーの修正については、『Oracle Enterprise Performance Management Cloud オペレーション・ガイド』のナビゲーション・フローに関する問題の処理を参照してください。

ビデオ

目的

EPM Cloud ワークフローのカスタマイズ方法を学習するには、次のビデオを参照してください。

参照するビデオ



概要: EPM Cloud ビジネス・プロセスを統合するためのナビゲーション・フローの構成

EPM Cloud 接続を移行する際の考慮事項

オラクル社では、サービス管理者が環境の接続などの新機能をテスト環境で試してから本番環境に移行することが一般的であると認識しています。ただし、そうすると、移行後に問題が発生する可能性があります。ここでは、知っておく必要があるコース・ケース・シナリオをいくつか説明します。

次のシナリオでは、Financial Consolidation and Close および Planning の環境があることが前提となります。

ユースケース・シナリオ 1: テストから本番へ

テスト環境の接続を本番環境に移行する場合、テスト環境で定義された接続が対応する本番環境を指すように変更されていることを確認してください。

たとえば、サービス管理者が Planning と Financial Consolidation and Close のテスト環境間の接続を定義したとします。その後、サービス管理者はこの接続を使用して、Financial Consolidation and Close のカードを参照するナビゲーション・フローを Planning 内に構築します。サービス管理者が Planning テスト環境の移行のために作成するスナップショットには、Financial Consolidation and Close テスト環境への接続を含む、接続およびナビゲーション・フローが含まれます。

このスナップショットを Planning 本番環境に移行すると、Planning には Financial Consolidation and Close テスト環境への不要な接続が含まれることになります。環境の移行前または移行後に、不要な接続を、対応する本番環境を指すように手動で変更する必要があります。

ユースケース・シナリオ 2: 本番から本番へまたはテストからテストへ

このシナリオでは、警告する点はありません。

ユースケース・シナリオ 3: 本番からテストへ

このシナリオでは、サービス管理者が問題を解決するためにスナップショットを本番環境からテスト環境に移行しようとしている可能性があります。テスト環境で作成された接続はまだ本番環境を指しているため、サービス管理者がテスト環境を指すように接続を変更することが重要です。テスト環境に本番インスタンスを指す接続があると、本番環境が誤って改ざんされる可能性があります。

他の EPM Cloud 環境への接続の作成、編集および削除

他の EPM Cloud 環境への接続を作成する前に、接続するソース環境とターゲット環境に対するアクセス権があることを確認してください。また、接続する他の環境の URL および各環境のログイン詳細(サービス管理者としてのユーザー ID とパスワードなど)も必要です。

接続を作成、編集、複製および削除するには:

1. ソース環境にログインします。
2. ホーム・ページから「ツール」をクリックして、次に「接続」をクリックします。
3. 次のいずれかの操作を選択します。
 - 接続を追加するには:
 - a. 「接続の管理」ページで、「作成」をクリックします。
 - b. 接続を作成するためのプロバイダの選択ページで、追加するターゲット環境を選択します。
 - c. ターゲット環境の接続詳細を入力します:

- 「**プロバイダの変更**」をクリックして、別のターゲット環境を選択します。
- 「**接続名**」にはこのナビゲーション・リンクの名前、たとえば連結アプリケーションを入力します。
- オプションのリンクの説明を入力します。
- 「**URL**」に、ターゲット環境インスタンスの URL (http(s)://your-target-host-url.com など)を入力します。ターゲット環境インスタンスにサインインするには、通常、この URL を使用することになります。
- 「**サービス管理者**」と「**パスワード**」を使用して、サービス管理者の資格証明を指定します。

 **ノート:**

- * これらの資格証明は、ナビゲーション・リンクの定義と検証にのみ使用されます。ユーザーがログインする際には、ターゲット環境にアクセスするためにそのユーザー自身の役割とアクセス権が適用されます。
- * 他の EPM Cloud 環境への接続では、ユーザー名の前にドメイン名を付けないでください。ただし、他の外部 Web サービスへの接続ではドメイン名が必要です。[外部 Web サービスへの接続](#)を参照してください。

- 「**ドメイン**」フィールドは、入力した URL に基づいて自動的に移入されます。URL にドメインがない場合、「**ドメイン**」フィールドは空白のままです。
- d. 「**検証**」をクリックします。
- e. 検証が成功した場合は、「**保存して閉じる**」をクリックします。
- 接続を編集するには:
 - a. 「**接続の管理**」ページで、接続の名前をクリックします。
 - b. 接続の詳細を編集します。

 **ノート:**

URL を編集して新しいサービス・タイプに接続すると、ナビゲーション・フローの分断が発生する可能性があります。異なるサービスに接続する必要がある場合は、かわりに新しい接続を作成することをお勧めします。

- c. 「**検証**」をクリックします。
- d. 検証が成功した場合は、「**保存して閉じる**」をクリックします。
- 接続を複製するには:
 - a. 「**接続の管理**」ページの、複製する接続の横の「**アクション**」列で、**...**をクリックします。
 - b. 「**複製**」をクリックします。

- c. 複製の接続の名前を入力し、「OK」をクリックします。
- 接続を削除するには:
 - a. 「接続の管理」ページの、削除する接続の横の「アクション」列で、**...** をクリックします。
 - b. 「削除」をクリックします。

ターゲット環境が EPM Cloud ソース環境に接続されている場合は、ソース環境の「ナビゲータ」メニューの「自分の接続」ペインにリストされます。「ナビゲータ」メニューの「自分の接続」ペインでは、環境間を移動できます。[EPM Cloud 環境間の移動](#)を参照してください。

トラブルシューティング

トラブルシューティングのサポートは、*Oracle Enterprise Performance Management Cloud オペレーション・ガイド*の[ナビゲーション・フローに関する問題の処理](#)を参照してください。

外部 Web サービスへの接続

サービス管理者は、外部 Web サービスとの間でデータを読み書きする目的で外部 Web サービスに接続することもできます。

この接続を Groovy スクリプトで参照または使用して、Groovy スクリプトと外部 HTTP/HTTPS リソース間に通信リンクを作成できます。この接続を Groovy スクリプトで使用方法の詳細および例は、EPM Groovy オブジェクト・モデルの [Connection](#) および [HttpRequest](#) オブジェクトについて、Java API ドキュメントを参照してください。

ノート:

「その他の Web サービス・プロバイダ」接続タイプは、Groovy ルールを作成可能なビジネス・プロセスでのみ使用できます。[Oracle Enterprise Performance Management Cloud](#)、[Groovy ルール Java API リファレンス](#)を参照してください。

外部 Web サービスへの接続を作成する前に、接続する Web サービスへのアクセス権があることを確認する必要があります。場合によっては Web サービスの URL およびログイン詳細も必要です。

外部 Web サービスへの接続を作成するには:

1. ソース環境にログインします。
2. ホーム・ページから「ツール」をクリックして、次に「接続」をクリックします。
3. 「接続の管理」ページで、「作成」をクリックします。
4. 「その他の Web サービス・プロバイダ」をクリックします。
5. 接続名および接続の説明を入力します。
6. ターゲット接続の URL を入力します。

- URL の詳細設定オプションを必要に応じて入力します。

 **ノート:**

オプションの詳細設定オプションでは、外部接続を定義するときに問合せまたはヘッダー・パラメータを指定できます。外部接続の詳細設定オプションの指定を参照してください。

- 必要に応じて、接続の**ユーザー**および**パスワード**・ログイン資格証明を入力します。Oracle Fusion Cloud EPM サービスへの接続など、場合によってはユーザー名の前にドメイン名を付ける必要があります(例: <アイデンティティ・ドメイン>.<ユーザー名>)。

EPM Cloud REST API の基本認証の理解およびアイデンティティ・ドメインの検出手順の詳細は、*Enterprise Performance Management Cloud REST API* の基本認証 - クラシックおよび OCI を参照してください。

- 「保存して閉じる」をクリックします。

外部接続の詳細設定オプションの指定

オプションの詳細設定オプションでは、外部接続を定義するときに問合せまたはヘッダー・パラメータを指定できます。

 **ノート:**

外部接続の問合せパラメータを定義する機能は、Groovy ルールを作成可能なビジネス・プロセスでのみ使用できます。Oracle Enterprise Performance Management Cloud、Groovy ルール Java API リファレンスを参照してください。

外部接続の詳細設定オプションを指定するには:

- 外部接続を作成するか、既存の外部接続をオープンします。
外部 Web サービスへの接続を参照してください。
- 接続の詳細を入力し、「**詳細設定オプションを表示**」をクリックします。
- 次のように問合せ詳細を指定します。

-  : 問合せの追加
-  : 問合せの削除
- タイプ:** 「**ヘッダー**」または「**パラメータ**」を選択します。

ヘッダーでは、この接続に対して行われるすべてのリクエストで送信されるデフォルト・ヘッダーを設定します。**パラメータ**では、この接続に対して行われるすべてのリクエストで送信されるデフォルトの問合せパラメータを設定します。

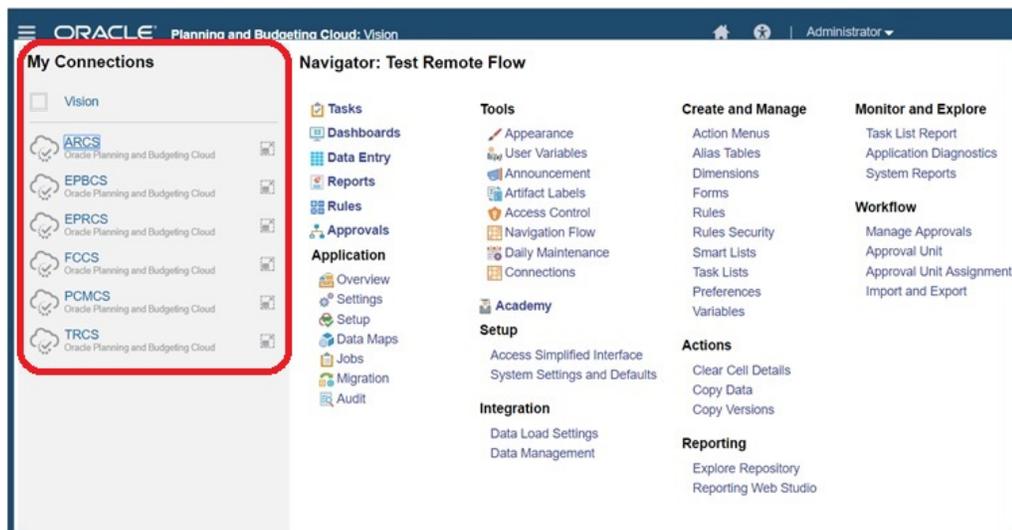
- 保護:** 選択すると、「**値**」フィールドに入力された値が暗号化されます。行の「**保護**」チェック・ボックスをクリアすると、値が削除されます。

保護するヘッダーの例としては、ベアラー認証をサポートする外部 Web サービスのベアラー・トークン、認証に API キーをサポートする外部 Web サービスの API キー問合せパラメータがあります。

- **名前:** ヘッダーまたは問合せパラメータの名前を入力します。
- **値:** ヘッダーまたは問合せパラメータの値を入力します。

EPM Cloud 環境間の移動

サービス管理者が他の EPM Cloud 環境への接続を作成すると、その接続は「ナビゲータ」メニューの「自分の接続」ペインにリストされます。



この場所で環境を切り替えることができます。他の環境を開くには、その環境へのアクセス権が必要です。アーティファクトには、ユーザーのロールに基づいてアクセス可能です。

別の Oracle Enterprise Performance Management Cloud 環境を開くには:

1. ホーム・ページで、ナビゲータをクリックします。
2. 環境が接続されていて、その環境へのアクセス権がある場合は、接続された環境のリストが「自分の接続」ペインに表示されます。環境をクリックして開きます。

ノート:

環境名の右側にあるアイコンをクリックすると、その環境が新しいウィンドウで開きます。

他の EPM Cloud 環境にアクセスするためのナビゲーション・フローのカスタマイズ

ビジネス・プロセス・インタフェースをカスタマイズして、ソース環境のホーム・ページから他の EPM Cloud 環境にアクセスできます。たとえば、他の EPM Cloud 環境からのアーティファクト(フォームやレポートなど)をホーム・ページに追加できます。ナビゲーション・フローをカスタマイズすることで、これらのアーティファクト(カードと呼ばれます)をクラスタにグループ化できます。ターゲット EPM Cloud 環境のクラスタおよびカードを、ソース EPM Cloud 環境のナビゲーション・フローに直接追加できます。ナビゲーション・フロー・デザイナーを使用してカードをカスタマイズし、それぞれ異なる環境からのアーティファクトを示すタブ形式のページで構成することもできます。

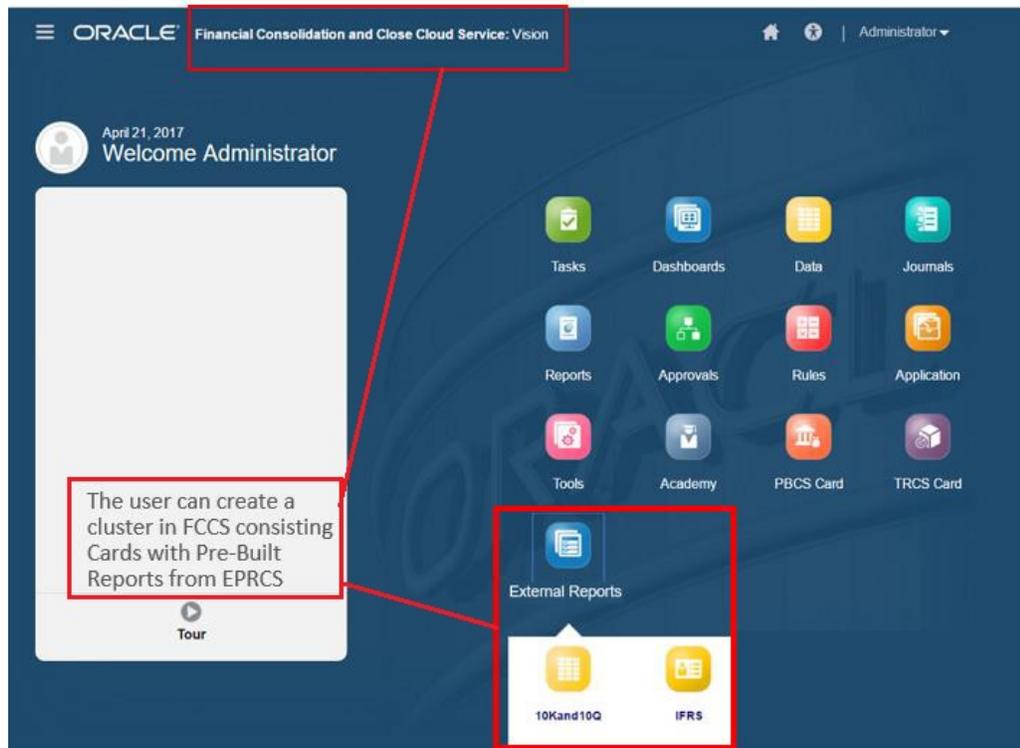
次の2つのユース・ケースでは、他の EPM Cloud 環境にアクセスできるようにナビゲーション・フローをカスタマイズする方法を詳しく説明しています:

- [他の EPM Cloud 環境からクラスタへのカードのグループ化](#)
- [複数 EPM Cloud 環境からのタブのあるカードの構成](#)

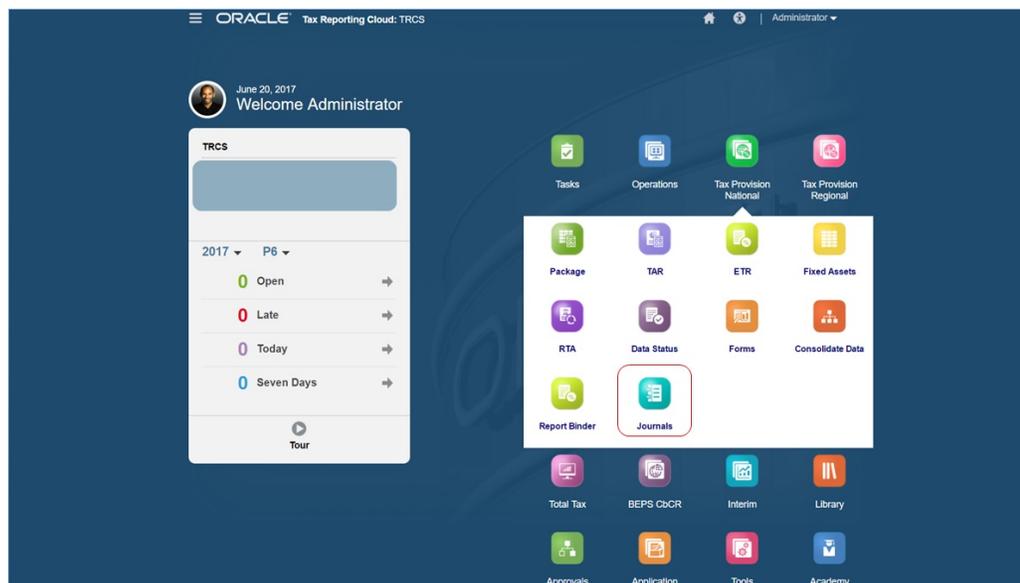
ナビゲーション・フローの設計についてさらに学習するには、カスタム・ナビゲーション・フローの設計を参照してください。

他の EPM Cloud 環境からクラスタへのカードのグループ化

様々な EPM Cloud 環境のカードをクラスタにグループ化して、ソース環境のホーム・ページからアクセスできるようにすることができます。たとえば、Narrative Reporting からの事前作成済の外部レポートのカードで構成されるクラスタを、Financial Consolidation and Close 内に作成できます。



複数の環境のカードをソース環境の同一クラスター内に含めることもできます。たとえば、Tax Reporting ユーザーが Tax Reporting から移動せずに、Financial Consolidation and Close からの仕訳アイコンを起動できます。



クラスターを作成し、カードをクラスターに追加するために、ナビゲーション・フローをカスタマイズできます。

ナビゲーション・フローの全般情報は、カスタム・ナビゲーション・フローの設計を参照してください。

他の EPM Cloud 環境のカードからなるクラスタを作成するには:

1. 「ナビゲーション・フロー」ページを起動し、ナビゲーション・フローを作成するか、既存のナビゲーション・フローを編集します。

 **ノート:**

ナビゲーション・フローを作成するには、最初に既存のナビゲーション・フローを選択し、そのコピーを作成する必要があります。その後、複製したナビゲーション・フローの詳細を編集して保存します。

- a. 「ツール」、「ナビゲーション・フロー」の順にクリックします。
- b. ナビゲーション・フローを作成するには、複製するナビゲーション・フローを選択して、ページの右上隅にある  をクリックして、「コピーの作成」を選択します。ナビゲーション・フローの名前を入力し、「OK」をクリックします。

 **ノート:**

新しいフローは、サービス管理者がアクティブにするまで「非アクティブ」に設定されます。ナビゲーション・フローをアクティブ化または非アクティブ化するには、「アクティブ」列で、「アクティブ」または「非アクティブ」をクリックします。一度にアクティブにできるナビゲーション・フローは1つのみです。

- c. 既存のナビゲーション・フローを編集するには、編集するナビゲーション・フローの名前をクリックします。

 **ノート:**

編集が可能なのは、ナビゲーション・フローが非アクティブな場合のみです。編集するナビゲーション・フローがアクティブな場合、編集する前に必ず「非アクティブ」としてマークしてください。

2. クラスタを作成するか、既存のクラスタを追加します。
 - a. まだ開いていない場合は、「ナビゲーション・フロー」ページから、クラスタを追加するナビゲーション・フローの名前をクリックします。
 - b. 新しいクラスタを作成するには、カードまたはクラスタを右クリック(あるいは  をクリック)して、「クラスタの追加」をクリックし、クラスタの詳細を入力または選択し、クラスタのアイコンを選択します。
 - c. 別の環境から既存のクラスタを追加する場合は、カードまたはクラスタを右クリック(あるいは「既存のカード/クラスタの追加」をクリック)して、「自分の接続」でターゲット環境を選択して、ナビゲーション・フローに追加するクラスタを選択します。次の点に注意してください。

- Narrative Reporting および Profitability and Cost Management で、「**既存のカード/クラスタの追加**」オプションを使用して直接クラスタを選択することはできません。
- 別のナビゲーション・フローまたは別の環境から追加されたクラスタには、ソース・ナビゲーション・フローで定義されたローカライズ済ラベルが表示されます。ナビゲーション・フローでクラスタ・ラベルを更新するには、ホーム・ページで「**ツール**」、「**アーティファクト・ラベル**」の順にクリックします。

アーティファクト・ラベルの指定を参照してください。

3. 次のいずれかのオプションを使用して、クラスタに含めるカードを選択します:

- クラスタに追加するカードに移動します。カードが別の環境に含まれている場合は、最初に「**自分の接続**」で環境を選択してから、その環境内のカードに移動します。次のいずれかのオプションを使用して、クラスタにカードを割り当てます:
 - 移動するカードの右側にある「**順序**」列で、➤ をクリックします。クラスタを選択し、「**OK**」をクリックします。
 - カードの詳細を表示するカードの名前をクリックし、「**クラスタ**」で、カードのクラスタを選択し、「**OK**」をクリックします。
- 新しいカードを追加するクラスタに移動します。そのクラスタが別の環境に含まれている場合は、最初に「**自分の接続**」で環境を選択してから、その環境内のクラスタに移動します。クラスタを右クリック(または + をクリック)して、「**クラスタへのカードの追加**」をクリックして、オプションを選択します:
 - **既存のカードの追加**を選択して、既存のカードを選択するか、別のクラスタから、選択したクラスタに既存のカードを追加します。
 - 「**カードの追加**」を選択して、カードの詳細を入力して、選択したクラスタに新しいカードを追加します。

ノート:

カードまたはクラスタが別のナビゲーション・フローからすでに参照されている場合、そのクラスタにそのカードを追加することはできません。

カードがクラスタの子としてリストに表示されます。必要に応じて、カードの横にある上矢印と下矢印を使用して、クラスタ内でカードの順序を変更します。

4. 「保存して閉じる」をクリックします。

設計時の変更を表示するには、ナビゲーション・フローをアクティブ化してリロードする必要があります。ナビゲーション・フローをリロードするには、自分のユーザー名の横にある下矢印をクリックします。次に「**設定およびアクション**」メニューで、「**ナビゲーション・フローのリロード**」をクリックします。

Settings and Actions

[Reload Navigation Flow](#)

[Downloads...](#)

[Help...](#)

[Cloud Customer Connect](#)

[Provide Feedback...](#)

[Oracle Support...](#)

[About...](#)

[Sign Out](#)

トラブルシューティング

ナビゲーション・フローをアクティブ化してリロードした後に参照アーティファクトが表示されない場合は、*Oracle Enterprise Performance Management Cloud* オペレーション・ガイドのナビゲーション・フローに関する問題の処理を参照してください。

複数 EPM Cloud 環境からのタブのあるカードの構成

ナビゲーション・フローのカードをカスタマイズし、それぞれ異なる環境からのアーティファクトを示すタブ形式のページで構成することもできます。たとえば、**Planning** ユーザーは、「収益」アイコンをクリックして、**Narrative Reporting** からのレポートを表示する水平タブを含むカードを起動できます。

The screenshot displays the Oracle Planning and Budgeting Cloud (EPBCS) interface. At the top, there are navigation icons for Revenue, Expense, Balance Sheet, Cash Flow, and Analysis. Below these, a horizontal tab bar is visible, with 'Income Statement Trend' selected and highlighted by a red box. The main content area shows the 'Income Statement Trend' report for Vision Operations, including a table with columns for Actual and Plan values across various months and a YTD (Year-to-Date) column.

	Actual		Plan										YTD
	Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun	Jul	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec	
Net Revenue	125,017	111,561	140,997	141,936	142,904	157,731	148,385	110,093	182,352	142,464	142,627	139,291	1,685,358
Cost of Sales	81,013	71,651	89,685	92,372	87,488	106,662	99,741	70,066	117,467	92,232	91,144	89,085	1,088,607
Gross Profit	44,003	39,910	51,312	49,564	55,416	51,069	48,644	40,027	64,885	50,232	51,483	50,206	596,751
Total Compensation	8,431	7,465	8,992	9,828	8,537	11,356	10,479	7,326	12,595	9,989	9,611	9,419	114,029
Travel	625	535	838	606	924	642	709	567	814	596	702	678	8,235
General Supplies	475	406	626	465	686	496	539	425	615	452	527	509	6,222
Telecommunications	826	715	1,008	866	1,056	957	970	735	1,139	865	931	905	10,973
Equipment Maintenance	1,945	1,693	2,305	2,094	2,368	2,344	2,318	1,732	2,757	2,117	2,215	2,157	26,047
Fees Outside Services	12,979	12,012	15,154	15,167	14,328	16,895	16,082	11,618	19,287	15,084	15,065	14,704	178,376
Employee HP	858	741	1,090	866	1,191	942	988	768	1,151	860	963	933	11,350

表形式カードを作成するために、ナビゲーション・フローをカスタマイズできます。

ナビゲーション・フローの全般情報は、カスタム・ナビゲーション・フローの設計を参照してください。

他の EPM Cloud 環境のタブおよびサブ・タブからなるカードを構成するには:

1. 「ナビゲーション・フロー」 ページを起動し、ナビゲーション・フローを作成するか、既存のナビゲーション・フローを編集します。

ノート:

ナビゲーション・フローを作成するには、最初に既存のナビゲーション・フローを選択し、そのコピーを作成する必要があります。その後、複製したナビゲーション・フローの詳細を編集して保存します。

- a. 「ツール」、「ナビゲーション・フロー」の順にクリックします。
- b. ナビゲーション・フローを作成するには、複製するナビゲーション・フローを選択して、ページの右上隅にある  をクリックして、「コピーの作成」を選択します。ナビゲーション・フローの名前を入力し、「OK」をクリックします。

ノート:

新しいフローは、サービス管理者がアクティブにするまで「非アクティブ」に設定されます。ナビゲーション・フローをアクティブ化または非アクティブ化するには、「アクティブ」列で、「アクティブ」または「非アクティブ」をクリックします。一度にアクティブにできるナビゲーション・フローは1つのみです。

- c. 既存のナビゲーション・フローを編集するには、編集するナビゲーション・フローの名前をクリックします。
2. 様々なターゲット環境からのアーティファクトからなるタブ形式のカードを追加します。
 - a. 別の環境から既存のカードを追加する場合は、「ナビゲーション・フロー」ページから、カードまたはクラスタを右クリック(あるいは  をクリック)して、「既存のカード/クラスタの追加」をクリックし、「自分の接続」でターゲット環境を選択して、ナビゲーション・フローに追加するカードを選択します。

次の点に注意してください。

 - Narrative Reporting および Profitability and Cost Management で、「既存のカード/クラスタの追加」オプションを使用して直接カードを選択することはできません。
 - 別のナビゲーション・フローまたは別の環境から追加されたカードには、ソース・ナビゲーション・フローで定義されたローカライズ済ラベルが表示されます。ナビゲーション・フローでカード・ラベルを更新するには、ホーム・ページで「ツール」、「アーティファクト・ラベル」の順にクリックします。

アーティファクト・ラベルの指定を参照してください。
 - b. 新しい表形式カードをナビゲーション・フローに追加するには、「ナビゲーション・フロー」ページから、カードまたはクラスタを右クリック(あるいは 

をクリック)して、「**カードの追加**」をクリックし、カードの詳細を選択します。

- **名前:** カードのラベルを入力します。
- **表示可能:** ホーム・ページ上でカードをユーザーに表示するかどうかを選択します。
- **クラスタ:** クラスタが存在する場合、カードのクラスタを選択するか、「**なし**」を選択します。
- **アイコン:** 作成するカードについて表示するアイコンを選択します。アイコン・ライブラリで提供されている、使用可能なアイコンから選択してください。
- **内容:** 次のオプションから選択します:
 - **ページ・タイプ:** 複数ページ(表形式)のフォーマットを選択します。
 - **向き:** 「**垂直**」または「**水平**」を選択します。

3. タブおよびサブ・タブを表形式カードに追加します。

- a. 既存のタブを追加するには、タブを右クリックして、「**既存タブの追加**」をクリック(または「**既存タブの追加**」ボタンをクリック)して、オブジェクト・ライブラリからタブを選択します。
- b. 新しいタブを追加するには、タブを右クリックし、「**新規タブの追加**」をクリックし(または「**新規タブの追加**」ボタンをクリックし)、タブの詳細を編集します。
- c. タブを右クリックして、「**新規サブ・タブの追加**」または「**既存サブ・タブの追加**」をクリック(あるいは「**新規サブ・タブの追加**」ボタンまたは「**既存サブ・タブの追加**」ボタンをクリック)して、オブジェクト・ライブラリからサブ・タブを選択するか、サブ・タブの詳細を編集します。
- d. **アーティファクト**の場合は、をクリックして、アーティファクト・ライブラリのアーティファクトを選択します。たとえば、アーティファクトがフォームである場合、アーティファクトのリストから特定のフォームを選択します。使用可能なアーティファクトには、フォーム、ダッシュボード、レポートがあります。別の環境からアーティファクトを選択するには、「**自分の接続**」でターゲット環境を選択し、サブ・タブに追加するアーティファクトを選択します。
- e. カードが完成するまで、タブおよびサブ・タブの追加を繰り返します。

4. 「保存して閉じる」をクリックします。

ノート:

- カードに複数のタブまたはサブ・タブがある場合、同じセッションで次にそのカードにアクセスすると、ユーザーが前回アクセスしたタブが開きます。ユーザーがログアウトして再度ログインした場合には、デフォルトのタブが表示されます。
- 別のナビゲーション・フローまたは別の環境から追加されたタブやサブ・タブには、ソース・ナビゲーション・フローで定義されたローカライズ済ラベルが表示されます。ナビゲーション・フローでタブ・ラベルを更新するには、ホーム・ページで「**ツール**」、「**アーティファクト・ラベル**」の順にクリックします。アーティファクト・ラベルの指定を参照してください。

設計時の変更を表示するには、ナビゲーション・フローをリロードする必要があります。ナビゲーション・フローをリロードするには、自分のユーザー名の横にある下矢印をクリックします。次に「設定およびアクション」メニューで、「ナビゲーション・フローのリロード」をクリックします。

Settings and Actions

[Reload Navigation Flow](#)

[Downloads...](#)

[Help...](#)

[Cloud Customer Connect](#)

[Provide Feedback...](#)

[Oracle Support...](#)

[About...](#)

[Sign Out](#)

ナビゲーション・フローをリロードした後に参照アーティファクトが表示されない場合は、*Oracle Enterprise Performance Management Cloud* オペレーション・ガイドのナビゲーション・フローに関する問題の処理を参照してください。

接続された環境を統合するための直接 URL の使用

Oracle ERP Cloud などの他のソース・システムでは、URL を埋め込んで、接続された Oracle Enterprise Performance Management Cloud 環境内のカード、タブおよびサブタブに含まれるアーティファクトに直接リンクできます。

Oracle ERP Cloud などの他のクラウド環境では、直接 URL リンクを使用して、フォーム、ダッシュボード、インフォレット、レポートなどの接続された EPM Cloud コンテンツを開きます。EPM Cloud と他のシステムとの統合をシームレスにするために、接続された EPM Cloud ビジネス・プロセス内のアーティファクトに対して一意の URL をコピーできます。次の 2 つの方法のいずれかで、一意の URL をコピーできます：

- ビジネス・プロセスのアーティファクトに対して個々の URL をコピーします。[個々の URL のコピー](#)を参照してください。
- ビジネス・プロセス内のすべての URL を CSV ファイルにエクスポートし、一意の URL を検索してコピーします。[CSV ファイルへのすべての URL のエクスポート](#)を参照してください。

ビデオ

目的

直接リンクを使用して、ERP Cloud や NetSuite などの他のシステムに EPM Cloud のコンテンツを埋め込む方法を学習します。

参照するビデオ



[概要: 直接リンクを使用したコンテンツの埋込み](#)

個々の URL のコピー

アーティファクト・リスト・ページの「URL のコピー」オプションを使用して、Oracle Enterprise Performance Management Cloud ビジネス・プロセスのアーティファクト(ダッシュボード、フォーム、インフォレットおよびレポート)の一意の URL をコピーします。

Note:

「URL のコピー」はすべてのユーザーが使用できるため、アーティファクトへの直接 URL を共有できます。ただし、ターゲットのアーティファクトへのアクセス権を持つユーザーのみが、そのアーティファクトに対してアクションを実行できます。

アーティファクトの一意の URL をコピーするには:

1. ホーム・ページから、アーティファクトのリスト・ページを開きます。
たとえば、「ダッシュボード」、「データ」、「インフォレット」または「レポート」をクリックします。
2. リスト・ページから、アーティファクトの横にある・・・をクリックし、「URL のコピー」を選択します。
3. 「URL のコピー」ダイアログに、アーティファクトの一意の URL が表示されます。URL をコピーします。

コピーされた URL は無効になる場合があります。無効な URL には次の理由が考えられます:

- アーティファクトが削除されています。
- アーティファクトに対するユーザー・アクセス権が取り消されています。
- アーティファクト名が変更され、URL が壊れています。
- アーティファクトが新しいフォルダに移動され、その結果、新しい URL が作成されて URL が壊れています。

CSV ファイルへのすべての URL のエクスポート

「URL のエクスポート」オプションを使用して、接続された Oracle Enterprise Performance Management Cloud ビジネス・プロセス内のカード、タブまたはサブタブごとに一意の URL を提供する CSV ファイルを作成します。URL はナビゲーション・フロー別およびクラスター別にグループ化されるため、CSV ファイルで URL を簡単に見つけることができます。CSV ファイルをテキスト・エディタまたは Microsoft Excel で開き、関連する URL をソース・システム・ページに埋め込んで、EPM Cloud への起動ポイントとして使用できます。

EPM Cloud の URL を CSV ファイルにエクスポートするには:

1. EPM Cloud 環境にログインします。
2. ホーム・ページで、ユーザー名の横にある下矢印(画面の右上隅)をクリックします。
3. 「設定およびアクション」メニューで、「URL のエクスポート」、「保存」の順にクリックします。

ローカル・マシンのデフォルトのダウンロード・フォルダに CSV ファイルが保存されます。ファイル名は、たとえば、19_Feb_2021_13_15_38_Navigation_Flow_URLs.csv など、サーバーの現在の日時を使用して自動的に生成されます。ダウンロード・フォルダでファイルを見つけて、テキスト・エディタまたは Microsoft Excel で開きます。

エクスポートされた URL ファイルの表示

CSV ファイルには、ビジネス・プロセスのすべての URL がリストされます。各カード、タブ(垂直タブ)およびサブタブ(水平タブ)には一意の URL があります。メモ帳などのテキスト・エディタや Microsoft Excel に表示すると、カード、タブおよびサブタブごとに一意の URL が識別されるため、各アーティファクトの URL を簡単に見つけることができます。URL は、ナビゲーション・フロー別およびクラスタ別にグループ化されます。

Note:

カード、タブおよびサブタブにのみ URL があります。ナビゲーション・フローとクラスタには URL はありません。

Table 7-1 直接 URL エクスポート・ファイルのヘッダー

ヘッダー	説明
ナビゲーション・フロー名	たとえば、デフォルト、財務フローなど、ナビゲーション・フローの名前。
ステータス	たとえば、アクティブ、非アクティブなど、ナビゲーション・フローのステータス。
タイプ	たとえば、クラスタ、カード、タブ、サブタブなど、エントリのタイプ
名前	アーティファクトが含まれているクラスタ、カード、タブまたはサブタブの名前。アーティファクトを直接含まないクラスタまたはカードの場合、このエントリは空になります。
アーティファクト・タイプ	アーティファクトのタイプ。たとえば、フォーム、ダッシュボード、財務レポートおよび URL タイプのアーティファクト。
アーティファクト名	アーティファクトの名前、または URL タイプのアーティファクトの場合はターゲット・ページの直接 URL。
URL 表示可能	<p>これは、接続された環境の統合に使用する一意の URL です。</p> <p>ホーム・ページでナビゲーション・フローのアーティファクトが、ユーザーまたはグループに表示されるかどうかを示します(たとえば、Y または N)。</p>

Caution:

直接 URL が表示される場合は、この URL を接続環境の統合に使用する一意の URL と混同しないでください。

Table 7-1 (Cont.) 直接 URL エクスポート・ファイルのヘッダー

ヘッダー	説明
役割/グループ	ナビゲーション・フローを表示できる役割またはグループ。ナビゲーション・フローがグローバルの場合は、すべてのユーザーが表示できます。
説明	ナビゲーション・フローの説明(提供されている場合)。

URL エクスポート・ファイルは、垂直棒またはパイプ(|)区切り文字で区切られた情報を提供します。メモ帳に表示された、次の直接 URL エクスポート・ファイルの例を参照してください:

```

Navigation Flow Name[Status]Type[Name]Artifact Type[Artifact Name][URL]Visible[Role/Group]Description
Dashboard 2.0 Test Inactive cluster Strategic Modeling |||Y|Global|Default Navigation Flow
Dashboard 2.0 Test Inactive card Model View |||https://sca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_CA_30-EM_CA_151|Global|Default Navigation Flow
Dashboard 2.0 Test Inactive card Consolidation View |||https://sca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_CA_30-EM_CA_151|Global|Default Navigation Flow
Dashboard 2.0 Test Inactive card Templates |||https://sca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_CA_30-EM_CA_151|Global|Default Navigation Flow
Dashboard 2.0 Test Inactive card Tasks |||https://sca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_CA_30-EM_CA_151|Global|Default Navigation Flow
Dashboard 2.0 Test Inactive card Dashboards |||https://sca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_CA_30-EM_CA_151|Global|Default Navigation Flow
Dashboard 2.0 Test Inactive card Infofeeds |||https://sca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_CA_30-EM_CA_151|Global|Default Navigation Flow
Dashboard 2.0 Test Inactive card Reports |||https://sca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_CA_30-EM_CA_151|Global|Default Navigation Flow
Dashboard 2.0 Test Inactive tab Reports |||https://sca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_CA_30-EM_CA_151|Global|Default Navigation Flow
Dashboard 2.0 Test Inactive tab Financial Reports |||https://sca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_CA_30-EM_CA_151|Global|Default Navigation Flow
Dashboard 2.0 Test Inactive tab Documents |||https://sca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_CA_30-EM_CA_151|Global|Default Navigation Flow
Dashboard 2.0 Test Inactive card Rules |||https://sca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_CA_30-EM_CA_151|Global|Default Navigation Flow
Dashboard 2.0 Test Inactive card Approvals |||https://sca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_CA_30-EM_CA_151|Global|Default Navigation Flow
Dashboard 2.0 Test Inactive cluster Application |||Y|Global|Default Navigation Flow
Dashboard 2.0 Test Inactive card Overview |||https://sca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_CA_30-EM_CA_151|Global|Default Navigation Flow
Dashboard 2.0 Test Inactive card Settings |||https://sca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_CA_30-EM_CA_151|Global|Default Navigation Flow
Dashboard 2.0 Test Inactive card Valid Intersections |||https://sca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_CA_30-EM_CA_151|Global|Default Navigation Flow
Dashboard 2.0 Test Inactive sub tab Setup |||https://sca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_CA_30-EM_CA_151|Global|Default Navigation Flow
Dashboard 2.0 Test Inactive sub tab Reports |||https://sca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_CA_30-EM_CA_151|Global|Default Navigation Flow
Dashboard 2.0 Test Inactive card Data Exchange |||https://sca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_CA_30-EM_CA_151|Global|Default Navigation Flow
Dashboard 2.0 Test Inactive sub tab Data Mps |||https://sca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_CA_30-EM_CA_151|Global|Default Navigation Flow
Dashboard 2.0 Test Inactive sub tab Data Maps |||https://sca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_CA_30-EM_CA_151|Global|Default Navigation Flow
Dashboard 2.0 Test Inactive card Jobs |||https://sca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_CA_30-EM_CA_151|Global|Default Navigation Flow
Dashboard 2.0 Test Inactive card Cell Level Security |||https://sca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_CA_30-EM_CA_151|Global|Default Navigation Flow
    
```

URL エクスポート・ファイルを Microsoft Excel で表示するには:

1. Excel を開き、「データ」メニューをクリックします。
2. 「新しいクエリ」、「ファイルから」、「CSV から」の順にクリックします。
3. エクスポートした CSV ファイルを見つけて選択し、「インポート」をクリックします。新しいウィンドウに CSV ファイルのデータが表示されます。
4. CSV ファイルの最初の行をヘッダー行にするには、「編集」、「Use First Row as Headers」、「Close and Load」の順にクリックします。

結果の Excel ファイルは次の例のようになります:

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
	Navigation Flow Name	Status	Type	Name	Artifact Type	Artifact Name	URL	Visible	Role/Group	Description
1	Dashboard 2.0 Test	Inactive	cluster	Strategic Modeling				Y	Global	Default Navigation Flow
2	Dashboard 2.0 Test	Inactive	card	Model View			http://sca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_CA_30-EM_CA_151 Global Default Navigation Flow		Global	Default Navigation Flow
3	Dashboard 2.0 Test	Inactive	card	Consolidation View			http://sca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_CA_30-EM_CA_151 Global Default Navigation Flow		Global	Default Navigation Flow
4	Dashboard 2.0 Test	Inactive	card	Templates			http://sca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_CA_30-EM_CA_151 Global Default Navigation Flow		Global	Default Navigation Flow
5	Dashboard 2.0 Test	Inactive	card	Tasks			http://sca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_CA_30-EM_CA_151 Global Default Navigation Flow		Global	Default Navigation Flow
6	Dashboard 2.0 Test	Inactive	card	Dashboards			http://sca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_CA_30-EM_CA_151 Global Default Navigation Flow		Global	Default Navigation Flow
7	Dashboard 2.0 Test	Inactive	card	Infofeeds			http://sca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_CA_30-EM_CA_151 Global Default Navigation Flow		Global	Default Navigation Flow
8	Dashboard 2.0 Test	Inactive	card	Data			http://sca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_CA_30-EM_CA_151 Global Default Navigation Flow		Global	Default Navigation Flow
9	Dashboard 2.0 Test	Inactive	card	Reports			http://sca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_CA_30-EM_CA_151 Global Default Navigation Flow		Global	Default Navigation Flow
10	Dashboard 2.0 Test	Inactive	card	Reports			http://sca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_CA_30-EM_CA_151 Global Default Navigation Flow		Global	Default Navigation Flow
11	Dashboard 2.0 Test	Inactive	tab	Reports			http://sca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_CA_30-EM_CA_151 Global Default Navigation Flow		Global	Default Navigation Flow
12	Dashboard 2.0 Test	Inactive	tab	Financial Reports			http://sca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_CA_30-EM_CA_151 Global Default Navigation Flow		Global	Default Navigation Flow
13	Dashboard 2.0 Test	Inactive	tab	Documents			http://sca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_CA_30-EM_CA_151 Global Default Navigation Flow		Global	Default Navigation Flow
14	Dashboard 2.0 Test	Inactive	card	Rules			http://sca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_CA_30-EM_CA_151 Global Default Navigation Flow		Global	Default Navigation Flow
15	Dashboard 2.0 Test	Inactive	card	Approvals			http://sca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_CA_30-EM_CA_151 Global Default Navigation Flow		Global	Default Navigation Flow
16	Dashboard 2.0 Test	Inactive	cluster	Application				Y	Global	Default Navigation Flow
17	Dashboard 2.0 Test	Inactive	card	Overview			http://sca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_CA_30-EM_CA_151 Global Default Navigation Flow		Global	Default Navigation Flow
18	Dashboard 2.0 Test	Inactive	card	Settings			http://sca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_CA_30-EM_CA_151 Global Default Navigation Flow		Global	Default Navigation Flow
19	Dashboard 2.0 Test	Inactive	card	Valid Intersections			http://sca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_CA_30-EM_CA_151 Global Default Navigation Flow		Global	Default Navigation Flow
20	Dashboard 2.0 Test	Inactive	sub tab	Setup			http://sca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_CA_30-EM_CA_151 Global Default Navigation Flow		Global	Default Navigation Flow
21	Dashboard 2.0 Test	Inactive	sub tab	Reports			http://sca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_CA_30-EM_CA_151 Global Default Navigation Flow		Global	Default Navigation Flow
22	Dashboard 2.0 Test	Inactive	card	Data Exchange			http://sca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_CA_30-EM_CA_151 Global Default Navigation Flow		Global	Default Navigation Flow
23	Dashboard 2.0 Test	Inactive	sub tab	Data Integration			http://sca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_CA_30-EM_CA_151 Global Default Navigation Flow		Global	Default Navigation Flow
24	Dashboard 2.0 Test	Inactive	sub tab	Data Maps			http://sca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_CA_30-EM_CA_151 Global Default Navigation Flow		Global	Default Navigation Flow
25	Dashboard 2.0 Test	Inactive	card	Jobs			http://sca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_CA_30-EM_CA_151 Global Default Navigation Flow		Global	Default Navigation Flow
26	Dashboard 2.0 Test	Inactive	card	Cell Level Security			http://sca261.usd11.oraclecloud.com/10151/HyperionPlanning?C_M=V&C_MF=Dashboard2.0Test&C_PAGE_ID=EM_CA_30-EM_CA_151 Global Default Navigation Flow		Global	Default Navigation Flow

他の接続された環境に統合するカード、タブまたはサブタブの一意的 URL (URL 列にあります)を見つけてコピーします。URL ターゲットのみが開き、ターゲット・アーティファクトにアクセスできるユーザーは、ターゲット・ビジネス・プロセス内で作業している場合と同じアクションを実行できます。

8

カスタム・ナビゲーション・フローの設計

ナビゲーション・フローを使用してビジネス・プロセス・インタフェースをカスタマイズします。設計者は、ナビゲーション・フローによって、役割またはグループがビジネス・プロセスと対話する方法を制御できます。

次も参照:

- [ナビゲーション・フローの理解](#)
- [ナビゲーション・フローの表示と操作](#)

ナビゲーション・フローの理解

ナビゲーション・フローによって、ビジネス・プロセス・デザイナーは、様々な役割、つまりグループがビジネス・プロセスを操作する方法を制御できます。ナビゲーション・フロー・デザイナーを使用すると、ビジネス・プロセス・インタフェースをカスタマイズできます。たとえば、ホーム・ページに表示されるカードとクラスタの名前および表示順序を変更できます。カードを非表示にし、新しいカードを作成し、カードをクラスタにグループ化できます。カードに表示される垂直タブと水平タブをカスタマイズすることもできます。

ビデオ

目的	参照するビデオ
接続された環境向けのワークフローのカスタマイズのハイライトをご覧ください。	 概要: EPM Cloud ビジネス・プロセスを統合するためのナビゲーション・フローの構成

関連トピック

- [ビジネス・プロセス・インタフェースでカスタマイズできる内容](#)
- [ナビゲーション・フローのカスタマイズ・カテゴリ](#)
- [ナビゲーション・フローの権限](#)
- [事前定義済みのナビゲーション・フロー](#)
- [ナビゲーション・フローの表示と操作](#)

ビジネス・プロセス・インタフェースでカスタマイズできる内容

ナビゲーション・フローはカードで構成されます。それぞれのカードにはコンテンツが含まれ、情報が1つ以上のタブ付きのページとして表示されます。カードに含まれるコンテンツは、URL である場合もあれば、フォーム、ダッシュボード、レポートなどのアーティファクトである場合もあります。カードをクラスタにグループ化できます。

ノート:

ダッシュボード 2.0 およびフォーム 2.0 がビジネス・プロセスで有効になっている場合:

- ナビゲーション・フローでは、ランタイム・ダッシュボード内からフォームを編集する機能や、データありまたはデータなしでのダッシュボードの編集など、ダッシュボード 2.0 およびフォーム 2.0 に含まれる機能がサポートされます。「**フォームを開く**」や「**フォームの編集**」など、ダッシュボード 2.0 のコンポーネント・アクションもナビゲーション・フロー内で直接機能します。
- ダッシュボードに複数のコンポーネントが含まれている場合、ナビゲーション・フロー内からダッシュボードを編集するときには、ダッシュボード内の最後のコンポーネントにフォーカスが設定されます。

ナビゲーション・フローは、次の方法でカスタマイズできます:

- カードまたはタブのラベル
- カードまたはタブに使用されるアイコン
- カードおよびタブの表示と非表示の切替え
- カードおよびタブの表示順序
- 新しいカードの追加
- 既存のカードの追加
- 新しい水平タブまたは垂直タブの追加
- ナビゲーション・フロー、カードおよびタブの削除
- クラスタへのカードのグループ化
- 既存のクラスタの追加

[ナビゲーション・フローの表示と操作](#)を参照してください。

ナビゲーション・フローのカスタマイズ・カテゴリ

ナビゲーション・フローは、カスタマイズにおいて次のようにカテゴリ化されます。

1. **グローバル:** ナビゲーション・フローはすべてのユーザーに表示されます
2. **役割:** ナビゲーション・フローは、サービス管理者やパワー・ユーザーなど、特定の役割のユーザーのみに表示されます
3. **グループ:** ナビゲーション・フローは特定のグループ(たとえば、販売)に属するユーザーのみに表示されます

ナビゲーション・フローはこれらのいずれかのレベルで定義できます。ナビゲーション・フローが複数のレベルに存在する場合、更新は最も高いレベル(グローバル)から最も低いレベル(グループ)の順に適用されます。

たとえば、ホーム・ページで"マイ・タスク"という名前のアイコンを表示するナビゲーション・フローを作成し、別のサービス管理者がこのナビゲーション・フローを複製

し、カードに対して次の変更を加え、ナビゲーション・フローをグループに関連付けるとします。

- グローバル・レベルで、"マイ・タスク"を"会社のタスク"という名前に変更します
- グループ・レベルで、販売という名前のグループに対して、"マイ・タスク"を"販売のタスク"という名前に変更します

販売と呼ばれるグループに属するユーザーには、ナビゲーション・フローで"マイ・タスク"ではなくラベル"販売のタスク"が表示され、他のすべてのユーザーにはラベル"会社のタスク"が表示されます。

ナビゲーション・フローの権限

ビジネス・プロセスには、ナビゲーション・フローについて次の 3 つのレベルの権限があります。

- 役割ベース: 権限は、特定の役割に割り当てられたユーザーまたはグループに付与されます。たとえば、ユーザーには、サービス管理者とは異なるカードがホーム・ページに表示されます
- アーティファクトベース: 権限は、特定のアーティファクトを表示できるユーザーまたはグループに付与されます。たとえば、ユーザーには、権限が割り当てられているフォームのみが表示されます
- グローバル: 権限はすべてのユーザーに付与されます

事前定義済みのナビゲーション・フロー

ビジネス・プロセスには、デフォルトと呼ばれる 1 つの事前定義済ナビゲーション・フローがあります。デフォルト・ナビゲーション・フローは読取り専用であり、変更できません。

デフォルト・ナビゲーション・フローに対して実行できる操作と実行できない操作は次のとおりです。

- 名前: 名前は変更できません。
- 削除: ナビゲーション・フローは削除できません。
- 編集: ナビゲーション・フローの詳細を表示できますが、変更はできません。
- アクティブ化または非アクティブ化: ナビゲーション・フローをアクティブ化または非アクティブ化できます。
- 複製: ナビゲーション・フローのコピーを作成できます。

インポート後のナビゲーション・フロー・ステータスの理解

アクティブなナビゲーション・フローが存在するスナップショットを同じカテゴリ(役割、グループまたはグローバル)のアクティブなナビゲーション・フローが存在する環境にインポートすると、インポートされる新しいナビゲーション・フローが非アクティブになります。

たとえば、システムでは現在、次のナビゲーション・フローがアクティブです:

- NF 販売 Q2 (販売グループ)
- NF 管理者(サービス管理者役割)
- NF カスタム・デフォルト(グローバル)

NF 販売 Q2 と同じ販売グループを使用する NF 販売 Q3 というナビゲーション・フローをインポートするとします。NF 販売 Q3 ナビゲーション・フローは非アクティブとしてインポートされ、販売グループに対して既存の NF 販売 Q2 が引き続きアクティブとなります。新しい NF 販売 Q3 をアクティブにする必要がある場合は、手動でアクティブにする必要があります(これにより、古い NF 販売 Q2 が非アクティブになります)。インポートは Q3 開始日より前に実行する可能性があり、Q3 ナビゲーション・フローは Q3 開始日より前にアクティブ化されないようにするために必要があるため、インポートされる Q3 ナビゲーション・フローは非アクティブ化されます。

アクティブなカスタム・グローバル・ナビゲーション・フロー(たとえば、NF カスタム)が存在する移行スナップショットから新しいアプリケーションが作成される場合、NF カスタム・グローバル・ナビゲーション・フローは、移行インポートの後で非アクティブになります。アプリケーションが複製される場合も同様です。新しいアプリケーションが作成された後は、デフォルトのグローバル・ナビゲーション・フローがアクティブなグローバル・ナビゲーション・フローになり、グローバル・ナビゲーション・フローのカスタム・ナビゲーション・フローはユーザーがアクティブにする必要があります。すべてのユーザーが NF カスタム・グローバル・ナビゲーション・フローを使用している場合は、NF カスタム・ナビゲーション・フローがアクティブになるまでサービスが中断される可能性があります。

ナビゲーション・フローの設計では、次のように考慮してください:

- ユーザーの特定のグループまたはクラスに対してナビゲーション・フローを作成します。次に、対応するユーザー・グループにナビゲーション・フローを関連付けます。
- すべてのユーザーに対して単一のグローバル・ナビゲーション・フローを作成することは避けてください。

ナビゲーション・フローの表示と操作

サービス管理者の役割が割り当てられたユーザーは、「ナビゲーション・フロー」ページで、事前定義済ナビゲーション・フローを含むすべてのナビゲーション・フローを表示できます。他の役割およびグループに割り当てられたユーザーは、アクセス権があるナビゲーション・フローのみ表示できます。

「ナビゲーション・フロー」ページには、各ナビゲーション・フローが名前別に一覧表示され、ナビゲーション・フローにアクセスできる役割またはグループ(割り当てられている場合)、およびナビゲーション・フローの説明(提供されている場合)が示されます。リストには、ナビゲーション・フローがアクティブであるかどうかも示されます。

ナビゲーション・フローの表示

「ナビゲーション・フロー」ページを表示するには:

1. ホーム・ページで、「ツール」をクリックします。
2. 「ナビゲーション・フロー」をクリックします。

ナビゲーション・フローの操作

ナビゲーション・フローを操作するには、次のアクションを実行します。

- 設計のベスト・プラクティスおよび検討事項は、[ナビゲーション・フロー設計のベスト・プラクティスと命名に関する考慮事項](#)を参照してください。

- ナビゲーション・フローを作成および複製するには、[ナビゲーション・フローの作成と複製](#)を参照してください。
- ナビゲーション・フローを編集するには、[ナビゲーション・フローの編集](#)を参照してください。
- ナビゲーション・フローをアクティブ化または非アクティブ化するには、[ナビゲーション・フローのアクティブ化と非アクティブ化](#)を参照してください。
- ナビゲーション・フローを検証し、アーティファクトが欠落しているナビゲーション・フロー要素を検出して解決する方法を学習するには、[ナビゲーション・フローでの検証を使用した欠落アーティファクトの検出](#)を参照してください。
- 警告アイコン  が表示されているリストでナビゲーション・フローを解決するには、[警告アイコンを表示するナビゲーション・フローの解決](#)を参照してください。
- カードおよびタブの名前を変更するには、[カード、タブおよびクラスタのラベルのカスタマイズ](#)を参照してください。
- カードおよびタブに使用されるグラフィックをカスタマイズするには、[カードおよび垂直タブのアイコンのカスタマイズ](#)を参照してください。
- カードおよびタブの表示と非表示を切り替えるには、[クラスタ、カードおよびタブの表示および非表示](#)を参照してください。
- ホーム・ページでカードの表示順を変更するには、[ホーム・ページ上のカードの表示順序の変更](#)を参照してください。
- カードを追加するには、[カードの追加](#)を参照してください。
- タブを追加するには、[表形式ページへのタブの追加](#)を参照してください。
- ナビゲーション・フロー、カードおよびタブを削除するには、[ナビゲーション・フロー、カードおよびタブの削除](#)を参照してください。
- カードをクラスタにグループ化するには、[クラスタへのカードのグループ化](#)を参照してください。

トラブルシューティング

ナビゲーション・フローの問題を解決するには、『*Oracle Enterprise Performance Management Cloud オペレーション・ガイド*』のナビゲーション・フローに関する問題の処理を参照してください。

ナビゲーション・フロー設計のベスト・プラクティスと命名に関する考慮事項

設計のベスト・プラクティス

最適なユーザー・エクスペリエンスを提供し、ホーム・ページ上およびカードやタブ内での過度のスクロールを回避するには、ナビゲーション・フローを設計するとき、次のガイドラインに従う必要があります：

- 最上位レベルの表示可能アイテム(カードとクラスタ)は 16 個以下に保ちます。
- クラスタに追加する表示可能カードは 16 個以下にします。
- カード内に追加する表示可能垂直タブは 10 個以下にします。
- 垂直タブ内に追加する表示可能サブ・タブ(水平タブ)は 20 個以下にします。

- サブ・タブ(水平タブ)のラベル名は、実行時には、最初の 30 文字のみが表示されます。タブにカーソルを置くと、ラベル全体が表示されます。



Note:

表示制限を超えるように試みると、制限を超えたことを通知する警告メッセージが表示されます。

命名の考慮事項

ナビゲーション・フローおよびナビゲーション・フロー内のカード、クラスタ、タブ、インフォレット(ビジネス・プロセスでインフォレットを使用する場合)には命名規則があります。次の特殊文字は使用できません。

- アンパサンド(&)
- 小なり記号(<)
- 大なり記号(>)
- 引用符(")
- 円記号(バックスラッシュ) (\)
- プラス記号(+)

ナビゲーション・フローの作成と複製

ナビゲーション・フローを作成するには、最初に既存のナビゲーション・フローを選択し、そのコピーを作成する必要があります。その後、複製したナビゲーション・フローの詳細を編集して保存します。

ナビゲーション・フローを作成および複製するには:

1. 「ナビゲーション・フロー」 ページを開きます。[ナビゲーション・フローの表示と操作](#)を参照してください。
2. ページの右上隅で  をクリックし、「コピーの作成」を選択します。
3. ナビゲーション・フローの名前を入力し、「OK」をクリックします。



ノート:

必ず、[ナビゲーション・フロー設計のベスト・プラクティスと命名に関する考慮事項](#)に記載されているナビゲーション・フローの命名規則に従ってください。

4. ナビゲーション・フローの詳細を編集します。[ナビゲーション・フローの編集](#)を参照してください。

 **ノート:**

新しいフローは、サービス管理者がアクティブにするまで「**非アクティブ**」に設定されます。ナビゲーション・フローをアクティブにするには、[ナビゲーション・フローのアクティブ化と非アクティブ化](#)を参照してください。

ナビゲーション・フローをリロードして設計時の変更を表示するには、[ナビゲーション・フローのリロード](#)を参照してください。

ナビゲーション・フローの編集

ナビゲーション・フローを編集するには:

1. 「**ナビゲーション・フロー**」 ページを開きます。[ナビゲーション・フローの表示と操作](#)を参照してください。
2. 編集するナビゲーション・フローの名前をクリックします。

 **ノート:**

事前定義済のナビゲーション・フローは編集できません。ただし、事前定義済のナビゲーション・フローのコピーを作成し、そのコピーを編集することは可能です。[事前定義済のナビゲーション・フロー](#)を参照してください。

ナビゲーション・フローのカードおよびクラスタをリストするページが表示されます。このページで、役割またはグループの割当てを編集し、ホーム・ページに表示されるクラスタおよびカードを指定し、ナビゲーション・フローのクラスタおよびカードが表示される順序を変更し、カードをクラスタに追加または削除し、クラスタおよびカードをナビゲーション・フローから削除できます。

- **割当先:**  をクリックして、ユーザーのグループまたは役割にナビゲーション・フローを割り当てます。
- **表示可能:** 「**表示可能**」列でナビゲーション・フローのクラスタおよびカードを選択するか、選択を解除して、ホーム・ページにおけるそれらの表示の可否を編集します。

 **ノート:**

[ナビゲーション・フロー設計のベスト・プラクティスと命名に関する考慮事項](#)で概説されているナビゲーション・フローの表示に関するガイドラインに従います。

- **順序:** クラスタおよびカードが、ホーム・ページ上に表示される順序でリストされます(表示可能な場合)。上矢印または下矢印オプションを選択すると、リスト内でクラスタおよびカードの位置が変わり、ホーム・ページ上のクラスタおよびカードの表示順序が変更されます。右矢印を選択すると、カードがクラスタに移動します。
- **削除:** ナビゲーション・フローからクラスタまたはカードを削除します。

3. クラスタまたはカードをクリックして詳細を編集します。カードの詳細の説明は、次のトピックを参照してください:
 - [カードの追加](#)
 - [表形式ページへのタブの追加](#)

ナビゲーション・フローをリロードして設計時の変更を表示するには、[ナビゲーション・フローのリロード](#)を参照してください。

ナビゲーション・フローのアクティブ化と非アクティブ化

各カテゴリ(グローバル、役割またはグループ)について複数のナビゲーション・フローを作成できますが、各カテゴリでアクティブにできるナビゲーション・フローは1つのみです。ナビゲーション・フローをアクティブにすると必ず、同じカテゴリ内の他のナビゲーション・フローは非アクティブになります。

ノート:

各ビジネス・プロセスには、アクティブなグローバル・ナビゲーション・フローが1つが必要です。異なるグローバル・ナビゲーション・フローをアクティブにするには、別のグローバル・ナビゲーション・フローを選択し、それをアクティブ化してください。

カテゴリの詳細は、[ナビゲーション・フローのカスタマイズ・カテゴリ](#)を参照してください。

アクティブなナビゲーション・フローに対してユーザーが実行できる操作と実行できない操作は次のとおりです。

- 名前: ユーザーは名前を変更できません。
- 削除: ユーザーはナビゲーション・フローを削除できません。
- 編集:
 - ユーザーはナビゲーション・フローの定義を表示できますが、何も変更できません。
 - ビジネス・プロセスが管理モードになっている場合、ユーザーは変更を保存できます。
- アクティブ化または非アクティブ化: ユーザーはナビゲーション・フローをアクティブ化または非アクティブ化できます。
- 複製: ユーザーはナビゲーション・フローのコピーを作成できます。

ナビゲーション・フローをアクティブまたは非アクティブにするには:

1. 「[ナビゲーション・フロー](#)」 ページを開きます。[ナビゲーション・フローの表示と操作](#)を参照してください。
2. 「**アクティブ**」列で、「**アクティブ**」または「**非アクティブ**」をクリックします。アクティブなフローは非アクティブに設定されます。逆に、非アクティブなフローはアクティブに設定されます。

ナビゲーション・フローでの検証を使用した欠落アーティファクトの検出

ナビゲーション・フロー・リストを表示しているときに、エラー・アイコン  が表示されたナビゲーション・フローのノードまたはアーティファクトが表示されることがあります。このエラーは、ナビゲーション・フローに関連付けられたアーティファクトの名前が変更されたか、またはアーティファクトが削除され、現在は欠落とみなされているために発生します。ナビゲーション・フローを編集して名前が変更されたアーティファクトまたは別のアーティファクトに関連付けてから、ナビゲーション・フローをアクティブにする必要があります。アーティファクトが欠落とみなされていることを認識できない場合があるため、ナビゲーション・フローを検証してから「アクティブ」ステータスに設定することをお勧めします。

Note:

警告アイコン  が表示されているナビゲーション・フローを解決するには、[警告アイコンを表示するナビゲーション・フローの解決](#)を参照してください。

ナビゲーション・フローを検証して、欠落しているアーティファクトを検出して再度関連付けるには:

1. 「**ナビゲーション・フロー**」 ページを開きます。[ナビゲーション・フローの表示と操作](#)を参照してください。
2. 検証するナビゲーション・フローが非アクティブ化されていない場合は、「**非アクティブ**」ステータスに設定します。[ナビゲーション・フローのアクティブ化と非アクティブ化](#)を参照してください。
3. 検証するナビゲーション・フローの行(1 行または複数)を強調表示します。
4.  をクリックして、「**検証**」を選択します。
アーティファクトが欠落している場合は、検出できないアーティファクトをナビゲーション・フローが参照していることを示すエラー・メッセージが表示されます。
5. エラーが発生した各ナビゲーション・フローの名前をクリックし、欠落しているアーティファクトが表示される「**管理**」ページに到達するまで、エラー・アイコン  が表示されたノードを展開します。
6. **アーティファクト** の場合は、 をクリックして、名前が変更されたアーティファクトまたはアーティファクト・ライブラリの別のアーティファクトを選択します。
7. 「**保存して閉じる**」 をクリックします。
8. ナビゲーション・フローが有効であることを示すメッセージが表示されるまで、ナビゲーション・フローで検証を繰り返し、必要に応じてドリルダウンして修正を行います。
9. ナビゲーション・フローをアクティブにします。[ナビゲーション・フローのアクティブ化と非アクティブ化](#)を参照してください。

ナビゲーション・フローをリロードして設計時の変更を表示するには、[ナビゲーション・フローのリロード](#)を参照してください。

警告アイコンを表示するナビゲーション・フローの解決

ナビゲーション・フロー・リストを表示しているときに、警告アイコン  が表示されたナビゲーション・フローが表示されることがあります。これは、ナビゲーション・フローに関連付けられたグループが削除されたことが原因で発生します。ナビゲーション・フローをアクティブにするには、ナビゲーション・フローを編集してグループまたは役割に関連付ける必要があります。

Note:

エラー・アイコン  が表示されているナビゲーション・フローを解決するには、[ナビゲーション・フローでの検証を使用した欠落アーティファクトの検出](#)を参照してください。

ナビゲーション・フローを解決するには:

1. 「[ナビゲーション・フロー](#)」 ページを開きます。[ナビゲーション・フローの表示と操作](#)を参照してください。
2. 警告アイコン  が表示されたナビゲーション・フローの名前をクリックします。
3. 「[割当先](#)」 で、 をクリックして、ユーザーのグループまたは役割にナビゲーション・フローを割り当てて、「[保存して閉じる](#)」 をクリックします。
4. ナビゲーション・フローをアクティブにします。[ナビゲーション・フローのアクティブ化と非アクティブ化](#)を参照してください。

ナビゲーション・フローをリロードして設計時の変更を表示するには、[ナビゲーション・フローのリロード](#)を参照してください。

カード、タブおよびクラスタのラベルのカスタマイズ

カード(ホーム・ページに表示されるアイコン)、タブおよびクラスタのラベルをカスタマイズできます。ラベルは、25 文字以下に制限されています。垂直タブの場合、垂直タブのラベルはホバー・テキストとして表示されるため、文字数の制限はありません。

ノート:

デフォルトのナビゲーション・フローに対しては、カード、タブまたはクラスタのラベルを更新しないでください。カスタマイズするのは、カスタム・ナビゲーション・フローのラベルのみです。

カード、タブおよびクラスタのラベルをカスタマイズするには:

1. 「[ナビゲーション・フロー](#)」 ページを開き、編集するナビゲーション・フローの名前をクリックします。[ナビゲーション・フローの表示と操作](#)を参照してください。

2. カードまたはクラスタのラベルをカスタマイズする場合:
 - a. 編集するカードまたはクラスタの名前をクリックします。
 - b. 新しい名前を入力し、それを保存します。

ノート:

- このラベルはここで編集できます。ただし、ラベルが「ツール」クラスタの「**アーティファクト・ラベル**」ページで定義されている場合は、その定義が優先され、実行時に表示されます。ラベルを完全に変更するには、「**アーティファクト・ラベル**」ページで再定義します。
アーティファクト・ラベルの指定を参照してください。
- 必ず、[ナビゲーション・フロー設計のベスト・プラクティスと命名に関する考慮事項](#)に記載されている命名規則に従ってください。

3. タブのラベルをカスタマイズする場合:
 - a. 編集するカードの名前をクリックします。
 - b. 「**タブの管理**」ページのタブ・リストで、編集するタブの名前をクリックします。
 - c. タブの新しい名前を入力し、それを保存します。

ナビゲーション・フローをリロードして設計時の変更を表示するには、[ナビゲーション・フローのリロード](#)を参照してください。

カードおよび垂直タブのアイコンのカスタマイズ

カードおよび垂直タブで使用されているアイコンを変更できます。アイコン・ライブラリで提供されている使用可能なアイコンから選択する必要があります。

カードおよび垂直タブのアイコンをカスタマイズするには:

1. 「**ナビゲーション・フロー**」ページを開き、編集するナビゲーション・フローの名前をクリックします。[ナビゲーション・フローの表示と操作](#)を参照してください。
2. カードのアイコンをカスタマイズする場合:
 - a. 編集するカードの名前をクリックします。
 - b. カードのアイコンをクリックし、ライブラリから新しいアイコンを選択して、それを保存します。
3. タブのアイコンをカスタマイズする場合:
 - a. 編集するアイコンの名前をクリックします。
 - b. 「**タブの管理**」ページのタブ・リストで、編集するタブの名前をクリックします。
 - c. タブのアイコンをクリックし、ライブラリから新しいアイコンを選択して、それを保存します。

ナビゲーション・フローをリロードして設計時の変更を表示するには、[ナビゲーション・フローのリロード](#)を参照してください。

クラスタ、カードおよびタブの表示および非表示

次のナビゲーション要素は非表示にできません。

- 「アプリケーション」クラスタと「アプリケーション」クラスタ内の「設定」アイコン。
- 「ツール」クラスタと「ツール」クラスタ内の次のアイコン。
 - アクセス制御
 - ナビゲーション・フロー
 - 日次メンテナンス
 - 移行

必ず、[ナビゲーション・フロー設計のベスト・プラクティスと命名に関する考慮事項](#)に記載されている表示のナビゲーション・フローのガイドラインに従ってください。

クラスタ、カードおよびタブを表示および非表示にするには:

1. 「ナビゲーション・フロー」アイコンをクリックして、編集するナビゲーション・フローの名前をクリックします。[ナビゲーション・フローの表示と操作](#)を参照してください。
2. 「表示可能」列で選択または選択解除して、ナビゲーション・フローのクラスタおよびカードのホーム・ページの表示を編集します。
3. タブを表示または非表示にする場合:
 - a. 編集するカードの名前をクリックします。
 - b. **タブの管理**ページのタブ・リストで、「表示可能」列のチェック・ボックスを選択または選択解除します。

ナビゲーション・フローをリロードして設計時の変更を表示するには、[ナビゲーション・フローのリロード](#)を参照してください。

ホーム・ページ上のカードの表示順序の変更

ナビゲーション・フロー・デザイナーでカードの表示順序を変更できます。カードは、リスト内に表示される順序でホーム・ページ上に表示されます。

ホーム・ページ上のカードの表示順序を変更するには:

1. 「ナビゲーション・フロー」ページを開きます。[ナビゲーション・フローの表示と操作](#)を参照してください。
2. リスト内で、「順序」列の上矢印および下矢印を使用して、ナビゲーション・フローの順序内でカードを上下に移動します。

ナビゲーション・フローをリロードして設計時の変更を表示するには、[ナビゲーション・フローのリロード](#)を参照してください。

カードの追加

ホーム・ページに表示されるアイコンはカードを表します。カードは、ビジネス・プロセスの各機能領域に固有です。各カードをクリックすると、ユーザーは対応する領

域に移動し、他の情報が 1 つ以上のタブ付きのページとして表示されます。単一ページまたは複数ページ(タブ形式)のカードを作成できます。

最適なユーザー・エクスペリエンスを確保するために、ナビゲーション・フロー設計のベスト・プラクティスを確認してください。[ナビゲーション・フロー設計のベスト・プラクティスと命名に関する考慮事項](#)を参照してください。

カードをクラスタにグループ化することもできます。[クラスタへのカードのグループ化](#)を参照してください。

ナビゲーション・フローにカードを追加するには:

1. 「**ナビゲーション・フロー**」 ページを開き、編集するナビゲーション・フローの名前をクリックします。[ナビゲーション・フローの表示と操作](#)を参照してください。
2. 既存のカードをナビゲーション・フローに追加するには、リスト内のカードまたはクラスタを右クリックし(または **+** をクリックし)、「**既存のカード/クラスタの追加**」をクリックして、カードを選択します。別の環境から既存のカードを追加する場合は、リスト内のカードまたはクラスタを右クリックし(または **+** をクリックし)、「**既存のカード/クラスタの追加**」をクリックし、「**自分の接続**」でターゲット環境を選択して、ナビゲーション・フローに追加するカードを選択します。

次の点に注意してください。

- **Narrative Reporting** および **Profitability and Cost Management** で、「**既存のカード/クラスタの追加**」 オプションを使用して直接カードを選択することはできません。
- 別のナビゲーション・フローまたは別の環境から追加されたカードには、ソース・ナビゲーション・フローで定義されたローカライズ済ラベルが表示されます。ナビゲーション・フローでカード・ラベルを更新するには、ホーム・ページで「**ツール**」、「**アーティファクト・ラベル**」の順にクリックします。
アーティファクト・ラベルの指定を参照してください。
- 参照カードとは、別のナビゲーション・フローからすでに参照されているカードのことです。すでに参照されているカードへの参照は、ナビゲーション・フローではサポートされず、既存のカードを追加する際にオブジェクト・ライブラリで選択できません。次に例を示します:
 - リモート・アーティファクトやリモート・タブを参照しているカードは、既存のカードを追加する際にオブジェクト・ライブラリから使用できません。
 - 別のナビゲーション・フローのタブを参照しているカードは、既存のカードを追加する際にオブジェクト・ライブラリから使用できません。

カードは、現在選択されているカードまたはクラスタの下に兄弟として、リストに追加されます。カードをクラスタに追加するには、[クラスタへのカードのグループ化](#)を参照してください。

ノート:

カードまたはクラスタを選択しないでカードを追加すると、リストの最後に追加されます。

3. 新しいカードをナビゲーション・フローに追加するには、リスト内のノードを右クリックし(または **+** をクリックし)、「**カードの追加**」をクリックして、新しいカードの詳細を選択します:

表 8-1 新しいカードの詳細

ラベル	説明
名前	カードのラベルを入力します。 必ず、 ナビゲーション・フロー設計のベスト・プラクティスと命名に関する考慮事項 に記載されている命名規則に従ってください。
表示可能	ホーム・ページ上でカードをユーザーに表示するかどうかを選択します。
クラスタ	クラスタが存在する場合、カードのクラスタを選択するか、「なし」を選択します。
アイコン	作成するカードについて表示するアイコンを選択します。グラフィック・ライブラリで提供されている、使用可能なグラフィックから選択してください。
ページ・タイプ	「 単一ページ 」または「 表形式ページ 」のフォーマットを選択します。
コンテンツ・ソース	<p>「単一ページ」フォーマットを選択した場合は、「アーティファクト」または「URL」を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • アーティファクトの場合は、 をクリックして、アーティファクト・ライブラリのアーティファクトを選択します。たとえば、アーティファクトがフォームである場合、アーティファクトのリストから特定のフォームを選択します。使用可能なアーティファクトには、フォーム、ダッシュボード、レポートがあります。別の環境からアーティファクトを選択するには、「自分の接続」でターゲット環境を選択して、追加するアーティファクトを選択します。 • 「URL」の場合は、完全な URL(たとえば、Oracle Analytics Cloud ダッシュボードをカードに埋め込むための URL)を入力し、「プレビュー」をクリックして入力した URL をポップアップ・ウィンドウで確認します。 <code>https://セキュリティ・プロトコルで始まる外部サイトの URL のみを挿入します。内部または相対 URL や、同意していないサード・パーティ・サイトの URL は使用しないでください。EPM Cloud アプリケーションにサード・パーティ・ページを埋め込むための URL の使用についてを参照してください。</code>
向き	「 表形式ページ 」フォーマットを選択した場合は、「 垂直 」または「 水平 」を選択して、新規または既存のタブおよびサブ・タブを追加します。 表形式ページへのタブの追加 を参照してください。

カードは、現在選択されているカードまたはクラスタの下に兄弟として、リストに追加されます。カードをクラスタに追加するには、[クラスタへのカードのグループ化](#)を参照してください。

 **ノート:**

カードまたはクラスタを選択しないでカードを追加すると、リストの最後に追加されます。

4. 「保存して閉じる」をクリックします。

ナビゲーション・フローをリロードして設計時の変更を表示するには、[ナビゲーション・フローのリロード](#)を参照してください。

表形式ページへのタブの追加

タブは水平または垂直方向にすることができます。たとえば、「**有効な交差**」カード(「**アプリケーション**」クラスタの下)は、2つの水平タブ(「**セットアップ**」および「**レポート**」)がある表形式ページです。

 **ノート:**

レッドウッド・エクスペリエンスが有効になっている場合、「**設定**」タブと「**レポート**」タブがページの下部にあります。

垂直タブのある表形式ページも作成できます。垂直タブにはグラフィックが表示され、カーソルをタブに置くと、テキストが表示されます。水平タブには、テキストのみのラベルまたはテキストとアイコンのラベルが表示されます。

最適なユーザー・エクスペリエンスを確保するために、ナビゲーション・フロー設計のベスト・プラクティスを確認してください。[ナビゲーション・フロー設計のベスト・プラクティスと命名に関する考慮事項](#)を参照してください。

表形式ページにタブを追加するには:

1. 「**ナビゲーション・フロー**」ページを開き、編集するナビゲーション・フローの名前をクリックします。[ナビゲーション・フローの表示と操作](#)を参照してください。
2. 編集するカードの名前をクリックして既存のカードを編集するか、カードを右クリックし(または  をクリックし)、「**カードの追加**」をクリックして新しいカードを追加します。
3. 「**カードの管理**」ページで、次のオプションを選択します:
 - 「**ページ・タイプ**」で、「**表形式ページ**」を選択します。
 - 「**向き**」で、「**垂直**」または「**水平**」を選択します。「**カードの管理**」ページの下部にタブ・リストが表示されます。
4. 既存のタブを編集するには、タブのリストからタブ名をクリックして、タブの詳細を編集します。
5. 新規または既存のタブを追加するには:
 - a. 既存のタブを追加するには、「**カードの管理**」ページの下部のリストでタブを右クリックし、「**既存タブの追加**」をクリックし(または「**既存タブの追加**」ボタンをクリックし)、オブジェクト・ライブラリからタブを選択して、「**OK**」をクリックします。

 ノート:

参照タブとは、別のナビゲーション・フローからすでに参照されているタブのことです。すでに参照されているタブへの参照は、ナビゲーション・フローではサポートされず、既存のタブを追加する際にオブジェクト・ライブラリで選択できません。次に例を示します:

- リモート・アーティファクトやリモート・サブタブを参照しているタブは、既存のタブを追加する際にオブジェクト・ライブラリから使用できません。
- 別のナビゲーション・フローのサブタブを参照しているタブは、既存のタブを追加する際にオブジェクト・ライブラリから使用できません。

b. 新しいタブを追加するには、タブを右クリックし、「**新規タブの追加**」をクリックし(または「**新規タブの追加**」ボタンをクリックし)、タブの詳細を編集します。

c. 新しいタブのコンテンツを選択します:

- **アーティファクト**の場合は、 をクリックして、アーティファクト・ライブラリのアーティファクトを選択します。たとえば、アーティファクトがフォームである場合、アーティファクトのリストから特定のフォームを選択します。使用可能なアーティファクトには、フォーム、ダッシュボード、レポートがあります。別の環境からアーティファクトを選択するには、「**自分の接続**」でターゲット環境を選択して、追加するアーティファクトを選択します。
- 「**URL**」の場合は、完全な URL(たとえば、Oracle Analytics Cloud ダッシュボードをタブに埋め込むための URL)を入力し、「**プレビュー**」をクリックして入力した URL をポップアップ・ウィンドウで確認します。

https://セキュリティ・プロトコルで始まる外部サイトの URL のみを挿入します。内部または相対 URL や、同意していないサード・パーティ・サイトの URL は使用しないでください。 [EPM Cloud アプリケーションにサード・パーティ・ページを埋め込むための URL の使用について](#)を参照してください。

タブは、現在選択されているタブの下に兄弟として、リストに追加されます。

 ノート:

タブを選択しないでタブを追加すると、リストの最後に追加されません。

6. 新規または既存のサブ・タブをタブに追加するには:

- a. タブ・リストでタブの名前をクリックします。
- b. 「**ページ・タイプ**」で、「**表形式ページ**」を選択します。

- c. タブを右クリックし、「**新規サブ・タブの追加**」または「**既存サブ・タブの追加**」をクリックし(または「**新規サブ・タブの追加**」または「**既存サブ・タブの追加**」ボタンをクリックし)、サブ・タブの詳細を編集します。
- d. 新しいサブ・タブのコンテンツを選択します:

- **アーティファクト**の場合は、 をクリックして、アーティファクト・ライブラリのアーティファクトを選択します。たとえば、アーティファクトがフォームである場合、アーティファクトのリストから特定のフォームを選択します。使用可能なアーティファクトには、フォーム、ダッシュボード、レポートがあります。別の環境からアーティファクトを選択するには、「**自分の接続**」でターゲット環境を選択して、追加するアーティファクトを選択します。
- 「**URL**」の場合は、完全な URL(たとえば、Oracle Analytics Cloud ダッシュボードをサブ・タブに埋め込むための URL)を入力します。「**プレビュー**」をクリックして入力した URL をポップアップ・ウィンドウで確認します。

https://セキュリティ・プロトコルで始まる外部サイトの URL のみを挿入します。内部または相対 URL や、同意していないサード・パーティ・サイトの URL は使用しないでください。[EPM Cloud アプリケーションにサード・パーティ・ページを埋め込むための URL の使用について](#)を参照してください。

サブ・タブは、現在選択されているタブの下に兄弟として、リストに追加されます。

ノート:

タブを選択しないでサブ・タブを追加すると、リストの最後に追加されません。

7. 「保存して閉じる」をクリックします。

ナビゲーション・フローをリロードして設計時の変更を表示するには、[ナビゲーション・フローのリロード](#)を参照してください。

ノート:

- カードに複数のタブまたはサブ・タブがある場合、同じセッションで次にそのカードにアクセスすると、ユーザーが前回アクセスしたタブが開きます。ユーザーがログアウトして再度ログインした場合には、デフォルトのタブが表示されます。
- 別のナビゲーション・フローまたは別の環境から追加されたタブやサブ・タブには、ソース・ナビゲーション・フローで定義されたローカライズ済ラベルが表示されます。ナビゲーション・フローでタブ・ラベルを更新するには、ホーム・ページで「**ツール**」、「**アーティファクト・ラベル**」の順にクリックします。アーティファクト・ラベルの指定を参照してください。

EPM Cloud アプリケーションにサード・パーティ・ページを埋め込むための URL の使用について

Oracle Enterprise Performance Management Cloud では、IFrame を使用してサード・パーティ URL を埋め込みます。IFrame では、埋め込まれるページによって、埋め込む先のページが承認される必要があります。たとえば、sharepoint.com のページを EPM Cloud アプリケーションに埋め込む場合、oraclecloud.com に sharepoint.com のページを埋め込むことが、sharepoint.com によって許可される必要があります。

このことは、埋め込む必要があるページの Web アプリケーションの [コンテンツ・セキュリティ・ポリシー](#) で、oraclecloud.com を追加することで実現できます。

サード・パーティ・ページを埋め込む際は、ページが一般に公開されるかログインを必要とするかも考慮する必要があります。たとえば、wikipedia.org のページは認証を必要としません。

認証が必要なページを埋め込む場合、ページに対して SSO を有効にできるかどうかを確認する必要があります。そうでない場合、ページは IFrame 内にロードされない場合があります。回避策として、別のブラウザ・タブでその Web アプリケーションにログインし、次に EPM Cloud アプリケーションから同じページにアクセスすると、ページは開きます。

この URL サポート機能によって、次のタイプのページを埋め込むことができます：

- 他の Oracle 製品(SSO を有効にする必要があります)
- 顧客が所有する Web アプリケーション(コンテンツ・セキュリティ・ポリシーを更新し、SSO を有効にすることによって(または同様に)、EPM Cloud アプリケーションを許可する必要があります)
- パブリック・ドメインのページ(wikipedia.org など)

Note:

Oracle でサポートしているものではありませんが、ナビゲーション・フロー・カード、タブ、サブ・タブ内に次のリソースへのリンクを埋め込むこともできます：

- Google スプレッドシート
- Google ドライブに保存されているファイル(PDF や Excel など)
- Microsoft Office 365 に保存されているファイル

サード・パーティ・サイトが提供する指示に従って、EPM Cloud アプリケーションで利用できる URL を生成します。

ナビゲーション・フロー、カードおよびタブの削除

次のナビゲーション要素は削除できません。

- 「アプリケーション」クラスタと「アプリケーション」クラスタ内の「設定」アイコン。
- 「ツール」クラスタと「ツール」クラスタ内の次のアイコン。
 - アクセス制御
 - ナビゲーション・フロー
 - 日次メンテナンス
 - 移行

ナビゲーション・フロー、カードおよびタブを削除するには:

1. 「ナビゲーション・フロー」ページを開きます。[ナビゲーション・フローの表示と操作](#)を参照してください。
2. ナビゲーション・フローを削除する場合:
 - a. 削除するナビゲーション・フローを選択します。
 - b. ページの右上隅で  をクリックし、「削除」をクリックします。

ノート:

デフォルトと呼ばれる事前定義済ナビゲーション・フローは削除できません。

3. カードを削除する場合:
 - a. 編集するナビゲーション・フローの名前をクリックします。
 - b. 削除するカードの「削除」列で  をクリックします。
4. タブを削除する場合:
 - a. 編集するナビゲーション・フローの名前をクリックします。
 - b. 編集するカードの名前をクリックします。
 - c. 「タブの管理」ページの下部にあるタブ・リストで、削除するタブの「削除」列の  をクリックします。

ナビゲーション・フローをリロードして設計時の変更を表示するには、[ナビゲーション・フローのリロード](#)を参照してください。

クラスタへのカードのグループ化

クラスタは、カードのグループです。最初にクラスタを作成する必要があり、その後でカードを割り当てることができます。既存のクラスタもナビゲーション・フローに追加できます。

最適なユーザー・エクスペリエンスを確保するために、ナビゲーション・フロー設計のベスト・プラクティスを確認してください。[ナビゲーション・フロー設計のベスト・プラクティスと命名に関する考慮事項](#)を参照してください。

カードをクラスタに割り当てるには:

1. 新しいクラスタを作成するか、既存のクラスタを追加します。

- a. 「ナビゲーション・フロー」ページを開き、クラスタを追加するナビゲーション・フローの名前をクリックします。ナビゲーション・フローの表示と操作を参照してください。
- b. 新しいクラスタを作成するには、リストでカードまたはクラスタを右クリック (あるいは **+** をクリック) して、「クラスタの追加」をクリックし、クラスタの詳細を入力または選択し、クラスタのグラフィックを選択します。

 ノート:

必ず、ナビゲーション・フロー設計のベスト・プラクティスと命名に関する考慮事項に記載されている表示規則と命名規則に従ってください。

クラスタは、現在選択されているクラスタの下に兄弟としてリストに追加されます。

 ノート:

最初にカードまたはクラスタを選択せずに追加されたクラスタは、リストの最期に追加されます。

- c. 既存のクラスタを追加するには、リストでカードまたはクラスタを右クリック (あるいは **+** をクリック) して、「既存のカード/クラスタの追加」をクリックします。別の環境から既存のクラスタを追加する場合は、リストでカードまたはクラスタを右クリック (あるいは **+** をクリック) し、「既存のカード/クラスタの追加」をクリックして、「自分の接続」でターゲット環境を選択して、ナビゲーション・フローに追加するクラスタを選択します。

 ノート:

- Narrative Reporting および Profitability and Cost Management で、「既存のカード/クラスタの追加」オプションを使用して直接クラスタを選択することはできません。
- 別のナビゲーション・フローまたは別の環境から追加されたクラスタには、ソース・ナビゲーション・フローで定義されたローカライズ済ラベルが表示されます。ナビゲーション・フローでクラスタ・ラベルを更新するには、ホーム・ページで「ツール」、「アーティファクト・ラベル」の順にクリックします。
アーティファクト・ラベルの指定を参照してください。
- 参照クラスタとは、別のナビゲーション・フローからすでに参照されているクラスタのことです。すでに参照されているクラスタへの参照はナビゲーション・フローでサポートされておらず、既存のクラスタを追加するときにオブジェクト・ライブラリで選択可能にはなりません。

クラスタは、現在選択されているカードまたはクラスタの下に兄弟としてリストに追加されます。

 **ノート:**

最初にカードまたはクラスタを選択せずに追加されたクラスタは、リストの最後に追加されます。

- d. 「保存して閉じる」をクリックします。
2. 次のいずれかのオプションを使用して、クラスタに含めるカードを選択します:
 - a. 追加するカードに移動します。カードが別の環境に含まれている場合は、最初に「**自分の接続**」で環境を選択してから、その環境内のカードに移動します。次のいずれかのオプションを使用して、クラスタにカードを割り当てます:
 - 「**順序**」列のカードの右側で、➤ をクリックして、クラスタを選択し、「**OK**」をクリックします。
 - カードの詳細を表示するカードの名前をクリックし、「**クラスタ**」で、カードのクラスタを選択し、「**OK**」をクリックします。
 - b. カードを追加するクラスタに移動して、クラスタを右クリック(または **+** をクリック)して、「**クラスタへのカードの追加**」をクリックして、オプションを選択します:
 - **既存のカードの追加**を選択して、既存のカードを選択するか、別のクラスタから、選択したクラスタに既存のカードを追加します。
 - 「**カードの追加**」を選択して、カードの詳細を入力して、選択したクラスタに新しいカードを追加します。

 **ノート:**

カードまたはクラスタが別のナビゲーション・フローからすでに参照されている場合、そのクラスタにそのカードを追加することはできません。

- c. 「保存して閉じる」をクリックします。

カードがクラスタの子としてリストに表示されます。必要に応じて、カードの横にある上矢印と下矢印を使用して、クラスタ内でカードの順序を変更します。

ナビゲーション・フローをリロードして設計時の変更を表示するには、[ナビゲーション・フローのリロード](#)を参照してください。

ナビゲーション・フローのリロード

ナビゲーション・フローの操作時に設計変更を表示するには、ナビゲーション・フローをリロードします。

設計変更を行った後にナビゲーション・フローをリロードするには:

1. ホーム・ページで、ユーザー名の横にある下矢印(画面の右上隅)をクリックします。
2. 「**設定およびアクション**」メニューで、「**ナビゲーション・フローのリロード**」をクリックします。

実行時のナビゲーション・フローの切替え

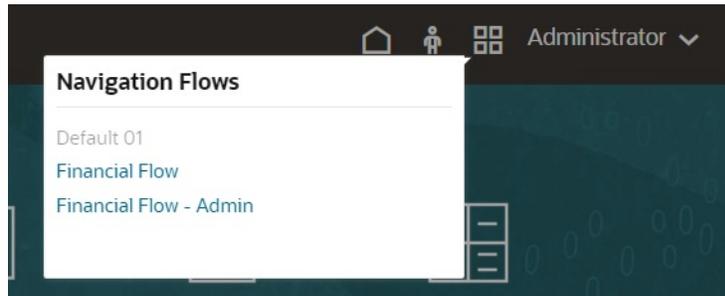
複数のグループに属している場合、またはナビゲーション・フローが役割に割り当てられている場合、複数のナビゲーション・フローにアクセスできます。

ノート:

サービス管理者の役割が割り当てられたユーザーは、すべてのナビゲーション・フローにアクセスできます。

実行時にナビゲーション・フローを切り替えるには:

1. ホーム・ページで、 をクリックします。
2. 表示するナビゲーション・フローを選択します。



9

インフォレットの設計

関連トピック

- [インフォレットについて](#)
- [インフォレットの詳細分析](#)
- [インフォレットの内容の決定](#)
- [インフォレット・デザイナの使用](#)
- [インフォレットの作成](#)
- [インフォレットの操作](#)
- [インフォレットにアクセスするアプリケーション・インタフェースのカスタマイズ](#)

インフォレットについて

インフォレットを使用すると、各種のソースから生成される概要レベルの必須情報を表示し、扱うことができるので、どこに注意を向けるべきかすぐに評価できます。管理者は、インフォレットの作成、再設計、およびインフォレットへの権限の割当てを行います。

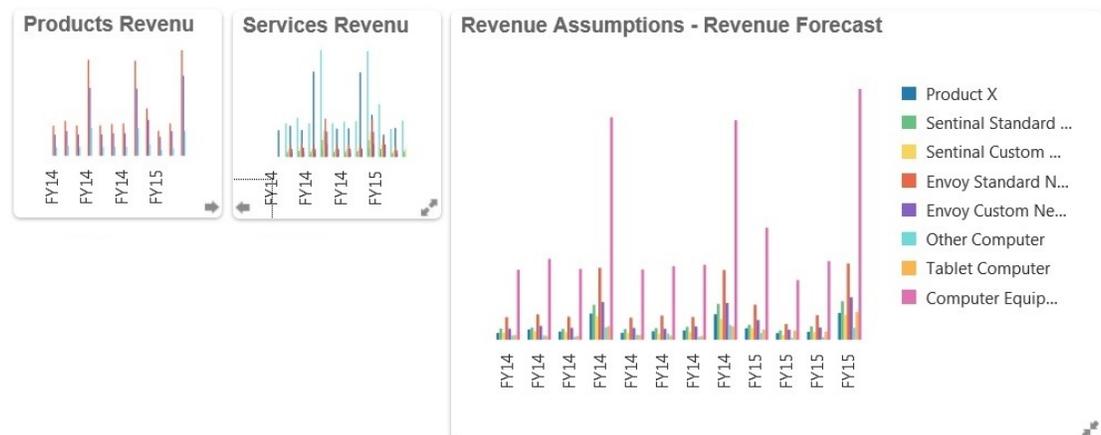
インフォレットの設計方法を学習するには、次の概要ビデオをご覧ください。



[概要ビデオ](#)

インフォレットとは何か

インフォレットとは、自己完結型で対話型のボックス・コンテナです。テキストとチャートを使用して情報を表示します。インフォレットは対話型で、概要レベルで集約された必須情報を段階的に表示するので、一目で参照しやすく、必要に応じて迅速に対処できます。インフォレットは、最大で3つのチャートまたは一連の値を表示できるように、切替えとサイズ変更が可能です。



インフォレットの詳細は、[インフォレットの詳細分析](#)を参照してください。

インフォレットの使用方法

インフォレットは、次の用途に使用できます。

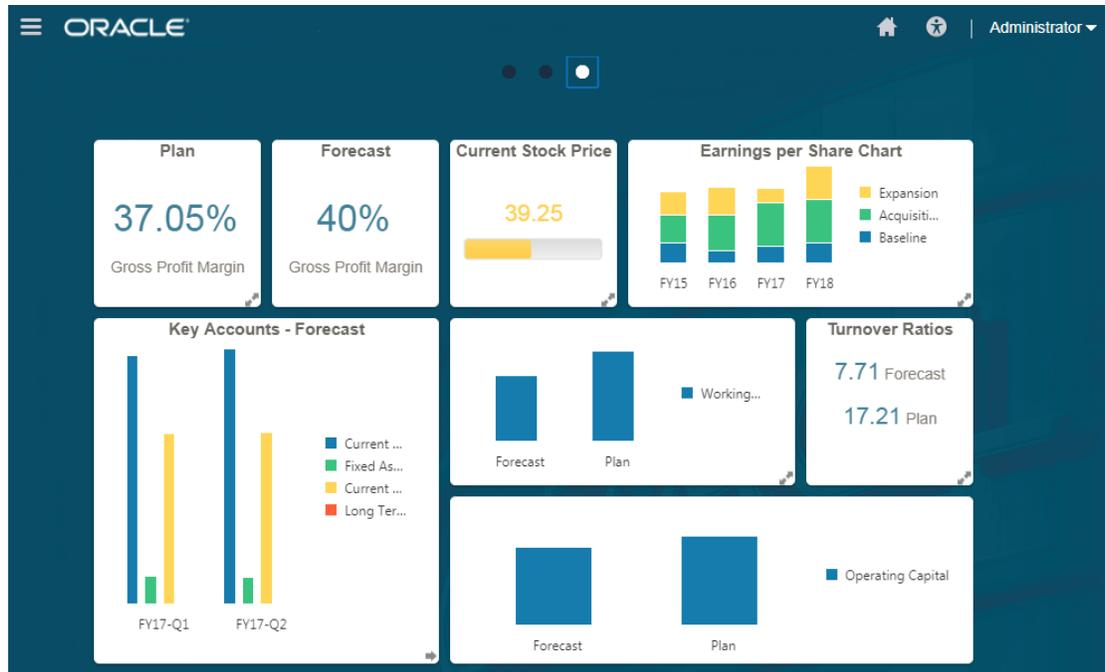
- 必須の情報を使いやすい形で示す
- 最もクリティカルな質問に対する答えを示す
 - 何が新しく、何が変更されていますか？
 - 自分の作業をサポートする最も重要な情報は何ですか？
- ユーザーの作業を迅速に評価して優先順位を設けられるように、重要な情報をユーザーの役割ごとにグループ化する
- 必須の情報やアクションを段階的に表示する
インフォレットを切替えまたは展開することで、このような追加の詳細情報をさまざまなインフォレット・ビューで表示します。ただし、使用できるインフォレット・ビューは1つのみです。
- 必須の情報や概要情報を、視覚的にリッチな形で示す

レポート機能のように特に複雑な情報を扱うとき、または詳細なビジュアルを示すときには、インフォレットは使用しないでください。

[インフォレットの内容の決定](#)を参照してください。

インフォレット・ページとは何か

インフォレット・ページとは、1つ以上のインフォレットが表示されるページです。これにはコンテナがあり、インフォレットが占めるスペースを管理したり、ブラウザのサイズとインフォレットのサイズに合わせて再配置したりできます。作成した各インフォレットは、1つのインフォレット・ページに属します。ホーム・ページで「**ライブラリ**」、「**インフォレット**」タブの順にクリックし、インフォレット・ページのリストを表示します。



ノート:

この更新では、上の画像で示されている機能をすべて使用できるわけではありません。それらの機能には、今後の更新で対応する予定です。

[インフォレットの操作](#)を参照してください。

インフォレットの詳細分析

インフォレットのビュー

1つのインフォレットは、最大3つのビューをサポートしています。

- 前面ビュー(必須)
- 背面ビュー(オプション)
- 展開ビュー(オプション)

インフォレット・ビューでは、基礎となるフォームとディメンションに割り当てられているアクセス権を保持します。したがって、ユーザーごとにアクセス権が異なれば、同じインフォレットでも表示されるビューは異なることがあります。

前面ビュー(必須)

前面ビューは必須です:

- 自分の作業に直接影響する概要レベルの情報を一目で見ることができます。たとえば、前面ビューには、ステータス、数、合計、最新の更新などを表示できます
- 一目でわかりやすくなっているため、詳細を調べたい重要な情報の識別に役立ちます

- 3x2を除いてすべてのインフォレット・サイズを使用できます(詳細は、後述のインフォレット・サイズの情報参照)
- 展開ビューを、前面ビューまたは背面ビューで元のサイズに戻せます
- 「アクション」メニュー・アイコンはカーソルを置いたときだけ表示され、背面切替えアイコン(オプション)または展開アイコンが右下隅に表示されます

 **ノート:**

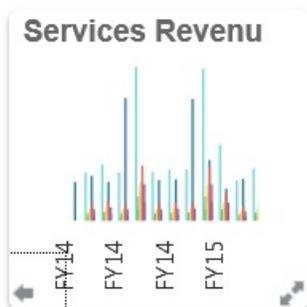
ビューを1つだけ表示する場合は、前面ビューにする必要があります。



背面ビュー(オプション)

背面ビューはオプションです:

- 分析情報(グラフなど)を表示します
- スキャンしやすいため、前面ビューに表示された情報を調べたり、さらに知ることができます
- サイズは前面ビューと同じです
- 「アクション」メニュー・アイコンはカーソルを置いたときだけ表示され、前面切替えアイコンが左下隅に、展開アイコン(オプション)が右下隅に表示されます



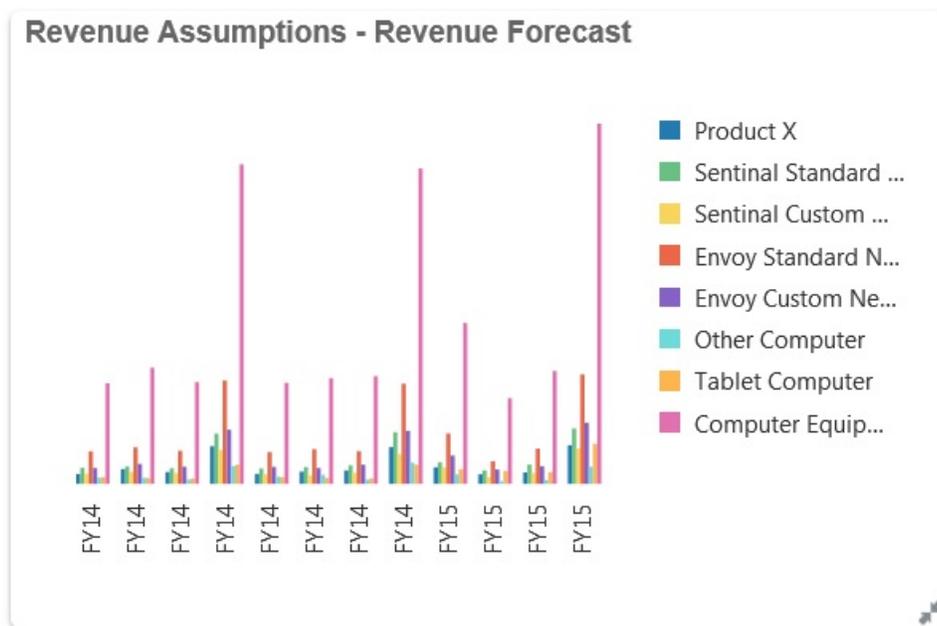
展開ビュー(オプション)

展開ビューはオプションです:

- 前面ビューまたは背面ビューで示される1つのデータ・ポイントまたは個々のデータについて、さらに詳細を表示します。たとえば、展開ビューでは、1つのオブジ

エクトまたは最近の項目の一覧について、前面ビューや背面ビューに表示される内容よりも詳細な情報を表示できます

- アクションを実行して作業領域ページの注目すべき内容に移動してよいかどうか、十分な情報に基づいて判断できます
- 他のビューからの移行もスムーズです。他のインフォレットが新しい位置に移動されるので、スムーズでシームレスに展開できます。
- 前面ビューや背面ビューよりサイズを大きくする必要があります
- 「アクション」メニュー・アイコンはカーソルを置いたときだけ表示され、縮小アイコンが右下隅に表示されます



インフォレットのサイズ

インフォレットのサイズは、次のように設定できます。

ノート:

1x1 は、1列1行(170ピクセル)のボックスを表します。

- 1x1
- 2x1
- 3x1
- 2x2
- 3x2 (展開ビューのみ)

前面ビューと背面ビューのサイズは、常に同じです。前面ビューのサイズを変更すると背面ビューのサイズも自動的にリセットされます。展開ビューのサイズは必ず前面/背面ビューよ

り大きくする必要があるため、インフォレットの前面/背面ビューのサイズを大きくした場合、展開ビューは前面/背面ビューより大きいサイズに自動的にリセットされます。

ノート:

前面ビューと背面ビューには、3x2のサイズは使用できません。このサイズは、展開ビューのみに適用可能です。

ビューのサイズとタイトルは、インフォレット・メニューを使用してプロパティ・ボックスで、デザイナーによって設定されます。[インフォレット・デザイナーの使用](#)を参照してください。

インフォレット・ビュー間の移動

1つのインフォレットは、次のいずれかのビューの組合せで作成できます。

1. 前面ビューのみ
2. 前面ビューと背面ビュー
3. 前面ビューと展開ビュー
4. 前面ビュー、背面ビュー、展開ビュー

ビュー間を切り替えるには、インフォレットの右下隅または左下隅にある切替えアイコン、展開アイコン、縮小アイコンを使用します。下隅にカーソルを置くと、切替え、展開、縮小のアイコンが表示されます。

インフォレットの内容の決定

インフォレットの内容を決めるときは、次の一般的なヒントを参照してください。

- 既存のダッシュボードと作業領域ページを確認します。
ダッシュボードと作業領域ページは、情報サマリーがまとめて表示されるので、出発点として最適です。
- 10/90/90の原則を適用します。
重要性が高く利用しやすい、ユース・ケースの上位10%からあがるFAQに対処する情報を探します。このユース・ケースは、ビジネス・インテリジェンス、ソーシャル、トランザクション、外部など全社から集まります。
次に、この情報に絞って、ユーザーの90%が、時間の90%で得られるメリットが何かを検討します。既存のダッシュボードの内容、既存の作業領域ページ、または全般にこの10/90/90の原則を適用して、インフォレットに適した情報を選定します。
- 上位のユース・ケースを、よくあるビジネス上の質問の形で書きなおします。
これらのビジネス上の質問に答えるように、対応するインフォレットの内容を提示します。たとえば、対応の困難なオーダーの数をステータス別に一覧するなどです。
- 複数の情報ポイントではなく、1つのポイント、または密接に関連があり相互に依存する一連のポイントを探します。

インフォレットの内容を決定するプロセスは、ダッシュボードの内容を作成するプロセスに類似していますが、分析のレベルはもっと深くなります。3つ以下の情報階層ビューで表示するのに適しており、ビジネス上のクリティカルな質問の答えになる情報を、1つのデータ・ポイントまたはデータ・セットから探します。

- 最も重要な1つのポイントから始めます。

1つのインフォレットには、データの1つの側面つまり情報ポイントに関する集約情報が表示されます。ユーザーが知る必要のあるイベント、またはユーザーが対処する必要のあるタスクに関連する情報です。

ダッシュボードに、1つ以上のオブジェクトの複数の側面(数字の合計や通貨の合計)が含まれている場合は、最も重要な1つのポイントから始め、インフォレットの前面ビューに対する1つの概要(たとえば、合計としてスタイル付きの数値を使用するなど)を追加してきます。次に、必要に応じて背面ビューの内容を決めます。最後に、必要に応じて展開ビューの内容を決めます。

1つのインフォレットで、4つ以上のビューは追加できません。インフォレットに表示するデータ・ポイントが1つのみ、または密接に関連があり相互に依存するデータ・セットが1つのみの場合は、前面ビューのみ使用します。

関連リンク

[インフォレットのフォームの設計](#)

[インフォレットのチャートの設計](#)

インフォレットのフォームの設計

インフォレットでは、小さいデータ・セットの単一のフォームのみ使用します。フォームに設定されているアクセス権限がインフォレットで保持されます。

インフォレットで個々に使用されるフォームを作成できます。

- フォルダで使用するフォームは、従来のデータ入力フォームよりセルが少なくなります。たとえば、インフォレットで使用するフォームのセルは12以下です。
- インフォレットで使用するフォームは、行と列を12以下にしてください。フォームの行と列が12を超えた場合、12行および12列までしか表示されません。
- 現在、インフォレットはページ・ディメンションまたはPOVをサポートしていないため、インフォレットで使用するフォームにページ・ディメンションは使用しないでください。
- インフォレットで使用するフォームにグリッドが含まれ、メンバーを展開すると、インフォレットでは展開したメンバーも含めて、フォームのメンバーがすべて表示されます。

インフォレットのチャートの設計

静的な内容を表示するには、チャートのタイトルとサブタイトルを使用します。

インフォレットで利用できるチャートは6種類あります:

- **棒** - 複数のデータ値のグラフィカルなサマリーを表し、比較に利用します。棒グラフは、垂直または水平に表示できます。棒グラフのインフォレットでは、棒の数を最大で8つまでに抑えることをお勧めします。

- **縦棒** - 異なるデータ・セット同士を積み重ねて表す棒グラフです。1つの棒の最終的な高さは、データ・セットを合算した値を表します。
- **円** - 円グラフでは、分割したスライスでデータ・セット同士を比較します。円グラフのインフォレットでは、スライスの数を最大で6つまでに抑えることをお勧めします。
- **ドーナツ** - 円グラフをセグメントに分割し、データ・セット同士を比較します。中央の空白は、全データ・セットの合計を表します。ドーナツ・チャートのインフォレットでは、セグメントの数を最大で6つまでに抑えることをお勧めします。
- **折れ線** - 一定期間にわたるデータのトレンドをビジュアル化するときに使用します。
- **タイル** - データ・セットから、表示する特定の値を選択できます。タイル・チャートのインフォレットでは、タイルの数を最大で3つまでに抑えることをお勧めします。

 **ノート:**

タイル・チャートで使用できるサイズは1x1のみです。タイル・チャートを使用しているインフォレットは、チャート・タイプを変更しないかぎりサイズを変更できません。タイル・チャートを1x1より大きいインフォレットにドラッグ・アンド・ドロップすると、インフォレットのサイズかチャート・タイプか、どちらかを変更するよう指示されます。

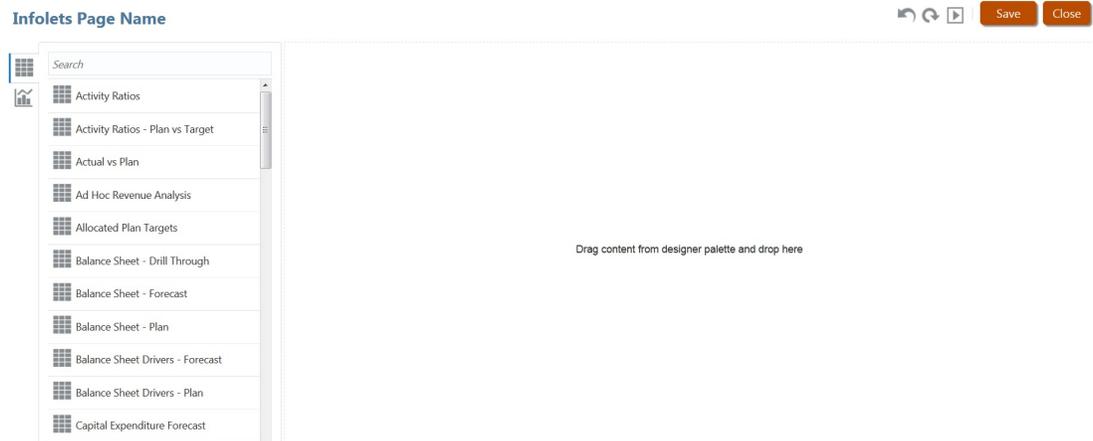
インフォレット・デザイナの使用

管理者は、インフォレット・デザイナを使用してインフォレットおよびインフォレット・ページを作成します。インフォレット・デザイナでは、ランタイム・ビューとデザイナ・ビューを簡単に切り替えることができます。

インフォレット・デザイナにアクセスするには:

1. ホーム・ページで「**ライブラリ**」をクリックし、「**インフォレット**」タブを選択します。
2. 「**作成**」をクリックするか、リストでインフォレット・ページを選択します。
3. 「**アクション**」をクリックし、「**編集**」をクリックします。リストでインフォレット名をクリックすると、そのインフォレット・ページのランタイム・バージョンが開きます。ランタイム・ビューとデザイナ・ビューは、 をクリックして切り替えられます。

インフォレット・デザイナ



インフォレット・ツールバー

右上にインフォレット・ツールバーがあります。



- インフォレット・デザイナを、前回保存した状態に戻します



- Essbase からのデータをリフレッシュし、データベースからインフォレット定義を更新します



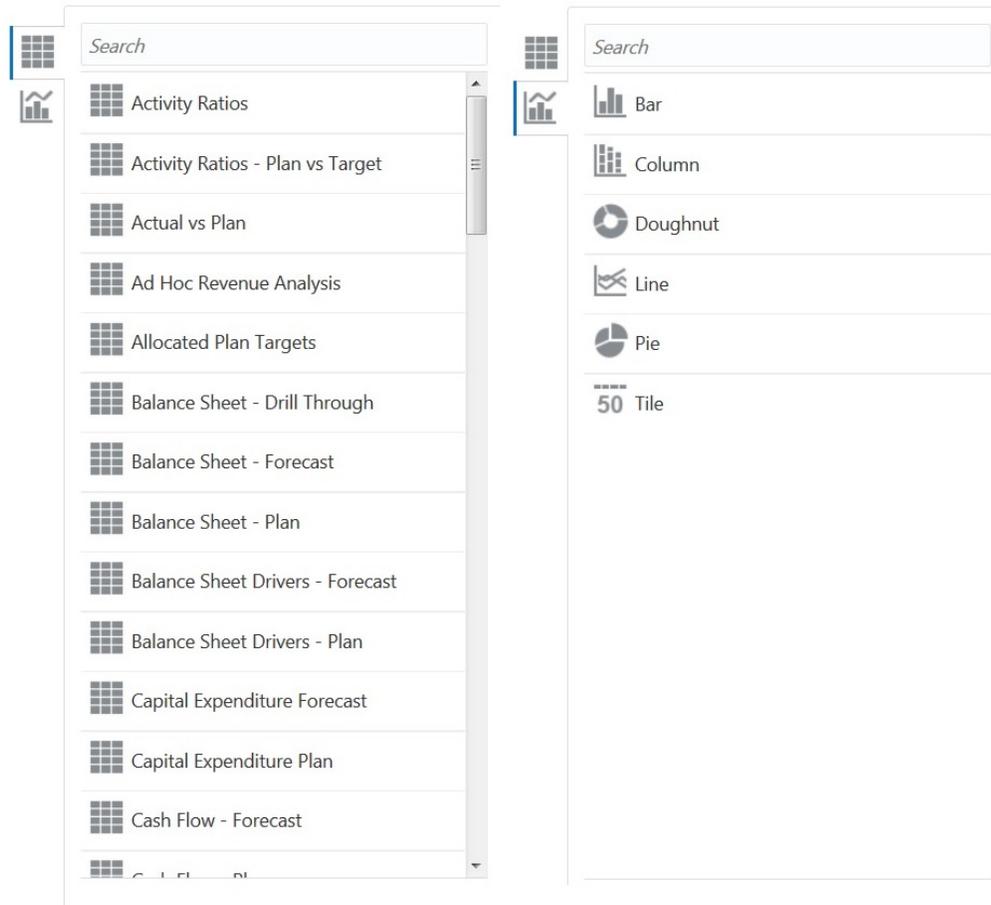
- インフォレット・デザイナの要素をすべて非表示にし、実行時にユーザーに見えるのと同じようにインフォレットを表示します



- ランタイム・モードから、インフォレット・デザイナを表示します

インフォレット・デザイナ・パレット

左側には、デザイナ・パレットがあります。デザイナ・パレットには、「フォーム」と「チャート・タイプ」の2つのタブがあります。デザイナ・パレットでオブジェクトをハイライトし、ドロップ・ゾーンまでドラッグ・アンド・ドロップします。



デザイナ・パレットのオブジェクト:

- フォーム - フォームをスクロールするか、名前で検索して、インフォレットに含める単一のフォームを選択します。フォームの詳細は、[インフォレットのフォームの設計](#)を参照してください。

 **ノート:**

フォームに設定されているアクセス権限がインフォレットで保持されません。

- チャート・タイプ - インフォレットに含めるチャート・タイプを選択します。インフォレットのチャートには、データ・ソースとしてチャートとフォームを関連付けるまで、サンプルのデータが表示されています。チャートをフォームにリンクすると、ユーザーは、関連付けられたチャートに対するフォームでのデータ変更の影響を確認できます。チャートにフォームを関連付けるには、チャートをハイライトしてドロップ・ゾーンまでドラッグ・アンド・ドロップし、インフォレット右上隅にカーソルを置いて「**データ**」、「**フォーム**」の順でクリックしてデータ・ソースを選択します。チャートの詳細は、[インフォレットのチャートの設計](#)を参照してください。

インフォレット・メニュー

インフォレット・メニューを操作するには、インフォレットの右上隅にカーソルを置き、下矢印をクリックして、メニュー・オプションを表示します：

- **レイアウト** - インフォレットのヘッダーとサブタイトルを編集できます。

ノート：

指定するヘッダーは、1つのインフォレットではすべてのビューで同じですが、各ビューに違うサブタイトルを指定することはできます。たとえば、1つのインフォレットの前面、背面、展開の各ビューに異なるサブタイトルを指定できますが、ヘッダーは同じにする必要があります。

- **チャート・タイプ** - インフォレットのデータを選択したチャート・タイプで表示します
- **サイズ** - インフォレットを選択したサイズで表示します
- **データ** - インフォレットにデータ・ソースを関連付けます
- **削除** - ページからインフォレットを削除します
- **クリア** - インフォレットの詳細をクリアします

インフォレットの作成

インフォレットを作成するには：

1. ホーム・ページで「**ライブラリ**」をクリックし、「**インフォレット**」タブをクリックします。
2. 「**作成**」をクリックします。
3. **インフォレット・ページ名**をクリックして、作成する新しいインフォレット・ページのタイトルを入力します。
4. 左側のデザイナー・パレットから、「**フォーム**」タブまたは「**チャート・タイプ**」タブを選択し、オブジェクトをハイライトして、インフォレットのドロップ・ゾーンまでドラッグ・アンド・ドロップします。
5. インフォレット・メニューを使用してインフォレットをカスタマイズし、「**保存**」をクリックします。

「インフォレット」リスト・ページで「**別名コピー**」アクションを使用すると、インフォレットを簡単に複製して変更できます。インフォレットを選択して「**アクション**」をクリックし、「**別名コピー**」をクリックします。

インフォレットの操作

インフォレット・ページを作成すると、「**インフォレット**」タブのインフォレット・リストに表示されます。

1. ホーム・ページで「**ライブラリ**」をクリックし、「**インフォレット**」タブを選択します。

 ノート:

管理者のみが、ファイル(ダッシュボード、インフォレット、フォーム、レポートなど)を「ライブラリ」ルート・フォルダに追加できます。

2. インフォレットを操作するには、次のアクションを実行します。
 - インフォレットを作成するには、「作成」をクリックします。インフォレットの作成を参照してください。
 - インフォレット・リストをリフレッシュするには、「リフレッシュ」をクリックします。
 - インフォレット・ページで次のアクションを実行するには、インフォレット・ページに隣にある「アクション」アイコンをクリックし、次のように選択します。
 - 編集
 - 名前変更
 - 別名コピー
 - 削除
 - 「デフォルト」または「マーク解除」
 - 権限の割当て

 ノート:

- 「デフォルト」を選択すると、インフォレット・ページがデフォルトとしてマークされます。デフォルトとしてマークされたインフォレット・ページには、ホーム・ページのグローバル・ヘッダーの下に表示される2つ目のインフォレット・ドットをクリックするだけで、ホーム・ページから直接アクセスできます。インフォレット・ページから「デフォルト」設定を削除するには、「マーク解除」を選択します。
- デフォルトとしてマークできるのは、インフォレット・ページとダッシュボードのどちらかです。ダッシュボードを先にデフォルトとしてマークしている場合、インフォレット・ページをデフォルトとしてマークすると、デフォルトのダッシュボードが上書きされます。逆に、インフォレットが先にデフォルトとしてマークされている場合、後からダッシュボードをデフォルトとしてマークすると、デフォルトのインフォレットが上書きされます。

インフォレットにアクセスするアプリケーション・インタフェースのカスタマイズ

インフォレット・ページへのリンクを追加できるように、ナビゲーション・フロー・デザインを使用して、アプリケーション・インタフェースをカスタマイズできます。インフォレット・ページにアクセスするアプリケーション・インタフェースをカスタ

マイズすると、ホーム・ページでグローバル・ヘッダーの下にドットが表示されます。ホーム・ページに表示される各ドットが1つのインフォレット・ページを表しており、ドットにカーソルを置くと、インフォレット・ページの名前が表示されます。インフォレットのドットをクリックすると、それに関連付けられているインフォレット・ページが開きます。ホーム・ページに定義できるインフォレットのドットは、最大7つです。他の EPM Cloud サブスクリプションへの接続をすでに作成している場合は、他の EPM Cloud サブスクリプションでもインフォレット・ページへのリンクを追加できます。



アクセス権のあるインフォレット・ページのドットのみがホーム・ページに表示され、ユーザーに見えます。表示されるインフォレット・ドットのタイプは、次のとおりです。

- ホーム・ドット - 常に最初に表示されるドットで、ホーム・ページにリンクしています。ホーム・ドットは1つだけです。ホーム・ページ以外を閲覧しているときは、ホーム・ドットをクリックするとホーム・ページに戻ります。
- ユーザー・ドット - エンド・ユーザーがデフォルトのインフォレット・ページとしてマークしたインフォレット・ページにリンクします。ユーザー・ドットは1つだけで、必ずユーザーのホーム・ページでホーム・ドットの後に表示されます。ユーザー・ドットは、ナビゲーション・フロー・デザイナーでは追加できません。インフォレットをデフォルトとしてマークする方法の詳細は、[インフォレットの操作](#)を参照してください。
- カスタマイズ可能ドット - 管理者が作成したインフォレット・ページにリンクします。カスタマイズ可能ドットは、ナビゲーション・フローに統合でき、表示するかどうかと表示の順序はナビゲーション・フロー・デザイナーで決定します。カスタマイズ可能ドットは最大7つまでで、常にホーム・ドットとユーザー・ドットの後に表示されます。

ナビゲーション・フロー・デザイナーを使用して、アプリケーション・インタフェースにインフォレット・ドットを追加するには:

1. ホーム・ページから、「ツール」、「ナビゲーション・フロー」の順にクリックします。
2. アクティブでないナビゲーション・フローをリストから選択し、ナビゲーション・フロー・デザイナーで「インフォレット」タブをクリックします。
3. 「+」(プラス記号)をクリックします。
4. 「インフォレットの管理」で、インフォレット・ドットに名前を付けて、表示/非表示を設定し、 をクリックしてアーティファクト・ライブラリからインフォレットを選択します。

ノート:

他の EPM Cloud サブスクリプションへの接続が作成してある場合は、そのサブスクリプションからインフォレットを選択することもできます。まず、「**自分の接続**」でサブスクリプションを選択し、そのサブスクリプションのインフォレットに移動します。

5. 「保存して閉じる」をクリックします。

 **ノート:**

インフォレットが、ナビゲーション・フローでタブまたはカードに関連付けられている場合もあります。タブやカードを追加または更新する際には、アーティファクト・ライブラリでインフォレットを選択します。

設計時のナビゲーション・フローに対する変更を確認するには、ナビゲーション・フローをアクティブにし、ホーム・ページからユーザー名(画面の右上隅)の隣の下向き矢印をクリックして、「**ナビゲーション・フローのリロード**」をクリックします。

ナビゲーション・フローの設計についてさらに学習するには、管理者ガイドのカスタム・ナビゲーション・フローの設計に関する項を参照してください。

EPM Cloud サブスクリプションの接続についてさらに学習するには、管理ガイドで「**EPM Cloud のサブスクリプションの接続**」を参照してください。

10

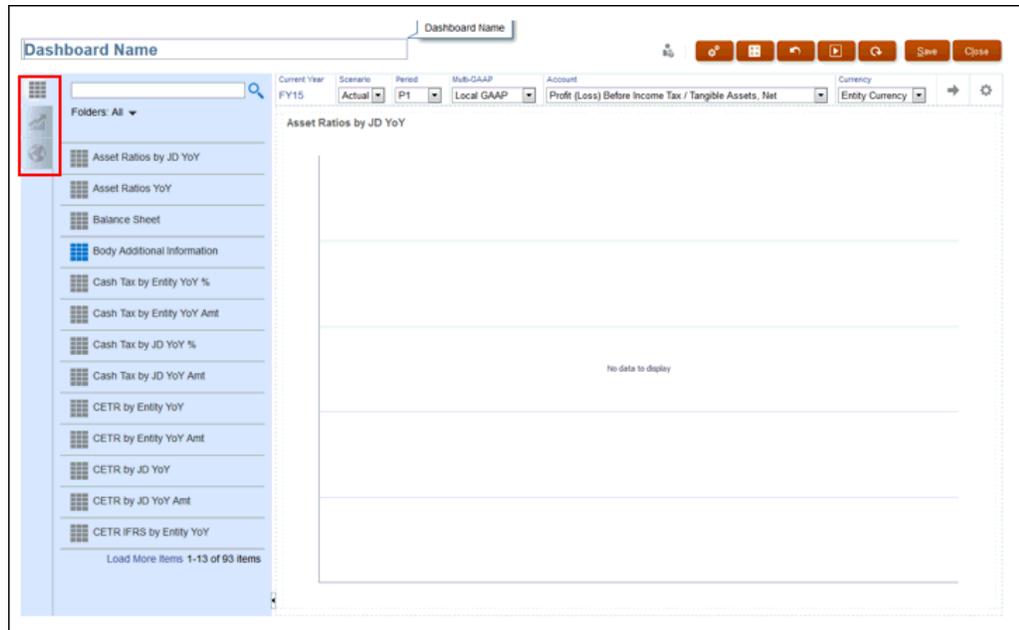
ダッシュボードの設計

関連トピック

- [ダッシュボードのメリット](#)
- [ダッシュボード設計の概念](#)
- [ダッシュボードの設計手順](#)
- [ダッシュボードのレイアウトについて](#)
- [ゲージ・チャート・タイプについて](#)
- [タイル・チャート・タイプについて](#)
- [ダッシュボードの色のカスタマイズ](#)
- [折れ線グラフおよび組合せグラフの線幅の設定](#)
- [グローバル POV とローカル POV について](#)
- [ダッシュボードの POV および有効交差](#)
- [ダッシュボードの表示](#)
- [ダッシュボード 1.0 のダッシュボードの 2.0 への変換](#)
- [ダッシュボード 2.0 の作成および管理](#)

ダッシュボードのメリット

ダッシュボードでは、通常サマリー・データが表示され、概要を把握できます。ダッシュボードの多様な機能により、主要ビジネス・データについてチャート作成、評価、ハイライト、コメント作成および変更を行うことができます。たとえば、ダッシュボードでフォーム内のボリュームなどのドライバを変更し、他のフォームやチャートでその影響を即座に確認できます。



ダッシュボードを作成するには、様々なオブジェクトをデザイン・パレットからダッシュボード・キャンバスにドラッグ・アンド・ドロップします。

ダッシュボードでは、次のことができます。

- フォームでデータを変更すると動的に更新される最大 6 つのフォームとその関連チャートを含めます。
- 最大 9 つのチャートおよびタイルを含めます。タイルにはキューブの特定の値が表示されます。各タイルに値を提供するには、フォームまたはセル交差をデータソースとして指定します。
- ダッシュボード・ユーザーに表示される内容を正確に確認できるように、デザイン・パレットとランタイム・モードの使用を切り替えます。
- 面、棒、バブル、列、棒と折れ線の組合せ、ドーナツ、ファンネル、ゲージ、散布、レーダーなどの多様なチャート・タイプを使用して、データを対話形式で表します。
- 外部 Web ページを動的に表示するリンクを追加します。
- ダッシュボードのレイアウトを細かく操作します。たとえば、ダッシュボードの上半分を 2 つのフォームに使用し、下半分を 3 つのチャートにそれぞれ 33%ずつ使用できます。
- フォームの設計に応じて、ユーザーが基礎となる詳細にドリルダウンし、作業するメンバーを選択できるようにします。
- グローバル POV バーとローカル POV にユーザー変数を含めます。
- 注釈と呼ばれるデータの説明をダッシュボードに含めます。
- 一部のチャートで:
 - 色と線の幅をカスタマイズします。
 - グリッド・ラインを表示します。(デフォルトでは、グリッドラインは非表示です。)

ユーザーがダッシュボード(ランタイムと呼ばれる)を使用する場合、表示されるチャートのタイプやダッシュボードのタイトルなど、オブジェクトの様々な側面を設定できます。各オブジェクト・タイプにツールバーを使用できます。ダッシュボード・ユーザーは、データの変更と保存、ルールの実行などを行うことができます。ただし、実行時にチャート・タイプのオプションに加えた変更は、次のセッションには保存されません。実行時に「保存」をクリックすると、データは保存されますが、ダッシュボード定義は保存されません。

管理者は、ダッシュボードの作成、再設計、およびダッシュボードへの権限の割当てを行うことができます。

関連トピック:

- [ダッシュボード設計の概念](#)
- [ダッシュボードの設計手順](#)
- [ダッシュボードのレイアウトについて](#)
- [ゲージ・チャート・タイプについて](#)
- [タイル・チャート・タイプについて](#)
- [ダッシュボードの色のカスタマイズ](#)
- [折れ線グラフおよび組合せグラフの線幅の設定](#)
- [グローバル POV とローカル POV について](#)
- [ダッシュボードの POV および有効交差](#)

ダッシュボード設計の概念

ダッシュボードを設計する際には、次の情報が役立ちます。

- 左側には、デザイン・パレットがあります。パレットからキャンバスにオブジェクトをドラッグ・アンド・ドロップします。

💡 ヒント:

オブジェクトを枠線までドラッグします。許可されたスペースにオブジェクトをドロップできるようになると、ドラッグ・アイコンがプラス記号に変わります。[ダッシュボードのレイアウトについて](#)を参照してください。

- 右上には、ダッシュボード全体の設定があります。



- 「設定」  を使用して、ダッシュボードの次の設定を指定します。

Dashboard Settings



Close

Use name as title

Borders Show Hide

Layout Fixed Flexible

POV Bars Show Hide

Global POV Bar Enable Disable

ノート:

新しいダッシュボードを作成するとき、デフォルトでは枠線は非表示です。新しく作成するダッシュボードで枠線を表示するには、「表示」で枠線の設定を変更する必要があります。

ノート:

管理者のみが、ファイル(ダッシュボード、インフォレット、フォーム、レポートなど)を「ライブラリ」ルート・フォルダに追加できます。

POVの詳細は、[グローバル POV](#)と[ローカル POV](#)についてを参照してください。

- 各オブジェクトの右上には、そのオブジェクトのツールバーがあり、その上にカーソルを置くと表示されます。
- ダッシュボードの作成時に、「ランタイム」 をクリックすると、ダッシュボード・ユーザーに対するダッシュボードの外観と動作をすぐに確認できます。デザイナー・モードに戻ってダッシュボードの設計を続行するには、「デザイナー」をクリックします。

ダッシュボードの設計手順

ダッシュボードを設計するには:

- ホーム・ページでライブラリをクリックし、「ダッシュボード」タブをクリックして「作成」をクリックします。
- ダッシュボード名を入力します。
 - デフォルトのダッシュボード名を変更するには、その名前をクリックし、入力ボックスに新しい名前を入力します。

- カスタム・フォーマットのタイトルをダッシュボードに指定するには、「設定」をクリックし、「名前をタイトルとして使用」をクリアし、タイトルを入力して、ダイアログ・ボックスのフォーマットを設定します。
3. 左側のデザイン・パレットから、オブジェクトをダッシュボード・キャンバスにドラッグ・アンド・ドロップします。
次のオブジェクトから選択します。

表 10-1 ダッシュボード・タブ

タブ	説明
フォーム	<p>フォーム・フォルダをナビゲートするか、名前で検索して、ダッシュボードに含める単一のフォームを選択します。</p> <div style="border: 1px solid #ccc; background-color: #e6f2ff; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p> ノート:</p> <p>フォームに設定されているアクセス権限がダッシュボードで保持されます。</p> </div>
チャート・タイプ	<p>ダッシュボードに含めるチャート・タイプを選択します。最初に追加した際、選択したチャートにはサンプル・データがあります。続いて、それをそのデータ・ソースとしてのフォームに関連付けます。チャートをフォームにリンクすると、ユーザーは、関連付けられたチャートに対するフォームでのデータ変更の影響をすぐに確認できます。</p> <p>「組合せ」チャート・タイプでは、行データが交互に垂直棒と折れ線でチャート内に表示されます。たとえば、フォームの行 1 のデータは棒として、行 2 のデータは折れ線として表示され、偶数と奇数の行のチャート・タイプが交互に入れ替わります。「組合せ」チャート・タイプで表示できるデータは 20 行までですが、特に 2 つのカテゴリのデータを比較する際に便利です。たとえば、ドイツとフランスの平均為替レートを複数年にわたって比較するため、フォームの行 1 にドイツのレートがあり、フランスのレートが行 2 にある場合などです。</p> <p>「ゲージ」チャート・タイプの詳細は、ゲージ・チャート・タイプについてを参照してください。</p>
タイル	<p>パフォーマンス・タイルと呼ばれることもあり、タイルはキューブから特定の値を選択して表示できるチャート・タイプです。タイル・チャート・タイプについてを参照してください</p>
外部アーティファクト	<p>注釈: 「外部アーティファクト」、「注釈」の順に選択します。データまたはチャートを説明するテキストを入力します。</p> <p>URL: 「外部アーティファクト」、「URL」の順に選択し、動的 Web ページ・サマリーを表示します。https://セキュリティ・プロトコルで始まる外部サイトの URL のみを挿入します。内部または相対 URL や、google.com などの同意していないサード・パーティ・サイトの URL を使用しないでください。</p>

4. ダッシュボード設定とオブジェクトのホバー・ツールバーを使用してダッシュボードをカスタマイズし、「保存」をクリックします。[ダッシュボードのレイアウトについて](#)を参照してください。

「ダッシュボード」リスト・ページで「別名コピー」を使用すると、ダッシュボードを簡単に複製して変更できます。ダッシュボードを選択し、「アクション」 をクリックします

ダッシュボードのレイアウトについて

ダッシュボードをレイアウトするには:

- 最初にドラッグしたオブジェクトがキャンバス全体を占有します。
- その後、既存のオブジェクトの上下左右にオブジェクトをドラッグします。
- ダッシュボードのキャンバスには、2種類のドロップ・ゾーンがあります。
 - 1つは、2つのオブジェクトを隣同士に配置するもので、それぞれが領域の半分を占めます
 - もう1つは、3つのオブジェクトを配置するもので、それぞれが領域の3分の1を占めます
- オブジェクトを左右および上下に並べて表示するようにダッシュボードを設計でき、それぞれを独自のサイズに調整することもできます。
- 「**フレキシブル**」レイアウトを使用しているオブジェクトのサイズを変更するには、オブジェクトの枠線をドラッグします。
- 「**固定**」レイアウトを使用しているオブジェクトのサイズを変更するには、「**設定**」でその幅または高さの割合を設定します。
- フォームのレイアウトは非対称にすることができます。
- 実行時モードでは、ユーザーがフォームに対するアクセス権を持っていない場合やフォームが見つからない場合、隣接するオブジェクトがそのスペースを占有します。デザイナー・モードでは、空のオブジェクトがすべて表示され、デザイナーはそれらを削除するように選択できます。

ゲージ・チャート・タイプについて

ゲージ・チャート・タイプは、データ値が許容範囲内に収まっているかどうかを確認する場合に便利です。最大値および範囲の最大値を設定すると、ゲージに範囲が赤、黄色および緑で表示され、現在の値をすばやく評価できます。そのため、ゲージ・チャート・タイプを使用すると、重要なデータ・ポイントやメジャーにおける問題を簡単に特定できます。たとえば、しきい値が売上げ目標を示すように設定し、ゲージを使用して現在の売上げを表示できます。

フォームに複数の値がある場合、最大 36 個(フォームの最初の 6 行と最初の 6 列の値)まで、複数のゲージを表示できます。フォーム内の残りの値は無視されます。ゲージ・チャートに 1 つの値のみを表示する場合は、セル値が 1 つのみのフォームにそれに関連付けます。

ダイヤル・ゲージまたはステータス・メーター・ゲージを選択できます。ステータス・メーター・ゲージは、水平棒または垂直棒を使用して表示できます。

ダッシュボード・デザイナーは次の設定を行うことができます。

- **最大値:** ゲージの最高値。ダッシュボード・デザイナーが「**最大値**」をデフォルトとして設定した後、ユーザーが実行時にそれを一時的に変更できます。ダッシュボード・デザイナーが最大値を指定しなかった場合、アプリケーションでは、最大値がゲージの値より大きいものに自動的に設定されます。
- **しきい値:**

- 「低しきい値」、「中しきい値」および「高しきい値」：メジャーが許容範囲内にあるかどうかを視覚的に示すために、これらのしきい値を使用して、指定した値に基づいてゲージを赤、黄色および緑で表示できます。
- 低い値が適しているしきい値。
- ゲージでしきい値にカーソルを置くと表示されるしきい値の適切なラベル。

Settings Close

Charts
Data
Gauge

Maximum Value

Goal High values are desirable Low values are desirable

Low Threshold		Maximum Value <input style="width: 60px;" type="text" value="1000"/>	Label <input style="width: 60px;" type="text" value="Low"/>
Medium Threshold		Maximum Value <input style="width: 60px;" type="text" value="1500"/>	Label <input style="width: 60px;" type="text" value="Medium"/>
High Threshold		Maximum Value <input style="width: 60px;" type="text" value="1700"/>	Label <input style="width: 60px;" type="text" value="High"/>

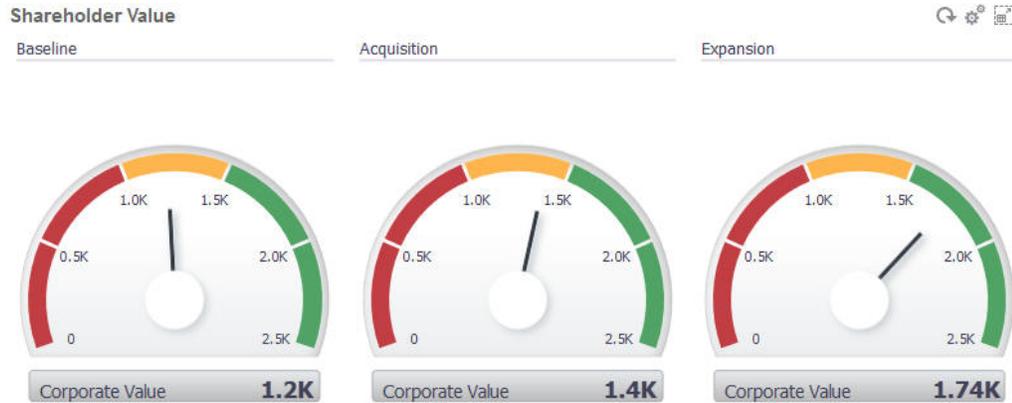
When setting the Maximum Value for Low, Medium and High Thresholds for a gauge showing % values, use decimal values. For example, enter .25 for 25%. Also, for percentage gauges, always set the Maximum Value to 1.

たとえば、次のようなフォームのデータがあるとします。

Shareholder Value ⚙️ 📊 🔄 🗨️

	Baseline	Acquisition	Expansion
Corporate Value	1,217.058941308	1,391.87	1,737.72

結果として生成されるダイヤル・ゲージは次のようになります。



結果として生成される垂直棒を使用したステータス・メーター・ゲージは次のようになります。



✎ ノート:

フォームのセルに値がない場合、そのセルについてはゲージが表示されません。また、少なくとも 2 つの連続するしきい値を指定する必要があります。アプリケーションでは、チャートを計算するために中間のしきい値が必要です。

タイル・チャート・タイプについて

タイルは、キューブから特定の値を選択して表示できるチャート・タイプです。フォームをデータ・ソースとして使用する以外に、タイルに値を提供するセル交差を直接入力することもできます。横方向に最大 6 つのタイルと、下方に 4 つの行をダッシュボードに含めて、それらにタイトルを指定できます。タイルをデータに関連付けるまで、サンプル・データが表示されます。

フォームをタイルのデータ・ソースとして使用する場合:

- 1 つのオブジェクトにつき最大 6 つのタイルを含めることができます。
- 最初の列の値(6 行目まで)が、タイルを作成するために使用されます。

 ノート:

場合によっては、フォーム内で、グリッドとして表示されたときに最初の列が縮小される(非表示になる)ことがあります。ただし、タイルがフォームからその値を取得する際には、縮小された列も考慮されます。

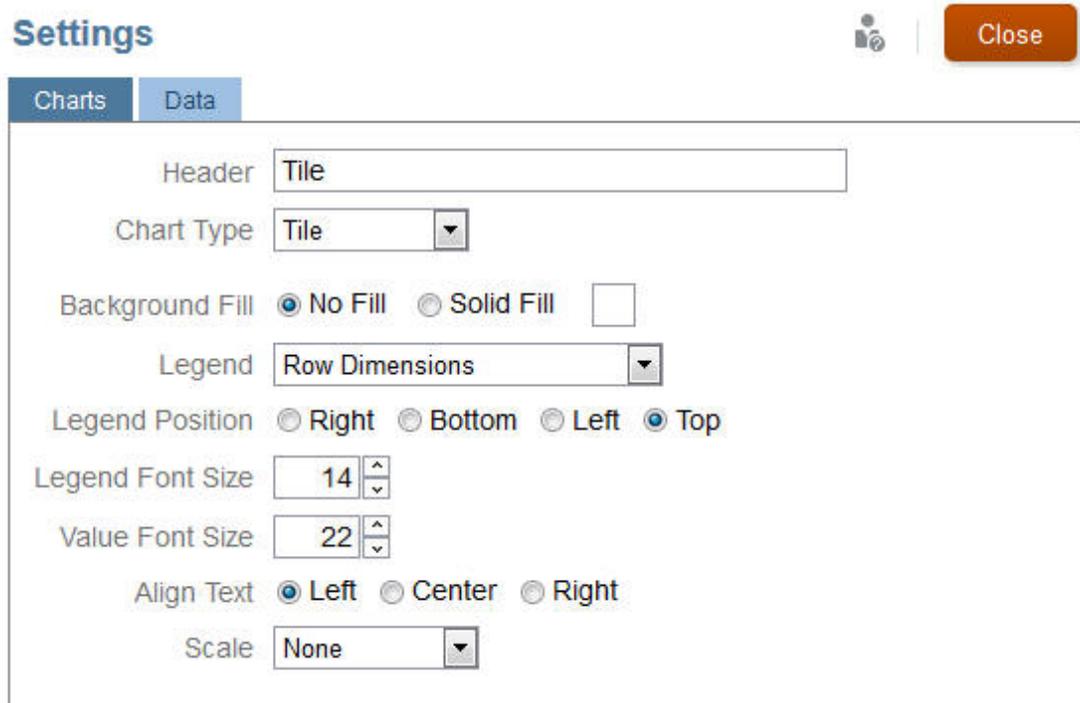
- タイルのタイトルは行のタイトルで、最初の列から、続いて行によってその値を取得します。
- タイルのタイトル、タイルの高さのパーセンテージ、凡例を設定でき、含めるフォームの軸を選択できます。たとえば、3つの行があるフォームを選択すると、タイルに3つの値が表示されます。

タイルのデータ・ソースとしてセル交差を使用する場合は、1つのオブジェクトにつきタイルを1つのみ含めることができます。

 ヒント:

タイル・チャート・タイプを選択するには、リストの下部にあるリンクをクリックして、チャート・タイプのリストを展開します。

タイル・チャート・タイプに設定できるオプションは、次のとおりです。値の表示は、タイルの水平方向で左、中央、右に設定することができます。



大きい数字のスケーリング

大きい数字で特に便利なのは、通貨値の表示方法を指定できることです。たとえば、タイル値が 1,689,000 の場合に、スケーリング・オプションとして「**K**」を選択すると、タイルにはこの値が「1689K」と表示されます。スケーリングのオプションは次のとおりです。

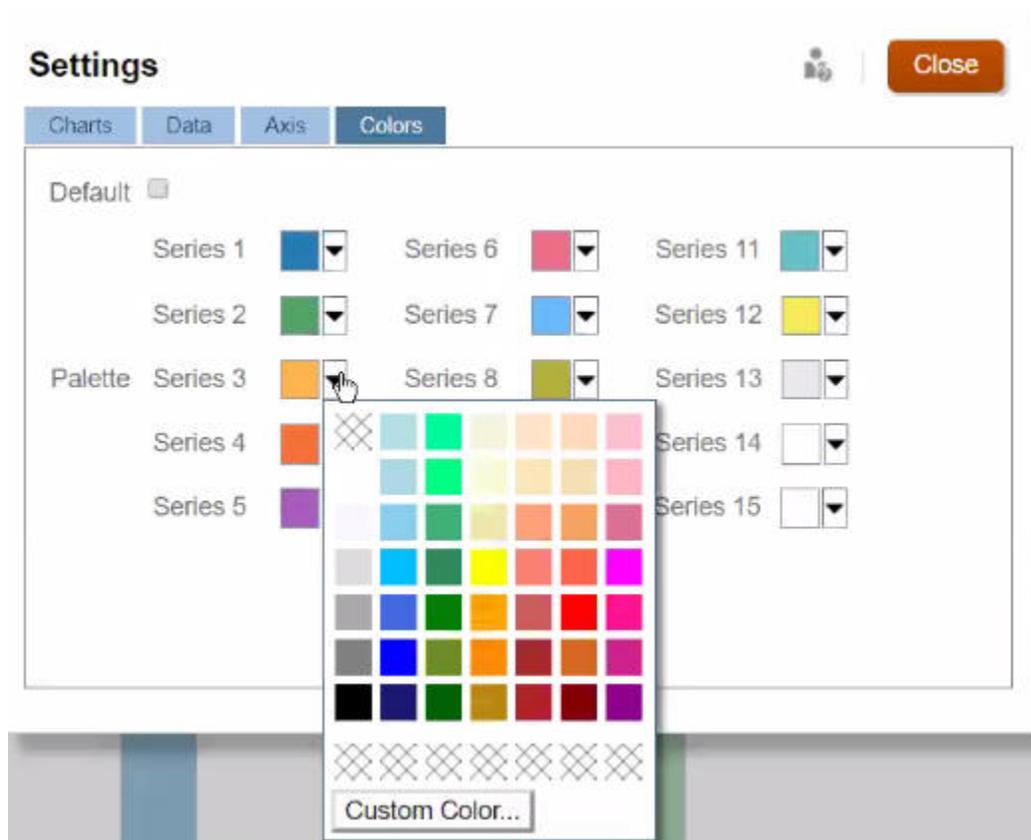
- **なし** - スケーリングを適用しません。
- **自動** - 範囲に応じて値が表示されます。たとえば、1,500 は「1.5K」、1,689,000 は「1.69M」、42,314,531,211 は「42.31B」、1,234,567,891,234 は「1.23T」としてそれぞれ表示されます。
- **K** - 千単位で値が表示されます。たとえば、1689000 は「1689K」と表示されます。
- **M** - 百万単位で値が表示されます。たとえば、123,456,789 は「123M」と表示されます。
- **B** - 十億単位で値が表示されます。たとえば、12,345,678,912 は「12B」と表示されます。
- **T** - 兆単位で値が表示されます。たとえば、1,234,567,891,234,567 は「1,234T」と表示されます。

ダッシュボードの色のカスタマイズ

企業では、標準的な色のセットを使用して、チャート内の様々なタイプのデータを示している場合があります。たとえば、実績データは濃い青で、予算データは水色で示されます。ダッシュボードの色をカスタマイズする際は、フォームの行の順序で色を選択します。系列 1 はデータの最初の行を表し、以降はそれに続きます。フォームの各行に、チャート内のデータを表す色を割り当てることができます。

棒、折れ線、面、バブル、列、組合せ、ドーナツ、円、レーダー、散布の各グラフ・タイプでダッシュボードの色をカスタマイズできます。

1. ダッシュボードのデザイン・パレット上のチャートで、「設定」 をクリックします。
2. 「色」をクリックします。
3. 「デフォルト」チェック・ボックスをクリアして、変更する系列の下向き矢印 をクリックします。
背景のチャートで、各系列が表すデータ・タイプを確認します。



4. 選択した系列に指定する色をクリックして、「閉じる」をクリックします。

 ノート:

最初に表示されているよりも多くの色の濃淡を選択するには、「カスタム色」をクリックします。

選択内容は、現在のチャートにのみ適用されます。ダッシュボードで他のチャートの色を変更する場合も、このステップに従います。

折れ線グラフおよび組合せグラフの線幅の設定

ダッシュボードの折れ線および組合せグラフ・タイプの線の太さを設定できます。

1. ダッシュボードのデザイン・パレット上の折れ線または組合せグラフで、「設定」 をクリックします。
2. 「線の太さ」カウンタをクリックして、線の幅を設定します。
設定が背景のチャートに及ぼす影響を確認できます。

Settings Close

Charts Data Axis Colors

Header

Chart Type

Line Weight

3D Graph

Background Fill No Fill Solid Fill Gradient Fill

Legend Position No Legend Right Bottom Left Top

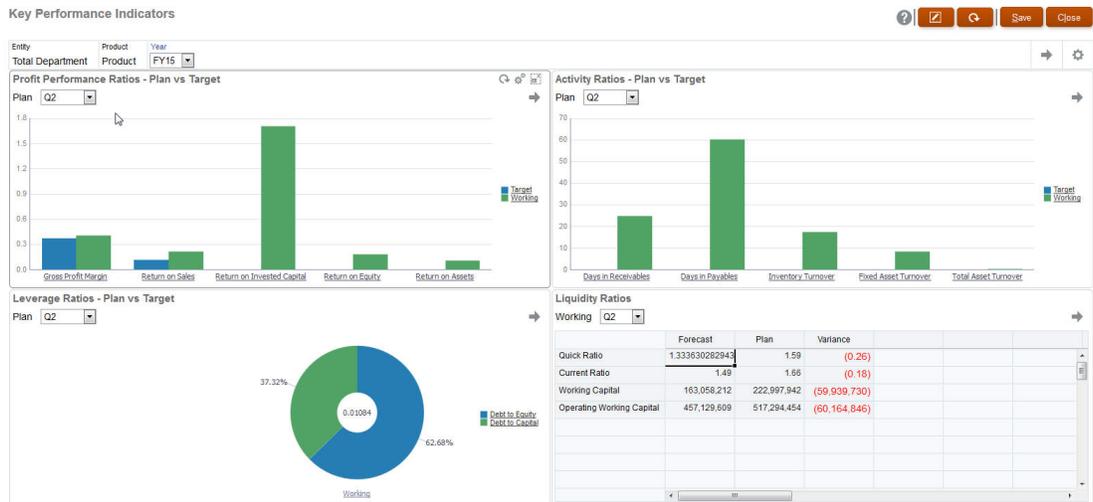
Label Position No Label Max Center Min

ノート:

折れ線および組合せグラフ・タイプのデフォルトの線幅は、5 ピクセルです。1 から 12 ピクセルを選択できます。

グローバル POV とローカル POV について

フォームのローカル POV には、フォーム設計者がそのフォームについて選択したディメンション・メンバーが反映されます。ダッシュボードおよび複合フォームではグローバル POV バーもサポートされており、各オブジェクトで繰り返されないように、共通するローカル POV はグローバル POV バーに組み込まれます。次のダッシュボードには、グローバル POV バー(「エンティティ」、「製品」および「年」を示す)とローカル POV (Q2 を示す「プラン」ドロップダウン・リスト)が表示されています。



グローバル POV バーがある場合、グローバル POV バーでページを変更し、「実行」をクリックすると、フォームに基づいたすべてのオブジェクトについてページが変更されます。グローバル POV バーはダッシュボードの最上部に、すべてのオブジェクトより上に表示されるのに対して、ローカル POV バーはオブジェクト内に表示されます。ユーザー変数は、ダッシュボードのグローバル POV とローカル POV の両方でサポートされています。

ダッシュボードの「設定」で、POV を表示するか、非表示にするか、およびグローバル POV バーを有効にするか、無効にするかを設定できます。(「POV バー」について「非表示」を、「グローバル POV バー」について「有効化」を選択した場合、「非表示」オプションが「有効化」オプションより優先されます。)グローバル POV バーは、デフォルトで有効になっています。無効にすると、該当する場合、それぞれのローカル POV について POV 全体が表示されます。

グローバル POV バーについて:

- POV バーは、ローカル POV ディメンション、ページ・ディメンションおよびユーザー変数で構成されます。
- ダッシュボード上の各フォームのローカル POV およびページに応じて、グローバル POV バーが自動的に計算されます。
- それらは、そのダッシュボードでフォームを使用している他のオブジェクトに反映されます。つまり、それらは、ダッシュボード内のフォーム、フォームにリンクされたチャート、およびデータ・ソースとしてフォームを使用するタイルに適用されます。そのため、ダッシュボードにデータ・ソースとしてフォームが含まれていない場合は、ローカル POV バーもグローバル POV バーも使用できません。

次に、2つのフォームのローカル POV ディメンションに基づいて、グローバル POV バーがどのように計算されるかの例を示します。

グローバル POV バーが無効:

- フォーム A のローカル POV: 年、エンティティ、製品
- フォーム B のローカル POV: 年、エンティティ、プロジェクト

グローバル POV バーが有効:

- グローバル POV バー: 年、エンティティ

- フォーム A のローカル POV: 製品
- フォーム B のローカル POV: プロジェクト

すべてのディメンションおよびページの選択がダッシュボード上のすべてのフォームに共通しているとはかぎらないため、ダッシュボード・オブジェクトの POV 全体がローカル POV バーとグローバル POV バーの間で分割されることがあります。グローバル POV バーとローカル POV をあわせると、ダッシュボード上の各フォームの完全な交差情報が含まれます。

データ・ソースとしてフォームを使用するオブジェクトが、ダッシュボードで 1 つのみである場合、フォームの POV/ページ全体をグローバル POV バーに移動できます。

データ・ソースとしてフォームを使用するオブジェクトがダッシュボードに複数ある場合、どのディメンションがグローバル POV バーに移動し、どのディメンションがローカル POV にとどまるかは次のように決まります。

- ディメンションがすべてのフォームの POV またはページに含まれ、メンバーの選択がすべてのフォームで同じ場合、ディメンションはグローバル POV バーに移動します。
- ディメンションが 1 つのフォームの POV および別のフォームのページに含まれる場合、ディメンションはローカル POV バーにとどまります。
- ディメンションが POV に含まれる場合、そのディメンションについてすべてのフォームで同じメンバーが選択されている必要があります。
- ディメンションがページ・ディメンションである場合、選択されたページ・メンバーがすべてのフォームで同じであり、同じ順序で表示される必要があります。

ダッシュボードの POV は、無効なページ・メンバーを非表示にして有効交差を保持します。[ダッシュボードの POV および有効交差](#)を参照してください。

ダッシュボードの POV および有効交差

ダッシュボード内の POV では、無効なページ・メンバーを非表示にすることにより、有効な交差が適用されます。フォームと同様に、「ページ」ドロップダウン・リストでは、POV およびページ・ディメンションのすべての選択されたメンバーがフィルタ処理されます。ダッシュボードでは、グローバルおよびローカルの POV がサポートされるため、「ページ」ドロップダウン・リストのフィルタ処理のコンテキストはメンバーが配置されている POV によって異なります。「ページ」ドロップダウン・リストがグローバル POV にある場合、フィルタ処理コンテキストはグローバル POV ディメンションのみとなります。「ページ」ドロップダウン・リストがローカル POV にある場合、フィルタ処理コンテキストはすべてのグローバル・ディメンションおよびチャートのローカル POV のディメンションとなります。

[グローバル POV とローカル POV についても参照してください。](#)

ダッシュボードの表示

ダッシュボード・ページを表示するには:

1. ホーム・ページで、「**ダッシュボード**」をクリックします。
2. ダッシュボードを開くには、ダッシュボードの名前をクリックします。

これにより、ダッシュボードがランタイム環境で開きます。

 **Note:**

ダッシュボード 2.0 のダッシュボードを選択し、ダッシュボード 2.0 コンポーネントの初期化中にエラーが発生しましたというメッセージが表示された場合は、ダッシュボードにフォーム 2.0 のフォームが関連付けられています。ダッシュボードを表示する前に、レッドウッド・エクスペリエンスおよびフォーム 2.0 が有効になっていることを確認する必要があります。

レッドウッド・エクスペリエンスを有効にするには、「ツール」、「外観」の順にクリックし、「レッドウッド・エクスペリエンスの有効化」を選択して、「保存」をクリックします。

フォーム 2.0 を有効にするには、「アプリケーション」、「設定」の順にクリックし、「その他オプション」で「フォーム・バージョン」を探し、「フォーム 2.0」を選択して、「保存」をクリックします。

ダッシュボード・ページの機能

ダッシュボード・ページでは:

- フォルダがサポートされています。**ダッシュボード・ページ**では、インフォレットやデータ入力フォームと同じフォルダ階層が使用され、すべてのアーティファクトとフォルダが「ライブラリ」と呼ばれるルート・フォルダの下にあります。「ライブラリ」フォルダを削除したり、名前変更することはできません。

 **Note:**

管理者のみが、ファイル(ダッシュボード、インフォレット、フォーム、レポートなど)を「ライブラリ」ルート・フォルダに追加できます。

- ダッシュボード・ページ**でダッシュボード・バージョンを区別しやすいように、それぞれのダッシュボードの前にアイコンが表示されるようになりました:

 : ダッシュボード 1.0

 : ダッシュボード 2.0

- フラット・ビューとツリー・ビューの間でダッシュボードの表示を切り替えることができます:



- ダッシュボード・ページ**をタイプに基づいてフィルタできます。  をクリックし、次のフィルタ・オプションから選択します:

- すべてのタイプ (デフォルト)
- ダッシュボード 1.0

– ダッシュボード 2.0

- 特定のダッシュボードを検索するには、



をクリックしてキーワードで検索するか、をクリックして検索を特定のライブラリ・フォルダに絞り込みます。

ダッシュボード・ページの「アクション」列

ダッシュボード・ページの右側には、「アクション」列があります。ダッシュボードまたはフォルダの横にある **...** アイコンをクリックすると、次のアクションが表示されます:

- フォルダに対するアクション:
 - **権限の割当:** フォルダに対するアクセス権限を割り当てます。フォルダ権限はそのフォルダ内のすべてのアイテムに適用され、リストに表示されていないアイテムにも適用されます。
 - **ダッシュボードの作成:** ダッシュボード 1.0 のダッシュボードを作成します。
 - **ダッシュボード 2.0 の作成:** ダッシュボード 2.0 のダッシュボードを作成します。
 - **フォルダの作成:** 新しいフォルダを作成します。
 - **削除:** フォルダを削除します。フォルダを削除するには、空である必要があります。
 - **名前変更:** フォルダの名前を変更します。他のフォルダが含まれている場合、フォルダの名前を変更することはできません。
 - **移動先:** フォルダをフォルダ階層内の別の場所に移動します。
 - **すべてのダッシュボードを 2.0 に変換:** フォルダ階層内でダッシュボード 1.0 のダッシュボードを検出し、それらをダッシュボード 2.0 のダッシュボードに変換します。
- 個々のダッシュボードに対するアクション:
 - **編集:** 基礎となるフォームのデータを取得してダッシュボード・デザイナーでダッシュボードを開きます。ダッシュボードは動的タブで開きます。
 - **データなし編集**(「ダッシュボード 2.0」オプションのみ): ダッシュボード・コンポーネントおよびタイルの再配置のようなアクションをより簡単に実行できるように、基礎となるフォームのデータを取得せずにダッシュボード・デザイナーでダッシュボードを開きます。ダッシュボードは動的タブで開きます。
 - **名前変更:** ダッシュボードの名前を変更します。
 - **別名コピー:** 新しい名前を付けてダッシュボードをコピーします。ダッシュボードは、リスト内で元のダッシュボードの直下にコピーされます。
 - **削除:** ダッシュボードを削除します。
 - **移動先:** ダッシュボードを別のフォルダに移動します。
 - **権限の割当:** ダッシュボードに対するアクセス権限を割り当てます。
 - **ダッシュボード 2.0 に変換**(「ダッシュボード 1.0」オプションのみ): ダッシュボードをダッシュボード 2.0 のダッシュボードに変換します。

- **URL のコピー:** ダッシュボードの直接 URL をコピーして共有できます。

ダッシュボード 1.0 のダッシュボードの 2.0 への変換

ダッシュボード 1.0 のダッシュボードをダッシュボード 2.0 のダッシュボードに変換する方法を学習します。

アプリケーションで現在ダッシュボード 1.0 を使用している場合は、ダッシュボード 2.0 に変換できます。

「ダッシュボード」 リスト・ページのダッシュボードは、個々のダッシュボード・レベルまたはフォルダ・レベルで変換します。たとえば、アプリケーション内のすべてのダッシュボードを 1.0 から 2.0 に変換する場合は、最上位レベルの「ライブラリ」フォルダを選択してすべてのダッシュボードを変換できます。

Note:

- ダッシュボード 2.0 に変換した後は、ダッシュボードをダッシュボード 1.0 に戻すことはできません。
- 変換プロセスにより、ダッシュボード名が変更されることはありません。ナビゲーション・フローは、変換前と同様に機能します。
- ダッシュボード 2.0 に変換した後は、固定 POV ではなく動的 POV が最初に表示されます。

ダッシュボード 1.0 をダッシュボード 2.0 に変換するには:

1. ホーム・ページで「**ライブラリ**」をクリックし、ページ下部にある「**ダッシュボード**」タブをクリックします。
2. 変換するフォルダまたは個々のダッシュボード 1.0 のダッシュボードに移動し、次のオプションから選択します:
 - 個々のダッシュボードを変換するには、ダッシュボードの右側にある **...** をクリックし、「**ダッシュボード 2.0 に変換**」を選択します。
 - フォルダ内のすべてのダッシュボードを変換するには、フォルダの右側にある **...** をクリックし、「**すべてのダッシュボードを 2.0 に変換**」を選択します。

 **Note:**

- 非常に古いダッシュボードには、現在サポートされていないコンポーネント幅の値を含むダッシュボード定義が含まれている場合があります。このため、古いダッシュボードをダッシュボード 2.0 に変換した後、予期しないダッシュボードのレンダリングが発生する可能性があります。この問題を解決するには、次のいずれかの回避策をお勧めします:
 - ダッシュボード(1.0)の元のダッシュボードを開き、ダッシュボードを編集して保存します。修正したコンポーネント幅の値とともにダッシュボードが自動的に保存され、ダッシュボード 2.0 に変換できます。
 - 同じフォーム・セットとチャート・セットおよび同じ設定を含むダッシュボード(1.0)の新しいダッシュボードを作成し、このダッシュボードをダッシュボード 2.0 に変換します。
 - 同じアーティファクトおよび設定を含むダッシュボード 2.0 の新しいダッシュボードを作成します。
- 23.11 の更新より前にダッシュボード 2.0 に変換されたマスター・フォームおよび詳細を含むダッシュボードでは、グリッドのコンテキスト・メニューに 2 つの「**コンテキストの適用**」メニュー・オプションが表示される場合があります。この問題は 23.11 で修正されました。

ダッシュボード 2.0 の作成および管理

次も参照:

- [ダッシュボード 2.0 のダッシュボード設計の概念](#)
- [ダッシュボード 2.0 の考慮事項](#)
- [ダッシュボード 2.0 のダッシュボードの作成](#)
- [ダッシュボード 2.0 の設計時のメンバー・セレクトタの操作](#)
ダッシュボード 2.0 のダッシュボードを設計する場合は、メンバー・セレクトタを使用して新しいディメンション・メンバーを簡単に検索して選択できます。
- [ダッシュボード 2.0 のフォーム 2.0 のグリッドについて](#)
- [ジオマップ・チャート・タイプについて](#)
- [ピラミッド・チャート・タイプについて](#)
- [ウォーターフォール・チャート・タイプについて](#)
- [ダッシュボードでの表の使用](#)
- [ダッシュボード 2.0 のゲージ・チャート・タイプについて](#)
- [ダッシュボード 2.0 のレーダー・チャート・タイプについて](#)
- [ダッシュボード 2.0 の組合せチャート・タイプについて](#)
- [ダッシュボード 2.0 のタイル・チャート・タイプについて](#)
- [ダッシュボード 2.0 のグローバル POV とローカル POV について](#)

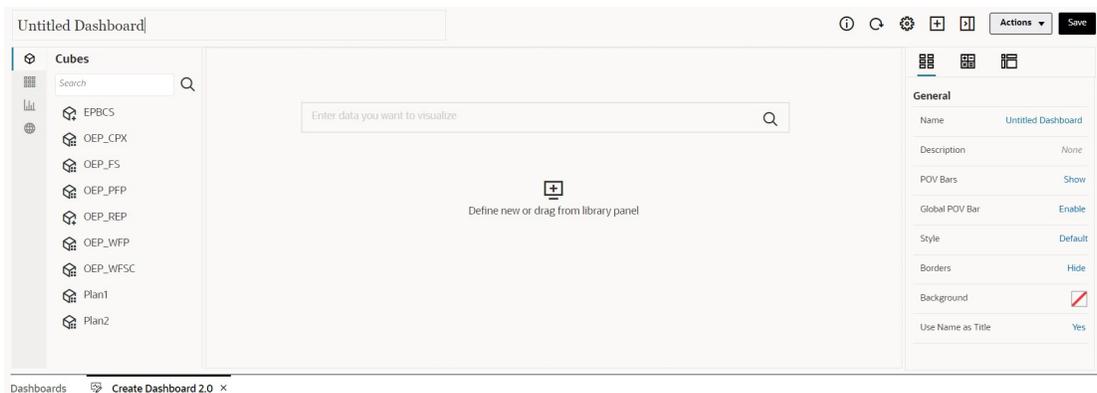
- [クイック分析について](#)

ダッシュボード 2.0 のダッシュボード設計の概念

このトピックには、ダッシュボード 2.0 のダッシュボードを設計する際に役立つ情報が含まれています:

- [ダッシュボード 2.0 デザイナについて](#)
- [ダッシュボード 2.0 デザイナを開く](#)
- [チャートのデータ・ソース](#)
- [ダッシュボード 2.0 に関するその他の役立つ情報](#)
- [ビデオ](#)

ダッシュボード 2.0 デザイナについて



ダッシュボード・デザイナは、次のダッシュボード・コンポーネントで構成されています:

- [オブジェクト・パレット](#)
- [ダッシュボード・ツールバー](#)
- [ダッシュボード・ワークスペース](#)
- [プロパティ・パネル](#)
- [ダッシュボード・コンポーネント](#)

ダッシュボード 2.0 デザイナを開く

前述したように、「**ダッシュボード**」ページのダッシュボード 2.0 のダッシュボードは次のア

イコンによって識別されます:

ダッシュボード 2.0 の使用は、レッドウッド・エクスペリエンスが有効である場合にのみサポートされます。

ダッシュボード 2.0 デザイナを開くには:

1. ホーム・ページで「**ライブラリ**」をクリックし、ページ下部にある「**ダッシュボード**」タブをクリックします。
2. 次のいずれかのオプションを選択してください:

- ダッシュボードを作成するには、「作成」をクリックし、「ダッシュボード 2.0」を選択します。
 - ダッシュボードを編集するには、編集するダッシュボード 2.0 のダッシュボードの右側にある「アクション」列で・・・をクリックし、「編集」をクリックします。
ダッシュボード 2.0 のダッシュボードの編集にデータを操作する必要がない場合(たとえば、ダッシュボード・コンポーネントおよびタイトルを再配置する場合)は、・・・をクリックし、「データなし編集」をクリックします。
3. ダッシュボード 2.0 のダッシュボードがランタイム環境で開いている場合は、ランタイム環境からダッシュボード・デザイナー環境に切り替えることができます。
「アクション」をクリックし、「編集」または「データなし編集」を選択します。

チャートのデータ・ソース

ダッシュボード 2.0 では、アド・ホック・グリッド、フォームおよびキューブからデータを選択できます。オブジェクト・パレットからデータ・ソースを選択します。

ノート:

ダッシュボード 2.0 のダッシュボードには、最大 12 個のコンポーネントを含めることができます。

- 「チャート」タブ  のプロパティ・パネルでコンポーネントの完全なデータ・ソース情報を表示でき、「ビジュアライゼーション」で情報を表示できます。
- クイック分析のデータ・ソースとしてキューブを使用する場合は、オブジェクト・パレットからダッシュボード・ワークスペースにキューブをドラッグ・アンド・ドロップし、「検索」ボックスをクリックしてメンバー名を入力するか、メンバー・セレクタを起動してメンバーを選択します。これにより、「レイアウト」タブがプロパティ・パネルに表示され、ディメンションをピボットし、POV、行軸または列軸に表示するディメンションを選択できます。クイック分析についてを参照してください。

ノート:

クイック分析を使用してチャートを作成できるのは、選択できる全ディメンションのうち 50 個のメンバーという上限があります。この制限とキューブ内のディメンション数をあわせて、クイック分析に基づいたチャートでサポートされるグリッドの最大サイズが決まります。

- ダッシュボード・コンポーネントのデータ・ソースがフォームまたはアド・ホック・グリッドである場合は、フォーム定義を使用してデータがフェッチされます。
 - プロパティ・パネルでソース・フォームを変更するには、プロパティ・パネルの  タブで「フォーム」プロパティをクリックします。

- チャートでビジュアル化できるフォーム・データの総量は 10,000 セルです。デフォルトでは、これは 100 行と 100 列です。ただし、行数と列数は、合計が 10,000 セル以下になる任意の組合せに変更できます。たとえば、行数を 5 に減らすと、列数を 2,000 (5 x 2000=10,000) に増やすことができます。
- フォームの精度が設定されている場合、ダッシュボード 2.0 への変換後に表示される値は、フォームの精度設定に基づきます。フォームの精度値が設定されていない場合、ダッシュボード 2.0 への変換後に表示される値は変わる可能性があります。

ノート:

ダッシュボード・コンポーネントのデータ・ソースがフォームで、そのフォームに空白のヘッダー・セルを含む行または構成されていない空の式の行がある場合、対応するチャートの凡例は表示されません。

- 「ドーナツ」、「円」および「ゲージ」チャート・タイプの場合、1 つのコンポーネントに複数のチャートを追加できます。複数のチャートを追加するには、チャートの「表示」プロパティで「単一」または「複数」をクリックします。「単一」が選択されている場合、チャートには基礎となるフォームのデータの最初の列のみが表示されます。「複数」が選択されている場合、基礎となるフォームのデータの列ごとにチャートが表示されます。

ノート:

「ドーナツ」、「円」および「ゲージ」チャート・タイプが含まれ、ダッシュボード 1.0 からダッシュボード 2.0 に変換されたダッシュボードの場合、「表示」プロパティのデフォルト・オプションは「複数」です。新しく作成されたダッシュボード 2.0 のダッシュボードの場合、「表示」のデフォルト・オプションは「単一」です。

ダッシュボード 2.0 に関するその他の役立つ情報

- ダッシュボードの作成時に、「アクション」をクリックし、**保存して実行**を選択すると、ダッシュボード・ユーザーに対するダッシュボードの外観と動作をすぐに確認できます。デザイナー・モードに戻ってダッシュボードの設計を続行するには、「アクション」をクリックし、「編集」または「データなし編集」を選択します。
- デフォルトでは、欠落データまたは抑制データはゼロとしてプロットされます。選択したチャート・タイプ(面、バブル、組合せ、折れ線、レーダーおよび散布図)のチャートの設定で、「プロットにゼロの値なし」オプションを選択して、この設定を無効化できます。このオプションが無効になっている場合は、欠落データまたは抑制データが無視されて、そのチャート・タイプでゼロとしてプロットされなくなります。
- ダッシュボード 2.0 の考慮事項を確認するには、[ダッシュボード 2.0 の考慮事項](#)を参照してください。

ビデオ

目的

ダッシュボード・デザイナーで複数のコンポーネントを持つダッシュボードをダッシュボード 2.0 向けに作成する方法を学習します。

視聴するビデオ



[ダッシュボード 2.0 でのダッシュボードの作成](#)

オブジェクト・パレット

ダッシュボード・デザイナーの左側には、ダッシュボード・コンポーネントのコンテンツを選択するオブジェクト・パレットがあります。単にオブジェクト・パレットからワークスペースにオブジェクトをドラッグ・アンド・ドロップするか、「検索」ボックスを使用してコンテンツを検索します。

オブジェクト・パレットのサイズを変更できます。オブジェクト・パレットのサイズを変更するには、パレットの右側にカーソルを置いてドラッグします。パレットを非

表示にするには、パレットの上にカーソルを置き、ハンドル・アイコン  が表示されたら、それをクリックしてパレットを非表示にします。ハンドル・アイコンを再度クリックすると、パレットが再び開きます。

オブジェクト・パレット内のコンテンツは、次のカテゴリにグループ化されています:

Table 10-2 オブジェクト・パレットのコンテンツのカテゴリ

アイコン	説明
	<p>キューブ: フォームを事前作成せずに、ダッシュボードにキューブのコンポーネントを追加することにより、クイック分析を実行します。</p> <p>クイック分析についてを参照してください。</p>
	<p>ライブラリ: フォーム・フォルダに移動するか、名前を検索することにより、ダッシュボードに含めるアド・ホック・フォームおよび標準フォームを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「リスト」をクリックして、フォームを「リスト・ビュー」または「ツリー・ビュー」で表示します。  をクリックして、検索キーワードを入力します。 <p>フォームに設定されているアクセス権限がダッシュボードで保持されます。</p>
	<p>ビジュアライゼーション: ダッシュボードに含めるチャートを選択します。</p> <p>チャート内にデータを表示するには、キューブのコンポーネントを選択するか、チャートをそのデータ・ソースとなるフォームに関連付ける必要があります。チャートをフォームにリンクすると、ユーザーは、関連付けられたチャートに対するフォームでのデータ変更の影響をすぐに確認できます。</p>

Table 10-2 (Cont.) オブジェクト・パレットのコンテンツのカテゴリ

アイコン	説明
	<p>その他:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 注釈: グラフまたはチャートの下、およびプロパティ・パネルの「チャート」タブの下部に、入力したコメントを追加します。「注釈」には、WYSIWYG テキスト・エディタが含まれています。 • URL: グラフまたはチャートの下、およびプロパティ・パネルの「チャート」タブの下部に、入力した URL を追加します。「URL」には参照 URL リンクが含まれ、その URL は、サポートされている IFrame である必要があります。 https://セキュリティ・プロトコルで始まる外部サイトの URL のみを挿入します。内部または相対 URL や、google.com などの同意していないサード・パーティ・サイトの URL を使用しないでください。 同じ Oracle Enterprise Performance Management Cloud インスタンスまたは別の EPM Cloud インスタンスのフォームやダッシュボードなど、他の EPM アーティファクトへの直接 URL をダッシュボードに埋め込まないでください。

 **Note:**

ダッシュボードに追加した URL がランタイム環境で機能しない場合は、URL を右クリックし、新しいタブでリンクを開きます。

ダッシュボード・ツールバー

ダッシュボード・デザイナーの右上隅には、次のダッシュボード・タスクを実行できるダッシュボード・ツールバーがあります:

Table 10-3 ダッシュボード・ツールバー

アイコン	説明
	「 情報 」アイコンは、ダッシュボードがあるフォルダを表示します。
	「 データのリフレッシュ 」アイコンは、ダッシュボード全体に関連付けられているすべてのデータをリフレッシュします。

Table 10-3 (Cont.) ダッシュボード・ツールバー

アイコン	説明
	<p>「POV 設定」アイコンは、次の POV アクションを実行します:</p> <ul style="list-style-type: none"> • POV: ディメンション・ラベルの非表示: ダッシュボードにグローバル POV バーが含まれている場合、選択すると、グローバル POV バーでディメンション名が非表示になります。もう一度このオプションの選択を解除すると、グローバル POV バーにディメンション名が表示されます。 • POV: 自動適用: ダッシュボードにグローバル POV またはローカル POV が含まれている場合、このアクションを有効にすると、変更が自動的に POV に適用されます。変更が自動的に適用されないようにするには、このオプションの選択を解除します。 • POV: すべてのページ選択のクリア:
	<p>「追加」アイコンは、新しい空のダッシュボード・コンポーネントをデザイン・キャンバスに追加します(これは、ドラッグ・アンド・ドロップにかわる方法です)。</p>
	<p>「プロパティ」アイコンは、プロパティ・パネルの表示/非表示を切り替えます。</p>
「アクション」メニュー	<p>「アクション」メニューでは、次のアクションを実行できます:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 最終保存時の状態に戻す: ダッシュボードが最後に保存されて以降行われた編集を破棄します • 保存して実行: 行った編集を保存し、ランタイム環境でダッシュボードを開きます
保存	<p>「保存」をクリックすると、ダッシュボード定義が保存されます。</p>

ダッシュボード・ワークスペース

ページ中央の、オブジェクト・パレットと「プロパティ」パネルの間の大きな領域は、ダッシュボード・ワークスペースです。ドラッグ・アンド・ドロップに加えて、「検索」ボックスを使用して、コンポーネントごとに表示するデータを指定または検索できます(コンポーネントは、ダッシュボード・オブジェクト(チャートや表など)を追加できるダッシュボード・ワークスペース内の空のオブジェクトです)。ダッシュボード・ワークスペースには最大 12 個のコンポーネントを追加できます。

レッドウッド・エクスペリエンスが有効になっており、フォーム・バージョンが「フォーム 2.0」の場合、ワークスペースにドロップされたフォームは最初は編集可能なグリッドとしてレンダリングされます。ワークスペースにドロップされたアド・ホック・グリッドは、最初は表としてレンダリングされます。

- 最初にドラッグ・アンド・ドロップしたオブジェクトがワークスペース全体を占有し、その後、追加オブジェクトをオブジェクト・パレットから既存のコンポーネントの左、右、上または下にドラッグします。
- コンポーネントをダッシュボードの別の部分に移動するには、そのコンポーネントをクリックし、ドラッグ・アイコンが表示されるまでコンポーネントの上端にカーソルを置きます。コンポーネントを別のコンポーネントの左、右、上または下にドラッグ・アンド・ドロップすると、ダッシュボード上の他のオブジェクトが移動し、再配置されます。
- ワークスペース全体に広がるようにコンポーネントを最大化するには、 をクリックし、「最大化」をクリックします。コンポーネントがワークスペース全体に広

がり、ワークスペース上の他のコンポーネントは非表示になります。、「復元」の順にクリックすると、コンポーネントが元のサイズに戻り、ワークスペース内の他のコンポーネントが再び表示されます。

- ダッシュボード内のコンポーネントの高さおよび幅を変更するには、次のいずれかのアクションを実行します:
 - ダッシュボード・ワークスペース内のコンポーネントの枠線をドラッグします
 - ダッシュボード・コンポーネントを選択し、右側の「プロパティ」パネルで  をクリックして、コンポーネントの高さおよび幅を表示して変更します。
- ダッシュボード・ワークスペースの全体的なサイズを最大化するには、ワークスペースのいずれかの側にあるオブジェクト・パレットとプロパティ・パネルのサイズを変更したり、非表示にすることができます。
- URL コンポーネントを含むダッシュボードの場合、URL コンポーネントの本体をクリックしても、フォーカスは URL コンポーネントに切り替わりません。フォーカスを URL コンポーネントに切り替えるには、**[Alt]**を押しながら**[W]**を押すか、カーソルが移動アイコン  に変わるまで URL タイトル・バーの上にカーソルを置き、クリックしてフォーカスを変更します。

 **Note:**

ランタイム環境では、ユーザーがフォームなどのオブジェクトに対するアクセス権を持っていない場合やフォームが見つからない場合、隣接するコンポーネントがそのスペースを占有します。デザイナー環境では、すべての空のコンポーネントが表示されるため、デザイナーはそれらを削除することもできます。

プロパティ・パネル

ダッシュボード・デザイナーの右側には、ダッシュボード全体の一般プロパティおよびコンポーネント固有のプロパティを設定できるプロパティ・パネルがあります。

プロパティ・パネルのサイズを変更できます。パネルのサイズを変更するには、パネルの左側にカーソルを置いてドラッグします。パネルを非表示にするには、ページの上にある  をクリックします。  を再度クリックすると、パネルが再び開きます。

Table 10-4 プロパティ・パネル

アイコン	説明
	<p>「一般」タブには、ダッシュボード全体に関する次のプロパティが含まれます:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 名前: ダッシュボード全体のタイトルを編集します。 • 説明(オプション): ダッシュボードについて説明します。 • POV バー: POV バーを表示または非表示にします。 • グローバル POV バー: グローバル POV バーを有効または無効にします。 • スタイル: ダッシュボードのカラー・スキームを選択します。オプションは、「デフォルト」、「明るい」および「暗い」です。
	<div style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; background-color: #e6f2ff;"> <p> Note:</p> <p>「暗い」を選択した場合は、ダッシュボードのエラー・メッセージや凡例テキストが見つづらくなります。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> • 枠線: コンポーネントの枠線を表示または非表示にします。 • 背景: 色のメニューから新しいダッシュボードの背景を選択します。
	<div style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; background-color: #e6f2ff;"> <p> Note:</p> <p>ダッシュボードにグリッドが含まれている場合、背景色のみが変わります。グリッドの色は同じままです。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> • 名前をタイトルとして使用: 「いいえ」を選択すると、ダッシュボードのタイトルをカスタマイズできます。フォント・ファミリー、フォント・サイズ、太字の設定、斜体の設定、下線の設定、フォントの色およびフォントの背景色を変更することにより、タイトルをさらにカスタマイズできます。 <p>POV の詳細は、ダッシュボード 2.0 のグローバル POV とローカル POV についてを参照してください。</p>

Table 10-4 (Cont.) プロパティ・パネル

アイコン	説明
	「関連付け」タブには、ダッシュボードおよび基礎となるフォームのデータに関連付けられているルールがリストされます。

 **Note:**

グローバルな「保存」中に実行する必要があるルールに関連付けることができます。これらのルールは、いつでも関連付けや削除を行うことができます。

ルールを追加して編集できます:

- 関連付けられているルールがない場合、 をクリックしてルールのリストを表示し、そこから選択します。ダッシュボードのフォームにすでに関連付けられているルールが最初にリストされ、次のような名前が付いています:
ビジネス・ルール <name of form>
- ルールを追加したら、ルールを実行する時期(「ロード前」、「ロード後」、「保存前」、「保存後」、「フォームのメンバーを使用」、「プロンプトの非表示」)を指定する必要があります。
- 「アクション」で、ルールを削除したり、それらの実行順序を変更することができます: 「一番上へ移動」、「上へ移動」、「下へ移動」、「一番下へ移動」および「削除」。
- ルールに実行時プロンプトがある場合、ルールを実行すると、それらが表示されます。

Table 10-4 (Cont.) プロパティ・パネル

アイコン	説明
	<p>「チャート」タブには、チャート・タイトル、コンポーネントの高さ、幅、背景色など、ダッシュボードで選択したコンポーネントのプロパティが含まれます。チャート・タイプ、データ・ソース・タイプ、およびそれぞれのコンポーネントに使用される、基礎となるフォームを変更することもできます。コンポーネントごとに異なる背景色を使用すると、それぞれのダッシュボード・コンポーネントを一意に区別できます。チャート・タイトルを削除すると、スペースが解放されて、ローカル POV バーとチャート自体のスペースが調整されます。</p> <p>行と列については、チャート内にビジュアル化することを許可されているフォーム・データの総量は 10,000 セルです。デフォルトでは、これは 100 行と 100 列です。ただし、行と列の数を、乗算の合計が 10,000 セル以下になるような任意の組合せに変更できます。たとえば、行数を 5 に減らすと、列数を 2,000 に増やすことができます ($5 \times 2000=10,000$)。</p>

 **Note:**

10,000 セルのビジュアライゼーション制限は、グリッドには適用されません。

チャートに関連付けられているフォームが **10,000** セルのビジュアライゼーション制限を超えた場合、フォームに表示されるデータと、ダッシュボード・チャートにおけるデータのビジュアライゼーションの間に不一致が生じることがあります。また、チャートおよび凡例に対するドリルスルーなど、その他のランタイムの問題が発生することもあります。

「**注釈**」または「**URL**」情報タイプをこのコンポーネントに追加した場合、このタブの下部でそれらの情報タイプの内容を編集できます。

Table 10-4 (Cont.) プロパティ・パネル

アイコン	説明
 (このアイコンは、ダッシュボードで選択したコンポーネントに応じて変わります)	<p>このタブを使用すると、選択したチャートまたは表のビジュアライゼーションをカスタマイズできます。</p> <p>値のスケール方法、行区切りやグリッド線の表示または非表示、ヘッダーやデータについての異なるフォント・サイズおよび色の選択、垂直または水平の向きの設定、凡例の位置の定義、表へのスパーク・チャートの追加、セカンダリ Y 軸の追加など、選択したコンポーネントの表示プロパティを設定します。</p> <p>プロパティの詳細な説明は、チャート・タイプのトピックを参照してください。</p>
	<p>「レイアウト」タブには、クイック分析について選択したキューブの「POV」、「行」および「列」プロパティが含まれます。</p> <p>クイック分析についてを参照してください。</p>

 **Note:**

ダッシュボード 2.0 のデータ・ビジュアライゼーションの場合、現在、カスタム色パレットで 15 色ではなく 12 色のみがサポートされています。以前の更新で 15 色を使用するダッシュボードを作成した場合、実行時には引き続き 15 色が表示されます。ただし、カスタム色を変更しようとする、ダッシュボード・デザイナーで選択および保存できる 12 色のみが表示されます。

ダッシュボード・コンポーネント

ダッシュボード・ワークスペースには最大 12 個のコンポーネントを追加できます。

ワークスペースのコンポーネントにカーソルを置くと、そのコンポーネントのツールバーが右上隅に表示されます:



Table 10-5 ダッシュボード・コンポーネントのツールバー

アイコン	説明
	情報: フォーム名、フォームのフォルダ・パス、キューブなど、基礎となるフォームの詳細を表示します
	保存: 変更したデータを保存し、コンポーネントに関連付けられているルールを実行します
	リフレッシュ: ダッシュボード・コンポーネントに関連付けられているデータをリフレッシュします

Table 10-5 (Cont.) ダッシュボード・コンポーネントのツールバー

アイコン	説明
	<p>チャート・タイプ: コンポーネントに関連付けられているチャート・タイプを変更します</p> <p>「アクション」メニュー:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 最大化: ダッシュボード・コンポーネントを拡大します。最大化した後、「復元」をクリックすると、ダッシュボード・コンポーネントは元のサイズに戻ります。 • フォームを開く: 現在のタブの横に、コンポーネントに関連付けられているランタイム・フォームを動的タブで開きます。 • フォームの編集: 適切な権限を持っている場合は、コンポーネントに関連付けられているフォームがフォーム・エディタで開きます。フォーム・エディタは、現在のタブの横に動的タブで開きます。 • 削除: フォームを削除します。

ダッシュボード 2.0 の考慮事項

ダッシュボード 2.0 の使用時には、次の考慮事項に注意してください:

- 3D ビジュアライゼーションは、ダッシュボード 2.0 ではサポートされていません。これは、ダッシュボード 2.0 の次のチャート・タイプに影響します:
 - 面
 - 棒
 - バブル
 - 列
 - 組合せ
 - ドーナツ
 - ゲージ
 - グリッド
 - 折れ線
 - レーダー
 - 散布

Note:

ダッシュボード 1.0 では、必要に応じてチャートの 3D ビジュアライゼーションが引き続きサポートされます。

- 今後の更新で、ダッシュボード 2.0 ではスマート・プッシュがサポートされる予定です。
- ファンネル・チャートは、プロセスのステージ(営業プロセスのステージなど)のデータを表示する場合に役立ちます。ファンネル・スライスの領域は、対応するステ

ージのその値に比例します。ダッシュボード 1.0 は、ダッシュボード 2.0 がファンネル・チャートをレンダリングする方法とは大きく異なる方法でファンネル・チャートをレンダリングします。ダッシュボード 1.0 では、ファンネル・チャートは複数の列をサポートし、フォームの最初の 2 行は実績とターゲットを比較するために使用されます。このチャートは、それぞれの列に対応するファンネルの 2 つの差異をプロットします。ダッシュボード 2.0 では、ファンネル・チャートは最初の列のみをサポートし、行の各セルに対応するファンネルの領域は色付けされ、その数値に比例してサイズが変更されます。

- 今後のダッシュボードの拡張機能はすべてダッシュボード 2.0 に含まれます。

フォーム・バージョンとダッシュボード 2.0

ランタイム・フォームには、次の 2 つのバージョンもあります:

- **フォーム 1.0:** Oracle ADF Fuse コンポーネントを使用する Slick Grid を使用しています
- **フォーム 2.0:** Oracle JET コンポーネントを使用する Slick Grid を使用しています

ダッシュボード 2.0 と同様に、フォーム 2.0 は、**レッドウッド・エクスペリエンス** が有効になっている場合にのみ使用できます。ダッシュボード 2.0 の特定の機能はフォーム 2.0 のみ動作します。たとえば、ダッシュボード 2.0 では、基礎となるフォームがフォーム 2.0 のフォームである場合にのみ、フォーム・グリッド内のデータを直接操作できます。「**フォーム・バージョン**」は、アプリケーション設定で更新できます。

ダッシュボード・バージョンとフォーム・バージョンが相互作用する方法にはいくつかの違いがあることを知っておく必要があります。

「**フォーム・バージョン**」アプリケーション設定が「**フォーム 1.0**」に設定されている場合:

- ダッシュボード 1.0 とフォーム 1.0 は引き続き併用できます。
- ダッシュボード 2.0 とフォーム 1.0 は併用できません。

フォーム 2.0 はダッシュボード 2.0 のみサポートされます。すべての相互作用にフォーム 2.0 とダッシュボード 2.0 を使用します。

ダッシュボード 2.0 のダッシュボードを選択した場合に、ダッシュボード 2.0 コンポーネントの初期化中にエラーが発生しましたというメッセージが表示された場合、そのダッシュボードにはフォーム 2.0 のフォームが関連付けられており、ダッシュボードを表示する前に、レッドウッド・エクスペリエンスおよびフォーム 2.0 が有効になっていることを確認する必要があります。

- ダッシュボード 2.0 のアーティファクトが作成されると、「**グリッド**」ビジュアライゼーション・オプションは使用できなくなります。
- ダッシュボード 2.0 でフォームをグリッドとして使用するには、「**フォーム・バージョン**」アプリケーション設定を「**フォーム 2.0**」に更新します。
- 既存のダッシュボード 2.0 のダッシュボード(2023 年 11 月より前に作成されたダッシュボード 2.0 のダッシュボード)では、フォームをグリッドではなく表およびチャートとして引き続き表示します。

「**フォーム・バージョン**」アプリケーション設定が「**フォーム 2.0**」に設定されている場合:

- ダッシュボード 1.0 とフォーム 2.0 は引き続き併用できます。
- ダッシュボード 2.0 では、「**グリッド**」ビジュアライゼーション・オプションが表示され、読取り、書込みおよび計算機能を備えたフォーム 2.0 を使用します。
- ダッシュボード 1.0 内のフォーム 2.0 は、フォーム 1.0 として表示されます。

 **Note:**

保存したフォーム定義は、「**フォーム・バージョン**」アプリケーション設定(「**フォーム 1.0**」または「**フォーム 2.0**」)に関係なく、ダッシュボードのチャートのデータ・ソースとして使用できます。

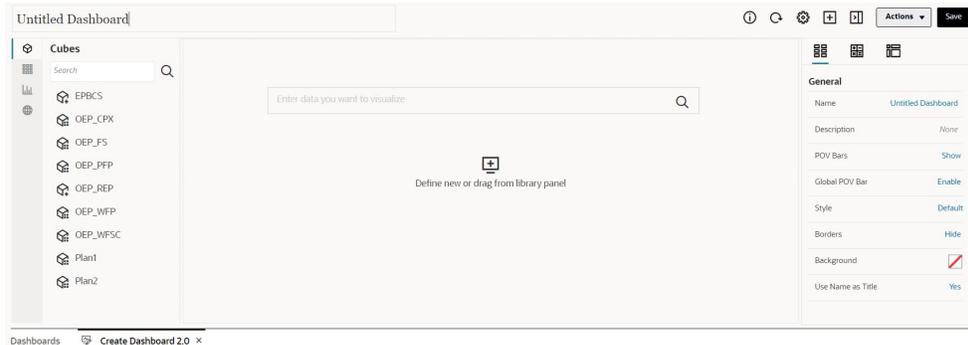
ダッシュボード 2.0 のダッシュボードの作成

ダッシュボード 2.0 のダッシュボードを作成するには:

1. ホーム・ページで「**ライブラリ**」をクリックし、ページ下部にある「**ダッシュボード**」タブをクリックします。「**作成**」をクリックします。



2. 提供されるオプションから、「**ダッシュボード 2.0**」を選択します。



3. デフォルトのダッシュボード名をクリックし、入力ボックスに新しい名前を入力することにより、ダッシュボードの名前を入力します。
4. 左側のオブジェクト・パレットからダッシュボード・ワークスペースにコンテンツをドラッグ・アンド・ドロップします。ダッシュボード設定およびプロパティを使用して、ダッシュボードをカスタマイズします。
ダッシュボード・デザイナーの詳細は、[ダッシュボード 2.0 のダッシュボード設計の概念](#)を参照してください。
5. 「**保存**」をクリックします。

「**ダッシュボード**」リスト・ページで「**別名コピー**」を使用すると、ダッシュボードを簡単に複製して変更できます。コピーするダッシュボードの横にある「**アクション**」アイコン **...** を選択します。

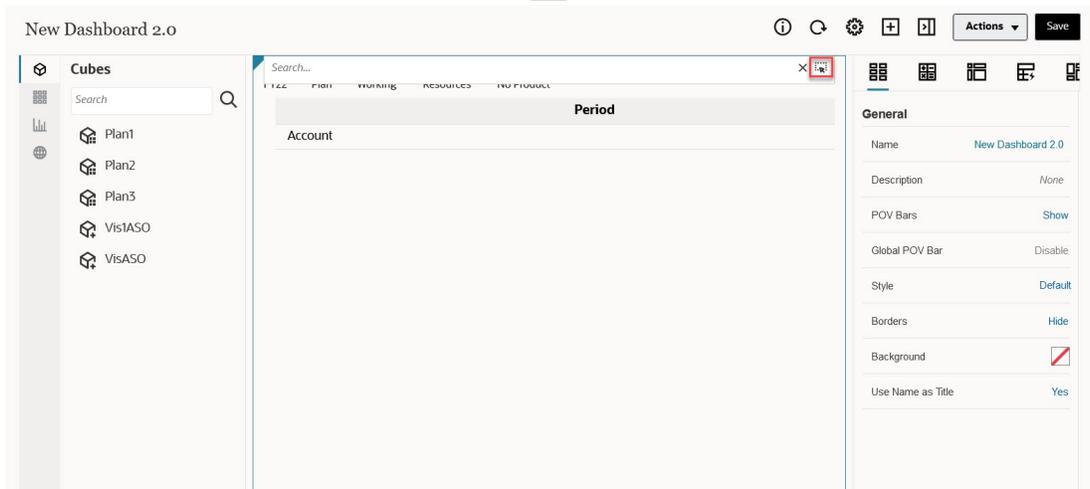
ダッシュボード 2.0 の設計時のメンバー・セレクタの操作

ダッシュボード 2.0 のダッシュボードを設計する場合は、メンバー・セレクタを使用して新しいディメンション・メンバーを簡単に検索して選択できます。

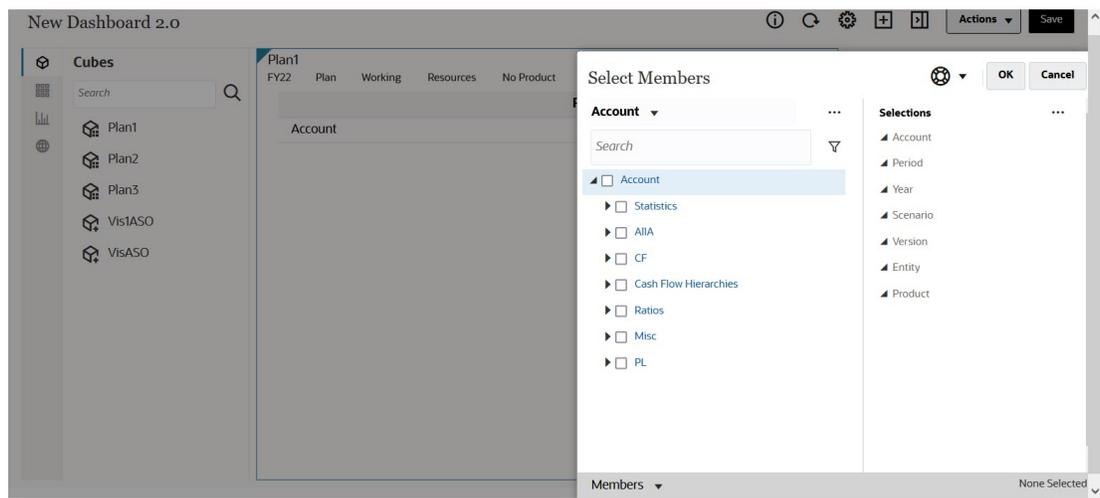
ダッシュボードでクイック分析を作成する場合は、キューブを追加した後に、メンバー・セクタを使用して各ディメンションのメンバーを選択できます。

クイック分析のメンバー・セクタを開くには:

「クイック検索」バーのメンバー・セクタ・アイコンをクリックします:



メンバー・セクタを使用して、各ディメンションのメンバーを選択します。



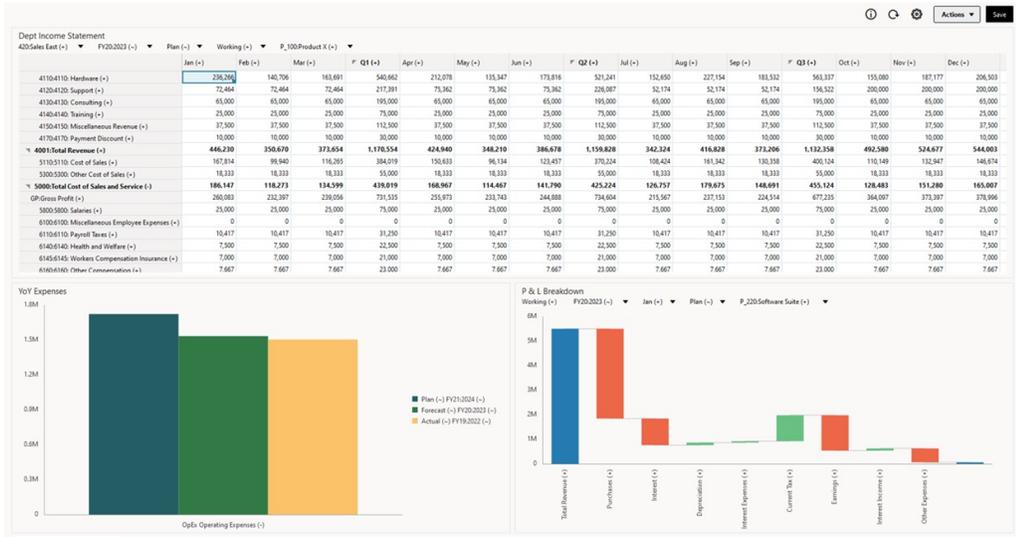
メンバー・セクタの操作の詳細は、メンバー・セクタの使用を参照してください。

ダッシュボード 2.0 のフォーム 2.0 のグリッドについて

ダッシュボード 2.0 に新しく追加されたコンポーネントにはデフォルトでフォーム・グリッドが表示され、関連付けられているフォームがフォーム 2.0 のフォームである場合、グリッドは書込み可能です。基礎となるフォームがフォーム 2.0 のフォームである場合、ダッシュボードのグリッドを使用してフォーム内のデータを直接操作できます。グリッド・コンポーネントがあるダッシュボードでは、データの更新を書き戻したり、ルールを起動することができます。

す。また、グリッド内で右クリックしてコンテキスト・メニューを表示し、グリッド分散、コメントや添付の追加といった追加のグリッド・アクションを実行することもできます。

1つのグリッドと複数のチャートがあるダッシュボードの例



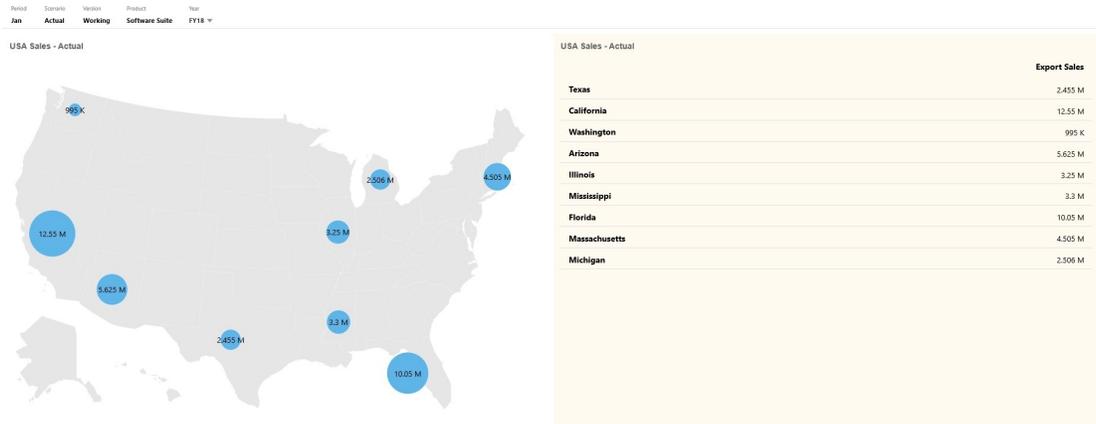
ジオマップ・チャート・タイプについて

ジオマップは、表示されているそれぞれの地理的地域に関するいくつかのメジャーを表示するオーバーレイおよびチャートを伴う地理マップです。ジオマップ内でバブルまたは色による強調表示にカーソルを置くと、データ・ラベルが表示されます。

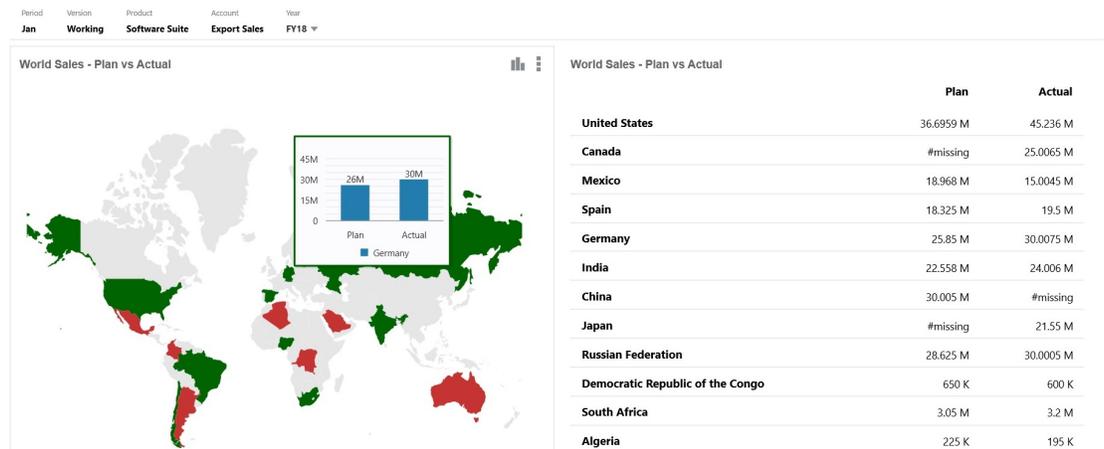
ノート:

基礎となるデータの値に基づいて差異(「目的の差異トレンド」設定に応じて赤または緑)を表示するために、色による強調表示のジオマップが設計されます。ジオマップ領域の 1 番目または 2 番目の列に欠落値がある場合、またはそれらの列の値が等しく、差異がない場合、領域が青で強調表示されます。強調表示された領域の上にカーソルを置くと、欠落値を除く行のすべての値の棒グラフが表示されます。

ジオマップの例 - データ・バブルを使用した米国の売上げ



ジオマップの例 - 色による強調表示を使用した世界の売上げ



ダッシュボード・デザイナーは、次に示すジオマップ・チャートのプロパティを設定できます:

表 10-6 ジオマップ・チャートのプロパティ

設定	説明
マップ・レイヤー	「世界」を選択するか、マップの範囲を「アジア」、「北アメリカ」、「アフリカ」などの大陸に絞り込みます。
タイプ	<p>「データ・バブル」ジオマップでは、サイズが異なるバブルとしてデータがマップ・レイヤー上に表示されます。「色による強調表示」ジオマップでは、2つのデータ値を比較して、増加している地理的地域は緑、減少している地理的地域は赤で表示されます。</p> <p>「データ・バブル」または「色による強調表示」を選択し、次の追加オプションを指定します:</p> <ul style="list-style-type: none"> 「データ・バブル」の場合は、「ラベル」(「表示」または「非表示」)、「ラベルの色」および「バブルの色」について目的の設定を選択します。 「色による強調表示」の場合は、「目的の差異トレンド」(「増加」または「減少」)を指定します。

表 10-6 (続き) ジオマップ・チャートのプロパティ

設定	説明
地理名	<p>国、都道府県/州、市区町村など、ジオマップで使用される地理要素を含むメタデータ・ロード・ファイルが用意されています。CSV ファイルをクリックしてダウンロードし、これを新しいメンバーとして、または(手動で変更を加えて)アプリケーション内の既存のメンバーの別名としてディメンションにアップロードできます。</p> <p>ジオマップが機能するのは、フォームの地理名が、ダッシュボード 2.0 によってそのマップ・レイヤーに使用される地理名と完全に一致する場合のみです。したがって、たとえば、マップ・レイヤーでは「合衆国」が使用されているため、USA というエンティティ/地理ディメンションは、有効な名前として認識されません。</p>

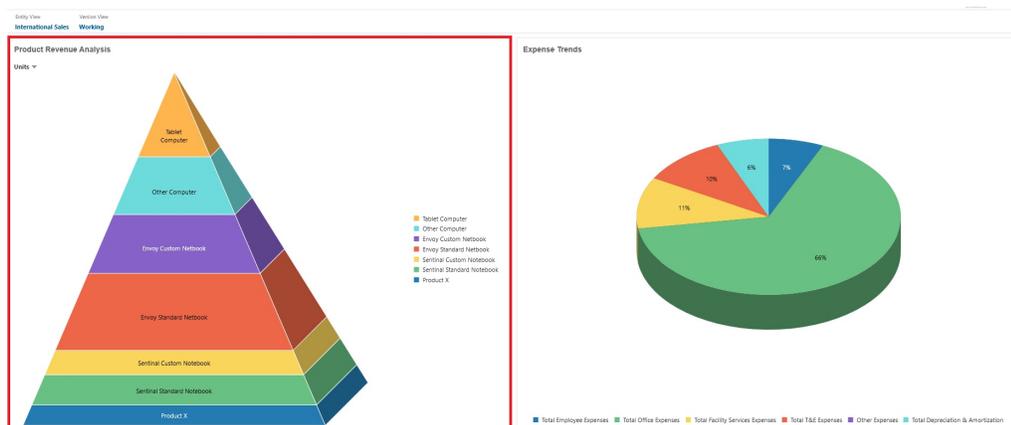
ビデオ

目的	視聴するビデオ
<p>ジオマップ・チャートの地理メンバーをダウンロードし、それらをディメンションにインポートする方法を学習します。データ・バブルと色による強調表示の両方のジオマップ・チャートを設定する方法を学習します。</p>	<p> ダッシュボード 2.0 でのジオマップの作成</p>

ピラミッド・チャート・タイプについて

ピラミッド・チャート・タイプでは、三角形の図表を使用して階層が視覚的に表されます。三角形はセクションに分割され、上から下に幅を変えて構造やプロセスが示されます。

3D ピラミッド・チャートの例



ダッシュボード・デザイナーは、次に示すピラミッド・チャートのプロパティを設定できます:

表 10-7 ピラミッド・チャートのプロパティ

設定	説明
凡例の位置	「左」、「右」、「上」、「下」または「なし」を選択します。
値のスケール	<p>大きい数字で特に便利なのは、値の表示方法を指定できることです。たとえば、値が 1,689,000 の場合に、スケーリング・オプションとして「K - 千」を選択すると、チャートにはこの値が 1,689K と表示されます。</p> <p>スケーリングのオプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> なし: スケーリングを適用しません。 自動: 範囲に応じて値が表示されます。たとえば、1,500 は「1.5K」、1,689,000 は「1.69M」、42,314,531,211 は「42.31B」、1,234,567,891,234 は「1.23T」としてそれぞれ表示されます。 K - 千: 値が千単位で表示されます。たとえば、1,689,000 は「1689K」と表示されます。 M - 百万: 値が百万単位で表示されます。たとえば、123,456,789 は「123M」と表示されます。 B - 十億: 値が十億単位で表示されます。たとえば、12,345,678,912 は「12B」と表示されます。 T - 兆: 値が兆単位で表示されます。たとえば、1,234,567,891,234,567 は「1,234T」と表示されます。
3D グラフ	データを 3D グラフとしてビジュアル化するには、「はい」を選択します。
色	「デフォルト」を選択するか、ピラミッド・チャートのセクションをクリックし、そのセクションのカスタム色を選択します。

ウォーターフォール・チャート・タイプについて

ウォーターフォール・チャートには正および負の値の累計が表示され、初期値からその累計値に到達した経緯を示す場合に役立ちます。

ウォーターフォール・チャートは、初期値が一連の正または負の中間値によってどのような影響を受けたかを表すために使用されます。通常、初期値と最終値(端点)は列全体で表示されるのに対して、中間値は、前の列の値に基づいて開始されるフローティング列として表示されます。列を色分けして、正の値と負の値を区別することもできます。

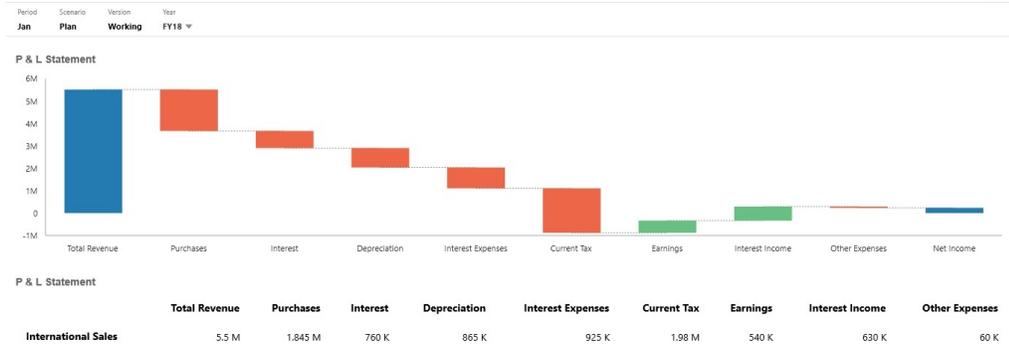
ウォーターフォール・チャートの例 - 在庫分析

次の例は、時間の経過に伴う 1 つの勘定科目の変化をビジュアル化したものです。



ウォーターフォール・チャートの例 - 損益計算書

次の例では、費用勘定科目が収益合計に対する負の変化として示され、利益勘定科目が最終的な純利益値に対する正の変化として示されています。



ダッシュボード・デザイナーは、次に示すウォーターフォール・チャートのプロパティを設定できます：

表 10-8 ウォーターフォール・チャートのプロパティ

設定	説明
値のスケール	<p>大きい数字で特に便利なのは、値の表示方法を指定できることです。たとえば、値が 1,689,000 の場合に、スケーリング・オプションとして「K - 千」を選択すると、チャートにはこの値が 1,689K と表示されます。</p> <p>スケーリングのオプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> なし: スケーリングを適用しません。 自動: 範囲に応じて値が表示されます。たとえば、1,500 は「1.5K」、1,689,000 は「1.69M」、42,314,531,211 は「42.31B」、1,234,567,891,234 は「1.23T」としてそれぞれ表示されます。 K - 千: 値が千単位で表示されます。たとえば、1,689,000 は「1689K」と表示されます。 M - 百万: 値が百万単位で表示されます。たとえば、123,456,789 は「123M」と表示されます。 B - 十億: 値が十億単位で表示されます。たとえば、12,345,678,912 は「12B」と表示されます。 T - 兆: 値が兆単位で表示されます。たとえば、1,234,567,891,234,567 は「1,234T」と表示されます。
グリッド線	「非表示」を選択するか、「表示」を選択してグリッドの x 軸線を表示します。
接続折れ線	「非表示」を選択するか、「表示」を選択して各列の末尾を次の列の先頭に接続する線を表示します。これは、チャート内のデータのフローをビジュアル化するのに役立ちます。

表 10-8 (続き) ウォーターフォール・チャートのプロパティ

設定	説明
プロット差分	<p>提供された値に基づいて、1 つのバーと次のバーの間で共通の始点および終点を自動的に計算してプロットする場合は、「はい」を選択します。これは、残高タイプの勘定科目のトレンドを表示する場合に便利です。</p> <p>それ以外の場合は、「いいえ」を選択して増加および減少点を手動で設定します。</p> <p>「いいえ」を選択した場合、次の増加/減少オプションをバーごとに手動で設定できます:</p> <ul style="list-style-type: none"> 棒の方向: バーを選択して、バーの方向を手動で増加/減少に設定します。 すべての棒: チャート内のすべてのバーのリストを表示して、バーの方向を手動で増加/減少に設定します。 <p>それぞれのバーについて設定できる手動オプションは、「自動」、「リバース」および「合計」です。「自動」では、データ・ソースからの正/負の値が考慮され、それに従ってプロットされます。「リバース」では符号が変更され、「合計」では、対応するバーでチャートが再開されます。</p>
増加 減少 合計	それぞれのプロパティの色を選択します。
終了棒	チャート上で終了バーを「非表示」にするか、「表示」するかを選択します。上の例では、終了バーが表示されています。終了バーを表示する場合、ラベルを指定できます。
軸	「X 軸」および「Y 軸」の「カスタム範囲」を選択するか、「オフ」を選択します。
ビデオ	
目的	視聴するビデオ
ウォーターフォール・チャートを作成して、1 つの勘定科目の時間の経過に伴う変化を追跡し、複数の勘定科目がどのように連携して最終合計を生成するかを追跡する方法を学習します。	 ダッシュボード 2.0 でのウォーターフォール・チャートの作成

ダッシュボードでの表の使用

ダッシュボードの表では、フォームまたはグリッドからの複数の値を表示するデータのリスト・ビューが提供されます。列データをプロットする、スパーク・チャートと呼ばれる小さいチャートを表の各行に埋め込むことができます。また、表は検索可能です。複数通貨アプリケーションの表には通貨記号または通貨コードが表示されます。

プレーンな表が表示されているダッシュボードの例

Balance Sheet - Plan				
	Q1	Q2	Q3	Q4
Current Assets	535 M	557 M	588 M	625 M
Fixed Assets	54 M	50 M	45 M	41 M
Other Assets Total	223 M	223 M	223 M	223 M
Total Assets	812 M	830 M	857 M	890 M
Current Liabilities	335 M	336 M	337 M	345 M
Long Term Liabilities	44 K	44 K	44 K	44 K
Total Owners Equity	477 M	494 M	519 M	545 M
Total Liabilities and Owners Equity	812 M	830 M	857 M	890 M

Balance Sheet - Forecast				
	FY16 Q3	FY16 Q4	FY17 Q1	FY17 Q2
Current Assets	479.40 M	515.61 M	488.15 M	500.23 M
Fixed Assets	61.17 M	59.33 M	53.98 M	50.52 M
Other Assets Total	223.09 M	223.09 M	223.09 M	223.09 M
Total Assets	763.66 M	798.02 M	765.21 M	773.85 M
Current Liabilities	331.48 M	338.24 M	333.92 M	335.93 M
Long Term Liabilities	43.77 K	43.77 K	43.77 K	43.77 K
Total Owners Equity	432.07 M	459.66 M	431.25 M	437.87 M
Total Liabilities and Owners Equity	763.59 M	797.94 M	765.21 M	773.85 M

スパーク・チャートを含む表が表示されているダッシュボードの例

Balance Sheet - Plan				
	Q1	Q2	Q3	Q4
Current Assets	535 M	557 M	588 M	625 M
Fixed Assets	54 M	50 M	45 M	41 M
Other Assets Total	223 M	223 M	223 M	223 M
Total Assets	812 M	830 M	857 M	890 M
Current Liabilities	335 M	336 M	337 M	345 M
Long Term Liabilities	44 K	44 K	44 K	44 K
Total Owners Equity	477 M	494 M	519 M	545 M
Total Liabilities and Owners Equity	812 M	830 M	857 M	890 M

Balance Sheet - Forecast				
	FY16 Q3	FY16 Q4	FY17 Q1	FY17 Q2
Current Assets	479.40 M	515.61 M	488.15 M	500.23 M
Fixed Assets	61.17 M	59.33 M	53.98 M	50.52 M
Other Assets Total	223.09 M	223.09 M	223.09 M	223.09 M
Total Assets	763.66 M	798.02 M	765.21 M	773.85 M
Current Liabilities	331.48 M	338.24 M	333.92 M	335.93 M
Long Term Liabilities	43.77 K	43.77 K	43.77 K	43.77 K
Total Owners Equity	432.07 M	459.66 M	431.25 M	437.87 M
Total Liabilities and Owners Equity	763.59 M	797.94 M	765.21 M	773.85 M

	Year Total	Trend
Purchases	7,893,54 K	
Total Revenue	82,791,69 K	
Interest	35,350 K	
Depreciation	4,531,83 K	
Current Tax	3,344 K	
Earnings	35,350 K	
Interest Expenses	3,480 K	
Interest Income	3,164 K	
Other Expenses	430 K	
Gross Profit Margin	71.21%	

ダッシュボード・デザイナーは、次の表のプロパティを設定できます:

表 10-9 表のプロパティ

設定	説明
値のスケール	<p>大きい数字で特に便利なのは、値の表示方法を指定できることです。たとえば、値が 1,689,000 の場合に、スケーリング・オプションとして「K - 千」を選択すると、表にはこの値が 1,689K と表示されます。スケーリングのオプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> なし: スケーリングを適用しません。 自動: 範囲に応じて値が表示されます。たとえば、1,500 は「1.5K」、1,689,000 は「1.69M」、42,314,531,211 は「42.31B」、1,234,567,891,234 は「1.23T」としてそれぞれ表示されます。 K - 千: 値が千単位で表示されます。たとえば、1,689,000 は「1689K」と表示されます。 M - 百万: 値が百万単位で表示されます。たとえば、123,456,789 は「123M」と表示されます。 B - 十億: 値が十億単位で表示されます。たとえば、12,345,678,912 は「12B」と表示されます。 T - 兆: 値が兆単位で表示されます。たとえば、1,234,567,891,234,567 は「1,234T」と表示されます。
行区切り	「表示」または「非表示」を選択します。
フォント	ヘッダーおよびデータのサイズと色のオプションを指定します。
スパーク・チャート	<ul style="list-style-type: none"> チャート・タイプ: 「棒」、「折れ線」、「面」および面付き折れ線とともに関連するオプションを選択します。または、「なし」を選択することもできます。 ヘッダー: スパーク・チャート列の列ヘッダー 開始インデックス: データのチャート化を開始する列インデックス 最終インデックス: データのチャート化を終了する列インデックス

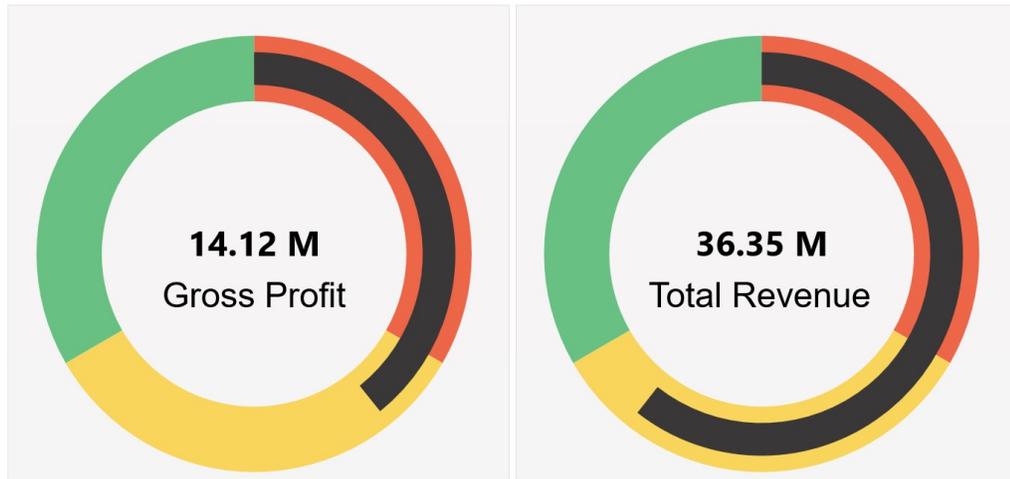
ビデオ

目的	視聴するビデオ
ダッシュボード・デザインでダッシュボード 2.0 向けに複数コンポーネントを含むダッシュボードを作成する方法を確認します。表が含まれるダッシュボード、スパーク・チャートが含まれる表およびタイトル・チャートを作成します。	 表、スパーク・チャートおよびタイトル・チャートのダッシュボード 2.0 での作成

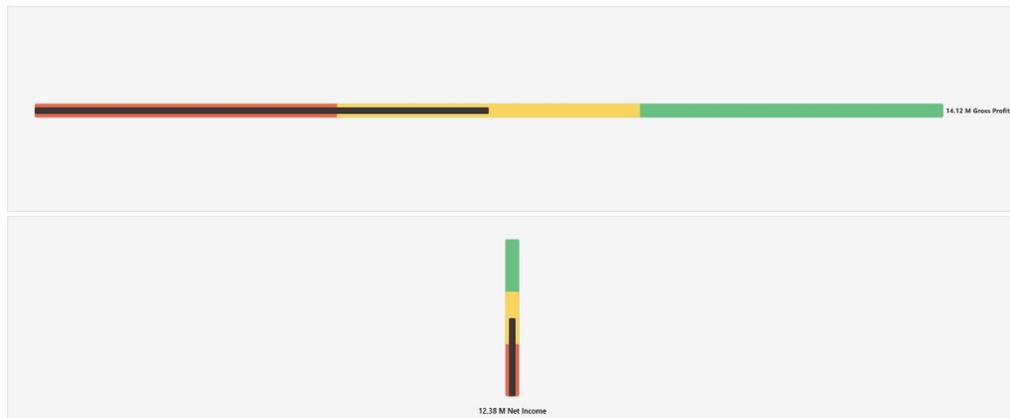
ダッシュボード 2.0 のゲージ・チャート・タイプについて

ゲージ・チャート・タイプでは、データ値が許容範囲内に収まっているかどうかわかります。最小値、最大値および範囲の最大値を設定すると、ゲージで赤、黄色および緑のトラフィック・ライトが使用され、現在の値をすばやく評価して、重要なデータ・ポイントやメジャーにおける問題を識別できます。ダッシュボード 2.0 のダッシュボードでは、円形、水平および垂直ゲージ・タイプを選択できます。

ダッシュボード 2.0 の例 - 円形ゲージ・タイプ

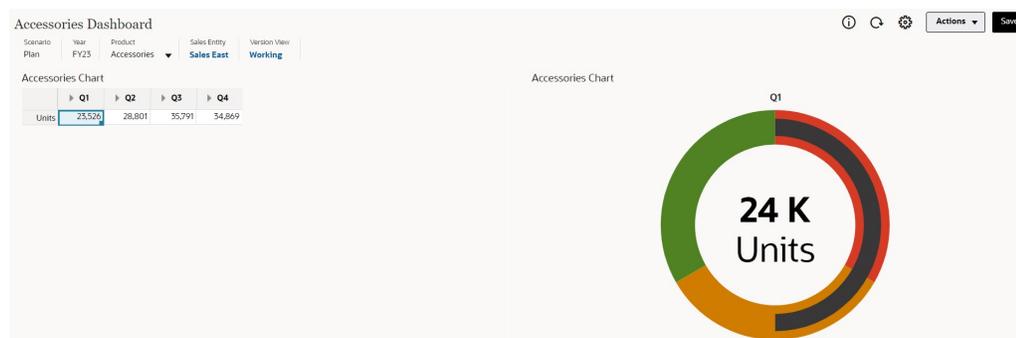


ダッシュボード 2.0 の例 - 水平ゲージ・タイプと垂直ゲージ・タイプ



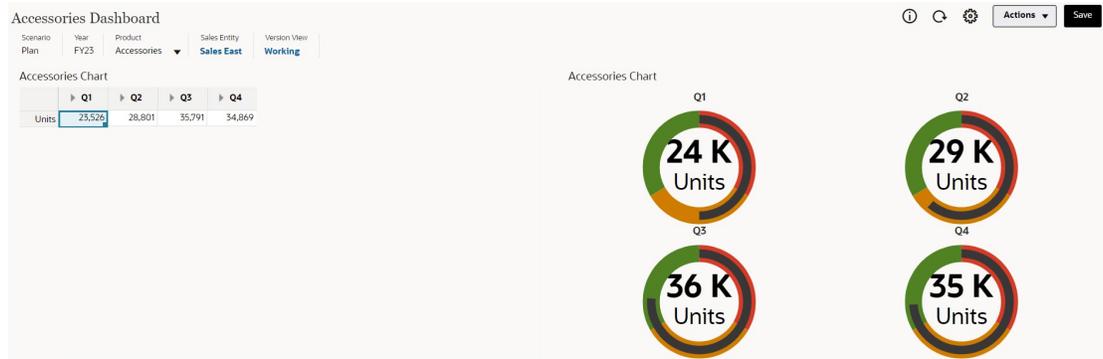
ダッシュボード 2.0 の例 - 単一ゲージの表示

「表示」で「単一」が選択されている場合、ゲージ・チャートには基礎となるフォームのデータの最初の列のみが表示されます。



ダッシュボード 2.0 の例 - 複数のゲージの表示

「表示」で「複数」が選択されている場合、基礎となるフォームのデータの列ごとにゲージ・チャートが表示されます。



ダッシュボード・デザイナーは、次に示すゲージ・チャート・タイプのプロパティを設定できます:

表 10-10 ゲージ・チャート・タイプのプロパティ

設定	説明
スケール	<p>大きい数字で特に便利なのは、値の表示方法を指定できることです。たとえば、値が 1,689,000 の場合に、スケールリング・オプションとして「K - 千」を選択すると、チャートにはこの値が 1,689K と表示されます。</p> <p>スケールリングのオプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> なし: スケールリングを適用しません。 自動: 範囲に応じて値が表示されます。たとえば、1,500 は「1.5K」、1,689,000 は「1.69M」、42,314,531,211 は「42.31B」、1,234,567,891,234 は「1.23T」としてそれぞれ表示されます。 K - 千: 値が千単位で表示されます。たとえば、1,689,000 は「1689K」と表示されます。 M - 百万: 値が百万単位で表示されます。たとえば、123,456,789 は「123M」と表示されます。 B - 十億: 値が十億単位で表示されます。たとえば、12,345,678,912 は「12B」と表示されます。 T - 兆: 値が兆単位で表示されます。たとえば、1,234,567,891,234,567 は「1,234T」と表示されます。
表示	<p>コンポーネントで、「単一」または「複数」ゲージ・チャートを表示できます。「単一」が選択されている場合、ゲージ・チャートには基礎となるフォームのデータの最初の列のみが表示されます。「複数」が選択されている場合、基礎となるフォームのデータの列ごとにゲージ・チャートが表示されます。</p>
ゲージ・タイプ	<p>次のオプションから選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 円形 水平 垂直

表 10-10 (続き) ゲージ・チャート・タイプのプロパティ

設定	説明
最小値	ゲージの最低値と最高値。ダッシュボード・デザイナーがこれらの値をデフォルトとして設定した後、ユーザーが実行時にそれらを一時的に変更できます。ダッシュボード・デザイナーがこれらの値を指定しなかった場合、アプリケーションによって、自動的に、最小値がゼロに設定され、最大値がゲージの値より大きいものに設定されます。
最大値	
希望の目標	「高」の値と「低」の値のどちらが望ましいかを指定します。
低しきい値	メジャーが許容範囲内にあるかどうかを視覚的に示すために、これらのしきい値を使用して、指定した値に基づいてゲージを赤、黄色および緑で表示できます。それぞれのしきい値について「ラベル」(テキスト)と「値」(数値)を指定します。
中しきい値	
高しきい値	

ダッシュボード 2.0 のレーダー・チャート・タイプについて

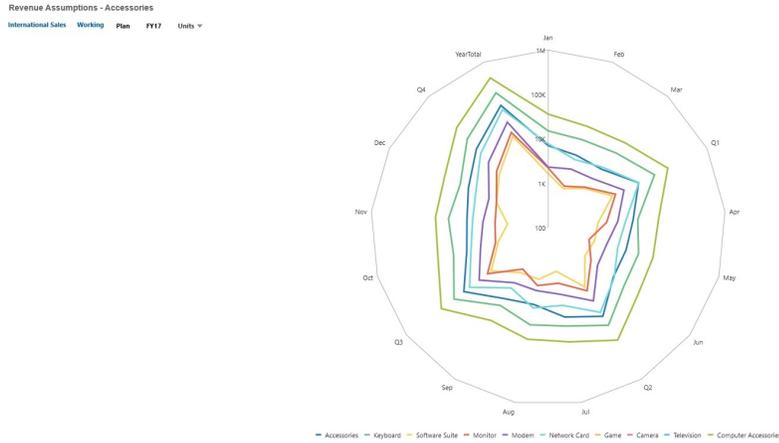
レーダー・チャートは、1 つ以上の系列の値を複数の定量的変数についてプロットするように設計された 2 次元チャート・タイプです。レーダー・チャートは、データの変数のうち、結果がそれ以外と比較して優れているものを確認する場合に最適です。したがって、主にパフォーマンス分析に使用されます。

ダッシュボード 2.0 では、棒、折れ線、面、散布およびバブル・レーダー・タイプを選択できます。

ダッシュボード 2.0 の例 - レーダー棒チャート・タイプ



ダッシュボード 2.0 の例 - レーダー折れ線チャート・タイプ



ダッシュボード・デザイナーは、次に示すレーダー・チャート・タイプのプロパティを設定できます:

表 10-11 レーダー・チャート・タイプのプロパティ

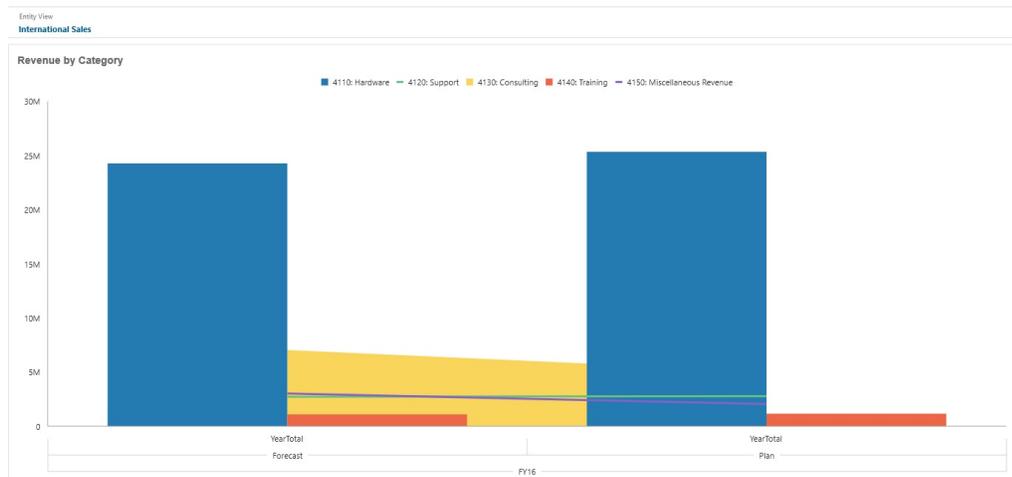
設定	説明
値のスケール	<p>大きい数字で特に便利なのは、値の表示方法を指定できることです。たとえば、値が 1,689,000 の場合に、スケーリング・オプションとして「K - 千」を選択すると、チャートにはこの値が 1,689K と表示されます。</p> <p>スケーリングのオプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> なし: スケーリングを適用しません。 自動: 範囲に応じて値が表示されます。たとえば、1,500 は「1.5K」、1,689,000 は「1.69M」、42,314,531,211 は「42.31B」、1,234,567,891,234 は「1.23T」としてそれぞれ表示されます。 K - 千: 値が千単位で表示されます。たとえば、1,689,000 は「1689K」と表示されます。 M - 百万: 値が百万単位で表示されます。たとえば、123,456,789 は「123M」と表示されます。 B - 十億: 値が十億単位で表示されます。たとえば、12,345,678,912 は「12B」と表示されます。 T - 兆: 値が兆単位で表示されます。たとえば、1,234,567,891,234,567 は「1,234T」と表示されます。
タイプ	<p>次のオプションから選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 棒 折れ線 面 散布 バブル
凡例の位置	「左」、「右」、「上」、「下」または「なし」を選択します。
グリッド線	「非表示」または「表示」を選択します。
対数目盛	<p>特に、値の範囲が広い(一般に、データの最大数が最小数の数百倍、あるいは数千倍の大きさになる)数値データを表示する場合は、対数目盛によって、これらの値がよりコンパクトで読みやすい形で表示されると便利です。レーダー・チャートで対数目盛を使用するかどうかを選択します。</p>
色	「デフォルト」を選択するか、チャート内のデータをクリックし、そのデータのカスタム色を選択します。

ダッシュボード 2.0 の組合せチャート・タイプについて

組合せチャートは、棒グラフ、折れ線グラフおよび面グラフの任意の組合せを 1 つのチャートにマージできるビジュアライゼーションです。

プライマリ Y 軸の反対側にセカンダリ Y 軸を追加することもできます。セカンダリ Y 軸を追加すると、他のメジャーでは適切にスケールされない 1 つのメジャーのスケールをチャートに表示できます。たとえば、パーセンテージ・メジャーと通貨メジャーを同じチャートに表示できます。

ダッシュボード 2.0 の例 - 面、棒および折れ線の組合せチャート



ダッシュボード・デザイナーは、次に示す組合せチャート・タイプのプロパティを設定できます:

表 10-12 組合せチャート・タイプのプロパティ

設定	説明
値のスケール	<p>大きい数字で特に便利なのは、値の表示方法を指定できることです。たとえば、値が 1,689,000 の場合に、スケーリング・オプションとして「K - 千」を選択すると、チャートにはこの値が 1,689K と表示されます。</p> <p>スケーリングのオプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • なし: スケーリングを適用しません。 • 自動: 範囲に応じて値が表示されます。たとえば、1,500 は「1.5K」、1,689,000 は「1.69M」、42,314,531,211 は「42.31B」、1,234,567,891,234 は「1.23T」としてそれぞれ表示されます。 • K - 千: 値が千単位で表示されます。たとえば、1,689,000 は「1689K」と表示されます。 • M - 百万: 値が百万単位で表示されます。たとえば、123,456,789 は「123M」と表示されます。 • B - 十億: 値が十億単位で表示されます。たとえば、12,345,678,912 は「12B」と表示されます。 • T - 兆: 値が兆単位で表示されます。たとえば、1,234,567,891,234,567 は「1,234T」と表示されます。
行の太さ	<p>カウンタをクリックして線の幅を設定します。</p> <p>線のデフォルトの幅は 5 ピクセルです。1 から 12 ピクセルを選択できます。</p>
凡例の位置	<p>「左」、「右」、「上」、「下」または「なし」を選択します。</p>
ラベルの位置	<p>チャート上のデータ・ラベルの位置を設定します。</p> <p>「バーの端の外側」、「中央」、「バーの端の内側」または「なし」を選択します。</p>
グリッド線	<p>「非表示」または「表示」を選択します。</p>
対数目盛	<p>特に、値の範囲が広い(一般に、データの最大数が最小数の数百倍、あるいは数千倍の大きさになる)数値データを表示する場合は、対数目盛によって、これらの値がよりコンパクトで読みやすい形で表示されると便利です。組合せチャートで対数目盛を使用するかどうかを選択します。</p>
セカンダリ Y	<p>チャートを挟んでプライマリ Y 軸の反対側に表示されるセカンダリ Y 軸にプロットするデータを選択します。</p> <p>チャートのデータ値がデータ系列によって大きく異なる場合や、データのタイプ(通貨とパーセンテージなど)が混在する場合、1 つ以上のデータ系列をセカンダリ縦(Y)軸にプロットできます。</p> <p>セカンダリ Y 軸は折れ線チャート・タイプおよび棒チャート・タイプで使用できますが、より一般的には、組合せチャート・タイプで使用して、セカンダリ Y 軸にプロットされるデータ系列を区別しやすくします。たとえば、プライマリ Y 軸に棒を使用し、セカンダリ Y 軸に折れ線を使用します。</p>
系列	<p>チャートの棒/折れ線/面の組合せを選択します。</p>
色	<p>「デフォルト」を選択するか、チャート内のデータをクリックし、そのデータのカスタム色を選択します。</p>
軸	<p>「X 軸」、「Y 軸」および「セカンダリ Y 軸」の「カスタム範囲」を選択するか、「オフ」を選択します。</p>

ダッシュボード 2.0 のタイル・チャート・タイプについて

タイルは、キューブから特定の値を選択して表示できるチャート・タイプです。フォームをデータ・ソースとして使用する以外に、タイルに値を提供するセル交差を直接入力することもできます。デフォルトでは、最初はコンポーネントに 6 個のタイルが表示されますが、コンポーネントには最大 10 個のタイルを表示できます。タイルをデータに関連付けるまで、サンプル・データが表示されます。

フォームをタイルのデータ・ソースとして使用する場合:

- コンポーネントごとに最大 10 個のタイルを含めることができます(デフォルトでは 6 個)。
- フォームの最初の列の値(10 行目まで)が、タイルの作成に使用されます。
- デフォルトでは、フォームの行タイトルはタイルのタイトルであり、その値は最初の列から行ごとに取得されます。
- タイルのコンポーネント・タイトル、タイルの高さのパーセンテージ、凡例ラベルを設定でき、含めるフォームの軸を選択できます。たとえば、3 つの行があるフォームを選択すると、タイルに 3 つの値が表示されます。

Note:

場合によっては、フォーム内で、グリッドとして表示されたときに最初の列が縮小される(非表示になる)ことがあります。ただし、タイルがフォームからその値を取得する際には、縮小された列も考慮されます。フォーム定義を更新し、タイルに表示するセルのみを含むフォームをデータ・ソースとして使用することをお勧めします。

タイルのデータ・ソースとしてセル交差を使用する場合は、1 つのオブジェクトにつきタイルを 1 つのみ含めることができます。

次の表は、タイル・チャート・タイプに設定できるオプションを示しています。値の表示は、タイルの水平方向で左、中央、右に設定することができます。また、複数通貨アプリケーションでは、通貨記号または通貨コードがタイルに表示されることにも注意してください。

Table 10-13 タイル・チャート・タイプのプロパティ

設定	説明
値のスケール	<p>大きい数字で特に便利なのは、値の表示方法を指定できることです。たとえば、値が 1,689,000 の場合に、スケーリング・オプションとして「K - 千」を選択すると、チャートにはこの値が 1,689K と表示されません。</p> <p>スケール・オプション:</p> <ul style="list-style-type: none"> なし: スケーリングを適用しません。 自動: 範囲に応じて値が表示されます。たとえば、1,500 は「1.5K」、1,689,000 は「1.69M」、42,314,531,211 は「42.31B」、1,234,567,891,234 は「1.23T」としてそれぞれ表示されます。 K - 千: 値が千単位で表示されます。たとえば、1,689,000 は「1689K」と表示されます。 M - 百万: 値が百万単位で表示されます。たとえば、123,456,789 は「123M」と表示されます。 B - 十億: 値が十億単位で表示されます。たとえば、12,345,678,912 は「12B」と表示されます。 T - 兆: 値が兆単位で表示されます。たとえば、1,234,567,891,234,567 は「1,234T」と表示されます。
テキストの配置	<p>テキストの配置オプション:</p> <ul style="list-style-type: none"> 左 中央 右
カウント表示	<p>コンポーネントに表示されるタイルの数(最大 10 個)</p> <p>凡例表示オプション:</p> <ul style="list-style-type: none"> 行と列のディメンション 行のディメンション 列のディメンション なし
位置	<p>凡例配置オプション:</p> <ul style="list-style-type: none"> 左 右 上 下
凡例のフォント・サイズ	凡例のフォント・サイズを大きくしたり、小さくします。
値のフォント・サイズ	値のフォント・サイズを大きくしたり、小さくします。

 **Note:**

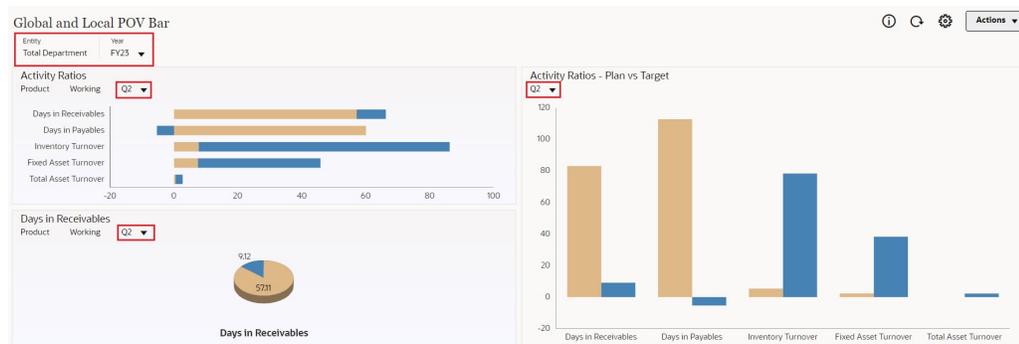
ダッシュボード 2.0 では、セル詳細はサポートされていません。かわりに、セル詳細のより高度なバージョンであるクイック分析をデータ・ソースとして使用することをお勧めします。セル詳細を使用するコンポーネントを含むダッシュボードをダッシュボード 2.0 に変換する場合は、セル詳細をデータ・ソースとして使用するコンポーネントを削除し、クイック分析をデータ・ソースとして使用するコンポーネントを再作成します。

ダッシュボード 2.0 のグローバル POV とローカル POV について

フォームのローカル POV には、フォーム設計者がそのフォームについて選択したディメンション・メンバーが反映されます。ダッシュボードではグローバル POV バーもサポートされており、各コンポーネントで繰り返されないように、共通するローカル POV はグローバル POV バーに組み込まれます。

ダッシュボード 2.0 の POV の例

次のダッシュボード 2.0 のダッシュボードには、グローバル POV バー(「エンティティ」および「年」を示す)とローカル POV (Q2 のドロップダウン・リスト)が表示されています:



グローバル POV バーがある場合、グローバル POV バーでページを変更し、「**POV バー：自動適用**」を有効にすると、フォームに基づいたダッシュボード内のすべてのコンポーネントについてページが変更されます。グローバル POV バーはダッシュボードの最上部に、すべてのコンポーネントより上に表示されるのに対して、ローカル POV バーはコンポーネント内に表示されます。ユーザー変数は、ダッシュボードのグローバル POV とローカル POV の両方でサポートされており、動的ユーザー変数を POV バーから直接変更できます。

ダッシュボード・ツールバーの  「**POV 設定**」メニュー(ランタイム・モードと編集モードの両方)では、ディメンション・ラベルをグローバル POV で非表示にするかどうか(「**POV バー：ディメンション・ラベルの非表示**」)、および変更の自動適用を有効にするか無効にするか(「**POV バー：自動適用**」)を設定できます。

グローバル POV バーについて:

- POV バーは、ローカル POV ディメンション、ページ・ディメンションおよびユーザー変数で構成されます。
- ダッシュボード上の各フォームのローカル POV およびページに応じて、グローバル POV バーが自動的に計算されます。
- グローバル POV は、そのダッシュボードのフォームを使用してコンポーネントのコンテンツを反映します。つまり、それらは、ダッシュボード内のフォーム、フォームにリンクされたチャート、およびデータ・ソースとしてフォームを使用するタイプに適用されます。そのため、ダッシュボードにデータ・ソースとしてフォーム

が含まれていない場合は、ローカル POV バーもグローバル POV バーも使用できません。次に、2 つのフォームのローカル POV ディメンションに基づいて、グローバル POV バーがどのように計算されるかの例を示します。

グローバル POV バーが無効:

- フォーム A のローカル POV: 年、エンティティ、製品
- フォーム B のローカル POV: 年、エンティティ、プロジェクト

グローバル POV バーが有効:

- グローバル POV バー: 年、エンティティ
- フォーム A のローカル POV: 製品
- フォーム B のローカル POV: プロジェクト

すべてのディメンションおよびページの選択がダッシュボード上のすべてのフォームに共通しているとはかぎらないため、ダッシュボード・コンポーネントの POV 全体がローカル POV バーとグローバル POV バーの間で分割されることがあります。グローバル POV バーとローカル POV をあわせると、ダッシュボード上の各フォームの完全な交差情報が含まれます。

データ・ソースとしてフォームを使用するコンポーネントが、ダッシュボードで 1 つのみである場合、フォームの POV/ページ全体がグローバル POV バーに移動されます。

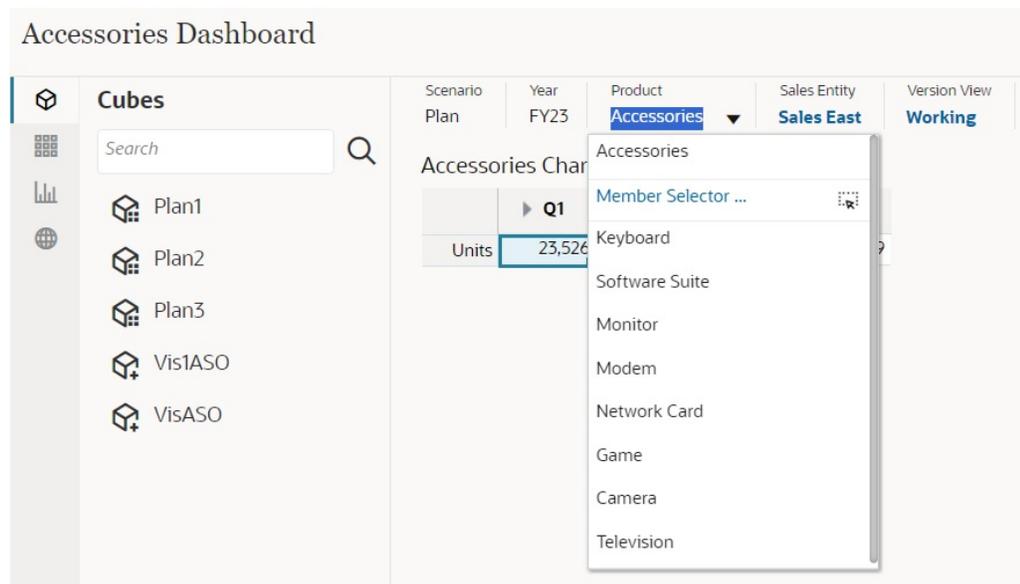
データ・ソースとしてフォームを使用するコンポーネントがダッシュボードに複数ある場合、どのディメンションがグローバル POV バーに移動し、どのディメンションがローカル POV にとどまるかは次のように決まります:

- ディメンションがすべてのフォームの POV またはページに含まれ、メンバーの選択がすべてのフォームで同じ場合、ディメンションはグローバル POV バーに移動します。
- ディメンションが 1 つのフォームの POV および別のフォームのページに含まれる場合、ディメンションはローカル POV バーにとどまります。
- ディメンションが POV に含まれる場合、そのディメンションについてすべてのフォームで同じメンバーが選択されている必要があります。
- ディメンションがページ・ディメンションである場合、選択されたページ・メンバーがすべてのフォームで同じであり、同じ順序で表示される必要があります。

ダッシュボード 2.0 のダッシュボードでの POV メンバーの検索

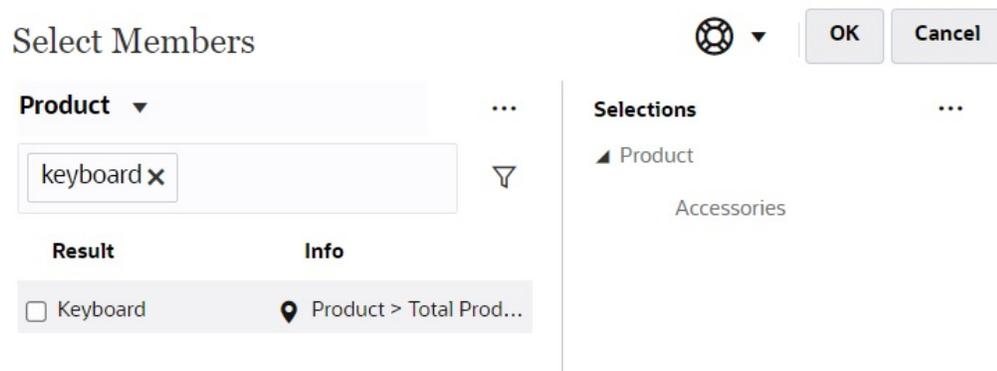
ダッシュボード 2.0 のダッシュボードで作業している場合は、新しい POV メンバーを簡単に検索できます。検索するには、POV リンクをクリックします。検索インターフェースには、最後に使用したメンバーのリストが表示され、そこから選択できます。

図 10-1 ダッシュボード 2.0 の最後に使用した POV メンバーのリスト



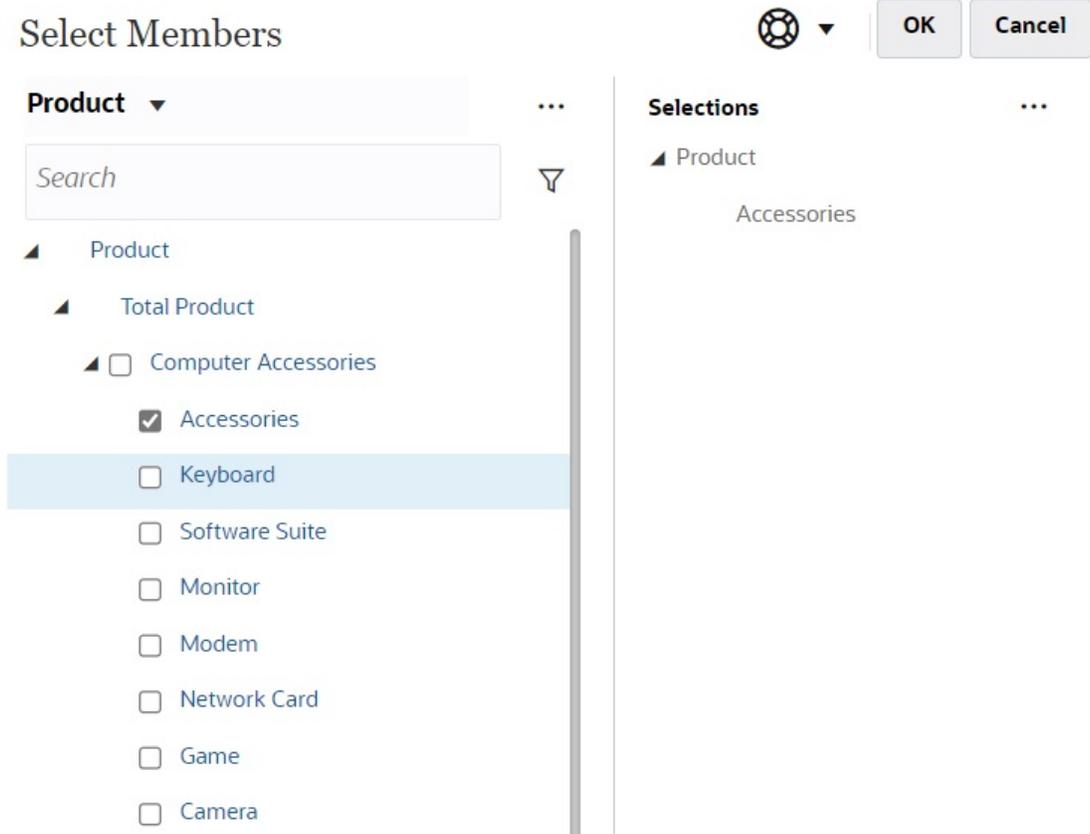
メンバー・セレクタを使用して検索することもできます。POV リンクをクリックし、メンバー・セレクタ・アイコン  をクリックしてメンバー・セレクタを起動します。メンバー・セレクタのメンバーは階層として表示されますが、「検索」ボックスにメンバー名を入力することもできます。「検索」ボックスを使用してメンバーが見つかった場合は、「検索」ボックスの下に結果が表示されます。

図 10-2 ダッシュボード 2.0 のメンバー・セレクタ検索結果



メンバーが見つかった階層内の場所を確認するには、結果の「情報」列の上にカーソルを置いて  をクリックします。

図 10-3 ダッシュボード 2.0 の階層におけるメンバー・セレクタ検索結果



ダッシュボード 2.0 の POV バーの考慮事項

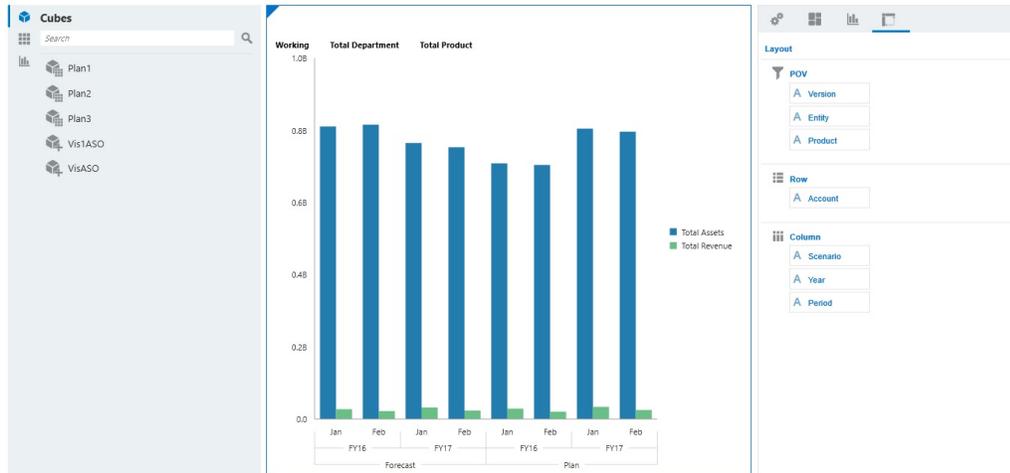
- POV バーのページのドロップダウン・リストで、ページのドロップダウンに表示するメンバーの数は、「ページ・オプション」の「ユーザー・プリファレンス」で制御できます。(ホーム・ページから「ツール」、「ユーザー・プリファレンス」、「表示」の順にクリックして「ページ・オプション」を表示します。)ページのドロップダウン内のアイテム数がこの制限を超えた場合、ユーザーはそれらを表示できません。これは、今後のリリースで、ダッシュボード 1.0 のように残りのメンバーを参照するためのメンバー・セレクタの機能を使用して修正される予定であることに注意してください。
- ダッシュボードに複数のフォームが含まれているが、一部のフォームで同じディメンションに異なるプロパティがある場合(たとえば、「バージョン」ディメンションは一部のフォームでは非表示ですが、同じダッシュボードの他のフォームでは表示される場合)、グローバル POV に「バージョン」ディメンションのメンバーが表示されない場合があります。ダッシュボード内に含まれるすべてのフォームで、すべてのディメンションのすべてのプロパティが同じであることを確認することをお勧めします。

クイック分析について

クイック分析を使用すると、事前作成されたフォームがなくても、ダッシュボードにコンポーネントを追加できます。「検索」バーにメンバー名を入力するか、「メンバー・セレクタ」

を使用してアドホック問合せを作成した後、「プロパティ」パネルの「レイアウト」タブ  で問合せのレイアウトを制御します。

ダッシュボード 2.0 のデザイン・モードでのクイック分析チャートの例



ダッシュボードでクイック分析を作成するには:

1. 問合せのキューブを選択します。次の 2 つのいずれかの方法で行うことができます:
 - ワークスペースの「検索」ボックスをクリックしてキューブのリストを表示し、キューブを選択します。
 - オブジェクト・パレットからダッシュボード・ワークスペースにキューブをドラッグ・アンド・ドロップします。

ノート:

どちらの方法でも、デフォルトの問合せから開始されます。最近使用したもの(MRU)に基づく、キューブ内の 1 つの交差です。デフォルトの問合せは、キューブで最近見ていたものによって異なります。

キューブ内の MRU 交差が無効な場合は、エラーが発生します。エラーが表示された場合は、別のフォームを開いてページを有効な交差に変更し、MRU が有効な交差で更新されるようにします。

2. 問合せのメンバーを指定して、問合せを調整します:
 - 「検索」ボックスにメンバー名を入力して、キューブからのオートコンプリート・リストを表示します。
 - 「メンバー・セレクト」  を起動してメンバーを選択し、「OK」をクリックします。

 ノート:

クイック分析を実行するために検索ボックスを使用してメンバーを検索し、キューブ内のメンバーが 25,000 人よりも多い場合、検索ボックスでは、キューブのディメンション内の最初の 3000 人のメンバーのみが検索されます。キューブに含まれているメンバーが 25,000 人より少ない場合は、検索ボックスですべてのメンバーが検索されます。メンバーが 25,000 人より多いキューブを検索するには、メンバー・セレクタを起動してクイック分析の選択をします。

3. 問合せのチャート・タイプを選択します。

 をクリックして、チャート・タイプ(「棒」 など)を選択します。

4. 「プロパティ」パネルで、「レイアウト」タブ をクリックします。
5. 「プロパティ」パネルの「レイアウト」タブのディメンションを「レイアウト」タブの他のセクションにドラッグ・アンド・ドロップして、ダッシュボード・コンポーネントの「POV」、「行」および「列」レイアウトを変更します。

ビデオ

目的	視聴するビデオ
フォームを事前作成せずに、ダッシュボードにクイック分析コンポーネントを追加する方法を学習します。ダッシュボード・デザイナーでアド・ホック問合せを作成する方法と、ディメンションのレイアウトを変更し、ビジュアライゼーションを適用して結果をフォーマットする方法を学習します。	 ダッシュボード 2.0 でのクイック分析の作成



フォームの管理

Tax Reporting では、すぐに使用可能な各種のフォームが提供されており、計算、調整の入力、財務データを使用した連邦および地方レベルでの当期税金と繰延税金の承認に必要なタスクを迅速かつ容易に実行し、US GAAP や IFRS レポートなどの会計基準に準拠することができます。

「税引当(国)」と「税引当(地域)」の両方のクラスターで、「**フォーム**」カードを使用してフォームのリストにアクセスし、リストから必要なフォームを直接開くことができます。

関連項目:

- [Tax Reporting の操作のフォームの操作](#)
- [Oracle Smart View for Office \(Mac and Browser\) の使用のフレックス・フォーム](#)

フォーム・グリッド・プロパティの設定

フォーム・グリッド・プロパティを設定するには:

1. フォームを開き「**レイアウト**」をクリックします。
2. 「**グリッドのプロパティ**」で、行および列プロパティを次のように設定します。

表 11-1 フォーム・グリッド・プロパティ

オプション	説明
欠落ブロックの抑制	複数の行に対して、「 欠落データの抑制 」の効率を大幅に向上させます。抑制する行が存在しない場合または少ない場合は、このオプションによってパフォーマンスが低下することがあります。この設定を使用する前後でフォームをテストし、パフォーマンスが向上するかどうかを判定します。 このオプションを使用する場合は注意してください。 <ul style="list-style-type: none"> • 一部の抑制されたブロックでは、動的計算メンバーが無視されることがあります • 行メンバーがインデントされない場合があります
欠落データの抑制	データがない行または列を非表示にします。クリアすると、データが欠落しているセルには「#MISSING」が付いた行または列が表示されません。
無効なデータの抑制	無効なデータを含む行または列を非表示にします。クリアすると、無効なデータのあるセルを含む行または列が表示されます。無効なデータを含むセルは読み取り専用です。

表 11-1 (続き) フォーム・グリッド・プロパティ

オプション	説明
デフォルトの行の高さ	<ul style="list-style-type: none"> • 中: • 適合するようサイズ調整: すべての行を表示された空間に合せます • カスタム: 行の高さのカスタム・サイズをピクセルで選択します
デフォルトの列の幅	<ul style="list-style-type: none"> • 小: 小数点以下 7 桁を表示します • 中: 小数点以下 10 桁を表示します • 大: 小数点以下 13 桁を表示します • 適合するようサイズ調整: 一番上のデータ・セル値に基づいて、表示される空間にすべての列を強制的に合せます • カスタム: 小数点以下 13 桁から 999 桁を表示するカスタム・サイズを選択します
グローバル仮定フォーム	<p>単一のフォームについて、テスト環境から本番環境へのグローバル仮定の転送を有効にするには、「グローバル仮定フォーム」を選択します。次に、税率などのグローバル仮定を保管するフォームを更新します。</p>
無効なシナリオ/期間の抑制 欠落を抑制したらゼロも抑制	<p>無効なシナリオ/期間を非表示にします。</p> <p>フォームでこのオプションを「欠落データの抑制」オプションと同時に選択すると、<code>#Missing</code> とゼロの両方を含む行または列がすべて抑制されます。</p> <p>この設定を選択すると、Oracle Smart View for Office でデータ欠落やゼロを抑制していた実行時の抑制選択より優先されます</p>
アド・ホックでのフォーム抑制の削除	<p>Smart View ユーザーが他の抑制オプションが指定されたフォームでアド・ホック分析を実行できるようにする場合に選択します。フォームに欠落データがある場合は、列または行の基本ディメンション・メンバーが Smart View のアド・ホック・グリッドに表示されます。これにより、フォームの設計で抑制オプションが有効になっている場合でも、ユーザーはフォームでアド・ホック分析を続行できます。</p>

ノート:

このオプションを選択しても、ユーザーが Smart View の「オプション」ダイアログの「データ・オプション」タブで設定した抑制オプションがオーバーライドされるわけではありません。フォームに対して「アド・ホックでのフォーム抑制の削除」オプションが有効になっており、ユーザーがフォームでアド・ホック分析を実行する際にエラーが表示される場合は、Smart View で抑制オプションをクリアする必要があります。

表 11-1 (続き) フォーム・グリッド・プロパティ

オプション	説明
オンザフライ計算の使用可能	このオプションを選択した場合、フォーム 2.0 で、メンバー式が添付されたセルにカーソルを置くと、セルに関連付けられているメンバー式が表示され、オンザフライ計算を実行できます。オンザフライ計算を使用すると、変更を送信することなく計算を実行できます。

3. 「保存」をクリックして処理を保存して続行するか、「終了」をクリックして処理を保存してフォームを閉じます。

フォーム・ディメンション・プロパティの設定

フォームのディメンション表示プロパティを設定および編集できます。このプロパティには、フォームにメンバー名または別名を表示するかどうか、行または列を非表示にするかどうか、およびユーザーにメンバー式の表示を許可するかどうかが含まれます。これらのプロパティは、行、列、ページおよび視点ディメンションに適用されます。

次元プロパティを設定するには:

1. フォームを開き「レイアウト」をクリックします。
2. 視点、ページ、行または列でクリックして、ディメンション・プロパティを設定します。
3. 「ディメンション・プロパティ」を選択します:

Table 11-2 フォーム・ディメンション・プロパティ

プロパティ	説明
すべての行ディメンションに適用	すべての行ディメンションにプロパティを適用します
すべての列ディメンションに適用	すべての列ディメンションにプロパティを適用します
すべてのページ・ディメンションに適用	すべてのページ・ディメンションにプロパティを適用します
すべての POV ディメンションに適用	すべての視点ディメンションにプロパティを適用します
メンバー名	メンバー名を表示します
別名	メンバーの別名を表示します
メンバー式	メンバー式を表示します
ディメンションの非表示	ディメンションを非表示にします
集計演算子を表示	集計演算子を表示します
展開開始	行または列でのディメンションにのみ使用でき、このオプションを最初に選択すると、展開されたディメンション・メンバー・リストが表示されます
カスタム属性の使用可能	行または列でのディメンションにのみ使用でき、カスタム属性を使用可能にします
共有メンバーのドリル	行ディメンションまたは列ディメンションに使用できます。共有メンバーがメイン階層の親メンバーにある場合、共有メンバーのドリルを可能にします。

Table 11-2 (Cont.) フォーム・ディメンション・プロパティ

プロパティ	説明
フォーム定義以外のフレックス	<p>フレックス・フォームの行および列のディメンションの場合:</p> <p>フォーム定義の一部として含まれていない行メンバーまたは列メンバーの追加を Oracle Smart View for Office ユーザーに許可する場合に選択します。</p> <p>このオプションは、行または列ごとに有効にします。</p> <p>「すべての行ディメンションに適用」を選択することもできますが、現在の行ディメンションで選択されているすべてのプロパティがフォーム内のすべての行ディメンションに適用されることに注意してください。</p> <p>このオプションは、フォーム定義の「Smart View オプション」セクションで「行のフレックス・フォームの有効化」または「列のフレックス・フォームの有効化」(あるいはその両方)が選択されている場合にのみ表示されます。 <i>Planning</i> の管理の Smart View フォームのオプションの設定に関する項を参照してください。</p>
通貨の表示	<p>複数通貨アプリケーションに使用可能で、通貨を表示します</p>
修飾名の表示	<p>エンティティ・ディメンションのメンバーを Parent.Child として表示します。 「なし」、必要時または「常時」を選択します。</p> <p>このオプションを「通貨の表示」オプションとともに選択すると、Parent.Child (親通貨、子通貨)としてエンティティ・メンバーが表示されません。</p> <p>このオプションは、フォームが Oracle Smart View for Office で使用されるときにも保持されます。</p>

4. 「保存」をクリックして処理を保存して続行するか、「終了」をクリックして処理を保存してフォームを閉じます。

印刷オプションの設定

「レイアウト」タブで、フォーム情報を印刷する際のプリファレンスを設定および編集できます。

印刷オプションを設定するには:

1. フォームを開き「レイアウト」をクリックします。
2. 「印刷オプション」を選択し、フォーム情報を印刷する際のプリファレンスを設定します。

Table 11-3 フォームの印刷オプション

オプション	説明
サポート詳細を含める	PDF ファイルにサポート詳細を追加行として含めます。表示フォーマットを指定します: <ul style="list-style-type: none"> • 標準順序: 関連付けられたメンバーの後に、「サポート詳細」ページと同じ順序でサポート詳細を印刷します • 逆順: 関連付けられたメンバーの前で、サポート詳細を逆の順序で印刷します。子に関するサポート詳細は親の上に表示され、兄弟の順序が保たれます。
コメントの表示	セルに関連付けられたテキスト・ノートを表示します
データのフォーマット	フォームから表示済のデータに数のフォーマット設定を適用します
属性メンバーの表示	フォームで属性メンバーを選択した場合、PDF ファイルで表示します
精度の適用	フォームの精度設定(必要な小数点以下の桁数)を PDF ファイルで表示されたデータに適用します
通貨コードの表示	フォームが複数の通貨をサポートしている場合、フォームおよび PDF ファイルに通貨コードが表示されます。通貨コードが表示されるかどうかは、通貨コードがフォームの任意のメンバーに存在するかどうかによって決まります。通貨コードがフォームに含まれる任意のメンバーに存在する場合、このチェック・ボックスの選択に関係なく、フォームに通貨コードが表示されます。通貨コードがフォームのメンバーに存在しない場合、それらは表示されません。
勘定科目注釈の表示	勘定科目注釈がフォームで使用可能になっている場合、PDF ファイルで勘定科目注釈を表示する選択をします

3. 「保存」をクリックして処理を保存して続行するか、「終了」をクリックして処理を保存してフォームを閉じます。

関連項目: [Tax Reporting の操作の印刷プリファレンスの設定。](#)

フォームの編集

フォームのレイアウト、メンバーおよびプロパティを編集できます。たとえば、式の行または列をフォームに追加できます。

フォームを編集するには:

1. 「ナビゲータ」アイコンをクリックします。
2. 「作成および管理」で「フォーム」をクリックします。
3. フォームを選択し、「編集」をクリックします。別の方法として、ホーム・ページで、「ライブラリ」をクリックできます。フォーム・フォルダを展開し、フォームの名前をクリックして開き、



をクリックします

4. 次を選択します:
 - a. **プロパティ**: 説明および指示を編集します。
 - b. **レイアウト**: フォームのレイアウトを編集します。
 - c. **その他オプション**: フォーム精度の編集、フォームに関連付けられたコンテキスト・メニューの変更、動的ユーザー変数の有効化/無効化およびユーザー変数の選択を行います。
 - d. **ビジネス・ルール**: フォームに関連付けるビジネス・ルールを変更したり、ビジネス・ルールのプロパティを変更します。
5. 「**保存**」をクリックして処理を保存して続行するか、「**終了**」をクリックして処理を保存してフォームを閉じます。
フォームのバリエーションを新しい名前で保存するには、「**名前を付けて保存**」をクリックし、新しいフォーム名を入力して「**OK**」をクリックします。新しい名前
で更新されたフォームがフォーム・リストに追加されます。レッドウッド・エク
スペリエンスが有効になっている場合、新しい名前のフォームが新しい動的タブで開
きます。

12

ディメンションの操作

関連トピック

- [ディメンションの概要](#)
- [ディメンションの表示および編集](#)
- [ナビゲーションを使用したディメンション階層の操作](#)
- [会社間勘定属性の値の設定](#)
- [連結 ETR カスタム属性の設定](#)
- [パフォーマンス設定](#)
- [代替階層の作成](#)

ディメンションの概要

ディメンション階層は、構造的および算術的關係、およびデータベースのメンバー間の連結を定義します。關係は、縮小可能な階層図式で表示されます。上位レベルのディメンション・メンバーは親メンバーと呼ばれ、親メンバーの直下のメンバーは子と呼ばれます。親の下にいるすべてのメンバーは子孫と呼ばれます。最下位レベルの階層のメンバーはレベル 0 のメンバーと呼ばれます。

通常、データはディメンションのレベル 0 のメンバーに入力され、親メンバーには入力されません。親レベルのメンバーの値は、親レベルのメンバーの子から集約されます。レベル 0 のメンバーのデータが計算される場合もあります。

Tax Reporting は、事前定義されたディメンションのセットを必要とするマルチ・ディメンショナル連結アプリケーションです。デフォルトでは、アプリケーションを作成すると、システムでこれらのディメンションが次の順序で作成されます:

- [勘定科目](#)
- [期間](#)
- [連結](#)
- [データ・ソース](#)
- [通貨](#)
- [会社間](#)
- [エンティティ](#)
- [増減](#)
- [複数 GAAP](#)
- [管轄](#)
- [シナリオ](#)
- [年](#)

- [ビュー](#)

このディメンションのセットで税引当プロセスが処理されます。柔軟なアプリケーション構成に対応できるように、各ディメンションには、ディメンション・メンバーのセットが事前にシードされます。選択した機能に必要なディメンション・メンバーのみが有効になります。

編集可能なメンバーもあれば、ロックされているメンバーもあります。次のシステム・ディメンションは編集できません:

- 年
- 期間
- ビュー
- 連結
- 会社間

アプリケーションの作成中にカスタム・ディメンションを作成することもできます。次を参照してください: [カスタム・ディメンションの追加\(ハイブリッド・モードのみ\)](#)

ナビゲータまたは簡易ディメンション・エディタを使用して、ディメンションを編集および表示できます。

組織の情報を追加するには、次のディメンションを構成する必要があります。

- [勘定科目](#)
- [管轄](#)
- [シナリオ](#)
- [通貨](#)
- [複数 GAAP](#)

ベスト・プラクティスの方法は、エンティティに関連付ける管轄メンバーおよび通貨メンバーのみを追加することです。

勘定科目ディメンション

勘定科目ディメンションは、通常の勘定科目の階層を表します。勘定科目は、アプリケーションにエンティティとシナリオの財務データを格納し、損益計算書勘定科目に勘定科目プロパティを提供します。各勘定科目には、会計の動作を定義する収益、費用などの勘定科目タイプがあります。すべてのアプリケーションに勘定科目ディメンションが必要です。

勘定科目ディメンションには次のものが格納されます。

- 試算表の勘定体系または帳簿残高の勘定科目
- 税引当または国別(CbCR)レポートの計算に使用する税金勘定科目
- 永久差異または一時差異
- R & D およびその他の控除
- 純営業損失
- 追加引当金項目

Dimensions

Dimensions Performance Settings Evaluation Order

Cube <All Cubes> Dimension Account Sort Descendants Search Name

Actions View Detach

Name	Alias (Default)	Data Storage	Custom Attributes
Account		Label only	
▶ FCCS_System Account	System Account	Label only	
▶ Exchange Rates		Label only	
▶ Entered Exchange Rates	Entered Exchange Rates	Label only	
▶ Exchange Rates System Members	Exchange Rates System Members	Label only	
▶ FCCS_Historical Accounts	Historical Accounts	Label only	
▶ FCCS_Drivers	Drivers	Label only	
▶ TRCS_TaxAccounts	Tax accounts	Label only	
▶ TRCS_CurrentTaxExpense	Current Provision	Dynamic Calc	
▶ TRCS_CurrentTaxReturn	Current Tax Expense per Return	Dynamic Calc	
▶ TRCS_CurrentTaxTI	Current Tax on Taxable Income	Dynamic Calc	
▶ TRCS_TaxableIncomeAfterLoss	Taxable Income	Dynamic Calc	
▶ TRCS_TaxableIncomeBeforeLossWSp	Taxable Income Before Loss with ...	Dynamic Calc	
▶ TRCS_TaxableIncomeBeforeLoss	Taxable Income Before Loss	Dynamic Calc	
▶ TRCS_NIBTLS	Local Statutory Net Income Befor...	Dynamic Calc	
▶ TRCS_PermSTTotal	Permanent Differences (Stat to T...	Dynamic Calc	
PermST0001	Meals & Entertainment	Store	View
PermST0002	Fines & Penalties	Store	View
PermST0003	Non-deductible Insurance	Store	View
▶ TRCS_TempSTTotal	Total Temporary Differences (Sta...	Dynamic Calc	
▶ TRCS_DeductIncTaxTotal	Deductible Income tax	Dynamic Calc	
▶ TRCS_TaxSpecialDeductions	Special Deductions	Store	
▶ TRCS_TaxLossesCFSTotal	Total National Tax Losses - Carryf...	Dynamic Calc	
▶ TRCS_TotalTaxCredits	Total Tax Credits	Dynamic Calc	
▶ TRCS_CurrentAddtlTotal	Total Additional Current Provision	Dynamic Calc	
▶ TRCS_RCurrentTaxExpense	Regional Current Provision	Dynamic Calc	
▶ TRCS_NDefTaxTotal	Deferred Tax Total	Dynamic Calc	
▶ TRCS_RDefTaxTotal	Total Deferred Tax Regional	Dynamic Calc	
▶ TRCS_InterimTaxTotal	Interim Provision	Dynamic Calc	
▶ TRCS_TaxSettings	Tax Settings	Label only	
▶ TRCS_SupplementalSchAccounts	Supplemental Schedule Accounts	Label only	
▶ TRCS_OtherTaxAccounts	Other Tax Accounts	Label only	
▶ FCCS_Balance Sheet	Balance Sheet	Dynamic Calc	
▶ FCCS_Income Statement	Income Statement	Dynamic Calc	
▶ TRCS_CountryByCountryReporting	Country by Country Reporting	Label only	

勘定科目ディメンションを定義するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」、「概要」、「ディメンション」タブの順に選択します。
2. 「勘定科目」をクリックし、勘定科目ディメンションのプロパティを表示します。

The screenshot shows the 'Account' dimension configuration page. The 'Edit Properties' tab is highlighted with a red box. The page is divided into several sections:

- Dimension:** Account
- Description:** [Text Field]
- Alias Table:** Default
- Alias:** [Text Field]
- Options:**
 - Two Pass Calculation
 - Apply Security
- Data Storage:** Never Share
- Display Option:** Member Name
- Hierarchy Type:** Not Set
- Cube Enabled:**

Cube	Enabled
Consol	<input checked="" type="checkbox"/>
Rates	<input checked="" type="checkbox"/>
CbCR	<input checked="" type="checkbox"/>
- Custom Attributes:**

Attribute	Data Type	Actions
Tax Type	Text	
Tax Data Type	Text	
FBOS	Text	
Consolidated ETR	Text	
Rate change to equity	Text	
TAR Book Account National	Text	

3. 「ディメンション・プロパティの編集」タブ  をクリックします。
4. アプリケーションに適したオプション・プロパティを選択します。
 - 勘定科目ディメンションの説明を入力します。
 - 使用可能な場合は、**別名表**を選択します。
 - 勘定科目ディメンションの**別名**を入力します。
 - 「**2パス計算**」を選択します。
 - 「**セキュリティの適用**」を選択します。
5. ディメンションに適用する**データ・ストレージ**のタイプを選択します。
 - **ラベルのみ**
 - **共有しない**
 - **動的計算**(親メンバーに使用)
 - **動的計算および保管**
 - **保管**(基本メンバーに使用)
6. 「**表示オプション**」で、レポートに表示するオプション(レポートの「**メンバー名**」または「**別名**」)を選択します。
 - **メンバー名**
 - **別名**
 - **メンバー名:別名**
 - **別名:メンバー名**
7. 使用可能な場合は、「**階層タイプ**」を選択します。

8. 「キューブ」で、使用するキューブを選択します。**連結**、「レート」または「CbCR」を使用できます。
9. オプション: 「カスタム属性」下の「アクション」で「編集」を選択し、カスタム属性を変更するか、「削除」を選択して属性を削除します。
10. 「カスタム属性」で「作成」をクリックし、新規カスタム属性を追加します。属性の名前を入力し、**データ型**を選択します。

11. 「完了」をクリックします。

勘定科目プロパティの定義

勘定科目のプロパティ(勘定科目タイプ、データ型、会社間勘定かどうかなど)を定義します。

会社間勘定については、[会社間勘定属性の値の設定](#)を参照してください。

勘定科目プロパティを定義するには:

1. 「ナビゲータ」アイコンをクリックします。
2. 「作成および管理」で「ディメンション」をクリックします。
3. 「ディメンション」リストから、「勘定科目」を選択します。
4. 「アクション」を選択してから、「子の追加」または「兄弟の追加」を選択します。
5. 「メンバーのプロパティ」タブで、勘定科目プロパティを入力します。

表 12-1 勘定科目プロパティ

プロパティ	説明
名前	ディメンション・メンバー全体で一意である名前を入力します。
説明	オプション: 説明を入力します。
別名表	オプション: 別名表を選択し、別名を保管します。
別名	オプション: メンバーの代替名を入力します。
勘定科目タイプ	勘定科目タイプを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • 費用 • 収益 • 資産 • 負債 • 資本 • 保存された仮定

表 12-1 (続き) 勘定科目プロパティ

プロパティ	説明
差異レポート	<p>オプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 費用 費用外
タイム・バランス	<p>収益勘定および費用勘定に対するシステムによるサマリー期間の値の計算方法を指定します。</p> <p>次のオプションから選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> フロー - 平均レートを使用して計算します 残高 - 期末レートを使用して計算します
スキップ	<p>オプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> なし 欠落 ゼロ 欠落およびゼロ
為替レート・タイプ	<p>勘定科目の為替レートを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 履歴 履歴金額オーバーライド 履歴レート・オーバーライド レートなし(取得時換算勘定以外の場合)
ソース・キューブ	<p>メンバーのソース・キューブを指定します。</p>
データ・ストレージ	<p>データ・ストレージ・オプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 保管 動的計算および保管 動的計算 共有しない 共有 ラベルのみ
2パス計算	<p>親メンバーまたは他のメンバーの値に基づいてメンバーの値を計算するかどうかを選択します。</p>
上位レベルのエンティティ 入力を許可	<p>親エンティティの入力をこの勘定科目に対して許可するかどうかを指定します。</p>
プラン・タイプ	<p>メンバーが有効となるアプリケーション・タイプを示します。</p>

 **ノート:**

フロー勘定科目には常に「平均」レートが使用され、残高勘定科目には常に「期末」レートが使用されます。

表 12-1 (続き) 勘定科目プロパティ

プロパティ	説明
データ型	データ型を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • 未指定 • 通貨 • 通貨以外 • パーセンテージ • 日付 • テキスト • スマート・リスト
スマート・リスト	オプション: メンバーに関連付けるスマート・リストを選択します。
動的な子に対して使用可能	ユーザーが、動的な親メンバーを使用するように構成されたビジネス・ルールの実行時プロンプトでメンバー名を入力することにより、このメンバーの子を作成できるようにします。
使用可能な動的な子の数	このオプションは、「 動的な子に対して使用可能 」が選択されている場合のみ使用可能です。ユーザーが作成できる、動的に追加する最大メンバー数を入力します。デフォルトは 10 です。
メンバー作成者に付与されたアクセス権	このオプションは、「 動的な子に対して使用可能 」が選択されている場合のみ使用可能です。メンバー作成者が実行時プロンプトで作成する動的メンバーに対して持つ権限を判別します: <ul style="list-style-type: none"> • 継承 - メンバー作成者は、新しく作成したメンバーに対する最も近い親のアクセス権を継承します。 • なし - メンバー作成者には、新しく作成したメンバーへのアクセス権は割り当てられません。(管理者は、後でメンバー作成者にメンバーへのアクセス権を割り当てることができます。) • 読取り - メンバー作成者には、新しく作成したメンバーへの読取りアクセス権が割り当てられます。 • 書込み - メンバー作成者には、新しく作成したメンバーへの書込みアクセス権が割り当てられます。

 **ノート:**

管理者がこれらの設定を変更した場合、その変更は将来の動的メンバーにのみ適用され、遡って動的メンバーに適用されることはありません。

勘定科目の課税属性の定義

次の表に、勘定科目ディメンションの属性名、値および機能を示します。関連項目: [勘定科目ディメンション](#)

Table 12-2 勘定科目

属性タイプ	属性値	説明
WARSourceAccount	WARExpSrcAccount	この属性は、その他税金および帳簿勘定科目に対する加重平均レートの計算に使用される予定の税金費用勘定科目を関連付けます。この属性を使用して、複数の帳簿勘定科目をタグ付けできます。関連項目: Tax Reporting の操作のその他税金および帳簿勘定科目に対する加重平均 FX レート・オーバーライドの計算
税タイプ	<ul style="list-style-type: none"> 国 地域 NationalAndRegional 	勘定科目に表示されるデータのタイプが国のデータまたは地域のデータ、あるいは国と地域の両方であるかを分類します。たとえば、税タイプを「NationalAndRegional」に設定します。これにより、税金勘定科目の国のデータがアクティブな地域/県に渡されます。属性を設定するには、 簡易ディメンション・エディタを使用したメンバー・プロパティの編集 を参照してください
税データ・タイプ	<ul style="list-style-type: none"> PreTax 税金 配賦 TaxCalcElim 	この属性は、アプリケーションに入力される勘定科目のデータがどのようなデータか（「PreTax」、「税金」、配賦）を定義します。 TaxCalcElim - この属性は、この勘定科目のデータが消去対象であることを指定します。
FBOS	NOFBOS	この属性は、「州の連邦利益なし」がこの勘定科目に適用されることを定義します。

Table 12-2 (Cont.) 勘定科目

属性タイプ	属性値	説明
連結 ETR	CETR	この属性は、この勘定科目とデータが連結有効税率調整(CETR)に含まれることを定義します。関連項目: 連結 ETR カスタム属性の設定
株主資本に対する税率変更	RCToEquity	この属性は、税率データの変更の影響が取り消され、この属性を含むすべての一時差異勘定科目の 資本における税率変更の影響 列に適用されることを定義します。関連項目: Tax Reporting の操作の国の繰延税金の操作 および 地域の繰延税金の操作
TAR 帳簿勘定科目(国)	<ul style="list-style-type: none"> • N_TARFExpenseCurrent • N_TARFExpenseDeferred • N_TARFDeferredNonCurrentAssets • N_TARFDeferredNonCurrentLiabilities • N_TARFDeferredVANonCurrent • N_TARFCurrentPayable • N_TARFCurrentReceivable • N_TARFLongTermPayable • N_TARFEquity • N_TARFAcq • N_TARFDisp 	これは非推奨です。TAR 自動化を使用します。関連項目: Tax Reporting の操作の地域の税金勘定ロールフォワード(TAR)の操作 および TAR 自動化 および TAR 自動化帳簿残高の操作
TAR 帳簿勘定科目(地域)	<ul style="list-style-type: none"> • R_TARFExpenseCurrent • R_TARFExpenseDeferred • R_TARFDeferredNonCurrentAssets • R_TARFDeferredNonCurrentLiabilities • R_TARFDeferredVANonCurrent • R_TARFCurrentPayable • R_TARFCurrentReceivable • R_TARFLongTermPayable • R_TARFEquity • R_TARFAcq • R_TARFDisp 	これは非推奨です。TAR 自動化を使用します。関連項目: Tax Reporting の操作の地域の税金勘定ロールフォワード(TAR)の操作 および TAR 自動化 および TAR 自動化帳簿残高の操作
符号の切替え	<ul style="list-style-type: none"> • TAR 符号の切替え(国) • TAR 符号の切替え(地域) • TAR 符号の切替え(NationalAndRegional) • CbCR 符号の切替え 	これは非推奨です。TAR 自動化または CbCR 自動化(あるいはその両方)を使用します。関連項目: Tax Reporting の操作の国別レポート(CbCR)の操作

Table 12-2 (Cont.) 勘定科目

属性タイプ	属性値	説明
CBCR	<ul style="list-style-type: none"> • CBCRRevenueRelatedParties • CBCRRevenueUnRelatedParties • CBCREBIT • CBCRNationalIncomeTaxPaid • CBCRRegionalIncomeTaxPaid • CBCRNationalIncomeTaxAccrued • CBCRRegionalIncomeTaxAccrued • CBCRStatedCapital • CBCRAccumulatedEarnings • CBCRNumberOfEmployees • CBCRNetTangibleAssets 	<p>これは非推奨です。 CbCR 自動化を使用し ます。関連項目: <i>Tax</i> <i>Reporting</i> の操作の 国別 レポート(CbCR)の操作</p>
分類	<ul style="list-style-type: none"> • TRCS_CLASSIFY_ATACCOUNT • TRCS_CLASSIFY_ASSET • TRCS_CLASSIFY_LIABILITY 	<p>この属性は、繰延税金用 の分類レベルを設定す るために使用されます。 マイナスの残高は繰延 税金負債として分類さ れ、プラスの残高は繰延 税金資産として分類さ れます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • TRCS_CLASSIFY_A TACCOUNT - この 属性値が勘定科目 (基本/親)に設定さ れると、このレベル の値に基づいて分 類されます。 • TRCS_CLASSIFY_A SSET - この属性値 が勘定科目(基本/ 親)に設定されると、 残高(マイナス/プ ラス)に関係なく、値は 資産として分類さ れます。 • TRCS_CLASSIFY_LI ABILITY - この属性 値が勘定科目(基本/ 親)に設定されると、 残高(マイナス/プ ラス)に関係なく、値は 負債として分類さ れます。

Table 12-2 (Cont.) 勘定科目

属性タイプ	属性値	説明
TAR 勘定科目分類	<ul style="list-style-type: none"> TAR_Domestic TAR_Foreign 	<p>この属性は、新規に作成された TAR 勘定科目を国内または国外として計算するように設定できます。これら 2 つのカスタム属性は、国外と国内のエンティティを区別するために、勘定科目ディメンションおよび管轄ディメンションで使用できます。</p> <p>これにより、データを国内と国外の分類にロールアップできます。関連項目: 国内または国外としての TAR 勘定科目の分類</p>
オーバーライド FX 換 算メソッド	<ul style="list-style-type: none"> PeriodicFxTranslationMethod YtdFxTranslationMethod 	<p>Tax Reporting には、各勘定科目ベースでオーバーライドする換算方法が用意されています。これは、勘定科目メンバー属性 PeriodicFXTranslation method または YtdFxTranslationMethod として使用できます。関連項目: 換算方法</p>
会社間勘定	IC_Acc_Yes	<p>この属性は、"調整勘定"として設定されている会社間勘定を識別するために使用されます。関連項目: 会社間ディメンションおよび会社間勘定属性の値の設定</p>
調整勘定である	Plug_Acc_Yes	<p>この勘定科目が調整勘定科目の場合に指定します。関連項目: 会社間勘定属性の値の設定</p>
調整勘定		<p>会社間が「はい」に設定された勘定科目で、調整勘定が設定されていない場合、調整勘定を指定できます。このプロパティが「はい」に設定された勘定科目は、調整勘定として選択できます。関連項目: 会社間勘定属性の値の設定</p>

Table 12-2 (Cont.) 勘定科目

属性タイプ	属性値	説明
資本逆仕訳ターゲット勘定科目	TRCS_CurrentAddtlCalcStockCompRTA	この属性は、永久差異勘定科目または一時差異勘定科目の税効果が資本計上された税金に対して逆仕訳される追加引当金勘定科目を識別するために使用されません。永久差異勘定科目または一時差異勘定科目ごとに個別の資本逆仕訳勘定科目が必要であることを注意してください。
資本逆仕訳ターゲット勘定科目(地域)	<ul style="list-style-type: none"> • TRCS_RCurrentAddtlCalcStockCompA dj • TRCS_RCurrentAddtlCalcStockCompR TA 	この属性は、地域の永久差異勘定科目または一時差異勘定科目の税効果が資本計上された税金に対して逆仕訳される地域の追加引当金勘定科目を識別するために使用されます。地域の永久差異勘定科目または一時差異勘定科目ごとに個別の地域の資本逆仕訳勘定科目が必要であることを注意してください。
FX レート・グローバル・アカウント・レート・オーバーライド		この属性は、FX オーバーライド・レートが必要なアカウントを識別します。関連項目: FX レート・グローバル勘定科目オーバーライド・フォームの操作
NIBT FX オーバーライド勘定科目	TRCS_NIBT オーバーライド	この属性は、FX オーバーライド・レートを使用して換算される NIBT 勘定科目を識別するために使用されます。これは、調整済 NIBT にロールアップされる勘定科目にすることができます。関連項目: NIBT FX オーバーライド・レートの入力

Table 12-2 (Cont.) 勘定科目

属性タイプ	属性値	説明
NIBT FX オーバーライド差異勘定科目	<ul style="list-style-type: none"> • TRCS_PermGSTotal • TRCS_PermSTTotal • PermGS0001 • PermGS0002 • PermGS0003 • PermST0001 • PermST001A • PermST0002 • PermST0003 • PermST0004 • PermST0005 • PermST0006 • PermST0007 • PermST0008 • PermST0009 • PermST0010 	<p>この属性は、NIBT オーバーライド勘定科目 (NIBT FX オーバーライド・レートと平均レート * NIBT の差異が反映される永久差異勘定科目) を識別するために使用されます。</p>
繰延税金増減 Pillar 2		<p>この属性は、繰延税金増減の合計税効果から評価引当金を差し引いたものを識別し、評価引当金はそれが割り当てられている Pillar 2 勘定科目(その他の調整)に自動化されます。Pillar 2 勘定科目は、Pillar 2 - 対象税金の繰延税金の計算に含める必要があります。</p>

会社間勘定属性の値の設定

会社間勘定属性は、「勘定科目」の「属性値」タブで指定します。

会社間勘定プロパティを「はい」に設定する場合、調整勘定を指定する必要があります。

勘定科目の属性値を設定するには:

1. 既存の勘定科目メンバーを選択し、「編集」をクリックして、「属性値」タブを選択します。
2. 次の情報を入力します:

表 12-3 会社間勘定属性の値

属性	説明
会社間勘定	勘定科目が会社間勘定であるかどうかを指定します。「はい」に設定する場合、この勘定科目の調整勘定を指定する必要があります。
調整勘定である	この勘定科目が調整勘定になるかどうかを指定します。
調整勘定	会社間が「はい」に設定された勘定科目で、調整勘定が設定されていない場合、調整勘定を指定できます。このプロパティが「はい」に設定された勘定科目は、調整勘定として選択できます。

 **ノート:**

このオプションは、アプリケーションで会社間が有効な場合にのみ使用できます。

3. 調整勘定を追加する場合:

- a. **勘定科目** ディメンション・メンバーを選択し、「**カスタム属性**」 ボタンを選択します。
- b. 属性「**調整勘定**」を選択し、「**同期**」 ボタンをクリックします。

新しく追加した調整勘定が、調整勘定の「属性値」ツリーの右側にある調整勘定のリストに表示されます。

連結 ETR カスタム属性の設定

今年度データが ETR フォーム(連結、法定など)でレポートされている次の勘定科目のいずれかに対して連結 ETR カスタム属性を適用できます:

- NIBT 勘定科目
- 永久差異勘定科目
- 追加引当金項目

 **ノート:**

次の勘定科目のレベル 0 の子孫にはこの属性を適用しないでください:
TRCS_TempGSTotal、TRCS_TempSTTotal、TRCS_TaxLossesCFSTotal、
TRCS_TaxCreditTotal、TRCS_VATotal、TRCS_RTempTotal、
TRCS_RTaxLossesPreCFSTotal、TRCS_RTaxCreditTotal、TRCS_RVATotal
および TRCS_RTaxAttribTotal。
このエラーにより、一時差異勘定科目に対して期首残高が計算されなくなります。

連結 ETR カスタム属性を設定するには:

1. ホーム・ページで「ナビゲータ」アイコンをクリックし、「作成および管理」で「ディメンション」を選択します。
2. 「ディメンション」タブで、属性値を添付する勘定科目メンバーを選択して、「編集」をクリックします。
3. 「ディメンション - メンバーの編集」画面で、「属性値」タブを選択します。
4. 「使用可能な属性値」で「連結 ETR」を展開し、「CETR」を選択した後、「追加」をクリックして、属性を「割り当てられた属性値」のリストに追加します。
5. 「保存」をクリックします。

期間ディメンション

期間ディメンションは、四半期や月などの期間を表します。期間を階層で表示すると、期間と期間単位が含まれます。

デフォルトでは、アプリケーションは次の要素を含む 14 か月の期間で作成されます。

- YearTotal (P1 から P12)
- P13 (RTA)
- P14

ノート:

デフォルトでは、四半期やこれに対応する QTD などのビュー・メンバーはありません。

期間ディメンションを定義するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」、「概要」、「ディメンション」タブの順に選択します。
2. 「期間」をクリックし、期間ディメンションのプロパティを表示します。

3. **オプション:** アプリケーションに適したオプション・プロパティを選択します。
 - 期間ディメンションの**説明**を入力します。
 - 使用可能な場合は、**別名表**を選択します。
 - 期間ディメンションの**別名**を入力します。
 - 「**2パス計算**」を選択して使用します。
 - 「**セキュリティの適用**」を選択します。
4. ディメンションに適用する**データ・ストレージ**のタイプを選択します。
 - ラベルのみ
 - 共有しない
 - 動的計算
 - 動的計算および保管
 - 保管
5. 「**表示オプション**」で、レポートに**メンバー名**を表示するか、**別名**を表示するかを選択します。
6. 使用可能な場合は、「**階層タイプ**」を選択します。
7. 「**基本期間**」、「**最初の会計年度**」および「**会計終了年度**」を確認します。これらの値は変更できません。
8. 「**キューブ**」で、使用するキューブを選択します。**連結**、「**レート**」または「**CbCR**」を使用できます。
9. **オプション:** 「**カスタム属性**」下の「**アクション**」で「**編集**」を選択し、カスタム属性を変更するか、「**削除**」を選択して属性を削除します。
10. 「**カスタム属性**」で「**作成**」をクリックし、新規カスタム属性を追加します。属性の名前を入力し、**データ型**を選択します。
11. 「**完了**」をクリックします。

連結ディメンション

連結ディメンションによって、連結プロセスの様々なステージを実行するために使用される詳細についてレポートできます。これには、連結されたメンバーの調整方法を連結プロセス中に記録するための中間結果が保管されます。これにより、連結プロセス中にデータに適用されるトランザクションの監査証跡が提供されます。

連結ディメンションには、財務情報に対する追加レイヤーがあり、入力値、調整およびコントリビューションの情報の詳細を表示できます。これには、入力値やエンティティのデータに関連する調整などのエンティティ・データが含まれます。従属エンティティの値は、連結時に親にロールアップするため、比率の詳細や消去の詳細などの連結の詳細を保管できます。比率の詳細には、連結ルールの実行結果である残高が含まれています。また、基本値に対する連結比率の結果も反映されます。消去の詳細には、消去ルールに基づいて連結時に取得された消去残高が含まれています。

連結ディメンションには、次のメンバーが含まれます。

- **エンティティ入力** - 基本および親エンティティに対するすべてのユーザー入力に使用されるメンバー。基本エンティティの場合、このメンバーは、入力データと、連結関連以外のビジネス・ロジック(メンバー式や配賦など)を表します。親エンティティの場合、その子エンティティのコントリビューション合計メンバーの合計が、親エンティティのエンティティ入力になります。
- **エンティティ合計** - エンティティ入力とエンティティ連結の動的集約。この値は、比率の開始ポイントです。
- **比率** - 指定したエンティティについて、このメンバーは、その親にコントリビューションしたパーセンテージをエンティティ合計に適用した後に取得された値を保管します。連結比率(PCON)は、親に連結されるエンティティの値の比率で、換算済金額に適用されます。
- **消去** - 会社間消去の値を保管します。これは、最初の共通の親での比率金額の消去です。
- **コントリビューション** - 特定の親エンティティに対する単一の子エンティティの連結結果で、その子のコントリビューションの合計を保管します。このメンバーは親エンティティにのみ適用されます。これには、親/子エンティティの比率データ、消去データおよびコントリビューション調整が含まれます。
- **エンティティ連結** - このメンバーは動的に計算されたメンバーで、親エンティティにのみ適用されます。このメンバーの金額は、その子エンティティそれぞれのコントリビューションの合計を表します。これは、連結プロセスの結果としてシステムにより計算された金額です。

ノート:

このディメンションを対象にメンバーを追加または削除することはできません。

The screenshot shows the 'Dimensions' console with the 'Consolidation' dimension selected. The table below represents the data shown in the console:

Name	Alias (Default)	Data Storage	Custom Attributes
Consolidation		Dynamic Calc	
FCCS_Contribution	Contribution	Dynamic Calc	
FCCS_Proportion	Proportion	Dynamic Calc	
FCCS_Entity Total	Entity Total	Dynamic Calc	
FCCS_Entity Input	Entity Input	Store	
FCCS_Entity Consolidation	Entity Consolidation	Store	
FCCS_Elimination	Elimination	Store	

連結ディメンションを定義するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」、「概要」、「ディメンション」タブの順に選択します。
2. 「連結」をクリックし、プロパティを設定します。

The screenshot shows the 'Consolidation' configuration form. The 'Dimension' field is set to 'Consolidation'. The 'Description' field is empty. The 'Alias Table' is set to 'Default'. The 'Alias' field is empty. The 'Two Pass Calculation' and 'Apply Security' checkboxes are unchecked. The 'Data Storage' is set to 'Never Share'. The 'Display Option' is set to 'Member Name'. The 'Hierarchy Type' is set to 'Not Set'. The 'Cube' section has 'Consol' checked, 'Rates' unchecked, and 'CbCR' checked. The 'Custom Attributes' section is empty.

3. **オプション:** アプリケーションに適したオプション・プロパティを選択します。
 - ディメンションの「説明」を入力します。
 - 使用可能な場合は、別名表を選択します。
 - ディメンションの「別名」を入力します。
 - 「2パス計算」を選択します。
 - 「セキュリティの適用」を選択します。
4. ディメンションに適用するデータ・ストレージのタイプを選択します。
 - ラベルのみ
 - 共有しない
 - 動的計算
 - 動的計算および保管
 - 保管

5. 「表示オプション」で、レポートに**メンバー名**を表示するか、**別名**を表示するかを選択します。
6. 使用可能な場合は、「階層タイプ」を選択します。
7. 「キューブ」で、使用するキューブを選択します。**連結**、「レート」または「CbCR」を有効にできます。
8. 「カスタム属性」で「作成」をクリックし、新規カスタム属性を追加します。属性の名前を入力し、**データ型**を選択します。
9. 「完了」をクリックします。

データ・ソース

データ・ソース・ディメンションには様々なタイプの入力保管され、一部は FCCS データ・ソース・ディメンションに従って、TRCS データ・ソースで拡張されます。

オプションのメンバーは、アプリケーションの構成中に指定したオプションに基づいて作成されます。入力を追跡するために必要に応じて階層に追加メンバーを作成できますが、システム作成メンバーは削除できません。

Name	Alias (Default)	Data Storage	Custom Attributes
Data Source		Never Share	
FCCS_Total Data Source	Total Data Source	Dynamic Calc	
FCCS_No Data Source	No Data Source	Store	
FCCS_Intercompany Eliminations	Intercompany Eliminations	Store	
FCCS_TotalInputAndAdjusted	Total Data Source	Dynamic Calc	
TRCS_CbCR_TotalInputAndAdjusted		Never Share	
FCCS_SystemTypes	System Types	Label only	
TRCS_PreTax	Pre Tax	Dynamic Calc	
TRCS_Apporioned	Apportioned	Dynamic Calc	
TRCS_Tax	Tax	Dynamic Calc	
TRCS_Classification		Dynamic Calc	
TRCS_TaxCETR	Tax Effect	Dynamic Calc	
TRCS_ETRPercentages	ETR Percentages Calculated	Label only	
TRCS_TARF	TAR Calculated Total	Dynamic Calc	
TRCS_TotalBVT	Net	Dynamic Calc	
TRCS_SourcePreTax	Source Pre Tax	Dynamic Calc	
TRCS_CurrentPayableTotal	Current Payable Total	Dynamic Calc	
TRCS_Tax Automation Rules	Tax Automation Rules	Label only	
TRCS_TAR Automation Mapping	TAR Automation Mapping	Label only	
TRCS_CbCR_Global Rules	CbCR Global Rules	Label only	
TRCS_CbCR Global Rule 1	CbCR Global Rule 1	Never Share	

データ・ソース・ディメンションを使用して、次のことを実行します:

- FCCS_TotalData Source の下にあるデータのソースの追跡:
 - FCCS_Intercompany Eliminations - データの消去
 - FCCS_TotalInputAndAdjusted:
 - * TRCS_TRCS_Mapped Data - CbCR 自動化のターゲット

- * FCCS_Managed Data - データ管理によってロードされたデータ
- * FCCS_Data Input - 手動で入力された、またはデータ・インポートによってインポートされたデータ
- * FCCS_Supplemental Data - 次を使用して入力された詳細な補足データ
補足データ管理(SDM)

Name	Alias (Default)	Data Storage
└ Data Source		Never Share
└─ FCCS_Total Data Source	Total Data Source	Dynamic Calc
└─ FCCS_No Data Source	No Data Source	Store
└─ FCCS_Intercompany Eliminations	Intercompany Eliminations	Store
└─ FCCS_TotalInputAndAdjusted	Total Data Source	Dynamic Calc
└─ TRCS_Mapped Data	Mapped Data	Store
└─ FCCS_Managed Data	Managed Data	Store
└─ FCCS_Supplemental Data	Supplemental Data	Store
└─ FCCS_Data Input	Data Input	Store
└─ TRCS_CbCR_TotalInputAndAdjusted		Never Share
└─ TRCS_AdditionalInformation	Additional Information	Never Share

- データの性質の追跡:
 - 税引前入力 - 税引前基準で入力されたデータ(税金自動化および税引前調整によってマップされたデータを含む)
 - 税引前計算 - 税引前基準で計算されたデータ
 - 配賦 - 配賦されたデータ
 - 税 - 税引後に入力され、計算されたデータ
 - 分類 - 資産/負債の分類
 - TARF - Tax Account Roll Forward の分類

Name	Alias (Default)	Data Storage	Custom Attributes
Data Source		Never Share	
FCCS_Total Data Source	Total Data Source	Dynamic Calc	
FCCS_No Data Source	No Data Source	Store	
FCCS_Intercompany Eliminations	Intercompany Eliminations	Store	
FCCS_TotalInputAndAdjusted	Total Data Source	Dynamic Calc	
TRCS_CbCR_TotalInputAndAdjusted		Never Share	
FCCS_SystemTypes	System Types	Label only	
TRCS_PreTax	Pre Tax	Dynamic Calc	
TRCS_AppORTioned	Apportioned	Dynamic Calc	
TRCS_Tax	Tax	Dynamic Calc	
TRCS_Classification		Dynamic Calc	
TRCS_TaxCETR	Tax Effect	Dynamic Calc	
TRCS_ETRPercentages	ETR Percentages Calculated	Label only	
TRCS_TARF	TAR Calculated Total	Dynamic Calc	
TRCS_TotalBYT	Net	Dynamic Calc	
TRCS_SourcePreTax	Source Pre Tax	Dynamic Calc	
TRCS_CurrentPayableTotal	Current Payable Total	Dynamic Calc	
TRCS_Tax Automation Rules	Tax Automation Rules	Label only	
TRCS_TAR Automation Mapping	TAR Automation Mapping	Label only	
TRCS_CbCR_Global Rules	CbCR Global Rules	Label only	
TRCS_CbCR Global Rule 1	CbCR Global Rule 1	Never Share	

ビュー・ディメンション・メンバーを削除したり、新しいメンバーを作成することはできません。別名などのメンバー・プロパティを編集することは可能です。

デフォルトでは、データ・ソース・ディメンションのパフォーマンス設定は「疎」に設定されます。この設定を変更する必要がある場合、[データ・ソース・ディメンションのパフォーマンス設定の変更\(非ハイブリッド・モードのみ\)](#)に概説されているように、パフォーマンス設定を変更できます。

データ・ソース・ディメンションを定義するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」、「概要」、「ディメンション」タブの順に選択します。
2. 「データ・ソース」をクリックして、次に「ディメンション・プロパティの編集」タブを選択してプロパティを設定します。

3. **オプション:** アプリケーションに適したオプション・プロパティを選択します。
 - データ・ソース・ディメンションの**説明**を入力します。
 - 使用可能な場合は、**別名表**を選択します。
 - データ・ソース・ディメンションの**別名**を入力します。
 - 「**2パス計算**」を選択します。
 - 「**セキュリティの適用**」を選択します。
4. ディメンションに適用する**データ・ストレージ**のタイプを選択します。
 - ラベルのみ
 - 共有しない
 - 動的計算
 - 動的計算および保管
 - 保管
5. 「**表示オプション**」で、レポートに**メンバー名**を表示するか、**別名**を表示するかを選択します。
6. 使用可能な場合は、「**階層タイプ**」を選択します。
7. 「**キューブ**」で、使用するキューブを選択します。
 - **連結**
 - **レート**
 - **CbCR**
8. 「**カスタム属性**」で「**作成**」をクリックし、新規カスタム属性を追加します。属性の名前を入力し、**データ型**を選択します。
9. 「**完了**」をクリックします。

データ・ソースの課税属性の定義

次の表に、データ・ソース・ディメンションの属性名、値および機能を示します。関連項目: [データ・ソース・ディメンション](#)

Table 12-4 データ・ソース

属性タイプ	属性値	説明
税金自動化ソース・データ・ソース	TaxAutoSourceDS	この属性は、税金自動化国フォームと「税金自動化地域」フォームの両方でソース・データ・ソースの下に表示されるメンバーを表示するために使用されます。関連項目: 『Tax Reporting の管理』の税金自動化(国)の操作および税金自動化(地域)の操作

通貨ディメンション

通貨は、エンティティの換算値を保管します。すべてのアプリケーションに通貨が必要です。

アプリケーションに必要な各通貨の通貨ディメンションにメンバーを作成します。アプリケーションごとにアプリケーション通貨として使用するデフォルト通貨を指定し、エンティティ・ディメンションのエンティティに割り当てられたデフォルトの通貨ごとに通貨を含めます。最大 100 個の通貨がサポートされます。

通貨ディメンションを定義するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」、「概要」、「ディメンション」タブの順に選択します。使用可能なディメンションがリストされます。
2. 「通貨」をクリックし、プロパティを設定します。

3. オプション: アプリケーションに適したオプション・プロパティを選択します。
 - ディメンションの「説明」を入力します。
 - 使用可能な場合は、別名表を選択します。
 - ディメンションの「別名」を入力します。
 - 「2パス計算」を選択します。

 ノート:

通貨ディメンションのセキュリティの有効化はサポートされていません。

4. ディメンションに適用する**データ・ストレージ**のタイプを選択します。
 - ラベルのみ
 - 共有しない
 - 動的計算
 - 動的計算および保管
 - 保管
5. 「**表示オプション**」で、レポートに**メンバー名**を表示するか、**別名**を表示するかを選択します。
6. 使用可能な場合は、「**階層タイプ**」を選択します。
7. 「**キューブ**」で、使用するキューブを選択します。**連結**、「**レート**」または「**CbCR**」を有効にできます。
8. 「**カスタム属性**」で「**作成**」をクリックし、新規カスタム属性を追加します。属性の名前を入力し、**データ型**を選択します。
9. 「**完了**」をクリックします。

会社間ディメンション

会社間(ICP)ディメンションは、勘定科目に存在する会社間のすべての残高を表します。これは、会社間トランザクションのエンティティ・メンバーを保管するために使用されます。アプリケーションの作成時にこのオプションを有効にすると、システム・メンバーを含む会社間ディメンションが作成されます。

 ノート:

アプリケーションの機能の構成時に会社間データを有効にしない場合、会社間ディメンションは作成されません。[新規アプリケーションの作成](#)を参照してください。

エンティティ・ディメンション・メンバーには、そのメンバーが会社間トランザクションに含まれるかどうかを指定する「**会社間**」と呼ばれるメンバー・プロパティがあります。このプロパティに「はい」を選択すると、会社間ディメンションに同じ名前のメンバーが生成されます。デフォルトでは、システムにより次の会社間メンバーが作成されます。

- **会社間なし** - このメンバーは、通貨レートなどの情報を保管するためにメンバー交差で使用されます。これは、名前を変更したり、編集することはできません。
- **会社間エンティティ** - このメンバーは、その下にすべての ICP エンティティが作成される親メンバーです。
- **会社間合計** - このメンバーは、階層内の最上位メンバーです。

 ノート:

手動で新規メンバーを追加したり、会社間メンバーを変更または削除することはできません。

すべての属性は、FCCS_Intercompany Top メンバーから読み取られます。このメンバーによって、企業は特定の会社間メンバーまたは FCCS_No_Intercompany メンバーにロードする柔軟性を得られます。

属性値「会社間」(ICP)を ICP_EntityLabel の形式でエンティティに追加すると、メンバーが作成されます。たとえば、属性値をエンティティ LE101 に追加すると、会社間メンバー "ICP_LE101" が作成されます。データベースのリフレッシュ後、メンバーが使用可能になります。

会社間トランザクションを作成する場合、各グループに少なくとも 1 つの会社間勘定科目および調整勘定科目が必要です。調整勘定科目は、消去の完了時に 2 つの会社間勘定科目の間の差分を保管する勘定科目です。調整勘定を設定するには、次のトピックを参照してください。

- [勘定科目プロパティの定義](#)
- [会社間勘定属性の値の設定](#)

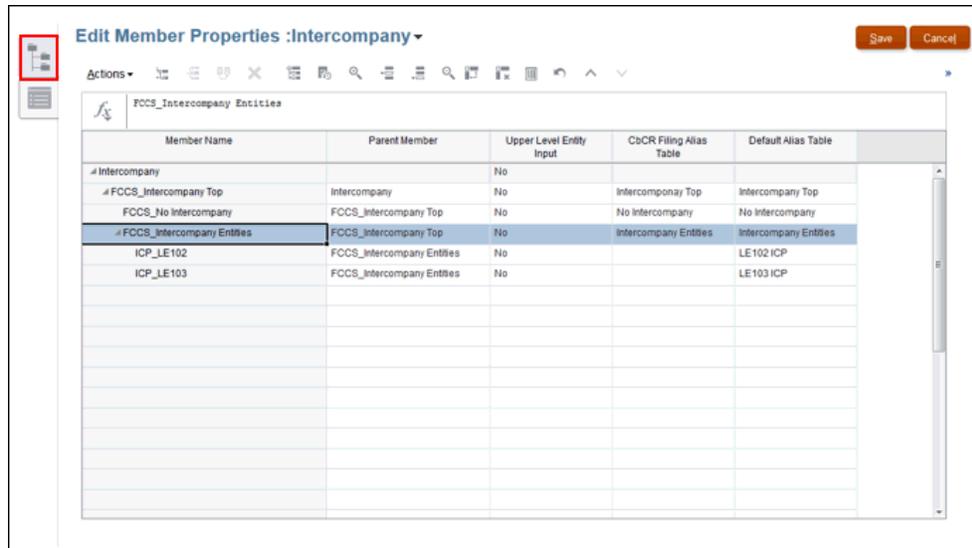
会社間トランザクション用にアプリケーションを設定するには、次のアクションを行う必要があります。

- 勘定科目を定義する場合、会社間トランザクションを実行する勘定科目を指定し、会社間勘定科目ごとに調整勘定科目を指定します
- エンティティを定義する場合、会社間トランザクションを実行するエンティティを指定します

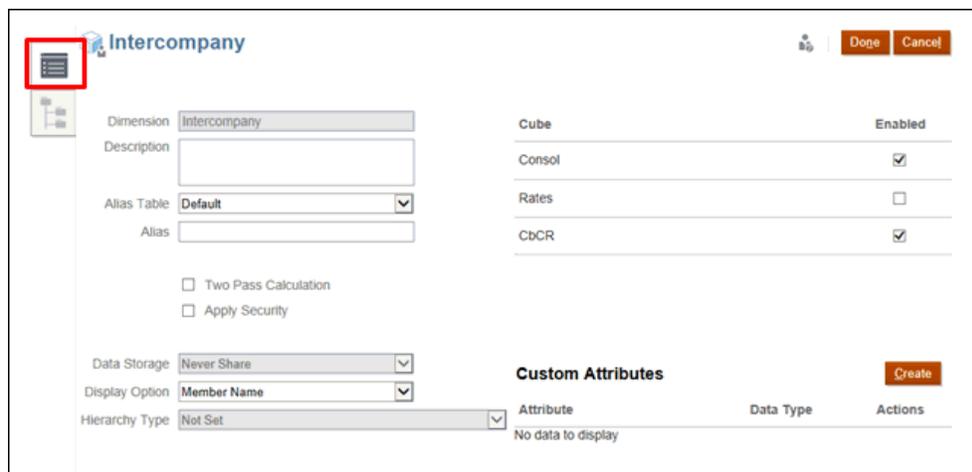
アプリケーションが会社間勘定に対して有効化されており、会社間勘定データを含む場合、連結プロセスの一環として消去が発生します。[会社間消去](#)を参照してください。

会社間ディメンションを定義するには:

1. ホーム・ページで「[アプリケーション](#)」、「[概要](#)」、「[ディメンション](#)」タブの順に選択します。
2. 「[会社間](#)」をクリックします。必要に応じて、表にメンバーを追加できます。



3. 「ディメンション・プロパティの編集」タブ  をクリックして、プロパティを設定します。



4. **オプション:** アプリケーションに適したオプション・プロパティを選択します。
- ディメンションの「説明」を入力します。
 - 使用可能な場合は、**別名表**を選択します。
 - ディメンションの「別名」を入力します。
 - 「**2パス計算**」を選択します。
 - 「**セキュリティの適用**」を選択します。
5. ディメンションに適用する**データ・ストレージ**のタイプを選択します。
- **ラベルのみ**
 - **共有しない**
 - **動的計算**

- 動的計算および保管
 - 保管
6. 「表示オプション」で、レポートにどのように名前を表示するかを選択します。
 - メンバー名
 - 別名
 - メンバー名:別名
 - 別名:メンバー名
 7. 使用可能な場合は、「階層タイプ」を選択します。
 8. 「キューブ」で、使用するキューブを選択します。1 つ以上のキューブを有効にできます。
 - 連結
 - レート
 - CbCR
 9. 「カスタム属性」で「作成」をクリックし、新規カスタム属性を追加します。属性の名前を入力し、**データ型**を選択します。
 10. 「完了」をクリックします。
 11. 「リフレッシュ」をクリックします。新しいメンバーが使用可能になります。

エンティティの会社間プロパティ

エンティティ・メンバーについて、そのメンバーに会社間の詳細を保管するかどうかを指定します。エンティティ・メンバーの会社間プロパティを設定すると、同じ名前のメンバーが ICP_<Entity Name> という名前で会社間ディメンションに作成されます。新しいメンバーのデフォルト別名表の別名が、エンティティの別名として自動的に設定されます。別名が定義されていない場合、追加されたエンティティの名前が自動的に設定されます。

たとえば、UK という名前のエンティティが会社間としてマークされると、ICP_UK という名前のメンバーが自動的に作成されます。UK に別名が定義されている場合、同じ別名が、新しい会社間メンバーの ICP_UK に対して自動的に設定されます。UK に別名が定義されていない場合、別名は自動的に UK に設定されます。

会社間としてマークされているエンティティ・メンバーの別名が変更された場合、関連する会社間メンバーの別名も新しい別名に変更される必要があります。

エンティティが会社間としてマークされ、後で会社間プロパティが削除された場合、関連する会社間メンバーも削除される必要があります。

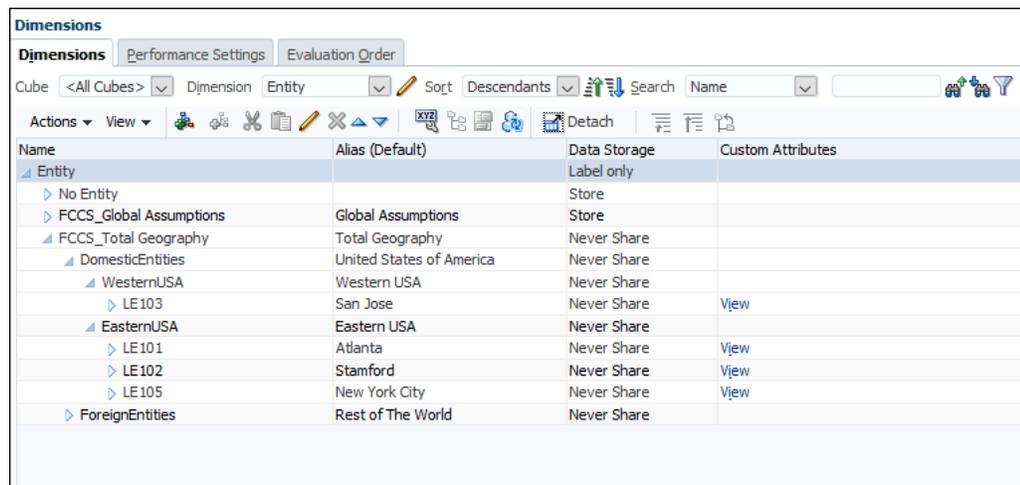
エンティティ・ディメンション

エンティティ・ディメンションは、エンティティ階層を保管し、管理構造および法的な報告構造などの会社の組織構造を表します。エンティティは、部門、子会社、工場、地域、国、法的部門、事業部門、部署、その他の組織単位などを表すことができます。任意の数のエンティティを定義できます。エンティティには、「会社間」というフラグを付けることができます。

 ノート:

エンティティ・メンバー名は 76 文字を超過したり、カンマを使用することはできません。

エンティティ・ディメンションは、システムの連結ディメンションです。エンティティ・ディメンションの階層は、データの様々な連結ビューを示します。組織に存在する各メンバー・コンポーネント間のすべての関係は保管されてこのディメンションで管理されます。



Name	Alias (Default)	Data Storage	Custom Attributes
Entity		Label only	
No Entity		Store	
FCCS_Global Assumptions	Global Assumptions	Store	
FCCS_Total Geography	Total Geography	Never Share	
DomesticEntities	United States of America	Never Share	
WesternUSA	Western USA	Never Share	
LE103	San Jose	Never Share	Vjew
EasternUSA	Eastern USA	Never Share	
LE101	Atlanta	Never Share	Vjew
LE102	Stamford	Never Share	Vjew
LE105	New York City	Never Share	Vjew
ForeignEntities	Rest of The World	Never Share	

組織のエンティティは基本エンティティ、従属エンティティまたは親エンティティに分類できます。

- **基本**エンティティは、組織構造の下部に存在し、他のエンティティを所有しません。すべての基本エンティティには法定住所が必要で、基本通貨を割り当てる必要があります。法定住所は、管轄ディメンションが移入されて更新されると、属性として使用可能になります。
- **従属**エンティティは、組織内の他のエンティティによって所有されます。
- 共有エンティティの**親**は、異なる通貨を持つことができます。親エンティティは、それに直接従属する 1 つ以上の従属エンティティを含みます。

エンティティ構造は、「FCCS_Total Geography」(代替階層)の一部にすることができます。[エンティティ・ディメンションでの代替階層の作成](#)を参照してください。

カスタム属性の「**地域控除**」の場合、この設定で、地域税費用が控除可能かどうか、または地域税利益が国の引当金で課税対象かどうかを指定します。エンティティに「RDeduct」が含まれ、2 つの有効な地域が存在する場合、国の引当金で控除可能な金額は、2 つのアクティブな地域における地域の当期引当金の合計です。

エンティティ・ディメンションを定義するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」、「**概要**」、「**ディメンション**」タブの順に選択します。
2. 「**エンティティ**」をクリックし、プロパティを設定します。

3. 「ディメンション・プロパティの編集」アイコンを選択します。
4. **オプション:** アプリケーションに適したオプション・プロパティを選択します。
 - ディメンションの「説明」を入力します。
 - 使用可能な場合は、**別名表**を選択します。
 - ディメンションの「別名」を入力します。
 - 「2パス計算」を選択します。
 - 「セキュリティの適用」を選択します。
5. ディメンションに適用する**データ・ストレージ**のタイプを選択します。
 - ラベルのみ
 - 共有しない
 - 動的計算
 - 動的計算および保管
 - 保管

 **ノート:**

新しいエンティティについては、データ・ストレージ・タイプを常に「共有しない」に設定する必要があります。

6. 「表示オプション」で、レポートに**メンバー名**を表示するか、**別名**を表示するかを選択します。
7. 使用可能な場合は、「階層タイプ」を選択します。
8. 「キューブ」の下には、関連するキューブが自動的に選択されます。

 **ノート:**

- 「CbCR」を有効にした場合には **CbCR** キューブ
- アプリケーションが複数通貨の場合には **レート**・キューブ
- アプリケーションが現在の未払税に対応している場合には **構成** キューブ

9. 「**カスタム属性**」で、次のいずれかのタスクを実行します。
 - 「**作成**」をクリックし、新規カスタム属性を追加します。属性の名前を入力し、**データ型**を選択します。次のカスタム属性を選択できます。
 - **地域控除** - この設定で、地域税費用が控除可能かどうか、または地域税利益が国の引当金で課税対象かどうかを指定します。
エンティティに「RDeduct」が含まれ、2つの有効な地域が存在する場合、国の引当金で控除可能な金額は、2つのアクティブな地域における地域の当期引当金の合計です。
 - **会社間エンティティ** - エンティティ・メンバーの場合、メンバーが会社間の詳細を保存するかどうかを指定します。エンティティ・メンバーの会社間プロパティ (ICP_Entity_Yes) を設定すると、同じ名前のメンバーが ICP_<Entity Name> という名前で会社間ディメンションに作成されます。新しいメンバーのデフォルト別名表の別名が、エンティティの別名として自動的に設定されます。別名が定義されていない場合、追加されたエンティティの名前が自動的に設定されます。
エンティティ・ディメンションのレベル 0 のメンバーの ICP_Entity_Yes 属性を選択し、それらが ICP_<entity name> の形式で会社間ディメンションに存在するようにします。
 - **法定住所** - この属性は、基本および親の税金計算が有効になっている親エンティティで設定されます。
このエントリを使用して、エンティティの主事業所を識別し、エンティティに有効な管轄メンバーを識別します。たとえば、エンティティの法定住所が米国に設定されている場合は、そのエンティティの AllNational の下で有効な管轄メンバーは米国です。米国には地域メンバーも存在するため、US_Regions の下のすべてのメンバーは、エンティティの有効な管轄メンバーとなる可能性があります。
 - カスタム属性を選択し、「**アクション**」で「**編集**」を選択して属性の名前を変更します。
 - カスタム属性を選択し、「**アクション**」で「**削除**」を選択してカスタム属性を削除します。
10. 「**完了**」をクリックします。
11. ホーム・ページで「**アプリケーション**」、「**概要**」、「**ディメンション**」タブの順に選択します。「**アクション**」で、「**データベースのリフレッシュ**」を選択します。「計算ステータス」が「システム変更」に変わります。
12. エンティティの通貨と親通貨が同じ場合でも、「**レートの計算**」を実行します。[通貨換算の使用](#)を参照してください。

▲ **注意:**

親と新規エンティティの基本通貨が同じ場合で、レートの計算が不要と思われる場合でも、このステップはスキップしないでください。レートの計算ステップを実行せず、連結を実行すると、データはロールアップされません。後で戻ってレートの計算を実行することはできません。新規エンティティのステータスは影響を受けておらず、操作が正しく実行されないためです。

13. 新規エンティティのデータをロードするか、入力します。データのインポートを参照してください。
14. ホーム・ページで「データ・ステータス」、「計算ステータス」の順に選択します。新規エンティティとその祖先の計算ステータスは、「影響」です。
15. 新規エンティティとその祖先を連結します。

エンティティの課税属性の定義

次の表に、エンティティ・ディメンションの属性名、値および機能を示します。関連項目: [エンティティ・ディメンション](#)

Table 12-5 エンティティ

属性タイプ	属性値	説明
地域控除	RDeduct	地域控除は、地域税費用を国の税引当の控除対象にする必要がある場合に設定されます。すべての地域が国の控除対象として処理されます。
親の税金計算	TaxCalcYes	親の税金計算は、税金計算を親レベルで実行する必要がある場合に設定されます。 この属性では、親エンティティが税率または調整を入力できるようにデータ入力の許可を有効にする必要があります。関連項目: <i>Tax Reporting</i> の操作の国および地域の親の税金計算
会社間エンティティ	ICP_Entity_Yes	エンティティ・メンバーについて、そのメンバーに会社間の詳細を保管するかどうかを指定します。エンティティ・メンバーの会社間プロパティ (ICP_Entity_Yes) を設定すると、同じ名前のメンバーが ICP_<Entity Name> という名前で会社間ディメンションに作成されます。新しいメンバーのデフォルト別名表の別名が、エンティティの別名として自動的に設定されます。別名が定義されていない場合、追加されたエンティティの名前が自動的に設定されます。 エンティティ・ディメンションのレベル 0 のメンバーの ICP_Entity_Yes 属性を選択し、それらが ICP_<entity name> の形式で会社間ディメンションに存在するようにします。

Table 12-5 (Cont.) エンティティ

属性タイプ	属性値	説明
法定住所	<ul style="list-style-type: none"> • US • UK • CA • AR • BR • CZ • UA • NL • DE • ES • FR • CH • BE • SE • FI • AT • PT • GR • TR • PL • HU • RU • AE • SA • ZA • IT • TH • TW • CN • IN • JP • KR • SG • HK • AU • NZ • CL • CO • MX 	<p>この属性は、すべての基本エンティティ、および親の税金計算が有効になっている親エンティティにも設定する必要があります。</p> <p>このエントリを使用して、エンティティの主事業所を識別し、エンティティに有効な管轄メンバーを識別します。たとえば、エンティティの法定住所が米国に設定されている場合は、そのエンティティの AllNational の下で有効な管轄メンバーは米国です。米国には地域メンバーも存在するため、US_Regions の下のすべてのメンバーは、エンティティの有効な管轄メンバーとなる可能性があります。</p>

Table 12-5 (Cont.) エンティティ

属性タイプ	属性値	説明
<シナリオ>_RC 例: Actual_RC	<シナリオ>_RC_Yes 例: Actual_RC_Yes	<p>「シナリオ - 株主資本に対するエンティティの税率変更」機能を有効にすると(アプリケーションの機能の有効化を参照)、アプリケーション内のすべてのシナリオ・メンバーに対してカスタム属性が作成されます。</p> <p>シナリオ・メンバーを追加/削除/名前変更すると、それに応じてカスタム属性が変更されます。</p> <p>特定のエンティティおよびシナリオで株式資本に対する税率変更の動作が必要な場合は、このカスタム属性をそのエンティティに適用できます。</p> <p>関連項目: <i>Tax Reporting</i> の操作の国の繰延税金の操作および地域の繰延税金の操作</p>

増減ディメンション

増減ディメンションでは、勘定科目の増減の詳細が取得されます。デフォルトで、増減ディメンションには、データを増減するメンバーが用意されています。

▲ 注意:

このディメンションは変更しないことをお勧めします。

増減ディメンションを使用して、次のタスクを実行します:

- データの増減:
 - 税計画間
 - 貸借対照表/損益計算書から税金勘定科目(税金自動化など)へ。
 - 期首残高、期末残高、および FX から CTA の計算
- 税金自動化ロジックの保管
- RTA 構成の保管

アプリケーションを作成すると、シード済メンバーを使用して増減ディメンションがデフォルトで作成され、オプションで、有効にした機能に基づいてシステム・メンバーが追加されます。アプリケーションの作成中に、増減および勘定科目ディメンションにキャッシュ・フロー・レポート用のキャッシュ・フロー・メンバーと階層が作成されます。次のメンバーが作成されます。

- FCCS_Movements
- TRCS_CbCR Movements
- TRCS_TaxLossCreditTotal
- TRCS_System Movement

増減ディメンション下に追加のユーザー定義メンバーを作成し、これらのメンバーに対して連結や換算を行えます。手順については、[増減ディメンション階層のカスタマイズ](#)を参照してください。

▲ **注意:**

「出資比率の管理」が有効になると作成される次の予約済システム・メンバーは、データ入力には使用できません:

- TRCS_TLCOwnPlaceholder
- TRCS_TARFOwnPlaceholder
- TRCS_CurPayOwnPlaceholder
- TRCS_TempDiffOwnPlaceholder
- TRCS_RegionalTempDiffOwnPlaceholder
- TRCS_OwnPlaceholder
- TRCS_DTNROwnPlaceholder

増減ディメンションを定義するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」、「概要」、「ディメンション」タブの順に選択します。

Name	Alias (Default)	Data Storage	Custom Attributes
Movement		Label only	
FCCS_Movements	Total Movements	Dynamic Calc	
TRCS_BookClosing	Book dosing	Store	
TRCS_TBClosing	Trial Balance Close	Store	
TRCS_CbCR Total	Total	Store	
FCCS_No Movement	No Movement	Store	
FCCS_ClosingBalance	Closing Balance	Never Share	
TRCS_TARFMovements	Difference (JE) (a - b)	Never Share	
TRCS_ETRTotal	Effective Tax Rate Total	Never Share	
TRCS_ClosingBVT	Closing Book vs Tax Basis	Never Share	
TRCS_ClosingPayable	Payable Closing Balance	Never Share	
TRCS_InterimTotal	Total Tax	Dynamic Calc	
TRCS_InterimTotalAEETR	Total Tax AEETR	Store	
TRCS_TaxLossCreditTotal	TaxLossCreditTotal	Dynamic Calc	
TRCS_CbCR Movements		Label only	
TRCS_MessageSpecDetail		Label only	
TRCS_EntityDetails	Entity Details	Label only	
TRCS_DocSpecDetail	Sender's unique identifier that h...	Never Share	
TRCS_AdditionalInfoDetail		Never Share	
TRCS_CbCR Automation	CbCR Automation	Label only	
TRCS_System Movement		Label only	
TRCS_System Validations		Label only	

2. 「増減」を選択してプロパティを設定した後、「ディメンション・プロパティの編集」タブを選択します。

The screenshot shows the 'Movement' dimension configuration page. A red box highlights the 'Increase/Decrease' icon in the top-left corner. The main form contains the following fields and options:

- Dimension: Movement
- Description: (empty text box)
- Alias Table: Default
- Alias: (empty text box)
- Two Pass Calculation:
- Apply Security:
- Data Storage: Never Share
- Display Option: Member Name
- Hierarchy Type: Not Set

On the right side, there is a 'Cube' section with the following options:

Cube	Enabled
Consol	<input checked="" type="checkbox"/>
Rates	<input type="checkbox"/>
CbCR	<input checked="" type="checkbox"/>

Below the cube options is a 'Custom Attributes' section with a 'Create' button. It contains a table with one attribute:

Attribute	Data Type	Actions
Tax Automation Source Movement	Text	

3. オプション: アプリケーションに適したオプション・プロパティを選択します。
 - ディメンションの「説明」を入力します。
 - 使用可能な場合は、別名表を選択します。
 - ディメンションの「別名」を入力します。
 - 「2パス計算」を選択します。
 - 「セキュリティの適用」を選択します。
4. ディメンションに適用するデータ・ストレージのタイプを選択します。
 - ラベルのみ
 - 共有しない
 - 動的計算
 - 動的計算および保管
 - 保管
5. 「表示オプション」で、レポートにメンバー名を表示するか、別名を表示するかを選択します。
6. 使用可能な場合は、「階層タイプ」を選択します。
7. 「キューブ」で、使用するキューブを選択します。連結、「レート」または「CbCR」を有効にできます。
8. 「カスタム属性」で「作成」をクリックし、新規カスタム属性を追加します。属性の名前を入力し、データ型を選択します。
9. 「完了」をクリックします。

増減の課税属性の定義

次の表に、勘定科目ディメンションの属性名、値および機能を示します。関連項目: [増減ディメンション](#)

Table 12-6 増減

属性タイプ	属性値	説明
現在の未払税自動化	CurTxPayAutomated	この属性は、現在の引当金から自動化の対象となる現在の未払税増減を割り当てるために使用されます。
税金自動化ターゲット増減	TaxAutoTargetMovement	この属性を繰延税金増減に割り当てると、ユーザーは「税金自動化」および「税金自動化地域」を使用してソース・データをターゲットにすることができます。関連項目: Tax Reporting の操作のユーザー構成の遅延増減の税金自動化のサポート
税金自動化ソース増減	TaxAutoSrcMvmt	**将来の使用のために予約されています
換算タイプ	ApplyEndingRate	この属性を増減に割り当てると、ユーザーは期末レート(FXレート-期末レートなど)を使用してデータを換算できます。
RTA 前年度レート	<ul style="list-style-type: none"> ApplyTaxReturnRate ApplyPriorYearClosingRate ApplyPriorYearP13P12DifferenceRate 	この属性を RTA-繰延のみ増減に割り当てると、次を使用して税効果データを計算できます: <ul style="list-style-type: none"> 前年の税率 前年の期末レート 前年の P12 の税率と P13 の税率の差異 関連項目: RTA 金額への前年度レートの適用

複数 GAAP ディメンション

複数 GAAP ディメンションは、財務諸表をローカル GAAP と IFRS または他の GAAP の両方でレポートする必要がある場合に使用されるオプションのディメンションです。このディメンションは、ローカル GAAP データ入力と任意の GAAP 調整を追跡します。

必要に応じて正しい GAAP 調整を反映するようにメンバー名を変更できます。他の GAAP 調整の追加メンバーおよび階層を含めることもできます。

デフォルトでは、このディメンションを選択すると、次のディメンション・メンバーが提供されます。

- FCCS_No Multi-GAAP
- FCCS_Local GAAP

複数 GAAP ディメンションを定義するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」、「概要」、「ディメンション」タブの順に選択します。
2. 「複数 GAAP」をクリックし、プロパティを設定します。

The screenshot shows the 'Multi-GAAP' configuration page. On the left, a sidebar contains a red box around the 'Multi-GAAP' label. The main area contains several input fields and checkboxes. The 'Dimension' field is set to 'Multi-GAAP'. The 'Description' field is empty. The 'Alias Table' is set to 'Default' and the 'Alias' field is empty. There are two checkboxes: 'Two Pass Calculation' and 'Apply Security', both of which are unchecked. The 'Data Storage' dropdown is set to 'Never Share', 'Display Option' is 'Member Name', and 'Hierarchy Type' is 'Not Set'. On the right side, there is a table for 'Cube' settings with columns 'Cube' and 'Enabled'. The 'Consol' row has a checked checkbox, 'Rates' has an unchecked checkbox, and 'CbCR' has a checked checkbox. Below this is a 'Custom Attributes' section with a 'Create' button and a table with columns 'Attribute', 'Data Type', and 'Actions'. The table currently shows 'No data to display'.

3. **オプション:** アプリケーションに適したオプション・プロパティを選択します。
 - ディメンションの「説明」を入力します。
 - 使用可能な場合は、**別名表**を選択します。
 - ディメンションの「別名」を入力します。
 - 「**2パス計算**」を選択します。
 - 「**セキュリティの適用**」を選択します。
4. ディメンションに適用する**データ・ストレージ**のタイプを選択します。
 - ラベルのみ
 - 共有しない
 - 動的計算
 - 動的計算および保管
 - 保管
5. 「**表示オプション**」で、レポートに**メンバー名**を表示するか、**別名**を表示するかを選択します。
6. 使用可能な場合は、「**階層タイプ**」を選択します。
7. 「**キューブ**」で、使用するキューブを選択します。**連結**、「**レート**」または「**CbCR**」を有効にできます。
8. 「**カスタム属性**」で「**作成**」をクリックし、新規カスタム属性を追加します。属性の名前を入力し、**データ型**を選択します。
9. 「**完了**」をクリックします。

管轄ディメンション

管轄ディメンションによって、繰延税金資産および繰延税金負債の管轄ごとの相殺について各会計基準下で必要な調整を計算することができます。

管理者は、管轄ごとの相殺が必要な基本エンティティを含む代替エンティティ階層を設定します。アプリケーションは、エンティティ・レベルと対比して親レベルで資産と負債を相殺します。管轄ごとに相殺された金額をエンティティ・レベルと比較し、必要な連結調整を決定できます。調整は、会計ポリシーに従って計上できます。

管轄ディメンションを定義するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」、「概要」、「ディメンション」タブの順に選択します。
2. 「管轄」をクリックし、プロパティを設定します。

3. **オプション:** アプリケーションに適したオプション・プロパティを選択します。
 - ディメンションの「説明」を入力します。
 - 使用可能な場合は、「別名表」を選択します。
 - ディメンションの「別名」を入力します。
 - 「2パス計算」を選択します。
 - 「セキュリティの適用」を選択します。
4. **オプション:** デフォルトで、管轄の「データ・ストレージ」オプションは「共有しない」に設定されます。「動的計算管轄」機能を有効にして、「All_National」などの管轄ディメンションの即時利用可能な親メンバーのデータ・ストレージ・タイプを「動的計算」に更新できます。手順については、[アプリケーションの機能の有効化](#)を参照してください。

機能が有効化されたことを確認するには:

- a. ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「概要」をクリックして、「ディメンション」タブを選択します。
- b. 「管轄」を選択します。

- c. 「メンバー・プロパティの編集: 管轄」タブで、「TRCS_Total Jurisdiction」を展開し、「TRCS_AllNational」を展開します。
- d. 「デフォルトのデータ・ストレージ」で、「動的計算」が表示されます。この列が表示されない場合、任意の列ヘッダーをダブルクリックし、リストの一番下までスクロールして「デフォルト・モード」をクリアします。これですべての列が表示されます。

▲ 注意:

この機能を有効にすると、連結のパフォーマンスが向上する可能性があります。広範なカスタム・メンバー式が含まれる状況などでは、連結のパフォーマンスに悪影響を与える可能性もあります。本番環境でこの機能を有効化する前に、テスト環境でパフォーマンスへの影響を評価することをお勧めします。機能が有効化されたら、元に戻すことはできません。

5. 「表示オプション」で、レポートに**メンバー名**を表示するか、**別名**を表示するかを選択します。
6. 使用可能な場合は、「階層タイプ」を選択します。
7. 「キューブ」の下には、関連するキューブが自動的に選択されます。

✎ ノート:

- 「CbCR」を有効にした場合には **CbCR** キューブ
- **レート**・キューブ(管轄についてはサポートされない)
- アプリケーションが現在の未払税に対応している場合には**構成**キューブ

8. 「カスタム属性」で「作成」をクリックし、新規カスタム属性を追加します。属性の名前を入力し、**データ型**を選択します。
 9. 「完了」をクリックします。
- [国の管轄の作成](#)を参照してください。

シナリオ・ディメンション

シナリオ・ディメンションは、実績、予算、予測などの一連のデータを表します。たとえば、実績シナリオは、現在の企業経営を表すデータを含むことができます。予算シナリオは、目標とする企業経営を表すデータを含むことができます。予測シナリオは一般に、将来の期間の予測に対応するデータを含みます。リーガル・シナリオは、リーガル GAAP のフォーマットとルールに従って計算されたデータを含むことができます。

デフォルトでは、システムにより実績システム・シナリオ・メンバーが作成されます。追加のシナリオ・メンバーを作成できます。

シナリオ・ディメンションを定義するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」、「概要」、「ディメンション」タブの順に選択します。
2. 「シナリオ」をクリックし、プロパティを設定します。

3. 「ディメンション・プロパティの編集」タブ  をクリックします。
4. オプション: アプリケーションに適したオプション・プロパティを選択します。
 - ディメンションの「説明」を入力します。
 - 使用可能な場合は、別名表を選択します。
 - ディメンションの「別名」を入力します。
 - 「2パス計算」を選択します。
 - 「セキュリティの適用」を選択します。
5. ディメンションに適用するデータ・ストレージのタイプを選択します。
 - ラベルのみ
 - 共有しない
 - 動的計算
 - 動的計算および保管
 - 保管
6. 「表示オプション」で、レポートにメンバー名を表示するか、別名を表示するかを選択します。
7. 使用可能な場合は、「階層タイプ」を選択します。
8. 「キューブ」で、使用するキューブを選択します。連結、「レート」または「CbCR」を有効にできます。
9. 「カスタム属性」で「作成」をクリックし、新規カスタム属性を追加します。属性の名前を入力し、データ型を選択します。
10. 「完了」をクリックします。

シナリオの課税属性の定義

次の表に、シナリオ・ディメンションの属性名、値および機能を示します。関連項目:
[シナリオ・ディメンション](#)

Table 12-7 シナリオ

属性タイプ	属性値	説明
頻度タイプ	<ul style="list-style-type: none"> 月次 四半期ごと 半期ごと 年次 	<p>頻度タイプは、次のアプリケーションで使用されます:</p> <ul style="list-style-type: none"> 出資比率 期別換算方法 <p>出資比率および期別換算は、シナリオ頻度タイプ属性に基づく加重計算です。頻度タイプが選択されていない場合は、デフォルトで「月次」が使用されます。関連項目:</p> <ul style="list-style-type: none"> 出資比率の変更の処理 換算方法
CbCR シナリオあり	CbCR_Scenario_Yes	<p>CbCR シナリオありは、連結および CbCR キューブを個別に連結したりロックできる個別の CbCR シナリオを作成するために使用されます。関連項目:</p> <p>CbCR のための個別承認の設定</p>

ビュー・ディメンション

ビュー・ディメンションは、期間がまたがるデータの表示を制御します。

データは基本レベル・ビューでシステムにロードします。データは期別メンバーでのみ保管され、他のメンバーは常に動的に計算されます。システムは保管されているデータを取得し、必要に応じて要求されたビューに変換します。

デフォルトでは、アプリケーションを作成すると、ビュー・ディメンションに次のメンバーが含まれます。

- **定期的** - 各期間には、年次累計の方法で入力または計算されたデータが表示されます。
- **YTD** - 将来の使用のために予約されています。
- **QTD** - 将来の使用のために予約されています。
- **YTD_Input** - 将来の使用のために予約されています。

システムで作成されるこのビュー・ディメンション・メンバーは削除できません。別名などのメンバー・プロパティを編集することは可能です。

年ディメンション

年ディメンションは、データの会計年度またはカレンダー年を表します。

アプリケーションを作成する場合、アプリケーションの年の範囲を指定します。システムでデフォルトの範囲が設定されますが、これは変更できます。

システムでは、指定された範囲に基づいて年ディメンションが作成されます。アプリケーションの作成後、年の範囲の増加はできますが、減少はできません。

年ディメンションを定義するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」、「**概要**」、「**ディメンション**」タブの順に選択します。

2. 「年」をクリックし、「ディメンション・プロパティの編集」タブを選択してプロパティを設定します。

The screenshot shows the 'Years' dimension property editor. The interface is divided into several sections:

- Dimension:** Name is 'Years', Description is empty, Alias Table is 'Default', and Alias is empty.
- Options:** 'Two Pass Calculation' and 'Apply Security' are checked.
- Data Storage:** Set to 'Never Share'.
- Display Option:** Set to 'Member Name'.
- Hierarchy Type:** Set to 'Not Set'.
- Cube:** 'Enabled' checkbox is checked. Below it, 'Consol', 'Rates', and 'CbCR' are listed with checkboxes.
- Custom Attributes:** A 'Create' button is present. Below it, there is a table with columns for 'Attribute', 'Data Type', and 'Actions'. The table is currently empty with the text 'No data to display'.

3. **オプション:** アプリケーションに適したオプション・プロパティを選択します。
 - ディメンションの「説明」を入力します。
 - 使用可能な場合は、**別名表**を選択します。
 - ディメンションの「別名」を入力します。
 - 「**2パス計算**」を選択します。
 - 「**セキュリティの適用**」を選択します。
4. ディメンションに適用する**データ・ストレージ**のタイプを選択します。
 - ラベルのみ
 - 共有しない
 - 動的計算
 - 動的計算および保管
 - 保管
5. 「**表示オプション**」で、レポートに**メンバー名**を表示するか、**別名**を表示するかを選択します。
6. 使用可能な場合は、「**階層タイプ**」を選択します。
7. 「**キューブ**」で、使用するキューブを選択します。「**Consol**」、「**レート**」または「**CbCR**」を有効にできます。
8. 「**カスタム属性**」で「**作成**」をクリックし、新規カスタム属性を追加します。属性の名前を入力し、**データ型**を選択します。
9. 「**完了**」をクリックします。

ディメンションの表示および編集

クラシック・ディメンション・エディタまたは簡易ディメンション・エディタを使用して、ディメンション・プロパティを表示および編集できます。

簡易ディメンション・エディタを使用すると、無効なディメンション・メンバー・プロパティをチェックし、プロパティを修正するアクションを実行できます。無効なプロパティは、簡易ディメンション・エディタ・グリッドで赤の枠線で囲まれます。

クラシック・ディメンション・エディタでディメンションを表示および編集するセキュリティ役割を持っているユーザーは、簡易ディメンション・エディタで同様のアクションを実行できます。

次の項を参照してください:

- 簡易ディメンション・エディタ(「アプリケーション概要」からアクセス)を使用してディメンション・プロパティを編集するには、[簡易ディメンション・エディタでのディメンションの編集について](#)を参照してください。
- クラシック・ディメンション・エディタ(ナビゲータからアクセス)を使用してディメンション・プロパティを編集するには、「ディメンションの管理」を参照してください。

ナビゲーションを使用したディメンション階層の操作

ホーム・ページからナビゲータを使用して、ディメンションおよびメンバーを編集できます。一度に編集できるディメンションは 1 つのみです。一度に複数のディメンションを編集する場合は、[簡易ディメンション・エディタを使用したディメンションの操作](#)を参照してください。

ディメンションを編集するには:

1. ホーム・ページでナビゲータ  をクリックし、「作成および管理」で「ディメンション」を選択します。
2. 「ディメンション」タブの「キューブ」で、正しいキューブが選択されていることを確認します。
3. 「ディメンション」で、表示または変更するディメンションを選択します。
4. 各メンバーの横にあるキャレット  をクリックし、階層レベルを展開します。
5. 「アクション」の下にあるオプション、または関連付けられたアイコンを使用して、ディメンションまたはメンバーを必要に応じて変更します。
6. 変更を完了したら、「アクション」で「データベースのリフレッシュ」を選択します。

ノート:

データベースをリフレッシュする前に、アウトライン・ファイルをバックアップし、すべてのデータベースからデータをエクスポートすることをお勧めします。

ディメンション階層の展開および縮小

ディメンションまたはメンバーを展開するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「概要」の順にクリックします。

2. 「ディメンション」を選択します。
3. 「キューブ」と「ディメンション・タイプ」を選択します。
4. 「勘定科目」などのディメンションをクリックし、「メンバー・プロパティの編集」画面を開きます。
5. 「メンバー名」で、ディメンションおよびメンバー名の横にある矢印をクリックし、階層を展開します。

ディメンションまたはメンバーを縮小するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「概要」の順にクリックします。
2. 「ディメンション」を選択します。
3. 「キューブ」と「ディメンション・タイプ」を選択します。
4. 「勘定科目」などのディメンションをクリックし、「メンバー・プロパティの編集」画面を開きます。
5. 「勘定科目」などのディメンションをクリックし、「メンバー・プロパティの編集」画面を開きます。
6. ディメンションまたはメンバー名の横にある矢印をクリックし、階層を縮小します。

ディメンション階層の移動

- 上向き矢印キーを押して前のメンバーに移動します。
- 下向き矢印キーを押して次のメンバーに移動します。
- 「ページ」で、表示するページを入力し、「実行」をクリックするか、[Enter]を押します。
- 「開始」、「前」、「次」または「終了」をクリックして他のページを表示します。

ディメンションまたはメンバーの検索

ディメンション階層内のディメンション・メンバーを検索するには:

1. ナビゲータ  をクリックします。
2. 「作成および管理」で「ディメンション」をクリックします。
3. メンバーのディメンションを選択します。
4. 「検索」で、「名前」、「別名」、または「両方」を選択します。
5. 検索するメンバーの名前、別名または文字列の一部を入力します。
6. 「上方向に検索」または「下方向に検索」をクリックします。

メンバーのソート

子または子孫による昇順または降順でメンバーをソートできます。メンバーのソートはアウトラインに影響を及ぼします。

メンバーをソートするには:

1. ナビゲータ  をクリックします。
2. 「作成および管理」で「ディメンション」をクリックします。
3. メンバーのディメンションを選択します。
4. 「ディメンション」で、子または子孫をソートするメンバーを選択します。
5. 「ソート」で、子または子孫を選択します。
子でソートする場合は、選択したメンバーの真下のレベルにあるメンバーのみにソートがかかります。子孫でソートする場合は、選択したメンバーのすべての子孫にソートがかかります。
6. 昇順でソートする場合は「昇順ソート」を、降順でソートする場合は「降順ソート」をクリックします。
7. 「OK」をクリックします。
次にデータベースを作成またはリフレッシュするとき、表示される順序のメンバーでアウトラインが生成されます。

ディメンション階層内でのメンバーの移動

1 個のメンバーまたは同一の分岐にあるメンバーのグループを移動できます。

メンバーまたは兄弟間の分岐を移動するには:

1. ナビゲータ  をクリックします。
2. 「作成および管理」で「ディメンション」をクリックします。
3. ディメンションを選択し、移動するメンバーまたは分岐を選択します。
4. アクションを行います:
 - メンバーを 1 つ上に移動するには、「上へ移動」をクリックします。
 - メンバーを 1 つ下に移動するには、「下へ移動」をクリックします。

親および子を含めてメンバーを移動するには:

1. ナビゲータ  をクリックします。
2. 「作成および管理」で「ディメンション」をクリックします。
3. ディメンションを選択し、移動するメンバーまたは分岐を選択します。
4. 「切取り」をクリックします。
ディメンションの追加や編集、別ページへのナビゲート、メンバーの削除またはログオフした後に、メンバーを切り取ることはできません。「切取り」は、ルート・ディメンション・メンバーには使用できません。
5. メンバーの移動先のレベルをクリックします。
6. 「貼付け」をクリックします。
7. 「OK」をクリックします。
8. ビジネス・ルールおよびレポートを更新および検証します。

メンバーの祖先の表示

メンバーの祖先を表示するには:

1. ナビゲータ  をクリックします。
2. 「作成および管理」で「ディメンション」をクリックします。
3. ディメンションを選択し、ディメンション階層内のメンバーを選択します。
4. 「祖先の表示」をクリックします。
5. 「閉じる」をクリックします。

メンバーの用途の表示

アプリケーション内でメンバーが使用される場所を表示するには:

1. ナビゲータ  をクリックします。
2. 「作成および管理」で「ディメンション」をクリックします。
3. 「用途の表示」をクリックします。
4. 「メンバーの用途」ウィンドウの一番下で、メンバーの用途を表示するアプリケーションの場所を選択します。
5. 「実行」をクリックします。
6. 「閉じる」をクリックします。

カスタム・ディメンションの追加(ハイブリッド・モードのみ)

システムで事前定義されたディメンションに加え、アプリケーションの必要性に基づいてカスタム・ディメンションを作成できます。カスタム・ディメンションは、アプリケーションの作成時にのみ構成でき、アプリケーションの作成後に追加することはできません。カスタム・ディメンションは、ハイブリッド・モードでのみ使用できます。

「ディメンション」リストに、アプリケーションのすべてのディメンションが表示されます。

Note:

Tax Reporting では、ディメンションの評価順序を変更できません。

名前、別名、セキュリティ、属性などのカスタム・ディメンション・プロパティを構成できます。

Create Application: Features

The screenshot shows the 'Create Application: Features' configuration page. The 'Features' tab is selected. The 'Custom Dimension' section is highlighted with a red box, showing two input fields for 'Dimension 1' and 'Dimension 2'. Other features like IFRS, CbCR, Interim Provision, Weighted Average, Ownership Management, and Current Tax Payable Automation are listed with 'Enable' checkboxes.



Note:

アプリケーションで「カスタム・ディメンション」を有効にしている場合、CbCRを有効にすることはできません。

関連項目: [アプリケーションの機能の有効化](#)

Table 12-8 カスタム・ディメンションのプロパティ

プロパティ	値
ディメンション	<p>ディメンション全体で一意である名前を入力します。</p> <p>カスタム・ディメンション名に次の文字を使用することはできません。</p> <p>アンパサンド(&)、アポストロフィ(')、アスタリスク(*)、アットマーク(@)、バックスラッシュ(\)、キャレット(^)、コロン(:)、カンマ(,)、中カッコ({})、ドル記号(\$)、二重引用符(")、等号(=)、感嘆符(!)、スラッシュ(/)、大なり記号(>)、小なり記号(<)、縦線()、マイナス記号(-)、番号記号(#)、カッコ()、パーセント記号(%)、ピリオド(.)、プラス記号(+)、疑問符(?)、セミコロン(;)、空白、大カッコ(())またはタブ。</p>
別名	<p>オプション: 別名表を選択します。ディメンションの一意的代替名を入力します。</p>
説明	<p>オプション: 説明を入力します。</p>



Note:

アプリケーションの作成時にカスタム・ディメンション名を指定する必要があります。

Table 12-8 (Cont.) カスタム・ディメンションのプロパティ

プロパティ	値
プラン・タイプ	ディメンションが有効となるアプリケーション・タイプを選択します。このオプションをクリアすると、ディメンションのすべてのメンバーは選択しないタイプに対して無効になります。
セキュリティの適用	ディメンション・メンバーにセキュリティの設定を行います。ディメンション・メンバーにアクセス権を割り当てる前に選択する必要があります。そうしない場合、ディメンションにセキュリティがかからないため、ユーザーは無制限にメンバーをアクセスさせることができます。
データ・ストレージ	データ・ストレージ・オプションを選択します。デフォルトは「共有しない」です。

集約オプション

集約オプションを使用して、ディメンション階層内に計算を定義できます。集約オプションで、親のメンバーに対する子のメンバーの値をどのように集約させるか判別します。

- + 加算
- - 減算
- * 乗算
- / 除算
- % パーセント
- ~ 無視

ディメンション名メンバーの直属の子すべてに「無視」または「なし」の集約オプションを設定する必要があります。シード済ディメンション・メンバーには、あらかじめ集計演算子が「無視」に設定されている必要があります。フォームおよびレポートでは、ディメンション名ではなく最上位ディメンション・メンバーを使用します。

シード済メンバーに変更を加えた場合、ディメンション・エクスポート CSV ファイルを使用してそのメンバーをエクスポートまたはインポートすることはできません。モジュール・カスタマイズの移行アーティファクトを使用する必要があります。CSV ファイルをエクスポートしてからインポートすると、シード済メンバーに対する属性の変更は保持されません。

ラベルのみのメンバー

「ラベルのみ」ディメンション・メンバーの連結演算子は「なし」である必要があります。カスタムのラベルのみメンバーを作成する場合は、メンバーが親メンバーに適切に集約されるように、連結演算子を「なし」に設定してください。

データ・ストレージ・オプション

Table 12-9 データ・ストレージ・オプション

オプション	影響
保管	メンバーのデータ値を保管します。
動的計算	メンバーのデータ値を計算し、値を無視します。
共有しない	保管された親メンバーには、子メンバーの集約からのデータが常に保管されます。
共有	同じディメンション内のメンバーでデータ値を共有することを許可します。
ラベルのみ	子の集約設定にかかわらず、最初の子メンバーのデータが表示されます。

動的計算について

動的に計算されるメンバーを使用すると、システムは、値が取得されるときに必要なに応じて、メンバーのデータ値を計算します。動的計算の親の下の子数の制限は **100** です。メンバーのストレージを動的計算に変更すると、本来のデータの導出方法によっては、データが紛失する場合があります。アウトラインが計算のどちらかまたは両方を更新して動的に計算された値を取得することが必要な場合もあります。

保管データ・ストレージ

子が「動的計算」に設定されている場合は、親メンバーを「保管」に設定しないでください。この組合せの場合、ユーザーがフォームを保存したりリフレッシュしたりする際、親の新しい合計は計算されません。

共有データ・ストレージ

「共有」を使用して、アプリケーション内で別のロールアップ構造を許可します。

非共有データ・ストレージ

ユーザー定義のカスタム・ディメンションを追加する際、デフォルトのデータ・ストレージ・タイプは「共有しない」です。

ラベルのみのデータ・ストレージ

ラベルのみメンバーは、通常ナビゲーションで使用される仮想メンバーで、関連付けるデータはありません。ノート:

- レベル 0 のメンバーには、「ラベルのみ」を割り当てることはできません。
- ラベルのみメンバーは値を表示できます。
- ディメンションのメンバーをラベルのみにすると、ブロック・サイズまたはブロック数が減少するため、データベース容量を最小化できます。
- ラベルのみメンバーには、属性を割り当てることはできません。

- 複数通貨アプリケーション内では、ラベルのみのストレージをディメンション(エンティティ、バージョン、通貨、ユーザー定義のカスタム・ディメンション)のメンバーに適用できません。為替レートを保管するには、「共有しない」を使用します。
- ラベルのみの親の子に対するデータ・ストレージは、デフォルトで「共有しない」に設定されています。

▲ Caution:

最初の子メンバーにはデータを保存できないため、最初の子メンバーの後に続くラベルのみの親にフォームを設計しないでください。そのかわり、子の前に選択されたラベルのみの親でフォームを作成するか、フォームにラベルのみの親を選択しないようにしてください。

ディメンション・プロパティの設定

表 12-10 ディメンション・プロパティ

プロパティ	値
ディメンション	ディメンション名を入力します。
説明	オプション: 説明を入力します。
別名	オプション: 別名表を選択し、代替名を最大 80 文字で入力します。
プラン・タイプ	ディメンションが有効となるアプリケーション・タイプを選択します。
セキュリティの適用	ディメンション・メンバーにセキュリティの設定を行います。このオプションを選択しないと、ディメンションにはセキュリティが設定されず、ユーザーはそのメンバーに制限なしにアクセスできます。ディメンション・メンバーにアクセス権を割り当てる前に選択する必要があります。
データ・ストレージ	データ・ストレージ・オプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • 保管 • 動的計算 • 共有しない • 共有 • ラベルのみ
表示オプション	「メンバー選択」ダイアログ・ボックスのアプリケーションのデフォルト表示オプションを設定します。メンバーまたは別名を表示するには、「メンバー名」または「別名」を選択します。「メンバー名:別名」では、左側にメンバーが表示され、右側に別名が表示されます。「別名:メンバー名」では、左側に別名が表示され、右側にメンバーが表示されます。

表 12-10 (続き) ディメンション・プロパティ

プロパティ	値
カスタム属性の表示の使用可能	関連付けられた属性で、使用可能で選択されたディメンションの属性を表示します。カスタム属性を属性で表示可能にします。

メンバーの操作

メンバーにアクセス権を割り当てて、ディメンション・メンバー階層を再調整できます。

最適なパフォーマンスのために、**Tax Reporting** では、各ディメンションで許容されるディメンション・メンバーの最大数に制限があります。**Tax Reporting** は、ディメンション・メンバーの許容数を越えたことを示すエラー・メッセージを表示して、非準拠のメタデータの保存を停止します。

選択

ユーザーがアクセスできるメンバー、代替変数、属性のみが表示されます。複数のメンバー選択にメンバー・セレクタを起動している場合のみ、「**選択**」ペインが表示されます。

有効交差ルールが使用されている場合、有効なメンバーのみがアプリケーション・フォームおよび **Calculation Manager** ルールの実行時プロンプトに表示されます。**Web** と **Oracle Smart View for Office** の両方のアド・ホック・フォームでは、アプリケーションによって視点およびページ軸の有効交差ルールがフィルタされません。グリッドのセルのみ、アド・ホック・フォームで有効交差ルールに従います。

選択するには:

-  をクリックします。
- オプション:** 次のタスクを実行します:
 - 検索条件(メンバー名または別名のみ)を入力するには、(デスクトップから)[**Enter**]を押すか、(モバイル上で)「**検索**」をクリックします。

ノート:

検索では大文字と小文字は区別されません。検索できるのは、1つの単語、複数の単語またはワイルドカード文字です。[ワイルドカードを使用した検索](#)を参照してください。

- 変数や属性の表示、別名の表示、メンバー数の表示、アルファベット順のソート、メンバー・リストのリフレッシュまたは選択のクリアなど、表示オプションを変更するには、「**検索**」の横の  をクリックし、表示オプションのリストから選択します。
- メンバー・リストに表示されているメンバーをフィルタするには、 「**検索**」の横で、「**フィルタの追加**」を選択し、フィルタ・オプションのリストから選択します。

 ノート:

Android ユーザーは、 をクリックして、フィルタ・オプションを表示および選択できます。

3. メンバー・リストのメンバーをクリックして選択を行います。

関連メンバーを選択する方法を理解するには、[メンバーの関係](#)を参照してください。

 ノート:

- 選択されたメンバーにはチェック・マークが表示され、「**選択**」ペインに移動されます(該当する場合)。
- 親メンバーを展開してその子メンバーを表示するには、親メンバー名の右側にある拡張アイコンをクリックします。拡張アイコンをクリックしても、親メンバーは選択されません。
- 行った選択をクリアするには、 をクリックし、「**選択項目のクリア**」を選択します。

選択する視点およびページ軸が抑制されている場合があります。これは、視点およびページ軸内のディメンション選択が、適用済の有効交差により他のディメンションを無効化している場合に発生します。この問題を解決するには、「**選択項目のクリア**」オプションを使用して、以前に選択した視点およびページ軸をクリアします。次に、視点およびページ軸を再度使用して、以前は抑制されていたメンバーを選択します。

- 有効な交差ルールのために抑制されているメンバーをすべて表示するには、 をクリックし、「**無効なメンバーの表示**」を選択します。無効なメンバーは表示されますが、選択できません。

4. **オプション:** 次のタスクを実行します:

- 「**選択**」ペインで選択する関連メンバーをさらに絞り込むには、メンバーの右側にある  をクリックして、メンバーの関係メニューを表示します:

Member	
Ancestors	
Children	
Descendants	
Siblings	
Parents	
Level 0 Descendants	
Left Siblings	
Right Siblings	
Previous Sibling	
Next Sibling	
Previous Level 0 Member	
Next Level 0 Member	
Previous Generation Me...	
Next Generation Member	

関係名をクリックして、関連メンバーを選択し、選択したメンバーを除外します。関係名の右側にあるインクルード・アイコン  をクリックして、関連メンバーを選択し、選択したメンバーを含めます。

関係の詳細は、[メンバーの関係](#)を参照してください。

- 代替変数または属性が定義されている場合は、メンバー選択領域の下で、「**メンバー**」の横にある  をクリックし、「**代替変数**」または「**属性**」を選択して代替変数または属性のメンバーを選択します。メンバーは子として表示されます。フォームに表示されるのは、ユーザーが読取りアクセス権を持つメンバーのみです。
- 「**選択**」ペインでメンバーを移動または削除するには、「**選択**」の横にある  をクリックします。
- ディメンション階層内で選択済メンバーの場所をハイライトするには、「**選択**」ペインでメンバー名をダブルクリックします。

 **ノート:**

モバイル・デバイスで選択済メンバーの場所をハイライトするには、「**選択**」ペインでメンバー名をタップし、「**選択**」の横の  の下の「**検索**」をタップします。

5. 選択が完了したら、「**OK**」をクリックします。

メンバーの関係

この表は、メンバー選択時に含まれるメンバーおよび関連メンバーを示しています。

表 12-11 メンバーの関係

関係	含まれるメンバー
メンバー	選択したメンバー
祖先	選択したメンバーの上方にあるすべてのメンバー(選択したメンバーは除く)
祖先(含む)	選択したメンバーとその祖先
子	選択したメンバーの真下にあるレベルのすべてのメンバー
子(含む)	選択したメンバーとその子
子孫	選択したメンバーのすべての子孫(選択したメンバーは除く)
子孫(含む)	選択したメンバーとその子孫
兄弟	選択したメンバーと同じ階層レベルからのすべてのメンバー(選択したメンバーは除く)
兄弟(含む)	選択したメンバーとその兄弟
親	選択したメンバーの上方にあるレベルのメンバー
親(含む)	選択したメンバーとその親
レベル 0 の子孫	子を持たない選択したメンバーのすべての子孫
左兄弟	同じ親を持つ選択したメンバーの前に出現するメンバー
左兄弟(含む)	選択したメンバーとその左兄弟
右兄弟	同じ親を持つ選択したメンバーの後に出現するメンバー
右兄弟(含む)	選択したメンバーとその右兄弟
前の兄弟	同じ親を持つ選択したメンバーの直前に出現するメンバー
次の兄弟	同じ親を持つ選択したメンバーの直後に出現するメンバー
前のレベル 0 のメンバー	選択したメンバーの前に出現する前のレベル 0 のメンバー 例: <code>PrevLvl0Mbr(Jan)</code> は <code>BegBalance</code> を、 <code>PrevLvl0Mbr(Jul)</code> は <code>Jun</code> を、 <code>PrevLvl0Mbr(BegBalance)</code> は空の結果を返します
次のレベル 0 のメンバー	選択したメンバーの後に出現する次のレベル 0 のメンバー 例: <code>NextLvl0Mbr(Mar)</code> は <code>Apr</code> を、 <code>NextLvl0Mbr(Dec)</code> は空の結果を返します
前の世代のメンバー	同じ世代内の選択したメンバーの直前に出現するメンバー
次の世代のメンバー	同じ世代内の選択したメンバーの直後に出現するメンバー
相対	指定されたメンバーに対して、同じ世代で、指定されたオフセットを適用して相対的なメンバーを返します。 例: <code>Relative("Jan", 4)</code> は <code>May</code> を返します。これは、これは、標準の月期間ディメンションで 1 月に 4 か月を加えたものです。 <code>Relative("Jan", -2)</code> は <code>Nov</code> を返します。これは、これは、標準の月期間ディメンションで 1 月から 2 か月を引いたものです。

表 12-11 (続き) メンバーの関係

関係	含まれるメンバー
RelativeRange	進む場合は開始メンバーからオフセット・メンバーまで、戻る場合はオフセット・メンバーから開始メンバーまでのすべてのメンバーを返します。 例: RelativeRange("Jan", 4)は Jan、Feb、Mar、Apr、May を返します。RelativeRange("Jan", -2)は Nov、Dec、Jan を返します。

 ノート:

メンバーの関係は、期間ディメンションだけでなく、どのディメンションでも機能します。この例では、時間が線形的であるため説明しやすいという理由で期間ディメンションを使用しています。

ワイルドカードを使用した検索

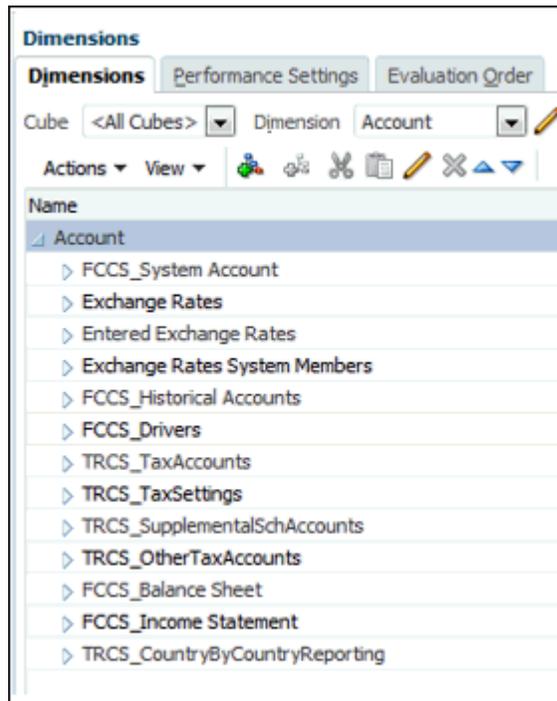
次のワイルドカード文字を使用して、メンバーを検索できます。

表 12-12 ワイルドカード文字

ワイルドカード	説明
?	任意の 1 文字を表します
*	ゼロ文字以上の文字を表します。たとえば、「sale*」と入力すると、「Sales」と「Sale」が一致します。これは*を使用することで、「sale」という語の後にゼロ文字以上の文字を含む語と一致するためです。 デフォルトの検索には、*ワイルドカードが使用されます。デフォルトの検索には、*ワイルドカードが使用されます。たとえば、検索条件として「cash」と入力すると、「*cash*」が検索され、「Restricted Cash」、「Cash Equivalents」、「Cash」、「Noncash Expenses」などが戻されます。これは、一致した各アイテム内に「cash」が含まれるためです。
#	任意の 1 つの数字(0-9)を表します
[list]	指定した文字リスト内の任意の単一文字を検索します。ワイルドカードとして使用する特定の文字をリストできます。たとえば、[plan]と入力すると、カッコ内のすべての文字を 1 つのワイルドカード文字として使用します。「-」文字を使用すると、[A-Z]や[!0-9]などの範囲を指定できます。「-」文字をリストの一部として使用するには、この文字をリストの先頭に入力します。たとえば、[-@&]の場合、カッコ内の文字をワイルドカード文字として使用します。
[!list]	指定した文字リスト内にはないすべての単一文字を検索します。また、[!A-Z]や[!0-9]のように、「-」で範囲を示すこともできます。

シード済ディメンション・メンバー

柔軟なアプリケーション構成に対応できるように、各ディメンションにはメンバーがシードされます。シード済メンバーは、TRCS_Tax Accounts や FCCS_Balance_Sheet など、FCCS または TRCS という接頭辞付きで作成されます。



システムには、組込みの計算も含まれます。

シード済メンバーのガイドライン

- シード済メンバーは削除できません。
- シード済メンバー名は変更できません。
- メンバー・プロパティは変更できません。
- メンバー式は変更できません。
- メンバーの別名は変更できます。
- 勘定科目における為替レート・タイプは変更できます。

シード済ベース・メンバーへの子の追加

勘定科目、データ・ソース、増減および MultiGAAP (使用する場合)の各ディメンションには、FCCS_seeded メンバーがあります。これらのメンバーで「データ・ストレージ」のプロパティが「動的」の場合、それに子を追加できます。

ディメンションにおけるシード済・メンバーの移動

シード済・メンバーはすべて、アプリケーション作成プロセスで作成されたのと同じ親を維持する必要があります。シード済・メンバーのすべては使用する必要がない場

合、適宜ユーザー固有のメンバーを作成する必要があります。シード済・メンバーに対して追加の親を作成する場合、代替階層を作成できます。

ただし、親メンバーの下でシード済・メンバーの順序を変えることはできません。

シード済勘定科目メンバーの再配置

Tax Reporting には、親と基本の両方を含むシード済の貸借対照表および損益計算書構造があります。要件に応じてシード済階層の構造を変更し、他の親メンバーおよび基本メンバーを追加できます。

次のガイドラインが適用されます。

- シード済勘定科目のメンバー名は変更できませんが、別名は変更できます。別個の勘定科目の説明のために、追加の別名テーブルを追加できます。データは、別名およびメンバー名で(メンバー・セレクトで)ロード、表示および検索できます。
- 様々なレポートのニーズに応じて、複数の代替階層を作成できます。これらの代替階層には、プライマリ階層内のすべての基本メンバーを含める必要がありますが、その編成は変更できます。
- シード済勘定科目階層が無視されると、様々なシステム計算やシードされた計算が喪失することに注意してください。多くの計算は、勘定科目構造に依存するシステムに組み込まれています。

会社間データ(追跡あり)および出資比率の管理を有効にした貸借対照表勘定科目

会社間データ(追跡あり)オプションを有効にすると、「出資比率の管理」などの追加オプションが使用可能になります。「出資比率の管理」を有効にすると、出資比率の管理勘定科目が追加され、CTA/CICTA 勘定科目が追加されていない場合は追加され、ドライバ勘定科目が追加されます。

会社間データ(追跡あり)および出資比率の管理を有効にした増減メンバー

会社間データ(追跡あり)オプションを有効にすると、「出資比率の管理」などの追加オプションが使用可能になります。「出資比率の管理」を有効にすると、次のアクションが実行されます:

- 追加のメンバー(FCCS_Mvmts_Acquisitions、FCCS_Mvmts_Disposals)を必要とする「期首残高出資比率の変更」システム・ルールが有効になります。
- FCCS_Mvmts_Acquisitions_Input および FCCS_Mvmts_Disposals_Input を使用する構成可能な標準連結ルールがシードされます。

動的メンバー

動的メンバーとは、データの要求時に動的に計算される値を持つメンバーです。値は保管されません。最も一般的な動的計算の種類は比率計算です。

親メンバーが動的な子を追加できるようにするには:

- ホーム・ページから、「ナビゲータ」アイコンをクリックします。
- 「作成および管理」で「ディメンション」を選択します。
- メンバーを選択し、「編集」をクリックします。
- 「メンバーのプロパティ」タブで「動的な子に対して使用可能」.

をクリックします。

5. **オプション:** メンバー・プロパティ「**使用可能な動的な子の数**」を設定します。(デフォルトは 10 です。)この設定は、メンバーを親の下に動的に追加またはロードするために作成されたプレースホルダの名前を決定します。すべてのプレースホルダが使用されている場合、以降に追加される子は通常のメンバーとして追加され、データベースがリフレッシュされるまで使用できません。
6. **オプション:** メンバー・プロパティ「**メンバー作成者に付与されたアクセス権**」を設定します。(デフォルトは「**継承**」です。)
7. 「**保存**」をクリックします。
8. データベースをリフレッシュして、メンバーを使用するデータベース内の動的メンバーのプレースホルダを作成します。

メンバーの追加または編集

メンバーを追加または編集するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」、「**概要**」、「**ディメンション**」タブの順に選択します。
2. 「**ディメンション**」リストから、ディメンションを選択します。
3. アクションを行います:
 - 子メンバーを追加するには、メンバーを追加する親レベルのディメンション階層を選択し、「**子の追加**」をクリックします。
 - 兄弟を追加するには、兄弟を追加するレベルのディメンション階層を選択し、「**兄弟の追加**」をクリックします。

- メンバーを編集するには、そのメンバーをディメンション階層から選択して、**[Enter]** を押すか、「**編集**」をクリックします。✎
4. 「**メンバーのプロパティ**」で、次の表の説明に従ってメンバーのプロパティを設定または変更します。

表 12-13 メンバーのプロパティ

プロパティ	値
名前	ディメンション・メンバー全体で一意である名前を入力します。名前には、アンパサンド(&)やスペースなどの特殊文字を使用できます。
	<p>▲ 注意:</p> <p>カンマは有効な文字ではないため、名前に使用しないでください。</p>
説明	オプション: 説明を入力します。
別名表	オプション: 別名表を選択し、別名を保管します。
別名	オプション: メンバーの代替名を入力します。名前には、アンパサンド(&)やスペースなどの特殊文字を使用できます。
	<p>▲ 注意:</p> <p>カンマは有効な文字ではないため、名前に使用しないでください。</p>
勘定科目タイプ	勘定科目タイプを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> 収益 資産 負債 資本 保存された仮定
差異レポート タイム・バランス	「費用」または「費用以外」を選択します。次のオプションから選択します。 <ul style="list-style-type: none"> フロー - 平均レートの場合 最初 残高 - 終了レートの場合 平均 入力
スキップ	N/A

表 12-13 (続き) メンバーのプロパティ

プロパティ	値
為替レート・タイプ	次のオプションから選択します。 <ul style="list-style-type: none"> レートなし 平均 期末 履歴 履歴金額オーバーライド 履歴レート・オーバーライド
ソース・キューブ	次のオプションから選択します。 <ul style="list-style-type: none"> なし Consol Rates
データ・ストレージ	データ・ストレージのプロパティを選択します。新規カスタム・ディメンション・メンバー(ルート・メンバー以外)に対して、デフォルトは「共有しない」です。 <ul style="list-style-type: none"> 保管 動的計算および保管 動的計算 共有しない 共有 ラベルのみ
2 パス計算	親メンバーまたは他のメンバーの値に基づいてメンバーの値を再計算するかどうかを指定します。「動的計算」または「動的計算および保管」プロパティで、勘定科目とエンティティ・メンバーに使用できます。
上位レベルのエンティティ 入力を許可	親エンティティの入力をこのメンバーに対して許可するかどうかを指定します。
プラン・タイプ	メンバーが有効となるアプリケーション・タイプを選択します。
データ型	データ型を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> 未指定 通貨 通貨以外 パーセンテージ 日付 テキスト スマート・リスト
スマート・リスト	N/A
動的な子に対して使用可能	ユーザーが、動的な親メンバーを使用するように構成されたビジネス・ルールの実行時プロンプトでメンバー名を入力することにより、このメンバーの子を作成できるようにします。
使用可能な動的な子の数	このオプションは、「動的な子に対して使用可能」が選択されている場合のみ使用可能です。ユーザーが作成できる、動的に追加する最大メンバー数を入力します。デフォルトは 10 です。

表 12-13 (続き) メンバーのプロパティ

プロパティ	値
メンバー作成者に付与されたアクセス権	<p>このオプションは、「動的な子に対して使用可能」が選択されている場合のみ使用可能です。メンバー作成者が実行時プロンプトで作成する動的メンバーに対して持つ権限を判別します:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 継承 - メンバー作成者は、新しく作成したメンバーに対する最も近い親のアクセス権を継承します。 • なし - メンバー作成者には、新しく作成したメンバーへのアクセス権は割り当てられません。(管理者は、後でメンバー作成者にメンバーへのアクセス権を割り当てることができます。) • 読取り - メンバー作成者には、新しく作成したメンバーへの読取りアクセス権が割り当てられます。 • 書込み - メンバー作成者には、新しく作成したメンバーへの書込みアクセス権が割り当てられます。

 **ノート:**

管理者がこれらの設定を変更した場合、その変更は将来の動的メンバーにのみ適用され、遡って動的メンバーに適用されることはありません。

5. 「データベースのリフレッシュ」  をクリックします。「計算ステータス」が「システム変更」に変わります。
6. エンティティとその親の基本通貨が同じ場合でも、「**レートの計算**」を実行します。

 **注意:**

親と新規エンティティの基本通貨が同じ場合で、レートの計算が不要と思われる場合でも、このステップはスキップしないでください。レートの計算ステップを実行せず、連結を実行すると、データはロールアップされません。後で戻ってレートの計算を実行することはできません。新規エンティティのステータスは影響を受けておらず、操作が正しく実行されないためです。

7. 新規エンティティのデータをロードするか、入力します。[データのインポート](#)を参照してください。
8. ホーム・ページで「**データ・ステータス**」、「**計算ステータス**」の順に選択します。新規エンティティとその祖先の計算ステータスは、「**影響**」です。
9. 新規エンティティまたはその祖先(あるいはその両方)を連結します。

メンバーの削除

各データ値は、一連のディメンション・メンバー値とアプリケーション・タイプで識別されます。ディメンション・メンバーの削除やアプリケーション・タイプの選択解除を行うと、アプリケーションをリフレッシュするときにデータが失われます。

▲ 注意:

この操作を開始する前に、バックアップを実行してください。Oracle Enterprise Performance Management System バックアップおよびリカバリ・ガイドを参照してください。

メンバーを削除する前に、「用途の表示」を使用して、それらが使用されているアプリケーション内の場所(フォームや為替レートなど)を確認します。

エンティティ・メンバーをディメンションから削除する前に、アプリケーション全体でそれを削除する必要があります。たとえば、エンティティ・メンバーがフォームで使用されている場合には、そのエンティティ・メンバーをディメンションから削除する前に、フォームから削除する必要があります。

メンバーを削除するには:

1. 「ナビゲータ」アイコンをクリックします。
2. 「作成および管理」で「ディメンション」をクリックします。
3. ディメンション階層から、削除するエンティティ・メンバーを選択します。
4. 「削除」をクリックします。基本メンバーを削除すると、その共有メンバーも削除されます。
5. 「OK」をクリックします。
6. ルールおよびレポートを更新および検証します。

親メンバーの削除

データ値は、一連のディメンション・メンバー値とアプリケーション・タイプで識別されます。ディメンション・メンバーの削除やアプリケーション・タイプの選択解除を行うと、アプリケーションをリフレッシュするときにデータが失われます。

▲ 注意:

この操作を開始する前に、バックアップを実行してください。Oracle Enterprise Performance Management System バックアップおよびリカバリ・ガイドを参照してください。

ディメンション階層から親メンバーとそのすべての子孫を削除するには:

1. 「ナビゲータ」アイコンをクリックします。
2. 「作成および管理」で「ディメンション」をクリックします。

3. 「**ディメンション**」 リストから、削除するメンバー、子孫または分岐を持つディメンションを選択します
4. 「**削除**」 をクリックします。
5. 「**OK**」 をクリックします。

共有メンバーの操作

メンバーを共有すると、アプリケーション内でロールアップ構造の入れ替えが実行できます。共有メンバーを作成する前に基本メンバーが存在している必要があります。基本メンバーに複数の共有メンバーを作成できます。上から下への表示位置では、基本メンバーはその共有メンバーより先に表示されている必要があります。

共有メンバーは、エンティティ、勘定科目、ユーザー定義のカスタム・ディメンションに使用できます。アウトラインをロールアップする際、共有メンバーの値を無視して二重計算を防ぐことができます。

共有メンバーは、メンバーに有効なメンバー名、別名、基本通貨、アプリケーション・タイプなどのプロパティの定義を基本メンバーと共有します。共有メンバーには、一意の親メンバーおよび異なるロールアップ集約を設定する必要があります。カスタム属性、カスタム属性値およびメンバー式を共有メンバーに使用することはできません。基本メンバーの名前を変更すると、すべての共有メンバーの名前も変更されます。

共有メンバーを別の親メンバーに移動させることはできません。共有メンバーを削除してから、別の親メンバーの下に再度作成する必要があります。共有メンバーは階層の最下位レベル(レベル 0)である必要があります、子を持つことはできません。基本メンバーはレベル 0 である必要はありません。共有メンバーにデータを入力し、値を基本メンバーとともに保管できます。

共有メンバーは基本メンバーと同様に、Oracle Smart View for Office のメンバー選択のディメンション階層に表示されます。

共有メンバーの作成

共有メンバーを、他のメンバーと同じ方法で作成できますが、次のように異なる点があります。

- 基本メンバーは、共有メンバーの親にはなれません。
- 共有メンバーを兄弟として基本メンバーに追加できません。
- 共有メンバーの名前は、基本メンバーと同じにする必要があります。共有メンバーに別の説明を付けることはできません
- 共有メンバーのデータ・ストレージ・オプションは、「共有」にする必要があります。

メンバー式の操作

演算子、計算関数、ディメンション名、メンバー名および数値定数を組み合わせてメンバー式を定義することによって、メンバーの計算を実行できます。メンバー式には次も含まれます。

- 式で許可される演算子タイプ、関数、値、メンバー名、UDA など。
- 式に展開するスマート・リスト値またはデータベースのリフレッシュにおける値を含む事前定義済の数式。

メンバー式を定義するには:

1. 「ナビゲータ」アイコン



をクリックします。

2. 「作成および管理」で「ディメンション」をクリックします。
3. メンバーの式を追加または変更するディメンションを選択します。
4. メンバーを選択し、「編集」をクリックします。
5. 「メンバー式」タブを選択します。
6. 次のフィールドのオプションを選択します:
 - キューブ

Note:

勘定科目の式を除いて、デフォルトのキューブに入力された式は、特定のキューブに入力された別の式によって上書きされないかぎり、すべてのキューブに適用されます。

また、勘定科目メンバーに対するデフォルトの式は、ソース・キューブについてのみ **Essbase** に転送され、他のキューブについては転送されません。デフォルトの式が集約ストレージ・キューブに転送されることはありません。

- 「データ・ストレージ」 - 「動的計算」を選択します。

Note:

キューブ固有のデータ・ストレージ・フィールドには、「共有」または「ラベルのみ」オプションは表示されません。これは、あるキューブで別のキューブではない「共有」または「ラベルのみ」にメンバーを設定できないためです。

- **解決順** - 式が評価される順序を指定します。0 から 100000 の間の整数を入力します(または矢印を使用して数を増減します)。指定された解決順を持つメンバーの式は、低い解決順から高い解決順に計算されます。デフォルトは 0 です。

Note:

解決順は、集約ストレージ・キューブに加えて、ハイブリッドが有効になったブロック・ストレージ・キューブにも使用できます。ブロック・ストレージ・キューブの解決順は、簡易ディメンション・エディタを使用してのみ編集可能です。[簡易ディメンション・エディタでのディメンションの編集](#)を参照してください

7. テキスト・ボックスで、当該メンバー用の式を定義します。
8. **オプション**: メンバー式が有効かどうかを確認するには、「検証」をクリックします。

9. 「保存」をクリックします。
「保存」をクリックする前に、「リセット」をクリックして、前にあったメンバー式情報を復元します。

式の確認結果の表示

メンバー式の構文の確認結果を表示するには:

1. 「メンバー式」で、「検証」をクリックします。
2. 「保存」をクリックします。

メンバー式の解決順(ハイブリッド・モードのみ)

解決順は、ディメンションまたはメンバーのいずれかに設定でき、メンバー評価の順序を定義するメタデータ・プロパティです。解決順は問合せ実行時に適用されます。

解決順は問合せのパフォーマンスに影響を与える可能性があります。解決順プロパティの値により、メンバー式が計算される優先度が決定します。指定された解決順を持つメンバーの式は、低い解決順から高い解決順に計算されます。

ディメンションまたはメンバーの解決順序を設定するか、Essbase のデフォルトの解決順序を使用できます。設定可能な最小の解決順は 0 で、最大は 127 です。解決順の値が大きいほど、メンバーが後に計算されます。たとえば、解決順が 1 のメンバーは、解決順が 2 のメンバーの前に解決されます。



Note:

これは、ハイブリッド最適化アプリケーションにのみ適用されます。関連項目: [ハイブリッド集約のアプリケーション・モデルの最適化](#)

Table 12-14 デフォルトの解決順設定

ディメンション/メンバー・タイプ	デフォルトの解決順序の値
保管済メンバー	0
疎ディメンション	10
密ディメンション - 勘定科目	30
密ディメンション - 時間	40
密ディメンション	50
属性ディメンション	90
2 パス動的メンバー	100

まとめると、ハイブリッド・モードのデフォルトの解決順序では、アウトラインに表示される順序(上から下)で、保管済メンバーが動的計算メンバーの前に計算され、疎ディメンションが密ディメンションの前に計算されることが指定されています。

解決順序が指定されていない動的メンバーは(式の有無にかかわらず)、2 パスとしてタグ付けされている場合を除き、そのディメンションの解決順序を継承します。2 パス計算は、正確な値を得るために 2 回計算する必要がある式を持つメンバーに、非ハイブリッド・モードで適用できる設定です。

2 パスはハイブリッド・モードでは適用できず、2 パスとしてタグ付けされたメンバーは、属性の後に最後に計算されます。ハイブリッド・モードでは、デフォルトの解決順序が要件を満たさない場合は、2 パスではなくカスタム解決順序を実装する必要があります。

ハイブリッド・モードでは、デフォルトの解決順序が次のシナリオに対して最適化されます。

- 前方参照。動的メンバー式がアウトライン順序で後のメンバーを参照します。ハイブリッド・モードでは、アウトライン順序の依存性はありません。
- アウトライン順序に基づく子の値の集約は、同等の式を使用した集約とより厳密に一致します。
- 疎な式内の依存性としての動的な密メンバー。ハイブリッド・モードでは、疎な式が動的な密メンバーを参照する場合、疎ディメンションが最初に計算されるため、この参照は無視されます。この動作を変更するには、疎ディメンションに密ディメンションの解決順序より高い(密ディメンションより後で計算される)解決順序を割り当てます。

デフォルト以外の解決順序を使用する必要がある場合は、ハイブリッド・モードでメンバーのカスタム解決順序を設定できます。解決順を変更する方法については、[解決順序の設定\(ハイブリッド・モードのみ\)](#)を参照してください。

カスタム解決順序を実装すると、デフォルトの解決順序がオーバーライドされます。メンバーまたはディメンションの解決順序が等しい場合は、アウトラインに表示される順序(上から下)によって競合が解決されます。

この動作は、密ディメンションの解決順より高い疎ディメンションにカスタムの解決順を割り当てることにより変更できます。

例:

異なる解決順のメンバーを含む次の例を検討してください。

勘定科目(疎、デフォルトの解決順 30)

- A1
- A2
- 比率 – メンバー式[A1 / A2]

(勘定科目から継承されたデフォルトの解決順 30)

データ・ソース(疎、デフォルトの解決順 10)

- DataInput
- CustomInput
- 差異 – メンバー式[DataInput - CustomInput]

(データ・ソースから継承されたデフォルトの解決順 10)

1 月期の交差について次のデータセットを考えてみます:

		Jan
DataInput	A1	1000
	A2	1100
CustomInput	A1	600
	A2	650

比率と差異に対して異なる解決順を使用する計算

ケース 1: 差異より解決順が高い比率

このケースでは、差異が最初に計算され、次に対応する比率が計算されます。

Member	SolveOrder
Ratio	30
Variance	20

差異の比率は、(Variance->A1)/(Variance->A2)のように計算されます。

		Jan
DataInput	A1	1000
	A2	1100
	Ratio	0.9091
CustomInput	A1	600
	A2	650
	Ratio	0.9231
Variance	A1	400
	A2	450
	Ratio	0.8889

ケース 2: 差異より解決順が低い比率

このケースでは、比率が最初に計算され、次に対応する差異が計算されます。

Member	SolveOrder
Ratio	10
Variance	20

比率の差異は、(Ratio->DataInput) – (Ratio->CustomInput)のように計算されます。

		Jan
DataInput	A1	1000
	A2	1100
	Ratio	0.9091
CustomInput	A1	600
	A2	650
	Ratio	0.9231
Variance	A1	400
	A2	450
	Ratio	-0.014

解決順序の設定(ハイブリッド・モードのみ)

「解決順」プロパティを設定するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」、「概要」の順にクリックします。
2. 「ディメンション」をクリックして簡易ディメンション・エディタを開き、ディメンションを選択します。
選択したディメンションの「メンバー・プロパティの編集」画面が表示されます。
3. ヘッダー行を右クリックして、「デフォルト・モード」の選択を解除します。
4. 「メンバー名」列を選択し、「アクション」メニューから「凍結」をクリックして列を固定し、メンバー・プロパティを編集します。
5. 解決順を変更するメンバーを選択します。
6. 「Consol 解決順」列で必要な解決順の値を設定します。必要に応じて、アプリケーション内の他のキューブ(CbCR など)の解決順を変更できます。
7. 変更内容を保存します。
8. 「アクション」から「データベースのリフレッシュ」を選択し、「リフレッシュ」をクリックします。

解決順のプロパティ値の詳細は、『Oracle Enterprise Performance Management Cloud オペレーション・ガイド』を参照してください。

「管理者用 Smart View アドオン」拡張機能を使用して、「解決順」プロパティを変更することもできます。

Smart View を使用して「解決順」プロパティを設定するには:

1. Smart View パネルの「ディメンション」フォルダを使用して、解決順を変更するディメンションを開きます。
2. Financial Consolidation and Close アド・ホック・リボンで、「メンバー選択」を選択します。
3. 「メンバーのプロパティ」で「Consol 解決順」を選択し、列に移動します。必要に応じて、アプリケーション内の他のキューブ(CbCR など)の解決順を変更できます。
4. 行で変更するディメンション・メンバーを指定します。

5. 「解決順」列で値を編集し、アド・ホック・リボンで「データの送信」をクリックします。
6. Smart View パネルで「ディメンション」フォルダを右クリックし、「データベースのリフレッシュ」を選択してキューブのリフレッシュを開始します。

 **Note:**

これは、ハイブリッド最適化アプリケーションにのみ適用されます。関連項目: [ハイブリッド集約のアプリケーション・モデルの最適化](#)

メンバー式のベスト・プラクティス

- 式が疎ディメンション間参照を割り当てる場合は、@NONEMPTYTUPLE()ディレクティブを使用します。このディレクティブを使用すると、問合せの実行がボトムアップ・モードで発生し、式キャッシュが疎の場合に依存関係分析をすばやく解決できます。
- 式の範囲を制限して、関連するメンバーのみを含めるようにしてください。
- ハイブリッドのみ: 直接定数を返さないようにします。この項を参照 [ハイブリッド集約での動的計算](#)
- ハイブリッドのみ: 式のないレベル 0 の動的計算メンバーは避けてください。
- ハイブリッドのみ: 2 パス計算プロパティは使用しないでください。かわりに、解決順序を使用します。
- ハイブリッドのみ: *Oracle Enterprise Performance Management Cloud の Calculation Manager を使用した設計*でのハイブリッド・アプリケーション・モデルについて、[ハイブリッド集約でサポートされていない関数](#)を参照してください。
- 式内で#MISSING を返すことを避けます。

```
]IF("Account A" + Account B" < 0)
  "Account C";
ELSE
  #MISSING;
ENDIF
Good Example:
IF("Account A" + Account B" < 0)
  "Account C";
ENDIF
```

代替階層の作成

エンティティ・ディメンションで、単一のエンティティに複数の親を含めることができる代替階層を作成できます。親メンバーは異なる通貨を使用可能で、親の通貨メンバーで発生する換算は、これらのエンティティでは異なります。これを実現するため、エンティティのすべてのインスタンス間で入力データの一部のみが共有される部分共有メンバーを使用します。

次の例は、複数の親を持つリーフレベル・エンティティを示しています。

P1		
	P11	
		E111
		E112
	P13	
		E113
P2		
	P12	
		E111
		E113
	P14	
		E112

この例では:

- エンティティ E111 は、P11 と P12 の両方の子です。
- P11 または P12 で E111 として入力された入力データは、保存後に他方のエンティティにレプリケートされます。P11.E111 メンバーと P12.E111 メンバーのどちらでもデータを入力できます。
- 連結後の P11.E111 と P12.E111 の計算値は、異なることがあります。たとえば、アプリケーションが複数通貨のアプリケーションであるとして (E111 の通貨が GBP)。P11 の通貨は USD で、P12 の通貨は EUR です。データを E111 に入力すると、そのデータは常に通貨ディメンションのエンティティ 通貨メンバーに入力されます。親通貨メンバーが計算されますが、GBP と USD 間、および GBP と EUR 間の為替レートは異なることがあるため、P11.E111 と P12.E111 の親通貨の値は異なります。

親レベルのエンティティに複数の親が含まれるエンティティ階層を作成することもできます。ただし、異なる子を持つ複数の親が親レベルに含まれる階層は、サポートされません。

代替階層を作成するには、部分共有エンティティ・メンバーを作成し、データ・ストレージ・メンバー・プロパティとして「共有」を選択します。エンティティ・ディメンションで、データ・ストレージ・プロパティによって部分共有メンバーが作成されます。

「メンバーの選択」で、親と子の関係を参照できます。エンティティを選択すると、「メンバーの選択」にそれが Parent.Child のように表示されます (North America.USA など)。次に、適切なエンティティを選択したり、エンティティに複数の親が含まれる場合は、異なる親に属するエンティティの各項目を選択したりできます。

トランザクション・データを入力する場合、プライマリ・メンバーまたは共有メンバーに対して 1 回のみデータを入力する必要があります。

データ・フォームにデータを 1 回入力することもできます。たとえば、E111 が、2 つの親 (E11 と E12) を持つ部分共有エンティティであるとして。データ・フォームで、E11.E111 に 100 の金額を入力して保存すると、その 100 がすぐに E12.E111 に表示さ

れます。E12.E111 の金額を 150 に変更して保存すると、同じ金額が E11.E111 に反映されます。データ・フォームで、Parent.Child としてエンティティ・ディメンションのメンバーを表示するかどうかと、その通貨を表示するかどうかを選択できます。

データをエクスポートすると、同じデータが部分共有エンティティでもエクスポートされ、そのデータは Parent.Child 形式でエクスポートされます。データ・ファイルの部分共有エンティティの一方にデータをインポートすると、そのデータは他方にもインポートされます。

計算またはプロセス管理ステータスの変更につながる一方の部分共有エンティティに対する変更は、そのエンティティの他方のインスタンスにすべて反映されます。たとえば、一方のインスタンスが連結されてそのステータスが「OK」に変更されると、他方のインスタンスのステータスも「OK」に変更されます。同じルールが部分共有エンティティのロックとロック解除に適用されます。

エンティティに対して定義されたセキュリティおよび有効交差ルールも、その部分共有インスタンスに適用されます。

次の項を参照してください:

- [共有メンバーの作成](#)
- [エンティティ・ディメンションでの代替階層の作成](#)

エンティティ・ディメンションでの代替階層の作成

エンティティ構造は代替階層の一部です。共有エンティティの親には異なる通貨を設定できます。

エンティティ・ディメンションで代替階層を作成するには:

1. ホーム・ページでナビゲータをクリックし、「作成および管理」、「ディメンション」の順にクリックします。
2. 「ディメンション」で、「エンティティ」を選択します。
3. FCCS-地域合計で、「データ・ストレージ」の値が「共有しない」に設定されているプライマリ・エンティティを選択します。
4. 「データ・ストレージ」の値が「共有しない」に設定されている親エンティティを選択します。
5. プライマリ・エンティティを親エンティティの子として、共有メンバーとして追加します。
 - a. 選択した親で、「子の追加」をクリックします。
 - b. 「メンバーのプロパティ」タブで、子メンバーの名前を入力します。
 - c. 「データ・ストレージ」で「共有」を選択します。
共有エンティティは、集約タイプ以外のプロパティを、メンバーのプライマリ・インスタンスと共有します。
 - d. 「プラン・タイプ」で、すべてのキューブ(Consol、Rates および CbCR)に対して集計タイプを「無視」に設定します。エンティティ・ディメンションは連結プロセスの一環として集計されるため、ネイティブ Essbase 計算については無視に設定する必要があります。他のオプションを選択した場合、データベースのリフレッシュ時に「無視」にデフォルト設定されます。

- e. 「保存」をクリックします。エンティティ・メンバーが追加され、「共有」というラベルが付けられます。
6. ホーム・ページで「アプリケーション」、「概要」の順に選択し、「リフレッシュ」をクリックしてデータベースをリフレッシュします。

 ヒント:

ベスト・プラクティスとして、データベースをリフレッシュする前にデータベースをバックアップしておいてください。

7. ホーム・ページでナビゲータをクリックし、「作成および管理」、「フォーム」の順にクリックします。
8. エンティティ名と関連通貨の表示を設定するには、フォームの「レイアウト」タブを選択して、次のステップを実行します。
 - a. 「属性ディメンション」、「列」の順に選択して、プライマリ・エンティティと、親子関係にある共有エンティティを表示します。たとえば、[Primary Entity], [Shared Entity 1], [Shared Entity 2]のようになります。
 - b. 「ディメンション・プロパティ」の下にある「修飾名の表示」で、表示オプションを選択します。
 - なし - 修飾名を表示しません。これはデフォルトです。
 - 必要時 - 共有エンティティ名についてのみ、修飾名を表示します。
 - 常時 - すべてのエンティティ・メンバーの修飾名を表示します。
 - c. 「保存」をクリックします。
9. 代替階層のデータを入力するには、次のステップを実行します。
 - a. ホーム・ページで、「ライブラリ」を選択します。
 - b. 「データの入力」画面で「フォーム」を選択し、フォームを開きます。フォームには、プライマリ・エンティティと共有の親エンティティ、および関連通貨が表示されます。通貨値には、親の通貨/共有メンバーの基本通貨が表示されます。例:
 - (CAD/CAD) - 親および共有メンバー・エンティティの両方の通貨が CAD (カナダ・ドル)に設定されています。
 - (USD/CAD) - 共有されている一部のエンティティで、親の通貨は USD、共有エンティティの通貨は CAD です。
 - c. 「エンティティ通貨」に値を入力して「保存」をクリックします。共有エンティティの 1 つのインスタンスにデータを追加すると、その他すべてのインスタンスが自動的に更新されます。親エンティティについては、表示される値が適切な通貨に換算されます。
10. 「保存」、「閉じる」の順にクリックします。
11. 「アクション」で「連結」を選択して、親エンティティの連結を実行します。親エンティティは異なる通貨を使用して入力される可能性があるため、金額は通貨換算に応じて異なる場合があります。会社間消去も異なる場合があります。
12. 「保存」、「閉じる」の順にクリックします。

13. ホーム・ページで「ライブラリ」、「税金管理」、「データ・ステータス」の順に選択します。
14. 「計算ステータス」で、選択したエントリのステータスを確認します。

13

簡易ディメンション・エディタでのディメンションの編集

次も参照:

- [簡易ディメンション・エディタでのディメンションの編集について](#)
- [簡易ディメンション・エディタへのアクセス](#)
- [簡易ディメンション・エディタを使用したディメンションの操作](#)
- [ディメンション・プロパティの編集](#)
- [簡易ディメンション・エディタを使用したメンバー・プロパティの編集](#)

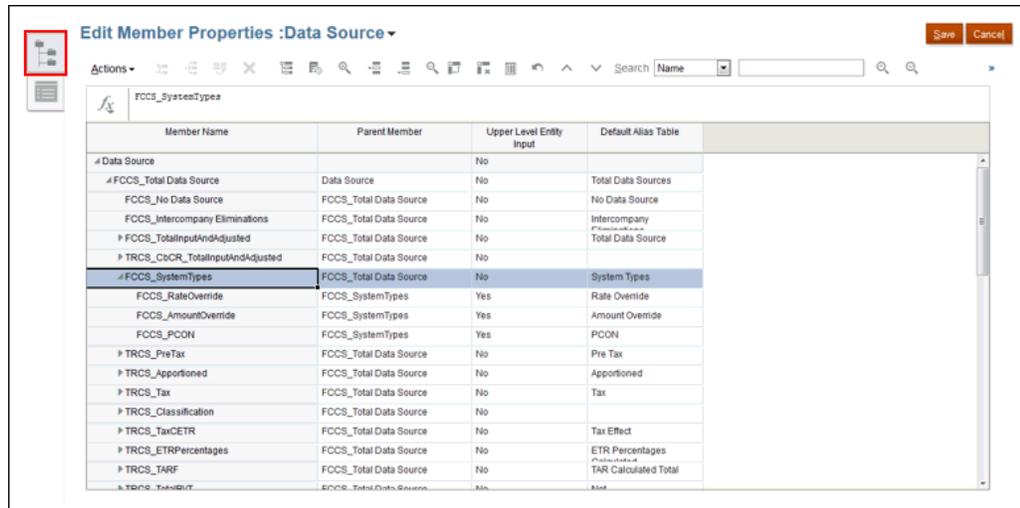
簡易ディメンション・エディタでのディメンションの編集について

簡易ディメンション・エディタには、グリッド形式でディメンションとメンバーが表示されます。グリッド形式では、ディメンションとメンバーを 1つのページで編集できます。メンバーのプロパティはグリッド上で直接編集でき、ズームイン、ズームアウト、選択項目の保持、選択項目の削除、凍結などのアドホック操作を実行できます。

クラシック・ディメンション・エディタでディメンションを表示および編集するセキュリティ役割を持っているユーザーは、簡易ディメンション・エディタで同様のアクションを実行できます。

簡易ディメンション・エディタを使用すると、無効なディメンション・メンバー・プロパティをチェックし、プロパティを修正するアクションを実行できます。無効なプロパティは、ディメンション・エディタ・グリッドで赤の枠線で囲まれます。

メンバー・プロパティの詳細なリストは、参照してください



次のビデオを参照してください。

- 概要: 簡易インターフェースにおける主なタスクの実行、パート 1
- 概要: 簡易インターフェースにおける主なタスクの実行、パート 2

簡易ディメンション・エディタへのアクセス

簡易ディメンション・エディタにアクセスするには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「概要」をクリックします。
2. 「ディメンション」をクリックします。
3. 「キューブ」の右側にある下矢印をクリックして、ディメンションのリストをキューブでフィルタします。
4. 表示するディメンションの名前をクリックします。
5. 次のタブから選択します:
 - **ディメンション・プロパティの編集** - ディメンションの詳細を表示して編集する場合にクリックします。
 - **メンバー・プロパティの編集** - ディメンション・メンバーを表示して編集する場合にクリックします。

簡易ディメンション・エディタを使用したディメンションの操作

簡易ディメンション・エディタには、グリッド形式でディメンションとメンバーが表示されます。グリッド形式では、ディメンションとメンバー・プロパティを 1 つのページで編集できます。グリッドで直接メンバー・プロパティを編集できます。ディメンション・エディタで作業するメンバーを複数作成できます。

次の項を参照してください:

- ディメンション・プロパティを編集するには、**ディメンション・プロパティの編集**を参照してください。

- ディメンション・メンバー・プロパティを編集するには、[簡易ディメンション・エディタを使用したメンバー・プロパティの編集](#)を参照してください。

他のディメンションへの切替え

簡易ディメンション・エディタ・グリッドの表示中に他のディメンションに切り替えるには:

- 「**メンバー・プロパティの編集**」を表示します。[簡易ディメンション・エディタへのアクセス](#)を参照してください。
- ページ上部にあるディメンション名の横にある下矢印をクリックします。

列レイアウトのカスタマイズ

簡易ディメンション・エディタ・グリッドの各列は、メンバー・プロパティ(「**メンバー名**」、「**親メンバー**」、「**デフォルトのデータ・ストレージ**」など)を表します。グリッドに最初から表示される列は、編集しているディメンション・タイプによって異なります。列のレイアウトは、簡易ディメンション・エディタで列を非表示にする、表示する、サイズを変える操作でカスタマイズできます。「**デフォルト・モード**」オプションをクリアして、プロパティの全セット(すべての列)を表示することもできます。

簡易ディメンション・エディタ・グリッドで列レイアウトをカスタマイズするには:

- 「**メンバー・プロパティの編集**」を表示します。
[簡易ディメンション・エディタへのアクセス](#)を参照してください。
- ディメンション・グリッドで、任意の列見出しを右クリックします。
列のチェックリストが表示されます。列またはグリッドのサイズを変更するオプションも表示されます。
- グリッドで表示する列、非表示にする列のチェック・ボックスを選択するか、クリアします。

ノート:

グリッドですべてのプロパティ列を表示するには、「**デフォルト・モード**」チェック・ボックスをクリアします。デフォルトでは「**デフォルト・モード**」は選択されており、表示されるプロパティが制限されます。このオプションをクリアすると、大きい(完全な)プロパティ・セットが(列として)表示されます。

- グリッドに表示されるグリッドまたは列のサイズを変更するには、次のサイズ変更オプションを選択するか、クリアします。
 - 列をあわせる** - すべての列がスクロールなしでグリッドに表示されるように、列のサイズを変更します。
 - 同期サイズ変更** - グリッドのサイズを元の設定にリセットします。

祖先の表示

祖先はすべて、ディメンション階層で選択したメンバーより上位のメンバーです。

簡易ディメンション・エディタ・グリッドで、選択したメンバーの祖先を表示するには:

1. 「**メンバー・プロパティの編集**」を表示します。[簡易ディメンション・エディタへのアクセス](#)を参照してください。
2. ディメンション・エディタ・グリッドでメンバーを選択します。
3. 「**祖先の表示**」をクリックします。

アプリケーションでのメンバーの用途の表示

メンバー削除などの操作を実行する前に、「**用途の表示**」を使用して、それらが使用されているアプリケーション内の場所(フォーム、承認ユニット、為替レートなど)を確認することが重要です。

簡易ディメンション・エディタを使用して、メンバーがアプリケーションのどこで使用されているかを確認するには:

1. 「**メンバー・プロパティの編集**」を表示します。[簡易ディメンション・エディタへのアクセス](#)を参照してください
2. ディメンション・エディタ・グリッドでメンバーを選択します。
3. 「**用途の表示**」をクリックします。

編集のフォーカス

簡易ディメンション・エディタ・グリッドを操作するとき、ズームイン、ズームアウト、選択項目の保持、選択項目の削除、凍結を使用して編集のフォーカスを絞ります。

ディメンション・エディタ・グリッドを表示中にこれらの操作を実行するには:

1. 「**メンバー・プロパティの編集**」を表示します。[簡易ディメンション・エディタへのアクセス](#)を参照してください。
2. グリッドの特定メンバーに対する編集のフォーカスを絞るには、メンバーを選択してから、次のいずれかのズーム操作をクリックします。
 - **次のレベルへズーム・イン** - 選択しているメンバーの 1 レベル下にある全メンバーを表示します
 - **次のレベルへズーム・イン** - 選択しているメンバーの下にあるすべての子孫メンバーを表示します
 - **最下位レベルへズーム・イン** - 選択しているメンバーの下にあって、子を持たないすべての子孫メンバーを表示します
 - **ズーム・アウト** - 選択しているメンバーの 1 レベル上にあるメンバーを表示します
3. グリッドの特定の行または列に編集のフォーカスを絞るには、次の操作からいずれかを選択します。
 - **選択項目の保持** - グリッドで選択した行または列のみを表示します
 - **選択項目の削除** - 選択した行または列をグリッドから削除します
 - **凍結(列のみ)** - 選択した列と、その左にある列をすべて固定し、その列がスクロールで移動しないようにします。固定した列の右側のみがスクロールするようになります。たとえば、メンバー名を含む最初の列のみに固定すると、メンバー名が表示されたまま、右にスクロールしてメンバーのプロパティを編集できます。列を凍結解除するには、「**凍結**」をもう一度クリックします。

メンバーの検索

簡易ディメンション・エディタ・グリッドでディメンション・メンバーを検索するには:

1. ディメンションの「**メンバー・プロパティの編集**」を表示します。[簡易ディメンション・エディタへのアクセス](#)を参照してください。
2. 「**検索**」では、「**名前**」、「**別名**」、または「**両方**」を選択します。
3. 検索する検索テキスト(メンバーの名前、別名または文字列の一部)を入力します。
4. 「**上方向に検索**」または「**下方向に検索**」をクリックします。

メンバーのソート

子または子孫による昇順または降順でメンバーをソートできます。メンバーのソートはアウトラインに影響を及ぼします。

簡易ディメンション・エディタを使用してメンバーをソートするには:

1. 「**メンバー・プロパティの編集**」を表示します。
[簡易ディメンション・エディタへのアクセス](#)を参照してください。
2. ディメンション・グリッドで、子または子孫をソートするメンバーを選択します。
3. 「**ソート**」で、「**子**」または「**子孫**」を選択します。
子でソートする場合は、選択したメンバーの真下のレベルにあるメンバーのみにソートがかかります。子孫でソートする場合は、選択したメンバーのすべての子孫にソートがかかります。
4. 「**昇順ソート**」または「**降順ソート**」をクリックします。

別の階層へのメンバーの移動

簡易ディメンション・エディタで、メンバーを別の階層に移動するには:

1. 「**メンバー・プロパティの編集**」を表示します。[簡易ディメンション・エディタへのアクセス](#)を参照してください。
2. 「**メンバー・プロパティの編集**」を表示します。
3. 「**保存**」をクリックします。

Microsoft Excel からのメンバー名のコピー

Microsoft Excel から名前をコピーして貼り付けるには:

1. Excel で、1 つのセルまたはセル範囲のメンバー名をハイライトして、**[Ctrl]**を押しながら**[C]**を押してデータをクリップボードにコピーします。
2. 「簡易」ディメンション・エディタで 1 つまたは複数のターゲット・セルをハイライト表示して選択し、**[Ctrl]**を押しながら**[V]**を押します。
3. クリップボード・ヘルパーが表示されたら、再度**[Ctrl]**を押しながら**[V]**を押します。データがクリップボード・ヘルパーに貼り付けられます。

4. 「貼付け」をクリックして、簡易ディメンション・エディタにデータを貼り付けます。

メンバー式の操作

簡易ディメンション・エディタ・グリッドの式バーで直接、または有効なメンバー式を検証できる「メンバー式」を使用して、メンバー式を定義または編集できます。

演算子、計算関数、ディメンション名、メンバー名および数値定数を組み合わせてメンバー式を定義することによって、メンバーの計算を実行できます。メンバー式には次も含まれます。

- 式で許可される演算子タイプ、関数、値、メンバー名、UDA など。
- 式に展開するスマート・リスト値またはデータベースのリフレッシュにおける値を含む事前定義済の数式。

簡易ディメンション・エディタでメンバー式を定義または編集するには:

1. 「メンバー・プロパティの編集」を表示します。簡易ディメンション・エディタへのアクセスを参照してください。
2. グリッドのデフォルト式列で、式を定義または編集するメンバーを選択します。次のいずれかのオプションを使用して、メンバーの式を定義または編集します。
 - ディメンション・エディタ・グリッドのセルをもう一度クリックし、式を入力または編集します。
 - ディメンション・エディタ・グリッドの上部にある式バー内をクリックして、式を入力または編集します。
 - 式バーの横にある  をクリックして、式を入力または編集します。

ヒント:

式にメンバー名を含めるには、グリッドの式セルにフォーカスを置いたままにします。[Ctrl]を押しながら、式に含めるメンバーの名前をクリックします。メンバー名が式バーに表示されます。

- **オプション:** メンバー式の妥当性をチェックするには、式バーの横にある  をクリックしてから、「検証」をクリックします。
- 「保存」をクリックします。

ディメンション・プロパティの編集

ディメンション・プロパティを編集するには(関連項目: [ディメンション・プロパティの設定](#)):

1. ホーム・ページで「アプリケーション」、「概要」の順にクリックします。
2. 「アプリケーション」画面で、「ディメンション」をクリックします。

Application Refresh Actions

Overview **Dimensions** Activity Reports

Cube: Consol **Dimension Type:** Essbase Import Export

Type	Name	Order	Dense	Evaluation Order	Modified
	Account 683 Members	^ v	<input checked="" type="checkbox"/>	4	1/29/19 epm_default_clo
	Data Source 104 Members	^ v	<input checked="" type="checkbox"/>	1	1/29/19 epm_default_clo
	Multi-GAAP 2 Members	^ v	<input type="checkbox"/>	-	1/29/19 epm_default_clo
	Consolidation 6 Members	^ v	<input type="checkbox"/>	-	1/29/19 epm_default_clo
	Period 16 Members	^ v	<input type="checkbox"/>	-	1/29/19 epm_default_clo
	Currency 28 Members	^ v	<input type="checkbox"/>	-	1/29/19 epm_default_clo
	Intercompany 3 Members	^ v	<input type="checkbox"/>	-	1/29/19 epm_default_clo
	Scenario 3 Members	^ v	<input type="checkbox"/>	-	1/29/19 epm_default_clo
	Years 10 Members	^ v	<input type="checkbox"/>	-	1/29/19 epm_default_clo
	Jurisdiction	^ v	<input type="checkbox"/>	-	1/29/19

3. 表示または変更するディメンションの名前をクリックして、「ディメンション・プロパティの編集」 を開きます。

Account Done Cancel

Dimension: Account

Description:

Alias Table: Default

Alias:

Two Pass Calculation

Apply Security

Data Storage: Never Share

Display Option: Member Name

Hierarchy Type: Net Set

Cube: Enabled

Consol:

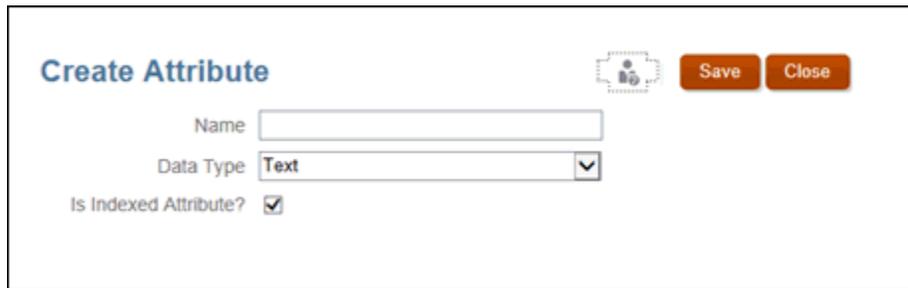
Rates:

Custom Attributes Create Synchronize

Attribute	Data Type	Actions
Tax Type	Text	
Tax Data Type	Text	
FBOS	Text	
Consolidated ETR	Text	
Rate change to equity	Text	
CBCR	Text	

4. 「ディメンション・プロパティの編集」画面で、必要に応じてディメンション・プロパティを変更します。

5. **オプション:** 疎ディメンションに限っては、「作成」をクリックして属性ディメンションを追加します。



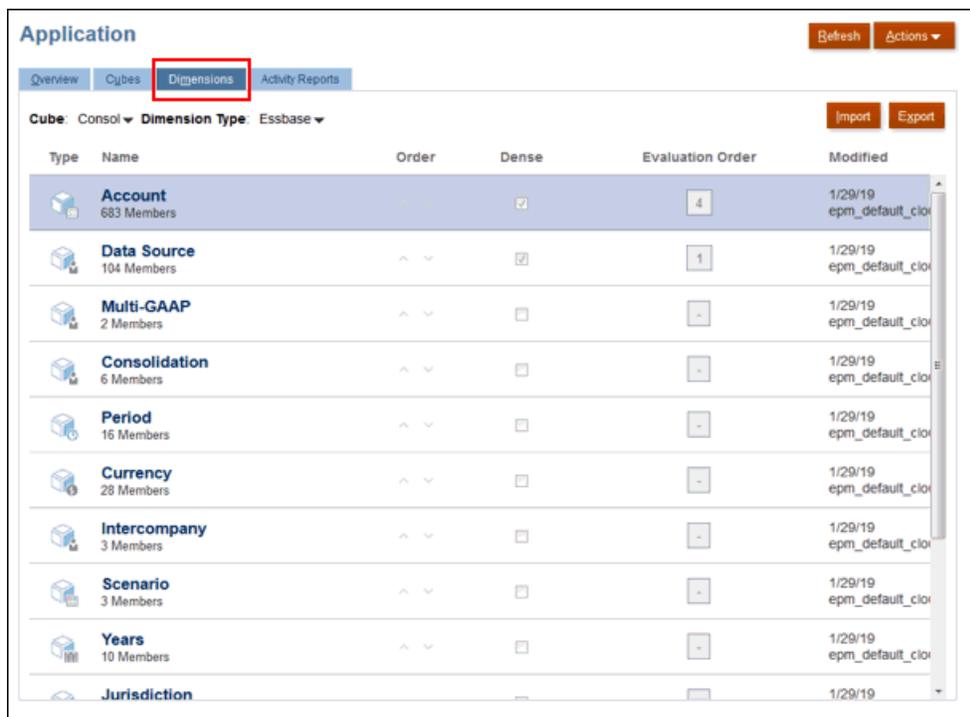
6. 「完了」をクリックします。

簡易ディメンション・エディタを使用したメンバー・プロパティの編集

使用可能なディメンションのメンバー・プロパティを編集するには、ディメンション・エディタを使用します。一度に複数のメンバーを操作できます。

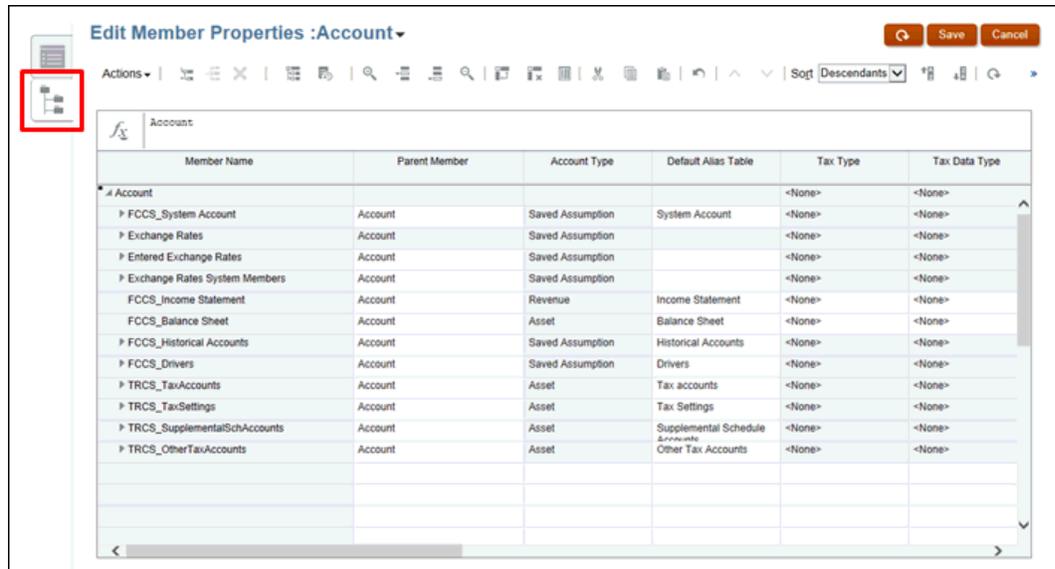
ディメンション・メンバーのプロパティを編集するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」、「概要」の順にクリックします。
2. 「アプリケーション」画面で、「ディメンション」をクリックします。



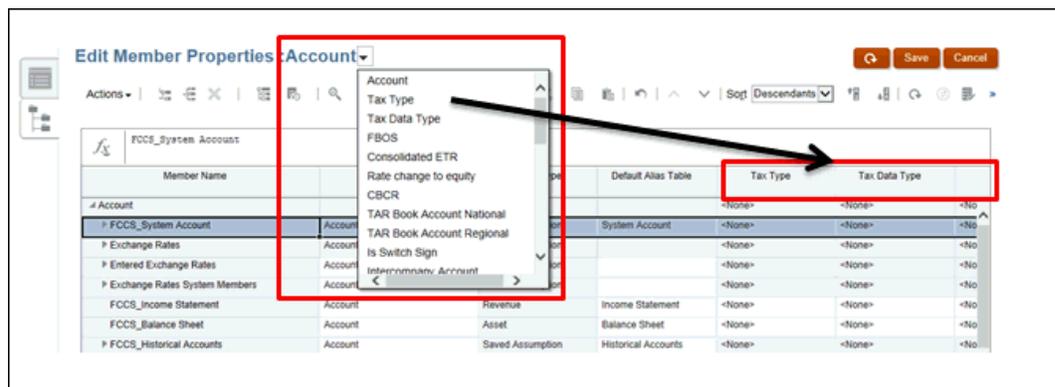
Type	Name	Order	Dense	Evaluation Order	Modified
Account	683 Members		<input checked="" type="checkbox"/>	4	1/29/19 epm_default_clo
Data Source	104 Members		<input checked="" type="checkbox"/>	1	1/29/19 epm_default_clo
Multi-GAAP	2 Members		<input type="checkbox"/>	-	1/29/19 epm_default_clo
Consolidation	6 Members		<input type="checkbox"/>	-	1/29/19 epm_default_clo
Period	16 Members		<input type="checkbox"/>	-	1/29/19 epm_default_clo
Currency	28 Members		<input type="checkbox"/>	-	1/29/19 epm_default_clo
Intercompany	3 Members		<input type="checkbox"/>	-	1/29/19 epm_default_clo
Scenario	3 Members		<input type="checkbox"/>	-	1/29/19 epm_default_clo
Years	10 Members		<input type="checkbox"/>	-	1/29/19 epm_default_clo
Jurisdiction			<input type="checkbox"/>	-	1/29/19

3. メンバー・プロパティを表示または変更するディメンションの名前をクリックして、「**メンバー・プロパティの編集**」 をクリックします。関連する式や属性を含む、選択したメンバーの詳細が、ディメンション・エディタに表示されます。



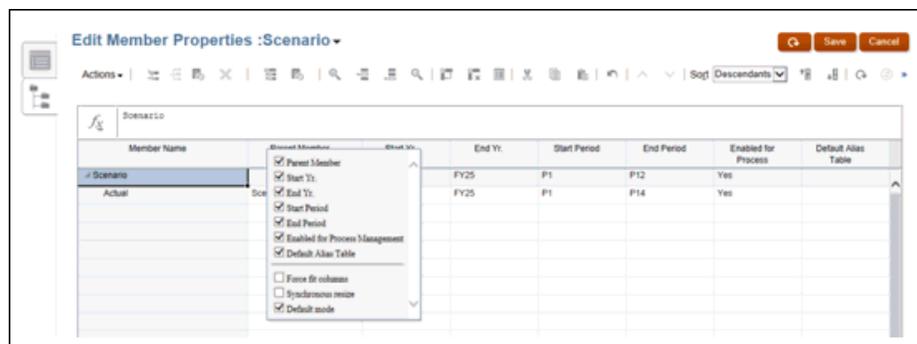
4. ディメンション名(勘定科目など)の横にあるキャレット をクリックして、選択したディメンションおよびメンバーのすべての属性を表示します。
- ドロップダウン・リスト内
 - 列ヘッダー

簡易ディメンション・エディタ・グリッドでメンバー・プロパティを編集するには、グリッド・セル内をクリックしてテキストを編集するか、ドロップダウン・メニューを開いて、そこからメンバー・プロパティを選択します。行および列でメンバー・プロパティをドラッグ・アンド・ドロップして、同じプロパティを埋めることもできます。

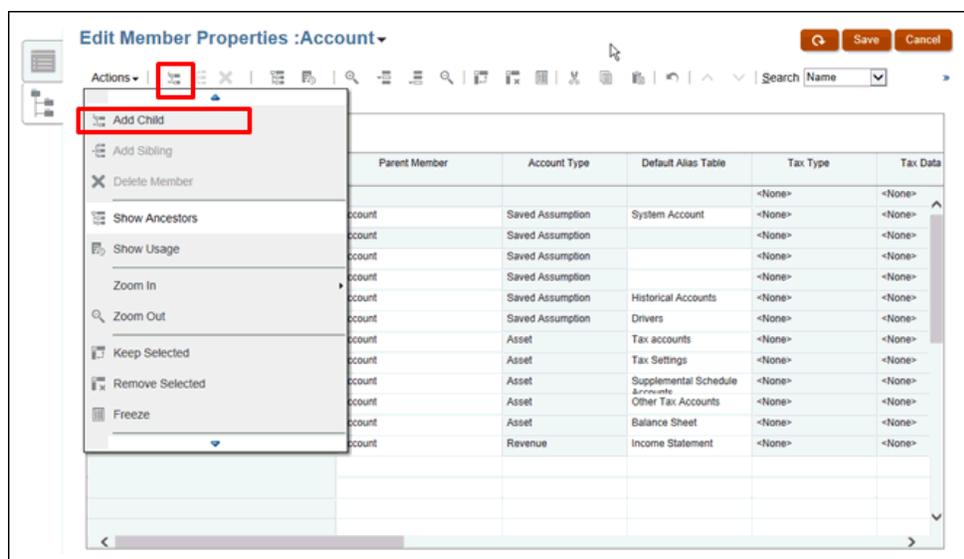


5. **オプション:** 表のビューを制御するには、「**メンバー名**」または「**親の名前**」の列ヘッダーを右クリックして、表の表示オプションを選択します。
- 使用可能なすべての列を画面に表示するには、「**列の自動調整**」を選択します。

- 各列を均等な幅で表示するには、「同期サイズ変更」を選択します。
- ドロップダウンで選択した列のみを表示するには、「デフォルト・モード」を選択します。「デフォルト・モード」をクリアすると、使用可能なすべての列が表示されます。



6. オプション: 「アクション」から、「子の追加」、「兄弟の追加」、「祖先の表示」または「用途の表示」など、ディメンション・プロパティを変更するためのオプションまたはアイコンを選択します。



7. オプション: 疎ディメンションに限っては、「作成」をクリックして属性ディメンションを追加します。
8. 「アクション」で、「メタデータ定義の検証」を選択してメンバー式の有効性を確認します。すべての検証エラーが表示され、続行する前にそれらを修正する必要があります。
9. 「保存」をクリックします。

14

データのインポートとエクスポート

関連トピック

- [データのインポート](#)
- [データのエクスポート](#)
- [データ・インポートおよびエクスポートのステータスの表示](#)

データのインポート

アプリケーションを準備するために、次のデータをロードします。

- 試算表データと納税申告書データを含む、帳簿データ

ノート:

試算表データを TRCS_TBClosing 増減および FCCS_Data Input または FCCS_Managed Data データ・ソースにロードする必要があります。その他の帳簿データ(固定資産の税務上の減価償却など)は、TRCS_BookClosing 増減および FCCS_Data Input または FCCS_Managed Data データ・ソースにロードできます。

- 永久調整と一時調整および課税損失調整と税額控除調整を含む、税金勘定科目データ
- 税金ロールフォワードの支払および払戻
- 平均従業員数(国別レポート)

データをロードする前に、次の条件を満たしていることを確認します。

- ロードするのは基本メンバーのみ
- データに有効なターゲット金額のみが含まれていること
- ロードする承認ユニットがまだロックされていないこと

ディメンションをインポートした後、データ・ファイルをインポートしてデータを移入できます。

ノート:

データをインポートする際、どの交差が有効であるかの検証は実行されず、すべての交差にデータがロードされます。無効な交差にロードされたデータを確認するには、データをインポートする前に無効な交差レポートを実行し、無効な交差をクリアします。[無効な交差レポートの作成](#)を参照してください。

データをインポートするには、サービス管理者またはパワー・ユーザーである必要があります。

ファイル・データをディメンションにマップするセクションが含まれるテキスト・ファイルを使用して、データをロードできます。複数のデータ・ファイルをロードする場合は、シーケンシャル順序でロードされます。

ノート:

Tax Reporting の所定の形式ではないファイルがある場合、または統合プロセスがネイティブ・データ・ロード・ユーティリティで扱える範囲を超える場合の制御が必要な場合、サービス管理者は、プロファイルの設定、データ・ロード・ルールの作成、マッピングの定義、および外部システムからのデータのロードを行うことができます。[データ管理を使用したデータのインポートとエクスポート](#)を参照してください

データをインポートするには:

- インポートする各アーティファクトのインポート・ファイルを作成します。[データ・インポート・ファイルの作成](#)を参照してください。
- 1つまたは複数のインポート・ファイルをロードします(一度に複数のディメンション・ファイルをインポートできます)。[データ・インポート・ファイルのロード](#)を参照してください。

ノート:

データのロード中に、レポートや帳簿、バッチを実行しないでください。

Tax Reporting でのデータのロードの詳細は、次のビデオを参照してください:  [概要: Tax Reporting Cloud でのデータのロード](#)。

データ・インポート・ファイルの作成

ロードを開始する前に、インポートする各アーティファクト(データ、スマート・リストおよび為替レート表)のインポート・ファイルを作成する必要があります。インポート・ファイルにはヘッダー・レコードが含まれている必要があり、ヘッダー・レコードの下には、インポートまたは更新するデータ・レコードのリストが含まれている必要があります。ファイルの形式は、**.csv** (カンマ区切り)または**.txt** (タブ区切りまたは他の区切り文字)にできます。

データ・ファイル・インポート・フォーマットの作成

ファイル・フォーマットは、行と列で構成されます。

最初の行は、列ヘッダーで構成されます。最初の列ヘッダーは、インポート・ディメンションのディメンション名です。その後に、ドライバ・ディメンションと呼ばれるもう1つのディメンションのメンバーが存在することがあります。次の列見出しは視点で、最後の列見出しはデータ・ロード・キューブ名です。

各行には、最初の列として、ロード・ディメンションのメンバーが含まれます。列の次のセットは、各ドライバ・メンバーのデータ値です。視点列には、データがインポートされるセルを一意に識別するための残りのディメンションのメンバーが含まれます。最後の列はキューブ名です(Consol、Rates または CbCR)。

ロード方法

アプリケーションにデータ・ファイルをロードするには、次のオプションを使用できます。

- **マージ** - アプリケーションのデータを、ロード・ファイルのデータで上書きするには、このオプションを使用します。データ・ロード・ファイルの各レコードは、セルにインポートされ、古い値がある場合は置換されます。
- **置換** - アプリケーションのデータを置換するには、このオプションを使用します。置換モードでは、特定のシナリオ/年/期間/エンティティ/マップされたデータ・ソースの最初のレコードが出現する前に、そのシナリオ、年、期間、エンティティおよびマップされたデータ・ソースのデータの組合せ全体が、手動で入力されたデータであるか以前にロードされたデータであるかに関係なくクリアされます。
- **Accumulation Type** - ロード・ファイルのデータを使用してアプリケーションのデータを累計するには、次のオプションのいずれかを選択します。
 - **なし** - データ・インポート・ファイルの各レコードによって、レコードのデータベースの既存の値を置換します。
 - **データベースを使用** - セルの既存の値にデータを追加します。
 - **ファイル内** - ファイル内のセルの値を累計します。

ロード方法の例

次の例では、ロード・オプションの動作を示します。アプリケーションに次のデータがあるとします。

```
Actual, FY15, Jan, California, Sales: 20,000
Actual, FY15, Jan, California, COGS, 10,000
Actual, FY15, Jan, California, Expenses: 5,000
```

ロード・ファイルには次のデータが含まれます。

```
Entity, Sales, COGS, Point-of-View, Data Load Cube Name
California, 10000, 15000, ("Actual","FY15","Jan"), Consol
California, 25000, 5000, ("Actual","FY15","Jan"), Consol
```

次の例は、次のオプションの組合せを使用してインポートを行った後のデータを示しています。

マージ、なし

```
Actual, FY15, Jan, California, Sales : 25,000 (second record wins)
Actual, FY15, Jan, California, COGS : 5,000 (second record wins)
Actual, FY15, Jan, California, Expenses : 5,000
```

置換、なし

```
Actual, FY15, Jan, California, Sales : 25,000
Actual, FY15, Jan, California, COGS : 5,000
Actual, FY15, Jan, California, Expenses : #MI (Replace clears everything in SYPE combination)
```

マージ、データベースを使用

```
Actual, FY15, Jan, California, Sales : 55,000 (Accumulate two records with existing value in database)
Actual, FY15, Jan, California, COGS : 30,000
Actual, FY15, Jan, California, Expenses : 5,000
```

置換、データベースを使用

```
Actual, FY15, Jan, California, Sales : 35,000
Actual, FY15, Jan, California, COGS : 20,000
Actual, FY15, Jan, California, Expenses : #MI (Replace clears all the data before the import)
```

マージ、ファイル内

```
Actual, FY15, Jan, California, Sales : 35,000
Actual, FY15, Jan, California, COGS : 20,000
Actual, FY15, Jan, California, Expenses : 5,000
```

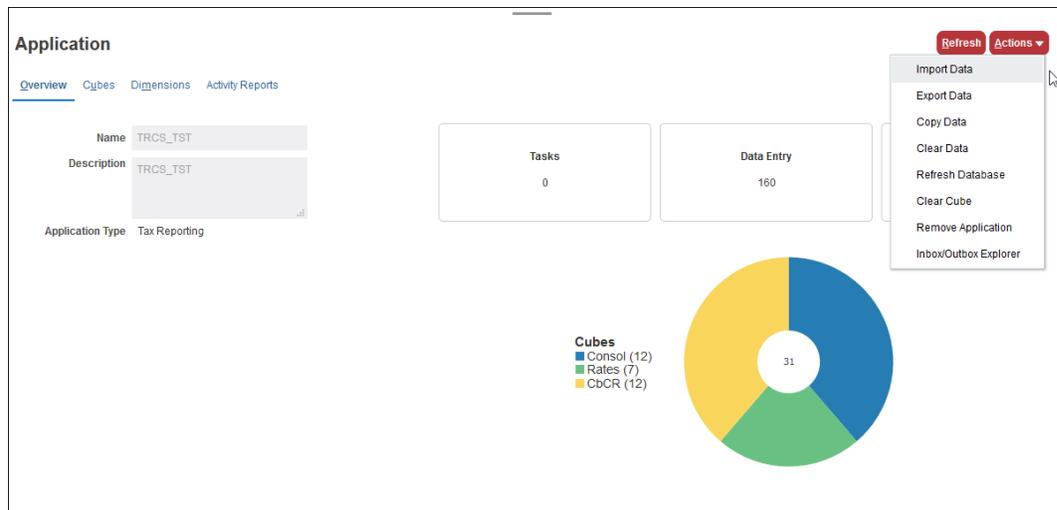
置換、ファイル内

```
Actual, FY15, Jan, California, Sales : 35,000
Actual, FY15, Jan, California, COGS : 20,000
Actual, FY15, Jan, California, Expenses : #MI
```

データ・インポート・ファイルのロード

データ・ファイルをインポートするには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「概要」をクリックします。
2. 「アプリケーション」画面で、「概要」タブをクリックし、「アクション」から「データのインポート」をクリックします。



3. 「データのインポート」画面で「作成」をクリックします。2つ目の「データのインポート」画面が表示されます。

The screenshot shows the 'Import Data' configuration screen. It includes options for 'Location' (Local selected, Inbox), 'Source Type' (Planning selected, Essbase), 'File Type' (Comma delimited selected, Tab delimited, Other), 'Import Mode' (Merge), 'Accumulation Type' (None), 'Source File' (Browse...), and 'Date Format' (MM-DD-YYYY). A 'Last Completed' status is shown at the bottom.

4. 「場所」で、データ・インポート・ファイルの場所を選択します。
 - ローカル - 自分のコンピュータ上の場所からデータ・インポート・ファイルをインポートします。
 - 受信ボックス - サーバーからデータ・インポート・ファイルをインポートします。
5. 「ソース・タイプ」で、データ・ソース・タイプを選択します。
 - Planning
 - Essbase
6. 「ファイル・タイプ」で、次のオプションを選択します。
 - カンマ区切り
 - タブ区切り
 - その他 - インポート・ファイルで使用する区切り文字を入力します。サポートされている区切り文字と例外のリストは、他のサポートされている区切り文字を参照してください。

7. **インポート・モード**を選択します。
 - **マージ** - アプリケーションのデータを上書きします。データの各レコードは、セルにインポートされ、古いデータがある場合は置換されます。
 - **置換** - アプリケーションのデータを置換します。置換モードでは、特定のシナリオ/年/期間/エンティティの最初のレコードが出現する前に、そのシナリオ、年、期間およびエンティティのデータの組合せ全体がクリアされます。
8. **累積タイプ**を選択します。
 - **なし** - レコードのデータベースの既存の値を置換します。
 - **データベースを使用** - セルの既存の値にデータを追加します。
 - **ファイル内** - ファイル内のセルの値を累計します。
9. ソース・ファイルを選択します。「**ソース・ファイル**」でソース・ファイルを参照して選択し、「**更新**」をクリックします。
 - 「**ローカル**」を選択した場合、「**参照**」をクリックし、ファイルに移動します。
 - 「**受信ボックス**」を選択した場合、「**ソース・ファイル**」にファイルの名前を入力します。
10. 「**日付フォーマット**」で、使用するフォーマットを選択します。
11. 「**最終インポート**」で、前回のインポートの日付を確認します。これが初めての場合、表示するデータがないことを示すメッセージが表示されます。
12. **オプション**: 選択した場所が「**受信ボックス**」の場合、「**ジョブとして保存**」をクリックしてインポート操作をジョブとして保存します。ジョブは、即座に実行するようスケジュールすることも、後で実行するようスケジュールすることもできます。
13. **オプション**: 選択した場所が「**ローカル**」の場合、「**検証**」をクリックして、インポート・ファイルの形式が正しいかどうかをテストします。
14. **オプション**: インポートを開始する前に、選択したオプションを確認します。

 **ノート:**

データをインポートする際、どの交差が有効であるかの検証は実行されず、すべての交差にデータがロードされます。無効な交差にロードされたデータを確認するには、データをインポートする前に無効な交差レポートを実行し、無効な交差をクリアします。 [無効な交差レポートの作成](#)を参照してください。

15. 「**インポート**」をクリックします。
16. データが正常に送信されたという情報メッセージで、「**OK**」をクリックします。
17. インポート・プロセスの詳細を表示するには、「**アプリケーション**」をクリックして「**ジョブ**」をクリックし、「**最近のアクティビティ**」で詳細を表示するインポートのリンクをクリックします。

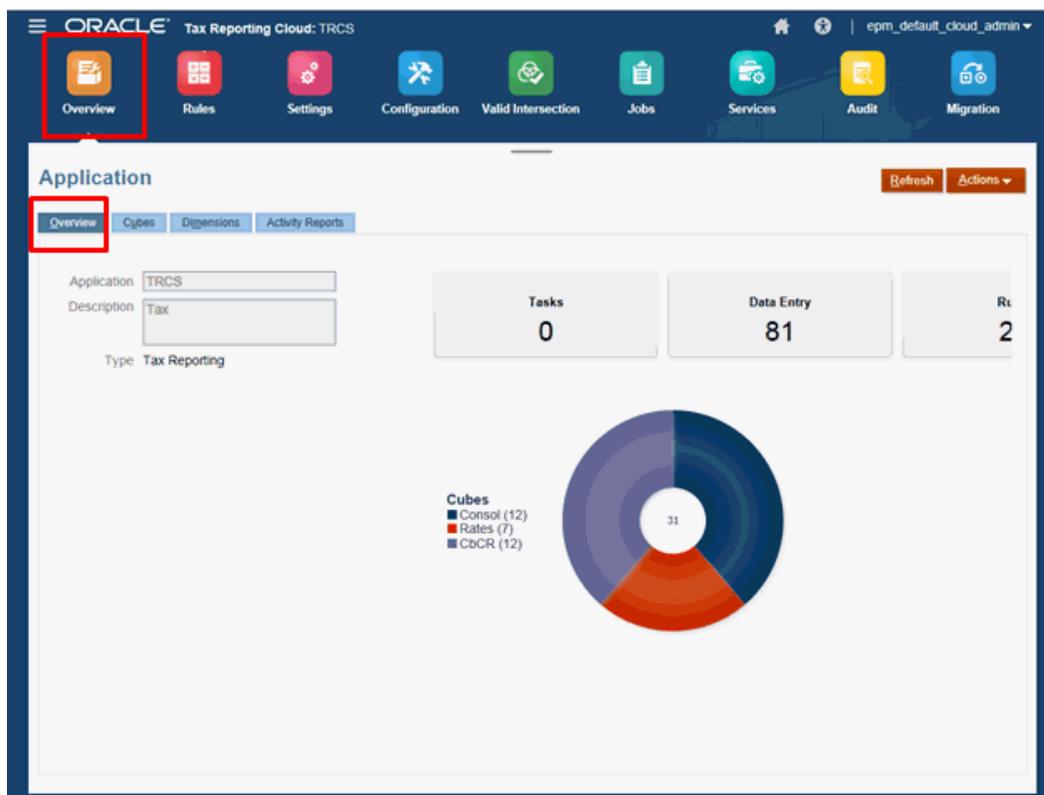
データのエクスポート

データのエクスポートは、「アプリケーション」ページから行います。

別の方法として、データ管理を使用してデータをエクスポートすることもできます。Oracle Tax Reporting Cloud を使用して、ソースとなるカスタム・アプリケーションを作成し、データ管理からデータをエクスポートして、エクスポート・ファイルを保存します。[データ管理を使用したデータのインポートとエクスポート](#)を参照してください。

データをエクスポートするには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「概要」をクリックします。
2. 「概要」タブをクリックし、「アクション」から「データのエクスポート」をクリックします。



3. 「データのエクスポート」画面で「作成」をクリックします。2つ目の「データのエクスポート」画面が表示されます。

4. 「データのエキスポート」 ページで、データ・エキスポート・ファイルのターゲットの場所を選択します。
 - **ローカル** - 自分のコンピュータ上の場所にデータ・エキスポート・ファイルを保存します。
 - **送信ボックス** - データ・エキスポート・ファイルをサーバーに保存します。
5. 「キューブ」 で、「Consol」、「Rates」 または 「CbCR」 を選択します。
6. 「ファイル・タイプ」 で、エキスポート・ファイルのオプションを選択します。
 - **カンマ区切り** - 各アーティファクトのカンマ区切りの.csv ファイルを作成します。
 - **タブ区切り** - 各アーティファクトのタブ区切りの.txt ファイルを作成します。
 - **その他** - 各アーティファクトの.txt ファイルを作成します。エキスポート・ファイルで使用する区切り文字を入力します。サポートされている区切り文字と例外のリストは、[他のサポートされている区切り文字](#)を参照してください。
7. 「スマート・リスト」 で、「ラベルのエキスポート」 または 「名前のエキスポート」 を指定します。
8. 「動的メンバー」 で、「含む」 または 「除外」 を選択します。
9. 「スライス定義」 で、エキスポートするデータのスライスの行、列および視点を選択します。
10. データをエキスポートするアクションを選択します。
 - 選択した場所が「送信ボックス」 の場合、「ジョブとして保存」 をクリックしてエキスポート操作をジョブとして保存します。ジョブは、即座に実行するようスケジュールすることも、後で実行するようスケジュールすることもできます。

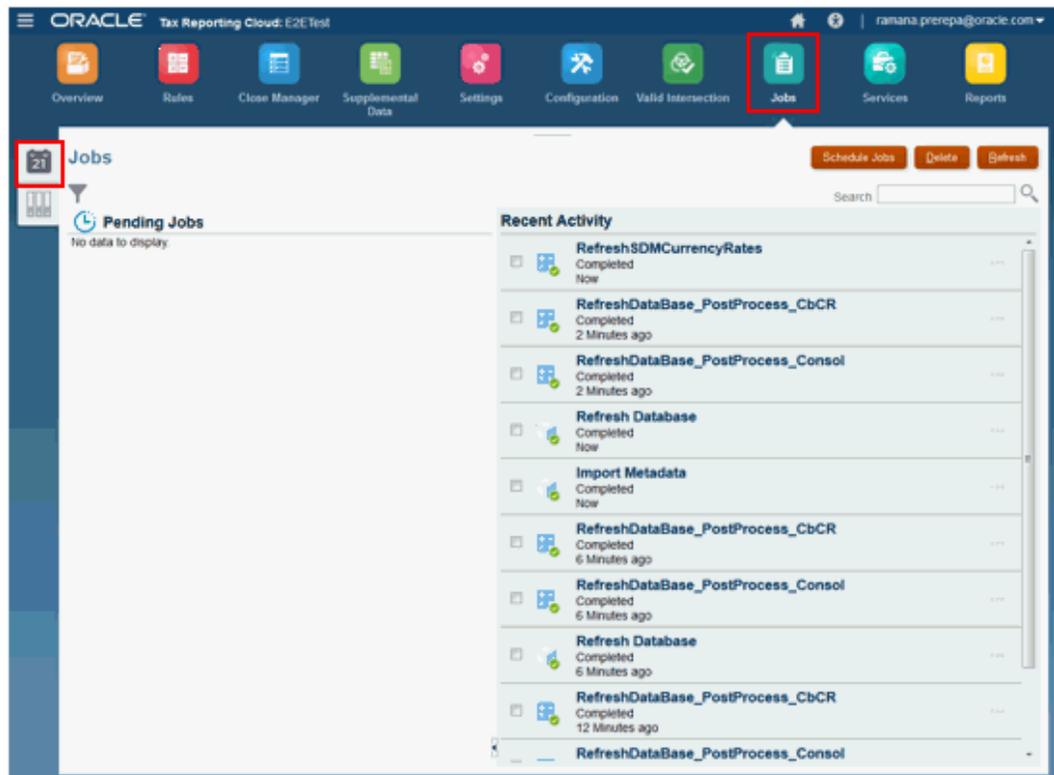
- 選択した場所が「ローカル」の場合、「エクスポート」をクリックしてデータ・エクスポート・ファイルを保存する場所を指定します。

データ・エクスポート・ファイルのサイズを削減するために、フォームに全体が#Missing 値の行が含まれる場合、その行はデータ・エクスポート・ファイルから省略されます。

データ・インポートおよびエクスポートのステータスの表示

「ジョブ」画面に、最近のインポートおよびエクスポート・ジョブの詳細が表示されます。

1. ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「ジョブ」をクリックします。



2. 「ジョブ」タブを選択します。
3. 「最近のアクティビティ」で、詳細を表示するインポートまたはエクスポート・ジョブの名前をクリックします。
4. 「保留中のジョブ」に、実行がスケジュールされているジョブが表示されます。

データ管理を使用したデータのインポートとエクスポート

関連トピック

- [データ管理を使用したデータのインポート](#)
- [データ管理を使用したデータのエクスポート](#)

データ管理を使用したデータのインポート

データ管理を使用すると、外部ソース・システムのデータを Oracle Financial Consolidation and Close Cloud と統合できます。ソース・システムのデータは、フラット・ファイルまたは Microsoft Excel ファイルにエクスポートされます。フラット・ファイルのそのデータを Oracle Financial Consolidation and Close Cloud のディメンション構造にマップしてから、アプリケーションにインポートします。たとえば、期間マッピングを定義して、ソース・システムの期間名とキーをアプリケーションの期間と年にマップします。カテゴリ・マッピングでは、ソース・システムのデータ・カテゴリが、アプリケーションのデータ・カテゴリおよび頻度にマップされます。

データ管理を使用して外部システムからデータをロードする前に、管理者は次の設定タスクを実行する必要があります。

- インポート・フォーマットを定義して、ソース・データ・ファイルのレイアウトを定義します。データ・ソースの列やフィールドを Oracle Financial Consolidation and Close Cloud のデータ構造に、どのようにマップするかを指定してください。
- データ統合に関連付ける場所を作成します。それぞれの場所には、それぞれのデータ・ロード・マッピングとデータ・ロード・ルールがあります。
- 各場所のデータ・ロード・マッピングを定義することにより、各ディメンションのソース・システム・メンバー名を対応するアプリケーションのメンバー名にマップします。
- データ・ロード・ルールを作成することにより、選択したカテゴリおよび期間にロードするデータ・ファイルを指定します。データ・ロード・ルールを後から実行する場合は、「毎日」や「毎週」などのスケジュール・オプションを選択できます。

設定プロセスでは、データをデータのステージング表にインポートし、アプリケーションにロードする前に、設定とメンバー・マッピングが正しいことを検証できます。

データ管理マッピングを定義したら、そのマッピングとデータ・ロード・ルールを必要に応じて更新できます。たとえば、ある場所に新しい勘定科目やディメンション・メンバーが追加された場合や、メンバー名が変更された場合は、ソース・システムのメンバー名からアプリケーションのメンバー名へのマッピングを更新します。

サービス管理者またはパワー・ユーザーの役割があれば、「データ管理」からデータをロードできます。

データのインポート・プロセスが終了したら、データ・フォームを開いて、データが正常にロードされたことを検証します。データ・フォームのセルからドリル・スルーして、そのセルにロードされたソース・データを表示できます。

データ管理にアクセスするには:

1. 「ナビゲータ」アイコン  をクリックし、「統合」の下の「データ管理」をクリックします。
2. 「設定」タブをクリックし、Oracle Enterprise Performance Management Cloud データ統合の管理ガイドの手順に従ってください。

データ統合に関する詳細は、次のビデオを参照してください。

- [データ統合の設定](#)
- [データ統合の実行と更新](#)

データ管理を使用したデータのエクスポート

アプリケーションからデータをエクスポートして分析したり、他のシステムにインポートしたりできます。データ管理を使用してデータをエクスポートし、ステージング表でステージングしてから、区切り文字入りのフラット・ファイルにエクスポートします。

サービス管理者の役割があれば、データ管理からデータをエクスポートできます。

サービス管理者は、まずデータ管理で設定タスクを実行して、データ・エクスポートを設定する必要があります。

- カスタム・ターゲット・アプリケーションを追加します。抽出したデータは、フラット・ファイルにエクスポートする前に、ターゲット・アプリケーションに格納されます。
- エクスポート・プロセスの「アプリケーション詳細」と「ディメンションの詳細」を指定します。
- ソース・システムからターゲット・アプリケーションのディメンションにデータをマップする「インポート・フォーマット」を定義します。
- インポート・フォーマットをデータ・ロード・ルールにリンクする場所を作成します。
- 各場所のデータ・マッピングを定義することにより、各ディメンションのソース・システム・メンバー名を対応するターゲット・アプリケーション名にマップします。
- データ抽出プロセスを実行するデータ・ロード・ルールを作成します。

データ・エクスポート・プロセスを実行すると、「ステータス」列に現在のステータスが表示されます。データは、データ管理でステージングされます。「プロセスの詳細」ページからデータ・ファイルをダウンロードして、データ・ファイルを保存することができます。

データ管理にアクセスするには:

1. 「ナビゲータ」アイコン  をクリックし、「統合」の下の「データ管理」をクリックします。
2. 「設定」タブをクリックし、Oracle Enterprise Performance Management Cloud データ統合の管理ガイドの手順に従ってください。

データ管理を使用したデータ抽出の詳細は、次のビデオをご覧ください。



データ管理を使用したデータの抽出.

16

税率の設定

関連トピック

- [税率の設定](#)
- [税率の入力](#)
- [繰延税金のオーバーライド・レート\(国\)の適用](#)
- [繰延税金のオーバーライド・レート\(地域\)の適用](#)
- [今年度のすべての増減への期末レートの適用](#)
- [前年度調整\(繰延のみ\)列への期首税率の適用](#)

税率の設定

Tax Reporting では、法的エンティティ・レベルで適切な国の法人税率と地域の法人税率および配賦率を入力する必要があります。

税率フォームには、特定のエンティティの国および地域の引当金をシステムが計算するために必要な国および地域の税率と配賦率が含まれます。

Tax Rates Deferred Tax Override Rates Deferred Tax Override Rates Regional									
Tax Rates ⓘ									
Scenario	Years	Period	Entity						
Actual	FY16	P1	DefTax(USD)						
	Prior Year Current Tax Rate	Current Year Current Tax Rate	Opening Deferred Tax Rate - Non Current	Closing Deferred Tax Rate - Non Current	Opening Regional Tax Apportionment	Current Year Regional Tax Apportionment	Closing Regional Tax Apportionment	Active Region Flag	
United States	50%	50%	25%	20%					
Alabama									
US Blended	2%	2%	5%	3%	100%	100%	100%	Active	

各管轄で次のレート・タイプを使用できます。

表 16-1 税率タイプ

税率タイプ	説明
前年度現行税率	前年の国の法定税率。このレートは、情報目的で使用されます。

表 16-1 (続き) 税率タイプ

税率タイプ	説明
今年度現行税率	<p>当期の国の法定税率。このレートは、次の計算で使用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 当期引当金 • 繰延税金ロールフォワードの今年度アクティビティ • 連結有効税率レポートの外国レート差額 • 繰延税金ロールフォワードの今年度税率変更コンポーネント
期首繰延税率 - 非流動	<p>流動として分類される一時差異で使用される期首繰延税率。このレートは、次の計算で使用されません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 期首繰延税金の資産と負債 • 繰延税金ロールフォワードの期首レート変更コンポーネント
期末繰延税率 - 非流動	<p>非流動として分類される一時差異で使用される期末繰延税率。期末繰延税金の資産/負債と、繰延税金ロールフォワードの期首および今年度のレート変更コンポーネントの計算で使用されます。</p>
期首地域税金配賦	<p>繰延引当金の期首税金残高の計算でシステムに使用される前年度配賦パーセンテージ。</p>
今年度地域税金配賦	<p>繰延引当金の今年度アクティビティに基づいた当期引当金および税金の配賦利益の計算でシステムに使用される今年度配賦パーセンテージ。</p>
期末地域税金配賦	<p>繰延引当金の期末税金残高の計算でシステムに使用される期末配賦パーセンテージ。</p>
アクティブな地域フラグ	<p>法人税引当金を計算する必要がある地域(米国の州など)を指定します。</p>

 ヒント:

国と地域の管轄の間でデータが正しく流れるようにするには、国の税率で、アクティブな各管轄に対してアクティブな地域フラグを「**アクティブ**」に設定する必要があります。

税率の入力

「税率」フォームを使用して、特定のエンティティの国および地域の引当金をシステムが計算するために必要なアプリケーションのグローバル税率を入力します。

 ノート:

特定の一時差異勘定科目(課税損失)は、国税庁または国レベルの規則に基づいて、低減された法定レートで税金が影響を受けます。特定の一時差異勘定科目の繰延税金のオーバーライド・レートを入力する必要がある場合は、次の項を参照してください:

- 繰延税金のオーバーライド・レート(国)の適用
- 繰延税金のオーバーライド・レート(地域)の適用

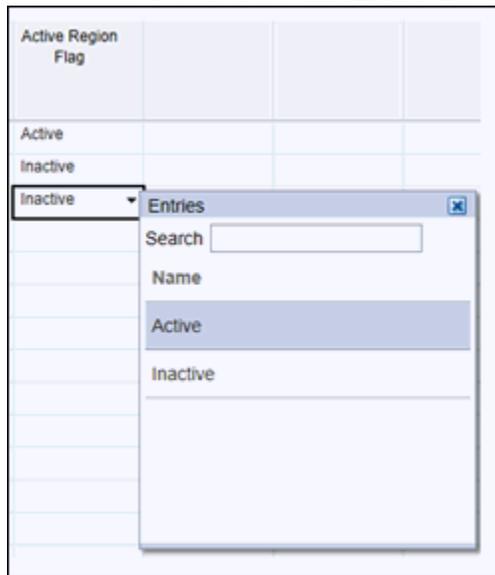
グローバル税率を入力するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」、「構成」の順に選択します。
2. 「税率」タブを選択します。フォームの各列の説明は、[税率の設定](#)を参照してください。

Tax Rates Deferred Tax Override Rates Deferred Tax Override Rates Regional									
Tax Rates ⓘ									
Scenario	Years	Period	Entity						
Actual	FY16	P1	DefTax(USD)						
	Prior Year	Current Year	Opening	Closing	Opening	Current Year	Closing	Active Region	
	Current Tax	Current Tax	Deferred Tax	Deferred Tax	Regional Tax	Regional Tax	Regional Tax	Flag	
	Rate	Rate	Rate - Non	Rate - Non	Apportionment	Apportionment	Apportionment		
			Current	Current					
United States	50%	50%	25%	20%					
Alabama									
US Blended	2%	2%	5%	3%	100%	100%	100%	Active	

3. 「メンバーの編集」  をクリックし、シナリオ、年、期間およびエンティティ・ディメンションのメンバーを選択して視点を設定します。使用可能な場合、選択したエンティティの国内所在地と任意の地域の行が表示されます。デフォルトで、法人税引当金は、地域管轄では計算されません。

4. アクティブな地域フラグ列で、「アクティブ」を選択して、選択したエンティティ・メンバーのその地域での税引当計算をアクティブ化します。



ヒント:

国と地域の管轄の間でデータが正しく流れるようにするには、「税率」で、アクティブな各管轄に対してアクティブな地域フラグを「**アクティブ**」に設定する必要があります。

5. 各タイプの税率を入力します。
パーセンテージの税率を小数点形式で入力し、**[Enter]**を押します。たとえば、**.05**を入力すると、**5%**と表示されます。
6. 「**保存**」をクリックします。
7. エンティティを連結して変更後の税率を適用し、税引当で新しいレートを使用します。

繰延税金のオーバーライド・レート(国)の適用

税率を入力するとき、特定の一時差異勘定科目(課税損失)は、国税庁または国レベルの規則に基づいて、低減された法定レートで税金が影響を受けます。繰延税金を説明するために、各項目が逆仕訳される時期に基づいて、一時差異別に税率を評価できます。**GAAP** から法定、および法定から税金の一時差異勘定科目のみ使用可能です。この機能は自動的に有効になりますが、勘定科目オーバーライド税率が入力されていない場合、適切なエンティティ税率が適用されます。

繰延税金計算の税率オーバーライドを特定の一時差異勘定科目に適用できます。繰延税金のオーバーライド・レートは、差異の逆仕訳パターンに基づいて、勘定科目レベルで変化する税率シナリオのブレンドされた税率を適用するのに使用されます。

 ノート:

資本一時差異勘定科目では、今年度の増減が逆仕訳によって消去されるため、資本逆仕訳ターゲット勘定科目属性が適用されると、繰延税金の差異(差分)は計算されません。したがって、レート調整には影響はありません。

繰延税金のオーバーライド・レートは今年度の税率と異なり、繰延税金の計算にのみ適用されます。

- オーバーライド税率を定義しないと、今年度の税率を使用して税金が計算されます。
- オーバーライド税率を定義すると、その税率を使用して、すべての期末メンバーの税金が計算されます。今年度の税率とオーバーライド税率の差異が計算され、対応するロールフォワード・メンバーにその金額が保管されます。

例:

今年度の税率: 30%、オーバーライド税率: 40%

TRCS_CYSys->TRCS_PreTax = 10,000

TRCS_CYSys->TRCS_Tax = 3,000

(自動オーバーライド税率差分) TRCS_CYSysTR->TRCS_Tax = 1000 (つまり、 $10000 * (40\% - 30\%)$)

(自動オーバーライド税率 = 自動 + 自動オーバーライド税率差分) TRCS_CYSysDT->TRCS_Tax = 4000

今年度の税率で「自動」(TRCS_CYSYS)および「調整」(TRCS_CYADJ)メンバーが計算され、次に今年度の税率と繰延税金のオーバーライド・レートの差異が計算され、自動オーバーライド税率差分(TRCS_CYSysTR) / 調整オーバーライド税率差分(TRCS_CYADJTR)増減メンバーの金額が保管されます。

オーバーライド税率差分の対象は「自動」および「調整」列のみです。

 ノート:

勘定科目がエンティティ一時勘定科目と識別された場合、TRCS_CYSys および TRCS_CyAdj の金額は TRCS_CYSysReversal および TRCS_CyAdjReversal に逆仕訳されます。

国または地域の繰延税金のオーバーライド・レートが保存された後は、調整されたオーバーライド・レートが計算で自動的に使用されます。

繰延税金勘定科目別に税率オーバーライドを適用するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」、「構成」の順に選択します。
2. 「構成」画面で「税率」を選択します。必要な場合は、今年度の税率を入力します(税率のを入力を参照)。
3. 「繰延税金のオーバーライド・レート」タブを選択します。

Tax Rates Deferred Tax Override Rates Deferred Tax Override Rates Regional						
Deferred Tax Override Rates ⓘ						
Scenario Actual	Years FY16	Period P1	Entity DefTax(USD)	Jurisdiction United States		
				Override Tax Rate Opening	Override Tax Rate Current Year	Override Tax Rate Closing
GAAP/Stat - LT						
GAAP/Stat - ST						
☐ Total Temporary Differences (GAAP to Stat)						
PPE						
UCC						
MACRS						
ARO						
Finance Cost						
Stock Compensation						
Equity/OCI						
Intangible				20%	40%	30%
FAPI						
Pension						
Temp ST1						
Temp ST2						
StockComp						
☐ Total Temporary Differences (Stat to Tax)						
Tax Losses - Carryforward Automated						
Capital Losses - Carryforward Automated						

4. 繰延税金のオーバーライド・レートを適用する、必要な POV を選択します。
5. 選択した勘定科目に対して、各タイプの税率を入力します:
 - a. **オーバーライド税率(期首)**で、必要なオーバーライド税率の値を入力します。
 - b. **オーバーライド税率(今年度)**で、今年度のオーバーライド税率の値を入力します。
 - c. **オーバーライド税率(期末)**で、オーバーライド税率の期末値を小数点形式で入力します。たとえば、.05 を入力すると、5%と表示されます。

 **ノート:**

今年度のすべての増減に期末税率を適用する場合は、今年度の増減に対して期末レートが使用されます。期首レートと期末レートが異なる時、期首レート変更がある場合でも、今年度のレート変更は計算されません。

6. 「保存」をクリックします。

繰延税金のオーバーライド・レート(地域)の適用

税率を入力するとき、特定の地域一時差異勘定科目(課税損失)は、国税庁または国レベルの規則に基づいて、低減された法定レートで税金が影響を受けます。地域管轄の繰延税金を説明するために、各項目が逆仕訳される時期に基づいて、一時差異別に税率を評価できます。この機能は自動的に有効になりますが、勘定科目オーバーライド税率が入力されていない場合、適切なエンティティ税率が適用されます。

地域フォームでは、国および地域の両方について、GAAP から法定、および法定から税金の一時差異勘定科目が使用可能です。状態が「アクティブ」に設定されると、国の一時差異は地域フォームに移動され、国の値を地域オーバーライド税率の地域の値で上書きできます。

ノート:

資本一時差異勘定科目では、今年度の増減が逆仕訳によって消去されるため、資本逆仕訳ターゲット勘定科目属性が適用されると、繰延税金の差異(差分)は計算されません。したがって、レート調整には影響はありません。

繰延税金のオーバーライド・レートは今年度の税率と異なり、繰延税金の計算にのみ適用されます。

- オーバーライド税率を定義しないと、今年度の税率を使用して税金が計算されます。
- オーバーライド税率を定義すると、その税率を使用して、すべての期末メンバーの税金が計算されます。今年度の税率とオーバーライド税率の差異が計算され、対応するロールフォワード・メンバーにその金額が保管されます。

例:

今年度の税率: 30%、オーバーライド税率: 40%

TRCS_CYSys->TRCS_PreTax = 10,000

TRCS_CYSys->TRCS_Tax = 3,000

(自動オーバーライド税率差分) TRCS_CYSysTR->TRCS_Tax = 1000 (つまり、 $10000 * (40\% - 30\%)$)

(自動オーバーライド税率 = 自動 + 自動オーバーライド税率差分) TRCS_CYSysDT->
TRCS_Tax = 4000

今年度の税率で「自動」(TRCS_CYSYS)および「調整」(TRCS_CYADJ)メンバーが計算され、次に今年度の税率と繰延税金のオーバーライド・レートの差異が計算され、自動オーバーライド税率差分(TRCS_CYSysTR) / 調整オーバーライド税率差分(TRCS_CYAdjTR)増減メンバーの金額が保管されます。

オーバーライド税率差分の対象は「自動」および「調整」列のみです。

 ノート:

勘定科目がエンティティ一時勘定科目と識別された場合、TRCS_CYSys および TRCS_CyAdj の金額は TRCS_CYSysReversal および TRCS_CyAdjReversal に逆仕訳されます。

国または地域の繰延税金のオーバーライド・レートが保存された後は、調整されたオーバーライド・レートが計算で自動的に使用されます。

繰延税金勘定科目別に税率オーバーライドを適用するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」、「構成」の順に選択します。
2. 「構成」画面で「税率」を選択します。必要な場合は、今年度の税率を入力します(税率の入力を参照)。
3. 「繰延税金のオーバーライド・レート」タブを選択します。

Tax Rates Deferred Tax Override Rates Deferred Tax Override Rates Regional										
Deferred Tax Override Rates Regional ⓘ										
Scenario Actual	Years FY16	Period P1	Entity DeTax(USD)	Jurisdiction US Blended	Override Tax Rate Opening	Override Tax Rate Current Year	Override Tax Rate Closing	Override Tax Rate Apportionment Opening	Override Tax Rate Apportionment Current Year	Override Tax Rate Apportionment Closing
GAAP/Stat - LT										
GAAP/Stat - ST										
<input type="checkbox"/> Total Temporary Differences (GAAP to Stat)										
PPE										
UCC										
MACRS										
ARO										
Finance Cost										
Stock Compensation										
Equity/OCI										
Intangible					2%	2%	3%	1%	1%	1%
FAP										
Pension										
Temp ST1										
Temp ST2										
StockComp										
<input type="checkbox"/> Total Temporary Differences (Stat to Tax)										
<input type="checkbox"/> Total Temporary Differences										
MACRS - Fed Reversal										
MACRS - US State										
<input type="checkbox"/> Total Regional Temporary Differences										
Regional Tax Loss 1 - Carryforward Pre- Apport										
Regional Tax Loss 2 - Carryforward Pre- Apport										

4. 繰延税金のオーバーライド・レート(地域)を適用する、必要な POV を選択します。
5. 選択した勘定科目に対して、各タイプの税率を入力します:
 - a. **オーバーライド税率(期首)**で、必要なオーバーライド税率の値を入力します。
 - b. **オーバーライド税率(今年度)**で、今年度のオーバーライド税率の値を入力します。
 - c. **オーバーライド税率(期末)**で、オーバーライド税率の期末値を小数点形式で入力します。たとえば、.05 を入力すると、5%と表示されます。

 ノート:

今年度のすべての増減に期末税率を適用する場合は、今年度の増減に対して期末レートが使用されます。期首レートと期末レートが異なるとき、期首レート変更がある場合でも、今年度のレート変更は計算されません。

- d. **オーバーライド税率配賦(期首)**で、必要なオーバーライド税率配賦の値を入力します。
 - e. **オーバーライド税率配賦(今年度)**で、必要なオーバーライド税率配賦の値を入力します。
 - f. **オーバーライド税率配賦(期末)**で、必要なオーバーライド税率配賦の値を入力します。
6. 「保存」をクリックします。

今年度のすべての増減への期末レートの適用

デフォルトで今年度のレートを適用するのではなく、今年度のすべての増減に期末レートを適用するように代替変数を構成できます。

この変数を作成してもデータ・エンティティに影響を与えないため、プロパティを設定した後、最初の連結の前に、エンティティが「影響」ステータスに設定されていることを確認する必要があります。

今年度のすべての増減に期末レートを適用するには:

1. ホーム・ページで「ツール」を選択し、「変数」を選択します。
2. 「変数」フォームで、「代替変数」を選択します。
3. 「追加」アイコン  をクリックして、新しい変数を作成します。
4. 新しい変数について、次の情報を入力します:
 - 「キューブ」で、「Consol」を選択します
 - 「変数名」に、**ApplyDeferredTaxClosingRate** と入力します。
 - 「値」に、**true** と入力します。

Variables			+ Delete Save
User Variables Substitution Variables			
Search <input type="text"/>			
Cube	Name	Value	
Consol	▼ PMPeriod13	P13	✕
Consol	▼ PMPeriod14	P14	✕
Consol	▼ PMPeriod2	P2	✕
Consol	▼ PMPeriod3	P3	✕
Consol	▼ PMPeriod4	P4	✕
Consol	▼ PMPeriod5	P5	✕
Consol	▼ PMPeriod6	P6	✕
Consol	▼ PMPeriod7	P7	✕
Consol	▼ PMPeriod8	P8	✕
Consol	▼ PMPeriod9	P9	✕
Consol	▼ ApplyDeferredTaxClosingRate	true	✕

5. 「保存」をクリックします。
6. アプリケーションを連結する前に、次のステップを実行して、すべてのエンティティが「影響」ステータスに設定されていることを確認します。
 - a. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「概要」の順に選択し、「ルール」を選択します。
 - b. 「ビジネス・ルール」ページの「名前」で、「Consol キューブでのデータのあ
るエンティティへの影響」を選択します。
 - c. 「連結」を実行する前に、「起動」をクリックしてビジネス・ルールを適用しま
す。

最初に、今年度の税率で「自動」(TRCS_CYSYS)および「調整」(TRCS_CYADJ)メンバーが計算されます。次に、今年度の税率と期末レートとの差異が計算され、自動オーバーライド税率差分(TRCS_CYSysTR) / 調整オーバーライド税率差分 (TRCS_CYAdjTR)増減メンバーの金額が保管されます。

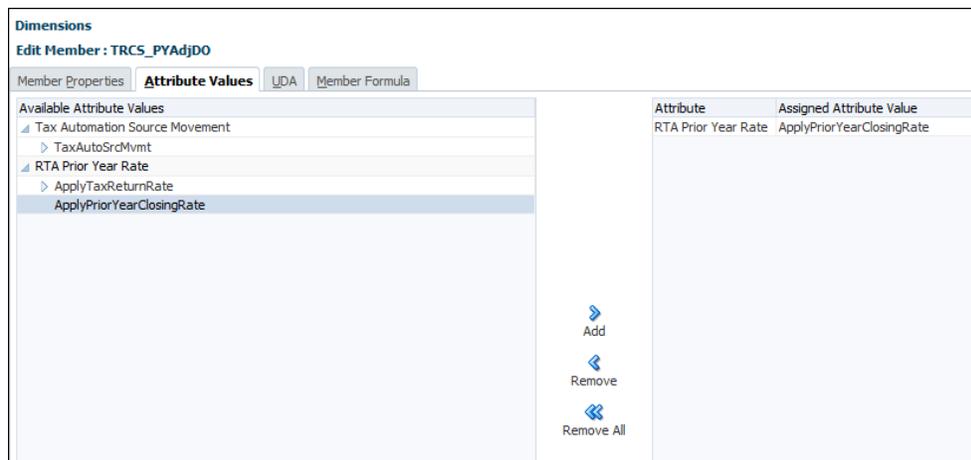
勘定科目が資本一時勘定科目と識別された場合、TRCS_CYSys および TRCS_CyAdj の金額は TRCS_CYSysReversal および TRCS_CyAdjReversal に逆仕訳されます

前年度調整(繰延のみ)列への期首税率の適用

前年度調整(繰延のみ)列(TRCS_PYADJDO)に前年度期末レートを適用する設定を作成できます。

前年度調整(繰延のみ)列に期首税率を適用するには:

1. ナビゲータ  から、「ディメンション」を選択します。
2. 「ディメンション」で、「増減」ディメンションを選択します。
3. TRCS_PYADJDO メンバーを検索し、「編集」をクリックします。
4. 「属性値」タブを選択し、「RTA Prior Year Rate」を展開します。
5. 「ApplyPriorYearClosingRate」を選択し、「追加」、「保存」の順にクリックしま
す。



Dimensions	
Edit Member: TRCS_PYADJDO	
Member Properties Attribute Values LDA Member Formula	
Available Attribute Values	Attribute
<ul style="list-style-type: none"> ▲ Tax Automation Source Movement ▶ TaxAutoSrcMvmt ▲ RTA Prior Year Rate ▶ ApplyTaxReturnRate ▶ ApplyPriorYearClosingRate 	Assigned Attribute Value
	RTA Prior Year Rate ApplyPriorYearClosingRate
 Add  Remove  Remove All	

6. データベースをリフレッシュします。

17

データの連結

関連トピック

- [連結プロセス](#)
- [会社間消去](#)
- [データの連結](#)
- [連結ロジック](#)
- [換算方法](#)
- [データの換算](#)
- [連結および換算ルール](#)
- [連結および換算セキュリティ・アクセス](#)
- [計算ステータス](#)
- [連結の進行状況の表示](#)
- [出資比率の管理の操作](#)



ノート:

連結と換算でのセキュリティ・レイヤーの概要は、[セキュリティの管理](#)を参照してください。

連結プロセス

連結は、子孫エンティティからデータを収集し、親エンティティにデータを集約するプロセスです。

Tax Reporting には、連結と換算を処理するための組込みの計算スクリプトがあります。また、一部の標準計算プロセス用の組込みのスクリプトおよびメンバー式もあります。たとえば、次のルールがデフォルトで提供されます。

- 連結
- Consolidate_CbCR
- 連結の強制
- 換算
- Translate_CbCR
- 換算の強制

連結プロセスには、次の計算が含まれます。

- 期首残高の計算
- RTA (申告額の未払処理調整)の計算
- 課税損失/税額控除の計算
- 税金自動化
- 国税
- 地域税
- ETR
- TAR
- 国別(有効化されている場合)
- 通貨換算
- 出資比率の計算(出資比率データの再計算も参照)

連結プロセス

基本レベルまたは親の税金計算エンティティにデータを入力またはロードし、データを計算および調整した後、組織全体にわたってデータを集約するために連結を実行します。指定したシナリオ、期間およびエンティティの連結ルールを実行するフォームから連結プロセスを次のように起動します。

1. ユーザーは、エンティティの機能通貨の手動入力、データ・ロードまたは調整を通じて、子エンティティのデータを入力します。データは、連結ディメンションのエンティティ入力メンバーに保管されます。連結中に、システムは、デフォルトの計算ルールを実行してエンティティ入力メンバーを完全に計算し、ステータスを「OK」に変更します。
2. 次のステップは親エンティティに依存して処理されます。
 - システムは、最初に、エンティティ入力とエンティティ連結(親エンティティにのみ適用)の両方を含むエンティティ合計データをその親の通貨に換算します。
 - システムは、次に、その親との関連に応じた連結比率(PCON)を適用して換算済データを処理し、連結ディメンションの比率メンバーに結果を保管します。
 - エンティティ比率データと消去データの合計は、連結ディメンションのコントリビューション・メンバーに保管されます。
 - システムは、その後、親エンティティのすべての子エンティティのコントリビューション・データを集約します。システムは、親エンティティのエンティティ連結メンバーに、連結された結果を保管します。親エンティティのステータスは、「OK」に変更されます。

換算プロセス

換算プロセスは、子エンティティ通貨から親エンティティ通貨へのデータの変換が必要な場合に実行されます。子エンティティと親エンティティが同じ通貨を使用している場合、換算プロセスは実行されません。

エンティティは、1つの親にのみ所属できます。従属エンティティを連結する親エンティティを選択した後、必要なプロセスが自動的に実行されます。

- エンティティのすべての子孫に対して計算ルールが実行されます。

- 子エンティティのデータと親エンティティのデータが異なる通貨の場合は、為替レートに基づいて換算が行われます。
- 連結プロセスが開始します。

連結ディメンションのデータ・フロー

連結ディメンションの詳細は、[連結ディメンション](#)を参照してください。

最初に、システムでは、親エンティティとは無関係に次のステップが処理されます。

- ユーザーは、エンティティの機能通貨の手動入力、データ・ロードおよび調整の全部または一部の組合せを通じて、子エンティティのデータを入力できます。データは、連結ディメンションのエンティティ入力メンバーに保管されます。
- 連結中に、システムは、デフォルトの計算ルールを実行してエンティティ入力メンバーを完全に計算し、ステータスを「OK」に変更します。

次に、システムでは、親エンティティに基づいて次のステップが処理されます。

- システムは、最初に、エンティティ入力とエンティティ連結(親エンティティにのみ適用)の両方を含むエンティティ合計データをその親の通貨に換算します。
- システムは、次に、その親との関連に応じた連結比率(PCON)を適用して換算済データを処理し、連結ディメンションの比率メンバーに結果を保管します。
- 会社間データの場合、値は消去され、データは連結ディメンションの消去メンバーに保管されます。
- エンティティ比率データと消去データの合計は、連結ディメンションのコントリビューション・メンバーに保管されます。
- システムは、その後、親エンティティのすべての子エンティティのコントリビューション・データを集約します。システムは、親エンティティのエンティティ連結メンバーに、連結された結果を保管します。親エンティティのステータスは、「OK」に変更されます。

会社間消去

アプリケーションが会社間勘定に対して有効化されており、会社間勘定データを含む場合、連結プロセスの一環として消去が発生します。

会社間消去は、最初の共通親エンティティで実行されます。会社間消去プロセスの実行中に、すべての会社間勘定科目で、その会社間勘定科目から調整ターゲット勘定科目に金額が移動されます。

調整ターゲット勘定科目には、会社間勘定科目または非会社間勘定科目を設定できます。調整勘定科目における個別パートナーの消去の詳細を表示する場合、調整勘定科目は、会社間勘定科目として設定する必要があります。そうしない場合、各パートナーのすべての消去の詳細が、会社間ディメンションの「会社間なし」メンバーに保管されます。[会社間ディメンション](#)を参照してください。

データの連結

フォームから連結プロセスまたは換算プロセスを起動したり、グリッドにデータ・ステータスを表示することができます。Tax Reporting には、事前定義されたデータ・ステータス・グリッドがあり、エンティティが行に、期間が列に表示されます。グリッドのデータは、フォームからのシナリオ/エンティティ/期間/通貨の情報に基づきます。

データを連結するには:

 **ノート:**

換算は、連結プロセスの一環として行われます。換算プロセスの詳細は、[データの換算](#)を参照してください。

データを連結するには、サービス管理者、パワー・ユーザーまたはユーザーである必要があります。連結する親エンティティに対する書込みアクセス権も持っている必要があります。

連結する基本エンティティを選択したときは、そのエンティティに対する計算のみが実行されます。親エンティティには連結されません。

親エンティティを選択したら、その親のすべての子孫も連結されます。

ある期間のデータを連結する際に、前の複数期間のデータがまだ連結されていない場合は、前の期間のデータも連結されます。12 月期の連結を選択し、それより前の期間が影響を受ける場合は、影響を受ける最初の期間から連結が開始されます。

連結プロセスは、影響を受けるエンティティに対して実行されます。プロセスが完了すると、正常に連結されたエンティティのステータスが **OK** に変わります。

強制連結 オプションを使用すると、選択したセルで連結を強制的に実行できます。たとえば、外的な要因(データベースのクラッシュ、ユーザーによるプロセスの停止など)のために連結プロセスが正常に完了しなかった場合、エンティティが処理中ステータスのままになります。この状態から回復するには、強制連結オプションを使用して、すべてのエンティティにデータを連結します。

ジョブ・コンソールで連結ステータスを表示できます。連結を実行する際にすでに実行中の連結プロセスがある場合は、**強制連結**を実行できます。

データを連結するには:

1. ホーム・ページで「**フォーム**」を選択し、「**データ・ステータス**」を選択します。
2. 連結を実行するセルを選択します。
3. 視点を選択します。
4. 連結を実行するセルを選択します。
5. 「**アクション**」で、「**連結**」を選択します。
6. **オプション:** 選択したすべてのセルに対して連結プロセスを強制実行するには、**強制連結**をクリックします。
7. 連結プロセスが正常に完了すると、確認メッセージが表示されます。「**OK**」をクリックします。
8. 連結ステータスを確認するには、ジョブ・コンソールを開きます。[連結の進行状況の表示](#)を参照してください。

連結ロジック

資本合計/親通貨連結ディメンション・メンバーからのデータは、比率メンバーに比例します。適用される係数は、常に、エンティティ/親の組合せに対して定義されている「連結%」です。

消去または調整されたデータは、「連結%」が適用されているか、「出資比率%」や「少数株主持分%」(非支配持分)を使用する可能性があります。「出資比率%」における変化、エンティティの「連結%」と会社間パートナーの「連結%」の低い方など、その他の比率が適用される場合もあります。

適用される係数は、各シナリオ、年および期間について、エンティティ/親の組合せそれぞれの出資比率の管理に基づきます。出資比率の管理は、別の法的エンティティのすべてまたは一部を直接所有する法的エンティティ(所有会社)の出資比率を記録します。

出資比率の管理

出資比率の管理は、グローバル連結設定とこれらの連結設定のアプリケーションを、各エンティティ階層に対してシナリオ別、年別および期間別基準で管理することから構成されます。詳細は、[出資比率の管理](#)を参照してください。

換算プロセス

Tax Reporting には、複数通貨アプリケーションの通貨換算が用意されています。デフォルトの換算プロセスでは、フロー勘定には期別換算メソッドが、残高勘定には年次累計メソッドが適用されます。

連結プロセス中の換算

データの連結時、親エンティティのデフォルト通貨が子エンティティと異なる場合に、通貨の換算が行われます。親通貨への換算は、連結プロセスの一環として行われます。ディメンション名(エンティティ)の子であるエンティティの親通貨は、アプリケーションの作成時に選択されたシステム通貨とみなされます。

換算の実行時、ソース・データが連結されていない場合や影響を受けるデータがある場合は、換算前にデータが自動的に連結されます。

レポート通貨への換算

データを特定のレポート通貨に換算する場合は、ターゲットのレポート通貨を選択して換算を実行します。レポート通貨換算に使用できるのは、レポート用に有効化されている通貨のみです。すべてのレポート通貨には、USD_Reporting のように、_Reporting という接尾辞が付きます。

レポート通貨への換算はすべての期間に対して必要です。現行年度の前期間がまだ換算されていない場合、これらは、選択した期間の前に換算されます。まだ完全に換算されていない前年度がある場合、まだ完全に換算されていない各年度を順に換算してから、現行年度を換算する必要があります。

各エンティティは、相互に独立して換算されます。

- エンティティのデフォルト通貨がレポート通貨と同じ場合は、エンティティ通貨が「レポート通貨」に移動されます。
- エンティティのデフォルト通貨がレポート通貨と同じではなく、レポート通貨と同じデフォルト通貨の親エンティティがある場合は、親通貨が「レポート通貨」にコピーされます。

- エンティティと親エンティティどちらのデフォルト通貨もレポート通貨でない場合は、エンティティ通貨がレポート通貨に換算されます。

一部の換算計算は累積する性質があるため、エンティティのエンティティ通貨でも親通貨でもないレポート通貨に対する換算は、年度の最初の期間から実行することをお勧めします。

換算されるのは、エンティティ入力とエンティティ連結のみです。比率、消去およびコントリビューションは「レポート通貨」に表示されません。

為替レート

「レート・キューブ」には、変換元通貨から変換先通貨に関するすべての為替レート・データが含まれます。履歴レート勘定科目に上書きレートや上書き金額がない場合、換算にはグローバル為替レートが使用されます。

計算に使用されている為替レートは、事前定義済のデータ・フォームで表示できます。また、事前定義済のフォームを使用して、為替レートや上書きレートを入力することも可能です。

データの換算

通貨の換算では、勘定科目のデータがある通貨から別の通貨に変換されます。連結プロセス中またはそれ以外のときに独立して、エンティティの入力通貨から、アプリケーションに定義されている別の通貨にデータを換算できます。データの連結時、親エンティティのデフォルト通貨が子エンティティと異なる場合に、通貨の換算が行われます。

換算は、計算スクリプトを使用し、保管されている連結データに基づいて実行されます。換算の実行時、データが連結されていない場合や影響を受けるデータがある場合は、換算前にデータが自動的に連結されます。保管された連結金額は、適用可能な為替レートを適用して、レポート通貨に換算されます。

親通貨への換算は、連結プロセスの一環として行われます。データを特定のレポート通貨に換算する場合は、ターゲットのレポート通貨を選択して換算を実行します。レポート通貨換算に使用できるのは、レポート用に有効化されている通貨のみです。

エンティティがロックされ、その計算ステータスが「OK」または「システム変更」の場合でも、データをレポート通貨に換算できます。

換算ルールが実行された後、換算済通貨ディメンションが保管されます。換算済金額を、仕訳を使用して各通貨で調整できます。

データを換算するには:

- ホーム・ページで、「現在の引当金」などのフォームを選択します。
- 換算ルールを実行するセルを選択します。
- 「アクション」で、「換算」を選択します。
- 視点を確認し、「起動」をクリックします。
- 「OK」をクリックして、成功確認メッセージを閉じます。

換算方法

多国籍グループの一員である企業は、通常、現地通貨で事業を行います。すべての子会社の財務諸表が親会社の財務諸表に連結される場合、これらの複数の現地通貨は、

親のレポート通貨に換算される必要があります。Tax Reporting には、複数通貨アプリケーションの通貨換算が用意されています。

複数通貨アプリケーションが有効になっている場合、アプリケーション通貨(プライマリ・レポート通貨)および追加のレポート通貨に換算できます。追加のレポート通貨への換算レートを入力していない場合、追加したレポート通貨は、アプリケーションのレポート通貨とのトライアングレーションによって換算されます。この通貨換算は、指定した為替レートを使用して実行されます。データの換算を参照してください。

Tax Reporting でアプリケーションが最初に作成されるときは、年次累計(YTD)換算方法がデフォルトで使用されます。通貨換算の計算には、期別換算方法も使用できます。税金設定では、すべてのフロー勘定科目のデフォルトの換算方法を期別または YTD のいずれかに指定できます。また、税金設定を使用して、P13 および P14 の定期的な通貨換算を有効化できます。

計算に使用される平均レート勘定科目は、換算方法が期別でも YTD でも変わりません。

Tax Reporting には、各勘定科目ベースでオーバーライドする換算方法も用意されています。これは、勘定科目メンバー属性 **PeriodicFXTranslationmethod** または **YtdFxTranslationMethod** として使用できます。

換算計算の詳細の理解: 用語

- エンティティ通貨(入力通貨) = EC
- 親通貨(換算通貨) = PC
- 平均レート = レート

YTD 計算方法の使用

年次累計(YTD)では、視点で選択された現在の期間に入力された YTD データに対して単一の平均レートが使用されます。これは、グローバルまたは特定の勘定科目で特に指定されていないかぎり、Tax Reporting のデフォルトの計算方法です。YTD 方法を使用して換算を計算する式は次のようになります(P3 の例):

$$PC \rightarrow P3 = EC \rightarrow P3 * \text{レート} \rightarrow P3 \text{ (YTD データ * 現在の平均 FX レート)}$$

期別計算方法の使用

一方、期別データは、各期間でその期間の値の変化が期間レートに適用される加重計算です。期別方法を使用して換算を計算する式は次のようになります(P3 の例):

$$PC \rightarrow P3 = (EC \rightarrow P3 - EC \rightarrow P2) * \text{レート} \rightarrow P3 + PC \rightarrow P2 \text{ ((当期の入力通貨 - 前期の入力通貨) * 当期のレート + 前期の換算値)}$$

	Entity Currency YTD	Entity Currency Periodic change	FX Rate	Parent Currency Periodic change	Periodic translation Parent Currency YTD	YTD translation Parent Currency YTD
P1	100	100	1.2	120	120	120
P2	700	600	1.125	675	795	787.5
P3	1000	300	1.15	345	1140	1150

 **Note:**

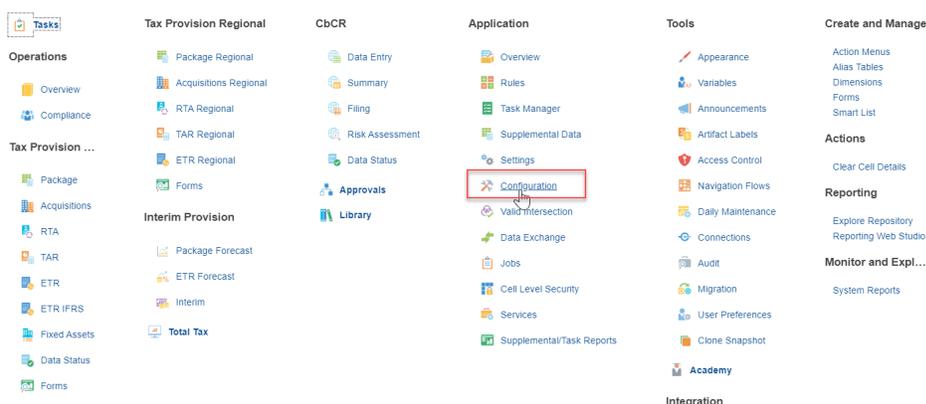
- データと平均外国為替(FX)換算レートがある年の第 1 期間では、期別換算と YTD 換算の結果は同じになります(前述の表の換算値=120 を参照)
- P13 と P14 (RTA および監査)は常に YTD 換算方法になります。P13 と P14 には前期間はありませぬ。前期間は、出資比率と同じシナリオのデフォルト期間単位に従います。ただし、前期間が四半期シナリオの期間単位に従う場合は、P3 が P6 の前期間になります。出資比率の変更の処理の前期間の表を参照してください。
- 期別換算方法を使用している場合は、Consol と CbCR キューブの両方で同じシナリオのデフォルト期間単位に従う必要があります。
- NIBT レート・オーバーライドおよび FX レート・オーバーライドは、CbCR キューブではサポートされていません。

すべてのフロー勘定科目の換算方法の有効化

換算方法を有効にするには:

1. 「構成」カードに移動します。

Navigator: Default



2. 「税金設定」画面を選択します。フロー勘定科目の通貨換算方法では、「期別」と「年次累計」の2つのオプションを使用できます。

Configure: Tax Reporting 

Filter: All Types  All Statuses 

Name	Type
Rollover Perform Periodic Rollover	Maintenance Optional
CbCR Data Migration for Separate Approval Process Performs Migration of CbCR Historical Data to newly created CbCR Scenario(s)	Maintenance Optional
CbCR Automation Migration Perform Migration of CbCR Automation Data	Maintenance Optional
Performance Settings Manage Performance Settings	Maintenance Optional
TAR Automation TAR Automation	Maintenance Optional
Copy Configuration Copy or Rollover Configurations across Scenarios, Years and Periods by Entities	Maintenance Optional
Opening Balance Override Opening Balance Override	Maintenance Optional
Clean Approval Unit Assignment This task will clean the Approval Unit Assignment, if none of its used	Approvals Optional
Current Tax Payable Automation Current Tax Payable Automation	Maintenance Optional
Tax Settings Tax Settings	TAX_SETTINGS Optional

3. 税金設定を「期別」に選択し、「保存」をクリックします。

Tax Settings

Save Close

Currency Translation Method for Flow Accounts

- Periodic
 Year To Date

4. 税金設定を「期別」から「年次累計」に変更し、「保存」をクリックします。

Tax Settings

Save Close

Currency Translation Method for Flow Accounts

- Periodic
 Year To Date

P13 および P14 の定期的な通貨換算の有効化

換算方法を有効にするには:

1. 「構成」カードに移動します。
2. 「税金設定」画面を選択します。P13 および P14 の定期的な通貨換算の下で、「P13 および P14 の定期的な通貨換算の有効化」を選択します。

Tax Settings Save Close

Currency Translation Method for Flow Accounts

Periodic
 Enable Periodic Currency Translation for P13 and P14
 Year To Date

Source of Return To Accrual Data

Parent tax calculation Entity
 Base Entity

RTA Actual Regional Deduction in P13

Enable RTA Actual Regional Deduction in P13

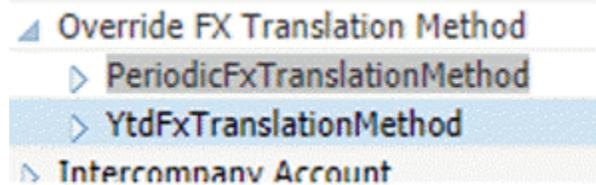
3. 「保存」をクリックします。

 **Note:**

定期的な通貨換算を選択した場合のみ、**P13 および P14 の定期的な通貨換算**を有効化するチェックボックスを選択できます。そうでない場合、このオプションは無効で選択できません。

単一勘定科目の換算方法のオーバーライド

非フロー勘定科目(つまり、残高)に期別換算方法を使用する場合は、勘定科目ディメンションで次の属性を使用できます。さらに、期別をグローバルに使用する場合は、フロー勘定科目を YTD に設定できます。[勘定科目ディメンション](#)を参照してください。



連結および換算ルール

Tax Reporting には、連結と換算を処理するための組込みの計算スクリプトがあります。また、一部の標準計算プロセス用の組込みのスクリプトおよびメンバー式もあります。たとえば、次のルールがデフォルトで提供されます。

表 17-1 連結および換算ルール

ルール	説明
Consolidate	指定されたシナリオ、年、期間およびエンティティの財務連結を実行します。エンティティの連結ステータスに基づいてインテリジェントに連結を実行します。

表 17-1 (続き) 連結および換算ルール

ルール	説明
Consolidate_CbCR	指定されたシナリオ、年、期間およびエンティティの財務連結を実行します。エンティティの連結ステータスに基づいてインテリジェントに連結を実行します。
ForceConsolidate	内部の処理フラグを無視して連結を実行します。この操作は、管理ユーザーが正しくない状態から回復する目的で使用されます。
Translate	指定されたシナリオ、年、期間、エンティティおよびその子孫の連結データを、選択されたレポート通貨に換算します。エンティティが連結されていない場合、最初にステータスに従って連結された後に、レポート通貨に換算されません。
Translate_CbCR	指定されたシナリオ、年、期間、エンティティおよびその子孫の連結データを、選択されたレポート通貨に換算します。エンティティが連結されていない場合、最初にステータスに従って連結された後に、レポート通貨に換算されません。
ForceTranslate	内部の処理フラグを無視して換算を実行します。この操作は、管理ユーザーがシステムを正しくない状態から回復する目的で使用されます。
ForceTranslate_CbCR	内部の処理フラグを無視して換算を実行します。この操作は、管理ユーザーがシステムを正しくない状態から回復する目的で使用されます。
DataLoad_PreProcess_Consol	データ・ロードの前処理操作の一部として実行されるルール。このルールはスタンドアロン実行用ではありません。
DataLoad_PostProcess_Consol	データ・ロードの後処理操作の一部として実行されるルール。このルールはスタンドアロン実行用ではありません。
MetadataLoad_PostProcess_Consol	メタデータ変更の後処理操作の一部として実行されるルール。このルールはスタンドアロン実行用ではありません。
TrcsFormStatusProcessor	データ・フォーム保存の後処理操作の一部として実行されるルール。このルールはスタンドアロン実行用ではありません。
RefreshDataBase_PostProcess_Consol	データベース・リフレッシュの後処理操作の一部として実行されるルール。このルールはスタンドアロン実行用ではありません。
RefreshDataBase_DelegatePostProcess_Consol	このルールは、データベースの後処理コールをタスク・マネージャおよび補足データ・マネージャ・モジュールに委任して、メタデータを同期します。
CopyTaxAutomationRule	このルールは、税金自動化ルール・マッピングをコピーするためにロールオーバー・プロセスで使用します。これにより、前の期間からターゲット期間にマッピングがコピーされます。

表 17-1 (続き) 連結および換算ルール

ルール	説明
ImpactStatusEntitiesWithData	このルールは、税金自動化フォームでユーザーが定義したマッピングに基づいてエンティティのデータ・ステータスを更新するために、システムによって内部的に使用されます。このルールはスタンドアロン実行用ではありません。
CopyTaxRateRule	このルールは、税率をコピーするためにロールオーバー・プロセスで使用します。これにより、前の期間からターゲット期間にデータがコピーされます。
Form_PreProcess_Consol	データ・フォーム保存の前処理操作の一部として実行されるルール。このルールはスタンドアロン実行用ではありません。
ComputeRates	指定された通貨(元)と通貨(先)に対してシステムに入力された直接レートに基づいて、特定のシナリオ、期間および年の平均レートと期末レートを計算します。直接レートが入力されない場合、アプリケーション通貨に基づいてトライアングレーションを実行します。
CopyFXRatesRule	このルールは、FX レート・データをコピーするためにロールオーバー・プロセスで使用します。これにより、前の期間からターゲット期間にデータがコピーされます。
RefreshDataBase_PostProcess_Rates	データベース・リフレッシュの後処理操作の一部として実行されるルール。このルールはスタンドアロン実行用ではありません。
DataLoad_PostProcess_Rates	データ・ロードの後処理操作の一部として実行されるルール。このルールはスタンドアロン実行用ではありません。
RefreshSDMCurrencyRates	データベース・リフレッシュ、データ・ロード、フォーム保存の後処理操作の一部として実行されるルール。このルールはスタンドアロン実行用ではありません。
DataLoad_PostProcess_CbCR	データ・ロードの後処理操作の一部として実行されるルール。このルールはスタンドアロン実行用ではありません。
ImpactStatusEntitiesWithData_CbCR	このルールは、税金自動化フォームでユーザーが定義したマッピングに基づいてエンティティのデータ・ステータスを更新するために、システムによって内部的に使用されます。このルールはスタンドアロン実行用ではありません。
MetadataLoad_PostProcess_CbCR	メタデータ変更の後処理操作の一部として実行されるルール。このルールはスタンドアロン実行用ではありません。
RefreshDataBase_DelegatePostProcess	このルールは、データベースの後処理コールをタスク・マネージャおよび補足データ・マネージャ・モジュールに委任して、メタデータを同期します。

表 17-1 (続き) 連結および換算ルール

ルール	説明
RefreshDataBase_PostProcess_CbCR	データベース・リフレッシュの後処理操作の一部として実行されるルール。このルールはスタンドアロン実行用ではありません。
TrcsFormStatusProcessor_CbCR	データ・フォーム保存の後処理操作の一部として実行されるルール。このルールはスタンドアロン実行用ではありません。

連結および換算セキュリティ・アクセス

データの連結または換算には、次のセキュリティ・アクセスが必要です。

- 管理者、パワー・ユーザーまたはユーザーである必要があります。
- 連結または換算するために選択した親エンティティに対する書込みアクセス権も持っている必要があります。

ノート:

ロックされているエンティティは、連結プロセスから除外されます。

システム管理者は、「連結」および「換算」アクションを実行するため、適切なルールに対するユーザー・アクセス権を割り当てます。

- 連結ビジネス・ルールに対する「起動」アクセス権をユーザーに割り当てると、そのユーザーは、「連結」アクション・メニューに対するアクセス権も持ちます。
- 換算ビジネス・ルールに対する「起動」アクセス権をユーザーに割り当てると、そのユーザーは、「換算」アクション・メニューに対するアクセス権も持ちます。

ノート:

管理者は、アプリケーション内のすべてのルールに対するデフォルトのアクセス権を持ちます。

計算ステータス

Tax Reporting では、各シナリオ、期間、エンティティおよび親エンティティの組合せの計算ステータスが保持されています。計算ステータスは、データを換算または連結する必要があるかどうかを示します。算出ステータスは、次のことが原因で変わることがあります。

- 組織構造の変更
- 勘定科目の追加や削除
- エンティティの属性の変更
- データ・グリッドへのデータの入力、または外部ソースからのデータのロード

- ルールのリロード
- 連結比率の変更
- 通貨レートの変更
- 金額の上書きデータの変更
- 帳簿データの更新およびロード
- 税金データのロードおよび調整
- 税金自動化ルールのロードおよび更新
- RTA 自動化ルールのロードおよび更新
- 税率や連結レートのロードおよび更新

表 17-2 連結ステータス

ステータス	説明
OK	データは問題ありません。指定されたディメンションのデータはいずれも変更されていません。
データなし	指定したディメンションのデータは存在しません。
影響	データが前回の生成以降に変更されているため、再連結をしてそのステータスを「OK」に変更する必要があります。これは、基本エンティティのデータ変更が親エンティティに影響する場合に発生します。
換算が必要	エンティティ通貨データが変更されたか、連結されました。換算値が最新ではない可能性があります。
システム変更	メタデータが変更されました。データベースのリフレッシュ後、「OK」ステータスが「システム変更」ステータスに変更されます。 「システム変更」ステータスは、アプリケーション・メタデータの進化に伴う履歴期間に許容されるステータスです。

実行時プロンプトで指定された期間を連結/換算する前に、以前の期間のいずれかが「影響」ステータスであるかどうかを確認されます。前年(実行時プロンプトで指定された、連結/換算対象の年の前)の P12 が「影響」の場合、連結/換算は失敗し、ユーザーはまず前年を連結するよう求められます。現在の年(実行時プロンプトで指定された、連結/換算対象の年)における以前の期間が「影響」になっている場合は、ユーザーが連結/換算実行時プロンプトでそれらの影響を受けた以前の期間を明示的に指定しなくても、連結スコープにそれらの期間が自動的に含められます。

「システム変更」ステータスである以前の期間は、連結/換算実行時プロンプトでシステム変更期間が明示的に指定されていないかぎり、連結/換算スコープに自動的に含められます。

たとえば、Actual/FY21/LE101 の期間 P2 - P12 が「影響」ステータスで、P1 期間が「システム変更」であるとします。Actual/FY21/P12/LE101 の連結がトリガーされると、P2 から P12 のみが連結され、P1 は「システム変更」ステータスのままです。必要に応じて、Actual/FY21/P1/LE101 の P1 を明示的に連結できます。

連結の進行状況の表示

データを連結する場合、ジョブ・コンソールからタスクのステータスをモニターできます。保留中のジョブまたは最近のアクティビティ (完了ステータスや日時など) を表示できます。

連結の進行状況を表示するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」、「**ジョブ**」の順にクリックします。
2. 保留中のジョブおよび最近のアクティビティを確認して、連結のステータスをチェックします。
3. ジョブの名前をクリックして、ジョブの詳細を表示します。

ノート:

データベースのリフレッシュ後、すべてのシナリオ、年、期間のすべてのエンティティのうち、ステータスが「OK」であるものは、「**システム変更**」ステータスに更新されます。地域合計などの最上位親エンティティの後続の連結/換算では、連結/換算シナリオ、年および期間のすべての「システム変更」エンティティが含まれます。これにより、連結/換算時間が長くなることがあります。

出資比率の管理の操作

出資比率の管理

出資比率の管理は、グローバル連結設定とこれらの連結設定のアプリケーションを、各エンティティ階層に対してシナリオ別、年別および期間別基準で管理することから構成されます。

出資比率設定は、「シナリオ」、「年」および「期間」の組合せごとに、各親子エンティティの組合せに対して適用されます。

ノート:

出資比率は現在、「国別レポート(CbCR)」ではサポートされていません。かわりに、100%ロールアップが表示されます。

「出資比率の管理」画面にアクセスするには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」、「**連結**」の順にクリックして、「**出資比率の管理**」画面を表示します。
2. 階層を表示する親エンティティ・メンバーを選択します。
3. シナリオ、年および期間を選択します。
4. 「**更新**」矢印ボタン  をクリックして、選択した POV に画面を更新します。必要に応じて、階層を展開または縮小できます。

5. **親/子**ボタン  をクリックして、階層全体を表示します。
6. **「親/法的エンティティ」**ボタン  をクリックして、各親の最終出資比率設定をその子孫の法的エンティティとともに表示します。現在、基本エンティティはすべて、法的エンティティとみなされます。

親/子ビュー

当初、すべてのメンバーは次の設定を継承します。

- 出資比率%: 100
- コントロール: はい
- 連結メソッド: 子会社
- 連結%: 100
- 少数株主持分%: 0

唯一の例外は、あらゆる共有エンティティです(エンティティが単一階層内に複数回存在する場合など)。最初のインスタンスは前述の設定を継承しますが、各後続インスタンスは次の設定を継承します。

- 出資比率%: 0
- コントロール: いいえ
- 連結メソッド: 非連結
- 連結%: 0
- 少数株主持分%: 0

「出資比率の管理」のレポート

次に示す 2 つの「出資比率の管理」の専用レポートが作成されています:

- **TRCS_出資比率詳細**は、Essbase 内に保存されている出資比率データの読取り専用ビューです。このデータは、「出資比率の管理」の UI で「保存」をクリックしたときに Essbase に保存されたものを反映しています。出資比率データに対する編集はすべて、「出資比率の管理」の UI で行う必要があります。[TRCS_出資比率詳細の表示](#)を参照してください。
- **TRCS_加重出資比率詳細**は、管轄およびメンバーごとに加重出資比率詳細を確認できる読取り専用ビューです。[TRCS_加重出資比率詳細の表示](#)を参照してください。

これらの値は連結時に計算されます。

また、*Tax Reporting* の操作ガイドに記載されている次のレポートは「出資比率の管理」の影響を受けており、それらのレポートの列を表示します:

- 課税損失および税額控除(国)
- 課税損失および税額控除(地域)
- 一時差異
- 一時差異(地域)

- 繰延税金
- 繰延税金(地域)
- DTNR
- 繰延税金転記 DTNR
- TAR
- TAR (地域)
- 現在の未払税
- 現在の未払税(地域)
- 固定資産

アプリケーションでの「出資比率の管理」の有効化

アプリケーションを作成するときに、「出資比率の管理」機能を有効化でき、この機能を使用して出資比率および連結メソッドを割り当てることができます。アプリケーションの作成時に「出資比率の管理」を選択しなかった場合、既存のアプリケーションについて後からこの機能を有効にできます。

ノート:

「データ・ソース」が「疎」に設定されていることを確認してください。

この機能の詳細は、[出資比率の管理](#)を参照してください。

このトピックでは、「出資比率の管理」を有効にする要件、および有効化時にシステムで実装されるメタデータ変更をリストします。「出資比率の管理」を有効にする前に、すべての項を確認してください。

ノート:

「出資比率の管理」を有効にしない場合、既存のアプリケーションへの影響はありません。

実装プロセスの概要

この概要に従って、「出資比率の管理」を実装できます:

1. 次の手順に説明されているように、「出資比率の管理」を有効にします。
2. シナリオ頻度タイプを選択します。
3. 加重出資比率勘定科目を選択します。
4. 必要に応じて、NCI 勘定科目(Ownership_NCI_Account)を選択します。
5. エンティティ階層を作成します。共有メンバーを含めることができます。共有エンティティを追加する場合は必ず、出資比率を再計算する必要があります。
6. シナリオ、年、期間、エンティティの親子関係ごとに、出資比率のパーセンテージとメソッドを定義します。

- 必要に応じて、出資比率を再計算します
 - エンティティのプライマリ・インスタンスのデフォルトは、「子会社」、100%です
 - 共有インスタンスのデフォルトは、非連結、0%です
7. 「保存」をクリックして、出資比率データを保存します。
 8. オプション: 出資比率フォームを使用して、Essbase でこれらの値を確認します。

「出資比率の管理」の有効化

「出資比率の管理」を有効にするには:

1. 「出資比率の管理」機能を有効にする前に、次のステップを実行します:
 - 新しいシード・メンバーのリストを確認します。同じ目的を持つ複数のメンバーをすでに定義している場合は、新しいシード・メンバーと競合しないよう、これらのメンバーを削除する必要があります。
 - 新規メンバーの別名と競合が発生しないように、既存の勘定科目メンバーと増減メンバーを確認します。
新しいシード済メンバーには *FCCS_xxx* または *TRCS_xxx* という接頭辞が含まれるため、新規メンバーの名前と競合することはありません。
 - 競合がある場合は、この機能を有効にする前に別名を変更する必要があります。そうしないと、移行中またはデータベースのリフレッシュ時にエラーが発生します。
 - 別名を変更する場合、別名が参照されている既存のすべてのアーティファクトも変更する必要があります。
 - 参照されているアーティファクトから重複するメンバーを削除するか、または適切なメンバーを参照するようにアーティファクトを更新します。
2. 該当するオプションを使用して、「出資比率の管理」機能を有効にします:
 - 新規アプリケーションを作成するには、[新規アプリケーションの作成](#)に移動します
 - 既存のアプリケーションでこの機能を有効にするには、[アプリケーションの機能の有効化](#)に移動します
3. **オプション:** 既存のアプリケーションで機能を有効にした後、ホーム・ページで、ユーザー名の横にある下矢印をクリックし、「設定およびアクション」を選択して、「ナビゲーション・フローのリロード」をクリックします。
4. 「出資比率の管理」を有効にした後、メンバーと別名についてエラーが発生する場合は、ジョブ・コンソールをチェックして、競合しているメンバーの別名に関する詳細を確認します。

メンバーと別名に関する考慮事項

「出資比率の管理」を有効にした場合、シード済連結ルールをサポートするために、シード済の勘定科目メンバーと増減メンバーが別名で新しく追加されます。これにより、アプリケーション内の既存のメンバーについて、「別名が重複しています」というエラーが発生する場合があります。

次の表に、勘定科目ディメンションおよび増減ディメンションの新しいメンバー名と別名を示します。連結ディメンションやデータ・ソース・ディメンションなど、すべてのメタデータ変更の詳細は、[出資比率の管理のメタデータ変更](#)を参照してください。

表 17-3 勘定科目ディメンション - 新規メンバー

メンバー名	別名	親
FCCS_Percent Consol	連結比率	FCCS_Drivers
FCCS_Percent Consol Prior	前の連結比率	FCCS_Drivers
FCCS_Percent Consol Change	連結比率の変更	FCCS_Drivers
FCCS_Percent Ownership	出資比率	FCCS_Drivers
FCCS_Percent Elim	消去比率	FCCS_Drivers
FCCS_Consol Method	連結メソッド	FCCS_Drivers
FCCS_Percent Min	少数比率	FCCS_Drivers
FCCS_Control	コントロール	FCCS_Drivers
FCCS_Control Input	連結メソッドの入力	FCCS_Drivers
FCCS_Percent Consol Input	連結比率の入力	FCCS_Drivers
FCCS_Percent Ownership Input	出資比率の入力	FCCS_Drivers
TRCS_Percent Current Consol Weighted	現在の年の加重連結比率	FCCS_Drivers
TRCS_Percent Current Ownership Weighted	現在の年の加重出資比率	FCCS_Drivers
FCCS_Percent Min Input	少数比率の入力	FCCS_Drivers
FCCS_Percent Consol Prior Input	前の連結比率の入力	FCCS_Drivers
FCCS_Percent Consol Change Input	連結比率の変更の入力	FCCS_Drivers
FCCS_Consol Method Prior	前の連結メソッド	FCCS_Drivers
FCCS_Consol Method Prior Input	前の連結メソッドの入力	FCCS_Drivers
FCCS_Percent Ownership Prior Input	前の出資比率の入力	FCCS_Drivers
FCCS_Percent Min Prior Input	前の少数比率の入力	FCCS_Drivers
FCCS_Percent Ownership Prior	前の出資比率	FCCS_Drivers
FCCS_Percent Ownership Change	出資比率の変更	FCCS_Drivers
FCCS_Percent Min Change	少数比率の変更	FCCS_Drivers
FCCS_Percent Ownership Change Input	出資比率の変更の入力	FCCS_Drivers

表 17-3 (続き) 勘定科目ディメンション - 新規メンバー

メンバー名	別名	親
FCCS_Percent Min Change Input	少数比率の変更の入力	FCCS_Drivers
FCCS_Consol Method Change Input	連結メソッドの変更の入力	FCCS_Drivers
FCCS_Consol Method Change	連結メソッドの変更	FCCS_Drivers

増減メンバーの変更

出資率の管理の連結ルールをサポートするために、次の新しいシード済増減メンバーが追加されます。

表 17-4 増減メンバー

メンバー名	別名	親
TRCS_TLCOwnPlaceholder	出資比率スペース	TRCS_CarryForward
TRCS_TARFOwnPlaceholder	出資比率増減合計スペース	TRCS_TARFClosingbalance
TRCS_CurPayOwnPlaceholder	現在の未払の出資比率スペース	TRCS_ClosingPayable
TRCS_TempDiffOwnPlaceholder	出資比率スペース	TRCS_TempDiffClosing
TRCS_RegionalTempDiffOwnPlaceholder	出資比率スペース	TRCS_RegionalClosingReclass
TRCS_OwnPlaceholder	出資比率スペース	TRCS_Closing
TRCS_RegionalTempDiffOwnPlaceholder	出資比率スペース	TRCS_RegionalClosing
TRCS_DTNROwnTotalPlaceholder	出資比率からの効果合計スペース	TRCS_ClosingDTNR
TRCS_DTNROwnPlaceholder	出資比率 - DTNR スペース	TRCS_DTNRClosing
TRCS_DTNROwnPlaceholder	出資比率 - DTNR スペース	TRCS_DTNRClosingReclass
FCCS_Mvmts_Own_Total	出資比率からの効果合計	TRCS_Mvmts_Total
FCCS_Mvmts_Own_Subtotal	出資比率小計	FCCS_Mvmts_Own_Total
TRCS_OwnOpeningDTNRTotal	出資比率 - 期首残高合計	FCCS_Mvmts_Own_Subtotal
FCCS_Mvmts_Own_Opening	出資比率 - 期首残高	TRCS_OwnOpeningDTNRTotal
TRCS_NBROwnOpening	出資比率 - 期首残高 NBR	TRCS_OwnOpeningDTNRTotal
TRCS_DTNROwnOpening	出資比率 - 期首残高 DTNR	TRCS_OwnOpeningDTNRTotal
TRCS_OwnCYDTNRTotal	出資比率 - 今年度合計	FCCS_Mvmts_Own_Subtotal
FCCS_Mvmts_Own_Movement	出資比率 - 今年度	TRCS_OwnCYDTNRTotal
TRCS_NBROwnCY	出資比率 - 今年度 NBR	TRCS_OwnCYDTNRTotal

表 17-4 (続き) 増減メンバー

メンバー名	別名	親
FCCS_Mvmts_Own_to_CTA	出資比率調整に対する変更の影響	FCCS_Mvmts_Own_Total
TRCS_TARFOwn	出資比率増減合計	TRCS_TARFOwnPlaceholder
TRCS_TARFOwnBoY	出資比率 - 期首	TRCS_TARFOwn
TRCS_TARFOwnCY	出資比率 - 今年度	TRCS_TARFOwn
TRCS_BVTOwn	出資比率	TRCS_ClosingBVT
FCCS_Mvmts_Own_Opening	出資比率 - 期首残高	TRCS_BVTOwn
FCCS_Mvmts_Own_Movement	出資比率 - 今年度	TRCS_BVTOwn
TRCS_CurPayOwn	現在の未払の出資比率	TRCS_CurPayOwnPlaceholder
FCCS_Mvmts_Own_Opening	出資比率 - 期首残高	TRCS_CurPayOwn
FCCS_Mvmts_Own_Movement	出資比率 - 今年度	TRCS_CurPayOwn
TRCS_TLCOwn	出資比率 プレースホルダ	TRCS_TLCOwnPlaceholder
TRCS_TLCOwnOpening	出資比率 - 期首残高	TRCS_TLCOwn
TRCS_TLCOwnCY	出資比率 - 今年度	TRCS_TLCOwn
TRCS_TempDiffOwn	出資比率	TRCS_TempDiffOwnPlaceholder
FCCS_Mvmts_Own_Opening	出資比率 - 期首残高	TRCS_TempDiffOwn
FCCS_Mvmts_Own_Movement	出資比率 - 今年度	TRCS_TempDiffOwn
TRCS_RegionalTempDiffOwn	出資比率	TRCS_RegionalTempDiffOwnPlaceholder
FCCS_Mvmts_Own_Opening	出資比率 - 期首残高	TRCS_RegionalTempDiffOwn
FCCS_Mvmts_Own_Movement	出資比率 - 今年度	TRCS_RegionalTempDiffOwn
TRCS_NBROwn	出資比率	TRCS_NBRClosingReclass
TRCS_NBROwnOpening	出資比率 - 期首残高 NBR	TRCS_NBROwn
TRCS_NBROwnCY	出資比率 - 今年度 NBR	TRCS_NBROwn
TRCS_Own	出資比率	TRCS_OwnPlaceholder
TRCS_OwnOpenningTotal	出資比率 - 期首残高	TRCS_Own
FCCS_Mvmts_Own_Opening	出資比率 - 期首残高	TRCS_OwnOpenningTotal
TRCS_NBROwnOpening	出資比率 - 期首残高 NBR	TRCS_OwnOpenningTotal
TRCS_OwnCYTotal	出資比率 - 今年度	TRCS_Own
FCCS_Mvmts_Own_Movement	出資比率 - 今年度	TRCS_OwnCYTotal
TRCS_NBROwnCY	出資比率 - 今年度 NBR	TRCS_OwnCYTotal
TRCS_RegionalTempDiffOwn	出資比率	TRCS_RegionalTempDiffOwnPlaceholder

表 17-4 (続き) 増減メンバー

メンバー名	別名	親
TRCS_DTNROwnTotal	出資比率からの効果合計	TRCS_DTNROwnTotalPlaceholder
TRCS_OwnOpeningDTNRTotal	出資比率 - 期首残高合計	TRCS_DTNROwnTotal
TRCS_OwnCYDTNRTotal	出資比率 - 今年度合計	TRCS_DTNROwnTotal
TRCS_DTNROwn	出資比率 - DTNR	TRCS_DTNRClosing
TRCS_DTNROwnOpening	出資比率 - 期首残高 DTNR	TRCS_DTNROwn
TRCS_DTNROwnCY	出資比率 - 今年度 DTNR	TRCS_DTNROwn
TRCS_DTNROwn	出資比率 - DTNR	TRCS_DTNROwnPlaceHolder

出資比率の管理のメタデータ変更

「出資比率の管理」オプションが有効になっている場合、メタデータに対するこれらの変更が実装されます。

勘定科目階層の変更

「出資比率の管理」が有効になっている場合、連結ルールをサポートするためにシードされたシステム勘定科目が作成されます。

また、既存の FCCS_Percent Consol メンバーの「データ・ストレージ」プロパティは、「保管」から「動的計算」に変更されます。この勘定科目は、入力された出資比率情報に基づいて動的に計算されます。

次に、更新された **FCCS_Drivers** 階層を、次の追加勘定科目とともに示します。

- FCCS_Percent Elim
- FCCS_Consol Method
- FCCS_Control
- FCCS_Control Input
- FCCS_Consol Method Input
- FCCS_Percent Consol Input
- FCCS_Percent Ownership Input
- FCCS_Percent Min Input
- FCCS_Percent Consol Prior Input
- FCCS_Percent Consol Change Input
- FCCS_Percent Consol - プロパティは「動的計算」に変更されます
- FCCS_Percent Consol Prior
- FCCS_Percent Consol Change
- FCCS_Percent Owners
- FCCS_Percent Min

- TRCS_Percent Current Consol Weighted
- TRCS_Percent Current Ownership Weighted

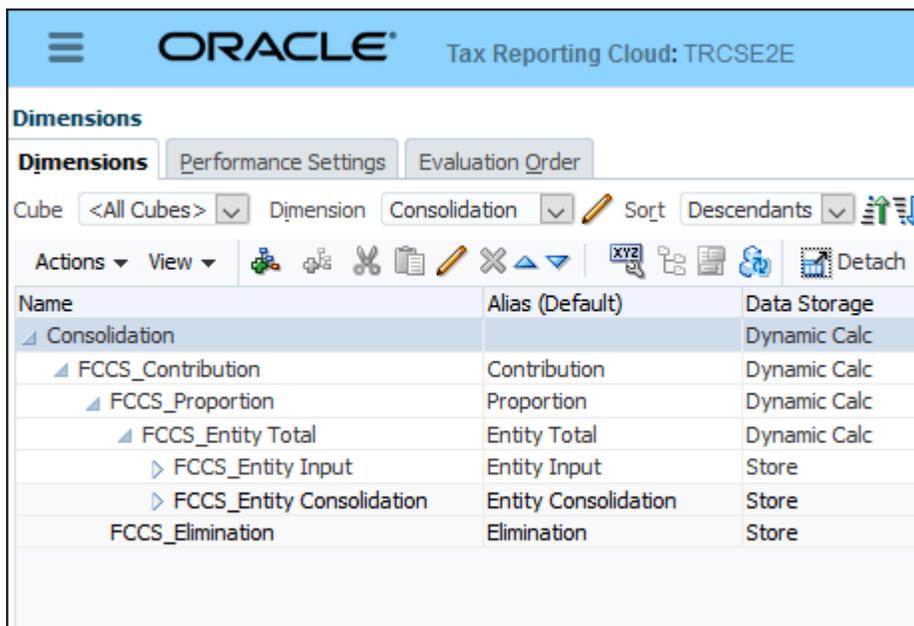
連結ディメンションの変更

- 既存の FCCS_Proportion メンバーの「データ・ストレージ」プロパティは、「動的計算」から「保管」に変更されます。
- FCCS_Proportion メンバーは、FCCS_Entity Total の親メンバーではなくなります。かわりに、このメンバーは FCCS_Entity Total の兄弟になります。
- 「データ・ストレージ」プロパティを変更するには、アプリケーション内のすべての既存データの再連結が必要です。すべてのエンティティの計算ステータスは、「影響」に変更されます。比率量が計算されて連結ディメンションに保管されるように、アプリケーション内のすべての既存データを再連結する必要があります。

ノート:

ロックされている期間がある場合、それらの期間をロック解除してからデータを再連結する必要があります。

FCCS_Contribution 階層を次に示します:



Name	Alias (Default)	Data Storage
Consolidation		Dynamic Calc
FCCS_Contribution	Contribution	Dynamic Calc
FCCS_Proportion	Proportion	Dynamic Calc
FCCS_Entity Total	Entity Total	Dynamic Calc
FCCS_Entity Input	Entity Input	Store
FCCS_Entity Consolidation	Entity Consolidation	Store
FCCS_Elimination	Elimination	Store

データ・ソース・メンバーの変更

次の新しいシード済データ・ソース・メンバーが追加されます。「データ・ソース」の FCCS_SystemTypes の下にある FCCS_Source Entities 階層が出資比率の管理に使用されます。

FCCS_Total Data Source 階層には、次の追加メンバーが含まれます:

- FCCS_Source Entities 階層
- S_Parent Source

- S_Current Source
- S_Entity
- S_FCCS_Total Geography

出資比率の変更の処理

Tax Reporting では、加重出資比率計算を使用して、時間の経過に伴う変更に基づいて出資比率が処理されます。Tax Reporting は YTD であるため、ブレンドされた出資比率を使用して出資比率の変更が処理されます。

デフォルトでは、加重出資比率を計算するための勘定科目は TRCS_NIBTAdjusted です。オプションで、勘定科目メンバーを変更できます。[勘定科目プロパティの定義](#)を参照してください。

加重出資比率勘定科目

加重出資比率勘定科目については、増減メンバー、データ・ソース・メンバーおよび連結メンバーが固定されており、変更することはできません。

- データ・ソース: "TRCS_PreTax"
- 増減: "TRCS_CurrentTaxBYTotal"
- 連結: "FCCS_Entity Total"

加重出資比率勘定科目を設定するには:

1. ホーム・ページから、「ナビゲータ」を開きます。
2. 「作成および管理」で「ディメンション」を選択します。
3. **オプション:** 使用する勘定科目を選択します。勘定科目を選択しない場合、TRCS_NIBTAdjusted が使用されます。

Dimensions			
Dimensions Performance Settings Evaluation Order			
Cube <All Cubes> Dimension Account Sort Descendants Search Name ;_NIBTAdjusted			
Name	Alias (Default)	Data Storage	Custom Attributes
Account		Label only	
Exchange Rates		Label only	
FCCS_System Account	System Account	Label only	
Entered Exchange Rates	Entered Exchange Rates	Label only	
Exchange Rates System Members	Exchange Rates System Members	Label only	
FCCS_Income Statement	Income Statement	Dynamic Calc	
FCCS_Balance Sheet	Balance Sheet	Dynamic Calc	
FCCS_Historical Accounts	Historical Accounts	Label only	
FCCS_Drivers	Drivers	Label only	
TRCS_TaxAccounts	Tax accounts	Label only	
TRCS_TaxSettings	Tax Settings	Label only	
TRCS_SupplementalSchAccounts	Supplemental Schedule Accounts	Label only	
TRCS_OtherTaxAccounts	Other Tax Accounts	Label only	
TRCS_SETRTotal	Statutory ETR	Dynamic Calc	
TRCS_CETRTotal	Consolidated ETR	Dynamic Calc	
TRCS_RETRTotal	Regional Statutory ETR	Dynamic Calc	
TRCS_CETRIFRSTotal	Consolidated ETR IFRS	Dynamic Calc	
TRCS_NIBTAdjusted(Shared)	Net Income Before Tax	Shared	
TRCS_PermIFRSTotal	Total Permanent Differences	Dynamic Calc	
TRCS_TaxLossesCFSRegTotal(Shared)	Total National Tax Losses - Carryforward Auto...	Shared	
TRCS_TaxSpecialDeductions(Shared)	Special Deductions	Shared	
TRCS_CDeductTaxIFRSTotal	Total Deductible Tax CETR	Dynamic Calc	
TRCS_RTaxPostApportionmentAdj(Shared)	Regional Post Apportionment Adjustments	Shared	
TRCS_TotalNationalAndRegionalTaxCredits	Total Tax Credits	Dynamic Calc	
TRCS_CETRAAddtIFRSTotal	Additional Total Provision CETR	Dynamic Calc	
TRCS_NDefTaxNetVA	Deferred Tax Total No National VA	Dynamic Calc	
TRCS_RDefTaxNetVA	Total Deferred Tax Regional - No VA	Dynamic Calc	
TRCS_TARFAccounts	TAR Accounts	Dynamic Calc	
TRCS_TotalTax	Total Tax Expense	Never Share	
TRCS_CountryByCountryReporting	Country by Country Reporting	Label only	
Additional CbCR accounts	Additional CbCR accounts	Label only	

加重計算では、次の 2 つの出力が表示されます:

- TRCS_Percent Current Consol Weighted (WeightedPCON)
- TRCS_Percent Current Ownership Weighted (WeightedPOWN)

これらの出力は、管轄および複数 GAAP ごとに生成されます。管轄および複数 GAAP に応じて、異なる加重を生成できます。

シナリオ頻度属性

加重出資比率は、シナリオ・ディメンションのシナリオ頻度タイプ属性に基づいて計算されます。前の期間がない場合、有効な weightedPown は #MISSING であり、データはロールアップされません

表 17-5 前の期間

現在の期間	月次	四半期ごと	半年ごと	年次
P1	P12 (前の年)	無効	無効	無効
P2	P1	無効	無効	無効
P3	P2	P12 (前の年)	無効	無効
P4	P3	無効	無効	無効
P5	P4	無効	無効	無効
P6	P5	P3	P12 (前の年)	無効

表 17-5 (続き) 前の期間

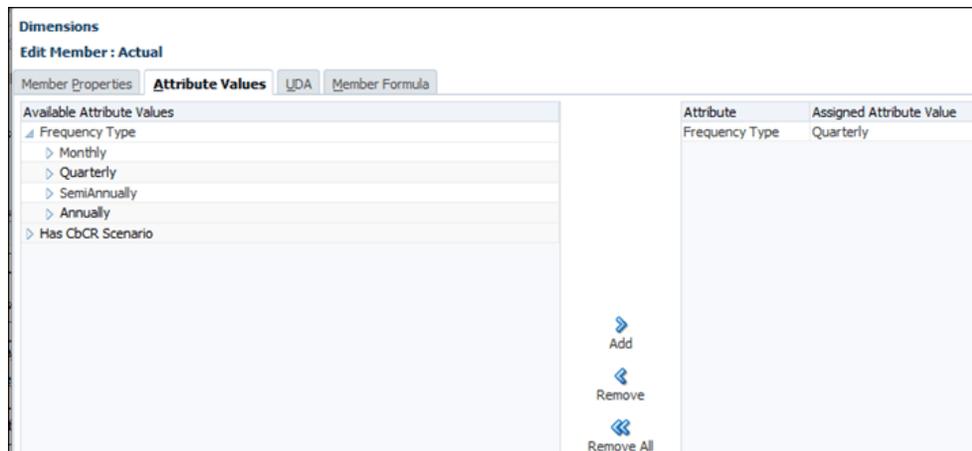
現在の期間	月次	四半期ごと	半年ごと	年次
P7	P6	無効	無効	無効
P8	P7	無効	無効	無効
P9	P8	P6	無効	無効
P10	P9	無効	無効	無効
P11	P10	無効	無効	無効
P12	P11	P9	P6	P12 (前の年)
P13	P12 (現在の年)	P12 (現在の年)	P12 (現在の年)	P12 (現在の年)
P14	P12 (現在の年)	P12 (現在の年)	P12 (現在の年)	P12 (現在の年)

シナリオ頻度タイプ属性を設定するには:

1. ホーム・ページから、「ナビゲータ」を開きます。
2. 「作成および管理」で「ディメンション」を選択します。
3. オプション: 「ディメンション」で、頻度タイプを設定する「シナリオ」を選択します。
4. 「編集」をクリックし、「属性値」タブを選択します。
5. 「使用可能な属性値」で、頻度タイプを展開し、使用する頻度を選択して、「追加」をクリックします。

 ノート:

シナリオの頻度タイプを変更した後、データベースをリフレッシュしても、以前のデータは削除されません。影響を受ける交差を手動でクリアします。



出資比率のパーセンテージの定義

- **期末出資比率% (POwn)** - 指定したシナリオ/年/期間/エンティティ 関係について「出資比率の管理」画面で入力した出資比率%。
- **期末連結% (PCon)** - 指定したシナリオ/年/期間/エンティティ 関係について「出資比率の管理」画面で計算された連結%。
- **年初出資比率% (BOYPOwn)** - 前年の P12 からの出資比率%。ただし、前の年がない場合は、年末出資比率%です。
- **年初連結% (BOYPCOn)** - 前年の P12 からの連結%。ただし、前の年がない場合は、年末連結%です。
- **加重出資比率% (weightedPOwn)** - 加重出資比率勘定科目によって加重された、期間の出資比率%の金額に基づく出資比率%の加重値。毎年出資比率%の最初の期間は、期末出資比率%と等しくなります:

- **最初の期間、RTA 期間、監査期間**

$$\text{weightedPOwn} = \text{POwn}$$

- **他のすべての期間**には、次の式が使用されます

$$\begin{aligned} \text{weightedPOwn (勘定科目)} = & ((\text{weightedPOwn}_{\text{priorPeriod}} * \text{priorPeriod}_{\text{ownershipWeightedAccount}}) / \text{ownershipWeightedAccount}) + ((\text{pown} * \\ & (\text{ownershipWeightedAccount} - \text{ownershipWeightedAccount}_{\text{priorPeriod}})) / \\ & \text{ownershipWeightedAccount}) \end{aligned}$$

- **加重連結% (Pcon)** - 加重出資比率勘定科目によって加重された、期間の連結%の金額に基づく連結%の加重値。毎年連結%の最初の期間は、期末連結%と等しくなります。

- **最初の期間、RTA 期間、監査期間**

$$\text{weightedPCon} = \text{PCon}$$

- **他のすべての期間**には、次の式が使用されます

$$\begin{aligned} \text{weightedPCon (勘定科目)} = & ((\text{weighted PCon}_{\text{priorPeriod}} * \text{priorPeriod}_{\text{ownershipWeightedAccount}}) / \text{ownershipWeightedAccount}) + ((\text{pcon} * \\ & (\text{ownershipWeightedAccount} - \text{ownershipWeightedAccount}_{\text{priorPeriod}})) / \\ & \text{ownershipWeightedAccount}) \end{aligned}$$

- **年初出資比率調整(BOYOwnAdj)** - 勘定科目ベースでは、これは、年初のすべての増減について年初出資比率%から期末出資比率%に移行するために必要な追加の出資比率です。

$$\begin{aligned} \text{式は、FCCS_Proportion} \rightarrow \text{BOYOwnAdj} = & (\text{"FCCS_Entity Total"} * (\text{POwn} - \text{BOYPOWN}) \\ & + (\text{POwn} * \text{BOYOwnAdj} \rightarrow \text{"FCCS_Entity Total"}) \text{です} \end{aligned}$$

- **現在の年の出資比率調整(CYOwnAdj)** - 勘定科目ベースでは、これは、現在の年のすべての増減および為替レートの調整合計(FXRateAdj)について加重出資比率%から期末出資比率%に移行するために必要な追加の出資比率です。

$$\begin{aligned} \text{FCCS_Proportion} \rightarrow \text{CYOwnAdj} = & ((\text{"FCCS_Entity Total"} + \text{FXRateAdj} \rightarrow \text{"FCCS_Entity Total"}) * (\text{POwn} - \text{WeightedPOWN})) + (\text{POWN} * \text{CYOwnAdj} \rightarrow \text{"FCCS_Entity Total"}) \end{aligned}$$

出資比率の変更の結果として、すべての TEMP 勘定科目について、FCCS_Proportion メンバーの期末残高増減の値は、親通貨での FCCS_Entity Total の期末値の期末出資比率%になります。TRCS_NIBTAdjusted 勘定科目がゼロである場合、加重出資比率は期末出資比率と等しくなります。

勘定科目および増減別の出資比率の結果

出資比率は、増減と勘定科目の組合せによって異なります。

表 17-6 勘定科目および増減別の出資比率の結果

勘定科目	増減	比率
タイム・バランス・タイプ = 「残高」(貸借対照表勘定科目)	すべての増減	期末出資比率%
TRCS_NIBTAdjusted の子孫	すべての増減	加重連結%
一時調整	現在の年の増減(Pre_Tax および為替レート調整を含む)	加重出資比率%
一時調整	年初の増減	年初出資比率%
一時調整	期末残高	期末出資比率%
永久調整	現在の年の増減	加重出資比率%

非支配持分(NCI)の設定

少数株主持分または非支配持分(NCI)は、PCon で連結する TRCS_NIBTAdjusted を POwn に変換するための調整金額です。NCI 勘定科目(Ownership_NCI_Account)が計算されるのは、選択した NCI 勘定科目メンバーでこの属性が設定されている場合のみです。NCI は、TRCS_PermGSTotal または TRCS_PermSTTotal の子である必要があります

各レベルで設定すると、NCI の式は $-1*(TRCS_NIBTAdjusted * PCON - (TRCS_NIBTAdjusted + NCI) * weightedPOWN)$ になります

NCI を設定するには:

1. ホーム・ページで、「ナビゲータ」を選択します。
2. 「作成および管理」で「ディメンション」を選択します。
3. 「ディメンション」で、「勘定科目」を選択した後、次のいずれかの勘定科目を選択します:
 - TRCS_PermSTTotal
 - TRCS_PermGSTotal
4. 選択した勘定科目に対して、「子の追加」をクリックします。
5. 「メンバーのプロパティ」タブで、NCI 勘定科目の「名前」を入力し、フォームを完成させます。

Dimensions
Add Child : Account : TRCS_PermSTTotal

Member Properties Attribute Values UDA Member Formula

Name NCI

Description

Alias Table Default

Alias

Account Type Asset

Variance Reporting Non-Expense

Time Balance Flow

Skip None

Exchange Rate Type No Rate

Source Cube Consol

Data Storage Store

Two Pass Calculation

Allow Upper-Level Entity Input

Plan Type Consol Addition

Rates Addition

Data Type Currency

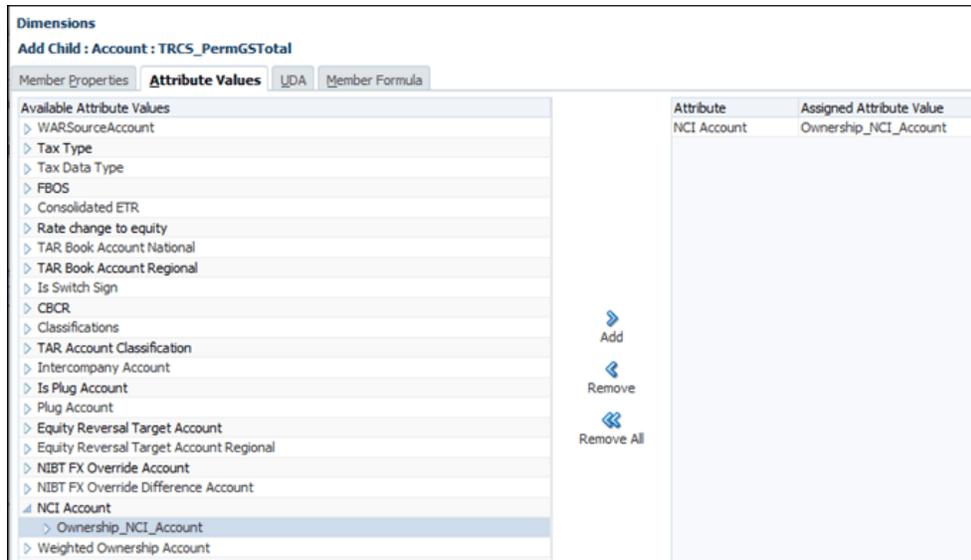
Smart Lists <None>

Enable for Dynamic Children

Number of Possible Dynamic Children 10

Access Granted to Member Creator Inherit

6. 「データ・ストレージ」を「保管」に設定します。
7. 「属性値」タブで、「使用可能な属性値」の下にある **NCI 勘定科目** を展開し、**出資比率 NCI 勘定科目** を強調表示して、「追加」をクリックします。



8. 「保存」をクリックします。
9. データベースをリフレッシュして変更を適用します。

Name	Alias (Default)	Data Storage	Custom Attributes
NCI	NCI	Store	View
▷ PermGS0001	Perm 1 -XXXXX	Store	View
▷ PermGS0002	Perm 2 -XXXXX	Store	View
▷ PermGS0003	Perm 3 -XXXXX	Store	View
▷ TRCS_TempGSTotal	Total Temporary Differences (GAAP to Stat)	Dynamic Calc	
▷ TRCS_PermSTTotal	Permanent Differences (Stat to Tax)	Dynamic Calc	
▷ TRCS_TempSTTotal	Total Temporary Differences (Stat to Tax)	Dynamic Calc	

出資比率連結メソッド

拡張連結および消去を提供するには、エンティティ・ディメンションのエンティティごとに、その親と関連して様々なパラメータを確立する必要があります。複数の連結メソッドが、連結および消去ルールの実行を容易にするように確立され、それぞれに次のようなプリセットまたは構成パラメータが指定されます。

- 出資比率%
- 連結%
- 少数株主(非支配)持分%

メソッドのその他の設定の決定に役立つ「コントロール」設定も使用できます。

連結メソッドは、連結、調整および消去ルールの実行中に連結親エンティティおよびその階層的な子孫に適用されます。

Tax Reporting には、次のような様々なシステム・メソッドが用意されています:

- 持株
- 子会社
- 比例

- 株主資本(将来の使用のために予約されています)
- 非連結
- 非アクティブ
- 非継続

持株メソッド

持株メソッドは、その直属の親が法的エンティティの連結結果を表す法的エンティティに適用されます。持株メソッドは、常に、100%の「**出資比率%**」と100%の「**連結%**」を適用します。「**コントロール**」は「**はい**」です。各親エンティティに指定できる持株メソッド・エンティティは1つのみです。

「子会社」メソッド

「子会社」メソッドは、持株会社が所有し、管理する法的エンティティに適用されます。「**子会社**」の「**出資比率%**」の範囲は、通常、50%から100%です。「**コントロール**」が「**はい**」であるため、「**連結%**」は100%になります。**少数株主(非支配)持分**は、100%から「**出資比率%**」を減算した値になります。

会社の連結比率(PCON)が100%である場合、TRCS_NIBT Adjusted 勘定科目の子は PCON で計算され、他のすべての勘定科目は POwn (出資比率)で計算されます。

「比例」メソッド

「比例」メソッドは、持株会社が所有するが、管理はせず、比例連結が必要な法的エンティティに適用されます。これは通常、合併事業に適用されます。「**コントロール**」が「**いいえ**」であるため、「**連結%**」は「**出資比率%**」と等しくなります。すべての勘定科目が POWm で計算されます。

非連結メソッド

非連結メソッドは、持株会社が所有するが、管理したり、重大な影響を与えない法的エンティティに適用されます。**非連結会社**の「**出資比率%**」の範囲は、通常、0%から20%です。「**コントロール**」が「**いいえ**」であるため、「**連結%**」は0%になります。**少数株主(非支配)持分**も0%になります。

すべての勘定科目が POwn で計算されますが、出資比率のパーセンテージをゼロに設定する必要があります。「**出資比率の管理**」が有効になっている場合、これらのすべてのメソッドに次のルールが適用されます:

- TRCS_NIBTAdjusted の子孫を PCon で連結する
- 他のすべての勘定科目を POwn で連結する

「非アクティブ」メソッド

「非アクティブ」メソッドは、将来使用できるように予約されています。

非継続メソッド

非継続メソッドは、非継続操作のシステム連結ルールが作成された場合に将来使用できるように予約されています。

出資比率の範囲

指定された出資比率%について、次に示す出資比率%の範囲に基づいてデフォルトの連結メソッドが割り当てられます。

0%から 100%の範囲を構成するシステム・メソッドは、次のとおりです。

- **非連結** = 0%
- **比例** = 0%から 50%
- **子会社** - 50%超から 100%

たとえば、35%と入力した場合、連結メソッドは自動的に「比例」に設定されます。必要に応じて、「**連結メソッド**」をクリックして別のメソッドを選択します。

Ownership %	Control	Consolidation Method
100	Yes	Subsidiary
35	No	
100	Yes	Subsidiary

出資比率設定の変更

様々な出資比率設定がありますが、変更できるのは次の出資比率設定のみです:

- 出資比率%
- コントロール
- 連結メソッド

次の情報を使用できます:

- **出資比率%**

必要に応じて、親と子の間の「出資比率の管理」の関係を変更できます。

パーセンテージのエントリを変更してフィールドを終了すると、「**コントロール**」、「**連結メソッド**」、「**連結%**」および「**少数株主持分%**」は、入力された「**出資比率%**」が含まれる範囲に割り当てられたメソッドに対するエントリに更新されます。

- **コントロール**

「**コントロール**」エントリは、入力された「**出資比率%**」とメソッド範囲に基づいて、システムによって割り当てられます。必要に応じて、システムによって割り当てられた「**コントロール**」エントリを変更できます。

「**コントロール**」エントリを変更するには、必要なエントリをドロップダウン・リストから選択します。

「**コントロール**」エントリがシステムによって割り当てられたエントリから変更された場合、フィールドの色は黄色の背景に変わります。

上書きエントリを削除してシステムによって割り当てられたエントリに戻すには、「**アクション**」 (...) から「**クリア**」を選択します。

- **連結メソッド**

「**連結メソッド**」エントリは、入力された「**出資比率%**」とメソッド範囲に基づいて、システムによって割り当てられます。必要に応じて、システムによって割り当てられた「**連結メソッド**」エントリを変更できます。

「**連結メソッド**」エントリを変更するには、必要なエントリをドロップダウン・リストから選択します。ドロップダウン・リストに表示されるメソッドは、「**出資比率%**」および「**コントロール**」設定によって異なります。持株のメソッドは、100%出資比率および「**コントロール**」が「はい」の場合にのみ使用できます。その他のメソッドは、それぞれの出資比率メソッドおよび「**コントロール**」の設定に基づいて選択できます。「**コントロール**」が「はい」の場合は、「**コントロール**」設定が「はい」になっているメソッドのみが表示されます。ドロップダウン・リストで使用可能なメソッドを変更するには、最初に「**コントロール**」の選択を変更します。

「**連結メソッド**」エントリがシステムによって割り当てられたエントリから変更された場合、フィールドの色は黄色の背景に変わります。

上書きエントリを削除してシステムによって割り当てられたエントリに戻すには、「**アクション**」 (...) から「**クリア**」を選択します。

「**コントロール**」と選択される「**連結メソッド**」の組合せは、メソッド設定と一致している必要があることに注意してください。「**コントロール**」が「はい」の場合、選択される「**連結メソッド**」は、「**コントロール**」が「はい」と定義されているいずれかのメソッドである必要があります。

- **連結%**

「**連結%**」は、メソッド設定に基づいて表示されます。

このエントリを変更することはできません。

- **少数株主持分%**

「**少数株主持分%**」は、メソッド設定に基づいて表示されます。

このエントリを変更することはできません。

- 「**出資比率%**」に対する後続の変更

システムによって割り当てられた「**コントロール**」または「**連結メソッド**」(あるいはその両方)のエントリを変更し、変更された**出資比率%**を入力する場合、ユーザーによって選択されたすべてのエントリは保持されます。

「**コントロール**」または「**連結メソッド**」(あるいはその両方)を、新しい「**出資比率%**」に基づいて更新する場合、上書きエントリをクリアするか、または新しい上書きエントリを選択する必要があります。

「親/法的エンティティ」ビュー

親/子ビューで必要な変更を行った後、「**親/法的エンティティ**」ボタンをクリックして、最終出資比率設定を表示および変更します。

POV で選択された階層内の各親が、その親の各法的エンティティ子孫のフラット・リストとともにリストされます。必要に応じて、階層を展開または縮小できます。

- **出資比率%**

表示される「**出資比率%**」は、現在の親から各法的エンティティまで、個々の一連の親/子エントリに基づいて計算されたパーセンテージです。たとえば、P1.P2 の**出資比率%**が 80%で、P2.LE1 が 50%である場合、P1.LE1 の計算される**累積出資比率%**は 40% (80% * 50%)です。

このエントリを変更することはできません。

- **コントロール**

「**コントロール**」エントリは、入力された「**出資比率%**」とメソッド範囲に基づいて、システムによって割り当てられます。必要に応じて、システムによって割り当てられた「**コントロール**」エントリを変更できます。このフィールドの動作は、**親/子**ビューでの場合と同じです。

- **連結メソッド**

「**連結メソッド**」エントリは、入力された「**出資比率%**」とメソッド範囲に基づいて、システムによって割り当てられます。必要に応じて、システムによって割り当てられた「**連結メソッド**」エントリを変更できます。このフィールドの動作は、**親/子**ビューでの場合と同じです。

- **連結%**

「**連結%**」は、メソッド設定に基づいて表示されます。

このエントリを変更することはできません。

- **少数株主持分%**

「**少数株主持分%**」は、メソッド設定に基づいて表示されます。

このエントリを変更することはできません。

出資比率データのインポートおよびエクスポート

出資比率データをインポートおよびエクスポートできます。

出資比率データのインポート

インポートする出資比率ファイルは、次の列を含むカンマ区切りファイルである必要があります。

- シナリオ(必須)

- 年(必須)
- 期間(必須)
- エンティティ(必須)
- 親(必須)
- POwn (オプション)。「出資比率」のデフォルトは **100** です。ただし、同じ階層内の重複(共有)メンバーは例外で、この場合のデフォルトは **0** です。

 ノート:

出資比率% (POwn)は、すべての親/子の行に対する必須エントリですが、法的会社
が直属の子ではない場合には、親/法的会社の行には入力しないでください。

- コントロール(オプション)。「コントロール」のデフォルトは、「出資比率%」が **100** を超える場合には「はい」、それ以外の場合には「いいえ」です。
- メソッド(オプション)。「メソッド」のデフォルトは「子会社」です。ただし、同じ階層内の重複(共有)メンバーは例外で、この場合のデフォルトは**非連結**です。

次に、出資比率ファイルのコンテンツの例を示します。

```
Scenario, Year, Period, Entity, Parent, POwn, Control, Method
```

```
Consol, FY18, Feb, [CE-0012-USD] . [LE-0014-CAD], [CE-0011-EUR] . [CE-0012-USD], 80,,
```

```
Consol, FY18, Feb, [CE-0012-USD] . [LE-0016-BRL], [CE-0011-EUR] . [CE-0012-USD], 50,, PROPORTIONAL
```

```
Consol, FY18, Feb, [CE-0012-USD] . [LE-0017-GBP], [CE-0011-EUR] . [CE-0012-USD], 30,,
```

```
Consol, FY18, Feb, [CE-0012-USD] . [LE-0018-EUR], [CE-0011-EUR] . [CE-0012-USD], 10,,
```

```
Consol, FY18, Jan, [CE-0013-GBP] . [LE-0014-CAD], [CE-0011-EUR] . [CE-0013-GBP], 10,,
```

```
Consol, FY18, Jan, [CE-0013-GBP] . [LE-0016-BRL], [CE-0011-EUR] . [CE-0013-GBP], 10,,
```

```
Consol, FY18, Feb, [CE-0012-USD] . [LE-0016-BRL], [Entity] . [FCCS_Total  
Geography], , NO, PROPORTIONAL
```

出資比率データをインポートするには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」、「連結」の順にクリックして、「出資比率の管理」画面を表示します。
2. データをインポートする「シナリオ」、「年」および「期間」を選択します。

インポート・ファイル内の「シナリオ」、「年」および「期間」は、表示される POV と一致する必要があります。

3. 「アクション」メニューから、「出資比率データのインポート」を選択します。
4. 「参照」をクリックして、インポート・ファイルを選択します。
5. 「インポート」をクリックします。
6. 出資比率設定を入力またはインポートする場合、関連フィールド間の依存関係が検証されます。
 - 「メソッド」と「コントロール」の組合せは、グローバル設定と一致している必要があります。
 - 選択された「メソッド」が持株である場合、「出資比率%」は 100 です。

ノート:

出資比率データのインポート時に、プロセスが 60 秒より長くなると、バックグラウンドでプロセスのリマインダが実行されるため、ユーザーは必要に応じて他の画面に移動できます。プロセスの進行状況を確認するには、「ジョブ」コンソールを開きます。

出資比率データのインポート時に、出資比率データがすべての既存データとマージされます。そのため、無効な最終出資比率エントリが作成される場合があります。エンティティが階層の複数のブランチに存在する場合、結合出資比率が 100%を超えていると、画面上に入力されたデータを保存できません。ファイルからロードされる場合は出資比率データが拒否されないため、エンティティの結合出資比率%が 100%を超える可能性があります。この場合、不一致が発生した期間の「出資比率の管理」画面の最上部にエラー・メッセージが表示されます。

特定の親/法会的会社の組合せの出資比率データが無効です。「親/法会的会社」ビューで無効な出資比率%を識別し、「親/子」ビューで修正してください。

後続の期間には、類似したメッセージが表示されます。

前の期間の特定の親/法会的会社の組合せの出資比率データが無効です。期間を識別し、データを修正してください。

データが正しくない期間に移動して、親/法的エンティティ・ビューを選択します。親/法的エンティティ 出資比率%のエントリを確認します。エラーは赤いテキストで強調表示されます。エラーのある(1 つ以上の)エンティティについては、親/子ビューに戻り、必要な親/子出資比率%を修正して結合出資比率が 100%を超えないようにしてください。

出資比率データのエクスポート

出資比率データをエクスポートするには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」、「連結」の順をクリックして、「出資比率の管理」画面を表示します。
2. データをエクスポートする「シナリオ」、「年」および「期間」を選択します。
3. 「アクション」メニューから、「出資比率データのエクスポート」を選択します。

4. .csv ファイルの保存場所を選択します。

Scenario										
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	Scenario	Year	Period	Entity	Parent	Pown	Control	Method		
2	Actual	FY15	P12	[A].[E]	[FCCS_Tot	90				
3	Actual	FY15	P12	[B].[C]	[FCCS_Tot	0				
4										
5										
6										
7										
8										
9										

ノート:

システムによってデフォルト・データとして移入された出資比率データは、エクスポート・ファイルには含まれません。(以前の期間から繰り越された値を上書きするのではなく)現在の期間のデフォルト設定を上書きするためにユーザーによって入力された値と、共有エンティティに関連するデータのみが、エクスポート・ファイルに含まれます。デフォルト・データ設定の詳細は、[出資比率の管理](#)の親/子ビュー設定に関する項を参照してください。

親対子の出資比率データ全体のエクスポート

「親対子の出資比率データ全体のエクスポート」オプションでは、上書きされたかどうかにかかわらず、すべての子およびエントリを含め、「親/子エンティティ」画面のすべてのデータがエクスポートされます。「親/法的エンティティ」画面について同じオプションを使用することはできません。

親対子の出資比率データ全体をエクスポートするには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」、「連結」の順にクリックして、「出資比率の管理」画面を表示します。
2. 上書きされたかどうかにかかわらず、それぞれの親とその子のデータ全体をエクスポートする「シナリオ」、「年」および「期間」を選択します。
3. 「アクション」メニューから、「親対子の出資比率データ全体のエクスポート」を選択します。

Consolidation: Manage Ownership
Review the ownership entries for the selected Scenario, Year, and Period, and update as required.

Search

Entity Total Geography Scenario Actual Years FY18 Period P3

Save Changes Discard Changes Actions

Parent / Legal Entity

- Recompute Ownership Data
- Import Ownership Data
- Export Ownership Data
- Export Full Parent to Child Ownership Data
- Copy Ownership Data to Next Year
- Expand All
- Collapse All

Parent / Legal Entity	Ownership %	Control	Consolidation Method	Consolidation %	Minority Interest %
Abold	100	Yes	Subsidiary	100	0
E	100	Yes	Subsidiary	100	0
Child	100	Yes	Subsidiary	100	0
D	100	Yes	Subsidiary	100	0
Ibhold	100	Yes	Subsidiary	100	0
C	100	Yes	Subsidiary	100	0
F	100	Yes	Subsidiary	100	0
A					

4. .csv ファイルの保存場所を選択します。

Consolidation: Manage Ownership
Review the ownership entries for the selected Scenario, Year, and Period, and update as required.
No default values set for the partially shared entities. Please recompute the ownership data.

Search

Entity E Scenario Actual Years FY18 Period P3

Save Changes Discard Changes Actions

Parent / Child Entity

Parent / Child Entity	Ownership %	Control	Consolidation Method	Consolidation %	Minority Interest %
E	40	No	Proportional	40	0

- NotConsolidated
- Proportional
- Discontinued
- InActive

 ノート:

上の表の行 7 では、上書きのみをエクスポートする通常のエクスポートではなく、デフォルトの関係がファイルにエクスポートされています。

データには、上書きされたかどうかにかかわらず、親およびすべての子のエントリが含まれます。

出資比率データの再計算

連結メソッドの範囲設定が変更された場合や、出資比率の管理の勘定科目に対してオーバーライド・ルールが追加または削除された場合は、出資比率データの再計算を求めるプロンプトが表示されます。このデータを再計算しない場合、「出資比率の管理」画面の上部に警告メッセージが表示されます。

出資比率データを再計算するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」、「連結」の順にクリックして、「連結: 出資比率の管理」画面を表示します。

Consolidation: Manage Ownership
Review the ownership entries for the selected Scenario, Year, and Period, and update as required.

Search

Entity: Total Geography Scenario: Actual Years: FY15 Period: P12

Save Changes Discard Changes Actions

Parent / Child Entity	Ownership %	Control	Consolidation Method	Consolidation %	Minority Interest %
Total Geography					
┆ A	100	Yes	Subsidiary	100	0 ...
Ahold	100	Yes	Subsidiary	100	0 ...
E	100	Yes	Subsidiary	100	0 ...
┆ C	100	Yes	Subsidiary	100	0 ...
Chold	100	Yes	Subsidiary	100	0 ...
D	100	Yes	Subsidiary	100	0 ...
┆ B	100	Yes	Subsidiary	100	0 ...
Bhold	100	Yes	Subsidiary	100	0 ...
C (Shared)	0	No	NotConsolidated	0	0 ...

2. 「アクション」、「出資比率データの再計算」の順に選択します。
3. 「出資比率データの再計算」ダイアログ・ボックスで、再計算する「シナリオ」、「年」および「開始期間」を選択します。
再計算は選択した期間およびすべての後続期間に適用されることに注意してください。
また、POV を再計算する必要がある場合は、出資比率データが再計算されるまで POV が完了しないことにも注意してください。
4. 「再計算」をクリックします。
5. 再計算の成功メッセージで、「OK」をクリックします。

ノート:

- 出資比率データを再計算するときに、プロセスが 60 秒を超える場合、プロセスの残りの部分がバックグラウンドで続行され、必要に応じて他の画面に移動できます。プロセスの進行状況を確認するには、「ジョブ」コンソールを開きます。
- 今年度のデータを連結する場合は、前年度の P12 を **出資比率の再計算**が必要な状態にしておかないでください。前年度に **出資比率の再計算**が必要な場合は、今年度の連結を実行する前に前年度の再計算と連結を実行しておく必要があります。そうしないと、年初の出資比率調整データが不正確になります。

フォームでの出資比率設定

出資比率設定の入力または更新は、「出資比率の管理」画面でのみ行う必要があります。これらの設定は直接入力またはルール経由では更新しないでください。ただし、これらの設定をデータ・フォームに表示することはできません。

データ・フォームでの出資比率設定

詳細を表示するには、TRCS 出資比率詳細の UI を開きます。

使用する POV を次のディメンションから選択します:

- シナリオ

- 年
- 期間
- エンティティ
- 勘定科目(FCCS_Drivers の子孫)
 - FCCS_Consol Method (現在の期間の連結メソッド)
 - FCCS_Consol Method Prior (前期間の連結メソッド)
 - FCCS_Percent Consol (現在の期間の連結%)
 - FCCS_Percent Consol Prior (前期間の連結%)
 - FCCS_Percent Consol Change (前期間から現在の期間までの連結%の変更)
 - FCCS_Percent Ownership (現在の期間の出資比率%)
 - FCCS_Percent Ownership Prior (前期間の出資比率%)
 - FCCS_Percent Ownership Change (前期間から現在の期間までの出資比率%の変更)
 - FCCS_Percent Min (現在の期間の少数株主持分%)
 - FCCS_Percent Min Prior (前期間の少数株主持分%)
 - FCCS_Percent Min Change (前期間から現在の期間までの少数株主持分%の変更)
- データ・ソース(FCCS_Source Entities の子孫)
 - S_Parent Source (直接出資比率設定のプライマリ・エンティティ 階層内の親エンティティ)
 - S_<エンティティ名> (直接出資比率設定の非プライマリ・エンティティ 階層内の親エンティティ、および最終出資比率設定の祖先)

固定:

- 連結: FCCS_Entity Input
- 通貨: 通貨なし(複数通貨アプリケーションの場合)
- 会社間: FCCS_No Intercompany
- 増減: FCCS_No Movement
- 複数 GAAP: FCCS_No Multi-GAAP (該当する場合)
- 表示: FCCS_Periodic
- カスタム: <カスタム名>なし

TRCS_出資比率詳細の表示

このフォームは、Essbase 内に保存されている出資比率データの読取り専用ビューです。出資比率データに対する編集はすべて、「出資比率の管理」の UI で行う必要があります。

このデータは、「出資比率の管理」の UI で「保存」をクリックしたときに Essbase に保存されたものを反映しています。

TRCS_出資比率詳細を表示するには:

1. ホーム・ページで、「ライブラリ」を選択します。
2. 「フォーム」タブで、「税金管理」を展開し、スクロールして **TRCS_出資比率詳細** を開きます。

TRCS_Ownership Detail ⓘ

Years FY16	Scenario Actual	Period P3	Percent Ownership	Percent Consolidation	Percent Consolidation Prior	Percent Consolidation Change	Percent Elim	Consol Method	Percent Min	Control	Control Input	Consol Method Input	Percent Consolidation Input	P Ow
[A][Hold]	S_Parent Source		100%	100%	100%	0%		Holding	0% 0		0	Holding	100%	
[A][E]	S_Parent Source		40%	40%	80%	-40%		Proportional	0% 1		1	Proportional	40%	
[C][Chold]	S_Parent Source		100%	100%	100%	0%		Subsidiary	0% 0		0	Subsidiary	100%	
[C][D]	S_Parent Source		80%	100%	100%	0%		Subsidiary	20% 0		0	Subsidiary	100%	
[A][IC]	S_Parent Source		75%	75%	75%	0%		Proportional	0% 1		1	Proportional	75%	
[Total Geography][A]	S_Parent Source		90%	100%	100%	0%		Subsidiary	10% 0		0	Subsidiary	100%	
[B][Hold]	S_Parent Source		100%	100%	100%	0%		Holding	0% 0		0	Holding	100%	
[B][C]	S_Parent Source		25%	25%	25%	0%		Proportional	0% 1		1	Proportional	25%	
[B][F]	S_Parent Source		0%	0%	0%	0%		NotConsolidated	0% 1		1	NotConsolidated	0%	
[Total Geography][B]	S_Parent Source		100%	100%	100%	0%		Subsidiary	0% 0		0	Subsidiary	100%	
[FCCS_Total Geography]	S_Parent Source		100%	100%	100%	0%		Subsidiary	0% 0			No Data		
[Entity]	S_Parent Source		100%	100%	100%	0%		Subsidiary	0% 0			No Data		

3. 各列の値を確認します

TRCS_加重出資比率詳細の表示

管轄およびメンバーごとに加重出資比率詳細を確認できます。

次の値が計算されます:

- 現在の年の加重連結比率
- 現在の年の加重出資比率

TRCS_加重出資比率詳細の UI にアクセスするには:

1. ホーム・ページで、「ライブラリ」を選択します。
2. 「フォーム」タブで、「税金管理」を展開します。
3. **TRCS_加重出資比率詳細** フォームまでスクロールします。
4. 次の列の値を確認します:
 - 現在の年の加重連結比率
 - 現在の年の加重出資比率

TRCS_Weighted Ownership Detail ⓘ					
Years	Scenario	Period	Multi-GAAP	Jurisdiction	
FY16	Actual	P3	Local GAAP	United States	
			Percent Current Year Weighted Consolidation	Percent Current Year Weighted Ownership	
[A].[Ahold]	S_Parent Source		100%	100%	
[A].[E]	S_Parent Source		40%	40%	
[C].[Chold]	S_Parent Source		100%	100%	
[C].[D]	S_Parent Source				
☐ [A].[C]	S_Parent Source		75%	75%	
☐ [Total Geography].[A]	S_Parent Source		100%	90%	
[B].[Bhold]	S_Parent Source				
[B].[C]	S_Parent Source		25%	25%	
[B].[F]	S_Parent Source		0%	0%	
☐ [Total Geography].[B]	S_Parent Source		100%	100%	
☐ FCCS_Total Geography	S_Parent Source				
☐ Entity	S_Parent Source				

前年比出資比率設定

出資比率の初期デフォルト設定と上書き設定は、同一年度内の期間には自動的に繰り越されますが、後続の年度には繰り越されません。出資比率データをコピーすることにより、ある年の最後の期間(P12)から翌年の最初の期間に最新の設定を繰り越すことができます。

このオプションは、各年度の最後の期間でのみ使用できることに注意してください。

出資比率設定が後続の各年度の最初の期間にコピーされていない場合は、後続の年度にエンティティ構造が表示されず、次のような情報メッセージが表示されます。

現在の年には出資比率データがありません。前年の最後の期間で、「次の年に出資比率データをコピー」アクションを試行してください。

翌年度に出資比率データをコピーするには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」、「連結」の順にクリックして、「出資比率の管理」画面を表示します。
2. POV で現在の年の P12 を選択します。
3. 「アクション」メニューから、「出資比率データを次の年にコピー」を選択します。
4. コピーが完了したら、「OK」をクリックします。

出資比率データのコピー時に、プロセスが 60 秒を超えた場合、残りのプロセスはバックグラウンドで続行されるため、必要に応じて他の画面に移動できます。プロセスの進行状況を確認するには、「ジョブ」コンソールを開きます。

ジョブの管理

関連トピック

- [ジョブの概要](#)
- [ジョブのスケジュール](#)
- [ジョブの表示](#)
- [保留中のジョブおよび最近のアクティビティの表示](#)
- [ジョブの編集および削除](#)
- [ジョブの複製](#)
- [キューブのクリア・ジョブの開始および削除](#)

ジョブの概要

ジョブとは、データのエクスポートやデータベースのリフレッシュなどのアクションであり、ただちに開始することも、周期的に実行するようスケジュールすることもできます。ジョブ・コンソールによって、管理者は、ジョブを中央管理できます。

ジョブ・コンソールでは、次のタイプのジョブを管理できます。

- ルールの実行
- データのインポート
- メタデータのインポート
- データのエクスポート
- メタデータのエクスポート
- データベースのリフレッシュ
- 無効な交差レポートの実行
- ブロック・ストレージ・キューブ(BSO)の再構築
- タスク・マネージャや補足データ・ジョブなどの非連結ジョブ

ノート:

スケジュールされたジョブが原因で自動バックアップが失敗するのを防ぐために、**EPM Cloud** では、日次メンテナンス・プロセスの実行中は、特定のスケジュールされたジョブの開始が許可されません。次のジョブは、日次メンテナンス中に開始できません:

- データのインポート

- メタデータのインポート
- データのエクスポート
- メタデータのエクスポート
- データベースのリフレッシュ
- キューブのクリア
- キューブの再構築

システムによってジョブの開始が妨げられた場合、その理由がジョブの詳細に表示されます。ジョブ・コンソールの電子メール通知を有効にしている場合は、ジョブが開始されないときに、電子メール通知を受け取ります。日次メンテナンス・プロセス中に開始するようにスケジュールされているジョブがある場合は、日次メンテナンス・ウィンドウの外で開始するようにジョブを再スケジュールすることをお勧めします。[ジョブのスケジュール](#)を参照してください

ジョブのスケジュール

ジョブの実行時期(ただちにまたは将来)および実行頻度(一度、毎日、毎週、毎月、毎年)をスケジュールできます。

ジョブをスケジュールするには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックします。
2. 「**ジョブ**」をクリックします。
3. 「**ジョブのスケジュール**」をクリックします。

4. 「**ジョブのスケジュール**」ページの「**一般**」タブで、スケジュールするジョブのタイプを選択します。
 - **ルール** - ビジネス・ルールを起動します。「**ビジネス・ルール**」ページには、アプリケーションに作成されたビジネス・ルールがリストされます。

- **データのインポート** - データのインポート操作を実行します。
 - **メタデータのインポート** - メタデータのインポート操作を実行します。
 - **データのエクスポート** - データのエクスポート操作を実行します。
 - **メタデータのエクスポート** - メタデータのエクスポート操作を実行します。
 - **データベースのリフレッシュ** - データベースのリフレッシュ操作を起動します。
 - **無効な交差レポート** - 無効な交差レポートを実行します。
 - **キューブの再構築** - 「**キューブ**」から、再構築するキューブを選択します。ブロック・ストレージ・キューブ(BSO)の再構築をすべて実行して、断片化を消去または削減します。この操作により、空のブロックも削除されます。これは、集約ストレージ・キューブ(ASO)には適用できません。
 - **キューブのクリア** - キューブのクリア・プロセスを実行して、キューブ内の特定データをクリアします。
 - **管理モード** - アプリケーションのログイン・レベルを変更します。「**管理者**」を選択すると、ジョブの実行後にすべての非管理者ユーザーがアプリケーションからログオフされます。すべてのユーザーがアプリケーションにアクセスできるように復元するには、「**すべてのユーザー**」を選択します。
 - **バースト定義の実行** - Reports 用に保存されたバースト定義を実行します。1 つのデータ・ソースの単一ディメンションの複数メンバーに対して、単一のレポートまたはブックを実行し、各メンバーの PDF 出力を公開できます。*Oracle Enterprise Performance Management Cloud レポートでの設計*のバーストに関する項を参照してください。
 - **パイプライン定義の実行**—このジョブでは、データ統合ユーザー・インタフェースでパイプラインについて定義されたパラメータおよび変数(「**開始期間**」や「**インポート・モード**」など)に基づいたパイプラインの実行がサポートされています。
ジョブのパラメータおよび変数の詳細は、次のトピックを参照してください:
 - *Oracle Enterprise Performance Management Cloud データ統合の管理*の「**統合**」
ジョブ・タイプの使用
 - *Enterprise Performance Management Cloud の REST API*の**パイプラインの実行**
パイプライン定義の作成の詳細は、*Oracle Enterprise Performance Management Cloud データ統合の管理*の**パイプラインの使用**を参照してください。
5. 「**このジョブをいつ実行しますか?**」で、ジョブの実行時期を選択します。
- **今すぐ実行**
 - **スケジュール開始日**: 日付、時刻およびタイム・ゾーンを選択します。

 **ノート:**

スケジュールされたジョブが原因で自動バックアップが失敗するのを防ぐために、EPM Cloud では、日次メンテナンス・プロセスの実行中は、特定のスケジュールされたジョブの開始が許可されません。システムによってジョブの開始が妨げられた場合、その理由がジョブの詳細に表示されます。ジョブ・コンソールの電子メール通知を有効にしている場合は、ジョブが開始されないときに、電子メール通知を受け取ります。日次メンテナンス・プロセス中に開始するようにスケジュールされているジョブがある場合は、日次メンテナンス・ウィンドウの外で開始するようにジョブを再スケジュールすることをお勧めします。環境の日次メンテナンス操作およびメンテナンス開始時刻のスケジュールリングについては、『*Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者スタート・ガイド*』の[日次メンテナンスの管理](#)を参照してください。

6. 「このジョブをどの頻度で実行しますか?」で、次のようにしてジョブの繰返しを設定します。
 - ジョブの**名前**を入力します(MyWeeklyCubeRefresh など)。「**ジョブ**」コンソールのジョブ・リストに、入力した名前とシステムで生成されたジョブ名(MyWeeklyCubeRefresh: Refresh Database など)が表示されます。
 - 「**繰返しパターン**」で、ジョブを実行する頻度を選択します。
 - 1 時間ごと
 - 分単位
 - 1 回実行
 - 毎日
 - 週次
 - 月次
 - 年次
 - **オプション:** 終了日を入力するには、「**終了日**」チェック・ボックスを選択し、日付と時刻を選択します。
7. 「**次**」をクリックして続行します。
8. 「**ジョブの詳細**」ページに、ジョブとして保存された操作のリストが表示されます。ジョブを選択し、「**次**」をクリックします。
9. 「**確認**」ページで、選択内容を確認します。
 - 続行するには、「**終了**」をクリックします。
 - 変更を行うには、「**前**」をクリックします。
 - ジョブを取り消すには、「**取消し**」をクリックします。

ジョブの表示

ジョブ・コンソールには、次のタイプのジョブがリストされます:

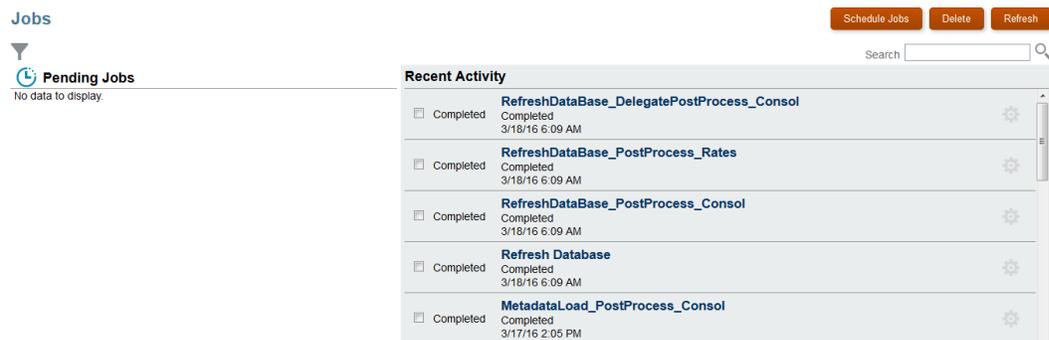
- 保留中の状態のジョブ(「**保留中のジョブ**」の下)
- 現在処理中のジョブ、実行され完了したジョブ、またはエラーが発生したジョブは、「**最近のアクティビティ**」の下にリストされます
- タスク・マネージャや補足データ・ジョブは、「**連結以外のジョブ**」タブにリストされます。

ノート:

ジョブは、ジョブ・コンソールに 90 日間保持されます。

ジョブ・コンソールでリストを表示するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックします。
2. 「**ジョブ**」をクリックします。



Recent Activity		
<input type="checkbox"/>	Completed RefreshDataBase_DelegatePostProcess_Consol Completed 3/18/16 6:09 AM	
<input type="checkbox"/>	Completed RefreshDataBase_PostProcess_Rates Completed 3/18/16 6:09 AM	
<input type="checkbox"/>	Completed RefreshDataBase_PostProcess_Consol Completed 3/18/16 6:09 AM	
<input type="checkbox"/>	Completed Refresh Database Completed 3/18/16 6:09 AM	
<input type="checkbox"/>	Completed MetadataLoad_PostProcess_Consol Completed 3/17/16 2:05 PM	

3. 次のタスクを実行します:
 - 保留中のジョブおよび最近のアクティビティのリストをフィルタするには、「**フィルタ**」アイコン  をクリックして、フィルタ・オプションを選択し、「**適用**」をクリックします。
 - ジョブを検索するには、「**検索**」フィールドにテキストを入力し、「**検索**」アイコン  をクリックします。
 - ジョブの詳細を表示するには、ジョブの名前をクリックします。
 - タスク・マネージャおよび補足データ・ジョブの詳細を表示するには、左側の「**連結以外のジョブ**」タブをクリックします。名前、ステータス、作成者(または変更者)、開始日または終了日でジョブ・リストをフィルタするオプションがあります。

連結以外のジョブの表示

タスク・マネージャや補足データ・ジョブなどの連結以外のジョブのページにはジョブが表示され、ジョブ詳細をフィルタおよび表示できます。

ジョブを表示するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**ジョブ**」をクリックします。

2. 左側のナビゲーションで

「**連結以外のジョブ**」をクリックします。
3. **オプション:** ジョブを検索するには、「**検索**」テキスト・ボックスに検索条件を入力します。
4. **オプション:** 「フィルタ」バーで、フィルタ条件を選択します:
 - **ジョブ ID**
 - **名前**
 - **タイプ**
 - **ソース**
 - **ステータス**
 - **開始日**
 - **終了日**
5.  **Add a Filter**
をクリックして、追加のフィルタ条件を選択します。

 **Note:**

フィルタ・バーを非表示にするには、



をクリックします。すべてのフィルタをクリアするには、フィルタ・バーの右側をクリックします。

6. ジョブの横にある

アイコンをクリックして、「**ジョブの詳細**」を表示します。

保留中のジョブおよび最近のアクティビティの表示

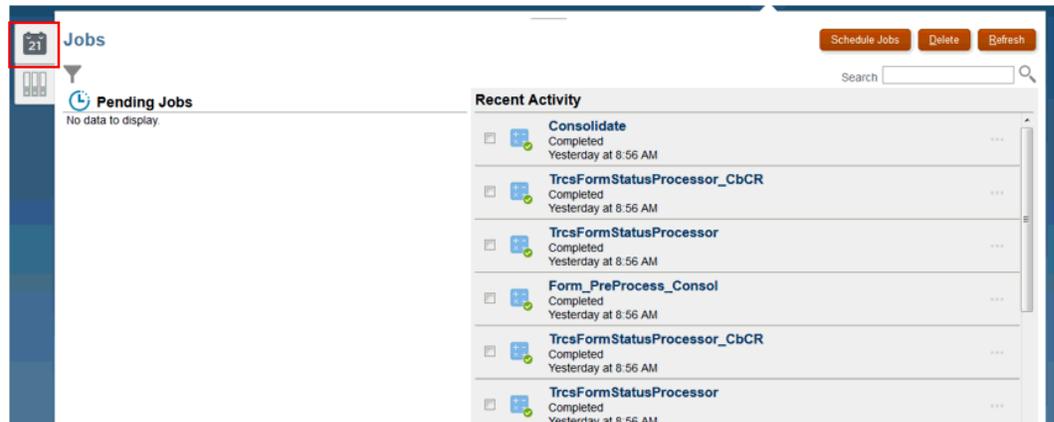
ジョブの発行後、スケジュールしたジョブを確認できます。

- 「**保留中のジョブ**」に、キューにある処理対象のジョブが表示されます。
- 「**最近のアクティビティ**」に、現在処理中のジョブまたは完了したジョブが表示されます。この列には、実行されてエラーが発生したジョブも表示されます。

ジョブは、ジョブ・コンソールに 90 日間保持されます。

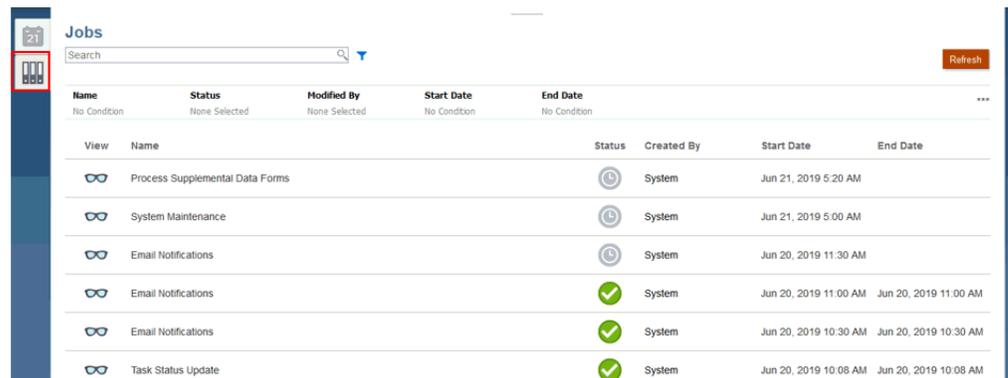
ジョブ・コンソールでジョブ・リストを表示するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**ジョブ**」をクリックします。



2. 次のタスクを実行します:

- 保留中のジョブおよび最近のアクティビティのリストをフィルタするには、「フィルタ」をクリックしてフィルタ・オプションを選択し、「適用」をクリックします。ジョブ・タイプ、実行ステータス、ジョブ名、開始時間、終了時間およびユーザー名でフィルタできます。
- ジョブを検索するには、「検索」にテキストを入力し、「検索」をクリックします。
- ジョブの詳細を表示するには、ジョブの名前をクリックします。
- タスク・マネージャおよび補足データ・ジョブの詳細を表示するには、左側の「**連結以外のジョブ**」タブをクリックします。POV バーを使用して、名前、ステータス、変更者、開始日または終了日でリストをフィルタします。



関連項目: [連結以外のジョブの表示](#)

ジョブの編集および削除

保留中のジョブのスケジュールのみ編集できます。ジョブ・タイプまたはジョブ名は編集できません。

保留中または完了したジョブを削除できます。

ジョブが処理中の状態の場合、編集または削除できません。

ジョブを編集するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「ジョブ」をクリックします。
2. 保留中のジョブを編集するには、変更するジョブの横の「アクション」



をクリックし、「編集」を選択します。

3. 「スケジュール済ジョブの編集」ページで、ジョブの実行時期および実行頻度を選択し、「次」をクリックします。変更内容を確認し、「終了」をクリックします。

ノート:

ジョブのスケジュールのみを編集できます。ジョブ・タイプまたはジョブ名は編集できません。

ジョブを削除するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「ジョブ」をクリックします。
2. 保留中または完了したジョブを削除するには、削除するジョブの横の「アクション」



をクリックし、「削除」を選択します。ジョブが即座に削除されます。

ノート:

一度に1つのジョブまたは複数のジョブを削除できます。

ジョブの複製

「名前を付けて保存」オプションを使用して既存のジョブの複製を作成し、その複製を更新することで、新規ジョブを作成するたびに最初から選択しなくて済むようにします。

「名前を付けて保存」は、次のジョブ・タイプでサポートされています：

- データのエクスポート
- データのインポート
- メタデータのエクスポート
- メタデータのインポート
- データベースのリフレッシュ
- キューブのクリア

Note:

ジョブ・タイプの詳細は、[ジョブのスケジュール](#)を参照してください

ジョブを複製するには：

1. 「アプリケーション」、「概要」の順にクリックします。
2. 「アクション」をクリックして、次のアクションのいずれかを選択します：
 - データのエクスポート
 - データのインポート
 - メタデータのエクスポート
 - メタデータのインポート
 - データベースのリフレッシュ
 - キューブのクリア
3. リスト・ページで、複製するジョブの横にある「アクション」列の  をクリックし、「名前を付けて保存」を選択します。
4. 新規ジョブの名前を入力し、「OK」をクリックします。

結果

複製ジョブが作成された後に、そのジョブを開いて更新できます。複製ジョブのエラー・ファイルでは、接頭辞として新規ジョブ名が自動的に使用されます。

キューブのクリア・ジョブの開始および削除

キューブのクリア・ジョブをすぐに開始するかジョブを削除するには：

1. 「アプリケーション」をクリックし、「概要」をクリックします。

2. 「アクション」、「キューブのクリア」の順にクリックします。
3. 「キューブのクリア」リスト・ページで、開始または削除するキューブのクリア・ジョブの横にある「アクション」アイコン  をクリックし、次のいずれかのオプションを選択します。
 - 「送信」をクリックすると、ジョブがすぐに開始されます。
 - 「削除」をクリックすると、ジョブが削除されます。

19

ロールオーバーの実行と構成のコピー

関連トピック

- [ロールオーバーについて学習](#)
- [ロールオーバーの実行](#)
- [エンティティによるロールオーバーの実行](#)
- [シナリオ、年および期間全体の構成のコピー](#)
- [エンティティ全体の構成のコピー](#)

ノート:

構成のロールオーバーおよびコピーでのセキュリティ・レイヤーの概要は、[セキュリティの管理](#)を参照してください。

ロールオーバーについて学習

期間のクローズ後、ロールオーバー・プロセスを使用して関連する構成を前期からコピーし、新規ターゲット期間の税引当および CbCR プロセスの開始点として使用します。前の期間は、ソース期間と見なされます。たとえば、ターゲット期間が P6 に設定されている場合、ソース期間は P5 になります。ターゲット期間が P1 の場合、ソース期間は前年度の P12 になります。ロールオーバーを実行すると、ロールオーバー・プロセスには FCCS_Total 地理階層外のエンティティも含めたすべてのレベル 0 エンティティが含まれます。

ノート:

1 つのシナリオから複数のシナリオ、年および期間に構成をロールオーバーする必要がある場合は、構成のコピーを使用します。[シナリオ、年および期間全体の構成のコピー](#)を参照してください。

ロールオーバーは、次のいずれかの構成で使用できます:

- 税率 - 選択したターゲット POV に税率をコピーします
ノート: ターゲット期間が P1 の場合は、前年度の期末レートがターゲット年度の期首レートにマップされます。次を参照してください:
今年度現行税率 => 前年度現行税率
期末繰延税率 - 非流動 => 期首繰延税率 - 非流動
期末繰延税率 - 非流動 => 期末繰延税率 - 非流動
期末地域税金配賦 => 期首地域税金配賦

期末地域税金配賦 => 今年度地域税金配賦

期末地域税金配賦 => 期末地域税金配賦

オーバーライド税率(期末) => オーバーライド税率(期首)

オーバーライド税率(期末) => オーバーライド税率(今年度)

オーバーライド税率(期末) => オーバーライド税率(期末)

オーバーライド税率配賦(期末) => オーバーライド税率配賦(期首)

オーバーライド税率配賦(期末) => オーバーライド税率配賦(今年度)

オーバーライド税率配賦(期末) => オーバーライド税率配賦(期末)

- 為替レート - 選択したターゲット **POV** に為替レートをコピーします
ターゲット期間が **P1** の場合、為替レートは次のようにマップされます:

平均レート => 平均レート

期末レート => 期末レート

ターゲット期間が **P1** 以外の場合、為替レートは同様にマップされます。為替レートの場合、コピーとロールオーバーのマッピングは同じです。

ノート: **FX** レート - 期首の移入元 => 前年度、**P12**、期末レート(「レートの計算」の実行時)。

- 税金自動化ルール - 選択したターゲット **POV** に税金自動化ルールをコピーします
- **CbCR** 自動化ルール - **CbCR** 自動化ルールをコピーして、ターゲット期間の表 1 のデータを移入します
- **CbCR** ファイリング - (国別レポート)表 2、表 3、構成エンティティ情報データ、レポート・エンティティ情報およびメッセージ仕様のデータをロールオーバーします
- 課税損失/税額控除の期限切れの年 - 選択したターゲット **POV** に期限切れの年をコピーします
ターゲット期間が **P1** の場合、期限切れの年は次のようにマップされます:

現在の年 => 現在の年-1

現在の年-1 => 現在の年-2

...

...

...

ターゲット期間が **P1** 以外の場合、期限切れの年は次のようにマップされます(構成のコピーと同じ動作):

現在の年 => 現在の年

現在の年-1 => 現在の年-1

後続の各期間について、ロールオーバー・プロセスを利用して前述の項目を移動できます。1 つ以上の構成を選択して一度にロールオーバー、またはすべてを一度にロールオーバーできます。コピーが完了すると、フォームにコピーの完了日時が表示されません。

▲ **注意:**

ロールオーバーを実行すると、ターゲットのシナリオ、年および期間にある既存の構成(選択した場合)がロールオーバー中に上書きされます。

ロールオーバーの実行

ロールオーバーは、システム管理者またはパワー・ユーザーが実行する必要があります。

ロールオーバーを実行するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」、「構成」、「ロールオーバー」の順に選択します。

The screenshot shows the Oracle Tax Reporting Cloud interface. The top navigation bar includes 'Overview', 'Rules', 'Task Manager', 'Supplemental Data', 'Settings', 'Configuration', 'Valid Intersection', 'Data Exchange', 'Jobs', 'Cell Level Security', 'Services', and 'Supplemental/Task Reports'. The main content area is titled 'Configure: Tax Reporting' and contains a table with the following columns: Name, Type, Status, Executed, and Action. The 'Rollover' row is highlighted in blue.

Name	Type	Status	Executed	Action
Tax Automation Manage Rules	Maintenance Optional	Not Configured		...
CBCR Automation CBCR Automation	Maintenance Optional	Not Configured		...
Tax Automation Regional Manage Regional Rates	Maintenance Optional	Not Configured		...
RTA Automation Post Adjustment	Maintenance Optional	Not Configured		...
Exchange Rates Manage Rates	Maintenance Optional	Not Configured		...
Tax Rates Manage Rates	Maintenance Optional	Not Configured		...
Consolidated Tax Rates Manage Rates	Maintenance Optional	Not Configured		...
Rollover Perform Periodic Rollover	Maintenance Optional	Not Configured		...
CBCR Data Migration for Separate Approval Process Performs Migration of CBCR Historical Data to newly created CBCR Scenario(s)	Maintenance Optional	Not Configured		...
CBCR Automation Migration Perform Migration of CBCR Automation Data	Maintenance Optional	Not Configured		...

2. 「ロールオーバー」画面で、構成のコピー先となるターゲット視点を選択します。
 - **シナリオ** - シナリオのリストからシナリオを選択します。
 - **年** - リストから年を選択します。
 - **期間** - 期間のリストから基本期間を選択します。ターゲット期間は POV で選択されている期間で、ソースはその前の期間です。たとえば、FY21 P1 の場合、前の期間は FY20 P12 です。

Rollover ⓘ Select All Refresh Run Close

* Scenario Actual * Year FY21 * Period P1

Select Task	Name	Description	Scenario, Year and Period
<input checked="" type="checkbox"/>	Tax Rates	Copy tax rates to selected target POV	
<input checked="" type="checkbox"/>	Exchange rates	Copy exchange rates to selected target POV	
<input checked="" type="checkbox"/>	Tax automation rules	Copy tax automation rules to selected target POV	
<input checked="" type="checkbox"/>	Year Of Expiration in Tax Losses/Credits	Copy year of expiration to selected target POV	
<input checked="" type="checkbox"/>	TAR Automation rules	Copy TAR Automation rules to selected target POV	
<input checked="" type="checkbox"/>	Loss Entities	Copy loss entities setting	
<input checked="" type="checkbox"/>	CbCR Filing	Roll over Data for Table 2, Table 3, Constituent Entity Information Data, Reporting Entity Infor...	
<input checked="" type="checkbox"/>	Cbcr automation rules	Copy CbCR Automation rules to selected target POV	
<input checked="" type="checkbox"/>	Current tax payable automation rules	Copy Current Tax Payable Automation rules to target POV	
<input checked="" type="checkbox"/>	Current tax payable data	Copy all the data in current tax payable and detail form to target POV	

3. 実行するロールオーバーのタイプをクリックして選択します。
- **税率**-- 選択したターゲット POV に税率をコピーします
 - **為替レート**-- 選択したターゲット POV に為替レートをコピーします
 - **税金自動化ルール**-- 選択したターゲット POV に税金自動化ルールをコピーします

 **ノート:**

税金自動化ロールオーバーを実行する前に、FCCS_Global Assumptions を含むすべてのレベル 0 エンティティおよびターゲットのシナリオ、年および期間のエンティティがロックされていないことを確認してください。ロールオーバーを完了するには、これらをロック解除する必要があります。

- **課税損失/税額控除の期限切れの年** - 課税損失または税額控除の期限切れの年をターゲット POV にコピーします。
- **損失エンティティ** - 損失エンティティ設定をコピーします。
- **CbCR ファイリング**-- 次の国別レポート・フォームをロールオーバーします。
 - 表 2
 - 表 3
 - 構成エンティティ情報
 - レポート・エンティティ情報
 - メッセージ仕様

 ノート:

データは新しい期間に対して入力されるため、表 1 はロールオーバーされません。また、ロールオーバーでは、ドキュメント参照 ID、修正メッセージ ID、レポート期間、タイムスタンプなど、特定のレポート期間/年/シナリオに固有の一意の要素もすべて除外されます。これらのフィールドは、コピーされない「詳細」および「管轄ドキュメント仕様」レポートの一部です。

 ノート:

親エンティティでのデータ入力がある場合、ロールオーバーは親エンティティでも機能します。

- **CbCR 自動化ルール**-- CbCR 自動化ルールをコピーして、ターゲット期間の表 1 のデータを移入します

 ノート:

CbCR 自動化ルールを実行する前に、次の条件を満たしていることを確認する必要があります。

- FCCS_Global Assumptions を含むすべてのレベル 0 エンティティおよびターゲットのシナリオ、年および期間のエンティティがロックされていないことを確認してください。ロールオーバーを完了するには、これらをロック解除する必要があります。
- 連結が Consol キューブで実行され、CbCR キューブが更新されています。

- **現在の未払税自動化ルール**-- 現在の未払税自動化ルールをコピーして、ターゲット期間のデータを入力します。「ロールオーバー」画面の未払税自動化ルールのコピー・チェック・ボックスを選択し、「現在の未払税自動化」フォームで定義した自動化ルールをコピー(前の期間から次の期間にコピー)します。
- **現在の未払税データ**-- 現在の未払税および詳細フォームのすべてのデータをコピーし、ターゲット期間のデータを入力します。自動化されたデータではなく、ユーザーが入力したすべてのデータをコピーするには、「現在の未払税データ」チェック・ボックスを選択します。自動化されたデータは、連結時にのみ移入されます。

 ノート:

- 現在の未払税自動化ルールのロールオーバーは同じままです。唯一の違いは、ユーザーがターゲット期間として期首を選択し、現在の未払税データとしてルールを選択した場合の現在の未払税データに、前年の P12 のデータがコピーされないことです。
- 自動化されたデータはコピーされません。ユーザーが入力したデータのみがコピーされます。

表 19-1 現在の未払税自動化ルールのロールオーバーの例

ルール名	ターゲット POV	予測される結果
現在の未払税自動化ルール	ターゲット POV: 実績、FY15、P2	現在の未納税自動化ルールは、「実績、FY15、P1」から「実績、FY15、P2」にコピーされます
現在の未払税自動化ルール	ターゲット POV: 実績、FY16、P1	現在の未納税自動化ルールは、「実績、FY15、P12」から「実績、FY16、P1」にコピーされます
現在の未払税データ	ターゲット POV: 実績、FY15、P2	現在の未払税データは、「実績、FY15、P1」から「実績、FY15、P2」にコピーされます ノート: ユーザーが入力したデータのみがコピーされ、自動化されたデータはコピーされません。
現在の未払税データ	ターゲット POV: 実績、FY16、P1	「実績、FY15、P12」から「実績、FY16、P1」には、データはコピーされません

「すべて選択」をクリックして、すべてのロールオーバー・タイプを一度に選択できます。

4. **オプション:** 前のロールオーバーの詳細を確認します。
 - シナリオ、年および期間 - これが初めてのロールオーバーの実行の場合、この列は空白です。
 - ロールオーバーのステータス
 - ロールオーバーが実行された日付
5. 「実行」をクリックし、選択したロールオーバーを実行します。ロールオーバーが完了すると、ステータスと実行日時が表示されます。
6. 新規期間のロールオーバーの結果を確認します。

 **ノート:**

CbCR 自動化ルールでは、CbCR ルールのみがコピーされます。「データ・ステータス CbCR」画面を確認すると、新規期間のデータは影響を受けていません。

7. **オプション: CbCR 自動化ルール**でのみ、次のステップを実行して表 1 を移入します。
 - a. Consol キューブで**連結**を実行します。

- b. CbCR キューブで**連結**を実行します。CbCR 自動化ルールによって、関連データがブ
ルされて表 1 に移入され、エンティティの計算ステータスが「影響」に更新されま
す。

エンティティによるロールオーバーの実行

エンティティによるロールオーバー・プロセスは、ロールオーバー・プロセスと同様に機能
します。ただし、ロールオーバーとは異なり、エンティティによるロールオーバーはアプリ
ケーション内のレベル 0 のエンティティのサブセットに適用されます。たとえば、エンティ
ティによるロールオーバーを使用すると、既存のエンティティに影響を与えずに、新しく追
加されたエンティティの構成を選択的にロール・オーバーできます。

ロールオーバーの詳細は、[ロールオーバーの実行](#)を参照してください

エンティティによるロールオーバーを実行するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」、「構成」の順に選択します。
2. 「構成のコピー」を選択し、「エンティティによるロールオーバー」タブを選択します。
3. 「ソースからターゲットにロールオーバーする構成を選択します」で、ロールオーバー・
オプションを選択します:
 - **税率**- 選択したターゲット POV に税率をコピーします
 - **課税損失/税額控除の期限切れの年** - 課税損失または税額控除の期限切れの年をター
ゲット POV にコピーします。

「すべて選択」をクリックして、すべてのロールオーバー・タイプを一度に選択できま
す。

Scenario		
Actual		Actual
Year		FY20
Period		P12
Entity		LE101

4. 「ソース」で、コピーするデータのスライスを定義します:
 - **シナリオ** - シナリオのリストからシナリオを選択します。ソースごとに選択できるシナリオは 1 つのみです。
 - **年** - リストから年を選択します。ソースごとに選択できる年は 1 つのみです。

- **期間** - 期間のリストから基本期間を選択します。
 - **エンティティ** - ソース・エンティティを選択します。
5. 「**ターゲット**」で、ソース・データをコピーする場所を定義します:
- **シナリオ** - シナリオのリストからシナリオを 1 つ以上選択します。
 - **年** - 「ターゲット」の年は「ソース」の年に 1 を加えて自動的に移入され、変更できません。
 - **期間** - 期間のリストから期間を 1 つ以上選択します。
 - **エンティティ** - 「ターゲット」のエンティティは「ソース」のエンティティと同じになり、変更できません。

 **ノート:**

ターゲット **POV** のデータ・ステータスが影響を受けるのは、次の条件を満たす場合のみです:

- ロールオーバーで使用されるエンティティがロック解除されている場合。
- ソースのデータ・ステータスを「データなし」にできない場合。

6. 「**実行**」をクリックし、選択したロールオーバーを実行します。ロールオーバーが完了すると、ステータスと実行日時が表示されます。
7. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**ジョブ**」の順に選択し、ジョブのステータスと詳細を確認します。
8. 新規期間のロールオーバーの結果を確認します。

シナリオ、年および期間全体の構成のコピー

ロールオーバーの実行では、単一シナリオ内のある期間から次の期間へのデータの移行が制限されます。ターゲット期間が **P1** で、前年度の前期間が **P12** の場合、ロールオーバーでも期末レートが期首レートに移動されます。

 **ノート:**

[ロールオーバーの実行](#)を参照してください。

特定のソースから特定のターゲットにデータをコピーする必要がある場合は、構成のコピーを使用できます。このオプションを使用すると、シナリオ、年および複数期間全体の構成およびルールをコピーできます。選択したソース構成から選択したターゲットにコピーする 1 対 1 のコピーを作成できます。複数のターゲット期間にデータをコピーすることもできます。

ロールオーバー・プロセスとは異なり、構成のコピーでは、次に示すように、同じレートが同じレートに常にマップされます:

前年度現行税率 => 前年度現行税率

今年度現行税率 => 今年度現行税率

期首繰延税率 - 非流動 => 期首繰延税率 - 非流動

期末繰延税率 - 非流動 => 期末繰延税率 - 非流動

期首地域税金配賦 => 期首地域税金配賦

今年度地域税金配賦 => 今年度地域税金配賦

期末地域税金配賦 => 期末地域税金配賦

オーバーライド税率(期首) => オーバーライド税率(期首)

オーバーライド税率(今年度) => オーバーライド税率(今年度)

オーバーライド税率(期末) => オーバーライド税率(期末)

オーバーライド税率配賦(期首) => オーバーライド税率配賦(期首)

オーバーライド税率配賦(今年度) => オーバーライド税率配賦(今年度)

オーバーライド税率配賦(期末) => オーバーライド税率配賦(期末)

アクティブな地域フラグ => アクティブな地域フラグ

構成のコピーは、システム管理者またはパワー・ユーザーが実行する必要があります。

構成をコピーするには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」、「**構成**」の順に選択します。
2. 「**構成のコピー**」をクリックし、「**構成のコピー**」タブを選択します。
3. **ソースからターゲットにコピーするデータの選択**で、構成に含めるオプションを選択します:
 - 税金自動化ルール
 - 中間引当損失エンティティ
 - TAR 自動化ルール
 - 現在の未払税自動化ルール
 - CbCR 自動化ルール
 - CbCR ファイリング

ノート:

次の各機能が「構成のコピー」画面に表示されるのは、その機能がアプリケーションに対して有効化されている場合のみです:

- 中間引当損失エンティティ (中間引当がアプリケーションで有効化されている場合)
- CbCR 自動化ルールおよび CbCR ファイリング (CbCR がアプリケーションで有効化されている場合)。

選択した各機能について、必要な交差が把握されます。ディメンション・メンバーなど、他の選択を行う必要はありません。

Copy Configuration | Copy Configuration by Entity | Rollover by Entity

Copy Configuration

Select All Run Close

Select configuration(s) to be copied from source to target

Tax automation rules
 TAR Automation rules
 Current tax payable automation rules

Source
Define a slice of data to be copied

Target
Define where the source data will be copied

*Scenario	
Actual	Actual
*Year	
FY19	FY19
*Period	
P12	P12

4. 「ソース」で、コピー元のソース POV として使用する「シナリオ」、「年」および「期間」を入力します。
5. 「ターゲット」で、データのコピー先のターゲット POV として使用する「シナリオ」、「年」および「期間」を入力します

ノート:

ターゲットの選択は、ターゲット期間以外はすべて単一の選択です。構成のコピーでは、複数のターゲット期間を選択できます。複数のターゲット期間をカンマ(スペースなし)で区切って入力します(例: P1,P2,P3,P4)。ソースのシナリオと年がターゲットのシナリオと年と同じ場合は、ソース期間がターゲット期間の 1 つとして使用されていないことを確認します。

ノート:

ターゲット POV のデータ・ステータスが影響を受けるのは、次の条件を満たす場合のみです:

- 構成で使用されるエンティティがロック解除されている場合。
- ソースのデータ・ステータスを「データなし」にできない場合。

6. 「実行」をクリックします。
 実行するルールごとにジョブが作成されます。ロールオーバー操作とは異なり、構成のコピーではすべてのルールが一度に送信されるため、すべてのジョブが完了するのを待機する必要がありません。「ジョブ」画面でジョブの完了の進捗をモニターできます。

構成のコピーを実行する場合、ロック解除されたすべてのエンティティについてターゲット POV のデータ・ステータスが影響を受けます。

7. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「ジョブ」の順に選択します。
8. 「ジョブ」タブで、コピー・ジョブを選択してステータスを確認します。選択したジョブの詳細は、ジョブ名をクリックして「**ジョブの詳細**」を表示します。
9. ホーム・ページで、「データ・ステータス」を選択して、構成のコピーが完了済で、選択したターゲット POV に対して「影響」ステータスが表示されることを検証します。
10. ターゲット POV を選択して、構成のコピーが完了していることを確認します。

エンティティ全体の構成のコピー

ロールオーバーの実行では、単一シナリオ内のある期間から次の期間へのデータの移行が制限されます。

ノート:

[ロールオーバーの実行](#)を参照してください。

特定のソースから特定のターゲットにデータをコピーする必要がある場合は、「エンティティによる構成のコピー」を使用できます。このオプションを使用すると、シナリオ、年、期間およびエンティティ全体の構成およびルールをコピーできます。選択したソース構成から選択したターゲットにコピーする 1 対 1 のコピーを作成できます。複数のターゲット期間にデータをコピーすることもできます。

エンティティによる構成のコピー・プロセスは、システム管理者またはパワー・ユーザーが実行する必要があります。

エンティティにより構成をコピーするには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」、「構成」の順に選択します。
2. 「構成のコピー」を選択し、「エンティティによる構成のコピー」タブを選択します。
3. 「ソースからターゲットにコピーする構成を選択します」で、構成に含めるオプションを選択します:
 - 税率(期首)
 - 税率(当期および期末)
 - FX レート(平均および期末)
 - 課税損失/税額控除の期限切れの年
 - 現在の未払税(支払および払戻を含む)

選択した各機能について、必要な交差が把握されます。ディメンション・メンバーなど、他の選択を行う必要はありません。

Copy Configuration | **Copy Configuration by Entity** | Rollover by Entity

Copy Configuration by Entity Select All Run Close

Select configuration(s) to be copied from source to target

- Tax Rates (Opening)
- Tax Rates (Current and Closing)
- FX Rates (Average and Ending)
- Year of Expiration in Tax Losses/Credits
- Current Tax Payable(including Payments and Refunds)

Source

Define a slice of data to be copied

Target

Define where the source data will be copied

Scenario		Actual	
Actual	<input type="text" value=""/>	Actual	<input type="text" value=""/>
Year	<input type="text" value=""/>	FY19	<input type="text" value=""/>
FY19	<input type="text" value=""/>	FY19	<input type="text" value=""/>
Period	<input type="text" value=""/>	P1	<input type="text" value=""/>
P1	<input type="text" value=""/>	P1	<input type="text" value=""/>
Entity	<input type="text" value=""/>	LE101	<input type="text" value=""/>
LE101	<input type="text" value=""/>	LE101	<input type="text" value=""/>

4. 「ソース」で、コピーするデータのスライスを定義します:

- **シナリオ** - シナリオのリストからシナリオを選択します。ソースごとに選択できるシナリオは1つのみです。
- **年** - リストから年を選択します。ソースごとに選択できる年は1つのみです。
- **期間** - 期間のリストから基本期間を選択します。
- **エンティティ** - ソース・エンティティを選択します。

 **ノート:**

エンティティはフィルタとして機能します。「エンティティ」フィルタを空白のままにすると、ソースとターゲット内のすべてのエンティティを選択したことになります。

「連結税率」がコピーされるのは、「エンティティ」で「グローバル仮定」を選択するか、「エンティティ」フィルタを空白のままにすることですべてのエンティティを選択した場合のみです。

5. 「ターゲット」で、ソース・データをコピーする場所を定義します:

- **シナリオ** - シナリオのリストからシナリオを1つ以上選択します。
- **年** - 年のリストから年を1つ以上選択します。
- **期間** - 期間のリストから期間を1つ以上選択します。
- **エンティティ** - 「ターゲット」のエンティティは「ソース」のエンティティと同じになり、変更できません。

 **ノート:**

ターゲット POV のデータ・ステータスが影響を受けるのは、次の条件を満たす場合のみです:

- ロールオーバーで使用されるエンティティがロック解除されている場合。
- ソースのデータ・ステータスを「データなし」にできない場合。

6. 「**実行**」をクリックします。

実行するルールごとにジョブが作成されます。ロールオーバー操作とは異なり、エンティティによる構成のコピー・プロセスではすべてのルールが一度に送信されるため、すべてのジョブが完了するのを待機する必要がありません。「ジョブ」画面でジョブの完了の進捗をモニターできます。

エンティティによる構成のコピー・プロセスを実行する場合、ロック解除されたすべてのエンティティについてターゲット POV のデータ・ステータスが影響を受けます。

7. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**ジョブ**」の順に選択します。

8. 「**ジョブ**」タブで、コピー・ジョブを選択してステータスを確認します。選択したジョブの詳細は、ジョブ名をクリックして「**ジョブの詳細**」を表示します。

9. ホーム・ページで、「**データ・ステータス**」を選択して、エンティティによる構成のコピーが完了済で、選択したターゲット POV に対して「**影響**」ステータスが表示されることを検証します。

10. ターゲット POV を選択して、エンティティによる構成のコピーが完了していることを確認します。

税金自動化の使用

関連トピック

- [税金自動化について学ぶ](#)
- [データ・ソース・ディメンションへの税金自動化ルールの追加](#)
- [複数のルールの組合せを使用した税金自動化の作成](#)
- [税金自動化\(国\)の操作](#)
- [税金自動化\(地域\)の操作](#)
- [税金自動化ロジックの例](#)
- [複数法定住所の税金自動化ルールの管理](#)

税金自動化について学ぶ

Tax Reporting で、税金自動化はコアな税金計算にデータを提供する主要プロセスです。帳簿データと税金データ間のリンクを表します。試算表データをアプリケーションにロードしたら、税金自動化プロセスを実行して税金関連の帳簿データを次のいずれかの税金勘定科目にリンクします。

- 永久差異勘定科目
- 一時差異勘定科目
- 税引前利益調整勘定科目
- 追加引当勘定科目

ヒント:

ベスト・プラクティスとして、資本勘定科目は損益勘定科目から分離する必要があります。資本勘定科目のために、自動資本列をターゲット指定する必要があります。

税金自動化を使用すると、システムは、税引前純利益(NIBT)の金額をエンティティの損益計算書から当期引当の税引前純利益仕訳にコピーし、当期引当プロセスを準備します。これによって、当期引当の開始点が法的エンティティの財務諸表の税引前利益と等しいことが保証されます。税金自動化プロセスは、帳簿の調整や組替えなどの当期引当に引き継がれる税引前純利益調整の金額の自動化にも使用できます。

 ノート:

「保管」または「共有しない」のプロパティを持つ子を **NIBT の帳簿調整** および **NIBT の合計台帳組替** で追加する必要があります。これにより、税金自動化を使用してデータを「現在の引当金」フォームに取り込むことができます。

税金自動化の柔軟性を高めるために、各勘定科目に複数の税金自動化ルールを作成できます。これにより、複数のルールを適用したり、複数のソース勘定科目または **MultiGAAP** ソース勘定科目を割り当てることができます。作成できるルールの数に制限はありません。ルールを追加すると、適用するロジック(プル、移動または圧縮)を定義できます。単一のルール内で複数のプル、移動または圧縮ルールを使用するルールを作成したり、プルと圧縮の両方など、ルール内にフローを組み込む複雑な要件に対応するように複数のルールの組合せを定義できます。ルールごとに異なるソース勘定科目または **MultiGAAP** ソース勘定科目を選択することもでき、これにより、複数のソース勘定科目を管理しやすくなります。

税金自動化は、国の勘定科目と地域の勘定科目の両方で実行できます。

データ・ソース・ディメンションへの税金自動化ルールの追加

データ・ソース・ディメンションは、税金自動化ルールを格納するメンバーの作成に使用されます。各タイプのルールは、アプリケーションの作成時に生成され、TRCS_Tax Automation Rules 階層の下にあるデータ・ソース・ディメンションに格納されます。次のルールは、そのままの状態で作成されます。

```

TRCS_Global Rules
  TRCS_Global Rule1
TRCS_Domicile Rules
  TRCS_Domicile Rule1
TRCS_Entity Rules
  TRCS_Entity Rule1
TRCS_Entity Regional Rules
  TRCS_Entity Regional Rule1
    
```

必要に応じて、「税金自動化」メンバーを追加することもできます。新しいルール・メンバーは、関連する「税金自動化」フォームにロードする前に、データ・ソース・ディメンションの下に作成する必要があります。作成可能な追加のルール・メンバーの数に制限はありません。

 ノート:

ルールは、階層に表示される順序で実行されます。

税金自動化ルールは、国および地域の規定に対して定義でき、グローバル、法定住所、エンティティ、またはエンティティと地域などの様々な範囲で定義できます。[税金自動化\(国\)](#)の操作および[税金自動化\(地域\)](#)の操作も参照してください。

次の表は、様々な税金自動化ルールの範囲と、対応するデータ・ソースの親メンバーとフォームを示しています。

表 20-1 税金自動化(国)

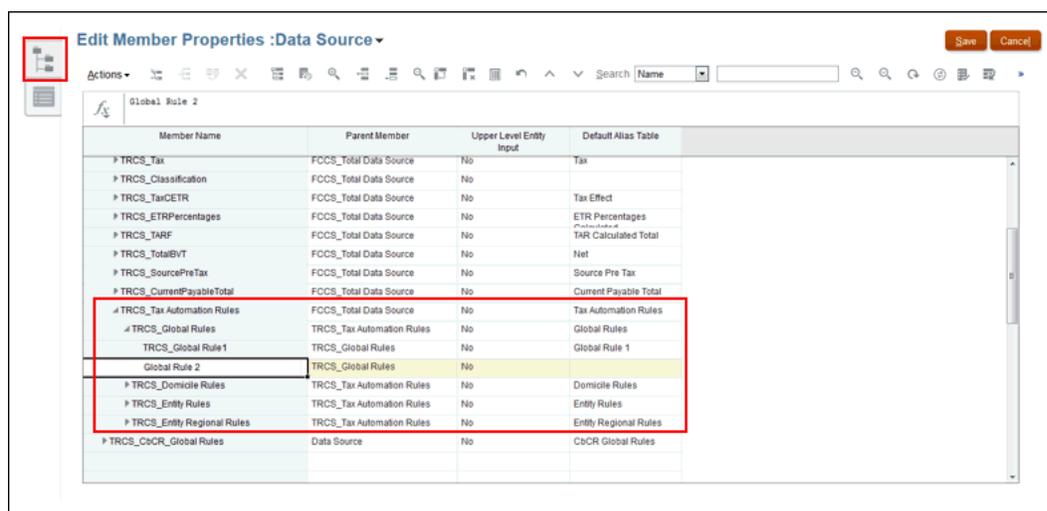
スコープ	データ・ソースの親メンバー	フォーム
グローバル・ルール	TRCS_Global ルール	税金自動化(グローバル)
法定住所ルール	TRCS_Domicile ルール	税金自動化(法定住所)
エンティティ・ルール	TRCS_Entity ルール	税金自動化エンティティ

表 20-2 税金自動化地域

スコープ	データ・ソースの親メンバー	フォーム
グローバル・ルール	TRCS_Global ルール	税金自動化(グローバル地域)
法定住所地域ルール	TRCS_Domicile ルール	税金自動化(法定住所地域)
エンティティ・ルール	TRCS_Entity ルール	税金自動化エンティティ(全地域)
エンティティ・ルールと地域ルール	TRCS_Entity 地域ルール	税金自動化エンティティ(地域)

データ・ソース・ディメンションに新しい「税金自動化」メンバーを追加するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」、「概要」、「ディメンション」タブの順にクリックします。
2. 「ディメンション」タブをクリックし、「データ・ソース」ディメンションの下で、税金自動化ルールの格納に必要なデータ・ソース・メンバーを作成します。[データ・ソース・ディメンションへの税金自動化ルールの追加](#)を参照してください。
3. 「メンバー・プロパティの編集: データ・ソース」タブで、「FCCS_Total Data Source」の下の「TRCS_Tax Automation Rules」に移動します



- 別のルールを追加する税金自動化ルール(TRCS_Global Rules など)を強調表示し、「子の追加」をクリックします。
- 「子の追加」ダイアログ・ボックスで、追加するメンバー数を入力し、「適用」をクリックします。
- 新規行で、新しいメンバーの次の情報を入力し、「保存」をクリックします。
 - 新しい税金自動化ルールの**メンバー名**を入力します(Global_Rule_2 など)。**親メンバー**が移入されます。
 - デフォルト別名表**の名前を入力します。

ノート:

システム定義のルール・メンバー(TRCS_Global Rule1)の後に、ユーザー固有のルール・メンバーを作成します。たとえば、グローバル・ルール 1 を最初に設定し、続いてグローバル・ルール 2 を、次にグローバル・ルール 3 を設定して、行の追加時に、次に使用可能なメンバーが特定されるようにします。

新しいルールが階層に追加されます。

- 新しいルールを「税金自動化」フォームに追加します。最初の行の最初のセルを右クリックしてメニューを表示し、「税金自動化」、**すべての勘定科目の表示**の順に選択して、税金勘定科目ごとに新しい空白ルールを追加する必要があります。このアクションは、永久差異勘定科目または一時差異勘定科目が追加されたときに実行する必要があります。次の項を参照してください。
 - [税金自動化\(国\)の操作](#)
 - [税金自動化\(地域\)の操作](#)

複数のルールの組合せを使用した税金自動化の作成

税金自動化ルールは、データをプル、移動または圧縮するためにルールが作成された順に実行されます。ルールの実行順序は、正確な結果を得るために重要です。

ベスト・プラクティスとして、資本勘定科目は損益勘定科目から分離する必要があります。資本勘定科目のために、自動資本列をターゲット指定する必要があります。

ルールは一般的に個別に作成されますが、トランザクションを実行するルールの組合せを含むルールを作成することが意味をなすインスタンスがあります。たとえば、複数のプル、移動または圧縮ルールを管理するルール、または次のような異なるルールを使用してフローを組み込む複雑なルールを作成できます。

- 貸借対照表調整をプルし、期末残高に圧縮する。
- 自動資本列にプルし、期末残高に圧縮する。

次の表の例を使用して、複数のルールの組合せを作成します。

表 20-3 複数のルールの組合せの例

ルール	シナリオ	例
PULL	複数の PULL ルールを含む勘定科目が定義される場合。	<p>帳簿勘定科目 10150 には 1000 があり、10100 には 2000 があります</p> <ul style="list-style-type: none"> • NIBT Global Rule 1 : Pull 100% 10150 • NIBT Global Rule 2 : Pull 100% 10100 • NIBT = 3000
MOVE	複数の MOVE ルールを含む勘定科目が定義される場合。	<p>帳簿勘定科目 FY15、10150 には 500 があり、10100 には 1000 があります</p> <p>帳簿勘定科目 FY16、10150 には 1000 があり、10100 には 2000 があります</p> <ul style="list-style-type: none"> • NIBT Global Rule 1 : Move 100% 10150 • NIBT Global Rule 2 : Move 100% 10100 • NIBT = 1500 ((1000 - 500) * 100% + (2000 - 1000) * 100%)
SQUEEZE	複数の SQUEEZE ルールを含む勘定科目が定義される場合。	<p>帳簿勘定科目 FY15、10150 には 2000 があり、10100 には 4000 があります</p> <ul style="list-style-type: none"> • TempST0001 勘定科目 FY16 には 10000 があります • TempST0001 Global Rule 1 : Squeeze 100% 10150 • TempST0001 Global Rule 2 : Squeeze 100% 10100 • TempST0001 = -4000 ((2000) * 100% + (4000) * 100%) -10000
PULL および MOVE	<p>PULL および MOVE ルールを含む勘定科目が任意の順序で定義される場合:</p> <ul style="list-style-type: none"> • PULL の後に MOVE、または • MOVE の後に PULL 	<p>帳簿勘定科目 FY15、P12 10150 には 500 があります</p> <p>帳簿勘定科目 FY16、P12 10150 には 1000 があります</p> <p>帳簿勘定科目 FY16、P12 20150 には 2000 があります</p> <p>POV: Actual、FY16、P12</p> <ul style="list-style-type: none"> • TempST0001 Global Rule 1 : PULL 100% 20150 • TempST0001 Global Rule 2 : MOVE 100% 10150 • TempST0001 = 2500 ((2000) * 100% + (1000 - 500) * 100%)

表 20-3 (続き) 複数のルールの組合せの例

ルール	シナリオ	例
PULL および SQUEEZE (SQUEEZE ロジックを PULL または MOVE とともに使用する場合は、SQUEEZE ロジックのターゲット増減が異なる必要があります。)	PULL および SQUEEZE ルールを含む勘定科目が定義される場合は、SQUEEZE が最後のルールになります。	<p>帳簿勘定科目 FY16、20150 には 1000 があります 帳簿勘定科目 FY16、10250 には 2000 があります TempST0001 勘定科目 FY16 には 9000 があります POV: Actual、FY16、P12</p> <ul style="list-style-type: none"> • TempST0001 Global Rule 1 : PULL 100% 20150 TBClosing Automated • TempST0001 Global Rule 2 : SQUEEZE 100% 10250 TBClosing Other Adjusted (ターゲット増減は他の調整です) • TempST0001 = -8000 <ul style="list-style-type: none"> – (1.PULL が実行され、「自動」列に 1000 として転記されます) – 2. 帳簿残高(2000 * 100% - 10000 = -8000) に圧縮します)
MOVE および SQUEEZE (SQUEEZE ロジックを PULL または MOVE とともに使用する場合は、SQUEEZE ロジックのターゲット増減が異なる必要があります。)	MOVE および SQUEEZE ルールを含む勘定科目が定義される場合は、SQUEEZE が最後のルールになります。	<p>帳簿勘定科目 FY15、10150 には 500 があります 帳簿勘定科目 FY16、10150 には 1000 があります 帳簿勘定科目 FY16、20150 には 2000 があります TempST0001 勘定科目 FY16 には 9000 があります</p> <ul style="list-style-type: none"> • TempST0001 Global Rule 1 : MOVE 100% 10150 TBClosingAutomated • TempST0001 Global Rule 2 : SQUEEZE 100% 20150 TBClosingOther Adjustment (ターゲット増減は他の調整です) • TempST0001 = -8000 <ul style="list-style-type: none"> – 1. MOVE が実行され、「自動」列に 500 として転記されます) – 2. 帳簿残高(2000 * 100% - 9500 = -7500) に圧縮します)
PULL、MOVE および SQUEEZE	PULL、MOVE および SQUEEZE ルールを含む勘定科目が定義される場合は、SQUEEZE が最後のルールになります。	<p>帳簿勘定科目 FY16、10250 には 2000 があります 帳簿勘定科目 FY15、10150 には 500 があります 帳簿勘定科目 FY16、10150 には 1000 があります 帳簿勘定科目 FY16、20150 には 2000 があります TempST0001 勘定科目 FY16 には 9000 があります</p> <ul style="list-style-type: none"> • TempST0001 Global Rule 1 : PULL 100% 10250 • TempST0001 Global Rule 2 : MOVE 100% 10150 • TempST0001 Global Rule 3 : SQUEEZE 100% 20150 TBClosing Other Adjustment (ターゲット増減は他の調整です) • TempST0001 = -9500 <ul style="list-style-type: none"> – 1. PULL が実行され、「自動」列に 2000 として転記されます) – 2. MOVE が実行され、「自動」列に 500 として転記されます) – 3. 帳簿残高(2000 * 100% - 11500 = -9500) に圧縮します)

税金自動化(国)の操作

税金自動化ルールは、グローバル・ルール、法定住所ルールおよびエンティティ・ルールとして定義できます。「税金自動化(グローバル)」フォームを使用してグローバル・ルールを作成し、そのルールを保存すると、ルールはすべての法定住所およびエンティティにコピーされます。

必要に応じて、グローバル・ルールは法定住所またはエンティティ・レベルでオーバーライドできます。「税金自動化(法定住所)」フォームを使用して法定住所ルールを作成し、そのルールを保存すると、ルールはその法定住所に属するすべてのエンティティにコピーされます。必要に応じて、このルールはエンティティ・レベルでオーバーライドできます。

勘定科目ごとに複数のルールを追加できます。税金自動化の柔軟性を高めるために、作成されたルールごとに次を実行できます。

- 異なる税金自動化ルール(ロジック)を選択します。すべて同じロジックを使用するか、ルールごとに異なるロジックを選択して、2 つ以上のルールを作成できます。ロジックは、「プル」、「増減」、「圧縮」、年換算、年換算解除、調整(国)および前年から選択できます。
- 異なるソース(ソース勘定科目)を選択します。ルールごとに異なるソース勘定科目を選択することも、1 つ以上のルールに同じソース勘定科目を選択することもできます。
- ルールごとに異なるシナリオ(ソース・シナリオ)メンバーを選択します。

税金自動化は、連結の実行時に実行されます。

税金自動化(国)を実行するには:

- ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**概要**」をクリックします。
- 「**ディメンション**」タブをクリックし、「**データ・ソース**」ディメンションの下で、税金自動化ルールの格納に必要なデータ・ソース・メンバーを作成します。[データ・ソース・ディメンションへの税金自動化ルールの追加](#)を参照してください。
- ホーム・ページで「**ツール**」をクリックし、「**変数**」をクリックします。
- 「ユーザー変数」タブの「**勘定科目**」で、「**税金自動化ターゲット勘定科目**」フォームを選択して「**保存**」をクリックします。「税金自動化」フォームに勘定科目が表示されます。
- ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**構成**」、「**税金自動化**」の順にクリックします。

ノート:

期間が始まっていない場合、グローバル・ルール画面は空白になります。

Configure: Tax Reporting

Filter: All Types All Statuses

Name	Type	Status	Executed	Action
Tax Automation Manage Rules	Maintenance Optional	Not Configured		...
Tax Automation Regional Manage regional rules	Maintenance Optional	Not Configured	ats_admin1 10/19/18 4:04 PM	...
RTA Automation Post Adjustment	Maintenance Optional	Not Configured	ats_admin1 7/25/17 12:20 PM	...
Exchange Rates Manage Rates	Maintenance Optional	Not Configured	epm_default_c_... 12/18/18 10:22 AM	...
Tax Rates Manage Rates	Maintenance Optional	Not Configured	ats_admin1 10/20/18 1:44 PM	...
Rollover Perform Periodic Rollover	Maintenance Optional	Not Configured	ats_admin1 12/7/18 12:34 PM	...
Consolidated Tax Rates Manage Rates	Maintenance Optional	Not Configured		...
Tax Automation Migration Perform Migration of Tax Automation Data	Maintenance Optional	Completed	ats_admin1 2/6/18 9:36 AM	...
CbCR Data Migration for Separate Approval Process Performs Migration of CbCR Historical Data to newly created CbCR Scenario(s)	Maintenance Optional	Not Configured		...
CbCR Automation CbCR Automation	Maintenance Optional	Not Configured	epm_default_c_... 12/14/18 2:24 PM	...

6. 適切な税金自動化ルールの範囲を選択します:

- グローバル・ルール** - グローバル・ルールは、法定住所に関係なくすべてのエンティティに適用されます。「税金自動化(グローバル)」フォームでグローバル・ルールを更新すると、変更されたルールがすべてのエンティティにカスケードされます。グローバル・ルールがすべての法定住所とエンティティにカスケードされると、「税金自動化(法定住所)」フォームおよび「税金自動化エンティティ」フォームに表示されます。必要に応じて、グローバル・ルールは法定住所またはエンティティ・レベルでオーバーライドできます。デフォルトでは、システム管理者の役割を持つユーザーのみが、グローバル・ルールを保存した後、グローバル・ルールをすべての法定住所およびエンティティにカスケードできます。

グローバル・ルールをカスケードして管理するには、ユーザーまたはグループに「税金自動化グローバル保存」ビジネス・ルールの「起動」権限を付与する必要があります。
- 法定住所ルール** - 法定住所ルールは、特定の法定住所に関連付けられたすべてのエンティティに適用されます。法定住所とは、エンティティが税金を支払う国または管轄区域を指します。たとえば、カナダは法的エンティティ、モントリオールの法定住所であり、米国は法的エンティティ、ニューヨークの法定住所です。「税金自動化(法定住所)」フォームで法定住所ルールを変更して保存すると、選択した法定住所に属するすべてのエンティティに、ルールがカスケードされます。

法定住所ルールがすべてのエンティティにカスケードされると、「税金自動化エンティティ」フォームに表示されます。必要に応じて、この法定住所ルールはエンティティ・レベルでオーバーライドできます。デフォルトでは、システム管理者の役割を持つユーザーのみが、法定住所ルールを保存した後、法定住所ルールを適切なエンティティにカスケードできます。

法定住所ルールをカスケードおよび管理するには、ユーザーまたはグループに、「税金自動化保存」ビジネス・ルールへの「起動」権限を付与する必要があります。
- エンティティ・ルール** - エンティティ・ルールは、選択したエンティティに適用されます。

Tax Automation Global

🔍 Actions Save Refresh

Tax Automation Target Account	Scenario	Years	Period	Disabled	Logic	Percentage	Source Account	Source Movement	Target Movement	Source MultiGAAP	Target MultiGAAP	Source Scenario	Source ICP	Source Data Source
Current Provision	Actual	FYIS	PI											
NBT - NationalAndRegional PreTax CETR				Global Rule 1	Enabled	Full	100%	9001						Actual
Book Adjustment 1 - NationalAndRegional PreTax CETR				Global Rule 1	Enabled									
Book Adjustment 2 - NationalAndRegional PreTax CETR				Global Rule 1	Enabled									
Book Adjustment 3 - NationalAndRegional PreTax CETR				Global Rule 1	Enabled									
Book Reclassification 1 - NationalAndRegional PreTax CETR				Global Rule 1	Enabled									
Book Reclassification 2 - NationalAndRegional PreTax CETR				Global Rule 1	Enabled									
Book Reclassification 3 - NationalAndRegional PreTax CETR				Global Rule 1	Enabled									
Perm 1 - XXXXX - NationalAndRegional PreTax CETR				Global Rule 1	Enabled									
Perm 2 - XXXXX - NationalAndRegional PreTax CETR				Global Rule 1	Enabled									
Perm 3 - XXXXX - NationalAndRegional PreTax CETR				Global Rule 1	Enabled									
Temp 1 - XXXXX - NationalAndRegional PreTax				Global Rule 1	Enabled									
Temp 2 - XXXXX - NationalAndRegional PreTax				Global Rule 1	Enabled									
Temp 3 - XXXXX - NationalAndRegional PreTax				Global Rule 1	Enabled									
FA - Tax Depreciation US/Stat - NationalAndRegional PreTax				Global Rule 1	Enabled									
GAAP/Stat - LT - NationalAndRegional PreTax				Global Rule 1	Enabled									

 ノート:

- デフォルトでは、システム管理者の役割を持つユーザーのみが、グローバル・ルールまたは法定住所ルールを保存した後、グローバル・ルールおよび法定住所ルールを適切なエンティティにカスケードできます。
- パワー・ユーザーまたはユーザーの役割を持つユーザーがグローバル・ルールをカスケードして管理するには、「税金自動化グローバル保存」ビジネス・ルールへの「起動」権限が付与されている必要があります。
- パワー・ユーザーまたはユーザーの役割を持つユーザーが法定住所ルールをカスケードして管理するには、「税金自動化保存」ビジネス・ルールへの「起動」権限が付与されている必要があります。
- エンティティ・ルールのカスケードおよび管理には、ビジネス・ルールの「起動」権限は必要ありません。

たとえば、サービス管理者は、「税金自動化グローバル保存」ルールの「起動」権限を「ルール」カードからグローバル自動化管理者グループに付与できます。これにより、グローバル自動化管理者グループのメンバーは、グローバル税金自動化ルールを変更およびカスケードできます。

次の表は、各国の税金自動化ルールの範囲ごとに、対応するビジネス・ルールおよびフォームを示しています。

表 20-4 税金自動化(国)

スコープ	ビジネス・ルールのカスケード	フォーム
グローバル・ルール	税金自動化グローバル保存	税金自動化(グローバル)
法定住所ルール	税金自動化保存	税金自動化(法定住所)
エンティティ・ルール	N/A	税金自動化エンティティ

グローバル・ルールおよび法定住所ルールのカスケードは、法定住所レベルおよびエンティティ・レベルで更新しないでください。ルールのカスケードが必要ない場合は、ルールのカスケードを常に無効にし、ローカルの法定住所ルールおよびエンティティ・ルールを作成することをお勧めします。たとえば、勘定科目 X から 100%プルするグローバル・ルールがあり、特定の法定住所で勘定科目 X から 50%プルするようにルールを更新する必要があるとします。これを行うには、法定住所レベルでグローバル・ルールを無効にし、勘定科目 X から 50%プルする新しい法定住所ルールを作成する必要があります。法定住所レベルでグローバル・ルールのカスケードを更新しないでください。

同じことが、エンティティ・レベルでの法定住所ルールのカスケードにも当てはまります。

7. **オプション:** ページが空白の場合は、「アクション」で「税金自動化」、「すべての勘定科目の表示」の順に選択します。このステップでは、税金勘定科目ごとに新規の

空のルールを追加します。データ・ソース・ディメンションへの税金自動化ルールの追加を参照してください。

8. ルール名のセル(「グローバル・ルール 1」など)を右クリックしてポップアップ・メニューを表示し、「税金自動化」、「ルールの追加」の順に選択して、税金勘定科目ごとに 1 つの追加ルールを作成します。最後のルールとして一番下にルールが作成され、選択したルール・データが新しく作成された行にコピーされます。

 ノート:

ルールを追加する際には、データ・ソース・ディメンションにプレースホルダ・メンバーがすでに作成されていることを確認します。そうしないと、ルールの追加によって新しい行は作成されません。ルール 1 を定義して保存した後でのみ、ルール 2 を追加できます。データ・ソース・ディメンションへの税金自動化ルールの追加を参照してください

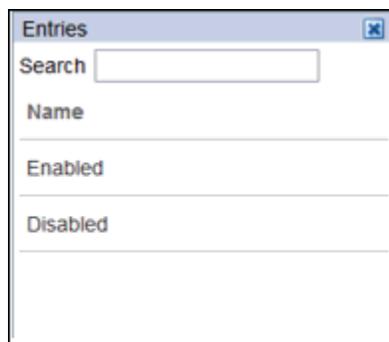
9. 「保存」をクリックしてルールを保存します。
10. オプション: ルール名のセルを右クリックしてメニューを表示し、「税金自動化」、「ルールの削除」の順に選択して、勘定科目ごとに 1 つのルールを削除します。ルールの削除では、ルールをリストの下から上にシフトすることで、選択したルールを削除します。最初の行を削除すると、ルールのクリアのみが行われ、行は削除されません。

 ノート:

法定住所フォームからグローバル・ルールを削除することはできません。また、「エンティティ」フォームからグローバル・ルールおよび法定住所ルールを削除することはできません。

11. オプション: 「無効」列で、「無効」を選択して、計算からエンティティを除外します。デフォルトでは、すべての基本エンティティに「有効化」が選択されます。

たとえば、エンティティ・ルールによってグローバル・ルールと法定住所ルールをオーバーライドするには、グローバル・ルールと法定住所ルールを「無効」に設定し、エンティティ・ルールを有効にして、他のルールをオーバーライドし、値をリダイレクトします。



12. 「論理」で、行に適用する論理をドロップダウンから選択します。勘定科目に作成されたルールごとに、異なる税金自動化ルールを選択できます。次のルールを使用できます。



- **PULL メソッド** - 指定したソース勘定科目のパーセンテージを取り、ターゲット勘定科目に適用します
例:
 - **PULL 50%**
 - ソース勘定科目: 100
 - 宛先 = $(100 * 50\%) = 50$
- **増減** - ソース勘定科目の当期金額とソース勘定科目の前年度の最後の期間の金額との差分を取り、その金額をターゲット勘定科目に適用します。
例:
 - **MOVE 20%**
 - ソース勘定科目: 前年度: 100; 当期: 150
 - 宛先 = $((150-100) * 20\%) = 10$
- **圧縮** - 帳簿または補足スケジュールから圧縮する場合、ソース勘定科目とソース増減の交差の値が、ターゲット勘定科目の一時差異の期末残高と等しくなる必要があります。

補足スケジュールからの圧縮(固定資産など):

- **例 1: 固定資産:**

- * ソース勘定科目/増減 = -8110 (帳簿基準から物件および関連工場の税務基準を差し引いたもの、**および**今年の増減)
- * ターゲット勘定科目/増減の**期末残高**の一時差異 = -8110

 **ノート:**

ターゲット勘定科目についてのその他の増減が一時差異に移入される場合、期末残高がソース勘定科目/増減の値として残るように、それらの増減は"圧縮"(減算)されます。

- **例 2:**

- * 固定資産のソース勘定科目/増減 = -8110 (帳簿基準から物件および関連工場の税務基準を差し引いたもの、**および**今年の増減)
- * ターゲット勘定科目/増減の**期末残高**の一時差異は-8110 のままです。
- * ターゲット勘定科目の一時差異の**調整済み首残高** = 1000

* 期首残高調整 1000 と P&L 合計増減-9100 の間の差異は-8110 のままです

ソース・データが帳簿データである場合の圧縮:

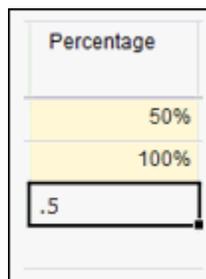
- 「税金自動化」にソースまたはターゲット増減が指定されていない場合、ソース増減はデフォルトで試算表の期末に設定され、ターゲット増減はデフォルトで自動化(今年)に設定されます。有効なソース帳簿勘定科目を指定する必要があります。
- 値は、自動化増減と期末残高の一時差異 = ソース帳簿勘定科目の値になります。
- **年換算** — 年の部分的な期間の額を年額に換算できます。
- **年換算解除** — 年額をルールの期間に応じた部分的な期間の額に換算できます。
- **調整(国)** — 地域の引当金における、国の永久差異または一時差異の調整(逆仕訳など)を可能にします。
- **前年** — 前年データの引当金への取り込みを可能にします。

 **ノート:**

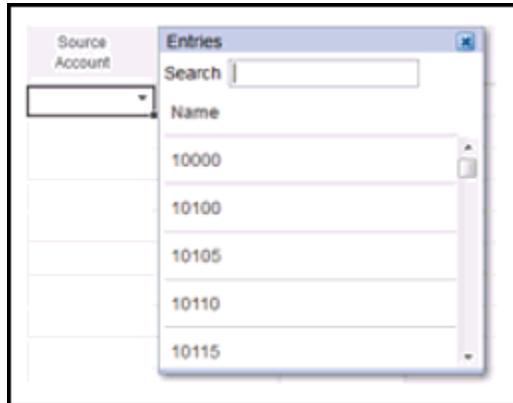
年換算、年換算解除、調整(国)および前年の詳細なロジック例は、[税金自動化ロジックの例](#)を参照してください。

トランザクションを実行する複数のルールの組合せを含むルールの作成方法の例を確認するには、[複数のルールの組合せを使用した税金自動化の作成](#)を参照してください。

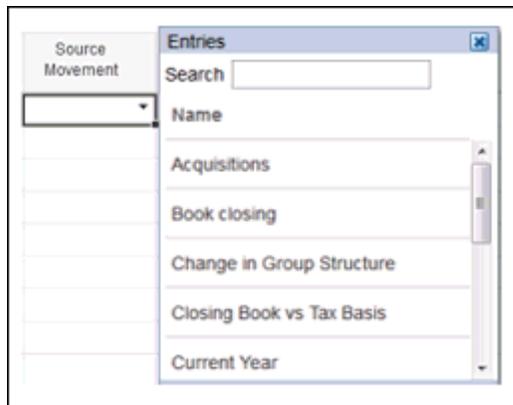
13. 「パーセンテージ」で、選択したエンティティにコピーする帳簿データの割合を表す整数または小数を入力します。たとえば、100%の場合は「1」と入力し、50%の場合は「5」と入力します。セルを終了すると、数字が正しく表示されます。



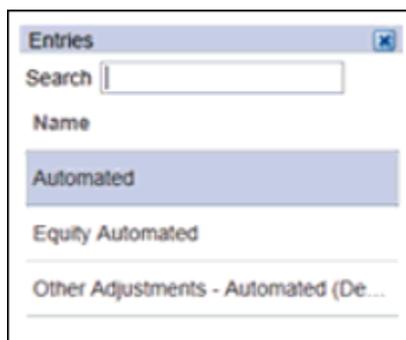
14. 「ソース勘定科目」で、データのコピー元のソース勘定科目番号を選択します。勘定科目に作成されたルールごとに、異なる「ソース勘定科目」を選択できます。



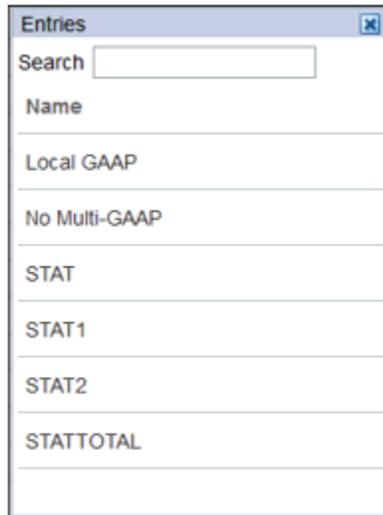
15. 「ソース増減」の下で、データの増減に使用する増減メンバーを選択します。



16. 「ターゲット増減」のドロップダウンから、データの増減に使用する増減メンバーを選択します。値を選択しない場合、増減ディメンションのデフォルトは「自動」です。



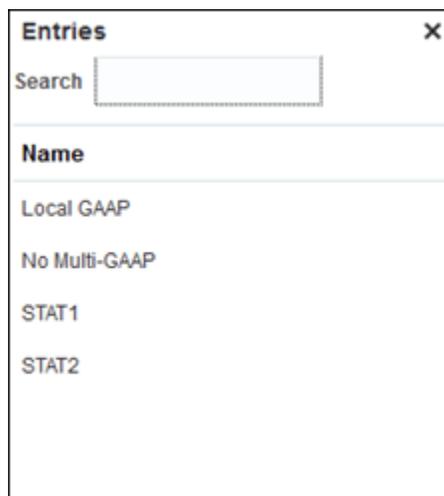
17. 「ソース MultiGAAP」で、データの取得元となる MultiGAAP メンバーを選択します。



The screenshot shows a dialog box titled "Entries" with a search field and a list of MultiGAAP members. The list includes "Local GAAP", "No Multi-GAAP", "STAT", "STAT1", "STAT2", and "STATTOTAL".

Name
Local GAAP
No Multi-GAAP
STAT
STAT1
STAT2
STATTOTAL

18. 「ターゲット MultiGAAP」のドロップダウンから、データを増減する MultiGAAP メンバーを選択します。



The screenshot shows a dialog box titled "Entries" with a search field and a list of MultiGAAP members. The list includes "Local GAAP", "No Multi-GAAP", "STAT1", and "STAT2".

Name
Local GAAP
No Multi-GAAP
STAT1
STAT2

19. 「ソース・シナリオ」のドロップダウンから、データの抽出元のシナリオを選択します。ルールごとに異なるシナリオ・メンバーを定義できます。

 **ノート:**

ソース・シナリオのデータが変更されても、税金自動化ルールに基づくターゲット・シナリオに影響しません。たとえば、データをソース GAAP シナリオから取得するように税金自動化ルールが定義されている場合、GAAP シナリオ・システムのデータが変更されても STAT シナリオに影響しません。ビジネス・ルール「**Consol キューブでのデータのあるエンティティへの影響**」を設定してください。

20. 会社間消去の場合のみ、「**ソース ICP**」のドロップダウンから、会社間消去の計算でソースとして使用する会社間メンバーを選択します。ルールごとに異なる会社間ソース・メンバーを定義できます。

21. 「**ソース・データ・ソース**」のドロップダウンから、**税金自動化ソース・データ・ソース**属性が添付されているデータ・ソース・メンバーのみを選択できます。「**ソース・データ・ソース**」列を選択しない場合、デフォルトで「**ソース・データ・ソース**」メンバーは**税引前**として設定されます。

ルールごとに異なるデータ・ソース・メンバーを定義できます。

The screenshot shows a window titled 'Entries' with a close button (X) in the top right corner. Below the title bar is a search input field. Underneath is a section labeled 'Name' with a list area containing the text 'USGAAP Adjustments'.

 **ノート:**

新しいカスタム属性の**税金自動化ソース・データ・ソース**は、「データ・ソース」ディメンションに追加されます。関連項目: [データ・ソースの課税属性の定義](#)

- 。
22. 「**保存**」をクリックします。「データ・ステータス」を表示すると、影響を受けるエンティティを確認できます。「**保存**」をクリックすると、すべてのルールが基本の法定住所およびエンティティにプッシュされます。
基本エンティティは、法定住所固有のルールに対して定義されたルールを継承します。指定されていない場合、基本エンティティは「グローバル」フォームで定義されたルールを継承します。
 23. 「**アクション**」で、「**連結**」を選択して税金自動化を実行します。

税金自動化(地域)の操作

地域の税金自動化ルールは、グローバル・ルール、法定住所地域ルール、エンティティ・ルール、およびエンティティおよび地域ルールとして定義できます。「税金自動化(グローバル)」フォームを使用してグローバル・ルールを作成し、そのルールを保存すると、ルールはすべての法定住所およびエンティティにコピーされます。

必要に応じて、グローバル・ルールは法定住所またはエンティティ・レベルでオーバーライドできます。「税金自動化(法定住所)」フォームを使用して法定住所ルールを作成し、そのルールを保存すると、ルールはその法定住所に属するすべてのエンティティにコピーされます。必要に応じて、このルールはエンティティ・レベルでオーバーライドできます。

勘定科目ごとに複数のルールを追加できます。税金自動化の柔軟性を高めるために、作成されたルールごとに次を実行できます。

- 異なる税金自動化ルール(ロジック)を選択します。すべて同じロジックを使用するか、ルールごとに異なるロジックを選択して、2つ以上のルールを作成できます。ロジックは、「プル」、「増減」、「圧縮」、年換算、年換算解除、調整(国)および前年から選択できます。
- 異なるソース(ソース勘定科目)を選択します。ルールごとに異なるソース勘定科目を選択することも、1つ以上のルールに同じソース勘定科目を選択することもできます。
- ルールごとに異なるシナリオ(ソース・シナリオ)メンバーを選択します。

税金自動化は、連結の実行時に実行されます。

税金自動化(地域)を実行するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」、「概要」、「ディメンション」タブの順にクリックします。
2. 「ディメンション」タブをクリックし、「データ・ソース」ディメンションの下で、税金自動化ルール格納に必要なデータ・ソース・メンバーを作成します。[データ・ソース・ディメンションへの税金自動化ルールの追加](#)を参照してください。
3. ホーム・ページで「ツール」をクリックし、「変数」をクリックします。
4. 「ユーザー変数」タブの「勘定科目」で、「税金自動化ターゲット勘定科目(地域)」フォームを選択して「保存」をクリックします。「税金自動化」フォームに勘定科目が表示されます。
5. メンバー・セレクトから「税金自動化ターゲット勘定科目(地域)」を選択して、「保存」をクリックします。「税金自動化」フォームに勘定科目が表示されます。
6. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「構成」、「税金自動化地域」の順にクリックします。

 ノート:

期間が始まっていない場合、グローバル・ルール画面は空白になります。

Configure: Tax Reporting				
Name	Type	Status	Executed	Action
CDCR Automation	Maintenance Optional	Not Configured		...
CDCR Automation	Maintenance Optional	Not Configured		...
Tax Automation Regional Manage Regional Rules	Maintenance Optional	Not Configured		...
RTA Automation Post-Adjustment	Maintenance Optional	Not Configured		...
Exchange Rates Manage Rates	Maintenance Optional	Not Configured		...
Tax Rates Manage Rates	Maintenance Optional	Not Configured		...
Consolidated Tax Rates Manage Rates	Maintenance Optional	Not Configured		...
Rollover Perform Periodic Rollover	Maintenance Optional	Not Configured		...
CDCR Data Migration for Separate Approval Process Performs Migration of CDCR Historical Data to newly created CDCR Scenario(s)	Maintenance Optional	Not Configured		...
CDCR Automation Migration Performs Migration of CDCR Automation Data	Maintenance Optional	Not Configured		...
Performance Settings Manage Performance Settings	Maintenance Optional	Not Configured		...
TAR Automation Tax Automation	Maintenance Optional	Not Configured		...
Copy Configuration Copy Data across Scenarios, Year and Period(s)	Maintenance Optional	Not Configured		...
Opening Balance Override Opening Balance Override	Maintenance Optional	Not Configured		...

7. 適切な地域の税金自動化ルールの範囲を選択します:

- **グローバル・ルール** - グローバル・ルールは、地域に関係なくすべてのすべてのエンティティに適用されます。「税金自動化(グローバル地域)」フォームでグローバル・ルールを更新すると、変更されたルールがすべてのエンティティにカスケードされます。グローバル・ルールがすべての地域とエンティティにカスケードされると、「税金自動化(法定住所地域)」、「税金自動化エンティティ(全地域)」、「税金自動化エンティティ(地域)」の各フォームに表示されます。必要に応じて、グローバル・ルールは地域、エンティティまたはエンティティ地域レベルでオーバーライドできます。デフォルトでは、システム管理者の役割を持つユーザーのみが、グローバル・ルールを保存した後、グローバル・ルールをすべての法定住所およびエンティティにカスケードできます。

グローバル・ルールをカスケードして管理するには、ユーザーまたはグループに「税金自動化グローバル保存」ビジネス・ルールの「起動」権限を付与する必要があります。

- 法定住所地域ルール** - 法定住所地域ルールは、選択した地域に関連付けられているすべてのエンティティに適用されます。たとえば、法的エンティティ ABC はニューヨーク州で税金を支払っています。「税金自動化(法定住所地域)」フォームで住所地域ルールを変更して保存すると、そのルールは、選択した地域の管轄に関連付けられたすべてのエンティティにカスケードされます。法定住所地域ルールがすべてのエンティティにカスケードされると、「税金自動化エンティティ(全地域)」フォームおよび「税金自動化エンティティ(地域)」フォームに表示されます。

必要に応じて、エンティティまたはエンティティ 地域の範囲で法定住所地域ルールをオーバーライドできます。デフォルトでは、システム管理者の役割を持つユーザーのみが、法定住所のルールを保存した後、法定住所のルールを適切なエンティティにカスケードできます。

法定住所地域ルールをカスケードおよび管理するには、「税金自動化保存」ビジネス・ルールの「起動」権限をユーザーまたはグループに付与する必要があります。

- エンティティ・ルール** - 地域エンティティ・ルールは、選択したエンティティに関連付けられたすべての地域に適用されます。「税金自動化エンティティ(全地域)」フォームで地域のエンティティ・ルールを更新すると、変更されたルールが、選択したエンティティに関連付けられているすべての地域にカスケードされます。エンティティ・ルールがすべての地域にカスケードされると、選択した地域に関係なく、選択したエンティティの「税金自動化エンティティ(地域)」フォームに表示されます。必要に応じて、地域エンティティ・ルールは、エンティティ 地域レベルでオーバーライドできます。デフォルトでは、システム管理者の役割を持つユーザーのみが、エンティティ・ルールを保存した後、エンティティ・ルールをすべての地域にカスケードできます。

地域エンティティ・ルールをカスケードおよび管理するには、「税金自動化グローバル保存」ビジネス・ルールに対する「起動」権限をユーザーまたはグループに付与する必要があります。

- エンティティ・ルールと地域ルール** - エンティティと地域のルールは、選択したエンティティおよび地域(モントリオールと CA_Blended など)に適用されます。

Global Rules | Domicile Region Rules | Entity Rules | Entity And Region Rules

Tax Automation Global Reg

Tax Automation Target Account Regional	Scenario	Years	Period	Disabled	Logic	Percentage	Source Account	Source Movement	Target Movement	Source MultiGAAP	Target MultiGAAP	Source Scenario	Source ICP	Source Data Source
Regional Current Provision	Actual	FY15	P1											
Regional Perm 0001 Regional PreTax				Enabled	Full	100%	90000					Actual		
Regional Perm 0002 Regional PreTax				Enabled										
Regional Tax Deduction Regional PreTax				Enabled										
MACRS - Fed Reversal Regional PreTax				Enabled										
MACRS - US State Regional PreTax				Enabled										
Regional Tax Loss 1 - Carryforward Pre-Apport Regional PreTax				Enabled										
Regional Tax Loss 2 - Carryforward Pre-Apport Regional PreTax				Enabled										
Regional Tax Loss 3 - Carryforward Pre-Apport Regional PreTax				Enabled										
Regional Tax Loss 4 - Carryforward Pre-Apport Regional PreTax				Enabled										
National Tax Deduction Regional Apportioned				Enabled										
State NOL Regional Apportioned				Enabled										
Regional Tax Loss 2 - Carryforward Automated Regional Apportioned				Enabled										
Regional Tax Loss 3 - Carryforward Automated Regional Apportioned				Enabled										
Regional Tax Losses - Carryforward Automated Regional Apportioned				Enabled										

 ノート:

- デフォルトでは、システム管理者の役割を持つユーザーのみが、グローバル・ルールまたは法定住所ルールを保存した後、グローバル・ルールおよび法定住所ルールを適切なエンティティにカスケードできます。
- パワー・ユーザーまたはユーザーの役割を持つユーザーがグローバル・ルールをカスケードして管理するには、「税金自動化グローバル保存」ビジネス・ルールへの「起動」権限が付与されている必要があります。
- パワー・ユーザーまたはユーザーの役割を持つユーザーが法定住所ルールをカスケードして管理するには、「税金自動化保存」ビジネス・ルールへの「起動」権限が付与されている必要があります。
- **エンティティ・ルール**のカスケードおよび管理には、ビジネス・ルールの「起動」権限は必要ありません。

たとえば、サービス管理者は、「税金自動化グローバル保存」ルールの「起動」権限を「ルール」カードからグローバル自動化管理者グループに付与できます。これにより、グローバル自動化管理者グループのメンバーは、グローバル税金自動化ルールを変更およびカスケードできます。

次の表は、各地域の税金自動化ルール範囲に対応するビジネス・ルールとフォームを示しています。

表 20-5 税金自動化地域

スコープ	ビジネス・ルールのカスケード	フォーム
グローバル・ルール	税金自動化グローバル保存	税金自動化(グローバル地域)
法定住所地域ルール	税金自動化保存	税金自動化(法定住所地域)
エンティティ・ルール	税金自動化グローバル保存	税金自動化エンティティ(全地域)
エンティティ・ルールと地域ルール	N/A	税金自動化エンティティ(地域)

グローバル・ルールおよび法定住所ルールのカスケードは、法定住所レベルおよびエンティティ・レベルで更新しないでください。ルールのカスケードが必要ない場合は、ルールのカスケードを常に無効にし、ローカルの法定住所ルールおよびエンティティ・ルールを作成することをお勧めします。たとえば、勘定科目 X から 100%プルするグローバル・ルールがあり、特定の法定住所で勘定科目 X から 50%プルするようにルールを更新する必要があるとします。これを行うには、法定住所レベルでグローバル・ルールを無効にし、勘定科目 X から 50%プルする新しい法定住所ルールを作成する必要があります。法定住所レベルでグローバル・ルールのカスケードを更新しないでください。同じことが、エンティティ・レベルでの法定住所ルールのカスケードにも当てはまります。

8. **オプション:** ページが空白の場合は、「アクション」で「税金自動化」、すべての勘定科目の表示の順に選択します。このステップでは、税金勘定科目ごとに新規の空

のルールを追加します。[データ・ソース・ディメンションへの税金自動化ルールの追加](#)を参照してください。

9. ルール名のセル(「グローバル・ルール 1」など)を右クリックしてポップアップ・メニューを表示し、「税金自動化」、「ルールの追加」の順に選択して、税金勘定科目ごとに 1 つの追加ルールを作成します。最後のルールとして一番下にルールが作成され、選択したルール・データが新しく作成された行にコピーされます。「保存」をクリックしてルールを保存します。

 ノート:

ルールを追加する際には、データ・ソース・ディメンションにプレースホルダ・メンバーがすでに作成されていることを確認します。そうしないと、ルールの追加によって新しい行は作成されません。ルール 1 を定義して保存した後でのみ、ルール 2 を追加できます。[データ・ソース・ディメンションへの税金自動化ルールの追加](#)を参照してください

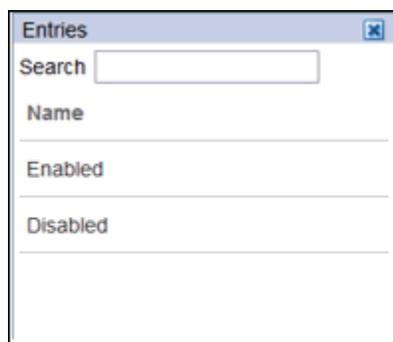
10. **オプション:** ルール名のセルを右クリックしてメニューを表示し、「税金自動化」、「ルールの削除」の順に選択して、勘定科目ごとに 1 つのルールを削除します。ルールの削除では、ルールをリストの下から上にシフトすることで、選択したルールを削除します。最初の行を削除すると、ルールのクリアのみが行われ、行は削除されません。

 ノート:

法定住所フォームからグローバル・ルールを削除することはできません。また、「エンティティ」フォームからグローバル・ルールおよび法定住所ルールを削除することはできません。

11. **オプション:** 「無効」列で、計算から除外する行を選択して**無効**にします。デフォルトでは、すべての基本エンティティに「有効化」が選択されます。

たとえば、エンティティ・ルールによってグローバル・ルールと法定住所ルールをオーバーライドするには、グローバル・ルールと法定住所ルールを「無効」に設定し、エンティティ・ルールを有効にして、他のルールをオーバーライドし、値をリダイレクトします。



12. 「論理」で、行に適用する論理をドロップダウンから選択します。勘定科目に作成されたルールごとに、異なる税金自動化ルールを選択できます。次のルールを使用できます。



- **プル** - 指定したソース勘定科目のパーセンテージを取り、ターゲット勘定科目に適用します。
例:
 - プル 50%
 - ソース勘定科目: 100
 - 宛先 = $(100 * 50\%) = 50$
- **増減** - ソース勘定科目の当期金額とソース勘定科目の前年度の最後の期間の金額との差分を取り、その金額をターゲット勘定科目に適用します。
例:
 - 増減 20%
 - ソース勘定科目: 前年度: 100; 当期: 150
 - 宛先 = $((150-100) * 20\%) = 10$
- **圧縮** - 帳簿または補足スケジュールから圧縮する場合、ソース勘定科目とソース増減の交差の値が、ターゲット勘定科目の一時差異の期末残高と等しくなる必要があります。
補足スケジュールからの圧縮(固定資産など):
 - **例 1: 固定資産:**
 - * ソース勘定科目/増減 = -8110 (帳簿基準から物件および関連工場の税務基準を差し引いたもの、**および**今年の増減)
 - * ターゲット勘定科目/増減の**期末残高**の一時差異 = -8110

 **ノート:**

ターゲット勘定科目についてのその他の増減が一時差異に移入される場合、期末残高がソース勘定科目/増減の値として残るように、それらの増減は"圧縮"(減算)されます。

- **例 2:**
 - * 固定資産のソース勘定科目/増減 = -8110 (帳簿基準から物件および関連工場の税務基準を差し引いたもの、**および**今年の増減)
 - * ターゲット勘定科目/増減の**期末残高**の一時差異は-8110のままです。
 - * ターゲット勘定科目の一時差異の**調整済み首残高** = 1000

* 期首残高調整 1000 と P&L 合計増減-9100 の間の差異は-8110 のままです

ソース・データが帳簿データである場合の圧縮:

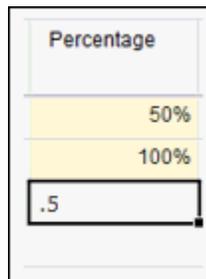
- 「税金自動化」にソースまたはターゲット増減が指定されていない場合、ソース増減はデフォルトで試算表の期末に設定され、ターゲット増減はデフォルトで自動化(今年)に設定されます。有効なソース帳簿勘定科目を指定する必要があります。
- 値は、自動化増減と期末残高の一時差異 = ソース帳簿勘定科目の値になります。
- **年換算** — 年の部分的な期間の額を年額に換算できます。
- **年換算解除** — 年額をルールの期間に応じた部分的な期間の額に換算できます。
- **調整(国)** — 地域の引当金における、国の永久差異または一時差異の調整(逆仕訳など)を可能にします。
- **前年** — 前年データの引当金への取り込みを可能にします。

 **ノート:**

年換算、年換算解除、調整(国)および前年の詳細なロジック例は、[税金自動化ロジックの例](#)を参照してください。

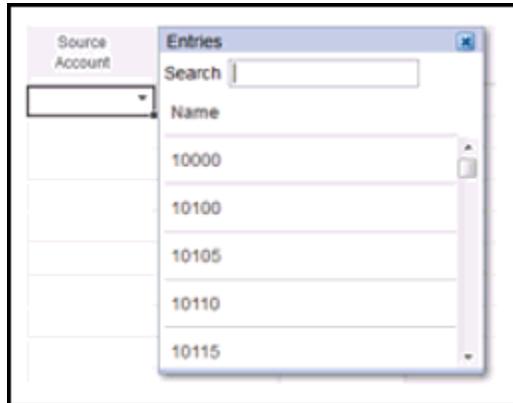
トランザクションを実行する複数のルールの組合せを含むルールの作成方法の例を確認するには、[複数のルールの組合せを使用した税金自動化の作成](#)を参照してください。

13. 「パーセンテージ」で、選択したエンティティにコピーする帳簿データの割合を表す整数または小数と整数を入力します。たとえば、100%の場合は「1」と入力し、50%の場合は「5」と入力します。セルを終了すると、数字が正しく表示されます

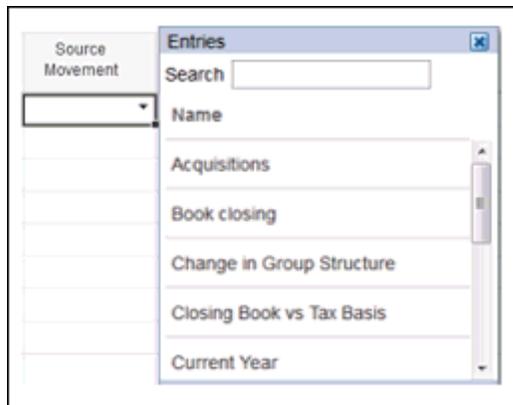


Percentage
<input type="radio"/> 50%
<input type="radio"/> 100%
<input type="text" value=".5"/>

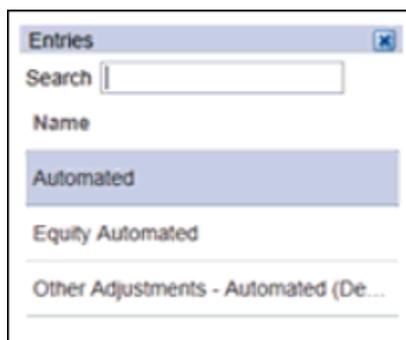
14. 「ソース勘定科目」で、データのコピー元のソース勘定科目番号を選択します。勘定科目に作成されたルールごとに、異なる「ソース勘定科目」を選択できます



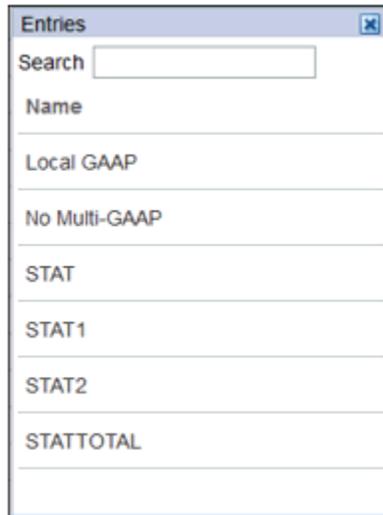
15. 「ソース増減」の下で、データの増減に使用する増減メンバーを選択します。



16. 「ターゲット増減」のドロップダウンから、データの増減に使用する増減メンバーを選択します。値を選択しない場合、増減ディメンションのデフォルトは「自動」です。

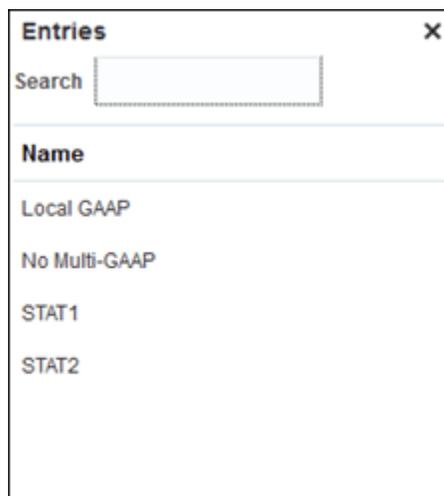


17. 「ソース MultiGAAP」で、データの取得元となる MultiGAAP メンバーを選択します。



The screenshot shows a dialog box titled "Entries" with a search field and a list of entries. The entries are: Local GAAP, No Multi-GAAP, STAT, STAT1, STAT2, and STATTOTAL.

18. 「ターゲット MultiGAAP」のドロップダウンから、データを増減する MultiGAAP メンバーを選択します。



The screenshot shows a dialog box titled "Entries" with a search field and a list of entries. The entries are: Local GAAP, No Multi-GAAP, STAT1, and STAT2.

19. 「ソース・シナリオ」のドロップダウンから、データの抽出元のシナリオを選択します。ルールごとに異なるシナリオ・メンバーを定義できます。

Entries [X]

Search []

Name

Actual

Interim Provision Forecast

STAT

ノート:

ソース・シナリオのデータが変更されても、税金自動化ルールに基づくターゲット・シナリオに影響しません。たとえば、データをソース GAAP シナリオから取得するように税金自動化ルールが定義されている場合、GAAP シナリオ・システムのデータが変更されても STAT シナリオに影響しません。

20. 会社間消去の場合のみ、「ソース ICP」のドロップダウンから、会社間消去の計算でソースとして使用する会社間メンバーを選択します。ルールごとに異なる会社間ソース・メンバーを定義できます。

Entries [X]

Search []

Name

300 ICP

367 ICP

500 ICP

505 ICP

Intercompany Entities

Intercompany Top

21. 「ソース・データ・ソース」のドロップダウンから、税金自動化ソース・データ・ソース属性が添付されているデータ・ソース・メンバーのみを選択できます。「ソース・データ・ソース」列を選択しない場合、デフォルトで「ソース・データ・ソース」メンバーは**税引前**として設定されます。
- ルールごとに異なるデータ・ソース・メンバーを定義できます。

 **ノート:**

新しいカスタム属性の**税金自動化ソース・データ・ソース**は、「データ・ソース」ディメンションに追加されます。関連項目: [データ・ソースの課税属性の定義](#)

22. 「**保存**」をクリックします。「データ・ステータス」を表示すると、影響を受けるエンティティを確認できます。「保存」をクリックすると、すべてのルールが基本の法定住所およびエンティティにプッシュされます。

基本エンティティは、法定住所固有のルールに対して定義されたルールを継承します。指定されていない場合、基本エンティティは「グローバル」フォームで定義されたルールを継承します。

23. 「**アクション**」で、「**連結**」を選択して税金自動化を実行します。

税金自動化ロジックの例

税金自動化を設定するときに、勘定科目に適用するロジックを選択できます。ロジックは、「プル」、「増減」、「圧縮」、年換算、年換算解除、調整(国)および前年から選択できます。

次の項に、年換算、年換算解除、調整(国)および前年のロジックの例を示します。

税金自動化の実行ステップは、[税金自動化\(国\)の操作](#)および[税金自動化\(地域\)の操作](#)を参照してください。

年換算 — 年の部分的な期間の額を年額に換算できます。

例:

試算表が P03 にロードされ、3 月 31 日に終了する 3 か月間の食事接待費は\$36,000 でした。これを年額(12 か月の推定)に換算するため、\$36,000 を月額に換算(12,000)し、さらに 12 か月の金額に換算(144,000)します。次のようになります。

	Logic	Percent	Source Account
Meals and Entertainment	Annualize	100%	90000

前述のルールが期間 P1 に設定された場合:

ソース勘定科目 (90000) の値を \$12,000 と仮定

月期間 ($\$12,000/1$) * 12 = \$144,000

前述のルールが期間 P3 に設定された場合:

ソース勘定科目 (90000) の値を 12000 と仮定

月期間 ($\$12,000/3$) * 12 = \$48,000

前述のルールが期間 P6 に設定された場合:

ソース勘定科目 (90000) の値を 12000 と仮定

月期間 ($\$12,000/6$) * 12 = \$24,000

前述のルールが期間 P12 に設定された場合:

ソース勘定科目 (90000) の値を 12000 と仮定

月期間 ($\$12,000/12$) * 12 = \$12,000

年換算解除 — 年額をルールの期間に応じた部分的な期間の額に換算できます。

例:

2019 年 12 月 31 日に終了する前年の食事接待費(12 か月)は \$144,000 でした。これを年の部分的な期間(3 か月の推定)に換算するため、\$144,000 を月額に換算(12,000)し、さらに 3 か月の金額に換算(36,000)します。次のようになります。

	Logic	Percent	Source Account
Meals and Entertainment	De-Annualize	100%	90000

前述のルールが期間 P1 に設定された場合:

ソース勘定科目 (食事接待費) の値を 12,000 と仮定

月期間 ($\$144,000/12$) * 1 (Period) = \$12,000

前述のルールが期間 P3 に設定された場合:

ソース勘定科目 (90000) の値を 12000 と仮定

月期間 ($\$144,000/12$) * 3 = \$36,000

前述のルールが期間 P6 に設定された場合:

ソース勘定科目 (90000) の値を 12000 と仮定

月期間 ($\$144,000/12$) * 6 = \$72,000

前述のルールが期間 P9 に設定された場合:

ソース勘定科目 (90000) の値を 12000 と仮定

月期間 ($\$144,000/12$) * 9 = \$108,000

前述のルールが期間 P12 に設定された場合:

ソース勘定科目 (90000) の値を 12000 と仮定

月期間 ($\$144,000/12$) * 12 = $\$144,000$

プルおよび年換算の場合は、累積されます。

調整(国) — 地域の引当金における、国の永久差異または一時差異の調整(逆仕訳など)を可能にします。

例:

Subpart F income に対する現在の引当金に $\$100,000$ の永久差異が存在します。しかし、イリノイ州では Subpart F income は非課税であるため、この調整を州の永久差異勘定科目で逆仕訳する必要があります。この金額を逆仕訳するには、調整(国)ロジックをマイナス 100% のパーセンテージで適用します。

任意の期間 $\$100,000 * -100\% = \text{\$}-100,000$

有効な設定 - このロジックは税金勘定科目で有効です。調整(国)ロジックのソース勘定科目はデフォルトで、ターゲット勘定科目に設定されます。調整(国)ロジックでは、ソース・ロールフォワードは無効です。

	Logic	Percent	Source Account
Regional Perm - MACRS Fed Reversal	National Adjustment	-100%	Subpart F Income

前述のルールが期間 P12 に設定された場合:

ソース勘定科目 (Subpart F Income) の値を 100,000 と仮定

地域永久 - MACRS 連邦逆仕訳 = $\text{\$}-100,000$

前年 — 前年データの引当金への取り込みを可能にします。

例:

前年の実際のシナリオにおいて、非課税受取利息に対する現在の引当金に $\text{\$}-1,000,000$ の永久差異があります。前年の非課税受取利息の金額を、現在の年の予測シナリオの推定として使用することにします。この金額を使用するには、前年ロジックを 100% のパーセンテージで適用します。

任意の期間 $\text{\$}-1,000,000 * 100\% = \text{\$}-1,000,000$

デフォルト設定 - 年のデフォルトは、現在の年から 1 を引いた値です。期間のデフォルトは P12 です。

 ノート:

ターゲット勘定科目はソース勘定科目です。前年メソッドを使用するときには、「ソース増減」を指定する必要があります。これは自動増減にのみ適用されます。

デフォルトのソース・シナリオはターゲット・シナリオです。

フォームの検証

前年または調整(国)ロジックを使用すると、税金自動化フォームに対して次の検証が行われます(グローバル/法定/エンティティ/エンティティ 地域)。無効な勘定科目または増減を選択すると、エラー・メッセージが表示されます。

表 20-6 前年および調整(国)のフォーム検証

ロジック	ターゲット勘定科目の有効/無効の選択	ソース勘定科目の有効/無効の選択	ターゲット増減の有効の選択	ソース増減の有効の選択
前年		ターゲットの税金勘定科目と同一する必要があります。	ターゲット増減は<alias>(TRCS_CySYS)にする必要があります。	TRCS_CurrentTaxCYTotal (デフォルト) (選択不可)。ソース増減は<alias>(TRCS_CurrentTaxCYTotal)にする必要があります。
調整(国)	ターゲット勘定科目は、地域の永久/一時勘定科目にする必要があります。	ソース勘定科目の TaxDataType プロパティが NationalAndRegional である必要があります。調整(国)ルールは地域税勘定科目にのみ設定できます。	ターゲット増減は<alias>(TRCS_CySYS)にする必要があります。	TRCS_CurrentTaxCYTotal (デフォルト) (選択不可)。ソース増減は<alias>(TRCS_CurrentTaxCYTotal)にする必要があります。

複数法定住所の税金自動化ルールの管理

次の指示に従い、複数の法定住所の税金自動化ルールを保存するサポートを有効にします:

1. フォーム・デザイナーに移動し、**税務管理者** フォルダを展開します。「税金自動化(法定住所)」フォームを編集します。
2. 要件に応じて、管轄ディメンションを列または行に移動します。
3. 「ビジネス・ルール」タブに切り替えます。
4. 右側の「選択したビジネス・ルール」ペインから、**Consol – Rule - Tax Automation Save** を選択して



をクリックして削除します。

5. 左側の「ビジネス・ルール」ペインの下のリストの下部までスクロールします。**Consol - Rule - TRCS_TaxAutomationSaveMultipleDomiciles** を選択して



をクリックして、フォームに追加します。

6. 下部のペインの「ビジネス・ルール・プロパティ」で、**Consol - Rule - TRCS_TaxAutomationSaveMultipleDomiciles** ルールに対して、「保存後に実行」、「フォームのメンバーを使用」および「プロンプトの非表示」のボックスを選択します。

Business Rule	Description	Run Before Load	Run After Load	Run Before Save	Run After Save	Use Members on Form	Hide Prompt
Consol - Rule - Impact Entities with Data (Obsolete)		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
Consol - Rule - Consolidate		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Consol - Rule - Tax Automation Rule Validations		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
Consol - Rule - TRCS_TaxAutomationSaveMultipleDomiciles	This rule must be attached to the Tax automation form with multiple domiciles present in rows or c...	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

Note:

- ベスト・プラクティスとして、必ず異なる名前でフォームを保存してください。
- この更新されたフォームを使用して、一度に複数の法定住所の税金自動化ルールを更新できます。

21

トレースの操作

関連トピック:

[税金自動化トレースの操作](#)

税金自動化トレースの操作

関連トピック:

- [税金自動化トレースについて学ぶ](#)
- [税金自動化トレースの有効化](#)
- [税金自動化トレース・フォームへのアクセス](#)
- [税金自動化トレースの使用](#)
- [例: ユース・ケース](#)
- [例: ロジック](#)

税金自動化トレースについて学ぶ

Tax Reporting では、「税金自動化」フォームで税金とソース勘定科目とのマッピングを指定すると、「現在の引当金」フォームに税金勘定科目の値が表示されます。トレース自動化オプションでは、ソース・データが帳簿勘定科目から税金勘定科目にどのように移動するか、適用されるロジックやパーセンテージなどに関する詳細情報を提供します。トレース自動化を使用して、管理者またはパワー・ユーザーは、すべてのエンティティまたは選択したエンティティに対して税金自動化を実行できます。

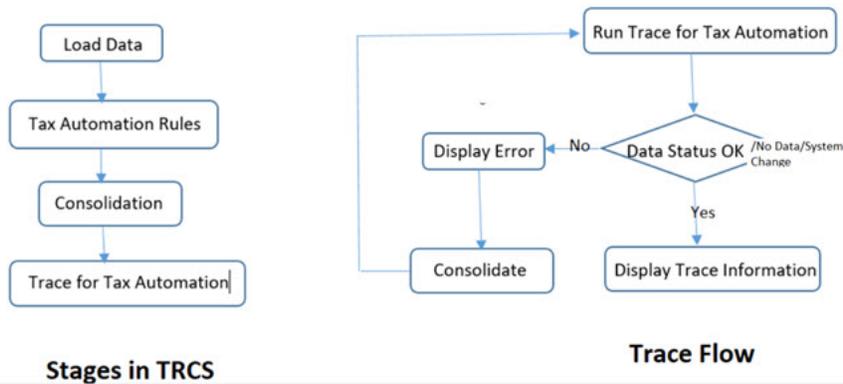
トレース機能を使用して、ソース・データに基づいたデータの計算方法の詳細を表示することもできます。「税金自動化トレース」画面から、税金自動化のトレースというオンデマンド・ルールを実行します。このルールは、税金自動化の金額を計算します。オンデマンド・ルールを実行した後は、トレース情報を確認できます。

トレース情報は、連結データに対して使用できます。データが連結されていない場合はエラー・メッセージがスローされます。

Note:

- PULL、MOVE および SQUEEZE ルールのみがサポートされています。
- 税金自動化トレース機能のサポートは、現在の引当金(国)でのみ使用できます

次の図は、Tax Reporting とトレース・フローの様々な段階をグラフィカルに表したものです:



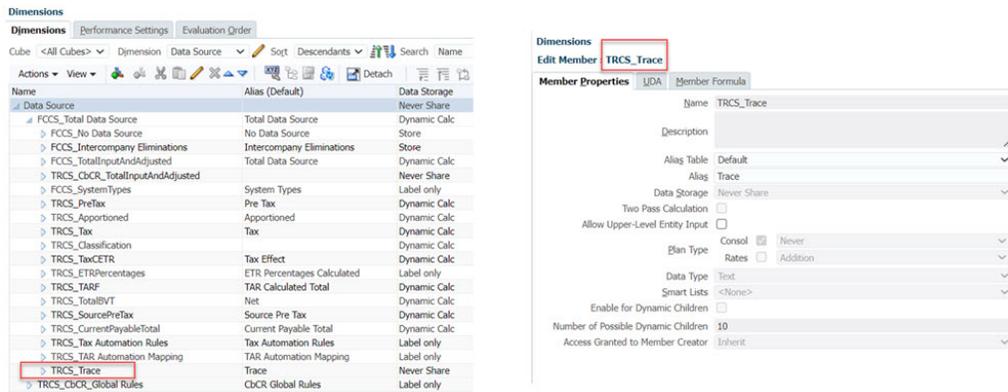
制限:

- トレースは、「現在の引当金」フォームの課税所得のみを介して提供され、その他の引当項目については提供されません。
- 税金自動化トレースは、親交差部では機能しません。基本メンバーおよび親税金計算エンティティのみに表示されます。
- トレース情報は 4000 文字まで表示されます。

税金自動化トレースの有効化

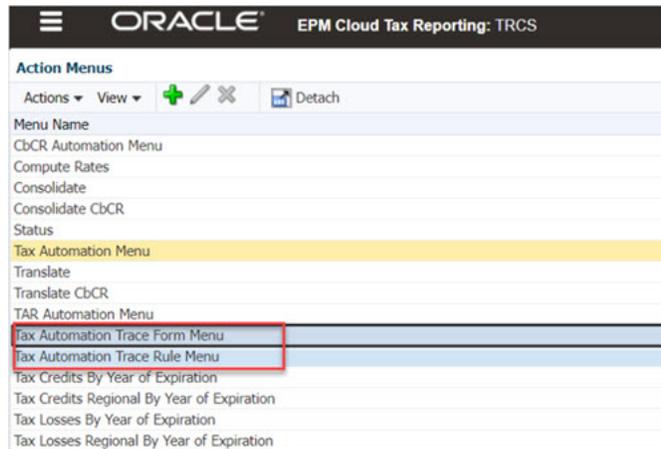
Tax Reporting アプリケーションを作成すると、税金自動化トレース機能がデフォルトで有効になります。税金自動化のトレース・ビジネス・ルールも自動的に作成されます。ビジネス・ルールの詳細は、*Tax Reporting の操作のビジネス・ルールの操作*を参照してください。

トレースを格納するために、デフォルトでは FCCS_Total Data Source 階層の下の DataSource ディメンションに新規メンバーが追加されます。このメンバーは Consol キューブにのみ適用されます。



次のアクション・メニューも使用できます:

- 税金自動化トレース・フォーム・メニュー
- 税金自動化トレース・ルール・メニュー

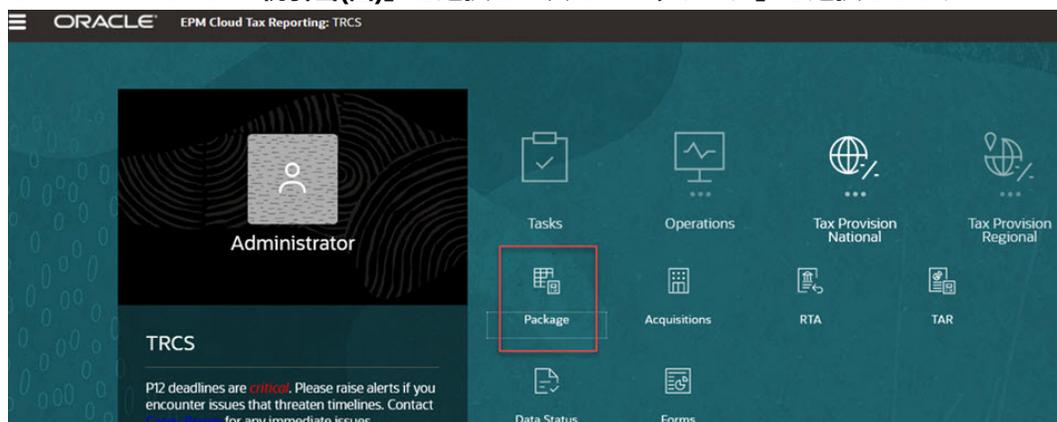


税金自動化トレース・フォームへのアクセス

「税金自動化トレース」フォームには、「現在の引当金」フォームと「税金管理」の両方からアクセスできます。

「現在の引当金」フォームから「税金自動化トレース」フォームにアクセスするには:

1. ホーム・ページで、「**税引当(国)**」を選択し、次に「**パッケージ**」を選択します。



2. フォームで、「**現在の引当金**」タブを選択します。
3. 「現在の引当金」フォームを右クリックし、**自動トレース・オプション**を選択します。

The screenshot shows a tax calculation table in Oracle FRT. The table includes columns for Scenario (Actual), Years (FY20), Period (P12), Entity Operations (USD), and Consolidated Entity. The menu is open over the 'Automated Trace' option, which is highlighted with a red box. The table data is as follows:

Scenario	Years	Period	Entity Operations (USD)	Consolidated Entity	AAP	Currency
Actual	FY20	P12			AAP	Entity Currency
			Automa		Total	
			Net Income Before Tax	30,3		30,399,104
			Permanent Differences (GAAP to Stat)			
			Total Temporary Differences (GAAP to Stat)			2,000
			Local Statutory Net Income Before Tax	30,3		30,401,104
			Permanent Differences (Stat to Tax)			1,694,103
			Total Temporary Differences (Stat to Tax)	1,3		(284,708)
			Deductible Income tax	(2,0		(2,009,151)
			Taxable Income Before Loss	29,991,77	(190,425)	29,801,348
			Special Deductions Total			
			Total National Tax Losses - Carryforward Automated			
			Taxable Income	29,991,773	(190,425)	29,801,348
			Current Year Tax Rate	21%	21%	21%

「税金管理」からこのフォームにアクセスするには:

1. ホーム・ページに移動します。
2. 「ライブラリ」に移動します。
3. 「税金管理」フォルダを選択します。
4. 「現在の引当金トレース」を選択します。

The screenshot shows the Oracle FRT Library interface. The 'Library' tab is selected, and a list of items is displayed. The 'Current Provision Taxes' item is highlighted with a red box. The table data is as follows:

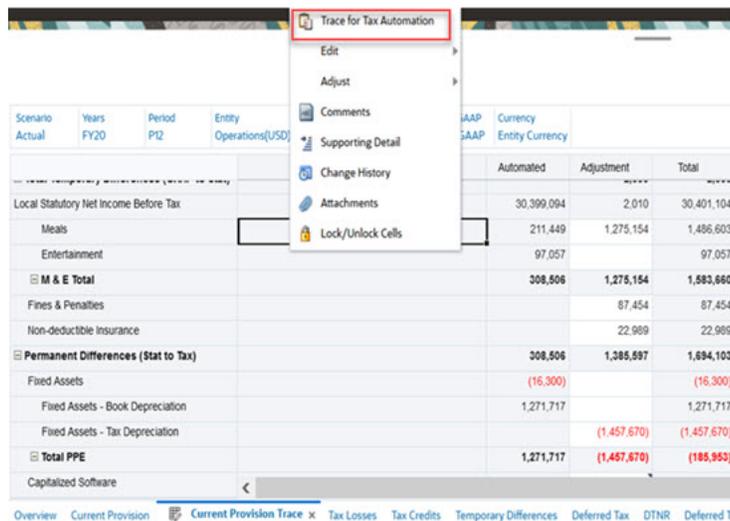
Name	Description	Created	Last Modified
Consolidated Tax Rates (FRT) by Entity	Consolidated Tax Rates (FRT) by Entity	5/6/22	Not Available 5/6/22
Current Provision Taxes	Current Provision Taxes. This is reserved for future release	5/6/22	Administrator Admin... 5/6/22
Current Tax Payable Automation	Current Tax Payable Automation	5/6/22	Not Available 5/6/22
Current Tax Payable Automation Regional	Current Tax Payable Automation Regional	5/6/22	Not Available 5/6/22
Deferred Tax Override Rates	Deferred Tax Override Rates	5/6/22	Not Available 5/6/22
Deferred Tax Override Rates Regional	Deferred Tax Override Rates Regional	5/6/22	Not Available 5/6/22
Loss Entities	Loss Entities	5/6/22	Administrator Admin... 5/6/22
NBT FX Rates Override - (SAR)	NBT FX Rates - Calculated Weighted Average	5/6/22	Not Available 5/6/22

5. 「現在の引当金トレース」フォームが開きます。最初の列は「トレース」と呼ばれます。読み取り専用であり、税金自動化トレース情報が表示されます。

Scenario	Years	Period	Entity	Consolidation	Jurisdiction	Multi-GAAP	Currency		
Actual	FY20	P12	Operations(USD)	Entity Input	United States	Local GAAP	Entity Currency		
								Trace	
								Automated	
								Adjustment	
								Total	
Local Statutory Net Income Before Tax							30,399,094	2,010	30,401,104
Meals							211,449	1,275,154	1,486,603
Entertainment							97,057		97,057
M & E Total							308,506	1,275,154	1,583,660
Fines & Penalties								87,454	87,454
Non-deductible Insurance								22,989	22,989
Permanent Differences (Stat to Tax)							308,506	1,385,597	1,694,103
Fixed Assets							(16,300)		(16,300)
Fixed Assets - Book Depreciation							1,271,717		1,271,717
Fixed Assets - Tax Depreciation								(1,457,670)	(1,457,670)
Total PPE							1,271,717	(1,457,670)	(185,953)
Capitalized Software									

税金自動化トレースの使用

トレース情報を表示するには、税金自動化のトレース・ルールを実行する必要があります。このオプションの「現在の引当金トレース」フォームを右クリックします。



このルールでは、連結データにのみトレース情報が表示されます。

Scenario	Years	Period	Entity	Consolidation	Jurisdiction	Multi-GAAP	Currency		
Actual	FY20	P12	Operations(USD)	Entity Input	United States	Local GAAP	Entity Currency		
								Trace	
								Automated	
								Adjustment	
								Total	
Meals							211,449	1,275,154	1,486,603
Entertainment							97,057		97,057
M & E Total							308,506	1,275,154	1,583,660
Fines & Penalties								87,454	87,454
Non-deductible Insurance								22,989	22,989
Permanent Differences (Stat to Tax)							308,506	1,385,597	1,694,103
Fixed Assets							(16,300)		(16,300)
Fixed Assets - Book Depreciation							1,271,717		1,271,717
Fixed Assets - Tax Depreciation								(1,457,670)	(1,457,670)
Total PPE							1,271,717	(1,457,670)	(185,953)
Capitalized Software									

Row Meals Column Trace:
422898.0 (PULL 50% - A#60521,MV#TRCS_SourceBookClosing,MG#FCCS_Local GAAP,S#Actual,Y#FY20,P#P12,DS#TRCS_SourcePreTax,ICP#FCCS_No Intercompany)
This cell contains text data.

データが連結されていない場合は、税金自動化のトレース・ルールの実行時にエラーがスローされ、詳細がジョブ・カードに表示されます。連結状態を確認するには、「データ・ステータス」フォームを参照してください。

Job Details

Application Name TRCS Start Time 5/16/22 5:10:02 AM
Cube Consol End Time 5/16/22 5:10:09 AM
Job Status Error

Prompt Text
Specify Entities
Specify Period
Specify Scenario
Specify Year
Child Jobs

A method called by the script failed on line: 8, with error: List of entities to be considered for Trace: LE101 Consolidation script generating for Entity: LE101, Period: P12, Scenario: Actual, Year: FY20 Custom Dimension Jurisdiction is enabled. Trace cannot be performed. Selected entity is not consolidated. Entity: LE101 Scenario: Actual, Year: FY20 and Period: P12. Error generating Trace information. Exception Details: {}.

Smart View を介してトレース情報を表示することもできます。

POV TRCS Current Provision Trace - slc10ukm.us.oracle.com_TRCS_1
Actual - FY20 - P12 - Operations (USD) - Entity Input - United States - Local GAAP - Entity Currency - Refresh

422898.0 (PULL 50% - A#60521,MV#TRCS_SourceBookClosing,MG#FCCS_Local GAAP,S#Actual,Y#FY20,P#P12,DS#TRCS_SourcePreTax,IC#FCCS_No Int

	A	B	C	D
22 Meals		422898.0 (PULL 50% - A#60521,MV#TRCS_SourceBookClosing,MG#FCCS_Local GAAP,S#Actual,Y#FY20,P#P12,DS#TRCS_SourcePreTax,IC#FCCS_No Int	211449	1275154
23 Entertainment		194114.0 (PULL 50% - A#60522,MV#TRCS_Sourc	97057	#Missing
24 -M & E Total		GAAP,S#Actual,Y#FY20,P#P12,DS#TRCS_SourcePreTax,IC	308506	1275154
25 Fines & Penalties		Intercompany)	#Missing	87454

Smart View
Smart View Home
Shared Connections
Private Connections
Recently Used
Form
Ad hoc Grid

関連項目: [Oracle Smart View for Office](#) の操作

Note:

- 単一または複数の税金自動化ルールが定義されている勘定科目のトレース情報が表示されます。
- トレースは、グローバル、法定住所およびエンティティの税金自動化ルールでサポートされています。

例: ユース・ケース

会食費があり、今年の傾向を確認したところ、この勘定科目の値が前四半期と比較して高い低いことに気付き、調査すると仮定します。

Scenario	Years	Period	Entity	Consolidation	Jurisdiction	Multi-GAAP	Currency
Actual	FY20	P12	Operations(USD)	Entity Input	United States	Local GAAP	Entity Currency
				Automated	Adjustment	Total	
Net Income Before Tax				30,399,094	10	30,399,104	
Permanent Differences (GAAP to Stat)							
Total Temporary Differences (GAAP to Stat)					2,000	2,000	
Local Statutory Net Income Before Tax				30,399,094	2,010	30,401,104	
Meals				211,449	1,275,154	1,486,603	
Entertainment				97,057		97,057	
M & E Total				308,506	1,275,154	1,583,660	
Fines & Penalties					87,454	87,454	
Non-deductible Insurance					22,989	22,989	
Permanent Differences (Stat to Tax)				308,506	1,385,597	1,694,103	
Total Temporary Differences (Stat to Tax)				1,301,163	(1,590,870)	(289,708)	
Deductible Income tax				(2,021,673)	12,838	(2,008,835)	
Taxable Income Before Loss							

Global Rules | Domicile Rules | Entity Rules

Tax Automation Global

Tax Automation Target Account	Scenario	Years	Period	Disabled	Logic	Percentage	Source Account	Source
Current Provision	Actual	FY20	P12					
Fixed Assets - Book Depreciation	NationalAndRegional PreTax			Global Rule 1	Enabled			
Intangible Assets	NationalAndRegional PreTax			Global Rule 1	Enabled			
Shared Based Comp	NationalAndRegional PreTax			Global Rule 1	Enabled			
Meals	NationalAndRegional PreTax CETR			Global Rule 1	Enabled	Pull	50%	Meals
Entertainment	NationalAndRegional PreTax CETR			Global Rule 1	Enabled	Pull	50%	Entertainment
Fines & Penalties	NationalAndRegional PreTax CETR			Global Rule 1	Enabled			
Non-deductible Insurance	NationalAndRegional PreTax CETR			Global Rule 1	Enabled			
Fixed Assets - Book Depreciation	NationalAndRegional PreTax			Global Rule 1	Enabled	Squeeze	100%	Total Fixed Assets
Fixed Assets - Book Depreciation	NationalAndRegional PreTax			Global Rule 1	Enabled	Pull	100%	Depreciation Building and Improvements
Fixed Assets - Tax Depreciation	NationalAndRegional PreTax			Global Rule 1	Enabled			
Capitalized Software	NationalAndRegional PreTax			Global Rule 1	Enabled			

税金自動化トレース機能を使用しない場合:

- 税金自動化フォームに移動し、ソース勘定科目、増減、複数 GAAP、会社間およびシナリオ・メンバーを書き留めます
- 次にソース交差部に格納されている値を見つけるために、残りのディメンション・メンバー(DataSource、直轄など)すべてが必要になります
- これらを取得した後、グリッド/フォームを生成してソース・データを見つけ、ターゲット値と比較します
- ターゲットと一致するソース・データまたはソース値が見つからない場合は、解決を求めるサービス・リクエストを発行します

税金自動化トレース機能を使用する場合:

- 自動トレース・アクション・メニューを使用するか、セルを右クリックして「現在の引当金トレース」フォームを開くことで、「税金自動化トレース」フォームに移動します。

Scenario	Years	Period	Entity	Consolidation	Jurisc	Currency
Actual	FY20	P12	Operations(USD)	Entity Input	United States	Entity Currency
				Automated	Adj	
<ul style="list-style-type: none"> Consolidate Translate Automated Trace Edit Adjust Comments Supporting Detail Change History Attachments Lock/Unlock Cells Analyze on Cell 						
Net Income Before Tax				30,399,094		
Permanent Differences (GAAP to Stat)				.		
Total Temporary Differences (GAAP to Stat)						
Local Statutory Net Income Before Tax				30,399,094		
Meals				211,449		
Entertainment				97,057		
M & E Total				308,506		
Fines & Penalties					87,454	87,454
Non-deductible Insurance					22,989	22,989
Permanent Differences (Stat to Tax)				308,506	1,385,597	1,694,103
Total Temporary Differences (Stat to Tax)				1,301,163	(1,590,870)	(289,708)
Deductible Income tax				(2,021,673)	12,838	(2,008,835)

Scenario	Years	Period	Entity	Consolidation	Jurisdiction	Multi-GAAP	Currency			
Actual	FY20	P12	Operations(USD)	Entity Input	United States	Local GAAP	Entity Currency			
						Trace	Automated			
							Adjustment			
							Total			
<ul style="list-style-type: none"> Trace for Tax Automation Edit Adjust Supporting Detail Change History Lock/Unlock Cells 										
Net Income Before Tax								30,399,094	10	30,399,104
Permanent Differences (GAAP to Stat)										
Total Temporary Differences (GAAP to Stat)									2,000	2,000
Local Statutory Net Income Before Tax								30,399,094	2,010	30,401,104
Meals								211,449	1,275,154	1,486,603
Entertainment								97,057		97,057
M & E Total								308,506	1,275,154	1,583,660
Fines & Penalties									87,454	87,454
Non-deductible Insurance									22,989	22,989
Permanent Differences (Stat to Tax)								308,506	1,385,597	1,694,103
Total Temporary Differences (Stat to Tax)								1,301,163	(1,590,870)	(289,708)
Deductible Income tax								(2,021,673)	12,838	(2,008,835)
Taxable Income Before Loss										

- トレース・フォームで、税金自動化のトレース・ビジネス・ルールを実行する必要があります。

Scenario	Years	Period	Entity	Consolidation	Jurisdiction	Multi-GAAP	Currency			
Actual	FY20	P12	Operations(USD)	Entity Input	United States	Local GAAP	Entity Currency			
						Trace	Automated			
							Adjustment			
							Total			
<ul style="list-style-type: none"> Trace for Tax Automation Edit Adjust Supporting Detail Change History Lock/Unlock Cells 										
Net Income Before Tax								30,399,094	10	30,399,104
Permanent Differences (GAAP to Stat)										
Total Temporary Differences (GAAP to Stat)									2,000	2,000
Local Statutory Net Income Before Tax								30,399,094	2,010	30,401,104
Meals								211,449	1,275,154	1,486,603
Entertainment								97,057		97,057
M & E Total								308,506	1,275,154	1,583,660
Fines & Penalties									87,454	87,454
Non-deductible Insurance									22,989	22,989
Permanent Differences (Stat to Tax)								308,506	1,385,597	1,694,103
Total Temporary Differences (Stat to Tax)								1,301,163	(1,590,870)	(289,708)
Deductible Income tax								(2,021,673)	12,838	(2,008,835)
Taxable Income Before Loss										

- 完了すると、ソース POV とともにソースに格納された金額が生成されます。
- ソース値とターゲット値を 1 つのフォームに並べて比較できるようになりました (トレース(ソース) vs 自動(ターゲット))。

- 適用されたロジック、ソース金額のパーセンテージおよびソース POV を示すトレースの詳細を確認できます。

Scenario	Years	Period	Entity	Consolidation	Jurisdiction	Multi-GAAP	Currency
Actual	FY20	P12	Operations(USD)	Entity Input	United States	Local GAAP	Entity Currency
				Trace	Automated	Adjustment	Total
Local Statutory Net Income Before Tax					30,399,094	2,010	30,401,104
Meals				422898.0 (PULL 50% - A#60521,MV#TRCS_SourceBookClosing,MG#FCCS_Local GAAP,S#Actual,Y#FY20,P#P12,DS#TRCS_SourcePreTax,ICP#FCCS_No Intercompany)	211,449	1,275,154	1,486,603
Entertainment				194114.0 (PULL 50% - A#60522,MV#TRCS_SourceBookClosing,MG#FCCS_Local GAAP,S#Actual,Y#FY20,P#P12,DS#TRCS_SourcePreTax,ICP#FCCS_No Intercompany)	97,057	97,057	97,057
M & E Total				Row Meals Column Trace: 422898.0 (PULL 50% - A#60521,MV#TRCS_SourceBookClosing,MG#FCCS_Local GAAP,S#Actual,Y#FY20,P#P12,DS#TRCS_SourcePreTax,ICP#FCCS_No Intercompany) This cell contains text data.			
Fines & Penalties							
Non-deductible Insurance						22,989	22,989
Permanent Differences (Stat to Tax)					308,506	1,385,597	1,694,103
Fixed Assets				-2807500.0 (SQUEEZE 100% - A#Fixed Assets,MV#FCCS_ClosedBalance,MG#FCCS_Local GAAP,S#Actual,Y#FY20,P#P12,DS#TRCS_SourcePreTax,ICP#FCCS_No Intercompany)	(16,300)		(16,300)
Fixed Assets - Book Depreciation				1271717.0 (PULL 100% - A#Fixed Assets,MV#FCCS_ClosedBalance,MG#FCCS_Local GAAP,S#Actual,Y#FY20,P#P12,DS#TRCS_SourcePreTax,ICP#FCCS_No Intercompany)	1,271,717		1,271,717
Fixed Assets - Tax Depreciation							

- トレース情報で問題が特定された場合は、「税金自動化」フォームに移動してマッピングを修正できます。

例: ロジック

PULL

Table 21-1 例: PULL ロジック

シリアル番号	トレース情報	内容詳細	値
1.	ソース値	ソース交差部に格納されたデータ。それ以外は#MI (データがない場合)	988887.0 (PULL 50% - A#80001,MV#TRCS_SourceBookClosing,MG#FCCS_Local GAAP,S#Actual,Y#FY21,P#P12,DS#TRCS_SourcePreTax,ICP#FCCS_No Intercompany)
2.	税金自動化ルール	ロジックの後にパーセント	988887.0 (PULL 50% - A#80001,MV#TRCS_SourceBookClosing,MG#FCCS_Local GAAP,S#Actual,Y#FY21,P#P12,DS#TRCS_SourcePreTax,ICP#FCCS_No Intercompany)
3.	ソース POV	ディメンション名の接頭辞が付いた、ソース POV の選択したディメンションのメンバー	988887.0 (PULL 50% - A#80001,MV#TRCS_SourceBookClosing,MG#FCCS_Local GAAP,S#Actual,Y#FY21,P#P12,DS#TRCS_SourcePreTax,ICP#FCCS_No Intercompany)

MOVE

Table 21-2 例: MOVE ロジック

シリアル番号	トレース情報	内容詳細	値
1.	ソース値	ソース交差部に格納されたデータ。それ以外は#MI (データがない場合)	988887.0 (MOVE 100% - A#80001, MV#TRCS_SourceBookClosing, MG#FCCS_Local GAAP, S#Actual, Y#FY21, P#P12, DS#TRCS_SourcePreTax, ICP#FCCS_No Intercompany) 100000.0 (MOVE 100% - A#80001, MV#TRCS_SourceBookClosing, MG#FCCS_Local GAAP, S#Actual, Y#FY20, P#P12, DS#TRCS_SourcePreTax, ICP#FCCS_No Intercompany)
2.	税金自動化ルール	ロジックの後にパーセント	988887.0 (MOVE 100% - A#80001, MV#TRCS_SourceBookClosing, MG#FCCS_Local GAAP, S#Actual, Y#FY21, P#P12, DS#TRCS_SourcePreTax, ICP#FCCS_No Intercompany) 100000.0 (MOVE 100% - A#80001, MV#TRCS_SourceBookClosing, MG#FCCS_Local GAAP, S#Actual, Y#FY20, P#P12, DS#TRCS_SourcePreTax, ICP#FCCS_No Intercompany)
3.	ソース POV	ディメンション名の接頭辞が付いた、ソース POV の選択したディメンションのメンバー	988887.0 (MOVE 100% - A#80001, MV#TRCS_SourceBookClosing, MG#FCCS_Local GAAP, S#Actual, Y#FY21, P#P12, DS#TRCS_SourcePreTax, ICP#FCCS_No Intercompany) 100000.0 (MOVE 100% - A#80001, MV#TRCS_SourceBookClosing, MG#FCCS_Local GAAP, S#Actual, Y#FY20, P#P12, DS#TRCS_SourcePreTax, ICP#FCCS_No Intercompany)

SQUEEZE

Table 21-3 例: SQUEEZE ロジック

シリアル番号	トレース情報	内容詳細	値
1.	ソース値	ソース交差部に格納されたデータ。それ以外は#MI (データがない場合)	988887.0 (MOVE 100% - A#80001, MV#TRCS_SourceBookClosing, MG#FCCS_Local GAAP,S#Actual,Y#FY21,P#P12,DS#TRCS_SourcePreTax,ICP#FCCS_No Intercompany) 100000.0 (MOVE 100% - A#80001, MV#TRCS_SourceBookClosing, MG#FCCS_Local GAAP,S#Actual,Y#FY20,P#P12,DS#TRCS_SourcePreTax,ICP#FCCS_No Intercompany)
2.	税金自動化ルール	ロジックの後にパーセント	988887.0 (MOVE 100% - A#80001, MV#TRCS_SourceBookClosing, MG#FCCS_Local GAAP,S#Actual,Y#FY21,P#P12,DS#TRCS_SourcePreTax,ICP#FCCS_No Intercompany) 100000.0 (MOVE 100% - A#80001, MV#TRCS_SourceBookClosing, MG#FCCS_Local GAAP,S#Actual,Y#FY20,P#P12,DS#TRCS_SourcePreTax,ICP#FCCS_No Intercompany)
3.	ソース POV	ディメンション名の接頭辞が付いた、ソース POV の選択したディメンションのメンバー	988887.0 (MOVE 100% - A#80001, MV#TRCS_SourceBookClosing, MG#FCCS_Local GAAP,S#Actual,Y#FY21,P#P12,DS#TRCS_SourcePreTax,ICP#FCCS_No Intercompany) 100000.0 (MOVE 100% - A#80001, MV#TRCS_SourceBookClosing, MG#FCCS_Local GAAP,S#Actual,Y#FY20,P#P12,DS#TRCS_SourcePreTax,ICP#FCCS_No Intercompany)

会社間消去の操作

関連トピック

[税引当での会社間消去の実行](#)

税引当での会社間消去の実行

会社間トランザクションは、エンティティとその関連パーティ(会社間パートナー(ICP)と呼ばれる)の間で発生します。これらのトランザクションには、あるエンティティにより記録された収益と、別のエンティティにより記録された費用が含まれます。他のトランザクションには、関連所有者への配当金の支払が含まれます。

損益計算書と貸借対照表で発生する会社間トランザクションを含むデータをロードする場合があります。税金計算で会社間データを使用する場合、ICPによる税金自動化を使用する必要があります。たとえば、会社間最上位を選択して、税金自動化を使用した税引前利益をマップする必要があります。税金自動化を使用して、消去が必要な永久差異または一時差異を作成する場合は、会社間最上位も選択する必要があります。その結果、「当期税引当」で税引前利益消去が自動的に発生します。会社間収益/費用および会社間配当金が消去されます。

会社間配当金の消去が必要な場合、税引前および税効果を消去できます。収益および費用の消去が必要な場合は、有効税率調整に適切に影響を与えるように税引前金額のみを消去することができます。

会社間消去の設定の一部として、次のタスクを実行する必要があります：

- エンティティを会社間パートナーとして設定します。
- 会社間帳簿勘定科目属性値を設定します - [会社間勘定属性の値の設定](#)を参照してください。
- 会社間配当金税金勘定科目を設定します。

エンティティ

関連するエンティティが同じ階層レベルに属している場合、消去はその同じ基本レベルで発生します。エンティティが同じ階層レベルにない場合、消去はその階層の親レベルで発生します。次の例では、選択したエンティティが 510、520 および 530 の場合、それらは基本レベル(ABCSub)階層の下にレポートされます。エンティティに 500 と 520 が含まれる場合、それらは同じ階層内にないため、消去は親レベル(ABCEnt)階層の下にレポートされます。

Entities Metadata	
<u>ABCEnt</u>	500 (ICP Yes, US, <u>Rededut</u>)
<u>ABCSub</u>	510 (ICP Yes, US, <u>Rededut</u>)
	520 (ICP Yes, US, <u>Rededut</u>)
	530 (ICP Yes, US, <u>Rededut</u>)

ルールの作成

税引前利益を会社間ディメンションから分離するルールを作成する必要があります。ユーザーが「ソース ICP」を会社間最上位に設定して税金自動化ルールを構成すると、消去メンバーで税金自動化ルールが実行され、帳簿勘定科目で使用可能な消去データが移入されます。消去の結果を参照するには、「POV」を「親通貨」に、「連結」を消去に設定する必要があります。

勘定科目ごとに複数のルールを追加できます。すべてのルールは会社間最上位からデータをプルしています。税金自動化の柔軟性を高めるために、任意の組合せを使用してルールの交差を設定できます。例:

- 異なる税金自動化ルール(ロジック)を選択します。すべて同じロジックを使用するか、ルールごとに異なるロジックを選択して、2つ以上のルールを作成できます。
- 異なるソース(ソース勘定科目)を選択します。ルールごとに異なるソース勘定科目を選択することも、1つ以上のルールに同じソース勘定科目を選択することもできます。
- ルールごとにソース ICP (会社間)勘定科目を選択するか、1つ以上のルールに対して同じソース ICP 勘定科目を選択します。

ユーザーが「ソース ICP」を会社間最上位に設定して税金自動化ルールを構成すると、消去メンバーで税金自動化ルールが実行され、帳簿勘定科目で使用可能な消去データが移入されます。

一部のインスタンス(会社間配当金など)では、特定の勘定科目の税引前および税効果を消去することがあります。会社間消去(ICP)に税金自動化ルールを設定し、会社間ディメンションからソースを選択できます。税金自動化ルールのターゲットは、FCCS_No Intercompany メンバーに設定されています。ルールごとに異なるソース会社間メンバーを定義できます。

ノート:

会社間ディメンションの詳細は、[会社間ディメンション](#)を参照してください。

親レベルまたは基本レベルから税金消去を実行できます:

- **親レベル** - グローバルな税金自動化ルールのみを使用して親レベルで消去データが移入され、すべての管轄に対してグローバルな税金自動化ルールが実行されます。地域レベルでの消去は実行されません。消去データがすべての子(親と法定住所が異なる子も含む)に適用される場合、親エンティティの法定住所でブレンドされたレートが入力されます。消去グローバル・ルールを無効にする場合は、親エンティティでレートを入力しないでください。親で税率を入力するためには、エンティティのメタデータ・プロパティで「上位レベルのエンティティ入力を許可」を有効にする必要があります。
- **基本レベル** - すべての税金計算は消去メンバーに対して実行されます。損失の詳細、税率およびすべての構成がエンティティ入力に保管されていますが、POV で消去メンバーが選択されたとき、それらは表示されません。

税金自動化は、連結の実行時に実行されます。

税引前および税効果を消去するための会社間勘定(配当金など)の構成

税引前と税の両方を消去する場合は、勘定科目を個別の税金勘定科目(帳簿調整勘定科目など)に自動処理する必要があります次の例を参照してください。

会社間勘定を構成するには:

1. NIBT の **TRCS_TaxAccounts** で、帳簿調整(会社間配当金など)を作成して会社間配当金の金額を含めます。

▲ TRCS_TaxAccounts
▲ TRCS_CurrentTaxExpense
▲ TRCS_CurrentTaxReturn
▲ TRCS_CurrentTaxTI
▲ TRCS_TaxableIncomeAfterLoss
▲ TRCS_TaxableIncomeBeforeLossWSplDeducts
▲ TRCS_TaxableIncomeBeforeLoss
▲ TRCS_NIBTLS
▲ TRCS_NIBTAdjusted
▶ TRCS_NIBT
▲ TRCS_NIBTBA
IntercompanyDividends
▶ NIBTBA2
▶ NIBTBA3

2. **TaxCalcElim** プロパティを新しい帳簿調整勘定科目に割り当てます:
 - a. ホーム・ページで「アプリケーション」、「概要」、「ディメンション」の順にクリックします。
 - b. 「ディメンション」で、「勘定科目」をクリックします。
 - c. 「ディメンション・プロパティの編集」をクリックします。
 - d. 「カスタム属性」で、税金データ・タイプ、TaxCalcElim の順に選択します。

3. ホーム・ページで「アプリケーション」、「構成」の順にクリックし、「税金自動化」を選択します。

 **ノート:**

期間が始まっていない場合、グローバル・ルール画面は空白になります。

4. 次のようにして、税引前利益を会社間ディメンションから分離する税金自動化ルールを作成する必要があります:
 - a. ソース(税引前利益など)の全額(100%)に対してグローバル・ルール 1 を作成し、「ソース ICP」を会社間最上位に設定します
 - b. 利益合計から会社間配当金を控除するグローバル・ルール 2 を作成し、「ソース ICP」を会社間エンティティに設定します。
 - c. 税金計算消去を適用するグローバル・ルール 3 を作成し、会社間配当金を帳簿調整勘定科目(会社間配当金など)に転記します。
5. 「税金自動化」フォームで、「グローバル・ルール」タブを選択します。グローバルにすると、システム内のすべてのエンティティにルールが適用されます。
6. 各ルールを作成し、該当する列に入力します。ルール名のセル(「グローバル・ルール 1」など)を右クリックしてポップアップ・メニューを表示し、「税金自動化」、「ルールの追加」の順に選択して、税金勘定科目ごとに 1 つの追加ルールを作成します。最後のルールとして一番下にルールが作成され、選択したルール・データが新しく作成された行にコピーされます。デフォルトでは、税金自動化ルールは消去メンバーに対して実行されるように設定されています

 **ノート:**

ルールを追加する際には、データ・ソース・ディメンションにプレースホルダ・メンバーがすでに作成されていることを確認します。そうしないと、ルールの追加によって新しい行は作成されません。ルール 1 を定義して保存した後でのみ、ルール 2 を追加できます。データ・ソース・ディメンションへの税金自動化ルールの追加を参照してください

Tax Automation Global ⓘ										
Tax Automation Target Account	Scenario	Years	Period	Disabled	Logic	Percentage	Source Account	Source ICP	Source Movement	Target Movement
Current Provision	Actual	FY18	P12							
NIBT				Enabled	Full	100%	Profit Before Tax	Intercompany Top	Trial Balance Close	Automated
				Enabled	Full	(100)%	Intercompany Dividends	Intercompany Entities	Trial Balance Close	Automated
Intercompany Dividends • NationalAndRegional TaxCalcElim CETR				Enabled	Full	100%	Intercompany Dividends	Intercompany Entities	Trial Balance Close	Automated
Transfer Pricing Adjustment • NationalAndRegional PreTax CETR				Enabled						

ノート:

ページが空白の場合、「アクション」で、「税金自動化」、「すべての勘定科目の表示」の順に選択します。このステップでは、税金勘定科目ごとに新規の空のルールを追加します。

- 「保存」をクリックします。
- ホーム・ページで、「税引当(国)」、「パッケージ」、「現在の引当金」の順に選択して、「連結」を実行します。
- 次のようにして、「現在の引当金」レポートで結果を確認します:
 - 「POV」で、次のように選択してエンティティ入力および「エンティティ通貨」を表示します:
 - 「連結」で、「エンティティ入力」を選択します
 - 「通貨」で、「エンティティ通貨」を選択します

Current Provision ⓘ							
Scenario	Years	Period	Entity	Consolidation	Jurisdiction	Multi-GAAP	Currency
Actual	FY18	P12	ABC Enterprises	Entity Input	United States	Local GAAP	Entity Currency
				Automated	Adjustment	Total	
NIBT				692		692	
Intercompany Dividends				77		77	
Transfer Pricing Adjustment							
Other Book Adjustment							
☐ Book Adjustments to NIBT				77		77	
☐ NIBT Total Book Reclass							
☐ Net Income Before Tax				769		769	

- 「POV」で、次のように選択して、その親通貨に換算されたデータおよび消去を、消去および「親通貨」で表示します:
 - 「連結」で、「消去」を選択します
 - 「通貨」で、「親通貨」を選択します

Current Provision ⓘ							
Scenario	Years	Period	F _{NTFV}	Consolidation	Jurisdiction	Multi-GAAP	Currency
Actual	FY18	P12	ABC Enterprises	Contribution	United States	Local GAAP	Parent Currency
				Automated	Adjustment	Total	
NIBT				900		900	
Intercompany Dividends				0		0	
Transfer Pricing Adjustment							
Other Book Adjustment							
<input type="checkbox"/> Book Adjustments to NIBT				0		0	
<input type="checkbox"/> NIBT Total Book Reclass							

- 「POV」で、次のように選択して、その親通貨に換算されたデータおよびコントリビューションを表示します。
 - 「連結」で、「コントリビューション」を選択します
 - 「通貨」で、「親通貨」を選択します

Current Provision ⓘ							
Scenario	Years	Period	F _{NTFV}	Consolidation	Jurisdiction	Multi-GAAP	Currency
Actual	FY18	P12	ABC Enterprises	Contribution	United States	Local GAAP	Parent Currency
				Automated	Adjustment	Total	
NIBT				900		900	
Intercompany Dividends				0		0	
Transfer Pricing Adjustment							
Other Book Adjustment							
<input type="checkbox"/> Book Adjustments to NIBT				0		0	
<input type="checkbox"/> NIBT Total Book Reclass							

申告額の未払処理調整(RTA)自動化の操作

関連トピック

- [RTA の操作](#)
- [RTA 自動化ルールの定義](#)
- [RTA 金額への前年度レートの適用](#)
- [RTA 分岐の操作](#)

RTA の操作

Tax Reporting では、前年度の引当金額を調整できます。税引当は、自動的にフォームに移入されます。申告データは、手動で入力するか、アプリケーションにロードできます。

システムでは、期間 **13** または **P13 (RTA)** で申告額の未払処理調整が処理されます。アプリケーションは、複数年の分析と、現在の期間への調整の転記に対応しています。入力スケジュールに対するデータ変更は、法人税の現在の期間の引当金に必要な申告額の未払処理調整を決定するために、連結によって追跡される必要があります(当期引当金や繰延引当金など)。計算された金額は、追加引当金項目として **RTA 自動化** で構成されたターゲット会計年度と宛先期間の当期引当金に取得され、一時差異フォームにも取得されます(この場合、システムのデフォルトでは、すべての申告額の未払処理調整が繰延税金費用にのみ影響すると仮定されます)。設定の詳細は、[RTA 自動化ルールの定義](#) を参照してください。

ノート:

RTA 金額に前年度レートを使用する場合、[RTA 金額への前年度レートの適用](#) を参照してください。

申告額の未払処理調整は、エンティティに応じて異なる四半期中に計算および計上できます。たとえば、カレンダー年中に、カナダのエンティティでは **Q3** で調整を計上し、アメリカのエンティティでは **Q4** で計上できます。つまり、システムは、ユーザーがデータを移入し、**RTA 自動化** を使用して宛先期間と会計年度を設定し、調整が転記される **RTA 期間** および年とターゲット期間および年の両方を連結した場合のみ申告額の未払処理調整の差異を計算するように設定されます。

フォームには、次のロールフォワード・メンバーが含まれます。

表 23-1 国の一時差異

カテゴリ	サブカテゴリ	説明
P12	自動	POV に指定された年度の引当金からの自動金額。

表 23-1 (続き) 国の一時差異

カテゴリ	サブカテゴリ	説明
	調整	POV に指定された年度の引当金からの手動入力金額。
	合計	「自動」と「調整」の合計。(合計引当金)
RTA	自動	POV に指定された年度の申告からの自動金額。
	調整	POV に指定された年度の申告からの手動入力金額。
	合計	申告からの「自動」と「調整」の合計。(合計申告額)
RTA	RTA 差異	合計引当金と合計申告額の差異

計算されると、当期引当金に取得される金額は、当期の申告書/申告上の当期の税額という勘定科目の金額となります。一時差異の差異は、申告額の未払処理調整における一時差異ロールフォワードの列に対して計算されると、自動的に取得されます。

調整を入力するには:

1. ホーム・ページで、「**税引当(国)**」を選択し、次に「**RTA**」を選択します。
2. 必要に応じて勘定科目残高に調整金額を入力します。
3. 「**保存**」をクリックします。
4. フォームの「**アクション**」で、「**連結**」を選択してから「**起動**」をクリックします。

RTA 自動化ルールの定義

申告額の未払処理調整(RTA)では、前年の引当金と提出した申告書の間の差異が計算されます。

「RTA 自動化」画面を使用して、RTA 調整をコピーするためのルールを定義します。RTA 残高をコピーするために、ソースおよび宛先のシナリオ・メンバーとレポート標準メンバーを入力します。

ノート:

RTA 自動化ルールを定義するには、管理者またはパワー・ユーザーのセキュリティ権限を持っている必要があります。

作業を開始する前に、調整を転記するため、次のタスクを実行する必要があります。

- 申告年度の RTA フォームを完成する必要があります。
- 申告年度の RTA 期間を連結する必要があります。[RTA の操作](#)を参照してください。
- 申告年度の RTA 期間について、データ・ステータスが「**OK**」である必要があります。

RTA 自動化ルールを定義するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」を選択し、「構成」をクリックします。

Name	Type	Status	Executed	Action
Tax Automation Manage Rules	Maintenance Optional	Not Configured		...
Tax Automation Regional Manage regional rules	Maintenance Optional	Not Configured	ats_admin1 10/19/18 4:04 PM	...
RTA Automation Post Adjustment	Maintenance Optional	Not Configured	ats_admin1 7/25/17 12:20 PM	...
Exchange Rates Manage Rates	Maintenance Optional	Not Configured	epm_default_c... 12/18/18 10:22 AM	...
Tax Rates Manage Rates	Maintenance Optional	Not Configured	ats_admin1 10/30/18 1:44 PM	...
Rollover Perform Periodic Rollover	Maintenance Optional	Not Configured	ats_admin1 12/7/18 12:34 PM	...
Consolidated Tax Rates Manage Rates	Maintenance Optional	Not Configured		...
Tax Automation Migration Perform Migration of Tax Automation Data	Maintenance Optional	Completed	ats_admin1 2/6/18 9:36 AM	...
CbCR Data Migration for Separate Approval Process Performs Migration of CbCR Historical Data to newly created CbCR Scenario(s)	Maintenance Optional	Not Configured		...
CbCR Automation CbCR Automation	Maintenance Optional	Not Configured	epm_default_c... 12/14/18 2:24 PM	...

2. 「RTA 自動化」を選択します。

Scenario	Years	Entry	Return Year 1	Return Year 2	Return Year 3
Actual	FY17	San Jose			
United States	P1		FY15	FY16	
Alabama	P1		FY15	FY16	
US Blended	P1		FY15		

Entries

Search

Name

- FY16
- FY17
- FY18
- FY19
- FY20

3. **オプション:**  をクリックし、RTA 自動化が構成されている POV を変更して、「適用」をクリックします。
4. **転記期間** のドロップダウンで、管轄ごとに申告調整を転記する期間を選択します。
5. **申告年度 1、申告年度 2 および申告年度 3** のドロップダウンで、調整の控除元となる前の申告年度を選択します。たとえば、FY15 および FY15 から FY17 の P10 に申告調整を転記できます。
前の年度の申告調整は、同じターゲット引当年度に最大 3 つまで転記できます。
6. 「保存」をクリックします。
7. 「税引当(国)」から「データ・ステータス」を選択します。連結前は、転記期間および年のステータスは「影響」と表示されます。

8. RTA 自動化を変更したすべてのシナリオ、年、エンティティおよび期間を連結します。申告年度から RTA 調整を控除するため、転記期間および年を連結する必要があります。
9. 「税引当(国)」から「データ・ステータス」を選択します。連結後は、転記期間および年のステータスは「OK」と表示されます。
10. 次のフォームのいずれかを確認して、RTA 調整が(RTADO)申告額の未払処理調整(繰延のみ)列に正しく転記されたことを確認します。
 - 一時差異
 - 繰延税金

RTA 金額への前年度レートの適用

デフォルトでは、申告額の未払処理調整(RTA)の金額は、今年度の税率を使用して計算されます。RTA 金額に対して前年度の税率を使用する場合、増減ディメンションで「ApplyTaxReturnRate」という属性を設定できます。

ノート:

システムでは、期間 13 または P13 (RTA)で申告額の未払処理調整が処理されます。

RTA 計算に前年度レートを使用するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」、「概要」、「ディメンション」タブの順にクリックします。
2. 「ディメンション」で、「増減」を選択します。
3. 「FCCS_Movements」の下で「FCCS_ClosingBalance」を展開し、「TRCS_RTADO」(申告額の未払処理調整(繰延のみ))に移動します。

Member Name	Parent Member	Upper Level Entity Input	Default Alias Table	Tax Automation Source Movement	RT
Movement		No		<None>	<None>
FCCS_Movements	Movement	No	Total Movements	<None>	<None>
TRCS_BookClosing	FCCS_Movements	No	Book closing	<None>	<None>
TRCS_TBClosing	FCCS_Movements	No	Trial Balance Close	<None>	<None>
TRCS_CbCR Total	FCCS_Movements	No	Total	<None>	<None>
FCCS_No Movement	FCCS_Movements	No		<None>	<None>
FCCS_ClosingBalance	FCCS_Movements	No	Closing Balance	<None>	<None>
FCCS_TotalOpeningBalance	FCCS_ClosingBalance	No	Total Opening Balance	<None>	<None>
TRCS_Mvmts_Total	FCCS_ClosingBalance	No	Total Deferred Tax	<None>	<None>
TRCS_Mvmts_Subtotal	TRCS_Mvmts_Total	No	Deferred Tax Movements	<None>	<None>
TRCS_CYDTNRTotal	TRCS_Mvmts_Subtotal	No	Total Deferred Tax	<None>	<None>
TRCS_CY	TRCS_CYDTNRTotal	No	Current Year Total	<None>	<None>
TRCS_RTADO	TRCS_CYDTNRTotal	No	Return to Accrual	<None>	<None>
TRCS_AudiDO	TRCS_CYDTNRTotal	No	Audit Settlements	<None>	<None>
TRCS_OtherTotal	TRCS_CYDTNRTotal	No	Other Adjustments Total	<None>	<None>
TRCS_TransfersDO	TRCS_CYDTNRTotal	No	Transfers (Deferred Only)	<None>	<None>
TRCS_PYAdjDO	TRCS_CYDTNRTotal	No	Prior Year Adjustment	<None>	<None>

4. 「アクション」で「編集」を選択し、「属性値」タブを選択します。
5. 「使用可能な属性値」列で、「RTA Prior Year Rate」を展開し、**ApplyTaxReturnRate** を選択します。「追加」をクリックして、「割り当てられた属性値」列に移動します。
6. 「ディメンション」タブで、「データベースのリフレッシュ」アイコンをクリックします。

 ノート:

RTA 調整を転記するため、RTA 自動化ルールを設定する必要があります。[RTA 自動化ルールの定義](#)を参照してください。

RTA 分岐の操作

永久勘定科目または一時勘定科目が資本逆仕訳としてシステムで設定されている場合は、税金計算中にそれらが当期の税金費用の合計に常に含まれていました。この問題に対処するために、資本逆仕訳としてタグ付けされた永久勘定科目または一時勘定科目が当期の税金費用の合計から除外されるように、エンド・ユーザーが手動で調整する必要がありました。申告額の未払処理調整(RTA)分岐機能には、資本逆仕訳ターゲット勘定科目としてタグ付けされたすべての永久勘定科目および一時勘定科目からデータを自動的にプルする新しいメタデータが付属しています。このことは、「現在の引当金」フォームでのユーザーによる手動調整を回避するために役立ちます。

 Note:

以前に、アプリケーションの作成中または作成後に RTA 分岐が有効になるように手動調整を実行した場合は、確実にそれらを削除する必要があり、そのようにしないとデータが重複します。

詳細は、を参照してください: [RTA \(申告額の未払処理調整\)の操作](#)

RTA 分岐の有効化

この機能は、アプリケーションの作成中またはアプリケーションの作成後に有効にすることができます。

アプリケーションの作成中に RTA 分岐を有効にするには:

1. Tax Reporting Cloud Service アプリケーションを作成します。[アプリケーションの作成](#)を参照してください。
2. 「RTA 分岐」の横にある「有効化」チェック・ボックスを選択します。
3. 「アプリケーションの作成」画面を確認します。

Create Application: Review

< Back General Details Features **Review** Create

Currency USD Track Intercompany Elimination

Multicurrency Yes Reporting Standard

Multi-GAAP Reporting

RTA Bifurcate
RTA in the current provision is split between P&L and Equity/OCI

アプリケーションの作成後に RTA 分岐を有効にするには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」、「構成」の順にクリックします。
2. 「構成」画面で「機能を使用可能にする」をクリックします。
3. 「RTA 分岐」の横にあるチェック・ボックスを選択します。

Tax Reporting - Enable Features

IFRS

Deferred Tax Not Recognized (DTNR)

Consolidated Effective Tax Rate Reconciliation

Country by Country Reporting (CbCR)

Interim Tax Provision (Applications created prior to 18.08)

Interim Tax Provision

Total AEETR

Detailed AEETR (Current and Deferred)

Weighted Average

Dynamic Calc Jurisdiction

Ownership Management

Current Tax Payable Automation

NOL Automation

RTA Bifurcate

Enable Close

4. システムに、機能が有効化されたというメッセージが表示されたら、「OK」をクリックします。
5. ログオフしてから再度ログオンして、有効化された機能を確認します。

関連項目: [アプリケーションの機能の有効化](#)

RTA 分岐の使用

1. RTA 分岐機能を有効にせずに TRCS アプリケーションを作成します。[アプリケーションの作成](#)を参照してください。
2. 「アプリケーション」->「構成」->「機能を使用可能にする」に移動します。「RTA 分岐」を選択して、「有効化」をクリックします。[RTA 分岐の有効化](#)を参照してください。

次の新しいメタデータが作成されます:

TRCS_CurrentTaxExpenseRTATotal、
TRCS_CurrentTaxExpenseEquityRTAReversal、
TRCS_CurrentTaxExpenseRTATotal(Shared)、
TRCS_RCurrentTaxExpenseRTATotal、

TRCS_RCurrentTaxExpenseEquityRTAReversal および
TRCS_RCurrentTaxExpenseRTATotal(Shared)

 Note:

- 「現在の引当金(国)」で、追加の当期引当金の計算階層に新しい子メンバーがあります。追加の当期引当金の計算階層には、次のメンバーが表示されます:

- TRCS_CurrentTaxExpenseRTATotal
- TRCS_CurrentAddtlCalcRTA
- TRCS_CurrentTaxExpenseEquityRTAReversal。

TRCS_TaxAccounts	Tax accounts	Label only
TRCS_CurrentTaxExpense	Current Provision	Dynamic Calc
TRCS_CurrentTaxReturn	Current Tax Expense per Return	Dynamic Calc
TRCS_CurrentAddtlTotal	Total Additional Current Provision	Dynamic Calc
TRCS_CurrentAddtlSrcTotal	Additional Current Provision - Source	Dynamic Calc
TRCS_CurrentAddtlManualTotal	Additional Current Provision - Manual	Dynamic Calc
TRCS_CurrentAddtlCalcTotal	Additional Current Provision - Calculated	Dynamic Calc
TRCS_EquityReversalTotal	Equity Reversals for National	Dynamic Calc
TRCS_CurrentTaxExpenseRTATotal	Return-to-Accrual Current Tax Expense Total	Dynamic Calc
TRCS_CurrentAddtlCalcRTA	Return-to-Accrual Current Tax Expense	Store View
TRCS_CurrentTaxExpenseEquityRTAReversal	Return-to-Accrual Current Tax Expense Equity Reversal	Store View
TRCS_RCurrentTaxExpense	Regional Current Provision	Dynamic Calc
TRCS_NDefTaxTotal	Deferred Tax Total	Dynamic Calc
TRCS_RDefTaxTotal	Total Deferred Tax Regional	Dynamic Calc

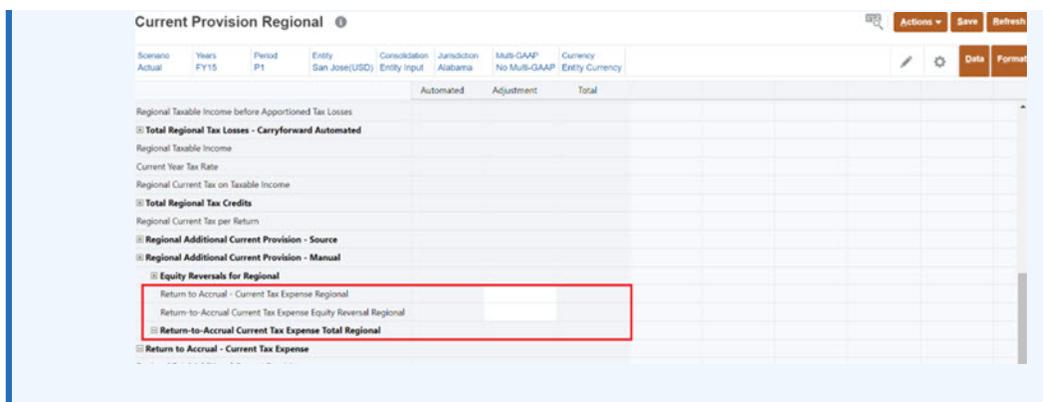
Current Provision

Scenario	Years	Period	Entity	Consolidation	Jurisdiction	Multi-GAAP	Currency
Actual	FY15	P1	San Jose(USD)	Entity Input	United States	No Multi-GAAP	Entity Currency
				Automated	Adjustment	Total	
Current Tax on Taxable Income							
Total Tax Credits							
Current Tax Expense per Return							
Additional Current Provision - Source							
Additional Current Provision - Manual							
Equity Reversals for National							
Return-to-Accrual Current Tax Expense							
Return-to-Accrual Current Tax Expense Equity Reversal							
Return-to-Accrual Current Tax Expense Total							
Additional Current Provision - Calculated							
Total Additional Current Provision							
Current Provision							

- 「現在の引当金(地域)」で、当期の税金費用(申告額の未払処理調整)の階層に新しい子メンバーがあります。当期の税金費用(申告額の未払処理調整)階層には、次のメンバーが表示されます:

- TRCS_RCurrentTaxExpenseRTATotal
- TRCS_RCurrentAddtlCalcRTA
- TRCS_RCurrentTaxExpenseEquityRTAReversal

TRCS_CurrentTaxExpense	Regional Current Provision	Dynamic Calc
TRCS_RCurrentTaxReturn	Regional Current Tax per Return	Dynamic Calc
TRCS_RCurrentAddtlTotal	Regional Total Additional Current Provision	Dynamic Calc
TRCS_RCurrentAddtlSrcTotal	Regional Additional Current Provision - Source	Dynamic Calc
TRCS_RCurrentAddtlManualTotal	Regional Additional Current Provision - Manual	Dynamic Calc
TRCS_RCurrentAddtlCalcTotal	Return to Accrual - Current Tax Expense	Dynamic Calc
TRCS_RegEquityReversalTotal	Equity Reversals for Regional	Dynamic Calc
TRCS_RCurrentTaxExpenseRTATotal	Return-to-Accrual Current Tax Expense Total Regional	Dynamic Calc
TRCS_RCurrentAddtlCalcRTA	Return to Accrual - Current Tax Expense Regional	Store View
TRCS_RCurrentTaxExpenseEquityRTAReversal	Return-to-Accrual Current Tax Expense Equity Reversal ...	Store View
TRCS_NDefTaxTotal	Deferred Tax Total	Dynamic Calc
TRCS_RDefTaxTotal	Total Deferred Tax Regional	Dynamic Calc
TRCS_InterimTaxTotal	Interim Provision	Dynamic Calc
TRCS_TaxSettings	Tax Settings	Label only
TRCS_SupplementalSchAccounts	Supplemental Schedule Accounts	Label only
TRCS_OtherTaxAccounts	Other Tax Accounts	Label only



ビデオを視聴し、Tax Reporting についてさらに学習します: [概要: Tax Reporting](#) でのメタデータの処理

Table 23-2 RTA 分岐の使用

アクション	結果
<ul style="list-style-type: none"> ディメンション・エディタに移動し、勘定科目 TempStockComp を検索して、属性 TRCS_CurrentAddtlCalcStockCompRTA を添付します ディメンションの表示および編集を参照してください 「データベースのリフレッシュ」を実行します。 「税率」フォームに移動して、「実績」の FY16 P12、P13、FLE201、CA および「実績」の FY17 P1、FLE201、CA に 20%の税率を入力します。 同様に、「実績」の FY16 P12、P13、FLE201、CA_Blended および「実績」の FY17 P1、FLE201、CA_Blended に 30%の税率を入力します。 転記期間 P1 と転記年 FY17 で RTA 自動化を設定します。 「現在の引当金」に移動して、NIBT 全体で 10,000、「実績」の FY16 P12 の株式報酬に対して 5000 を入力します。 同様に、「実績」の FY16 P13 を選択して、値 50000 を使用して NIBT で調整します。「実績」の FY16 P13 で連結を実行します。 	<ul style="list-style-type: none"> 「RTA」フォームに移動します。株式報酬での RTA 差異は-5000 です。(P13- P12) 申告上の当期の税金費用は 7000 です
<ul style="list-style-type: none"> 「現在の引当金」フォームに移動します 当期の税金費用(申告額の未払処理調整)の合計を展開します 	<p>次の点に注意してください:</p> <ul style="list-style-type: none"> 当期の税金費用(申告額の未払処理調整)の資本逆仕訳値は $1000(5000*0.2)$ 当期の税金費用(申告額の未払処理調整)は 7000 当期の税金費用(申告額の未払処理調整)の合計は 8000
「ETR」フォームに移動します。	当期の税金費用(申告額の未払処理調整)の合計は 8000 です

Table 23-2 (Cont.) RTA 分岐の使用

アクション	結果
「TAR」フォームに移動します。	自動合計に、-7000 の未払法人税と-1000 の資本逆仕訳が表示されます
<ul style="list-style-type: none"> 「現在の引当金」フォームに移動します 当期の税金費用(申告額の未払処理調整)の合計を展開します。 	次の点に注意してください: <ul style="list-style-type: none"> 当期の税金費用(申告額の未払処理調整)の資本逆仕訳値は $1000(5000 \times 0.2)$ 当期の税金費用(申告額の未払処理調整)は 7000 当期の税金費用(申告額の未払処理調整)の合計は 8000
「ETR (地域)」フォームに移動します。	当期の税金費用(申告額の未払処理調整)の合計は 12000 です
「TAR (地域)」フォームに移動します。	自動合計では、未払法人税は-10500 で、資本逆仕訳は-1500 です

ここで、永久勘定科目に対して同じステップを実行します:

1. ディメンション・エディタに移動し、永久勘定科目(PermEquity)を検索します。

The screenshot shows the Oracle Dimensions interface. The top part displays a tree view of dimensions, with 'PermEquity' selected. The bottom part shows the 'Edit Member' dialog for 'PermST0003', where the 'Attribute Values' tab is active. The 'Available Attribute Values' list includes 'Tax Type', 'Tax Data Type', 'FBOS', 'Consolidated ETR', 'Rate change to equity', 'TAR Book Account National', 'TAR Book Account Regional', 'Is Switch Sign', 'CBCR', 'Classifications', 'TAR Account Classification', 'Override FX Translation Method', 'Intercompany Account', 'Is Plug Account', 'Plug Account', 'Equity Reversal Target Account', 'Equity Reversal Target Account Regional', 'FX Rates - Global Account Rate Override', and 'NIBT FX Override Account'. The 'Assigned Attribute Value' table shows 'Equity Reversal Target Account' assigned to 'PermEquity' and 'Equity Reversal Target Account Regional' assigned to 'PermEquityRegional'.

2. 属性 Tax および National を添付します。
3. TRCS_CurrentAddtlMTotal の下でこのメンバーを共有します。
4. 任意の永久勘定科目を編集して、属性 PermEquity を添付して、「データベースのリフレッシュ」を実行します。
5. 「実績」では、FY16 P12 で、控除に対していくつかのデータが入力されています (3000 など)。
6. 「実績」の FY16 P13 および「実績」の FY17 P1 に対して連結を実行します。
7. 「現在の引当金(国)」に移動します。

8. 当期の税金費用の値が、税金の影響を受ける永久勘定科目および一時勘定科目の合計になるようにします。当期の税金費用(申告額の未払処理調整)の資本逆仕訳値は $1000(5000 \times 0.2) + 600(3000 \times 0.2) = 1600$ です



Note:

地域の個別の勘定科目を作成して、同じステップを実行できます。

ユース・ケース例

次の例では、資本逆仕訳ターゲット勘定科目として(株式報酬)を設定しました。

Name	Alias (Default)	Data Storage	Custom AI
TRCS_TaxableIncomeBeforeLossWSpdDeducts	Taxable Income B...	Dynamic Calc	
TRCS_TaxableIncomeBeforeLoss	Taxable Income B...	Dynamic Calc	
TRCS_NIBT15	Local Statutory Ra...	Dynamic Calc	
TRCS_PermSTTotal	Permanent Differ...	Dynamic Calc	
TRCS_TempSTTotal	Total Temporary D...	Dynamic Calc	
TempST0001	Total PPE	Dynamic Calc	View
TempST0002	ARO	Store	View
TempST0003	Finance Cost	Store	View
TempStockComp	Stock Compensation	Store	View
TempST0005	Equity/OCI	Store	View
TempST0006	Intangible	Store	View
TempST0007	FAPI	Store	View
TempST0008	Pension	Store	View
TempST0009	Temp ST1	Store	View
TempST0010	Temp ST2	Store	View
TRCS_DeductIncTaxTotal	Deductible Income...	Dynamic Calc	
TRCS_TaxSpecialDeductionsTotal	Special Deduction...	Dynamic Calc	
TRCS_TaxLossesPSTotal	Total National Tax...	Dynamic Calc	
TRCS_TotalTaxCredits	Total Tax Credits	Dynamic Calc	
TRCS_TotalAddItaxWithReturn	Total Additional Ta...	Dynamic Calc	
TRCS_CurrentAddItaxTotal	Total Additional Cu...	Dynamic Calc	

国と地域の両方に資本逆仕訳タイプが設定されているため、この一時勘定科目は両方に対し有効です。

Attribute	Assigned Attribute Value
Tax Type	National/Regional
Tax Data Type	PreTax
Equity Reversal Ta...	TRCS_CurrentAddItaxCalcStockCompRTA
Equity Reversal Ta...	TRCS_RCurrenAddItaxCalcStockCompRTA

株式報酬は一時勘定科目です。

- 「実績」の FY16 P12 には、次の値があります:
 - 税引前純利益(NIBT)、「調整」列には 10,000 が表示されます
 - 株式報酬: 5000
- 「実績」の FY16 P13 (RTA)には、次の値があります:
 - 税引前純利益(NIBT)、RTA 調整: 50,000
 - 税引前純利益(NIBT)、RTA 差異(RTA(P13) – P12): 40,000

	P12			RTA			RTA Differences
	Automated	Adjustment	Total	Automated	Adjustment	Total	
Net Income Before Tax			10000			50000	40000
Permanent Differences (GAAP to Stat)							
Total Temporary Differences (GAAP to Stat)							
Local Statutory Net Income Before Tax			10000			50000	40000
Permanent Differences (Stat to Tax)							
Total Temporary Differences (Stat to Tax)			5000				-5000
Deductible Income tax							
Taxable Income Before Loss			15000			50000	35000
Total National Tax Losses - Carryforward Automated							

当期の税金費用の計算中には、株式報酬(値: 5000)も含まれます(つまり、 $40000-5000=35000$)。

Stock Compensation			5000	5000			-5000
Equity/OCI							
Intangible							
FAP1							
Pension							
Temp ST1							
Temp ST2							
Total Temporary Differences (Stat to Tax)			5000	5000			-5000

次のスクリーンショットの次の値に注意してください:

- 課税所得、RTA 差異 = RTA (P13) – P12: $40000-5000=35000$
- 課税所得に対する現在の税金、RTA 差異: $35000*20$ (今年度の税率)/100=7000

	P12			RTA			RTA Differences
	Automated	Adjustment	Total	Automated	Adjustment	Total	
Total National Tax Losses - Carryforward Automated							
Special Deductions Total							
Taxable Income			15000			50000	35000
Current Year Tax Rate		20%	20%	20%	20%	20%	0%
Current Tax on Taxable Income			3000			10000	7000
Total Tax Credits							
Current Tax Expense per Return			3000			10000	7000

ここで、次のスクリーンショットに示されているように、1000 ($5000*20/100$)を手動で調整する必要があることを考慮します。

Scenario	Years	Period	Entity	Consolidation	Jurisdiction	Multi-GAAP	Currency			
Actual	FY17	P1	San Jose(USD)	Entity Input	United States	Local GAAP	Entity Currency			
								Automated	Adjustment	Total
Current Year Tax Rate								20%	20%	20%
Current Tax on Taxable Income										
Total Tax Credits										
Current Tax Expense per Return										
Additional Current Provision - Source										
Additional Current Provision - Manual										
Return-to-Accrual Current Tax Expense								7000	1000	8000
Equity Reversals for National										
Additional Current Provision - Calculated								7000	1000	8000
Total Additional Current Provision								7000	1000	8000

RTA 分岐を有効にした場合は、値が自動的にプルされるため、調整する必要はありません。

Scenario	Years	Period	Entity	Consolidation	Jurisdiction	Multi-GAAP	Currency			
Actual	FY17	P1	San Jose(USD)	Entity Input	United States	Local GAAP	Entity Currency			
								Automated	Adjustment	Total
Current Tax on Taxable Income										
Total Tax Credits										
Current Tax Expense per Return										
Additional Current Provision - Source										
Additional Current Provision - Manual										
Return-to-Accrual Current Tax Expense								7000		7000
Return-to-Accrual Current Tax Expense Equity Reversal								1000		1000
Return-to-Accrual Current Tax Expense Total								8000		8000
Equity Reversals for National										
Additional Current Provision - Calculated								8000		8000
Total Additional Current Provision								8000		8000
Current Provision								8000		8000

CbCR 自動化の使用

関連トピック

- [CbCR 自動化の設定](#)
- [CbCR 自動化のルールの追加](#)

CbCR 自動化の設定

Consol キューブは引当の報告に使用され、CbCR キューブは CbCR レポート用のデータの収集およびまとめに使用され、そのデータは Consol キューブから抽出されます。

データが 2 つの異なるキューブ内にあるため、Consol キューブに対する変更を CbCR キューブに転送する必要があります。CbCR 自動化を設定して、Consol キューブと CbCR キューブ間でのデータ移動を自動化する必要があります。Consol キューブにデータを入力したり、ディメンションまたはメンバーを変更した場合、連結が実行され、データベースがリフレッシュされると、適切なソース POV および選択したターゲット勘定科目の CbCR キューブに変更が自動的に反映されます。結果は、CbCR 表 1 データ入力レポートで更新されます。「データ・ステータス CbCR」フォームの「計算ステータス」を確認して更新を検証できます。

ノート:

CbCR 自動化は、CbCR レポートがアプリケーションの初期作成時に有効化されたか、後で有効化された場合にのみ使用できます。

CbCR 自動化をマップするには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**構成**」をクリックして、「**CbCR 自動化**」を選択します。

Configure: Tax Reporting

Filter: All Types All Statuses

Name	Type	Status	Executed	Action
Tax Automation Manage Rules	Maintenance Optional	Not Configured		...
Tax Automation Regional Manage regional rules	Maintenance Optional	Not Configured	ats_admin1 10/19/18 4:04 PM	...
RTA Automation Post Adjustment	Maintenance Optional	Not Configured	ats_admin1 7/25/17 12:20 PM	...
Exchange Rates Manage Rates	Maintenance Optional	Not Configured	epm_default_c-- 12/18/18 10:22 AM	...
Tax Rates Manage Rates	Maintenance Optional	Not Configured	ats_admin1 10/30/18 1:44 PM	...
Rollover Perform Periodic Rollover	Maintenance Optional	Not Configured	ats_admin1 12/7/18 12:34 PM	...
Consolidated Tax Rates Manage Rates	Maintenance Optional	Not Configured		...
Tax Automation Migration Perform Migration of Tax Automation Data	Maintenance Optional	Completed	ats_admin1 2/6/18 9:36 AM	...
CbCR Data Migration for Separate Approval Process Performs Migration of CbCR Historical Data to newly created CbCR Scenario(s)	Maintenance Optional	Not Configured		...
CbCR Automation CbCR Automation	Maintenance Optional	Not Configured	epm_default_c-- 12/14/18 2:24 PM	...

2. 「CbCR 自動化」で、「アクション」、「CbCR 自動化」、すべての勘定科目の表示の順に選択します。画面に移入されます。

CbCR Automation

Scenario Actual Years FY15 Period P1

	Disabled	Logic	Percentage	Source Cube	Source Account	Source ICP	Source Data Source	Source Movement
Revenue Related Parties - Entry	Enabled	Pull	100%	Consol	10105		FCCS_TotalInputAndAdjusted Data Input	
Revenue Unrelated Parties - Entry	Enabled	Pull	100%	Consol				
Profit (Loss) Before Income Tax - Entry	Enabled	Pull		Consol				
National Income Tax Paid (on cash basis)	Enabled	Pull		Consol				
Regional Income Tax Paid (on cash basis)	Enabled	Pull		Consol				
National Income Tax Accrued (Current Year)	Enabled	Pull		Consol				
Regional Income Tax Accrued (Current Year)	Enabled	Pull		Consol				
Stated Capital - Entry	Enabled	Pull		Consol				
Accumulated Earnings - Entry	Enabled	Pull		Consol				
Number of Employees - Entry	Enabled	Pull		Consol				
Tangible Assets, Net - Entry	Enabled	Pull		Consol				

3. 次のように、ソース・キューブ(Consol または CbCR)と CbCR キューブのターゲット勘定科目間にマッピングを作成します。
- 「ルール」では、グローバル・ルールのみサポートされます。必要に応じて別のグローバル・ルールを追加できます。
 - 「無効」列で、「有効」を選択します。

 ノート:

ルールが有効になると、そのルールはターゲット勘定科目に対して実行されます。ルールは、必要に応じて使用するために無効化または再有効化できます。たとえば、特定の期間またはシナリオを対象にルールを無効化できます。無効化したルールは、ロールオーバー・プロセスの一部としてロールオーバーされます。無効化したルールは、実行する必要がある場合は有効化できます。たとえば、年度末にルールを無効化して、翌年有効化できます。

- 論理 - 「プル」オプションのみ使用できます
- パーセンテージ - 選択したパーセンテージ(-100%から 100%まで)を入力します。100%の値については、**1**を入力します。100%未満を入力するには、小数点付きで値を入力します(たとえば、**.75**と入力すると、**75%**が表示されます)。

- 「**ソース・キューブ**」は、「**Consol**」または「**CbCR**」です。「**Consol**」または「**CbCR**」を選択できます。ソース・キューブは、次の項目のソース元です。
 - ソース勘定科目
 - ソース ICP
 - ソース・データ・ソース
 - ソース増減
 - **ソース勘定科目** - 必要なソース勘定科目を選択します。
 - **オプション: ソース ICP** - ドロップダウン・リストから会社間オプションを選択します。
 - **会社間エンティティ**
 - **会社間なし**

マッピングの作成時にこのフィールドを空白のままにすると、デフォルトで、連結時のオプションは「会社間なし」とみなされます。
 - **ソース・データ・ソース** - ドロップダウン・リストから必要なデータ・ソース勘定科目を選択します。ソース・データ・ソースが指定されない場合、デフォルト値は次のようになります。
 - 税金勘定科目の場合 - ソース・データ・ソース - TRCS_Tax
 - 税金勘定科目以外の場合 - ソース・データ・ソース - TRCS_SourcePreTax
 - **オプション: ソース増減** - ドロップダウン・リストから増減を選択します。
 - 調整
 - 自動
 - 決算
 - 期末帳簿基準 vs 税務基準
 - 合計
 - 試算表のクローズ

ソース増減が指定されない場合、デフォルト値は次のようになります。

 - 税金勘定科目の場合 - ソース増減 - TRCS_CY
 - 税金勘定科目以外の場合 - ソース増減 - TRCS_TBClosing
4. 「**保存**」をクリックします。検証エラーがある場合、関係するフィールドが赤色で表示されます。エラーを修正してから「**保存**」をクリックします。

 ノート:

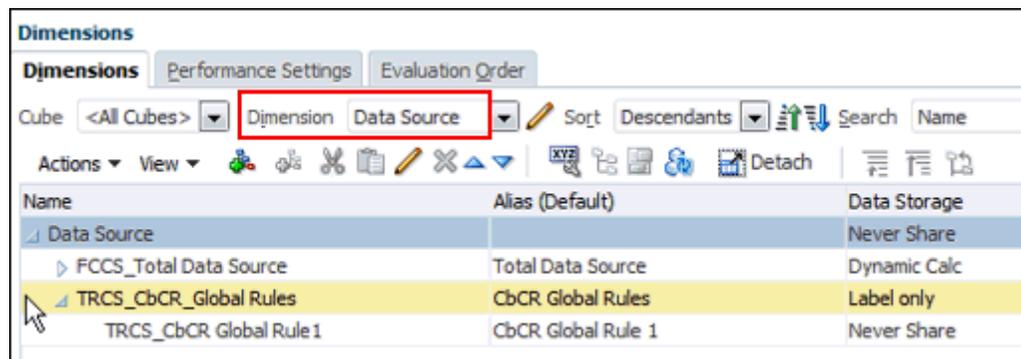
CbCR キューブ内のエンティティのデータ・ステータスは、次の場合に影響を受けます:

- CbCR キューブ内のそれらのエンティティに対してデータが存在し、ソース・キューブを **CbCR** として自動化ルールが存在する
- Consol キューブ内のそれらのエンティティに対してデータが存在し、ソース・キューブを **Consol** として自動化ルールが存在する

5. 「アクション」で、「連結」を選択します。
6. ホーム・ページで「CbCR」、「データの入力」、「表 1」タブ、「表 1 のデータ入力」の順にクリックします。ソース勘定科目の値が表示されます。
7. 「アクション」で、「CbCR の連結」を選択します。結果は、「表 1 のデータ入力」の「自動」セクションのマップ済データ行に表示されます。結果を調査して、マップ済勘定科目からデータがプルされていることを確認します。CbCR 自動化ルールは、CbCR 連結の一環として実行されます。
8. 連結が完了したら、ホーム・ページで「CbCR」をクリックし、「データ・ステータス」をクリックします。
9. 「計算ステータス」で、連結期間のデータ・ステータスが「OK」であることを確認します。CbCR 自動化ルールが Consol キューブのソース・データに設定されている場合、引当(Consol キューブ)を連結すると、連結 POV で CbCR データ・ステータスが「影響」に変更されます。

CbCR 自動化のルールを追加

データ・ソース・ディメンションは、CbCR 自動化ルールを格納するメンバーの作成に使用されます。グローバル・ルールは、アプリケーションの作成時に生成され、ナビゲータの「ディメンション」の下での TRCS_CbCR_Global Rules 階層の下にあるデータ・ソース・ディメンションに格納されます。



Name	Alias (Default)	Data Storage
Data Source		Never Share
FCCS_Total Data Source	Total Data Source	Dynamic Calc
TRCS_CbCR_Global Rules	CbCR Global Rules	Label only
TRCS_CbCR Global Rule 1	CbCR Global Rule 1	Never Share

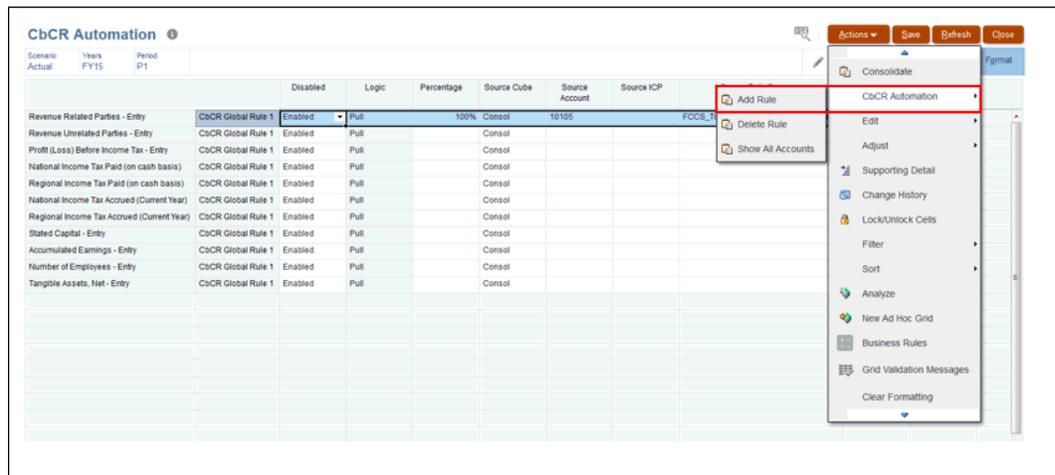
必要に応じて別の CbCR 自動化ルールを追加できます。新しいルール・メンバーは、関連する「CbCR 自動化」フォームにロードする前に、データ・ソース・ディメンションの下に作成する必要があります。作成可能な追加のルール・メンバーの数に制限はありません。

 ノート:

ルールは、階層内での場所の順に実行されます。

新規ルールを作成するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「構成」をクリックして、「CbCR 自動化」を選択します。
2. コピーする CbCR 自動化ルールを含む行を強調表示し、「アクション」をクリックして「CbCR 自動化」を選択し、「ルールの追加」をクリックします。



3. 追加したルールで、新しいルールを編集し、「保存」をクリックします。
4. ホーム・ページで「CbCR」をクリックし、「データ・ステータス」をクリックします。「計算ステータス」で、選択した期間の結果を確認します。
5. 「アクション」で、「連結」を選択します。
6. 別のルールを追加するには、「データ・ソース・ディメンションへの CbCR 自動化ルールの追加」を参照してください

現在の未払税自動化(国と地域)の操作

関連トピック

- 現在の未払税自動化の有効化
- 現在の未払税自動化のマッピングの作成
- 「現在の未払税自動」フォームでの列の追加と削除
- 「現在の未払税詳細」フォームの管理

現在の未払税自動化の有効化

現在の未払税自動化は、次の2つの方法で有効にできます:

1. アプリケーションの作成中に「現在の未払税自動化」の横にある「有効化」チェック・ボックスを選択します。

< Back General Details **3 Features** Review Next >

Tax Reporting Cloud provides reporting and analysis by selecting the accounting standard and methodology that you require. You can enable the IFRS reporting features to calculate and report on the tax provision using the balance sheet approach. You can enable Country by Country (CbC) reporting to capture Tables 1, 2 and 3 and calculate risk analytics in accordance with OECD requirements.

IFRS Enable IFRS to calculate Deferred Tax Not Recognized (DTNR), and report on the Consolidated Effective Tax Rate (CETR) in an IFRS format.	<input type="checkbox"/> Enable
CbCR Enable CbC Reporting to calculate analyses which assess risk as a result of transfer pricing strategies.	<input type="checkbox"/> Enable
Interim Provision Enable interim provision to calculate monthly or quarterly tax provision using an annualised estimated effective tax rate("AEETR") plus discrete tax amounts	<input type="checkbox"/> Enable
Weighted Average Enable weighted average to calculate the average foreign currency translation rate for the net income before tax for each base entity	<input type="checkbox"/> Enable
Ownership Management Enable Ownership Management to assign parent-child percentages, consolidation methods and account for changes overtime.	<input type="checkbox"/> Enable
Current Tax Payable Automation Enable Current Tax Payable Automation to automate the data flow from current provision to current tax payable	<input type="checkbox"/> Enable

2. アプリケーションを作成した後、「Tax Reporting – 機能を使用可能にする」画面に移動します。「現在の未払税自動化」を選択し、「有効化」をクリックします。

Tax Reporting - Enable Features [?] [Enable] [Close]

IFRS

Deferred Tax Not Recognized (DTNR)

Consolidated Effective Tax Rate Reconciliation

Country by Country Reporting (CbCR)

Interim Tax Provision (Applications created prior to 18.08)

Interim Tax Provision

Total AEETR

Detailed AEETR(Current and Deferred)

Weighted Average

Dynamic Calc Jurisdiction

Ownership Management

Current Tax Payable Automation

現在の未払税自動化のマッピングの作成

現在の未払税自動化のマッピングを作成するには:

1. 「構成」ウィンドウ(ホームページ -> 「アプリケーション」 -> 「構成」)に移動します。「現在の未払税自動化」機能を有効にすると、「現在の未払税自動化」という新しいエントリが表示されます。

Configure: Tax Reporting [?]

Filters: All Types [x] All Statuses [x] [Actions] [Enable Features]

Name	Type	Status	Executed	Action
Manage Rates	Optional	[x] Not Configured		...
Tax Rates	Maintenance	[x] Not Configured		...
Manage Rates	Optional	[x] Not Configured		...
Consolidated Tax Rates	Maintenance	[x] Not Configured		...
Manage Rates	Optional	[x] Not Configured		...
Rollover	Maintenance	[x] Not Configured		...
Perform Periodic Rollover	Optional	[x] Not Configured		...
Performance Settings	Maintenance	[x] Not Configured		...
Manage Performance Settings	Optional	[x] Not Configured		...
TAR Automation	Maintenance	[x] Not Configured		...
TAR Automation	Optional	[x] Not Configured		...
Copy Configuration	Maintenance	[x] Not Configured		...
Copy Data across Scenario, Year and Period(s)	Optional	[x] Not Configured		...
Opening Balance Override	Maintenance	[x] Not Configured		...
Opening Balance Override	Optional	[x] Not Configured		...
Clean Approval Unit Assignment	Approvals	[x] Not Configured		...
This task will clean the Approval Unit Assignment, if none of its used	Optional	[x] Not Configured		...
Current Tax Payable Automation	Maintenance	[x] Not Configured		...
Current Tax Payable Automation	Optional	[x] Not Configured		...

2. 「現在の未払税自動化」をクリックします。2つの新しいフォームが表示されます:
 - 現在の未払税自動化(国)
 - 現在の未払税自動化(地域)

Current Tax Payable Automation [?] [Actions] [Save] [Refresh] [Close]

Scenario: Actual | Years: FY15 | Period: F3 | Account Payable/Ret

	Source Account	Exclude Account	Switch Sign
CY P&L Charge Automated	CTP Rule1		
CY OCI / Equity Automated	CTP Rule1		
RTA (P&L) Automated	CTP Rule1		

 **Note:**

- TRCS_CURRENTPAYABLES および TRCS_RCURRENTPAYABLES の下に子メンバーを作成する必要があります。作成しないと、フォームは読取り専用となり、ユーザーはマッピングを作成できません。
- 現在の未払税自動化に TRCS_CURRENTPAYABLES および TRCS_RCURRENTPAYABLES の子メンバーを使用する場合は、構成キューブにも適用できるようにする必要があります。そのためには、TRCS_CURRENTPAYABLES および TRCS_RCURRENTPAYABLES の下に子メンバーを作成する際、**コンソール**と**構成**の両方のキューブを選択する必要があります。

3. 「現在の未払税自動化」をクリックし、現在の未払税自動化(国)のマッピングを作成します。ここで増減メンバー(CYPL 課税額自動、CY OCI/資本自動、RTA (P&L)自動)のいずれかに入力した値は、「現在の未払税自動」フォームの列(CYPL 課税額自動、CY OCI/資本自動および RTA (P&L)自動)にカスケードされます。[Tax Reporting の操作の現在の未払税自動および詳細フォームの管理](#)および[現在の未払税\(地域\)自動および詳細フォームの管理の自動化フォームへのアクセス](#)を参照してください。
4. 必要な値を入力します:
 - a. 「ソース勘定科目」を指定します。
 - b. 勘定科目の除外の値を指定します(たとえば、親勘定科目の子メンバーを除外する場合など)。
 - c. 支払か払戻かに応じて、「符号の切替え」に「はい」または「いいえ」を指定します

Scenario		Years	Period	Account	Source Account	Exclude Account	Switch Sign
Actual		FY15	P12	CurPayNational			
	CY P&L Charge Automated		CTP Rule1		PermGS0001,"F		yes
	CY OCI / Equity Automated		CTP Rule1		PermGS0002		no
	RTA (P&L) Automated		CTP Rule1		PermGS0003	"TempGS0001","F	yes

 **Note:**

メンバー名のみを入力でき、別名は入力できません。複数の名前を指定する必要がある場合は、カンマで区切り、二重引用符で囲む必要があります。

Table 25-1 現在の未払税自動化(国)のマッピングの作成

オプション	説明
マッピングを作成するための必須フィールド(*)	<ul style="list-style-type: none"> ソース勘定科目 符号の切替え(有効な値は「はい」または「いいえ」)
関数	関数をサポートする列はありません
複数の値	ユーザーは、「ソース勘定科目」および勘定科目を除外列にのみ、カンマで区切り、二重引用符で囲むことで、複数の値を入力できます。

5. 同様に、「現在の未払税自動化(地域)」フォームをクリックし、現在の未払税自動化(地域)のマッピングを作成します。

Current Tax Payable Automation Current Tax Payable Automation Regional							
Current Tax Payable Automation Regional ⓘ							
Scenario	Years	Period	Account				
Actual	FY15	P12	RCurPayRegional				
			Source Account	Exclude Account	Include Jurisdiction	Exclude Jurisdiction	Switch Sign
CY P&L Charge Automated		CTP Rule1					
CY OCI / Equity Automated		CTP Rule1					
RTA (P&L) Automated		CTP Rule1					

「ソース勘定科目」、勘定科目を除外および「符号の切替え」は、国の勘定科目に対して作成されるマッピングに似ていますが、管轄を含めるまたは管轄を除外列に対するものであることに注意してください。含めるまたは除外する管轄を指定していない場合、デフォルトでは、すべての地域の管轄(TRCS_AllRegional)が選択されます。管轄の詳細は、[管轄およびエンティティの構成](#)を参照してください。

Table 25-2 現在の未払税自動化(地域)のマッピングの作成

オプション	説明
マッピングを作成するための必須フィールド(*)	<ul style="list-style-type: none"> ソース勘定科目 符号の切替え(有効な値は「はい」または「いいえ」)
関数	<p>Lvl0Descendants 関数は、管轄を含めるおよび管轄を除外に対してサポートされています</p> <p>Example:1</p> <p>Lvl0Descendants("US_Regions") ** すべての管轄および個々の管轄に対して 1 つの現在の未払税をサポートします Example:2</p> <p>US_PA は、US_PA の個々の現在の未払税をサポートします。 Example:3</p> <p>US_CA (CTP_CA 勘定科目)</p> <p>Lvl0Descendants("US_Regions")、US_CA を除外(CTP_US 勘定科目(地域))</p>

Table 25-2 (Cont.) 現在の未払税自動化(地域)のマッピングの作成

オプション	説明
複数の値	ユーザーは、「ソース勘定科目」、勘定科目を除外、管轄を含めるおよび管轄を除外に複数の値を入力できます。複数の値をカンマで区切り、二重引用符で囲んでください。

 **Note:**

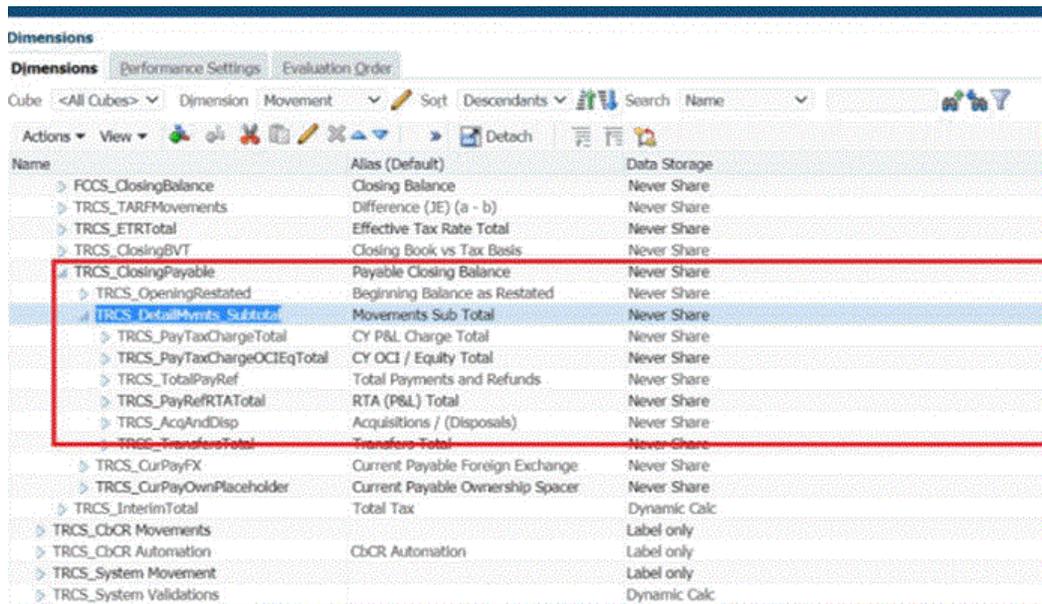
- 作成する現在の未払税自動化マッピングはすべて、構成キューブに保存されます。
- *Tax Reporting* の操作の次のトピックも参照してください:
 - [現在の未払税フォームの操作](#)
 - [現在の未払税\(地域\)フォームの操作](#)

「現在の未払税自動」フォームでの列の追加と削除

新しい増減メンバーを追加すると、「現在の未払税自動」フォームにそのメンバーが自動的に反映されます。

「現在の未払税自動」フォームの列を追加/削除するには:

1. 増減ディメンションの TRCS_DetailMvmts_Subtotal 階層の下に新しいメンバーを追加します。簡易ディメンション・エディタを使用したディメンションの操作も参照してください。



Name	Alias (Default)	Data Storage
> FOCSS_ClosingBalance	Closing Balance	Never Share
> TRCS_TARFMovements	Difference (JE) (a - b)	Never Share
> TRCS_ETRTotal	Effective Tax Rate Total	Never Share
> TRCS_ClosingBVT	Closing Book vs Tax Basis	Never Share
> TRCS_ClosingPayable	Payable Closing Balance	Never Share
> TRCS_OpeningRestated	Beginning Balance as Restated	Never Share
> TRCS_DetailMvmts_Subtotal	Movements Sub Total	Never Share
> TRCS_PayTaxChargeTotal	CY P&L Charge Total	Never Share
> TRCS_PayTaxChargeOCIEqTotal	CY OCI / Equity Total	Never Share
> TRCS_TotalPayRef	Total Payments and Refunds	Never Share
> TRCS_PayRefRTATotal	RTA (P&L) Total	Never Share
> TRCS_AcqAndDisp	Acquisitions / (Disposals)	Never Share
> TRCS_TransfersTotal	Transfers Total	Never Share
> TRCS_CurPayFX	Current Payable Foreign Exchange	Never Share
> TRCS_CurPayOwnPlaceholder	Current Payable Ownership Spacer	Never Share
> TRCS_InterimTotal	Total Tax	Dynamic Calc
> TRCS_CbCR Movements		Label only
> TRCS_CbCR Automation	CbCR Automation	Label only
> TRCS_System Movement		Label only
> TRCS_System Validations		Dynamic Calc

2. 次に示すように、新しい増減メンバーとその子が追加されます。

Dimensions

Dimensions Performance Settings Evaluation Order

Cube: <All Cubes> Dimension: Movement Sort Descendants Search: Name

Actions View Detach

Name	Alias (Default)	Data Storage
TRCS_ClosingBVT	Closing Book vs Tax Basis	Never Share
TRCS_ClosingPayable	Payable Closing Balance	Never Share
TRCS_OpeningRestated	Beginning Balance as Restated	Never Share
TRCS_DetailMvmts_Subtotal	Movements Sub Total	Never Share
Payable_Total	Payable Total	Never Share
Payable_Automated	Payable Automated	Never Share
Payable_Adjusted	Payable Adjusted	Never Share
TRCS_PayTaxChargeTotal	CY P&L Charge Total	Never Share
TRCS_PayTaxChargeOCIEqTotal	CY OCI / Equity Total	Never Share
TRCS_TotalPayRef	Total Payments and Refunds	Never Share
TRCS_PayRefRTATotal	RTA (P&L) Total	Never Share
TRCS_AcqAndDisp	Acquisitions / (Disposals)	Never Share
TRCS_TransfersTotal	Transfers Total	Never Share
TRCS_CurPayFX	Current Payable Foreign Exchange	Never Share
TRCS_CurPayOwnPlaceholder	Current Payable Ownership Spacer	Never Share
TRCS_InterimTotal	Total Tax	Dynamic Calc
TRCS_CbCR Movements		Label only
TRCS_CbCR Automation	CbCR Automation	Label only
TRCS_System Movement		Label only
TRCS_System Validations		Dynamic Calc

3. 次に示すように、新しく追加されたメンバーは、「現在の未払税自動」フォームに自動的に反映されることに注意してください。

TAR Current Tax Payable Current Tax Payable Automated Current Tax Payable Detail

Current Tax Payable Automated

Actions Save Refresh

Scenario	Years	Period	Entity	Consolidation	Jurisdiction	Multi-GAAP	Account	Currency				
Actual	FY15	P1	Total Geography(USD)	Entity Input	All National	No Multi-GAAP	Year	Entry Currency				
	Year Of Origination	Opening Balance	Opening Balance Adjustment	Beginning Balance as Restated	Payable Automated	Payable Adjusted	Payable Total	CY P&L Charge	CY P&L Charge Automated	CY P&L Charge Total	CY OCI / Equity	
Historic Year												
Current Year Minus 7												
Current Year Minus 6												
Current Year Minus 5												
Current Year Minus 4												
Current Year Minus 3												
Current Year Minus 2												
Current Year Minus 1												
Prior Years Total												
Current Year												
Current Payable Total												

Note:

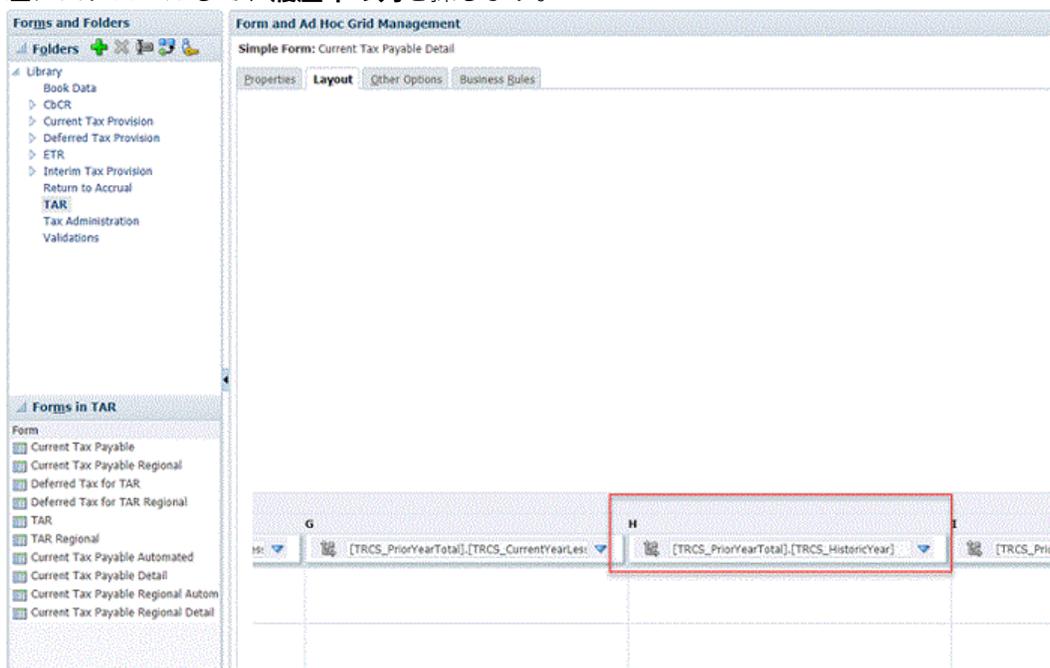
- 手順は、「現在の未払税(地域)自動」フォームの列を追加する場合と同じです。
- 不要な列を削除するには、増減ディメンションの TRCS_DetailMvmts_Subtotal 階層から列を削除します。

「現在の未払税詳細」フォームの管理

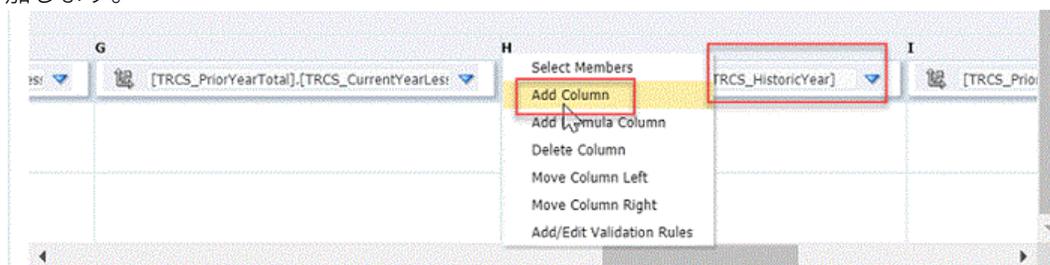
「現在の未払税詳細」フォームで列の順序を変更したり、列を追加する場合は、次のようにします:

1. 「ナビゲータ」に移動します。
2. 「フォーム」を選択します。
3. TAR に移動します。

4. 「現在の未払税詳細」(国の場合)および「現在の未払税(地域)詳細」(地域の場合)を選択します。
5. 「レイアウト」を選択します。
6. 左にスクロールして、**履歴年の列**を探します。



7. 右クリックして「列の追加」を選択し、新しく作成されたメンバーを履歴年の列の前に追加します。



 **Note:**

同様に、列を削除、編集または移動できます。機能は国と地域の両方のフォームで似ています。

TAR 自動化および TAR 自動化帳簿残高の操作

関連トピック

- [TAR 自動化および TAR 自動化帳簿残高レポートの構成](#)
- [一般会計の列のメタデータの作成](#)
- [TAR 支払および払戻増減メンバーに対するデータソースの設定](#)
- [デフォルト・マッピングの生成](#)
- [カスタム・マッピングの生成](#)
- [国内または国外としての TAR 勘定科目の分類](#)
- [TAR フォーム検証メンバー式の更新](#)
- [TAR 自動化ロールオーバーの生成](#)

TAR 自動化および TAR 自動化帳簿残高レポートの構成

TAR および TAR (地域)レポートに追加の列を必要としない場合は初期状態の TAR および TAR (地域)レポートを引き続き使用できます。一方で、一般会計の勘定科目構造が異なる一部の会社では、TAR および TAR (地域)レポートに追加の列を使用できます。Tax Reporting には、会社の一般会計の勘定体系を反映するようにレポートに列を追加できるカスタマイズされた税金勘定ロールフォワード(TAR)および TAR (地域)レポートを構成する機会があります。

新しい勘定科目を作成して列に一般会計の新しい勘定科目を生成すると、適切な国または地域のメンバーに増減がマップされます。TAR 自動化および TAR 自動化帳簿残高レポートの結果は、連結時に現在の引当金および TAR および TAR (地域)レポートに自動的にリンクされます。

カスタマイズ可能な TAR には、そのまま使用可能な TAR 列全体とデフォルトのデータ・マッピングが含まれています。TAR 自動化および TAR 自動化帳簿残高レポートをカスタマイズするには、次の手順を使用します:

- ディメンション・ライブラリを使用して、一般会計の列に適切なメタデータを追加します。
- デフォルトのマッピングを作成します。
- カスタム・マッピングを作成します。
- 税金期末残高の繰越メンバーのメンバー式を追加して、繰延税金の連続性が税金勘定科目ロールフォワードと一致していることを検証します。
- 勘定科目および管轄のカスタム属性を国内または国外に分類します。
- 必要に応じてロールオーバーを実行します。

一般会計の列のメタデータの作成

「TAR 自動化」および「TAR 自動化帳簿残高」フォームに追加する一般会計の新しい列ごとに、ディメンション・ライブラリの列のメタデータ勘定科目を追加し、当期費用および繰延費用のデータをその新しい列にマップする必要があります。支払および払戻を除き、TRCS_TARFAccounts 階層に新しいメンバーを作成する必要があります。

新しい費用メンバーは、FX 換算が正しく行われるように、当期費用または繰延費用の子として追加する必要があります。

TRCS_TARFAccounts	TAR Accounts
TRCS_TARFExpense	Total Provision
TRCS_TARFExpenseCurrentTotal	Current Expense Total
TRCS_TARFExpenseDeferredTotal	Deferred Expense Total

支払および払戻の増減メンバーの場合は、TAR (国)および TAR (地域)フォームを編集して、TRCS_TARF_Input ではなく TRS_TARF_Calc にデータ・ソース・メンバーを設定する必要があります。TAR 支払および払戻増減メンバーに対するデータソースの設定を参照してください。

一般会計の新しい列を追加するには:

1. ホーム・ページで「ナビゲータ」をクリックし、「ディメンション」をクリックします。
2. 「ディメンション」タブの「ディメンション」ドロップダウンから、「勘定科目」を選択します。
3. 勘定科目階層を展開し、TRCS_OtherTaxAccounts で TRCS_TARFAccounts を展開します。
4. 一般会計の新しい列を作成する勘定科目を選択します。
5. 「兄弟の追加」をクリックします。
6. 「ディメンション」ダイアログ・ボックスの「メンバーのプロパティ」タブで、次の必須フィールドを含め、新しいメンバーの詳細を完了します。
 - 「名前」に新しいメンバーの名前を入力します。たとえば、FinanceCostDetails のように入力します。
 - メンバーの別名を入力します。たとえば、Finance Cost のように入力します。
 - 「データ・ストレージ」で「共有しない」を選択します。この選択は必須です。

Dimensions
Add Sibling : Account : TRCS_TARFAccounts

Member Properties | Attribute Values | UDA | Member Formula

Name: FinanceCostDetails

Description:

Alias Table: Default

Alias: Finance Cost

Account Type: Asset

Variance Reporting: Non-Expense

Time Balance: Flow

Skip: None

Exchange Rate Type: No Rate

Source Cube: Consol

Data Storage: Never Share

Two Pass Calculation:

Allow Upper-Level Entity Input:

Consol: Addition

Plan Type: Rates: Addition

CbCR: Addition

Data Type: Currency

Smart Lists: <None>

Enable for Dynamic Children:

Number of Possible Dynamic Children: 10

Access Granted to Member Creator: Inherit

7. **オプション:** 必要に応じて勘定科目のメンバーをさらに追加します。

8. 「データベースのリフレッシュ」 をクリックします。新しい列が TAR および TAR (地域) レポートに追加されます。

9. ホーム・ページから:

- **TAR 自動化の場合:** 「アプリケーション」 → 「構成」 → 「TAR 自動化」 フォームを選択します。「TAR 自動化」フォームが開きます。新しい勘定科目が TAR レポートに表示されます。
- **TAR 帳簿残高の場合:** 「アプリケーション」 → 「構成」 → 「TAR 自動化」 フォームを選択します。「TAR 自動化」フォームが開きます。「TAR 自動化帳簿残高」タブを選択します。新しい勘定科目が TAR (地域) レポートに表示されます。

10. デフォルトのマッピングを生成します。

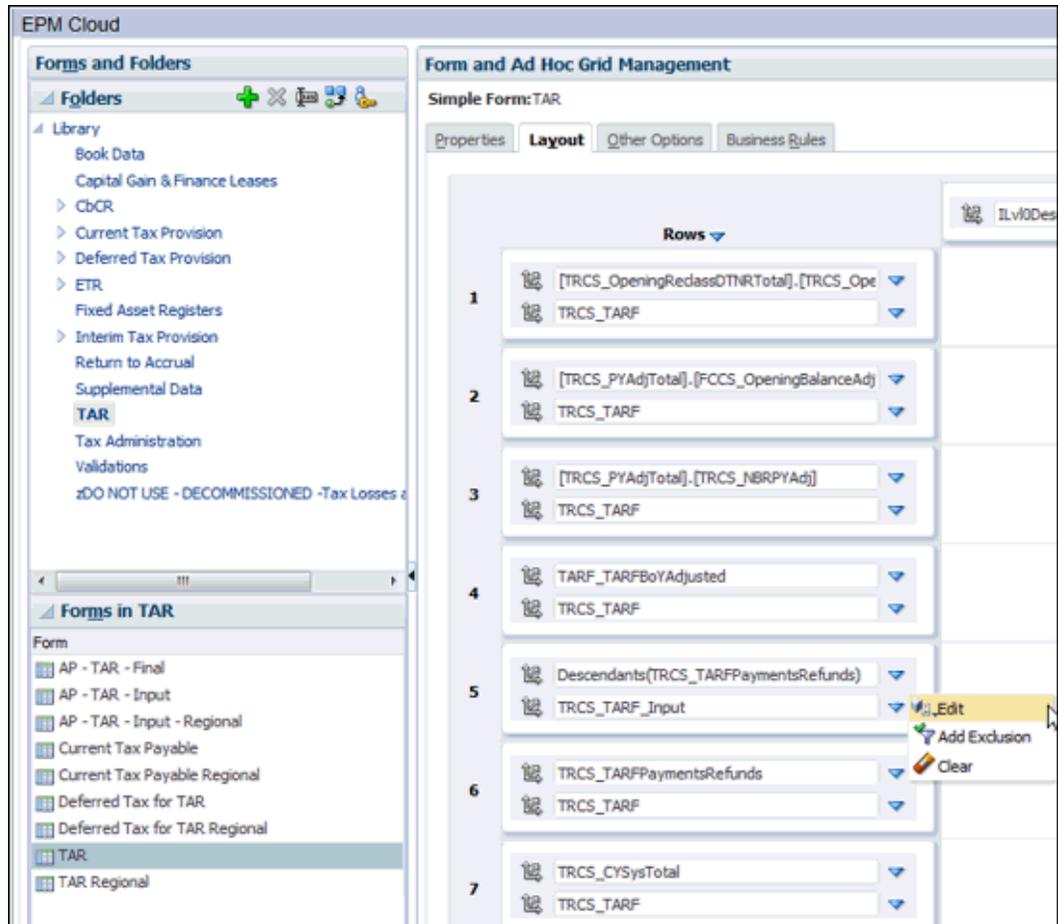
TAR 支払および払戻増減メンバーに対するデータソースの設定

TAR (国)および TAR (地域)フォームでは、支払および払戻の増減メンバーのデータソースが TRCS_TARF_Input に設定されています。「TAR 自動化」フォームでは、ターゲット・データソースが TRCS_TARF_Calc に設定されています。支払および払戻のデータがフォームに表示され、正しく計算されるようにするには、TAR (国)および TAR (地域)フォームを編集して、データソース・メンバーを TRCS_TARF_Input ではなく TRCS_TARF_Calc に設定する必要があります。

データは、連結後に TAR フォームの支払および払戻に正しく取得されます。

支払および払戻増減メンバーのデータソース・メンバーを編集するには:

1. ホーム・ページで「ナビゲータ」をクリックし、「作成および管理」で「フォーム」をクリックします。
2. 「フォームとフォルダ」で「ライブラリ」を展開し、「TAR」を選択します。
3. 「フォームとアド・ホック・グリッドの管理」で適切なフォームを選択します。
 - TAR (国)
 - TAR (地域)
4. 「編集」をクリックし、「レイアウト」タブを選択します。
5. 「属性ディメンション」で、Descendants(TRCS_TARFPaymentsRefunds)行のデータ・ソース・メンバーを TRCS_TARF_Input から TRCS_TARF_Calc に変更します。



6. 「保存」をクリックします。
7. 「アクション」、「連結」の順に選択します。
8. 「TAR」タブで、支払および払戻のデータが正しく表示されていることを確認します。

✎ ノート:

「現在の未払税」フォームから TAR フォームの支払/払戻をマップするには、支払および払戻の増減メンバーのデータ・ソースを変更する必要があります。

デフォルト・マッピングの生成

デフォルト・マッピングを生成するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」、「構成」の順にクリックします。
2. 「構成」画面で、「TAR 自動化」を選択します。

 ノート:

「TAR 自動化帳簿残高」で作業するには、「TAR 自動化」画面で「TAR 自動化帳簿残高」タブを選択する必要があります。[デフォルト・マッピングの生成](#)を参照してください

初めて表示したときには、UI は空です。

3. 「メンバーのラベルの表示形式」でディメンション・メンバーを表示するプリファレンスを設定します。[一般プリファレンスの設定](#)を参照してください。
4. 「TAR 自動化」または「TAR 自動化帳簿残高」フォームで、「POV」の「勘定科目」をクリックして「メンバー・セレクト」ダイアログ・ボックスを開き、必要な POV を選択します:
 - 「勘定科目」ディメンション - POV について複数の勘定科目を選択できます。

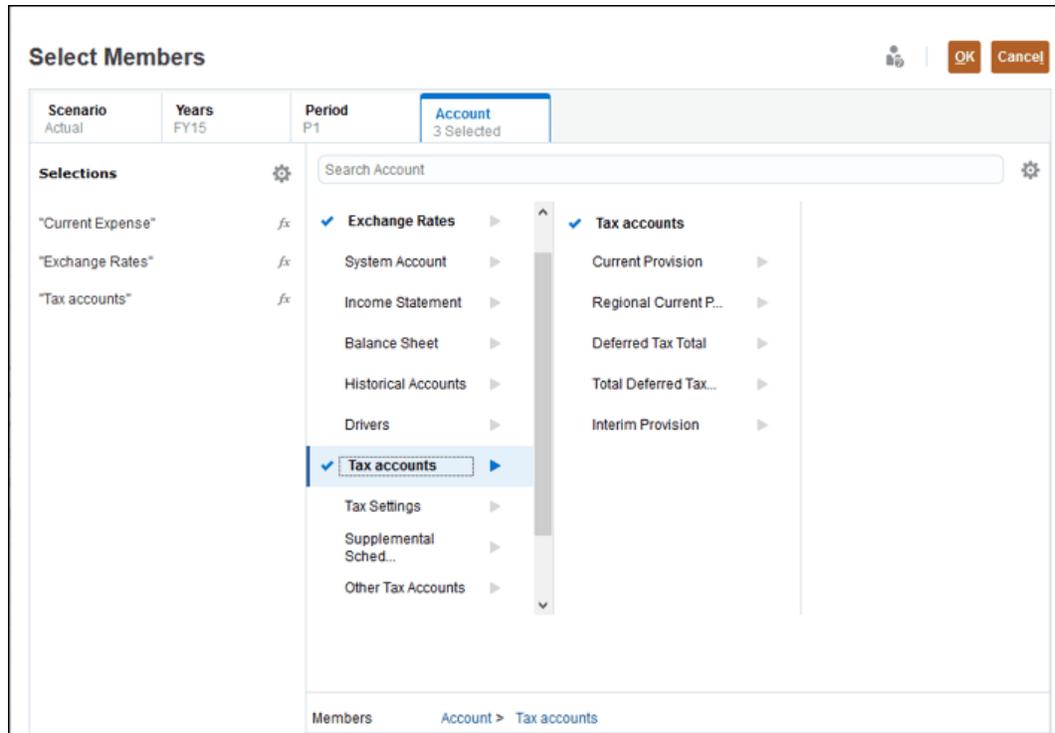
 ノート:

選択できる勘定科目の数に制限はありませんが、選択する勘定科目が多いほど、処理時間に対する影響が大きくなります。

- 「シナリオ」、「年」および「期間」ディメンション - それぞれについてメンバーを 1 つのみ選択できます。

POV の選択が検証され、次の条件ではエラーが表示されます:

- 選択したメンバーが TARF 勘定科目の子ではない場合
- 選択したメンバーが基本メンバーではない場合
- 選択したメンバーに関数が追加されている場合



5. 「TAR 自動化」フォームにデフォルト・マッピングを表示するには、「アクション」から「デフォルト・マッピングの生成 / オーバーライド」を選択します。

 ノート:

このオプションは TAR 自動化にのみ適用され、TAR 帳簿残高には適用されません。

デフォルト・マッピングには、メンバー名または別名について選択した形式が表示されません。デフォルト・マッピングは、次を対象として生成されます。

- 現在選択されている勘定科目のみでなく、レベル 0 の TARF 勘定科目すべてのデフォルト・マッピング。これには、時間がかかることがあります。
- 選択したシナリオ、年および期間の国と地域の両方

 ノート:

期末残高(帳簿上) (b)行は、「TAR 自動化」フォームでは読取り専用ですが、**管轄なし行**を使用して「TAR 自動化帳簿残高」から編集できます。

6. [カスタム・マッピングの生成](#)に進みます。

カスタム・マッピングの生成

「TAR 自動化」および「TAR 自動化帳簿残高」の UI を使用すると、追加した新しい勘定科目(つまり、列)に引当データをマップして、税に関する会社の総勘定元帳勘定科目構造を表すことができます。データをマップする際には、TARF 勘定科目(列)と増減(行)を定義してデータをマップする必要があります。

「TAR 自動化」および「TAR 自動化帳簿残高」の UI では、マッピング・プロセス中に複数の勘定科目を一度に表示できます。これにより、ユーザーは仕訳入力 of 両側をマップできます。たとえば、現在の税金費用と現在の未払税の詳細を同じ UI に表示できます。これは、引当からデータをマップするときに便利です。

適切なソース勘定科目(国または地域)を選択するには、少なくとも 1 つを選択する必要があります。選択したそれぞれの勘定科目について、右にスクロールして同じ列セットを確認します。

詳細勘定科目を追加するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」、**「構成」**の順にクリックします。
2. 「構成」画面で、**「TAR 自動化」**を選択します。

ノート:

「TAR 自動化帳簿残高」で作業するには、「TAR 自動化」画面で「TAR 自動化帳簿残高」タブを選択する必要があります。[デフォルト・マッピングの生成](#)を参照してください

初めて表示したときには、UI は空です。

3. 「TAR 自動化」UI 上の「POV」で、POV を選択します。
 - **「勘定科目」** ディメンション - POV について複数の勘定科目を選択できます。

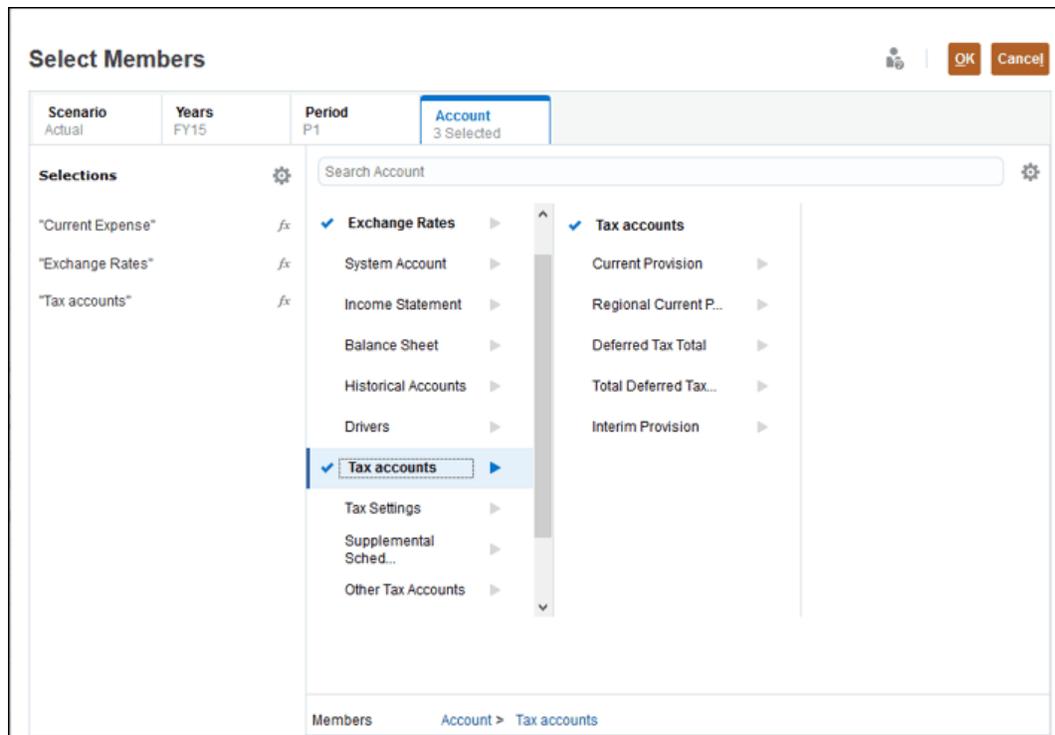
ノート:

選択できる勘定科目の数に制限はありませんが、選択する勘定科目が多いほど、処理時間に対する影響が大きくなります。

- **「シナリオ」**、**「年」** および **「期間」** ディメンション - それぞれについてメンバーを 1 つのみ選択できます。

POV の選択が検証され、次の条件が存在する場合はエラーが表示されます:

- 選択したメンバーが TARF 勘定科目の子ではない場合
- 選択したメンバーが基本メンバーではない場合
- 選択したメンバーに関数が追加されている場合



- それぞれの必須フィールドのセルをクリックしてメンバー・セレクタを開き、それぞれの列について適切なメンバーを選択します:

表 26-1 「TAR 自動化」 および 「TAR 自動化帳簿残高」 のフィールド

マッピング	列名	説明	必須
管轄なし	ソース勘定科目 (国)	国のソース勘定科目の各メンバーの名前を選択します。連結を実行するには、国のソース勘定科目を選択する必要があります。	Y
	除外勘定科目(国)	連結時に入力の貸借を一致させるために、TAR フォームの国の親勘定科目から除外する詳細勘定科目のメンバー名を選択します。	N
地域勘定科目	ソース勘定科目(地域)	地域のソース勘定科目の各メンバーの名前を選択します。連結を実行するには、地域のソース勘定科目を選択する必要があります。	Y
	除外勘定科目(地域)	連結時に入力の貸借を一致させるために、TAR フォームの地域の親勘定科目から除外する詳細勘定科目のメンバー名を選択します。	N
国/地域	データ・ソース	データ・ソースのメンバー名を選択します。	Y
国/地域	増減	増減ソースのメンバー名を選択します。	Y

表 26-1 (続き) 「TAR 自動化」 および 「TAR 自動化帳簿残高」 のフィールド

マッピング	列名	説明	必須
国/地域	会社間	会社間ソースのメンバー名を選択します。	N
<div style="border: 1px solid #0070C0; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p> ノート:</p> <p>これは TAR 帳簿残高にのみ適用され、TAR 自動化には適用されません。</p> </div>			
国/地域	符号の切替え	<p>当期引当のデータ・ソースの符号が正(+)の場合は、「符号の切替え」チェック・ボックスを選択してその符号を負(-)に切り替えて、貸借対照表の入力側を転記します。</p> <p>繰延税金ロールフォワードの当期引当からのデータ・ソースの符号が正(+)の場合は、「符号の切替え」チェック・ボックスの選択を解除してその符号を負(-)に切り替えて、繰延費用の入力側を転記します。</p>	<p>N</p> <p>デフォルト値は「いいえ」です。</p>

5. 「保存」をクリックします。選択したそれぞれの勘定科目について、右にスクロールして必須列を確認します。

セルが検証され、検証エラーがある行は次のように強調表示されます:

- 国のマッピングについては、ソース勘定科目(国)が選択されている場合、「データ・ソース」および「増減」が必須です。
- 地域のマッピングについては、ソース勘定科目(地域)が選択されている場合、「データ・ソース」および「増減」が必須です。

TAR 自動化のカスタム・マッピング

TAR 自動化帳簿残高のカスタム・マッピング

TAR Automation | TAR Automation Book Balance

TAR Automation Book Balance ⓘ

Scenario	Years	Period	Account	Current Expense						
Actual	FY21	F1	Current Expense	Source Account National	Exclude Account National	Source Account Regional	Exclude Account Regional	Data Source	Movement	Switch Sign
No Jurisdiction			90001					Source Pre Tax	Source Book Clo...	<input type="checkbox"/>
Alabama										<input type="checkbox"/>
US Blended										<input type="checkbox"/>
CA Blended						90003		Source Pre Tax	Source Book Clo...	<input type="checkbox"/>
Ontario										<input type="checkbox"/>

ノート:

ライブラリから「TAR 自動化」または「TAR 自動化帳簿残高」フォームを使用してカスタム・マッピングを生成する場合は、メンバー名のみサポートされません。

6. 「保存」をクリックします。
7. ホーム・ページで「税引当(国)」または「税引当(地域)」、「パッケージ」の順に選択し、「TAR」または「TAR (地域)」をクリックします。
8. 「アクション」で、「連結」を選択します。詳細な増減が表示されます。

国内または国外としての TAR 勘定科目の分類

新規に作成した TAR 勘定科目を国内または国外として計算されるように設定できます。国外と国内のエンティティを区別するために、勘定科目ディメンションおよび管轄ディメンションに次のカスタム属性が作成されます。

- TAR_Domestic
- TAR_Foreign

TRCS_TARF 勘定科目階層に新しいメンバーを作成する場合は、次のことに注意してください。

- 国内地域用に特別に計算する必要がある場合は、作成した勘定科目メンバーに TAR_Domestic UDA を添付する必要があります。
- いずれの属性も添付されていない場合、新規に作成されたメンバーは国内および国外の両方のエンティティに適用可能です。

エンティティの連結時に、所属管轄および分類(国内または国外)に基づいて、その TARF_Accounts の値のみが取得されます。たとえば、国内 POV を連結していて、TAR 勘定科目が国内として割り当てられていない場合は、連結した後、新しい勘定科目の値は TAR フォームに表示されません。

詳細勘定科目を国内または国外として分類するには:

1. ホーム・ページで「ナビゲータ」をクリックし、「ディメンション」をクリックします。
2. 「ディメンション」タブの「ディメンション」で、「管轄」を選択します。
3. 「TRCS_Total Jurisdiction」で、管轄階層を展開します。次の下に、使用可能な管轄が表示されます。
 - TRCS_No Jurisdiction (共有)
 - TRCS_AllNational

- TRCS_AllRegional
4. 管轄を国内として設定するには:
 - a. 選択した階層を展開し、管轄を選択して「編集」をクリックします。
 - b. 「メンバーの編集」画面で、「属性値」タブを選択します。
 - c. 「使用可能な属性値」で、TAR 管轄分類を展開します。
 - d. 「TAR_Domestic」を選択して「追加」をクリックし、国内属性を追加します。
 - e. 「データベースのリフレッシュ」をクリックします。

国内として明示的に設定されていないメンバーは、デフォルトで国外として取り扱われます。
 5. 「ディメンション」タブの「ディメンション」で、「勘定科目」を選択します。
 6. 「TRCS_OtherTaxAccounts」で、「TRCS_TARFAccounts」まで階層を展開し、新規に作成した勘定科目を選択します。
 7. 新規に作成した勘定科目を国内として設定するには:
 - a. 選択した階層を展開し、勘定科目を選択して「編集」をクリックします。
 - b. 「メンバーの編集」画面で、「属性値」タブを選択します。
 - c. 「使用可能な属性値」で、TAR 勘定科目分類を展開します。
 - d. 「TAR_Domestic」を選択して「追加」をクリックし、国内属性を追加します。
 - e. 「データベースのリフレッシュ」をクリックします。
 8. 「ディメンション」タブの「ディメンション」で、「エンティティ」を選択します。
 9. 「FCCS_Total Geography」階層を展開します。
 10. 「使用可能な属性値」で、TAR 管轄を展開します。
 11. オプション: 管轄を国内に設定するには、「TAR_Domestic」を選択します。
TAR_Domestic 属性が添付されていないメンバーは、自動的に国外として取り扱われます。TAR_Domestic 属性が添付されたメンバーがない場合は、国外および国内の両方とみなされます。

TAR フォーム検証メンバー式の更新

TAR レポートに列が追加された場合は、TAR フォームを更新してその列を追加する必要があります。期末残高(c)は期末残高(a)と一致する必要があります。

検証メンバー式を使用して TAR フォームを更新するには:

1. ホーム・ページで「ナビゲータ」アイコンをクリックし、「作成および管理」で「ディメンション」をクリックします。
2. 「ディメンション」タブの「ディメンション」で、「増減」ディメンションを選択します。
3. 「TRCS_System Validations」を展開して、「TRCS_TARValidations」を選択します。

Name	Alias (Default)	Data Storage	Custom Attributes
Movement		Label only	
> FCCS_Movements	Total Movements	Dynamic Calc	
> TRCS_CbCR Movements		Label only	
> TRCS_CbCR Automation	CbCR Automation	Label only	
> TRCS_System Movement		Label only	
> TRCS_System Validations		Label only	
> TRCS_TARValidations	TAR Validations	Dynamic Calc	
> TRCS_LossCreditValidations	Tax Loss/Credit Validations	Dynamic Calc	

4. この例に従って式を更新します。
例: TAR フォームでの「PensionNCA」列に対する繰延税金期末残高(c)の追加。

PensionNCA の場合の要件に基づいて ELSEIF 条件を作成します:

```
"ELSEIF (@ISMBR ("PensionNCA"))
<br>
"<Source Temp diff Account"->"FCCS_ClosingBalance"-
>"TRCS_NonCurrentAssets";"
```

完成した式:

```
@CALCMODE (BOTTOMUP);
IF (@ISMBR ("TRCS_TARF_Calc"))
IF (@ISIDESC ("TRCS_AllNational"))
IF (@ISMBR ("TRCS_TARFDeferredNonCurrentAssets") )
"TRCS_NDefTaxNetVA"->"FCCS_ClosingBalance"->"TRCS_NonCurrentAssets";
ELSEIF (@ISMBR ("PensionNCA"))
"Pension"->"FCCS_ClosingBalance"->"TRCS_NonCurrentAssets";
ELSEIF (@ISMBR ("TRCS_TARFDeferredNonCurrentLiabilities"))
"TRCS_NDefTaxNetVA"->"FCCS_ClosingBalance"->"TRCS_NonCurrentLiabilities";
ELSEIF (@ISMBR ("TRCS_TARFDeferredVANonCurrent"))
"TRCS_VATotal"->"FCCS_ClosingBalance"->"TRCS_Tax";
ENDIF
ELSEIF (@ISIDESC ("TRCS_AllRegional"))
IF (@ISMBR ("TRCS_TARFDeferredNonCurrentAssets") )
"TRCS_RDefTaxNetVA"->"FCCS_ClosingBalance"->"TRCS_NonCurrentAssets";
ELSEIF (@ISMBR ("TRCS_TARFDeferredNonCurrentLiabilities"))
"TRCS_RDefTaxNetVA"->"FCCS_ClosingBalance"->"TRCS_NonCurrentLiabilities";
ELSEIF (@ISMBR ("TRCS_TARFDeferredVANonCurrent"))
"[TRCS_RDefTaxNatTotal].[TRCS_RVATotal]"->"FCCS_ClosingBalance"->"TRCS_Tax";
ENDIF
ENDIF
```

- メンバー式を更新した後は、「**検証**」をクリックしてエラーがないことを確認します。
- 「**保存**」をクリックします。
- 「**アクション**」で、「**データベースのリフレッシュ**」を選択します。

 **ヒント:**

複数の検証条件を追加するとパフォーマンスが低下することに気づいた場合は、検証条件の数を制限することを検討してください。

TAR 自動化ロールオーバーの生成

レポートを次の期間にロールオーバーするには、TAR 自動化ロールオーバーを実行し、前年度の最後の期間から選択した POV にルールをコピーします。ロールオーバーは、POV で指定された勘定科目のみでなく、レベル 0 の TARF 勘定科目すべてに対して実行されます。

TAR 自動化ロールオーバーを生成するには:

- ホーム・ページで「**アプリケーション**」、「**構成**」の順にクリックします。
- 「**構成**」画面で、「**TAR 自動化**」を選択します。
- 「**TAR 自動化**」フォームで、ロールオーバー期間の POV を選択します。マッピングは表示されません。
- 「**構成**」画面で、「**ロールオーバー**」を選択します。
- 「**ロールオーバー**」画面で、**シナリオ**、**年**および**期間**を選択します。
- TAR 自動化ルール**を選択し、「**実行**」をクリックします。

Select Task	Name	Description	Scenario, Year and Period
<input type="checkbox"/>	Tax Rates	Copy tax rates to selected target POV	
<input type="checkbox"/>	Exchange rates	Copy exchange rates to selected target POV	
<input type="checkbox"/>	Tax automation rules	Copy tax automation rules to selected target POV	
<input type="checkbox"/>	Year Of Expiration in Tax Losses/Credits	Copy year of expiration to selected target POV	
<input checked="" type="checkbox"/>	TAR Automation rules	Copy TAR Automation rules to selected target POV	

 **ノート:**

これにより、TAR 自動化帳簿残高ルールもロールオーバーされます。

- 「**構成**」画面で、「**TAR 自動化**」を選択します。

8. 「アクション」で「TAR 自動化」、すべての増減の表示の順に選択します。
選択した POV に、前年度の最後の期間の値が表示されます。

期限切れの年別課税損失/税額控除の操作

課税損失/税額控除プロセスは、生成された年とそれに対応する期限切れの年を含め、課税損失/税額控除の詳細な構成を取得するよう設計されています。このプロセスは、現在の引当金および一時差異ロールフォワードと統合されています。生成される課税年度は、現在の年と過去 20 年間を含む行、および 21 年以上前に発生した損失/控除がある**履歴年**の 1 つのカテゴリで保守されます。

「期限切れの年別課税損失/税額控除」により、ユーザーは、期限切れの年別の課税損失/税額控除のスケジュールの期末繰越詳細を表示できます。*Tax Reporting* の操作の期限切れの年別課税損失/税額控除の管理に関する項も参照してください。

期限切れの年別課税損失/税額控除の有効化

機能を有効にするには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」、「**構成**」の順にクリックします。
2. 「**構成**」画面で「**機能を使用可能にする**」をクリックします。
3. 「**期限切れの年別課税損失/税額控除**」の「**有効化**」の横にあるチェック・ボックスを選択します。
4. システムに、機能が有効化されたというメッセージが表示されたら、「**OK**」をクリックします。
5. ログオフしてから再度ログオンして、有効化された機能を確認します。
関連項目: [アプリケーションの機能の有効化](#)

この機能を有効にすると、新しい期限切れフォームとともに、期限切れによる課税損失/税額控除フォームを起動するための「**アクション**」メニュー項目も作成されます。*Tax Reporting* の操作の課税損失/税額控除期限切れフォームへのアクセスに関する項も参照してください。

メタデータの設定

「期限切れの年別課税損失/税額控除」機能を有効にすると、データ・ソース・ディメンションに TRCS_TotalCarryForward 階層が作成されます。関連項目: [期限切れの年別課税損失/税額控除の有効化](#)

Name	Alias (Default)	Data Storage
Data Source		Never Share
FCGS_Total Data Source	Total Data Source	Dynamic Calc
TRCS_TotalCarryforward	Total Carryforward	Dynamic Calc
FY2015	2015	Store
FY2016	2016	Store
FY2017	2017	Store
FY2018	2018	Store
FY2019	2019	Store
FY2020	2020	Store
FY2021	2021	Store
FY2022	2022	Store
FY2023	2023	Store
FY2024	2024	Store
FY2025	2025	Store
FY2026	2026	Store
FY2027	2027	Store
FY2028	2028	Store
FY2029	2029	Store
FY2030	2030	Store
FY2031	2031	Store
FY2032	2032	Store
FY2033	2033	Store
FY2034	2034	Store
TRCS_NoExpiration	No Expiration	Store
TRCS_Uncategorized	Uncategorized	Store

TRCS_TotalCarryforward 階層には、TRCS_No Expiration、TRCS_Uncategorized、およびアプリケーションの開始年以降に作成された 20 個のメンバーがあります。たとえば、前述のスクリーンショットでは、開始年は 2015 であるため、FY2015 から FY2034 までのメンバーが表示されます。

この階層はロックされていないため、ユーザーは要件に従って新しいメンバーを作成できます(FY<yearName>のメンバー名で作成します)。

この機能を有効にすると、TRCS_CarryforwardExpYear (増減メンバー)が、属性 ApplyEndingRate とともに添付されます。

Edit Member : TRCS_CarryforwardExpYear

Member Properties		Attribute Values	JDA	Member Formula
Available Attribute Values				
>	Tax Automation Source Movement			
>	RTA Prior Year Rate			
>	Translation Type			
>	ApplyEndingRate			

Attribute	Assigned Attribute Value
Translation Type	ApplyEndingRate

純営業損失(NOL)/控除の操作

関連トピック:

- [純営業損失\(NOL\)/控除について学ぶ](#)
- [NOL/控除自動化の有効化](#)
- [「NOL 自動化」画面へのアクセス](#)
- [NOL 自動化列の操作](#)
- [NOL 自動化ルール管理](#)
- [NOL 自動化計算ルールについて学ぶ](#)

純営業損失(NOL)/控除について学ぶ

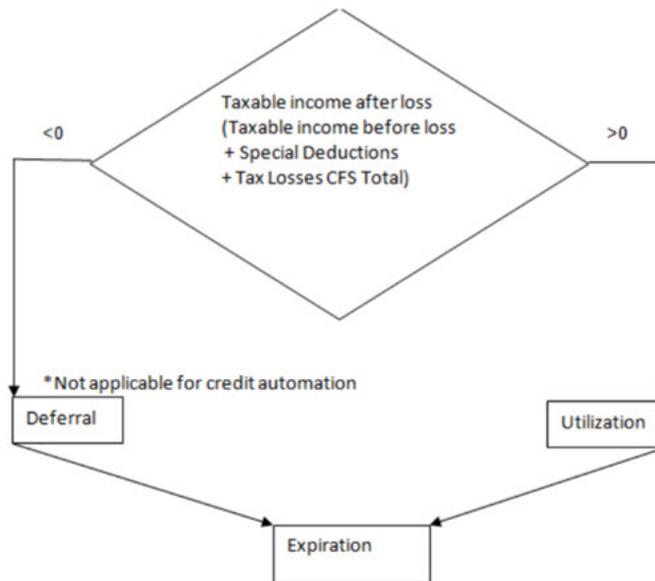
NOL 自動化は、現在の年の課税損失の繰延と、課税損失および税額控除の繰越の使用および失効のプロセスを自動化するルールを構成するために使用されます。

課税損失は、現在の期間の課税所得(TaxableIncomeAfterLoss)の合計が 0 を下回る場合に発生します。現在の期間に発生する課税損失は、将来の期間/年で使用できるように繰り延べることができます。

現在の期間の課税所得(TaxableIncomeAfterLoss)の合計が正の金額になる場合は、前年までに発生した課税損失を使用できます。繰延損失(以前の期間または年に発生した損失)は、現在の期間ですべてまたは一部を使用できます。

繰り越される損失には期限切れの年を割り当てることができます(何も入力されない場合、デフォルトでは期限切れは割り当てられません)。現在の年に失効する課税損失および税額控除は、自動的に消し込むことができます。

親の税金計算対応のエンティティで課税損失および税額控除が計上される場合にのみ、NOL 自動化で親の税金計算エンティティがサポートされます。



Note:

純営業損失自動化ルールは、国と地域の両方の税金計算に適用されます。

NOL/控除自動化の有効化

機能を有効にするには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」、「構成」の順にクリックします。
2. 「構成」画面で「機能を使用可能にする」をクリックします。
3. 「NOL 自動化」の「有効化」の横にあるチェック・ボックスを選択します。

Feature	Enabled
IFRS	<input checked="" type="checkbox"/>
Deferred Tax Not Recognized (DTNR)	<input checked="" type="checkbox"/>
Consolidated Effective Tax Rate Reconciliation	<input checked="" type="checkbox"/>
Country by Country Reporting (CbCR)	<input type="checkbox"/>
Interim Tax Provision (Applications created prior to 18.08)	<input type="checkbox"/>
Interim Tax Provision	<input type="checkbox"/>
Total AEETR	<input type="checkbox"/>
Detailed AEETR(Current and Deferred)	<input type="checkbox"/>
Weighted Average	<input type="checkbox"/>
Dynamic Calc Jurisdiction	<input type="checkbox"/>
Ownership Management	<input type="checkbox"/>
Current Tax Payable Automation	<input type="checkbox"/>
NOL Automation	<input checked="" type="checkbox"/>

4. システムに、機能が有効化されたというメッセージが表示されたら、「OK」をクリックします。
5. ログオフしてから再度ログオンして、有効化された機能を確認します。

 **Note:**

機能を有効にすると([アプリケーションの機能の有効化](#)を参照)、構成キューブが自動的に作成されます。NOL 自動化および現在の未払税は、アプリケーション内にまだ存在しない場合は構成キューブを作成する機能の有効化の一部です。[アプリケーションの「キューブ」](#)も参照してください。

機能を正常に有効にしたら、構成カードに移動し、NOL 自動化構成項目を使用して自動化ルールを定義します。[NOL 自動化ルールの定義](#)を参照してください。

「NOL 自動化」画面へのアクセス

「NOL 自動化」画面(国および地域)にアクセスするには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」。
2. 「**構成**」を選択します。
3. 「**NOL 自動化**」を選択します。「NOL 自動化」および「NOL 自動化地域」オプションが表示されます。
4. 「NOL 自動化」タブをクリックして、「NOL 自動化」(国)フォームを開きます。
5. 「NOL 自動化地域」をクリックして、「NOL 自動化」(地域)フォームを開きます。
6. NOL 自動化ルールを定義したら([NOL 自動化ルールの定義](#)を参照)、「**保存**」をクリックします。

 **Note:**

ルールを追加、削除またはコピーするには、「**アクション**」を選択して、必要なアクションを選択します。次を参照してください:

- [NOL 自動化ルールのコピー](#)
- [NOL 自動化ルールの削除](#)

NOL 自動化列の操作

Table 28-1 NOL 自動化列

列	パラメータ	説明
勘定科目	値	「NOL 自動化」には、TaxLossesCFSTotal の損失の子孫と「税額控除」の子孫がすべてリストされます 「NOL 自動化地域」には、TaxLossesCFSTotal の損失の子孫と「税額控除」の子孫がすべてリストされます。
	デフォルト	同上
	コメント	同上
ルール名	値	NOL Rule1 の次の使用可能な兄弟

Table 28-1 (Cont.) NOL 自動化列

列	パラメータ	説明
	デフォルト	NOL ルール 1
	コメント	新しいルールは子孫として追加する必要があります
論理 - 繰延	値	損失を繰り延べる場合に選択します
	デフォルト	選択解除
	コメント	選択した場合、繰延制限の「パーセント」が編集可能になります 選択しない場合、繰延制限の「パーセント」の値をクリアするか、そのまま保持するか警告メッセージが表示されます これは、控除勘定科目では読取り専用です。
論理 - 使用	値	損失を使用するチェック・ボックス
	デフォルト	選択解除
	コメント	選択した場合、使用制限の「パーセント」が編集可能になります。 選択しない場合、使用制限の「パーセント」の値をクリアするか、そのまま保持するか警告メッセージが表示されます。
論理 - 期限切れ	値	損失を期限切れにするチェック・ボックス
	デフォルト	選択解除
	コメント	
エンティティ - 含む	値	すべてのエンティティ
	デフォルト	なし
	コメント	エンティティを含めるために使用され、クリックすると、エンティティ・ディメンションのすべての子孫が表示されたメンバー・セクタが表示されます。
「エンティティ」の「除外」	値	すべてのエンティティ
	デフォルト	なし
	コメント	エンティティを除外するために使用され、クリックすると、エンティティ・ディメンションのすべての子孫が表示されたメンバー・セクタが表示されます。
管轄 - 含む	値	すべての管轄
	デフォルト	なし
	コメント	管轄を含めるために使用され、クリックすると、管轄ディメンションのすべての子孫が表示されたメンバー・セクタが表示されます。
管轄 - 除外	値	すべての管轄
	デフォルト	なし
	コメント	管轄を含めるために使用され、クリックすると、管轄ディメンションのすべての子孫が表示されたメンバー・セクタが表示されます。
繰延制限の 「パーセント」	値	ユーザー入力
	デフォルト	100%
	コメント	繰延チェック・ボックスが選択されている場合にのみアクセス可能
使用制限 - 課 税所得/税金 - パーセント	値	ユーザー入力
	デフォルト	100%

Table 28-1 (Cont.) NOL 自動化列

列	パラメータ	説明
	コメント	使用チェック・ボックスが選択されている場合にのみアクセス可能
使用制限 - 課税所得/税金 - 金額	値	ユーザー入力
	デフォルト	なし
	コメント	使用チェック・ボックスが選択されている場合にのみアクセス可能
使用制限 - C/F - 金額 - パーセント	値	ユーザー入力
	デフォルト	100%
	コメント	使用チェック・ボックスが選択されている場合にのみアクセス可能
使用制限 - C/F - 金額 - 金額	値	ユーザー入力
	デフォルト	なし
	コメント	使用チェック・ボックスが選択されている場合にのみアクセス可能
使用の「優先度」	値	ユーザー入力
	デフォルト	なし
	コメント	勘定科目に複数のルールが構成されている場合に、ルールの優先度を設定します
「無効化」の「ルール」	値	チェック・ボックス
	デフォルト	選択解除
	コメント	選択すると、ルールが無効になります

NOL 自動化ルールの管理

「NOL 自動化」画面では、システムで自動的に課税損失が繰延、使用または失効され、対応する相殺金額が記帳される方法を定義するルールを構成できます。次の NOL 自動化ルールが適用されます:

- 期限切れの年が過ぎた繰延損失を自動的に失効できます
- 「構成」カードからアクセスできます
- TaxLossesCFSTotal および TaxCreditTotal の親勘定科目(損失および控除の両方の勘定科目を含む)の基本レベルの子孫を表示します
- 現在の引当金自動列には、TaxLossesCFSTotal の下の基本レベルの勘定科目の NOL 自動化ルールの結果が表示されます。
- 使用フラグが選択された場合にのみ、次のようなその依存列が有効になります:
 - **使用制限の課税所得(パーセントおよび金額)**には、C/F 列を超える最高の優先度が設定されます。パーセントと金額の両方が表示される場合、金額がパーセントよりも優先されます

- **使用制限 C/F- パーセントおよび金額** - 課税所得で何も指定されていない場合にのみ、これらの値が考慮されます。パーセントと金額の両方が表示される場合、金額がパーセントよりも優先されます
- **優先度** - これは、ルール全体の優先度を指定するために使用される番号です

関連トピック:

- [NOL 自動化ルールの定義](#)
- [NOL 自動化ルールのコピー](#)
- [NOL 自動化ルールの削除](#)

NOL 自動化ルールの定義

純営業損失/控除ルールを定義するには、管理者またはパワー・ユーザーのセキュリティ権限を持っている必要があります。

 **Note:**

NOL 自動化ルールは計算プロセスの一部として実行され、オンデマンド・ルールとしては起動できません。

NOL 自動化ルールを定義するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」。
2. 「**構成**」を選択します。
3. NOL 自動化構成項目を使用して自動化ルールを定義します。デフォルトでは、勘定科目ごとにルールが定義されます。
4. その他のルールを追加するには、「**アクション**」メニューをクリックし、「**ルールの追加**」をクリックします。
5. ルールを定義できる新しい行が挿入されます。
6. TaxLossesCFSTotal 勘定科目および TaxCreditTotal 勘定科目の基本レベルの子孫の事前移入済リストから、ターゲット勘定科目を選択します。
7. 1つ以上の計算方法を選択します:
 - 繰延(TaxCreditTotal 勘定科目の基本には有効ではありません)
 - 使用
 - 有効期限

関連項目: [NOL 自動化列の操作](#)

8. 計算を適用するエンティティを入力するか、除外されるエンティティを入力して処理で除外されるエンティティを指定します。
9. パーセントまたは金額(ドル)を入力します。
 - 使用の場合、パーセントまたは金額(ドル)を入力します。課税所得および繰越の使用制限は、どちらもデフォルトでは **100%**です

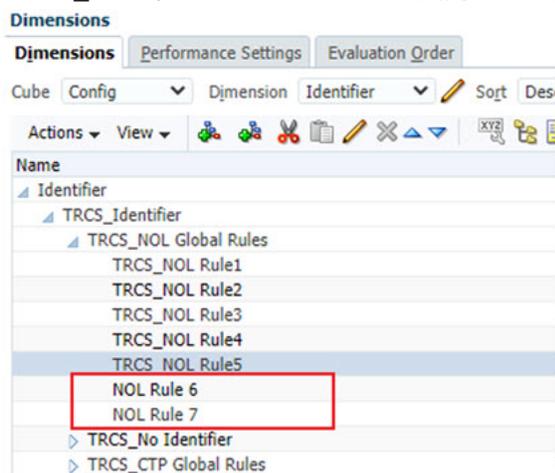
- 繰延の場合、繰延制限のパーセントはデフォルトでは **100%** です。ただし、これを変更して損失額を繰り延べることができます。
 - 期限切れの場合、パーセントおよび金額(ドル)は適用されません。
10. 使用プロセスの優先度の数値(1 など)を入力します。
 11. NOL 自動化ルールの定義後に、**連結**を実行する必要があります。

 **Note:**

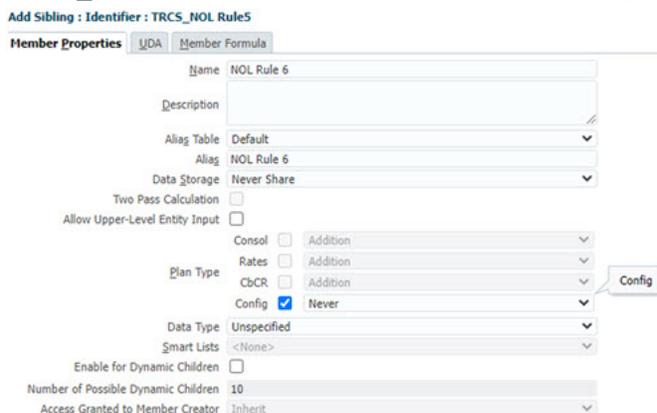
各ルールの横にある「無効化」の「ルール」チェック・ボックスを選択して、ルールを無効にすることもできます。

追加の NOL 自動化ルールを定義するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」、「概要」、「ディメンション」タブの順に選択します。
2. 「キューブ」で構成を、「ディメンション」で「識別子」を選択します
3. **TRCS_NOL グローバル・ルール**を展開します。



4. **TRCS_NOL ルール 5** をクリックして、「兄弟の追加」アイコンをクリックします。



5. 「NOL 自動化」画面に移動します(「[NOL 自動化](#)」画面へのアクセスも参照)。「ルールの追加」では、**TRCS_NOL グローバル・ルール**で作成したメンバー数に基づいてルールが追加されます。

NOL Automation | NOL Automation Regional

NOL Automation ⓘ

Scenario	Years	Period	Logic		
Actual	FY15	PI2			
			Deferral	Utilization	Expiration
Tax Losses - Carryforward Aut...	NOL Rule1		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	NOL Rule2		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	NOL Rule3		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	NOL Rule4		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	NOL Rule5		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	NOL Rule 6		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	NOL Rule 7		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Capital Losses - Carryforward ...	NOL Rule1		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Charitable Contributions - Car...	NOL Rule1		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
National Tax Losses - Carryfor...	NOL Rule1		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Tax Credit	NOL Rule1		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
General Business Credit	NOL Rule1		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Jobs Credit	NOL Rule1		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

NOL 自動化ルールのコピー

前のルールから NOL 自動化ルールをコピーして新しいルールを作成できます。

NOL 自動化ルールをコピーするには:

1. ルールをコピーするには、コピーするルールを選択します。
2. 「アクション」メニューをクリックし、「**ルールのコピー**」をクリックします。
3. 前のルール・データを使用して新しいルールが作成されます。

NOL 自動化ルールの削除

課税損失/税額控除の各勘定科目からのルール 1 を除いて、NOL 自動化ルールを削除できます。

NOL 自動化ルールを削除するには:

1. ルールを削除するには、削除するルールを選択します。
2. 「アクション」メニューをクリックして、**ルールの削除**をクリックします。

NOL 自動化計算ルールについて学ぶ

関連トピック:

- [課税損失の繰延](#)
- [課税損失/税額控除の使用](#)
- [課税損失/税額控除の期限切れ](#)

課税損失の繰延

課税所得と特別控除(TaxableIncomeBeforeLoss + TaxSpecialDeductions)が負の金額になった場合、後の期間で使用できるように損失を繰り延べるルールを定義できます。最適な損失繰延は、課税所得と特別控除の合計と等しい損失を繰り延べることによる課税所得 0 と、TaxLossCarryforward 勘定科目に手動で入力された金額になります。

会社が損失を負った場合(つまり、損失後の課税所得が 0 未満)、この損失を後の期間/年で使用できるように繰り延べることができます。NOL 自動化で指定された繰延パーセンテージに応じて、繰越勘定科目の「自動」は**損失前の課税所得 × 繰延パーセント × -1**という式を使用して移入されます。

Note:

税額控除繰延金額は手動入力のみです。税額控除勘定科目では自動化はサポートされていません。

繰延ルールの定義: 例

課税所得が-35,493 である場合、当期の最大で 35,493 までの損失をシステムで繰り延べることができます。繰延パーセント額によって自動的に損失を繰り延べるルールを定義できます。

NOL 自動化繰延ルールを定義して**連結**を実行すると、35,493 の損失繰越がシステムで作成され、負の総所得 + 特別控除が完全に相殺されます。現在の引当金での課税所得と課税所得に対する現在の税金は 0 に変わります。

課税損失スケジュールは、課税損失繰越勘定科目の当年の TLCCreatedAutomated 増減メニューで計上済損失を示すようになります。

一時差異スケジュールは、ターゲット課税損失繰越勘定科目の「自動」(CYSys)列で繰延損失を示すようになります。

ユース・ケース例: 繰延

関連トピック:

- [ユース・ケース 1: 課税損失の 100%繰延](#)
- [ユース・ケース 2: 課税損失の特定パーセンテージの繰延](#)
- [ユース・ケース 3: 特定エンティティの課税損失の繰延](#)
- [ユース・ケース 4: 特定エンティティの課税損失の繰延\(除外エンティティあり\)](#)
- [ユース・ケース 5: 特定管轄の課税損失の繰延](#)
- [ユース・ケース 6: 特定管轄の課税損失の繰延\(除外管轄あり\)](#)

ユース・ケース 1: 課税損失の 100%繰延

構成

		Logic			Entities		Jurisdictions		Deferral Limit Percent	Utilization Limit - Taxable Income/Tax		Utilization Limit - C/F Amount		Utilization Priority	Disable Rule
		Deferral	Utilization	Expiration	Include	Exclude	Include	Exclude		Percent	Amount	Percent	Amount		
Tax Losses - Carryforward Aut...	NOL Rule1	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>					100%						<input checked="" type="checkbox"/>
Capital Losses - Carryforward ...	NOL Rule1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>											<input type="checkbox"/>
Charitable Contributions - Car...	NOL Rule1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>											<input type="checkbox"/>
National Tax Losses - Carryfor...	NOL Rule1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>											<input type="checkbox"/>
Tax Credit	NOL Rule1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>											<input type="checkbox"/>
General Business Credit	NOL Rule1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>											<input type="checkbox"/>
Jobs Credit	NOL Rule1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>											<input type="checkbox"/>

予期される動作

課税損失の繰越自動勘定科目は、損失を完全に(100%)相殺するために使用され、その金額は課税損失フォームで作成されたものとして転記されます

ユース・ケース 2: 課税損失の特定パーセンテージの繰延

構成

NOL Automation															
Scenario	Years	Period													
Actual	FY19	P1													
		Logic			Entities		Jurisdictions		Deferral Limit Percent	Utilization Limit - Taxable Income/Tax		Utilization Limit - C/F Amount		Utilization Priority	Disable Rule
		Deferral	Utilization	Expiration	Include	Exclude	Include	Exclude		Percent	Amount	Percent	Amount		
Tax Losses - Carryforward Aut...	NOL Rule1	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>					10%						<input checked="" type="checkbox"/>
Capital losses - Carryforward ...	NOL Rule1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>											<input type="checkbox"/>
Charitable Contributions - Car...	NOL Rule1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>											<input type="checkbox"/>
National Tax Losses - Carryfor...	NOL Rule1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>											<input type="checkbox"/>
Tax Credit	NOL Rule1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>											<input type="checkbox"/>
General Business Credit	NOL Rule1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>											<input type="checkbox"/>
Jobs Credit	NOL Rule1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>											<input type="checkbox"/>

予期される動作

課税損失の繰越自動勘定科目は、損失の課税所得の(10%)を繰り延べるために使用され、その金額は「課税損失」フォームで作成されたものとして転記されます。

ユース・ケース 3: 特定エンティティの課税損失の繰延

構成

		Logic			Entities		Jurisdictions		Deferral Limit Percent	Utilization Limit - Taxable Income/Tax		Utilization Limit - C/F Amount		Utilization Priority	Disable Rule
		Deferral	Utilization	Expiration	Include	Exclude	Include	Exclude		Percent	Amount	Percent	Amount		
Tax Losses - Carryforward ...	NOL Rule1	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	San Jose				100%						<input checked="" type="checkbox"/>
Capital Losses - Carryforw...	NOL Rule1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>											<input type="checkbox"/>
Charitable Contributions - ...	NOL Rule1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>											<input type="checkbox"/>
National Tax Losses - Carr...	NOL Rule1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>											<input type="checkbox"/>
Tax Credit	NOL Rule1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>											<input type="checkbox"/>
General Business Credit	NOL Rule1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>											<input type="checkbox"/>
Jobs Credit	NOL Rule1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>											<input type="checkbox"/>

予期される動作

San Jose エンティティにのみルールが適用されます。

ユース・ケース 4: 特定エンティティの課税損失の繰延(除外エンティティあり)

構成

		Logic			Entities		Jurisdictions		Deferral Limit Percent	Utilization Limit - Taxable Income/Tax		Utilization Limit - C/F Amount		Utilization Priority	Disable Rule
		Deferral	Utilization	Expiration	Include	Exclude	Include	Exclude		Percent	Amount	Percent	Amount		
Tax Losses - Carryforward ...	NOL Rule1	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	ILV0Descendants("United States of America")		San Jose		100%						<input checked="" type="checkbox"/>
Capital Losses - Carryforw...	NOL Rule1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>											<input type="checkbox"/>
Charitable Contributions - ...	NOL Rule1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>											<input type="checkbox"/>
National Tax Losses - Carr...	NOL Rule1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>											<input type="checkbox"/>
Tax Credit	NOL Rule1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>											<input type="checkbox"/>
General Business Credit	NOL Rule1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>											<input type="checkbox"/>
Jobs Credit	NOL Rule1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>											<input type="checkbox"/>

予期される動作

San Jose を除く United states of America エンティティのすべての 基本エンティティにルールが適用されます。

ユース・ケース 5: 特定管轄の課税損失の繰延

構成

Scenario		Years	Period	Logic			Entities		Jurisdictions		Deferral Limit	Utilization Limit - Taxable Income/Tax	Utilization Limit - C/F Amount	Utilization	Disable		
Actual		FY19	P1	Deferral	Utilization	Expiration	Include	Exclude	Include	Exclude	Percent	Percent	Amount	Percent	Amount	Priority	Rule
Tax Losses - Carryforward Aut...	NOL Rule1			<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>			United States								<input checked="" type="checkbox"/>
Capital Losses - Carryforward ...	NOL Rule1			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>											<input type="checkbox"/>
Charitable Contributions - Car...	NOL Rule1			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>											<input type="checkbox"/>
National Tax Losses - Carryfor...	NOL Rule1			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>											<input type="checkbox"/>
Tax Credit	NOL Rule1			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>											<input type="checkbox"/>
General Business Credit	NOL Rule1			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>											<input type="checkbox"/>
Jobs Credit	NOL Rule1			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>											<input type="checkbox"/>

予期される動作

ルールは、すべての United states の法定住所に基づくエンティティに適用されます。

ユース・ケース 6: 特定管轄の課税損失の繰延(除外管轄あり)

構成

Scenario		Years	Period	Logic			Entities		Jurisdictions		Deferral Limit	Utilization Limit - Taxable Income/Tax	Utilization Limit - C/F Amount	Utilization	Disable		
Actual		FY19	P1	Deferral	Utilization	Expiration	Include	Exclude	Include	Exclude	Percent	Percent	Amount	Percent	Amount	Priority	Rule
Tax Losses - Carryforward ...	NOL Rule1			<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>			IL,VI(Descendants("All National"))	United States	100%						<input checked="" type="checkbox"/>
Capital Losses - Carryforw...	NOL Rule1			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>											<input type="checkbox"/>
Charitable Contributions - ...	NOL Rule1			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>											<input type="checkbox"/>
National Tax Losses - Carr...	NOL Rule1			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>											<input type="checkbox"/>
Tax Credit	NOL Rule1			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>											<input type="checkbox"/>
General Business Credit	NOL Rule1			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>											<input type="checkbox"/>
Jobs Credit	NOL Rule1			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>											<input type="checkbox"/>

予期される動作

ルールは、United states の法定住所に基づくエンティティを除く、すべての法定住所のエンティティに適用されます。

ユース・ケース 7: エンティティを含める、および管轄区域を含めるを使用したエンティティ・グループの課税損失の繰延

構成

Scenario		Years	Period	Logic			Entities		Jurisdictions		Deferral Limit	Utilization Limit - Taxable Income/Tax	Utilization Limit - C/F Amount	Utilization	Disable		
Actual		FY19	P1	Deferral	Utilization	Expiration	Include	Exclude	Include	Exclude	Percent	Percent	Amount	Percent	Amount	Priority	Rule
Tax Losses - Carryforward Aut...	NOL Rule1			<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	"Stanford,Atlanta"		"Canada"		100%						<input checked="" type="checkbox"/>
Capital Losses - Carryforward ...	NOL Rule1			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>											<input type="checkbox"/>
Charitable Contributions - Car...	NOL Rule1			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>											<input type="checkbox"/>
National Tax Losses - Carryfor...	NOL Rule1			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>											<input type="checkbox"/>
Tax Credit	NOL Rule1			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>											<input type="checkbox"/>
General Business Credit	NOL Rule1			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>											<input type="checkbox"/>
Jobs Credit	NOL Rule1			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>											<input type="checkbox"/>

例:

エンティティと法定住所: スタンフォード(US)、アトランタ(US)、モントリオール(CA)、トロント(CA)

TaxLoss0001CFS、「エンティティ」の「含む」: スタンフォード、アトランタ、「管轄」の「含む」: CA

予期される動作

前述の TaxLoss0001CFS 勘定科目ルールは、エンティティ・スタンフォード、アトランタ、およびすべてのカナダのエンティティ、つまり法定住所 CA を持つエンティティに対して実行されます。

ユース・ケース 8: エンティティを含める、1つのエンティティの除外、管轄区域を含めるを使用したエンティティ・グループの課税損失の繰延

構成

		Logic			Entities		Jurisdictions		Deferral Limit		Utilization Limit - Taxable Income/Tax		Utilization Limit - C/F		Utilization	Disable
		Deferral	Utilization	Expiration	Include	Exclude	Include	Exclude	Percent	Percent	Amount	Percent	Amount	Priority		
Tax Losses - Carryforward Aut...	NOL Rule1	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	"Stanford,Atlanta"	"Montreal"	"Canada"		100%							<input checked="" type="checkbox"/>
Capital Losses - Carryforward ...	NOL Rule1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>												<input type="checkbox"/>
Charitable Contributions - Car...	NOL Rule1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>												<input type="checkbox"/>
National Tax Losses - Carryfor...	NOL Rule1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>												<input type="checkbox"/>
Tax Credit	NOL Rule1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>												<input type="checkbox"/>
General Business Credit	NOL Rule1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>												<input type="checkbox"/>
Jobs Credit	NOL Rule1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>												<input type="checkbox"/>

例:

たとえば、カナダのエンティティの 1つを除外するには: TaxLoss0001CFS、「エンティティ」の「含む」:スタンフォード、アトランタ、「エンティティ」の「除外」:モントリオール、「管轄」の「含む」:CA

予期される動作

前述の TaxLoss0001CFS 勘定科目のルールは、エンティティ・スタンフォード、アトランタ、およびすべてのカナダのエンティティ、つまりモントリオール・エンティティを除く CA の法定住所を持つエンティティに対して実行されます。

課税損失/税額控除の使用

課税所得(TaxableIncomeAfterLoss)が正の金額になる場合、以前の期間または年の繰り延べられた損失を使用するルールを定義できます。損失を最適に使用すると、課税所得と特別控除の合計に等しい金額に、TaxLossCarryforward 勘定科目に手動で入力された金額を加算して使用することで、課税所得が 0 になります。

Note:

税額控除の使用は、損失の使用と同じプロセスに従います。

使用ルールを選択した場合にのみ、次のようなその依存列(NOL 自動化列の操作も参照)が有効になります:

- **使用制限の課税所得(パーセントおよび金額)** - パーセントと金額の両方が表示される場合、**金額**がパーセントよりも優先されます。
- **使用制限 C/F- パーセントおよび金額** - 繰越勘定科目ごとに使用制限を指定します。パーセントと金額の両方が表示される場合、**金額**がパーセントよりも優先されます。
- **優先度** - これは、ルール全体の優先度を指定するために使用される番号です。



Note:

使用プロセスによって、最も古い期限切れの年が検索され、その金額が最初に使用されます。すべての年が同時に失効する場合、最も古い起算年を使用します。

関連トピック:

- 計算例
- 使用ルールの定義
- ユース・ケース例: 使用

計算例

関連トピック:

- 課税所得および繰越のパーセンテージ
- 課税所得および繰越の金額
- 課税所得および繰越のパーセンテージと金額(ドル)

課税所得および繰越のパーセンテージ

Table 28-2 課税所得および繰越のパーセンテージ

使用課税所得		使用繰越		ユース・ケース例 (2つのうち小さい方)
パーセント	ドル	パーセント	ドル	
100%		100%		繰越 = 100\$および 課税所得 = 50\$ 予期される使用金額 = -50\$
100%		100%		繰越 = 100\$および 課税所得 = 200\$ 予期される使用金額 = -100\$
50%		100%		繰越 = 100\$および 課税所得 = 50\$ 予期される使用金額 = -25\$
50%		100%		繰越 = 100\$および 課税所得 = 200\$ 予期される使用金額 = -100\$
50%		100%		繰越 = 100\$および 課税所得 = 500\$ 予期される使用金額 = -100\$

課税所得および繰越の金額

Table 28-3 課税所得および繰越の金額

使用課税所得		使用繰越		ユース・ケース例 (2つのうち小さい方)
パーセント	ドル	パーセント	ドル	
	1000		1000	繰越 = 5000\$および課税所得 = 5000\$ 予期される使用金額 = -1000\$
	1000		1000	繰越 = 100\$および課税所得 = 200\$ 予期される使用金額 = -100\$
	500		1000	繰越 = 100\$および課税所得 = 50\$ 予期される使用金額 = -50\$
	500		1000	繰越 = 1000\$および課税所得 = 200\$ 予期される使用金額 = -200\$
	500		1000	繰越 = 100\$および課税所得 = 500\$ 予期される使用金額 = -100\$

課税所得および繰越のパーセンテージと金額(ドル)

Table 28-4 課税所得および繰越のパーセンテージと金額(ドル)

使用課税所得		使用繰越		ユース・ケース例 (2つのうち小さい方)
パーセント	ドル	パーセント	ドル	
100%	20\$	100%		繰越 = 100\$および課税所得 = 50\$ 予期される使用金額 = -20\$
100%		100%	10\$	繰越 = 100\$および課税所得 = 50\$ 予期される使用金額 = -10\$

Table 28-4 (Cont.) 課税所得および繰越のパーセンテージと金額(ドル)

使用課税所得		使用繰越		ユース・ケース例 (2つのうち小さい方)
100%	20\$	100%	30\$	繰越 = 100\$および課税所得 = 50\$ 予期される使用金額 = -20\$
100%	30\$	100%	20\$	繰越 = 100\$および課税所得 = 50\$ 予期される使用金額 = -20\$
100%	30\$	100%	20\$	繰越 = 100\$および課税所得 = 50\$ 予期される使用金額 = -5\$ (つまり、課税所得(50\$)の 10%)
100%	30\$	10%	20\$	繰越 = 100\$および課税所得 = 50\$ 予期される使用金額 = -10\$ (つまり、使用可能な繰越(100\$)の 10%)

使用ルールの定義

1. 損失の使用が可能な繰越勘定科目の使用ルールを定義します(複数の繰越勘定科目を使用の対象にすることもできます)
2. 使用の優先度の指定は必須で、優先度は数値 1 から始まり、複数の勘定科目の場合は増分されます。

NOL Automation																
Scenario	Year	Period	Logic			Entities		Jurisdictions		Deferral Limit	Utilization Limit - Taxable Income/Tax		Utilization Limit - C/F	Utilization	Disable	
Final	2015	P11	Deferral	Utilization	Expiration	Include	Exclude	Include	Exclude	Percent	Percent	Amount	Percent	Amount	Priority	Rule
Tax Losses - Carryforward ...	NOL Rule1		<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>			ILVtDesce...	United States	100%	100%		100%		1	<input checked="" type="checkbox"/>
Capital Losses - Carryforw...	NOL Rule1		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>											<input type="checkbox"/>
Charitable Contributions - ...	NOL Rule1		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>											<input type="checkbox"/>
National Tax Losses - Carr...	NOL Rule1		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>											<input type="checkbox"/>
Tax Credit	NOL Rule1		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>											<input type="checkbox"/>
General Business Credit	NOL Rule1		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>											<input type="checkbox"/>
Jobs Credit	NOL Rule1		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>											<input type="checkbox"/>

3. ルールを保存します。

Note:

使用プロセスには 2 つの基準があります:

- エンティティに正の所得が必要です:

Current Provision ⓘ							
Scenario	Years	Period	Entity	Consolidation	Jurisdiction	Multi-GAAP	Currency
Actual	FY15	P11	Montreal(CAD)	Entity Input	Canada	Local GAAP	Entity Currency
				Automated	Adjustment	Total	
Net Income Before Tax				-50000	-10000	-60000	
Permanent Differences (GAAP to Stat)							
Total Temporary Differences (GAAP to Stat)					500000	500000	
Local Statutory Net Income Before Tax				-50000	490000	440000	
Permanent Differences (Stat to Tax)							
Total Temporary Differences (Stat to Tax)							
Deductible Income tax							
Taxable Income Before Loss				-50000	490000	440000	
Special Deductions Total							
Total National Tax Losses - Carryforward Automated							
Taxable Income				-50000	490000	440000	
Current Year Tax Rate				30%	30%	30%	
Current Tax on Taxable Income				-15000	147000	132000	
Total Tax Credits							
Current Tax Expense per Return				-15000	147000	132000	
Total Additional Current Provision							
Current F				-15000	147000	132000	

- エンティティに使用の対象にできる損失が必要です:

Tax Losses ⓘ													
Tax Losses/Credits	Currency	Scenario	Years	Period	Entity	Consolidation	Jurisdiction	Multi-GAAP	Account				
Entity		Actual	FY15	P11	Montreal(CAD)	Entity Input	Canada	Local GAAP	Tax Losses - Carryforward Automated				
		Year Of	Year Of		Opening	Prior Year	Opening as	Created	Created	Return to	Other	Other	Available
		Origination	Expiration		Carryforward	Adjustment -	Adjusted	Losses/Credits	Losses/Credits	Accrual	Adjustments	Balance	Losses/Credits
						Losses And		Automated		Adjustment		Sheet	
						Credits						Adjustments	
Current Year Minus 18			FY97										
Current Year Minus 17			FY98										
Current Year Minus 16			FY99										
Current Year Minus 15			FY00										
Current Year Minus 14			FY01										
Current Year Minus 13			FY02										
Current Year Minus 12			FY03										
Current Year Minus 11			FY04										
Current Year Minus 10			FY05										
Current Year Minus 9			FY06										
Current Year Minus 8			FY07	FY22							1000		1000
Current Year Minus 7			FY08										
Current Year Minus 6			FY09	FY15							2000		2000
Current Year Minus 5			FY10	FY16							5000		5000
Current Year Minus 4			FY11	FY17							10000		10000
Current Year Minus 3			FY12										
Current Year Minus 2			FY13										
Current Year Minus 1			FY14										
Current Year			FY15	No Expiration									
Total Tax Losses/Credits											18000		18000

エンティティに正の所得があり、正の所得の使用の対象にできる損失がある場合、使用自動プロセスが開始されます。同じ使用プロセスが地域の損失/控除勘定科目にも適用されることに注意してください。

次のスクリーンショットでは、最大で 18000\$ を使用できます。

Tax Losses												
Tax Losses/Credits Entity Currency	Scenario Actual	Years FY15	Period P11	Entity Montreal(CAD)	Consolidation Entity Input	Jurisdiction Canada	Multi-GAAP Local GAAP	Account Tax Losses - Carryforward Automated				
	Year Of Origination	Year Of Expiration	Opening Carryforward	Prior Year Adjustment - Losses And Credits	Opening as Adjusted	Created Losses/Credits Automated	Created Losses/Credits	Return to Accrual Adjustment	Other Adjustments	Other Balance Sheet Adjustments	Available Losses/Credits	
Current Year Minus 18	FY97											
Current Year Minus 17	FY98											
Current Year Minus 16	FY99											
Current Year Minus 15	FY00											
Current Year Minus 14	FY01											
Current Year Minus 13	FY02											
Current Year Minus 12	FY03											
Current Year Minus 11	FY04											
Current Year Minus 10	FY05											
Current Year Minus 9	FY06											
Current Year Minus 8	FY07	FY22							1000		1000	
Current Year Minus 7	FY08											
Current Year Minus 6	FY09	FY15							2000		2000	
Current Year Minus 5	FY10	FY16							5000		5000	
Current Year Minus 4	FY11	FY17							10000		10000	
Current Year Minus 3	FY12											
Current Year Minus 2	FY13											
Current Year Minus 1	FY14											
Current Year	FY15	No Expiration										
Total Tax Losses/Credits											18000	18000

連結を正常に実行した後、次のスクリーンショットのように使用された金額が示されます:

Current Provision							
Scenario Actual	Years FY15	Period P11	Entity Montreal(CAD)	Consolidation Entity Input	Jurisdiction Canada	Multi-GAAP Local GAAP	Currency Entity Currency
				Automated	Adjustment	Total	
Net Income Before Tax				-50000	-10000	-60000	
Permanent Differences (GAAP to Stat)							
Total Temporary Differences (GAAP to Stat)					500000	500000	
Local Statutory Net Income Before Tax				-50000	490000	440000	
Permanent Differences (Stat to Tax)							
Total Temporary Differences (Stat to Tax)							
Deductible income tax							
Taxable Income Before Loss				-50000	490000	440000	
Special Deductions Total							
Tax Losses - Carryforward Automated				-18000		-18000	
Capital Losses - Carryforward Automated							
Charitable Contributions - Carryforward Automated							
National Tax Losses - Carryforward Automated							
Total National Tax Losses - Carryforward Automated				-18000		-18000	
Taxable Income				-68000	490000	422000	
Current Year Tax Rate				30%	30%	30%	
Current Tax on Taxable Income				-20400	147000	126600	
Total Tax Credits							
Current Tax Expense per Return				-20400	147000	126600	
Total Additional Current Provision							
Current Provision				-20400	147000	126600	

次のスクリーンショットは、期限切れの年に基づいて損失がどのように使用されるかを示しています:

ユース・ケース例: 使用

関連トピック:

- [ユース・ケース例 1](#)
- [ユース・ケース例 2](#)

ユース・ケース例 1

課税所得 + 特別控除 = 28,000

現在の年: 2021

現在の期間: P12

現在のエンティティ: LE105

使用ルール:

Table 28-5 ユース・ケース例 1: 使用

認識されない 純営業損失			認識されない 資本損失		
期限切れの年	TLCAvailabl e	使用自動	期限切れの年	TLCAvailabl e	使用自動
2021	20,000	-20,000	2021	5,000	-5,000
2022	10,000	-3,000	2022	10,000	
合計	30,000			15,000	

1. システムは、現在の年(2021)から始めて「シーケンス」の昇順で使用可能な損失の使用を試みます。詳細勘定科目**認識されない純営業損失**は「シーケンス 1」の 1 番目です。認識されない純営業損失の 2021 年の使用可能な損失の 100%が使用されます。使用可能な損失は 20,000 です。使用される金額は 20,000 の 100%です。残りの課税所得は $28,000 - 20,000 = 8,000$ です。
2. 詳細勘定科目**認識されない資本損失**は「シーケンス 2」の 2 番目です。認識されない資本損失の 2021 年の使用可能な損失の 100%が使用されます。使用可能な損失は 5,000 です。使用される金額は 5,000 の 100%です。残りの課税所得は $8,000 - 5,000 = 3,000$ です。

- LE105 には他の使用ルールはありません。システムは、次の年(2022)に進み、使用可能な損失がもうなくなるか、相殺される課税所得がもうなくなるまで、すべての使用可能な損失の使用を試みます。
- 課税損失の繰越勘定科目の現在の引当金で**合計**使用金額が相殺されます。

ユース・ケース例 2

この例は、異なるパーセンテージを使用した使用ルールを示しています。

課税所得 + 特別控除 = 28,000

現在の年: 2021

現在の期間: P12

現在のエンティティ: LE105

使用ルール:

Table 28-6 ユース・ケース例 2: 使用

認識されない 純営業損失			認識されない 資本損失		
期限切れの年	TLCAvailable	使用自動	期限切れの年	TLCAvailable	使用自動
2021	20,000	-15,000	2021	5,000	-5,000
2022	10,000		2022	10,000	-4,000
合計	30,000	-15,000		15,000	-9,000

この例では、構成設定に従って、TaxLossD0001 勘定科目の使用可能な合計金額の 50%のみが使用されます。合計は 30,000 および 50% = 15,000 です。

構成設定に従って、認識されない資本損失勘定科目の使用可能な合計金額の 60%のみが使用されます。合計は 15,000 および 60% = 9,000 です

すべての詳細勘定科目にわたって使用する最大金額は 24,000 です。

したがって、 $28000 - 24000 = 4000$ が、現在の引当金の残りの課税対象額です。

- システムは、現在の年(2021)から始めて「シーケンス」の昇順で使用可能な損失の使用を試みます。詳細勘定科目**認識されない純営業損失**は「シーケンス 1」の 1 番目です。認識されない純営業損失の 2021 年の使用可能な損失の 100%が使用されます。使用可能な損失は 20,000 です。使用される金額は 30,000 の 50%である 15,000 です。15,000 は 20,000 を下回るため、15,000 が使用されます。残りの課税所得は $28,000 - 15,000 = 13,000$ です。
- 詳細勘定科目**認識されない資本損失**は「シーケンス 2」の 2 番目です。認識されない資本損失の 2021 年の使用可能な損失の合計である 15,000 の 60% (9,000)が使用されます。使用可能な損失は 5,000 です。5,000 は、使用する最大金額を下回るため、5,000 が使用されます。残りの課税所得は $13,000 - 5,000 = 8,000$ です。
- LE105 には他の使用ルールはありません。システムは、次の年(2022)に進み、使用可能な損失がもうなくなるか、相殺される課税所得がもうなくなるまで、すべての使用可能な損失の使用を試みます。
- 課税損失の繰越勘定科目の現在の引当金で**合計**使用金額が相殺されます。

課税損失/税額控除の期限切れ

勘定科目に期限切れルールを設定すると、繰越勘定科目の使用可能な金額が現在の年とそれ以前の年で自動的に相殺されます。自動的な期限切れは、会計年度の最後の期間である P12 を連結する場合にのみ発生します。

自動的な期限切れは、現在のエンティティ、シナリオ、年および期間の自動繰延または使用が完了した後で実行されます。現在の期間の後で使用できなくなる損失を自動的に期限切れにするルールをシステムに設定できます。

「課税損失」フォームには、勘定科目の期限切れ自動(TRCS_TLCExpirationAutomated)列の失効した損失が表示されます。

「一時差異」フォームには、現在の年および期間の他の調整(繰延のみ)列の繰越勘定科目ごとの失効した金額が表示されます。

期限切れロジックの目的は、指定した勘定科目で、期限切れの年が現在の年以前であるすべての使用可能な金額を失効させることです。現在の年が期限切れの年である損失は、年の最後の期間である P12 でのみ期限切れになります。

勘定科目の期限切れの年の「課税損失」フォームの TRCS_TLCAvailable 列に基づいて、失効する損失金額が決定します。

Note:

プロセスは、控除の期限切れと同じです。

関連トピック:

- [期限切れルールの定義](#)
- [ユース・ケース例: 期限切れ](#)

期限切れルールの定義

1. 損失の期限切れが可能な繰越勘定科目の期限切れルールを定義します。
2. ルールを保存します。

		Logic			Entities		Jurisdictions		Deferral Limit	Utilization Limit - Taxable Income/Tax		Utilization Limit - CF		Utilization	Disable
		Deferral	Utilization	Expiration	Include	Exclude	Include	Exclude	Percent	Percent	Amount	Percent	Amount	Priority	Rule
Tax Losses - Carryforward ...	NOL Rule1	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>			ILv0Desce...	United States	100%						<input checked="" type="checkbox"/>
Capital Losses - Carryforw...	NOL Rule1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>											<input type="checkbox"/>
Charitable Contributions - ...	NOL Rule1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>											<input type="checkbox"/>
National Tax Losses - Carr...	NOL Rule1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>											<input type="checkbox"/>
Tax Credit	NOL Rule1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>											<input type="checkbox"/>
General Business Credit	NOL Rule1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>											<input type="checkbox"/>
Jobs Credit	NOL Rule1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>											<input type="checkbox"/>

ユース・ケース例: 期限切れ

関連トピック:

- [ユース・ケース例 1](#)
- [ユース・ケース例 2](#)

ユース・ケース例 1

TaxableIncomeBeforeLoss + TaxSpecialDeductions = 28,000

現在の年: 2021

現在の期間: P12

現在のエンティティ: LE105

Table 28-7 ユース・ケース例 1: 期限切れ

認識されない純 営業損失			認識されない資 本損失		
期限切れの年	TLCAvailable	期限切れ自動	期限切れの年	TLCAvailable	期限切れ自動
2019	20,000	-20,000	2021	5,000	-5,000
2020	10,000	-10,000	2022	10,000	

ユース・ケース例 2

使用されない損失がある場合、期限切れの年に基づいて失効します。期限切れは、連結最終期間が P12 である場合にのみ発生する可能性があります。

	Year Of Origination	Year Of Expiration	Other Adjustments	Available Losses/Credits	Adjusted	Expiration Automated	Expiration Total	Closing Carryforward (a)	Temporary Difference Closing Balance (b)	Difference (a - b)
Current Year Minus 19		FY96								
Current Year Minus 18		FY97								
Current Year Minus 17		FY98								
Current Year Minus 16		FY99								
Current Year Minus 15		FY00								
Current Year Minus 14		FY01								
Current Year Minus 13		FY02								
Current Year Minus 12		FY03								
Current Year Minus 11		FY04								
Current Year Minus 10		FY05								
Current Year Minus 9		FY06								
Current Year Minus 8		FY07 FY22	1000	1000	1000			1000		
Current Year Minus 7		FY08								
Current Year Minus 6		FY09 FY15	2000	2000	2000	-2000	-2000	0		
Current Year Minus 5		FY10 FY16	5000	5000	5000			5000		
Current Year Minus 4		FY11 FY17	10000	10000	10000			10000		
Current Year Minus 3		FY12								
Current Year Minus 2		FY13								
Current Year Minus 1		FY14								
Current Year		FY15								
Total Tax Losses/Credits			18000	18000	18000	-2000	-2000	16000	16000	0

Pillar 2 の操作

関連トピック:

- [Pillar 2 について学ぶ](#)
- [Pillar 2 の構成](#)
- [Pillar 2 グローバル税率の入力](#)
- [Pillar 2 データ・フローの管理](#)
- [Pillar 2 ルールの操作](#)
- [セキュリティに関する考慮事項](#)

Pillar 2 について学ぶ

多国籍企業(MNE)に対するグローバル・ミニマム法人税は、低税率国への利益の移転を阻止することを目的としています。この問題を解決するために、**Tax Reporting** には、経済協力開発機構(OECD)のグローバルな租税協定の **Pillar 2** と呼ばれる新しい税源浸食と利益移転(BEPS)の機能が用意されており、国際的な税システムに対する画期的な改革の導入を支援し、税のルールにおけるギャップや不一致を取り除きます。この新しい機能により、会社の利益がタックス・ヘイブンのいずれかで非課税または軽課税となった場合、有効レートを **15%** の最小税率にするトップアップ税を自国で課することができます。国内法人税率については、引き続き政府が望むように設定できます。

この機能を使用して、次のことができます:

- 最小課税の範囲内の MNE を定義します
- 管轄に基づいて MNE の有効税率を計算し、ルールの下で支払う必要があるトップアップ税の金額を決定するためのメカニズムを設定します
- 合意されたルール順序と同期している MNE グループのメンバーにトップアップ税を課します

Pillar 2 の有効化

関連トピック:

[前提条件](#)

前提条件

この機能を有効にするには、アプリケーションがすでにハイブリッド対応密(DSO)に移行されている必要があります。関連項目: [アプリケーション・モデルのハイブリッド最適化\(DSO\)への変換](#)

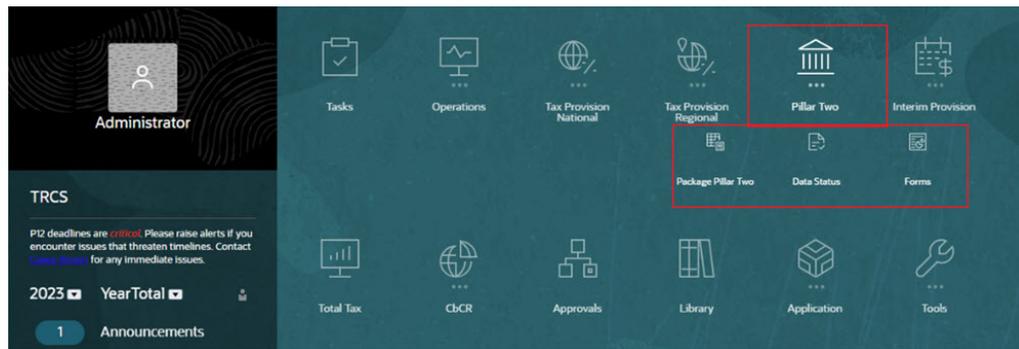
この機能を有効にするには:

1. Tax Reporting ホーム・ページに移動します。
2. 「アプリケーション」をクリックします。
3. 「構成」を選択します。
4. 「Pillar 2」機能をチェックします。
5. 「有効化」をクリックします。

関連項目: [アプリケーションの機能の有効化](#)

Pillar 2 へのアクセス

「Pillar 2」カードには、アプリケーションのホームページからアクセスできます。

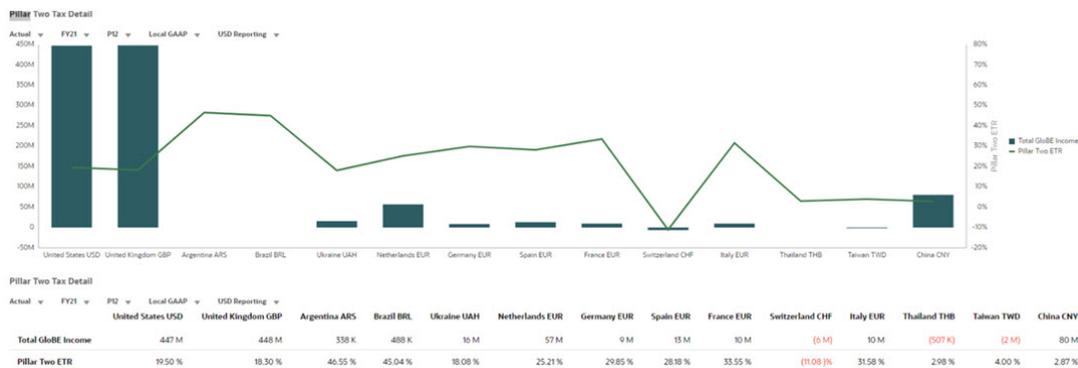


「Pillar 2」機能を有効にすると、「Tax Reporting」ホームページに「Pillar 2」カードが作成されます。次のものが含まれています:

- パッケージ Pillar 2
 - GloBE 所得
 - 対象税金
 - ETR
 - トップアップ税
 - Pillar 2 税金詳細(ダッシュボード) (関連項目: [Pillar 2 ダッシュボードの表示](#))
- データ・ステータス
- フォーム(関連項目: [Pillar 2 フォームの操作](#))

Pillar 2 ダッシュボードの表示

レポート国別 Pillar 2 ETR の概要



Pillar 2 フォームの操作

次のフォームを使用できます。

Pillar 2

- Pillar 2 対象税金
- Pillar 2 ETR
- Pillar 2 GloBE 所得
- Pillar 2 トップアップ税
- Pillar 2 その他の勘定科目

Name	Description
Pillar Two	
Pillar Two Covered Tax	Pillar Two Covered Tax
Pillar Two ETR	Pillar Two Effective Tax Rate
Pillar Two GloBE Income	Pillar Two GloBE Income
Pillar Two Other Accounts	Pillar Two Other Accounts
Pillar Two Top-Up Tax	Entities Pillar Two Top-Up Tax

Pillar 2 管理

- Pillar 2 対象税金グローバル自動化: グローバル Pillar 2 対象税金自動化ルール(レポート管轄に関係なくすべてのエンティティに適用)
- Pillar 2 対象税金管轄自動化: グローバル Pillar 2 対象税金自動化ルール(Pillar 2 管轄のすべてのエンティティに適用)
- Pillar 2 対象税金エンティティ自動化: 特定のエンティティ用の Pillar 2 対象税金自動化ルール
- Pillar 2 GloBE 所得グローバル自動化: グローバル Pillar 2 GloBE 所得自動化ルール(レポート管轄に関係なくすべてのエンティティに適用)

- Pillar 2 GloBE 所得管轄自動化: グローバル Pillar 2 GloBE 所得自動化ルール(レポート管轄のすべてのエンティティに適用)
- Pillar 2 GloBE 所得エンティティ自動化: 特定のエンティティ用の Pillar 2 GloBE 自動化ルール
- Pillar 2 その他の勘定科目グローバル自動化: グローバル Pillar 2 その他の勘定科目自動化ルール(レポート管轄に関係なくすべてのエンティティに適用)
- Pillar 2 その他の勘定科目管轄自動化: グローバル Pillar 2 その他の勘定科目自動化ルール(レポート管轄のすべてのエンティティに適用)
- Pillar 2 その他の勘定科目エンティティ自動化: 特定のエンティティ用の Pillar 2 その他の勘定科目自動化ルール
- Pillar 2 管轄自動化: エンティティを Pillar 2 管轄に割当
- Pillar 2 税率: グローバル Pillar 2 税率の入力

Pillar Two Administration	
Pillar Two Covered Tax Entity Automation	Pillar Two Covered Tax automation rules for specific Entities
Pillar Two Covered Tax Global Automation	Global Pillar Two Covered Tax automation rules (apply to all Entities regardless of Pillar Two Jurisdiction)
Pillar Two Covered Tax Jurisdiction Automation	Jurisdiction Pillar Two Covered Tax automation rules (apply to all Entities under a Pillar Two Jurisdiction)
Pillar Two GloBE Income Entity Automation	Pillar Two GloBE automation rules for specific Entities
Pillar Two GloBE Income Global Automation	Global Pillar Two GloBE Income Automation rules (apply to all Entities regardless of Pillar Two Jurisdiction)
Pillar Two GloBE Income Jurisdiction Automation	Jurisdiction Pillar Two GloBE Income automation rules (apply to all Entities under a Pillar Two Jurisdiction)
Pillar Two Jurisdiction Automation	Assign Entity to the Pillar Two Jurisdiction
Pillar Two Other Accounts Entity Automation	Pillar Two Other Accounts automation rules for specific Entities
Pillar Two Other Accounts Global Automation	Global Pillar Two Other Accounts automation rules (apply to all Entities regardless of Pillar Two Jurisdiction)
Pillar Two Other Accounts Jurisdiction Automation	Jurisdiction Pillar Two Other Accounts automation rules (apply to all Entities under a Pillar Two Jurisdiction)
Pillar Two Tax Rate	Enter Global Pillar Two Tax Rate

Pillar 2 の構成

関連トピック:

- [Pillar 2 エンティティの構成](#)
- [Pillar 2 管轄の構成](#)
- [GloBE 所得、対象税金および実質ベースの調整勘定科目の構成](#)
- [対象税金のその他の繰延税金増減の構成](#)
- [GloBE 所得および対象税金自動化の構成](#)
- [その他の勘定科目およびその他の勘定科目自動化の構成](#)

Pillar 2 エンティティの構成

スコープ内エンティティを Pillar 2 に割り当て、PillarTwoEntity の下に PillarTwoEntityYes 属性を追加します。

 **Note:**

二重カウントを避けるために、祖先階層で許可される Pillar 2 エンティティは 1 つのみです。

Member Name	Parent Member	Upper Level Entity Input	Base Currency	Default Alias Table	PillarTwoEntity
Entity		No	USD		<None>
No Entity	Entity	No	USD	No Entity	<None>
FCCS_Global Assumptions	Entity	No	USD	Global Assumptions	<None>
FCCS_Total Geography	Entity	No	USD	Total Geography	<None>
North America	FCCS_Total Geography	No	USD	North America	<None>
LE101	North America	No	USD	Operations	PillarTwoEntityYes
LE102	North America	No	USD	Distribution	PillarTwoEntityYes
LE103	North America	No	USD	Vision MRC	PillarTwoEntityYes
LE105	North America	No	USD	Education Ltd	PillarTwoEntityYes
LE127	North America	No	USD	Vision Consulting	PillarTwoEntityYes
LE170	North America	No	USD	Vision US Branch	PillarTwoEntityYes
FLE201	North America	No	CAD	Vision Canada	PillarTwoEntityYes
South America	FCCS_Total Geography	No	USD	South America	<None>
EMEA	FCCS_Total Geography	No	EUR	EMEA	<None>
APAC	FCCS_Total Geography	No	USD	APAC	<None>
Corporate	FCCS_Total Geography	No	USD	Corporate	<None>
C_All_Corp_Comp_V1	Entity	No	USD	Corporate Company	<None>
LegalEntities	Entity	No	USD	Legal Entities	<None>
Combined Filings	Entity	Yes	USD	Combined Filings	<None>
TRCS_TotalPillarTwo	Entity	Yes	USD	Total Pillar Two	<None>
LE101[TRCS_TotalPillarTwo]	TRCS_TotalPillarTwo	No	USD	Operations	<None>

 **Note:**

エンティティから PillarTwoEntityYes 属性を削除した後、TRCS_TotalPillarTwo の下の対応する共有エンティティは削除されません。共有エンティティを削除すると、現在のデータと履歴データが失われる可能性があるため、デフォルトではメンバーは削除されません。ただし、ユーザーは、TRCS_TotalPillarTwo の下の共有されている非 Pillar 2 エンティティを手動で削除できます。

ヒント: PillarTwoEntityYes 属性を、納税および申告のエンティティ、または Pillar 2 の申告グループ・エンティティに割り当てます。管轄別のエンティティ階層は必要ないことに注意してください。

例: 親の税金計算の追加

次のプロパティを設定して、Pillar 2 計算を含む親の税金計算エンティティを作成します:

- **上位レベルのエンティティ入力:** はい
- **PillarTwoEntity:** PillarTwoEntityYes
- **法定住所:** <エンティティを表す法定住所>

Member Name	Parent Member	Upper Level Entity Input	PillarTwoEntity	Regional Deduction	Parent Tax Calculations	Intercompany Entity	Domicile
Entity		No	<None>	<None>	<None>	<None>	<None>
No Entity	Entity	No	<None>	<None>	<None>	<None>	<None>
FCCS_Global Assumptions	Entity	No	<None>	<None>	<None>	<None>	<None>
FCCS_Total Geography	Entity	No	<None>	<None>	<None>	<None>	<None>
North America	FCCS_Total Geography	No	<None>	<None>	<None>	<None>	<None>
South America	FCCS_Total Geography	No	<None>	<None>	<None>	<None>	<None>
EMEA	FCCS_Total Geography	No	<None>	<None>	<None>	<None>	<None>
APAC	FCCS_Total Geography	No	<None>	<None>	<None>	<None>	<None>
Corporate	FCCS_Total Geography	No	<None>	<None>	<None>	<None>	<None>
ParentEntity	FCCS_Total Geography	Yes	PillarTwoEntityYes	<None>	TaxCalYes	<None>	US
BaseEntity	ParentEntity	No	<None>	<None>	<None>	<None>	<None>

関連項目: [ディメンションの操作およびエンティティ・ディメンション](#)

Pillar 2 管轄の構成

スコープ内エンティティを **Pillar 2 管轄**に割り当てるには:

1. TRCS_TotalPillarTwoJurisdictions の下に **Pillar 2 管轄**を作成し、PillarTwoCurrency 属性の事前定義済通貨を関連付けます。

Note:

別名に通貨略称の完全な国名を含めます。これにより、**Pillar 2 管轄**と法定住所を区別し、通貨を識別できます。

Member Name	Parent Member	Default Data Storage	Upper Level Entry Input	Default Alias Table	PillarTwoCurrency	TAR Jurisdiction Classification
Jurisdiction		Label only	No		<None>	<None>
TRCS_No Jurisdiction	Jurisdiction	Store	No	No Jurisdiction	<None>	<None>
TRCS_Total Jurisdiction	Jurisdiction	Dynamic Calc	No	Total National And	<None>	<None>
TRCS_TotalPillarTwoJurisdictions	Jurisdiction	Dynamic Calc	No	Total Pillar Two	<None>	<None>
United States	TRCS_TotalPillarTwoJurisdictions	Store	No	United States USD	USD	<None>

2. **ライブラリ**に移動します。
3. 「Pillar 2 管理」フォルダの「**Pillar 2 管轄自動化**」フォームを開きます。
4. ドロップダウンを使用して、スコープ内エンティティを **Pillar 2 管轄**に割り当てます。
5. **Pillar 2 管轄**リストは、「TRCS_TotalPillarTwoJurisdictions」の下に作成したメンバーに基づいて事前移入されます。

Scenario	Years	Period	
Actual	FY21	P12	
			Pillar Two Jurisdictions
Operations			United States USD

Note:

親エンティティと子エンティティは、同じシナリオ、年および期間に対してアクティブな管轄マッピングを持つことはできません。

関連項目: [管轄ディメンション](#)

GloBE 所得、対象税金および実質ベースの調整勘定科目の構成

- TRCS_TotalBookAdjustments の下に **GloBE 所得調整勘定科目**を作成できます。

- 次のように、インラインの親の下に対象税金調整勘定科目を作成できます:
 - 現在の勘定科目: TRCS_TotalCoveredTax

```

TRCS_TotalCoveredTax
  TRCS_TotalGloBEAdjforCoveredTax
  TRCS_CurrentTaxasperBook
  TRCS_TotalCurTaxAdj → < Adjustment accounts can be added here>

```

- 繰延勘定科目:

```

TRCS_TotalCoveredTax
TRCS_TotalDefTaxRecast
  TRCS_TotalDefTax
    TRCS_TemporaryDifferencesTotal
      • Temporary differences (Gaap to Stat / Stat to Tax) can be shared from the current
        provision hierarchy
    TRCS_TotalOtherDefTaxMovements
      • Other Deferred Tax Movements (see: Configuring Other Deferred Tax Movements
        for Covered Tax)
    TRCS_DeferredTaxasperBook
      • Automate Total Deferred Tax Expense from Deferred Tax using covered tax
        automation
    TRCS_TotalDefTaxAdj
      • Automate deferred tax expense adjustments using covered tax automation as
        required

```

関連項目: [対象税金のその他の繰延税金増減の構成](#)

- その他の税金調整

TRCS_PillarTwoAccounts	Pillar Two accounts
TRCS_TotalCoveredTax	Total Covered Tax
TRCS_TotalOtherTaxAdj	Total Other Tax Adjustments

- 実質ベースの調整勘定科目を次の下に作成できます:

```

TRCS_TopupTax
  TRCS_TotalGloBEIncomeAsAdjusted
  TRCS_TotalSubstanceBasedIncExc → < Adjustment accounts can be added here>

```

対象税金の一時差異増減の構成

一時差異勘定科目から読み取るように Pillar 2 勘定科目を構成するには、一時差異 GAAP と法定の階層全体または一時差異法定と税金の階層全体(あるいはその両方)を共有するか、現在の引当金から選択した一時差異勘定科目を共有します。

次の例では、一時差異 GAAP と法定の親および一時差異法定と税金の親を共有メンバーとして追加する方法について説明します。

- ディメンション・ライブラリに移動し、TRCS_TemporaryDifferencesTotal 階層を展開します(次を参照)。

```

TRCS_PillarTwoAccounts
  TRCS_TotalGloBEIncome
  TRCS_TotalCoveredTax
    TRCS_TotalGloBEAdjforCoveredTax
  TRCS_TotalDefTaxRecast
    TRCS_TotalDefTax
      TRCS_TemporaryDifferencesTotal
        TRCS_TempGSTotal (Shared) → Created shared hierarhcy
        TRCS_TempSTTotal(Shared)

```

2. 変更を保存し、データベースをリフレッシュします。
3. 「対象税金」フォームに移動し、連結を実行して、逆仕訳を含む一時差異の現在の年の増減(株式報酬資本勘定科目)のデータをプルします。

対象税金のその他の繰延税金増減の構成

合計一時差異(合計 GAAP と法定および合計法定と税金)についてのみ繰延税金増減メンバーから読み取るように、Pillar 2 勘定科目を構成できます。次の例では、繰延税引当から他の調整合計(TRCS_OtherTotal)をプルする方法について説明します。

1. ディメンション・ライブラリに移動し、次のように TRCS_TotalOtherDefTaxMovements 階層を展開します:

```

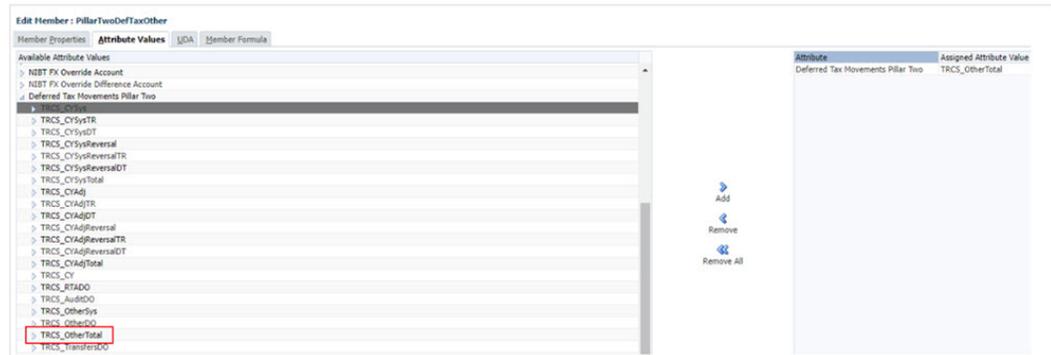
TRCS_PillarTwoAccounts
  TRCS_TotalGloBEIncome
  TRCS_TotalCoveredTax
    TRCS_TotalGloBEAdjforCoveredTax
  TRCS_TotalDefTaxRecast
    TRCS_TotalDefTax
      TRCS_TemporaryDifferencesTotal
        TRCS_TotalOtherDefTaxMovements
          PillarTwoDefTaxOther → Account created to pull the Other Adjustments Total from deferred tax
        TRCS_TotalOtherTaxAdj

```

2. 「追加」をクリックしてメンバーを作成し、このメンバーを次のように適切な繰延税金増減メンバーに関連付けます:

Note:

繰延税金増減 Pillar 2 属性には、繰延税金期末残高階層の子孫が事前移入されます。作成した新しいカスタム増減が自動的に表示されます。



- このメンバーを保存し、データベースをリフレッシュして変更をコミットします。
- TRCS_TotalOtherDefTaxMovements** の下に作成したメンバーを自動的に表示するように、「対象税金」フォームが設定されます
- 「対象税金」フォームを開き、「連結」を実行します。

Note:

Pillar 2 構成の繰延税金増減は、割り当てられた繰延税金増減メンバーの合計一時差異の値をプルします。

GloBE 所得および対象税金自動化の構成

調整勘定科目のグローバル・ルール、管轄ルールまたはエンティティ・ルールを設定できません。

次の点に注意してください:

- パーセントは+/- 100%に制限されます
- 論理は「プル」に制限されます
- ソース勘定科目が必要です。
- ソース増減: **TRCS_SourceBookClosing** (つまり、試算表締め、決算および期末帳簿基準 vs 税務基準の親)。空白のままにすると、これがデフォルトのソース増減になります。
- ソース・データ・ソース: **TRCS_SourcePreTax** (つまり、データ入力、管理対象入力および補足データを含むデータ・ソース合計の親)。空白のままにすると、これがデフォルトのソース・データのソース増減になります。
- さらに、データは複数 **GAAP** とシナリオの間、複数 **GAAP** またはシナリオ(あるいはその両方)から移動できます

Pillar Two GloBE Income Global Automation												
Scenario	Item	Period	Disable Config	Logic (Pillar Two)	Percentage (Automation)	Source Account (Pillar Two)	Source Movement (Pillar Two)	Data Source (Pillar Two)	Automation Source Multi-GAAP	Automation Target Multi-GAAP	Automation Source Scenario (Automation)	Automation Source Intercompany
Actual	FY21	P12		Enabled	100%	Net Income After Tax						
				Enabled								
				Enabled								
				Enabled		100%	Taxes					

Pillar 2 自動化は、税引当プロセスの税金自動化と同じように機能します。唯一の違いは、Pillar 2 自動化では、データ・ソースとして税引前または税金のいずれかをソースとして選択

する列があることです。アプリケーションでは最終的に、グローバル・ルール、管轄ルールおよびエンティティ・レベルのルール(エンティティ・レベルで格納されている)を組み合わせたセットが処理されます。エンティティに適用されるルールのセットを確認するには、エンティティ・レベルのルールを確認する必要があります。エンティティ・レベルのルールは、有効または無効になっているグローバル・ルール、管轄ルールおよびエンティティ・レベルのルールの組合せです。

仕組み: グローバル・ルールが設定されると、保存時に管轄およびエンティティ・レベルにコピーされます。管轄レベルで無効になっているグローバル・ルール、または無効にされてオーバーライドされたグローバル・ルールは、エンティティ・レベルにコピーされます。管轄ルールは、エンティティ・レベルで無効にしたり、無効にしてオーバーライドすることができます。

新しいエンティティ・ルールは、エンティティ・レベルで保存できます。ルール名を見ると、ルールのタイプ(グローバル、管轄、エンティティ)がわかります。必要に応じて、追加のルールをメタデータに追加することもできます。

Note:

Pillar 2 自動化ルールを使用せずに Pillar 2 を構成するには、「GloBE 所得」フォームおよび「対象税金」フォームにデータを直接入力できます。データを入力するには、POV を「エンティティ」、法定住所、「エンティティ通貨」およびエンティティ入力に設定する必要があります。

その他の勘定科目およびその他の勘定科目自動化の構成

レポート目的で、引当金の帳簿/税金勘定科目を Pillar 2 通貨および管轄に転送します。

例: 国レベルの現在の税金および繰延税金とグローバル・ミニマム税を組み合わせたレポート

1. 必要に応じて、「TRCS_TotalPillarTwoOtherAccounts」の下にメンバーを作成します。関連項目: [ディメンションの操作](#)および[メンバーの操作](#)

▶ TRCS_PillarTwoAccounts	Pillar Two accounts
▶▶ TRCS_TotalGloBEIncome	Total GloBE Income
▶▶ TRCS_TotalCoveredTax	Total Covered Tax
▶▶ TRCS_TopupTax	Top-up Tax
▶▶ TRCS_TotalPillarTwoOtherAccounts	Total Pillar Two Other Accounts
▶▶▶ PillarTwoNIBTAAdj	NIBT as Adjusted
▶▶▶ PillarTwoCurrTax	Current Tax Charge
▶▶▶ PillarTwoDefTax	Deferred Tax Charge

2. その他の勘定科目自動化ルールを設定します。調整勘定科目のグローバル・ルール、管轄ルールまたはエンティティ・ルールを設定できます。

次の点に注意してください:

- パーセントは+/- 100%に制限されます
- 論理は「プル」に制限されます
- ソース勘定科目が必要です。
- ソース増減: TRCS_SourceBookClosing (つまり、試算表締め、決算および期末帳簿基準 vs 税務基準の親)。空白のままにすると、これがデフォルトのソース増減になります。

- ソース・データ・ソース: TRCS_SourcePreTax (つまり、データ入力、管理対象入力および補足データを含むデータ・ソース合計の親)。空白のままにすると、これがデフォルトのソース・データのソース増減になります。
- さらに、データは複数 GAAP とシナリオの間、複数 GAAP またはシナリオ(あるいはその両方)から移動できます

例:

Pillar Two Other Accounts Global Automation ⓘ

Scenario Actual	Years FY21	Period P12	Disable Config	Logic (Pillar Two)	Percentage (Automation)	Source Account (Pillar Two)	Source Movement (Pillar Two)	Data Source (Pillar Two)	Automation Source Multi-GAAP	Automation Target Multi-GAAP	Automation Source Scenario (Automation)	Automation Source Intercompany
NIBT as Adjusted	Other Accounts Global Rule 1 (Pillar Two)	Enabled	Pull	100%	Net Income Before Tax	Total	Pre Tax Input					
Current Tax Charge	Other Accounts Global Rule 1 (Pillar Two)	Enabled	Pull	100%	Current Provision	Total	Tax					
Deferred Tax Charge	Other Accounts Global Rule 1 (Pillar Two)	Enabled	Pull	(100%)	Deferred Tax Expense - Federal	Total	Deferred Tax Expense					

3. 「ホーム」 → 「ライブラリ」に移動し、「Pillar 2」 → 「Pillar 2 その他の勘定科目」に移動し、連結を実行して、その他の勘定科目にプルするデータを表示します。

Pillar Two Other Accounts ⓘ

Scenario Actual	Years FY21	Period P12	Entity Operations	Consolidation Entity Input	Jurisdiction United States	Multi-GAAP Local GAAP	Currency Entity Currency
			Automated	Adjustment	Total		
Current Tax Charge			4,760,030		4,760,030		
Deferred Tax Charge			(1,057,900)		(1,057,900)		
NIBT as Adjusted			30,299,104		30,299,104		
☐ PillarTwoReporting			34,001,234		34,001,234		
☐ Total Pillar Two Other Accounts			34,001,234		34,001,234		

Pillar 2 グローバル税率の入力

「ライブラリ」 -> 「Pillar 2 管理」フォルダにある「Pillar 2 税率」フォームを使用して、グローバル Pillar 2 レートを入力します。

Pillar Two Tax Rate ⓘ

Scenario Actual	Years FY21	Period P12
		Pillar Two Tax Rate
Global Assumptions		15%

Pillar 2 データ・フローの管理

引当金、CbCR および Pillar 2 についてデータをロードする場合のエンティティ入力、エンティティ通貨および管轄(法定住所):

Pillar Two GloBE Income ⓘ

Scenario Actual	Years FY21	Period PI2	Entity Operations	Consolidation Entity Input	Jurisdiction United States	Multi-GAAP Local GAAP	Currency Entity Currency			
								Automated	Adjustment	Total
Net Income as per Book								11,564,554	20,000,000	31,564,554
Pillar Two Transfer Pricing Adjustments										
Pillar Two Allocation Adjustments										
☐ Total Book Adjustments										
☐ Total Net Income								11,564,554	20,000,000	31,564,554
Income Tax as per Book								18,734,540		18,734,540
☐ Profit Before Tax as Adjusted								30,299,094	20,000,000	50,299,094
Excluded (Received) Dividends (-)										
Excluded Equity Gain (-) / Loss (+)										
Revaluation Method Gain (-) / Loss (+)										
Gains (-) / Loss (+) from Dispositions										
Asymmetric Foreign Currency (FX) Gains (-) or Losses (+)										
Policy Disallowed Expenses (+)										
Prior Period Errors & Changes in Accounting Principles										
Accrued Pension Expenses (+)										
Shared Based Compensation (election)										
Realization Principle over Fair Value of Impairment Accounting										
Consolidated Accounting Treatment (election)										
Carry-back & Offsetting Gain From Immovable Property (election)										
Other Adjustments for Financial Services Businesses (industry specific)										
International Shipping Income Excluded (-) (industry specific)										
Gains (-) / Losses (+) from Transfers as part of 'GloBE Reorganisation'										
Intragroup Financing Expenses (+) without increase of Taxable Intragroup Income										

Pillar 2 の計算およびレポートのためにデータを変換する場合のエンティティ 合計、Pillar 2 通貨および Pillar 2 管轄:

Pillar Two GloBE Income ⓘ

Scenario Actual	Years FY21	Period PI2	Entity Total Pillar Two	Consolidation Entity Total	Jurisdiction United States USD	Multi-GAAP Local GAAP	Currency Pillar Two Currency	Automated	Adjustment	Total
Net Income as per Book								285,868,811	20,000,000	305,868,811
Pillar Two Transfer Pricing Adjustments										
Pillar Two Allocation Adjustments										
Total Book Adjustments										
Total Net Income								285,868,811	20,000,000	305,868,811
Income Tax as per Book								161,301,995		161,301,995
Profit Before Tax as Adjusted								447,170,807	20,000,000	467,170,807
Excluded (Received) Dividends (-)										
Excluded Equity Gain (-) / Loss (+)										
Revaluation Method Gain (-) / Loss (+)										
Gains (-) / Loss (+) from Dispositions										
Asymmetric Foreign Currency (FX) Gains (-) or Losses (+)										
Policy Disallowed Expenses (+)										
Prior Period Errors & Changes in Accounting Principles										
Accrued Pension Expenses (+)										
Shared Based Compensation (election)										
Realization Principle over Fair Value of Impairment Accounting										
Consolidated Accounting Treatment (election)										
Carry-back & Offsetting Gain From Immovable Property (election)										
Other Adjustments for Financial Services Businesses (industry specific)										
International Shipping Income Excluded (-) (industry specific)										
Gains (-) / Losses (+) from Transfers as part of 'GloBE Reorganisation'										
Intragroup Financing Expenses (+) without increase of Taxable Intragroup Income										

関連項目: [Pillar 2 対象税金の操作](#)

💡 Tip:

Pillar 2 フォーム・ページが空白の場合は、コンテキスト・メニューから **Pillar 2 自動化** を選択し、「すべての勘定科目の表示」を選択します。これにより、構成されている Pillar 2 勘定科目について空白の行がフォームに移入されます。

Pillar Two GloBE Income Global Automation ⓘ

Scenario Actual	Years FY21	Period PI2	Entity Total Pillar Two	Consolidation Entity Total	Jurisdiction United States USD	Multi-GAAP Local GAAP	Currency Pillar Two Currency	Automated	Adjustment	Total
Net Income as per Book										
Pillar Two Transfer Pricing Adjustments										

Disable Config	Logic (Pillar Two)	Percentage (Automation)
Consolidate		
Pillar Two Automation		Show All Accounts
Filter		

 **Note:**

Pillar 2 データを表示するための視点(POV)を設定するには:

1. POV バーで「メンバーの編集」(鉛筆)オプションをクリックします。
2. 「通貨」ドロップダウンをクリックし、「**メンバーの選択**」に続いて次のものを選択します:
 - エンティティ: Pillar 2 エンティティ
 - 連結: エンティティ 合計
 - 管轄: Pillar 2 管轄(例: 米国 USD)
3. 説明に従って前述のディメンション・メンバーについてメンバーを選択したら、「通貨」メンバーを **Pillar 2 通貨**として選択します。

Pillar 2 対象税金の操作

対象税金は、スコープ内エンティティの所得または損失に課せられる税金を指します。

Pillar Two Covered Tax ⓘ

Scenario Actual	Years FY21	Period P12	Entity Operations	Consolidation Entity Input	Jurisdiction United States	Multi-GAAP Local GAAP	Currency Entity Currency
				Automated	Adjustment	Total	
				4,760,711	0	4,760,711	
				4,760,711	0	4,760,711	
				2,373		2,373	
				39,050		39,050	
				30,072		30,072	
				(9,832)		(9,832)	
				1,714		1,714	
				(2,100)		(2,100)	
				(461,973)		(461,973)	
					24,000	24,000	
					2,000	2,000	
				(400,696)	26,000	(374,696)	
				(400,696)	26,000	(374,696)	
					(1,000)	(1,000)	
					(1,000)	(1,000)	
					1,000	1,000	
				(400,696)	26,000	(374,696)	
				114,289	(7,429)	106,860	
				(286,407)		(267,836)	
				4,474,304	18,571	4,492,875	

Pillar 2 ETR

Pillar 2 グローバル ETR は、対象税金の金額を、GloBEIncome に基づいて決定された所得の金額で除算することによって決定されます。

Pillar Two ETR ⓘ

Scenario Actual	Years FY21	Period P12	Entity Operations	Consolidation Entity Input	Jurisdiction United States	Multi-GAAP Local GAAP	Currency Entity Currency
		Total					
Total GloBE Income		67,616,742					
Total Covered Tax		4,492,875					
Pillar Two ETR		6.64%					

Pillar 2 トップアップ税

エンティティの ETR が Pillar 2 税率を下回る場合は、エンティティのトップアップ税のパーセンテージを計算する必要があります。これは、Pillar 2 税率から ETR を減算することによって計算されます(たとえば、ETR が 10%である場合、トップアップ税のパーセンテージは $15\% - 10\% = 5\%$ となります)。

トップアップ税% = 最小 Pillar 2 レート - エンティティの ETR

その後、トップアップ税のパーセンテージに管轄における合計所得を乗算してトップアップ税の金額が決定されます。

エンティティの合計所得は、GloBE 所得から実質ベースの所得除外額(つまり、有形資産および給与に基づいて除外される通常利益)を差し引いたものと等しくなります。

Pillar Two Top-Up Tax ⓘ

Scenario Actual	Years FY21	Period P12	Entity Operations	Consolidation Entity Input	Jurisdiction United States	Multi-GAAP Local GAAP	Currency Entity Currency
					Automated	Adjustment	Total
Total GloBE Income					47,615,742	20,001,000	67,616,742
Pillar Two Substance based income exclusion tangible assets					(3,410,631)		(3,410,631)
Pillar Two Substance based income exclusion employee costs					(1,124,041)		(1,124,041)
Total Substance Based Income Exclusion					(4,534,672)		(4,534,672)
GloBE Income Adjusted after Substance Based Income Exclusion					43,081,070	20,001,000	63,082,070
Pillar Two Tax Rate v ETR					8.36%	8.36%	8.36%
Top-up Tax					3,599,587	1,671,160	5,270,747
Pillar Two ETR					6.64%	6.64%	6.64%

計算の再キャスト

再キャストでは、一時差異勘定科目のデータが使用されます。次のことを行う必要があります:

1. 一時差異勘定科目を GAAP と法定および法定と税金の階層に追加します。
2. 税率スケジュールに対する法定税率を入力し、現在の年の増減を TRCS_CYADJ に追加します(データを入力するには、POV を「エンティティ」、法定住所、「エンティティ通貨」およびエンティティ入力に設定する必要があります)。
3. 選択した/すべての一時差異勘定科目を含むように対象税金を構成します。

「対象税金」スケジュールによって、現在の年のレートが最小税率を上回っているかどうかを確認され、調整の再キャストが計算されます。

Pillar 2 ルールの操作

関連トピック:

- レポート通貨換算
- 構成のコピー

レポート通貨換算

指定されたレポート通貨で Pillar 2 データを表示するには、次の 2 つのルールを使用して、Pillar 2 管轄に対してレポート通貨換算を実行します：

Table 29-1 レポート通貨換算のルール

ルール	タスク
Pillar 2 通貨からレポート通貨への換算の強制	「ルール」カードからこのルールを実行できます。
Pillar 2 通貨からレポート通貨への換算	「ルール」カードからこのルールを実行できます。

これらのルールによって、すべての Pillar 2 管轄が指定のレポート通貨に換算されます。

構成のコピー

構成ルールのコピーを使用して、Pillar 2 自動化ルールおよび Pillar 2 税率をコピーします。

The screenshot displays the 'Copy Configuration' window. At the top, there are navigation links: 'Copy Configuration', 'Copy Configuration by Entity', and 'Rollover by Entity'. The main title is 'Copy Configuration'. On the right, there are buttons for 'Select All', 'Run', and 'Close'. Below the title, it says 'Select configuration(s) to be copied from source to target'. A list of configuration categories is shown with checkboxes: 'Tax automation rules', 'Interim Provision Loss Entities', 'TAR Automation rules', 'Current tax payable automation rules', 'NOL Automation Rules', 'Pillar Two Automation Rules and Tax Rate' (highlighted with a red box), 'Cbcr automation rules', and 'CbCR Filing'. Below this list are two boxes: 'Source' (Define a slice of data to be copied) and 'Target' (Define where the source data will be copied). At the bottom, there are three input fields: '*Enter Scenario', '*Enter Year', and '*Enter Period', each with a small icon to its right.

セキュリティに関する考慮事項

- 管理/パワー・ユーザーは、データ入力フォームに対する読取りおよび書込みアクセス権を持っています
- 参照者は、すべてのフォームに対する読取りアクセス権を持っています

- パワー・ユーザーは、管理(つまり、構成)フォームに対する読取りアクセス権を持っています

Table 29-2 Pillar 2

Pillar 2	管理/パワー・ユーザー	参照者
Pillar 2 トップアップ税および ETR	READWRITE	READ
管轄別 Pillar 2 トップアップ税	READWRITE	READ
Pillar 2 対象税金	READWRITE	READ
Pillar 2 ETR	READWRITE	READ
Pillar 2 GloBE 所得	READWRITE	READ
Pillar 2 トップアップ税	READWRITE	READ

Table 29-3 Pillar 2 管理

Pillar 2 管理	管理/パワー・ユーザー	参照者
Pillar 2 対象税金エンティティ 自動化	READWRITE	READ
Pillar 2 対象税金グローバル 自動化	READWRITE	READ
Pillar 2 対象税金管轄 自動化	READWRITE	READ
Pillar 2 GloBE 所得エンティティ 自動化	READWRITE	READ
Pillar 2 GloBE 所得グローバル 自動化	READWRITE	READ
Pillar 2 GloBE 所得管轄 自動化	READWRITE	READ
Pillar 2 管轄 自動化	READWRITE	READ
Pillar 2 税率	READWRITE	READ
Pillar 2 税金詳細	READWRITE	READ

Table 29-4 ルール

Pillar 2	管理/パワー・ユーザー	参照者
PillarTwoAutomationAddRule	LAUNCH	READ
PillarTwoAutomationDeleteRule	LAUNCH	READ
PillarTwoAutomationAddBlankRules	LAUNCH	READ
TranslateFromPillarTwoCurrency	LAUNCH	READ
ForceTranslateFromPillarTwoCurrency	LAUNCH	READ

アーティファクトの移行

関連トピック

- [アーティファクトのエクスポート](#)
- [アーカイブのアップロード](#)

アーティファクトのエクスポート

アーティファクトをエクスポートして、環境間での(テスト環境から本番環境など)アプリケーションの移行に使用できるバックアップを作成します。

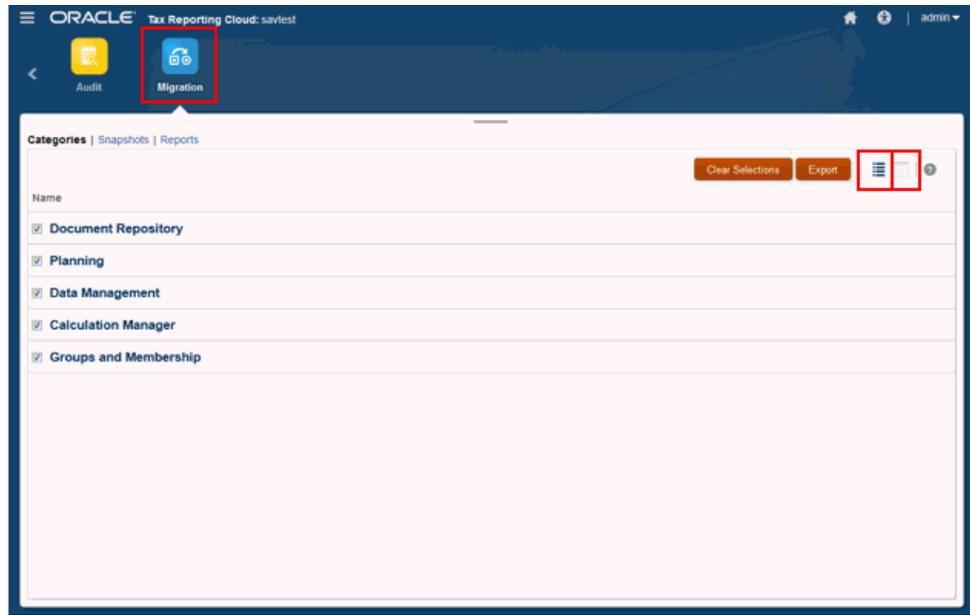
エクスポートするアーティファクトを選択します。サービスのすべてのアーティファクト、または次のコンポーネントに属するアーティファクトの組合せをエクスポートできます。

- Planning
- データ管理
- Calculation Manager
- グループとメンバーシップ
- レポート

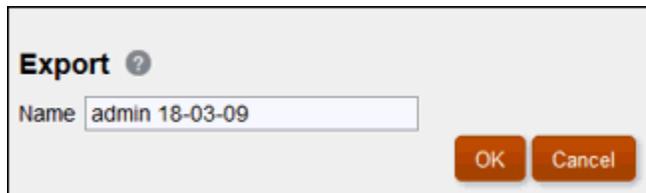
エクスポート・プロセスで作成するスナップショットは 60 日間保存され、それ以後はサービスから自動的に削除されます。**クローン・スナップショット**機能(環境をクローニングするための EPM 自動化スクリプトを記述する代替機能)の詳細は、*Oracle Enterprise Performance Management Cloud 移行の管理ガイド*の[アーティファクト更新レポートの生成](#)を参照してください。

アーティファクトをエクスポートするには:

1. ホーム・ページで「ツール」、「移行」の順に選択します。



2. 「カテゴリ」タブを選択します。
3. 「名前」で、エクスポートするアーティファクトを選択します。「すべて選択」または「選択項目のクリア」を選択できます。
4. 「エクスポート」をクリックします。



5. 「エクスポート」ダイアログ・ボックスで「OK」をクリックします。
デフォルトのエクスポート・フォルダ名を変更できます。フォルダ名には、ネイティブ・オペレーティング・システムでサポートされている文字のみを使用してください。たとえば、Windows ではフォルダ名にコロンを使用できません。
6. 移行ステータス・レポートを確認します。

Migration Status Report				Refresh	Close
epm_default_cloud_admin					
Source	Destination		Start Time	December 19, 2016 22:29:1	
Shared Services	epm_default_cloud_admin 16-12-2		Completed Time		In Progress
Loading			Duration		
Reporting and Analysis	epm_default_cloud_admin 16-12-2				
Not Started					
TRCS	epm_default_cloud_admin 16-12-2				
Not Started					
Calculation Manager	epm_default_cloud_admin 16-12-2				
Not Started					
FDM Enterprise Edition	epm_default_cloud_admin 16-12-2				
Not Started					
demoadmin					
Source	Destination		Start Time	December 19, 2016 19:53:1	
Shared Services	TRCS_all_backup_20161219/HSS		Completed Time	December 19, 2016 19:56:1	Completed
Reporting and Analysis	TRCS_all_backup_20161219/RnA		Duration	00:02:46	
TRCS	TRCS_all_backup_20161219/HP-				
Calculation Manager	TRCS_all_backup_20161219/CAL				
FDM Enterprise Edition	TRCS_all_backup_20161219/FDM				
epm_default_cloud_admin					
Source	Destination		Start Time	December 19, 2016 10:43:2	
TRCS All_adc01jqt_16-12-19/HSS	Shared Services		Completed Time	December 19, 2016 10:51:1	Completed
TRCS All_adc01jqt_16-12-19/RnA	Reporting and Analysis		Duration	00:07:54	
TRCS All_adc01jqt_16-12-19/HP-	TRCS				
TRCS All_adc01jqt_16-12-19/CAL	Calculation Manager				
TRCS All_adc01jqt_16-12-19/FDM	FDM Enterprise Edition				
epm_default_cloud_admin					
Source	Destination		Start Time	December 19, 2016 09:41:0	
Shared Services	Artifact Snapshot/HSS-Shared Ser		Completed Time	December 19, 2016 09:41:4	Completed
Reporting and Analysis	Artifact Snapshot/RnA-Reporting a		Duration	00:00:43	
Calculation Manager	Artifact Snapshot/CALC-Calculatio				
FDM Enterprise Edition	Artifact Snapshot/FDMEE-FDM En				
epm_default_cloud_admin					
Source	Destination		Start Time	December 19, 2016 09:20:1	

7. 「スナップショット」タブを選択し、エクスポートされたアーティファクトを含むフォルダにアクセスします。[アーカイブのアップロード](#)を参照してください。

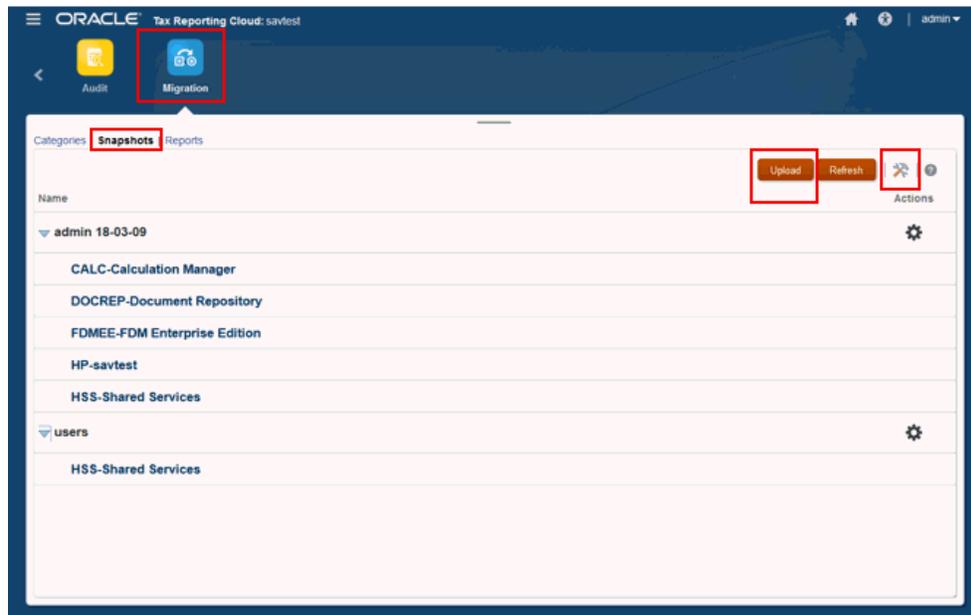
アーカイブのアップロード

このオプションを使用して、ZIP ファイル(データ、メタデータ、ルール定義、ディメンション定義、マップされたトランザクション、バックアップ・スナップショットなどを含む)をローカル・コンピュータからアプリケーションにアップロードします。同じ名前のファイルがアプリケーションに存在する場合は、ZIP ファイルをアップロードできません。

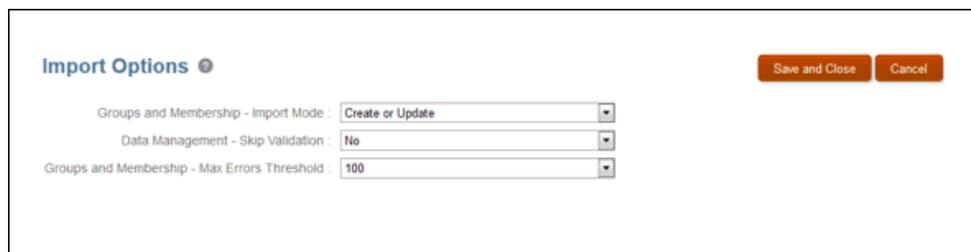
アプリケーションにアップロードするファイルは 60 日間保存され、それ以後は自動的に削除されます。

アーカイブをアップロードするには:

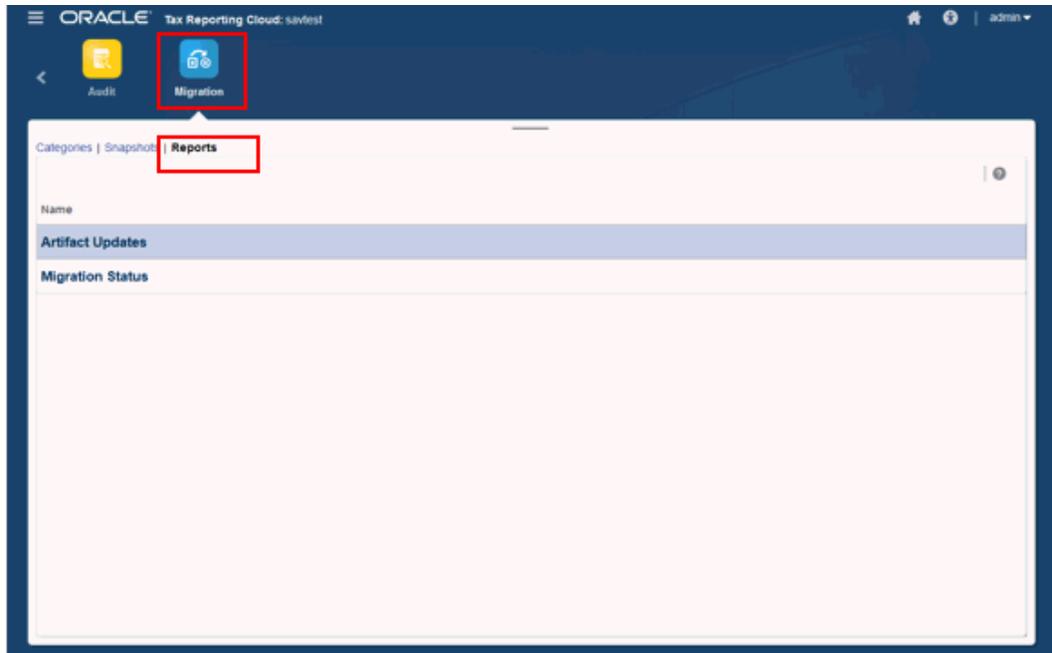
1. ホーム・ページで「ツール」、「移行」の順に選択します。
2. 「スナップショット」タブを選択します。



3. 環境にアップロードするスナップショットを選択します。
4. 「移行オプション」  をクリックします。
5. 「インポート・オプション」ダイアログ・ボックスで、アップロードに使用するオプションを選択し、「保存して閉じる」をクリックします。



6. アップロードの場所を参照し、「アップロード」をクリックします。
7. アップロードが完了したら、「レポート」タブを選択し、次の情報を確認します。
 - **アーティファクト更新** - アーティファクト・オプション、開始日、終了日およびカテゴリを入力し、「レポートの実行」をクリックします。結果のレポートを確認します。
 - **移行ステータス** - 「移行ステータス」レポートをクリックし、結果とレポートのステータスを確認します。



承認ユニット階層の管理

関連トピック

- [承認ユニット階層の作成](#)
- [承認ユニット階層の編集](#)
- [承認ユニット階層の使用状況の表示](#)
- [承認ユニット階層の同期](#)
- [承認ユニット階層の削除および名前変更](#)
- [承認ユニット階層のエクスポート](#)
- [承認ユニット階層のインポート](#)

承認ユニット階層の作成

承認ユニット階層には、確認プロセスの対象となるエンティティが含まれます。承認ユニットは、シナリオ、年、期間およびエンティティの組合せで構成されます。

承認ユニット階層を作成、変更または削除するには、サービス管理者である必要があります。

承認ユニット階層についてさらに学習するには次のビデオをご覧ください。



[承認ユニット階層の管理](#)

承認ユニット階層を作成するには:

1. 「ナビゲータ」アイコンをクリックします。
2. 「ワークフロー」で「承認ユニット」をクリックします。
3. 「作成」をクリックします。
4. 承認名、承認オプションおよびテンプレートで階層を設定します。
[承認ユニット階層の設定](#)を参照してください。
5. 承認プロセスに含めるメンバーを選択します。
[承認ユニット階層のメンバーの選択](#)を参照してください。
6. 承認プロセスの各ステージの所有者と確認者を割り当て、承認ユニットの移動パスを作成します。
[承認ユニットの所有者と確認者の割当て](#)を参照してください。
7. 「保存」をクリックします。

承認ユニット階層の設定

デフォルト承認ユニット階層割当て

アプリケーションの作成時、地域合計という名前の承認ユニット階層が作成されます。この承認ユニット階層には、地域合計階層の下にあるすべてのエンティティが含まれます。この承認ユニット階層に割り当てられる承認テンプレートは「連結」です。このテンプレートは、ロックおよびロック解除の目的で使用されます。

既存のアプリケーション

アプリケーション内の期間のロックをすでに開始済の場合、ロックを続行する残りの期間に地域合計承認ユニット階層を引き続き使用できます。

ただし、プロセス管理で使用可能な確認プロセスを使用して開始する場合、次のいずれかを実行できます。

- "連結 - ボトム・アップ"という名前の新規承認テンプレートを使用するように、既存の地域合計承認ユニット階層を変更します
- 確認プロセス用に、新規承認ユニット階層を作成し、承認ユニット階層に含めるエンティティを割り当てます。

承認プロセス用の新しい承認テンプレートの「連結-ボトム・アップ」を使用して、新しい承認ユニット階層を作成することをお勧めします。

新規アプリケーション

新規アプリケーションを作成している場合、または期間をロックしていない場合、新規承認テンプレート"連結 - ボトム・アップ"を使用するようにデフォルトの地域合計承認ユニット階層を変更できます。いずれかの期間がすでに開始済の場合、ワークフローで新規承認テンプレートが使用されるように確認プロセスを再開する必要があります。

承認ユニット階層を設定するには:

1. 「ナビゲータ」アイコンをクリックします。
2. 「ワークフロー」で「承認ユニット」をクリックします。
3. 次のいずれかを実行します:
 - 新しい階層を作成するには、「作成」をクリックします。
 - 既存の階層を編集するには、階層を選択して「編集」をクリックします。
4. 「承認ディメンション」を選択します。
5. 「階層名」で、承認ユニット階層名を指定します。
6. オプション: 説明を入力します。
7. 「承認の使用可能」で、次を選択します。
 - **すべて:** すべてのエンティティを承認プロセスに追加します
 - **カスタム:** 承認ユニットとして指定されている親エンティティおよびエンティティの世代レベルが含まれます。選択に基づいて、必要なエンティティが階層に追加されます。
 - **なし:** エンティティは承認ユニットとして自動的に含められません。階層に含めるエンティティを手動で選択できます。

8. 「承認テンプレート」から、テンプレートを選択します。
9. 「キューブ」の場合、デフォルト設定の「Consol」のままにします。
10. 次のいずれかを実行します:
 - 「次」をクリックするか、「プライマリおよびサブ階層の選択」を選択して、承認ユニットのメンバーを選択します(承認ユニット階層のメンバーの選択を参照)。
 - 「保存」、「OK」の順にクリックして、変更を保存し、承認ユニット階層を閉じます。

承認ユニット階層のメンバーの選択

承認ユニット階層のメンバーを選択するには:

1. 次のいずれかを実行します:
 - 「承認ディメンション」から、「次」をクリックするか、「プライマリおよびサブ階層の選択」を選択して、承認ユニット階層の定義を続行します。
 - 「ワークフロー」を選択してから、「承認ユニット」を選択して承認ユニット階層を編集します。
- ノート:
- 承認ユニット階層メンバーの選択中ならどの時点でも、「デフォルトの階層にリセット」をクリックして、それを「承認ディメンション」ページで定義したデフォルトのメンバーシップにリセットできます。
 - 共有メンバーはプライマリ階層内に表示されますが、代替階層内に表示されません。たとえば、エンティティ E1 が、エンティティ・ディメンション内の"プライマリ"階層である親 P1 の下にあり、E1 がエンティティ・ディメンション内の代替階層内の別の P2 の下でも定義されている場合、承認ユニット階層に含める E1 を選択しようとすると、P1 の下にある E1 しか表示されません。P2 を展開した場合、E1 は表示されません。
2. 承認ユニット階層内のエンティティを表示する方法を定義します。
 - 表示を展開するには、右クリックして「展開」を選択します。
 - 表示を縮小するには、右クリックして「縮小」を選択します。
 - 選択可能なエンティティをすべて表示するには、「すべてのエンティティ」を選択します。
 - 以前に有効化された承認ユニットのみを表示するには、「承認ユニット」を選択します。
 - 「検索」では、「名前」、「別名」、または「両方」を選択します。エンティティを検索するために「検索」に名前の一部または全部を入力し、階層で「上方向に検索」または「下方向に検索」をクリックします。
 - 複数ページの承認ユニット階層内でページ間を移動するには、「ページ」にページ番号を入力して「実行」をクリックするか、「開始」(最初のページ)、「前へ」(前のページ)、「次」または「終了」(最後のページ)をクリックします。
 3. オプション: 承認プロセスの対象としてのデフォルト設定に含まれない承認ユニットの場合、承認ユニット名の左側にあるボックスを選択することで、これを承認プロセスの対象に含めることができます。
 4. オプション: 承認ユニット名を右クリックして承認プロセスのサブ階層メンバーを定義し、「含める/除外する」の1つのオプションを選択します。

- **子を含む:** 承認ユニットの子を含めます。
 - **メンバーを含む:** 承認ユニットのみを含め、子孫は含めません。
 - **すべての子孫を含む:** 承認ユニットのすべての子孫を含めます。
 - **世代を含む:** 承認ユニットの 1 つ以上の世代を含めます。プロンプトが表示された後、含める世代を指定します。
 - **子を除外:** 承認ユニットの子を除外します。
 - **メンバーを除外:** 承認ユニットのみを除外し、子孫は除外しません。
 - **すべての子孫を除外:** 承認ユニットのすべての子孫を除外します。
 - **世代を除外:** 承認ユニットの世代を除外します。プロンプトが表示された後、除外する世代を指定します。
5. 次のいずれかを実行します:
- 「次」をクリックするか、「所有者の割当て」を選択して、承認ユニット所有者を指定します。
 - 「保存」、「OK」の順にクリックして、変更を保存し、承認ユニット階層を閉じます。

承認ユニットの所有者と確認者の割当て

承認ユニットの所有者は、承認ユニットの親から継承されます。承認ユニットの確認者も継承されます。承認ユニットの所有者と確認者は、承認ユニットから継承される者とは別に指定できます。

所有者を割り当てる場合、「所有者を対応する承認グループ・メンバーにコピー」オプションがデフォルトで有効になっています。このオプションでは、すべてのフェーズに同じ所有者を割り当てることができます(該当する場合)。フェーズごとに異なる所有者にする場合は、エンティティの所有者情報を入力する前にこのオプションを選択解除できます。

承認ユニットの所有者および確認者を割り当てるにはサービス管理者である必要があります。

- **所有者の場合、1 人のユーザーまたは 1 つのグループを承認ユニットの所有者として割り当てる必要があります。**所有者は、承認ユニット階層の最上位エンティティに割り当てられている必要があります。
- **確認者の場合、1 人以上のユーザーまたは 1 つ以上のグループを承認ユニットの確認者として割り当てることができます。**

個別ユーザーを確認者として選択する場合、すべてのユーザーが承認アクションを実行する必要があり、承認はユーザーが入力した順番に従う必要があります。グループ(複数可)を確認者として選択する場合、グループ内のユーザーは確認者になることができ、次のレベルに移行できます。

承認ユニットの所有者と確認者を割り当てるには:

1. すべてのフェーズに同じ所有者を割り当てない場合は、「所有者を対応する承認グループ・メンバーにコピー」オプションを選択解除します。
2. 次のいずれかを実行します:

- 「**プライマリ・メンバーの選択**」タブまたは「**プライマリおよびサブ階層の選択**」タブから、「**次**」をクリックするか、「**所有者の割当**」タブを選択して、承認ユニット階層の定義を続行します。
 - 「**ワークフロー**」を選択してから、「**承認ユニット**」を選択して承認ユニット階層を編集します。
3. 承認ユニットを選択し、「**所有者**」で「**所有者の選択**」アイコンをクリックして所有者を検索し選択します。
1つの承認ユニットに割り当てることができる所有者は1人のみです。ユーザーまたはグループのいずれかが所有者になることができます。「**ユーザー**」タブを選択し、個別のユーザーを所有者として割り当てます。「**グループ**」タブを選択し、グループを所有者として割り当てます。
 4. 「**確認者**」で、「**検索**」をクリックし、承認ユニット確認者を選択します。
確認者には、個々のユーザー、単一のグループまたは複数のグループを指定できます。「**ユーザー**」タブを選択し、個別ユーザーを確認者として割り当てます。「**グループ**」タブを選択し、単一のグループまたは複数のグループを確認者として割り当てます。

ノート:

確認者が個別ユーザーの場合、確認者に承認ユニットを確認させる順序で確認者を選択します。リスト内の最初の確認者が、承認ユニットに対して最初に作業を行うユーザーです。最初の確認者が承認ユニットを上位へ移動すると、2番目に選択した確認者が承認ユニット所有者になり、それ以降も、作成した確認者のリストに従って順番に確認が行われます。

5. 「**移動パス**」で、 をクリックしてエンティティの承認ユニットの移動パスを表示し、それが正しいかどうかを確認して、エラーがあれば修正します。
承認およびロック対象のエンティティの場合、そのエンティティは、移動パス内を移動して、そのパスの最後の所有者または確認者に到達している必要があります。移動パスの最後の所有者/確認者のみがエンティティを承認またはロックできます。
6. **オプション:** 「**ユーザーに通知**」で、「**検索**」をクリックして、承認アクションが承認ユニットに対して実行されたときに通知するユーザーを選択します。
通知を受信するには、通知を受信するユーザーが電子メール ID を設定し、「**ユーザー・プリファレンス**」内の承認通知を有効にする必要があります。*Oracle Financial Consolidation and Close Cloud* の操作の通知の電子メールの設定に関する項を参照してください。
7. **オプション:** 他の承認ユニットについてこれらのステップを繰り返し、継承された所有者または確認者を変更します。
8. 「**保存**」をクリックして作業を保存し、続行するか、「**OK**」をクリックして作業を保存し、承認ユニット階層を閉じます。

シナリオへの承認ユニット階層の割当て

承認ユニットを定義すると、承認ユニット階層を特定のシナリオ、年および期間の組合せに割当てできます。メタデータ内で承認が有効なシナリオのみが選択可能です。

ノート:

1 つの承認ユニット階層のみを特定のシナリオ/年/期間に割り当てます。複数の承認ユニット階層を同じシナリオ/年/期間に割り当てることはできません。

アプリケーションの作成時に、地域合計承認ユニット階層が自動的に作成され、実績シナリオの使用可能な年および期間がすべて割り当てられることに注意してください。新規承認ユニット階層を作成していて、地域合計にすでに割り当て済のシナリオ/年/期間を割り当てる場合、シナリオ/年/期間エントリを地域合計から先に削除してから、新規承認ユニット階層に追加することをお勧めします。

承認ユニット階層をシナリオ、年および期間の組合せに割り当てるには:

1. 「ナビゲータ」アイコン  をクリックします。
2. 「ワークフロー」で「承認ユニット割当て」をクリックします。
3. シナリオ、年および期間の割当てを追加します。
 - a. 承認ユニットの「アクション」列で  をクリックします。
 - b. 「シナリオ」列のドロップダウンから、承認ユニット階層に関連付けるシナリオを選択します。
 - c. 「年」列のドロップダウンから、承認ユニット階層に関連付ける年を選択します。
 - d. 「期間」列のドロップダウンから、承認ユニット階層に関連付ける期間を選択します。

実績、FY19、1月、2月、3月など、複数の期間を一度に選択できます。
 - e. 「OK」をクリックします。

新規割当て行が表示されます。

ヒント:

割当てを削除するには、「削除」  をクリックします。

4. 「保存」をクリックし、割当てを保存して続行します。

承認ユニット階層の編集

承認ユニット階層を編集するには、サービス管理者である必要があります。

承認階層を編集するには:

1. 「ナビゲータ」アイコン  をクリックします。
2. 「ワークフロー」で「承認ユニット」をクリックします。
3. 承認ユニット階層を選択して、「編集」をクリックします。

4. 変更を行うための適切なタブを選択します。
 - **承認ディメンション**
承認ユニット階層の設定を参照してください。
 - **プライマリおよびサブ階層の選択**
承認ユニット階層のメンバーの選択を参照してください。
 - **所有者の割当て**
承認ユニットの所有者と確認者の割当てを参照してください。
 - **使用状況**
承認ユニット階層の使用状況の表示を参照してください。
5. 完了後、「保存」をクリックします。

承認ユニット階層の使用状況の表示

承認ユニット階層には、シナリオ、年および期間の割当て、データ検証ルールなど、フォームに定義された依存関係がある可能性があります。承認ユニット階層に依存関係がある場合、その依存関係が削除されるまで階層は削除できません。「使用状況」タブに、承認ユニット階層が表示されるため、必要に応じて依存関係を参照および削除できます。

承認ユニット階層の使用状況を表示するには:

1. 「ナビゲータ」アイコンをクリックします。
2. 「ワークフロー」で「承認ユニット」をクリックします。
3. 承認ユニット階層を選択して「編集」をクリックし、「使用状況」を選択して、承認ユニット階層の依存関係を表示します。
4. 「フォーム」を選択して、フォームで関連付けられたデータ検証ルールを表示するか、「承認ユニット割当て」を選択して、関連付けられたシナリオ割当てを表示します。
 - データ検証ルールが関連付けられている場合、フォームごとにリストされます。リンクをクリックすると、フォームが新しいタブに編集モードで表示されます。その後、ルールを更新または削除して、階層から関連付けを解除できます。
 - シナリオ、年および期間の組合せが関連付けられている場合、シナリオごとにリストされます。リンクをクリックすると、割当てが新しいタブに表示されます。その後、割当てを削除して、階層から関連付けを解除できます。
5. 依存関係を削除する場合、「使用状況」タブの「リフレッシュ」をクリックしてリストをリフレッシュします。
6. 承認ユニット階層を削除する場合、すべての依存関係が削除されるまでこれらのステップを繰り返します。

承認ユニット階層の同期

承認ユニット階層で使用されているディメンション・メンバーを追加、削除または変更する場合、影響を受ける承認ユニット階層をこの変更と同期させる必要があります。承認ユニット階層のリストを表示する場合、各承認ユニット階層のエントリには、最新の変更が承認ユニット階層に反映されているかどうかが表示されます。この手順を使用して、承認ユニット階層をディメンション・メンバーの変更と同期させます。

 ノート:

ディメンション・メンバーを追加する場合、ディメンション・メンバーが承認ユニットとして追加されるのは、承認ユニット階層の組込みルールの基準をこれらが満たす場合のみです。たとえば、追加したエンティティが第 4 世代のエンティティであるときに、第 1 世代から第 3 世代までが承認ユニットであると組込みルールに指定されている場合、エンティティは承認ユニットとして追加されません。ただし、このエンティティが第 3 世代のメンバーである場合は、承認ユニット階層が次回に編集、保存または同期されるときに、承認ユニットとして追加されます。

承認ユニット階層を変更と同期させるには:

1. 「ナビゲータ」アイコン  をクリックし、「ワークフロー」で、「承認ユニット」をクリックします。
2. 「同期済」列では、承認ユニット階層に次のようなラベルが付きます。
 - **同期済**-変更は承認ユニット階層と同期されます
 - **未同期**-変更は承認ユニット階層と同期されません
 - **user によってロック済**-ユーザーが承認ユニット階層を編集または同期中です

 ノート:

承認ユニット階層リストを表示した後、ユーザーによって承認ユニット階層の編集または同期が開始された場合、承認ユニット階層リストでは、この承認ユニット階層について"ロック済"とは表示されません。この承認ユニット階層を同期しようとしても同期は行われず、編集集中であることを示すエラー・メッセージが表示されます。

3. 「未同期」としてリストされている承認ユニット階層を選択してから、「同期」をクリックします。

承認ユニット階層に変更が適用され、次に、承認ユニット階層に定義されている組込みルールに従って承認ユニットのリストが更新されます。アプリケーション内のすべての承認ユニット階層が同期され、エンティティが複数の階層に属している場合の競合が回避されます

 ノート:

別のユーザーによる編集または同期中である承認ユニット階層を変更と同期させることはできません。

4. 同期プロセスのステータスを表示するには、ジョブ・コンソールに移動します。ジョブ・リストには、処理中の各承認ユニット階層のステータスおよびエラーの詳細が含まれています。

承認ユニット階層の削除および名前変更

承認ユニット階層が、データ検証ルールやシナリオ割当てにより参照されていない場合には削除できます。「使用状況」タブには、階層を参照するオブジェクトが表示されます(それらは必要に応じて階層との関連付けを解除できます)。

承認ユニット階層の名前を変更することもできます。承認ユニット階層の名前を変更しても、それを参照するオブジェクトには影響しません。

承認ユニット階層の削除または名前変更を行うには:

1. 「ナビゲータ」アイコンをクリックします。
2. 「ワークフロー」で「承認ユニット」をクリックします。
3. 次のいずれかを実行します:
 - 削除するには、削除する承認ユニット階層を選択し、「削除」をクリックします。
 - 名前を変更するには、名前を変更する承認ユニット階層を選択し、「名前変更」をクリックして新しい名前を入力します。
4. 「OK」をクリックします。

承認ユニット階層のエクスポート

承認ユニット階層をエクスポートする際には、定義および割当て情報などの承認ユニット階層情報を格納するファイルを作成します。このファイルを作成した後、その内容を既存の承認ユニット階層にコピーできます([承認ユニット階層のインポート](#)を参照)。

承認ユニット階層をエクスポートするには:

1. 「ナビゲータ」アイコンをクリックし、「ワークフロー」で、「インポートおよびエクスポート」をクリックします。
2. 「承認ユニット階層のエクスポート」を選択します。
3. 「既存の承認ユニット階層名」で、エクスポートする承認ユニット階層を選択します。
4. 「OK」をクリックします。
5. 「保存」ダイアログ・ボックスが表示されたら、エクスポート・ファイルを選択した場所に保存します。
6. 「エクスポート」または「完了」をクリックします。「エクスポート」ではアクションが実行され、「完了」ではダイアログ・ボックスが閉じられます。

承認ユニット階層のインポート

承認ユニット階層には、定義および割当て情報などの承認ユニット階層インポート・ファイルのコンテンツを移入できます。このインポート・ファイルは、既存の承認ユニット階層をエクスポートした結果です。[承認ユニット階層のエクスポート](#)を参照してください。

承認ユニット階層情報をインポートしても、承認ユニット階層は作成されません。エクスポート・ファイルから移入された承認ユニット階層が存在し、少なくともインポート前の名前を持っている必要があります。インポート・プロセスでは、最初に承認ユニット階層のすべ

でのメンバーが削除され、ロード・ファイルで新規メンバーとして指定された各メンバーが追加される置換モードが常に使用されます。

 ノート:

承認ユニット階層のロードでは、既存のメンバーが入力ファイルで指定されていないならばそのメンバーおよびその子が階層から削除されます。

承認ユニット階層をインポートするには:

1. 「ナビゲータ」アイコン  をクリックし、「ワークフロー」で、「インポートおよびエクスポート」をクリックします。
2. 「承認ユニット階層のインポート」を選択します。
3. 「既存の承認ユニット階層名」で、エクスポートした情報を受け取る承認ユニット階層を選択します。

 ノート:

インポート後の承認ユニット階層には、移動パスを決定するために定義されている所有者、確認者およびルールが追加されます。

承認ユニット階層がすでに開始されていて、割当て済エンティティへの変更が含まれている可能性のある承認ユニット階層をインポートすると、エラーが発生します。承認ユニット階層ファイルをインポートする前に、階層を「未開始」ステータスにリセットする「除外」を実行して、承認ユニット階層が開始されていないことを確認してください。

4. 「所有者を含む承認ユニット階層」で「参照」をクリックし、インポートするエクスポートされた承認ユニット階層ファイルを選択します。
5. 「OK」をクリックします。
6. 「インポート」または「完了」をクリックします。「インポート」ではアクションが実行され、「完了」ではダイアログ・ボックスが閉じられます。

インポートに成功しましたというメッセージが表示された場合は、エクスポート済ファイル内の承認ユニット階層情報は、「既存の承認ユニット階層名」で選択した承認ユニット階層に正常にコピーされたことになります。

「インポートに失敗しました。一部のアイテムがインポートされませんでした。」というメッセージが表示された場合は、「詳細」をクリックしてログ・ファイルを表示します。エラーを修正し、承認ユニット階層のインポートを再試行します。

承認プロセスの管理

管理者は、承認ユニット階層の設定、特定のシナリオ、年および期間への承認ユニット階層の割当て、検証ルールの設定および確認プロセスの開始など、承認プロセスを管理します。

[承認プロセスの開始](#)を参照してください。

承認プロセス中、管理者は、承認ユニット階層内の各エンティティのステータスをモニターし、これらのエンティティの承認アクションを実行できます。「プロセス・ステータス」は管理者のみが使用できます。パワー・ユーザーやユーザーなど、他のユーザーは、ホーム・ページの「承認」カードから承認アクションを実行します。*Oracle Tax Reporting Cloud* の操作ガイドのデータの確認および承認を参照してください。

「プロセス・ステータス」ページにアクセスするには:

1. 「ナビゲータ」アイコン  をクリックします。
2. 「ワークフロー」で「承認の管理」をクリックします。
3. 「シナリオ」、「年」および「期間」から、有効なシナリオ、年および期間を選択します。
4. 「実行」をクリックします。
5. 「表示」メニューから、「プロセス・ステータス」を選択します。

承認プロセスの概要

管理者は、承認プロセスを設定して、データの所有権を移動したり、確認制御を実現したり、データ・プライバシーを保証したりできます。

確認の目的のため、データは承認ユニットに編成されます。承認ユニットは、特定のシナリオ、年、期間およびエンティティを持つデータを組み合わせたものです。例:

- Actual/FY18/Jan/Massachusetts
- Budget/FY19/Feb/New York

承認プロセスは、一般的に次のステップに従います。

- 管理者は承認ユニット階層を設定します。
- 管理者は、シナリオ、年および期間の組合せを承認ユニット階層に割り当てます。
- 管理者は、承認プロセスを開始します。
- 所有者と確認者は、移動パスに応じて、承認ユニットを上位へ移動します。
- 承認階層の最後の確認者が、承認ユニットを承認します。ステータスが「承認済」に変更されます。承認ユニットが「承認済」になった後は、それに変更を加えることはできません。
- 管理者は、オプションで、期間をクローズする前にエンティティをロックできます。

承認の有効化

承認プロセスを使用する前に、メタデータ・ファイルのシナリオ・ディメンションの承認を有効にする必要があります。「承認に使用可能」オプションを有効にした場合、シナリオが「承認ユニット割当て」画面で選択可能になります。

承認を有効にするには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**概要**」をクリックします。
2. 「**ディメンション**」をクリックし、「**シナリオ**」ディメンションを選択します。
3. 「**メンバー・プロパティの編集**」をクリックします。
4. 「**承認に使用可能**」を選択します。
5. 「**保存**」をクリックします。

CbCR のための個別承認の設定

国別レポートを使用する場合、当期引当と CbCR の両方のキューブを同時にロックせずに、連結したり、個別にロックできるようにするには、個別のシナリオを作成する必要があります。

2つのシナリオを作成する必要があります。

- **Consol** キューブの場合、帳簿勘定科目、FX レートおよび税率は実績などの税引当シナリオに格納されます。
- **CbCR** キューブの場合、CbCR 固有のデータは **Actual_CbCR** などの CbCR シナリオに格納されます。シナリオ名は、当期引当シナリオ名に **_CbCR** 拡張子を付けた名前です。たとえば、**Actual_CbCR** や **Forecast_CbCR** です。

ノート:

Actual_CbCR シナリオは、**CbCR シナリオあり**カスタム属性を税引当シナリオ(実績)に添付すると自動的に生成されます。

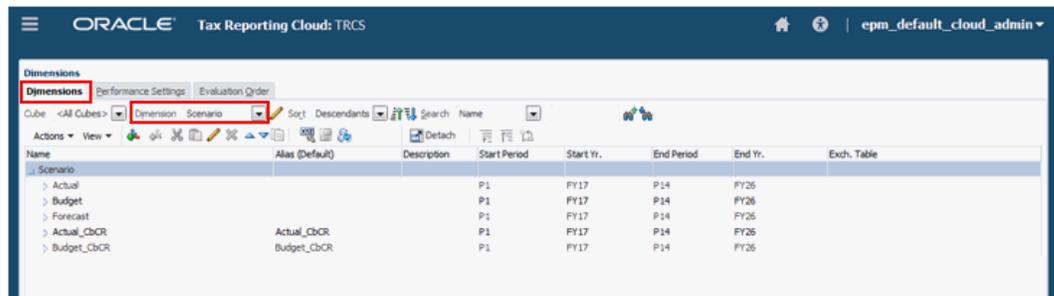
当期引当の連結シナリオにデータ、FX レートおよび税率を入力します。**CbCR** シナリオについて入力する必要があるのは **CbCR** データのみです。帳簿勘定科目データ、FX レートまたは税率はすでに実績シナリオ・メンバーに対してロードされているため、**CbCR** シナリオにロードしないでください。

ノート:

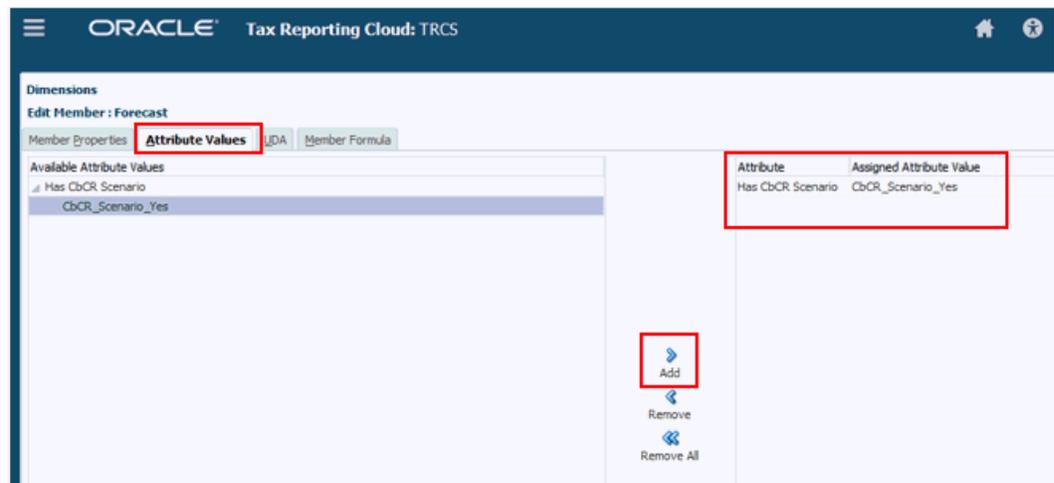
アップグレードの考慮事項が 1 つあります。ユーザーが **CbCR** 用に個別承認プロセスを有効にする対象のシナリオに履歴データがある場合、データの移行が必要です。この移行では、すべての履歴データが新しい **CbCR** シナリオ・メンバーにコピーされます。

個別承認プロセスを設定するには:

1. ホーム・ページで「ナビゲータ」、「作成および管理」、「ディメンション」の順に選択します。
2. 「ディメンション」で「シナリオ」を選択します。



3. 既存の当期引当シナリオ(たとえば、実績)を選択し、CbCR シナリオを生成して「編集」 をクリックします。
4. 「メンバーの編集」画面で、「属性値」タブを選択します。
5. 「使用可能な属性値」で、CbCR シナリオありカスタム属性を展開します。
6. 「CbCR_Scenario_Yes」を選択して「追加」をクリックし、属性を「割り当てられた属性値」に移動して「保存」をクリックします。

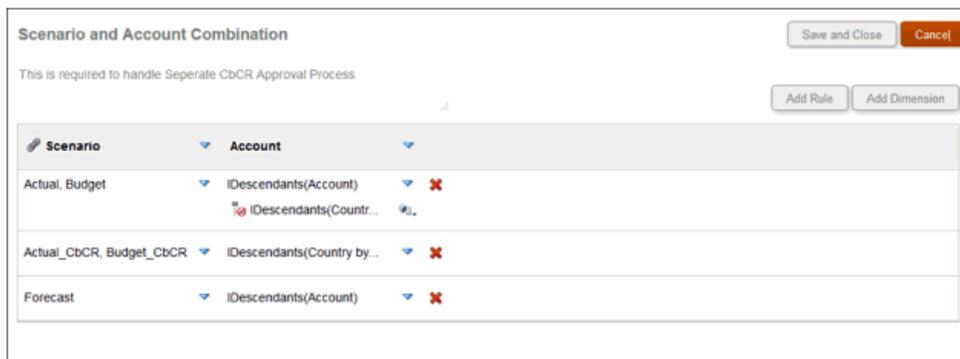


7. 「ディメンション」タブで、新規シナリオ(たとえば、Actual_CbCR)を表示します。新規シナリオが Consol と CbCR の両方のキューブに作成されます。名前を確認して「保存」をクリックします。

 ノート:

特定のキューブを選択することはできません。「キューブ」で「すべてのキューブ」を選択するのみです。

8. 「データベースのリフレッシュ」 をクリックしてすべてのキューブをリフレッシュします。
データベースがリフレッシュされたら、「終了」をクリックします。有効な交差が作成され、どのシナリオ・メンバーがどのキューブに適用可能かが管理されます。
9. ナビゲータで、「アプリケーション」下の「有効な交差」をクリックします。
10. シナリオと勘定科目の組合せを選択して作成した有効な交差を確認し、「取消し」をクリックして終了します。有効交差によって、キューブ内の無効なシナリオ・メンバーへのデータ入力を制限できます。有効な交差は読取り専用です。



Scenario	Account
Actual, Budget	IDescendants(Account)
Actual_CbCR, Budget_CbCR	IDescendants(Country by...)
Forecast	IDescendants(Account)

11. **オプション:** シナリオ内に既存のデータがある場合、次のようにして、既存のシナリオ下に格納されている既存の CbCR データを新たに作成した CbCR シナリオ・メンバーに移行します。
 - a. ホーム・ページで「アプリケーション」、「構成」の順にクリックします。
 - b. 「個別承認プロセスの CbCR データ移行」をクリックします。
 - c. 「個別承認プロセスの CbCR データ移行」で「起動」をクリックします。移行によって、データの移行が行われたすべての交差のステータスが影響を受けます。このジョブは、データ量によっては長時間かかる場合があります。
 - d. 移行されたデータを確認するには、ホーム・ページで「CbCR」、「表 1」の順に選択します。編集して新しい「CbCR_Scenario」を選択し、「適用」を選択します。データが表示されます。
12. 履歴データを連結するには:
 - a. ホーム・ページで「CbCR」、「データの入力」、「表 1」の順に選択します。
 - b. CbCR シナリオの POV を選択します。
 - c. 表 1 で、アクションから「Consolidate_CbCR」を選択します。
 - d. 「起動」をクリックします。
 - e. 連結された結果を確認します。合計が表示されます。

Table 1 Table 2 | Table 3 | Constituent Entity Information

Table 1 Data Entry

Scenario: Actual_CbCR FY17 | Years: FY17 | Period: P1 | Entity: Montreal(CAD) Entity Input | Consolidation: Canada | Jurisdiction: Canada | Multi-GAAP: Local GAAP | Currency: Entity Currency

		Revenue Related Parties - Entry	Revenue Related Parties	Revenue Unrelated Parties - Entry	Revenue Unrelated Parties	Total Revenue	Tangible Assets, Net - Entry	Number of Employees - Entry	Accumulated Earnings - Entry	Stated Ca - Entry
Automated	Mapped Data	16000	16000	22000	22000	38000	13000	90000	193000	1
	Managed Data									
	Supplemental Data									
	Data Input									
	Total Data Source	16000	16000	22000	22000	38000	13000	90000	193000	1
Adjustment	Data Input	15432	15432	98765	98765	114197	15606	12345	32456	
Total	Total Data Source	31432	31432	120765	120765	152197	28606	102345	225456	1

13. シナリオの通貨を換算するには:

- ホーム・ページで「CbCR」、「データの入力」、「表 1」の順に選択します。
- CbCR シナリオの POV を選択します。
- 表 1 で、アクションから「Translate_CbCR」を選択します。
- 視点を確認し、「起動」をクリックします。
- 換算された結果を確認します。

ノート:

換算に使用される FX レートは、連結シナリオで税引当に使用されるものと同じです。たとえば、Actual_CbCR に対して換算を実行する場合、FX レートは実績シナリオから使用されます。

14. データの連結、換算および確認が終わったら、ユーザーは CbCR シナリオ・データをロックできます。元のシナリオはロックが解除されたままになり、CbCR シナリオとは関係なく連結したり、確認できます。

ノート:

個別の CbCR が有効になっている場合、コンソール・キューブで連結を実行するには、CbCR キューブ内のエンティティをロック解除する必要があります。

承認プロセスの開始

承認ユニット階層を定義し、特定のシナリオ、年および期間に割り当てると、承認プロセスを開始できます。承認プロセスを開始できるのは、管理者のみです。プロセスが開始されると、承認ユニットは、プロセスが完了するまでである確認者から別の確認者へ移動します。

デフォルトでは、承認ステータスは「未開始」です。開始プロセスにより、承認ユニット・ステータスは「レビュー中」に変更されます。

承認プロセスを開始すると、承認ユニット階層内のエンティティのプロセスが開始されます。各基本エンティティを個別に開始することもできますが、基本エンティティを開始すると、その親および祖先も開始されます。

親エンティティを開始すると、その子孫すべてが開始されます。

開始プロセスの後、各エンティティの現在の所有者が、「現在の所有者」列に表示されているように、移動パス内の最初の所有者に設定されます。承認ユニットが移動パス内で上位に移動すると、現在の所有者および場所がそれに従い更新されます。管理者は、「プロセス・ステータス」画面から承認ユニット階層内の各エンティティのステータスをモニターし、これらのエンティティの承認アクションを実行できます。

管理者は、除外対象として特定のエンティティを選択することで、いつでもプロセスを再開できます。システムにより、エンティティのすべての承認履歴はクリアされ、ユーザーは「開始」を再度選択して承認プロセスを再開でき、これにより、エンティティは移動パスの最初の所有者に移動します。

承認プロセスを開始するには:

1. 「ナビゲータ」アイコン  をクリックします。
2. 「ワークフロー」で「承認の管理」をクリックします。
3. 「シナリオ」、「年」および「期間」から、有効なシナリオ、年および期間を選択します。
4. 「実行」をクリックします。

承認ユニット階層が開始されていない場合、円グラフにはデータは表示されません。

5. 右上の「表示」ドロップダウンから、「ツリー・ビュー」を選択します。
6. 承認ユニットを選択し、「開始」をクリックして承認プロセスを開始します。
7. 承認ユニットが開始されたことを示す確認メッセージで、「OK」をクリックします。

「承認済」ステータスが「レビュー中」に変更されます。

すべての承認ユニット・レベルおよび使用可能なアクションのリストは、*Oracle Tax Reporting Cloud* の操作のデータの確認および承認に関する項を参照してください。

8. **オプション:** 特定のエンティティの承認プロセスを再開する場合、「除外」を選択して、プロセスから承認ユニットを削除して、承認ステータスを「未開始」にリセットできます。

▲ **注意:**

承認ユニットを除外すると、関連付けられた注釈および履歴がすべて破棄されます。データ値はそのまま保留されます。

承認ユニットの移動パス

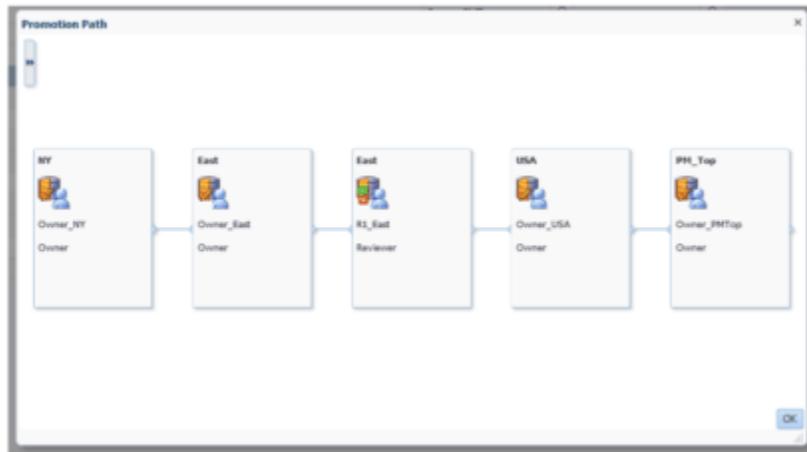
承認ユニットの所有者と確認者およびその親を選択する場合、承認ユニットの移動パスを設定します。

承認ユニットのシナリオ、年および期間に対する確認プロセスが開始されると、エンティティの承認ステータスは「レビュー中」となり、現在の所有者が、承認ユニット階層に定義されている移動パスに従って、エンティティに割り当てられます。

この段階で、書込みアクセス権を持つ承認ユニットの現在の所有者のみが、エンティティのデータを入力または変更できます。

ただし、移動パス内のユーザーあるいは読取りまたは書込みアクセス権を持つ移動パス外のユーザーはデータを表示できます。

承認ユニットの現在の所有者は、エンティティが移動パス内で上位に移動すると変更されます。エンティティが次のレベルに移動されると、エンティティのデータに対する読取りアクセス権を引き続き保有していても、データへの書込みアクセス権はなくなります。



承認ユニット注釈レポートの作成

管理者は、シナリオおよび承認ユニット・メンバーのセットの注釈についてレポートを作成し、承認ユニットのステータスを確認できます。注釈テキストは、最新のエントリを最初にして日付順に表示されます。

承認ユニットの注釈についてレポートを作成するには:

1. 「ナビゲータ」アイコン  をクリックし、「モニターおよび検索」で「システム・レポート」をクリックします。
2. 「承認ユニット」タブを選択し、「注釈」をクリックします。

3. 「レポート・オプションの選択」から、レポートの生成対象の「シナリオ」、「年」、「期間」および「エンティティ」の組合せを選択します。「カスタム」を選択した場合、 「メンバー・セレクト」アイコンをクリックしてカスタム・メンバーを選択します。
4. 「承認ステータス」から、レポートに表示するステータスを選択します。
5. 画面の下部で「レポート作成」をクリックして、レポートを保存する場所を選択します。

承認ステータス・レポートの作成

承認ステータス・レポートを使用して、承認プロセスの詳細なステータスを表示できます。すべてのユーザーがこのレポートにアクセスできますが、書込みアクセス権がある承認ユニットのみが表示されます。

承認ステータス・レポートには次の情報が表示されます。

- 承認ユニット
- Parent
- ステータス
- 前の所有者、現在の所有者および次の所有者
- 現在の場所
- 合計値
- 最終ステータス変更日

サンプルの承認ステータス・レポート

Approval Status Report

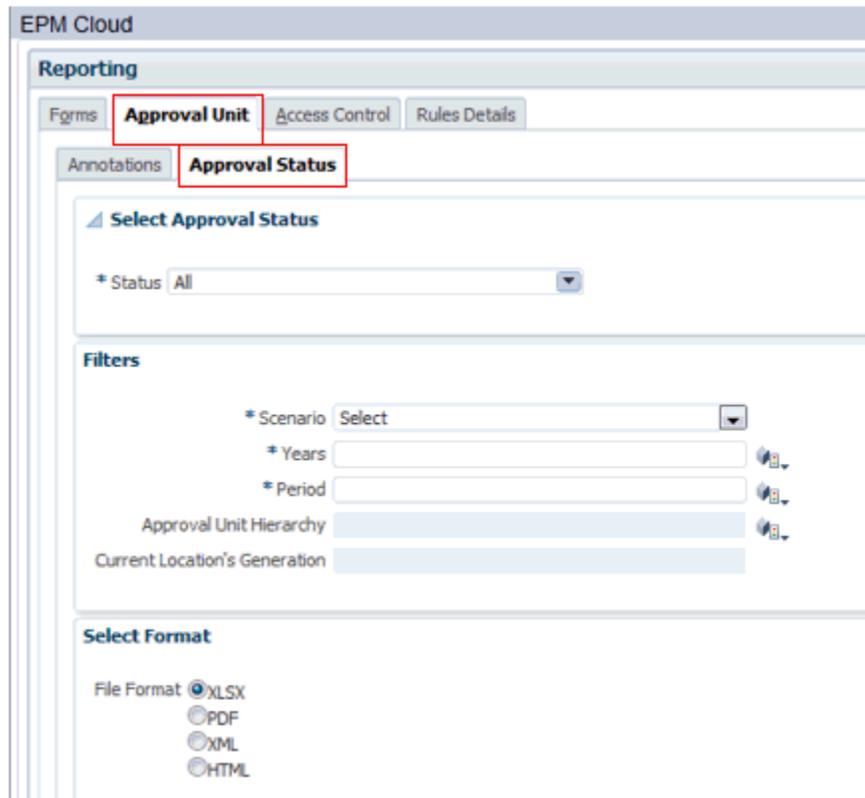
Scenario: Forecast

Version: Stage1

Approval Unit	Parent	Status	Sub-Status	Previous Owner	Current Owner	Next Owner	Current Location	Total Value	Last Status Change Date
NZ1_1	NZ1	Under Review		admin	admin	admin	NZ1		April 28, 2017
NZ1	North Zone	Under Review			admin	admin	NZ1		
North Zone		Under Review			admin	admin	NZ1		April 10, 2017
SZ1_Round	SZ1	Under Review			admin	admin	SZ1		
SZ1_Square	SZ1	Under Review		admin	admin		South Zone		April 28, 2017
SZ1_Triangle	SZ1	Frozen		admin	admin	admin	SZ1		April 28, 2017
SZ1	South Zone	Under Review			admin	admin			April 10, 2017
SZ2	South Zone	Under Review			admin	admin	SZ2		April 10, 2017
South Zone		Under Review			admin	admin			April 10, 2017
East Zone		Under Review			admin	admin			April 10, 2017
WZ_12	West Zone	Under Review			admin	admin	WZ_12		March 28, 2017
WZ_13	West Zone	Under Review			admin	admin	WZ_13		March 28, 2017
West Zone		Under Review			admin	admin			March 28, 2017

承認ステータス・レポートを作成するには:

1. 「ナビゲータ」アイコンをクリックし、「モニターおよび検索」で「システム・レポート」をクリックします。
2. 「承認ユニット」タブを選択し、「承認ステータス」をクリックします。



EPM Cloud

Reporting

Forms **Approval Unit** Access Control Rules Details

Annotations **Approval Status**

Select Approval Status

* Status All

Filters

* Scenario Select

* Years

* Period

Approval Unit Hierarchy

Current Location's Generation

Select Format

File Format XLSX PDF XML HTML

3. 「承認ステータスの選択」から、レポートに表示するステータスを選択するか、「すべて」を選択します

4. 「フィルタ」から、レポートの生成対象の「シナリオ」、「年」および「期間」のディメンション・メンバーを選択します。
5. オプション: 承認ユニット階層のサブセットに基づいてフィルタする場合は、「承認ユニット階層」を選択します。
6. オプション: 「現在の場所の世代」を選択します。
7. レポートの「フォーマット」を選択します。
 - XLSX
 - PDF
 - XML
 - HTML
8. 画面の下部で「レポート作成」をクリックして、レポートを保存する場所を選択します。

データ検証ルール

ビジネス・ポリシーおよびビジネス・プラクティスを実装するために、管理者はフォームで条件が満たされたときにチェックするデータ検証ルールを構築できます。ルールを使用して、検証メッセージの生成、送信される承認ユニット・データに対する制限の適用、および特定の条件を満たすデータを確認する特定の確認者や所有者の指定を行うことができます。

例:

- 承認ユニットの移動パスの条件付け
- 無効なデータを含む承認ユニットの移動の防止

データ・フォーム内の検証ルールを定義し、承認ユニットの検証のオプションを指定できます。

承認プロセスで、検証は次のアクションに対してのみ実行されます。

- 上位へ移動
- 承認
- ロック
- ロック解除
- 除外(管理者のアクション、現在の期間がロックされていないことを確認します)

次のアクションが実行されている場合、検証は実行されません。

- サインオフ
- 凍結
- 凍結解除
- 却下
- 再度開く
- 作成
- 所有権の取得

- 戻る(グループ・アクション)
- 開始(管理者アクション)

フォームへのデータ検証ルールの組み込み

「レイアウト」タブで、検証ルールをグリッド、列、行またはセルに対して追加および更新できます。ルールを処理することで、セルの色の変更、データ入力時の検証メッセージの表示、承認ユニットの移動パスの変更ができます。検証ルールはフォームとともに保存されます。

データ検証ルールを追加する前に、ルールが実行する関数について検討し、ルールの範囲をプランニングすることが重要です。

フォームにデータ検証ルールを組み込むには:

1. フォームを開き「レイアウト」をクリックします。
2. 「検証ルール」を選択してから、次のオプションを選択します。

ノート:

表示されるメニュー・オプションはコンテキスト依存であり、ルールがすでに追加されているかどうか、および前にメニュー・オプションを選択しているかどうかによって異なります。たとえば、ルールが含まれるセルを右クリックして「検証ルールのコピー」を選択した場合、別のセルを右クリックすると、「検証ルールの貼付け」メニュー・オプションが表示されます。

表 32-1 フォームの「検証ルール」のオプション

オプション	説明
検証ルールの追加/編集	「データ検証ルール・ビルダー」ダイアログ・ボックスの条件ビルダー領域で既存のルールを追加または編集します。
検証ルールのコピー	貼り付けるために選択したルールを新しい場所にコピーします。
検証ルールの貼付け	すでにコピーしたルールを新しい場所に貼り付けます。
このフォームへのアクセス権を持つユーザーについてのみ検証	現在ログインしているユーザーがフォームへのアクセス権を持たない場合は、承認ユニットの検証時に、フォームに関連する検証を実行しません。
既存のブロックがあるページについてのみ検証	有効化されている場合、システムにより潜在的ブロックが含まれるページの組合せが検出され、そのページの組合せに対してのみ検証が実行されます。これにはいくつかの例外があります。ページの組合せに動的計算、動的計算および保管、ラベルのみ、または子メンバーが1つ含まれる保管が含まれる場合、そのページは常にロードされます。
ユーザーがアクセス権を持つセルおよびページについてのみ検証	有効化されている場合、管理者ではなく現在ログインしているユーザーとして検証が行われ、フォーム・メンバーにはユーザーのセキュリティが適用されます。

表 32-1 (続き) フォームの「検証ルール」のオプション

オプション	説明
承認ユニット・ディメンションからのユーザー変数の使用可能な各値で検証します	有効にした場合、使用可能なユーザー変数の各値で承認ディメンションのユーザー変数を置き換えることで、フォームは複数回検証されます。有効にしない場合、使用可能なユーザー変数のすべての値で置き換えられたユーザー変数により、フォームは 1 回のみ検証されます。デフォルトでは有効ではありません。
ユーザー変数の値として現在の承認ユニット・メンバーで検証します	有効にした場合、フォームの承認ディメンションのユーザー変数は、検証の実行前に、承認ユニット・メンバーによって置換されます。有効にしない場合、ユーザー変数は、使用可能なユーザー変数のすべての値で置き換えられます。デフォルトでは有効ではありません。

3. ルールを作成し、検証します。
4. フォームで、フォームの構築を続行するため「次」をクリックしてから、フォームを検証および保存します。

エンティティのロックとロック解除

「承認」ページで、ロック・ステータスとロックおよびロック解除エンティティを参照できます。また、データ・ステータス・フォームでは、ロック・ステータスと計算ステータスを表示できます。

データ・ロード・プロセス中に、ロックされたエンティティはロードされません。エンティティがロックまたは承認されると、仕訳の送信、転記、転記の戻し、またはそのエンティティを含むデータ・フォームの変更はできません。

ロックおよびロック解除プロセスの詳細は、次のビデオをご覧ください。



データの移動、承認およびロック

エンティティをロックまたはロック解除するには、ロックするエンティティを含む承認ユニット階層を作成する必要があります。デフォルトで、**Financial Consolidation and Close** には、地域合計という名前の承認ユニットがあります。

エンティティをロックまたはロック解除するには、サービス管理者またはパワー・ユーザーである必要があります。アプリケーションが作成されると、「**FCCS_Total Geography**」承認ユニットに対して所有者が自動的に定義されます。所有者はサービス管理者と同じです。

所有者が有効なサービス管理者または承認ユニット階層内のエンティティへの書込みアクセス権を持つパワー・ユーザーである場合は、デフォルトの承認ユニット階層「**FCCS_Total Geography**」の所有者情報を変更できます。

確認者はオプションであるため、「**FCCS_Total Geography**」の確認者を定義する必要はありません。「**FCCS_Total Geography**」のすべての子孫は、承認ユニット階層内の個々のエンティティに対して異なる所有者または確認者を設定していないかぎり、親と同じ所有者情報を継承します。

「FCCS_Total Geography」の外部で階層を作成する場合は、その階層の有効な所有者を定義する必要があります。

エンティティのロック

次の条件が満たされる場合にのみデータをロックできます。

- エンティティの計算ステータスは、「OK」、「データなし」または「システムの変更」である必要があります。計算ステータスが「影響」のエンティティをロックすることはできません。
- 前の期間データは、ロックされている必要があります。たとえば、2月の期間のエンティティをロックできるのは、1月のエンティティがロックされている場合のみです。

エンティティをロックするには：

1. ホーム・ページで、「承認」をクリックします。
2. 地域合計承認ユニットを選択します。

デフォルトでは、地域合計承認ユニットのステータスは「未同期」であり、同期させる必要があります。

3. 「同期」アイコンをクリックして、承認ユニットを同期します。

ノート：

エンティティを追加または削除するたびにこのステップを繰り返し、データベースのリフレッシュを実行する必要があります。

4. 承認ユニットを開始するには、「ナビゲータ」アイコンをクリックして、「承認の管理」を選択します。
承認ユニットを開始しない場合、その承認ユニット内のエンティティは「未開始」ステータスのままとなります。
5. 開始する「シナリオ」、「年」および「期間」を選択して、「実行」をクリックします。
6. 右側の「表示」リストから、「ツリー・ビュー」を選択します。
7. 「FCCS_Total Geography」が表示されるまで、地域合計を展開します。
「FCCS_Total Geography」は「未開始」の状態です。
8. 「開始」をクリックし、「FCCS_Total Geography」を開始します。
その後、これは、そのすべての子孫とともに「ロック解除済」状態に変わります。
9. ホーム・ページで、「承認」をクリックします。
10. ロックされていない承認ユニットをクリックします。
11. 「ステータスの変更」ページで、「ステータスの変更」をクリックしてステータスを「ロック済」に変更します。
12. 「完了」をクリックします。

ロックまたはロック解除プロセス中にエラーが発生した場合、「承認」ページの承認ユニットの横に「失敗」ステータスが表示されます。リンクをクリックして詳細な検証レポートを表示し、エラーを解決します。

エンティティのロック解除

ある期間のデータをロック解除できるのは、次の期間がロック解除されている場合のみです。たとえば、2月のエンティティをロック解除できるのは、3月のエンティティがロック解除されている場合のみです。

「**ロック解除**」または「**単独ロック解除**」オプションを選択できます。

- **ロック解除** - 親エンティティに対して「ロック解除」アクションを選択すると、親エンティティとそのすべての子孫がロック解除されます。
- **単独ロック解除** - 親エンティティに対して「単独ロック解除」アクションを選択すると、親エンティティのみがロック解除され、その子孫はロック解除されません。

エンティティをロック解除してそのエンティティの所有者を選択する場合は、現在の所有者も含めて、以前の移動パス内の任意の所有者を選択できます。所有者に対して「**自動**」オプションを選択すると、新しい所有者はエンティティの現在の所有者になります。

エンティティをロック解除するには:

1. 「**承認**」ページで、ロックされた承認ユニットをクリックします。
2. 「ステータスの変更」ページで、「**アクション**」ドロップダウンからオプションを選択します。
 - **ロック解除** - 親エンティティおよびそのすべての子孫をロック解除します
 - **単独ロック解除** - 親エンティティのみをロック解除します。
3. 「**完了**」をクリックします。

ロックまたはロック解除プロセス中にエラーが発生した場合、「承認」ページの承認ユニットの横に「失敗」ステータスが表示されます。リンクをクリックして詳細な検証レポートを表示し、エラーを解決します。

新規エンティティのロック

階層に新しいエンティティを追加すると、同期プロセスの一環としてロックが実装されます。新しいエンティティは、前期間のその親からロック済ステータスを継承します。親がロックされているアプリケーションの最初の期間からチェックが実行されます。親がロックされている場合は、新しいエンティティが自動的にロックされます。

次の条件が満たされた場合、エンティティはロックされます:

- 新しいエンティティのステータスは「**NODATA**」および「**未開始**」です。
- 新しいエンティティの親は「**ロック済**」です。
- 新しいエンティティの前期間は「**ロック済**」です。

新しいエンティティをロックする必要がない場合は、新しいエンティティのロックを手動で解除する必要があり、これによって、親のロックが解除されることになります。

新しいエンティティを追加すると、メタデータを変更したことになるため、承認ユニット階層は「**未同期**」ステータスになります。

承認ユニット階層を同期するには:

1. 「**ナビゲータ**」アイコン  をクリックし、「**ワークフロー**」で、「**承認ユニット**」をクリックします。

2. 「未同期」としてリストされている承認ユニット階層を選択して、「同期」をクリックします。
アプリケーション内のすべての承認ユニット階層が同期され、エンティティが複数の階層に属している場合の競合が回避されます。
3. 同期プロセスのステータスを表示するには、ジョブ・コンソールに移動します。
ジョブ・リストには、処理中の各承認ユニット階層のステータス、およびエラーの詳細が含まれています。

エンティティを開始するためのガイドライン

エンティティが承認ユニット階層の一部であり、承認ユニット階層がシナリオ/年/期間の組合せに割り当てられている場合、エンティティは確認プロセスに参加しているとみなされます。

エンティティが承認ユニット階層の一部でない場合、または承認ユニット階層がどのシナリオ/年/期間にも割り当てられていない場合、エンティティは確認プロセスに参加しているとみなされません。

確認プロセスに参加するエンティティでは、エンティティが確認プロセスを開始した後(ステータスは、連結テンプレートの場合は「ロック解除済」、ボトム・アップ・テンプレートの場合は「レビュー中」)にのみ、エンティティへのデータ入力が可能です。このチェックは、ロックされた親への影響を回避するために行われます。したがって、エンティティに対するデータを入力する前に、エンティティを開始する必要があります。

エンティティの開始に関するこのガイドラインは、すべてのデータ変更プロセスに適用されます。これには、データ・フォームおよび **SmartView** を介したデータ入力、データ・ロード、データのコピーとクリア、仕訳の転記、補足データの転記、連結、換算およびオンデマンド・ルール計算が含まれます。

履歴データをロードしているためにエンティティを開始していない場合、エンティティが開始されないかぎりシステムによってデータ入力が防止されるため、データのロードに影響します。履歴データのロード中および突合せ中に確認プロセスを開始しない場合は、承認ユニット階層の承認ユニット割当を手動で削除できます。エンティティのロック準備が整った場合は、承認ユニット階層の割当を手動で追加し、確認プロセスを開始する必要があります。

タスクおよびデータの監査

関連トピック

- [監査情報の概要](#)
- [監査タスクの構成](#)
- [監査詳細の表示](#)
- [タスク・マネージャおよび補足データの監査詳細の表示](#)

監査タスクの構成

デフォルトで、すべてのタスク・グループに対して監査追跡が常に有効化されます。任意のタスク・グループの監査オプションを構成および変更できます。

タスクのタスク監査を有効化するには:

1. ホーム・ページで、「**ツール**」をクリックします。
2. 「**監査**」をクリックします。
3. 「**監査情報**」ページで、「**構成**」をクリックします。
4. 「**構成**」ページで、「タスク・グループ」を選択して「**適用**」をクリックします。

選択したタスク・グループに対して監査が開始されます。

監査情報の概要

監査情報機能を使用して、ユーザーが実行するタスクを表示できます。監査済タスクは、タスク・グループ(メタデータ管理、フォーム、データなど)、アクション(追加や変更など)、ユーザー ID、開始時間と終了時間によってフィルタできます。

タスク監査情報を表示およびエクスポートするには、サービス管理者である必要があります。

デフォルトでは、タスク監査で次のユーザー・アクティビティが記録されます。

- データ - セル値および詳細
- メタデータ管理 - メンバーまたはディメンションの追加。プロパティの移動、削除および変更。メンバーおよびディメンションの名前変更
- データ・フォームの定義 - 行の作成、変更、追加
- ルール - 計算スクリプトおよびビジネス・ルールによる更新(実行時プロンプトを含む)
- ユーザーの管理 - 追加、変更および削除済のユーザー
- セキュリティ - ディメンションのメンバー、フォームおよびビジネス・ルールに対するアクセス権限
- セル詳細のクリア - セル詳細、コメントおよび添付のクリアにおけるユーザーの選択

- データのコピーおよびデータのクリアの詳細 - コピーおよびクリアされたセル・テキスト、添付ファイルおよびデータに対するユーザーの選択
 - 承認 - 承認ユニットの所有者およびステータス
 - 変数 - 代替変数およびユーザー変数: 追加、変更および削除済
 - タスク・マネージャの履歴
 - 監査構成 - 監査オプションの有効化または無効化に対するすべてのユーザー変更
- 「監査レポート」ページには、次の情報が表示されます。

- タスク - タスク名
- 時間 - 日付と時間
- プロパティ - 監査プロパティ
- アクション - 追加や変更など
- 値 - タスクの開始時間と終了時間、および詳細が表示されます

「**タスク・マネージャ監査**」ページには、タスク・マネージャ関連のオブジェクトの履歴レコードが表示されます。次のタスク・マネージャ・オブジェクトが追跡されます。

- アラート
- 属性
- フィルタ(パブリックのみ)
- 休日ルール
- リスト(パブリックのみ、リスト・フィルタ条件および列の選択を含む)
- 組織単位
- スケジュール
- 設定
- タスク
- タスク・タイプ
- チーム
- テンプレート

Object	Name	Field	Modification	Old Value	New Value	Modified On	Modified By
Task	Monitor Cube Refresh	Run As	Set		System Admin	Jan 18, 2022 5:25 AM	Administrator
Task	Monitor Cube Refresh	Message	Set		Processing	Jan 18, 2022 5:25 AM	Administrator
Task	Monitor Cube Refresh	Status	Changed	Pending	Open (Assigned)	Jan 18, 2022 5:25 AM	Administrator
Task	Monitor Cube Refresh		Created			Jan 18, 2022 5:23 AM	Administrator
Task	Automated Task - 001	Task	Force Closed			Jan 18, 2022 5:22 AM	Administrator
Task	Automated Task - 001	Status	Changed	Open (Assigned)	Closed (Overridden)	Jan 18, 2022 5:22 AM	Administrator
Task	Automated Task - 001	Message	Set		Error Unable to find a job defined with the name Consolidate...	Jan 18, 2022 5:22 AM	Administrator
Task	Automated Task - 001	Status	Changed	Open (Assigned)	Error Error Unable to find a job defined with the name Consolidate. Try again with a valid job name.	Jan 18, 2022 5:22 AM	Administrator
Task	Automated Task - 001	Status	Changed	Pending	Open (Assigned)	Jan 18, 2022 5:22 AM	Administrator
Task	Automated Task - 001	Export File Name	Set		test.txt	Jan 18, 2022 5:22 AM	Administrator
Task	Automated Task - 001	Job Name	Set		Consolidate	Jan 18, 2022 5:21 AM	Administrator
Task	Automated Task - 001	Task	Created			Jan 18, 2022 5:20 AM	Administrator
Schedule	Monthly Close	Status	Changed	Pending	Open	Jan 18, 2022 5:19 AM	Administrator
Schedule	Monthly Close	Schedule	Created			Jan 18, 2022 5:18 AM	Administrator

「補足データ監査」ページには、補足データ関連のオブジェクトの履歴レコードが表示されます。次の補足データ・オブジェクトが追跡されます：

- 収集
- 収集間隔
- データ収集期間
- ディメンション
- フィルタ
- フォーム
- リスト
- 設定
- テンプレート

Object	Name	Field	Modification	Old Value	New Value	Modified On	Modified By
Form Template	Credit Details Form	Instruction	Create		Oracle Performance Management - Oracle Cloud EPMhttps://www.a...	Dec 10, 2021 2:28 AM	ATS Admin1
Form	Form Credit Details Form Entity/FCCS_Global Assumptions	Comment	Create		Oracle Performance Management - Oracle Cloud EPMhttps://www.oracle.com/Adgn Finance and operations for the agily and insight to drive your business forward. Discover the essential features of an ideal enterprise performance management solution.		
Form	Form Credit Details Form Entity/FCCS_Global Assumptions	Form	Create				
Form Template	Credit Details Form	Users Workflow	Create	0	1	Dec 10, 2021 2:24 AM	ATS Admin1
Form Template	Credit Details Form	Form Template	Create			Dec 10, 2021 2:22 AM	ATS Admin1
Data Collection Period	Collection Interval(Default Year:2021 Period:Q4 Scenario:Actual)	Status	Change	Pending	Open	Dec 10, 2021 2:21 AM	ATS Admin1
Data Collection Period	Collection Interval(Default Year:mul Period:mul Scenario:mul)	Data Collection Period	Create			Dec 10, 2021 2:21 AM	ATS Admin1
Collection	Credit Details Sub Collection	Collection	Create			Dec 10, 2021 2:19 AM	ATS Admin1
Collection	Credit Collection	Collection	Create			Dec 10, 2021 2:18 AM	ATS Admin1
Dimension	SCENARIO	Dimension Attribute Scenario Const	Create			Dec 8, 2021 11:41 PM	System Admin
Dimension	SCENARIO	Dimension Attribute Scenario Leaf	Create			Dec 8, 2021 11:41 PM	System Admin
Dimension	SCENARIO	Dimension Attribute Scenario Parentid	Create			Dec 8, 2021 11:41 PM	System Admin
Dimension	SCENARIO	Dimension Attribute Scenario Parent	Create			Dec 8, 2021 11:41 PM	System Admin
Dimension	Movement	Dimension	Create			Dec 8, 2021 11:41 PM	System Admin

監査詳細の表示

タスク監査の詳細を表示するには:

1. ホーム・ページで、「**ツール**」をクリックします。
2. 「**監査**」をクリックします。
3. **オプション: 「タスク・マネージャ監査」** タブをクリックして、タスク・マネージャ関連のオブジェクトの履歴レコードを表示します。 [タスク・マネージャおよび補足データの監査詳細の表示](#)を参照してください
4. **オプション: 「補足データ監査」** タブをクリックして、補足データ関連のオブジェクトの履歴レコードを表示します。 [タスク・マネージャおよび補足データの監査詳細の表示](#)を参照してください
5. デフォルトでは、「**監査情報**」ページにはすべてのタスクが表示されます。タスクをフィルタするには、「**フィルタ**」をクリックしてフィルタ条件を選択します。
 - **タスク・グループ** - 1つ以上、または「**すべて**」を選択します。デフォルトは「すべて」です。
 - 「**メタデータ管理**」を選択する場合、メタデータとしてサブタスクを選択できるサブグループのリストが表示されます。
 - * すべて
 - * カスタム・ディメンション
 - * メンバー
 - * 年
 - * 別名
 - * 期間
 - * 表示
 - * 通貨
 - * 連結
 - * シナリオ
 - * エンティティ
 - * ICP
 - * 勘定科目
 - 「**データ・フォーム**」を選択する場合、フォームとしてサブタスクを選択できるサブグループのリストが表示されます。
 - * すべて
 - * フォーム
 - * フォーム・フォルダ
 - 「**データ**」を選択する場合、メンバー交差を入力できる「**交差**」ボックスが表示されます。メンバー交差の全部または一部を入力可能で、システムでは、指定された条件に基づいてワイルドカード検索を実行できます。

- **アクション** - 1 つ以上、または「すべて」を選択します。
- **ユーザー** - ユーザー ID を入力します。ユーザー ID 情報の全部または一部を入力可能で、システムでは、指定された条件に基づいてワイルドカード検索を実行できます。
- **開始時間** - カレンダをクリックして開始日を選択します。
- **終了時間** - カレンダをクリックして終了日を選択します。

 **ヒント:**

「クリア」を選択すると、選択内容をクリアし、デフォルト値に戻ることができます。

6. フィルタ条件の選択が完了したら、「適用」をクリックします。グリッドに、フィルタ条件に一致する監査表から上位 1,000 レコードが表示されます。スクロールしてすべてのレコードを表示できます。

7. **オプション:**

- Microsoft Excel スプレッドシートに監査情報をエクスポートするには、「エクスポート」をクリックしてダウンロードの指示に従います。「エクスポート」オプションを選択すると、フィルタ条件に一致するすべてのレコードが csv ファイルにエクスポートされます。
- 監査情報を削除するには、「削除」をクリックします。「削除」オプションを選択すると、フィルタ条件に一致するすべてのレコードが削除されます。

ベスト・プラクティスのヒント: 四半期末ごとなど、監査ログ・データの定期的なアーカイブおよび削除をスケジュールします。これにより、システム内の監査ログ・データが、時間の経過とともに増加するのを防ぎます。内部ドキュメントの保持ポリシーに従って、アーカイブされた監査ログ・ファイルを管理します。

監査データの定期的なアーカイブをスケジュールする方法の詳細は、[Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作のアプリケーション監査レコードのアーカイブの自動化](#)を参照してください。

 **ノート:**

- 監査詳細をエクスポートするには、EPM 自動化の `exportAppAudit` コマンドまたは REST API の「監査のエクスポート」ジョブを使用します。『[Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作](#)』の `exportAppAudit` または [Oracle Enterprise Performance Management Cloud の REST API の監査のエクスポート](#)を参照してください。『[Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作](#)』の [アプリケーション監査レコードのアーカイブの自動化](#)も参照してください。
- 自動監査ページは、作成日が 2020 年 7 月 17 日より前のレガシー環境を除き、すべての環境で発生します。将来のリリースでは、この例外も削除されるため、定期的に監査バックアップを取得することをお勧めします。

 ノート:

ドキュメントの PDF バージョンを使用している場合: これらのスクリプトを使用不能にする改行とフッター情報を回避するために、このトピックの HTML バージョンからスクリプトをコピーしてください。Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作のサンプル・スクリプトのコピーについても参照してください。

タスク・マネージャおよび補足データの監査詳細の表示

タスク・マネージャの監査詳細を表示するには:

1. ホーム・ページで、「ツール」、「監査」の順にクリックします。
2. 「タスク・マネージャ監査」タブを選択します。同様に、「補足データ監査」タブを選択します。
3. **オプション:** オブジェクトを検索するには、「検索」テキスト・ボックスに検索条件を入力します。
4. **オプション:** フィルタ・バーで、次のカテゴリからフィルタ条件を選択します:
 - オブジェクト
 - 名前
 - フィールド
 - 変更日
 - 変更者
 - 変更

 ノート:

フィルタ・バーを非表示にするには、「フィルタ」アイコン  をクリックします。すべてのフィルタをクリアするには、フィルタ・バーの右にある  アイコンをクリックします。

5. すべての列を表示するには、「表示」、「列」の順に選択し、「すべて表示」を選択します。
6. 特定の列を表示するには、「表示」、「列」の順に選択し、列名を選択または選択解除します。
7. 列を並べ替えるには、「表示」、「列の順序変更」の順に選択し、列を選択して上矢印または下矢印を使用するか、それらをドラッグして順序を変更します。
8. **オプション:** Microsoft Excel スプレッドシートに監査情報をエクスポートするには、「エクスポート」をクリックしてダウンロードの指示に従います。

「エクスポート」 オプションを選択すると、フィルタ条件に一致するすべてのレコードが xlsx ファイル(Microsoft Excel バージョン 2007 以降の形式)にエクスポートされます。

ベスト・プラクティスは、監査表を手動でエクスポートし、切り捨てることです。そうしないと、表のサイズが大きくなりすぎてユーザーがアプリケーションにログインできなくなります。

 **ノート:**

- 監査情報は 6 か月間保持されます。6 か月間が過ぎた監査情報にアクセスする場合は、その監査レコードをダウンロードし、コピーを保管しておいてください。
- データ監査が有効な場合、「**アクション**」、「**変更履歴**」の順に選択して、どのデータが変更されたかを確認できます。

タスク・マネージャの設定

次も参照:

- [タスク・マネージャの用語](#)
- [タスク・マネージャの概要](#)
- [サンプル・タスク・フロー](#)
- [タスク・マネージャのビュー、リストおよびフィルタの管理](#)
- [タスク・マネージャ・システム設定の管理](#)
- [タスク・マネージャ属性の管理](#)

タスク・マネージャの用語

タスク

データ入力やデータ連結など、アプリケーション内のアクションの単位。パワー・ユーザーは、ビジネス・プロセスを構成する複数のタスクを定義します。ユーザーは、タスクの指示を確認し、質問に回答し、タスクを送信、再割当て、承認および却下できます。タスクへのアクセスは、電子メール通知から、またはアプリケーションにログオンして行うことが可能です。

統合

アプリケーションによって提供されるサービスの定義。

タスク・タイプ

データ入力や G/L 抽出など、よく行われるタスクを指定し、分類します。タスク・タイプによって、ユーザー入力が必要な設定や、そのタイプのすべてのタスクによって共有される質問や指示などのデフォルト情報を設定できます。タスク・タイプは、多くの場合に統合タイプに基づいています。

実行タイプ

エンド・ユーザー、システム自動タスク、イベント・モニタリング・タスク

テンプレート

反復可能なビジネス・プロセス。管理者は、月次や四半期など、様々なタイプのビジネス・プロセスのテンプレートを作成できます。

スケジュール

特定のビジネス・プロセスに対して実行する必要があるタスクの時間順のセットを定義し、テンプレートの汎用的なビジネス・プロセス日をカレンダー日付に配置したものです。

ダッシュボード

このビューは、スケジュールおよびタスク・リストのビューと、詳細にドリルダウンできるハイレベルのサマリーがあるポータル・スタイル・インターフェースを表示します。

アラート

ハードウェアまたはソフトウェアの問題など、プロセス中に発生した問題に関するユーザーからの通知。ユーザーは、問題を識別するアラートを作成し、解決するために割り当てます。

タスク・マネージャの概要

タスク・マネージャは、ビジネス・プロセスの相互依存アクティビティを定義、実行およびレポートするのに役立ちます。すべてのタスクを集中モニタリングし、ビジネス・プロセスの実行を記録するための目に見える自動化された繰返し可能なシステムを提供します。

次のことが可能です：

- タスクの定義と、最も効率的なタスク・フローを実施するためのスケジューリング
- ビジネス・プロセスの自動化、ステータスの追跡、および通知やアラートの提供
- 延滞、期限日、ステータス変更に関する、ユーザーへの電子メール通知
- ダッシュボードからのビジネス・プロセス・ステータスのモニター
- エラーおよび遅延の迅速な修正
- ビジネス・プロセスの効果の分析

ビジネス・プロセスには次のステップが必要です。

1. 管理者はユーザーを設定します。 *Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者スタート・ガイド*の[ユーザーと役割の管理](#)を参照してください。
2. 管理者は必須の設定手順を完了します：
 - 組織単位を設定します。[タスク・マネージャの組織単位の管理](#)を参照してください。
 - グローバル統合トークンを設定します。[グローバル統合トークンの管理](#)を参照してください。
 - 休日ルールを設定します。[タスクの休日ルールの管理](#)を参照してください。
 - 添付サイズやその他のシステム設定を設定します。を参照してください [タスク・マネージャ・ガバナーの設定](#)を参照してください。
 - 電子メール通知を有効にします。「通知用電子メールの設定」を参照してください。
3. 管理者は、ビジネス・プロセスに必要なタスクを確認し、タスク・タイプを設定して、タスク全体での整合性をとり、事前に定義された製品統合を利用できるようにします。
[タスク・タイプの管理](#)を参照してください。
4. 多くのビジネス・プロセスは反復されるため、タスクのセットをテンプレートとして保存し、後の期間で使用できるようにします。[タスク・テンプレートの管理](#)を参照してください。

たとえば、管理者は月次または四半期ビジネス・プロセスを 1 回設定し、それをすべての月または四半期に使用できます。タスクは、タスク先行、担当者および承認者により定義されます。

5. ビジネス・プロセスを起動するために、管理者は、テンプレートを選択し、カレンダーの日付を割り当てることにより、スケジュール(時間順のタスク・セット)を生成します。テンプレート内の汎用タスクは、カレンダーの日付に適用されます。
スケジュールの管理を参照してください。
6. ビジネス・プロセスを開始するために、管理者は、スケジュールのステータスを「保留中」から「オープン」に変更します。
7. 管理者は、必要に応じてスケジュールを変更することも、モニターすることもできます。
8. ビジネス・プロセス中に、ユーザーは割り当てられたタスクに関する電子メール通知を受信し、電子メールのリンクをクリックして、割り当てられたタスクに直接アクセスできます。
9. 別の方法として、ユーザーは、様々なタイプのビューで割当て済のタスクを確認してアクセスするためにログオンできます。
10. ユーザーがタスクを完了すると、タスクが承認者に送信され、他のユーザーが表示できるようになります。
11. ユーザーは、ハードウェアやソフトウェアの問題など、発生する問題のアラートを作成できます。アラートは、解決するために担当者と承認者に転送されます。

さらに学習するには、次の概要ビデオを参照してください。



概要ビデオ

サンプル・タスク・フロー

シナリオ 1: パワー・ユーザー

パワー・ユーザーが次のビジネス・プロセスのテンプレートとタスクを設定します。

- パワー・ユーザーは、ログオンし、「テンプレートの管理」ページを開きます。
- パワー・ユーザーは、ビジネス・プロセスのテンプレートを選択します。
- パワー・ユーザーは、テンプレート・タスクを配置するカレンダー日付を選択し、スケジュールを作成します。
- 次に、パワー・ユーザーは、タスクをテンプレートに追加します。
- パワー・ユーザーは、スケジュールを開きます。これにより、プロセスが開始します。

シナリオ 2: パワー・ユーザー

パワー・ユーザーがダッシュボードを通じてアクティビティのステータスをモニターします。

- パワー・ユーザーは、ログオンし、日 3 を通じたアクティビティのステータスを確認します。
- ユーザーはドリルダウンして未完了タスクの詳細を表示します。
- パワー・ユーザーは、開いているタスクで、割り当てられたユーザーが提供したコメントまたは添付を確認します。

シナリオ 3: 承認者

承認者として割り当てられたユーザーが、現在のタスクを確認して、承認できるかどうかを判断します。

- 割り当てられた承認者は、未処理のタスクに関する電子メール通知を受信します。
- 承認者は、その電子メールからタスクのリンクを選択します。
- プロセスのアウトラインを示す「タスク・アクション」ページが起動します。
- 承認者は、タスクの完了時にユーザーが提出したドキュメントを確認して、完了を確認します。
- 承認者は追加のコメントを入力し、提出を承認します。
- 別のレベルの承認が必要な場合、タスクは次の承認者に転送されます。タスクが最後の承認を要求している場合は、タスクが完了し、次のタスクの準備ができていればそのタスクが実行されます。
- 承認者は、タスクを承認するかわりに却下でき、タスクが担当者に再割当てされます。

シナリオ 4: ユーザー

ユーザーがアプリケーションにログオンし、割り当てられたタスクを確認して完了します。

- ユーザーは、ログオンしてタスクを確認します。
- ユーザーは、割り当てられたタスクのリンクをクリックします。
- タスク・ページが起動し、タスクの指示と参照ドキュメントが表示されます。
- ユーザーは指示と参照ドキュメントを確認し、更新を処理してタスクに関するコメントを入力し、承認のために提出します。
- システムによってタスク・ステータスが自動的に更新され、割り当てられた承認者に通知が送信されます。

シナリオ 5: ユーザー

ユーザーがタスクの電子メール通知に応答してデータをロードし、電子メール内のリンクをクリックして、タスクを完了します。

- ユーザーは、未処理のタスクに関する電子メール通知を受信します。
- 電子メールから、ユーザーは必要なプロセスが文書化されているページのリンクを選択します。
- ユーザーは、タスクの指示を確認し、タスクをオープンします。
- ユーザーは、データをシステムにロードします。
- ユーザーは、タスクに関するコメントを入力し、承認のために提出します。

タスク・マネージャのビュー、リストおよびフィルタの管理

関連トピック:

- タスク・マネージャのリストの表示
- ビューの操作
- フィルタの操作

タスク・マネージャのリストの表示

タスク・マネージャのリストは、すべてのタスクを管理するための中心的な場所です。選択した年、期間およびスケジュールについて、タスクとそのステータスのリストが表示されます。

管理者の場合は、システム内の使用可能なすべてのタスクと、それらで作業しているユーザーを表示できます。

管理者以外のユーザーの場合は、自分の役割に対してアクティブな、注意を要するすべてのタスクを表示できます。

タスクを表示するには:

1. ホーム・ページで、「**タスク**」をクリックします。
2. 左側のナビゲーションで「**スケジュール・タスク**」をクリックします。
3. 「**年**」、「**期間**」および「**スケジュール**」を選択します。
4. **オプション:** タスクを検索するには、「**検索**」フィールドで、タスク・リストを検索するテキストまたは数値を入力します。
5. **オプション:** タスクのリストをフィルタするには、フィルタ・バーで「**フィルタの追加**」をクリックし、フィルタ条件を指定します。
「これまでの遅延」属性を使用できます。この属性は、タスクがワークフロー内でスケジュールされた期限日に遅れたことがあるかどうかを自動的に更新して示します。この新しい属性を使用して、スケジュールされた期限日に 1 回以上遅延したタスクを簡単に識別できます。タスクが現在遅延していない場合でも、担当者または承認者がこれまでにそのワークフローで遅延したことがあると、「これまでの遅延」属性は、そのタスクがスケジュールされた期限日に対して遅延として示されます。

サンプル・タスク・リスト

Name	Status (Icon)	Start Date (Assigned)	End Date (Assigned)	Assignee	Responsible	Approver 1	Predecessors	Assignee End Date	Task ID	Task Type	Appr (Act)
01 Consolidation Process Kick Off	🟢	Dec 24, 2021 8:30 AM	Dec 26, 2021 4:30 PM	Kerry Lane					01_Admin	Parent Task	
005 - Review New Closing Procedures	🟢	Jan 1, 2022 8:30 AM	Jan 2, 2022 4:30 PM	Kerry Lane		Casey Brown		Dec 26, 2021 12:00 PM CET	005_Admin	Basic Task	Jan 21
010 - Review New Accounts	🟢	Jan 2, 2022 8:30 AM	Jan 3, 2022 4:30 PM	Kerry Lane		Casey Brown		Jan 2, 2022 12:00 PM CET	010_Admin	Manage Dimensions	Jan 21
015 - Review Currency Rates	🟢	Jan 2, 2022 8:30 AM	Jan 3, 2022 4:30 PM	Kerry Lane		Casey Brown		Jan 3, 2022 12:00 PM CET	015_Conso1	Enter Form Data	Jan 21
020 - Load Admin Data	🟢	Jan 6, 2022 8:30 AM	Jan 7, 2022 4:30 PM	Kerry Lane	Kerry Lane	Casey Brown	010 - Review New Acco...	Jan 7, 2022 12:00 PM CET	020_Conso1	Enter Form Data	
025 - Load EMEA Sales Data	🟢	Jan 7, 2022 4:30 PM	Jan 8, 2022 4:30 PM	Robert Jackman	Robert Jackman	Casey Brown		Jan 8, 2022 11:00 AM GMT	025_Conso1	Import Data	
030 - Load N/A Sales Data	🟢	Jan 7, 2022 8:30 AM	Jan 8, 2022 4:30 PM	Kerry Lane		Casey Brown	020 - Load Admin Data	Jan 8, 2022 5:00 AM CST	030_Conso1	Import Data	
035 - Load Divisional GL Balance Sheet Dr	🟢	Jan 8, 2022 8:30 AM	Jan 8, 2022 11:30 AM	Kerry Lane	Kerry Lane	Casey Brown	010 - Review New Acco...	Jan 7, 2022 11:00 PM MST	035_DataLoad	Import Data	
040 - Perform High Risk Reconciliations	🟢	Jan 8, 2022 11:30 AM	Jan 13, 2022 5:30 PM	Kerry Lane	Kerry Lane	Casey Brown	035 - Review New Clos...	Jan 13, 2022 5:00 AM MST	040_AccrFlow	View Reconciliations	
045 - Reconciliation Reports	🟢	Jan 8, 2022 11:30 AM	Jan 13, 2022 5:30 PM	Kerry Lane	Kerry Lane	Casey Brown	035 - Review New Clos...	Jan 13, 2022 5:00 AM MST	045_AccrFlowR	Reports	
02 Flash Financials (Soft Close)	🟢								02_Conso1	Parent Task	
050 - Perform Preliminary Consolidation	🟢	Jan 9, 2022 8:30 AM	Jan 9, 2022 8:30 AM	Kerry Lane		Casey Brown	015 - Review Currency ...	Jan 9, 2022 5:00 AM CET	050_Conso1	Enter Form Data	
055 - Prepare Intercompany Adjustments	🟢	Jan 9, 2022 8:30 AM	Jan 10, 2022 4:30 PM	Kerry Lane	Kerry Lane	Casey Brown		Jan 10, 2022 12:00 PM CET	055_Conso1	Manage Journals	
070 - Prepare Sales Adjustments	🟢	Jan 9, 2022 8:30 AM	Jan 16, 2022 4:30 PM	Robert Jackman	Robert Jackman	Casey Brown		Jan 10, 2022 11:00 AM GMT	070_Conso1	Manage Journals	
075 - Review Forecast Data	🟢	Jan 9, 2022 8:30 AM	Jan 9, 2022 4:30 PM	Kerry Lane	Kerry Lane	Casey Brown		Jan 9, 2022 12:00 PM CET	075_Forecast	Enter Form Data	

タスク・マネージャの列の定義

この項では、次のタスク・マネージャのオブジェクトについて列の定義を示します：

- [タスク・マネージャ - テンプレート](#)
- [タスク・マネージャ - テンプレート・タスク](#)
- [タスク・マネージャ - スケジュール](#)
- [タスク・マネージャ - タスク・タイプ](#)
- [タスク・マネージャ - 統合](#)
- [タスク・マネージャ - アラート・タイプ](#)
- [タスク・マネージャ - フィルタ](#)
- [タスク・マネージャ - ビュー](#)
- [タスク・マネージャ - 属性](#)
- [タスク・マネージャ - 通貨](#)
- [タスク・マネージャ - スケジュール・タスク](#)

タスク・マネージャ - テンプレート

この項では、タスク・マネージャのテンプレートの列の定義を示します。

表 34-1 列の定義 - タスク・マネージャのテンプレート

列名	説明
作成者	テンプレートを作成したユーザーの名前
作成日	テンプレートが作成された日時
説明	テンプレートの説明
埋込み先	現在のテンプレートが埋め込まれているテンプレートのリスト
埋込みのみ	テンプレートは埋込みテンプレートとしてのみ使用され、デプロイすることはできません。これにより、サポート・テンプレートを誤ってデプロイすることがなくなります。
埋込みテンプレート	現在のテンプレートに埋め込まれているテンプレートのリスト
最新のスケジュール	各テンプレートから作成された最新のスケジュール
最終更新者	テンプレートを最後に更新したユーザーの名前
最終更新日	テンプレートが最後に更新された日時
名前	テンプレートの名前
日 0 の後の日数	テンプレートが日 0 の後に追跡される日数。日ゼロの後の日付は、日 3 や日 4 のように示されます。
日 0 の前の日数	テンプレートが日 0 の前に追跡される日数。日ゼロの前の日付は、日-5 や日-4 のように示されます。
組織単位	割り当てられた組織単位
Owner	テンプレート所有者の名前。サービス管理者またはパワー・ユーザーである必要があります。テンプレート所有者は、タスク・レベルで上書きされないかぎり、テンプレートに含まれるすべてのタスクのデフォルトの所有者になります。
スケジュール	各テンプレートから作成されたスケジュールの合計数

タスク・マネージャ - テンプレート・タスク

この項では、タスク・マネージャのテンプレート・タスクの列の定義を示します。

表 34-2 列の定義 - タスク・マネージャのテンプレート・タスク

列名	説明
Active	タスク・テンプレートのステータスを示します。
承認者 1-10	割り当てられた承認者レベル
承認者 1-10 (バックアップ)	割り当てられた承認者(バックアップ)
承認者 1-10 (プライマリ)	プライマリ承認者
承認者 1-10 の終了日(割当済)	承認者に割り当てられた終了日
承認者 1-10 の終了日(割当済、ローカル)	組織単位のローカル・タイム・ゾーンで、タスクに割り当てられた終了日(組織単位が割り当てられている場合)
承認者 1-10 のスケジュール済の終了日	タスクにスケジュールされた終了日
承認者 1-10 のスケジュール済の終了日(ローカル)	組織単位のローカル・タイム・ゾーンで、タスクにスケジュールされた終了日(組織単位が割り当てられている場合)
承認者 1-10 のスケジュール済の開始日	タスクにスケジュールされた開始日
承認者 1-10 のスケジュール済の開始日(ローカル)	組織単位のローカル・タイム・ゾーンで、タスクにスケジュールされた開始日(組織単位が割り当てられている場合)
承認者 1-10 の開始日	タスクに割り当てられた開始日
承認者 1-10 の開始日(ローカル)	組織単位のローカル・タイム・ゾーンで、タスクに割り当てられた開始日(組織単位が割り当てられている場合)
承認者(人数)	割り当てられた承認者の合計数
担当者	タスクを実行できるユーザー
担当者(バックアップ)	タスクを実行できるバックアップ・ユーザー
担当者(プライマリ)	タスクを実行できるプライマリ・ユーザー
担当者終了日	割り当てられたユーザーの終了日
担当者終了日(ローカル)	組織単位のローカル・タイム・ゾーンで、タスクに割り当てられた終了日(組織単位が割り当てられている場合)
作成者	テンプレート・タスクを作成したユーザーの名前
作成日	テンプレート・タスクが作成された日時
説明	テンプレート・タスクの説明
実行タイプ	実行のタイプ(エンド・ユーザー、システム自動、イベント・モニタリングなど)
指示	タスクを完了するための一連の指示
統合	実行のタイプ(エンド・ユーザー、システム自動またはイベント・モニタリング)
最終更新者	テンプレート・タスクを最後に更新したユーザーの名前
最終更新日	テンプレート・タスクが最後に更新された日時
組織単位	割り当てられた組織単位
Owner	テンプレート・タスク所有者の名前。サービス管理者またはパワー・ユーザーである必要があります。テンプレート・タスク所有者は、タスク・レベルで上書きされないかぎり、テンプレートに含まれるすべてのタスクのデフォルトの所有者になります。
親	親タスクのタスク ID

表 34-2 (続き) 列の定義 - タスク・マネージャのテンプレート・タスク

列名	説明
先行	現在のタスクの先行。別のテンプレートからのタスクでもかまいません。
優先度	タスクの優先度
参照(件数)	テンプレート・タスクに追加された参照の数(URL およびコンテンツ・サーバーの参照)。
ルール(件数)	エンタープライズ仕訳に直接割り当てられたルールの合計数
別名実行	ユーザーとしてタスクを実行します。システム自動タスクにのみ適用されます。
許可済みの別名実行	このタスクを許可できるユーザー。別名実行ユーザーがタスクを作成したユーザーでもある場合、そのユーザーは、パスワードの再入力を要求されずにタスクを許可できます。
タスクの先行開始	担当者が、スケジュールされた開始時間より前に保留中のタスクを開くことができるかどうかを示します
後続	現在のタスクの後続
タスク ID	タスクの一意的識別子
タスク・タイプ	タスクのタイプ
テンプレート	タスクに関連付けられたテンプレート

タスク・マネージャ - スケジュール

この項では、タスク・マネージャのスケジュールの列の定義を示します。

表 34-3 列の定義 - タスク・マネージャ - スケジュール

列名	説明
作成者	スケジュールを作成したユーザーの名前
作成日	スケジュールが作成された日時
日ゼロの日付	日ゼロとして割り当てる日付
説明	スケジュールの説明
終了日	スケジュールの有効終了日
最終更新者	スケジュールを最後に更新したユーザーの名前
最終更新日	スケジュールが最後に更新された日時
名前	スケジュールの名前
組織単位	スケジュールに関連付けられている組織単位
Owner	スケジュール所有者の名前。サービス管理者またはパワー・ユーザーである必要があります。
期間	スケジュールの期間
開始日	スケジュールの有効開始日
ステータス	スケジュールのステータス
タスク	スケジュールに関連付けられているタスク
年	スケジュールが作成された年

タスク・マネージャ - タスク・タイプ

この項では、タスク・マネージャのタスク・タイプの列の定義を示します。

表 34-4 列の定義 - タスク・マネージャ - タスク・タイプ

列名	説明
作成者	タスク・タイプを作成したユーザーの名前
作成日	タスク・タイプが作成された日時
説明	タスク・タイプの説明
実行タイプ	タスク・タイプに関連付けられている実行のタイプ
統合	タスク・タイプに関連付けられている統合
最終更新者	タスク・タイプを最後に更新したユーザーの名前
最終更新日	タスク・タイプが最後に更新された日時
名前	タスク・タイプの名前
タスク・タイプ ID	タスク・タイプの一意的識別子

タスク・マネージャ - 統合

この項では、タスク・マネージャの統合の列の定義を示します。

表 34-5 列の定義 - タスク・マネージャ - 統合

列名	説明
Connection	タスクが属するアプリケーション
作成者	統合を作成したユーザーの名前
作成日	統合が作成された日時
説明	統合の説明
実行タイプ	統合の実行タイプのタイプ
Integration Cloud のデプロイ	統合に関連付けられている Integration Cloud のデプロイメント
最終更新者	統合を最後に更新したユーザーの名前
最終更新日	統合が最後に更新された日時
名前	統合の名前

タスク・マネージャ - アラート・タイプ

この項では、タスク・マネージャのアラート・タイプの列の定義を示します。

表 34-6 列の定義 - タスク・マネージャ - アラート・タイプ

列名	説明
アラート・タイプ ID	アラート・タイプの一意的識別子
関連先	アラート・タイプに関連付けられているオブジェクト(タスクなど)
作成者	アラート・タイプを作成したユーザーの名前
作成日	アラート・タイプが作成された日時
説明	アラート・タイプの説明
有効	アラート・タイプが有効かどうかを示します
最終更新者	アラート・タイプを最後に更新したユーザーの名前
最終更新日	アラート・タイプが最後に更新された日時

表 34-6 (続き) 列の定義 - タスク・マネージャ - アラート・タイプ

列名	説明
名前	アラート・タイプの名前

タスク・マネージャ - フィルタ

この項では、タスク・マネージャのフィルタの列の定義を示します。

表 34-7 列の定義 - タスク・マネージャ - フィルタ

列名	説明
作成者	フィルタを作成したユーザーの名前
作成日	フィルタが作成された日時
説明	フィルタの説明
最終更新者	フィルタを最後に更新したユーザーの名前
最終更新日	フィルタが最後に更新された日時
名前	フィルタの名前
パブリック	フィルタがパブリックであるかどうかを示します
タイプ	フィルタのタイプ

タスク・マネージャ - ビュー

この項では、タスク・マネージャのビューの列の定義を示します。

表 34-8 列の定義 - タスク・マネージャ - ビュー

列名	説明
作成者	ビューを作成したユーザーの名前
作成日	ビューが作成された日時
デフォルト	ビューがデフォルト・ビューとして設定されているかどうかを示します
説明	ビューの説明
最終更新者	ビューを最後に更新したユーザーの名前
最終更新日	ビューが最後に更新された日時
名前	ビューの名前
パブリック	ビューがパブリックであるかどうかを示します
タイプ	ビューのタイプ

タスク・マネージャ - 属性

この項では、タスク・マネージャの属性の列の定義を示します。

表 34-9 列の定義 - タスク・マネージャ - 属性

列名	説明
添付	属性に添付があるかどうかを示します

表 34-9 (続き) 列の定義 - タスク・マネージャ - 属性

列名	説明
計算	属性が計算属性かどうかを示します
作成者	属性を作成したユーザーの名前
作成日	属性が作成された日時
最終更新者	属性を最後に更新したユーザーの名前
最終更新日	属性が最後に更新された日時
行	「アクション」ダイアログ・ボックスで、スクロールせずに表示できるテキストの行数。
ロック済	属性がロックされているかどうかを示します
名前	属性の名前
タイプ	属性のタイプ

タスク・マネージャ - 通貨

この項では、タスク・マネージャの通貨の列の定義を示します。

表 34-10 列の定義 - タスク・マネージャ - 通貨

列名	説明
通貨コード	通貨を識別する国の通貨コード
通貨記号	通貨コードの通貨記号
小数点以下の桁数	数値を小数値で表示する方法を示します
説明	通貨コードに関連付けられている国の名前
有効	通貨コードが有効かどうかを示します

タスク・マネージャ - スケジュール・タスク

この項では、タスク・マネージャのスケジュール・タスクの列の定義を示します。

表 34-11 列の定義 - タスク・マネージャ - スケジュール・タスク

列名	説明
承認者 1-10	割り当てられた承認者レベル
承認者 1-10 (実際)	実際の承認者
承認者 1-10 (バックアップ)	バックアップ承認者
承認者 1-10 (プライマリ)	プライマリ承認者
承認者 1-10 の終了日(実際)	役割が完了した実際の終了日
承認者 1-10 の終了日(実際、ローカル)	組織単位のローカル・タイム・ゾーンで、役割が完了した実際の終了日(組織単位が割り当てられている場合)
承認者 1-10 の終了日(割当済)	承認者に割り当てられた終了日
承認者 1-10 の終了日(割当済、ローカル)	組織単位のローカル・タイム・ゾーンで、タスクの承認者に割り当てられた終了日(組織単位が割り当てられている場合)
承認者 1-10 の却下(件数)	承認者によって却下されたスケジュール済タスクの合計数
承認者 1-10 のスケジュール済の終了日	タスクの承認者の有効終了日

表 34-11 (続き) 列の定義 - タスク・マネージャ - スケジュール・タスク

列名	説明
承認者 1-10 のスケジュール済の終了日(ローカル)	組織単位のローカル・タイム・ゾーンで、タスクの承認者にスケジュールされた終了日(組織単位が割り当てられている場合)
承認者 1-10 のスケジュール済の開始日	タスクの承認者の有効開始日
承認者 1-10 のスケジュール済の開始日(ローカル)	組織単位のローカル・タイム・ゾーンで、タスクの承認者にスケジュールされた開始日(組織単位が割り当てられている場合)
承認者 1-10 の開始日	タスクに割り当てられた開始日
承認者 1-10 の開始日(ローカル)	組織単位のローカル・タイム・ゾーンで、タスクに割り当てられた開始日(組織単位が割り当てられている場合)
承認者(人数)	割り当てられた承認者の合計数
担当者	タスクを実行できるユーザー
担当者(実際)	スケジュール済タスクを処理した実際の担当者
担当者(バックアップ)	タスクを実行できるバックアップ・ユーザー
担当者(プライマリ)	タスクを実行できるプライマリ・ユーザー
担当者終了日	割り当てられたユーザーの有効終了日
担当者終了日(実際)	担当者役割が完了した実際の終了日
担当者終了日(実際、ローカル)	組織単位のローカル・タイム・ゾーンで、担当者役割が完了した実際の終了日(組織単位が割り当てられている場合)
担当者終了日(割当済)	完了する担当者役割の有効終了日
担当者終了日(割当済、ローカル)	組織単位のローカル・タイム・ゾーンで、役割が完了した実際の終了日(組織単位が割り当てられている場合)
担当者終了日(ローカル)	組織単位のローカル・タイム・ゾーンで、タスクに割り当てられた終了日(組織単位が割り当てられている場合)
コメント(件数)	スケジュール済タスクに対するコメントの合計数
作成者	スケジュール済タスクを作成したユーザーの名前
作成日	スケジュール済タスクが作成された日時
説明	スケジュール済タスクの説明
終了日	スケジュール済タスクの有効終了日
これまでの遅延(担当者)	担当者がタスクを送信した日付が期限日を過ぎているかどうかを示します。
これまでの遅延(承認者 1-10)	承認者の役割が遅延したことがあるかどうかを示します
実行タイプ	実行タイプ(「エンド・ユーザー」、「システム自動」、「イベント・モニタリング」など)
指示	スケジュール済タスクを完了するための一連の指示
統合	スケジュール済タスクに関連付けられている統合
最終更新者	スケジュール済タスクを最後に更新したユーザーの名前
最終更新日	スケジュール済タスクが最後に更新された日時
遅延(承認者 1-10)	承認者が期限日を過ぎたタスクを完了したかどうかを示します
遅延(担当者)	担当者が期限日を過ぎたタスクを完了したかどうかを示します
オープン・タスク	タスクがオープンしているかどうかを示します
組織単位	割り当てられた組織単位
Owner	スケジュール済タスク所有者の名前。サービス管理者またはパワー・ユーザーである必要があります
親	親タスクのタスク ID

表 34-11 (続き) 列の定義 - タスク・マネージャ - スケジュール・タスク

列名	説明
先行	現在のタスクの先行。別のテンプレートからのタスクでもかまいません。
優先度	タスクの優先度
参照(件数)	スケジュール済タスクに追加された参照の数(URL およびコンテンツ・サーバーの参照)
ルール(件数)	スケジュール済タスクに直接割り当てられたルールの合計数
別名実行	ユーザーとしてタスクを実行します。システム自動タスクにのみ適用されます。
許可済みの別名実行	このタスクを許可できるユーザー。別名実行ユーザーがタスクを作成したユーザーでもある場合、そのユーザーは、パスワードの再入力を要求されずにタスクを許可できます。
開始日	スケジュール済タスクの有効開始日
タスクの先行開始	担当者が、スケジュールされた開始時間より前に保留中のタスクを開くことができるかどうかを示します
ステータス(アイコン)	スケジュール済タスクのステータスを示すアイコン
後続	現在のタスクの後続
タスク ID	タスクの一意的識別子
タスク・タイプ	タスクのタイプ

タスク・マネージャ・システム設定の管理

次も参照:

- [グローバル統合トークンの管理](#)
- [タスク・マネージャの組織単位の管理](#)
- [タスクの休日ルールの管理](#)
- [構成設定の変更](#)

グローバル統合トークンの管理

グローバル統合トークン機能を使用すると、パラメータ化された URL を作成できます。URL は様々な目的で使用できます。

URL の作成時に、パラメータが URL に挿入されます。URL をクリックすると、パラメータが適切な値に置き換わります。

たとえば、次にパラメータの抜粋を示します。

```
...$YearName$%22%22Period%20Name%22&val6=%22$PeriodName$%22&col17=%22Logical%20Schedules%22.%22Year%20Name%22&val7=%22$YearName$%22&col8=%22Logical%20Schedules%22.%22Deployment%20Name%22&val8=%22$ScheduleName $%22
```

ここで

```
$YearName$ = 2012
$PeriodName$ = Jan12
$ScheduleName$ = DemoSchedule
```

URL は次のようになります。

```
...
%222012%22%22Period%20Name%22&val6=%22Jan2012%22&col7=%22Logical%20Sche
dules%22.%22Year%20Name%22&val7=%222012%22&col8=%22Logical%20Schedules%
22.%22Schedule%20Name%22&val8=%22DemoSchedule%22
```

パラメータは、アプリケーションで定義された静的パラメータ、「テキスト」および「リスト」タイプの属性、およびタスク、テンプレートおよびスケジュールに割り当てられた次のネイティブ属性から構成されます。

- 期間名
- スケジュール名
- タスク名
- タスク ID
- 年名

URL には次の場所からアクセスできます。

- **テンプレート:** 管理者またはパワー・ユーザーが参照 URL を「指示」セクションのテンプレートに追加すると、URL は「指示」タブでクリックできるようになります。
- **スケジュール:** 管理者またはパワー・ユーザーが参照 URL を「指示」セクションのスケジュールに追加すると、URL は「指示」でクリックできるようになります。
- **タスクの詳細:** 管理者、パワー・ユーザーまたはタスク所有者が参照 URL を「指示」セクションのタスクに追加すると、URL は「指示」でクリックできるようになります。
- **タスク・タイプ:** 管理者が参照 URL を「指示」セクションのタスク・タイプに追加すると、URL は「指示」タブでクリックできるようになります。
- **タスク・アクション:** 「タスク・アクション」の参照者は参照 URL をクリックできます。

グローバル統合トークンの作成

グローバル統合トークンを作成するには、次のガイドラインに従ってください。

- トークン名は一意にする必要があります。
- トークンは変更できません。
- トークンは削除しないでください。トークンを削除しようとする、次の警告が表示されます: 「グローバル統合トークンを削除すると、それを参照している URL が無効になります。続行してよろしいですか?」

グローバル統合トークンを作成するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**タスク・マネージャ**」をクリックします。
2. 左側の「**システム設定**」タブをクリックし、「**グローバル統合トークン**」を選択します。
3. 「**新規**」をクリックします。
4. 次を入力します:
 - **名前**: 一意のトークン名
 - **タイプ**: 静的またはタスク属性
 - **トークン値**:
 - 「パラメータ・タイプ」に「**タスク属性**」が選択されている場合は、URL がレンダリングされるときに渡される値を選択します。
 - 「パラメータ・タイプ」に「**静的属性**」が選択されている場合は、URL がレンダリングされるときに渡される値を入力します。
5. 「**保存**」をクリックします。

トークンの削除

トークンを削除するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
2. 左側の「**システム設定**」タブをクリックし、「**グローバル統合トークン**」を選択します。
3. トークンを選択し、「**削除**」をクリックします。

次の警告メッセージが表示されます。「グローバル統合トークンを削除すると、それを参照している URL が無効になります。続行してよろしいですか？」
4. 「**はい**」をクリックして、削除を確認します。

タスク・マネージャの組織単位の管理

組織単位を使用すると、管理者は、地域、エンティティ、事業部門、事業部、部署や、タスクに関連するその他すべてのエンティティをモデル化することができます。組織単位は、レポートが容易になるように階層形式を取っています。

階層を表示する際、管理者は階層を展開および縮小して、その階層の他のセクションを操作できます。

組織単位の追加

組織を追加するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**タスク・マネージャ**」をクリックします。
2. 左側の「**組織**」タブをクリックし、「**組織単位**」を選択します
3. 「**兄弟の追加**」をクリックします。
4. 「**プロパティ**」タブで、次の情報を入力します。
 - **名前**: 最大 255 文字まで入力できます。

名前は管理者が変更でき、一意にする必要はありません。

- **組織単位 ID:** 移行目的でトランザクションを識別するために使用される一意の ID。

組織単位 ID は組織単位の設定後は変更できません。最大 255 文字まで入力できます。

- オプション: **親組織:** 管理者は階層を変更できます。
 - **説明:** 最大 255 文字まで入力できます。
 - **タイムゾーン:** どのタイム・ゾーンが組織単位に適用されるかを決定します。タイム・ゾーンの選択はオプションです。タイム・ゾーンが選択されていないと、タスクのタイム・ゾーンはユーザーのタイム・ゾーンに戻ります。
 - **休日ルール:** どの休日のリストが組織単位に適用されるかを決定します。休日ルールの選択はオプションです。
 - **労働日数:** どの曜日が労働日であるかを決定します。
5. 「アクセス」タブを使用すると、管理者は参照者およびコメント作成者のアクセス権を中央の 1 箇所で割り当てることができ、各タスクにアクセス権を割り当てる必要がなくなります。

ユーザーを選択するには:

- a. 「追加」をクリックします。
- b. 「参照者の選択」で、「名」および「姓」を入力するか、「ユーザーの検索」をクリックして、「ユーザー」、「グループ」または「チーム」を選択します。
- c. 「検索結果」で、ユーザーを選択し、「追加」または「すべて追加」をクリックし、これらを「選択済」リストに移動します。

組織単位のインポート

組織単位をインポートするには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「組織」タブをクリックし、「組織単位」を選択します。
3. 「インポート」  をクリックします。
 - 「ファイルの選択」をクリックして、CSV インポート・ファイルに移動します。

組織のインポート・フォーマットの例:

ノート:

次の項では、インポート・フォーマットを示します。この例では、"Americas"という親組織単位、"US"という休日ルール、および"fm_user5"という参照者が事前に存在することが必要です。

```
"OrganizationalUnitID","Name","ParentOrganization","Description","TimeZone",  
"HolidayRule","Calendar","Workdays","Viewer1","Commentator1"  
"US2","US2","Americas","Import Organization US2 Example","ET  
(UTC-05:00)","US","","2-3-5","fm_user5",""
```

- 「**インポート・タイプ**」に、次のいずれかを選択します:
 - **置換**: 組織単位の詳細を、インポートしているファイル内にある組織単位で置き換えます。インポート・ファイルに指定されていない他の単位には影響しません。
 - **すべて置換**: 既存の単位を置き換える新しい組織単位のセットをインポートします。あるシステムの単位を別のシステムで更新された定義に置き換える場合にこのオプションは便利です。インポート・ファイルに指定されていない組織単位は削除されます。
 - 「**ファイル区切り文字**」で、「**カンマ**」、「**タブ**」または「**その他**」を選択します。
4. 「**インポート**」をクリックします。

組織単位の選択

管理者は、タスクの編成とスケジュール設定に役立つよう、組織単位を組織で定義します。

組織を選択するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
2. 左側の「**組織**」タブをクリックし、「**組織単位**」を選択します。
3. 組織を選択します。矢印は子組織が存在することを示します。子組織を選択するには親を展開します。

タスクの休日ルール管理

休日ルールは休日の日付の集合であり、管理者はこれを使用してタスクをスケジュールします。

休日ルールを作成したら、そのルールを組織単位に適用してから、組織単位をスケジュール・テンプレートに適用できます。

[組織単位への休日ルールの適用](#)および[スケジュール・テンプレートへの休日ルールの適用](#)を参照してください。

休日ルールの作成

休日ルールを作成するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**タスク・マネージャ**」をクリックします。
2. 左側の「**組織**」タブをクリックします。
3. 「**休日ルール**」をクリックします。
4. 「**新規**」をクリックします。
5. 次を入力します:
 - **休日ルール ID**: 最大 255 文字まで入力できます。「**休日ルール ID**」は必須で、一意である必要があります。

- **名前:** 最大 50 文字まで入力できます。**名前**は一意である必要はありません。
 - **年:** 「年」属性はフィルタ・オプションとして機能します。この属性の値を選択する必要はありません。それを行うと、表がフィルタ処理され、選択した年に関連する日付が表示されます。
6. 休日を指定するには、「**休日**」セクションで、「**インポート**」()をクリックして休日のリストをインポートするか、「**新規**」をクリックして休日の日付および名前を入力します。

組織単位への休日ルールの適用

休日ルールを作成したら、それを組織単位に適用してから、それをスケジュールに適用できます。

休日ルールを適用するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
2. 左側の「**組織**」タブをクリックします。
3. 「**組織単位**」をクリックします。
4. 組織を作成または編集します。
5. 「**プロパティ**」で、「**休日ルール**」ドロップダウンから休日ルールを選択します。
6. 「**保存**」をクリックします。

スケジュール・テンプレートへの休日ルールの適用

休日ルールを作成したら、それを組織単位に適用してから、組織単位をスケジュールに適用できます。

休日ルールを適用するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックします。
2. 「**タスク・マネージャ**」をクリックします。
3. 左側の「**テンプレート**」タブをクリックします。
4. テンプレートを選択し、テンプレートの右側にある「**アクション**」アイコンをクリックし、「**スケジュールの作成**」を選択します。
5. 「**スケジュール・パラメータ**」については、「**スケジュール**」、「**年**」、「**期間**」および「**日ゼロの日付**」を指定します。
6. 「**日付マッピング**」で、「**拡張構成**」をクリックします。
7. 「**組織単位**」に対して、「**タスク値の使用**」または「**値の設定**」を選択します。「**値の設定**」の場合は、「**検索**」アイコンをクリックして組織単位を選択します。
8. 作成または編集して休日ルールを追加した組織単位を選択し、「**OK**」をクリックします。
9. 「**OK**」をクリックします。

これで、「スケジュール・パラメータ」の「日付マッピング」に休日が表示されます。

休日日付のインポート

日付を休日ルール内にインポートできます。

休日日付をインポートするには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
2. 左側の「**組織**」タブをクリックします。
3. 「**休日ルール**」をクリックします。
4. 休日ルールを作成または選択します。
5. 「**休日**」セクションの上にある「**インポート**」をクリックします。
6. 「**ファイルの選択**」をクリックして、CSV インポート・ファイルに移動します。
7. 「**インポート・タイプ**」に、次のいずれかを選択します:
 - **置換**: 休日日付を、インポートしているファイル内の休日日付に置き換えます。インポート・ファイルに指定されていない他の単位には影響しません。
 - **すべて置換**: 既存の休日日付を置き換える新しい休日日付のセットをインポートします。このオプションを使用して、あるシステムの単位を別のシステムで更新された定義に置き換えます。インポート・ファイルに指定されていない休日日付は削除されます。
8. 「**日付フォーマット**」で、使用可能な日付フォーマットのドロップダウン・リストから、フォーマットを選択します。日付フォーマットは変換されません。デフォルトで、日付フォーマットはエクスポートされたファイルの場所のロケールの日付フォーマットに設定されます。
9. 「**ファイル区切り文字**」で、「**カンマ**」、「**タブ**」または「**その他**」を選択します。
10. 「**インポート**」をクリックします。

休日ルールの編集

休日ルールを編集するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**タスク・マネージャ**」をクリックします。
2. 左側の「**組織**」タブをクリックし、「**休日ルール**」を選択します。
3. ルールを選択します。
4. 次のフィールドを編集します:

ノート:

「**休日ルール ID**」は編集できません。

- **名前**: 名前は最大 50 文字です。一意である必要はありません。

- **年:** 「年」属性はフィルタ・オプションとして機能します。この属性の値を選択する必要はありません。それを行うと、表がフィルタ処理され、選択した年に関連する日付が表示されます。

5. 「保存」をクリックします。

休日ルールの複製

休日ルールを複製するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「組織」タブをクリックします。
3. 「休日ルール」をクリックします。
4. ルールを選択して「複製」をクリックします。
5. 必要に応じてルールを編集します。

休日ルールの削除

論理的に削除されない組織単位に関連付けられている休日ルールは削除できません。休日ルールが割り当てられていた組織単位のリストが表示されます。

休日ルールを削除するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 「組織」タブをクリックし、「休日ルール」を選択します。
3. ルールを選択し、「削除」をクリックします。

構成設定の変更

次も参照:

- [コメントの削除の許可](#)
- [タスクの削除の許可](#)
- [電子メール通知の有効化](#)
- [タスク・マネージャ・ガバナーの設定](#)
- [再割当て要求の承認の許可](#)
- [タスクを再度開く](#)
- [タスク・マネージャ・レポートの設定](#)
- [Excel フォーマットへのエクスポートの設定](#)
- [Smart View でのタスク表示の指定](#)
- [ワークリストおよびようこそパネルでの今後のタスクの表示](#)

コメントの削除の許可

サービス管理者は、「**コメントの削除を許可**」構成設定オプションを使用して、タスク内のコメントの削除を許可することを決定できます。デフォルトでは、このオプションはオフです。

ユーザーにコメントの削除を許可するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**タスク・マネージャ**」をクリックします。
2. 左側の「**システム設定**」タブをクリックします。
3. 「**コメントの削除を許可**」を選択します。
4. 「**オンにする**」を選択して削除を有効にします。

タスクの削除の許可

サービス管理者は、タスクの削除を許可するかどうかを指定できます。デフォルトでは、このオプションはオフです。

ノート:

この設定は実行中およびクローズ済のタスクにのみ影響します。

ユーザーにタスクの削除を許可するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**タスク・マネージャ**」をクリックします。
2. 左側の「**システム設定**」タブをクリックします。
3. 「**タスクの削除を許可**」を選択します。
4. 「**オンにする**」を選択して削除を有効にします。

電子メール通知の有効化

サービス管理者は、タスク・マネージャ・ユーザーの電子メール通知を設定できます。電子メール通知を有効化すると、バッチ通知が生成されます。通知が不要になった場合は、電子メール通知およびリマインダを非アクティブにできます。

ノート:

デフォルトでは、電子メール通知は有効化されていません。

管理者は、リマインダ通知を送信する期限までの日数を割り当てることもできます。

期限日リマインダ通知は、次の条件に該当する担当者および承認者に電子メールで送信されます。

- タスク・マネージャ・アクションの責任が変更された - アクションの情報に基づいて送信

- 期限日が欠落している - アクションの情報に基づいて送信
- 期限日が近づいている - 指定した事前日数に基づいて送信

電子メール通知を有効にするには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**タスク・マネージャ**」をクリックします。
2. 左側の「**システム設定**」タブをクリックします。
3. 「**電子メール通知**」を選択します。
4. 「**電子メール通知**」に「**オンにする**」を選択して通知を開始するか、「**オフにする**」を選択して通知を非アクティブにします。
5. 「**送信元アドレス**」に電子メールを入力します。アドレスを編集して特定のアドレスを指定したり、製品の頭文字を追加して通知の送信元をユーザーにアラートできます。「**送信元アドレス**」フィールドを編集できる場合は、電子メールを入力します。それ以外の場合、デフォルトの電子メール・アドレスが no.reply@epm.oraclecloud.com と表示され、編集できません。電子メール通知では、電子メールのフッターにサービス名も含められます。例: 「ノート - これは、efim.arcs の EPM Task Manager からの自動電子メール通知です。」。
6. 「**リマインダを送信する期限日までの日数**」を入力します。
7. 「**ユーザー指定**」チェック・ボックスを選択します。管理者がこのチェック・ボックスを選択すると、ユーザーは個人の電子メール通知設定をカスタマイズできます。管理者がこのチェック・ボックスを選択しない場合、ユーザーは管理者が行った設定を継承します。
8. 「**電子メール開始時間**」と「**電子メール終了時間**」を使用して、スケジュールされた電子メールが送信される 1 日の期間を指定します。この設定は、各ユーザーの個々のタイム・ゾーンで有効になります。

Manage System Settings



9. 「**通知タイプ**」の設定を指定します。次のタイプの通知を定義できます:
 - 遅延通知
 - ステータス変更通知
 - 期限日リマインダ通知

Notification Type	Notify Me
Late Notification	Every 2 hours
Task Manager	Every 2 hours
You are the task approver and task approver is late	Every 2 hours
You are the task assignee and task assignee is late	Every 2 hours
You are the task owner and task assignee is late	Every 2 hours
You are the task owner and task approver is late	Every 2 hours
Status Change Notification	Once a day
Due Date Reminder Notification	Every 6 hours

「通知する」に対してオプションを選択します:

- **即時:** たとえば、**ステータス変更通知**の場合、「**タスク・マネージャ**」を展開し、再度展開して「**あなたはアラート承認者です。アラート・ステータスがオープン(承認者)に変更されました**」を選択します。承認者が処理したらすぐに通知を受ける場合、「**即時**」を選択します。

ノート:

「通知する」を「即時」に設定した場合、電子メール通知は、ユーザーの電子メール開始/終了時間外であっても、即時に送信されます。

- 1 日に 1 回
- 2 時間ごと
- 3 時間ごと
- 4 時間ごと
- 6 時間ごと
- 混在
- なし: 通知を非アクティブにするには、このオプションを選択します。このオプションは、「**ステータス変更通知**」および「**期限日リマインダ通知**」にのみ適用されることに注意してください。「**遅延通知**」では、次の通知タイプでのみこのオプションが表示されます:
 - あなたはタスク所有者です。タスク担当者が遅延しています
 - あなたはタスク所有者です。タスク承認者が遅延しています

 **ノート:**

通知のタイプごとに、各通知プリファレンスを展開して通知のタイミングを選択します。

たとえば、**ステータス変更通知**の場合は、「**タスク・マネージャ**」を展開し、さらに展開して「**あなたはタスク承認者です。タスク承認者が遅延しています**」を選択します。通知の選択肢として「**2 時間ごと**」を選択します。

設定を下位レベルでオーバーライドできることに注意してください(たとえば、**通知タイプ**を「**2 時間ごと**」に構成し、いずれかの条件を「**1 日に 1 回**」にオーバーライドするなど)。その場合、親設定に「**混在**」と表示され、子レベルの設定に複数のプリファレンス設定が割り当てられていることを視覚的に示します。「**混在**」から別のプリファレンス設定に値を変更できます; そうすると、子レベルの設定が新しい設定に変わります。

管理者が「サービス」で**電子メール通知**を無効にすると、通知は停止されます。

詳細は、[通知タイプおよび設定の管理](#)を参照してください。

Tax Reporting の操作の通知用電子メールの設定も参照してください。

通知タイプおよび設定の管理

サービス管理者は、**通知タイプ**で、すべてのユーザーのすべてのタスク・マネージャ通知のデフォルト設定を定義できます。

遅延通知のオプション

Table 34-12 遅延通知タイプの表

通知	有効な値
あなたはタスク承認者です。タスク承認者が遅延しています	<ul style="list-style-type: none"> • 2 時間ごと • 3 時間ごと • 4 時間ごと • 6 時間ごと • 1 日に 1 回
あなたはタスク担当者です。タスク担当者が遅延しています	<ul style="list-style-type: none"> • 2 時間ごと • 3 時間ごと • 4 時間ごと • 6 時間ごと • 1 日に 1 回
あなたはタスク所有者です。タスク担当者が遅延しています	<ul style="list-style-type: none"> • なし • 2 時間ごと • 3 時間ごと • 4 時間ごと • 6 時間ごと • 1 日に 1 回

Table 34-12 (Cont.) 遅延通知タイプの表

通知	有効な値
あなたはタスク所有者です。タスク承認者が遅延しています	<ul style="list-style-type: none"> • なし • 2 時間ごと • 3 時間ごと • 4 時間ごと • 6 時間ごと • 1 日に 1 回

ステータス変更通知のオプション

Table 34-13 ステータス変更通知タイプの表

通知	有効な値
あなたはアラート担当者です。アラート・ステータスがオープン(担当者)に変更されました	<ul style="list-style-type: none"> • なし • 即時 • 2 時間ごと • 3 時間ごと • 4 時間ごと • 6 時間ごと • 1 日に 1 回
あなたはアラート承認者です。アラート・ステータスがオープン(承認者)に変更されました	<ul style="list-style-type: none"> • なし • 即時 • 2 時間ごと • 3 時間ごと • 4 時間ごと • 6 時間ごと • 1 日に 1 回
あなたはアラート所有者です。アラート・ステータスがオープン(所有者)に変更されました	<ul style="list-style-type: none"> • なし • 即時 • 2 時間ごと • 3 時間ごと • 4 時間ごと • 6 時間ごと • 1 日に 1 回
あなたはアラート所有者です。アラート・ステータスがオープン(担当者)に変更されました	<ul style="list-style-type: none"> • なし • 即時 • 2 時間ごと • 3 時間ごと • 4 時間ごと • 6 時間ごと • 1 日に 1 回
あなたはアラート所有者です。アラート・ステータスがオープン(承認者)に変更されました	<ul style="list-style-type: none"> • なし • 即時 • 2 時間ごと • 3 時間ごと • 4 時間ごと • 6 時間ごと • 1 日に 1 回

Table 34-13 (Cont.) ステータス変更通知タイプの表

通知	有効な値
あなたはアラート所有者です。アラート・ステータスが完了に変更されました	<ul style="list-style-type: none"> • なし • 即時 • 2 時間ごと • 3 時間ごと • 4 時間ごと • 6 時間ごと • 1 日に 1 回
あなたはアラート参照者です。アラート・ステータスがオープン(所有者)に変更されました	<ul style="list-style-type: none"> • なし • 即時 • 2 時間ごと • 3 時間ごと • 4 時間ごと • 6 時間ごと • 1 日に 1 回
あなたはアラート参照者です。アラート・ステータスがオープン(担当者)に変更されました	<ul style="list-style-type: none"> • なし • 即時 • 2 時間ごと • 3 時間ごと • 4 時間ごと • 6 時間ごと • 1 日に 1 回
あなたはアラート参照者です。アラート・ステータスがオープン(承認者)に変更されました	<ul style="list-style-type: none"> • なし • 即時 • 2 時間ごと • 3 時間ごと • 4 時間ごと • 6 時間ごと • 1 日に 1 回
あなたはアラート参照者です。アラート・ステータスが完了に変更されました	<ul style="list-style-type: none"> • なし • 即時 • 2 時間ごと • 3 時間ごと • 4 時間ごと • 6 時間ごと • 1 日に 1 回
あなたはスケジュール所有者です。スケジュールが作成されました	<ul style="list-style-type: none"> • なし • 即時 • 2 時間ごと • 3 時間ごと • 4 時間ごと • 6 時間ごと • 1 日に 1 回

Table 34-13 (Cont.) ステータス変更通知タイプの表

通知	有効な値
あなたはスケジュール所有者です。スケジュール・ステータスがオープンに変更されました	<ul style="list-style-type: none"> • なし • 即時 • 2 時間ごと • 3 時間ごと • 4 時間ごと • 6 時間ごと • 1 日に 1 回
あなたはスケジュール所有者です。スケジュール・ステータスがクローズ済に変更されました	<ul style="list-style-type: none"> • なし • 即時 • 2 時間ごと • 3 時間ごと • 4 時間ごと • 6 時間ごと • 1 日に 1 回
あなたはスケジュール所有者です。スケジュール・ステータスがロック済に変更されました	<ul style="list-style-type: none"> • なし • 即時 • 2 時間ごと • 3 時間ごと • 4 時間ごと • 6 時間ごと • 1 日に 1 回
あなたはスケジュール参照者です。スケジュールが作成されました	<ul style="list-style-type: none"> • なし • 即時 • 2 時間ごと • 3 時間ごと • 4 時間ごと • 6 時間ごと • 1 日に 1 回
あなたはスケジュール参照者です。スケジュール・ステータスがオープンに変更されました	<ul style="list-style-type: none"> • なし • 即時 • 2 時間ごと • 3 時間ごと • 4 時間ごと • 6 時間ごと • 1 日に 1 回
あなたはスケジュール参照者です。スケジュール・ステータスがクローズ済に変更されました	<ul style="list-style-type: none"> • なし • 即時 • 2 時間ごと • 3 時間ごと • 4 時間ごと • 6 時間ごと • 1 日に 1 回

Table 34-13 (Cont.) ステータス変更通知タイプの表

通知	有効な値
あなたはスケジュール参照者です。スケジュール・ステータスがロック済に変更されました	<ul style="list-style-type: none"> • なし • 即時 • 2 時間ごと • 3 時間ごと • 4 時間ごと • 6 時間ごと • 1 日に 1 回
あなたはタスク担当者です。タスク・ステータスがオープン(担当者)に変更されました	<ul style="list-style-type: none"> • なし • 即時 • 2 時間ごと • 3 時間ごと • 4 時間ごと • 6 時間ごと • 1 日に 1 回
あなたはタスク承認者です。タスク・ステータスがオープン(承認者)に変更されました	<ul style="list-style-type: none"> • なし • 即時 • 2 時間ごと • 3 時間ごと • 4 時間ごと • 6 時間ごと • 1 日に 1 回
あなたはバックアップ担当者です。プライマリ担当者は作業できません	<ul style="list-style-type: none"> • なし • 2 時間ごと • 3 時間ごと • 4 時間ごと • 6 時間ごと • 1 日に 1 回
あなたはバックアップ承認者です。プライマリ承認者は作業できません	<ul style="list-style-type: none"> • なし • 2 時間ごと • 3 時間ごと • 4 時間ごと • 6 時間ごと • 1 日に 1 回
あなたはタスク承認者です。スケジュール・ステータスがオープンに変更されました	<ul style="list-style-type: none"> • なし • 即時 • 2 時間ごと • 3 時間ごと • 4 時間ごと • 6 時間ごと • 1 日に 1 回
あなたはタスク所有者です。タスク・ステータスがオープン(担当者)に変更されました	<ul style="list-style-type: none"> • なし • 即時 • 2 時間ごと • 3 時間ごと • 4 時間ごと • 6 時間ごと • 1 日に 1 回

Table 34-13 (Cont.) ステータス変更通知タイプの表

通知	有効な値
あなたはタスク所有者です。タスク・ステータスがオープン(承認者)に変更されました	<ul style="list-style-type: none"> • なし • 即時 • 2 時間ごと • 3 時間ごと • 4 時間ごと • 6 時間ごと • 1 日に 1 回
あなたはタスク所有者です。タスク・ステータスがクローズ済に変更されました	<ul style="list-style-type: none"> • なし • 即時 • 2 時間ごと • 3 時間ごと • 4 時間ごと • 6 時間ごと • 1 日に 1 回
あなたはタスク所有者です。タスク・ステータスが強制クローズ済に変更されました	<ul style="list-style-type: none"> • なし • 即時 • 2 時間ごと • 3 時間ごと • 4 時間ごと • 6 時間ごと • 1 日に 1 回
あなたはタスク所有者です。タスク・ステータスが中止に変更されました	<ul style="list-style-type: none"> • なし • 即時 • 2 時間ごと • 3 時間ごと • 4 時間ごと • 6 時間ごと • 1 日に 1 回
あなたはタスク参照者です。タスク・ステータスがオープン(担当者)に変更されました	<ul style="list-style-type: none"> • なし • 即時 • 2 時間ごと • 3 時間ごと • 4 時間ごと • 6 時間ごと • 1 日に 1 回
あなたはタスク参照者です。タスク・ステータスがオープン(承認者)に変更されました	<ul style="list-style-type: none"> • なし • 即時 • 2 時間ごと • 3 時間ごと • 4 時間ごと • 6 時間ごと • 1 日に 1 回

Table 34-13 (Cont.) ステータス変更通知タイプの表

通知	有効な値
あなたはタスク参照者です。タスク・ステータスがクローズ済に変更されました	<ul style="list-style-type: none"> • なし • 即時 • 2 時間ごと • 3 時間ごと • 4 時間ごと • 6 時間ごと • 1 日に 1 回
あなたはタスク参照者です。タスク・ステータスが強制クローズ済に変更されました	<ul style="list-style-type: none"> • なし • 即時 • 2 時間ごと • 3 時間ごと • 4 時間ごと • 6 時間ごと • 1 日に 1 回
あなたはタスク参照者です。タスク・ステータスが中止に変更されました	<ul style="list-style-type: none"> • なし • 即時 • 2 時間ごと • 3 時間ごと • 4 時間ごと • 6 時間ごと • 1 日に 1 回
あなたは仕訳送信者です。仕訳を転記する必要があります	<ul style="list-style-type: none"> • なし • 即時 • 2 時間ごと • 3 時間ごと • 4 時間ごと • 6 時間ごと • 1 日に 1 回
あなたは仕訳承認者です。仕訳を承認する必要があります	<ul style="list-style-type: none"> • なし • 即時 • 2 時間ごと • 3 時間ごと • 4 時間ごと • 6 時間ごと • 1 日に 1 回

期限日リマインダ通知のオプション

Table 34-14 期限日リマインダ通知タイプの表

通知	有効な値
あなたはタスク承認者です。タスクは「リスクあり」です	<ul style="list-style-type: none"> • なし • 2 時間ごと • 3 時間ごと • 4 時間ごと • 6 時間ごと • 1 日に 1 回

Table 34-14 (Cont.) 期限日リマインダ通知タイプの表

通知	有効な値
あなたはタスク担当者です。タスクは「リスクあり」です	<ul style="list-style-type: none"> • なし • 2 時間ごと • 3 時間ごと • 4 時間ごと • 6 時間ごと • 1 日に 1 回
あなたはタスク所有者です。タスクは「リスクあり」です	<ul style="list-style-type: none"> • なし • 2 時間ごと • 3 時間ごと • 4 時間ごと • 6 時間ごと • 1 日に 1 回
あなたはタスク担当者です。担当者の期限日が 1 日以内に到来します	<ul style="list-style-type: none"> • なし • 2 時間ごと • 3 時間ごと • 4 時間ごと • 6 時間ごと • 1 日に 1 回
あなたはタスク承認者です。承認者の期限日が 1 日以内に到来します	<ul style="list-style-type: none"> • なし • 2 時間ごと • 3 時間ごと • 4 時間ごと • 6 時間ごと • 1 日に 1 回

タスク・マネージャ・ガバナーの設定

タスク・マネージャで、様々なシステム設定にガバナーを設定できます。デフォルト設定が提供されますが、これは削減するか最大値まで増加できます。たとえば、リストに表示する行の最大数を指定できます。

- **リストに表示するアイテムの最大数:** 「スケジュール・タスク」などのリスト・ビューに表示する行の最大数が決まります。
- **最大承認者レベル:** タスクが確認される場合のレベル数が決まります。
- **最大ファイル・アップロード・サイズ(MB)を選択してください:** ユーザーがアップロードできる添付ファイルの最大サイズが決定されます。この設定によって、管理者は、アプリケーションのインストール環境の制限内で作業するように適応できます。

タスク・マネージャ・ガバナーを設定するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「タスク・マネージャ」をクリックします。
2. 左側の「システム設定」タブをクリックします。
3. 「システム設定の管理」ページで、「ガバナー」をクリックします。
4. 最大値を指定するか、デフォルト設定のままにします:
 - **リストに表示するアイテムの最大数:** デフォルトは 10000 です。

- **最大承認者レベル:** 1 から 10 までの値を選択します。
 - **最大ファイル・アップロード・サイズ(MB)を選択してください:** 5MB から値を選択します(増分値 5MB、最大値 100MB)。
5. 「**レポート**」セクションで、Oracle サポートから指示された場合にのみ設定を変更します。
 6. 「**保存**」をクリックします。

再割当て要求の承認の許可

管理者として、承認のために管理者またはパワー・ユーザーに要求を送信するかわりに、どのワークフロー・ユーザーが再割当て要求を直接実行および承認できるかを指定できます。

ユーザーは「ワークリスト」で再割当て要求を承認できます。

サービス管理者は、タスク所有者が対応できないときに要求を承認する必要がある場合、再割当て要求を確認する必要もあります。

再割当ての実行をワークフロー・ユーザーに許可するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**タスク・マネージャ**」をクリックします。
2. 左側の「**システム設定**」タブをクリックします。
3. 「**再割当て要求**」を選択します。
4. 「**次の実行者による再割当て要求の承認を許可**」で、1 つ以上のオプションを選択します。
 - **管理者**
 - **パワー・ユーザー**
 - **ユーザー**

タスクを再度開く

タスク・マネージャで、ユーザーがタスクを再オープンする必要がある場合があります。管理者は、オープンまたはクローズ済タスクの再オープンを許可するかどうかを指定できます。

タスクを再度開くことを許可するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**タスク・マネージャ**」をクリックします。
2. 左側の「**システム設定**」タブをクリックします。
3. 「**再オープン**」を選択します。
4. 担当者または承認者による、オープンのタスクの再オープンを許可する条件を設定します。「**タスクはオープン(担当者)またはオープン(承認者)です**」には、次のオプションがあります:
 - **許可しない:** これがデフォルト・オプションであり、担当者または承認者は、オープン・タスクのワークフローを送信または承認した後はそれを変更できません。

- **すべての承認者に許可:** タスクを承認した承認者がワークフローを自分に戻すことを許可します。
 - **すべての担当者および承認者に許可:** タスクを送信した担当者またはタスクを承認した承認者がワークフローを自分に戻すことを許可します。
5. クローズ済タスクの再オープンを許可する条件を設定します。「**タスクはクローズ済です**」には、次のオプションがあります:
- **許可しない:** これがデフォルト・オプションであり、ユーザーは、クローズされたタスクを再度開くことはできません。
 - **最後の承認者に許可:** 最後の承認者にのみ、ワークフローを再度開いて自分に戻すことを許可します。
 - **すべての承認者に許可:** 承認者に、ワークフローを再度開いて自分に戻すことを許可します。
 - **すべての担当者および承認者に許可:** タスクの担当者および承認者に、ワークフローを再度開いて自分に戻すことを許可します。

タスク・マネージャ・レポートの設定

Microsoft Excel 形式でレポートを生成すると、複数行にわたる行が、データを含む行とその後に表示される複数の空行になることがあります。行値に基づいて計算を実行するスクリプトがある場合、これによって問題が発生する可能性があります。タスク・マネージャには、このような余分な行の表示を制御する設定が用意されています。

この問題を解消するには、次のように実行してレポートのテンプレート・ファイルを変更する必要があります:

- 表の行から空行を削除します
- その行の高さを 0 に変更します

または、タスク・マネージャには、このような余分な行の表示を制御する設定が用意されています。この設定はすべてのレポートに適用されます。

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**タスク・マネージャ**」をクリックします。
2. 左側の「**システム設定**」タブをクリックします。
3. 「**レポート**」をクリックします。
4. 「**行分割の有効化**」の選択を解除し、Microsoft Excel の各データ行に対して複数の行が表示されないようにします。

Excel フォーマットへのエクスポートの設定

データを Microsoft Excel にエクスポートするには、形式を.xls または.xlsx に設定できます。

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**タスク・マネージャ**」をクリックします。
2. 左側の「**システム設定**」タブをクリックします。
3. 「**レポート**」をクリックします。
4. 「**Excel フォーマットのエクスポート**」で、次のいずれかのオプションを選択します:
 - **Excel 97 - 2003 (.xls):** 表のデータを.xls 形式にエクスポートします。

- **Excel (.xlsx)**: 表のデータを.xlsx 形式にエクスポートします。

Smart View でのタスク表示の指定

Oracle Smart View for Office から起動された場合に表示するタスク・マネージャのタスクを構成するには、表示する列(「タスク属性」など)を選択します。

Smart View に表示する列を選択するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
2. 「**システム設定**」タブをクリックします。
3. 「**Smart View**」を選択します。
4. 「**列の選択**」で、「**使用可能**」リストから表示する列を選択し、「**追加**」矢印キーをクリックして「**選択済**」列に移動するか、「**削除**」をクリックして削除します。
最大で 30 の列を選択でき、必要に応じて列の順序を変更できます。
5. 「**保存**」をクリックして選択内容を保存します。

ワークリストおよびようこそパネルでの今後のタスクの表示

管理者は、ワークリストおよびようこそパネルに現在のタスクのみを表示するか、現在および今後のタスクを表示するかを決定できます。

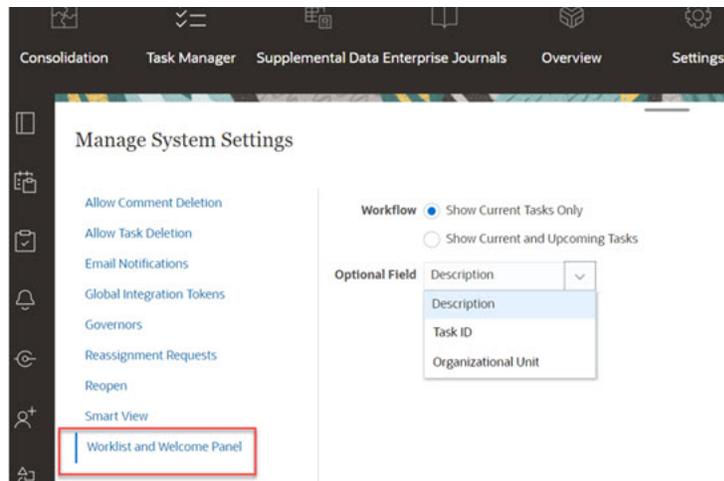
現在および今後のタスクを有効化すると、ユーザーは、現在作業に使用可能な項目に加え、今後のワークフローの項目も参照できます。たとえば、ユーザーは、策定者がまだタスクを終了していないため、承認する予定であるがすぐには使用できない今後のタスクを参照できます。

タスクを説明とともに表示するか(デフォルト)、タスク ID/組織単位別に表示することもできます。

デフォルトでは、現在のタスクのみが表示されます。

タスクの表示を設定するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
2. 左側の「**システム設定**」タブをクリックします。
3. 「**ワークリストおよびようこそパネル**」を選択します。
4. 「**ワークフロー**」のオプションを選択します:
 - **現在のタスクのみを表示**
 - **現在のタスクと今後のタスクを表示**
5. 「**オプション・フィールド**」のオプションを選択します。
 - **説明**(デフォルト)
 - **タスク ID**
 - **組織単位**



タスク・マネージャ属性の管理

属性は、主に管理者によって定義され、多くの場所で使用される、ユーザー定義フィールドです。

属性には、「日付」、「日付/時間」、「整数」、「リスト」、「複数行のテキスト」、「数値」、「True/False」、「テキスト」、「ユーザー」および「はい/いいえ」といった異なる値タイプを指定できます。たとえば、「自動送信」というカスタム属性を「はい」または「いいえ」の値タイプで定義できます。「自動送信」属性を項目に割り当てると、外部ユーザーによって要求されるタスクに対してその項目を「はい」に設定できます。

「リスト」タイプを選択した場合、値の選択リストを定義できます。たとえば、「北部」、「南部」、「東部」および「西部」という値を持つ「販売地域」という名前の「リスト」属性を定義できます。

属性は、作成、編集および削除できます。

ノート:

作成またはインポートできるタスク・マネージャ属性の最大数は 10,000 です。

タスク・マネージャ属性の定義

タスク・マネージャ属性を定義するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「タスク・マネージャ」をクリックします。
2. 左側の「属性」タブをクリックします。
3. 「新規」をクリックし、「プロパティ」タブで次のプロパティを指定します:
 - **名前:** 最大 80 文字まで入力できます。

 **ノート:**

以前に使用して削除したものと同名前を使用して、オブジェクトを作成できます。削除されたオブジェクトに以前リンクされていたすべてのオブジェクトは、新しいオブジェクトに関連付けられます。

- **説明:** 最大 255 文字まで入力できます。
- **タイプ:**
 - **日付**
 - **日付/時間**
 - **整数:** -2147483648 から 2147483647 までの値を使用できます。「**合計**」で、属性の合計方法を指定します:
 - * **なし**(デフォルト): 合計は計算されません。
 - * **平均:** データのある行の平均。データのない行は分母にカウントされません
 - * **数:** データのある行の数
 - * **合計:** 加算合計。
 - **リスト:** 「**リストの値**」をクリックして、質問に対する有効な回答のリストを入力します。最大 255 文字まで入力できます。
 - **複数行のテキスト:** 「**フォーマット**」をクリックし、3 から 50 行の間の**行数**を指定します。「複数行のテキスト」では、「アクション」ダイアログ・ボックスで、スクロールせずに表示できるテキストの行数を決定します。最大長は 4,000 文字未満にする必要があります。
「アクション」ダイアログ・ボックスに「**添付**」セクションを追加する場合は、「**添付を含める**」を選択します。
 - **数値:** 値 xxxxxxxxxxxxxxxxxxxx.xxxxxxxxx (17 桁と小数点以下 9 桁)を入力します。「**フォーマット**」をクリックし、数値のフォーマット・オプションを選択します:
 - * 「**小数点以下の桁数**」には、表示する小数点以下の桁数の値を入力します。
 - * 「**パーセンテージとして表示**」では、パーセンテージを表示するかどうかを選択します。
 - * 1,000.00 のように、数値に 3 桁ごとの区切り文字を表示する場合は、「**3 桁ごとの区切り文字**」オプションを選択します。
 - * 「**通貨記号**」では、通貨記号(米ドルの場合は\$など)を選択します。
 - * 「**負数**」では、(123)など、負数の表示方法を選択します。
 - * 「**スケール**」では、数値のスケール値(1000 など)を選択します。
 - **テキスト:** 最大 4000 文字まで入力できます。
 - **True/False**
 - **ユーザー**
 - **はい/いいえ**

- **計算:** 「計算」 タブの属性に論理関数や数学的関数を追加する場合に選択します。
計算属性の定義を参照してください。

計算属性の定義

計算属性を使用すると、論理関数や数学的関数を追加して、属性の値を派生させることができます。別の計算済属性に埋め込むと、複雑な関数を作成できます。計算済属性は読取り専用です。評価対象はスケジュールのみです。

スケジュール: ユーザーは任意の計算を追加でき、その計算はタスクに対して明示的に割り当てられているかどうかに関係なく評価されます。

テンプレート: 「計算」 オプションが選択されているカスタム属性は、列属性またはフィルタ可能な属性として追加できません。

管理者が「アクション」ダイアログの「属性」セクションに属性を追加すると、ワークフロー・ユーザーがその属性を表示できるようになります。管理者は、アクセス権を「表示しない」に設定することで、特定の役割に対してアクセス権を制限できます。たとえば、管理者が計算済属性 XYZ に対して、アクセス権を「参照者: 表示しない」に設定すると、XYZ 属性は、参照者の役割しかないユーザーには表示されません。

どのユーザー役割でも、計算済属性を列としてビューおよびポートレットに追加できます。「フィルタ・パネル」にフィルタ可能な属性として追加することもできます。

計算属性を定義するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「タスク・マネージャ」をクリックします。
2. 左側の「属性」タブをクリックします。
3. 「新規」をクリックし、「プロパティ」タブで属性の名前を入力し、属性のタイプを選択します。
4. 「計算」オプションを選択します。
5. 「計算」タブで、計算タイプを選択します。

次の計算タイプから選択できます。使用可能なタイプは、属性のタイプ(テキスト、整数など)によって決まります。

- **値をリストに割当:** カスタム値をリスト・タイプの属性に割り当てます
- **リストを値に割当:** カスタム・リストの値を異なる属性の値に割り当てます。リスト・タイプ属性にのみ使用できます。
- **条件:** 条件付き計算(If – Then – Else)
- **スクリプト:** 自由形式のスクリプト計算。タイプが、整数、複数行のテキスト、数値またはテキストの属性にのみ使用できます。

次の表は、属性タイプごとに使用可能な計算タイプを示しています。

属性タイプ	値をリストに割当て	条件	スクリプト	リストを値に割当て
日付				
日時				
整数	X	X	X	
リスト		X		X

属性タイプ	値をリストに割当て	条件	スクリプト	リストを値に割当て
複数行のテキスト	X	X	X	
数値	X	X	X	
テキスト	X	X	X	
True/False		X		
ユーザー				
はい/いいえ		X		

計算式の定義

スクリプト計算タイプを使用すると、自由形式の計算式を入力できます。「**属性の追加**」および「**関数の追加**」を使用できます:

- **属性の追加:** 属性を選択すると、「計算式の定義」ボックスのカーソルの位置に属性が挿入されます。カーソルが単語または属性上にある場合は、定義内でその単語/属性が置き換えられます。スクリプトの形式によって、新しい属性の名前がカッコ `{ }` で囲まれます。

使用可能な属性は、スケジュール属性のみです。

- **関数の追加:** 関数を選択すると、「計算式の定義」に関数が追加されます。関数は各パラメータのプレースホルダとともに追加されます。

例: DATE_DIFF 関数を計算式の定義に挿入します。

```
DATE_DIFF(<Date1>, <Date2>, <Type>)
```

次に、プレースホルダを属性に置き換えます。

```
DATE_DIFF( {Start Date}, {End Date}, 'DAYS')
```

数値と日付の関数

- **絶対値:** 指定された数の絶対値を返します。数がゼロより小さい場合は、数の正の値が返されます。指定された数がゼロ以上である場合は、指定された数が返されます。

```
ABS (<Number>)
```

- **月の追加:** 開始日からの指定した月数の日付オフセットを返します。日付は常に指定した月オフセットに該当します。開始日に、オフセット月を越える日の値がある場合は、オフセット月の最後の日を使用されます。たとえば、EDate (31-Jan-2017, 1)は(28-Feb-2017)を返します。月の場合は、開始日の前または後の月数を入力します。月に対する正の値は将来の日付を生成します。負の値は過去の日付を生成します。

```
ADD_MONTH(<Start Date>, <Months>, <Length>)
```

例: ADD_MONTH (DATE (2017, 2, 15) 3)

- **日付:** 年、月および日に対して指定された整数値に基づく日付値を返します。

```
DATE (<Year>, <Month>, <Day>)
```

- **日付差異:** 2つの日付の差を年、月、日、時間、分または秒で返します。たとえば DATE 1 と DATE 2 には、それぞれ現在の日付(時間コンポーネントなし)と日時を表す TODAY および NOW の値を使用できます。

```
DATE_DIFF(<Date1>, <Date2>, <Type>)
```

- 例: DATE_DIFF({Start Date}, 'TODAY', 'DAYS')
- 日:** 日付の日の値を整数として返します

DAY (<DATE>)
 - テキストの抽出:** 値内の指定した位置からの部分文字列を返します。

SUBSTRING(<Value>, <Location>, <Length>)

例: SUBSTRING({Name}, 4, 10)
 - If Then Else:** 条件付きの計算をスクリプト計算に挿入できるようになります。IF_THEN_ELSE 計算式は、ネストして ELSE IF タイプの計算式に対応することもできます。

IF_THEN_ELSE(<Condition>, <Value1>, <Value2>)

例: IF_THEN_ELSE(({Priority} = 'Low'), 1, IF_THEN_ELSE(({Priority} = 'Medium'), 2, IF_THEN_ELSE(({Priority} = 'High'), 3, 0))

例: IF_THEN_ELSE(({Priority} = 'Low'), 'Good' IF_THEN_ELSE(({Priority} = 'Medium'), 'Better'. 'Best'))
 - Instring:** 値内の部分文字列の索引を返します。

INSTRING(<Value1>, <Value to Search>)

例: INSTRING({Name}, 'a')
 - 長さ:** テキスト値をパラメータとして受け取り、テキスト内の文字数である整数を返します。値が空/null である場合、計算は 0 を返します。

Length ({<attribute>})

例: LENGTH("Value") は 5 を返し、LENGTH({Name}) は、オブジェクトの名前に含まれる文字数を返します。

SUBSTRING を使用した計算を使用して、テキスト値の最後の 4 文字を抽出します。

SUBSTRING({MyString}, LENGTH ({MyString}) - 4
 - 小文字:** 値を小文字で返します

LOWERCASE(<Value>)

例: LOWERCASE ({Task Code})
 - 最大:** 属性リストの最大値を返します。任意の数のパラメータを含めることができます。

MAX <Value1>, <Value2>, <ValueN>)

例: MAX({Scripted Substring Loc a}, {Scripted Substring Loc s}, {Scripted Substring Loc t})
 - 最小:** 属性リストの最小値を返します。任意の数のパラメータを含めることができます。

MIN (<Value1>, <Value2>, <ValueN>)

例: MIN({Scripted Substring Loc a}, {Scripted Substring Loc s}, {Scripted Substring Loc t})
 - 月:** 日付の月の値を整数(1 から 12)として返します

MONTH (<DATE>)
 - 指数:** 一方の数字を他方の数字の回数掛け合せます。

POWER(x, y) where x=BASE NUMBER, and y=EXPONENT の場合、x と y は数値である
かぎり属性または計算にすることができます。

例: POWER(3, 4)=81

ノート:

分数値では、べき根になります。たとえば、POWER(27, 1/3) = 3 で、立
方根です。

負の値では、指数計算の逆数になります。たとえば、POWER(2, -2) =
 $1 / (2^2) = 1 / 4 = .25$ です。

- **丸め処理:** 指定された小数点以下の桁数で丸めた値を戻します

ROUND (<Attribute>, <Decimal Places>)

例: ROUND(({{Scripted Substring Loc t}} / 7), '4')

- **テキストの場所:** 値内の部分文字列の索引(1 が最初の位置)を戻します。

INSTRING(<Value>, <Value To Search>)

例: INSTRING(UPPERCASE({Name}), 'TAX')

- **大文字:** 値を大文字で戻します。

UPPERCASE(<Value>)

例: UPPERCASE({Name})

- **年:** 日付の年の値を整数として返します。

YEAR (<DATE>)

計算の検証

計算の保存時に、次の検証チェックが実行されます。

- 計算式の構文が正しい。
- 計算式で指定された属性と関数が存在する
- 関数へのパラメータが正しい
- 循環ループがない

リスト属性のインポート

リスト・タイプのタスク・マネージャ属性をインポートするには:

1. 値ごとに異なる行を使用して、リスト属性のインポート・ファイルを TXT ファイル形式で作成します。

例:

Blue
Yellow

Red
Green

インポート・オプションは常に「すべて置換」です。

2. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
3. 左側の「属性」タブをクリックします。
4. 「リスト」タイプの属性を選択し、「編集」をクリックします。
5. 「インポート」  をクリックします。
6. 「ファイル」で、「ファイルの選択」をクリックし、TXT インポート・ファイルを見つけ、ファイル区切り文字を選択します。
7. 「インポート」をクリックします。「リストの値のインポート」に、合計リスト値、「完了」、「エラー」、作成済リスト値および更新済リスト値の値が表示されます。
「正常に完了」の場合は、「OK」をクリックします。
「エラーで完了」の場合は、エラーが表示されます。エラー・リストをエクスポートするには、「Excel にエクスポート」をクリックします。

属性の編集

カスタム・タスク・マネージャ属性の名前を編集できます。属性タイプが「リスト」の場合は、リスト値を追加、名前変更または削除することもできます。

タスク・マネージャ属性を編集するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「属性」タブをクリックします。
3. 属性を選択し、「編集」をクリックします。
4. 属性名を編集します。

ノート:

属性が「リスト」タイプの場合は、リスト値を追加、名前変更または削除できます。カスタム属性が保存された後、そのタイプは変更できません。

5. 「OK」をクリックします。

関連のテンプレート、スケジュール、タスク・タイプまたはタスクは、すべて更新されます。

属性の複製

属性は複製できます。

属性を複製するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。

2. 左側の「属性」タブをクリックします。
3. 複製を選択して「複製」をクリックします。
4. 「閉じる」をクリックします。

属性の削除

不要になった属性は削除できます。属性を削除すると、属性に対するすべての参照が削除されます。

属性を削除するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「属性」タブをクリックします。
3. 削除する属性を選択し、「削除」をクリックします。
4. 確認のプロンプトで「はい」をクリックします

属性の表示

「属性」で、属性のリストに表示する列を指定するか、すべての列を表示できます。列の順序変更、昇順または降順での列のソート、および列幅の変更を行うこともできます。

列を表示するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「属性」タブをクリックします。
3. 次の 1 つ以上のタスクを行います。
 - すべての列を表示するには、「表示」、「列」の順に選択し、「すべて表示」を選択します。
 - 特定の列を表示するには、「表示」、「列」の順に選択し、列名を選択または選択解除します。
 - 列を並べ替えるには、「表示」、「列の順序変更」の順に選択し、列を選択して上矢印または下矢印を使用するか、それらをドラッグして順序を変更します。
 - 列をソートするには、「ソート」アイコンが表示されるまで列ヘッダーにマウス・カーソルを合せ、「昇順ソート」または「降順ソート」をクリックします。
 - 列の幅を変更するには、矢印が表示されるまで列ヘッダーの区切りにマウス・カーソルを合せ、適切な幅になるまで列をドラッグします。

属性の検索

「属性」リストの検索機能を使用して、タスク・マネージャ・タスクの属性を検索できます。検索する名前の全部または一部を入力できます。フィルタ・バーを使用して、リストに表示する属性を制御できます。デフォルトでは、すべての属性が表示されます。

タスク・マネージャ属性を検索するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**タスク・マネージャ**」をクリックします。
2. 左側の「**属性**」タブをクリックします。
3. 属性を検索するには、「**検索**」テキスト・ボックスに検索条件を入力します。
4. **オプション:** フィルタ・バーでカテゴリをクリックすると、追加の検索演算子(「**次と等しい**」、「**次と等しくない**」、「**次を含む**」、「**次を含まない**」、「**次で始まる**」、「**次で終わる**」)が表示されます。

属性は次のカテゴリを使用してフィルタできます: 「**名前**」、「**タイプ**」、「**計算**」、「**作成者**」、「**作成日**」、「**最終更新者**」、「**最終更新日**」。

ノート:

- 「**フィルタの追加**」をクリックすると、すべてのカテゴリが表示されます。
- フィルタ・バーを非表示にするには、「**フィルタ**」アイコンをクリックします。
- すべてのフィルタをクリアするには、 アイコン内の「**すべてのフィルタのクリア**」をクリックします。

タスク・マネージャのチームの管理

チームは、所有者、担当者、承認者および参照者の役割を使用して、定義およびプロビジョニングされます。次に、タスクのこれらの役割を名前付きユーザーに割り当てるかわりに、チームに割り当てます。管理者およびパワー・ユーザーは、チームを追加、編集、および削除できます。

ノート:

個々のユーザーは、直接的または間接的に最大で 1,000 のチームに割り当てることができます。

関連トピック:

- [タスク・マネージャのチームおよびメンバーの追加](#)
- [タスク・マネージャのチームおよびメンバーの編集](#)
- [チームおよびメンバーの検索とフィルタ](#)
- [チームおよびメンバーの削除](#)
- [バックアップ割当ての管理](#)
- [タスク・マネージャでの再割当ての要求](#)

タスク・マネージャのチームおよびメンバーの追加

チームおよびメンバーを追加するには:

1. ホーム・ページで、「**ツール**」をクリックします。
2. 「**アクセス制御**」をクリックします。
3. 「**チーム**」タブをクリックします。
4. 「**新規**」をクリックします。
5. 「**チームの定義**」画面で、チームごとに次の情報を入力します。
 - **名前**
 - **説明**
 - 「**タスク・マネージャ**」タブを選択し、チームの役割を 1 つ以上選択します。
 - **管理者**
 - **パワー・ユーザー**
 - **ユーザー**
 - **参照者**

- メンバーを追加するには:
 - a. 「メンバー」 下で  「追加」 をクリックします。
 - b. 「名」、「姓」の一部またはすべてを入力するか、「検索」 をクリックして、名前を選択します。
 - c. 「検索結果」 セクションで、「追加」 または 「すべて追加」 をクリックして、選択した項目を 「選択済」 リストに追加します。
 - d. 「OK」 をクリックします。
- 6. 「チーム」 ダイアログ・ボックスで、タスクがそのユーザーでは 「請求済」 ステータスがデフォルトになる 「プライマリ・ユーザー」 を選択します。

ノート:

他のチーム・メンバーは次にタスクを請求できます。

7. 「OK」 をクリックします。

タスク・マネージャのチームおよびメンバーの編集

タスク・マネージャのチームおよびメンバーを編集することも、現在のチーム割当てを表示して変更することもできます。「タスク・マネージャ・ユーザー」 リストには、ユーザーが属する組織、ユーザーが持つ役割およびアクセス・セキュリティの変更方法が表示されます。

タスク・マネージャのチームまたはメンバーを編集するには:

1. ホーム・ページで、「ツール」 をクリックし、「アクセス制御」 をクリックします。
2. 「チーム」 タブをクリックします。
3. チームを選択し、「編集」  をクリックします。
4. チームおよびメンバーを編集し、「OK」 をクリックします。
5. 「OK」 をクリックします。
6. **オプション:** ユーザーがメンバーであるチームを表示するには、「タスク・マネージャ・ユーザー」 タブをクリックします。
「タスク・マネージャ・ユーザー」 リストには、「名前」、「ユーザー・ログイン」 (ユーザー ID)、「ステータス」 (「作業可能」 または 「作業不可」)、ユーザーが属する **チーム** のリストが表示されます。
7. ユーザーまたはチームの情報を編集するには、「編集」 をクリックします。

チームおよびメンバーの検索およびフィルタ

検索フィールドおよびフィルタ・オプションを使用して、チームおよびメンバーのリストに表示するレコードを制御できます。

チームまたはメンバーを検索するには:

1. ホーム・ページで、「ツール」をクリックし、「アクセス制御」をクリックします。
2. 「チームの管理」タブをクリックします。
3. チームを検索するには、「検索」テキスト・ボックスに検索条件を入力します。
4. **オプション:** フィルタ・バーでカテゴリをクリックすると、追加の検索演算子(「次と等しい」、「次と等しくない」、「次を含む」、「次を含まない」、「次で始まる」、「次で終わる」)が表示されます。

チームは次のカテゴリを使用してフィルタできます: 「名前」、「説明」、「作成者」、「作成日」、「最終更新者」、「最終更新日」。

ノート:

- フィルタ・バーを非表示にするには、「フィルタ」アイコンをクリックします
- すべてのフィルタをクリアするには、 アイコン内の「すべてのフィルタのクリア」をクリックします。

チームおよびメンバーの削除

テンプレートまたはスケジュールで使用されているチームを削除する際は、次のガイドラインが適用されます。

- チームがテンプレート内のタスクに割り当てられている場合、チームを削除することはできません。チームを削除するには、まず割り当てられているすべてのタスクから削除します。
- チームがスケジュール・タスクで使用されている場合、削除が可能です。チームがスケジュール・タスクから見えていても、そのチームを新規タスクで使用することはできません。

チームまたはメンバーを削除するには:

1. ホーム・ページで「ツール」をクリックし、「アクセス制御」をクリックします。
2. 「チーム」タブをクリックします。
3. チームを削除するには、チームを選択して「削除」をクリックし、確認のプロンプトが表示されたら「はい」をクリックします。
4. メンバーを削除するには、チーム名をダブルクリックし、「チームの編集」ダイアログ・ボックスで、メンバーを選択してから「削除」をクリックします。
5. 「OK」をクリックします。
6. 「チームの管理」で、「閉じる」をクリックします。

タスク・マネージャ・ユーザーの管理

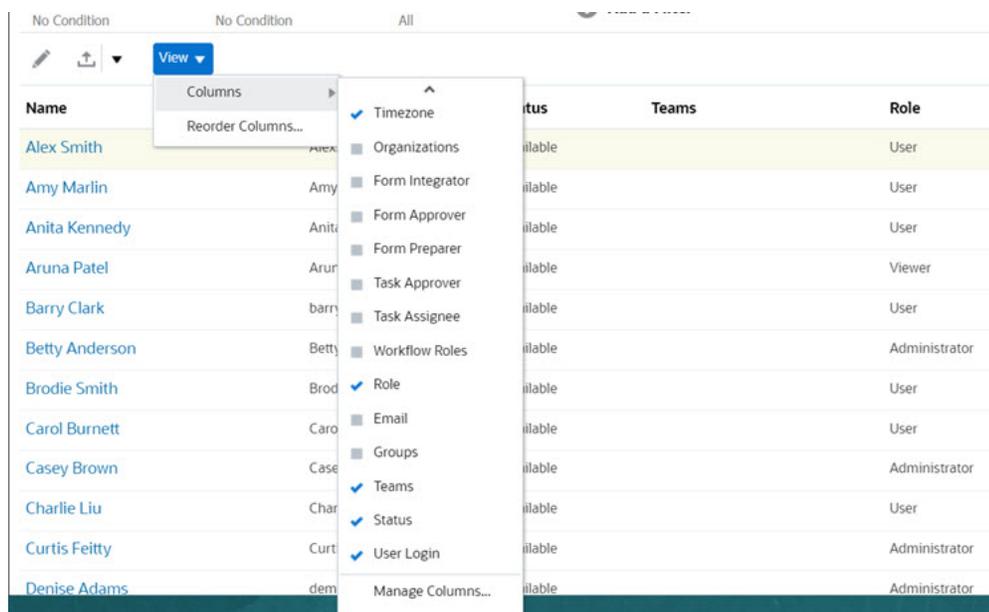
「アクセス制御」の「タスク・マネージャ・ユーザー」を使用して、システム上のユーザーに関する情報にアクセスできます。次のフィールドは、ユーザー・リストで列またはフィルタとして使用できます。

表示する列とともに、リストをフィルタして csv または Excel 形式にエクスポートする列を決定できます。

ユーザーに関する詳細情報を確認する場合は、ユーザー名をダブルクリックすると「**ユーザーの詳細**」ダイアログが表示されます。

- **名前** - ユーザーのフル・ネーム。列およびフィルタはデフォルトで選択されています。
- **最終ログイン** - ユーザーの最終ログインの日時。
- **タイムゾーン** - それぞれのユーザーのユーザー・プリファレンスで設定されたタイム・ゾーン
- **組織** - ユーザーが割り当てられた組織のリスト。
- **フォーム統合者** - (はいいいえ)は、ユーザーがいずれかの補足データ・フォームの統合者であるかどうかを示します。これには、グループおよびチームを使用した間接割当てが含まれます。
- **フォーム承認者** - (はいいいえ)は、ユーザーがいずれかの補足データ・フォームの承認者であるかどうかを示します。これには、グループおよびチームを使用した間接割当てが含まれます。
- **フォーム策定者** - (はいいいえ)は、ユーザーがいずれかの補足データ・フォームの策定者であるかどうかを示します。これには、グループおよびチームを使用した間接割当てが含まれます。
- **タスク承認者** - (はいいいえ)は、ユーザーがいずれかのタスク・マネージャ・タスクの承認者であるかどうかを示します。これには、グループおよびチームを使用したバックアップ割当ておよび間接割当てが含まれます。
- **タスク担当者** - (はいいいえ)は、ユーザーがいずれかのタスク・マネージャ・タスクの担当者であるかどうかを示します。これには、グループおよびチームを使用したバックアップ割当ておよび間接割当てが含まれます。
- **ワークフローの役割** - タスクまたはフォームでユーザーが割り当てられた役割(タスク担当者、フォーム承認者 1、タスク参照者など)。
- **役割** - ユーザーに割り当てられた最上位の外部役割。
- **電子メール** - ユーザーの電子メール・アドレス。
- **グループ** - ユーザーが属するグループのリスト。
- **チーム** - ユーザーが属するチームのリスト。列はデフォルトで選択されています。
- **ステータス** - ユーザーのステータス(「作業可能」または「作業不可」)。列およびフィルタはデフォルトで選択されています。
- **ユーザー・ログイン** - ユーザー ID。列およびフィルタはデフォルトで選択されています。

例



ユーザーの「**設定のクリア**」をクリックすると、次の内容がこのユーザーに設定されているデフォルト値に戻ります:

- ダッシュボードおよびほとんどの管理ダイアログ(例: 「属性の管理」)で選択された列
- ダッシュボードでのソート
- ダッシュボードで適用されたフィルタ
- ダッシュボードの様々なスイッチとコントロールの状態
- インポート・ダイアログのデフォルトの日付フォーマット

バックアップ割当ての管理

担当者および承認者の役割のバックアップは、プライマリ・ユーザーがチームまたはグループではなく、名前付きユーザーの場合に割り当てられます。

- **担当者:** 基本タスク用(自動タスクを除く)
- **承認者:** 基本タスクおよび自動タスク用

ノート:

管理者は、テンプレート、スケジュールおよびタスクに対する所有者の割当てをバックアップできません。

タスクのバックアップを割り当てるには:

1. バックアップを割り当てるタスクを開きます。
2. 「**ワークフロー**」タブを選択し、**担当者**と**バックアップ**両方のユーザーを選択します。
3. 「**保存して閉じる**」をクリックします。

タスク・マネージャでの再割当ての要求

再割当て要求は、プライマリ・ワークフローの役割に明示的に割り当てられているユーザー(名前付きユーザーとして)によってのみ開始できます。バックアップの役割に対し、またはプライマリの役割を割り当てられたチーム/グループのメンバーでは送信できません。

担当者および承認者は、タスクの再割当ての要求を送信することで、1 つ以上のタスクに対する担当者または承認者の割当てに異議を唱えることができます。

ワークフロー・ユーザー(担当者および承認者)は、「タスク・アクション」ダイアログ・ボックスから、選択したタスク、または選択したタスクおよび将来のタスクに対するワークフローの役割の再割当てを要求できます。これらの要求には承認が必要です。管理者およびスケジュール/テンプレートの所有者は、承認を必要とすることなく、「タスクの編集」ダイアログ・ボックスを使用して、タスクを再割当てできます。

タスクの再割当てを要求するには:

1. ホーム・ページで、「**タスク**」をクリックします。
2. 左側の「**スケジュール・タスク**」タブを選択します。
3. 「**アクション**」で「**再割当ての要求**」を選択します。
4. 再割当てするユーザーがわかっている場合は、 「**対象ユーザー**」を有効にして、名前を入力するか検索します。

ノート:

新しいユーザーがわからない場合は、ユーザーの名前を指定せずに要求を送信します。

5. 次のオプションを完了して、タスクを再割当てします。
 - 「**選択したタスク**」では、スケジュール・タスクのみが再割当てされます
 - 「**選択したタスクおよび将来のタスク**」では、スケジュール・タスクおよびソース・テンプレート内の対応するタスクに対してタスクが再割当てされます
6. 再割当てについて「**理由**」を入力します。
7. 「**OK**」をクリックします。

タスク・タイプの管理

次も参照:

- [タスク・タイプ](#)
- [タスク・タイプの作成](#)
- [タスク・タイプ履歴の表示](#)
- [タスク・タイプの編集](#)
- [タスク・タイプの表示](#)
- [タスク・タイプの検索](#)
- [タスク・タイプのインポート](#)
- [タスク・タイプのエクスポート](#)
- [タスク・タイプの削除](#)

タスク・タイプ

タスク・タイプは、一般的に実行されるタスクの保存済定義です。これにより、ビジネス・プロセス中に一般的に実行されるデータ入力や総勘定元帳抽出などのタスクを識別し、分類します。タスク・タイプにより、ユーザーが入力する必要のある設定や、そのタイプのすべてのタスクで共有される質問や指示などのデフォルト情報を設定できます。たとえば、データ・ロードを担当するユーザーが答える必須の質問セットがある場合、必須の質問が含まれるデータ・ロード・タスク・タイプを作成できます。データ・ロード・タスクを作成するとき、そのデータ・ロード・タスク・タイプを選択でき、質問がタスクに自動的に組み込まれます。

2つの事前定義済タスク・タイプがデフォルトでインストールされます:

- **基本タスク:** 指示、質問または属性を含まない基本的なタスク・タイプです。
- **親タスク:** タスク階層を定義するための親タスクを作成できます。

タスク・タイプを作成および管理するには、サービス管理者またはパワー・ユーザーのセキュリティ役割が割り当てられている必要があります。パワー・ユーザーは、自身のタスク・タイプを作成できますが、他のユーザーのタスク・タイプは表示するのみです。

タスク・タイプの作成

タスク・タイプによって、ユーザー入力が必要な設定や、そのタイプのすべてのタスクによって共有される質問や指示など、タスクのデフォルト情報を設定できます。

タスク・タイプを作成するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
2. 左側の「**タスク・タイプ**」タブをクリックします。

3. 「**新規**」をクリックします。
4. 関連項目:
 - [タスク・タイプのプロパティの設定](#)
 - [タスク・タイプ・パラメータの設定](#)
 - [タスク・タイプの指示の指定](#)
 - [タスク・タイプの質問の指定](#)
 - [タスク・タイプ・ルールの操作](#)
 - [タスク・タイプ履歴の表示](#)

タスク・タイプのプロパティの設定

「プロパティ」タブにより、名前、ID および説明を設定し、統合タイプを関連付けることができます。

エンド・ユーザー・タイプについては、タスク先行条件がすべて満たされた場合、担当者が予定時間の前に保留中のタスクを開けるようにすることができます。

タスク・タイプのプロパティを設定するには:

1. 新しいタスク・タイプを作成します。
デフォルトで「**プロパティ**」タブが表示されます。
2. 「**タスク・タイプ名**」に入力します。入力できる最大文字数は 80 文字です。
3. タスク・タイプの識別に使用できる**タスク・タイプ ID**を入力します。入力できる最大文字数は 80 文字です。
4. タスク・タイプの**説明**を入力します。最大 255 文字まで入力できます。
5. 統合を指定するには、拡大鏡をクリックし、統合を検索して選択し、「**OK**」をクリックします。統合を選択することにより、タスク・タイプにその統合からパラメータが継承されるようになります。
6. **オプション**: エンド・ユーザー・タイプの場合、「**先行開始を許可する**」を選択し、担当者が予定開始時刻の前にタスクを開けるようにします。
7. 関連項目:
 - [タスク・タイプ・パラメータの設定](#)
 - [タスク・タイプの指示の指定](#)
 - [タスク・タイプの質問の指定](#)
 - [タスク・タイプ・ルールの操作](#)
 - [タスク・タイプ履歴の表示](#)

タスク・タイプ・パラメータの設定

「パラメータ」タブでは、タスク・タイプのパラメータを設定できます。

 ノート:

「パラメータ」タブは、定義する必要があるパラメータを持つ統合を選択した場合にのみ使用できます。パラメータ値は、タスク・タイプ・レベルまたはタスク・レベルで設定できます。

一部のタスクには、スケジュールに適用されるたびに変更する必要があるパラメータが含まれます。たとえば、データ入力タスクの日付駆動パラメータは、スケジュールに追加されるたびに現在の月に設定する必要があります。タスク・タイプ・パラメータを設定する際に、どのパラメータをスケジュール・プロセス中に上書きできるかを指定できます。

タスク・タイプのパラメータを設定するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**タスク・マネージャ**」をクリックします。
2. 「**タスク・タイプ**」タブをクリックし、「**新規**」をクリックします。
3. 「**タスク・タイプ名**」および「**タスク・タイプ ID**」を入力します。
4. 「**パラメータ**」タブを選択します。
5. 必要に応じて、パラメータ値を入力します。
6. **オプション:** スケジュール時にパラメータをオーバーライドできるようにするには、「**スケジュール設定時にオーバーライド**」を選択します。
7. 関連項目:
 - [タスク・タイプのプロパティの設定](#)
 - [タスク・タイプの指示の指定](#)
 - [タスク・タイプの質問の指定](#)
 - [タスク・タイプ・ルールの操作](#)
 - [タスク・タイプ履歴の表示](#)

タスク・タイプの指示の指定

タスクを完了するための一連の指示を作成できます。ドキュメント、ファイル、または Web サイトの URL に参照を追加することもできます。たとえば、ポリシー・ドキュメントを参照として添付したり、製品指示ガイドへのリンクを添付したりできます。

指示を指定するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**タスク・マネージャ**」をクリックします。
2. 「**タスク・タイプ**」タブをクリックし、「**新規**」をクリックします。
3. 「**タスク・タイプ名**」および「**タスク・タイプ ID**」を入力します。
4. 「**指示**」タブを選択します。
5. 「**指示**」に、指示のテキストを入力します。

参照を追加するには:

1. 「参照」セクションで、「追加」をクリックします。
2. 「タイプ」リストから、次のいずれかのタイプを選択します。
 - ローカル・ファイル: 「ファイルの選択」をクリックし、ファイルを選択して添付し、名前を入力して「OK」をクリックします。
 - URL: URL および URL の名前(<http://www.oracle.com>、Oracle など)を入力し、「OK」をクリックします。

ノート:

「添付の追加」ダイアログ・ボックスから使用できるドラッグ・アンド・ドロップ機能を使用して 1 つ以上の添付を追加できます。必要に応じて「名前」フィールドで添付の名前を変更できます。複数の添付をドラッグ・アンド・ドロップすると、これらを一度にアップロードできます。

添付を正確にドラッグ・アンド・ドロップするには、「添付の追加」ダイアログ・ボックスにアクセスする必要があります。

ヒント:

参照を削除するには、その参照を選択して、「削除」をクリックします

3. 関連項目:
 - [タスク・タイプのプロパティの設定](#)
 - [タスク・タイプ・パラメータの設定](#)
 - [タスク・タイプの質問の指定](#)
 - [タスク・タイプ・ルールの操作](#)
 - [タスク・タイプ履歴の表示](#)

タスク・タイプの質問の指定

タスク・タイプの質問を指定できます。タスク・タイプの質問は、そのタスク・タイプのすべてのタスクに適用されます。

ノート:

「質問」タブは、自動統合を使用するタスク・タイプには使用できません。

質問を指定するには:

1. 新しいタスク・タイプを作成します。
2. 「質問」タブを選択します。
3. 「新規」をクリックします。

4. 「新規質問」ダイアログ・ボックスで、「質問」に質問のテキストを入力します。
5. 「タイプ」リストから、次の質問タイプを選択します。
 - 日付
 - 日付/時間
 - 整数
 - リスト: 質問に対する有効な回答のリストを入力します。
 - 複数行のテキスト: 最大の長さは 4,000 字未満にしてください。

「行数」に 3 から 50 行までの値を入力します。「複数行のテキスト」では、「アクション」ダイアログ・ボックスで、スクロールせずに表示できるテキストの行数を決定します。

添付用のセクションを作成するためのカスタム属性が必要な場合は、「添付」を選択します。
 - 数値: フォーマット・オプションを選択して、システム設定の「プリファレンス」セクションで設定されているデフォルトをオーバーライドします:
 - 「小数点以下の桁数」には、表示する小数点以下の桁数を入力します。
 - 「パーセンテージとして表示」を選択して、パーセント記号を表示します。
 - 3 桁ごとの区切り文字(たとえば、1,000.00)を表示するには、「3 桁ごとの区切り文字」を選択します。ユーザーのロケール用の 3 桁ごとの区切り文字が表示されます。
 - 「通貨記号」では、通貨(米ドルの場合は\$など)を選択します。
 - 「負数」では、(123)など、負数の表示方法を選択します。
 - 数値をスケールリングするには、「スケール」で、1000 から 10000000000000 までの値を選択します
 - True/False
 - テキスト: 最大長は 255 文字です。
 - ユーザー
 - はい/いいえ
6. 役割を割り当てます。役割は、質問に回答できる役割を決めるために割り当てます:
 - 担当者
 - 承認者
 - 所有者
 - 参照者

質問の順序は、役割の中でのみ変更できます。
7. 質問が必須の場合は、「必須」を選択します。

「必須」チェック・ボックスは、所有者や参照者の役割に割り当てられた質問では無効になっています。
8. 「OK」をクリックして質問を保存します。
9. オプション: 質問の順序を変更するには、質問を選択し、「一番上へ移動」、「上へ移動」、「下へ移動」または「一番下へ移動」をクリックします。

10. **オプション:** 質問を編集するには、質問を選択し、「**編集**」をクリックします。質問を削除するには、質問を選択し、「**削除**」をクリックします。
11. 「**保存して閉じる**」をクリックしてタスク・タイプを保存します。
12. 関連項目:
 - [タスク・タイプのプロパティの設定](#)
 - [タスク・タイプ・パラメータの設定](#)
 - [タスク・タイプの指示の指定](#)
 - [タスク・タイプ・ルールの操作](#)
 - [タスク・タイプ履歴の表示](#)

タスク・タイプ属性の割当て

システムでタスク・タイプを見つけるために、属性をタスク・タイプに適用できます。属性を選択する際に、属性タイプに基づいて属性の値を設定できます。後で属性値によってフィルタ処理できます。

たとえば、「北部」、「南部」、「東部」および「西部」という値を持つ「販売地域」という名前の「リスト」属性を持つことができます。現在のタスク・タイプは西部販売地域にのみ適用されるため、「販売地域」属性を追加し、この属性を「西部」に設定できます。

属性を適用するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
2. 左側の「**タスク・タイプ**」タブで「**新規**」をクリックします。
3. **タスク・タイプ名**と**タスク・タイプ ID**を入力します。
4. 「**属性**」タブを選択します。

管理者は、属性を割り当てて、その属性に値を指定できます。

属性を追加するには、「**追加**」をクリックします。次を入力します:

- **属性:** 定義された属性のリストから属性を選択します。
- **タイプ:** このフィールドは編集できません。属性に従ってデータが移入されます。
- **値:** 属性のタイプに関連付けられた値を選択します。たとえば、フォーマット済数値属性の場合は数値、リスト属性の場合はリスト、複数行のテキストの場合はスクロールせずに表示できる複数行のテキスト、個人名、ユーザー、はいいいえ属性の場合は「はい」または「いいえ」です。
- **アクセス:** 「アクセス」ボックスに指定されていないかぎり、すべての役割に表示アクセス権があります。

役割のそれぞれについてアクセスを追加するには:

- a. 「**追加**」をクリックします。
- b. 次の中から役割を選択します: 「**所有者**」、「**担当者**」、「**承認者**」(アプリケーションで現在使用されている承認者のレベルごとに異なる役割を持つ) または「**参照者**」。

- c. 役割アクセス・タイプのいずれかを選択します。
 - **表示しない:** この属性は「タスク・アクション」ダイアログ・ボックス、あるいはダッシュボード、リスト・ビューまたはレポートのいずれにも表示されません。
 - **編集を許可:** 属性の値を追加、変更および削除する権限がありますが、編集ルールの対象です。
 - **必須:** 属性に値が必要です。「必須」オプションは担当者および承認者が使用できます。値が指定されるまで、担当者は送信できず、承認者は承認できません。
- d. 「OK」をクリックします。

5. 「OK」をクリックします。

6. 関連項目:

- [タスク・タイプのプロパティの設定](#)
- [タスク・タイプ・パラメータの設定](#)
- [タスク・タイプの指示の指定](#)
- [タスク・タイプの質問の指定](#)
- [タスク・タイプ・ルールの操作](#)
- [タスク・タイプ履歴の表示](#)

タスク・タイプ・ルールの操作

タスク・タイプ・ルールは同じタスク・タイプのすべてのタスクに適用されるため、タスクのグループにルールを適用するための便利なメカニズムとして機能します。「タスク・タイプ」ダイアログで構成されたルールは、「タスクの編集」ダイアログに伝播され、そのダイアログの「ルール」タブに表示され(テンプレート・タスクの場合は読取り専用形式)、スケジュール・タスクにコピーされます。

使用可能なタスク・タイプ・ルール:

- **タスクの自動承認:** 指定された条件を満たしている場合にのみ、指定された承認を自動的に完了します。

このルールに適用される条件の例: 属性に指定の値がある場合(計算済属性を含む)

条件を満たすと、指定の承認者レベルが完了としてマークされ、これによりワークフローが次の承認レベルに進むか、他に承認レベルがない場合は「クローズ済」になります。

タスクの自動承認は、タスク・ステータスが「オープン(承認者)」に変更されたときに実行されます。

- **タスクの自動送信:** 指定された条件を満たしている場合、タスクが自動的に送信されます。

条件を満たすと、担当者役割が完了としてマークされ、これによりワークフローが最初の承認レベルに進むか、承認レベルがない場合は「クローズ済」になります。

タスクの自動送信ルールは、タスク・ステータスが「保留中」からオープン(担当者)に変更されたときに実行されます。

- **タスク承認の防止:** このルールでは、属性値または他の特性に基づいて、タスクが承認されないようにします。このルールは、承認者が「承認」をクリックすると実行されます。

- **タスク送信の防止:** このルールでは、属性値または他の特性に基づいて、タスクが送信されないようにします。このルールは、担当者が「送信」をクリックすると実行されます。
- **更新時に電子メールを送信:** このルールは、タスクに対するユーザー・アクションに基づいて実行されます。そのため、ルールの条件を適切に設定する必要があります。最も一般的な条件は、ステータス属性またはステータス詳細属性の条件を持つことです:
 - 「ステータス」属性: 選択できる唯一の有効な値は「クローズ済」です。「保留中」、「開く」および「エラー」はすべて、タスクに対する自動化されたアクションの結果として生じるステータスです。
 - ステータス詳細属性: 有効なステータスは承認者です。

タスク・タイプ・ルールを操作するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「タスク・タイプ」タブをクリックします。
3. タスク・タイプをクリックし、「編集」をクリックします。
4. 「ルール」タブを選択します。次の情報を表示できます:
 - **順序:** 優先順位
 - **ルール:** ルールの名前
 - **条件:** ルールを実行する前に存在している必要がある条件の選択
5. ルールを編集するには、「ルール」タブで「編集」をクリックして更新します。
 - **ルール:** ルールを選択します。
 - **説明: オプション。** ルールを構成した理由と使用方法を説明します。
 - **メッセージ(次に示すいくつかのルールの場合):**
 - **承認者へのメッセージ: タスク承認の防止**ルールで、承認者へのオプションのメッセージを定義します。
 - **担当者へのメッセージ: タスク送信の防止**ルールで、担当者へのオプションのメッセージを定義します。
 - **承認者レベル:** 特定のルールに対して、**すべてのレベル**のルールを選択するか、承認者レベルを選択します。

 **ノート:**

タスクの自動承認ルールとタスク承認の防止ルールには、承認者レベルを設定する必要があります。

- 「フィルタの作成」を選択して条件セクションに移入するか、「保存済フィルタの使用」を選択してからフィルタを選択します。ルールに対して選択および構成されたフィルタが、適用するルールをトリガーする条件を決定します。
- 「条件」に、次のいずれかを選択します:

- **保存済フィルタの使用:** 「条件」 セクションに、保存済フィルタに関連付けられた条件の読取り専用バージョンが表示されます。
- **フィルタの作成:** 「条件」 セクションが有効になります。
「組合せ」、「ソース」、「属性」、「演算子」 および 「値」 は、既存の高度なフィルタ機能の場合と同様に動作します。
- 「**タスクのフィルタ**」 に、条件を選択するタスクを指定します:
 - **現在のタスク**
 - **任意の先行**
 - **特定のタスク:** タスク ID を指定します。

 **ノート:**

ルール定義を変更すると、追加情報が監査ログに追加されます。変更は、「履歴」 タブと **監査レポート** の両方に表示できます。

6. 関連項目:
- [タスク・タイプのプロパティの設定](#)
 - [タスク・タイプ・パラメータの設定](#)
 - [タスク・タイプの指示の指定](#)
 - [タスク・タイプの質問の指定](#)
 - [タスク・タイプ履歴の表示](#)

タスク・タイプ履歴の表示

システムでは、「タスク・タイプの表示」 ダイアログ・ボックスから表示できるタスク・タイプ・アクションの履歴がメンテナンスされます。「履歴」 タブには、更新されたコンポーネント、変更のタイプ、古い値と新規の値、変更を行ったユーザー、および変更日が表示されます。「履歴」 タブの情報は読取り専用であり、変更はできません。

タスク・タイプ履歴を表示するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
2. 左側の「**タスク・タイプ**」タブをクリックします。
3. タスク・タイプを選択して、「**編集**」をクリックします。
4. 「**履歴**」タブを選択します。
5. 終了したら、「**保存して閉じる**」または「**取消し**」をクリックします

タスク・タイプの編集

「タスク・タイプ」ダイアログ・ボックスで、タスク・タイプを編集できます。たとえば、属性の追加または削除、パラメータの編集、質問の追加または削除、指示の編集、質問の順序の変更を行うことができます。

タスク・タイプの編集は、タスク・タイプから作成されたタスクに影響することがあります。テンプレート内のタスクの場合、影響は即時です。タスク・タイプ(指示、質問など)に対する変更は、そのタイプのタスクで自動的に更新されます。スケジュール内のタスク・タイプを編集した場合、影響はありません。

タスク・タイプを編集するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「タスク・タイプ」タブをクリックします。
3. 編集するタスク・タイプを選択します。
4. 次のいずれかの方法を使用します:
 - タスク・タイプの右側にある「アクション」アイコンを選択し、「編集」を選択します。
 - 「編集」アイコンをクリックします。
 - 右クリックして「編集」を選択します
5. 編集する情報のタブを選択し、タスク・タイプを編集します。
6. 「保存して閉じる」をクリックします。

タスク・タイプの表示

「タスク・タイプ」で、タスク・タイプのリストに表示する列を指定するか、すべての列を表示できます。列の順序変更、昇順または降順での列のソート、または列幅の変更を行うことができます。

列を表示するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「タスク・タイプ」タブをクリックします。
3. 次の 1 つ以上のタスクを行います。
 - すべての列を表示するには、「表示」、「列」の順に選択し、「すべて表示」を選択します。
 - 特定の列を表示するには、「表示」、「列」の順に選択し、列名を選択または選択解除します。
 - 列の順序を変更するには、「表示」、「列の順序変更」の順に選択します。列を選択し、上下の矢印を使用するか、列をドラッグして順序を変更します。
 - 列をソートするには、「ソート」アイコンが表示されるまで列ヘッダーにマウス・カーソルを合せ、「昇順ソート」または「降順ソート」をクリックします。
 - 列の幅を変更するには、矢印が表示されるまで列ヘッダーの区切りにマウス・カーソルを合せ、適切な幅になるまで列をドラッグします。

タスク・タイプの検索

「タスク・タイプ」リストの検索機能を使用して、タスク・タイプを検索できます。検索する名前の全部または一部を入力できます。フィルタ・バーを使用して、リストに

表示するタスク・タイプを制御できます。デフォルトでは、すべてのタスク・タイプが表示されます。

タスク・タイプを検索するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**タスク・マネージャ**」をクリックします。
2. 左側の「**タスク・タイプ**」タブをクリックします。
3. タスク・タイプを検索するには、「**検索**」テキスト・ボックスに検索条件を入力します。
4. **オプション:** フィルタ・バーでカテゴリをクリックすると、追加の検索演算子(「**次と等しい**」、「**次と等しくない**」、「**次を含む**」、「**次を含まない**」、「**次で始まる**」、「**次で終わる**」)が表示されます。

カテゴリ(「**名前**」、「**タスク・タイプ ID**」、「**統合**」、「**実行タイプ**」、「**作成者**」、「**作成日**」、「**説明**」、「**最終更新者**」、「**最終更新日**」および「**ユーザー作成**」)を使用してタスク・タイプをフィルタできます。

ノート:

- 「**フィルタの追加**」をクリックすると、すべてのカテゴリが表示されます。
- フィルタ・バーを非表示にするには、「**フィルタ**」アイコンをクリックします。
- すべてのフィルタをクリアするには、 アイコンをクリックして、「**すべてのフィルタのクリア**」をクリックします。

タスク・タイプのインポート

テキスト・ファイルから、タスク・タイプまたはタスク・タイプの部分的情報をインポートできます。プロセスは、タスクのテンプレートへのインポートに似ています。

ノート:

タスク・タイプ・ルールはインポートできません。タスク・タイプ・ルールをインポートするには、移行を使用します。

タスク・タイプをインポートするには、サービス管理者またはパワー・ユーザーのセキュリティ役割が必要です。

タスク・タイプをインポートするには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**タスク・マネージャ**」をクリックします。
2. 左側の「**タスク・タイプ**」タブをクリックします。
3. 「**アクション**」、「**インポート**」の順にクリックします。
4. 「**ファイルの選択**」をクリックして、ファイルに移動します。

5. 「**インポート・タイプ**」を選択します。
 - **置換**: タスク・タイプの定義を、インポート・ファイル内の定義に完全に置き換えます。このオプションでは、すべてのタスク・タイプの詳細を、インポートするファイル内の情報に置き換えます。インポート・ファイルに指定されていないタスク・タイプには影響がありません。

インポート・ファイル内のタスク・タイプ ID に一致するタスク・タイプが変更されるという警告が表示されます。タスク・タイプを上書きしない場合は、「**取消し**」をクリックします。
6. 「**日付フォーマット**」を選択します。

使用可能な日付フォーマットのドロップダウン・リストから、フォーマットを選択します。日付フォーマットは変換されません。デフォルトで、日付フォーマットはエクスポートされたファイルの場所のロケールの日付フォーマットに設定されます。
7. インポート・ファイルの**ファイル区切り文字**を選択します。「**カンマ**」または「**タブ**」を選択するか、「**その他**」を選択して「**他の区切り文字**」に任意の 1 文字を指定します。
8. 「**インポート**」をクリックします。

 **ノート:**

置換対象のタスク・タイプへの添付を保持するには、「**添付の保持**」を選択します。

- **更新**: タスク・タイプの部分的な情報を更新します。このオプションは、タスク・タイプの詳細の完全置換ではありません。ファイルで指定したタスク・タイプのプロパティの詳細のみが更新されます。

タスク・タイプのエクスポート

タスク・タイプをカンマ区切り形式(CSV)のファイルにエクスポートし、そのファイルを Excel で読み取り、変更して再インポートできます。

 **ノート:**

タスク・タイプ・ルールはエクスポートできません。タスク・タイプ・ルールをエクスポートするには、移行を使用します。

タスク・タイプをエクスポートするには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**タスク・マネージャ**」をクリックします。
2. 左側の「**タスク・タイプ**」タブをクリックします。
3. 1つ以上のタスク・タイプを選択し、「**アクション**」をクリックして「**エクスポート**」を選択します。
4. **タスク・タイプのエクスポート**・ダイアログで、次のエクスポート・オプションから選択します:

- 「行」に対して、すべてのタスク・タイプまたは**選択されたタスク・タイプ**を選択します。
 - 「フォーマット」に対して、**フォーマットされたデータ**または「**今後のインポート用のフォーマットされていないデータ**」を選択します。
5. 「**エクスポート**」をクリックします。**フォーマットされたデータ**または「**今後のインポート用のフォーマットされていないデータ**」の選択に応じて、ファイルが Excel 形式または CSV 形式でダウンロードされます。
 6. 「**閉じる**」をクリックして、タスク・タイプのエクスポート・ダイアログを閉じます。

タスク・タイプの削除

不要になったタスク・タイプは削除できます。タスク・タイプを削除するには、サービス管理者またはパワー・ユーザーのセキュリティ権限が必要です。

ノート:

属しているタスクがある場合、そのタスク・タイプは削除できません。

タスク・タイプを削除するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**タスク・マネージャ**」をクリックします。
2. 左側の「**タスク・タイプ**」タブをクリックします。
3. 削除するタスク・タイプを選択します。
4. 次のいずれかの方法を使用します:
 - 「**アクション**」、「**削除**」の順に選択します。
 - 「**削除**」アイコンをクリックします。
 - 右クリックして「**削除**」を選択します。
5. 確認のプロンプトで「**はい**」をクリックします。

タスク・テンプレートの管理

タスク・テンプレートでは、ビジネス・プロセスに必要な反復可能なタスクのセットを定義します。これはスケジュール作成の基礎として使用されます。様々なタイプのプロセスに対してテンプレートを作成できます。

テンプレート・タスクは、カレンダー上の特定の日に割り当てられずに、プロセスのアクティビティに基づいて日-3、日-2、日-1、日0などの汎用的な日を使用して定義されます。テンプレートで定義されるタスク・フローは、スケジュールの作成時にカレンダーの日付に適用します。

サービス管理者またはパワー・ユーザーは、テンプレートを表示、作成、編集および削除できます。

ノート:

作成またはインポートできるタスク・テンプレートの最大数は 10,000 です。

タスク・テンプレートの作成

ビジネス・プロセスの特定のタスクに対してテンプレートを作成できます。

テンプレートの作成時に、ユーザーまたはグループを参照者として割り当てられます。

タスク・テンプレートの作成についてさらに学習するには次のビデオを参照してください。



[タスク・テンプレートの作成.](#)

テンプレートを作成するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**タスク・マネージャ**」をクリックします。
2. 左側の「**テンプレート**」タブをクリックします。
3. 「**新規**」をクリックします。
4. テンプレート・セクションで必要な情報を入力します。
 - [テンプレート・プロパティの設定](#)
 - [テンプレートの指示の指定](#)
 - [テンプレートへの参照者の割当て](#)
 - [テンプレート属性の適用](#)
 - [日ラベルの指定](#)
 - [埋込みテンプレート](#)

- [テンプレート・ルール](#)の操作

テンプレート・プロパティの設定

「プロパティ」タブで、テンプレート名、説明、所有者および時間スパンを指定できます。

すべてのテンプレートにテンプレート所有者を割り当てる必要があります。この所有者は、サービス管理者またはパワー・ユーザーである必要があります。現在の ID がデフォルトの所有者です。テンプレート所有者は、タスク・レベルで上書きされないかぎり、テンプレートに含まれるすべてのタスクのデフォルトの所有者になります。

テンプレートの各タスクは、テンプレート日の数値によって編成されます。各テンプレートには日ゼロが含まれています。ゼロの日付前後にテンプレートで追跡する日数を指定できます。日ゼロの前の日付は、日-5 や日-4 のように示されます。日ゼロの後の日付は、日 3 や日 4 のように示されます。日ゼロの前後の日を指定しなくても、テンプレートには少なくとも 1 日(日ゼロ)が含まれます。

テンプレート・プロパティを設定するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**タスク・マネージャ**」をクリックします。
2. 左側の「**テンプレート**」タブをクリックします。
3. 「**新規テンプレート**」または「**テンプレートの編集**」ダイアログの「**プロパティ**」タブで、次の情報を入力します。
 - **名前:** 最大 80 文字まで入力できます。
 - **説明:** 最大 255 文字まで入力できます。
 - **組織単位**
4. テンプレートの時間スパンを入力します。
 - 「**日 0 の前の日数**」では、数値を選択します。
 - 「**日 0 の後の日数**」では、数値を選択します。
5. **オプション:** テンプレートを埋込みテンプレートとしてのみ使用する場合、「**埋込みのみ**」を選択します。

このオプションが有効になると、そのテンプレートはデプロイできなくなります。これにより、サポート・テンプレートを誤ってデプロイすることがなくなります。

6. 「**所有者**」には、デフォルトの所有者を使用するか、「**所有者の選択**」をクリックします。「**検索**」をクリックして、所有者として割り当てるユーザーを選択するときに表示される役割は、管理者またはパワー・ユーザーの役割で構成した管理者、パワー・ユーザーのみです。Shared Services グループのメンバーは役割を実行できますが、同じユーザーが複数の役割を実行することはできません。
7. テンプレート・セクションに必要な情報を入力します。
 - [テンプレートの指示の指定](#)
 - [テンプレートへの参照者の割当て](#)
 - [テンプレート属性の適用](#)
 - [日ラベルの指定](#)

- [埋込みテンプレート](#)
- [テンプレート・ルールの操作](#)

テンプレートの指示の指定

ビジネス・プロセスを完了するために、テンプレートに指示を指定できます。ユーザーは、テンプレート内のタスクから指示を表示できます。指示は、各スケジュールにも転送されません。

ユーザーがテンプレートの目的とタスクの完了方法を理解するのに役立つ詳細を追加指定できます。追加の参照を添付できます。

スケジュール・タスク・リストおよびテンプレート・タスク・リストに指示が指定されているかどうかを簡単に確認できます。リスト・ビューに「指示」列を追加して、タスクに関するテキストの説明を表示できます。

テンプレートの指示を指定するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
2. 左側の「**テンプレート**」タブをクリックします。
3. 「新規テンプレート」または「テンプレートの編集」ダイアログで、「**指示**」タブを選択します。
4. 「**指示**」で、テンプレート内の各タスクに含める指示テキストを入力します。
5. 「**OK**」をクリックします。

参照を追加するには:

1. 「**参照**」セクションで、「**追加**」をクリックします。
2. 「**参照タイプ**」リストから、次のいずれかのタイプを選択します。
 - **ローカル・ファイル**: 「**ファイルの選択**」をクリックし、ファイルを選択して添付し、名前を入力して「**OK**」をクリックします。
 - **URL**: URL を入力してから URL 名を入力し(<http://www.oracle.com>、Oracle など)、「**OK**」をクリックします。

参照ファイルまたは URL を一度に複数のテンプレートに追加するには:

- a. テンプレートのメイン・ページに移動します。
- b. 複数選択(複数の行を強調表示するか、**[Shift]**キーを使用して複数の行を選択)して、「**アクション**」、「**参照の追加**」、「**ファイル**」または「**URL**」の順にクリックします。

また、「**添付の追加**」ダイアログ・ボックスに用意されているドラッグ・アンド・ドロップ機能を使用して、1 つ以上の添付を追加することもできます。必要に応じて「**名前**」フィールドで添付の名前を変更できます。複数の添付をドラッグ・アンド・ドロップすると、これらを一度にアップロードできます。

添付を正確にドラッグ・アンド・ドロップするには、「**添付の追加**」ダイアログ・ボックスにアクセスする必要があります。

3. テンプレート・セクションに必要な情報を入力します。
 - [テンプレート・プロパティの設定](#)
 - [テンプレートへの参照者の割当て](#)

- テンプレート属性の適用
- 日ラベルの指定
- 埋込みテンプレート
- テンプレート・ルール の操作

テンプレートへの参照者の割当て

「参照者」タブでは、スケジュール内のタスクや、テンプレートから生成されるスケジュール・タスクを表示する可能性のあるユーザーに参照者権限を割り当てることができます。複数のユーザーを参照者としてテンプレートに割り当てることができます。参照者は、チーム割当てまたはグループ割当てであってもかまいません。パワー・ユーザー参照者は、テンプレート詳細とテンプレート・タスクを読み取り専用として表示できます。参照者にはテンプレート・アクセス権がなく、テンプレートから作成されたスケジュールに対する読み取り専用アクセス権のみがあります。

ノート:

タスク参照者の役割を持つユーザーのみが質問に回答できます。

参照者権限を割り当てるには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**タスク・マネージャ**」をクリックします。
2. 左側の「**テンプレート**」タブをクリックします。
3. 「新規テンプレート」または「テンプレートの編集」ダイアログで、「**参照者**」タブを選択します。
4. 「**追加**」をクリックします。
5. ユーザー、グループまたはチームで検索するには、「**ユーザーの検索**」をクリックし、「**ユーザー**」、「**グループ**」または「**チーム**」を選択します。
6. ユーザー名の全部または一部を入力し、「**検索**」をクリックします。
7. ユーザーを明確に識別するには、「**詳細**」をクリックし、**ユーザー ID**、**電子メール・アドレス**または**説明**を入力します。
8. 「**検索結果**」リストからユーザーを選択し、それらを「**選択済**」ペインに移動します。
9. チーム、グループ、役割など、ユーザーに関する詳細は、「**詳細**」をクリックします。
10. 「**追加**」または「**すべて追加**」をクリックして、ユーザーを「**選択済**」リストに移動します。

ヒント:

ユーザーを削除するには、ユーザーを選択して「**削除**」または「**すべて削除**」をクリックします。

11. テンプレート・セクションに必要な情報を入力します。
 - [テンプレート・プロパティの設定](#)
 - [テンプレートの指示の指定](#)
 - [テンプレート属性の適用](#)
 - [日ラベルの指定](#)
 - [埋込みテンプレート](#)
 - [テンプレート・ルールの操作](#)

テンプレート属性の適用

システムでテンプレートを見つけるために、属性をテンプレートに適用できます。属性を選択する際に、属性タイプに基づいて属性の値を設定できます。後で属性値によってフィルタ処理できます。

たとえば、「北部」、「南部」、「東部」および「西部」という値を持つ「販売地域」という名前の「リスト」属性を持つことができます。現在のテンプレートは西部販売地域にのみ適用されるため、「販売地域」属性を追加し、この属性を「西部」に設定できます。

属性を適用するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
2. 左側の「**テンプレート**」タブをクリックします。
3. 「**新規テンプレート**」または「**テンプレートの編集**」ダイアログで、「**属性**」タブを選択します。
4. 「**追加**」をクリックします。
5. 「**属性**」リストから、属性を選択します。「**タイプ**」フィールドは編集できません。属性に従ってデータが移入されます。
6. 「**値**」では、属性に応じて、ドロップダウン・リストから属性の値を選択するか、値を入力します。
7. 「**OK**」をクリックします。
8. テンプレート・セクションに必要な情報を入力します。
 - [テンプレート・プロパティの設定](#)
 - [テンプレートの指示の指定](#)
 - [テンプレートへの参照者の割当て](#)
 - [日ラベルの指定](#)
 - [埋込みテンプレート](#)
 - [テンプレート・ルールの操作](#)

日ラベルの指定

テンプレート内の日の名前はカスタマイズできます。日の名前を編集しても、順序は変更されません。

テンプレートで作成された日ラベルは、テンプレートから作成されたスケジュールにコピーされます。

日ラベルを指定するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「テンプレート」タブをクリックします。
3. 「新規テンプレート」または「テンプレートの編集」ダイアログで、「日ラベル」タブを選択します。
4. 名前を変更する日を選択します。
5. 日の名前をデフォルト値からカスタム名に変更します。最大 20 文字まで入力できます。
6. 「OK」をクリックします。
7. テンプレート・セクションで必要な情報を入力します。
 - [テンプレート・プロパティの設定](#)
 - [テンプレートの指示の指定](#)
 - [テンプレートへの参照者の割当て](#)
 - [テンプレート属性の適用](#)
 - [埋込みテンプレート](#)
 - [テンプレート・ルールの操作](#)

埋込みテンプレート

1 つのテンプレートを別のテンプレートに埋め込むことにより、あるタスク・テンプレートのタスクを別のテンプレートで再使用できます。テンプレートのタスクをスケジュールすると、埋込みテンプレートのタスクもスケジュールされます。

たとえば、基本的に同じプロセスが 2 つあり、一方のプロセスに追加タスクがいくつか含まれているとします。1 つのテンプレートに 2 つ目のテンプレートを埋め込むことを指定できるため、一方のテンプレートを変更した場合に、もう一方を更新する必要はありません。スケジュールを生成すると、そのスケジュールにはもう一方のテンプレートのタスクが組み込まれます。

ノート:

1 レベルの埋込みのみ可能です。たとえば、テンプレート A がテンプレート B に埋め込まれている場合、テンプレート B を別のテンプレートに埋め込むことはできません。

埋込みテンプレートは、直接デプロイするように設計されておらず、直接デプロイする他のテンプレートで使用されるように設計されたタスク・テンプレートです。「テンプレートの管理」画面には、埋込みテンプレートを識別する次の列が含まれます。

- 埋込み: 現在のテンプレートに埋め込まれたテンプレートのリスト。なしの場合は空白です。

- 埋込み先: 現在のテンプレートが埋め込まれているテンプレートのリスト。なしの場合は空白です。

これらの列はデフォルトでは表示されませんが、「表示」メニューから表示できます。

テンプレートを埋め込むには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「タスク・マネージャ」をクリックします。
2. 左側の「テンプレート」タブをクリックします。
3. 以前に埋め込まれたテンプレートを識別するには、「表示」、「列」の順にクリックし、「埋込み先」または「埋込みテンプレート」を選択します。
4. 「新規テンプレート」または「テンプレートの編集」ダイアログから、「埋込みテンプレート」タブを選択します。
5. 「使用可能なテンプレート」リストから、埋め込むテンプレートを選択します。
6. 「移動」をクリックして、テンプレートを「埋込みテンプレート」リストに移動します。

ヒント:

1つまたは複数のテンプレートを削除するには、「埋込みテンプレート」リストからテンプレートを選択し、「削除」または「すべて削除」をクリックして「使用可能なテンプレート」リストに移動します。

7. 「OK」をクリックします。
8. テンプレート・セクションに必要な情報を入力します。
 - [テンプレート・プロパティの設定](#)
 - [テンプレートの指示の指定](#)
 - [テンプレートへの参照者の割当て](#)
 - [テンプレート属性の適用](#)
 - [日ラベルの指定](#)
 - [テンプレート・ルールの操作](#)

テンプレート・ルールの操作

テンプレート・ルールはテンプレート内のすべてのタスクに適用され、タスクのグループにもルールが適用されます。「テンプレート」ダイアログ・ボックスで構成するルールは、「スケジュール」ダイアログ・ボックスと「タスクの編集」ダイアログ・ボックスに適用され、「ルール」タブに読取り専用形式で表示されます。

テンプレート・ルール:

- **タスクの自動承認:** 指定された条件を満たしている場合に、指定された承認を自動的に完了します。

このルールに適用される条件の例:

- 属性に指定の値がある(計算済属性を含む)
- 先行タスクに指定の値を持つ属性が含まれる

条件を満たすと、ルールによって指定の承認者レベルが完了としてマークされ、ワークフローが次の承認レベルに進むか、他に承認レベルがない場合はクローズします。

このルールは、タスク・ステータスが「オープン(承認者)」に変更されたときに実行されます。

- **タスクの自動送信:** 指定された条件を満たしている場合、タスクを自動的に送信します。

条件を満たすと、ルールによって担当者役割が完了としてマークされ、これによりワークフローが最初の承認レベルに進むか、承認レベルがない場合は「クローズ済」になります。

ノート:

- タスクの自動送信は、タスク・ステータスが「保留中」からオープン(担当者)に変更されたときに実行されます。タスクの自動送信ルールでは、先行関係が適用されます。これが実行されるのは、「終了時に終了」の先行タスクがエラーなしで完了し、「エラー終了時に終了」の先行タスクが完了している場合のみです。「終了時に終了」の先行タスクがユーザーまたはルールによって「クローズ済」になっている場合は、その「実行中」の後続タスクを確認して、必要に応じてタスクの自動送信ルールがトリガーされます。
 - タスクの自動送信ルールは、タスクにパラメータの不足がある場合はトリガーされません。
- **タスク承認の防止:** このルールでは、属性値または他の特性に基づいて、タスクが承認されないようにします。このルールは、承認者が「承認」をクリックすると実行されます。
 - **タスク送信の防止:** このルールでは、属性値または他の特性に基づいて、タスクが送信されないようにします。このルールは、担当者が「送信」をクリックすると実行されます。

テンプレート・ルールを操作するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「タスク・マネージャ」をクリックします。
2. 左側の「テンプレート」タブをクリックします。
3. テンプレートを開きます。
4. 「ルール」タブを選択します。テンプレートに関連付けられているルールに関する次の情報を表示できます:
 - **順序:** 優先順位
 - **ルール**
 - **条件:** ルールを実行する前に存在している必要がある条件
5. ルールを作成または編集するには、「ルール」タブで「新規」または「編集」をクリックして更新します:
 - **ルール:** ルールを選択します。

ノート:

ルール定義を変更すると、追加情報が監査ログに追加されます。変更は、「履歴」タブと監査レポートの両方に表示できます。

- **説明: オプション。** ルールを構成した理由と使用方法を説明します。最大 255 文字まで入力できます。
 - **承認者レベル:** 「すべてのレベル」を選択するか、承認者レベルを選択します。
 - 「フィルタの作成」を選択して条件セクションに移入するか、「保存済フィルタの使用」を選択してからフィルタを選択します。ルールに対して選択および構成されたフィルタが、適用するルールをトリガーする条件を決定します。
 - **条件:**
 - **保存済フィルタの使用:** 「条件」セクションに、保存済フィルタに関連付けられた条件の読取り専用バージョンが表示されます。
 - **フィルタの作成:** 「条件」セクションが有効になり、「条件の作成」または「条件グループの作成」をクリックして条件を指定できます。
「組合せ」、「ソース」、「属性」、「演算子」および「値」は、既存の高度なフィルタ機能の場合と同様に動作します。
 - **タスクのフィルタ:** 条件を選択するタスクを指定します:
 - **現在のタスク**
 - **任意の先行**
 - **特定のタスク:** タスク ID を指定します
6. ルールの削除、複製または並替えを行うには、適切なボタンをクリックして指示に従います。
7. テンプレート・セクションで必要な情報を入力します。
- [テンプレート・プロパティの設定](#)
 - [テンプレートの指示の指定](#)
 - [テンプレートへの参照者の割当て](#)
 - [テンプレート属性の適用](#)
 - [日ラベルの指定](#)
 - [埋込みテンプレート](#)

テンプレート履歴の表示

システムでは、「テンプレート」ダイアログ・ボックスから表示できるテンプレート・アクションの履歴がメンテナンスされます。「履歴」タブには、作成または更新されたコンポーネント、変更タイプ、古い値と新規の値、変更を行ったユーザーおよび変更日が表示されます。「履歴」タブの情報は読取り専用です。

テンプレート履歴を表示するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「テンプレート」タブをクリックします。

3. 履歴を表示するテンプレートを選択し、「編集」をクリックします。
4. 「履歴」タブを選択します。
5. 「OK」をクリックします。

テンプレートを開く

「テンプレート」ダイアログ・ボックスからテンプレートを開いて操作することができます。

テンプレートを開くには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「テンプレート」タブをクリックします。
3. 「テンプレート」でテンプレートを選択します。
4. 次のいずれかの方法を使用します:
 - テンプレートの右側にある「アクション」アイコンをクリックし、「編集」を選択します。
 - テンプレートをクリックします。
 - 右クリックして「編集」を選択します。

テンプレートへのタスクの追加

タスク・マネージャ・テンプレートにタスクを追加できます。各タスクには開始日時があります。テンプレートに追加されている場合は、エンドユーザー・タスクにも終了日時があります。テンプレート内の開始日は、カレンダー日ではなくテンプレート日に対応します。

ノート:

タスク・マネージャのテンプレートに追加できるタスクの最大数は 500,000 です。

タスク・マネージャ・テンプレートにタスクを追加するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「テンプレート」タブをクリックします。
3. テンプレートを選択して開きます。

テンプレートのリストが大きい場合は、「検索」ボックスに名前の全部または一部を入力して、選択ダイアログ内のリストからテンプレートを検索します。
4. 必要に応じてタスクを追加します。
5. 「OK」をクリックします。

テンプレートの編集

タスク・マネージャ・テンプレートを編集して、テンプレート名、日ゼロの前後の日数などのプロパティを変更できます。日ゼロの前後の日数を減らした場合は、これらの日に関連付けられているタスクが削除されます。テンプレートを編集しても、そのテンプレートから以前生成されたスケジュールには影響がありません。

テンプレートのタスクを編集、コピーおよび削除できます。

埋込みテンプレートのタスクを編集するには、ソース・テンプレートで作業を行う必要があります。

タスク・マネージャ・テンプレートを編集するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「テンプレート」タブをクリックします。
3. テンプレートを選択して、「編集」をクリックします。
4. テンプレートのプロパティを編集します。
5. 「OK」をクリックします。

テンプレートへのタスクのインポート

Microsoft Excel スプレッドシートなどの他のテキスト・ファイルからテンプレートにタスク、またはタスクの部分データをインポートできます。たとえば、Excel の行としてタスク定義を入力し、ファイルをカンマ区切り(CSV)ファイルとして保存してから、テンプレートにインポートできます。タスクを個別に作成するかわりに、「インポート」機能を使用して、テキスト・ファイルのフィールドを編集し、そのファイルをインポートすることにより、多くの回復タスクをすばやく追加できます。

ノート:

タスクをテンプレートにインポートする前に、複数のタスクが同じ ID を持たないよう、テンプレート内で一意のタスク ID を指定する必要があります。

タスクをインポートするには、テンプレートを編集するためのセキュリティ権限が必要です。

タスクをテンプレートにインポートするには、次のオプションが使用可能です。

- **置換:** タスクの定義を、インポート・ファイル内の定義で置き換えます。このオプションでは、タスクの詳細を、インポートするファイル内の詳細に置き換えます。インポート・ファイルに指定されていないテンプレート内の他のタスクには影響しません。
- **更新:** タスクの部分的な情報を更新します。たとえば、インポート・ファイルで、タスクの指示の変更、所有者、担当者および承認者の再割当て、あるいは一部の属性の削除と新しい属性の追加を行った場合が考えられます。また、同じ変更を多数のタスクに行った(400 タスクのうち 100 のタスクに新しい属性を追加するなど)場合も考えられます。更新オプションは、タスクの詳細を完全に置き換えるものではありません。ファイルに指定されているタスク・プロパティの詳細のみが更新されます。たとえば、インポート・ファ

イルにタスクの指示の列しかない場合、タスクの名前、担当者、属性やその他のプロパティには影響しません。

- **削除:** タスクおよび関連情報を、ファイルに指定されたタスク ID のリストに基づいて削除します。削除の実行に必要な情報は、タスク ID の列が含まれたファイルです。

タスクをテンプレートにインポートするには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
2. 左側の「**テンプレート**」タブをクリックします。
3. タスクのインポート先のテンプレートを選択します。
4. 「**タスクのインポート**」をクリックします。
5. インポートするファイルの名前を入力するか、「**ファイルの選択**」をクリックしてファイルを検索します。
6. インポート・オプションを選択します:
 - **置換:** タスクの定義を、インポート・ファイル内の定義で置き換えます。インポート・ファイルに指定されていない他のタスクには影響しません。

 **ノート:**

置換対象のタスクへの添付を保持するには、「**添付の保持**」を選択します。

- **更新:** タスクの部分的な情報を更新します。たとえば、インポート・ファイルで、タスクの指示の変更、所有者、担当者および承認者の再割当て、あるいは一部の属性の削除と新しい属性の追加を行った場合が考えられます。また、同じ変更を多数のタスクに行った(400 タスクのうち 100 のタスクに新しい属性を追加するなど)場合も考えられます。更新オプションは、タスクの詳細を完全に置き換えるものではありません。ファイルに指定されているタスク・プロパティの詳細のみが更新されます。たとえば、インポート・ファイルにタスクの指示の列しかない場合、タスクの名前、担当者、属性やその他のプロパティには影響しません。

 **ノート:**

テンプレート内のタスクで、インポート・ファイル内のタスク ID に一致するものが変更されるという警告が表示されます。タスクを上書きしない場合は、「**取消し**」をクリックして、インポート・プロセスを取り消します。

- **削除:** タスクおよび関連情報を、ファイルに指定されたタスク ID のリストに基づいて削除します。削除の実行に必要な情報は、タスク ID の列が含まれたファイルです。
7. 「**日付フォーマット**」を選択します。

使用可能な日付フォーマットのドロップダウン・リストから、フォーマットを選択します。日付フォーマットは変換されません。デフォルトで、日付フォーマットは

エクスポートされたファイルの場所のロケールの日付フォーマットに設定されます。

8. インポート・ファイルの**ファイル区切り文字**を選択します。「**カンマ**」または「**タブ**」を選択します。その他の 1 文字を「**他の区切り文字**」として指定するには、「**その他**」を選択します。
9. 「**インポート**」をクリックします。
 - インポートに成功した場合は、テンプレート名、タスクを含むファイルの名前およびインポートされたタスクの合計数を示す「インポート - 成功」ダイアログ・ボックスが表示されます。「**OK**」をクリックします。
 - エラーが見つかった場合は、インポート・プロセスが実行されず、「インポート・エラー」ダイアログ・ボックスにエラーが表示されます。エラーを表示し、「**OK**」をクリックして「テンプレート」ページに戻ります。

表 37-1 インポート・エラーのトラブルシューティング

エラー	解決方法
重複するタスク ID	重複するタスク ID の確認をします。タスク ID は、テンプレートまたはスケジュール内で一意である必要があります。 タスクの作成 を参照してください。
タスク名が長すぎます	タスク名に使用できるのは、最大 80 文字です。 タスク・プロパティの設定 を参照してください。
組織の値 - "値が無効です"	組織の値は空白にできず、箇条書きにすることや、複数行にすることはできません。

タスクのインポート・ファイル・フォーマット

タスクのインポート・ファイルでは、テンプレートにインポートするタスク情報を指定できます。最初の行には、**TaskName** など、その列のデータを識別する列見出しのみが含まれます。各タスクを定義するために別々の行が使用されます。

ファイル内の各タスクには、「**TaskID**」列で一意の ID を指定する必要があります。数値 ID を使用して、先行タスクおよび親タスクを一意に識別します。たとえば、「親」列に親タスクを入力するとき、そのタスクのタスク名ではなく、数値 ID を入力します。

「置換」または「すべて置換」オプションを使用する場合、列を追加、削除および移動できませんが、必須列を削除することはできません。「更新」オプションを使用する場合、**TaskID** または **TaskTypeID** (タスク・タイプをインポートする場合)以外の必須列はありません。各列のデータは、最初の行の列 ID に一致する必要があります。

多くの列 ID では、値の量が決まっていません。たとえば、1 つのタスクに多数の参照者がいる場合があります。**Viewer4**、**Viwer5** などのように、末尾の番号を変更することにより、パラメータを追加できます。

承認者、質問または参照の列 ID に付けた番号は、他の承認者、質問または参照との相対的順序を表すにすぎません。これらを更新すると、システムでは、ファイル・フォーマットの列内の数値に関係なく、承認者、質問または参照の名前で照合を行います。質問のテキスト、承認者または参照名を置き換えるには、「置換」モードを使用する必要があります。「更新」モードを選択すると、ファイル名が一致しない場合、新規の質問、承認者または参照が 1 つ追加されるのみです。

ファイル内のすべてのテキスト 検索行は、アプリケーションに格納されている値と一致する必要があります。たとえば、タスク・タイプをインポートする場合は、アプリケーションの

設定時にタスク・タイプの値を指定してあることが必要です。列見出しのグループについては、いずれかのグループの特定の番号がある場合は、他のメンバーに対しても同じ番号が必要です。たとえば、QText5 がある場合は、対応する QType5 が必要です。

ノート:

インポート・ファイルに複数のテキスト行を記述する場合は(「指示」など)、構文'\n'を使用して新しい行であることを示します。強制改行でテキスト行を分割しないでください。

列 ID	Description	タイプ
TaskID	タスクの ID。最大 80 文字。	テキスト
TaskName	タスクの名前	テキスト
TaskType	タスク・タイプ	テキスト検索
Description	タスクの詳細な説明。最大 1000 文字。	テキスト
Priority	タスクの優先度(「高」、「中」、「低」)	テキスト検索
StartDate	開始日、テンプレート内の日(たとえば、-5、0、1、12) スケジュールの場合、開始日はロケール・フォーマットのカレンダーの日付にする必要があります。	整数
StartTime	HH:MM (24 時間)形式の開始時間(たとえば、13:00)	整数
EndDate	ユーザー・タスクのみ、テンプレート内の日(たとえば、-5、0、1、12) スケジュールの場合、終了日はロケール・フォーマットのカレンダーの日付にする必要があります。	整数
EndTime	ユーザー・タスクのみ、HH:MM (24 時間)形式(たとえば、13:00)	整数
Duration	分単位でのタスク期間(自動タスクのみ)	数値
Owner	タスク所有者	テキスト検索
Assignee	タスク担当者(ユーザー・タスクのみ)	テキスト検索
Active	タスクがアクティブかどうか。テンプレートのインポートにのみ適用されます。	ブール
StartEarly	担当者が、開始予定時間の前に保留中のタスクを開いてよいかどうか	ブール
RunAs	RunAs ユーザー名。システム自動タスクにのみ適用されます。	テキスト検索
Instruction	指示テキスト。最大 2GB。	テキスト
Reference#	指示参照(URL 参照およびコンテンツ・サーバー参照)	URL
RefText#	参照名、URL 参照用	テキスト

列 ID	Description	タイプ
RefType#	参照タイプ(URL、ドキュメント)	テキスト検索
RefURL#	参照 URL、URL 参照用	URL
RefDocId#	参照ドキュメント ID、ドキュメント参照用	整数
Approver#	承認者レベル	ユーザー名
Viewer#	タスク参照者	ユーザー名
QText#	質問には必須。質問のテキスト。最大 255 文字。	テキスト
QType#	質問には必須。質問のデータ型(「テキスト」、「メンバー」、「True/False」など)	テキスト検索
QReq#	質問には必須。質問が必須か?(「はい」または「いいえ」)	ブール
QList#	質問用の値リスト。 記号で区切られています(たとえば、Red Green Blue Yellow)。	テキスト検索
QCurrSymbol#	質問 X 用の通貨フォーマット	テキスト
QDecPlaces#	質問 X 用の小数点以下の有効桁数	数値
QNegNumFmt#	質問 X 用の負数のフォーマット	テキスト:-または()
QScale#	質問 X 用のスケール・フォーマット	数値、大きさ: 1000 など
QThouSep#	質問 X 用の 3 桁ごとの区切り文字	ブール
Attribute#	「色」などの属性名	テキスト検索
AttrVal#	属性値(たとえば、赤)。最大 255 文字。	テキスト
AttrDisplay	ユーザーに対する属性の表示(タスク・アクション・ダイアログ・ボックス)	ブール
Param#	パラメータ名	テキスト検索
ParmVal#	パラメータ値	テキスト
Parent	タスクの親のタスク ID	タスク ID
Predecessor#	先行タスク ID (列 A から)	タスク ID
PredType#	必須。先行タイプ(たとえば、起動の終了)。	テキスト検索
PredTemplate#	先行が別のテンプレートまたはスケジュールに属している場合、先行のテンプレートまたはスケジュールの名前	テキスト

タスク・タイプをインポートするとき、次の列が使用されます:

- TaskTypeID
- IntegrationType
- ParamOverride# - パラメータをオーバーライドできるかどうか

サンプル・タスクのインポート・ファイルが提供されます。これには、変更できる次の動的パラメータが含まれています:

- 2つの質問
- 2つの属性
- 2つの指示参照
- 3つの先行タスク
- 3つの承認者レベル

Microsoft Excel へのタスクのエクスポート

テンプレートからタスクを CSV 形式のフラット・ファイルにエクスポートし、Microsoft Excel を使用してファイルを変更できます。たとえば、テスト・インストール内のテンプレートからタスクをエクスポートし、それらを本番インストール内のテンプレートにインポートできます。テンプレートからタスクをエクスポートすると、それらは CSV ファイルに保存されます。

タスクをエクスポートするには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「テンプレート」タブをクリックします。
3. 「タスク」タブをクリックします。
4. 1つ以上のタスクを選択し、「アクション」メニューの「エクスポート」をクリックします。「フォーマットされたデータ(表示列のみ)」または「今後のインポート用のフォーマットされていないデータ」の選択に応じて、ファイルが Excel 形式または CSV 形式でダウンロードされます。
5. 「閉じる」をクリックして、「タスクのエクスポート」ダイアログ・ボックスを閉じます。

テンプレートでのユーザーの再割当て

ユーザーを別のタスクに再割当てすることが定期的に必要な場合があります。たとえば、テンプレートを作成し、ユーザーを特定のタスクに割り当てたが、後でその従業員が退職し、別の従業員がこれらのタスクを行う場合があります。個々のタスクを手動で検索し、開いて編集するかわりに、「テンプレート」ダイアログ・ボックスの「再割当て」機能を使用して割当てを自動的に変更できます。「再割当て」機能では、1人のユーザーに関連付けられているタスクをすばやく検索し、別のユーザーに再割当てできます。

一度に複数のテンプレートに対してユーザーを再割当てできます。これは、アプリケーションに多数のテンプレートがある場合に役立ちます。

ユーザーを再割当てする役割を選択できます。たとえば、「所有者」の役割を選択した場合は、ユーザーが所有者として割り当てられているタスクでのみユーザーが再割当てされます。

タスクが再割当てされると、再割当てされたユーザーに電子メールの通知がすぐに送信されます。

ユーザーを再割当てするには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「タスク・マネージャ」をクリックします。
2. 左側の「テンプレート」タブをクリックします。
3. ユーザーを再割当てする 1 つ以上のテンプレートを選択します。
4. 「アクション」、「ユーザーの再割当て」の順に選択します
5. 「ユーザーの検索」に、置換するユーザーの検索条件を入力します:
 - a. 「ユーザーの検索」をクリックし、「ユーザーの選択」ダイアログ・ボックスで、ユーザーの姓名を入力して「検索」をクリックします。
 - b. 結果からユーザーを選択し、「OK」をクリックします。
6. 「置換」をクリックし、タスクを再割当てするユーザーの検索条件を入力します。
7. 再割当てが必要なユーザーについて役割を選択します。
 - 所有者
 - 担当者
 - 承認者
 - 参照者
8. 「再割当て」をクリックします。

プロセスが終了すると、ユーザーの再割当てが完了したことを示す「ユーザーの再割当て - 成功」メッセージが表示され、テンプレート名と、行われたユーザー再割当ての合計数が表示されます。

テンプレートからのスケジュールの作成

テンプレートからスケジュールを作成できます。テンプレートからスケジュールを作成すると、スケジュールにテンプレート内のタスクが移入されます。ソース・テンプレートにテンプレートが埋め込まれている場合、埋込みテンプレート内のタスクが組み込まれます。テンプレートの指示、参照者および属性もスケジュールに追加されます。

「テンプレートの編集」ダイアログ・ボックスで、テンプレートからスケジュールを作成します。「最新のスケジュール」列には、各テンプレートから作成された最新のスケジュールが表示されます。「スケジュール」列には、各テンプレートから作成されたスケジュールの合計数が表示されます。

テンプレートからスケジュールを作成するには、サービス管理者またはパワー・ユーザーの役割が必要です。

REST API を使用して、テンプレートからタスク・スケジュールを作成できます。これにより、自動ルーチンを作成し、すべての定期タスク・スケジュールを生成できます。詳細は、[のタスク・マネージャ・テンプレートのデプロイ](#) を参照してください *Oracle Enterprise Performance Management Cloud の REST API*

スケジュールは「保留中」ステータスで開始します。これにより、定義に最終的な変更を加える機会が与えられます。

テンプレートからスケジュールにテンプレート・タスクが追加されると、テンプレートの日ゼロとの関係に基づいて、カレンダーの日付に割り当てられます。日付は、スケジュールの休日指定した場合には、それらについての説明にもなります。たとえば、日 0 が金曜日の場合、日 1 のタスクは、週末を除くように選択していれば、次の月曜日に配置されます。「日付

マップ」には、各テンプレートの日に割り当てられたデフォルトのカレンダーの日付が表示されます。「日付マップ」機能を使用すれば、日付の割当てを調整できます。

あるテンプレート内のタスクの先行タスクが、別のテンプレート内に存在する場合があります。テンプレートからスケジュールを作成するとき、別のテンプレートに先行タスクがあるタスクの先行タスクとして、スケジュールで先行タスクを選択できます。「先行タスクのリンク」タブを使用して、スケジュール内の先行タスクを選択します。「先行タスクのリンク」タブには、別のテンプレート内に先行タスクのあるすべてのタスクが表示され、これらのタスクのかわりに、スケジュール内の先行タスクを選択できます。

ヒント:

テンプレートからスケジュールを作成するとき、タスク・タイプのタスク・パラメータでオーバーライド・オプションが有効になっていれば、そのパラメータを全体的に更新できます。[タスク・タイプ・パラメータの設定](#)を参照してください。

テンプレートからスケジュールを作成するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**タスク・マネージャ**」をクリックします。
2. 左側の「**テンプレート**」タブをクリックします。
3. スケジュールするテンプレートを選択します。
4. テンプレートの検証に成功したら、スケジュールを次のように作成します右側の「**アクション**」アイコン  をクリックし、「**スケジュールの作成**」を選択するか、リストの上にある「**スケジュールの作成**」アイコンをクリックします。

「**スケジュール・パラメータ**」タブで、次のフィールドに入力します。

- **スケジュール:** スケジュールの名前。
- **年:** スケジュールの年を選択します。
- **期間:** スケジュールの期間を選択します。
- **日ゼロの日付:** テンプレートの日ゼロに割り当てるカレンダーの日付を選択します。
- **日付マッピング:**
 - **組織単位**
 - **カレンダー日**
 - **稼働日**
 - 「**拡張構成**」ダイアログ・ボックス:

スケジュール内のすべてのタスクの**組織単位**および**労働日数**の構成をオーバーライドするには、「**拡張構成**」をクリックします。

 **ヒント:**

グローバル・テンプレートを 1 つ作成しておき、地域エンティティごとにそのエンティティの休日カレンダー、タイム・ゾーンおよび労働日数の構成を考慮しながら、そのテンプレートから適切なスケジュールを作成することができます。

* **組織単位**

次のいずれかを選択します:

- * **タスク値の使用:** 組織単位から値を選択します
 - * **値の設定:** (テンプレートのタスクに異なる「組織単位」値が含まれていても) 選択した組織単位がスケジュール内のすべてのタスクに適用されます。すべてのタスクの組織単位が同じであるため、テンプレートからのスケジュール・ダイアログ・ボックスの「日付マッピング」パネルでは、組織単位は読み取り専用として表示されます。
 - * **労働日数:** タスクに組織単位を割り当てず、「労働日数のオーバーライド」機能を使用しない場合、アプリケーションでは次のデフォルトが使用されます: 月曜日から金曜日までは稼働日、土曜日と日曜日は非稼働日。
- **日付マップ:** 「日付」列で、日付割当てを変更するテンプレートの日ごとに新規の日付を入力します。

 **ノート:**

「日付マッピング」内の日付には、日ラベルが適用されます。つまり、テンプレートの日レベルが何であっても、マップされた日付のスケジュールに同じものが適用されます。

日マッピングは、「日付マッピング」内の「組織単位」ごとに異なる場合があります。テンプレート・レベルに割り当てられた組織単位がない場合は、「未割当」の日マッピングがスケジュールに適用されます。テンプレートに組織単位が割り当てられている場合は、その組織単位の日マッピングがスケジュールに割り当てられます。

同じ日付に複数の日がマップされている場合は、日ラベルがカンマで連結されます。休日の日ラベルは空になります。

「日付マッピング」では、「組織単位」ドロップダウン・リストを使用します。これには、「未割当」およびテンプレートに関連する組織単位のみが含まれます。

「スケジュールの作成」ダイアログの「組織単位」ドロップダウン・リストは日付マッピング用であり、作成したスケジュールの組織単位用ではありません。これには、「未割当」およびテンプレートに関連する組織単位のみが含まれます。

5. **オプション:** 「先行タスクのリンク」タブを選択し、先行タスクが含まれるスケジュールを選択して、「割当て済タスク」リストで先行タスクを選択します。
6. **オプション:** 「パラメータのオーバーライド」タブを選択し、パラメータを確認して、「新規の値」列で、変更するパラメータごとに新規の値を入力します。

 **ノート:**

「**パラメータのオーバーライド**」タブには、少なくとも 1 つのパラメータでオーバーライド・オプションが有効になっているタスク・タイプを使用するタスクのみ表示されます。

7. 「**スケジュールの作成**」をクリックします。

スケジュールが作成され、テンプレートからタスク、指示および参照者が移入されます。このステータスは「保留中」です。デフォルトでは、スケジュールが作成されるとビューで開かれます。

スケジュールを確認し、必要に応じて調整します。

テンプレートからスケジュールを作成する際の「パラメータのオーバーライド」オプションの使用

統合されたタスクには、定期的に更新する必要があるパラメータがあるのが一般的です。多くの統合タスクには**期間**パラメータがあり、異なるスケジュールでのタスク実行間で異なります。たとえば、「**データ・ルールの実行**」という統合されたタスクの「**開始期間**」および「**終了期間**」パラメータは、テンプレートから作成された別のスケジュール内での変更が必要になる場合があります。

「**パラメータのオーバーライド**」オプションを使用すると、定期的に更新する必要があるこれらのパラメータをすばやく更新できます。

最初に、タスク・タイプで「**スケジュール設定時にオーバーライド**」プロパティを選択して、スケジュールリング時に更新する必要がある統合パラメータを指定します。新しいタスク・タイプについては、[タスク・タイプ・パラメータの設定](#)を参照してください。既存のタスク・タイプについては、[タスク・タイプの編集](#)を参照してください。

たとえば、**データ・ルールの実行**タスク・タイプを編集します。「**パラメータ**」タブで、「**パラメータのオーバーライド**」オプションを「**開始期間**」および「**終了期間**」に対して選択し、保存します。

次に、統合されたタスクをテンプレートに追加するときに、タスク・タイプを選択し、必要なパラメータを入力します。オーバーライド用に指定されたパラメータについては、デフォルト値を指定するか、空白のままにできます。[テンプレートへのタスクの追加](#)を参照してください。

たとえば、「**データ・ルールの実行**」タスク・タイプを選択して、1 つ以上の「**データ・ルールの実行**」タスクをテンプレートに追加します。「**パラメータ**」タブで、「**開始期間**」に **1 月**を入力し、「**終了期間**」に **2 月**を入力します。

最後に、テンプレートからスケジュールを作成するときに、「**スケジュール設定時にオーバーライド**」タブを選択します。表内に、スケジュール設定時にオーバーライド用に指定されたすべてのパラメータが、現在の値とともに一覧表示されます。タスク・タイプを使用するすべてのタスクに設定される新しいパラメータ値を入力できます。

たとえば、テンプレートからスケジュールを作成する場合、「**スケジュール設定時にオーバーライド**」タブに、実行データ・ルール「**開始期間**」パラメータおよび「**終了期間**」パラメータが現在の値とともに表示されます。表内の値を更新することで、パラメータをオーバーライドできます。

表 37-2 スケジュール設定時にオーバーライド

タスク・タイプ名	パラメータ名	現在の値	新規の値
データ・ルールの実行	開始期間	1 月	2 月
データ・ルールの実行	終了期間	2 月	3 月

スケジュールが作成されると、データ・ルールの実行タスクは、「開始期間」が 2 月、「終了期間」が 3 月として設定されます。

テンプレートの手動検証

テンプレートからスケジュールを生成するとき、システムによって自動的にテンプレートが検証され、最初に一意性の違反、相互に直接または間接的に依存しているタスク、または日付の優先度の不一致が確認されます。たとえば、循環する先行タスクがあってはなりません。

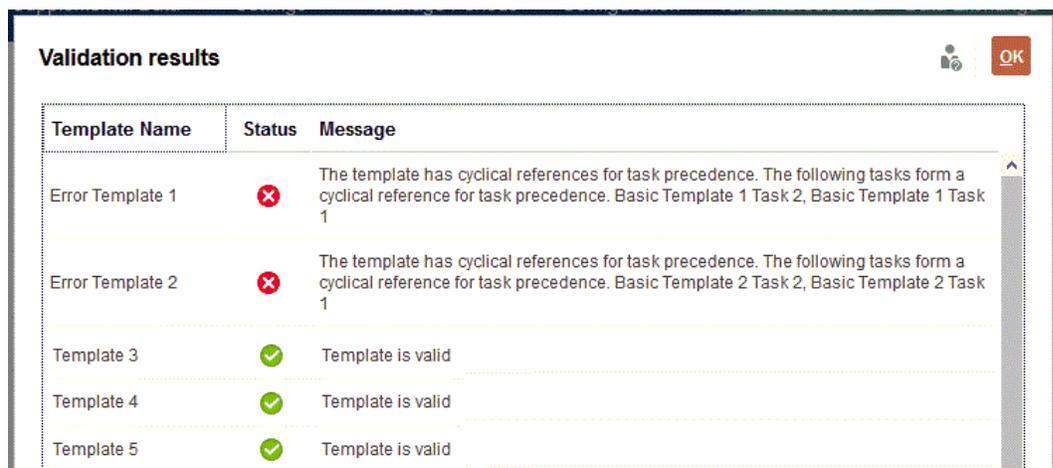
テンプレートは手動で検証できます。検証は、ファイルからタスクをテンプレートにインポートした後、問題がないかチェックするのに特に役立ちます。

検証結果には、テンプレート名、ステータスおよびエラー・メッセージが表示されます。テンプレート名またはステータスで検証結果のリストをソートできます。

テンプレートを手動で検証するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「タスク・マネージャ」をクリックします。
2. 左側の「テンプレート」タブをクリックします。
3. 「テンプレート」で、検証するテンプレートを 1 つ以上選択します。
4. 「検証」をクリックします。

エラーがない場合は、検証結果に「テンプレートは有効です」のメッセージが表示されます。エラーがある場合は、エラーの詳細が表示されます。



Template Name	Status	Message
Error Template 1	✘	The template has cyclical references for task precedence. The following tasks form a cyclical reference for task precedence. Basic Template 1 Task 2, Basic Template 1 Task 1
Error Template 2	✘	The template has cyclical references for task precedence. The following tasks form a cyclical reference for task precedence. Basic Template 2 Task 2, Basic Template 2 Task 1
Template 3	✔	Template is valid
Template 4	✔	Template is valid
Template 5	✔	Template is valid

タスク・マネージャ・テンプレートの表示

「テンプレート」ダイアログ・ボックスでは、テンプレートのリストに表示する列を指定することも、すべての列を表示することもできます。列の順序変更、昇順または降順での列のソート、または列幅の変更を行うこともできます。

列を表示するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「テンプレート」タブをクリックします。
3. 次の 1 つ以上のタスクを行います。
 - すべての列を表示するには、「表示」、「列」の順に選択し、「すべて表示」を選択します。
 - 特定の列を表示するには、「表示」、「列」の順に選択し、列名を選択または選択解除します。
 - 列の順序を変更するには、「表示」、「列の順序変更」の順に選択します。列を選択し、上下の矢印を使用するか、列をドラッグして順序を変更します。
 - 列をソートするには、「ソート」アイコンが表示されるまで列ヘッダーにマウス・カーソルを合せ、「昇順ソート」または「降順ソート」をクリックします。
 - 列の幅を変更するには、矢印が表示されるまで列ヘッダーの区切りにマウス・カーソルを合せ、適切な幅になるまで列をドラッグします。

テンプレートの検索

「テンプレート」リストの検索機能を使用して、タスク・マネージャ・テンプレートをすばやく検索できます。検索する名前の全部または一部を入力できます。フィルタ・バーを使用して、リストに表示するテンプレートを制御できます。デフォルトでは、すべてのテンプレートが表示されます。

テンプレートを検索するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「タスク・マネージャ」をクリックします。
2. 左側の「テンプレート」タブをクリックします。
3. テンプレートを検索するには、「検索」テキスト・ボックスに検索条件を入力します。
4. **オプション:** フィルタ・バーでカテゴリをクリックすると、追加の検索演算子(「次と等しい」、「次と等しくない」、「次を含む」、「次を含まない」、「次で始まる」、「次で終わる」)が表示されます。

テンプレートは次のカテゴリを使用してフィルタできます: 「名前」、「所有者」、「組織単位」、「日 0 の後の日数」、「日 0 の前の日数」、「埋込み先」、「埋込みのみ」、「埋込みテンプレート」、「説明」、「作成者」、「作成日」、「最終更新者」、「最終更新日」。

 ノート:

- 「フィルタの追加」をクリックすると、すべてのカテゴリが表示されます。
- フィルタ・バーを非表示にするには、「フィルタ」アイコンをクリックします。
- すべてのフィルタをクリアするには、 アイコン内の「すべてのフィルタのクリア」をクリックします。

テンプレートの削除

不要になったタスク・マネージャ・テンプレートを削除できます。テンプレートを削除するには、テンプレートに対するセキュリティ権限が必要です。

テンプレートを削除すると、使用可能なテンプレートのリストからそのテンプレートが削除され、そのテンプレートに関連付けられているタスクが削除されます。実行中のスケジュールには直接影響しませんが、一部のレポートおよびダッシュボード・メトリックではそのテンプレートを使用して様々なスケジュール実行をリンクしている場合があり、テンプレートが削除されるとリンクできなくなります。

タスク・マネージャ・テンプレートを削除するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「テンプレート」タブをクリックします。
3. テンプレートを選択し、「削除」をクリックします。
4. 確認のプロンプトで「はい」をクリックします

タスクの管理

タスクは、データ入力やデータ連結など、ビジネス・プロセスにおけるアクションのコア単位です。

各タスクには、タスク・タイプに応じて異なるパラメータがあります。サービス管理者またはパワー・ユーザーのセキュリティ権限がある場合は、タスクを作成、編集または削除できます。

[タスクの作成](#)を参照してください。

関連項目: [サービスの管理](#)

タスクの作成

タスクはテンプレートまたはスケジュールに追加できます。テンプレートでタスクを作成する場合は、開始日および終了日を日ゼロの前または後の日数として割り当てます。スケジュールでタスクを作成する場合は、開始日および終了日としてカレンダーの日付を選択します。

タスクを親タスクの下にグループ化することで、ビジネス・プロセスのビューを単純化できます。上位レベルの親タスクを表示した後で、基礎となるタスクにドリルできます。親タスクの子タスクは、所有者が親タスクとは異なる場合があります。

次のいずれかの方法を使用して、タスクを作成できます。

- タスク・タイプをビュー内のテンプレートまたはスケジュールにドラッグ・アンド・ドロップします。
- タスクを右クリックし、「**新規**」を選択します

次に、タスク情報を入力します。

- [タスク・プロパティの設定](#)
- [タスク・パラメータの設定](#)
- [タスクの指示の指定](#)
- [ワークフローの選択](#)
- [タスクの質問の追加](#)
- [タスク参照者の設定](#)
- [先行タスクの設定](#)
- [タスクの属性の適用](#)
- [タスク・ルールの操作](#)
- [タスク履歴の表示](#)

タスクの作成についてさらに学習するには次のビデオを参照してください。



[タスクの作成](#)

次のチュートリアルには、タスクの作成に関する追加情報が含まれています:



[タスク・マネージャでのタスクの表示、更新および追加](#)

タスク・プロパティの設定

「プロパティ」ダイアログで、タスク名、タスク ID、説明、タスク・タイプ、優先度、開始日、終了日または期間を設定できます。

また、「プロパティ」を使用して、タスクの所有者と担当者を指定します。所有者または担当者が(病気、休暇、退職または単なる多忙により)タスクを処理できない場合は、タスク、テンプレートまたはスケジュールに関連付けられたユーザーを再割当てできます。テンプレート、スケジュールおよびタスクの所有者、担当者および承認者も、タスクを再割当てできます。

エンド・ユーザー・タスクについては、タスク先行条件がすべて満たされた場合、担当者が予定時間の前に保留中のタスクを開けるようにすることができます。

自動タスクには担当者はいませんが、このタイプのタスクを実行するユーザーの「別名実行」ユーザーを指定できます。

イベント・モニタリング・タスクには、担当者も「別名実行」ユーザーもいません。

タスクのプロパティを設定するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**タスク・マネージャ**」をクリックします。
2. 左側の「**テンプレート**」タブをクリックし、「**タスク**」タブをクリックします。

ノート:

レッドウッド・エクスペリエンスを有効にしている場合は、「**タスク**」タブがページ上部ではなく下部に表示されます。

3. タスクを開きます。
4. 「**プロパティ**」をクリックし、次の情報を入力します。
 - **タスク名:** 最大 80 文字まで入力できます。
 - **タスク ID:** タスクを識別します(必須)。タスク ID は、テンプレートまたはスケジュール内で一意である必要があります。80 文字以下を入力できます。
 - **説明:** 最大 255 文字まで入力できます。

ノート:

「説明」、「質問」、「指示」では改行や URL を使用できます。

- **組織単位:** 組織のモデル化に使用できる階層型のエンティティタイプ構造を表します。別々にレポートする必要のある各エンティティに対して、あるいはタイム・ゾーン、休日、労働日数、参照者の割当てまたはコメント作成者の割当

て用に異なる構成が必要なエンティティに対して、別々の組織単位を定義します。組織単位はシステム設定で定義します。

- **タスク・タイプ:** 拡大鏡をクリックし、タスク・タイプを選択します(必須)。
- 「**優先度**」に、次のオプションから選択します:
 - 高
 - 中
 - 低
- **所有者:** デフォルトの所有者を使用するか、「**所有者の選択**」をクリックしてユーザーまたはグループを選択します。
- 「**アクティブ**」を選択して、このタスクをテンプレートから生成されたスケジュールに組み込みます。

ノート:

このオプションは、スケジュールで作成されたタスクには使用できません。

5. 「**保存して閉じる**」をクリックします。

6. 関連項目:

- [タスク・パラメータの設定](#)
- [タスクの指示の指定](#)
- [ワークフローの選択](#)
- [タスクの質問の追加](#)
- [タスク参照者の設定](#)
- [先行タスクの設定](#)
- [タスクの属性の適用](#)
- [タスク・ルールの操作](#)
- [タスク履歴の表示](#)

タスク・パラメータの設定

「パラメータ」ダイアログには、統合タイプと関連付けられ、パラメータを持つタスクのデータのみが表示されます。統合タイプは、外部アプリケーションとリンクしています。「パラメータ」では、タスクに関する特定の情報や、実行方法を設定できます。パラメータは外部アプリケーションに渡されます。たとえば、タスクにデータ・グリッドへのリンクが含まれている場合、「パラメータ」ダイアログを使用して、グリッドの視点を選択できます。

タスクのパラメータを設定するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**タスク・マネージャ**」をクリックします。
2. 左側の「**テンプレート**」タブをクリックし、「**タスク**」タブをクリックします。

 ノート:

レッドウッド・エクスペリエンスを有効にしている場合は、「タスク」タブがページ上部ではなく下部に表示されます。

3. 「新規タスク」または「タスクの編集」ダイアログ・ボックスで、「パラメータ」をクリックします。
4. パラメータ値がタスク・タイプによって入力されない場合は、必要なパラメータ値を入力できます。

 ノート:

タスクの開始準備ができていないのにパラメータが定義されていない場合、タスク所有者に電子メールが送信されます。値が入力されるまでタスクは開始を待機します。

5. 関連項目:
 - [タスク・プロパティの設定](#)
 - [タスクの指示の指定](#)
 - [ワークフローの選択](#)
 - [タスクの質問の追加](#)
 - [タスク参照者の設定](#)
 - [先行タスクの設定](#)
 - [タスクの属性の適用](#)
 - [タスク・ルールの操作](#)
 - [タスク履歴の表示](#)

タスクの指示の指定

タスク所有者は、タスクを完了するための一連の指示を作成できます。タスクへのアクセス権を持つ他のすべてのユーザーは、指示を読むことのみ可能です。タスク・タイプ、テンプレートまたはスケジュールから継承されたタスク指示がある場合は、指示テキストが指示テキスト・ボックスの上に読取り専用で表示されます。

テンプレート・タスクの場合、テンプレートとタスク・タイプの指示を表示できますが、編集はできません。

指示を指定するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「テンプレート」タブをクリックし、「タスク」タブをクリックします。

 ノート:

レッドウッド・エクスペリエンスを有効にしている場合は、「タスク」タブがページ上部ではなく下部に表示されます。

3. 「新規タスク」または「タスクの編集」ダイアログ・ボックスで、「指示」をクリックします。
4. 「指示」に入力します(文字数に制限はありません)。

参照を追加するには:

1. 「参照」セクションで、「追加」をクリックします。
2. 「参照タイプ」リストから、次のいずれかのタイプを選択します。
 - **ローカル・ファイル:** 「ファイルの選択」をクリックし、ファイルを選択して添付し、名前を入力して「OK」をクリックします。
 - **URL:** URL および URL の名前(<http://www.oracle.com>、Oracle など)を入力します。

 ノート:

参照ファイルまたは URL を一度に複数のタスクに追加するには:

- a. 「タスク」ページに移動します。
- b. 複数選択(複数の行を強調表示するか、[Shift]キーを使用して複数の行を選択)して、「アクション」、「参照の追加」、「ファイル」または「URL」の順にクリックします。

 ノート:

また、「添付の追加」ダイアログ・ボックスに用意されているドラッグ・アンド・ドロップ機能を使用して、1 つ以上の添付を追加することもできます。必要に応じて「名前」フィールドで添付の名前を変更できます。複数の添付をドラッグ・アンド・ドロップすると、一度に複数の添付をアップロードできます。

添付を正確にドラッグ・アンド・ドロップするには、「添付の追加」ダイアログ・ボックスにアクセスする必要があります。

3. 関連項目:
 - [タスク・プロパティの設定](#)
 - [タスク・パラメータの設定](#)
 - [ワークフローの選択](#)
 - [タスクの質問の追加](#)
 - [タスク参照者の設定](#)
 - [先行タスクの設定](#)
 - [タスクの属性の適用](#)

- タスク・ルールの操作
- タスク履歴の表示

ワークフローの選択

「タスク・マネージャ」ワークフローを選択するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「タスク・マネージャ」をクリックします。
2. 左側の「テンプレート」タブをクリックし、「タスク」タブをクリックします。

ノート:

レッドウッド・エクスペリエンスを有効にしている場合は、「タスク」タブがページ上部ではなく下部に表示されます。

3. 「新規タスク」または「タスクの編集」ダイアログ・ボックスで、「ワークフロー」をクリックします。
4. 「ワークフロー」セクションには、担当者と承認者の割当てが含まれます。

ノート:

ワークフロー内の複数の役割に同じユーザーを割り当てることはできません。

担当者について、次の情報を入力します:

- **担当者:** 名前付きユーザーまたは Shared Services グループに担当者を割り当てることを選択するには、 をクリックします。

「実際」属性は各ワークフロー・ステージで使用でき、たとえば、「担当者(実際)」のように、完了したワークフローの実際のユーザーを表示します。ワークフローの「実際」列には、ユーザーのステータスに関係なくタスクの実行者が表示されます。

ノート:

追加のユーザー情報は、最初のユーザーがタスクを完了した後にタスクが再割当てされた場合にのみ表示されます。

エンド・ユーザー・タスクの場合、「担当者」については、「担当者の選択」



をクリックしてユーザーを検索します。

担当者を選択しない場合、所有者がデフォルトの担当者になります。親タスクと自動タスクには、担当者はいません。

 ノート:

プロセス自動タスクの場合は、「別名実行」をクリックして、このタイプのタスクを実行するユーザーを検索して選択し、「OK」をクリックします。

選択した別名実行ユーザーがタスクも作成したユーザーである場合、そのユーザーは、パスワードの再入力を要求されずにタスクを許可できます。

- **バックアップ:** ユーザーをプライマリ担当者として割り当てた場合、担当者の権限を持つバックアップ・ユーザーを割り当てることができます。
 - a. 「バックアップ」  をクリックします。
 - b. 「名」および「姓」を入力するか、「検索」をクリックしてバックアップ・ユーザーを選択します。
 - c. 「OK」をクリックします。
- **開始:** 開始日を選択し、タスクを開始する時刻を 15 分単位で選択します。
- **終了:** 終了日を選択し、タスクを終了する時刻を 15 分単位で選択します。
- **オプション:** 「最小期間」に、日、時間および分の形式でタスクの最小期間を入力します。「リスクあり」の基準は、開始日を過ぎており、かつ、(終了日 - 現在の日付が最小タスク期間より短い、または終了日 - 開始日が最小期間より短い)という条件に基づきます。「リスクあり」のタスクは、ダッシュボードの「ステータス・チャート」の「要注意」グラフに表示されます。
- **オプション:** エンド・ユーザー・タスクの場合、「先行開始を許可する」を選択し、担当者が予定開始時刻の前にタスクを開けるようにします。

承認者について、次の情報を入力します:

- レベル
 - 名前
 - バックアップ
 - 終了日
5. 関連項目:
- [タスク・プロパティの設定](#)
 - [タスク・パラメータの設定](#)
 - [タスクの質問の追加](#)
 - [タスク参照者の設定](#)
 - [先行タスクの設定](#)
 - [タスクの属性の適用](#)
 - [タスク・ルールの操作](#)
 - [タスク履歴の表示](#)

タスクの質問の追加

ノート:

「質問」タブは、自動タスクまたは親タスクに対しては表示されません。

タスクを作成する場合、担当者がタスクの完了を示す前にアクションに関する質問に回答することが必要な場合があります。たとえば、タスクの完了時に特定のプロセスが続いて実行されたかどうかを質問できます。

タスクに対して質問を指定できます。テキスト、数値、True/False など、様々なタイプの質問を指定でき、それらが必須かどうかを指定できます。質問が必須の場合、ユーザーは質問に回答する必要があり、回答しないと承認のためにタスクを送信できません。「上へ移動」および「下へ移動」ボタンを使用して、質問を並べ替えることもできます。

スケジュール・タスクの場合、ユーザーは、「タスク・アクション」ページから質問に回答できます。テンプレートのタスクを作成または更新している場合は、行がロックされているかどうかを表示して、ユーザーが質問を削除または更新できるかどうかを示す追加の列が表示されます。ロックされている行は、「タスク・タイプ」から継承されているため編集または削除できません。

テンプレートには、「タスク・タイプ」の質問は表示されますが、編集はできません。

ノート:

タスク参照者の役割を持つユーザーのみが質問に回答できます。

質問を追加するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「タスク・マネージャ」をクリックします。
2. 左側の「テンプレート」タブをクリックし、「タスク」タブをクリックします。

ノート:

レッドウッド・エクスペリエンスを有効にしている場合は、「タスク」タブがページ上部ではなく下部に表示されます。

3. 「新規タスク」または「タスクの編集」ダイアログ・ボックスで、「質問」をクリックします。
4. 「追加」をクリックします。
5. 「質問」に 2000 文字以下で入力します。
6. 「タイプ」に、次のオプションから選択します:
 - 日付

- **日付/時間**
 - **整数:** -2147483648 から 2147483647 の値を入力します。
 - **リスト:** 質問に対する有効な回答のリストを入力します(最大 255 文字)。
 - **複数行のテキスト:** 3 から 50 行の間の**行数**を入力します。最大 4000 文字まで入力できます。「複数行のテキスト」では、「アクション」ダイアログ・ボックスで、スクロールせずに表示できるテキストの行数を決定します。添付用のセクションを作成する場合、「**添付**」を選択します。
 - **数値:** 値 xxxxxxxxxxxxxxxxxxxx.xxxxxxxxx (17 桁と小数点以下 9 桁)を入力します。
数値のフォーマット・オプションを選択します:
 - 「**小数点以下の桁数**」には、表示する小数点以下の桁数の値を入力します。
 - 「**パーセンテージとして表示**」については、パーセンテージを表示する場合に選択します。
 - 1,000.00 のように、数値に 3 桁ごとの区切り文字を表示する場合は、「**3 桁ごとの区切り文字**」オプションを選択します。
 - 「**通貨記号**」では、通貨記号(米ドルの場合は\$など)を選択します。
 - 「**負数**」では、(123)など、負数の表示方法を選択します。
 - 「**スケール**」では、数値のスケール値(1000、1000000000000 など)を選択します。
 - **True/False**
 - **テキスト:** 最大 4000 文字まで入力できます。
 - **ユーザー**
 - **はい/いいえ**
7. 質問に**役割(担当者、承認者、所有者、参照者)**を割り当てます。アクセス権は責任に基づきます。
 8. 質問が必須の場合は、「**必須**」を選択します
「**必須**」チェック・ボックスは、所有者や参照者の役割に割り当てられた質問では無効になっています。
 9. 「**OK**」をクリックします。
 10. **オプション:** 質問の順序を変更するには、質問を選択し、「**一番上へ移動**」、「**上へ移動**」、「**下へ移動**」または「**一番下へ移動**」をクリックします。
 11. **オプション:** 質問を編集するには、質問を選択し、「**編集**」をクリックします質問を削除するには、質問を選択し、「**削除**」をクリックします
 12. 関連項目:
 - [タスク・プロパティの設定](#)
 - [タスク・パラメータの設定](#)
 - [タスクの指示の指定](#)
 - [タスクの質問の追加](#)
 - [タスク参照者の設定](#)
 - [先行タスクの設定](#)
 - [タスクの属性の適用](#)

- [タスク・ルールの操作](#)
- [タスク履歴の表示](#)

タスク参照者の設定

「参照者」タブでは、現在のタスクの参照者を追加または削除できます。参照者は数に制限なく指定できます。

タスクのアクセスを設定するには:

1. 「新規タスク」ダイアログ・ボックスで、「参照者」タブを選択します。
2. ユーザーの姓名を入力し、「検索」をクリックします
ユーザーを明確に識別するには、「詳細」をクリックし、ユーザー ID または電子メール・アドレスを入力します。

ヒント:

グループや役割など、ユーザーに関する詳細は、「詳細」をクリックします

3. 「参照者」リストからユーザーを削除するには、ユーザーを選択し、「削除」をクリックします。
4. 関連項目:
 - [タスク・プロパティの設定](#)
 - [タスク・パラメータの設定](#)
 - [タスクの指示の指定](#)
 - [ワークフローの選択](#)
 - [タスクの質問の追加](#)
 - [先行タスクの設定](#)
 - [タスクの属性の適用](#)
 - [タスク・ルールの操作](#)
 - [タスク履歴の表示](#)

先行タスクの設定

「先行」タブでは、現在のタスクに対して先行タスクを設定できます。テンプレート・タスクの場合は、別のテンプレートから先行タスクを選択でき、スケジュール・タスクの場合は、別のスケジュールから先行タスクを選択できます。先行/後続関係に条件を割り当てる必要があります。

開始日時が指定されているかぎり、タスクに先行タスクは不要です。両方が指定されている場合は、先行タスクが開始または完了(「終了時に開始」の場合)し、開始日時に達したときにタスクが開始します。

先行関係が確立される次の条件を設定できます:

条件	説明
終了時に開始	デフォルトです。タスクは先行タスクが完了するか警告で終了するとすぐに開始します。
エラー終了時に開始	タスクは、先行タスクがエラーの場合でも、先行タスクが完了するとすぐに開始します。
エラー終了時に終了	タスクは、先行タスクがエラーの場合でも、先行タスクが完了するとすぐに完了します。
終了時に終了	先行タスクが完了としてマークされるまでは、タスクを完了としてマークできません。これは主にユーザー・タスクに使用されます。たとえば、ユーザーはドキュメントのサマリーを開始できますが、連結データが最終になるまでは完了としてマークできません。

先行タスクを設定するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
2. 左側の「**テンプレート**」タブをクリックし、「**タスク**」タブをクリックします。

 **ノート:**

レッドウッド・エクスペリエンスを有効にしている場合は、「**タスク**」タブがページ上部ではなく下部に表示されます。

3. 「**新規タスク**」または「**タスクの編集**」ダイアログ・ボックスで、「**先行**」タブを選択します。
4. 「**追加**」をクリックします。
5. 先行タスクを検索するには:
 - a. 「**基本**」をクリックします。
 - b. 検索を絞り込むには、「**フィールドの追加**」をクリックし、検索フィールド(実行タイプ、開始日、終了日など)を選択します。
 - c. 各「**条件**」リストから条件を選択します。
 - d. 「**OK**」をクリックします。
6. 先行タスクを選択し、「**OK**」をクリックします。
7. 関連項目:
 - [タスク・プロパティの設定](#)
 - [タスク・パラメータの設定](#)
 - [タスクの指示の指定](#)
 - [ワークフローの選択](#)
 - [タスクの質問の追加](#)
 - [タスク参照者の設定](#)
 - [タスクの属性の適用](#)

- [タスク・ルールの操作](#)
- [タスク履歴の表示](#)

タスクの属性の適用

システムでタスクを見つけるために、属性をタスクに適用できます。属性を選択する際に、属性タイプに基づいて属性の値を設定できます。後で属性値によってフィルタ処理できます。

たとえば、「北部」、「南部」、「東部」および「西部」という値を持つ「販売地域」という名前の「リスト」属性を持つことができます。現在のタスクは西部販売地域にのみ適用されるため、「販売地域」属性を追加し、この属性を「西部」に設定できます。

タスク属性を適用するには:

1. タスクを開き、「**属性**」タブを選択します。

「**追加**」をクリックし、次の情報を入力します:

- **属性:** 定義された属性のリストから属性を選択します。
- **タイプ:** このフィールドは編集できません。属性に従ってデータが移入されます。
- **値:** 属性のタイプに関連付けられた値を選択します。たとえば、フォーマット済数値属性の場合は数値、リスト属性の場合はリスト、複数行のテキストの場合はスクロールせずに表示できる複数行のテキスト、個人名、ユーザー、はいいいえ属性の場合は「はい」または「いいえ」です。
- **アクセス:** 次に指定されていないかぎり、すべての役割に表示アクセス権があります。

アクセス権を追加するには、それぞれの「テキスト・ボックス」タブおよび「添付」タブで:

- a. 「**追加**」をクリックします。
- b. 役割を選択します。
- c. 役割アクセス・タイプのいずれかを選択します:
 - **表示しない:** この属性は、ダッシュボード、リスト・ビューまたはレポートのいずれにも表示されません。
 - **編集を許可:** 属性の値を追加、変更および削除する権限がありますが、編集ルールの対象です。
 - **必須:** 属性に値が必要です。

2. 「**OK**」をクリックします。

3. 関連項目:

- [タスク・プロパティの設定](#)
- [タスク・パラメータの設定](#)
- [タスクの指示の指定](#)
- [ワークフローの選択](#)
- [タスクの質問の追加](#)

- [タスク参照者の設定](#)
- [先行タスクの設定](#)
- [タスク・ルールの操作](#)
- [タスク履歴の表示](#)

タスク・ルールの操作

タスク・ルールはタスクの動作に影響します。これらのルールを使用すると、特に、ルールがタスクに対して一意になるため、テンプレート・レベル、スケジュール・レベルまたはタスク・タイプ・レベルでのルールの割当てが適切でない場合に、ルールをタスクに直接割り当てられます。これらのルールは、ルールが構成されたタスクに対して適用されます。

使用可能なタスク・ルール:

- **タスクの自動承認:** 指定された条件を満たしている場合にのみ、指定された承認を自動的に完了します。

このルールに適用される条件の例を次に示します。

- 属性に指定の値がある(計算済属性を含む)
- 先行タスクに指定の値を持つ属性が含まれる

条件を満たすと、指定の承認者レベルが完了としてマークされ、これによりワークフローが次の承認レベルに進むか、他に承認レベルがない場合は「クローズ済」になります。

このルールは、タスク・ステータスが「オープン(承認者)」に変更されたときに実行されます。

- **タスクの自動送信** - 指定された条件を満たしている場合、タスクを自動的に送信します。

条件を満たすと、担当者役割が完了としてマークされ、これによりワークフローが最初の承認レベルに進むか、承認レベルがない場合は「クローズ済」になります。

このルールは、タスク・ステータスが「保留中」からオープン(担当者)に変更されたときに実行されます。

- **タスク承認の防止:** 属性値または他の特性に基づいて、タスクが承認されないようにします。このルールは、承認者が「承認」をクリックすると実行されます。
- **タスク送信の防止:** 属性値または他の特性に基づいて、タスクが送信されないようにします。このルールは、担当者が「送信」をクリックすると実行されます。
- **更新時に電子メールを送信:** このルールは、タスクに対するユーザー・アクションに基づいて実行されます。そのため、ルールの条件を適切に設定する必要があります。最も一般的な条件は、ステータス属性またはステータス詳細属性の条件を持つことです:

- 「ステータス」属性: 選択できる唯一の有効な値は「クローズ済」です。「保留中」、「開く」および「エラー」はすべて、タスクに対する自動化されたアクションの結果として生じるステータスです。
- ステータス詳細属性: 有効なステータスは承認者です。

タスク・ルールを操作するには:

1. ホーム・ページで、「タスク」、「スケジュール・タスク」の順にクリックします。
2. 「ルール」タブを選択して「新規ルール」を開きます。次の情報を表示できます:
 - **順序:** 優先順位。

- **ルール:** ルールの名前
 - **条件:** ルールを実行する前に存在している必要がある条件の選択
3. 「**ルール**」で、使用するルール・タイプを選択します。
- **タスクの自動承認**
 - **タスクの自動送信**
 - **タスク送信の防止**
 - **タスク承認の防止**
 - **タスク却下の防止**
 - **更新時に電子メールを送信**
 - 「**フィルタの作成**」を選択して条件セクションに移入するか、「**保存済フィルタの使用**」を選択してからフィルタを選択します。ルールに対して選択および構成されたフィルタが、適用するルールをトリガーする条件を決定します。

 **ノート:**

ルール定義を変更すると、追加情報が監査ログに追加されます。変更は、「**履歴**」タブと**監査レポート**の両方に表示できます。

4. **オプション:** 「**説明**」で、ルールを構成した理由と使用方法を説明します。
5. 「**承認者レベル**」では、**すべてのレベル**のルールを選択するか、承認者レベルを選択します。
6. フィルタを選択し、適用するルールをトリガーする条件を決定します。
- **保存済フィルタの使用:** 「条件」セクションに、保存済フィルタに関連付けられた条件の読み取り専用バージョンが表示されます。
 - **フィルタの作成:** 「条件」セクションが有効になります。詳細フィルタに適用する条件(「**組合せ**」、「**ソース**」、「**属性**」、「**演算子**」および「**値**」)を選択します。
7. 「**タスクのフィルタ**」で、条件を適用する対象のタスク(「**現在のタスク**」、「**任意の先行**」、「**特定のタスク**」(タスク ID を指定))を選択します。
8. 関連項目:
- [タスク・プロパティの設定](#)
 - [タスク・パラメータの設定](#)
 - [タスクの指示の指定](#)
 - [ワークフローの選択](#)
 - [タスクの質問の追加](#)
 - [タスク参照者の設定](#)
 - [先行タスクの設定](#)
 - [タスクの属性の適用](#)
 - [タスク履歴の表示](#)

タスク履歴の表示

各タスクについて、システムでは、日付の入替えや所有権の変更など、タスクに対して行われた変更の履歴を保持します。各変更レコードには、フィールド、追加、作成、変更などの変更タイプ、古い値と新規の値、変更を行ったユーザー、および変更が行われた日付が含まれます。このタブの情報は読取り専用です。

タスク履歴を表示するには:

1. ホーム・ページで、「**タスク**」、「**スケジュール・タスク**」の順にクリックします。
2. タスクを選択します。
3. 右側の「**履歴**」タブを選択します。
4. 終了したら、「**保存して閉じる**」をクリックします。

「タスク」ダイアログ・ボックスの操作

「スケジュール・タスク」ページからタスクのリストを表示できます。使用可能なスケジュールのリストを日付またはステータスでフィルタできます。

「スケジュール・タスク」ページからタスクを表示するには:

1. ホーム・ページで、「**タスク**」、「**スケジュール・タスク**」の順にクリックします。
2. 「**スケジュール**」でスケジュールを選択するか、リストをフィルタしない場合は「**すべて**」を選択します。
3. **オプション:** スケジュール・リストを年または期間でフィルタするには、**年**または**期間**を選択します。
4. **オプション:** スケジュール・リストをステータスでフィルタするには、「**スケジュールのステータス**」からステータスを選択します。
5. タスクを選択します。
6. 右側の「**プロパティ**」タブをクリックすると、次のフィールドが表示されます。
 - **名前**
 - **タスク ID**
 - **ステータス**
 - **スケジュール**
 - **優先度**
 - **タスク・タイプ**
 - **タスク・タイプ**
 - **説明**
 - **所有者**
 - **開始日**
 - **終了日**
 - **期間**

- 実際の開始日
 - 実際の終了日
 - 実際の期間
7. 「指示」をクリックすると、指示が表示されます。
 8. 「アラート」をクリックすると、現在のアラートが表示されます。
 9. 「ワークフロー」をクリックすると、タスクの担当者が表示されます。
 10. 「属性」をクリックすると、タスクの属性が表示されます。
 11. 「質問」をクリックすると、タスクに対して投稿された質問が表示されます。
 12. 「コメント」をクリックすると、タスクに対して投稿されたコメントが表示されます。
 13. 「関連タスク」をクリックすると、関連タスクが表示されます。先行タスクまたは後続タスクを表示できます。
 14. 「パラメータ」をクリックすると、ダッシュボード、クラスタ、アプリケーションなどが表示されます。
 15. 「履歴」をクリックすると、タスクの変更の監査証跡が取得されます。「すべてのアクティビティ」、「過去 7 日間」、「今日」などの、タスクのアクティビティを表示できます。
 16. 「アクション」をクリックして、次のアクションのいずれかを選択します:
 - **タスクの送信**
 - **タスクの中止:** タスクを取り消します。タスクを(強制クローズせずに)取り消す目的は、プロセスの進行を妨げずに、後続タスクの続行を回避することです。
 - **タスクの強制クローズ**
 - **リフレッシュ**
 17. 「閉じる」をクリックします。

タスクのインポートおよびエクスポート

タスクのインポート

タスクをインポートするには:

1. ホーム・ページで、「タスク」、「スケジュール・タスク」の順にクリックします。
2. タスクを選択し、「アクション」、「タスクのインポート」の順にクリックします。
3. 「参照」をクリックしてインポート・ファイルを検索します。
4. 「インポート・タイプ」を選択します。
 - **置換:** タスクの定義を、インポート・ファイル内の定義で置き換えます。このオプションでは、タスクの詳細を、インポートするファイル内の詳細に置き換えます。インポート・ファイルに指定されていないスケジュール内の他のタスクには影響しません。

スケジュール内のタスクで、インポート・ファイル内のタスク ID に一致するものが変更されるという警告が表示されます。タスクを上書きしない場合は、「**取消し**」をクリックします。

置換対象のタスクへの添付を保持するには、「**添付の保持**」を選択します。

- **更新:** タスクの部分的な情報を更新します。たとえば、インポート・ファイルで、タスクの指示の変更、所有者、担当者および承認者の再割当て、あるいは一部の属性の削除と新しい属性の追加を行った場合が考えられます。また、同じ変更を多数のタスクに行った(400 タスクのうち 100 のタスクに新しい属性を追加するなど)場合も考えられます。更新オプションは、タスクの詳細を完全に置き換えるものではありません。ファイルに指定されているタスク・プロパティの詳細のみが更新されます。たとえば、インポート・ファイルにタスクの指示の列しかない場合、タスクの名前、担当者、属性やその他のプロパティには影響しません。
 - **削除:** タスクおよび関連情報を、ファイルに指定されたタスク ID のリストに基づいて削除します。削除の実行に必要な情報は、タスク ID の列が含まれたファイルです。
5. 「**日付フォーマット**」を選択します。
使用可能な日付フォーマットのドロップダウン・リストから、フォーマットを選択します。日付フォーマットは変換されません。デフォルトで、日付フォーマットはエクスポートされたファイルの場所のロケールの日付フォーマットに設定されます。
 6. インポート・ファイルの「**ファイル区切り文字**」を選択します。「**カンマ**」または「**タブ**」です。任意の 1 文字を「**他の区切り文字**」として指定するには、「**その他**」を選択します。
 7. 「**インポート**」をクリックします。

タスクのエクスポート

タスクをエクスポートするには:

1. ホーム・ページで、「**タスク**」、「**スケジュール・タスク**」の順にクリックします。
2. タスクを選択し、「**アクション**」、「**タスクのエクスポート**」の順に選択します。
3. 「**エクスポート**」オプションを選択します。
 - 「**すべてのタスク**」または「**選択したタスク**」を選択します
 - 「**フォーマット**」の場合、「**フォーマットされたデータ(表示列のみ)**」または「**今後のインポート用のフォーマットされていないデータ**」を選択します。

ノート:

管理者またはパワー・ユーザーである場合は、フォーマットを選択できます。ユーザー・セキュリティ権限を持っている場合、デフォルトの「**フォーマット**」オプションは「**フォーマットされたデータ(表示列のみ)**」であり、これは変更できません。

4. 「**エクスポート**」をクリックします。「**フォーマットされたデータ(表示列のみ)**」または「**今後のインポート用のフォーマットされていないデータ**」の選択に応じて、ファイルが Excel 形式または CSV 形式でダウンロードされます。
5. 「**閉じる**」をクリックします。

タスクの編集

ステータスとセキュリティ権限に応じてタスクを編集できます。たとえば、タスクの説明、属性または終了日を編集できます。

タスク・リストの「オープン」タスクについては、タスクが開始しているため、開始日を編集できません。期間または終了日のみ変更できます。指示、質問、担当者または承認者は編集できず、先行タスクの追加、削除または編集もできません。担当者または承認者は、「タスク・アクション」ワークフローから再割当てできます。

タスクを編集するには:

1. ホーム・ページで、「**タスク**」をクリックし、編集するタスクを強調表示します。「**編集**」アイコンが有効になります。
2. 「**編集**」アイコンをクリックします。
3. タスク属性を編集するには:
「**属性**」タブをクリックします。

属性を追加するには、「**追加**」アイコンをクリックして「**属性の割当の追加**」ダイアログ・ボックスを表示し、次の選択を行います:

- **属性:** 定義された属性のリストから属性を選択します。
 - **タイプ:** このフィールドは編集不可であり、属性に従ってデータが移入されます。
 - **値:** 属性のタイプに関連付けられた値を選択します。たとえば、フォーマット済数値属性の場合は数値、リスト属性の場合はリスト、複数行のテキストの場合はスクロールせずに表示できる複数行のテキスト、個人名、ユーザー、はいいいえ属性の場合は「はい」または「いいえ」です。
 - **アクセス:** 属性へのアクセス権を選択します。
4. 「**OK**」をクリックします。

添付の追加

タスクに含める必要のある添付(Word ファイル、Excel スプレッドシートやその他のドキュメント)がある場合、次のいずれかの方法を使用してドキュメントをタスクに添付できます。複数のアイテムを同時に添付できます。「OK」をクリックすると、添付したすべてのドキュメントがシステムによってアップロードされます。

タスクに添付を追加するには:

1. ホーム・ページで、「**タスク**」、「**スケジュール・タスク**」の順にクリックします。
2. タスクを選択します。
3. 「**コメント**」タブを選択します。
4. 「**添付ドキュメント**」アイコンをクリックし、「**添付の追加**」ダイアログ・ボックスを開きます。
5. 次のいずれかのオプションを使用してドキュメントを添付します。
 - ドキュメントの場所を参照します。

- ドキュメントをローカル・ディレクトリから直接ドラッグ・アンド・ドロップします。
6. **オプション:** ドキュメントの名前を変更します。
 7. 「OK」をクリックします。

タスクのソート

「タスク・リスト」から、タスクを昇順または降順にソートできます。「スケジュール名」、「ステータス」、「所有者」、「開始日」、「終了日」または「期間」でソートできます。

タスクをソートするには:

1. ホーム・ページで、「**タスク**」、「**スケジュール・タスク**」の順にクリックします。
2. 「ソート」アイコンが表示されるまで列ヘッダーにマウス・カーソルを合せ、「**昇順ソート**」または「**降順ソート**」をクリックします。

タスクの検索

「タスク検索」機能を使用して、特定のタスクを検索できます。たとえば、「ロード」と入力してロード・タスクを検索できます。単語全体またはその一部を使用して検索できます。「前」ボタンと「次」ボタンを使用して結果をスクロールできます。

タスクを検索するには:

1. ホーム・ページで、「**タスク**」、「**スケジュール・タスク**」の順にクリックします。
2. 「**検索**」フィールドにタスク名を入力します。
3. 「**前**」または「**次**」をクリックして、検索条件に一致する前または次のタスクを検索します。

タスクの移動

ビューを使用して、タスクを移動できます。たとえば、ガント・ビューでタスクを移動できます。

タスクを移動するには:

1. ホーム・ページで、「**タスク**」、「**スケジュール・タスク**」の順にクリックします。
2. タスクを選択します。
3. タスクを右クリックし、新しい場所にドラッグするか、タスクを切り取り、コピーおよび貼付けします。
4. タスクの移動先に移動し、「OK」をクリックします。

タスクの切り取り、コピー、貼付け

ビューを使用して、テンプレートおよびスケジュール内のタスクの切り取りとコピーができます。たとえば、あるスケジュールまたはテンプレートからタスクをコピーし、それを別のテンプレートまたはスケジュールに貼り付けられます。

タスクを貼り付けると、「タスクの詳細」ダイアログ・ボックスが開き、貼り付けているタスクに変更を加えることができます。

タスクを親タスクに貼り付けた場合、貼り付けられたタスクは親タスクの子になります。タスクを子タスクに貼り付けると、貼り付けたタスクは子タスクの兄弟になります。

ノート:

「切り取り」、「コピー」および「貼付け」機能は、親タスクには使用できません。「切り取り」機能は、スケジュールされた(オープンまたはクローズ済)タスクには使用できません。

タスクを切り取り、コピーまたは貼付けするには:

1. ホーム・ページで、「**タスク**」をクリックし、タスクを選択します。
2. タスクを右クリックし、アクションを選択するか、メイン・ツールバーで「**アクション**」をクリックし、次の操作を選択します:
 - **切り取り**: タスクを切り取ってクリップ・ボードに入れます。
 - **コピー**: タスクをコピーしてクリップ・ボードに入れます。
3. タスクを右クリックし、「**貼付け**」を選択するか、メイン・メニューのツールバーで「**アクション**」をクリックし、「**貼付け**」を選択します。
「**タスクの詳細**」ダイアログ・ボックスが開き、貼り付けているタスクに変更を追加できます。
4. 「**OK**」をクリックして貼付け操作を完了します。

タスクが挿入され、ビューおよびフィルタ・ビューがリフレッシュされて、貼り付けられたタスクが表示されます。

手動タスクおよび自動タスクの再開

タスクを再オープンし、先行と後続の関係を再確立することを選択できます。このことは、手動のエンド・ユーザー・タスクと自動タスクの両方で可能です。自動タスクを再オープンすると、タスクは同じパラメータで実行されます。自動タスクのパラメータを変更する必要がある場合は、クローズ済自動タスクを編集して「**タスクの再オープン**」を選択します。

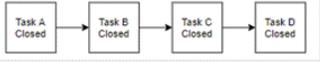
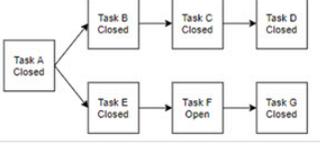
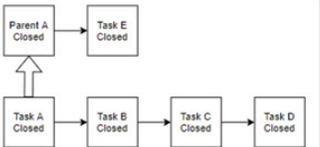
手動タスクの再オープン

タスクを再度開くには:

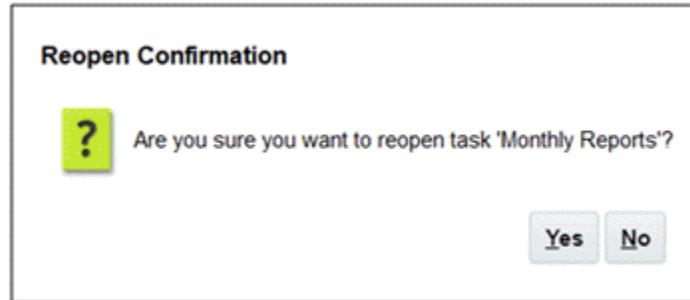
1. ホーム・ページで、「**タスク**」, 「**スケジュール・タスク**」の順にクリックします。
2. クローズ済タスクを選択し、「**オープン**」をクリックするか、タスク名をクリックします。
3. 「**アクション**」ダイアログで、「**アクション**」メニューから「**タスクの再オープン**」を選択します。

タスクが再オープンされたときにどの後続を自動的に再オープンして先行リンクを復元するかを選択できます。次の後続タスクのリストから、すべて、なし(デフォルト)または再オープンするサブセットを選択できます。

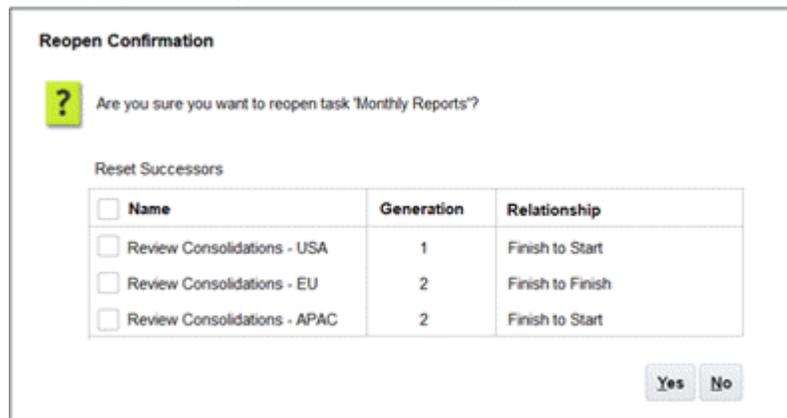
表 38-1 後続タイプ - ユース・ケース例

後続タイプ	説明	ユース・ケース例
直接の後続	最も単純なケースは後続が一続きになるもので、最も一般的なケースと考えられます。再オープンされるタスクの後続のうち、クローズ済またはエラー(可能性は低い)の各タスクが、再オープンに適格になります	 <p>タスク A が再オープンされると、タスク B、タスク C およびタスク D が再オープンできるようになります。</p>
混在ステータスの後続	オープンまたは保留中のタスクがあった場合、そのタスクと後続のタスクは再オープンに適格になりません。	 <p>タスク A が再オープンされると、タスク B のみが再オープンできるようになります。</p>
複数の後続	タスクには複数の後続がある場合があります。それぞれの分岐をたどって適格なタスクが決定されます。これがツリーの末端まで続きます。	 <p>タスク A が再オープンされると、タスク B、タスク C、タスク D およびタスク E が再オープンできるようになります。</p>
親タスク	親タスクがクローズされている場合は、子のタスクが再オープンされる前に自動的に再オープンされます。このケースでは、親のすべての後続タスクが再オープンに適格になります。	 <p>タスク A が再オープンされると、タスク B、タスク C、タスク D およびタスク E が再オープンできるようになります。親 A は自動的に再オープンされません。</p>

- 適格な後続タスクがない場合、「**タスクの再オープン**」ダイアログに、指定のタスクを再オープンするように求める確認メッセージが表示されます。



- ダイアログを閉じてタスクを再オープンするには、「はい」をクリックします。
- タスクを再オープンしないでダイアログを閉じるには、「いいえ」をクリックします。
- 再オープンされるタスクに対して適格な後続がある場合は、「**タスクの再オープン**」ダイアログに、確認メッセージとチェック・ボックスが付いた後続のリストが表示され、再オープンするものを選択できます。



- 「名前」チェック・ボックス: 「名前」チェック・ボックスを選択すると、後続のすべての選択とすべての選択解除が切り替わります。デフォルトでは、これは選択が解除されていて、すべてのタスクの選択が解除されています。
 - 後続名: 後続タスクの横にあるチェック・ボックスを選択すると、タスクが再オープンするときにリセットされます。
 - 世代: 再度開かれるタスクからの距離を示す読取り専用フィールド。親タスクは、この計算ではカウントされません。
 - 関係: 再度開かれるタスクとの関係を表示する読取り専用フィールド。
 - ダイアログを閉じてタスクを再オープンするには、「はい」をクリックします。
 - タスクを再オープンしないでダイアログを閉じるには、「いいえ」をクリックします
4. 先行タスクを追加または削除し、「**保存して閉じる**」をクリックします。
関係を指定します:
- 先行タスクを指定します。次のいずれかを選択します:
 - 先行がある場合は、このオプションを選択できます: 先行の関係を再確立 - タスクが元の順序で開きます。

- 先行の関係を無視 - すべてのタスクがすぐに再度開きます。
- 後続タスクを指定します:
 - a. 「**後続のタスクを再度開く**」を選択します。後続のリストが表示されます。
 - b. 後続タスクを選択します。
- 5. 「**OK**」をクリックして閉じます。タスクの詳細ダイアログ・ボックスが閉じて、選択内容に基づいてタスクが再び開きます。「**OK**」をクリックするか、それ以外の場合は「**取消し**」をクリックします。

自動タスクの再オープン

自動タスクを再オープンして自動化のパラメータを変更するには:

1. ホーム・ページで、「**タスク**」、**「スケジュール・タスク**」の順にクリックします。
2. クローズ済自動タスクを選択して、「**編集**」アイコンをクリックします。
3. 「**タスクの詳細**」ダイアログで、「**再オープン**」をクリックします。これで、タスクが編集可能になりました。
4. パラメータのタブをクリックして、必要に応じてパラメータを更新します。
5. 「**保存**」と「**閉じる**」をクリックします。
自動タスクを再オープンする確認メッセージがサービスによって表示されます。
 - ダイアログを閉じてタスクを再オープンするには、「**はい**」をクリックします。
 - タスクを再オープンしないでダイアログを閉じるには、「**いいえ**」をクリックします。

再オープンされるタスクに対して適格な後続がある場合は、「**タスクの再オープン**」ダイアログに、確認メッセージとチェック・ボックスが付いた後続のリストが表示され、再オープンするものを選択できます。前の項の**手動タスクの再オープン**を参照してください。

タスクの送信

タスクを送信するには:

1. ホーム・ページで、「**タスク**」、「**スケジュール・タスク**」の順にクリックします。
2. 送信する必要があるタスクを選択します。
複数選択する場合、1つ1つ選択するには**[Ctrl]**を押し、ある範囲を選択するには、**[Shift]**を押しながら、その範囲の最初と最後をクリックします。
3. 「**タスクの送信**」を選択します。これでタスクが完了することを示す警告が表示されます。続行するには、「**はい**」をクリックします。
4. エラーを確認し、「**OK**」をクリックします

タスクの承認または却下

タスクを承認または却下するには:

1. ホーム・ページで、「**タスク**」、「**スケジュール・タスク**」の順にクリックします。
2. 送信する必要があるタスクを選択します。
複数選択する場合、1つ1つ選択するには**[Ctrl]**を押し、ある範囲を選択するには、**[Shift]**を押しながら、その範囲の最初と最後をクリックします。

3. 選択したタスクを強調表示し、「アクション」で「ステータスの設定」を選択してから、「承認」または「却下」を選択します。
4. エラーを確認し、「OK」をクリックします

タスクの請求またはリリース

タスク・マネージャでは、単一タスクまたは複数のタスクを一度に請求およびリリースできます。グループまたはチームの割当によってタスクに関連付けられているユーザーは、タスクを請求またはリリースできます。

タスクが請求された後でも、チームの他のメンバーはそのタスクを請求できますが、これを行うと、最初のユーザーの請求が終了するため、そのユーザーが役割機能を実行する権限は取り消され、最新の請求を行ったユーザーに権限が付与されます。

このようにタスクの請求を別のユーザーから行えることは、請求が行われたが、その請求を行ったユーザーが(欠席などのために)役割機能を完了できない場合に対応するために必要です。

タスクが請求されると、担当者はチームまたはグループから請求者になります。

タスクがリリースされると、担当者はリリースした人からチームまたはグループになります。

チーム・メンバーがタスクを請求する前は、チーム全体に電子メール通知が送信されます。チーム・メンバーがタスクを請求すると、チーム・メンバー全員ではなく、そのアクティブなユーザーに電子メールが送信されます。

Note:

バルク更新機能が有効になっている場合は、複数のタスクを一度に請求またはリリースできます。

タスクのアクション・メニューを使用したタスクの請求またはリリース

タスクの「アクション」メニューからタスクを請求またはリリースするには:

1. ホーム・ページで、「タスク」、「スケジュール・タスク」の順にクリックします。
2. 請求またはリリースするタスクをクリックするか、タスクを選択して「開く」アイコンをクリックします。
3. 「アクション」メニューで、「請求」または「リリース」をクリックします。確認を求めるポップアップ・メッセージが表示されます。
4. 「はい」をクリックします。タスクが正常に請求またはリリースされたことを示す確認メッセージが表示されます。
5. 「閉じる」をクリックして、ダイアログ・ボックスを閉じます。
6. エラーを確認して修正し、同じステップを再度実行して、タスクを請求またはリリースします。

タスク・リストからのタスクの請求またはリリース

タスク・リストからタスクを請求またはリリースするには:

1. ホーム・ページで、「**タスク**」、「**スケジュール・タスク**」の順にクリックします。
2. 請求またはリリースするタスクを選択します。
複数選択する場合、1つ1つ選択するには[Ctrl]を押し、ある範囲を選択するには、[Shift]を押しながら、その範囲の最初と最後をクリックします。選択したタスクが強調表示されます。
3. 「**アクション**」で「**更新**」をクリックし、「**請求**」または「**リリース**」をクリックします。
確認を求めるポップアップ・メッセージが表示されます。
4. 「**はい**」をクリックします。
「**タスク・アクションの結果**」ダイアログ・ボックスに、ステータス、選択したタスクの数、考慮したタスク、正常に処理されたタスクおよび失敗したタスクに関する情報が表示されます。ステータスは次のとおりです：
 - 処理中
 - 正常に完了
 - エラーで完了視覚的なインジケータに完了率が表示されます。正常に処理されなかったタスクについては、ダイアログ・ボックスにエラーが表示されます。「**Excel にエクスポート**」アイコンをクリックし、表示されたエラーを Excel ファイルにエクスポートできます。
5. 「**閉じる**」をクリックして、ダイアログ・ボックスを閉じます。
6. エラーを確認して修正し、同じステップを再度実行して、タスクを請求またはリリースします。

タスクの再割当ての管理

複数のタスクを同時に作業するには、「**アクション**」パネルを使用します。

ワークフロー・ユーザー(担当者および承認者)は、「**タスク・アクション**」ダイアログ・ボックスから、単一タスクに対するワークフローの役割の再割当てを要求できます。これらの要求には承認が必要です。管理者およびスケジュール/テンプレートの所有者は、承認を必要とすることなく、「**タスクの編集**」ダイアログ・ボックスを使用して、タスクを再割当てできます。

タスクが再割当てされると、再割当てされたユーザーに電子メールの通知がすぐに送信されます。

再割当てを要求するには:

1. ホーム・ページで、「**タスク**」、「**スケジュール・タスク**」の順にクリックします。
2. タスクをクリックすると、**タスク・プロパティ**が開きます。
3. 「**アクション**」メニューをクリックして、「**再割当ての要求**」を選択します。
4. 入力するか「**検索**」をクリックして、再割当てを探します。
5. 「**再割当て要求の作成**」で、「**ユーザーの選択**」ボタンをクリックして「**対象ユーザー**」を選択します。
6. 「**再割当て**」で、再割当て対象のタスクを選択します：
 - **選択したタスク**
 - **選択したタスクおよび将来のタスク**

7. 再割当てについて「理由」を入力します。
8. 「OK」、「閉じる」の順にクリックします。

タスクの取消し

タスクを(強制クローズせずに)取消しまたは中止する目的は、プロセスの進行を妨げずに、後続タスクの続行を回避することです。

- 「終了時に開始」または「エラー終了時に開始」の先行タスクが取り消された場合、その後続タスクは保留中のままです。プロセスの進行を続けるには、後続タスクを編集して、取り消された先行タスクを削除し、後続タスクを開始する必要があります。
- 「終了時に終了」または「エラー終了時に終了」の先行タスクを取り消した場合、プロセスの進行を続けるには、タスク所有者、スケジュール所有者または管理者が後続タスクを強制的にクローズする必要があります。

タスクの削除

不要になったタスクは削除できます。タスク削除するには、サービス管理者またはパワー・ユーザーのセキュリティ権限が必要です。

スケジュールでは、ステータスが「保留中」のタスクのみを削除できます。ステータスが「オープン」または「クローズ済」のタスクは削除できません。親タスクを削除する場合、親のみを削除するのか、親と子を削除するのかを選択できます。

タスクのアクション・メニューを使用して、スケジュール・タスクを削除できます。(タスクがオープンまたは完了している場合、「削除」は表示されません。)

タスクを削除するには:

1. ホーム・ページで、「タスク」、「スケジュール・タスク」の順にクリックします。
2. 「アクション」をクリックして「削除」を選択します。
3. 確認のプロンプトで「はい」をクリックします。

サービスの管理

「サービス」(ホームページ > 「アプリケーション」 > 「サービス」)オプションを使用して、特定のサービス関連タスクのステータスを表示できます。緑色は実行中であることを示します。「サービス」から実行するアクションは、「今すぐ実行」または「再起動」です。

Note:

「今すぐ実行」を使用すると、オープン・タスクの実行などのアクションをすぐに実行できます。「再起動」は、サービスがシャットダウンし、このオプションが緑色になっていない場合にのみ使用する必要があります。再起動では、サービス自体を実行しないで、サービスがリセットされます。

- **補足データ・フォームの処理:** アクションと遅延の両方の電子メール送信に使用されます。アクション電子メールは、現在のワークフロー担当ユーザーの期限日が過ぎていないときに 1 回のみ送信され、遅延電子メールは、現在の担当ユーザーがタスクを実行するまで毎日午前 5 時 20 分に送信されます。ワークフローの後続ユーザーにも、現在フォームを担当してなくても期限日が過ぎた場合は、通知が送信されます。

 **Note:**

- ワークフロー・ユーザーがチームまたはグループであり、いずれのユーザーからも請求されていない場合は、チームまたはグループのすべてのユーザーに電子メールが送信されます。また、このオプションでは、(請求された後でも)電子メールがそのグループまたはチームのすべてのユーザーに送信されます。
- このオプションは、開始日がデータ収集の特定の日付に該当するフォームもトリガーします。

サービス管理者は、このサービスをサービス・カードから手動で実行することもできます。

- **システム・メンテナンス:** ユーザー同期プロセスやデータベースのクリーン・アップなどのように、タスク・マネージャがタスク内で定期的に行うアクションのことであり、日次メンテナンスと呼ばれるクラウド・レベルで行われるアクションとは異なります。「ツール」、「日次メンテナンス」の順にクリックしてアクセスする日次メンテナンスには、テストまたは本番環境のクラウドで行われる運用メンテナンスやバックアップ・スナップショットなどのアクションが含まれます。
- **タスクの電子メール通知:** 作業が割り当てられたことをユーザーに通知するために使用されます。サービス管理者は、「サービス」のオプションを使用して「再起動」または「今すぐ実行」できます。

 **Note:**

- 「アプリケーション」 → 「構成」 → 「設定」 → 「システム・メンテナンス・プロセス」には、サービス管理者が電子メール通知をオフにするために使用できる別のオプションがあります。
- 電子メール通知には、電子メールの発信元がわかるように、サービスおよびテナント情報がフッターに含まれています。

- **[スケジュール名]モニター:** オープン状態で将来のタスクがある各スケジュールで使用できます。このオプションは、スケジュール内のタスクを開く必要があるかどうかを確認します。
- **タスク・ステータスの更新:** プロセスの自動化されたタスクを実行およびモニターするバックグラウンド・サービス。

スケジュールの管理

スケジュールは、特定のビジネス・プロセスに対して実行する必要があるタスクの時間順のセットを定義するもので、カレンダーにテンプレートを適用したものです。たとえば、四半期テンプレートを第1四半期の Q1FY19 として適用し、そのテンプレートを第2四半期の Q2FY19 として再び適用できます。

作成、インポートまたはデプロイできるスケジュールの最大数は 100,000 です。

スケジュールのステータスは、「保留中」、「オープン」、「クローズ済」または「ロック済」です。スケジュールのステータスを「保留中」から「オープン」に、または「オープン」から「クローズ済」や「ロック済」に変更できます。

ノート:

- スケジュールを「オープン」に設定すると、「保留中」にリセットできません。
- スケジュールを「ロック済」に設定した後、そのステータスは変更できません。
- スケジュールの所有者および参照者は、スケジュールが削除されると電子メールで通知されます。
- 担当者または承認者が再割当てを要求すると、即時再割当て要求通知が管理者およびスケジュール所有者に送信されます。

スケジュールの手動作成

スケジュールを作成するには、管理者またはパワー・ユーザーであることが必要です。パワー・ユーザーは、テンプレートで「スケジュールの作成」を実行するか、「スケジュールの管理」から「新規」を選択できます。「スケジュールの管理」ページからスケジュールを手動で定義するか、テンプレートからスケジュールを作成できます。テンプレートからスケジュールを作成すると、すべての値がテンプレート定義から継承されます。

スケジュールの作成についてさらに学習するには次のビデオを参照してください。



スケジュールの作成

スケジュールを手動で作成するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックします。
2. 「**タスク・マネージャ**」をクリックします。
3. 左側の「**スケジュール**」タブをクリックします。
4. 「**新規**」をクリックします。
5. スケジュール・タブでスケジュール情報を入力します。

- [スケジュール・プロパティの設定](#)
- [スケジュールへの指示の追加](#)
- [スケジュール参照者の割当て](#)
- [スケジュール属性の適用](#)
- [日ラベルの追加](#)
- [スケジュール・ルールの操作](#)
- [スケジュール履歴の表示](#)

スケジュール・プロパティの設定

「プロパティ」タブでは、スケジュールの名前、説明、開始日および終了日、所有者を設定できます。スケジュール所有者は、管理者またはパワー・ユーザーである必要があります。デフォルトの所有者は現在のユーザーです。開始日と終了日により、スケジュールの初期日付範囲を指定しますが、スケジュールの作成後、それより前または後の日付でタスクを追加でき、最も早い日付と遅い日付を反映するために、プロパティが更新されます。

スケジュール・プロパティを設定するには:

1. 新しいスケジュールを作成し、「**プロパティ**」タブを選択します。
 - **名前:** 最大 80 文字まで入力できます。
 - **説明:** 最大 255 文字まで入力できます。
 - **組織単位**
 - **開始日:** スケジュールの開始日
 - **終了日:** スケジュールの終了日
 - **年**
 - **期間**
 - **日ゼロの日付:** 日ゼロとして割り当てる日付
 - **所有者:** デフォルトの所有者を使用するか、「**所有者の選択**」をクリックします。
 - **ステータス**
-  **ノート:**

「**ステータス**」フィールドは、新しいスケジュールを保存するまで表示されません。スケジュールのステータスは、「保留中」に初期設定され、表示専用です。
2. 保存して閉じるには、「**OK**」をクリックするか、別のタブをクリックします。すべてのエントリが保存されます。
 3. スケジュール・タブでスケジュール情報を入力します。

- [スケジュールへの指示の追加](#)
- [スケジュール参照者の割当て](#)
- [スケジュール属性の適用](#)
- [日ラベルの追加](#)
- [スケジュール・ルールとの操作](#)
- [スケジュール履歴の表示](#)

スケジュールへの指示の追加

スケジュールの指示とサポート・ドキュメントを指定できます。これらは、スケジュール内のすべてのタスクによって継承されます。

スケジュールに指示を追加するには:

1. 新しいスケジュールを作成し、「**指示**」タブを選択します。
2. 「**指示**」に、スケジュールの指示を入力します。
3. 参照を追加するには:
 - a. 「**参照**」セクションで、「**追加**」をクリックします。
 - b. 「**参照タイプ**」リストから、次のいずれかのタイプを選択します。
 - **ローカル・ファイル:**
「**ファイルの選択**」をクリックし、ファイルを選択して添付し、**名前**を入力して「**OK**」をクリックします。
 - **URL:**
URL を入力してから URL の**名前**を入力し(http://www.oracle.com、Oracle など)、「**OK**」をクリックします。

複数のスケジュールに参照ファイルまたは URL を一度に追加するには:

- i. 「**スケジュール**」メイン・ページに移動します。
- ii. 複数選択(複数の行を強調表示するか、[Shift]キーを使用して複数の行を選択)して、「**アクション**」、「**参照の追加**」、「**ローカル・ファイル**」または「**URL**」の順にクリックします。

また、「**添付の追加**」ダイアログ・ボックスに用意されているドラッグ・アンド・ドロップ機能を使用して、1つ以上の添付を追加することもできます。必要に応じて「**名前**」フィールドで添付の名前を変更できます。複数の添付をドラッグ・アンド・ドロップすると、これらを一度にアップロードできます。

添付を正確にドラッグ・アンド・ドロップするには、「**添付の追加**」ダイアログ・ボックスにアクセスする必要があります。

4. 保存して閉じるには、「**OK**」をクリックするか、「**参照者**」タブをクリックします。すべてのエントリが保存されます。
5. スケジュール・タブでスケジュール情報を入力します。
 - [スケジュール・プロパティの設定](#)
 - [スケジュール参照者の割当て](#)
 - [スケジュール属性の適用](#)

- [日ラベルの追加](#)
- [スケジュール・ルールの操作](#)
- [スケジュール履歴の表示](#)

スケジュール参照者の割当て

「参照者」タブでは、スケジュールの参照者権限を割り当てることができます。スケジュールには複数の参照者がいる場合がありますが、参照者には製品のセキュリティ役割が必要です。参照者は、スケジュールのすべてのタスクに対する読取り専用アクセス権を付与されます。

ノート:

タスクの「参照者」の役割を持つユーザーのみが質問に回答できます。

参照者権限を割り当てるには:

1. 新しいスケジュールを作成し、「参照者」タブを選択します。
2. 「追加」をクリックします。
3. ユーザー、グループまたはチームで検索するには、「ユーザーの検索」ボタンをクリックし、「ユーザー」、「グループ」または「チーム」を選択します。
4. ユーザー名または名前の一部を入力し、「検索」をクリックします。
5. ユーザーを識別するには、「詳細」をクリックし、ユーザー ID、電子メールまたは説明を入力します。
6. 「検索結果」リストで、ユーザーを選択します。
7. チーム、グループ、役割、割当てなど、ユーザーに関する詳細は、「詳細」をクリックします。
8. 「追加」または「すべて追加」をクリックして、ユーザーを「選択済」リストに移動します。

ヒント:

ユーザーを削除するには、ユーザーを選択し、「削除」または「すべて削除」をクリックします。

9. 保存して閉じるには、「OK」をクリックするか、「属性」タブをクリックします。すべてのエントリが保存されます。
10. スケジュール・タブでスケジュール情報を入力します。
 - [スケジュール・プロパティの設定](#)
 - [スケジュールへの指示の追加](#)
 - [スケジュール属性の適用](#)
 - [日ラベルの追加](#)

- [スケジュール・ルールの操作](#)
- [スケジュール履歴の表示](#)

スケジュール属性の適用

システムでスケジュールを見つけるために、属性をスケジュールに適用できます。属性を選択する際に、属性タイプに基づいて属性の値を設定できます。後で属性値によってフィルタ処理できます。

たとえば、「北部」、「南部」、「東部」および「西部」という値を持つ「販売地域」という名前の「リスト」属性を持つことができます。現在のスケジュールは西部販売地域にのみ適用されるため、「販売地域」属性を追加し、この属性を「西部」に設定できます。

属性を適用するには:

1. 新しいスケジュールを作成し、「**属性**」タブを選択します。
2. 「**追加**」をクリックします。
3. 「**属性**」リストから、属性を選択します。
4. 「**値**」では、属性に応じて、ドロップダウン・リストから属性の値を選択するか、値を入力します。
5. 保存して閉じるには、「**OK**」をクリックするか、「**日ラベル**」タブをクリックします。すべてのエントリが保存されます。
6. 「スケジュール」タブでスケジュール情報を入力します。
 - [スケジュール・プロパティの設定](#)
 - [スケジュールへの指示の追加](#)
 - [スケジュール参照者の割当て](#)
 - [日ラベルの追加](#)
 - [スケジュール・ルールの操作](#)
 - [スケジュール履歴の表示](#)

日ラベルの追加

カレンダー日のビジネス・アクティビティには、営業日ラベルを使用します。ラベルを使用してマイルストーンとなる日をマークしたり、その日の目的を指定したりできます。

スケジュールに日ラベルを追加するには:

1. 新しいスケジュールを作成し、「**日ラベル**」タブを選択します。最大 20 文字まで入力できます。
2. 特定の日付に日ラベルを追加します。
3. 保存して閉じるには、「**OK**」をクリックするか、「**ルール**」タブをクリックします。すべてのエントリが保存されます。
4. スケジュール・タブでスケジュール情報を入力します。
 - [スケジュール・プロパティの設定](#)
 - [スケジュールへの指示の追加](#)

- [スケジュール参照者の割当て](#)
- [スケジュール属性の適用](#)
- [スケジュール・ルールの操作](#)
- [スケジュール履歴の表示](#)

スケジュール・ルールの操作

スケジュール・ルールはスケジュール内のすべてのタスクに適用されるため、タスクのグループにルールが適用されます。「**スケジュール**」ダイアログ・ボックスで構成されたルールは、新規スケジュール・タスクにコピーされます。

使用可能なスケジュール・ルール:

- **タスクの自動承認:** 指定された条件を満たしている場合にのみ、指定された承認を自動的に完了します。

このルールに適用される条件の例: 属性に指定の値がある場合(計算済属性を含む)。

条件を満たすと、指定の承認者レベルが完了としてマークされ、ワークフローが次の承認レベルに進むか、他に承認レベルがない場合はクローズします。

- **タスクの自動送信:** 指定された条件を満たしている場合、タスクを自動的に送信します。

条件を満たすと、担当者役割が完了としてマークされ、ワークフローが最初の承認レベルに進むか、承認レベルがない場合はクローズします。

- **タスク承認の防止:** 属性値または他の特性に基づいて、タスクが承認されないようにします。
- **タスク送信の防止:** 属性値または他の特性に基づいて、タスクが送信されないようにします。

スケジュール・ルールを表示するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
2. 左側の「**スケジュール**」タブをクリックします。
3. スケジュールをダブルクリックします。
4. 「**ルール**」タブを選択します。次の情報を表示できます:
 - **順序:** 優先順位
 - **ルール:** ルールの名前
 - **条件:** ルールを実行する前に存在している必要がある条件の選択
5. ルールを編集するには、「**ルール**」タブで「**編集**」をクリックして更新します:
 - **ルール:** ルールを選択します。
 - **説明: オプション。** ルールを構成した理由と使用方法を説明します。最大 255 文字まで入力できます。
 - **承認者レベル:** すべてのレベルのルールを選択するか、承認者レベルを選択します。

- 「**フィルタの作成**」を選択して条件セクションに移入するか、「**保存済フィルタの使用**」を選択してからフィルタを選択します。ルールに対して選択および構成されたフィルタが、適用するルールをトリガーする条件を決定します。
- **条件:**
 - **保存済フィルタの使用:** 「**条件**」セクションに、保存済フィルタに関連付けられた条件の読取り専用バージョンが表示されます。
 - **フィルタの作成:** 「**条件**」セクションが有効になります。
「**組合せ**」、「**ソース**」、「**属性**」、「**演算子**」および「**値**」は、既存の高度なフィルタ機能の場合と同様に動作します。
- 「**タスクのフィルタ**」に、条件を選択するタスクを指定します:
 - **現在のタスク**
 - **任意の先行**
 - **特定のタスク(タスク ID の指定)**

 **ノート:**

ルール定義を変更すると、追加情報が監査ログに追加されます。変更は、「**履歴**」タブと**監査レポート**の両方に表示できます。

6. スケジュール・タブでスケジュール情報を入力します。
 - [スケジュール・プロパティの設定](#)
 - [スケジュールへの指示の追加](#)
 - [スケジュール参照者の割当て](#)
 - [スケジュール属性の適用](#)
 - [日ラベルの追加](#)
 - [スケジュール履歴の表示](#)

必要なタスク・パラメータの設定

必須パラメータに値が入力されるまで、タスクは保留中の状態になります。指定された開始日までに入力されない場合は、電子メール通知がタスク所有者に送信されます。さらに、そのタスクはビューの「**要注意**」の下に表示されます。必須パラメータに値が入力されると、タスクが開始されます。

スケジュールを開く

タスクの追加、編集または作業を行うためにスケジュールを開きます。

スケジュールを開くには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
2. 左側の「**スケジュール**」タブをクリックします。
3. 次のいずれかの方法を使用します:

- リストでスケジュールの右側にある「アクション」を選択し、「表示」を選択します。
- スケジュールを強調表示し、「表示」アイコンをクリックします。
- 強調表示されたスケジュールを右クリックし、「表示」を選択します。

スケジュールの編集

スケジュールを編集して、名前、スケジュール、開始日および終了日などのプロパティを変更できます。開始日をスケジュール内の最初のタスクより後の日付に変更したり、終了日をスケジュール内の最後のタスクの前の日付に変更したりすることはできません。「オープン」または「保留中」のスケジュールを編集して、保留中のタスクを変更できます。「クローズ済」または「ロック済」のスケジュール内のタスクは追加、変更または削除できません。スケジュールを編集するには、スケジュールの所有者が管理者である必要があります。

スケジュールを編集するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「スケジュール」タブをクリックします。
3. スケジュールを選択し、「編集」をクリックします。
4. スケジュールを編集します。
5. 「OK」をクリックします。

スケジュールへのタスクの追加

スケジュールが「保留中」または「オープン」の場合は、そのスケジュールにタスクを追加できます。「クローズ済」または「ロック済」のスケジュールにタスクを追加することはできません。

ノート:

タスク・マネージャのスケジュールに追加できるタスクの最大数は 500,000 です。

タスクをスケジュールに追加するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「スケジュール」タブをクリックします。
3. スケジュールを開きます。
4. タスクを追加します。

スケジュールへのタスクのインポート

テキスト・ファイルからタスクや部分的なタスク・データを、ステータスが「保留中」または「オープン」のスケジュールにインポートできます。たとえば、Microsoft Excel スプレッドシートにタスクの定義が含まれている場合、ファイルを CSV ファイルとして保存してから、スケジュールにインポートできます。新しいタスクを個別に作成するかわりに、「インポート」機能を使用して、CSV ファイルのフィールドを編集し、そのファイルをインポートすることにより、多くの反復タスクをすばやく追加できます。

「クローズ済」または「ロック済」ステータスのスケジュールにはタスクをインポートできません。

ノート:

決算後のタスクに対して「更新」オプションを使用してスケジュールにファイルをインポートする前に、インポート・ファイルから「所有者」、「担当者」、「承認者」および開始日時の各フィールドを削除します。削除しないとエラーが発生します。

実行を開始したエンド・ユーザー・タスクに関する情報をインポートすると、ステータスがオープン(担当者)にリセットされ、質問に対する回答がクリアされます。

タスクをスケジュールにインポートするには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**タスク・マネージャ**」をクリックします。
2. 左側の「**スケジュール**」タブをクリックします。
3. 「**タスクのインポート**」をクリックします。
4. インポートするファイルの名前を入力するか、「**ファイルの選択**」をクリックしてファイルを検索します。
5. インポート・オプションを選択します:
 - **置換**: タスクの定義を、インポート・ファイル内の定義で置き換えます。このオプションでは、タスクの詳細を、インポートするファイル内の詳細に置き換えます。インポート・ファイルに指定されていないスケジュール内の他のタスクには影響しません。

ノート:

置換対象のタスクへの添付を保持するには、「**添付の保持**」を選択します。

- **更新**: タスクの部分的な情報を更新します。たとえば、インポート・ファイルで、タスクの指示の変更、所有者、担当者および承認者の再割当て、あるいは一部の属性の削除と新しい属性の追加を行った場合が考えられます。また、同じ変更を多数のタスクに行った(400 タスクのうち 100 のタスクに新しい属性を追加するなど)場合も考えられます。更新オプションは、タスクの詳細を完全に置き換えるものではありません。ファイルに指定されているタスク・プロパティの詳細のみが更新されます。たと

例えば、インポート・ファイルにタスクの指示の列しかない場合、タスクの名前、担当者、属性やその他のプロパティには影響しません。

ノート:

スケジュール内のタスクで、インポート・ファイル内のタスク ID に一致するものが変更されるという警告が表示されます。タスクを上書きしない場合は、「**取消し**」をクリックします。

- **削除:** タスクおよび関連情報を、ファイルに指定されたタスク ID のリストに基づいて削除します。削除の実行に必要な情報は、タスク ID の列が含まれたファイルです。
- 6. **オプション:** 置換対象のタスクに関連付けられた添付を保持するには、「**添付の保持**」を選択します。
- 7. 「**日付フォーマット**」を選択します。
使用可能な日付フォーマットのドロップダウン・リストから、フォーマットを選択します。日付フォーマットは変換されません。デフォルトで、日付フォーマットはエクスポートされたファイルの場所のロケールの日付フォーマットに設定されます。
- 8. インポート・ファイルの「**ファイル区切り文字**」に、「**カンマ**」または「**タブ**」を選択します。任意の 1 文字を「**他の区切り文字**」として指定するには、「**その他**」を選択します。
- 9. 「**インポート**」をクリックします。
 - インポートに成功した場合は、スケジュール名、タスクを含むファイルの名前およびインポートされたタスクの合計数を示す「**インポート成功**」ダイアログ・ボックスが表示されます。「**OK**」をクリックします。
 - エラーが見つかった場合は、インポート・プロセスが実行されず、「**インポート・エラー**」ダイアログ・ボックスにエラーが表示されます。エラーを表示し、「**OK**」をクリックして「**スケジュール**」ページに戻ります。

表 39-1 インポート・エラーのトラブルシューティング

エラー	解決方法
重複するタスク ID	重複するタスク ID の確認をします。タスク ID は、テンプレートまたはスケジュール内で一意である必要があります。 タスクの作成 を参照してください。
タスク名が長すぎます	タスク名に使用できるのは、最大 80 文字です。 タスク・プロパティの設定 を参照してください。
組織の値 - "値が無効です"	組織の値は空白にできず、箇条書きにすることや、複数行にすることはできません。

スケジュール内のタスクの更新

状況によっては、実行中のタスクに関する情報を手動で更新する必要があります。この場合、タスクを再度開くことができます。タスクを再度開くと、そのステータスは

「オープン(担当者)」にリセットされ、情報を編集できます。たとえば、指示、参照、属性および質問を変更できます。変更を行った場合、質問に対する前の回答はクリアされます。

一連のタスクを再び開くと、先行関係は再構築されません。すべてのエンド・ユーザー・タスクが、「オープン(担当者)」にリセットされます。タスクは「保留中」ステータスには戻りません。

次の条件で、タスクを再度開くことができます。

表 39-2 タスクを再度開くための条件

タスク・ステータス	エンド・ユーザー
担当者/実行中	「指示」、「属性」または「質問」セクションでは、データの編集やインポートができます。タスクは保存すると「担当者」にリセットされ、質問に対する回答はクリアされます。
承認者	「指示」、「属性」または「質問」セクションでは、データの編集やインポートができます。タスクは保存すると「担当者」にリセットされ、質問に対する回答はクリアされます。
クローズ済/エラー	「タスクの詳細」から、タスク所有者は「再度開く」をクリックしてタスクを再び開き、変更できます。タスクを保存すると、「担当者」にリセットされます。

スケジュール内のタスクを更新するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「スケジュール」タブをクリックします。
3. スケジュールを開きます。
4. ステータスが「クローズ済」または「エラー」のタスクを選択して右クリックし、「表示」を選択します。
「タスクの表示」ダイアログ・ボックスが表示されます。
5. 「再オープン」をクリックします。
6. タスクを編集します。
7. 担当者はタスクを再び完了する必要がある、またはサービスが再び実行されるという警告が表示されたら、続行する場合は「はい」を、取り消す場合は「いいえ」をクリックします。
8. アクションを行います:
 - 「クローズ済」タスクの場合、「閉じる」をクリックします。
 - 「エラー」タスクの場合、「保存して閉じる」をクリックします。

スケジュールでのユーザーの再割当て

ユーザーを別のスケジュールに再割当てすることが定期的に必要になる場合があります。たとえば、スケジュールを作成し、ユーザーに一定の権限を割り当てたが、後にその従業員が退職し、別の従業員がそのスケジュールを引き継ぐ場合が考えられます。個々のスケジュールを手動で検索し、開いて編集するかわりに、「スケジュール」ダイアログ・ボックスの「再割当て」機能を使用して割当てを自動的に変更できます。「再割当て」機能では、1人のユーザー

ザーに関連付けられているスケジュールをすばやく検索し、別のユーザーに再割当てできます。

一度に複数のスケジュールに対してユーザーを再割当てできます。これは、アプリケーションに多数のスケジュールがある場合に役立ちます。

ユーザーを再割当てするには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**タスク・マネージャ**」をクリックします。
2. 左側の「**スケジュール**」タブをクリックします。
3. ユーザーを再割当てするスケジュールを 1 つ以上選択します。
4. 「**アクション**」、「**ユーザーの再割当**」の順にクリックします。
5. 「**ユーザーの検索**」では、「**ユーザーの検索**」をクリックし、置換するユーザーの検索条件を入力します。
 - a. 「**ユーザーの選択**」ダイアログ・ボックスで、ユーザーの姓名を入力し、「**検索**」をクリックします。
 - b. 結果からユーザーを選択し、「**OK**」をクリックします。
6. 「**置換**」では、「**置換**」アイコンをクリックし、タスクを再割当てする対象ユーザーの検索条件を入力します:
 - a. 「**ユーザーの選択**」ダイアログ・ボックスで、ユーザーの姓名を入力し、「**検索**」をクリックします。
 - b. 結果からユーザーを選択し、「**OK**」をクリックします。
7. 「**次の間に終了**」の日付を選択します。
8. 再割当てが必要なユーザーについて役割を選択します。
 - **所有者**
 - **担当者**
 - **承認者**
 - **参照者**
9. 「**再割当**」をクリックします。

プロセスが終了すると、ユーザーの再割当てが完了したことを示す「ユーザーの再割当て - 成功」メッセージが表示され、スケジュール名と、行われたユーザー再割当ての合計数が表示されます。

プロセスが自動化されたタスクの許可

プロセスが自動化されたタスクを作成するときに、セキュリティ上の目的で、そのタスクが実行されるユーザー・アカウントを指定します。セキュリティを維持するには、次の条件のどれかが発生した場合にタスクを実行するための許可が必要になる可能性があります:

- テンプレートから、または手動でタスクを追加して、「**別名実行**」ユーザーとして知られる別のランタイム・ユーザーを持つプロセスが自動化されたタスクをスケジュールに追加した場合
- スケジュールを「**オープン**」ステータスに設定し、まだタスクが完了していない場合、システムでは自動的に許可のリクエストを発行します。

担当者(または所有者が担当者でもある場合はタスク所有者)以外のユーザーによってタスクのパラメータが変更された場合、許可は許可なしにリセットされるので、パスワードを入力して取得する必要があります。プロセスが自動化されたタスクの場合、指定またはデフォルトの「別名実行」ユーザー以外のユーザーがパラメータを変更した場合、タスクは許可なしにリセットされます。

許可は、プロセスが自動化されたタスクを実行するユーザーが、そのタスクを実行するためのアプリケーションやデータに対するセキュリティ権限を持っていることを保証します。ランタイム・ユーザーの資格証明を知っている管理者は、許可を実行したり、ユーザーに許可取得を求めるリクエストを発行したりできます。

プロセスが自動化されたタスクの実行がスケジュールされているとき、許可がなければ、そのタスクは実行されず、ステータスが「要注意」に変わります。所有者または担当者がタスクを編集する場合、タスクの詳細には、許可が必要であることが示されます。この場合、「別名実行」ユーザーのみがタスクを許可できます。

許可のリクエストを受信したユーザーは、電子メール内のリンクから、またはアプリケーションにログオンすることで、「ワークリスト」の許可にアクセスできます。

ノート:

「スケジュール」または「ワークリスト」から、タスク開始日より前に、管理者、スケジュール所有者またはタスク所有者がタスクを許可できます。タスク開始日の後は、「別名実行」ユーザーのみがタスクを許可できます。

タスクを許可するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**タスク・マネージャ**」をクリックします
2. 左側の「**スケジュール**」タブを選択します。
3. スケジュールを選択します。
4. 「**アクション**」を選択し、「**タスクの許可**」を選択します。

選択したスケジュールについて、「**ユーザー**」選択リストと、許可されていないタスクの表が表示されます。ユーザー選択リストには、担当するプロセスが自動化されたタスクが保留中で、許可が必要なユーザーが示されています。

5. ユーザー選択リストから、ユーザーを選択します。

そのユーザーに許可されていないタスクのリストが表示されます。デフォルトでは、リストの先頭に自分のユーザー名が太字で表示されます。許可されていないタスクがない場合、リストは空白です。

6. 許可の必要なタスクを選択します。
7. タスクの詳細を表示するために、タスク名をクリックし、タスクのパラメータを確認します。

ヒント:

タスク所有者に電子メールで連絡するには、タスクの隣の所有者名をクリックし、ユーザーの詳細を表示します。

スケジュール・ステータスの設定

スケジュール・ステータスの設定により、スケジュールのライフサイクルを管理します。現在のステータスに応じて、スケジュールのステータスを「オープン」、「クローズ済」または「ロック済」に設定できます。スケジュール・ステータスを設定するには、スケジュールの所有者かサービス管理者であることが必要です。

一度に複数のスケジュールに対してステータスを設定できます。これは、アプリケーションに多数のスケジュールがある場合に役立ちます。

次のステータスを使用できます:

- **保留中:** スケジュールは現在アクティブではありません。これがスケジュールを作成したときのデフォルトのステータスです。「保留中」ステータスのスケジュールは、クローズやロックができません。
- **オープン:** 作業を実行するためにスケジュールが開かれています。スケジュール内のタスクを実行できます。
- **クローズ済:** スケジュールはアクティブでなくなりましたが、フォローアップ作業が必要な場合があります。スケジュール内のタスクは定義に基づいて続行されますが、スケジュールにタスクを追加することはできません。スケジュールの所有者または管理者は、クローズ済スケジュールは再度開くことができ、ステータスが「オープン」に変わります。
- **ロック済:** スケジュールはロックされており、変更できません。ロック済スケジュールは、必要に応じて再度開くことができます。

スケジュールを作成する際は、スケジュールに最終的な調整を加えたり、タスクを追加、編集または削除したりできるように、ステータスはデフォルトで「保留中」になります。

スケジュールを実行するには、ステータスを「保留中」から「オープン」に変更します。スケジュールが開かれると、定義に従ってタスクの実行が開始されます。開始条件を満たしたタスクのステータスは「オープン」に設定され、タスクの通知が担当者に送信されます。

ノート:

スケジュールのタスクの開始時間に達しても、システム自動タスクに対して許可が与えられていなければ、タスクは「保留中」ステータスのままで、許可が必要になります。

スケジュール上の作業が事後確認作業を残すのみとなった段階で、ステータスを「クローズ済」に設定します。「クローズ済」スケジュールに新規のタスクを追加することはできませんが、ユーザーは完了していないタスクでの作業を続行できます。クローズ済スケジュールは再度開くことができ、ステータスが「オープン」に変わります。

すべての作業が完了したら、ステータスを「ロック済」に設定します。「ロック済」のスケジュールは編集できませんが、必要に応じてステータスを「オープン」に戻すことができます。

スケジュールのステータスを設定するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「スケジュール」タブをクリックします。
3. ステータスを設定するスケジュールを 1 つ以上選択します。
4. 「アクション」をクリックし、「ステータスの設定」をクリックするか、「ステータスの設定」ドロップダウンを選択します。
5. 現在のステータスに応じて、次のステータス・オプションのいずれかをクリックします:
 - オープン
 - クローズ済
 - ロック済

スケジュール履歴の表示

システムでは、「スケジュールの編集」ダイアログ・ボックスから表示できるスケジュール・アクションの履歴がメンテナンスされます。「履歴」タブには、更新されたコンポーネント、変更のタイプ、古い値と新規の値、変更を行ったユーザー、および変更日が表示されます。情報は読み取り専用です。

スケジュール履歴を表示するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「スケジュール」タブをクリックします。
3. スケジュールを選択します。
4. 「履歴」タブを選択して、スケジュールの履歴を確認します。
 - **変更タイプ:** 変更のタイプ(「作成済」、「変更済」、「追加済」、「除去済」)を示します
 - **変更日:** 変更の日付
 - **変更者:** スケジュールを変更したユーザーの名前
 - **古い値**
 - **新規の値**
5. 「OK」をクリックします。

スケジュールの検証

ステータスが「保留中」または「オープン」のスケジュールを検証できます。スケジュールの検証では、開始日および終了日、先行関係、親子関係に問題がないか、製品の統合に必要なタスク・パラメータが抜けていないかをチェックします。検証のエラーがすべて解決されるまで、スケジュールのステータスを「保留中」から「オープン」に変更できません。スケジュールを検証するには、スケジュールの所有者かサービス管理者であることが必要です。

検証結果には、スケジュール名、ステータスおよびエラー・メッセージが表示されます。スケジュール名またはステータスで結果をソートできます。

スケジュールを検証するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「タスク・マネージャ」をクリックします。

2. 左側の「**スケジュール**」タブをクリックします。
3. 検証する 1 つ以上のスケジュールを選択します。
4. 「**アクション**」をクリックし、「**検証**」を選択します。

エラーがない場合は、検証結果に「スケジュールは有効です」のメッセージが表示されます。エラーがある場合は、エラーの詳細が表示されます。

スケジュールのロック

スケジュールをロックして、ユーザーがそれ以上変更できないようにすることができます。

スケジュールをロックするには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
2. 左側の「**スケジュール**」タブをクリックします。
3. スケジュールのリストから、スケジュールを選択します。
4. リストでスケジュールの右側にある「**アクション**」アイコンを選択し、「**ステータスの設定**」を選択するか、「**ステータスの設定**」ドロップダウンから「**ロック済**」を選択します。
5. **オプション:**ロック済スケジュールを再度開く必要がある場合は、「**アクション**」、「**ステータスの設定**」の順に選択するか、「**ステータスの設定**」ドロップダウンから「**オープン**」を選択します。

スケジュールの表示

「スケジュール」で、スケジュールのリストに表示する列を指定するか、すべての列を表示できます。列の順序変更、昇順または降順での列のソート、または列幅の変更を行うこともできます。

列を表示するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
2. 左側の「**スケジュール**」タブをクリックします。
3. 次の 1 つ以上のタスクを行います。
 - すべての列を表示するには、「**表示**」、「**列**」の順に選択し、「**すべて表示**」を選択します。
 - 特定の列を表示するには、「**表示**」、「**列**」の順に選択し、列名を選択または選択解除します。
 - 列を並べ替えるには、「**表示**」、「**列の順序変更**」の順に選択し、列を選択して上矢印または下矢印を使用するか、列をドラッグして順序を変更します。
 - 列をソートするには、「**ソート**」アイコンが表示されるまで列ヘッダーにマウス・カーソルを合せ、「**昇順ソート**」または「**降順ソート**」をクリックします。
 - 列の幅を変更するには、矢印が表示されるまで列ヘッダーの区切りにマウス・カーソルを合せ、適切な幅になるまで列をドラッグします。

スケジュールの検索

「スケジュール」リストの「検索」テキスト・ボックスを使用して、すばやくスケジュールを検索できます。検索する名前の全部または一部を入力できます。フィルタ・バーを使用して、リストに表示するスケジュールを制御できます。デフォルトでは、すべてのスケジュールが表示されます。

スケジュールを検索するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「タスク・マネージャ」をクリックします。
2. 左側の「スケジュール」タブをクリックします。
3. スケジュールを検索するには、「検索」テキスト・ボックスに検索条件を入力します。
4. **オプション:** フィルタ・バーでカテゴリをクリックすると、追加の検索演算子(「次と等しい」、「次と等しくない」、「次を含む」、「次を含まない」、「次で始まる」、「次で終わる」)が表示されます。

カテゴリ(「名前」、「年」、「期間」、「ステータス」、「開始日」および「終了日」)を使用してスケジュールをフィルタできます。「フィルタの追加」をクリックし、追加のフィルタ(「作成者」、「作成日」、「日ゼロの日付」、「説明」、「最終更新者」、「最終更新日」、「組織単位」、「所有者」および「タスク」)を追加します。

ノート:

- 「フィルタの追加」をクリックすると、すべてのカテゴリが表示されます。
- フィルタ・バーを非表示にするには、「フィルタ」アイコンをクリックします。
- すべてのフィルタをクリアするには、 アイコン内の「すべてのフィルタのクリア」をクリックします。

スケジュールの削除

不要になったスケジュールは削除できます。スケジュールを削除するには、スケジュールの所有者かサービス管理者であることが必要です。スケジュールを削除すると、そのスケジュールおよびそのスケジュールへのすべての参照がシステムから削除されます。

スケジュールを削除するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「スケジュール」タブをクリックします。
3. 「スケジュール」で、削除するスケジュールを選択します。
4. 「削除」をクリックします。

スケジュールを削除すると、そのスケジュール内のすべてのタスクも完全に削除され、復元するにはバックアップを使用する以外に方法がないという警告が表示されます。

5. スケジュールを削除するには、「はい」をクリックします。

タスク・マネージャ統合の管理

タスク・マネージャのタスクを有効化し、EPM Cloud および他の外部アプリケーション内に統合を含めることができます。

タスク・マネージャを使用すると、ユーザーは、統合されたタスクをビジネス・プロセス内に組み込むことができます。これにより、手動タスクが自動化されたり、埋込みのアプリケーション・ページやリンクが含まれて、プロセスが簡略化されます。

タスク・マネージャ統合を管理するには、サービス管理者の役割が必要です。

タスク・マネージャは、次の統合タイプをサポートします：

エンド・ユーザー

統合されたエンド・ユーザー・タスクで、ユーザーはアプリケーション Web ページと対話する必要があります。これらのアプリケーション Web ページは、タスク内に表示されるか、またはタスク内にリンクとして含まれます。統合には、ユーザー・タスクおよびオプションのパラメータ・セットに対する実行 URL が必要です。実行 URL により外部プログラムが起動され、パラメータによりタスクに必要な情報が外部プログラムに渡されます。たとえば、仕訳の承認統合には、仕訳の視点ディメンション値などのパラメータが含まれています。

ユーザーがタスクを実行して検証する必要があります。たとえば、タスクは、データ送信などの汎用タスクの場合、または完了を促進または検証するために製品統合を必要とする場合があります。

プロセスの自動化

プロセスの自動化タスクは、接続されたアプリケーション内でアクションを開始します。これらの統合は、開始日時に達し、先行タスク(たとえば、総勘定元帳からの夜間のデータ入力など)が完了したときに、外部アプリケーションで自動的に実行されます。これらのタスクは、多くの場合、就業時間後に実行されます。ユーザーの介入は限定的で、担当者はいません。

イベント・モニタリング

イベント・モニタリング・タスクは受動的なタスクです。アクションを開始しませんが、アクションまたはステータスの発生を待機している別のアプリケーションをモニターします。アクションまたはステータスが発生すると、タスクは「完了」とマークされます。これらは、外部アプリケーションで発生するイベント(仕訳承認など)に基づきます。

タスク・マネージャには、次の事前作成済の統合が用意されています。

- Cloud 統合: EPM Cloud 接続のエンド・ユーザーおよびプロセス自動化統合。 [EPM Cloud Services との統合の管理](#) を参照してください。
- Cloud 統合: Oracle Cloud ERP。 [クラウドおよびオンプレミス・アプリケーションとの統合の管理](#) を参照してください。
- オンプレミス・エンド・ユーザーおよびイベント・モニタリング統合。 [クラウドおよびオンプレミス・アプリケーションとの統合の管理](#) を参照してください。
- オンプレミス Oracle E-Business Suite 一般会計、買掛金および売掛金統合。 [クラウドおよびオンプレミス・アプリケーションとの統合の管理](#) を参照してください。

Cloud またはオンプレミス用の他の統合が必要な場合、カスタム統合を作成できます。
[カスタム統合の作成](#)を参照してください。

EPM Cloud Services との統合の管理

タスク・マネージャを使用し、他の EPM Cloud サービスへのサブスクリプションがある場合、サービス間の接続を作成し、タスク・マネージャ機能を使用して統合を有効にすることができます。

事前作成済の統合によって、他の EPM Cloud の機能にアクセスするタスク・マネージャ・タスクを実行できます。

事前作成済の統合は、次の EPM Cloud サービスに対してタスク・マネージャ内で提供されます。

- Account Reconciliation
- Enterprise Data Management
- Financial Consolidation and Close
- Planning および Planning モジュール
- Profitability and Cost Management
- Tax Reporting

統合の設定方法についてさらに学習するには、[EPM Cloud 内の事前作成済の統合の追加](#)を参照してください

使用可能なエンド・ユーザーの統合についてさらに学習するには、[EPM Cloud 用のエンド・ユーザー統合](#)を参照してください

使用可能な事前作成済の自動統合についてさらに学習するには、[EPM Cloud 用の自動化統合](#)を参照してください。

EPM Cloud 内の事前作成済の統合の追加

前提条件を満たしていることを確認し、次のステップに従ってタスク・マネージャと他の EPM Cloud サービスとの間に統合を設定します。

前提条件

EPM Cloud サービス間の統合を作成するには、統合する EPM Cloud サービスへのサブスクリプションを取得する必要があります。

統合タイプおよびタスク・タイプを作成する手順

他の EPM Cloud サービスへの接続を追加し、統合およびタスク・タイプをデプロイすることによって、EPM Cloud 統合を追加できます。EPM Cloud 内の事前作成済の統合を追加するには:

1. タスク・マネージャを含むサービスと他のサービスの間の接続を作成します:
 - ホーム・ページで、「ツール」、「接続」の順にクリックします。
 - 「作成」をクリックして新しい接続を作成します:

- Enterprise Data Management の場合は、「その他の Web サービス・プロバイダ」を選択します。
- その他すべての EPM サービスには、「Oracle Enterprise Performance Management Cloud」プロバイダを選択します。
- EPM Connect 接続の名前を付けます。たとえば、Tax Reporting と統合する場合は、考えられる**接続名**として **TRCS** があります。
- 接続 URL を指定します。
- ユーザー資格証明を指定します。
- さらに、「その他の Web サービス・プロバイダ」の場合は、詳細設定オプションを指定する必要があります。「**詳細設定オプションを表示**」をクリックします。
 - 「**タイプ**」に、「**パラメータ**」を選択します。
 - 「**名前**」に、SERVICE_TYPE (これは固定値)を入力します。
 - 「**値**」に、EDMCS (これは固定値)を入力します。

EPM Cloud サブスクリプションの接続の詳細は、*Tax Reporting の管理*の EPM Cloud での環境の接続を参照してください。

2. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**タスク・マネージャ**」をクリックします。
3. 左側の「**統合**」タブをクリックします。
4. 「**統合**」ページで「**接続の管理**」をクリックします。
5. 「**接続の管理**」で、「**アクション**」から、「**EPM 接続の同期**」を選択します。

Manage Connections Close

Connection	Enabled	Cloud
E-Business Suite - Account Payab...	No	
E-Business Suite - Account Recei...	No	
E-Business Suite - General Ledger	No	
Financial Consolidation and Close	Yes	✓
Hyperion Financial Management	No	
Hyperion Profitability and Cost Management	No	
Oracle Cloud ERP - Assets	No	
Oracle Cloud ERP - Cash Management	No	
Oracle Cloud ERP - General Ledger	No	
Oracle Cloud ERP - Intercompany	No	
Oracle Cloud ERP - Payables	No	

Actions menu: New..., Edit..., Delete, Sync EPM Connections, Integration Cloud Connection...

同期の進行状況を示し、サービスに追加された統合の詳細を示すメッセージが表示されます。各統合に対して統合タイプおよびタスク・タイプが追加されます。

関連項目:

- [EPM Cloud 用のエンド・ユーザー統合](#)

- EPM Cloud 用の自動化統合

EPM Cloud 用のエンド・ユーザー統合

エンド・ユーザー統合によって、タスク・マネージャを使用しながら他のリモートの EPM Cloud 環境の機能にアクセスできます。この項に、使用可能な次の EPM Cloud サービス用のエンド・ユーザー統合を列記します。

- Account Reconciliation
- Planning および Planning モジュール
- Financial Consolidation and Close および Tax Reporting
- Profitability and Cost Management

リモート EPM Cloud 機能の説明は、その EPM Cloud サービスのドキュメントを参照してください。

Account Reconciliation のエンド・ユーザーの統合タスク

- コンソール
- データ交換
- 照合リスト(期間、保存済リスト)
- レポート
- トランザクション・リスト(期間、保存済リスト)

Financial Consolidation and Close 用のエンド・ユーザー統合

- 承認
- アプリケーションの構成
- データ交換
- フォーム・データの入力(フォーム)
必須パラメータは、「タスクの詳細」ダイアログのドロップダウン・リストに表示されるフォーム(EPM アーティファクト・タイプ)です。
- データのエクスポート
- メタデータのエクスポート
- 仕訳のエクスポート
- 財務レポートの生成
必須パラメータとして、ドロップダウンからレポートを選択します。
- データのインポート
- メタデータのインポート
- 仕訳のインポート
- 無効な交差レポート
- 会社間照合レポートの生成
- 仕訳レポートの生成

- 承認の管理
- ディメンションの管理
- フォームの管理
- 仕訳の管理
- 出資比率の管理
- 期間の管理
- 有効な交差の管理
- アプリケーションのリフレッシュ
- レポート
- ダッシュボードの表示(ダッシュボード)
必須パラメータは、「タスクの詳細」ダイアログのドロップダウン・リストに表示されるダッシュボード(EPM アーティファクト・タイプ)です。
- 財務レポートの表示
- 操作ダッシュボードの表示

Tax Reporting 用のエンド・ユーザー統合

- 承認
- アプリケーションの構成
- データ交換
- フォーム・データの入力(フォーム)
必須パラメータは、「タスクの詳細」ダイアログのドロップダウン・リストに表示されるフォーム(EPM アーティファクト・タイプ)です。
- データのエクスポート
- メタデータのエクスポート
- 財務レポートの生成
必須パラメータとして、ドロップダウンからレポートを選択します。
- データのインポート
- メタデータのインポート
- 無効な交差レポート
- 承認の管理
- ディメンションの管理
- フォームの管理
- 期間の管理
- 有効な交差の管理
- アプリケーションのリフレッシュ
- レポート
- ダッシュボードの表示(ダッシュボード)。

必須パラメータは、「タスクの詳細」ダイアログのドロップダウン・リストに表示されるダッシュボード(EPM アーティファクト・タイプ)です

- 財務レポートの表示
- 操作ダッシュボードの表示

Planning および Planning モジュール用のエンド・ユーザー統合

- 承認
- データ交換
- フォーム・データの入力(フォーム)
必須パラメータは、「タスクの詳細」ダイアログのドロップダウン・リストに表示されるフォーム(EPM アーティファクト・タイプ)です。
- 財務レポートの生成
必須パラメータとして、ドロップダウンからレポートを選択します。
- 無効な交差レポート
- 承認の管理
- ディメンションの管理
- ルールの管理
- 有効な交差の管理
- レポート
- ダッシュボードの表示(ダッシュボード)。
必須パラメータは、「タスクの詳細」ダイアログのドロップダウン・リストに表示されるダッシュボード(EPM アーティファクト・タイプ)です
- 財務レポートの表示
- 操作ダッシュボードの表示

Profitability and Cost Management 用のエンド・ユーザー統合

- ダッシュボード
- データ交換
- 収益性レポートの生成
- 利益曲線(利益曲線)
必須パラメータは、「タスクの詳細」ダイアログのドロップダウン・リストに表示される利益曲線(EPM アーティファクト・タイプ)です。
- ダッシュボードの表示(ダッシュボード)。
必須パラメータは、「タスクの詳細」ダイアログのドロップダウン・リストに表示されるダッシュボード(EPM アーティファクト・タイプ)です。
レポートの表示(レポート)

EPM Cloud 用の自動化統合

EPM Cloud サービスには、次の事前作成済の統合を使用できます。

- Account Reconciliation

- Enterprise Data Management
- Financial Consolidation and Close
- Planning および Planning モジュール
- Profitability and Cost Management
- Tax Reporting

EPM Cloud の事前作成済の統合を使用するには、統合にパラメータを指定する必要があります。自動統合の多くのパラメータは、ドロップダウン・リストから選択できます。これにより、手動で値を入力する必要がなくなります。たとえば、ルールまたはルール・セットを実行するには、ForceConsolidate、ForceTranslate などのビジネス・ルールのリストから選択できます。

EPM Cloud 用の統合(共通)

統合名/モジュール	モジュール	説明	パラメータ/説明
Tax Reporting からファイルをコピー	Enterprise Data Management を除くすべての EPM Cloud サービス	タスク・マネージャが構成されている現在のサービスから、別の EPM Cloud サービスにファイルをコピーします。 たとえば、Tax Reporting でタスク・マネージャを構成し、Account Reconciliation 接続を設定した場合、「Tax Reporting からファイルをコピー」によって Tax Reporting から Account Reconciliation にファイルがコピーされます。	ファイル名: コピーするファイルの名前。 ファイルに名前を付けて保存: 保存するファイルの名前。これにより、元のファイル名とは異なる名前にできます。 外部ディレクトリ名(オプション): ディレクトリの名前。
Tax Reporting にファイルをコピー	Enterprise Data Management を除くすべての EPM Cloud サービス	別の EPM Cloud サービスから、タスク・マネージャが構成されている現在のサービスにファイルをコピーします。	ファイル名: コピーするファイルの名前。 ファイルに名前を付けて保存: 保存するファイルの名前。これにより、元のファイル名とは異なる名前にできます。 外部ディレクトリ名(オプション): ディレクトリの名前。
Tax Reporting からファイルを削除	Enterprise Data Management を除くすべての EPM Cloud サービス	EPM クラウド・サービスからファイルを削除します。	ファイル名: 削除するファイルの名前。

統合名/モジュール	モジュール	説明	パラメータ/説明
データ統合のロック/ロック解除	Enterprise Data Management を除くすべての EPM Cloud サービス	「データ交換」での場所、カテゴリおよび期間の統合をロックまたはロック解除します。これはプロセス自動統合です。	<p>操作: ロックまたはロック解除から選択します。</p> <p>ロック・タイプ: ロック/ロック解除操作の対象がアプリケーションか場所かを選択します。</p> <p>期間: 「データ交換」で定義された統合またはデータ・ロード・ルールの POV の期間を指定します(Jan-21 など)。</p> <p>カテゴリ: 統合(データ・ルール)定義の POV カテゴリに基づく事前定義済のシナリオ値を指定します。使用できるカテゴリは、データ統合の設定時に作成したカテゴリ(実績など)です。</p> <p>アプリケーション(オプション): 選択したロック・タイプがアプリケーションの場合、アプリケーションの名前を指定します(ビジョンなど)。</p> <p>場所(オプション): 選択したロック・タイプが場所の場合、場所の名前を指定します。場所がロックされている場合、データをロードできません。</p> <p>場所ごとのロック(オプション): このパラメータは、選択した操作がロックで、選択した場所がアプリケーションの場合に指定できます。</p> <p>ターゲット・アプリケーションのロック時にこれが選択された場合、ターゲット・アプリケーションの該当の場所に存在するすべてのルールがロックされ、アプリケーションレベル・ロックは実施されません。</p> <p>詳細は、POV のロックおよびロック解除を参照してください</p>

統合名/モジュール	モジュール	説明	パラメータ/説明
データ統合の 実行	Enterprise Data Management および Profitability and Cost Management を除くすべての EPM Cloud サービス	期間の処理方法とソース・フィルタに基づいて、統合ルールまたはデータ・ロード・ルールを実行します。これにより、データ交換で定義されたデータ・ロードを月次処理スケジュールに簡単に統合できます。	<p>ジョブ・タイプ: 「統合」がジョブ・タイプです。</p> <p>統合名: データ統合で定義された統合の名前。</p> <p>期間名: 期間の名前。</p> <p>インポート・モード: データをデータ統合にインポートする方法を決定します。</p> <p>エクスポート・モード: データをデータ統合にエクスポートする方法を決定します。</p> <p>ファイル名: ネイティブ・ファイルベースのデータ・ロードにのみ適用され、他のロードに指定された場合は無視されます。</p> <p>ソース・フィルタ: データ・ロード・ルールまたは統合用に定義されたソース・フィルタを更新するために使用されるパラメータ。</p> <p>ターゲット・オプション: データ・ロード・ルールまたは統合用に定義されたターゲット・オプションを更新するために使用されるパラメータ。</p> <p>実行モード: クイック・モード統合にのみ適用可能です。</p> <p>これらのパラメータの詳細は、<i>Oracle Enterprise Performance Management Cloud の REST API ガイドの統合の実行</i>を参照してください。</p>
パイプラインの 実行	Enterprise Data Management および Account Reconciliation を除くすべての EPM Cloud サービス	選択するジョブ・パラメータおよび変数に基づいてパイプラインを実行します。	<p>ジョブ・タイプ: 「パイプライン」がジョブ・タイプです。</p> <p>ジョブ名: データ統合のパイプライン用に定義されたパイプライン・コード。</p> <p>開始期間: データがロードされる最初の期間。この期間名は、データ統合の期間マッピングに定義されている必要があります。</p> <p>終了期間: データがロードされる最後の期間。この期間名は、データ統合の期間マッピングに定義されている必要があります。</p> <p>インポート・モード: データをデータ統合にインポートする方法を決定します。</p> <p>エクスポート・モード: データをデータ統合にエクスポートする方法を決定します。</p> <p>ログの添付: 電子メールにログを添付として含めるかどうかを示します。</p> <p>電子メールの送信: パイプラインの実行時に電子メールを送信するタイミングを決定します。</p> <p>送信先: 電子メール通知の受信者電子メール ID を決定します。</p> <p>これらのパラメータの詳細は、<i>Oracle Enterprise Performance Management Cloud の REST API ガイドのパイプラインの実行</i>を参照してください。</p>

統合ファイルのコピーおよび削除も参照してください

Account Reconciliation 用の統合

統合名/モジュール	モジュール	説明	パラメータ/説明
期間ステータスの変更	照合コンプライアンス	期間のステータス(オープン、クローズ済、保留中、ロック済)を変更します	Period: 期間の名前 Status: 保留中、オープン、クローズ済、ロック済
期間終了の照合の作成	照合コンプライアンス	選択したすべてのプロファイルを期間にコピーし、成功または失敗のステータスを返します。	Period: 期間の名前 Filter: 照合に一致するフィルタの名前
残高のインポート	照合コンプライアンス	データ管理を使用して、以前に作成したデータ・ロード定義から残高データをインポートします。	Period: 期間の名前 dl_Definition: DL_name のフォーマット(DL_test など)を使用した、以前に保存したデータ・ロードの名前
事前マップ済残高のインポート	照合コンプライアンス	事前マップ済残高をインポートします。	Period: 期間の名前 BalanceType: サブシステムまたはソース・システムの SUB SRC CurrencyBucket: 通貨バケット(機能など) File: 受信トレイに関連するファイルの名前(balances.csv など)。ファイルは、EPM 自動化または REST API を使用して ARCS にアップロードする必要があります。
事前マップ済トランザクションのインポート	照合コンプライアンス	特定の期間の事前マップ済トランザクションをインポートします。	TransactionType: 許可されているトランザクション・タイプは、BEX (説明付き残高)、SRC (ソース・システムに対する調整)および SUB (サブシステムに対する調整)です File: 受信トレイに関連するファイルの名前(transactions.csv など)。ファイルは、EPM 自動化または REST API を使用して ARCS にアップロードする必要があります。 DateFormat: 日付フォーマット(MM/dd/yyyy、dd/MM/yyyy、dd-MMM-yy、MMM d,yyyy、All など)。

統合名/モジュール	モジュール	説明	パラメータ/説明
事前マップ済トランザクションのインポート	トランザクション照合	事前マップ済トランザクションのファイルをトランザクション照合にインポートします。	<p>DataSource: トランザクションがインポートされるデータ・ソースのテキスト ID</p> <p>File: 受信トレイに関連するファイルの名前 (transactions.csv など)。ファイルは、EPM 自動化または REST API を使用して ARCS にアップロードする必要があります。</p> <p>ReconciliationType: トランザクション・ファイルがインポートされる照合タイプのテキスト ID (銀行から GL など)</p> <p>DateFormat: 日付フォーマット (MM/dd/yyyy、dd/MM/yyyy、MM-dd-yyyy、d-M-yyyy、dd-MMM-yy、MMM d, yyyy など)</p>
プロファイルのインポート	照合コンプライアンス	特定の期間のプロファイルをインポートします。	<p>ImportType: インポート・タイプ。サポートされる値は、Replace および ReplaceAll です</p> <p>Period: インポートする期間</p> <p>ProfileType: プロファイル・タイプ。サポートされる値は、Profiles および Children です</p> <p>File: 受信トレイに関連するファイルの名前 (profiles.csv など)。ファイルは、EPM 自動化または REST API を使用して ARCS にアップロードする必要があります。</p> <p>DateFormat: 日付フォーマット (MM/dd/yyyy、dd/MM/yyyy、d-M-yyyy、dd-MMM-yy、MMM d, yyyy、All など)</p>

統合名/モジュール	モジュール	説明	パラメータ/説明
レートのインポート	照合コンプライアンス	特定の期間およびレート・タイプのレートをインポートします。	<p>Period: 期間の名前</p> <p>RateType: レート・タイプ (勘定など)</p> <p>レートのインポート (照合コンプライアンス)</p> <p>File: 受信トレイに関連するファイルの名前 (rates.csv など)。ファイルは、EPM 自動化または REST API を使用して ARCS にアップロードする必要があります。</p> <p>ImportType: サポートされているインポート・タイプは、Replace および ReplaceAll です</p>
照合のモニター	照合コンプライアンス	ARCS の照合のリストをモニターします	<p>Period: 期間の名前</p> <p>Filter: 照合リストの間合せに使用されるフィルタ文字列</p>
自動照合の実行	トランザクション照合	トランザクション照合で自動照合プロセスを実行します。	ReconTypeId: 自動照合される照合タイプのテキスト ID
照合の表示	照合コンプライアンス	指定された期間の照合を表示します。	<p>Period: 期間の名前</p> <p>Saved List: パブリック保存済リストの名前</p>
トランザクションの表示	トランザクション照合	指定された期間のトランザクションを表示します。	<p>Period: 期間の名前</p> <p>Saved List: パブリック保存済リストの名前</p>

Enterprise Data Management 用の統合

統合名	説明	パラメータ/説明
ディメンションのエクスポート	ディメンションを Enterprise Data Management から構成済の接続にエクスポートします。これはプロセス自動統合です。 EPM Cloud 内の事前作成済の統合の追加 を参照してください。	<p>アプリケーション: ディメンションのエクスポート元 Enterprise Data Management アプリケーションの名前。</p> <p>ディメンション: エクスポートするディメンションの名前。</p> <p>接続: オプション。ディメンションのエクスポート先の接続の名前。</p> <p>ファイル名: ディメンションのエクスポート元のファイルおよびパス。</p>

統合名	説明	パラメータ/説明
ディメンション・マッピングのエクスポート	ディメンション・マッピングを Enterprise Data Management から構成済の接続にエクスポートします。これはプロセス自動統合です。	アプリケーション: ディメンション・マッピングのエクスポート元 Enterprise Data Management アプリケーションの名前。 ディメンション: エクスポートするディメンション・マッピングの名前。 接続: オプション。ディメンション・マッピングのエクスポート先の接続の名前。 マッピング場所: ディメンション・マッピングのエクスポート先場所の名前。 ファイル名: ディメンション・マッピングのエクスポート元のファイルおよびパス。
ディメンションのインポート	構成済の接続から Enterprise Data Management アプリケーションにディメンションをインポートします。これはプロセス自動統合です。EPM Cloud 内の事前作成済の統合の追加を参照してください。	アプリケーション: ディメンションのインポート先 Enterprise Data Management アプリケーションの名前。 ディメンション: インポートするディメンションの名前。 接続: ディメンションのインポート元の接続の名前。 ファイル名: ディメンションのインポート元のファイルおよびパス。 インポート・オプション: オプション。データを Enterprise Data Management にインポートする方法を決定します。
ディメンションの抽出	ディメンションを Enterprise Data Management から構成済の接続に抽出します。これはプロセス自動統合です。	アプリケーション: ディメンションの抽出元 Enterprise Data Management アプリケーションの名前。 ディメンション: 抽出するディメンションの名前。 抽出: 抽出の名前。 接続: ディメンションの抽出先の接続の名前。 ファイル名: ディメンションの抽出元のファイルおよびパス。

Financial Consolidation and Close および Tax Reporting 用の統合

統合名	説明	パラメータ/説明
キューブのクリア	入力およびレポート・キューブ内の特定のデータをクリアします	名前: キューブのクリア・ジョブの名前。

統合名	説明	パラメータ/説明
出資比率データを次の年にコピー	出資比率データを年の最後の期間から次の年の最初の期間にコピーするタスクを自動化します。詳細は、の copyOwnershipDataToNextYear を参照してください Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作	シナリオ: シナリオの名前(「実績」など)、選択可能 年: 選択可能
キューブのリフレッシュ	OLAP キューブをリフレッシュします。	名前: キューブのリフレッシュ・ジョブの名前。
データのクリア	プロファイル名を使用してデータのクリア・ジョブを実行します。 Financial Consolidation and Close でのデータのクリアの使用に関する詳細は、 データのクリア を参照してください。 Tax Reporting でのデータのクリアの使用に関する詳細は、 データのクリア を参照してください。	プロファイル名: データのクリアのプロファイル名。
データのコピー	プロファイル名を使用してデータのコピー・ジョブを実行します。 Financial Consolidation and Close でのデータのコピーの使用に関する詳細は、 データのコピー を参照してください。 Tax Reporting でのデータのコピーの使用に関する詳細は、 データのコピー を参照してください。	プロファイル名: データのコピーのプロファイル名。
データのエクスポート	export data タイプのジョブで指定されたデータのエクスポート設定(ファイル名を含む)を使用して、アプリケーション・データをファイルにエクスポートします。エクスポートされたデータが含まれるファイルは、リポジトリに格納されます。	名前: データのエクスポート・ジョブの名前。 エクスポート・ファイル名: オプション 。データのエクスポート先のファイル名。
データ・マッピングのエクスポート	データ管理で定義されたデータ・マッピングを指定された場所にエクスポートします。これはプロセス自動統合です。詳細は、 EPM Cloud 内の事前作成済の統合の追加 を参照してください メンバー・マッピングでは、単一ディメンション内のソース・メンバーとターゲット・ディメンション・メンバー間の関係が定義されます。	ディメンション: インポートする特定のディメンションのディメンション名(ACCOUNT など)、またはすべてのディメンションをインポートする場合は ALL 。 ファイル名: マッピングのエクスポート元のファイルおよびパス。ファイル・フォーメーションは、 .CSV 、 .TXT 、 .XLS または .XLSX です。ファイル・パスに送信ボックス(outbox)を含めます (outbox/BESSAPPJan-06.csv など) 場所名: エクスポート先場所の名前。

統合名	説明	パラメータ/説明
出資比率データのエクスポート	出資比率データをエンティティからカンマ区切りの CSV ファイルにエクスポートするタスクを自動化します。詳細は、の exportOwnershipData を参照してください <i>Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作</i>	エンティティ: エンティティの名前。 シナリオ: シナリオの名前(「実績」など)選択可能。 年: 選択可能 期間: 期間の名前(1 月など)選択可能。 ファイル名: エクスポートするファイルの名前。
データのインポート	import data タイプのジョブで指定されたデータのインポート設定を使用して、リポジトリ内のファイルからアプリケーションにデータをインポートします。	名前: データのインポート・ジョブの名前。 インポート・ファイル名: オプション 。データのインポート元のファイル名。
データ・マッピングのインポート	データ管理で定義されたデータ・マッピングを指定された場所にインポートします。これはプロセス自動統合です。 メンバー・マッピングでは、単一ディメンション内のソース・メンバーとターゲット・ディメンション・メンバー間の関係が定義されます。 選択した Excel (.CSV または.TXT)ファイルから、メンバー・マッピングをインポートできます。	ジョブ・タイプ: ジョブ・タイプ、 MAPPINGIMPORT 。 ジョブ名: インポートする特定のディメンションのディメンション名(ACCOUNT など)、またはすべてのディメンションをインポートする場合は ALL 。 ファイル名: マッピングのインポート元のファイルおよびパス。 ファイル・フォーマットは、 .CSV 、 .TXT 、 .XLS または .XLSX です。ファイルは、インポート前に、受信ボックスまたは受信ボックスのサブディレクトリのいずれかにアップロードされている必要があります。ファイル・パスに受信ボックス(inbox)を含めず(inbox/BESSAPPJan-06.csv など) インポート・モード: 新規ルールを追加する、または既存ルールを置換する MERGE 、あるいはインポート前に以前のマッピング・ルールをクリアする REPLACE 。 検証モード: 検証モードを使用するかどうか(true または false)。 true のエントリーは、ターゲット・アプリケーションに対してターゲット・メンバーを検証します。 false は、検証なしでマッピング・ファイルをロードします。検証プロセスはリソースを大量に消費し、検証モードが false の場合よりも時間がかかります。ほとんどのユーザーが選択するオプションは false です 場所名: マッピング・ルールをロードするデータ管理の場所。マッピング・ルールはデータ管理の場所に固有です。

統合名	説明	パラメータ/説明
メタデータのインポート	import metadata タイプのジョブで指定されたメタデータのインポート設定を使用して、リポジトリ内のファイルからアプリケーションにメタデータをインポートします。	名前: メタデータのインポートで定義されたバッチの名前。
出資比率データのインポート	出資比率データを環境で使用可能な CSV ファイルから期間にインポートするタスクを自動化します。詳細は、の importOwnershipData を参照してください Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作	シナリオ: シナリオの名前(「実績」など)選択可能。 年: 選択可能 期間: 期間の名前(1 月など)選択可能。 ファイル名: インポートするファイルの名前。
仕訳期間	仕訳期間を自動的にオープンまたはクローズします。 「承認済」および「転記の戻し済」の仕訳が存在しない場合のみ、期間がクローズされます。「承認済」および「転記の戻し済」の仕訳が存在する場合、期間はクローズされず、エラーが返されます。 「作業中」および「送信済」ステータスの「転記の戻し済」仕訳が存在する場合、期間は警告付きでクローズされます。	シナリオ: シナリオの名前(「実績」など) 年: 年(FY20 など) 期間: 期間の名前(1 月など) アクション: 「オープン」または「クローズ」
エンタープライズ仕訳のモニター ノート: この統合は、 Financial Consolidation and Close にのみ適用されます	年/期間またはフィルタされたリスト内で仕訳の完了ステータスをモニターします。	年: オプション。年(2022 など)。選択可能。 期間: オプション。期間の名前(1 月など)。選択可能。 フィルタ名: オプション。エンタープライズ仕訳のステータスをモニターするために作成したフィルタの名前。 ノート: すべてのパラメータはオプションですが、少なくともフィルタ名または年と期間を指定する必要があります。
出資比率データの再計算	出資比率データを再計算するタスクを自動化します。詳細は、の recomputeOwnershipData を参照してください Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作	シナリオ: シナリオの名前(「実績」など) 年: 年(FY20 など) 期間: 期間の名前(1 月など)

統合名	説明	パラメータ/説明
バッチ・ルールの実行	データ管理で定義されたジョブのバッチを実行します	<p>名前: 実行されるレポートの名前 (POV のディメンション・マップ (ディメンション、カテゴリ、期間) のパスなど)</p> <p>レポート・フォーマット・タイプ: レポートのファイル形式 (PDF、XLSX または HTML)</p> <p>パラメータ: 数および値は、レポートによって異なります</p> <p>Location: レポートの場所 (Comma_Vision など)</p> <p>Run As: 「ワークフロー」タブでこのパラメータを指定する必要があります。</p>
ビジネス・ルールの実行	ビジネス・ルールを起動します。	<p>名前: 定義されている正確なビジネス・ルール名。</p> <p>パラメータ: JSON 構文の実行時プロンプト。パラメータ名は、ルール定義で定義された名前と完全に同じにする必要があります。たとえば、</p> <pre>{ "MyScenario1": "Current", "MyVersion1": "BU Version_1", "ToEntity": "CA", "Rule_Level_Var": "AZ", "planType": "Plan1" }</pre> <p>次のフォーマットもサポートされています。例:</p> <pre>"Scenario=Actual" "Entity=Total Geography" "Year=FY21" "Period=Apr"</pre>
ビジネス・ルールセットの実行	ビジネス・ルールセットを起動します。実行時プロンプトのないルールセットやデフォルト値のある実行時プロンプトはサポートされません。	<p>名前: 定義されている正確なビジネス・ルールセット名。</p> <p>パラメータ: JSON 構文の実行時プロンプト。パラメータ名は、ルール定義で定義された名前と完全に同じにする必要があります。たとえば、</p> <pre>{ "MyScenario1": "Current", "MyVersion1": "BU Version_1", "ToEntity": "CA", "Rule_Level_Var": "AZ", "planType": "Plan1" }</pre> <p>次のフォーマットもサポートされています。例:</p> <pre>"Scenario=Actual" "Entity=Total Geography" "Year=FY21" "Period=Apr"</pre>

統合名	説明	パラメータ/説明
連結の実行	このタスクは、連結を実行するユーザーリテリ・タスクです。タスクでは、シナリオ、年、期間およびエンティティなど、タスクを実行するためのパラメータの入力をユーザーに求めます。	シナリオ 年 期間 エンティティ：カンマで区切って複数のエンティティを追加できます。

統合名	説明	パラメータ/説明
データ・ルールの実行	<p>指定した開始期間および終了期間とインポート・オプションまたはエクスポート・オプションに基づいて、データ管理のデータ・ロード・ルールを実行します。</p>	<p>ジョブ名: データ管理で定義されたデータ・ロード・ルールの名前。</p> <p>開始期間: データがロードされる最初の期間。この期間名は、データ管理の期間マッピングに定義されている必要があります。</p> <p>終了期間: データがロードされる最後の期間。この期間名は、データ管理の期間マッピングに定義されている必要があります。</p> <p>インポート・モード: データをデータ管理にインポートする方法を決定します。</p> <p>APPEND: 既存のルールに追加します データ管理の POV データ</p> <p>REPLACE: POV データを削除してファイルからのデータで置換します</p> <p>RECALCULATE: データのインポートをスキップしますが、更新されたマッピングおよび論理勘定科目があるデータは再処理します。</p> <p>NONE: データ管理のステージング表へのデータ・インポートをスキップします</p> <p>エクスポート・モード: データをデータ管理にエクスポートする方法を決定します。</p> <p>STORE_DATA: データ管理のステージング表のデータを Financial Consolidation and Close または Tax Reporting の既存のデータとマージします</p> <p>ADD_DATA: データ管理のステージング表のデータを Financial Consolidation and Close または Tax Reporting に追加します</p> <p>SUBTRACT_DATA: データ管理のステージング表のデータを Financial Consolidation and Close または Tax Reporting の既存のデータから削除します</p> <p>REPLACE_DATA: POV データをクリアしてデータ管理のステージング表のデータで置換します。データがクリアされる対象は、シナリオ、バージョン、年、期間およびエンティティです</p> <p>NONE: データ管理から Financial Consolidation and Close または Tax Reporting へ</p>

統合名	説明	パラメータ/説明
		<p>のデータのエクスポートをスキップします</p> <p>ファイル名: オプション。ファイル名を指定しないと、この API によって、データ・ロード・ルールに指定されたファイル名に含まれるデータがインポートされます。データ・ファイルは、データ・ルールの実行前に受信ボックスにすでに存在している必要があります。</p> <p>Run As: 「ワークフロー」タブでこのパラメータを指定する必要があります。</p>
強制連結の実行	このタスクは、強制連結を実行するユーティリティ・タスクです。タスクでは、シナリオ、年、期間およびエンティティなど、タスクを実行するためのパラメータの入力をユーザーに求めます。	シナリオ 年 期間 エンティティ: カンマで区切って複数のエンティティを追加できます。
強制換算の実行	このタスクは、強制換算を実行するユーティリティ・タスクです。タスクでは、シナリオ、年、期間およびエンティティなど、タスクを実行するためのパラメータの入力をユーザーに求めます。	シナリオ 年 期間 エンティティ: カンマで区切って複数のエンティティを追加できます。
換算の実行	このタスクは、換算を実行するユーティリティ・タスクです。タスクでは、シナリオ、年、期間およびエンティティなど、タスクを実行するためのパラメータの入力をユーザーに求めます。	シナリオ 年 期間 エンティティ: カンマで区切って複数のエンティティを追加できます。

Planning および Planning モジュール用の統合

統合名	説明	パラメータ/説明
キューブのクリア	入力およびレポート・キューブ内の特定のデータをクリアします	名前: キューブのクリア・ジョブの名前。
キューブのリフレッシュ	OLAP キューブをリフレッシュします。	名前: キューブのリフレッシュ・ジョブの名前。
データのエクスポート	export data タイプのジョブで指定されたデータのエクスポート設定(ファイル名を含む)を使用して、アプリケーション・データをファイルにエクスポートします。エクスポートされたデータが含まれるファイルは、リポジトリに格納されます。	名前: データのエクスポート・ジョブの名前。 エクスポート・ファイル名: オプション 。データのエクスポート先のファイル名。

統合名	説明	パラメータ/説明
データのインポート	import data タイプのジョブで指定されたデータのインポート設定を使用して、リポジトリ内のファイルからアプリケーションにデータをインポートします。	名前: データのインポート・ジョブの名前。 インポート・ファイル名: オプション 。データのインポート元のファイル名。
メタデータのインポート	import metadata タイプのジョブで指定されたメタデータのインポート設定を使用して、リポジトリ内のファイルからアプリケーションにメタデータをインポートします。	名前: メタデータのインポートで定義されたバッチの名前。
バッチの実行	データ管理で定義されたジョブのバッチを実行します	名前: 実行されるレポートの名前(POV のディメンション・マップ(ディメンション、カテゴリ、期間)のパスなど) レポート・フォーマット・タイプ: レポートのファイル形式 (PDF 、 XLSX または HTML) パラメータ: 数および値は、レポートによって異なります Location : レポートの場所 (Comma_Vision など)
ビジネス・ルールの実行	ビジネス・ルールを起動します。	名前: 定義されている正確なビジネス・ルール名。 パラメータ: JSON 構文の実行時プロンプト。パラメータ名は、ルール定義で定義された名前と完全に同じにする必要があります。たとえば、 { "MyScenario1": "Current", "MyVersion1": "BU Version_1", "ToEntity": "CA", "Rule_Level_Var": "AZ", "planType": "Plan1" } 次のフォーマットもサポートされています。例: "Scenario=Actual" "Entity=Total Geography" "Year=FY21" "Period=Apr"

統合名	説明	パラメータ/説明
ビジネス・ルールセットの実行	ビジネス・ルールセットを起動します。実行時プロンプトのないルールセットやデフォルト値のある実行時プロンプトはサポートされません。	名前: 定義されている正確なビジネス・ルールセット名。 パラメータ: JSON 構文の実行時プロンプト。パラメータ名は、ルール定義で定義された名前と完全に同じにする必要があります。たとえば、 { "MyScenario1": "Current", "MyVersion1": "BU Version_1", "ToEntity": "CA", "Rule_Level_Var": "AZ", "planType": "Plan1" } 次のフォーマットもサポートされています。例: "Scenario=Actual" "Entity=Total Geography" "Year=FY21" "Period=Apr"

統合名	説明	パラメータ/説明
データ・ルールの実行	指定した開始期間および終了期間とインポート・オプションまたはエクスポート・オプションに基づいて、データ管理のデータ・ロード・ルールを実行します。	<p>ジョブ名: データ管理で定義されたデータ・ロード・ルールの名前。</p> <p>開始期間: データがロードされる最初の期間。この期間名は、データ管理の期間マッピングに定義されている必要があります。</p> <p>終了期間: データがロードされる最後の期間。この期間名は、データ管理の期間マッピングに定義されている必要があります。</p> <p>インポート・モード: データをデータ管理にインポートする方法を決定します。</p> <p>APPEND: 既存のルールに追加します</p> <p>データ管理の POV データ</p> <p>REPLACE: POV データを削除してファイルからのデータで置換します</p> <p>RECALCULATE: データのインポートをスキップしますが、更新されたマッピングおよび論理勘定科目があるデータは再処理します。</p> <p>NONE: データ管理のステージング表へのデータ・インポートをスキップします</p> <p>exportMode: データをデータ管理にエクスポートする方法を決定します。</p> <p>STORE_DATA: データ管理のステージング表のデータを既存の Oracle Hyperion Planning データとマージします</p> <p>ADD_DATA: データ管理のステージング表のデータを Planning に追加します</p> <p>SUBTRACT_DATA: データ管理のステージング表のデータを既存の Planning データから削除します</p> <p>REPLACE_DATA: POV データをクリアしてデータ管理のステージング表のデータで置換します。データがクリアされる対象は、シナリオ、バージョン、年、期間およびエンティティです</p>

統合名	説明	パラメータ/説明
		<p>NONE: データ管理から Planning へのデータのエクスポートをスキップします</p> <p>ファイル名: オプション。ファイル名を指定しないと、この API によって、データ・ロード・ルールに指定されたファイル名に含まれるデータがインポートされます。データ・ファイルは、データ・ルールの実行前に受信ボックスにすでに存在している必要があります。</p>

Profitability and Cost Management 用の統合

統合名	説明	パラメータ/説明
データ権限の適用	<p>指定された Oracle Profitability and Cost Management Cloud アプリケーションのデータ権限を適用します。この API は、Essbase でのデータ権限を作成して適用するジョブを発行します。この API は、Essbase での既存のすべてのデータ権限を削除し、アプリケーションの最新情報を持つデータ権限を再作成します。問題が発生した場合には、データ権限の修復にも使用できます。</p>	なし
ML キューブのデプロイ	<p>選択された Oracle Profitability and Cost Management Cloud アプリケーションの計算キューブをデプロイまたは再デプロイします。</p>	<p>isKeepData: 既存のデータを保存するかどうかを指定します</p> <p>isReplacecube: 既存のデータを置換するかどうかを指定します</p> <p>comment: ユーザー・コメント</p>

統合名	説明	パラメータ/説明
ML 計算の実行	<p>選択されたアプリケーションの計算を実行またはクリアします。管理元帳で使</p>	<p>povGroupMember: 計算を実行する POV グループ・メンバー(2015_January_Actual など)</p> <p>isClearCalculated: 計算データをクリアするかどうか(true または false)</p> <p>subsetStart: ルールセット開始連番</p> <p>subsetEnd: ルールセット終了連番</p> <p>Rule: SINGLE_RULE のルール名</p> <p>ruleSetName: SINGLE_RULE オプションのルールセット名</p> <p>exeType: 実行タイプは、実行するルールを指定します。使用可能な値は、ALL_RULES、RULESET_SUBSET、SINGLE_RULE です。他のパラメータは、exeType の値に応じて必要です。</p> <p>exeType: ALL_RULES は subsetStart、subsetEnd、ruleSetName、ruleName など、他のすべてのオプションを上書きします。</p> <p>exeType: RULESET_SUBSET は subsetStart および subsetEnd のみを考慮します。</p> <p>exeType: SINGLE_RULE は ruleSetName および ruleName のみを考慮します。</p> <p>Comment: コメント・テキストを使用します。</p> <p>Delimiter: POV グループ・メンバーの文字列区切り文字(アンダースコア(_)など)。</p>

統合名	説明	パラメータ/説明
ML POV のクリア	モデル・アーティファクトとデータをアプリケーションの POV の組合せからクリアします。	<p>POV GroupMember: 計算を実行する POV グループ・メンバー(2015_January_Actual など)</p> <p>isManageRule: プログラム・ルール詳細をクリアするかどうか</p> <p>isInputData: 入力データをクリアするかどうか</p> <p>IsAllocatedValues: 割り当てられた値をクリアするかどうか</p> <p>stringDelimiter: POV グループ・メンバーの文字列区切り文字</p>
ML POV のコピー	モデル・アーティファクトとデータをアプリケーションのソース POV の組合せから宛先 POV の組合せにコピーします。管理元帳アプリケーションで使用します。	<p>POV: パスに含まれます</p> <p>srcPOVMemberGroup: ソース POV メンバー・グループ(2014_January_Actual など)</p> <p>destPOVMemberGroup: 宛先 POV メンバー・グループ(2014_March_Actual など)</p> <p>isManageRule: プログラム・ルール詳細をコピーするかどうか</p> <p>isInputData: 入力データをコピーするかどうか</p> <p>modelViewName: ソース POV から宛先 POV にデータのスライスのコピーするかどうか</p> <p>宛先 POV の作成: 宛先 POV が存在していない場合に作成するかどうか</p> <p>文字列区切り文字: POV グループ・メンバーの文字列区切り文字</p>

統合名	説明	パラメータ/説明
データ・ルールの実行	<p>指定した開始期間および終了期間とインポート・オプションまたはエクスポート・オプションに基づいて、データ管理のデータ・ロード・ルールを実行します。</p>	<p>ジョブ名: データ管理で定義されたデータ・ロード・ルールの名前。</p> <p>開始期間: データがロードされる最初の期間。この期間名は、データ管理の期間マッピングに定義されている必要があります。</p> <p>終了期間: データがロードされる最後の期間。この期間名は、データ管理の期間マッピングに定義されている必要があります。</p> <p>インポート・モード: データをデータ管理にインポートする方法を決定します。</p> <p>APPEND: 既存のルールに追加します</p> <p>データ管理の POV データ</p> <p>REPLACE: POV データを削除してファイルからのデータで置換します</p> <p>RECALCULATE: データのインポートをスキップしますが、更新されたマッピングおよび論理勘定科目があるデータは再処理します。</p> <p>NONE: データ管理のステージング表へのデータ・インポートをスキップします</p> <p>エクスポート・モード: データをデータ管理にエクスポートする方法を決定します。</p> <p>STORE_DATA: データ管理のステージング表のデータを既存の Profitability and Cost Management データとマージします</p> <p>ADD_DATA: データ管理のステージング表のデータを Profitability and Cost Management に追加します</p> <p>SUBTRACT_DATA: データ管理のステージング表のデータを既存の Profitability and Cost Management データから削除します</p> <p>REPLACE_DATA: POV データをクリアしてデータ管理のステージング表のデータで置換します。データがクリアされる対象は、シナリオ、バージョン、年、期間およびエンティティです</p> <p>NONE: データ管理から Profitability and Cost</p>

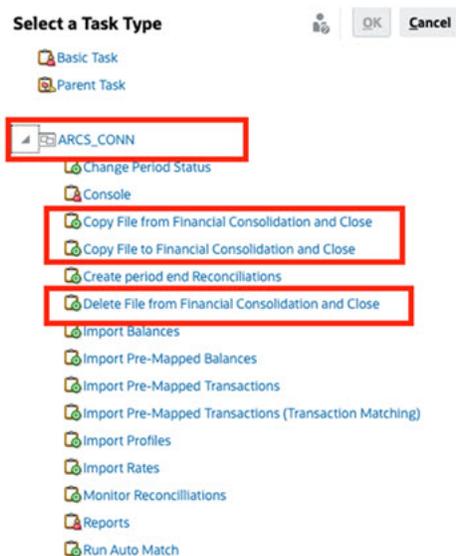
統合名	説明	パラメータ/説明
バッチ・ルールの実行	データ管理で定義されたジョブのバッチを実行します	Management へのデータのエクスポートをスキップします ファイル名: オプション 。ファイル名を指定しないと、この API によって、データ・ロード・ルールに指定されたファイル名に含まれるデータがインポートされます。データ・ファイルは、データ・ルールの実行前に受信ボックスにすでに存在している必要があります。
ディメンションの更新	フラット・ファイルを使用して作成されるアプリケーションの新しいディメンション・フラット・ファイルをアップロードします。これはプロセス自動統合です。詳細は、 ジョブとしてのディメンションの更新 を参照してください	ファイル名: データ・ファイル名 区切り文字: オプション ・パラメータ

統合ファイルのコピーおよび削除

EPM Cloud では、次の統合が一般的です:

- <EPM Cloud Service>からファイルをコピー
- <EPM Cloud Service>にファイルをコピー
- <EPM Cloud Service>からファイルを削除

例



これらの統合を実行するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**タスク・マネージャ**」をクリックします。
2. 左側の「**統合**」タブをクリックします。
3. 事前作成済の統合のリストから、「**<EPM Cloud Service>からファイルをコピー**」を選択します。これにより、現在のタスク・マネージャ・サービスからリモート EPM Cloud Service にファイルがコピーされます。たとえば、Tax Reporting でタスク・マネージャを構成し、Account Reconciliation 接続を設定した場合、**Tax Reporting からファイルをコピー**によって Tax Reporting から Account Reconciliation にファイルがコピーされます。

 **Note:**

これは、Enterprise Data Management を除くすべてのリモート EPM Cloud Service に適用されます。

- 次のパラメータを入力します:

* File Name	<input type="text"/>
Save File As	<input type="text"/>
External Directory Name	<input type="text"/>

- **ファイル名:** コピーするファイルを参照して選択します。
 - **ファイルに名前を付けて保存:** (元のファイル名とは異なる)ファイル名を入力します。
 - **外部ディレクトリ名(オプション):** ディレクトリの名前を選択します。
- 「**保存**」と「**閉じる**」をクリックします。
4. 「**<EPM Cloud Service>にファイルをコピー**」を選択します。これにより、別の EPM Cloud Service から、タスク・マネージャが構成されている現在のサービスにファイルがコピーされます。

 **Note:**

これは、Enterprise Data Management を除くすべてのリモート EPM Cloud Service に適用されます。

- 次のパラメータを入力します:
- **ファイル名:** コピーするファイルを参照して選択します。
 - **ファイルに名前を付けて保存:** (元のファイル名とは異なる)ファイル名を入力します。
 - **外部ディレクトリ名(オプション):** ディレクトリの名前を選択します。
- 「**保存**」と「**閉じる**」をクリックします。
5. 「**<EPM Cloud Service>からファイルを削除**」を選択します。これにより、EPM Cloud サービスからファイルが削除されます。

Note:

これは、Enterprise Data Management を除くすべてのリモート EPM Cloud Service に適用されます。

- 「ファイル名」で、コピーするファイルを参照して選択します。

* File Name

- 「保存」と「閉じる」をクリックします。

EPM Cloud 用の自動化統合も参照してください。

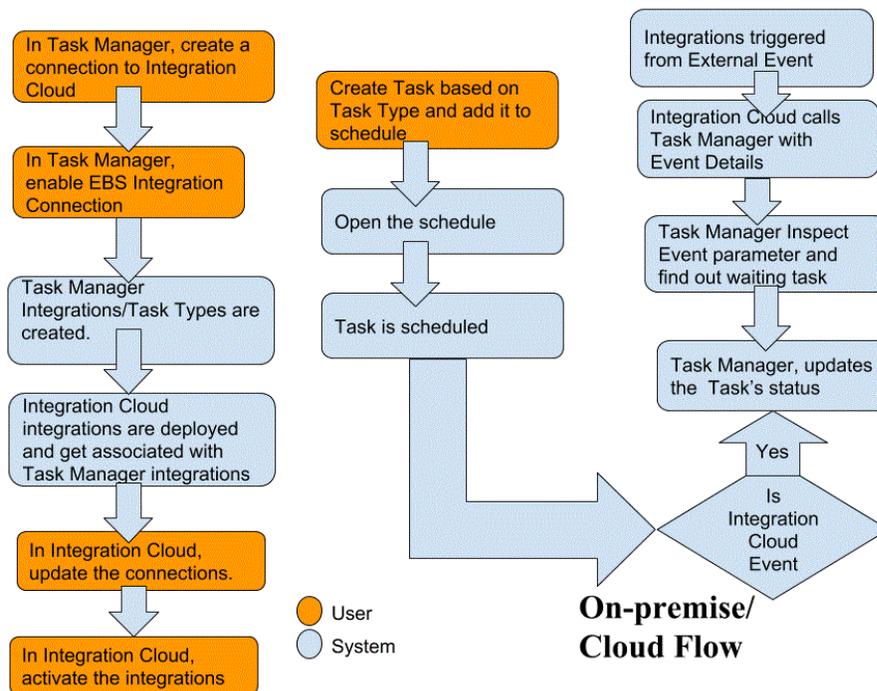
クラウドおよびオンプレミス・アプリケーションとの統合の管理

この付録では、次の事前作成済のタスク・マネージャ統合の設定方法について説明します:

- Oracle Cloud ERP 統合
- オンプレミス統合
- オンプレミス Oracle E-Business Suite イベント・モニタリング統合

EPM Cloud は、Oracle Integration Cloud をタスク・マネージャの統合プラットフォームとして使用して、EPM Cloud 以外のサービスで自動化されたタスクを実行します。

次の図に、Tax Reporting に適用されるシステムおよびユーザー・フローを示します:



Oracle Cloud ERP 用のエンド・ユーザー統合

タスク・マネージャのエンド・ユーザー統合では、リモートのクラウド環境の機能にアクセスできます。この項に、Oracle Cloud ERP に対する使用可能な タスク・マネージャのエンド・ユーザー統合をリストします。

リモートのクラウドの機能の説明は、そのクラウド・サービスのドキュメントを参照してください。

Oracle Cloud ERP - Assets 用のエンド・ユーザー統合

- 総勘定元帳との資産残高突合せ
- 資産取得価額要約
- 資産償却累計額要約
- 減価償却の計算
- 繰延償却の計算
- CIP 資産の資産計上
- 資産会計の作成
- 仕訳償却累計額元帳レポート
- 資産割当の管理
- 資産財務トランザクションの管理
- 一括除・売却の管理
- 一括振替の管理
- 税務台帳の定期一括コピー
- 期間クローズ例外レポート
- ソース明細の準備および一括追加の転記の発行
- 資産の再稼働
- 資産の除・売却

Oracle Cloud ERP - Cash Management 用のエンド・ユーザー統合

- 銀行取引明細書突合せ
- 会計の作成
- 現金の総勘定元帳との突合せレポート
- 補助元帳期間クローズ例外レポート

Oracle Cloud ERP - General Ledger 用のエンド・ユーザー統合

- 仕訳の自動転記
- 仕訳の自動逆仕訳
- 総勘定元帳期間のクローズ
- 配賦ルールの作成

- 貸借対照表決算整理仕訳の作成
- 損益計算書決算整理仕訳の作成
- 買掛/未払金の総勘定元帳との突合せデータの抽出
- 売掛/未収金の総勘定元帳との突合せデータの抽出
- 財務レポート・センター作業領域
- 一般会計ダッシュボード
- 配賦ルールの生成
- 総勘定元帳残高試算表
- 総勘定元帳平均残高試算表
- 総勘定元帳仕訳レポート
- 総勘定元帳一般仕訳レポート
- 一般会計仕訳詳細レポート
- 総勘定元帳仕訳帳レポート
- 総勘定元帳仕訳バッチ要約レポート
- 一般会計勘定科目詳細レポート
- 総勘定元帳相対勘定の勘定科目分析レポート
- 総勘定元帳平均残高監査会計分析レポート
- 総勘定元帳勘定科目分析レポート
- 総勘定元帳残高試算表レポート
- 仕訳のインポート
- 総勘定元帳の会計期間の管理
- 仕訳の管理
- 総勘定元帳期間のオープン
- 期間クローズ・ダッシュボード
- 買掛/未払金の総勘定元帳との突合せ
- 売掛/未収金の総勘定元帳との突合せ
- 残高の再評価
- 換算
- 残高相互元帳の転送
- セカンダリ元帳への残高の転送

Oracle Cloud ERP - Intercompany 用のエンド・ユーザー統合

- 会社間勘定詳細レポート
- 会社間照合
- 会社間トランザクション要約レポート
- 会社間トランザクション作業領域

- 会社間期間ステータスの管理
- 会社間トランザクションを総勘定元帳に転送
- 会社間トランザクションを売掛/未収金に転送
- 会社間トランザクションを買掛/未払金に転送

Oracle Cloud ERP - Payables 用のエンド・ユーザー統合

- 欠落している換算レートの適用
- 未完了の支払プロセス要求の完了または取消
- 買掛/未払金会計の作成
- 一括追加の作成
- 買掛/未払金の総勘定元帳との突合せデータの抽出
- 買掛/未払金請求書のインポート
- 買掛/未払金支払要求のインポート
- 買掛/未払金期間の管理
- オープン項目評価替えレポート
- 買掛/未払金未計上トランザクション・レポート
- 買掛/未払金請求書ランディング・ページ
- スイープ・オプションを指定した買掛/未払金未計上トランザクション・レポート
- 買掛/未払金残高試算表レポート
- 期間クローズ例外レポート
- 買掛/未払金の総勘定元帳との突合せレポートの確認
- トランザクション承認待ち
- 原価を原価管理に転送
- 満期支払手形ステータスの更新
- 満期支払手形ステータスの更新
- 未検証トランザクションの検証

Oracle Cloud ERP - Receivables 用のエンド・ユーザー統合

- 顧客与信の承認または否認
- 請求作業領域
- 入金自動決済
- 自動請求調整の作成
- 自動入金バッチの作成
- 入金送金バッチの作成
- 延滞手数料バッチの作成
- 自動入金消込の作成

- 売掛/未収金会計の作成
- 売掛/未収金から総勘定元帳への突合せデータの抽出
- 自動インボイスのインポート: マスター
- 売掛/未収金会計期間の管理
- 収益調整の管理
- 売掛/未収金残高作業領域
- ロック・ボックスを介した入金処理
- 収益の認識
- 総勘定元帳勘定科目別売掛/未収金年齢調べレポート
- 補助元帳期間クローズ例外レポートの発行

Oracle Cloud ERP - Tax 用のエンド・ユーザー統合

- 税金突合せレポート
- 課税対象勘定別税金突合せレポート

Cloud ERP 統合のアプリケーション・トークン値

トークン名: SERVER

トークンの説明: たとえば、この架空の URL のように、URL ベースの統合に使用されるプロパティ: `https://customer_chosen_domain_name_fa.DC.oraclecloud.com`

ノート:

URL の末尾にスラッシュ(/)を指定しないでください。

タスク・マネージャで ERP Cloud タスクを表示するための前提条件

タスク・マネージャで ERP Cloud タスクを表示するには、Cloud ERP アプリケーションで iFrame 内のサイトを表示できるようにする必要があります。Cloud ERP を開いたときに <Cloud ERP URL> への接続が拒否されましたというエラーが表示された空白のページが表示された場合は、これらの前提条件を満たしていることを確認してください。

1. Identity Cloud Service (IDCS) - iFrame を介した認証を許可します
 - a. IDCS 管理コンソールのナビゲーション・トレイで、「設定」 > 「セッション設定」をクリックします。
 - b. **すべての Cross-Origin Resource Sharing (CORS)** スライダを有効にします。
 - c. **許可されたソース・ドメイン名**に、EPM ルート URL を入力します
 - d. 「保存」をクリックします。 [IDCS - iFrame を介した認証を許可する方法\(ドキュメント ID 2565100.1\)](#)を参照してください。

 **ノート:**

IDCS を使用せず、シングル・サインオンに Okta などの他のアプリケーションを使用している場合は、EPM 用にそのアプリケーションで Cross-Origin Resource Sharing (CORS) を有効にする必要があります。

2. Oracle Cloud ERP Applications 管理者に、次のプロファイル・オプションについて Oracle Cloud アプリケーションに EPM Cloud ルート URL を追加して、Cross-Origin Resource Sharing (CORS) を有効にするように要求します:

- ORA_CORS_ORIGINS
- ORACLE.ADF.VIEW.ALLOWED_ORIGINS

プロファイル値を更新するには:

- a. Cloud ERP アプリケーションに管理者としてログインします。
- b. **ユーザー管理**メニューから、**設定および保守**に移動します。
- c. **管理者プロファイル値の管理**を検索します。
- d. プロファイル・コードとして ORACLE.ADF.VIEW.ALLOWED_ORIGINS を入力し、「**検索**」をクリックします。
- e. **プロファイル値**セクションで、値を指定します。サード・パーティの URL にアクセスするには、'self' とサード・パーティの URL を含めます(区切り文字として空白を使用します)。例:
'self' <空白> <url>

参照

- [Fusion Applications](#) でのデータのフェッチの問題を回避するための "ORACLE.ADF.VIEW.ALLOWED_ORIGINS" の有効な値(ドキュメント ID 2571613.1)
 - [ORACLE.ADF.VIEW.ALLOWED_ORIGINS](#) プロファイル・オプションの使用方法(ドキュメント ID 2856584.1)
 - [Visual Builder Studio](#) の管理
- f. ORA_CORS_ORIGINS プロファイル・オプションについても同じステップを繰り返します。

Oracle Cloud ERP に対するイベント・モニタリング統合

この項に、Oracle Cloud ERP に同梱されているイベント・モニタリング統合をリストします。

 **ノート:**

カスタムのプロセス自動化または Oracle Cloud ERP とのイベント・モニタリング統合については、[カスタム・タスク・マネージャ統合の作成](#)を参照してください。

サポートされている Oracle Cloud ERP General Ledger のイベント

次の一般会計イベントがサポートされています。

ソース	イベント	説明
一般会計	会計期間クローズ	一般会計の会計期間がクローズするとシグナルを送信します。
一般会計	会計期間オープン	一般会計の会計期間がオープンするとシグナルを送信します。
一般会計	会計期間再オープン	一般会計の会計期間が再オープンするとシグナルを送信します。
一般会計	仕訳バッチ承認	仕訳バッチが承認されるとシグナルを送信します。
一般会計	仕訳バッチ完了	仕訳バッチが転記されるとシグナルを送信します。

すぐに使用できる既存の接続に追加された統合

この表には追加された統合と、それらを使用してタスク・マネージャからモニターできるビジネス・イベントが記載されています。次のものが含まれます。

- タスク・マネージャ内の統合タイプ
- タスク・マネージャ内のタスク・タイプ
- Integration Cloud 内の統合フロー

接続名	統合名	統合コード	イベント名	説明	パラメータ
Oracle Cloud ERP - General Ledger	期間クローズ・イベント	R13GLPeriod Close	会計期間クローズ	Oracle Cloud ERP General Ledger 期間クローズ・イベント・モニタリング	LedgerName: 元帳の名前。たとえば、US Primary Ledger。 Period: 期間の名前。たとえば、01-19。
Oracle Cloud ERP - General Ledger	期間オープン・イベント	R13GLPeriod Open	会計期間オープン	Oracle Cloud ERP General Ledger 期間オープン・イベント・モニタリング	LedgerName: 元帳の名前。たとえば、US Primary Ledger。 Period: 期間の名前。たとえば、01-19。
Oracle Cloud ERP - General Ledger	期間再オープン・イベント	R13GLPeriod Reopen	会計期間再オープン	Oracle Cloud ERP General Ledger 期間再オープン・イベント・モニタリング	LedgerName: 元帳の名前。たとえば、US Primary Ledger。 Period: 期間の名前。たとえば、01-19。

接続名	統合名	統合コード	イベント名	説明	パラメータ
Oracle Cloud ERP - General Ledger	仕訳承認イベント	R13GLJournalBatchApprove	仕訳バッチ承認	Oracle Cloud ERP General Ledger 仕訳バッチ承認イベント・モニタリング	BatchName: 仕訳バッチ名 Period: 期間の名前。たとえば、01-19。
Oracle Cloud ERP - General Ledger	仕訳転記イベント	R13GLJournalBatchPost	仕訳バッチ転記	Oracle Cloud ERP General Ledger 仕訳バッチ転記イベント・モニタリング	BatchName: 仕訳バッチ名 Period: 期間の名前。たとえば、01-19。

タスク・マネージャでの統合の設定

タスク・マネージャでは、Oracle Cloud ERP - General Ledger のイベント・モニタリング統合を作成できます。イベント・モニタリング統合は、他のクラウド・サービスまたはオンプレミス・アプリケーションで外部イベントが発生するとトリガーされます。

Oracle Cloud ERP でビジネス・イベントが有効化されていることを確認します。REST API を使用してイベントを確認できます。*Oracle Financials Cloud REST API* ガイドの「ERP ビジネス・イベント REST エンドポイント」の項にある次のトピックを参照してください：

<https://docs.oracle.com/en/cloud/saas/financials/22d/farfa/api-erp-business-events.html>

イベントを検証するには、すべてのビジネス・イベント・レコードの取得に関する項を参照してください。

イベントが有効化されていない場合は、ビジネス・イベントに対する使用可能インジケータの更新に関する項を参照してください。

タスク・マネージャは、外部アプリケーションとのすべての統合に Oracle Integration Cloud を使用します。Basic 認証または OAuth 2.0 認証を使用して、タスク・マネージャで Oracle Integration Cloud への接続を設定できます。

ノート:

- Oracle Integration Cloud Generation 2 では、Basic 認証と OAuth 2.0 の両方がサポートされています。
- Oracle Integration Cloud Generation 3 では、OAuth 2.0 のみがサポートされています。
- Basic 認証ユーザーには、Oracle Integration Cloud のサービス管理者役割が必要です。
- OAuth 2.0 では、クライアント資格証明のみがサポートされています。OAuth 2.0 クライアント・アプリケーションでは、Oracle Integration Cloud のサービス管理者役割が必要で、許可されるスコープはすべてである必要があります。

OAuth 2.0 接続を設定する前に、アクセス・トークン URL、クライアント ID、クライアント・シークレット、スコープなどのクライアント資格証明があることを確認してください。OAuth

クライアント・アプリケーションの設定については、Oracle Integration Cloud Generation 3 のドキュメントの [Oracle Integration の OAuth 認証](#) を参照してください。

タスク・マネージャで Integration Cloud 接続を設定するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**タスク・マネージャ**」をクリックします。
2. 左側の「**統合**」タブをクリックします。
3. 「**接続の管理**」をクリックし、「**アクション**」から「**Integration Cloud 接続**」を選択します。
4. 次のいずれかの認証メカニズムを選択します:
 - **Basic 認証:** Integration Cloud の URL、サービス管理者のユーザー ID およびパスワードを指定します。
 - **OAuth 2.0:** Integration Cloud の URL、アクセス・トークン URL、クライアント ID、クライアント・シークレットおよびスコープを指定します。

 **ノート:**

URL の入力形式: `https://<SERVICE_NAME>-<TENANT_NAME>.integration.ocp.oraclecloud.com`

5. 「**検証**」をクリックします。検証が成功したら、「**保存**」をクリックします。これにより、接続のサーバーおよび資格証明が保存されます。

Oracle Cloud ERP - General Ledger 接続の有効化

Oracle Cloud ERP - General Ledger 接続を有効化するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**タスク・マネージャ**」をクリックします。
2. 左側の「**統合**」タブをクリックし、「**接続の管理**」をクリックします。
3. リストから「**Oracle Cloud ERP - General Ledger**」を選択し、「**アクション**」をクリックし、「**編集**」を選択します。
4. 「**接続の編集**」ダイアログで「**使用可能**」を選択し、「**OK**」をクリックします。
5. 「**Integration Cloud へのデプロイ**」ダイアログで、「**生成**」をクリックします。

Oracle Cloud ERP - General Ledger 接続がすでに有効になっている場合は、Oracle Integration Cloud に統合フローをデプロイします。これを行うには、統合画面からイベント・モニタリング統合を選択し、ツールバーから「**Integration Cloud へのデプロイ**」をクリックします。次に、「**Integration Cloud へのデプロイ**」ダイアログで「**生成**」をクリックします。

統合フローが Integration Cloud にデプロイされ、Integration Cloud Services にログインしてフローを表示できるようになります。

ノート:

Integration Cloud への接続を最初に有効化する際、アクティブ化中にすべての Integration Cloud デプロイメントが失敗します。管理者は Integration Cloud で統合をアクティブ化する必要があります。統合をアクティブ化する前に、管理者は Integration Cloud で統合を設定する必要があります。

Integration Cloud での統合フローの設定

Integration Cloud で統合フローを設定するには:

1. Integration Cloud Services にログインします。
2. 「**接続**」に移動します。
EPM Fusion 接続と **EPM 接続**は自動的に作成されます。
3. 環境および資格証明情報を指定して、接続を編集します。接続の作成の前提条件の詳細は、[接続の作成の前提条件](#)を参照してください。
 - **EPM Fusion 接続**は Oracle Cloud ERP への接続です。詳細は、[Oracle ERP Cloud アダプタの使用](#)を参照してください。
 - **EPM 接続**はタスク・マネージャ内の EPM Cloud Service への接続です。詳細は、[Oracle Enterprise Performance Management Cloud アダプタと Oracle Integration の使用](#)を参照してください。

接続を構成、テスト、保存すると、接続の隣に緑色のチェック・マークが表示されます。

Connection Name	contains	EPM	×	Clear
EPM Fusion Connection	ORACLE ERP CLOUD	Used by	Integrations	Trigger and Invoke
EPM Connection	ORACLE ENTERPRISE PERFORMANCE MANAGEMENT CLOUD	Used by	Integrations	Trigger and Invoke

4. タスク・マネージャに戻り、「**統合**」を選択します。
5. リストから統合を選択し、ツールバーから「**Integration Cloud へのデプロイ**」をクリックします。
6. 「**Integration Cloud へのデプロイ**」ダイアログで、「**生成**」をクリックします。

Cloud Integration デプロイメントが成功します。Oracle Integration Cloud サービス、統合の順にログインし、Integration Cloud でのアクティブ化のステータスを確認します。

テンプレートまたはスケジュールへのイベント・モニタリング・タスクの追加

設定が完了したイベント・モニタリング・タスクをスケジュールまたはテンプレートに追加できます。

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**タスク・マネージャ**」をクリックします。
2. 左側の「**テンプレート**」タブをクリックし、新しいテンプレート(**ERP イベント・テンプレート**など)を作成します。
3. イベント・モニタリング・タスクを作成します。[タスクの作成](#)を参照してください。

「タスク・タイプ」で、「Oracle Cloud ERP - General Ledger」を選択し、イベント・モニタリング・タスク(期間オープン・イベントなど)を選択します。

4. タスク・マネージャで「**テンプレート**」をクリックし、**ERP イベント・テンプレート**を選択して、スケジュールを作成します。[テンプレートからのスケジュールの作成](#)を参照してください。
5. タスク・マネージャで「**スケジュール**」をクリックし、スケジュールを選択して、ステータスを「**オープン**」に変更します。

「**スケジュール・タスク**」画面でスケジュール・タスクをモニターできます。

Oracle Cloud ERP での期間クローズ・イベントのトリガー

Oracle Cloud ERP で期間クローズ・イベントを発生させるには:

1. Oracle Cloud ERP にログインします。
2. 「**一般会計**」タブを選択し、「**期間クローズ**」を選択します。
3. 「**一般会計**」をクリックし、期間を選択して、「**クローズ期間**」をクリックします。

The screenshot shows the 'Close Period' interface in Oracle Cloud ERP. At the top, it displays 'Ledger: US Primary Ledger' and 'Application: General Ledger'. Below this is a table with columns: Accounting Period, Period Number, Year, Start Date, End Date, and Status. The table lists several periods, with the 05-19 period highlighted in blue. The status for the 05-19 period is 'Open'.

Accounting Period	Period Number	Year	Start Date	End Date	Status
07-19	7	2019	7/1/19	7/31/19	Open
05-19	6	2019	6/1/19	6/30/19	Open
05-19	5	2019	5/1/19	5/31/19	Open
04-19	4	2019	4/1/19	4/30/19	Open
03-19	3	2019	3/1/19	3/31/19	Open
02-19	2	2019	2/1/19	2/28/19	Open
01-19	1	2019	1/1/19	1/31/19	Open
AQ-18	13	2018	12/31/18	12/31/18	Open

4. タスクが完了するまで数分待ちます。次に、「**タスク**」内で「**スケジュール・タスク**」画面に移動し、タスクがクローズしたことを確認します。

Oracle Cloud ERP での期間オープン/再オープン・イベントのトリガー

Oracle Cloud ERP で期間オープン・イベントを発生させるには:

1. Oracle Cloud ERP にログインします。
2. 「**一般会計**」タブを選択し、「**期間クローズ**」を選択します。
3. 「**一般会計**」をクリックし、期間を選択して、「**オープン期間**」をクリックします。
4. タスクが完了するまで数分待ちます。次に、「**タスク**」内で「**スケジュール・タスク**」画面に移動し、タスクがクローズしたことを確認します。

ノート:

これまでオープンされたことのない期間をオープンすると、期間オープン・イベントが発生します。以前にクローズされた期間をオープンすると、期間再オープン・イベントが発生します。

Oracle Cloud ERP での仕訳バッチ承認イベントのトリガー

Oracle Cloud ERP で仕訳バッチ承認イベントを発生させるには:

1. Oracle Cloud ERP にログインします。
2. 「**一般会計**」タブを選択し、「**仕訳**」を選択します。
3. 「**ユーザーの承認が必要**」をクリックし、仕訳バッチを選択して、「**承認**」をクリックします。
4. タスクが完了するまで数分待ちます。次に、「**タスク**」内で「**スケジュール・タスク**」画面に移動し、タスクがクローズしたことを確認します。

ノート:

仕訳バッチ承認イベントをトリガーするには、そのイベントが複数レベル承認プロセス内の最後のプロセスである必要があります。

Oracle Cloud ERP での仕訳転記イベントのトリガー

Oracle Cloud ERP で仕訳バッチ承認イベントを発生させるには:

1. Oracle Cloud ERP にログインします。
2. 「**一般会計**」タブを選択し、「**仕訳**」を選択します。
3. 「**タスク**」をクリックし、「**仕訳の作成**」を選択します。
4. 「**仕訳の作成**」画面で必要な情報を指定し、「**保存**」をクリックします。

ノート:

仕訳バッチ名と会計期間は、タスク・マネージャ・スケジュール内のタスクのパラメータと一致している必要があります。

5. タスクが完了するまで数分待ちます。次に、「**タスク**」内で「**スケジュール・タスク**」画面に移動し、タスクがクローズしたことを確認します。

オンプレミス・アプリケーション用のエンド・ユーザー統合

タスク・マネージャのエンド・ユーザー統合では、オンプレミス環境の機能にアクセスできません。この項に、オンプレミス・アプリケーションに対する使用可能なタスク・マネージャのエンド・ユーザー統合をリストします。

オンプレミスの機能の説明は、そのアプリケーションのドキュメントを参照してください。

Hyperion Financial Management 用のエンド・ユーザー統合

- データのロード
- 会社間トランザクションのロード
- 仕訳のロード
- ドキュメントの管理

- 仕訳の承認
- 仕訳の作成
- データ・グリッド
- データの抽出
- ICT の抽出
- 仕訳の抽出
- 会社間照合テンプレート・レポート
- 勘定科目別会社間照合レポート
- トランザクション ID 別会社間照合レポート
- 会社間レポート
- 会社間トランザクション・レポート
- 仕訳レポート
- 出資比率の管理
- 仕訳の転記
- プロセス・コントロール
- ICT の処理
- タスク・リスト
- Web データ入力フォーム

Oracle E-Business Suite (EBS)用のエンド・ユーザー統合

買掛管理タスク

- 買掛/未払金期間のクローズ
- 経費精算書インポート
- 次の買掛/未払金期間をオープン
- 買掛/未払金承認ワークフロー
- 保留と解除の確認
- オープン・インタフェース・インポート(買掛/未払金オープン・インタフェース・インポート)
- 会社間トランザクション・インポート(買掛/未払金オープン・インタフェース・インポート)
- すべての未検証の請求書の検証(請求書の検証)
- 保留中請求書レポート
- 満期支払ステータスの更新(満期支払手形ステータスの更新)
- 仕訳を GL に転送
- 未計上トランザクション・レポートの実行(未計上トランザクション・レポート (XML))

- 未計上トランザクション・スイープの実行(未計上トランザクション・レポート(XML))
- 未計上トランザクション・スイープ・プログラムの実行(未計上トランザクション・レポート(XML))
- 転記済請求書登録レポート(買掛/未払金転記済請求書登録)
- 転記済支払登録レポート(買掛/未払金転記済支払登録)
- 買掛/未払金残高試算表レポートの実行(買掛/未払金残高試算表)
- 一括追加作成
- 買掛/未払金キー・インジケータ・レポートの実行(キー・インジケータ・レポート)
- 金融税登録の実行(RX のみ: 金融税登録)
- 税務監査証跡レポートの実行
- 使用税額レポートの実行
- EU 域内 VAT 監査証跡レポートの実行
- 源泉徴収税レポートの実行(AP 源泉徴収税レポート)
- 源泉徴収税務書類の生成(AP 源泉徴収税務書類)

売掛管理タスク

- 承認最終 AR トランザクション調整
- 最終 AR トランザクション調整の作成
- 定期消込の作成
- ロック・ボックス入金
- 後続期間のタスクのオープン
- 収益に対する手動偶発の削除
- 期間をクローズ保留中に設定
- 入金の手動消込
- 売掛/未収金期間のクローズ
- 請求書作成用のオーダー明細情報のインポート(自動請求書インポート・プログラム)
- 請求書作成用のオーダー明細情報のインポート - Oracle 以外(自動請求書インポート・プログラム)
- 収益認識の実行(収益認識)
- 会計の作成
- 未転記 AR 品目レポートの実行(未転記品目レポート)
- 入金登録レポートの実行(消込済入金登録)
- 最終会計の作成と GL への転送(会計の作成)
- 売掛/未収金の GL との突合せの生成(AR 突合せレポート)
- 売掛/未収金分析レポートの実行(キー・インジケータ・レポート - サマリー)

一般会計タスク

- 売掛金突合せ

- 賃料経費を配賦する自動配賦の生成
- 企業への財務実績の連結
- 評価替え通貨レートの維持
- 賃料経費の配賦算式のレビュー
- 補助元帳ソース仕訳の確認
- 貸倒引当金繰入の定型仕訳の生成
- 新規会計期間のオープン/会計期間のクローズ
- 補助元帳ソース仕訳の転記
- 保有外貨の評価替えの確認
- 前期見越しの戻入
- 暫定損益計算書レポートの実行
- 企業への財務実績の連結
- 親通貨への換算の実行
- 暫定詳細残高試算表レポートの実行(残高試算表 - 詳細)
- 外貨仕訳レポートの実行(仕訳 - 入力通貨)

Hyperion Profitability and Cost Management 用のエンド・ユーザー統合

- ジョブ・ライブラリ
- 計算の管理
- データベースの管理
- モデル・ビューの管理
- 問合せの管理
- ルールの管理
- モデル要約
- モデル検証
- POV マネージャ
- ルール・バランシング
- システム・レポート
- 配賦のトレース

Oracle Fusion Assets 用のエンド・ユーザー統合

- ソース明細の準備および一括追加の転記の発行
- CIP 資産の資産計上
- 資産財務トランザクションの管理
- 資産割当の管理
- 資産の除・売却

- 資産の再稼働
- 一括財務トランザクションの管理
- 一括除・売却の管理
- 一括振替の管理
- 総勘定元帳との資産残高突合せ
- 減価償却の計算
- 税務台帳の定期一括コピー
- 仕訳償却累計額元帳レポート
- 繰延償却の計算
- 資産会計の作成
- 資産取得価額要約
- 資産償却累計額要約
- 期間クローズ例外レポート

Oracle Fusion Cash Management 用のエンド・ユーザー統合

- 銀行勘定突合
- 会計の作成
- 補助元帳期間クローズ例外レポート
- 現金の総勘定元帳との突合せレポート

Oracle Fusion General Ledger 用のエンド・ユーザー統合

- 仕訳のインポート
- 仕訳の自動転記
- 仕訳の自動逆仕訳
- 一般配賦ルール
- 総勘定元帳残高試算表
- 総勘定元帳平均残高試算表
- 総勘定元帳仕訳レポート
- 総勘定元帳仕訳チェック・レポート
- 総勘定元帳仕訳帳レポート
- 総勘定元帳仕訳バッチ要約レポート
- 総勘定元帳レポート
- 総勘定元帳相対勘定の勘定科目分析レポート
- 総勘定元帳平均残高監査会計分析レポート
- 残高の再評価
- 換算

- 買掛/未払金の総勘定元帳との突合せデータの抽出
- 売掛/未収金の総勘定元帳との突合せデータの抽出
- 貸借対照表決算整理仕訳の作成
- 損益計算書決算整理仕訳の作成
- 総勘定元帳期間のクローズ
- 総勘定元帳期間のオープン
- セカンダリ元帳への残高の転送
- 残高相互元帳の転送
- 仕訳のレビュー・ダッシュボード
- 仕訳の管理
- 期間クローズ・ダッシュボード
- 財務レポート・センター作業領域
- 財務レポートのワークスペースの起動
- 買掛/未払金の総勘定元帳との突合せ
- 売掛/未収金の総勘定元帳との突合せ
- 総勘定元帳の会計期間の管理
- 配賦ルールの作成
- 総勘定元帳勘定科目分析レポート
- 総勘定元帳一般仕訳レポート
- 総勘定元帳残高試算表レポート

Oracle Fusion Intercompany 用のエンド・ユーザー統合

- 会社間トランザクション作業領域
- 会社間期間ステータスの管理
- 会社間トランザクションを総勘定元帳に転送
- 会社間トランザクションを売掛/未収金に転送
- 会社間トランザクションを買掛/未払金に転送
- 会社間勘定詳細レポート
- 会社間トランザクション要約レポート

Oracle Fusion Payables 用のエンド・ユーザー統合

- 外部システムからのトランザクションのインポート
- 会社間トランザクションのインポート
- 経費精算書のインポート
- 未検証トランザクションの検証
- 承認が必要なトランザクションを承認

- 満期支払手形ステータスの更新
- 欠落している換算レートの適用
- 買掛/未払金会計の作成
- 買掛/未払金未計上トランザクション・レポート
- スイープ・オプションを指定した買掛/未払金未計上トランザクション・レポート
- 期間クローズ例外レポート
- オープン項目評価替えレポート
- 期末突合せレポート
- 買掛/未払金残高試算表レポート
- 買掛/未払金の総勘定元帳との突合せデータの抽出
- 一括追加の作成
- 原価を原価管理に転送
- 未完了の支払プロセス要求の完了または取消
- 買掛/未払金期間のクローズ
- 次の買掛/未払金期間をオープン
- 買掛/未払金の総勘定元帳との突合せレポートの確認

Oracle Fusion Accounts Receivable 用のエンド・ユーザー統合

- 自動インボイスのインポート: マスター
- ロック・ボックスを介した入金処理
- 自動入金バッチの作成
- 入金送金バッチの作成
- 入金の自動決済
- 延滞手数料バッチの作成
- 自動入金消込の作成
- 収益認識
- 売掛/未収金会計の作成
- 補助元帳期間クローズ例外レポートの発行
- 売掛/未収金から総勘定元帳への突合せデータの抽出
- 総勘定元帳勘定科目別売掛/未収金年齢調べレポート
- 期間クローズ・レポートの実行
- 顧客与信の承認または否認

Oracle Fusion Tax 用のエンド・ユーザー統合

- 税金突合せレポート
- 課税対象勘定別税金突合せレポート

Hyperion Planning 用のエンド・ユーザー統合

- ビジネス・ルール
- セル詳細のクリア
- データのコピー
- バージョンのコピー
- カスタム・リンク
- データ・フォーム
- データ・ロードの設定
- 通貨換算の管理
- データ・フォームの管理
- ディメンションの管理
- 為替レートの管理
- メニュー管理
- プロセス管理
- セキュリティ・フィルタの管理
- スマート・リストの管理
- タスク・リストの管理
- ユーザー変数の管理
- プランニング・ユニット階層
- シナリオおよびバージョンの割当て
- タスクリスト

PeopleSoft 9.0 用のエンド・ユーザー統合

- GL およびサブシステムの期間のクローズ
- PS/nVision レポートの実行と確認
- サブシステムと外部仕訳の処理(仕訳ジェネレータ)
- 手動仕訳の入力
- 費用経過勘定の記帳
- 調整証憑の入力
- エラーのある証憑のレビュー/訂正
- 照合例外のレビュー/訂正
- 不完全な預入のレビュー
- 保留中品目の転記エラーの解決
- 適宜残高を消込み
- 回収困難な売掛/未収金の更新

- 未請求収益見越の記帳
- 未処理請求の確定
- 請求インターフェース・エラーの訂正
- AP 統制勘定の GL との突合せ
- 残高試算表レポートの確認
- AR 統制勘定の GL との突合せ
- 収益(請求)勘定科目の GL との突合せ
- 資産統制勘定の GL との突合せ
- 費用経過勘定の確認
- オープン AP 債務レポートの GL との突合せ
- 経過した AR 残高試算表の確認

PeopleSoft 9.1 用のエンド・ユーザー統合

- GL およびサブシステムの期間のクローズ
- PS/nVision レポートの実行と確認
- サブシステムと外部仕訳の処理(仕訳ジェネレータ)
- 手動仕訳の入力
- 費用経過勘定の記帳
- 調整証憑の入力
- エラーのある証憑のレビュー/訂正
- 照合例外のレビュー/訂正
- 不完全な預入のレビュー
- 保留中品目の転記エラーの解決
- 適宜残高を消込み
- 回収困難な売掛/未収金の更新
- 未請求収益見越の記帳
- 未処理請求の確定
- 請求インターフェース・エラーの訂正
- AP 統制勘定の GL との突合せ
- 残高試算表レポートの確認
- AR 統制勘定の GL との突合せ
- 収益(請求)勘定科目の GL との突合せ
- 資産統制勘定の GL との突合せ
- 費用経過勘定の確認
- オープン AP 債務レポートの GL との突合せ
- 経過した AR 残高試算表の確認

統合の設定

前提条件を満たしていることを確認し、次のステップに従ってタスク・マネージャと外部アプリケーションとの間に統合を設定します。

前提条件

タスク・マネージャを E-Business Suite などのオンプレミス・アプリケーションと統合するには、次が必要です:

- Oracle Integration Cloud Service へのサブスクリプション。

ノート:

Tax Reporting インスタンスごとに 1 つの Integration Cloud インスタンスが必要です。

- 設定された Oracle E-Business Suite (EBS)などのオンプレミス・アプリケーション。
1. Oracle Integration Cloud / Oracle Autonomous Integration Cloud をサブスクライブします。詳細は、[Integration Cloud Service のドキュメント](#) を参照してください。
 2. Oracle Integration Cloud の EBS アダプタに関する、Oracle Integration Cloud での Oracle E-Business Suite ビジネス・イベントを使用した統合エンドポイントのトリガーの項に示された前提条件を確認して完了します: <https://docs.oracle.com/cloud/latest/related-docs/ICEBS/toc.htm>
 3. Tax Reporting で、ホーム・ページから「**アプリケーション**」を選択し、「**タスク・マネージャ**」をクリックします。
 4. 左側の「**統合**」タブをクリックします。
 5. 「**接続の管理**」をクリックします。
 6. 「**接続の管理**」から、「**アクション**」で、「**Integration Cloud 接続**」を選択します。



Integration Cloud Connection ×

* URL

* Service Administrator

* Password

Validate

Deploy Save Close

7. Integration Cloud の接続 URL と資格証明を指定し、「**検証**」をクリックします。検証が成功したら、「**保存**」をクリックします。これにより、TRCS 接続のサーバーおよび資格証明が保存されます。

 **ノート:**

タスク・マネージャでは、EPM Cloud 以外の外部アプリケーションへのすべての統合に Integration Cloud を使用します。外部アプリケーションには、別のクラウド・サービスまたは E-Business Suite などのオンプレミス・アプリケーションも含まれます。「プロセスの自動化」または「イベント・モニタリング」統合タイプになります。

8. 一般会計と買掛管理の接続のための EBS 接続がすでに有効になっているかどうかに応じて、次のいずれかを実行します。
 - 一般会計と買掛管理の EBS 接続がすでに有効になっている場合、「**デプロイ**」、「**生成**」の順にクリックして、対応する Integration Cloud 統合を Integration Cloud にデプロイします
 - 一般会計と買掛管理の接続のための EBS 接続が有効になっていない場合は、次を実行します:
 - a. Tax Reporting の「**タスク・マネージャ**」で、「**統合**」に移動し、「**接続の管理**」をクリックします。
 - b. **E-Business Suite - 一般会計**を選択して編集します。「**有効**」チェック・ボックスを選択し、「**OK**」をクリックします。「**デプロイ**」、「**生成**」の順にクリックします。
 - c. **E-Business Suite - 買掛管理**についてこれらのステップを繰り返します。

統合タスク・タイプが作成され、Integration Cloud 統合の Integration Cloud Service へのデプロイも行われます。

 **ノート:**

最初にこれを実行する際に、Integration Cloud での接続が完了しないと、アクティブ化中にすべての Integration Cloud デプロイメントが失敗します。これは予期されているものです。これを修正するには:

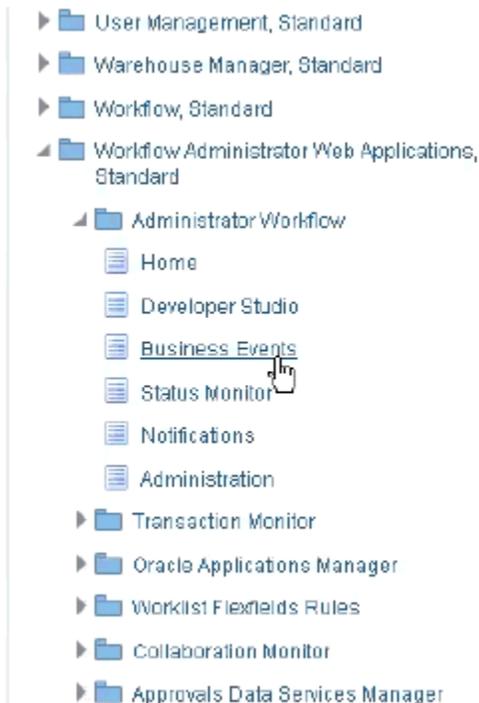
- a. Integration Cloud にログインします。
- b. 「**接続**」に移動します。「**FCCS**」および「**EBS**」という名前の 2 つの接続が表示されます。オプションで、「**検索**」を使用します。**FCCS** 接続を編集します。
 - **接続の構成**をクリックし、FCCS の URL に「<FCCS url>/HyperionPlanning/rest/cmapi/v1」を入力します
 - **セキュリティの構成**をクリックし、FCCS サービスのサービス管理者資格証明を入力します。「**テスト**」、「**保存**」の順にクリックします。

 **ノート:**

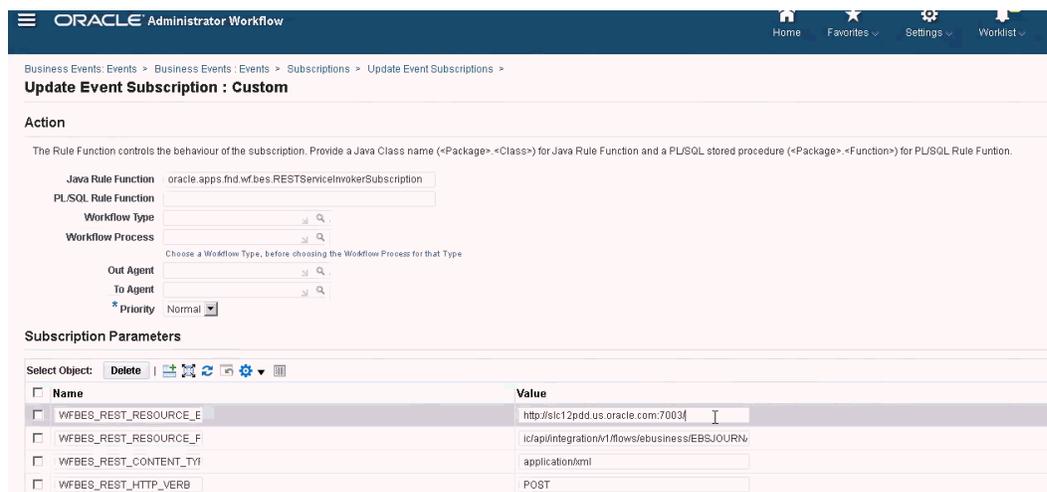
サービス管理者のユーザー ID は、次のリンクで指定されている形式にする必要があります: <https://docs.oracle.com/en/cloud/saas/enterprise-performance-management-common/prest/authentication.html>

EBS 接続を編集します。

- Oracle E-Business Suite の接続 URL および資格証明を入力します。
 - 「**テスト**」、「**保存**」の順にクリックします。
- c. **FCCS** から**タスク・マネージャ**を開き、「**統合の管理**」を選択します。
 - d. 「**接続の管理**」の「**アクション**」メニューで、「**Integration Cloud 接続**」を選択し、「**デプロイ**」、「**生成**」の順にクリックします。こうすると、デプロイメントはエラーなしで完了します。
9. 統合と EBS が正しくリンクされていることを確認します。これを行うには、Oracle E-Business Suite に管理者としてログインし、Integration Cloud REST サービスがビジネス・イベントのサブスクライバとして追加されていることを確認します。次に例を示します。



Integration Cloud Service が追加されたことを確認します。例:



オンプレミスの Oracle E-Business Suite (EBS)統合

EBS イベント・モニタリング用のタスク・マネージャ統合は次のとおりです。

- EBSJournalApprove
- EBSJournalPost
- EBSJournalPeriodClose
- EBSJournalPeriodOpen
- EBSJournalPeriodReopen

- EBSAPJournalPeriodOpenClose

モニターできるイベントは次のとおりです。

表 40-1 Oracle E-Business Suite のイベントおよび説明

統合名	イベント名	説明
仕訳承認イベント	oracle.apps.gl.Journals.journal.approve	一般会計: 仕訳承認
仕訳転記イベント	oracle.apps.gl.Journals.journal.post	一般会計: 転記完了
仕訳期間クローズ・イベント	oracle.apps.gl.CloseProcess.period.close	一般会計: 期間クローズ
仕訳期間オープン・イベント	oracle.apps.gl.CloseProcess.period.open	一般会計: 期間オープン
仕訳期間再オープン・イベント	oracle.apps.gl.CloseProcess.period.reopen	一般会計: 期間再オープン
買掛/未払金期間オープン/クローズ・イベント	oracle.apps.ap.CloseProcess.period	買掛管理: 期間オープン/クローズ/再オープン

表 40-2 一般会計仕訳統合タイプのパラメータ

名前	タイプ	必須	順序	非表示
バッチ ID	テキスト	はい	1	N

表 40-3 一般会計決算プロセス期間統合タイプのパラメータ

名前	タイプ	必須	順序	非表示
LedgerID	テキスト	はい	1	N
PeriodName	テキスト	はい	2	N

表 40-4 買掛管理統合タイプのパラメータ

名前	タイプ	必須	順序	非表示
LedgerID	テキスト	はい	1	N
PeriodName	テキスト	はい	2	N
アクション	静的リスト	はい	3	N

ビジネス・イベントの発行による結果の確認

必要なイベントをサブスクライブするように EBS ビジネス・イベント・システムを構成した後、ビジネス・イベントを実行して結果を確認できます。次の項では、追跡するイベントを発行する EBS タスクの実行方法について説明します。

一般会計 - 仕訳承認

oracle.apps.gl.Journals.journal.approve

EBS のステップ

1. EBS にログオンします。
2. 「一般会計」を選択し、左ツリーから「Vision Operations (USA)」役割を選択します。
3. 「仕訳」、「入力」の順に選択し、Oracle Applications が起動するのを待ちます。
4. このフォルダのレコードを検索しますかというメッセージには、「いいえ」をクリックします。
5. 仕訳の検索画面で、「新規バッチ」をクリックします。
ウィンドウ(Vision Operation (USA))が表示されます。
6. 「バッチ」に、一意のバッチ名を入力します。

ノート:

「保存」をクリックする場合、カーソルは「バッチ」フィールド内にある必要があります。

7. 「ファイル」を選択し、「保存」をクリックして、バッチを保存します。

ノート:

保存する場合、カーソルは「バッチ」フィールド内にある必要があります。

8. 1つ以上の仕訳を入力してくださいのメッセージには、「OK」をクリックします。
9. 「仕訳」をクリックします。
10. 「仕訳」フィールドに、一意の名前を入力します。
11. 行 1 で始まる明細行を入力します。勘定科目の借方および貸方の値を指定します。
12. 明細行の値の入力が終了したら、カーソルを「仕訳」フィールドに移動します。
13. 「ファイル」メニューに移動し、「新規」をクリックします。
14. 「変更を保存しますか？」のメッセージには、「はい」をクリックします。

ノート:

「はい」をクリックすると、複数の仕訳入力をバッチに追加できます。

最後の仕訳の仕訳入力終了したら、カーソルを「仕訳」フィールドに移動します。

15. 「ファイル」を選択し、「保存」をクリックして、最後の仕訳入力を保存します。
16. バッチ(Vision Operation (USA))にフォーカスし、「バッチ」フィールドを選択します。
17. 「ヘルプ」をクリックし、「診断」、「調査」の順に選択します。
18. Oracle パスワード **APPS** を入力します。

19. 「フィールド」に、「JE_BATCH_ID」と入力し、「値」内でクリックして、一意の仕訳バッチ ID を取得します。たとえば、

- **ブロック:** BATCH
- **フィールド:** JE_BATCH_ID
- **値:** 4776732

この値をメモ帳にコピーします。このバッチ ID は、イベント・モニタリング・タスクの Batch ID パラメータの値として使用されます。

タスク・マネージャでの次のステップ

1. 「保留中」状態で新しいスケジュールを作成します。
2. **仕訳承認イベント**(oracle.apps.gl.Journals.journal.approve)をモニターするイベント・モニタリング・タスク用のタスクを作成します。
3. 「パラメータ」タブで、EBS の仕訳バッチ ID として Batch ID の値を入力します。
4. タスクを保存し、スケジュールを「オープン」状態に設定します。

EBS での次のステップ

1. バッチ(Vision Operation (USA))で、指定したバッチに対して承認ボタンが有効化されています。
2. 「承認」をクリックして、仕訳承認イベントを発行します。

タスク・マネージャでの次のステップ

1. タスクが「オープン」状態に設定されるまで待ちます。EBS イベントの取得には数分かかります。
2. 2、3分後、**タスク・マネージャ**で「リフレッシュ」をクリックします。

仕訳バッチ承認関連の情報は、このドキュメントを参照してください。 http://download.oracle.com/docs/cd/A60725_05/html/comnls/us/gl/journa09.htm#_ja_submit

一般会計 - 仕訳転記イベント

oracle.apps.gl.Journals.journal.post

EBS のステップ

1. **EBS** にログオンします。
2. 「一般会計」を選択し、左ツリーから「**Vision Operations (USA)**」役割を選択します。
3. 「仕訳」、「入力」の順に選択し、Oracle Applications が起動するのを待ちます。
4. このフォルダのレコードを検索しますかというメッセージには、「いいえ」をクリックします。
5. 仕訳の検索画面で、「**新規バッチ**」をクリックします。
ウィンドウ(Vision Operation (USA))が表示されます。
6. 「**バッチ**」に、一意のバッチ名を入力します。

 **ノート:**

「保存」をクリックする場合、カーソルは「バッチ」フィールド内にある必要があります。

7. 「ファイル」を選択し、「保存」をクリックして、バッチを保存します。

 **ノート:**

保存する場合、カーソルは「バッチ」フィールド内にある必要があります。

8. 1つ以上の仕訳を入力してくださいのメッセージには、「OK」をクリックします。
9. 「仕訳」をクリックします。
10. 仕訳フィールドに一意の名前を入力します。
11. 行 1 で始まる明細行を入力します。勘定科目の借方および貸方の値を指定します。
12. 明細行の値の入力が終了したら、カーソルを「仕訳」フィールドに移動します。
13. 「ファイル」に移動し、「新規」をクリックします。
14. 「変更を保存しますか？」のメッセージには、「はい」をクリックします。

 **ノート:**

「はい」をクリックすると、複数の仕訳入力をバッチに追加できます。

最後の仕訳の仕訳入力が終了したら、カーソルを「仕訳」フィールドに移動します。

15. 「ファイル」を選択し、「保存」をクリックして、最後の仕訳入力を保存します。
16. バッチ (Vision Operation (USA)) にフォーカスを置き、**バッチ**・フィールドを選択します。
17. 「ヘルプ」をクリックし、「診断」、「調査」の順に選択します。
18. Oracle パスワード (「APPS」) を入力します。
19. 「フィールド」に、「JE_BATCH_ID」と入力し、「値」内でクリックして、一意の仕訳バッチ ID を取得します。たとえば、
 - **ブロック:** BATCH
 - **フィールド:** JE_BATCH_ID
 - **値:** 4776732

この値をメモ帳にコピーします。このバッチ ID は、イベント・モニタリング・タスクの Batch ID パラメータの値として使用されます。

タスク・マネージャでの次のステップ

1. 「保留中」状態で新しいスケジュールを作成します。

2. 仕訳承認イベント(`oracle.apps.gl.Journals.journal.post`)をモニターするイベント・モニタリング・タスク用のタスクを作成します。
3. 「パラメータ」タブで、EBS の仕訳バッチ ID として Batch ID の値を入力します。
4. タスクを保存し、スケジュールを「オープン」状態に設定します。

EBS での次のステップ

1. バッチ(Vision Operation (USA))では、「承認」ボタンが指定したバッチで有効になっています。
2. 「転記」をクリックして、仕訳承認イベントを発行します。
3. 「表示」、「要求」、「特定要求」の順に選択して、EBS 要求のステータスを調べます。
4. 前述の「要求 ID」を指定します。

タスク・マネージャでの次のステップ

1. タスクが「オープン」状態に設定されるまで待ちます。EBS イベントの取得には数分かかります。
2. 2、3分後、タスク・マネージャで「リフレッシュ」をクリックします。

仕訳バッチ転記関連情報の詳細は、次のドキュメントを参照してください: http://download.oracle.com/docs/cd/A60725_05/html/comnls/us/gl/content07.htm#w_conts_post

一般会計 - 仕訳期間クローズ

`oracle.apps.gl.CloseProcess.period.close`

EBS のステップ

1. EBS にログオンします。
2. 「一般会計」を選択し、左ツリーから「Vision Operations (USA)」役割を選択します。
3. オープン/クローズ、「入力」の順に選択し、Oracle Applications が起動するのを待ちます。
「期間の検索」ダイアログが表示されます。
4. 「検索」をクリックします。「期間のオープンおよびクローズ」ダイアログが表示されます。
5. 表示される期間のリストから、クローズする期間を選択します。
6. その期間の「ステータス」列を選択します。
7. ステータス・オプションをクリックします。ステータス・リスト・ボックスが開きます。
8. クローズ済ステータスを選択し、OK をクリックします。メモ帳に期間をメモします。
9. ステータスを保存するには、「ファイル」を選択し、「保存」をクリックします。
10. その期間の「ステータス」列を選択します。
11. 「ヘルプ」をクリックし、「診断」、「調査」の順に選択します。

12. Oracle パスワード(「APPS」)を入力します。
13. **フィールド**に **LEDGER_ID** と入力し、**値**内でクリックして一意の元帳 ID を取得します。
たとえば、
 - **ブロック:** PREVIOUS
 - **フィールド:** LEDGER_ID
 - **値:** 1

この値をメモ帳にコピーします。この元帳 ID は、イベント・モニタリング・タスクの LEDGER_ID パラメータの値として使用されます。

タスク・マネージャでの次のステップ

1. 「保留中」状態で新しいスケジュールを作成します。
2. **仕訳クローズ・イベント**(oracle.apps.gl.CloseProcess.period.close)をモニターするイベント・モニタリング・タスク用のタスクを作成します。
3. 「**パラメータ**」タブで、EBS の元帳 ID と期間名の値を入力します。例: 期間名: 12 月 10 日 元帳 ID: 1
4. タスクを保存し、スケジュールを「**オープン**」状態に設定します。

EBS での次のステップ

1. 「**期間のオープンとクローズ**」ダイアログを閉じます
2. 要求ノードの送信メッセージ・ボックスで「**OK**」をクリックします。
3. 「**表示**」、「**要求**」、**特定の要求**の順に選択して、EBS 要求のステータスを調べます。

タスク・マネージャでの次のステップ

1. タスクが「オープン」状態に設定されるまで待ちます。EBS イベントの取得には数分かかります。
2. 2、3 分後、**タスク・マネージャ**で「**リフレッシュ**」をクリックします。

一般会計期間の詳細は、次のドキュメントを参照してください:

http://docs.oracle.com/cd/A60725_05/html/comnls/us/gl/openper.htm

一般会計 - 仕訳期間オープン

oracle.apps.gl.CloseProcess.period.open

EBS のステップ

1. **EBS** にログオンします。
2. 「**一般会計**」を選択し、左ツリーから「**Vision Operations (USA)**」役割を選択します。
3. **オープン/クローズ**、「**入力**」の順に選択し、Oracle Applications が起動するのを待ちます。
「期間の検索」ダイアログが表示されます。
4. 「**検索**」をクリックします。「期間のオープンおよびクローズ」ダイアログが表示されます。
5. 表示される期間のリストから、オープンする期間を選択します。
6. オープンする期間をメモ帳にコピーします。

7. その期間の「ステータス」列を選択します。
8. 「ヘルプ」をクリックし、「診断」、「調査」の順に選択します。
9. Oracle パスワード **APPS** を入力します。
10. 「フィールド」に、「LEDGER_ID」と入力し、「値」内でクリックして、一意の元帳 ID を取得します。たとえば、

- **ブロック:** PREVIOUS
- **フィールド:** LEDGER_ID
- **値:** 1

この値をメモ帳にコピーします。この元帳 ID は、イベント・モニタリング・タスクの LEDGER_ID パラメータの値として使用されます。

タスク・マネージャでの次のステップ

1. 「保留中」状態で新しいスケジュールを作成します。
2. **仕訳期間オープン・イベント** (`oracle.apps.gl.CloseProcess.period.open`) をモニターするイベント・モニタリング・タスク用のタスクを作成します。
3. 「パラメータ」タブで、EBS の元帳 ID と期間名の値を入力します。例: 期間名: 12 月 10 日 元帳 ID: 1
4. タスクを保存し、スケジュールを「オープン」状態に設定します。

EBS での次のステップ

1. 「期間のオープン」をクリックします。
2. オープンする期間を選択し、「OK」をクリックしてイベントを発行します。
3. 「表示」、「要求」、「特定の要求」の順に選択して、EBS 要求のステータスを調べます。

タスク・マネージャでの次のステップ

1. タスクが「オープン」状態に設定されるまで待機します。EBS イベントの取得には数分かかります。
2. 2、3分後、**タスク・マネージャ**で「リフレッシュ」をクリックします。

一般会計期間の詳細は、次のドキュメントを参照してください:

http://docs.oracle.com/cd/A60725_05/html/comnls/us/gl/openper.htm

一般会計 - 仕訳期間再オープン

`oracle.apps.gl.CloseProcess.period.reopen`

EBS のステップ

1. **EBS** にログオンします。
2. **一般会計**を選択し、左のツリーから **Vision Operations (USA)** 役割を選択します。
3. **オープン/クローズ**、「入力」の順に選択し、Oracle Applications が起動するのを待ちます。

「期間の検索」ダイアログが表示されます。

4. 「**検索**」をクリックします。「期間のオープンおよびクローズ」ダイアログが表示されます。
5. 表示される期間のリストから、再オープンする期間を選択します。
6. 再オープンする期間をメモ帳にコピーします。
7. その期間の「**ステータス**」列を選択します。
8. 「**ヘルプ**」をクリックし、「**診断**」、「**調査**」の順に選択します。
9. Oracle パスワード **APPS** を入力します。
10. 「**フィールド**」に、「**LEDGER_ID**」と入力し、「**値**」内でクリックして、一意の元帳 ID を取得します。たとえば、
 - **ブロック**: PREVIOUS
 - **フィールド**: LEDGER_ID
 - **値**: 1

この値をメモ帳にコピーします。この元帳 ID は、イベント・モニタリング・タスクの LEDGER_ID パラメータの値として使用されます。

タスク・マネージャでの次のステップ

1. 「保留中」状態で新しいスケジュールを作成します。
2. **仕訳期間再オープン・イベント** (oracle.apps.gl.CloseProcess.period.reopen) をモニターするイベント・モニタリング・タスクのタスクを作成します。
3. 「**パラメータ**」タブで、EBS の元帳 ID と期間名の値を入力します。例: 期間名: 12 月 10 日 元帳 ID: 1
4. タスクを保存し、スケジュールを「**オープン**」状態に設定します。

EBS での次のステップ

1. 「**期間のオープン**」をクリックします。
2. オープンするクローズ済の期間を選択し、「**OK**」をクリックしてイベントを発行します。
3. 「**表示**」、「**要求**」、「**特定の要求**」の順に選択して、EBS 要求のステータスを調べます。

タスク・マネージャでの次のステップ

1. タスクが「オープン」状態に設定されるまで待ちます。EBS イベントの取得には数分かかります。
2. 2、3 分後、**タスク・マネージャ**で「**リフレッシュ**」をクリックします。

一般会計期間の詳細は、次のドキュメントを参照してください:

http://docs.oracle.com/cd/A60725_05/html/comnls/us/gl/openper.htm

買掛管理期間オープン/クローズ

oracle.apps.ap.CloseProcess.period

EBS のステップ

1. **EBS** にログオンします。
2. **買掛/未払金**を展開し、左ツリーから「**Vision Operations (USA)**」役割を展開します。

3. 「**勤定**」を展開し、「**買掛/未払金期間の管理**」を選択します。これにより、「買掛/未払金期間の管理」フォームが起動します。
4. 元帳および操作単位を指定します。買掛/未払金期間の検索ダイアログは閉じないでください。かわりに、次のステップを実行して、元帳 ID の値を識別します。
5. 「**ヘルプ**」をクリックし、「**診断**」、「**調査**」の順に選択します。
6. 資格証明が要求された場合、**APPS** スキーマ資格証明を指定します。「**調査**」フィールドおよび「**変数値**」フォームが表示されます。
7. 「**ブロック**」に、「**PERIOD_QF**」と入力します。「**フィールド**」に、「**SET OF BOOKS**」と入力し、「**値**」内でクリックして、一意の元帳 ID の数値を取得します。たとえば、
 - **ブロック**: PERIOD_QF
 - **フィールド**: SET OF BOOKS
 - **値**: 1

この値をメモ帳にコピーします。この元帳 ID は、イベント・モニタリング・タスクの LEDGER_ID パラメータの値として使用されます。

タスク・マネージャでの次のステップ

1. 「**保留中**」状態で新しいスケジュールを作成します。
2. **買掛/未払金期間オープン/クローズ・イベント**
(oracle.apps.ap.CloseProcess.period)をモニターするイベント・モニタリング・タスクのタスクを作成します。
3. 「**パラメータ**」タブで、EBS の元帳 ID、期間名およびアクションの値を入力します。例: 元帳 ID: 1、期間名: 12 月 10 日 アクション: クローズ済
4. タスクを保存し、スケジュールを「**オープン**」状態に設定します。

EBS での次のステップ

1. EBS の「**買掛/未払金期間の管理**」で期間を検索します。
2. その期間の**期間ステータス**列をクリックします。
3. 「**管理ステータス**」フォームで、適切なステータスを選択します。
4. 「**ファイル**」、「**保存**」の順に選択して、イベントを発行します。

タスク・マネージャでの次のステップ

1. タスクが「**オープン**」状態に設定されるまで待ちます。EBS イベントの取得には数分かかります。
2. 2、3分後、**タスク・マネージャ**で「**リフレッシュ**」をクリックします。

ノート:

EBS 実装では、「クローズ済」および「オープン」ステータスの場合のみ、イベントを発行します。永久にクローズ・ステータスの場合はイベントを発行しません。

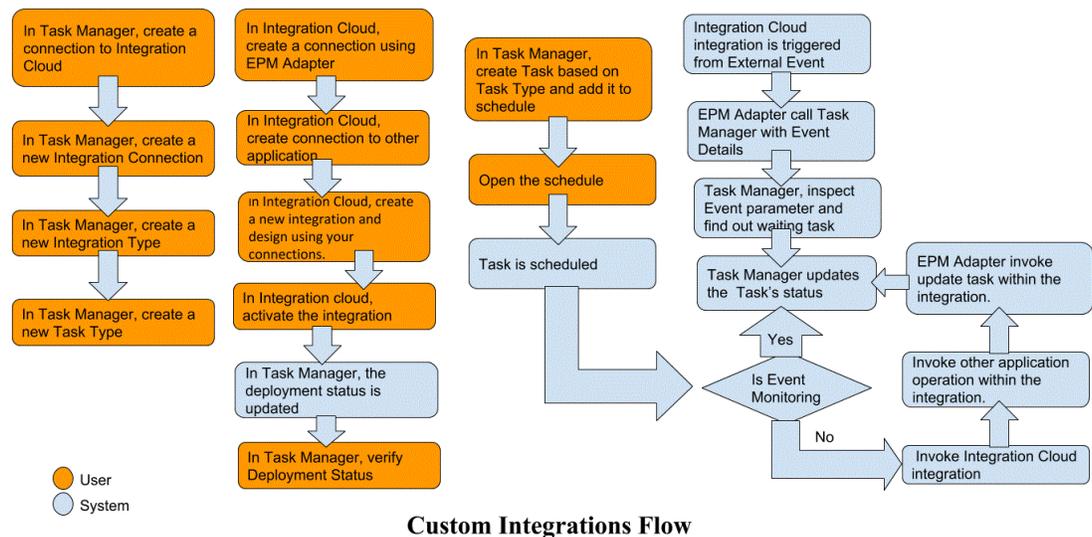
買掛/未払金期間の詳細は、次のドキュメントを参照してください:

https://docs.oracle.com/cd/A60725_05/html/comnlis/us/ap/ctlperst.htm

カスタム統合の作成

タスク・マネージャでは、外部アプリケーションとのカスタムのプロセスの自動化またはイベント・モニタリング統合を作成または管理できます。EPM Adapter によって、Oracle EPM Cloud やその他のクラウド、オンプレミス・アプリケーションを使用して Integration Cloud Service で接続および統合フローを作成できます。

次の図に、カスタム統合を作成する場合のユーザーおよびシステム・フローを示します。



次のトピックを参照してください。

- [カスタムのプロセス自動化統合の作成](#)
- [カスタムのイベント・モニタリング統合の作成](#)

エンド・ユーザー統合の作成

統合を作成するときは、「実行」タイプに「エンド・ユーザー」を選択します。それにより、定義されたこの統合に基づくタスク・タイプの作成や、統合の検証が可能になります。

統合を作成するには:

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
2. 左側の「統合」タブをクリックします。
3. 「新規」をクリックします。

[統合のプロパティの設定](#)および[統合のパラメータの設定](#)も参照してください。

カスタムのプロセス自動化統合の作成

タスク・マネージャで、外部アプリケーションとのカスタムのプロセス自動化統合を作成できます。プロセス自動化統合では、タスクの開始日時になり、先行タスク(たとえば、総勘定

元帳からの夜間のデータ入力などが完了している場合、外部アプリケーションでタスクが自動的に実行されます。

プロセスの自動化タスクを作成するときに電子メール通知を設定した場合、タスク所有者は、タスクの開始時または完了時に電子メール通知を自動的に受信します。ワークフローの設定時に指定された担当者は、タスク・ステータスに変更があり、承認などのアクションを実行する必要がある場合にアクション通知を受け取り、所有者は承認が完了すると通知を受け取ります。

前提条件を満たしていることを確認し、次のステップに従ってタスク・マネージャと外部アプリケーションとの間に統合を設定します。

カスタム統合フローの概要は、[カスタム統合の作成](#)を参照してください

前提条件

タスク・マネージャと外部アプリケーションを統合する場合、次のものがが必要です。

- オンプレミスまたは **EPM Cloud** 以外のサービスと統合する場合、**Oracle Integration Cloud Service** のサブスクリプション。

ノート:

Oracle EPM クラウド・インスタンスごとに **Integration Cloud** インスタンスが 1 つ必要です。

- 外部アプリケーションの設定。
1. **Oracle Integration Cloud/Oracle Autonomous Integration Cloud** をサブスクライブします。詳細は、[Integration Cloud Service のドキュメント](#) を参照してください。
 2. Oracle EPM クラウド・インスタンスと通信するために、現在のアプリケーション環境で **Integration Cloud** エージェントをインストールします。**Integration Cloud** エージェントの設定の詳細は、[エージェント・グループの管理](#)を参照してください。

ノート:

オンプレミス・アプリケーション・サービスが非武装地帯(DMZ)構成で設定された環境にデプロイされているため、それらのサービスがインターネット経由でパブリックにアクセス可能である場合は、**Integration Cloud** エージェントをインストールする必要はありません。

タスク・マネージャでの接続の作成

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
2. 左側の「**統合**」タブをクリックし、「**接続の管理**」をクリックします。
3. 「**新規**」をクリックします。
4. 「**接続**」に、接続の名前を入力します。

5. 「**使用可能**」を選択し、接続を有効にします。
6. 外部アプリケーションがクラウド・サービスの場合、「**クラウド**」を選択します。
7. 「**OK**」をクリックして接続を保存します。

タスク・マネージャでの統合の設定

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**タスク・マネージャ**」をクリックします。
2. 左側の「**統合**」タブをクリックし、「**新規**」をクリックします。
3. 「**プロパティ**」タブで必要な情報を指定します。
 - a. 「**名前**」に、統合の名前を入力します。
 - b. 「**コード**」に、統合タスクの統合コードを入力します。
コードは、統合を実行するため、またファイル・インポートから統合に更新をマップするために使用されます。
 - c. **オプション: 「説明」**に、統合タスクの説明を入力します
 - d. 「**接続**」に、タスクが属するアプリケーションを選択します。
アプリケーションのリストは、「**接続の管理**」ダイアログ・ボックスの「**接続の管理**」アイコンからメンテナンスできます。
 - e. 「**実行タイプ**」に「**プロセスの自動化**」を選択します。
4. 「**パラメータ**」タブで、「**新規**」をクリックし、必要な情報を指定します:
 - a. 「**名前**」に、パラメータの名前を入力します。
 - b. 「**パラメータ・コード**」に、パラメータ・コードを入力します。
 - c. **オプション:** パラメータの**ツールチップ**を入力します。
 - d. 「**パラメータ・タイプ**」リストからタイプを選択し、そのパラメータの追加情報を入力します。
 - **チェック・ボックス:** ブール値
 - **日付:** 日付値
 - **整数:** 自然数での数値
 - **数値:** 自然数または小数での数値
 - **オプション・グループ:** 事前に定義された一連の値用のチェック・ボックス
 - **静的リスト:** 事前に定義された一連のテキスト値
 - **タスク情報:** たとえば、担当者、期間、開始日、終了日などのタスク情報
 - **テキスト:** 自由形式のテキスト値。
 - **EPM アーティファクト:** アーティファクトの名前(フォームやレポートなど)。
 - e. パラメータの値が必須の場合は、「**必須**」を選択します
 - f. 「**OK**」をクリックしてパラメータを保存します。
 - g. 「**保存して閉じる**」をクリックして統合を保存します。

統合のタスク・タイプの作成

1. ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「タスク・マネージャ」をクリックします。
2. 左側の「タスク・タイプ」タブをクリックします。
3. 「新規」をクリックします。
4. 「プロパティ」タブで、タスク・タイプ名とタスク・タイプ ID を指定します。
5. 「統合」で「検索」をクリックし、統合を選択して「OK」をクリックします。
6. 「パラメータ」タブで、タスク・タイプのパラメータを設定します。

タスク・マネージャでの Integration Cloud 接続の設定

タスク・マネージャは、外部アプリケーションとのすべての統合に Oracle Integration Cloud を使用します。Basic 認証または OAuth 2.0 認証を使用して、タスク・マネージャで Oracle Integration Cloud への接続を設定できます。

ノート:

- Oracle Integration Cloud Generation 2 では、Basic 認証と OAuth 2.0 の両方がサポートされています。
- Oracle Integration Cloud Generation 3 では、OAuth 2.0 のみがサポートされています。
- Basic 認証ユーザーには、Oracle Integration Cloud のサービス管理者役割が必要です。
- OAuth 2.0 では、クライアント資格証明のみがサポートされています。OAuth 2.0 クライアント・アプリケーションでは、Integration Cloud のサービス管理者役割が必要で、許可されるスコープはすべてである必要があります。

OAuth 2.0 接続を設定する前に、アクセス・トークン URL、クライアント ID、クライアント・シークレット、スコープなどのクライアント資格証明があることを確認してください。OAuth クライアント・アプリケーションの設定については、Oracle Integration Cloud Generation 3 のドキュメントの [Oracle Integration の OAuth 認証](#) を参照してください。

タスク・マネージャで Integration Cloud 接続を設定するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「タスク・マネージャ」をクリックします。
2. 左側の「統合」タブをクリックします。
3. 「接続の管理」をクリックし、「アクション」から「Integration Cloud 接続」を選択します。
4. 次のいずれかの認証メカニズムを選択します:
 - **Basic 認証:** Integration Cloud の URL、サービス管理者のユーザー ID およびパスワードを指定します。

- **OAuth 2.0:** Integration Cloud の URL、アクセス・トークン URL、クライアント ID、クライアント・シークレットおよびスコープを指定します。

 **ノート:**

URL の入力形式: `https://<SERVICE_NAME>-<TENANT_NAME>.integration.ocp.oraclecloud.com`

5. 「**検証**」をクリックします。検証が成功したら、「**保存**」をクリックします。これにより、接続のサーバーおよび資格証明が保存されます。

Integration Cloud での接続と統合の作成

1. Integration Cloud にログインします。
2. Oracle Enterprise Performance Management Cloud アダプタを使用して EPM サーバーへの接続を作成します。詳細は、次のリンクを参照してください: [Oracle Enterprise Performance Management Cloud への接続の作成](#)。
3. 必要に応じて、他のアプリケーションへの 1 つ以上の接続を作成します。
4. 作成した接続を使用してプロセス自動化統合を作成し、アクティブ化します。次の例を参照してください: [Oracle Integration での Oracle Enterprise Performance Management Cloud アダプタの使用](#)。

タスク・マネージャでの統合の設定の完了

次のステップを使用して、タスク・マネージャで統合の設定を完了します。

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**タスク・マネージャ**」をクリックします。
2. 左側の「**統合**」タブをクリックし、「統合」リストに新しい統合が表示されていることを確認します。
3. タスク・マネージャで「**スケジュール**」を選択し、新しいスケジュールを保留中状態で作成します。[スケジュールの手動作成](#)を参照してください。
4. プロセス自動化タスクを作成し、スケジュールに追加します。[タスクの作成](#)を参照してください。
5. 「**スケジュール**」から、スケジュールを選択し、開きます。

カスタムのイベント・モニタリング統合の作成

タスク・マネージャで、外部アプリケーションに対するイベント・モニタリング統合を作成できます。イベント・モニタリング統合は、他のクラウド・サービスまたはオンプレミス・アプリケーションで外部イベントが発生するとトリガーされます。イベント・モニタリング統合の例は、期間(2018年1月などの)のクローズ時の Oracle E-Business Suite - General Ledger からのトリガーです。

前提条件を満たしていることを確認し、次のステップに従ってタスク・マネージャと外部アプリケーションとの間に統合を設定します。

カスタム統合フローの概要は、[カスタム統合の作成](#)を参照してください

前提条件

ノート:

イベント・モニタリングは、REST API を起動できる任意の統合ツールによってトリガーすることもできます。その場合、次の前提条件は必要ありません。

タスク・マネージャと外部アプリケーションを統合する場合、次のものがが必要です。

- オンプレミスまたは EPM Cloud 以外のサービスと統合する場合、Oracle Integration Cloud Service のサブスクリプション。

ノート:

Oracle EPM クラウド・インスタンスごとに Integration Cloud インスタンスが 1 つ必要です。

- 外部アプリケーションの設定。
1. Oracle Integration Cloud / Oracle Autonomous Integration Cloud をサブスクライブします。詳細は、[Integration Cloud Service のドキュメント](#) を参照してください。
 2. Oracle EPM クラウド・インスタンスと通信するために、現在のアプリケーション環境で Integration Cloud エージェントをインストールします。Integration Cloud エージェントの設定の詳細は、[エージェント・グループの管理](#) を参照してください。

ノート:

オンプレミス・アプリケーション・サービスが非武装地帯(DMZ)構成で設定された環境にデプロイされているため、それらのサービスがインターネット経由でパブリックにアクセス可能である場合は、Integration Cloud エージェントをインストールする必要はありません。

タスク・マネージャでの統合の設定

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**タスク・マネージャ**」をクリックします。
2. 左側の「**統合**」タブをクリックし、「**新規**」をクリックします。
3. 「**プロパティ**」タブで必要な情報を指定します。
4.
 - a. 「**名前**」に、統合の名前を入力します。
 - b. 「**コード**」に、統合タスクの統合コードを入力します。

コードは、統合を実行するため、またファイル・インポートから統合に更新をマップするために使用されます。

- c. **オプション:** 「説明」に、統合タスクの説明を入力します
 - d. 「接続」に、タスクが属するアプリケーションを選択します。
アプリケーションのリストは、「接続の管理」ダイアログ・ボックスの「接続の管理」アイコンからメンテナンスできます。
 - e. 「実行タイプ」に「イベント・モニタリング」を選択します。
 - f. 「イベント名」に、イベントの名前を入力します。
5. 「パラメータ」タブで、「新規」をクリックし、必要な情報を指定します。
- a. 「名前」に、パラメータの名前を入力します。
 - b. 「パラメータ・コード」に、パラメータ・コードを入力します。
 - c. **オプション:** パラメータのツールチップを入力します。
 - d. 「パラメータ・タイプ」リストからタイプを選択し、そのパラメータの追加情報を入力します。
 - **チェック・ボックス:** ブール値
 - **日付:** 日付値
 - **整数:** 自然数での数値
 - **数値:** 自然数または小数での数値
 - **オプション・グループ:** 事前に定義された一連の値用のチェック・ボックス
 - **静的リスト:** 事前に定義された一連のテキスト値
 - **タスク情報:** たとえば、担当者、期間、開始日、終了日などのタスク情報
 - **テキスト:** 自由形式のテキスト値
 - **EPM アーティファクト:** アーティファクトの名前(フォームやレポートなど)
 - e. パラメータの値が必須の場合は、「必須」を選択します
 - f. 「OK」をクリックしてパラメータを保存します。
 - g. 「保存して閉じる」をクリックして統合を保存します。

統合のタスク・タイプの作成

1. ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「タスク・マネージャ」をクリックします。
2. 左側の「タスク・タイプ」タブをクリックします。
3. 「新規」をクリックします。
4. 「プロパティ」タブで、**タスク・タイプ名**と**タスク・タイプ ID**を指定します。
5. 「統合」で「検索」をクリックし、統合を選択して「OK」をクリックします。
6. 「パラメータ」タブで、タスク・タイプのパラメータを設定します。

タスク・マネージャでの Integration Cloud 接続の設定

タスク・マネージャは、外部アプリケーションとのすべての統合に Oracle Integration Cloud を使用します。Basic 認証または OAuth 2.0 認証を使用して、タスク・マネージャで Oracle Integration Cloud への接続を設定できます。

 ノート:

- Oracle Integration Cloud Generation 2 では、Basic 認証と OAuth 2.0 の両方がサポートされています。
- Oracle Integration Cloud Generation 3 では、OAuth 2.0 のみがサポートされています。
- Basic 認証ユーザーには、Oracle Integration Cloud のサービス管理者役割が必要です。
- OAuth 2.0 では、クライアント資格証明のみがサポートされています。OAuth 2.0 クライアント・アプリケーションでは、Integration Cloud のサービス管理者役割が必要で、許可されるスコープはすべてである必要があります。

OAuth 2.0 接続を設定する前に、アクセス・トークン URL、クライアント ID、クライアント・シークレット、スコープなどのクライアント資格証明があることを確認してください。OAuth クライアント・アプリケーションの設定については、Oracle Integration Cloud Generation 3 のドキュメントの [Oracle Integration の OAuth 認証](#) を参照してください。

タスク・マネージャで Integration Cloud 接続を設定するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**タスク・マネージャ**」をクリックします。
2. 左側の「**統合**」タブをクリックします。
3. 「**接続の管理**」をクリックし、「**アクション**」から「**Integration Cloud 接続**」を選択します。
4. 次のいずれかの認証メカニズムを選択します:
 - **Basic 認証:** Integration Cloud の URL、サービス管理者のユーザー ID およびパスワードを指定します。
 - **OAuth 2.0:** Integration Cloud の URL、アクセス・トークン URL、クライアント ID、クライアント・シークレットおよびスコープを指定します。

 ノート:

URL の入力形式: `https://<SERVICE_NAME>-<TENANT_NAME>.integration.ocp.oraclecloud.com`

5. 「**検証**」をクリックします。検証が成功したら、「**保存**」をクリックします。これにより、接続のサーバーおよび資格証明が保存されます。

Integration Cloud での統合の設定

ノート:

Integration Cloud の使用を計画していない場合は、このステップをスキップします。

Integration Cloud で統合を設定するには:

1. Integration Cloud にログインします。
2. Oracle Enterprise Performance Management Cloud アダプタを使用して EPM サービスへの接続を作成します。詳細は、次のリンクを参照してください: [Oracle Enterprise Performance Management Cloud への接続の作成](#)。
3. 必要に応じて、他のアプリケーションへの 1 つ以上の接続を作成します。
4. 作成した接続を使用してイベント・モニタリング統合を作成し、アクティブ化します。次の例を参照してください: [Oracle Integration での Oracle Enterprise Performance Management Cloud アダプタの使用](#)。

Integration Cloud を使用しない統合の設定

ノート:

Integration Cloud の使用を計画している場合は、このステップをスキップします。

使用を計画している統合ツールを構成します。

1. REST API を *Oracle Enterprise Performance Management Cloud の REST API のイベント・モニタリングのタスク・ステータスの更新* で確認します。

2. REST API を呼び出してイベントのパラメータを渡してイベント・モニタリング・タスクをクローズするように統合ツールを構成します。

詳細は、の *イベント・モニタリングのタスク・ステータスの更新* を参照してください *Oracle Enterprise Performance Management Cloud の REST API*

タスク・マネージャでの統合の設定の完了

次のステップを使用して、タスク・マネージャで統合の設定を完了します。

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**タスク・マネージャ**」をクリックします。
2. 左側の「**統合**」タブをクリックし、新しい統合が表示されていることを確認します。
3. タスク・マネージャで「**スケジュール**」をクリックし、新しいスケジュールを保留中状態で作成します。 [スケジュールの手動作成](#) を参照してください。
4. イベント・モニタリング・タスクを作成し、スケジュールに追加します。 [タスクの作成](#) を参照してください。
5. 「**スケジュール**」から、スケジュールを選択し、開きます。

- 外部アプリケーション(EBS など)でイベントを生成するアクションをトリガーします。Integration Cloud を使用しないで他の統合ツールを使用する場合は、統合ツールから REST API を起動します。

ノート:

統合タイプ、イベント、パラメータによって予期されているとおりにパラメータを渡します。そうしないと、それらが一致しない場合はタスクは考慮されません。

- タスクの完了を待ちます。
- オプション:** Integration Cloud Services で統合のステータスをモニターするには、Integration Cloud にログインし、**モニタリング**に移動します。

統合の操作

関連トピック:

- [統合の作成](#)
- [統合の表示](#)
- [統合の編集](#)
- [統合の検索](#)
- [統合の検証](#)
- [統合の削除](#)

統合の作成

統合を作成するときは、「実行」タイプに「エンド・ユーザー」を選択します。それにより、定義されたこの統合に基づくタスク・タイプの作成や、統合の検証が可能になります。

統合を作成するには:

- ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
- 左側の「**統合**」タブをクリックします。
- 「**新規**」をクリックします。

次に示す項で、さらに説明します。

- [統合のプロパティの設定](#)
- [統合のパラメータの設定](#)

統合のプロパティの設定

関連付けられたアプリケーションやエンド・ユーザー・タスクなど、統合のプロパティを設定できます。

エンド・ユーザー・タスクの場合、「SSO パラメータ」オプションを選択すると、ユーザーが認証を要求されずに外部 Web アプリケーションにアクセスすることができます。外部アプリケーションが Oracle EPM System SSO フレームワークと統合されている場合、そのアプリケーションに SSO パラメータを使用できます。

統合のプロパティを設定するには:

1. 編集する統合を選択します。
2. 「プロパティ」で「名前」に統合の名前を入力します。入力できる最大文字数は 80 文字です。
3. Hyperion Financial Management Consolidate 統合タスクの場合は HFM_CONS のように、「コード」を入力します。最大 90 文字まで入力できます。
コードは、統合を実行するため、また統合に更新をマップするために使用されます。
4. オプション: 「説明」に、統合タスクの説明を入力します最大 255 文字まで入力できます。
5. 「接続」に、タスクが属するアプリケーションを選択します。

ノート:

アプリケーションのリストは、「接続の管理」ダイアログ・ボックスの「接続の管理」アイコンからメンテナンスできます。

6. 「実行タイプ」で、「エンド・ユーザー」を選択し、オプションを選択します:
 - **エンド・ユーザー・エンドポイント:** エンド・ユーザー・タスクのパラメータを入力する場合、「エンド・ユーザー・エンドポイント」には、次のフォーマットでパラメータを入力する必要があります:
`$パラメータ・タイプ・コード$` (例: \$COLORS\$)。「エンド・ユーザー・エンドポイント」のパラメータ・トークンは、タスクのパラメータに指定された情報で置き換えられます。
 - **オプション: インラインで表示:** 「タスク・アクション」ダイアログ内で、URL をインラインで表示するかどうかを選択します。
 - **オプション: SSO パラメータ:** アプリケーションの SSO パラメータ名を指定して、外部アプリケーションへのエンド・ユーザー・タスク URL を実行したときに含まれるようにします。SSO パラメータを指定しない場合、システムではエンド・ユーザー URL が使用されます。
7. オプション: 「パラメータ」をクリックします。

統合のパラメータの設定

タスク・マネージャ統合のパラメータにより、アプリケーションからエンド・ポイントに、アクションの実行方法を制御する情報を渡すことができます。たとえば、連結を実行する場合、プログラムでは、連結の実行対象にするアプリケーションや、連結のディメンション選択を渡すことができます。統合で定義されたパラメータ値は、その統合を使用してタスクまたはタスク・タイプで設定します。

各パラメータの定義には、名前、説明、一意のコード、タイプ、および値が必須かどうかの設定が必要です。パラメータ・コードは、ユーザー・タスクでは実行 URL 内のパラメータ

を、システム自動統合では実行 Web サービスに渡されるパラメータ名を置換するトークンです。必須の値は、スケジュール内のすべてのタスクに 1 つの値を指定しないと、そのスケジュールは「オープン」に設定できません。

パラメータ・タイプにより、パラメータ値と、ユーザーがタスク・フィールドに値を入力する方法を制御します。サポートされているパラメータ・タイプ:

統合のパラメータを設定するには:

1. 「**新規統合**」ダイアログ・ボックスで、「**パラメータ**」をクリックします。
2. 「**新規**」をクリックします。
3. パラメータの**名前**を入力します。
4. **パラメータ・コード**を入力します。
5. パラメータの**ツールチップ**を入力します。
6. 「**パラメータ・タイプ**」リストからタイプを選択し、そのパラメータの追加情報を入力します。
 - **チェック・ボックス**: ブール値
 - **日付**: 日付値
 - **整数**: 自然数での数値
 - **数値**: 自然数または小数での数値
 - **オプション・グループ**: 事前に定義された一連の値用のチェック・ボックス
 - **静的リスト**: 事前に定義された一連のテキスト値
 - **タスク情報**: たとえば、担当者、期間、開始日、終了日などのタスク情報
 - **テキスト**: 自由形式のテキスト値。
 - **EPM アーティファクト**: アーティファクトの名前(フォームやレポートなど)
7. パラメータの値が必須の場合は、「**必須**」を選択します
8. 「**OK**」をクリックしてパラメータを保存します。
9. 「**保存して閉じる**」をクリックして統合を保存します。

統合の表示

インポートされた統合のプロパティとパラメータを表示できます。表示する列を指定することも、すべて表示することも可能です。列の順序変更、昇順または降順での列のソート、または列幅の変更を行うこともできます。

列を表示するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
2. 左側の「**統合**」タブをクリックします。
3. 「**表示**」、「**列**」の順に選択し、オプションを選択します。
 - すべての列を表示するには、「**すべて表示**」を選択します。
 - 特定の列を表示するには、列名を選択または選択解除します。

列を並べ替えるには:

1. 「**統合**」をクリックします。
2. 「**表示**」、「**列の順序変更**」.の順に選択します
3. 列を選択し、上下の矢印を使用して順序を変更します。

列をソートするには:

1. 「**統合**」をクリックします。
2. 「**ソート**」アイコンが表示されるまで列ヘッダーにマウス・ポインタを置き、「**昇順ソート**」または「**降順ソート**」をクリックします。

列の幅を変更するには:

1. 矢印が表示されるまで、列ヘッダーの区切りにマウス・カーソルを合せます。
2. 希望する幅になるまで列をドラッグします。

統合の編集

システムによりデフォルトで提供されている、事前作成済の統合は編集できません。編集できるのは、自身で作成したカスタム作成の統合のみです。

エンド・ユーザー・タイプの場合は、エンドポイントの編集、視点の変更または値リストの変更を実行できます。

統合を編集するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
2. 左側の「**統合**」タブをクリックします。
3. 統合を選択し、「**編集**」をクリックします。
4. 統合を編集します。
5. 「**保存して閉じる**」をクリックします。

統合の検索

「統合」ページの「検索」ボックスを使用して、統合を検索できます。検索する名前の全部または一部を入力できます。

統合を検索するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
2. 左側の「**統合**」タブをクリックします。
3. 「**検索**」ボックスに、統合に対する検索条件のすべてまたは一部を入力します。
4. **[Enter]**を押します。

リストをリセットしてすべての統合を表示するには、「**検索**」ボックスをクリアして**[Enter]**を押します。

統合の検証

テスト・スケジュールおよびスケジュールへのタスクの追加を介して、タスク・マネージャ統合の定義をテストして検証できます。

統合を検証するには:

1. タスク・マネージャで、「**スケジュール**」をクリックし、「**新規**」をクリックしてスケジュールを保留中状態で作成します。[スケジュールの手動作成](#)を参照してください。
2. 検証する統合に基づいてタスクをスケジュールに追加します。[タスクの作成](#)を参照してください。
3. 「**スケジュール**」から、スケジュールを選択し、開きます。
4. 「**タスク**」から、「**スケジュール**」をクリックします。スケジュールを選択し、タスクを表示します。
5. イベント・モニタリング・タスクの場合は、外部アプリケーション(EBS など)でイベントを生成するアクションをトリガーします。[Integration Cloud](#) を使用しないで他の統合ツールを使用する場合は、統合ツールから REST API を起動します。

統合の削除

不要になった統合は削除できます。ただし、デフォルトで提供されている事前作成済の統合は削除できず、タスク・タイプに関連付けられている間も統合を削除できません。

統合を削除するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
2. 左側の「**統合**」タブをクリックします。
3. 削除する統合を選択します。
4. 「**削除**」をクリックします。
5. 確認のプロンプトで「**はい**」をクリックします。

接続の管理

統合は、リンクする外部製品に割り当てられた接続です。「接続の管理」モジュールから、統合に関連付けられた接続のリストを管理できます。接続で、リストの検索やソートができます。

- [接続の追加](#)
- [接続の編集](#)
- [接続の削除](#)

接続の追加

統合タイプに関連付ける接続を追加できます。統合タイプに使用するセキュリティ・ポリシーも指定できます。

さらに、アプリケーション内のすべての統合タイプに対して、アプリケーションレベルのトークンと値を指定できます。エンド・ユーザー URL または Web サービス WSDL でアプリケーションレベルのトークンを指定すると、そのトークンは、アプリケーションでそのトークンに定義されている値に置き換えられます。たとえば、サーバーやポートの値を持つトークンを指定すると、それらの値はシステムによって自動的にアプリケーション内の統合タイプに適用されます。

接続を追加するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
2. 左側の「**統合**」タブをクリックします。
3. 「**接続の管理**」をクリックします。
4. 「**新規**」をクリックします。
5. **新規統合のプロパティ** および **パラメータ** を入力し、「**保存して閉じる**」をクリックします。
6. **オプション**: アプリケーションレベルのトークンを追加するには、「**接続の管理**」をクリックします。「**新規**」をクリックするか、接続を選択して「**編集**」をクリックします。「**アプリケーション・トークン**」表で、「**追加**」をクリックします。**トークン名**と、必要に応じて**トークン値**を入力し、「**OK**」をクリックします。

ヒント:

トークンを削除するには、「**削除**」をクリックします。

接続の編集

接続名、セキュリティ情報およびアプリケーションレベルのトークンを編集できます。

ノート:

シードされたアプリケーションのアプリケーション・トークンは追加したり、変更できません。トークン値の編集のみ可能です。

「接続の編集」ダイアログを使用してあらかじめ組み込まれた統合を有効にすることもできます。統合を有効にしてパラメータを入力したら、有効にした統合のタスク・タイプを使用してタスクを作成できます。

接続を編集するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
2. 左側の「**統合**」タブをクリックします。

3. 「**接続の管理**」をクリックします。
4. 接続を選択して、「**編集**」をクリックします。
5. あらかじめ組み込まれた統合を有効にするには、接続を選択して「**使用可能**」を選択し、パラメータを入力します。
接続は、いつでも有効化または無効化できます。
6. 必要に応じて設定またはトークンを編集し、「**OK**」をクリックします。

接続の削除

不要になった統合に対する接続は削除できます。接続は、統合タイプに関連付けられている間は削除できません。接続を削除する前に、接続を参照する各統合タイプのプロパティを変更する必要があります。

ノート:

シードされた統合の接続は削除できません。

接続を削除するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
2. 左側の「**統合**」タブをクリックします。
3. 「**接続の管理**」をクリックします。
4. 接続を選択し、「**削除**」をクリックします。

タスク・マネージャおよび補足データ・マネージャに対するアラート・タイプの管理

ノート:

アラート・タイプ機能は、管理者のみが使用できます。

ビジネス・プロセスの実行時に、ハードウェア障害、ソフトウェアの問題、システム障害などの障害が発生することがあります。問題を識別するアラートを作成し、タスクに添付できます。

たとえば、ユーザーがビジネス・プロセスを実行しており、システムにログオンできないとします。ユーザーはアラート・タイプを選択し、これにより、問題を解決する適切なリソースにアラートが送信されます。

次のトピックを参照してください。

- [アラート・タイプの作成](#)
- [アラート・タイプの編集](#)
- [アラート・タイプの表示](#)
- [アラート・タイプの検索](#)
- [アラート・タイプの削除](#)

アラート・タイプの作成

ビジネス・プロセス中に障害が発生した場合、ユーザーは問題を特定するアラートを作成できます。

ストアド・プロシージャにアラート・タイプを定義して、重要な情報を取得し、問題解決に当たる重要な担当者を割り当てることができます。アラート・タイプを使用して、ビジネス・サイクル中に発生した問題のタイプを分析し、将来のサイクルでそれを未然に防ぐために変更を加えることができます。

アラート・タイプを作成するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**タスク・マネージャ**」をクリックします。
2. 左側の「**アラート・タイプ**」タブをクリックします。
3. 「**新規**」をクリックします。
4. 「アラート・タイプ」タブで必要な情報を入力します:
 - [アラート・タイプのプロパティの設定](#)
 - [アラート・タイプの指示の指定](#)

- アラート・タイプ・ワークフローの選択
- アラート・タイプ参照者の割当て
- アラート・タイプの質問の追加
- アラート・タイプ属性の適用
- アラート・タイプ履歴の表示

アラート・タイプのプロパティの設定

「プロパティ」タブでは、アラート・タイプの名前と説明を指定し、それをタスク・マネージャ・オブジェクトまたは補足データ・マネージャ・オブジェクト(タスクやスケジュールなど)と関連付けることができます。個々のアラートを複数のオブジェクトと関連付けることができます。

アラートとその関連オブジェクトの関係に制限を設定できます。すべての制限をすべてのオブジェクトに適用できるわけではありません。

表 41-1 アラートの制限

制限	説明	例
なし	オブジェクトのステータスおよびアラートのステータスに対する制限はありません	ユーザーがレポート・タスクの作業中にパフォーマンスが遅いというアラートを発生させます。これによりタスクの実行時間は影響を受けますが、タスクの正常な完了は禁止されません。タスクが完了しても、ユーザーは、パフォーマンス問題が解決するまでアラートをオープンしたままにします。
ワークフローの防止	アラートがクローズされるまで、オブジェクトのワークフローの前方移動(送信、承認など)はできません。 これにより請求や拒否(ワークフローの後方移動)は禁止されません。また、管理者や所有者によるワークフローの強制続行も禁止されません。	ユーザーが、レポート・システムが停止しているというアラートを発生させます。これにより、アラートが解決されるまでレポート・タスクの作業は禁止されます。「ワークフローの防止」では、「保留中」から「オープン」および「オープン」から「クローズ済」へのステータス変更は禁止されます。
クローズの防止	アラートがクローズされるまで、オブジェクトはクローズ済状態に移行できません。ただし、中間ワークフローは続行できます。 これにより、管理者や所有者によるクローズまたは強制クローズは禁止されません。	ユーザーが、レポート・システムに一部の比較データが存在しないというアラートを発生させます。この場合、レポートの作成や初期承認の処理は禁止されませんが、欠落データと比較できるようになるまで、レポートを完全にサインオフすることはできません。

1つのオブジェクトに、異なる制限を付けた複数のアラートを設定できます。その場合、優先度の高い順に次のルールが適用されます:

1. オブジェクトに関連付けられたオープン・アラートに「ワークフローの防止」制限がある場合、「ワークフローの防止」は、そのアラートがクローズされるまでオブジェクト(タスクなど)のワークフローを停止します。
2. オブジェクトに関連付けられたオープン・アラートに「クローズの防止」制限がある場合、そのアラートがクローズされるまでオブジェクトをクローズできません。

また、1つのアラートを複数のオブジェクトと関連付けることもできます。異なるオブジェクトに対する「クローズの防止」制限が複数ある場合、最後のオブジェクトがクローズされたときに、そのアラートはクローズされます。

アラート・タイプのプロパティを設定するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**タスク・マネージャ**」をクリックします。
2. 左側の「**アラート・タイプ**」タブをクリックします。
3. 「**新規**」をクリックして「**新規アラート・タイプ**」を開きます。これにより、デフォルトで「**プロパティ**」タブが開きます。
4. 「**名前**」に、アラート・タイプ名を入力します。入力できる最大文字数は 80 文字です。
5. 「**アラート・タイプ ID**」を入力します。入力できる最大文字数は 80 文字です。
「アラート・タイプ ID」は必須であり、一意である必要があります。
6. **オプション: 「説明」** に、アラート・タイプの説明を入力します。最大 255 文字まで入力できます。
7. **オプション: 「関連先」** ドロップダウン・リストから、アラートに関連付けるオブジェクト(タスクなど)を選択します。
8. **オプション: 「制限」** で、アラートの制限を入力します。たとえば、タスクのアラートに「**クローズの防止**」を選択した場合、そのアラートが完了するまでユーザーはクローズ・タスクを完了することができません。
「**関連先**」に「**すべてのタイプ**」を選択した場合、使用可能な制限はありません。
9. 「**期間の選択**」と「**年の選択**」の両方について、次の値から選択します:
 - **必須** – アラートを年または期間に関連付けるには、ユーザーが必要です。
 - **表示** – ユーザーはアラートを年または期間に関連付けることができます。
 - **非表示** – プロパティは非表示であり、アラートが年または期間に関連付けられることはありません。これらのオプションは、期間と年がアラートに関連付けられる方法を示します。
10. アラートから既存の関連付けを削除するには、「**関連付けの削除の許可**」オプションを選択します。このオプションを選択解除する場合、関連付けられた既存のアーティファクトをアラートから削除できなくなります。
11. 「**使用可能**」をクリックしてアラート・タイプを有効にします。
「使用可能」になっているアラート・タイプのみが、使用可能な「アラート・タイプ」のリストに表示され、新規アラートを作成するときに選択可能になります。
12. 「**アラート・タイプ**」タブをクリックし、情報の入力が続けます。
アラート・タイプ情報の入力が完了したら、「**保存して閉じる**」をクリックします。

 ノート:

既存のアラートに対してアラートを作成することはできません。

- アラート・タイプの指示の指定
- アラート・タイプ・ワークフローの選択
- アラート・タイプ参照者の割当て
- アラート・タイプの質問の追加
- アラート・タイプ属性の適用

アラート・タイプの指示の指定

ユーザーがアラートに対して実行する操作を理解しやすいように、アラート・タイプ内に指示を指定できます。ファイルおよび URL の添付ファイルから、さらに参照を追加できます。

アラート・タイプに指示を指定するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「タスク・マネージャ」をクリックします。
2. 左側の「アラート・タイプ」タブをクリックします。
3. 「新規」または「編集」ダイアログで、「指示」タブを選択します。
4. 「指示」に、アラート・タイプの指示テキストを入力します。

参照を追加するには:

1. 「参照」セクションで、「ファイルの添付」または「リンクの添付」をクリックします。
 - **ファイルの添付**
「ファイルの選択」をクリックしてファイルを選択し、添付します。「名前」に、名前を入力するか、ファイル名を使用します。「OK」をクリックします。
 - **リンクの添付**
URL を入力してから URL の名前を入力します(https://www.oracle.com、Oracle など)。「OK」をクリックします。
2. 「アラート・タイプ」タブをクリックし、情報の入力が続けます。

アラート・タイプ情報の入力が完了したら、「保存して閉じる」をクリックします。

- アラート・タイプ・ワークフローの選択
- アラート・タイプ参照者の割当て
- アラート・タイプの質問の追加
- アラート・タイプ属性の適用

アラート・タイプ・ワークフローの選択

「ワークフロー」セクションには、担当者と承認者の割当てが含まれます。バックアップ・ユーザーを選択することもできます。

アラート・タイプ・ワークフローを選択するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**タスク・マネージャ**」をクリックします。
2. 左側の「**アラート・タイプ**」タブをクリックします。
3. 「新規」または「編集」ダイアログで、「**ワークフロー**」タブを選択します。
4. 「**担当者**」で、「**メンバー・セレクタ**」をクリックし、担当者を選択します。

担当者は、このタイプのアラートが作成されたときにアラートに対して作業するように割り当てられたユーザー、グループまたはチームです。担当者を指定しない場合、アラートを作成するユーザーが担当者を入力する必要があります。

5. **オプション: 「バックアップ・ユーザー」** で、担当者のバックアップ・ユーザーを選択します:
 - a. ホーム・ページで、「**ツール**」、「**アクセス制御**」、「**タスク・マネージャ・ユーザー**」の順に選択します。
 - b. 担当者 ID を編集し、「**ステータス**」フィールドを「**作業不可**」に変更します。
 - c. これにより、「アラート・タイプ」の「**ワークフロー**」タブで、バックアップ・ユーザーを選択できるようになります。

「バックアップ・ユーザー」は、主担当者が不在の場合にアラートの作業を割り当てられるバックアップ個人です。事前に担当者とバックアップ担当者を割り当てておく必要があります。

担当者または承認者がチーム ID に設定されている場合、「バックアップ・ユーザー」フィールドは使用不可になります。

6. 「**追加**」(+)をクリックして承認者を追加し、承認者の次の情報を入力します:
 - **ユーザー名**
 - **バックアップ・ユーザー**: 主承認者が不在の場合のアラートのデフォルト・バックアップ承認者ユーザーを指定できます。これは必須ではありません。

「**レベル**」には、承認者が入力された順に表示されます。承認者を選択し、矢印ボタンをクリックして、リスト内で上または下に移動することで、承認者リストの順序を変更できます。

このタイプのアラートが作成された場合は、アラートに対して 1 つ以上のレベルのデフォルト承認者ユーザー、グループまたはチームを追加できます。これらは必須ではありません。承認者を指定しない場合、アラートを作成するユーザーがオプションで承認者を追加できます。

7. 「アラート・タイプ」タブをクリックし、情報の入力を続けます。

アラート・タイプ情報の入力が完了したら、「**保存して閉じる**」をクリックします。

 - [アラート・タイプ参照者の割当て](#)
 - [アラート・タイプの質問の追加](#)
 - [アラート・タイプ属性の適用](#)

アラート・タイプ参照者の割当て

「参照者」タブでは、アラート・タイプの参照者権限を割り当てることができます。参照者は、読取り専用アクセス権を持ちます。

参照者権限を割り当てるには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**タスク・マネージャ**」をクリックします。
2. 左側の「**アラート・タイプ**」タブをクリックします。
3. 「**新規**」または「**編集**」をクリックし、「**参照者**」タブをクリックします。
4. 「**追加**」をクリックし、アラートの表示アクセス権を保持するユーザー、グループまたはチームの名前を選択します。
メンバー・セレクトタが表示されます。これは外部の参照者に対して編集可能です。
5. **オプション: 「外部ユーザーの追加」** をクリックして、アラートに関する通知を受け取るシステム外部のユーザーを追加します。
外部ユーザーはアラートを参照できず、通知を受けるのみです。サービス・アクセスは許可されません。
6. 参照者の「**電子メール・アドレス**」を指定します。
電子メール・アドレスは外部参照者に対して編集可能です。リストに重複する電子メール・アドレスがある場合、アラート・タイプに対する変更を保存できません。
7. 「**通知優先度**」を選択して、ユーザーが電子メールで通知を受けるアラートの優先度を指定します。
その優先度レベル以上に対して、通知が送信されます。そのため、「高」に設定すると、アラートが「高」に設定された場合のみ通知が送信されます。「低」に設定すると、すべての優先度タイプ(「低」、「中」、「高」)に対して通知が送信されます。これが空白になっている場合(デフォルト)、通知は送信されません。
8. 「アラート・タイプ」タブをクリックし、情報の入力を行います。
アラート・タイプ情報の入力が完了したら、「**保存して閉じる**」をクリックします。
 - [アラート・タイプの質問の追加](#)
 - [アラート・タイプ属性の適用](#)

アラート・タイプの質問の追加

アラート・タイプを作成するとき、ユーザーがアラート・タイプの完了を指定する前に、アクションに関する質問に答えてもらうことが必要になる場合があります。たとえば、タスクの完了時に特定のプロセスが続いて実行されたかどうかを質問できます。質問は、「管理者」、「担当者」、「承認者」、「所有者」または「参照者」の役割に設定できます。これにより、問題が発生しているユーザーから重要な詳細を収集できます。

テキスト、数値、True/False など、様々なタイプの質問を指定でき、それらが必須かどうかを指定できます。質問が必須の場合、ユーザーは質問に回答する必要があり、回答しないと承認のためにタスクを送信できません。「上へ移動」および「下へ移動」ボタンを使用して、質問を並べ替えることもできます。

質問を追加するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**タスク・マネージャ**」をクリックします。
2. 左側の「**アラート・タイプ**」タブをクリックします。
3. 「**新規**」または「**編集**」ダイアログで、「**質問**」タブを選択します。
4. 「**新規**」をクリックします。
5. 「**質問**」で、質問のテキスト(最大 4000 文字)を入力します。
6. 「**タイプ**」リストから、次の質問タイプを選択します。
 - **日付**
 - **日付/時間**
 - **整数**
 - **リスト**

質問に対する有効な回答のリストを入力します。
 - **複数行のテキスト**

最大長は 4,000 文字未満にする必要があります。

「複数行のテキスト」を選択し、3 から 50 行の間の**行数**を入力します。「複数行のテキスト」では、「アクション」ダイアログ・ボックスで、スクロールせずに表示できるテキストの行数を決定します。
 - **数値**

「**数値**」を選択した場合、数値のフォーマット・オプションを選択します:

 - 「**小数点以下の桁数**」には、表示する小数点以下の桁数の値を入力します。
 - 1,000.00 のように、数値に 3 桁ごとの区切り文字を表示する場合は、「**3 桁ごとの区切り文字**」オプションを選択します
 - 「**通貨記号**」リストから、通貨記号(米ドルの場合は\$など)を選択します。
 - 「**負数**」リストから、負数の表示方法((123)など)を選択します。
 - 「**スケール**」リストから、数値のスケール値(1000 など)を選択します。
 - **テキスト**
 - **True/False**
 - **ユーザー**
 - **はいいいえ**
7. 質問に回答するユーザーの**役割**(所有者、担当者、承認者、参照者)を割り当てます。
8. 質問が必須の場合は、「**必須**」を選択します

「必須」は、ユーザーが質問に答えないと続行できないことを示します。必須の質問は、「担当者」、「承認者」および「所有者」に対して設定できます。システム管理者および「参照者」の役割に対しては使用不可になります。
9. 「**OK**」をクリックします。
10. **オプション:** 質問の順序を変更するには、質問を選択し、「**一番上へ移動**」、「**上へ移動**」、「**下へ移動**」または「**一番下へ移動**」をクリックします。

11. **オプション:** 質問を編集するには、質問を選択し、「**編集**」をクリックします。質問を削除するには、質問を選択し、「**削除**」をクリックします。
12. 「アラート・タイプ」タブをクリックし、情報の入力を行います。
アラート・タイプ情報の入力が完了したら、「**保存して閉じる**」をクリックします。
 - [アラート・タイプ属性の適用](#)
 - [アラート・タイプ履歴の表示](#)

アラート・タイプ属性の適用

属性を選択する際に、属性タイプに基づいて属性の値を設定できます。後で属性値によってフィルタ処理できます。

たとえば、「北部」、「南部」、「東部」および「西部」という値を持つ「販売地域」という名前の「リスト」属性を持つことができます。現在のアラート・タイプは西部販売地域にのみ適用されるため、「販売地域」属性を追加し、この属性を「西部」に設定できます。

属性を適用するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
2. 左側の「**アラート・タイプ**」タブをクリックします。
3. 「**新規**」または「**編集**」をクリックし、「**属性**」タブを選択します。
4. 「**追加**」をクリックします。
5. 「**属性**」リストから、属性を選択します。
6. 「**値**」では、属性に応じて、ドロップダウン・リストから属性の値を選択するか、値を入力します。
7. **オプション:** 属性のアクセスを変更するには、「**役割**」および「**アクセス**」を選択します。
8. 「**保存して閉じる**」をクリックします。
9. 他のアラート・タイプ情報を編集するには、次のトピックを参照してください:
 - [アラート・タイプのプロパティの設定](#)
 - [アラート・タイプの指示の指定](#)
 - [アラート・タイプ・ワークフローの選択](#)
 - [アラート・タイプ参照者の割当て](#)
 - [アラート・タイプの質問の追加](#)

アラート・タイプ履歴の表示

システムによりアラート・タイプ・アクションの履歴が保持されます。「履歴」タブには、作成または更新されたコンポーネント、変更タイプ、古い値と新規の値、変更を行ったユーザーおよび変更日が表示されます。「履歴」タブの情報は読取り専用です。

アラート・タイプ履歴を表示するには:

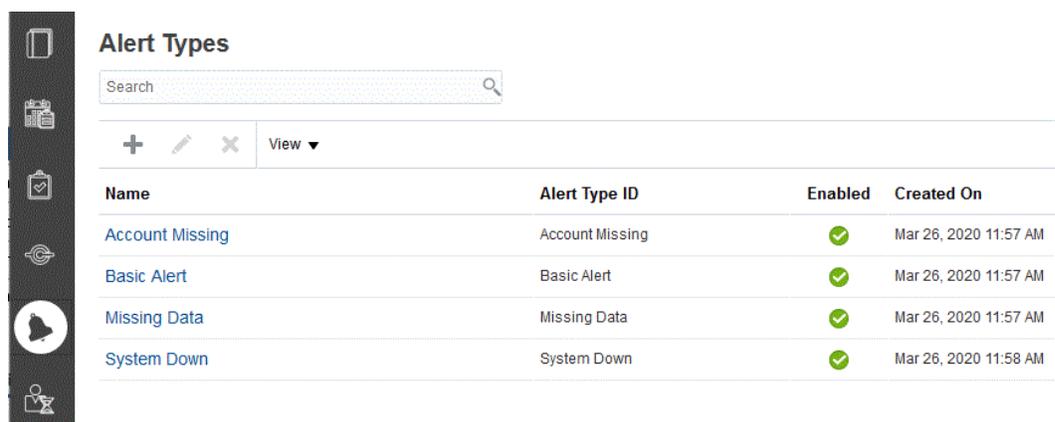
1. ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「タスク・マネージャ」をクリックします。
2. 左側の「アラート・タイプ」タブをクリックします。
3. アラート・タイプを編集し、「履歴」タブを選択します。
4. 履歴を表示してから、「保存して閉じる」をクリックします。

アラート・タイプの表示

「アラート・タイプ」で、アラート・タイプのリストに表示する列を指定するか、すべての列を表示できます。列の順序変更、昇順または降順での列のソート、または列幅の変更を行うこともできます。

列を表示するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「タスク・マネージャ」をクリックします。
2. 左側の「アラート・タイプ」タブをクリックします。
3. 次の 1 つ以上のタスクを行います。
 - すべての列を表示するには、「表示」、「列」の順に選択し、「すべて表示」を選択します。
 - 特定の列を表示するには、「表示」、「列」の順に選択し、列名を選択または選択解除します。
 - 列を並べ替えるには、「表示」、「列の順序変更」の順に選択し、列を選択して上矢印または下矢印を使用するか、それらをドラッグして順序を変更します。
 - 列をソートするには、「ソート」アイコンが表示されるまで列ヘッダーにマウス・カーソルを合せ、「昇順ソート」または「降順ソート」をクリックします。
 - 列の幅を変更するには、矢印が表示されるまで列ヘッダーの区切りにマウス・カーソルを合せ、適切な幅になるまで列をドラッグします。



Name	Alert Type ID	Enabled	Created On
Account Missing	Account Missing	✓	Mar 26, 2020 11:57 AM
Basic Alert	Basic Alert	✓	Mar 26, 2020 11:57 AM
Missing Data	Missing Data	✓	Mar 26, 2020 11:57 AM
System Down	System Down	✓	Mar 26, 2020 11:58 AM

アラートの列の定義

この項では、アラートの列の定義を示します。

表 41-2 列の定義 - アラート

列名	説明
アラート(件数)	アラートの合計数
オープン中のアラート(件数)	オープン中のアラートの合計数
アラート・タイプ	アラートのタイプ。タイプに基づいて、ビジネス・サイクル中に発生した問題のタイプを分析し、今後のサイクルでその問題を防ぐために変更を追加できます
承認者 1-10	承認者レベル
承認者 1-10 (バックアップ)	アラートのバックアップ承認者
承認者 1-10 (プライマリ)	アラートのプライマリ承認者
承認者 1-10 の終了日(実際)	各承認者レベルの実際の終了日
承認者 1-10 の却下(件数)	承認者によって却下されたアラートの数
担当者	アラートに割り当てられたユーザー
担当者(バックアップ)	アラートに割り当てられたバックアップ・ユーザー
担当者(プライマリ)	アラートに割り当てられたプライマリ・ユーザー
担当者終了日(実際)	割り当てられたユーザーの実際の終了日
関連付けられたオブジェクト・タイプ	アラートに関連付けられたオブジェクトのタイプ
関連付けられたオブジェクト(件数)	アラートに関連付けられたオブジェクトの合計数
クローズ日	アラートがクローズされた日付
コメント(件数)	アラートに対するコメントの合計数
作成者	アラートを作成したユーザーの名前
作成日	アラートが作成された日時
説明	アラートの説明
Duration	定義されたアラート期間
期間(実際)	実際のアラート期間
終了日	アラートの有効終了日
ID	アラートの一意的識別子
最終更新者	アラートを最後に更新したユーザーの名前
最終更新日	アラートが最後に更新された日時
名前	アラートの名前
Owner	アラート所有者の名前。サービス管理者またはパワー・ユーザーである必要があります。
所有者終了日(実際)	アラート所有者の実際の終了日
期間	アラートの期間
優先度	アラートに割り当てられた優先度
開始日	アラートの有効開始日
ステータス	アラートのステータス
ステータス(詳細)	アラートの詳細なステータス
ステータス(アイコン)	アイコンで示したアラートのステータス
年	アラートが作成された年

アラート・タイプの編集

アラート・タイプの名前と説明を編集し、有効かどうかを指定できます。アラート・タイプを有効にすると、そのアラート・タイプが使用可能な「アラート・タイプ」のリストに表示されます。

通常、ロックされたスケジュールのアイテムは編集も変更もできません。ただし、ロックされたスケジュールに関連付けられたアラートは更新可能であり、そのワークフローを続行できるだけでなく、スケジュールから除外したり、それ自体を削除することもできます。

アラート・タイプを編集するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**タスク・マネージャ**」をクリックします。
2. 左側の「**アラート・タイプ**」タブをクリックします。
3. アラート・タイプを選択し、「**編集**」をクリックします。
4. アラート・タイプを編集します。
5. 「**保存して閉じる**」をクリックします。

アラート・タイプの検索

「アラート・タイプ」リストの検索機能を使用して、アラート・タイプをすばやく検索できます。検索する名前の全部または一部を入力できます。フィルタ・バーを使用して、リストに表示するアラート・タイプを制御できます。デフォルトでは、すべてのアラート・タイプが表示されます。

アラート・タイプを検索するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**タスク・マネージャ**」をクリックします。
2. 左側の「**アラート・タイプ**」タブをクリックします。
3. アラート・タイプを検索するには、「**検索**」テキスト・ボックスに検索条件を入力します。
4. **オプション:** フィルタ・バーでカテゴリをクリックすると、追加の検索演算子(「**次と等しい**」、「**次と等しくない**」、「**次を含む**」、「**次を含まない**」、「**次で始まる**」、「**次で終わる**」)が表示されます。

アラート・タイプは次のカテゴリを使用してフィルタできます: 「**名前**」、「**アラート・タイプ ID**」、「**使用可能**」、「**説明**」、「**作成者**」、「**作成日**」、「**最終更新者**」、「**最終更新日**」。

ノート:

- 「**フィルタの追加**」をクリックすると、すべてのカテゴリが表示されます。
- フィルタ・バーを非表示にするには、「**フィルタ**」アイコンをクリックします。
- すべてのフィルタをクリアするには、 アイコン内の「**すべてのフィルタのクリア**」をクリックします。

アラート・タイプの削除

アラート・タイプは削除できます。アラート・タイプが削除されても、アラートは削除されず、アラート・タイプ割当てがなくなります。

アラート・タイプを削除するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**タスク・マネージャ**」をクリックします。
2. 左側の「**アラート・タイプ**」タブをクリックします。
3. アラート・タイプを選択します。
4. 「**削除**」をクリックし、「**OK**」をクリックします。

タスク・マネージャおよび補足データ・マネージャのレポートの使用

次も参照:

- [タスク・マネージャおよび補足データ・マネージャのカスタム・レポートの生成](#)
- [タスク・マネージャ問合せの作成](#)
- [補足データ問合せの作成](#)
- [テンプレートの作成](#)
- [レポート・グループの設定](#)
- [レポートの作成](#)
- [問合せ、レポート・グループまたはレポートの検索とフィルタ](#)
- [レポートの生成](#)
- [レポート・セキュリティの理解](#)
- [タスク・マネージャ・レポート・バインダの使用](#)
- [レポート・バインダの生成](#)
- [レポート・バインダの表示](#)

タスク・マネージャおよび補足データ・マネージャのカスタム・レポートの生成

タスク・マネージャおよび補足データ・マネージャのレポートを作成できます。レポートは、PDF、CSV、HTML または XLSX 形式で生成できます。

ノート:

タスク・マネージャには、開始時に役立つサンプル・サポートが用意されています。これらをテンプレートとして使用して、必要に応じて複製してから、変更を加えたり、ユーザーへのアクセスを拡張することができます。レポートを複製するには、レポートを選択し、省略記号ボタン  から「複製」を選択します。これにより、新しく作成したレポートを編集できます。

カスタム・アプリケーションを作成することもできます。カスタム・レポートの作成は4つのステップで構成され、サービス管理者のみが実行できます。

- タスク・マネージャまたは補足データ 問合せを「問合せ」タブの「新規」ボタンから作成します。[タスク・マネージャ問合せの作成](#)または[補足データ問合せの作成](#)を参照してください。

- テンプレートを作成します。[テンプレートの作成](#)を参照してください。
- レポート・グループを設定します。
- レポートを設定します。

カスタム・レポートを作成するには、定義を XML ファイルとしてエクスポートできる問合せを作成します。XML ファイルを Word にインポートし、これを使用してテンプレート・ドキュメントを作成します。テンプレート・ドキュメントは RTF 形式である必要があります。次に各レポートをグループ化するレポート・グループを設定できます。最後に、レポートを生成します。作成した問合せとテンプレートの両方が使用され、デフォルト出力を CSV、PDF、HTML または XLSX に設定できます。

カスタム・レポートの作成後、サービス管理者またはアクセス権が付与された他のユーザーはレポートを生成できます。[レポートの生成](#)を参照してください。

ノート:

Oracle Classic 環境から Oracle Cloud Infrastructure (OCI)への移行を管理しており、カスタム・レポートがある場合、ターゲット・サービスでカスタム・レポートの問合せ定義を更新する必要がある場合があります。これは、移行中にオブジェクト(タスク、ジャーナル、属性など)の内部 ID が変更される可能性があるためです。ただし、オラクルが管理する移行の場合、内部オブジェクト ID は変更されないため、カスタム・レポート定義を変更する必要はありません。

タスク・マネージャ 問合せの作成

問合せの作成が、カスタム・レポートの作成の最初のステップです。

問合せを作成するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」を選択し、レポート(たとえば、「**連結以外のレポート**」)を選択します。
2. 「**問合せ**」タブで、「**新規**」をクリックします。
3. 「**新規問合せ**」画面で、「**名前**」およびオプションの「**説明**」を入力します。
4. 「**タイプ**」から、次のいずれかのオプションを選択します:

- **パラメータ問合せ:** 「パラメータ問合せ」タイプは、このパラメータの値に指定できるオプションのリストを表示するために使用されます。「パラメータ問合せ」では、レポート問合せに対するパラメータの値の入力時に使用されるオプションのリストを表示できます。このオプションのリストはすでに定義済みの単純な属性ではなく、定義が必要とされる複雑な問合せです。

このパラメータ問合せの例では、すべてのタスク・マネージャ期間のリストが表示されます:

```
SELECT PERIOD_ID, PERIOD_NAME FROM FCC_PERIODSWHERE APP_ID=1
```

- **タスク・マネージャおよび補足データ・レポートのレポート問合せ:** レポートに含めるレコードを選択します。セキュリティ・フィルタを適用できます。これによって、ユーザーには各自の役割に基づいて参照を許可されているデータと、割り当てられているレポートのみが表示されます。レポート問合せにセキ

セキュリティ・フィルタを適用するには、問合せの **WHERE CLAUSE** 文の最後に次の構文を追加します

```
$FCC_SECURITY_CLAUSE$
```

問合せ内で \$FCC_SECURITY_CLAUSE\$ を使用する場合、FCC_TASKS に TaskEO の別名を付ける必要があります

タスク・マネージャに付属している事前定義の問合せの多くはセキュリティ・フィルタが適用されているため、独自の問合せを作成する際にこれらを例として使用することができます。

たとえば、次のレポート問合せでは、選択したスケジュールのすべての高優先度タスクのタスク・コード、名前、担当者およびスケジュールを表示するスケジュール済タスクを指定します。

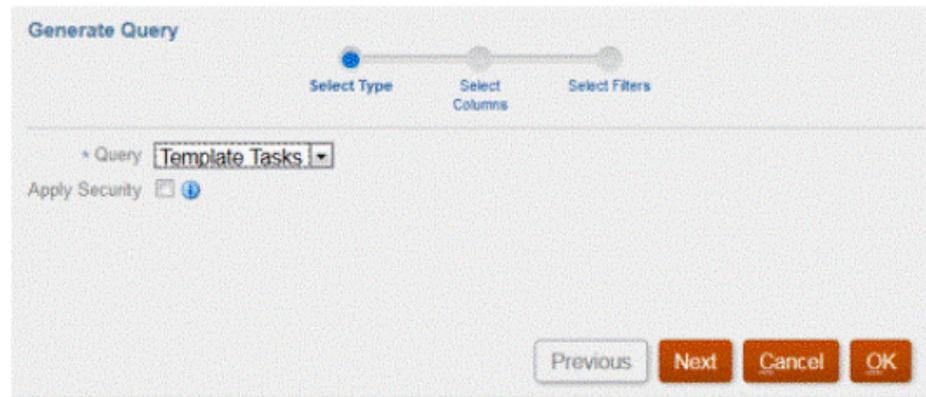
```
SELECT TaskEO.TASK_CODEAS "$TASK_CODE$",
TaskEO.TASK_NAMEAS "$NAME$" ,
((SELECT CASE WHEN FIRST_NAME IS NULL AND LAST_NAME IS NULL THEN
USER_LOGIN ELSE FIRST_NAME||' '||LAST_NAME END FROM FCM_USERS WHERE
USER_ID = (coalesce(AssigneeEO.ACTIVE_USER_ID, AssigneeEO.USER_ID))))AS
"$ASSIGNEE$" ,
DeploymentEO.DEPLOYMENT_NAMEAS "$SCHEDULE$"
FROM FCC_TASKS TaskEO
LEFT OUTER JOIN FCC_ACCESS AssigneeEO ON (TaskEO.TASK_ID =
AssigneeEO.SOURCE_ID AND AssigneeEO.ACCESS_TYPE = "AS")
LEFT OUTER JOIN FCC_DEPLOYMENTS DeploymentEO ON (TaskEO.SOURCE_ID =
DeploymentEO.DEPLOYMENT_ID)
WHERE (TaskEO.SOURCE_TYPE = "DEPLOYMENT")
AND (((TaskEO.PRIORITY=3 )
AND (TaskEO.SOURCE_ID=~SCHEDULE~ ))))
```

5. 「問合せの生成」をクリックして、「新規問合せ」ダイアログから問合せを作成します。このダイアログは、問合せまたはフィルタ処理(あるいはその両方)の対象となる既存の製品内の属性を選択可能にすることで、データベースに対する問合せの作成に役立ちます。システムでは指定された属性およびフィルタと一致するように SQL が生成されます。この時点で変更および改善が可能です。

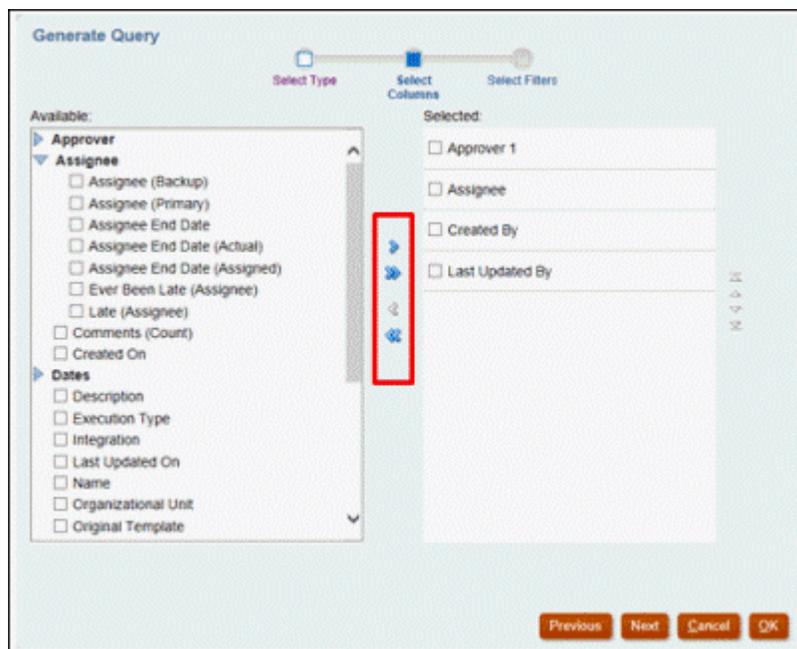
- a. 「タイプの選択」画面で、オプションを選択します。

- 「問合せ」から、「テンプレート・タスク」または「スケジュール・タスク」を選択します。
- **オプション: 「セキュリティの適用」** チェック・ボックスを選択すると、ユーザーのセキュリティ・フィルタが、生成された問合せに自動的に適用されます。これにより、レポートが生成されるときに正しい SQL で入力されるように、セキュリティ・トークンが問合せに適用されます。

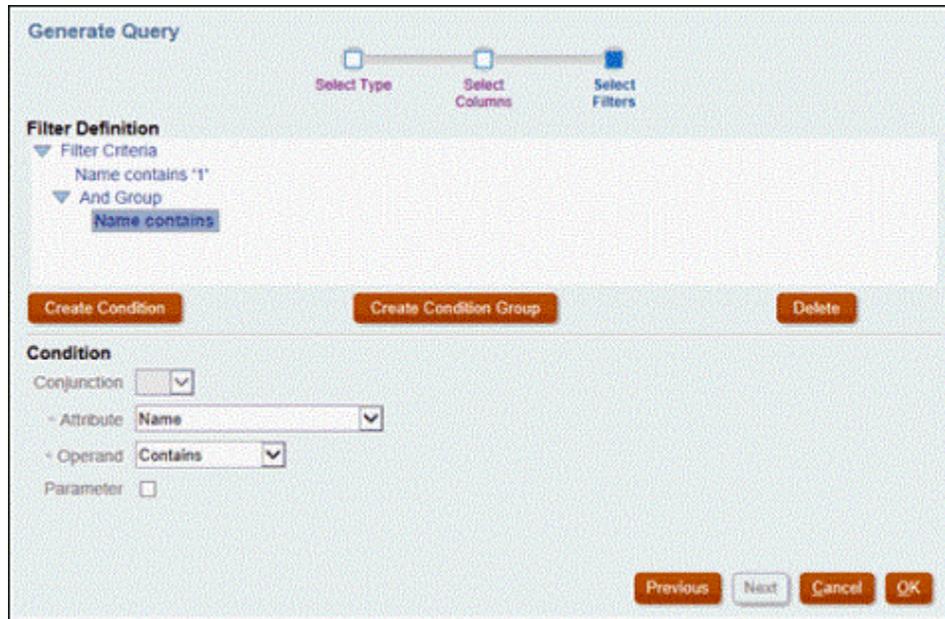
- b. 「次」をクリックします。



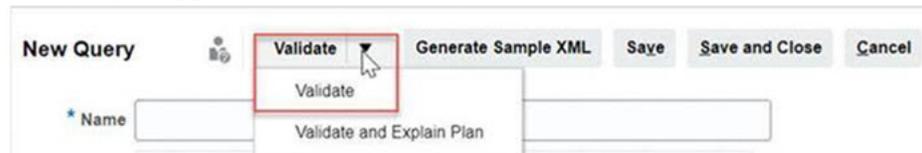
6. 「列の選択」から、問合せで表示する列を選択し、「次」をクリックします。



7. 「フィルタの選択」で、「条件の作成」または「条件グループの作成」をクリックし、問合せの作成へのフィルタを作成する条件を選択します。



8. 「OK」をクリックします。
9. オプション: レポートを今後使用する場合は、「サンプル XML の生成」をクリックします。
10. 「保存」をクリックします。
11. 問合せにエラーがあるかどうかをテストするには:
 - 「新規問合せ」ダイアログで「検証」をクリックします。ドロップダウン・リストから「検証」を選択することもできます。



「問合せ」タブに問合せが表示されます。

ノート:

「アクション」メニューを使用すると、簡単に問合せを削除したり、複製できます。

- ドロップダウンから「プランの検証と説明」をクリックして問合せを検証し、この問合せの実行プランも生成します。問合せと同じ名前を使用する.txt ファイルが生成されます。生成されたプランは表示またはダウンロードできます。このファイルを開き、生成されたプラン(この問合せ実行のために実行される一連のステップが含まれる)を表示します。問合せのパフォーマンスが最適でない場合は、このプランを使用して、問題の原因を把握し、問合せのパフォーマンスを向上させる最善の方法を判断できます。

 ノート:

デフォルトでは、実行プランの生成は OCI (Gen 2)環境でのみ使用できます。クラシック環境で使用可能にするには、サービス・リクエストを使用してオラクル社にお問い合わせください。

問合せの変更

システム管理者は、タスク・マネージャ問合せまたは補足データ問合せを編集できます。

1. ホーム・ページで、「アプリケーション」、「レポート」の順に選択します。
2. 「問合せ」タブが選択されていない場合は選択し、編集する問合せの横にある  から「編集」を選択します。

 ノート:

ロックされている場合は、システム管理者に依頼してロックを解除してください。

3. タスク・マネージャまたは補足データ問合せを選択します。
4. 「問合せの編集」で、必要に応じて情報を編集します。
5. 変更が完了したら、「保存して閉じる」をクリックします。

補足データ問合せの作成

問合せの作成が、カスタム・レポートの作成の最初のステップです。

問合せを作成するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」を選択し、レポート(たとえば、「連結以外のレポート」)を選択します。
2. 「問合せ」タブで「新規」を選択します。
3. 「補足データ問合せ」を選択します。
4. 「新規問合せ」画面で、「名前」およびオプションの「説明」を入力します。
5. 「タイプ」から、次のいずれかのオプションを選択します:

- **パラメータ問合せ**

「パラメータ問合せ」タイプは、このパラメータの値に指定できるオプションのリストを表示するために使用されます。「パラメータ問合せ」では、レポート問合せに対するパラメータの値の入力時に使用されるオプションのリストを表示できます。このオプションのリストはすでに定義済みの単純な属性ではなく、定義が必要とされる複雑な問合せです。

このパラメータ問合せの例では、すべての補足データ・マネージャ問合せ期間のリストが表示されます。

```
SELECT PERIOD_ID, PERIOD_NAME FROM FCC_PERIODSWHERE APP_ID=1
```

- タスク・マネージャおよび補足データ・マネージャのレポートの「**レポート問合せ**」レポートに含めるレコードを選択します。セキュリティ・フィルタを適用できます。これによって、ユーザーには各自の役割に基づいて参照を許可されているデータと、割り当てられているレポートのみが表示されます。レポート問合せにセキュリティ・フィルタを適用するには、問合せの **WHERE CLAUSE** 文の最後に次の構文を追加します

```
$FCC_SECURITY_CLAUSE$
```

ノート:

タスク・マネージャに付属している事前定義の問合せの多くはセキュリティ・フィルタが適用されているため、独自の問合せを作成する際にこれらを例として使用することができます。

たとえば、次のレポート問合せでは、選択したスケジュールのすべての高優先度タスクのタスク・コード、名前、担当者およびスケジュールを表示するスケジュール済タスクを指定します。

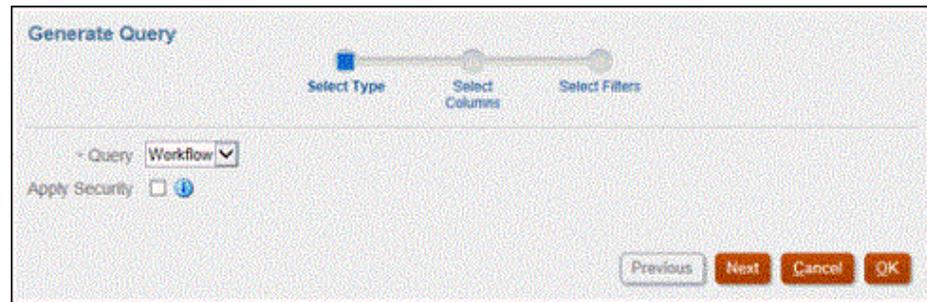
```
SELECT TaskEO.TASK_CODEAS "$TASK_CODE$" ,
TaskEO.TASK_NAMEAS "$NAME$" ,
((SELECT CASE WHEN FIRST_NAME IS NULL AND LAST_NAME IS NULL THEN
USER_LOGIN ELSE FIRST_NAME||' '||LAST_NAME END FROM FCM_USERS WHERE
USER_ID = (coalesce(AssigneeEO.ACTIVE_USER_ID, AssigneeEO.USER_ID))))AS
"$ASSIGNEE$" ,
DeploymentEO.DEPLOYMENT_NAMEAS "$SCHEDULE$"
FROM FCC_TASKS TaskEO
LEFT OUTER JOIN FCC_ACCESS AssigneeEO ON (TaskEO.TASK_ID =
AssigneeEO.SOURCE_ID AND AssigneeEO.ACCESS_TYPE = 'AS')
LEFT OUTER JOIN FCC_DEPLOYMENTS DeploymentEO ON (TaskEO.SOURCE_ID =
DeploymentEO.DEPLOYMENT_ID)
WHERE (TaskEO.SOURCE_TYPE = 'DEPLOYMENT')
AND (((TaskEO.PRIORITY=3 )
AND (TaskEO.SOURCE_ID=~SCHEDULE~ ))))
```

- 「**問合せの生成**」をクリックして、「新規問合せ」ダイアログから問合せを作成します。このダイアログは、問合せまたはフィルタ処理(あるいはその両方)の対象となる既存の製品内の属性を選択可能にすることで、データベースに対する問合せの作成に役立ちます。システムでは指定された属性およびフィルタと一致するように **SQL** が生成されます。この時点で変更および改善が可能です。

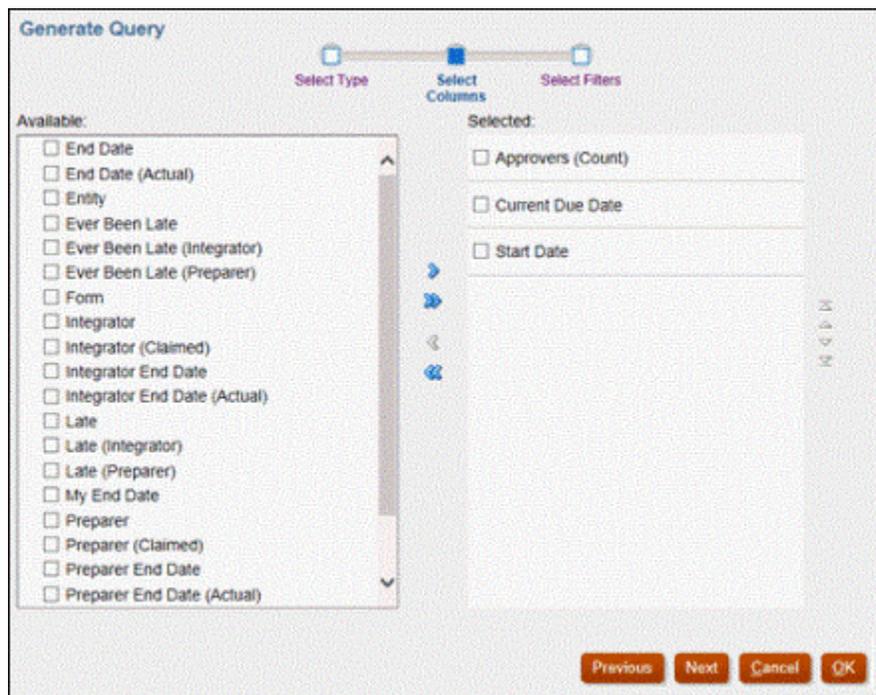
- 「**タイプの選択**」画面で、次を選択します。

- 「**問合せ**」から、「**ワークフロー**」を選択します。
- オプション:** 「**セキュリティの適用**」チェック・ボックスを選択すると、ユーザーのセキュリティ・フィルタが、生成された問合せに自動的に適用されます。これにより、レポートが生成されるときに正しい **SQL** で入力されるように、セキュリティ・トークンが問合せに適用されます。

- b. 「次」をクリックします。

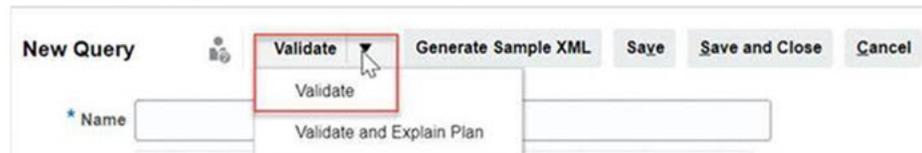


7. 「列の選択」から、問合せで表示する列を選択し、「次」をクリックします。



8. 「フィルタの選択」で、「条件の作成」または「条件グループの作成」をクリックし、問合せの作成へのフィルタを作成する条件を選択します。

9. 「OK」を選択します。
10. オプション: レポートを今後使用する場合は、「サンプル XML の生成」をクリックします。
11. 「保存」をクリックします。
12. 問合せにエラーがあるかどうかをテストするには:
 - 「新規問合せ」ダイアログで「検証」をクリックします。ドロップダウン・リストから「検証」を選択することもできます。



「問合せ」タブに問合せが表示されます。

ノート:

「アクション」メニューを使用すると、簡単に問合せを削除したり、複製できます。

- ドロップダウンから「プランの検証と説明」をクリックして問合せを検証し、この問合せの実行プランも生成します。問合せと同じ名前を使用する.txt ファイルが生成されます。生成されたプランは表示またはダウンロードできます。このファイルを開き、生成されたプラン(この問合せ実行のために実行される一連のステップが含まれる)を表示します。問合せのパフォーマンスが最適でない場合は、このプランを使用して、問題の原因を把握し、問合せのパフォーマンスを向上させる最善の方法を判断できます。

 ノート:

デフォルトでは、実行プランの生成は OCI (Gen 2) 環境でのみ使用できます。クラシック環境で使用可能にするには、サービス・リクエストを使用してオラクル社にお問い合わせください。

問合せの変更

システム管理者は、補足データ問合せを編集できます。

1. ホーム・ページから、「アプリケーション」、「連結以外のレポート」の順に選択します。
2. 「問合せ」タブで、編集する問合せの横にある  から「編集」を選択します。

 ノート:

ロックされている場合は、システム管理者に依頼してロックを解除してください。

3. オプションを選択します。
 - タスク・マネージャ問合せ
 - 補足データ問合せ
4. 「問合せの編集」で、必要に応じて情報を編集します。
5. 変更が完了したら、「保存して閉じる」をクリックします。

また、補足データ・マネージャ表およびその列、主キー、索引および外部キー(該当する場合)の詳細は、[補足データ・マネージャの表ガイド](#)を参照してください。

テンプレートの作成

レポート・テンプレートの作成は、カスタム・レポート生成の 2 番目のステップです。レポート・テンプレートは、Oracle BI Publisher デスクトップがインストールされた Microsoft Word で作成します。テンプレートを作成するには、問合せの作成時にサンプル XML も生成しておく必要があります。

レポート・テンプレートを作成するには:

1. Microsoft Word で新しいドキュメントを開きます。
2. 「BI Publisher」タブを選択し、「データのロード」の上の「サンプル XML」フォルダを選択します。
3. 問合せを作成したときに生成された SampleQuery.xml を特定し、「開く」をクリックします。
「データが正常にロードされました」というメッセージが表示されたら、「OK」をクリックします。
4. 「挿入」、「表ウィザード」の順に選択します。
5. 「表」を選択し、「次」をクリックします。

6. デフォルトのデータセットを選択し、「次」をクリックします。
7. レポートに表示するフィールドを選択し、「次」をクリックします。
8. 「**グループ基準**」を選択し、グループ化の基準のフィールドを選択して「次」をクリックします。
9. 「**ソート基準**」を選択してから、ソート基準のフィールドを選択し、「**終了**」をクリックします。
10. テンプレートを.rft ファイルとして保存します(例: SampleQuery.rtf)。

レポート・グループの設定

レポート・グループの作成が、カスタム・レポート生成の 3 番目のステップです。レポート・グループにより、タスク・マネージャおよび補足データ・マネージャの個々のレポートをグループにまとめ、レポートをフォルダ構造に編成できます。

ノート:

ネストされたレポート・グループはサポートされていません。

レポート・グループの作成後、必要に応じて変更できます。レポート・グループを複製できますが、その名前は一意である必要があります。レポート・グループを削除することもできます。ただし、レポート・グループを削除すると、そのグループに関連付けられたすべてのレポートが削除されます。

レポート・グループを作成するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**連結以外のレポート**」を選択します。
2. 「**レポート・グループ**」タブで「**新規**」をクリックします。
3. 「**新規レポート・グループ**」ウィンドウで、次の内容を入力します:
 - **名前:** レポート・グループのグループ名を入力します。
 - **説明**
 - **ユーザーへの表示:** このレポート・グループをユーザーに表示する場合に選択します。
「**ユーザーへの表示**」オプションを使用すると、レポート作成者はレポートのグループに対する作業を行う間、対象となるレポートを非表示にすることができます。
4. 「**レポート**」タブで、「**移動**」アイコン
 を使用して、レポート・グループに追加されたレポートを並べ替えたり編集します。
5. 「**保存して閉じる**」をクリックします。

レポートの作成

レポート定義の作成は、レポート生成の 4 番目のステップです。ユーザーは問合せからレポートを作成して、それをグループに割り当てることができます。

レポート定義を作成するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**連結以外のレポート**」を選択します。
2. 「**レポート**」を選択し、「**新規**」をクリックします。
3. 「**新規レポート**」で、次の内容を入力します:
 - **名前**
 - **説明**
 - **問合せ**: 問合せを選択します。
 - **テンプレート**: 「**参照**」をクリックして、レポート・テンプレートを参照します。サポートされている任意の Oracle Business Intelligence Publisher テンプレート・フォーマットをアップロードできます。[テンプレートの作成](#)を参照してください。
 - **レポート・グループ**: ドロップダウン・メニューからレポートのグループ名を選択します。
 - **ユーザーへの表示**: レポートをユーザーに表示する場合に選択します。
 - **出力フォーマット**: 次のいずれかのオプションから、BI Publisher がサポートするレポート出力フォーマットを選択します:
 - **xlsx**: グラフではサポートされません。
 - **html**: グラフおよびチャートではサポートされません。
 - **pdf**
 - **csv**: テンプレートを使用せず、より高速にデータを取得できます。
 - **csv (フォーマット済)**: データがフォーマットされている単純なデータ表に最適で、テンプレートでのイメージ、グラフィックまたはスタイル設定はサポートされません。

 **ノート:**

「**csv (フォーマット済)**」出力フォーマットは、「**csv**」フォーマットと比較すると、テンプレートのフォーマットを尊重するためにレポートの生成に追加の時間がかかります。したがって、「**csv**」を選択してデータをすばやく生成するか、「**csv (フォーマット済)**」を選択してフォーマットされたテンプレート・ベースのデータを生成できます。

4. レポート定義を完成させるには、パラメータおよびアクセス権を設定する必要があります。
 - a. パラメータについては、「**パラメータ**」タブを選択します。

問合せ内のパラメータが識別され、リストに追加されます。次を更新します:

 - **表示名**
 - **パラメータ・タイプ**: 使用可能なオプションは次のとおりです:
 - **タスク・マネージャ / 補足データ**
 - **テキスト**

- 日付
 - 日付/時間
 - 数値
 - 問合せ
 - 整数
 - True/False
 - はい/いいえ
 - ユーザー
- **ユーザーへの表示:** パラメータを表示せずに値を使用する場合は、チェック・ボックスの選択を解除します。1つの問合せを使用して複数のレポートを作成できます。その場合、いくつかのパラメータが非表示になり、「**パラメータ**」タブで定義した値が使用されます。
 - **属性/問合せ:** 属性の場合は、ドロップダウンにタスク・マネージャの属性がリストされます。問合せの場合は、ドロップダウンに「**パラメータ・タイプ**」のすべての問合せがリストされます。これを使用して、動的 LOV などのパラメータを作成できます。[タスク・マネージャ問合せの作成](#)を参照してください
 - **パラメータ値:** デフォルト値が表示されます。
- b. アクセス権については、「**アクセス**」タブを選択します。
- c. ドロップダウン・リストから、「**アプリケーション・モジュール**」を選択し、アプリケーション・モジュールの「**役割**」を選択します。
たとえば、「アプリケーション・モジュール」に「タスク・マネージャ」を選択してから、「パワー・ユーザー」役割にアクセス権を割り当てることを選択できます。
- 「**追加**」(+)または「**削除**」(X)を使用して、レポートにアクセスできるユーザーのリストを変更できます。

ノート:

対応する「レポート」タブにレポートが表示されるためには、レポートに少なくとも 1つのアプリケーション・モジュールへのアクセス権が付与されている必要があります。

5. 「保存して閉じる」をクリックします。

問合せ、レポート・グループまたはレポートの検索とフィルタ

検索フィールドおよびフィルタ・オプションを使用して、問合せ、レポート・グループまたはレポートのリストに表示するレコードを制御できます。

問合せ、レポート・グループまたはレポートをフィルタするには:

1. ホーム・ページから、「**アプリケーション**」をクリックし、「**連結以外のレポート**」を選択します。
2. 「**問合せ**」、「**レポート・グループ**」または「**レポート**」タブを選択します。

3. 「検索」テキスト・ボックスに検索条件を入力します。
4. **オプション:** フィルタ・バーでカテゴリをクリックすると、追加の検索演算子(「次と等しい」、「次と等しくない」、「次を含む」、「次を含まない」、「次で始まる」、「次で終わる」)が表示されます。

ノート:

- 「**フィルタの追加**」をクリックして、すべてのカテゴリを表示します。
- フィルタ・バーを非表示にするには、「**フィルタ**」アイコンをクリックします。
- すべてのフィルタをクリアするには、

 アイコンで「**すべてのフィルタのクリア**」をクリックします。

レポートの生成

レポートの作成が、プロセスの最後のステップです。サービス管理者がカスタム・レポートを作成後、アクセス権が付与されたユーザー、グループまたはチームはレポートを生成できます。

サービス管理者が REST API コマンドを使用してレポートを生成することもできます。詳細は、Oracle Enterprise Performance Management Cloud REST API の [Financial Consolidation and Close および Tax Reporting のレポートの生成](#) を参照してください。レポートのサイズが大きい場合は、REST API でレポート生成用の runAsync パラメータを使用するとレポートを非同期で実行できます(値 true)。

レポートを生成するには:

1. ホームページで「**レポート**」をクリックします。
2. タブを選択します。
 - **タスク・マネージャ・レポート**
 - **補足データ・レポート**
3. 生成するレポートを選択します。クイック**検索**オプションを使用して、選択したグループの下のレポートを検索できます。
4. 「**出力フォーマット**」に対して、次の中から選択します:
 - **xlsx:** グラフではサポートされません。
 - **html:** グラフおよびチャートではサポートされません。
 - **pdf**
 - **csv:** テンプレートを使用せず、より高速にデータを取得できます。

 ノート:

レポートに含まれるレコードが 10,000 件を上回る場合は、「**csv**」形式を使用することをお勧めします。

- **csv (フォーマット済)**: データがフォーマットされている単純なデータ表に最適で、テンプレートでのイメージ、グラフィックまたはスタイル設定はサポートされません。

 ノート:

「**csv (フォーマット済)**」出力オプションは、「**csv**」フォーマットと比較すると、テンプレートのフォーマットを尊重するためにレポートの生成に追加の時間がかかります。したがって、「**csv**」を選択してデータをすばやく生成するか、「**csv (フォーマット済)**」を選択してフォーマットされたレポート・ベースのデータを生成できます。

5. 「**生成**」をクリックします。
6. **名前**を入力し、ドロップダウン・メニューから**スケジュール**および**期間**を選択します。
7. 「**生成**」をクリックします。
完了すると、「正常に完了しました。」というステータス・メッセージが表示されます。

 ノート:

- 選択したパラメータ値を保持し、レポートを再生成するには、「**戻る**」をクリックします。
- 選択したパラメータ値をクリアしてレポートを再生成するには、「**リセット**」をクリックします。

8. 「**オープン**」または「**ファイルの保存**」を選択して、ZIP ファイルを保存します。

レポート生成プロセスではバックエンド・ジョブ・フレームワークが使用されるため、レポート・ジョブがバックグラウンドで実行されます。推奨サイズを超えるなど、レポートにエラーが含まれている場合は、レポートが生成される前に「レポートの生成」ダイアログにエラーを示すメッセージが表示されます。レポートに含まれるレコード件数が多い場合は、フィルタ機能を使用して含まれるレコード数を制限して、レポートを分割することをお勧めします。

レポート・セキュリティの理解

このトピックでは、**タスク・マネージャ**および**補足データ・マネージャ**における標準レポートおよびカスタム・レポートのセキュリティについて説明します。

 **Note:**

サービス管理者が REST API コマンドを使用してユーザー詳細レポートを生成することもできます。詳細は、[Oracle Enterprise Performance Management Cloud の REST API の Account Reconciliation、Financial Consolidation and Close および Tax Reporting のユーザー詳細レポートの生成](#) を参照してください。

標準(事前定義済)レポートのセキュリティ

セキュリティ句はすべての標準レポートの問合せに含まれています。これは、これらのレポートに対し、セキュリティ・フィルタがデフォルトで適用されていることを意味します。たとえば、パワー・ユーザーのセキュリティ(「**アクセス制御**」で設定)では、特定のタスクへのアクセス許可がレポートに適用されています。特定のタスクのみへのアクセス権を持つパワー・ユーザーは、それらのタスクのレポートのみを表示できます。

管理者は、「**レポートの編集**」ダイアログの「**アクセス**」タブを使用してレポートを編集し、レポートへのアクセス権をユーザーに付与できます。これにより、ユーザーにレポートの表示を許可した場合、そのユーザーには管理者がそのユーザーに適切であると決定したデータのみが表示されるようになります。

このセキュリティ句は、次の事前定義済の「**タスク・マネージャ**」レポートにも含まれています:

- リスクありタスク
- タスク・コンプライアンス分析
- 先行タスク
- 遅延タスク
- 組織単位別タスク・パフォーマンス分析
- 却下されたタスク
- タスク監査証跡
- 遅延タスクがあるユーザー

ユーザーへの標準レポートへのアクセス権の割当て

管理者は、様々なユーザーに対して標準レポートへのアクセス権を付与することを決定できます。これは、「**レポートの編集**」ダイアログの「**アクセス**」タブを使用しています。

ユーザーにレポートへのアクセス権を付与するには:

1. ホーム・ページから、「**アプリケーション**」をクリックし、「**連結以外のレポート**」を選択します。
2. 「**レポート**」から任意のレポートを選択し、「**アクション**」から「**編集**」を選択します。
3. 「**レポートの編集**」ダイアログの「**アクセス**」で、「**追加**」(+)または「**削除**」(X)を使用して、レポートにアクセスできるユーザーのリストを変更できます。

4. 「保存」または「保存して閉じる」をクリックします

カスタム・レポートのセキュリティ

カスタム・レポートでは、問合せを作成するときに、問合せにセキュリティ句を挿入し、その後、ユーザーにレポートへのアクセス権を割り当てるようにするかどうかを決定できます。つまり、レポートの作成者がアクセス権を付与するユーザーを決定できるということです。

タスク・マネージャ・レポート・バインダの使用

タスク・マネージャ・レポート・バインダにより、スケジュールの一部として発生したすべてのアクティビティの履歴(たとえば、Corporate Q1 Close)を作成できます。フィルタを使用して、スケジュール、組み込むタスク、および組み込むタスク情報を指定します。

バインダ・フィルタ条件を満たすすべてのタスクの情報が、HTML 形式で ZIP ファイルに出力されます。これには HTML ファイルやその他のファイルが含まれます。ZIP ファイルを解凍すると、ディレクトリ構造が形成され、そこで HTML ファイルにアクセスすれば、そのレポート・バインダを表示できます。レポートは 1 つのファイルに内蔵されているため、コピー、印刷、あるいは内部レビューや外部レビュー用の電子メール送信が簡単にできます。

レポート・バインダの生成

「レポート・バインダの生成」ダイアログでは、レポートの作成に必要なパラメータを指定できます。ビューでスケジュールを開き、「レポート・バインダの生成」を実行すると、レポート・バインダが現在のビューに適用され、現在のフィルタ処理されたビュー内のタスクのみが組み込まれます。

レポート・バインダは、ブラウザを通じてドキュメントとして生成され、戻されます。「レポート・バインダの生成」を実行するとき、レポート・バインダをすぐに開くか、または ZIP ファイルとしてディスクに保存するかを選択できます。

一度に複数のスケジュールのレポート・バインダを生成できます。これは、アプリケーションに多数のスケジュールがある場合に役立ちます。

レポート・バインダを生成するには:

1. スケジュールのリストから、レポート・バインダを生成する 1 つ以上のスケジュールを選択します。
2. 「アクション」ドロップダウンから、「レポート・バインダの生成」を選択します。
3. 「レポート・バインダ名」に、名前を入力します。
4. 「説明」に、バインダの説明を入力します。
5. 「オプション・コンポーネント」から、レポートに表示するタスク・コンポーネントを選択します:
 - アラート
 - コメント
 - 添付

 ノート:

レポートに添付を含めると、レポートのサイズが大幅に増加し、パフォーマンスに影響することがあります。

6. 「生成」をクリックします。
7. 「ファイルのダウンロード」から、「保存」を選択します
「名前を付けて保存」ダイアログ・ボックスが表示され、ZIP ファイル名が下部に表示されます。
8. ZIP ファイルの保存先ディレクトリを選択し、「保存」、「閉じる」の順にクリックします

レポート・バインダの表示

レポート・バインダを生成すると、1つの ZIP ファイルに出力されます。ZIP ファイル名は、レポート・バインダに指定した名前です。レポートのページは、必要に応じてセクションごとに改ページを入れて、1つの HTML レポートにまとめられるので、印刷コマンドによりレポートを印刷できます。添付を含める選択をすると、添付へのリンクが対応するタスクおよびアラートとともに含まれる別の添付付録が作成され、別に印刷できます。すべての添付は、別々のフォルダにダウンロードされます。

レポート・バインダを ZIP ファイルとして保存した場合、ZIP ファイルからすべてを抽出すると、レポート・バインダと同じ名前のディレクトリ構造が作成されます。このディレクトリで HTML ページを開くことで、レポート・バインダを表示できます。最初のレポート・ページには、レポート・バインダ、スケジュールに関する情報が含まれ、レポート・バインダで使用可能なタスクおよびアラートのリストが表示されます。「タスク」セクションにナビゲートすると、ステータス、担当者、開始日および終了日、期間などのタスクの詳細を参照できます。タスクが開始していない場合は、予定(スケジュール)日が表示されます。各タスクは、「タスクの詳細」ページへのリンクです。デフォルトでは、「属性」、「指示」、「質問」、「ワークフロー」、「先行」および「履歴」のセクションが含まれます。レポート・バインダの生成時に「アラート」および「コメント」を含めるオプションを選択した場合、それらのセクションも表示されません。

最初のページには、さらにドリル可能なアラートのリストも含まれます。「アラートの詳細」ページから、関連付けられたタスクに移動できます。

レポート・バインダを表示するには:

1. ZIP ファイルをダウンロードしたディレクトリに移動し、ファイルをダブルクリックします。
2. 希望するディレクトリに ZIP ファイルを抽出します。
3. そのディレクトリに移動し、ZIP ファイル名と一致するサブディレクトリを探します。
4. サブディレクトリから、`report_binder_name.html` をダブルクリックして、レポート・バインダを表示します。

補足データの管理

次も参照:

- [補足データ・プロセスの概要](#)
- [補足データ・マネージャのビュー、リストおよびフィルタの管理](#)
- [補足データ・システム設定の管理](#)
- [補足データ分析ダッシュボードの操作](#)
- [補足データ・マネージャでのディメンション属性の管理](#)
- [収集間隔の操作](#)
- [補足データ収集の操作](#)
- [補足データ・マネージャ・フォーム・テンプレートの作成](#)
- [フォーム・テンプレートの編集](#)
- [フォーム・テンプレートの複製](#)
- [フォーム・テンプレートの削除](#)
- [データ収集期間へのフォーム・テンプレートのデプロイ](#)
- [フォーム・テンプレートのデプロイ解除](#)
- [補足データ・フォームの再オープン](#)
- [収集へのデータのバルク・ロード](#)
- [補足データ・マネージャでのユーザーの再割当て](#)
- [勘定科目残高に対する補足データ合計の検証](#)
- [「補足データ分析」ダッシュボードでのデータの表示](#)
- [Smart View での補足データの使用](#)
- [通貨換算の使用](#)

補足データ・プロセスの概要

補足データ・マネージャを使用することで、補足データ(通常は財務トランザクション)の編成、更新、編集および管理を行うことができます。これは、脚注、開示、サポート詳細に役立つ堅牢でアド・ホックなデータ収集プロセスです。

1. 管理者は、「補足データ」機能を有効化してアプリケーションを作成し、データベースをリフレッシュしてシステム設定情報を設定します。
2. パワー・ユーザーは、次の手順を実行します:
 - データ収集内で必要になる可能性がある追加ディメンションを作成します。
 - データ収集プロセスの頻度、およびフォームの基になるワークフロー・ディメンションを定義する収集間隔を作成します。

- データ収集プロセスの一環としてデータを保存する収集およびサブ収集を作成します。
 - 属性と、属性の計算ルールおよび検証ルールを作成します。
 - 一貫性のある反復可能なデータ収集プロセスを確保するデータ・フォーム・テンプレートを作成します。
 - 各データ・フォーム・テンプレートにワークフローとアクセス権を割り当てます。
 - 収集プロセスに備える特定のデータ収集期間に、フォーム・テンプレートをデプロイします。
 - 期間がオープンしていない場合、フォーム・インスタンスは「保留中」ステータスになります。
 - 期間がオープンしている場合は、フォーム・インスタンスはアクティブになりデータ入力に使用できます。
3. システムにディメンション、収集およびフォームが作成された後、管理者が期間をオープンして、データ収集プロセスを開始する期間をオープンします。
 4. 次に、ユーザーが次のタスクを実行します：
 - 期間がオープンしたら、データを手動でロードするか、**CSV** ファイルを使用してフォーム・データをインポートします。ユーザーは、コメントの入力や質問への回答など、実行する必要があるアクションに対応することもできます。
 - 検証を実行し、データが正しいことを確認します。
 - 承認のためにデータを送信します。
 5. 承認者を割り当てられたユーザーはデータを確認して承認するか、却下します(承認に複数のレベルが存在する場合があります)。
 6. ユーザーは、データが承認されたら(ワークフロー・オプションにより異なります)、要約されたデータを表示してデータを転記します。
 7. 管理者またはパワー・ユーザーは、割り当てられているユーザーに、関連するデータ・フォームについての電子メール・アラートを送信します。
 8. 管理者は、データ収集の期間をクローズしてロックします。
 - データ収集の期間をクローズします(別のフォーム・インスタンスが起動されないようにします)
 - データ収集の期間をロックします(追加の変更ができなくなります)

Oracle Smart View for Office の「補足データ」オプションを使用して、データ収集プロセスを管理したり、補足データ・フォームを操作することもできます。最初に、補足データ管理用 **Smart View** 拡張機能をインストールする必要があります。この拡張機能をインストールするには、**Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者のためのスタート・ガイド**のクライアントのダウンロードとインストールに関する項を参照してください。

補足データに関する詳細は、次のビデオを参照してください:



補足データ.

次のチュートリアルには、補足データの使用に関する追加情報が含まれています:



Financial Consolidation and Close での補足データの確認、更新および分析.

補足データ・マネージャのビュー、リストおよびフィルタの管理

関連トピック:

- 補足データ・マネージャのリストの表示
- ビューの操作
- フィルタの操作
- 補足データ分析ダッシュボードの操作

補足データ・マネージャのリストの表示

保存済リストでは、補足データ・タスク画面の一貫性のあるレイアウトが提供されます。フィルタ条件と列表示も保存されます。

管理者の場合は、システム内の使用可能なすべてのフォームと、それらで作業しているユーザーを表示できます。

管理者以外のユーザーの場合は、自分の役割に対してアクティブな、注意を要するすべてのフォームを表示できます。

フォームを表示するには:

1. ホーム・ページで、「**タスク**」をクリックします。
2. 左側のナビゲーションで「**補足データ・タスク**」をクリックします。
3. 「**年**」、「**期間**」および「**テンプレート**」を選択します。
4. **オプション:** フォームを検索するには、「**検索**」フィールドで、フォーム・リストを検索するテキストまたは数値を入力します。
5. **オプション:** フォームのリストをフィルタするには、「**検索**」フィールドの横にある「**フィルタ**」



アイコンをクリックし、フィルタ条件を指定します。

6. **オプション:** フォームをエクスポートするには、「**アクション**」メニューから「**Excel にエクスポート**」をクリックします。

サンプル補足データ・タスク・リスト

Template	Entity	Status (Detailed)	Start Date	End Date	Ad Hoc	Preparer	Alert	Approver 1	Last Updated By
Debt Form	C_301	Closed	Jun 15, 2021	Jun 23, 2021	No	Frank Taylor		Candy Brown	Administrator
Debt Form	C_131	With Preparer	Jun 10, 2021	Jun 10, 2021	No	Anda Kennedy		Candy Brown	Administrator
Debt Form	C_131	With Preparer	Jun 15, 2021	Jun 23, 2021	No	Anda Kennedy		Candy Brown	Administrator
Debt Form	C_101	With Preparer	Jun 15, 2021	Jun 23, 2021	No	Kerry Lane		Candy Brown	Administrator
Debt Form	C_101	With Preparer	Jun 10, 2021	Jun 10, 2021	No	Kerry Lane		Candy Brown	Administrator
Debt Form	C_301	Closed	Jun 10, 2021	Jun 10, 2021	No	Frank Taylor		Candy Brown	Administrator
Debt Form	C_131	With Preparer	Sep 1, 2021	Sep 9, 2021	No	Anda Kennedy		Candy Brown	Administrator
Debt Form	C_101	Closed	Sep 1, 2021	Sep 9, 2021	No	Kerry Lane		Candy Brown	Administrator
Debt Form	C_301	Closed	Sep 1, 2021	Sep 9, 2021	No	Frank Taylor		Candy Brown	Administrator
Headcount	C_101	Closed	Aug 31, 2021	Sep 2, 2021	No	Kerry Lane		Candy Brown	Administrator
Investment form	C_101	Closed	Aug 31, 2021	Sep 9, 2021	No	Kerry Lane		Candy Brown	Administrator

補足データの列の定義

この項では、補足データの列の定義を示します。

表 43-1 列の定義 - 補足データ

列の属性	説明
名前	補足データ・レコードの名前
説明	補足データ・レコードの説明
収集間隔	補足データ・フォームに関連付けられた収集間隔の名前
頻度	データ収集プロセスの頻度
最終更新	補足データが最後に更新された日時
最終更新者	補足データを最後に更新したユーザーの名前

補足データ・システム設定の管理

次も参照:

- [補足データ・マネージャでの電子メール通知の設定](#)
- [補足データのプリファレンスの設定](#)
- [補足データ・ガバナーの設定](#)

補足データ・マネージャでの電子メール通知の設定

サービス管理者は、補足データ・マネージャ・ユーザーのために電子メール通知を設定できます。電子メール通知を有効にすると、バッチ通知が生成されます。通知が不要になった場合は、電子メール通知およびリマインダを非アクティブにできます。

ノート:

デフォルトでは、電子メール通知は有効化されていません。

送信元アドレスとして電子メールを追加することもできます。送信元アドレスをカスタマイズするか、製品の頭文字を追加して、通知の送信元をユーザーにアラートできます。

電子メール通知を設定するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**補足データ**」をクリックします。
2. 左側の「**システム設定**」タブをクリックします。
3. 「**電子メール通知**」を選択します。
4. 「**電子メール通知**」に「**オンにする**」を選択して通知を開始するか、「**オフにする**」を選択して通知を非アクティブにします。
5. 電子メールの「**送信元アドレス**」を入力します。電子メール・アドレスを編集して特定のアドレスを指定したり、たとえば、SDM など、製品の頭文字を追加して通知の送信元をユーザーにアラートできます。
6. 「**保存**」をクリックします。

補足データのプリファレンスの設定

補足データに表示する数値およびセルのフォーマットのプリファレンスを指定できます。小数点の表示方法、負数の表示方法、セルのスタイル、フォントおよび色を指定できます。

補足データのプリファレンスを設定するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**補足データ**」をクリックします。
2. 左側の「**システム設定**」タブをクリックします。
3. 「**システム設定**」ページで、「**プリファレンス**」リンクをクリックします。
4. 「**数値のフォーマット**」で、次のオプションを選択します。
 - 小数点以下の桁数
 - 負数
5. 「**セルのフォーマット**」で、次のオプションを選択します。
 - セル・スタイル
 - 「**フォント**」、次に「**太字**」、「**斜体**」または「**下線**」を選択
 - **フォント・サイズ**
 - **テキストの色**
 - **背景色**
6. 「**保存**」をクリックします。

補足データ・ガバナーの設定

補足データで、収集の属性にガバナーを設定し、アプリケーションのパフォーマンスを改善できます。システムが示すデフォルト設定は、減らしたり、最大値まで増やしたりできます。オブジェクトの作成時、最大限度が徹底されます。

たとえば、収集当たりの計算された属性の最大数を指定できます。計算された属性を作成する際、属性の数が最大値より少ない場合、属性が作成されます。最大限度に達している場合、属性は作成されず、数が範囲外であることを示す検証メッセージがシステムから返されます。また、ディメンション属性の最大数、フォーム・テンプレート当たりのセクション数、フォ

ーム・テンプレート・セクション当たりの属性数、データ分析に表示する属性数、およびリストに表示するアイテムの最大数も指定できます。

補足データ・ガバナーを設定するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**補足データ**」をクリックします。
2. 左側の「**システム設定**」タブをクリックします。
3. 「**システム設定**」ページで、「**ガバナー**」リンクをクリックします。
4. 属性の最大値を指定するか、デフォルト設定のままにします。
 - **計算された属性の最大数**
 - **ディメンション属性の最大数**
 - **フォーム・テンプレート当たりのセクションの最大数**
 - **表形式フォーム・テンプレート・セクション当たりの属性の最大数**
 - **データ分析に表示する属性の最大数**
 - **リストに表示するアイテムの最大数**(デフォルトは 10000)。
5. 「**保存**」をクリックします。

補足データ分析ダッシュボードの操作

「補足データ分析」ダッシュボードには収集およびサブ収集の詳細が表示され、情報の表示とフィルタ処理を簡単に行うことができます。列を選択およびソートして、リストを保存することもできます。

データ分析ダッシュボードに収集を表示するには:

1. ホーム・ページで、「**データ**」をクリックします。
2. 左側から、「**補足データ分析**」をクリックします。
3. 「**収集**」ドロップダウン・リストから、アクセスしてデータを分析する収集/サブ収集およびデータ収集期間(頻度ディメンション・メンバーの組合せ)を選択します。

例:

収集名: Debt Details

データ収集期間のパラメータ: 年: 2020、期間: 4 月、シナリオ: 実績

4. **オプション:** 「**フィルタの追加**」をクリックし、フィルタ値を入力します。使用可能なフィルタは、選択した収集に基づきます。
5. **オプション:** さらに詳細にフィルタ処理する場合は、「**フィルタの追加**」で「**詳細**」をクリックし、フィルタ条件を定義して条件を作成します。

条件またはグループを定義するには:

- a. 「**条件の作成**」または「**条件グループの作成**」をクリックします。
- b. **組合せ:** 「**および**」または「**または**」を選択します。これらによって、この条件またはグループと、先行する兄弟の条件またはグループとの関係を指定します。

- c. **属性:** 属性は、条件がフィルタの結果セットに含めるための値と比較される、フィールドまたは値です。属性には、ユーザー定義属性のリストという以上の意味がありません。
 - d. **オペランド:** 属性に対して実行する評価の種類を示します。
 - e. **値:** 属性を比較する値を指定します。属性のタイプによって、使用可能な入力フィールドが決定されます。
 - f. フィルタを保存、クリアまたは管理するには、ページの右側にある「**フィルタ**」(...) ボタンをクリックします。
6. 「**アクション**」から「**列の選択**」を選択し、表示するデータの列を選択します。

 **ノート:**

特定のエンティティの「**説明**」フィールドには最初の 80 文字が表示され、マウスを置くとテキスト全体が表示されます。

7. **オプション:** 収集からデータをエクスポートするには、「**アクション**」から「**エクスポート**」を選択し、「**Excel にエクスポート**」または「**CSV にエクスポート**」を選択します。
8. **オプション:** 「**アクション**」から、「**インポート**」を選択して、データを収集にインポートします。
 - a. ファイルを選択するには、「**参照**」をクリックします。
 - b. 既存のファイルの「**置換**」または「**更新**」を選択します。
 - c. 「**日付フォーマット**」を選択します。
 - d. 「**ファイル区切り文字**」に、「**カンマ**」または「**タブ**」を選択するか、「**その他**」を選択して区切り文字を入力します。
 - e. 「**インポート**」をクリックします。
9. **オプション:** 「**リスト**」から、使用可能な別の保存済リストを選択します。以前保存したフィルタおよび列が表示されます。

補足データ・マネージャでのディメンション属性の管理

次も参照:

- [補足データのディメンションの追加](#)
- [ディメンション属性の追加](#)
- [ディメンション属性の編集](#)
- [ディメンション属性の削除](#)
- [補足データのディメンション・メンバーのインポート](#)
- [補足データのディメンション・メンバーのエクスポート](#)

補足データのディメンションの追加

ディメンションを追加するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「補足データ」をクリックします。
2. 左側の「ディメンション」タブをクリックします。
3. 「アクション」、「追加」の順にクリックします。
4. 「プロパティ」タブで名前と説明を入力します。
5. 「属性」タブでディメンション属性を追加します。

ノート:

「履歴」タブには、変更タイプ、サポート・オブジェクト、変更者、古い値、新規の値の変更など、ディメンションに対する変更が記録されます。

ディメンション属性の追加

ディメンション属性を追加するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「補足データ」をクリックします。
2. 左側の「ディメンション」タブをクリックします。
3. ディメンションを選択し、「アクション」、「編集」の順にクリックします。
4. 「属性」タブで、「アクション」、「新規」、「属性の追加」の順にクリックします。

次の値を入力します:

- **名前:** 最大 80 文字まで入力できます。
- **説明:** 最大 255 文字まで入力できます。
- **属性の説明:** 最大 255 文字まで入力できます。
- **属性タイプ:**
 - **テキスト:** 最大 255 文字まで入力できます。
 - **整数:** -2147483648 から 2147483647 の値を入力できます。
 - **リスト:** 最大 255 文字まで入力できます。
 - **数値:** 値 xxxxxxxxxxxxxxxxxxxx.xxxxxxxxx (17 桁と小数点以下 9 桁)を入力できます
- **キー属性**

この属性がキー属性の場合、「キー属性」チェックボックスを選択します。

 **ノート:**

収集間隔にこのディメンションを使用する場合、属性はキー属性である必要があり、ディメンションのキー属性は 1 つのみである必要があります。

- **データ型**

次のいずれかを選択します:

- **日付**
- **日時**
- **整数**
- **リスト**

方法を選択します。

- * 「**追加**」をクリックして、属性の値を入力します。
- * CSV ファイルからリスト・アイテムをインポートするには、「**インポート**」をクリックし、CSV ファイルを参照します。
- * CSV ファイルからリスト・アイテムをエクスポートするには、「**エクスポート**」をクリックし、プロンプトに従います。

- **数値**

「数値」を選択した場合は、フォーマット・オプションを選択します(デフォルト値はシステム設定の「プリファレンス」セクションで設定されます)。

- * 「**小数点以下の桁数**」には、表示される小数点以下の桁数の値を入力します。
- * 「**パーセンテージとして表示**」を選択して、パーセント記号を表示します。
- * 3 桁ごとの区切り文字(たとえば、1,000.00)を表示するには、「**3 桁ごとの区切り文字**」を選択します。ユーザーのロケール用の 3 桁ごとの区切り文字が表示されます。
- * 「**負数**」で、(123)など、負数の表示方法を選択します。

- **テキスト(最大 255 文字)**

- **複数行のテキスト**

「**複数行のテキスト**」を選択した場合は、3 から 50 行の間で**行数**を入力します。デフォルト値は 3 です。「複数行のテキスト」では、「アクション」ダイアログ・ボックスで、スクロールせずにフォームに表示できるテキストの行数を決定します。最大長は 2000 文字です。ただし、テキスト領域の幅は固定されたままです。

「**値を使用**」チェック・ボックスを選択した場合は、「**行数**」に入力した値をデフォルトでここにも適用できます。これを超えると、スクロール付きテキストになります。

データ型の値を保持することが必須の場合は、「**必須**」チェック・ボックスを選択します。

- 「**True**」または「**False**」
- 「**はい**」または「**いいえ**」

- **デフォルト値**

属性にはデフォルトでこの値が移入されます。これは上書きできます。

5. 「OK」をクリックします。
6. 「**ディメンションの更新**」で、新規属性をディメンションのキー属性として選択するには、「**キー属性**」を選択します。

ノート:

複数の属性をディメンションのキーにすることができます。

ディメンション属性の編集

「メンバーと属性」セクションに、ディメンション・メンバー、説明、リーフ属性と親ノードを含む属性およびディメンション・メンバーに対応するキューブがリストされます。

ディメンション属性を編集するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**補足データ**」をクリックします。
2. 左側の「**ディメンション**」タブをクリックします。
「**メンバーと属性**」セクションに、ディメンション・メンバー、説明、リーフと親ノードの情報を含む属性および対応するディメンション・キューブがリストされます。
3. ローカル・ディメンションを選択し、「**アクション**」、「**編集**」の順にクリックします。
4. 「**属性**」タブで属性を選択し、「**編集**」をクリックします。
5. 必要に応じて属性を編集します。
ディメンションのメンバーがすでに存在する場合、または属性が収集で参照されている場合、データ型は変更できません。
6. 「OK」をクリックします。

ディメンション属性の削除

ディメンション・メンバーの属性は、物理的に削除されるのではなく、論理的に削除されます。内部では、メンバーの属性は引き続き保持されますが、それ以降選択できないとしてマークされます。以前に補足データ・フォームで設定されていた場合、メンバーの属性情報は引き続き表示されます。ディメンション・メンバーの属性を削除すると、新しい補足データ・フォームを作成するときに含まれなくなります。ただし、そのディメンション・メンバーの属性は既存のフォーム内には保持されます。

論理的に削除されたメンバーへの参照がない場合は、システム・メンテナンス・ジョブの次回実行時に物理的に削除されます。

ディメンション・メンバーの属性を削除するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**補足データ**」をクリックします。
2. 左側の「**ディメンション**」タブをクリックします。

- ローカル・ディメンションを選択し、「アクション」、「編集」の順にクリックします。
- 「属性」タブで属性を選択し、「削除」をクリックします。

 **ノート:**

属性が収集で参照されている場合、削除することはできません。

- 属性を削除する確認プロンプトで、「はい」をクリックします。

補足データのディメンション・メンバーのインポート

管理者およびパワー・ユーザーは、標準のカンマ区切り値(CSV)のフラット・ファイルから、ディメンション・メンバーをインポートできます。

ディメンション・メンバーをインポートするには:

- ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「補足データ」をクリックします。
- 左側の「ディメンション」タブをクリックします。
- ディメンションを選択します。
- 「メンバーと属性」で、「アクション」、「インポート」の順にクリックします。
- 「参照」をクリックし、インポートするファイルに移動します。
- 次のいずれかのオプションを選択します:
 - 置換** - フォーム内のディメンション・メンバーをクリアし、ソース・ファイルのメンバーで置換します。インポート・プロセス後、ソース・ファイルにない値は空白になります。
 - 更新**: ソース・ファイルに含まれるメンバーのみを更新します。他のメンバーは影響を受けません。
- フォーマットのドロップダウン・リストから、「日付フォーマット」を選択します。

日付フォーマットは変換されません。デフォルトで、日付フォーマットはエクスポートされたファイルの場所のロケールの日付フォーマットに設定されます。
- インポート・ファイルの「ファイル区切り文字」を選択します。「カンマ」または「タブ」です。
- 「インポート」をクリックします。

「結果」画面に、インポートされたディメンション・メンバーの数が表示されます。
- 「OK」をクリックします。

ダイアログをクリアし、インポートする別のファイルを選択するには、「リセット」をクリックします。

補足データのディメンション・メンバーのエクスポート

サービス管理者およびパワー・ユーザーは、標準のカンマ区切り値(CSV)のフラット・ファイルまたは XLS ファイルにディメンション・メンバーをエクスポートできます。

ディメンション・メンバーをエクスポートするには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**補足データ**」をクリックします。
2. 左側の「**ディメンション**」タブをクリックします。
3. ディメンションを選択します。
4. 「**メンバーと属性**」で、メンバーを選択します。
5. 「**アクション**」、「**エクスポート**」の順にクリックし、**CSV** または **XLS** ファイル・フォーマットを選択します。
6. ファイルを保存する場所を参照します。
7. 「**OK**」をクリックします。

収集間隔の操作

「補足データ」収集間隔を使用すると、固有の収集ニーズに合わせて **POV** を調整してデータ収集をカスタマイズできます。収集間隔には、次のディメンション・タイプが含まれます:

- **頻度ディメンション** - データ収集プロセスの頻度を定義します。
- **ワークフロー・ディメンション** - フォームで使用するディメンションを指定します。たとえば、エンティティを選択すると、フォームはエンティティ別になります。

収集間隔を表示するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**補足データ**」をクリックします。
2. 左側の「**収集間隔**」タブをクリックします。

使用可能な収集間隔のリストが表示されます。表示する列を選択し、そのリストを列でソートすることや、アルファベットの昇順または降順でソートすることが可能です。

デフォルト収集間隔がサービス内に用意されています。デフォルト収集間隔には、頻度ディメンションとして「年」、「期間」および「シナリオ」が含まれ、ワークフロー・ディメンションとして「エンティティ」が含まれています。

収集間隔を作成することも、デフォルト収集間隔を使用することもできます。収集間隔を作成するには、[収集間隔の作成](#)を参照してください。

収集間隔の作成

収集間隔を作成するには、頻度ディメンションとワークフロー・ディメンションを使用します。頻度ディメンションでは、データ収集プロセスの頻度を定義します。ワークフロー・ディメンションでは、データ収集のワークフロー・インスタンスの数を定義します。

最大で **4** つの頻度ディメンション(「年」および「期間」を含む)と **5** つのワークフロー・ディメンションを構成できます。

収集間隔を作成するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**補足データ**」をクリックします。

2. 左側の「**収集間隔**」タブをクリックします。
3. 「追加」(+)をクリックして、収集間隔を作成します。
4. 「**収集間隔の作成**」で、次の情報を入力します:
 - **名前:** 一意の名前を入力します。入力できる最大文字数は 80 文字です。
 - **説明:** 最大 255 文字まで入力できます。
 - **頻度ディメンション - 「使用可能なディメンション」** から 1 つまたは 2 つのディメンションを選択し、シャトル・キーを使用して「**選択したディメンション**」に移動します。
 「年」ディメンションと「期間」ディメンションは、デフォルトで選択されています。
 デフォルトの「年」ディメンションと「期間」ディメンションに加えて、さらに最大 2 つの頻度ディメンションを選択できます。
 選択した頻度ディメンションは、収集でのその後のデータ収集および管理には使用できません。
 - **ワークフロー・ディメンション - 「使用可能なディメンション」** からディメンションを選択し、シャトル・キーを使用して「**選択したディメンション**」に移動します。
 少なくとも 1 つのワークフロー・ディメンションを選択する必要があります。
 最大で 5 つのワークフロー・ディメンションを選択できます。選択したワークフロー・ディメンションは、収集でのその後のデータ収集および管理には使用できません。
5. 「**OK**」をクリックします。
6. 収集間隔を編集するには、収集間隔を選択し、「**アクション**」、「**編集**」の順にクリックします。
 収集で参照されている収集間隔を編集することはできません。
 デフォルト収集間隔を編集することはできません。
7. 収集間隔を削除するには、収集間隔を選択し、「**アクション**」、「**削除**」の順にクリックします。
 デフォルト収集間隔を削除することはできません。

データ収集期間の構成

データ収集プロセスの収集間隔を作成した後は、頻度ディメンションのメンバーを選択することでデータ収集期間を構成します。「年」および「期間」頻度ディメンションは、デフォルトで使用可能です。

収集間隔の間で異なるデータ収集期間を使用できます。

データ収集期間を構成するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**補足データ**」をクリックします。
2. 左側の「**データ収集期間**」タブをクリックします。
3. 「**収集間隔**」をクリックし、ドロップダウンから間隔を選択します。
4. これにより、選択した収集間隔で定義した頻度ディメンションが表示されます。「年」ディメンションと「期間」ディメンションは、デフォルトで表示されます。
5. 各頻度ディメンションのメンバーを選択します。対応するデータ収集期間が表示されます。

6. 期間を選択し、「**開始日**」、「**終了日**」および「**クローズ日**」を入力して期間をオープンします。

 **ノート:**

保存する前に、入力した日付をクリアするには、「**リセット**」をクリックします。

7. 「**保存**」をクリックします。

 **ノート:**

データ収集期間を定義した後、「収集間隔」タブで選択した収集間隔に変更を加えることはできません。

期間をオープン、クローズまたはロックするには:

1. 「データ収集期間」リストから、期間を選択します。
2. 「**アクション**」 ドロップダウンまたはメニュー・バーから、次のいずれかのアクションを選択します:
 - **期間のオープン** – 新しいフォーム・テンプレートのデプロイと、アドホック・フォームの収集期間への追加を許可します。ユーザーは、スケジュール済の開始日に基づいて、そのフォームを更新できます。
 - **期間のクローズ** – 追加のフォーム・テンプレートをデプロイすることも、追加のアドホック・フォームを収集期間に追加することもできません。ユーザーは、既存のフォームを引き続き更新できます。
 - **期間のロック** – 既存のフォームへの追加の更新は許可されません。

収集間隔履歴の表示

システムには、ユーザー、日付、アクション、古い値と新しい値など、収集間隔アクティビティの履歴が保持されます。

収集間隔履歴を表示するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**補足データ**」をクリックします。
2. 左側の「**収集間隔**」タブをクリックします。
3. 収集間隔を選択し、「**編集**」をクリックします。
4. 次のフィールドを表示します:
 - フィールド
 - 変更タイプ
 - サポート・オブジェクト
 - 変更者
 - 変更日

- 古い値
- 新規の値

補足データ収集の操作

補足データ収集には、データ表の定義が含まれています。収集は、任意のデータ・レコードに関する情報の属性で構成されています。収集にはディメンションの属性を含めることができますが、属性を入力することも可能です。また、より詳細なデータ収集を可能にするサブ収集を作成することもできます。収集定義を作成および更新できるのは、管理者またはパワー・ユーザーのみです。

収集を表示するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**補足データ**」をクリックします。
2. 左側の「**収集**」タブをクリックします。

名前、説明、タイプ、収集間隔、属性、関連付けられているフォーム・テンプレート、および最終更新日などのその他の情報を含む、使用可能な収集のリストが表示されます。表示する列を選択し、そのリストを列でソートすることや、アルファベットの昇順または降順でソートすることが可能です。

収集を作成するには、[収集の作成](#)を参照してください。

収集の作成

補足データを操作する際に、収集を作成して収集プロセスのデータを定義します。サブ収集を作成することもできます。これにより、さらに詳細なデータ収集が可能になります。データ・フォーム間でのデータの共有を禁止するかどうかを指定することにより、データ収集のセキュリティを確保することもできます。

補足データの収集の作成に関する詳細は、次のビデオを参照してください:



[補足データの収集の作成](#)

収集を作成するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**補足データ**」をクリックします。
2. 左側の「**収集**」タブをクリックします。
3. 「**アクション**」、「**新規**」の順に選択します。
4. 「**プロパティ**」タブで、次の収集情報を入力します:
 - **名前:** 最大 80 文字まで入力できます。一意の名前を入力します。
 - **説明:** 最大 255 文字まで入力できます。
 - **サブ収集:** サブ収集を作成するには、このチェック・ボックスを選択します。サブ収集は、収集を作成した後でのみ作成できます。[サブ収集の作成](#)を参照してください。
 - **収集間隔:** ドロップダウンから収集間隔を選択します。
 - **関連付けられているサブ収集:** これは編集不可であり、収集に関連付けられているサブ収集が表示されます。

- **テンプレート/フォームでのデータ・レコードの共有:** デフォルトでは「はい」が選択されており、同じワークフロー選択内のテンプレート/フォーム間でデータが共有されることを意味します。データを共有しない場合は、「いいえ」チェック・ボックスを選択します。
5. 「属性」タブで、収集の属性を追加します。
収集属性の追加を参照してください。

サブ収集の作成

サブ収集を使用すると、詳細なデータ収集を取得できます。サブ収集を既存の収集について作成すると、それが親収集になります。サブ収集は親収集にリンクされ、親収集の下に表示されます。1つの親収集について最大5つのサブ収集を作成できます。

サブ収集を作成するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「補足データ」をクリックします。
2. 左側の「収集」タブをクリックします。
3. 「+」(プラス記号)をクリックします。
4. 「プロパティ」タブで、サブ収集情報を入力します:
 - **名前** - 一意の名前を入力します。
 - **説明**
 - **サブ収集** - チェック・ボックスを選択します。
 - **収集間隔** - 「サブ収集」チェック・ボックスを選択すると、編集できなくなります。
 - **収集** - サブ収集を作成する親収集を選択します。親収集を選択すると、親収集に関連付けられている収集間隔が「収集間隔」に自動的に移入されます。
 - **テンプレート/フォームでのデータ・レコードの共有** - 「収集」で親収集を選択すると、編集できなくなります。
 - 「属性」タブで、サブ収集の属性を追加します。

ノート:

親収集の属性がデフォルトでサブ収集にリンクされています。サブ収集の属性を作成した場合、新しい属性は親収集および関連付けられている収集間隔にリンクされません。

収集属性の追加

属性は、主に管理者によって定義され、多くの場所で使用される、ユーザー定義フィールドです。属性には、「日付」、「日時」、「リスト」、「数値」、「テキスト」および「True/False」といった異なる値タイプを指定できます。

収集については、データ収集期間の「開始日」と「終了日」など、日付計算属性を追加できます。また、既存のデータ・フォームで履歴ディメンション属性値を保持することもできます。

収集属性を追加するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**補足データ**」をクリックします。
2. 左側の「**収集**」タブをクリックします。
3. 収集を選択し、「**編集**」をクリックします。収集の編集ウィンドウが表示されます。
4. 「**属性**」タブをクリックします。次の列が表示されます:
 - **キー識別子**: 属性がキー識別子であるかどうかを示します。この収集のデータが存在しない場合、「キー識別子」および属性を変更できます。

 **ノート:**

- エンティティの「**キー識別子**」および「**ワークフローの割当**」チェック・ボックス・オプションは、デフォルトで選択されています。属性を追加するには、1 つ以上をキー識別子として選択できます。
 - 補足データ・マネージャは、「キー識別子」属性としてタイプ「**計算済**」の属性をサポートしていません。「キー識別子」としてこのタイプの属性を選択すると、予期しない動作やエラーが収集で発生する可能性があります。
- **ワークフローの割当**: 収集間隔で定義したワークフローが表示されます。編集することはできません。
 - **保持**: 参照先のフォームでディメンション属性の値を保持するかどうかを示します。この列は、「ディメンション参照」タイプの属性にのみ適用可能です。
 - **名前**: 属性の名前。
 - **ディメンション名**: この列は、ディメンション属性にのみ適用可能であり、ディメンション名を示します。
 - **属性タイプ**(既存の属性がある場合に表示されます): 属性のタイプを示します:
 - 入力
 - ディメンション参照
 - 計算済
 - **データ型**: 「日付」、「日時」、「整数」、「リスト」、「複数行のテキスト」、「数値」、「テキスト」、「True/False」、「はいいいえ」
 - **合計**: 属性の合計方法を指定できます:
 - **合計**: 加算合計
 - **平均**: データのある行の平均。データのない行は分母にカウントされません
 - **数**: データのある行の数
 - **なし**: 合計は計算されません
5. 「**追加**」アイコンをクリックした後、次のいずれかをクリックします:
 - **属性の追加**: 「新規属性の作成」ウィンドウが表示されます。収集の新しい属性の追加を参照してください。

- **ディメンションから属性を追加:** 「ディメンションから属性を追加」ウィンドウが表示されます。 [ディメンションからの属性の追加](#) を参照してください。

収集の新しい属性の追加

収集の新しい属性を追加するには:

1. 「新規属性の作成」ウィンドウの「**プロパティ**」タブで次のものを指定します:
 - **名前:** 属性の名前を入力します。入力できる最大文字数は **80** 文字です。
 - **説明:** 説明を入力します。最大 **255** 文字まで入力できます。
 - 属性タイプとして「**入力**」または「**計算済**」オプションを選択します。「**入力**」がデフォルトであり、「**検証**」タブが有効になります。オープン済で、フォーム・インスタンスが作成されている期間には、変更された検証ルールは適用されません。行った変更は、新規のフォーム・インスタンスにのみ適用されます。
「**計算済**」を選択した場合は、「**計算**」タブが有効になります。

ノート:

「**入力**」または「**計算済**」を選択し、属性を保存したら、属性の作成後にこの設定を変更することはできません。属性タイプを変更すると、それまでに指定した検証または計算は上書きされます。

- **データ型:** データ型として次のいずれかを選択します。データ型を選択した後、「**必須**」または「**値を使用**」、あるいはその両方のオプションを選択することもできます。
 - **日付**
 - **日時**
 - **整数**
 - **リスト:** 「**追加**」をクリックして、属性の値を入力します。リストは収集に対してローカルであり、他の収集との間で共有することはできません。
 - **複数行のテキスト:** このオプションを選択した場合、**3** から **50** 行の間で「**行数**」を選択します。デフォルト値は **3** です。「複数行のテキスト」では、「**アクション**」ダイアログ・ボックスで、スクロールせずにフォームに表示できるテキストの行数を決定します。最大長は **2000** 文字です。ただし、テキスト領域の幅は固定されたままです。
データ型でこの値を保持することが必須の場合は、「**必須**」チェック・ボックスを選択します。「**値を使用**」チェック・ボックスを選択した場合は、「**行数**」に入力した値がデフォルトでここにも適用されます。これを超えると、スクロール付きテキストになります。
 - **数値:** このオプションを選択してフォーマット・オプションを指定します。これにより、「**システム設定**」の「**プリファレンス**」セクションのデフォルト設定が上書きされます。

 ノート:

この属性には数値のみ入力できます。

- * **小数点以下の桁数:** 表示する小数点以下の桁数を入力します。
 - * **パーセンテージとして表示:** パーセント記号を表示します。
 - * **3 桁ごとの区切り文字の使用:** 3 桁ごとの区切り文字を表示します(例: 1,000.00)。ユーザーのロケール用の 3 桁ごとの区切り文字が表示されます。
 - * **通貨:** 通貨を選択します。
 - * **負数のフォーマット:** 負数の表示方法を選択します。
 - * **スケール:** 数値をスケールします。範囲は 1000 から 10000000000000 までです。
- **テキスト:** 最大 255 文字を入力します
 - **True/False**
 - **はい/いいえ**
- **必須:** 属性が必須の場合、データ入力中にこのフィールドに値を入力する必要があります。
 - **値を使用:** この値を指定した場合、設計者が入力した値が、ユーザーが作成するすべてのレコードに適用されます。データ入力中にデフォルト値を変更できます。
2. 「OK」をクリックして属性を保存します。「新規属性の作成」ウィンドウが閉じます。
 3. 収集の編集ウィンドウで、「保存」をクリックして収集を保存します。

 ノート:

新しい属性および収集を保存する必要があります。このことを行った後にのみ、属性の「検証」タブまたは「計算」タブにアクセスできるようになります。

4. 作成した属性を選択し、「編集」アイコンをクリックします。「属性の編集」ウィンドウが表示されます。
5. 「入力」オプションを選択した場合(ステップ 1)、「検証」タブで条件式を追加できます:
 - a. 「追加」をクリックします。行が表に追加されます。
 - b. 最初の行内の列をクリックしてドロップダウン・リストを表示し、「演算子」を選択し、それに応じて「値 1」および「値 2」を入力できます。
 - c. 2 つ目の条件が必要な場合は、「追加」をクリックして行をもう 1 つ追加します。
 - d. 2 つ目の行内の列をクリックしてドロップダウン・リストを表示し、「および」や「または」などの「組合せ」を選択できます。
 - e. 「OK」をクリックして条件を保存します。
6. 「計算済」オプションを選択した場合(ステップ 1)、「計算」タブで計算を追加できます。「計算タイプ」を選択します:
 - **値をリストに割当:** 関連する「属性」を選択します。

- **条件:** 「**計算式の定義**」の条件を追加します。
 - **スクリプト:** 「**計算式の定義**」を指定し、属性および関数を選択します。
7. 計算式を追加するには、次の表の説明に従って、データ型と計算タイプを指定します。

表 43-2 データ型と計算タイプ

「プロパティ」タブで選択したデータ型	計算タイプ	説明
すべてのデータ型	「値をリストに割当」 を選択し、「 属性 」値を選択します。 リスト属性値を保存しておく必要があります。	リスト・メンバーへの割当てに基づいて属性値を戻します。
すべてのデータ型	条件	対象の属性に対して、指定された条件が一致している場合に属性値 A を戻します。条件が一致していない場合は属性値 B を戻します。
リスト	リストを値に割当て	属性の値に基づいてリストから関連するメンバーを戻します。
整数、数値、テキスト	スクリプト スクリプト関数 を参照してください	自由形式のスクリプト計算。「スクリプト」は、整数、複数行のテキスト、数値またはテキスト・タイプの属性に使用できます。

8. 「OK」をクリックして属性を保存します。

 **ノート:**

属性に対する変更が適用されるのは、後続のデータ収集期間のみです。

スクリプト関数

- **絶対値:** 指定された数の絶対値を戻します。数がゼロより小さい場合は、数の正の値が戻されます。指定された数がゼロ以上である場合は、指定された数が戻されます。
ABS (<Number>)
- **月の追加:** 開始日からの指定した月数の日付オフセットを返します。日付は常に指定した月オフセットに該当します。開始日に、オフセット月を越える日の値がある場合は、オフセット月の最後の日を使用されます。たとえば、EDate (31-Jan-2017, 1)は(28-Feb-2017)を返します。月の場合は、開始日の前または後の月数を入力します。月に対する正の値は将来の日付を生成します。負の値は過去の日付を生成します。
ADD_MONTH (<Start Date>, <Months>, <Length>)
例: ADD_MONTH (DATE (2017, 2, 15) 3)
- **過去平均:** 過去 X 期間の数量の平均値を算出します。
AVERAGE_PRIOR (<Value>, <Number of Periods>, <To Currency*>
例: AVERAGE_PRIOR ({Balance (Reporting)}, '2', 'EUR'
- **日付:** 年、月および日に対して指定された整数値に基づく日付値を返します。

DATE(<Year>, <Month>, <Day>)

- **日付差異:** 2 つの日付の差を日、時間、分または秒で返します。たとえば DATE 1 と DATE 2 には、それぞれ現在の日付(時間コンポーネントなし)と日時を表す TODAY および NOW の値を使用できます。

DATE_DIFF(<Date1>, <Date2>, <Type>)

例: DATE_DIFF('TODAY', {Preparer End Date}, 'DAYS') または DATE_DIFF({Preparer End Date}, 'NOW', 'HOURS')

- **日:** 日付の日の値を整数として返します

DAY(<DATE>)

- **テキストの抽出:** 値内の指定した位置からの部分文字列を返します。

SUBSTRING(<Value>, <Location>, <Length>)

例: SUBSTRING({Name} , 5, 10)

- **If Then Else:** 条件付きの計算をスクリプト計算に挿入できるようになります。IF_THEN_ELSE 計算式は、ネストして ELSE IF タイプの計算式に対応することもできます。

IF_THEN_ELSE(<Condition>, <Value1>, <Value2>)

例:

```
IF_THEN_ELSE( {Risk Rating} = 'Low', 'Good',
IF_THEN_ELSE( {Risk Rating} = 'Medium', 'Better',
IF_THEN_ELSE({Risk Rating} = 'High', 'Best','Bad')))
```

- **長さ:** テキスト値をパラメータとして受け取り、テキスト内の文字数である整数を返します。値が空/null である場合、計算は 0 を返します。

Length ({<attribute>})

例: LENGTH('Value') は 5 を返し、LENGTH({Name}) は、オブジェクトの名前に含まれる文字数を返します。

SUBSTRING を使用した計算を使用して、テキスト値の最後の 4 文字を抽出します。

SUBSTRING({MyString}, LENGTH ({MyString}) - 4

- **小文字:** 値を小文字で返します

LOWERCASE(<Value>)

例: LOWERCASE({Description})

- **最大:** 属性リストの最大値を返します。任意の数のパラメータを含めることができます。

MAX(<Value1>, <Value2>, <ValueN>)

例: MAX(TRANSLATE({Source System Balance (Entered)}, 'USD', 'Accounting'),
TRANSLATE({Source System Balance (Functional)}, 'USD', 'Accounting'),
TRANSLATE({Source System Balance (Reporting)}, 'USD', 'Accounting'))

- **過去最大:** 過去 X 期間の最大値を返します。

MAX_PRIOR (<Value>, <Number of Periods>)

例: MAX_PRIOR({Balance (Functional)}, '6', 'CAD', 'REC')

- **最小:** 属性リストの最小値を返します。任意の数のパラメータを含めることができます。

MIN(<Value1>, <Value2>, <ValueN>)

例: MIN(TRANSLATE({ Balance (Entered)}, 'CAD', 'REC'),
TRANSLATE({Balance (Functional)}, 'CAD', 'REC'), TRANSLATE({Balance
(Reporting)}, 'CAD', 'REC'))

- **過去最小:** 過去 X 期間の最小値を戻します。

MIN_PRIOR(<Value>, <Value>, <Number of Periods Prior>)
MIN_PRIOR({Source System
Balance (Functional)}, '6', 'EUR', 'Simplified')

- **月:** 日付の月の値を整数(1 から 12)として戻します

MONTH (<DATE>)

- **指数:** 一方の数字を他方の数字の回数掛け合せます。

POWER(x,y) where x=BASE NUMBER, and y=EXPONENT の場合、x と y は数値である
かぎり属性または計算にすることができます。

例: POWER(3,4)=81

ノート:

分数値では、べき根になります。たとえば、POWER(27, 1/3) = 3 で、立方根です。

負の値では、指数計算の逆数になります。たとえば、POWER(2, -2) =
1 / (2^2) = 1 / 4 = .25 です。

- **前:** 指定された前期間の値を戻します。

PRIOR(<Value>, <Number of Periods Prior>)

例: PRIOR({Source System Balance (Entered)}, '1', 'EUR')

- **丸め処理:** 指定された小数点以下の桁数で丸めた値を戻します

ROUND(<Value>, <Decimal Places>)

例: ROUND(({Scripted Translate} /7), 4)

- **過去の合計:** 過去 X 期間の合計値を戻します。

SUM_PRIOR(<Value>, <Number of Periods>)

例: SUM_PRIOR({Balance (Reporting)}, '3', 'EUR')

- **テキストの場所:** 属性値内の部分文字列の場所(1 が最初の位置)を戻します。

INSTRING(<Value>, <Value To Search>)

例: INSTRING(UPPERCASE({Name}), 'TAX')

- **換算:** 指定されたレート・タイプを使用して、通貨属性を数値属性に変換します。

TRANSLATE(<Value>, <To Currency>, <Rate Type>)

例: TRANSLATE({Balance (Entered)}, 'EUR', 'Acct')

- **大文字:** 値を大文字で戻します。

UPPERCASE(<Value>)

例: UPPERCASE({Name})

- **年:** 日付の年の値を整数として返します。

YEAR (<DATE>)

計算属性を追加する例

1. 次の属性を使用して収集を作成します:
Int1: 属性タイプとして「入力」、「データ型」として「整数」。「OK」をクリックし、収集の編集で「キー識別子」として Int1 を選択します
TextInput: 属性タイプとして「入力」、「データ型」として「テキスト」。
2. データを保存します。
3. 属性タイプを「計算済」として、「データ型」を「テキスト」として指定して、TextCalc という属性を作成します。
4. 「計算」タブで、次のように指定します:
 - **計算タイプ:** 「スクリプト」を選択します。
 - **関数の追加:** 「TextLocation」を選択して、「追加」をクリックします。
INSTRING(<Value>, <Value To Search>)が「計算式の定義」に追加されます。
 - <Value>をクリックし、値を(一重引用符で囲み、大/小文字を区別して)入力するか、「属性の追加」で TextInput 属性を選択して、「追加」をクリックします。
<Value>が{TextInput}に変更されます。
 - <Value to Search>を'tion'で置き換えます。
ノート: <xxx>は必ず一重引用符付き('xxx')で置き換えます。例:
INSTRING({TextInput}, 'tion')
5. 「OK」をクリックして属性を保存します。

ディメンションからの属性の追加

「ディメンションから属性を追加」ウィンドウで:

1. **ディメンション**を選択します
2. 「使用可能な属性」リストから属性を選択し、「選択された属性」リストに移動します。ディメンションのキー属性が選択された属性として含まれます。キー属性はクリアできません。
3. 「OK」をクリックします。
「ディメンションから属性を追加」ウィンドウが閉じ、選択した属性が収集の編集ウィンドウに表示されます。
4. 「保持」列のチェック・ボックスを選択して、参照先のフォームで属性の値を保持するように指定できます。ディメンション属性が更新されても、属性が参照されているフォームでは変更が更新されません。このチェック・ボックスを選択しない場合、参照されている属性は最新の変更で更新されます。収集を保存した後、この設定を変更することはできません。
5. 「保存」または「保存して閉じる」をクリックします

収集リスト属性のインポート

「リスト」タイプの属性をインポートするには:

1. 値ごとに異なる行を使用して、リスト・タイプのインポート・ファイルを作成します。

例:

Blue
Yellow
Red
Green

2. ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「補足データ」をクリックします。
3. 左側の「収集」タブをクリックします。
4. 「リスト」タイプの属性を作成または選択し、「関連付けられているフォーム・テンプレート」領域で「編集」 をクリックします。「フォームの編集」ダイアログが表示されます。
5. 「ユーザー」領域で、「インポート」をクリックします。
6. インポート・ファイルを参照して選択します。
7. 「インポート・タイプ」を選択します。ソース・ファイルのメンバーのみを更新する場合は「更新」を選択し、ユーザーをソース・ファイルのメンバーに置き換える場合は「置換」を選択します。
8. ドロップダウン・リストからインポート・ファイルの「ファイル区切り文字」を選択します。「カンマ」または「タブ」です。
9. 「インポート」をクリックします。
「リストの値のインポート」に、合計リスト値、「完了」、「エラー」、作成済リスト値および更新済リスト値の値が表示されます。
「正常に完了」の場合は、「OK」をクリックします。
「エラーで完了」の場合は、エラーが表示されます。エラー・リストをエクスポートするには、「Excel にエクスポート」をクリックします。

収集履歴の表示

システムには、ユーザー、日付、アクション、古い値と新しい値など、収集アクティビティの履歴が保持されます。

収集履歴を表示するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「補足データ」をクリックします。
2. 左側の「収集」タブをクリックします。
3. 収集を選択し、「編集」をクリックします。
4. 次のフィールドを表示します:
 - フィールド
 - 変更タイプ
 - サポート・オブジェクト

- 変更者
- 変更日
- 古い値
- 新規の値

収集属性の削除

収集属性を削除するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**補足データ**」をクリックします。
2. 左側の「**収集**」タブをクリックします。
3. 収集を選択し、「**編集**」をクリックします。
4. 「**属性**」タブを選択し、属性、「**アクション**」、「**削除**」の順に選択します:
 - データが存在する場合は属性を削除できません。
 - データが存在しないが、属性がフォーム・テンプレートで参照されている場合は、最初に属性をフォーム・テンプレートから削除しないと、属性を削除できません。
5. 確認のプロンプトで「**はい**」をクリックします。

収集の編集

収集の説明および属性を編集できます。

収集を編集するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**補足データ**」をクリックします。
2. 左側の「**収集**」タブをクリックします。
3. 収集を選択し、「**アクション**」、「**編集**」の順にクリックします。
関連付けられているサブ収集が表示されます(定義されている場合)。
4. 「**プロパティ**」タブをクリックし、必要に応じて「**説明**」を変更します。
5. 「**属性**」タブをクリックし、必要に応じて属性を編集します。

ノート:

ローカル収集属性名を編集できます。その後、テンプレートから再デプロイして、更新した属性名を反映する必要があります。

収集のデータが存在する場合、収集の「**キー識別子**」および属性を変更できます。
ディメンションから参照される属性は編集できません。

収集のコピー

「補足データ分析」ダッシュボードを使用して、収集をコピーできます。ダッシュボードで、特定の POV からデータをエクスポートして別の POV にインポートできます。

収集をコピーするには:

1. ホーム・ページで、「**データ**」をクリックします。
2. 左側から、「**補足データ分析**」をクリックします。
3. 「**収集**」ドロップダウンから、コピーする収集を選択します。
4. 補足データ分析ページの POV から、コピーするデータの POV メンバーを選択します。
5. 「**アクション**」から、「**Excel にエクスポート**」を選択して、収集からデータをエクスポートします。
6. 補足データ分析ページの POV から、貼り付けるデータの POV メンバーを選択します。
7. 「**アクション**」から、「**インポート**」を選択して、データを収集にインポートします。

収集の削除

収集を削除するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**補足データ**」をクリックします。
2. 左側の「**収集**」タブをクリックします。
3. 収集を選択し、「**アクション**」、「**削除**」の順に選択します。
 - データが存在する場合は、収集を削除できません。
 - データが存在しなくても、フォーム・インスタンスが作成されている場合は、収集を削除できません。
4. 確認のプロンプトで「**はい**」をクリックします。

補足データ・マネージャ・フォーム・テンプレートの作成

補足データ・フォームのテンプレートを作成および操作するには、管理者またはパワー・ユーザーである必要があります。

フォーム・テンプレートを作成する場合は、テンプレートをアドホック・フォームの作成に使用できるかどうかを指定し、テンプレートの作成を許可するユーザーを選択できます。個々のユーザー、グループまたはチームを選択できます。

補足データ・フォームへのデータ入力の詳細は、*Financial Consolidation and Close* の操作ガイドを参照してください。

フォーム・テンプレートを作成するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」をクリックし、「**補足データ**」をクリックします。
2. 左側の「**フォーム・テンプレート**」タブをクリックします。
3. 「**新規**」をクリックします。

4. 「プロパティ」タブで情報を指定します。
 - **名前:** 一意のフォーム・テンプレート名を入力します。入力できる最大文字数は 80 文字です。
 - **説明:** 最大 255 文字まで入力できます。
 - **収集間隔** - ドロップダウン・リストから収集間隔を選択します。
5. 次のトピックを参照してください。
 - [補足データ・マネージャ・フォーム・セクションの操作](#)
 - [フォーム・テンプレートの指示の指定](#)
 - [ワークフローの割当て](#)
 - [フォーム・テンプレートの質問の指定](#)
 - [フォーム・テンプレートのアクセス権の設定](#)

フォーム・テンプレートの指示の指定

管理者は、フォームの使用方法に関する指示を指定します。指示には、テキスト、添付ファイル、およびドキュメント・リポジトリのファイルへのリンクを含めることができます。

フォーム・テンプレートの指示を指定するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「補足データ」をクリックします。
2. 左側の「フォーム・テンプレート」タブをクリックします。
3. **新規フォーム・テンプレート**または**フォーム・テンプレートの編集**で、「指示」タブを選択します。
4. 「指示」で、指示のテキストを入力します。

ファイルへの参照を追加するには:

1. 「参照」セクションで、「追加」をクリックします。

ヒント:

参照を削除するには、その参照を選択して、「削除」をクリックします。

2. 参照タイプを選択します:
 - **ローカル・ファイル** - ローカル・ファイル・システムを参照してファイルを選択します。「名前」を指定する必要があります。「OK」をクリックすると、ファイルがシステムにアップロードされ、フォーム・テンプレートとともに保管されます。
 - **URL** - 外部 URL 参照を入力して、わかりやすい名前を付けます。「OK」をクリックすると、アプリケーションに URL が保管されます。

補足データ・マネージャ・フォーム・セクションの操作

フォームの各セクションで、様々な収集または属性の組合せからデータを収集できます。セクションでは、収集や属性が重複することがあります。対応する収集で「データの共有」属

性が「True」に設定されている場合、属性は 1 つのセクションでのみ書込み可能にすることができます。

それぞれの収集について、サブ収集を使用して最大 5 つのセクションを作成できます。

収集とサブ収集を使用してセクションを作成した後、収集およびサブ収集オブジェクトを変更することはできません。

セクションを作成または編集するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**補足データ**」をクリックします。
2. 左側の「**フォーム・テンプレート**」タブをクリックします。
3. **新規フォーム・テンプレート**または**フォーム・テンプレートの編集**で、「**セクション**」タブを選択します。
4. 「**新規**」をクリックするか、セクションを選択して「**編集**」をクリックします。フォーム・テンプレートの編集セクションが表示されます。
5. 「**プロパティ**」タブで:
 - **名前**: セクションの名前を入力します。入力できる最大文字数は 80 文字です。
 - **収集**: ドロップダウン・リストから収集を選択します。選択した収集に基づいて、ドロップダウンにはそのサブ収集もリストされ、それらを選択することもできます。

リストされる収集は、同じ収集間隔に属しています。関連付けられているサブ収集がある収集を選択した場合、「データ・レコード」は「列」に設定され、セクションを保存すると、対応するサブ収集を使用する新しいセクション・オブジェクトが作成されます。

収集とサブ収集は、同じ収集間隔に属している必要があります。

- **データ・レコード**

次のいずれかを選択します:

 - **行**(サブ収集の場合): フォームの属性が表として表示されます。行にエントリを入力します。属性名は、常にヘッダーとして表示されます。
 - **列**(収集の場合): フォームの属性が行および列に表示され、ユーザーがフォームのそれぞれの属性について値を入力します。フィールドには属性ごとに 1 つのデータ入力レコードが含まれます。属性の説明は、フォームの行ヘッダーとして表示されます。
6. 必要に応じて、その他のセクション・タブについて情報を入力します。
 7. セクションの作成が完了したら、「**OK**」をクリックしてセクションを保存します。

収集について 1 つのセクションが作成され、選択されたキー属性を使用してサブ収集について 1 つのセクションが作成されます。必要に応じて、それを編集して属性を含めることができます。

「フォーム・テンプレート」セクション: 「列」タブ

フォーム・テンプレート・セクションについて、レイアウトの列の数およびそれらの表示方法を指定できます。

たとえば、レイアウトの列数として 3 を選択した場合、それぞれの属性について最大 3 つを列インデックスとして指定できます。

「列」タブを更新するには:

1. 補足データ・フォームを開きます。
2. 「列」タブで、レイアウトの列数の値を選択します。
3. **新規フォーム・テンプレート**または**フォーム・テンプレートの編集**で、「**セクション**」タブを選択します。
4. 「**新規**」をクリックするか、セクションを選択して「**編集**」をクリックします。
5. 「**フォーム・テンプレートの編集**」セクションで、「**列**」タブをクリックします。
6. 「**レイアウトの列**」から、セクションの列数を選択します。3 列のレイアウトが最大です。
7. 列に関する情報を指定します:
 - **含む**
フォームに含まれる他の属性を選択します。
 - **名前**
収集属性の名前。
 - **ディメンション**
特定ディメンションの属性からの列。これは読取り専用です。
 - **データ型**
列(読取り専用)に対応するデータ型。
 - **列の幅**
ピクセルで指定された列の幅。デフォルト値は「**サイズを合わせる**」です。
この幅には、列のセルの余白としてのスペースは含まれません。
 - **小**: 70 ピクセルの固定幅
 - **中**: 100 ピクセルの固定幅
 - **大**: 300 ピクセルの固定幅
 - **サイズを合わせる**: 行で最も長いテキストに基づいて列の幅を合せます
 - **カスタム**: 幅を指定します。最小値: 20。最大値: 999。
 - **合計**
収集で指定された属性の合計方法。常に読取り専用です。
 - **表示のみ**
列は表示専用です。同じ収集に複数のフォームが作成されている場合、キー列を含めて、入力用の列を含めることができるフォームは 1 つのみです。
8. **合計行**
合計行が表示される方法:
 - **上部**: 合計行は、表の最上位に表示されます
 - **下部**: 合計行は、表の最下位に表示されます
 - **なし**: 合計行は表示されません
9. **オプション**: 新しい属性を「**フォーム・テンプレート**」セクションに追加するには、「**追加**」(+)アイコンをクリックして「**属性の追加**」を選択し、属性情報を指定します。

フォーム・テンプレート・セクションに属性を追加する手順は、収集に属性を追加する手順と同じです。[収集属性の追加](#)を参照してください。

10. 「OK」をクリックして、データを保存します。

「フォーム・テンプレート」セクション: 「検証」タブ

特定の補足データの属性にしきい値を指定し、連結で POV から取得された残高試算表に対して検証を行い、数値が完全一致でなくてもフォームを送信できるようにすることができます。検証しきい値は、パーセンテージベース、値ベースまたは完全一致です。指定した定数値に対して属性の値を検証することもできます。

補足データ・フォームのテンプレートの「**合計検証**」タブを更新するには:

1. 補足データ・フォームを開きます。
2. **新規フォーム・テンプレート**または**フォーム・テンプレートの編集**で、「**セクション**」タブを選択します。
3. 「**新規**」をクリックするか、セクションを選択して「**編集**」をクリックします。
4. 「**フォーム・テンプレートの編集**」セクションで、「**合計検証**」タブをクリックします。
5. 「**検証タイプ**」ドロップダウンから、次のいずれかを選択します:
 - **なし**: 列が検証の対象として含まれないことを示します。また、表示専用であるか数値以外(テキスト、リスト、はいいいえなど)である列は検証の対象として含まれません。
 - **POV**: POV 値に対して検証します。このオプションを選択すると、「**キューブ**」および「**メンバー・セレクタ**」アイコンが使用可能になります。
 - **金額**: それらが定義されている同じ属性の合計に対して検証します。
6. 「**しきい値**」ドロップダウンから、次のいずれかを選択します:
 - **完全一致**: 正確な値が検証に使用されます。選択した場合、しきい値を入力するテキスト・ボックスを使用することはできません。
 - **%**: 値がパーセンテージ値の+/-である場合は検証が成功することを許可するパーセント・ベースの検証。
 - **#**: 値が値の+/-である場合は検証が成功することを許可する値ベースの検証。
7. **%**または**#**を選択した場合、「**値**」列のテキスト・ボックスに値を入力します。これは、検証されるしきい値のパーセンテージまたは値(10進数)です。この値は正の値である必要があります。

例:

- 属性タイプが整数である場合、整数として表示されますが、10進数はパーセントまたは値として使用されます。
- 「**しきい値**」を%として選択した場合、かつ:
 - 値が **5** である場合は、入力された値または POV 値に対する-5%から+5%のしきい値とみなされます。
 - 値が **0.5** である場合は、入力された値または POV 値に対する-0.5%から+0.5%のしきい値とみなされます。
- 「**しきい値**」を#として選択した場合、かつ:

- 値が **10** である場合は、入力された値または POV 値に対する -10 から +10 のしきい値とみなされます。
- 値が **0.1** である場合は、入力された値または POV 値に対する -0.1 から +0.1 のしきい値とみなされます。

負の値、スケールされた値およびパーセンテージ数値については、データベースに保管されている RAW 値に対して検証が実行されます。たとえば、スケール属性が **1000** であるとして、セルに **3** と入力された値はデータベース内では **3000** になり、保管されている同じ値 **3000** に対して検証が実行されます。しきい値が **1000** である場合、2 から 4 の間で入力されたすべてのデータについて検証が成功します(3 はデータベース内では 3000 です。したがって、+/- 1000 は 2000 と 4000 です。)

「フォーム・テンプレート」セクション: 「グループ化基準」タブ

補足データ・フォーム・テンプレートの「グループ化基準」タブを更新するには:

1. 補足データ・フォームを開きます。
2. **新規フォーム・テンプレート**または**フォーム・テンプレートの編集**で、「セクション」タブを選択します。
3. 「**新規**」をクリックするか、セクションを選択して「**編集**」をクリックします。
4. フォーム・テンプレートの編集セクションで、「**グループ化基準**」タブをクリックします。
5. 「列」をクリックしてから、次の列を選択または表示します。
 - **含む**
「グループ化基準」に含める他の列を選択します。
 - **グループ化基準**
メイン表のデータが選択した列でグループ化されます。
 - **名前**
収集の名前。
 - **ディメンション**
特定ディメンションの属性(読取り専用)からの列。
 - **データ型**
列(読取り専用)に対応するデータ型。
 - **合計**
収集で指定された属性の合計方法(読取り専用)。
6. **合計行:**
合計行が表示される方法を示します:
 - **上部:** 合計行は、表の最上位に表示されます
 - **下部:** 合計行は、表の最下位に表示されます
 - **なし:** 合計行は表示されません
7. 必要に応じて、その他のセクション・タブで情報を入力します。
8. 更新を保存して「フォーム・テンプレート」セクション・タブに戻るには、「**OK**」をクリックします。

「フォーム・テンプレート」セクション: 「マッピング」タブ

フォーム・テンプレートで、「マッピング」タブを使用して、フォーム・データを転記する POV を指定します。「グループ化基準」タブで選択した属性に基づいて、補足データ・マネージャ・フォームのエントリをマップできます。属性の金額は、「グループ化基準」タブで選択された属性を使用して合計されます。

「グループ化基準」タブの属性にリスト・データ型を使用している場合は、リストの個々のアイテムをマップできます。この場合、マッピング・テキストを編集して `@Listname` を追加します。`@Listname` は、リスト属性の各子の置換として使用されます。すべてのリスト・メンバーがディメンション・メンバーと同一であることを確認して、無効な POV がないようにします。

ノート:

ベスト・プラクティスとして、マッピングを作成または編集する前に、ブラウザのキャッシュをクリアして再ログインしてください。

「マッピング」タブを更新するには:

1. 補足データ・フォームを開きます。
2. **新規フォーム・テンプレート**または**フォーム・テンプレートの編集**で、「セクション」タブを選択します。
3. 「**新規**」をクリックするか、セクションを選択して「**編集**」をクリックします。フォーム・テンプレートの編集セクションが表示されます。
4. 「**接続**」を選択します。
「ソース」列のデフォルトは、割当てマッピング・メニューの選択時に選択された列です。必要に応じて、別のソース列に変更します。
5. 「**キューブ**」ドロップダウンで、使用可能なキューブのリストからキューブを選択します。
6. 「**メンバーの選択**」をクリックして、視点のメンバーを選択します。
メンバーは、POV ディメンションごとに作成する必要があります。マッピングの前に POV が有効であることを確認してください。
メンバー・セレクトタには、収集間隔の頻度ディメンションとワークフロー・ディメンションを除くディメンションが表示されます。間隔ディメンションの値は、フォームがデプロイされたデータ収集期間に基づいて、転記中に動的に設定されます。
7. 「**マッピング**」で、POV を入力します。
8. 更新を保存して「**フォーム・テンプレート**」セクション・タブに戻るには、「**OK**」をクリックします。

「フォーム・テンプレート」セクション: 「履歴」タブ

「履歴」タブには、変更したユーザー、日付、変更のタイプ、古い値と新しい値など、フォーム・テンプレート・セクションに対する変更が表示されます。

「履歴」タブを表示するには:

1. 補足データ・フォームを開きます。
2. **新規フォーム・テンプレート**または**フォーム・テンプレートの編集**で、「**セクション**」タブを選択します。
3. 「**新規**」をクリックするか、セクションを選択して「**編集**」をクリックします。
4. フォーム・テンプレート・セクションの編集で、「**履歴**」タブをクリックします。
5. 「**表示**」をクリックしてリストから表示する列を選択するか、「**その他の列**」を選択して表示される列とその表示順序を管理します。
6. 次の情報を表示できます:
 - フィールド
 - 変更タイプ
 - サポート・オブジェクト
 - 変更者
 - 変更日
 - 古い値
 - 新規の値
7. フォーム・テンプレート・セクション・タブに戻り、「**OK**」をクリックします。

ワークフローの割当て

フォームのワークフローを割り当てるには、「ワークフロー」タブを使用します。

フォームのワークフローを割り当てるには:

1. 補足データ・フォームを開きます。
2. 「**新規フォーム**」または「**フォームの編集**」で、「**ワークフロー**」タブをクリックします。
3. 「**開始タイミング**」で、ドロップダウン・リストから値を選択します:
 - **頻度** - フォームのデータが収集される頻度。
 - **スケジュール開始** - 収集日付:
 - **終了日** - 期間の終了日。
 - **クローズ日** - 期間に指定されたクローズ日。
 - **開始日オフセット** - フォームのデータ収集の開始日。これはデータ収集日の開始が許可される終了日またはクローズ日の後の日数を決定します。値は正または負にすることができます。たとえば、開始日の数日前にデータを準備でき、その日から 3 日後に収集を開始する場合は-3 を設定できます。
4. 「**ワークフロー**」で、次の値を選択します:
 - **ワークフロー・オプション** - オプションを選択します。
 - 策定
 - 策定して承認
 - 策定し、承認してから転記
 - 策定して転記

- 転記
- **承認のレベル** - 承認者のレベルを最大 10 個選択します。
- **期間** - 次に示すユーザーごとに特定のアクションに許可される最大日数
このデータにより、ワークフロー・オプションに応じて、送信、承認および転記にスケジュールされる完了日が決まります。
- 5. 「**ユーザー**」セクションでは、「**フォーム**」および「**アドホック**」オプションが使用できます。フォームまたはアドホックに対してワークフローおよび参照者ユーザー割当てを定義できます。使用可能なフィールドにユーザーを追加できます。
 - 「**新規**」をクリックします。
 - ユーザーを追加するには:
 - **フォーム**の場合は、**ワークフロー**を選択してから、**策定者**および**承認者**にユーザーまたはグループを選択します。「ワークフロー」メンバー・セレクタは、選択したワークフロー・ディメンションに基づいて動的に生成されます。
 - **アドホック**の場合は、姓で検索してユーザーまたはグループを選択します。「**詳細**」をクリックして、ユーザー ID または電子メールで検索できます。デフォルトでは、基本オプション(姓と名)が表示されます。
 - 「**検索**」をクリックして、「**検索結果**」を表示します。このオプションを使用して、ユーザーを追加または削除できます。

 **ノート:**

「**アドホックを許可**」オプションは、「**ワークフロー**」タブの下に表示されます。デフォルトでは表示されません。アドホック・ユーザー・リストの数が 0 より大きい場合にのみ表示されます。リストが空の場合、このオプションはオフになります。

- CSV ファイルからユーザーをインポートするには、「**インポート**」をクリックします:
 - ファイルを選択するには、「**参照**」をクリックします。
 - 「**ファイル区切り文字**」に、「**カンマ**」または「**タブ**」を選択するか、「**その他**」を選択して区切り文字を入力します。
 - 「**インポート**」をクリックします。

 **ノート:**

エクスポート/インポート・ファイル・フォーマットでは、トランザクションに「**アドホックを許可**」オプションを含めることができます。

- ユーザーを削除するには、ユーザーを選択し、メニュー・バーから「**削除**」をクリックします。

フォーム・テンプレートの質問の指定

質問は、自動的に役割でグループ化されます。役割内では、個々の質問が順序付けされます。順序は、役割内の質問の順序を示します。

質問を作成するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**補足データ**」をクリックします。
2. 左側の「**フォーム・テンプレート**」タブをクリックします。
3. 「**新規フォーム**」または「**フォームの編集**」で、「**質問**」タブをクリックします。
4. 「**新規**」または「**編集**」をクリックします。
5. 次の情報を入力します:

- **質問:** 最大 2000 文字まで入力できます。

フォームのユーザーに回答を促す質問を入力します。

- **データ型**

質問タイプを選択します:

- **日付**

- **日時**

- **テキスト:** 最大 4000 文字まで入力できます。

- **リスト:** 最大 255 文字まで入力できます。

「**追加**」をクリックして、属性の値を入力します。

- **整数:** -2147483648 から 2147483647 の値を入力できます

- **数値:** 値 xxxxxxxxxxxxxxxxxxxx.xxxxxxxxx (17 桁と小数点以下 9 桁)を入力できます

「数値」を選択した場合、フォーマット・オプションを選択します:

- * 「**小数点以下の桁数**」には、表示する小数点以下の桁数を入力します。デフォルト値はシステム・プリファレンスで定義されます。

- * 3 桁ごとの区切り文字(たとえば、1,000.00)を表示するには、「**3 桁ごとの区切り文字**」を選択します。ユーザーのロケール用の 3 桁ごとの区切り文字が表示されます。

- * 「**通貨**」から、(INR)などの通貨を選択します

通貨が選択されていない場合、金額は換算されません。

- * 「**負数**」から、(123)など、負数の表示方法を選択します。

- 「**True**」または「**False**」

- 「**はい**」または「**いいえ**」

- 「**役割**」 - 質問対象の役割を指定します。

- **必須** - 質問が必須かオプションかを決定します。

質問を削除するには:

1. 「**新規フォーム**」または「**フォームの編集**」で、「**質問**」タブを選択します。

2. 質問を選択して「削除」をクリックします。

フォーム・テンプレートのアクセス権の設定

補足データ・フォーム・テンプレートの「アクセス」タブでは、権限のあるユーザーや、そのユーザーがフォームに対して実行できる機能を決定します。

- 「アクセス」タブの上部パネルには、表示アクセス権のあるユーザーのリストが表示されます。
- 下部パネルには、ユーザーがアクセスできるワークフローが表示されます。

参照者のリストを CSV ファイルでインポートすると、複数のユーザーに簡単にアクセス権を割り当てることができます。参照者は、ユーザー、グループ、チームのいずれでもかまいません。次に、「表示」オプションを使用して、フォームにアクセスできるステージを決定します。ユーザーのリストをエクスポートして、管理者が分析することもできます。

ノート:

参照者のアクセス権を指定する前に、ワークフローを定義してください。

ノート:

テンプレートに定型フォームが定義されていない場合でも、ユーザーおよび参照者のアド・ホック割当てを作成できるようになりました。

アクセス権を追加するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「補足データ」をクリックします。
2. 左側の「フォーム・テンプレート」タブをクリックします。
3. 「新規フォーム」または「フォームの編集」をクリックし、「アクセス」タブをクリックします。
4. 「新規」をクリックするか、ユーザーを選択して「編集」をクリックします。
5. 「参照者のアクセス」で、ユーザー、グループまたはチームを選択します。
6. 「ワークフロー」から、ワークフロー・ディメンションのメンバーを選択します。ワークフロー・ディメンションのメンバーの組合せがすべてリストされます。
7. 「表示オプション」を選択します。
 - **常時** - データ入力完了していない場合や、データが承認のために送信されていない場合も含めていつでもデータを表示できます。
 - **送信後** - 策定者がデータを送信するとすぐに、承認前のデータでも表示できます。
 - **承認後** - すべてのレベルの承認が行われるまで、データを表示できません。
8. **オプション**: CSV ファイルから複数のユーザーの参照者アクセス権をロードするには:

- a. メニュー・バーから、「**インポート**」をクリックします。
- b. 参照してファイルを選択します。
- c. 「**インポート・タイプ**」で、「**すべて置換**」または「**更新**」を選択します。
- d. 「**ファイル区切り文字**」に、「**カンマ**」または「**タブ**」を選択するか、「**その他**」を選択して区切り文字を入力します。
- e. 「**インポート**」をクリックします。

フォーム・テンプレートの履歴の表示

「履歴」タブには、フォーム・テンプレートに対する変更が記録されます。ここでは、作成または更新されたフィールド、変更タイプ、古い値と新しい値、変更を行ったユーザーおよび変更日が表示されます。「履歴」タブの情報は読取り専用です。

フォーム・テンプレートの履歴を表示するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**補足データ**」をクリックします。
2. 左側の「**フォーム・テンプレート**」タブをクリックします。
3. 「**新規フォーム**」または「**フォームの編集**」で、「**履歴**」タブをクリックします。

フォーム・テンプレートの編集

フォーム・テンプレートを編集するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**補足データ**」をクリックします。
2. 左側の「**フォーム・テンプレート**」タブをクリックします。
3. フォーム・テンプレートを選択し、メニュー・バーから「**編集**」を選択します。

フォーム・テンプレートの複製

フォーム・テンプレートを複製するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**補足データ**」をクリックします。
2. 左側の「**フォーム・テンプレート**」タブをクリックします。
3. フォーム・テンプレートを選択し、メニュー・バーから「**複製**」を選択します。

複製アクションでは、フォーム名にコピー接尾辞を追加したコピーが作成されます。また、複数のフォーム・テンプレートが同じ収集への書込みアクセス権を持つことがないように、すべての属性が読取り専用になります。

フォーム・テンプレートの削除

不要になったフォーム・テンプレートを削除できます。

フォーム・テンプレートを削除するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**補足データ**」をクリックします。
2. 左側の「**フォーム・テンプレート**」タブをクリックします。

3. フォーム・テンプレートを選択し、メニュー・バーから「削除」を選択します。
4. 「はい」をクリックしてテンプレートの削除を確認します。

データ収集期間へのフォーム・テンプレートのデプロイ

補足データ・フォームを作成したら、デプロイできます。

以前にデプロイしたフォームを再デプロイすることもできます。ワークフローがどのような影響を受けるかを指定できます。たとえば、ワークフロー・アイテムをさらに追加し(収集またはテンプレートのプロパティや属性は変更しない)、これらのみをデプロイする必要があるとします。すべてのフォーム・ワークフローをリセットすることを選択した場合、テンプレートがデプロイされ、データは保持されますが、コメントなどの他のワークフロー・アイテムはすべてリセットされます。

データ収集期間にフォーム・テンプレートをデプロイするには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「補足データ」をクリックします。
2. 左側の「フォーム・テンプレート」タブをクリックします。
3. 「アクション」メニューから、「デプロイ」をクリックします。
4. 「データ収集終了期間」から、「検索」アイコンをクリックします。
5. 「データ収集期間の選択」ダイアログで、次の手順を実行します:
 - a. 「間隔」をクリックし、収集間隔を選択します。

収集間隔を選択すると、POV ディメンションに、その収集間隔で定義されている頻度ディメンションが反映されます。
 - b. POV ディメンションのメンバーを選択し、「OK」をクリックします。

保留中期間およびオープン期間のデータ収集期間が表示されます。
 - c. 「期間」から、データ収集期間を選択し、「OK」をクリックします。

収集間隔と POV ディメンション・メンバーを選択すると、「フォーム・テンプレート」のリストがフィルタ処理されて、選択した間隔で使用可能なテンプレートのみが表示されます。
6. デプロイするフォーム・テンプレートを 1 つ以上選択します。
7. 「デプロイ」をクリックします。
8. 収集間隔に関連するすべてのフォーム・テンプレートを表示する「情報ダイアログのデプロイ」が表示されます。
 - このダイアログには、それぞれのテンプレートについて「作成」、「リセット」および「削除」の値がリストされます。フォーム・テンプレートがまだデプロイされていない場合、これらの値はゼロになります。
 - **作成** - ワークフロー定義に基づいて、デプロイ(および再デプロイ)中に作成されるすべてのフォームの数が表示されます。
 - **リセット** - 新しく追加されたプロパティや属性など、収集/テンプレートのコピーの更新が表示されます。

- **リフレッシュ** - テンプレートに加えられた変更に基づいてリフレッシュされるすべてのフォームの数が表示されます。テンプレート属性のプロパティの変更がフォームに反映されます。
 - **削除** - デプロイ解除および再デプロイの場合、ワークフロー・メンバーに基づいて、削除されたフォームの数が表示されます。
 - フォームを再デプロイしている場合、次のオプションが表示されます:
 - **すべてのフォーム・ワークフローのリセット** - このオプションを選択すると、フォームに入力されたデータは保持されますが、コメントなど、その他すべてのワークフロー・アイテムはリセットされます。テンプレートのキー属性に変更を加えた場合(追加、削除、編集)、フォーム・データが削除されます。
 - **アドホック・フォームの削除** - このオプションを選択した場合(デフォルト)、収集期間内のユーザーが作成したアドホック・フォームはすべて削除されます。このオプションを選択しない場合、収集期間内のユーザーが作成したアドホック・フォームはすべてリフレッシュまたはリセットされます。
9. 「**デプロイ**」をクリックします。
10. デプロイの確認プロンプトで「**はい**」をクリックします。
11. デプロイメントが完了すると、確認ダイアログ・ボックスに次の情報が示されます:
- **収集からのフォーム・テンプレートの合計**: 「情報ダイアログのデプロイ」からのフォーム・テンプレートの合計数。
 - **フォーム・テンプレートと期間の頻度または間隔が不一致**: 収集間隔頻度と一致しないフォーム・テンプレートの数。頻度が欠落しているフォーム・テンプレートを表示するには、「**詳細の表示**」をクリックします。
 - **エラーのあるフォーム・テンプレート**: エラーがあるフォーム・テンプレートの合計数。エラーがある場合、コピーは行われません。
 - **エラーのある収集**: エラーがある収集。エラーの詳細を確認するには、「**詳細の表示**」をクリックします。
 - **デプロイされたフォーム・テンプレート**: すでにデプロイされているテンプレート。
 - **デプロイするフォームの合計**: 各フォーム・テンプレートに指定されたフォームの合計数。
 - **成功したデプロイ**: デプロイされたフォームの合計数。
 - **失敗したデプロイ**: デプロイに失敗したフォームの合計数。

フォーム・テンプレートのデプロイ解除

フォーム・テンプレートをデプロイ解除するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**補足データ**」をクリックします。
2. 左側の「**フォーム・テンプレート**」タブをクリックします。
3. 「**アクション**」メニューから、「**デプロイ解除**」を選択します。
「**フォーム・テンプレートのデプロイ解除**」が表示されます。
4. 「**データ収集期間の選択**」ダイアログで、次の手順を実行します:
 - a. 「**間隔**」をクリックし、収集間隔を選択します。

収集間隔を選択すると、POV ディメンションに、その収集間隔で定義されている頻度ディメンションが反映されます。

- b. POV ディメンションのメンバーを選択し、「OK」をクリックします。
- c. 「期間」から、データ収集期間を選択し、「OK」をクリックします。

収集間隔と POV ディメンション・メンバーを選択すると、「フォーム・テンプレート」のリストがフィルタ処理されて、選択した間隔で使用可能なテンプレートのみが表示されます。

5. デプロイ解除するフォーム・テンプレートを 1 つ以上選択し、「デプロイ解除」をクリックします。
6. 収集間隔に関連するすべてのフォーム・テンプレートを表示する「**情報ダイアログのデプロイ**」が表示されます。
 - テンプレートの作成時に「**データの共有**」オプションを選択していた場合、メッセージが表示され、一緒にデプロイ解除する必要があるフォーム・テンプレートがリストされます。
 - それぞれのテンプレートについて、「**作成**」、「**削除**」および「**リセット**」の値が表示されます。
 - **作成** - ワークフロー定義に基づいて、デプロイ(および再デプロイ)中に作成されるすべてのフォームの数が表示されます。
 - **リセット** - 新しく追加されたプロパティや属性など、収集/テンプレートのコピーの更新が表示されます。
 - **削除** - デプロイ解除および再デプロイの場合、ワークフロー・メンバーに基づいて、削除されたフォームの数が表示されます。
7. フォーム・テンプレートを選択し、「**デプロイ解除**」をクリックします。

デプロイ解除の結果として、この期間のすべての既存のデータおよびすべてのフォームが完全に削除されるというメッセージが表示されます。

8. 「**デプロイ解除**」をクリックします。

デプロイ解除が完了すると、確認のダイアログ・ボックスにデプロイ解除に成功したフォームの総数が表示されます。

デプロイに失敗したフォームについては、フォーム名がエラー情報とともに表示されます。

補足データ・フォームの再オープン

デプロイされた補足データ・フォームを再オープンし、データを修正してフォームの操作を続行できます。

補足データ・フォームを再オープンするには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**補足データ**」をクリックします。
2. 左側の「**フォーム・テンプレート**」タブをクリックします。
3. フォーム・テンプレートの「アクション」省略記号ボタン(...)をクリックし、「**フォーム**」を選択します。

関連するフォームのリストが表示されます。

4. 「アクション」省略記号ボタン(...)をクリックし、「再オープン」を選択します。

このアクションにより、ワークフロー・ステータスが「オープン(策定者)」にリセットされます。

収集へのデータのバルク・ロード

管理者とパワー・ユーザーは、特定のデータ収集期間および特定の収集についてデータをインポートできます。この機能は、管理者およびパワー・ユーザーが別のシステムのソース・データを使用してフォームにまとめて移入する場合や、策定者がデータ値を入力するのみで済むように、いくつかの列を事前に移入しておく場合に便利です。データ・ロードは、次のワークフロー・ステータスのフォームで許可されます:

- 保留中
- オープン(策定者)
- オープン(承認者)

ノート:

データ・ロードは、「クローズ済」のワークフロー・ステータスのフォームでは許可されません。

「置換」または「更新」のいずれかのオプションを使用できます。

- **置換** - フォーム内のデータをクリアし、ソース・ファイルの値で置換します。インポート・プロセス後、ソース・ファイルにないフィールドは空白になります。
- **更新** - ソース・ファイルに含まれている値のみが更新されます。他の値は影響を受けません。

データをロードするには:

1. ホーム・ページで、「データ」をクリックし、次に「補足データ分析」をクリックします。
2. 収集を選択し、POV メンバーを移入して、「アクション」から「インポート」を選択します。
3. ロードする CSV ファイルを選択します。次に、ワークフロー・ディメンションとしてエンティティを使用する収集のロード・ファイルの例を示します。

	A	B	C	D	E	F
1	Entity	ID	Employee ID	Employee Name	Meal Type	Amount
2	US	301	101	Samson John	Breakfast	34
3	India	1	102	Nancy Clark	Breakfast	510
4	India	2	104	Santosh Kumar	Breakfast	3500
5	Europe	201	103	Nancy Clark	Breakfast	35
6	Germany	12	105	Bill Jones	Lunch	57
7						

4. 「置換」を選択して、すべてのデータをクリアし、ソース・ファイルのデータで置き換えるか、「更新」を選択し、ソース・ファイル内に含まれるデータのみを更新します。

5. 日付フォーマットを選択してから「**インポート**」をクリックします。ステータスには、エラーまたは警告があるかどうかに加えて、**エンティティの合計**、**更新されたエンティティ** および **作成** または **更新された行の合計** が表示されます。

補足データ・マネージャでのユーザーの再割当て

決算プロセス中に、ユーザーを別のタスクに再割当てすることが定期的に必要になる場合があります。たとえば、タスクを割り当てられた従業員が会社を退職した場合、そのタスクを別の従業員に再割当てできます。個々のタスクを手動で検索し、開いて編集するかわりに、「ワークフロー・ダッシュボード」の「再割当て」機能を使用して割当てを自動的に変更できます。「再割当て」機能では、ユーザーに関連付けられているタスクをすばやく検索し、別のユーザーに再割当てできます。タスクを個々のユーザー、グループまたはチームに再割当てできます。

ユーザーを再割当てする役割を選択できます。たとえば、「所有者」の役割を選択した場合は、ユーザーが所有者として割り当てられているタスクでのみユーザーが再割当てされます。「クローズ済」のワークフロー・ステータスのフォームでは許可されません。

ユーザーを再割当てするには:

1. ホーム・ページで、「**タスク**」をクリックします。
2. 左側の「**補足データ・タスク**」タブをクリックします。
3. ユーザーを再割当てする 1 つ以上のフォームを選択します。
4. 「**アクション**」で、「**ユーザーの設定**」を選択します。
5. 「**フィールド**」で、再割当てするユーザーの役割を選択します。
6. 「**対象ユーザー**」で、名前を入力するか、タスクを再割当てするユーザー、グループまたはチームを検索します。
7. 「**適用**」をクリックします。
8. ユーザー更新の確認のプロンプトで「**はい**」をクリックします。

勘定科目残高に対する補足データ合計の検証

Financial Consolidation and Close では、勘定科目残高に対して補足データ合計を検証できます。これは、様々な一般会計システムから連結システムに勘定科目残高をロードし、補足データ・マネージャを使用してその勘定科目残高の一部または合計を収集する場合に便利です。収集が終わった時点で、補足データの合計は、策定者がデータ・フォームを送信する前に勘定科目残高と一致している必要があります。

POV 設定は、フォーム・テンプレートの定義中に行われます。勘定科目残高は、フォームを開いている間など、実行中にフェッチされます。データの検証の利点として、リアルタイムで行われることがあげられます。

検証プロセスの最初のステップでは、管理者が、フォーム・テンプレート定義を通じて連結システムに対して補足データの検証を設定します。その後、フォームの策定者に対してフォームに「検証」行が表示されるようになり、属性と勘定科目残高が一致するまでフォームが送信されないことが保証されます。

検証の設定

検証を設定するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「補足データ」をクリックします。
2. 左側の「フォーム・テンプレート」タブをクリックします。
3. テンプレートを選択します。
4. フォーム・テンプレートの編集で、「セクション」を選択し、「列」タブを選択します。
5. 「合計検証 POV」列ドロップダウンで、使用可能なキューブのリストからキューブを選択します。
6. 検証の基準とする属性の横にある「合計検証 POV」列の「メンバーの選択」をクリックして、POV を指定します。

ノート:

選択できるのはリーフレベルのメンバーのみで、親メンバーは選択できません。
「表示のみ」が選択解除されていることを確認します。

フォームの操作

検証を設定してフォームをデプロイした後、勘定科目残高が「検証」行に POV とともに表示されます。

Year 2016 Period August Scenario Actual Entity NewYork

Administration Expenses

Actions ▾ 12 »

	ID	Item	Amount
Total			
Validation			\$ 670

データを追加してフォームを送信しようとする、システムによるチェックが行われ、属性の合計が勘定科目残高と等しい場合にのみ、送信が許可されます。たとえば、事務用品のデータを追加すると次のようになります。

Year 2016 Period August Scenario Actual Entity NewYork

Administration Expenses

Actions ▾ 12 + × [Icons]

	ID	Item	Amount
1	1	Stationery	\$ 570
Total			\$ 570
Validation			\$ 670

Error ×

Form Validation Failed. Total of Amount has a difference of 100 with target Account Balance.

OK

出張費用の\$100を追加すると、今度は属性値と勘定科目残高が一致するため、フォームが送信されます。

Year 2016 Period August Scenario Actual Entity NewYork

Administration Expenses

Actions ▾ [Icons]

	ID	Item	Amount
1	1	Stationery	\$ 570
2	2	Travel	\$ 100
Total			\$ 670
Validation			\$ 670

「補足データ分析」ダッシュボードでのデータの表示

「補足データ分析」ダッシュボードには収集およびサブ収集の詳細が含まれるため、情報の表示とフィルタ処理を簡単に行うことができます。列を選択およびソートして、リストを保存することもできます。

データ分析ダッシュボードに収集を表示するには:

1. ホーム・ページで、「**データ**」をクリックします。
2. 左側から、「**補足データ分析**」をクリックします。
3. 「**収集**」ドロップダウン・リストから、アクセスしてデータを分析する収集/サブ収集およびデータ収集期間(頻度ディメンション・メンバーの組合せ)を選択します。

例:

収集名: Debt Details

データ収集期間のパラメータ: 年: 2020、期間: 4月、シナリオ: 実績

4. **オプション:** 「フィルタの追加」をクリックし、フィルタ値を入力します。使用可能なフィルタは、選択した収集に基づきます。 [フィルタの操作](#)を参照してください。
5. **オプション:** 収集からデータをエクスポートするには、「アクション」から「エクスポート」を選択し、「Excel にエクスポート」または「CSV にエクスポート」を選択します。
6. **オプション:** 「アクション」から、「インポート」を選択して、データを収集にインポートします。
「参照」をクリックしてファイルを選択し、既存のファイルを置換するか更新するかを選び、日付フォーマットを選択して、「インポート」をクリックします。
7. **オプション:** 画面の右側にある  アイコンをクリックしてビューを選択します。 [ビューについて](#)を参照してください。

Smart View での補足データの使用

データ収集プロセスには Oracle Smart View for Office を使用できます。補足データ管理の Smart View 拡張機能をインストールすると、Smart View の「補足データ」メニュー・オプションを使用して、データ収集プロセスを管理したり、補足データ・フォームを操作できます。

拡張機能をインストールするには、*Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者スタート・ガイド*のクライアントのダウンロードおよびインストールに関する項を参照してください。

拡張機能をインストールし、接続を作成したら、次の Smart View の補足データ・タスクを実行できます。

- 準備、承認および転記のために実行する必要があるフォームのワークリストを表示する
- 「表示」セキュリティ権限を持つ、システム内の収集のリストを表示する
- データ収集プロセスの一環として収集されたデータにフィルタを適用する
補足データについて以前作成したフィルタやリストは、Smart View で使用可能です。

セキュリティに関する考慮事項

- サービス管理者は、データ収集で指定されている法的エンティティに関係なく、すべての収集を表示できます。
- パワー・ユーザーおよびユーザーは、ワークフローの一部として、法的エンティティのアクセス役割に従って、適格なすべての収集を表示できます。
- ユーザーには、自分に権限があるフォームのみが表示されます。使用可能なオプション（「データの保存」、「承認」、「却下」など）は、セキュリティ役割に応じて変わります。

Smart View への接続

1. ホーム・ページで「ダウンロード」を選択し、**補足データ管理の Smart View 拡張機能**をダウンロードします。
2. Smart View で、接続を作成し、URL を入力します。
3. 右パネルで、「**プライベート接続**」から、作成した補足データ・マネージャ接続を選択します。
4. 「**接続**」ダイアログ・ボックスで、ユーザー名およびパスワードを入力し、「**接続**」をクリックします。

補足データ・フォームの操作

1. 「プライベート接続」リストから、補足データ・マネージャ接続を選択します。
2. 「補足データ」タブを選択し、「リフレッシュ」をクリックします。
「ワークリスト」および「収集」ノードが表示されます。
3. 「ワークリスト」の下で、フォームのリストからフォームを選択します。
 - 各フォームはフォーマット内の 1 つの親ノードです。<Form Name> - <Workflow Dimension: Member 1>| <Workflow Dimension: Member 5>。
例: Debt Details Form – New York
 - フォーム上にマウスを重ねると、フォーマット内に詳細が表示されます。<Form Name> - <Workflow Dimension: Member 1>| <Workflow Dimension: Member 5> (<Responsible role> - <Due Date>), <Frequency Dimension: Member 1>| <Frequency Dimension: Member 4>。
例: Loan Detail – Entity: LE101 | Account: Sales (Preparer – Jan 10, 2020), Year: 2020 | Period: Jan | Scenario: Actual
 - a. リーフ・ノードをダブルクリックすると、フォーム・ヘッダーまたはサマリ
ー・セクションが表示されます。各セクションはフォーマット内の 1 つのリー
フ・ノードです。<Section name>。
例: Loan Collection Data Entry
 - b. ヘッダー・セクションをクリックすると、Excel に詳細セクションが表示され
ます。フォームを表示または変更したり、質問に回答したり、コメントを入力
できます。
詳細セクションまたはサブ収集は別のワークシートに表示されます。
4. 「収集」で、収集間隔のリストから間隔を選択します。
各リーフ・ノードでは、収集間隔が最初にリストされ、その後に収集とサブ収集が
リストされます。

ノート:

データが含まれている収集のみが、各データ収集期間に表示されます。

5. 終了したら、フォームに適切なアクションを選択します。
 - データの保存
 - データの送信
 - 承認
 - 却下
 - データの転記

通貨換算の使用

会社のデータ収集プロセスの関係者は、通常、複数の地理的地域に拠点があります。データ策定者は、現地通貨でデータを準備するのが普通ですが、送信されたデータは

親会社(本社など)の現地通貨で分析する必要があります。ほとんどの場合、最終の財務レポートは親会社の通貨で生成されます。通貨換算機能によって、補足データ管理内で現地通貨から親通貨に通貨属性を換算できます。

通貨換算では、次のプロセスを使用します。

- システムは、エンティティ・メンバーの基本通貨(またはデフォルト通貨)を補足データ・マネージャに保管します。
- 複数通貨アプリケーションを使用している場合、システムは、Rates キューブの勘定科目ディメンションの為替レート・メンバーを使用して、通貨レート・タイプおよび通貨レートも保管します。レート・タイプと通貨レートは、補足データ・マネージャでは読取り専用です。

エンティティ・メンバーのデフォルト通貨の表示

エンティティ・ディメンションの各メンバーのデフォルト通貨を表示できます。

デフォルト通貨を表示するには:

1. ホーム・ページで「アプリケーション」をクリックし、「補足データ」をクリックします。
2. 左側の「ディメンション」タブをクリックします。
3. 「ディメンション」で、「エンティティ」を選択します。
4. 省略記号
 から、「メンバーおよび属性」を選択します。
5. メンバーごとに、通貨属性の通貨を表示できます。

Members and Attributes: Entity

Entity	Entity Description	Currency	Entity Parent	Entity Leaf	Entity Consol
FCCS_Global Assumptions		USD	Entity	Yes	Yes
FCCS_Total Geography		USD	Entity	Yes	Yes
LE102		USD	Entity	Yes	Yes
LE101		USD	Entity	Yes	Yes
LE103		USD	Entity	Yes	Yes

ノート:

エンティティ・メンバーに通貨が関連付けられていない場合、継承する通貨がないため、フォームがこの特定のエンティティにデプロイされたときに換算は機能しません。

換算用の通貨属性の設定

通貨換算を使用するには、エンティティの現地通貨で金額(通貨値)の属性を作成します。「属性の編集」ダイアログに、「通貨」というプロパティがあります。そのプロパティの「エンティティ通貨」の値を選択すると、その特定の属性によって、フォーム・テンプレートのデプ

ロイ先のエンティティから通貨が継承されます。これは、表示された異なる通貨を選択して上書きできます。

説明のために、世界各地のエンティティから現地通貨で食費のデータ値を手動入力する「**Employee Meal Expenses**」という収集の例を示します。エンティティ通貨を使用するか、それを上書きするかを選択できます。

属性には、「従業員 ID」、「従業員名」、食品タイプ、「金額」および HQ 通貨での金額が含まれます。目的は、「**金額**」を取得して、USD (ドル)の **HQ 通貨での金額**に換算することです。

The screenshot shows the 'Collections' page in Oracle. A search bar is at the top. Below it are icons for adding, editing, deleting, and viewing. A table lists the collection 'Employee Meal Expenses' with details: Type: Collection, Collection Interval: Default, Description: (empty), Last Updated On: Mar 9, 2023, Last Updated By: Administrator.

Name	Type	Collection Interval	Description	Last Updated On	Last Updated By
Employee Meal Expenses	Collection	Default		Mar 9, 2023	Administrator

Attributes

Name	Data Type	Assign Workflow
Entity	Text	Yes
ID	Integer	No
Employee ID	Integer	No
Employee Name	Text	No
Meal Type	List	No
Amount	Number	No
Amount in HQ Currency	Number	No

Associated Form Templates

Name	Description	Last Update
Employee Meal Expenses	Employee Meal Expenses	Mar 10, 2023

入力値の現地通貨を HQ 通貨に換算するには:

1. ホーム・ページで「**アプリケーション**」をクリックし、「**補足データ**」をクリックします。
2. 左側の「**収集**」タブをクリックします。
3. 収集を選択し、「**アクション**」、「**編集**」の順に選択します。

Edit Collection [Employee Meal Expenses] Save Save and Close Cancel

Properties **Attributes** History

Key Identifier	Assign Workflow	Name	Dimension Name	Attribute Type	Data Type	Total
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	Entity	Entity	Dimension Reference	Text	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	ID		Input	Integer	Sum
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Employee ID		Input	Integer	Sum
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Employee Name		Input	Text	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Meal Type		Input	List	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Amount		Input	Number	Sum
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Amount in HQ Currency		Calculated	Number	Sum

- 「属性」タブで、属性(たとえば、世界中の様々なチームからの食事費用の入力値である「金額」など)を選択し、「アクション」、「編集」の順にクリックします。
- 「通貨」で、「エンティティ通貨」を選択すると、この属性(金額)によって、フォームのデプロイ先のエンティティの通貨が継承されます(この例では USD (ドル))。
- 計算済属性「Amount in HQ Currency」が USD (ドル)の通貨で設定されています。
- 「計算」で、換算関数が、Average 為替レート・タイプを使用して「金額」の値を USD 通貨に換算するように設定されています。

Edit Attribute OK Cancel

Properties Validations **Calculations** History

Calculation Type Scripted

Calculation Definition

```
TRANSLATE({Amount}, 'USD', 'FX Rates - Average')
```

Add Attribute

Add Function

- 設定が完了したら、デプロイされたフォームで換算操作を確認できます。この例では、4つの異なる通貨を持つ4つの異なるエンティティにフォーム・テンプレートがデプロイされています。

補足データ・マネージャ・チームの管理

チームは、所有者、担当者および承認者の役割を使用して定義およびプロビジョニングされます。次に、タスクのこれらの役割を名前付きユーザーに割り当てるかわりに、チームに割り当てます。管理者およびパワー・ユーザーは、チームを追加、編集、および削除できます。

ノート:

個々のユーザーは、直接的または間接的に最大で 1,000 のチームに割り当てることができます。

関連トピック:

- [補足データ・マネージャのチームおよびメンバーの追加](#)
- [補足データ・マネージャのチームおよびメンバーのインポートおよびエクスポート](#)
- [補足データ・マネージャ・ユーザーのエクスポート](#)
- [補足データ・マネージャのチームおよびメンバーの編集](#)
- [補足データ・マネージャのチームおよびメンバーの削除](#)

補足データ・マネージャのチームおよびメンバーの追加

補足データ用、たとえば補足データ・フォームを操作する専用のチームを作成することができます。次に、どのユーザーまたはチームがフォームを請求できるか決定し、「アクセス」からワークフロー・ステージにチームを割り当てることができます。各チームに役割が割り当てられます。デフォルトでは、「ユーザー」の役割が作成されます。

チームを追加するときは、ユーザー ID とチームを通じて名前が一意になるようにする必要があります。ユーザー ID と同じ名前のチームは追加しないでください。

補足データのチームとメンバーを追加するには:

1. ホーム・ページで「ツール」をクリックし、「アクセス制御」をクリックします。
2. 「チーム」タブで  「新規」をクリックします。
3. チームの「名前」と「説明」を入力します。
4. 「補足データ」タブを選択します。
5. 「ユーザー」を選択します。
6. メンバーを追加するには:
 - a. 「メンバー」セクションで  「追加」をクリックします。

- b. 「名」、「姓」の一部またはすべてを入力するか、「検索」をクリックして名前を選択します。
 - c. 「検索結果」セクションで、「追加」または「すべて追加」をクリックし、選択内容を「選択済」リストに追加します。
 - d. 「OK」をクリックします。
7. 「チームの定義」ダイアログ・ボックスで、「プライマリ・ユーザー」を選択すると、タスクのデフォルトがそのユーザーでの「請求済」ステータスになります。

 ノート:

他のチーム・メンバーは次にタスクを請求できます。

8. 「OK」をクリックします。

補足データ・マネージャのチームおよびメンバーのインポートおよびエクスポート

管理者とパワー・ユーザーは、チームおよびメンバーを個別に更新することなく、ファイルをエクスポートし、変更を行い、そのファイルを再インポートすることで、チームおよびメンバーのバルク更新を実行できます。teams.csv ファイルをエクスポートすると、チーム全体および各チームのメンバーのレポートが提供されます。必要に応じてデフォルトの.csv ファイルの名前を変更できます。

次のステップを実行する必要があります。

- エクスポート.csv ファイルを作成します。後述の「補足データ・マネージャ・チームのファイル・フォーマット」のフォーマットを参照してください。
- 既存のチームのバルク編集を実行するか、teams.csv ファイルを編集して新しいチームを作成できます。
- 情報を元のアプリケーションにインポートします。

チームおよびメンバーのエクスポート

チームおよびメンバーの一括エクスポートを実行するには:

1. ホーム・ページで、「ツール」をクリックし、「アクセス制御」をクリックします。
2. 「チームの管理」タブをクリックします。
3. チームを選択します。
4. ファイルのエクスポート・アイコン  をクリックします
5. 「保存」をクリックして teams.csv ファイルを保存します。ファイルにより、すべてのチームおよび各チームのメンバーのリストが提供されます。

チームおよびメンバーのインポート

チームをインポートすると、チーム・リストがマージされます。たとえば、アプリケーションでチーム 1、チーム 2 およびチーム 3 が定義されており、CSV ファイルでチ

チーム 2 およびチーム 4 が定義されている場合、インポート・プロセス後、チーム 2 は更新され、チーム 4 は追加されます。

チーム・メンバーシップは CSV ファイルの内容に置き換えられます。たとえば、アプリケーションに UserA、UserB および UserC のメンバーシップを持つチーム 1 があり、CSV ファイルに UserB および UserD のメンバーシップがある場合、インポート・プロセス後、チーム 1 のメンバーシップに UserB および UserD が含まれます。

チームおよびメンバーの一括インポートを実行するには:

1. ホーム・ページで、「ツール」をクリックし、「アクセス制御」をクリックします。
2. 「チームの管理」タブをクリックします。
3. チームを選択します。
4. 「インポート」をクリックし、次の情報を入力します。
 - 「ファイル」で、エクスポートした.csv ファイルに移動します。
 - 「インポート・タイプ」で、次のオプションのいずれかを選択します。
 - 「置換」をクリックすると、エクスポート.csv ファイルに含まれる行が置換されます。
 - 「すべて置換」をクリックすると、次のようにインポートが実行されます。
 - * チームが UI および.csv ファイルの両方に存在する場合、インポートによって UI のチームが更新されるように上書きされます。
 - * UI に存在するその他のチームが.csv ファイルには存在しない場合、そのチームは削除されます。
 - * .csv ファイルに存在するその他のチームが UI には存在しない場合、そのチームはインポートされます。

▲ 注意:

インポート・ファイルに含まれないエントリは削除されます。

- 「ファイル区切り文字」で、「カンマ」または「タブ」を選択します。デフォルトはカンマです。
5. 「インポート」をクリックします。
インポートの進行状況を示しながらインポートが実行されます。
 6. インポートが完了したら、**チームのインポート・メッセージ・ボックス**で結果を確認し、「OK」をクリックします。

補足データ・マネージャのチーム・ファイル・フォーマット

チームをインポートまたはエクスポートするために.csv ファイルを作成する際は、次のフォーマットを使用してください。

CSV 要素	必須	説明
#team	はい	チームの説明および役割が示されたチームのリスト

CSV 要素	必須	説明
#team_children	いいえ	チーム・メンバーのリスト
役割	いいえ	チームに特定の役割がある場合、指定できる値は「はい」および「いいえ」です。デフォルト値は「いいえ」です。 指定できる役割は管理者、パワー・ユーザー、ユーザーおよび参照者です。
id	はい	チームまたはチーム名を一意に識別します
Primary_user	いいえ	指定できる値は「はい」および「いいえ」です。列または値が指定されていない場合、デフォルト値は「いいえ」です。

サンプル CSV ファイルを次に示します。

#team						
id	description	task_administrator	task_power_user	task_user	task_viewer	sdm_user
Team1	First Team	No	Yes	Yes	Yes	No
Team2	Second Team	Yes	No	No	No	Yes
#team_children						
id	user_id	primary_user				
Team1	UserA	Yes				
Team1	UserB	No				
Team1	UserC	No				
#team_children						
id	user_id	primary_user				
Team2	AdminA	Yes				
Team2	AdminB	No				

補足データ・マネージャ・ユーザーのエクスポート

管理者およびパワー・ユーザーはユーザー・リストを CSV ファイルにエクスポートできます。ユーザー・リストのインポートは行えませんが、ユーザー・ログインなどのユーザー情報は、チーム・インポート・ファイルの作成において役に立ちます。

補足データ・マネージャ・ユーザーをエクスポートするには:

1. ホーム・ページで「ツール」をクリックし、「アクセス制御」をクリックします。

2. 「**ユーザーの管理**」をクリックします。
3. 「**CSV にエクスポート**」をクリックします。
4. 「**保存**」をクリックして、**export.csv** ファイルを保存します。

名前	ユーザー・ログイン	ステータス	チーム	説明
AppUser1	app1	使用可能	Team1、Team 2	User1
AppUser2	app2	使用可能	Team1	User2
View User1	view1	使用可能	Team3、Team4、Team5	Viewer1

補足データ・マネージャのチームおよびメンバーの編集

補足データのチームまたはメンバーを編集するには:

1. ホーム・ページで「**ツール**」をクリックし、「**アクセス制御**」を選択します。
2. 「**チーム**」タブをクリックします。
3. チームを選択し、 「**編集**」をクリックします。
4. チームおよびメンバーを編集し、「**OK**」をクリックします。

補足データ・マネージャのチームおよびメンバーの削除

補足データのチームまたはメンバーを削除するには:

1. ホーム・ページで「**ツール**」をクリックし、「**アクセス制御**」をクリックします。
2. 「**チームの管理**」をクリックします。
3. チームを削除するには、チームを選択し、「**X**」をクリックして、確認プロンプトで「**はい**」をクリックします。
4. メンバーを削除するには、チーム名をダブルクリックし、「**チームの編集**」ダイアログ・ボックスで、メンバーを選択してから「**X**」(「**削除**」)をクリックします。
5. 「**OK**」をクリックします。

補足データ・マネージャ・ユーザーの管理

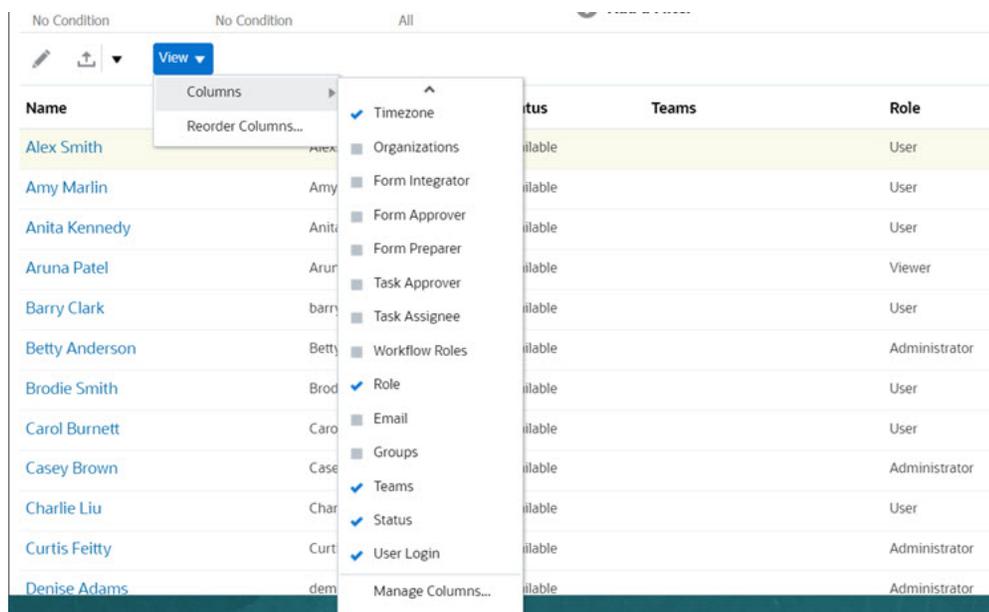
「**アクセス制御**」の「**タスク・マネージャ・ユーザー**」を使用して、システム上のユーザーに関する情報にアクセスできます。次のフィールドは、ユーザー・リストで列またはフィルタとして使用できます。

表示する列とともに、リストをフィルタして csv または Excel 形式にエクスポートする列を決定できます。

ユーザーに関する詳細情報を確認する場合は、ユーザー名をダブルクリックすると「**ユーザーの詳細**」ダイアログが表示されます。

- **名前** - ユーザーのフル・ネーム。列およびフィルタはデフォルトで選択されています。
- **最終ログイン** - ユーザーの最終ログインの日時。
- **タイムゾーン** - それぞれのユーザーのユーザー・プリファレンスで設定されたタイム・ゾーン
- **組織** - ユーザーが割り当てられた組織のリスト。
- **フォーム統合者** - (はいいいえ)は、ユーザーがいずれかの補足データ・フォームの統合者であるかどうかを示します。これには、グループおよびチームを使用した間接割当てが含まれます。
- **フォーム承認者** - (はいいいえ)は、ユーザーがいずれかの補足データ・フォームの承認者であるかどうかを示します。これには、グループおよびチームを使用した間接割当てが含まれます。
- **フォーム策定者** - (はいいいえ)は、ユーザーがいずれかの補足データ・フォームの策定者であるかどうかを示します。これには、グループおよびチームを使用した間接割当てが含まれます。
- **タスク承認者** - (はいいいえ)は、ユーザーがいずれかのタスク・マネージャ・タスクの承認者であるかどうかを示します。これには、グループおよびチームを使用したバックアップ割当ておよび間接割当てが含まれます。
- **タスク担当者** - (はいいいえ)は、ユーザーがいずれかのタスク・マネージャ・タスクの担当者であるかどうかを示します。これには、グループおよびチームを使用したバックアップ割当ておよび間接割当てが含まれます。
- **ワークフローの役割** - タスクまたはフォームでユーザーが割り当てられた役割(タスク担当者、フォーム承認者 1、タスク参照者など)。
- **役割** - ユーザーに割り当てられた最上位の外部役割。
- **電子メール** - ユーザーの電子メール・アドレス。
- **グループ** - ユーザーが属するグループのリスト。
- **チーム** - ユーザーが属するチームのリスト。列はデフォルトで選択されています。
- **ステータス** - ユーザーのステータス(「作業可能」または「作業不可」)。列およびフィルタはデフォルトで選択されています。
- **ユーザー・ログイン** - ユーザー ID。列およびフィルタはデフォルトで選択されています。

例:



ユーザーの「**設定のクリア**」をクリックすると、次の内容がこのユーザーに設定されているデフォルト値に戻ります:

- ダッシュボードおよびほとんどの管理ダイアログ(例: 「属性の管理」)で選択された列
- ダッシュボードでのソート
- ダッシュボードで適用されたフィルタ
- ダッシュボードの様々なスイッチとコントロールの状態
- インポート・ダイアログのデフォルトの日付フォーマット

バックアップ割当ての管理

担当者および承認者の役割のバックアップは、プライマリ・ユーザーがチームまたはグループではなく、名前付きユーザーの場合に割り当てられます。

- **担当者:** 基本タスク用(自動タスクを除く)
- **承認者:** 基本タスクおよび自動タスク用

ノート:

管理者は、テンプレート、スケジュールおよびタスクに対する所有者の割当てをバックアップできません。

タスクのバックアップを割り当てるには:

1. バックアップを割り当てるタスクを開きます。
2. 「**ワークフロー**」タブを選択し、**担当者**と**バックアップ**両方のユーザーを選択します。
3. 「**保存して閉じる**」をクリックします。

タスク・マネージャでの再割当ての要求

再割当て要求は、プライマリ・ワークフローの役割に明示的に割り当てられているユーザー(名前付きユーザーとして)によってのみ開始できます。バックアップの役割に対し、またはプライマリの役割を割り当てられたチーム/グループのメンバーでは送信できません。

担当者および承認者は、タスクの再割当ての要求を送信することで、1 つ以上のタスクに対する担当者または承認者の割当てに異議を唱えることができます。

ワークフロー・ユーザー(担当者および承認者)は、「タスク・アクション」ダイアログ・ボックスから、選択したタスク、または選択したタスクおよび将来のタスクに対するワークフローの役割の再割当てを要求できます。これらの要求には承認が必要です。管理者およびスケジュール/テンプレートの所有者は、承認を必要とすることなく、「タスクの編集」ダイアログ・ボックスを使用して、タスクを再割当てできます。

タスクの再割当てを要求するには:

1. ホーム・ページで、「**タスク**」をクリックします。
2. 左側の「**スケジュール・タスク**」タブを選択します。
3. 「**アクション**」で「**再割当ての要求**」を選択します。
4. 再割当てするユーザーがわかっている場合は、 「**対象ユーザー**」を有効にして、名前を入力するか検索します。

ノート:

新しいユーザーがわからない場合は、ユーザーの名前を指定せずに要求を送信します。

5. 次のオプションを完了して、タスクを再割当てします。
 - 「**選択したタスク**」では、スケジュール・タスクのみが再割当てされます
 - 「**選択したタスクおよび将来のタスク**」では、スケジュール・タスクおよびソース・テンプレート内の対応するタスクに対してタスクが再割当てされます
6. 再割当てについて「**理由**」を入力します。
7. 「**OK**」をクリックします。

ビューおよびフィルタの操作

この章では、ビューおよびフィルタの作成、管理および使用方法について説明します。

関連トピック

- [フィルタの操作](#)
- [ビューの操作](#)

フィルタの操作

フィルタを使用して、ビューおよびレポートに表示されるレコードを制限します。

Related Topics

- [フィルタについて](#)
- [既存の保存済フィルタの表示](#)
- [新規フィルタの作成](#)
- [フィルタ・バーを使用した表示の調整](#)
- [フィルタ条件のクリア](#)
- [フィルタの削除](#)
- [フィルタの編集](#)
- [フィルタの複製](#)
- [フィルタの保存](#)
- [保存済フィルタの適用](#)
- [フィルタの公開](#)
- [フィルタの削除](#)
- [フィルタの列の表示](#)
- [フィルタの列の順序変更](#)

フィルタについて

フィルタは、リスト・ビューおよびレポートに表示されるレコードを制御します。

フィルタ対象の属性の値とフィルタに使用する演算子を指定できます。一般的な演算子には、「等しい」、「次と等しくない」、「次で始まる」、「次で終わる」、「次を含む」、「次より大きい」、「次より小さい」などがあります。使用可能な演算子は属性のデータ型によって異なります。たとえば、テキスト値をフィルタ処理するための演算子は、数値をフィルタ処理するための演算子とは異なります。フィルタは、**AND** ロジックを使用して結合されます。この場合、フィルタ条件のすべてを満たすレコードのみが表示されます。

AND と OR のロジックを使用した複雑なフィルタや、フィルタの適用順を決めるグループ化ロジックを作成することもできます。

フィルタは、将来使用できるように保存できます。一方で、ビューの設定には保存済リストを使用できます。「リスト・ビューの操作」を参照してください。

サービス管理者およびパワー・ユーザーは、他のユーザーがアクセスできるようにフィルタを公開できます。これらは「パブリック」としてマークされます。サービス管理者およびパワー・ユーザーは、保存済フィルタを使用してルールをテストできます。

タスク・マネージャでフィルタが使用される場所

タスク・マネージャ内にはフィルタを使用できる場所が数多くあります。

フィルタの機能は、次の様々な領域全体で一貫しています：

- スケジュール・タスク
- テンプレート
- スケジュール
- タスク・タイプ
- アラート・タイプ
- ビュー
- 属性

補足データ・マネージャでフィルタが使用される場所

補足データ・マネージャ内にはフィルタを使用できる場所が数多くあります。

フィルタの機能は、次の様々な領域全体で一貫しています：

- 補足データ・タスク
- ビュー
- データ収集期間

既存の保存済フィルタの表示

保存されたフィルタ定義は、構成の「フィルタ」タブで使用できます。

保存済フィルタを表示するには：

1. ホームから、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」の順にクリックします。
ホームから、「アプリケーション」、「補足データ」の順にクリックします。
2. 「フィルタ」をクリックして既存のフィルタを表示します。
パブリック・フィルタには緑のチェック・マークが付いています。

新規フィルタの作成

新しいフィルタを使用して、要件に応じて行の表示を制御します。

新規フィルタを作成するには：

1. ホームから、「アプリケーション」、「タスク・マネージャ」、「フィルタ」の順にクリックします。次のいずれかのページに移動してフィルタを作成することもできます:
 - 「タスク」 > 「スケジュール・タスク」。右側の「...」、「フィルタの管理」の順にクリックします。
 - 「タスク」 > 「補足データ・タスク」。右側の「...」、「フィルタの管理」の順にクリックします。
 - 「タスク」 > 「アラート」。右側の「...」、「フィルタの管理」の順にクリックします。
 ホームから、「アプリケーション」、「補足データ」、「フィルタ」の順にクリックします。
2. 「新規」(+)をクリックして新規フィルタを追加します。「新規フィルタ」ダイアログが表示されます。
3. 「名前」に、フィルタの一意の名前を入力します。
4. 「説明」に、フィルタの説明(オプション)を入力します。
5. 「タイプ」で、作成するフィルタのタイプを選択します。
6. 「フィルタ定義」セクションで、「条件の作成」をクリックしてデータのフィルタに使用する条件を作成します。複数の条件および条件のグループを指定できます。条件ごとに、次を指定します:
 - (条件グループのみ)組合せ: 「および」または「または」を選択します。これらによって、この条件またはグループと、先行する兄弟の条件またはグループとの関係を指定します。このフィールドは、選択したノードがその親ノードの最初の子ではない場合にのみ有効になります。
 - 属性: 属性は、条件がフィルタの結果セットに含めるための値と比較される、フィールドまたは値です。ただし、フィルタが対象の場合、属性はユーザー定義属性のリストを超えたものを表します。
 - 演算子: 属性に対して実行する評価の種類を示します。たとえば、「次と等しい」、「次の間」、「次と等しくない」、「次より大きい」、「空白である」、「空白でない」、「次より小さい」、「次の間以外」です。
 - 値: 属性を比較する値を指定します。属性のタイプによって、使用可能な入力フィールドが決定されます。

フィルタ・バーを使用した表示の調整

フィルタ・バーは、様々な領域で機能し、リストに表示されるデータをフィルタします。1つのリストに複数のフィルタを追加できます。

フィルタ構成でのフィルタ・バーの例を次に示します。デフォルトの「すべて」が使用されていることに注意してください。つまり、フィルタ属性を選択をしないかぎり、すべてのオブジェクトが表示されます。

Name	Description	Public	Type	
No Condition	No Condition	All	All	 Add a Filter

フィルタをリストに追加するには:

1. 「+ フィルタの追加」をクリックして、データのフィルタに使用できる属性のリストを表示します。
属性のリストは、フィルタを追加するリスト・ページに応じて異なります。
2. 追加するフィルタ属性を選択します。
選択した属性がフィルタ・バーに表示されます。

日付範囲の使用

一部のフィルタ属性には日付範囲があります。たとえば、別のフィルタ属性をフィルタ・バーに追加する場合(「作成日」など)、日付範囲機能を使用できます。日付値を使用して表示を絞り込み、次に「演算子」フィールドを使用して、この基準に合致する日付値の条件を設定します

The screenshot shows a filter configuration window for the 'Created On' attribute. At the top left, it says 'Created On' and 'No Condition'. To the right is a '+ Add a Filter' button. Below this, there is a section for 'Operator' with a dropdown menu currently showing 'Equals'. To the right of the operator is a date picker widget. The date picker shows 'September' and '2022' at the top, with a calendar grid below. The date '21' is selected and highlighted in blue. Below the date picker is a 'Value' field containing the text 'mmm dd, yyyy h:mm a'.

フィルタ条件のクリア

フィルタをクリアすると、表示されているデータに対して、このフィルタによって適用された条件が削除されます。

フィルタをフィルタ・バーに追加した後、次のいずれかを実行してフィルタ条件をクリアできます:

- 各フィルタにカーソルを合せ、*** アイコンをクリックし、「クリア」をクリックして特定のフィルタの条件をクリアしてリセットします。
- フィルタ・バーの右側にある *** アイコンをクリックし、「すべてのフィルタのクリア」を選択します。フィルタ・バーのすべてのフィルタの条件がクリアされ、リセットされます。

フィルタの削除

フィルタ・バーからフィルタを削除できます。

フィルタを削除すると、リストされたデータに対してフィルタに基づいて適用された条件もクリアされます。

フィルタ・バーからフィルタを削除するには:

1. フィルタの横にある *** アイコンをクリックします。

2. 「削除」をクリックしてフィルタ・バーからフィルタを削除します。
一部のページでは、デフォルトのフィルタは削除できません。

フィルタの編集

フィルタの定義を変更するには、フィルタを編集します。

フィルタを編集するには:

1. 「フィルタ」ページを開きます。
ホーム・ページで、「アプリケーション」 > 「タスク・マネージャ」 > 「フィルタ」の順にクリックします。
ホーム・ページで、「アプリケーション」 > 「補足データ」 > 「フィルタ」の順にクリックします。
ページで「...」 > 「フィルタの管理」をクリックした場合もフィルタを編集できます。
2. 編集するフィルタを選択し、 アイコンをクリックします。
「フィルタの編集」ダイアログが表示されます。
3. 必要な情報を更新します。
4. 「OK」をクリックします。
フィルタの詳細が更新されます。

フィルタの複製

既存のフィルタのコピーを作成するには、フィルタを複製します。

フィルタを複製するには:

1. 「フィルタ」ページで、複製するフィルタを選択して  アイコンをクリックします。
フィルタのコピーがページに表示されます。
2. コピーされたフィルタをクリックします。
「フィルタの編集」ウィンドウが表示されます。
3. 必要な情報を更新します。
4. 「OK」をクリックします。
コピーしたフィルタのフィルタ詳細が更新されます。

フィルタの保存

フィルタ定義を保存すると、(必要なときにフィルタを手動で設定するのではなく)必要なときにフィルタ設定を簡単に再利用できます。

デフォルトでは、フィルタはプライベート・フィルタとして保存されます。他のユーザーが同じ保存済フィルタを使用できるように、フィルタを公開できます。

フィルタを保存するには:

1. 「フィルタの追加」を使用して、必要な属性に対するフィルタを作成します。
2. 「アクション」メニューから、「フィルタの保存」を選択します。
「フィルタの保存」ダイアログが表示されます。

3. 「名前」に、フィルタの一意の名前を入力します。
4. 「説明」に、フィルタに関するオプションの説明を入力します。
「フィルタ定義」セクションには、選択したフィルタ条件が表示されることに注意してください。
5. 「OK」をクリックします。

保存済フィルタの適用

保存済フィルタを使用して、表示されるデータを制限できます。ページの右上にある「...」アイコンをクリックすると、保存済フィルタがすべて表示されます。これらのフィルタのいずれかをクリックしてデータに適用します。定義されたフィルタ条件に基づいてデータが表示されます。

フィルタの公開

サービス管理者は、他のユーザーが使用できるようにフィルタを公開できます。フィルタを公開すると、そのフィルタは「パブリック」としてマークされます。

フィルタを公開するには:

1. 「フィルタ」ページで、公開するフィルタを選択して  アイコンをクリックします。
確認を求めるメッセージが表示されます。
2. 「はい」をクリックします。
フィルタのコピーが作成され、フィルタが公開されていることを示すアイコンが「パブリック」列に表示されます。

Note:

フィルタを公開できるのは、パワー・ユーザーおよび管理者のみです。

フィルタの削除

システムからフィルタの定義を削除するには、フィルタを削除します。

フィルタを削除するには:

1. 「フィルタ」ページで、削除するフィルタを選択して  アイコンをクリックします。
確認を求めるメッセージが表示されます。
2. 「はい」をクリックします。
フィルタが削除されます。

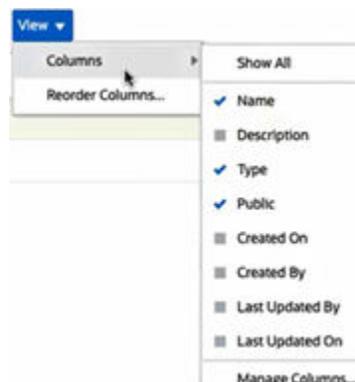
フィルタの列の表示

フィルタの列を表示するには:

1. 「フィルタ」ページで、「表示」、「列」の順にクリックします。

2. 表示する列を選択するか、「すべて表示」をクリックしてすべての列を表示します。

「列の管理」をクリックし、「表示」 > 「列」で表示される列を非表示に、または列を表示できます。



フィルタの列の順序変更

列を並べ替えるには:

1. 「フィルタ」ページで、「表示」、「列の順序変更」の順にクリックします。
2. 順序を変更する列名を選択し、次のアイコンを使用して必要な位置に移動します:
 - : 選択したアイテムをリストの最上位に移動します
 - : 選択したアイテムをリストの1つ上に移動します
 - : 選択したアイテムをリストの1つ下に移動します
 - : 選択したアイテムをリストの最下位に移動します
3. 「OK」をクリックします。
指定された順序に基づいて列が表示されます。

ビューの操作

ビューを使用すると、複数の方法でデータをビジュアル化して分析できます。

関連トピック:

- [ビューについて](#)
- [リスト・ビューの操作](#)
- [ピボット・ビューの操作](#)
- [チャート・ビューの操作](#)
- [ガント・チャート・ビューの操作](#)
- [カレンダー・ビューの操作](#)
- [ビューの保存](#)
- [保存済ビューの編集](#)

- ビューの発行
- デフォルト・ビューの設定

ビューについて

Oracle Enterprise Performance Management Cloud 製品では、データを視覚的に表示する非常に柔軟性のある方法を提供しています。

ビューのタイプ

- リスト・ビュー: ページ上のフィルタ条件を満たすオブジェクトの情報が、表に列と行で表示されます。
- ガント・チャート: タスクの期間とそれらの依存関係をグラフィカルに表す、スケジュールの時系列が表示されます。ガント・チャートを使用して、先行タスクから他のタスクへのステータスを確認できます。
- カレンダ: 月、週または日ごとに、従来のカレンダー形式でスケジュール・タスクが表示されます。「カレンダー・ビュー」を選択した後、カレンダー・アイコンを使用して「月」、「週」または「日」を選択します。「カレンダー・ビュー」では、「日」ヘッダーに「日ラベル」も表示されます。
- ピボット・ビュー: 数値属性データの値ごとのサマリーを作成できます。
- チャート・ビュー: データがチャート形式で表示されます。

ビュー・セレクトラ()を使用して、ビューを移動します。

ビューのコンパクト表示の選択

リスト、ガントまたはピボット・ビューでアイテムを表示しているときは、データをコンパクトな形式で表示できます。「コンパクト」オプションは切替えスイッチとして機能し、表示される情報の行を増やすことができます。レコードをコンパクトな形式で表示するには、**ビュー・セレクトラ**から「コンパクト」をクリックします。

ビューを保存すると、コンパクトの選択も保存されます。

ビューを使用できるオブジェクト

タスク・マネージャでは、次のオブジェクトのビューを使用できます:

- スケジュール・タスク: タスク・マネージャのスケジュール済タスクのリストが含まれます
- アラート: アラートのリストが含まれ、アラート詳細にドリルダウンできます

補足データ・マネージャでは、次のオブジェクトのビューを使用できます:

- 補足データ・タスク: 補足データ・マネージャのタスクが含まれます
- 補足データ分析: 収集およびサブ収集の詳細が含まれます

ビューでのデータのフィルタリングについて

フィルタを使用して、ビューに表示されるデータを制限できます。フィルタは、実行時(データが表示された後)、またはチャートまたはピボット・ビューの設計時に作成できます。

データは次の方法でフィルタできます:

- ビューのフィルタ・バー

フィルタ・バーからフィルタを使用して、ビューのデータに適用する必要がある基準を動的に決定できます。指定したフィルタ条件は、ビューが生成された後の実行時に適用され、適用された条件を反映するように表示が更新されます。[フィルタ・バーを使用した表示の調整](#)を参照してください。

たとえば、「担当者」列を選択した状態で「タスク」リストのフィルタ・バーにフィルタを追加します。このフィルタを使用して、1人以上の担当者を選択することでチャート・データを動的にフィルタできます。

たとえば、「策定者」列を選択した状態で「フォーム」リストのフィルタ・バーにフィルタを追加します。このフィルタを使用して、1人以上の策定者を選択することでチャート・データを動的にフィルタできます。

- 「ピボットの編集」または「チャートの編集」ダイアログの「レイアウト」タブの「フィルタ」

このフィルタはビュー・デザイナーによって追加されます。指定した条件は、データがピボット・ビューまたはチャート・ビューに追加される前にデータに適用されます。フィルタは、「[凡例\(系列\)](#)」セクションにリストされているデータ・セットごとに作成できます。[チャート・レイアウトの設定](#)を参照してください。

たとえば、ステータスを「オープン」に設定してデータ・セットのフィルタ条件を作成すると、そのデータ・セットをチャートにするときにオープン・タスクのみが含まれるようになります。

たとえば、ステータスを「オープン」に設定してデータ・セットのフィルタ条件を作成すると、そのデータ・セットをチャートにするときにオープン・フォームのみが含まれるようになります。

リスト・ビューの操作

リスト・ビューを使用して、レコードを単純な表形式で表示します。

Related Topics

- [リスト・ビューについて](#)
- [リスト・ビューのカスタマイズ](#)
- [タスク・マネージャの例: スケジュール・タスクのリスト・ビューのカスタマイズ](#)
- [補足データ・マネージャの例: 補足データ・タスクのリスト・ビューのカスタマイズ](#)

リスト・ビューについて

リスト・ビューは、レコードを画面上に表示し、レコードの詳細にドリルダウンできる機能を提供します。オブジェクトを行と列の形式で垂直リストに表示します。

リスト・ビューで行をさらに表示するには、右側にある[ビュー・セレクト](#)から「コンパクト」を使用します。

リスト・ビューには、次のレポート機能があります:

- ビューに列を追加するか、ビューから列を削除して、列の順序を変更できます。
- フィルタを適用してリストに含まれるレコードを制限できます。

- アドホック・レポートとして、リスト・ビューを印刷することや、Excel にエクスポートすることができます。

リスト・ビューのカスタマイズ

デフォルトの列が選択されているリスト・ビューが表示されます。デフォルトの列を簡単に変更してビューをカスタマイズできます。

リスト・ビューをカスタマイズするには:

1. 必要なオブジェクトのリスト・ビューを表示します。
2. 「アクション」ドロップダウンで、「列の選択」を選択します。
「列の選択」ダイアログが表示されます。現在表示されている列は、「選択済」セクションにリストされています。
3. 「使用可能」セクションで、リスト・ビューに含める必要がある属性を選択し、矢印キーを使用して属性を「選択済」セクションに移動します。
4. 「OK」をクリックします。

タスク・マネージャの例: スケジュール・タスクのリスト・ビューのカスタマイズ

タスクが作成された時期などの詳細情報を表示する必要があると仮定します。

次のステップを使用します:

1. ホームで「タスク」をクリックし、「スケジュール・タスク」をクリックします。
2. 「アクション」ドロップダウンから「列の選択」をクリックします。
「列の選択」ダイアログが表示されます。これを使用して別の列を追加し、タスクに関する情報を表示します。
3. 「使用可能」で、リストを下にスクロールして「作成日」を選択し、矢印キーを使用して右側の「選択済」に移動します。
4. 「OK」をクリックします。

「スケジュール・タスク」ページにタスクの「作成日」列が表示されます。

Name	Task ID	Status (Icon)	Start Date	End Date	Task Type	Created On
01 Planning Process	01_Plan	●	Jun 19, 2023 9:00 AM (Day 6) EST	Jun 21, 2023 5:00 PM (Day 8) EST	Parent Task	Jun 6, 2023 10:47 AM
001 - Set Strategic Goals	001_Plan	●	Jun 19, 2023 9:00 AM (Day 6) EST	Jun 19, 2023 5:00 PM (Day 6) EST	Basic Task	Jun 6, 2023 10:47 AM
002 - Allocate Targets	002_Plan	●	Jun 19, 2023 9:00 AM (Day 6) EST	Jun 19, 2023 5:00 PM (Day 6) EST	Enter Form Data	Jun 6, 2023 10:47 AM
003 - Expand Services Product Line	003_Plan	●	Jun 20, 2023 9:00 AM (Day 7) EST	Jun 20, 2023 5:00 PM (Day 7) EST	Basic Task	Jun 6, 2023 10:47 AM
004 - Complete Bottom-Up Operating Plan	004_Plan	●	Jun 19, 2023 9:00 AM (Day 6) EST	Jun 21, 2023 5:00 PM (Day 8) EST	Enter Form Data	Jun 6, 2023 10:47 AM

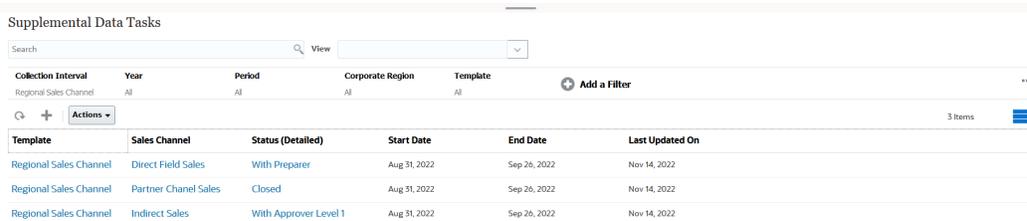
補足データ・マネージャの例: 補足データ・タスクのリスト・ビューのカスタマイズ

補足データ・タスクが最後に更新された時期などの詳細情報を表示する必要があると仮定します。

次のステップを使用します:

1. ホームで「データ」をクリックし、「補足データ・タスク」をクリックします。
「アクション」ドロップダウンから「列の選択」をクリックします。
「列の選択」ダイアログが表示されます。これを使用して、別の列をリスト・ビューに追加します。
2. 「使用可能」で「最終更新日」を選択し、矢印キーを使用して右側の「選択済」に移動します。
3. 「OK」をクリックします。

「補足データ・タスク」のリストに「最終更新日」という追加の列が表示されるようになりました。



Collection Interval	Year	Period	Corporate Region	Template	
Regional Sales Channel	All	All	All	All	...
Add a Filter					
3 Items					
Template	Sales Channel	Status (Detailed)	Start Date	End Date	Last Updated On
Regional Sales Channel	Direct Field Sales	With Preparer	Aug 31, 2022	Sep 26, 2022	Nov 14, 2022
Regional Sales Channel	Partner Chanel Sales	Closed	Aug 31, 2022	Sep 26, 2022	Nov 14, 2022
Regional Sales Channel	Indirect Sales	With Approver Level 1	Aug 31, 2022	Sep 26, 2022	Nov 14, 2022

ピボット・ビューの操作

ピボット・ビューを使用してデータを要約します。

Related Topics

- [ピボット・ビューについて](#)
- [ピボット・ビューのカスタマイズ](#)
- [例: タスク・ステータスに基づいた組織単位の表示](#)
- [例: ステータスに基づいて補足データ・フォームを表示するためのテンプレートのグループ化](#)

ピボット・ビューについて

ピボット・ビューでは、属性データのサマリーを作成できます。

ピボット・ビューをサポートするオブジェクトごとにデフォルトのレイアウトがあります。ただし、ピボット・ビューは要件に基づいてカスタマイズできます。

ピボット・ビューに表示される各サマリー値をクリックしてドリルダウンし、合計を構成するレコードを表示します。

ピボット・ビューのカスタマイズ

ピボット・ビューをカスタマイズして、ビジネス要件に基づいてデータを要約できます。データは、最大2つの属性によってグループ化できます。

ピボット・ビューをカスタマイズするには:

1. 必要なオブジェクトのピボット・ビューを表示します。
2. 右上にある「**編集**」アイコンをクリックします。
「ピボットの編集」ダイアログが表示されます。「**プロパティ**」、「**レイアウト**」および「**列**」の3つのタブがあります。
3. 「**プロパティ**」タブで、基本的なビューのプロパティを入力します。[ピボット・ビューのプロパティの設定](#)を参照してください。
4. 「**レイアウト**」タブで、データをグループ化する方法の詳細を指定します。[ピボット・ビュー・レイアウトの設定](#)を参照してください。
5. 「**列**」タブで、データのラベルとデータのソート順を入力します。[ピボット・ビューの列の指定](#)を参照してください。
6. 「**OK**」をクリックします。

Note:

レコードにドリルダウンして、1つ以上の詳細を更新して保存し、ピボット・ビューに戻っても、これらの変更は表示されません。最新の更新を表示するには、ピボット・ビューをリフレッシュする必要があります。

ピボット・ビューのプロパティの設定

「ピボットの編集」ダイアログの「**プロパティ**」タブを使用して、ピボット・ビューの基本プロパティを設定します。

ピボット・ビューのプロパティを設定するには:

1. 「**背景**」で、次のいずれかを選択します:
 - **塗りつぶしなし**: 背景色を使用しません
 - **単色**: 背景色として使用される色を選択します。オプションで、「**グラデーション**」で色を選択できます。
2. 「**ヘッダーの色**」および「**ヘッダー・サイズ**」で、ピボット・ビューのヘッダーの色とフォント・サイズを選択します。
3. 「**データの色**」および「**データ・サイズ**」で、ピボット・ビューに表示されるデータの色とフォント・サイズを選択します。
4. データ値が欠落している場合にゼロを表示するには、「**ゼロとしての欠落値**」を選択します。
これには、欠落しているデータ値や、適用されたフィルタが原因で欠落している値が含まれます。
5. 「**期間**」で、次のいずれかを選択します:

- **選択:** 期間フィルタからの選択をそのまま使用します。
- **最新の選択:** フィルタ内で時間順に最新の期間を使用します。
- **選択の前:** フィルタ内の最新の期間に基づいて、X 期間前の新しいフィルタを作成します。

期間選択を使用して、特定のピボット・ビューの「期間」のリストを微調整できます。これにより、同じグローバル期間フィルタを共有するピボット・ビューで異なる量のデータを表示したり、単一のローカル期間選択に基づいて期間データの分布を簡単に表示できます。

ピボット・ビュー・レイアウトの設定

「レイアウト」タブでは、ピボット・ビューのデータを要約する方法を指定します。要約対象のデータにフィルタを適用することもできます。

次のレイアウト詳細を指定します:

1. 「**X 軸**」セクションで、ビューで使用するプライマリ・グループ化に関する詳細を指定します。
 - 「**タイプ**」で、次のいずれかを選択します: 「なし」、「属性」、「日付」、「ユーザー」、「はい/いいえ」または「True/False」。
 - 「**タイプ**」を「属性」に設定した場合は、「**属性 1**」で、データのグループ化に使用する属性を選択します。たとえば、「組織単位」などです。
 - オプションで、「**属性 2**」で別の属性を選択して、「**属性 1**」グループ内に別のサブグループを作成できます。
 - 「**ソート**」で、属性、およびデータをソートする順序を選択します。
 - グリッド内の行および列の表示を入れ替えるには、「**行および列の入替え**」を選択します。
2. 「**凡例(系列)**」セクションで、「**追加**」アイコンをクリックして、データを要約する属性ごとに 1 行を作成します。この要約は、指定された**タイプ**内に作成されます。このセクションには少なくとも 1 行が必要です。

行ごとに次の詳細を指定します:

- 「**値**」で、データを要約する属性を選択します。たとえば、「承認者(人数)」などです。
- 「**集約**」で、要約されたデータに対して実行する集約操作を選択します。選択した属性で指定された集約方法がデフォルトになります。

Note:

「**値**」で数値以外の属性を選択した場合、使用可能な「**集約**」は「**カウント**」のみです。

- オプションで、「**カテゴリ**」の「**値**」グループ内で、データが要約される属性を選択します。
- 「**グループ化基準**」で、リストから属性を選択します。これは、「**タイプ**」が「属性」以外の値に設定されている場合のみ適用可能です。

- ピボット・ビューに含めるデータにフィルタを適用するには、「**フィルタ**」をクリックします。最初にこのフィルタがデータに適用され、次に、指定した条件を使用してデータが要約されます。

デフォルトでは、フィルタ条件の最初の句がこのフィルタのラベルとして表示されます。

- 「OK」をクリックします。

集約を使用する際の考慮事項

タスク・マネージャの例は、例: [タスク・ステータスに基づいた組織単位の表示](#)を参照してください

補足データ・マネージャの例は、例: [ステータスに基づいて補足データ・フォームを表示するためのテンプレートのグループ化](#)を参照してください

ピボット・ビューの列の指定

「**列**」タブを使用して、ピボット・ビューに表示するデータのラベルおよび順序をカスタマイズします。

このタブの各行は、ピボット・ビューの列として表示されます。行数は、「**レイアウト**」タブの「**X 軸**」および「**カテゴリ**」に指定された内容によって決まります。

ピボット・ビューの表示をカスタマイズするには:

- 「**ラベル**」に、この列に表示されるラベルを入力します。
- この列でピボット・データをソートするには、「**ソート**」を選択します。昇順または降順でソートするには、このオプションの横にあるアイコンをクリックします。
- 表示される列の順序を変更するには、右側の矢印を使用します。この列のリストがピボット・ビューに左から右に表示されます。

例: タスク・ステータスに基づいた組織単位の表示

この例では、タスクのステータスに基づいて組織単位をグループ化するピボット・ビューの作成方法について説明します。次のイメージは、ピボット・ビューを示しています。

Schedule Tasks

View [dropdown]

Schedule	Year	Period	Status	...
4 Selected	All	All	All	Add a Filter

Actions [dropdown]

Organizational Unit	Closed	Open	Pending
EMEA	17	23	4
North America	17	23	4
APAC	16	23	4
Corporate	19	25	4

前述のピボット・ビューを作成するには、次のステップを使用します:

- ホーム・ページで、「**タスク**」をクリックして「スケジュール・タスク」ページを表示します。
-  アイコンをクリックして、「**ピボット・ビュー**」を選択します。
- 「**編集**」アイコンをクリックして、要件のとおりピボット・ビューを構成します。
- 「**プロパティ**」タブで:

- **背景:** 塗りつぶしなし
 - **ヘッダー・サイズ:** 13
 - **データ・サイズ:** 14
 - **期間:** 選択
5. 「レイアウト」タブで:
 - 「X 軸」で:
 - 「タイプ」で、「属性」を選択します。
 - 「属性 1」で、「組織単位」を選択します。
 - 「ソート」で、最初のドロップダウン・リストから「組織単位」を選択し、2 番目のドロップダウン・リストから「降順」を選択します。
 - 「凡例(系列)」で:
 - 「値」で、「タスク」を選択します。
 - 「カテゴリ」で、「ステータス」を選択します。
 6. 「列」タブで、表示されているラベルを選択します。
 7. 「OK」をクリックします。

例: ステータスに基づいて補足データ・フォームを表示するためのテンプレートのグループ化

この例では、テンプレートをグループ化し、ステータスに基づいて補足データ・フォームを表示するピボット・ビューを作成する方法を説明します。次のイメージは、ピボット・ビューを示しています。

Collection Interval	Year	Period	Corporate Region	Template	Count											
Regional Sales Channel	All	All	All	All												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>Template</th> <th>Status (Detailed)</th> <th>Count</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Regional Sales Chan...</td> <td>With Preparer</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>Regional Sales Chan...</td> <td>With Approver</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>Regional Sales Chan...</td> <td>Closed</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>					Template	Status (Detailed)	Count	Regional Sales Chan...	With Preparer	1	Regional Sales Chan...	With Approver	1	Regional Sales Chan...	Closed	1
Template	Status (Detailed)	Count														
Regional Sales Chan...	With Preparer	1														
Regional Sales Chan...	With Approver	1														
Regional Sales Chan...	Closed	1														

前述のピボット・ビューを作成するには、次のステップを使用します:

1. ホーム・ページで「データ」をクリックし、「補足データ分析」をクリックします。
2.  アイコンをクリックして、「ピボット・ビュー」を選択します。
3. 「編集」アイコンをクリックして、要件のとおりピボット・ビューを構成します。
4. 「プロパティ」タブで、次のようにします:
 - **背景:** 塗りつぶしなし
 - **ヘッダー・サイズ:** 13
 - **データ・サイズ:** 14
 - **期間:** 選択
5. 「レイアウト」タブで:

- 「X 軸」で:
 - 「タイプ」で、「属性」を選択します。
 - 「属性 1」で「テンプレート」を選択し、「属性 2」で「ステータス(詳細)」を選択します。
 - 「ソート」で、「テンプレート」、「降順」の順に選択します。
 - 「凡例(系列)」で:
 - 「値」で、「フォーム」を選択します。
 - 「カテゴリ」で、「なし」を選択します。
6. 「列」タブで、表示されているラベルを選択します。
 7. 「OK」をクリックします。

チャート・ビューの操作

チャート・ビューでは、データを視覚化できます。

Related Topics

- [チャート・ビューの概要](#)
- [チャート・ビューの作成](#)
- [例: タスク・ステータスを月別に表示するチャートの作成](#)
- [例: プランと実際の終了日を対比して表示するチャートの作成](#)
- [例: タスク実行を組織単位別に表示するチャートの作成](#)
- [例: フォームとそのステータスを表示するチャートの作成](#)
- [例: フォーム・テンプレートの期間とステータス\(および説明\)を表示するチャートの作成](#)

チャート・ビューの概要

Related Topics

- [チャート・ビューについて](#)
- [チャート・ビューのプロパティについて](#)
- [チャート・ビューのタイプ](#)

チャート・ビューについて

チャートではデータの視覚的な表現が提供されます。

チャートはビジネス・プロセス・データに基づいて動的に生成されます。チャート内の領域(たとえば、円グラフ内の領域)をクリックすると、ドリルダウンしてその領域で要約された情報の詳細が表示されます。チャート・ビューとピボット・ビューのレイアウトはリンクされているため、チャート・ビューとピボット・ビューをすばやく切り替えることができます。

チャート・ビューの設定を構成すると、それらの設定が記憶されます。チャート・ビューを閉じて、ビジネス・プロセスで他のアクションを実行してからチャート・ビューに戻ると、以前の設定を使用してチャートが表示されます。

タスクをグラフィカルに表現するために、複数のタイプのチャート・ビューを使用できます。[チャート・ビューのタイプ](#)を参照してください。

補足データをグラフィカルに表現するために、複数のタイプのチャート・ビューを使用できます。

チャート・ビューのプロパティについて

チャートのプロパティには、チャートのタイプ、チャートの向き、背景など、基本的な詳細が含まれています。チャートに設定できるプロパティは、チャートのタイプによって異なります。

チャートのプロパティ	適用可能なチャートのタイプ	説明
タイプ	すべて	チャートのタイプ チャート・ビューのタイプ を参照してください。
背景	面、棒、縦棒、組合せ、ドーナツ、折れ線、円、タイル	チャートで使用される背景色 この色は、チャート領域全体(枠線から枠線まで)に適用されません。背景色を使用しない選択も可能です。その場合、チャートには白い背景が使用されます。背景色を指定する場合は、オプションでグラデーションも指定できます。
グラデーション	面、棒、縦棒、組合せ、折れ線	要素に対するデータ・ラベルの位置 使用可能なオプションは、チャートのタイプによって異なります。たとえば、棒グラフには「ラベルなし」、「中央」、「エッジの内側」または「エッジの外側」のラベル・オプションがあります。
棒のラベルの位置	組合せ	棒グラフのデータ・ラベルの位置
グリッド線	面、棒、縦棒、組合せ、折れ線	チャート領域の分割に使用されるグリッド線
向き	面、棒、縦棒	チャートの向き - 垂直または水平
ゼロとしての欠落値	面、組合せ、折れ線、タイル	特定の要素のデータが欠落している場合は、ゼロ(空白ではなく)を表示します このオプションを選択すると、欠落値がすべてゼロとして表示されます。これには、欠落しているデータ値や、適用されたフィルタが原因で欠落している値が含まれます。

チャートのプロパティ	適用可能なチャートのタイプ	説明
二重-Y 軸	面、棒、縦棒、組合せ、折れ線	<p>チャートのプライマリ Y 軸の反対側に表示されます</p> <p>セカンダリ Y 軸のスケールは、関連するデータ系列の値を反映します。セカンダリ Y 軸は折れ線チャート・タイプおよび棒チャート・タイプで使用できますが、より一般的には、組合せチャート・タイプで使用して、セカンダリ Y 軸にプロットされるデータ系列を区別しやすくします。たとえば、プライマリ Y 軸に「棒」、セカンダリ Y 軸に「折れ線」を選択します。</p> <p>チャートのデータ値がデータ系列によって大きく異なる場合や、データのタイプ(通貨とパーセンテージなど)が混在する場合は、1 つ以上のデータ系列をセカンダリ(垂直) Y 軸にプロットできません。</p> <p>セカンダリ Y 軸を分割二重チャートとしてプロットすることもできます。この場合、セカンダリ Y 軸はそのデータ系列とともに元のチャートの下にプロットされます。このケースでは、棒または折れ線のグラフ・タイプを使用できます。</p>
線の太さ	組合せ、折れ線	<p>チャートの線の幅</p> <p>デフォルトは 5 ピクセルです。</p>
棒のラベルの位置	組合せ	棒グラフとして表示されるデータ・セットのラベルの位置
パーセンテージとして表示	ドーナツ、円	各データ・セットの値はパーセンテージ(数値ではなく)として表示されます
3D チャート	円、タイル	3 次元チャート形式

チャート・ビューのタイプ

次のタイプのチャート・ビューを作成できます:

- 面
各データ・セットを表す網掛け領域が表示されます
- 棒
比較に利用するために、複数のデータ値のグラフィカルなサマリーが表示されます
棒グラフは、垂直または水平に表示できます
- 列
異なるデータ・セット同士を積み重ねて表す棒グラフが表示されます
1 つの棒の最終的な高さは、データ・セットを合算した値を表します。

- 組合せ
棒グラフ、折れ線グラフおよび面グラフの任意の組合せを 1 つのチャートにマージできるビジュアライゼーションを提供します。
Y 軸にプロットされる 2 つの異なるデータ・セットがある場合に、このタイプを使用します。プライマリ Y 軸の反対側にセカンダリ Y 軸を追加できます。セカンダリ Y 軸を追加すると、他のメジャーでは適切にスケールされない 1 つのメジャーのスケールをチャートに表示できます。たとえば、パーセンテージ・メジャーと通貨メジャーを同じチャートに表示できます。
- ドーナツ
データ・セット同士を比較するために、セグメントに分割された円形グラフが表示されます
中央の空白は、全データ・セットの合計を表します。
- 折れ線
ユーザーは一定期間にわたるデータのトレンドをビジュアル化できます
- 円
データ・セット同士を比較するために、スライスに分割された円グラフが表示されます
- タイル
ユーザーは、データ・セットから特定の値を選択して別のタイルに表示できます
これにより、少数のデータ・ポイントまたは個々のデータ・ポイントが強調されます。
デフォルトのチャート・ビューは棒グラフです。チャートの表示をカスタマイズしたり、デフォルトのチャート・ビューを変更できます。

チャート・ビューの作成

アプリケーションのデータをグラフィカルに表現するには、チャートを作成します。

チャート・ビューを作成するには:

1. 必要なオブジェクトのチャート・ビューを表示します。
2. ページの右上にある**ビュー・セレクタ**から、「**チャート・ビュー**」を選択します。
初めてチャート・ビューにアクセスしている場合は、デフォルトのチャート・ビュー・レイアウトが表示されます。
3. 右上の「**編集**」をクリックして「**チャートの編集**」ダイアログを表示します。「**プロパティ**」、「**レイアウト**」および「**凡例**」の 3 つのタブがあります。
4. 「**プロパティ**」タブで、[チャート・ビューのプロパティについての説明](#)に従って、必要なチャートのプロパティを指定します。
5. 次のトピックの説明に従って、チャートの作成に必要な情報を入力します:
 - [チャート・レイアウトの設定](#)
 - [チャート軸の設定](#)
 - [チャート凡例の設定](#)
6. 「**OK**」をクリックしてチャート定義を保存し、チャートを表示します。

チャート・ビュー内の任意の領域をクリックしてドリルダウンし、選択した領域によって集約されたすべてのレコードを表示します。レコードは「詳細」ダイアログに表示されます。このダイアログ内のリンクをクリックすると、個々のレコードの詳細にアクセスできます。

 **Note:**

個々のレコードにドリルダウンして、1つ以上の詳細を更新して保存し、チャート・ビューに戻っても、これらの変更は表示されません。最新の更新を表示するには、チャート・ビューをリフレッシュする必要があります。

チャート・レイアウトの設定

「レイアウト」タブを使用して、チャートの X 軸と Y 軸にプロットするデータ・セットを指定します。

チャート・レイアウトを設定するには:

1. 「チャートの編集」ダイアログの「レイアウト」タブを開きます。
2. 「X 軸」セクションで、チャートの X 軸にプロットするデータを指定します。
 - 「タイプ」で、データのタイプを選択します。オプションには、「なし」、「属性」、「日付」、「ユーザー」、「はいいいえ」および「True/False」があります。
 - 「タイプ」を「属性」に設定した場合は、X 軸にプロットされる属性を少なくとも 1 つ指定する必要があります。属性は 2 つまで指定できます。

「属性 1」で、X 軸にプロットする最初の属性を選択します。オプションで、「属性 2」で、X 軸にプロットする 2 番目の属性を選択します。属性 1 と属性 2 の値は様々な組合せでプロットされます。
 - 「ソート」で、X 軸のデータをソートするために「昇順」または「降順」を選択します。
3. 「凡例(系列)」セクションで、チャート・ビューの Y 軸に沿ってプロットされる 1 つ以上のデータ・セットを指定します。

たとえば、3 つのデータ・セットを定義すると、Y 軸に 3 つの値がプロットされます。

各データ・セット内で、集約操作を実行したり、データをグループ化できます。オプションで、フィルタを適用して、データ・セットに対して集約を計算するときに選択されるデータを制限できます。

このセクションのデータ・セットごとに、次を指定します:

- 「値」で、プロットされる値を選択します。たとえば、金額やステータスです。
- 「集約」で、選択した値に対して実行される集約を選択します。このトピックの最後にある「集約を使用する際の考慮事項」を参照してください。
- (オプション) 「カテゴリ」で、データ・セット内のデータを分類するのに使用される属性を選択します。カテゴリを使用して、グラフをより詳細に分類します。
- (オプション) 「グループ化基準」で、「日付」タイプのデータがグループ化される基準になる属性を選択します。

「グループ化基準」が日付に設定されている場合は、新しい列の「日付集約」が表示されます。

- (オプション)「フィルタ」で、「フィルタ」アイコンをクリックしてフィルタ条件を追加します。この条件により、チャート・ビュー内のデータ・セットに表示されるデータが絞り込まれます。これは、データがチャート・ビューに含まれる前に適用されます。たとえば、「値」が「タスク」に設定されている場合は、ステータスが「オープン」のタスクのみをプロットするフィルタを作成できます。

デフォルトでは、フィルタ条件の最初の句がこのフィルタのラベルとして表示されます。

4. 「OK」をクリックして、チャート・ビューの設定を保存します。

例

タスク・マネージャについては、次を参照してください:

- 例: タスク・ステータスを月別に表示するチャートの作成
- 例: プランと実際の終了日に対比して表示するチャートの作成
- 例: タスク実行を組織単位別に表示するチャートの作成

補足データ・マネージャについては、次を参照してください:

- 例: フォームとそのステータスを表示するチャートの作成
- 例: フォーム・テンプレートの期間とステータス(および説明)を表示するチャートの作成

チャート軸の設定

チャート軸のプロパティは、チャートの軸ラベルのビジュアル表示に影響を与えます。チャートの X 軸、およびプライマリ Y 軸とセカンダリ Y 軸のタイトルとラベルを作成できます。また、Y 軸のテキストおよび数値のフォーマットを編集したり、両方の Y 軸のカスタム範囲を定義できます。



Note:

「タイプ」が「ドーナツ」、「円」または「タイル」に設定されているチャート・ビューの場合、このタブは表示されません。

チャート軸を定義するには:

1. 「チャートの編集」ダイアログの「軸」タブを開きます。
2. 「X 軸」を選択し、次を指定します(「レイアウト」タブで「タイプ」が「日付」に設定されているチャート・ビューの場合のみ):
 - 間隔: 「自動」、「日次」、「月次」または「年次」。
 - 最大: 「自動」または「固定」。「固定」の場合は日付を選択します。
 - 最小: 「自動」または「固定」。「固定」の場合は日付を選択します。
3. 「Y 軸」をクリックして、次について「自動」または「固定」を指定します: 「最小」、「最大」、「主ユニット」および「副ユニット」。

4. 「プロパティ」タブでチャートに対して「二重Y軸」が選択されている場合は、「二重Y軸」をクリックし、「最小」、「最大」、「主ユニット」および「副ユニット」を指定します。
5. 「OK」をクリックして、チャート・ビューの設定を保存します。

チャート凡例の設定

凡例のプロパティは、チャートの凡例のビジュアル表示に影響を与えます。

凡例の位置を変更したり、凡例のタイトルの表示、背景や枠線の色の変更、およびチャート・ラベルのフォントやフォーマットの編集ができます。

組合せグラフの場合、「凡例」タブには「タイプ」という名前の新しい1列が含まれます。構成された凡例(系列)ごとにタイプを選択できます。たとえば、ある凡例は「タイプ」 = 「棒」で、他の凡例は「タイプ」 = 「折れ線」です。

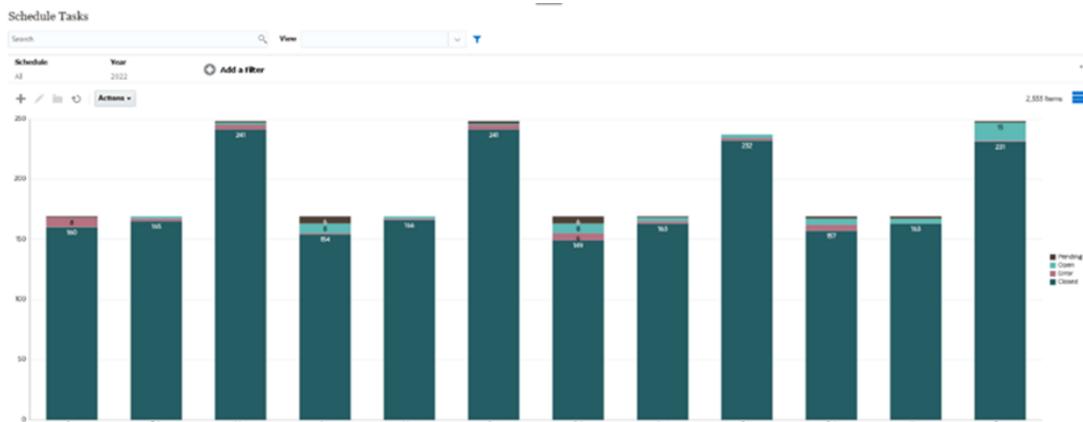
チャート凡例を定義するには:

1. 「チャートの編集」ダイアログの「凡例」タブを開きます。
2. 「凡例の位置」で、チャート内の要素に関連させてデータ・ラベルの位置を選択します。
使用可能なオプションは、「凡例なし」、「左」、「右」、「上」または「下」です。
3. 「パレット」で、チャート・ビューを表示するときに使用される色パレットを選択します。
4. 「系列」表には、「レイアウト」タブで指定した凡例ごとに1行が表示されます。
各データ・セットについて次を指定します:
 - 「ラベル」に、チャートのこのデータ系列に表示されるラベルを入力します。
 - セカンダリY軸に表示されるデータ系列に対して「二重-Y」を選択します。
5. 「OK」をクリックして、チャート・ビューの設定を保存します。

例: タスク・ステータスを月別に表示するチャートの作成

この例では、すべてのタスクの完了ステータスを期間別に要約するチャートを作成します。これは一定の期間に完了していない特定のタスクがあるかどうかを識別するのに役立ちます。

生成されたチャートは、次のように表示されます。チャート内の任意の領域をクリックして、集約されたその領域を構成する個々のレコードにドリルダウンして表示します。



このチャートを作成するには:

1. ホームページで「**タスク**」をクリックします。「**スケジュール・タスク**」をクリックして、タスク・リストを表示します。
2. ページの右上にある**ビュー・セレクタ**から、「**チャート・ビュー**」を選択します。デフォルトのチャートが表示されているチャート・ビューが表示されます。
3. 右上の「**編集**」をクリックして「チャートの編集」ダイアログを表示します。
4. 「プロパティ」タブで、次の情報を入力します:
 - 「タイプ」で、「**縦棒**」を選択します。
 - 「**グリッド線**」の選択を解除します。
 - 「期間」で、「**選択**」を選択します。
5. 「**レイアウト**」タブで、次の情報を入力します:

Edit Chart OK Cancel

Properties **Layout** Axis Legend

X Axis

Type: Attribute Attribute 1: Period

Attribute 2:

Legend (Series)

+ ×

Value	Aggregation	Categories	Group By	Filter
Task	Count	Status		

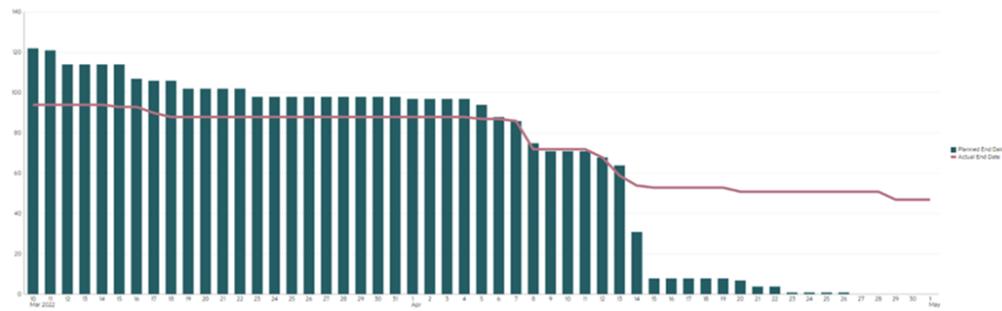
- 「**X 軸**」セクションで、次のようにします:
 - 「**タイプ**」で、「**属性**」を選択します。
 - 「**属性 1**」で、「**期間**」を選択します。
- 「**凡例(系列)**」セクションで、次のようにします:
 - 「**値**」で、「**タスク**」を選択します。
 - 「**カテゴリ**」で、「**ステータス**」を選択します。

6. 「軸」タブでは、デフォルトの設定をそのままにしておきます。
7. 「凡例」タブで、次の情報を入力します:
 - 「凡例の位置」で、「右」を選択します。
 - 「パレット」で、「レッドウッド」を選択します。
8. 「OK」をクリックします。

例: プランと実際の終了日に対比して表示するチャートの作成

この例では、タスクの完了のプランと実績を対比して経時的に視覚化します。スケジュールが予定より進んでいるか遅れているかを確認できます。このチャートには、特定の日付以降のすべてのタスクの終了日が表示されます。これにより、スケジュールの最初に大量のタスク数が表示され、スケジュールの最終タスクまで徐々に減少します。

生成されたチャートは、次のように表示されます。チャート内の任意の領域をクリックして、集約されたその領域を構成する個々のレコードにドリルダウンして表示します。



このチャートを作成するには:

1. ホーム・ページで、「タスク」をクリックし、「スケジュール・タスク」をクリックしてタスク・リストを表示します。
2. ページの右上にある**ビュー・セレクタ**から、「**チャート・ビュー**」を選択します。デフォルトのチャートが表示されているチャート・ビューが表示されます。
3. 右上の「**編集**」アイコンをクリックして「**チャートの編集**」ダイアログを表示します。
4. 「**プロパティ**」タブで、次の情報を入力します:

Edit Chart [Task Burndown - Plan vs Actual End Date] OK Cancel

Properties **Layout** Axis Legend

Title: Task Burndown - Plan vs

Type: Combination

Background: No Fill Solid Gradient

Label Position: No Label Center Above Point Below Point Before Point After Point

Bar Label Position: No Label Center Inside Edge Outside Edge

Line Weight: 5

Grid Lines:

Missing Values as Zero:

Dual-Y Axis:

Period: Selection Latest in Selection Prior from Selection

- 「タイプ」で、「組合せ」を選択します。
 - 「背景」で、「塗りつぶしなし」を選択します。
 - 「ラベルの位置」で、「ラベルなし」を選択します。
 - 「棒のラベルの位置」で、「ラベルなし」を選択します。
 - 「線の太さ」には5を選択します。
 - 「グリッド線」を選択します。
 - 「二重Y軸」の選択を解除します。
 - 「期間」で、「選択」を選択します。
5. 「レイアウト」タブで、次の情報を入力します:

Properties **Layout** Axis Legend

X Axis

Type: Date

Legend (Series)

Value	Aggregation	Categories	Group By	Date Aggregation	Filter
Task	Count	None	End Date (Assigned, l	On or After	
Task	Count	None	End Date (Actual, Local)	On or After	

- 「X軸」セクションで、「タイプ」に「日付」を選択します。
- 「凡例(系列)」セクションで、2つの値を入力します:
最初の入力:
 - 「値」で、「タスク」を選択します。
 - 「カテゴリ」で、「なし」を選択します。
 - 「グループ化基準」で「終了日(割当済)」を選択します
 - 「日付集約」で、「次以後」を選択します。

2 番目の入力:

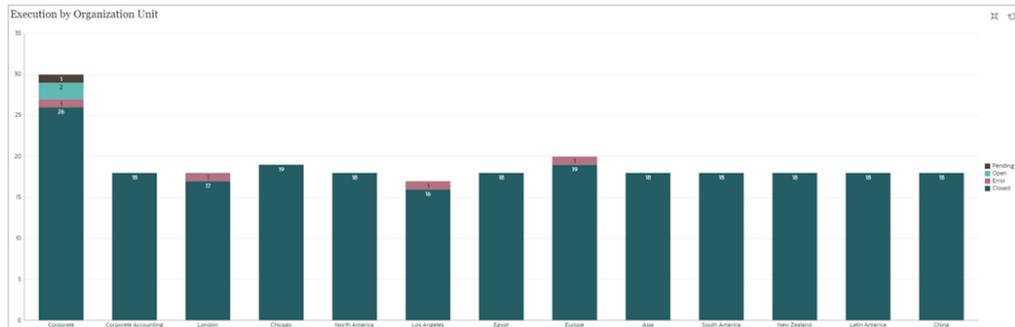
- 「値」で、「タスク」を選択します。
- 「カテゴリ」で、「なし」を選択します。
- 「グループ化基準」で「終了日(実際、ローカル)」を選択します
- 「日付集約」で、「次以後」を選択します。

6. 「軸」タブでは、デフォルトの設定をそのままにしておきます。
7. 「凡例」タブで、次の情報を入力します:
 - 「凡例の位置」で、「右」を選択します。
 - 「パレット」で、「レッドウッド」を選択します。
8. 「OK」をクリックします。

例: タスク実行を組織単位別に表示するチャートの作成

この例では、組織単位別にタスクの完了を示すチャートを作成して、各組織がタスクの完了状況をモニターできるようにします。

生成されたチャートは、次のように表示されます。チャート内の任意の領域をクリックして、集約されたその領域を構成する個々のレコードにドリルダウンして表示します。



このチャートを作成するには:

1. ホームページで「タスク」. をクリックします。「スケジュール・タスク」をクリックして、タスク・リストを表示します。
2. ページの右上にあるビュー・セレクタから、「チャート・ビュー」を選択します。デフォルトのチャートが表示されているチャート・ビューが表示されます。
3. 右上の「編集」をクリックして「チャートの編集」ダイアログを表示します。
4. 「プロパティ」タブで、次の情報を入力します:
 - 「タイプ」で、「縦棒」を選択します。
 - 「グリッド線」の選択を解除します。
 - 「期間」で、「選択」を選択します。
5. 「レイアウト」タブで、次の情報を入力します:

Properties Layout Axis Legend

X Axis

Type Attribute Attribute 1 Organizational Unit Attribute 2

Legend (Series)

+ ×

Value	Aggregation	Categories	Group By	Filter
Task	Count	Status		

- 「X 軸」セクションで、次のようにします:
 - 「タイプ」で、「属性」を選択します。
 - 「属性 1」で、「組織単位」を選択します。
 - 「凡例(系列)」セクションで、次のようにします:
 - 「値」で、「タスク」を選択します。
 - 「カテゴリ」で、「ステータス」を選択します。
6. 「軸」タブでは、デフォルトの設定をそのままにしておきます。
 7. 「凡例」タブで、次の情報を入力します:
 - 「凡例の位置」で、「右」を選択します。
 - 「パレット」で、「レッドウッド」を選択します。
 8. 「OK」をクリックします。

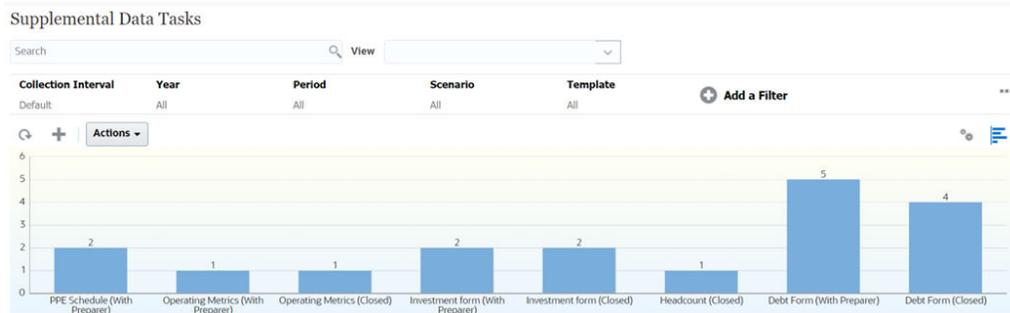
例: フォームとそのステータスを表示するチャートの作成

この例では、特定の補足データ・フォームのステータスを表示するチャートを作成します。

Note:

これはアプリケーション固有のデータに基づいた一般的な例で、データに同様のチャートを設定する方法を説明しています。この例は再現できません。

生成されたチャートは、次のように表示されます。チャート内の任意の領域をクリックして、集約されたその領域を構成する個々のレコードにドリルダウンして表示します。



このチャートを作成するには:

1. ホームページで「**タスク**」をクリックします。「**補足データ・タスク**」をクリックして、補足データ・タスク・リストを表示します。
2. ページの右上にある**ビュー・セレクタ**から、「**チャート・ビュー**」を選択します。デフォルトのチャートが表示されているチャート・ビューが表示されます。
3. 右上の「**編集**」をクリックして「チャートの編集」ダイアログを表示します。
4. 「**プロパティ**」タブで、次の情報を入力します:

The screenshot shows the 'Properties' tab of the chart editor. The 'Type' is set to 'Bar'. The 'Background' is set to 'Solid' with a yellow color swatch. The 'Gradient' checkbox is checked. The 'Label Position' is set to 'Outside Edge'. The 'Orientation' is set to 'Vertical'. The 'Grid Lines' checkbox is checked. The 'Missing Values as Zero' and 'Dual-Y Axis' checkboxes are unchecked. The 'Period' is set to 'Selection'.

- 「**タイプ**」で、「**棒**」を選択します。
 - 「**背景**」で、「**単色**」を選択します。ドロップダウンから好みの色を選択します。
 - 「**グラデーション**」チェック・ボックスを選択します。好みの色を選択します。
 - 「**ラベルの位置**」で、「**エッジの外側**」を選択します。
 - 「**向き**」で、「**垂直**」を選択します。
 - 「**グリッド線**」を選択します。
 - 「**ゼロとしての欠落値**」の選択を解除します。
 - 「**二重 Y 軸**」の選択を解除します。
 - 「**期間**」で、「**選択**」を選択します。
5. 「**レイアウト**」タブで、次の情報を入力します:

Properties **Layout** Axis Legend

X Axis

Type: Attribute (dropdown) Attribute 1: Template (dropdown) Attribute 2: Status (Detailed) (dropdown)

Sort: Template (dropdown) Descending (dropdown)

Legend (Series)

+ ×

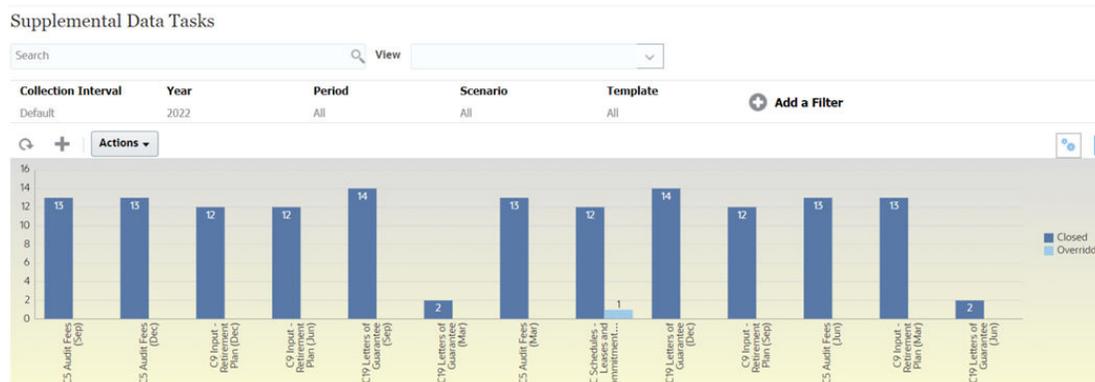
Value	Aggregation	Categories	Group By	Filter
Form (dropdown)	Count (dropdown)	None (dropdown)		

- 「X 軸」セクションで、「タイプ」に「日付」を選択します。
 - 「凡例(系列)」セクションで、2つの値を入力します:
 - 「値」で、「フォーム」を選択します。
 - 「カテゴリ」で、「なし」を選択します。
6. 「軸」タブでは、デフォルトの設定をそのままにしておきます。
 7. 「凡例」タブで、次の情報を入力します:
 - 「凡例の位置」で、「右」を選択します。
 - 「パレット」で、「レッドウッド」を選択します。
 8. 「OK」をクリックします。

例: フォーム・テンプレートの期間とステータス(および説明)を表示するチャートの作成

この例では、特定の補足データ・フォームの期間および詳細ステータスを表示するチャートを作成します。

生成されたチャートは、次のように表示されます。チャート内の任意の領域をクリックして、集約されたその領域を構成する個々のレコードにドリルダウンして表示します。



このチャートを作成するには:

1. ホームページで「**タスク**」をクリックします。「**補足データ・タスク**」をクリックして、補足データ・タスク・リストを表示します。
2. ページの右上にある**ビュー・セレクタ**から、「**チャート・ビュー**」を選択します。デフォルトのチャートが表示されているチャート・ビューが表示されます。
3. 右上の「**編集**」をクリックして「チャートの編集」ダイアログを表示します。
4. 「**プロパティ**」タブで、次の情報を入力します:

Edit Chart OK Cancel

Properties **Layout** Axis Legend

Type: Bar

Background: No Fill Solid Gradient

Label Position: No Label Center Inside Edge Outside Edge

Orientation: Vertical Horizontal

Grid Lines:

Missing Values as Zero:

Dual-Y Axis:

Period: Selection Latest in Selection Prior from Selection

- 「**タイプ**」で、「**棒**」を選択します。
 - 「**背景**」で、「**単色**」を選択します。ドロップダウンから好みの色を選択します。
 - 「**グラデーション**」を選択します。ドロップダウン・メニューから好みの色を選択します。
 - 「**ラベルの位置**」で、「**エッジの内側**」を選択します。
 - 「**向き**」で、「**垂直**」を選択します。
 - 「**グリッド線**」を選択します。
 - 「**ゼロとしての欠落値**」の選択を解除します。
 - 「**二重 Y 軸**」の選択を解除します。
 - 「**期間**」で、「**選択**」を選択します。
5. 「**レイアウト**」タブで、次の情報を入力します:

Edit Chart OK Cancel

Properties **Layout** Axis Legend

X Axis

Type: Attribute Attribute 1: Template Attribute 2: Period

Sort: Template Ascending

Legend (Series)

Value	Aggregation	Categories	Group By	Filter
Form	Count	Status (Detailed)		

- 「X 軸」セクションで、「タイプ」に「属性」を選択します。「属性 1」に対して「テンプレート」を選択します。「属性 2」に対して「期間」を選択します。
 - 「凡例(系列)」セクションで、2つの値を入力します:
 - 「値」で、「フォーム」を選択します。
 - 「カテゴリ」で、「ステータス(詳細)」を選択します。
6. 「軸」タブでは、デフォルトの設定をそのままにしておきます。
 7. 「凡例」タブで、次の情報を入力します:
 - 「凡例の位置」で、「右」を選択します。
 - 「パレット」で、「レッドウッド」を選択します。
 8. 「OK」をクリックします。

ガント・チャート・ビューの操作

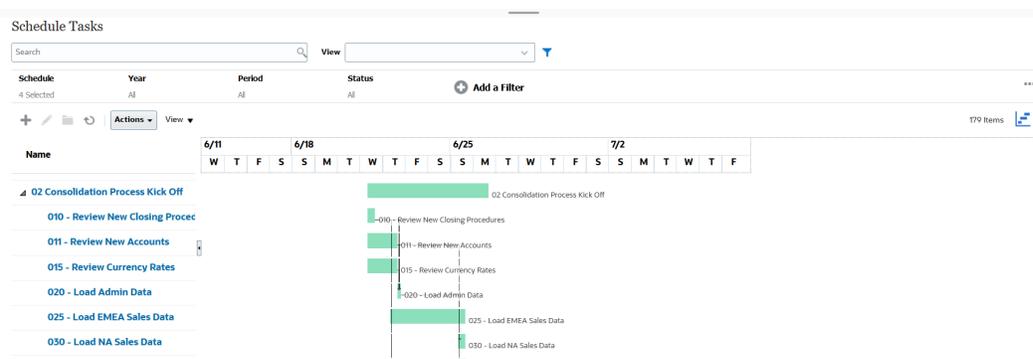
ガント・チャートには、タスクの期間とそれらの依存関係をグラフィカルに表す、スケジュールの時系列が表示されます。タスク間の先行関係を表示できます。棒は期間を表し、矢印は依存関係を表します。また、階層の親子タスク関係も表示できます。

テンプレートを作成する際にガント・チャート・ビューを使用することを選択し、タスク間の先行関係を表示したり、スケジュールにタスクを追加した後で優先順序を確認したりできます。

ガント・チャート・ビューは、**スケジュール済タスク**で使用できます。

ガント・チャートにデータを表示するには:

1. ホーム・ページで、「タスク」、「スケジュール・タスク」の順にクリックします。
2. **ビュー・セレクト** アイコンをクリックして、「ガント・チャート」を選択します。次に示すように、ガント・チャート・ビューにスケジュール・タスクのデータが表示されます。



カレンダー・ビューの操作

カレンダー・ビューには、月、週または日に基づいて、従来のカレンダーのフォーマットですべてのスケジュール済タスクが表示されます。

「月」ビューには、標準的なカレンダー・フォーマットの日が表示されます。

「週」ビューには、指定された週のタスクが表示されます。1 番上のセクションには、複数の日にまたがるタスクが表示されます。2 番目のセクションには、1 日に含まれるタスクが表示されます。タスクは 1 日の各時間にまたがって縦方向に表示されます。

「日」ビューは、24 時間に焦点を当てています。

カレンダー・ビューにスケジュール済タスクを表示するには:

1. ホーム・ページで、「タスク」、「スケジュール・タスク」の順にクリックします。
2. ビュー・セクタ・アイコンをクリックして、「カレンダー・ビュー」を選択します。カレンダー・ビューにスケジュール・タスクのデータが表示されます。カレンダー・アイコンを使用して、「月」、「週」または「日」を選択します。「カレンダー・ビュー」では、「日」ヘッダーに「日ラベル」も表示されます。

次のイメージは、カレンダー・ビューに表示された 1 か月のスケジュール済タスクを示しています。

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
28 4 Day -4 Day -4 Day -4 Day -4	29 5 Day -3 Day -3 Day -3 Day -3	30 6 Day -2 Day -2 Day -2 Day -2	31 7 Day -1 Day -1 Day -1 Day -1	1 8 Day 0 Day 0 Day 0 Day 0	2 9 Day 1 Day 1 Day 1 Day 1	3 10 Day 2 Day 2 Day 2 Day 2
4 11 Day 1 Day 1 Day 1 Day 1	5 12 Day 2 Day 2 Day 2 Day 2	6 13 Day 3 Day 3 Day 3 Day 3	7 14 Day 4 Day 4 Day 4 Day 4	8 15 Day 5 Day 5 Day 5 Day 5	9 16 Day 6 Day 6 Day 6 Day 6	10 17 Day 7 Day 7 Day 7 Day 7
11 18 Day 8 Day 8 Day 8 Day 8	12 19 Day 9 Day 9 Day 9 Day 9	13 20 Day 10 Day 10 Day 10 Day 10	14 21 Day 11 Day 11 Day 11 Day 11	15 22 Day 12 Day 12 Day 12 Day 12	16 23 Day 13 Day 13 Day 13 Day 13	17 24 Day 14 Day 14 Day 14 Day 14
18 25 Day 15 Day 15 Day 15 Day 15	19 26 Day 16 Day 16 Day 16 Day 16	20 27 Day 17 Day 17 Day 17 Day 17	21 28 Day 18 Day 18 Day 18 Day 18	22 29 Day 19 Day 19 Day 19 Day 19	23 30 Day 20 Day 20 Day 20 Day 20	24 31 Day 21 Day 21 Day 21 Day 21

ビューの保存

ビューを保存すると、ビューの定義と設定を保存できます。このビューで設定したフォーマットにデータを表示する必要があるとき、必要なビュー・プロパティを再度設定するのではなく、保存済ビューを使用できます。

保存済ビューの範囲は、そのビューの基となるオブジェクトに制限されます。たとえば、タスクに関する保存済ビューを作成すると、そのビューは仕様では使用できません。特定の補足データ・セットに関する保存済ビューは、異なるデータ・セットでは使用できません。したがって、特定のフォームまたは収集内でのみ使用できます。

ビューを保存するには:

1. リストでフィルタ、列またはソートを調整し、目的のデータが表示されるようビューを調整します。[フィルタ・バーを使用した表示の調整](#)を参照してください。
2. 「アクション」から「ビューの保存」をクリックします。
3. 「ビューの保存」ダイアログに、名前(最大 80 文字入力できます)およびオプションの説明(最大 255 文字入力できます)を入力します。
4. 「OK」をクリックします。

「ビュー」ドロップダウン・セクタをクリックして、すべての保存済リストを表示できます。

保存済ビューの編集

保存済リスト・ビュー、ピボット・ビューまたはチャート・ビューの名前および定義を変更するには、その保存済ビューを編集します。

ビューを編集するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」、「**ビュー**」の順にクリックします。
使用可能なビューのリストが表示されます。
2. 特定のビューを選択し、「**編集**」アイコンをクリックします。ビューの「**...**」アイコンをクリックして「**編集**」を選択することもできます。
3. 必要な情報を更新し、「**OK**」をクリックします。

ビューを編集するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**補足データ**」、「**ビュー**」の順にクリックします。
使用可能なビューのリストが表示されます。
2. 特定のビューを選択し、「**編集**」アイコンをクリックします。ビューの「**...**」アイコンをクリックして「**編集**」を選択することもできます。
3. 必要な情報を更新し、「**OK**」をクリックします。

ビューの発行

管理者またはパワー・ユーザーは、プライベート・ビューを他のユーザーが使用できるようにビューを発行できます。保存されたビューは、複製され、プライベート・バージョンとパブリック・バージョンになります。

ビューを発行するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」、「**ビュー**」の順にクリックします。
使用可能なビューのリストが表示されます。
2. 特定のビューを選択し、「**発行**」アイコンをクリックします。ビューの「**...**」アイコンをクリックして「**発行**」を選択することもできます。

保存されたビューは、複製され、プライベート・バージョンとパブリック・バージョンになります。パブリック・バージョンは「**パブリック**」列にチェック・マークが表示されます。

ビューを発行するには:

1. ホーム・ページで、「**アプリケーション**」、「**補足データ**」、「**ビュー**」の順にクリックします。
使用可能なビューのリストが表示されます。
2. 特定のビューを選択し、「**発行**」アイコンをクリックします。ビューの「**...**」アイコンをクリックして「**発行**」を選択することもできます。

保存されたビューは、複製され、プライベート・バージョンとパブリック・バージョンになります。パブリック・バージョンは「**パブリック**」列にチェック・マークが表示されます。

デフォルト・ビューの設定

サービス管理者またはパワー・ユーザーは、発行された保存済ビューをデフォルト・ビューとして設定できます。

ユーザーが初めてビューを開くと、デフォルト・ビューが表示されます。使用されたビュー設定はシステムに記憶されます。したがって、以降にビューを開くと、ビューは最近使用された設定で表示されます。

デフォルト・ビューを設定するには:

1. ホーム・ページから、「**アプリケーション**」、「**タスク・マネージャ**」の順にクリックします。
2. 「**ビュー**」タブをクリックして、「ビュー」ページを表示します。
3. デフォルトとして設定するビューを選択し、「**デフォルトの設定**」アイコンをクリックします。
または、デフォルトとして設定するビューの「**アクション**」メニューをクリックし、「**デフォルトの設定**」を選択します。

デフォルト・ビューを設定するには:

1. ホーム・ページから、「**アプリケーション**」、「**補足データ**」の順にクリックします。
2. 「**ビュー**」タブをクリックして、「ビュー」ページを表示します。
3. デフォルトとして設定するビューを選択し、「**デフォルトの設定**」アイコンをクリックします。
または、デフォルトとして設定するビューの「**アクション**」メニューをクリックし、「**デフォルトの設定**」を選択します。

Note:

「**デフォルトの設定**」アクションは、公開されたリスト・ビューに対して使用できます。管理者またはパワー・ユーザーがビューをデフォルトに設定すると、保存済リスト・ビューがそのビュー・タイプのすべてのユーザーに使用可能になるだけでなく、ユーザーがそのビュー・タイプを開いたときにデフォルトで選択されます。

リスト・ビューおよびピボット・ビューのエクスポート

リスト・ビューまたはピボット・ビューのレコードを Microsoft Excel にエクスポートできます。

リスト・ビューまたはピボット・ビューをエクスポートするには:

1. エクスポートする必要があるリスト・ビューまたはピボット・ビューに移動します。
2. 「**アクション**」、「**Excel にエクスポート**」の順にクリックします。

エクスポートされたデータは Excel ファイルに保管され、ダウンロードできます。Excel ファイルのフォーマットは、「**Excel にエクスポート**」設定に応じて.xls または.xlsx です。

操作ダッシュボードの管理

関連トピック

- [操作ダッシュボードの概要](#)
- [操作ダッシュボードの表示および開く手順](#)
- [操作ダッシュボード: 設計モード](#)
- [操作ダッシュボードの作成](#)
- [操作ダッシュボード内でのオブジェクト・タイプの設定](#)
- [操作ダッシュボードの表示オプションの指定](#)
- [操作ダッシュボードの編集](#)
- [操作ダッシュボードの複製](#)
- [操作ダッシュボードの削除](#)
- [操作ダッシュボードのエクスポート](#)
- [操作ダッシュボードのインポート](#)
- [操作ダッシュボードの実行](#)
- [操作ダッシュボードを表示するための列の表示](#)
- [操作ダッシュボードを表示するための列の順序変更](#)
- [操作ダッシュボードの URL のコピー](#)
- [操作ダッシュボードに表示されるデータへのフィルタの適用](#)
- [例: タスク・マネージャの操作ダッシュボード](#)
- [例: 補足データ・マネージャのダッシュボード](#)

操作ダッシュボードの概要

ダッシュボードには拡張レポート機能が用意されています。ユーザーは、重要なビジネス・データをチャートに表現し、評価して(場合によっては)変更できます。

操作ダッシュボードについて

操作ダッシュボードを使用すると、ビジネス・プロセスの可視性が向上します。

各ダッシュボードには最大 4 つのビューを表示できます。これには、リスト・ビュー、ピボット・ビューまたはチャート・ビューが含まれます。一度に最大 10 個のダッシュボードを開くことができます。サービス管理者、または操作ダッシュボード - 管理の役割を付与されているユーザーは、ダッシュボードを作成できます。また、ダッシュボード作成者は、1 人以上のユーザー、グループまたはチームに権限を付与することで、ダッシュボードへのアクセスを制御できます。ダッシュボードへのアクセス権を付与されたユーザーは、ダッシュボードを実行してそのデータを表示できます。アクセス権でユーザーに許可されるのは、ダッシュボ

ードの表示のみです。基礎となるデータにまでアクセスが拡張されるわけではありません。したがって、ユーザーには、サービス内での自身のアクセス権に基づいてレコードの表示のみが可能です。

操作ダッシュボードの機能

ダッシュボードでは次の機能が提供されます:

- 多様なチャート・タイプを使用してデータを対話形式で視覚化します
- ビジネス・プロセスのパフォーマンスについて概要と詳細の両方の洞察を取得します
- ダッシュボード・レベルおよび個々のビュー・レベルでフィルタを作成します
ダッシュボード・レベルで作成されたフィルタは、ダッシュボード内のすべてのビューに適用されます。その後、ビュー・レベルで定義されたフィルタ(ある場合)が適用されます。
- ダッシュボードの表示に対するアクセスを制御します

Note:

補足データについては、デプロイメント後に属性の計算式の定義を変更すると、操作ダッシュボードおよびグループ化された他のビュー(ピボット・ビュー、チャート・ビューおよびレポート)の結果に影響します。ダッシュボードでは常に、属性について定義された最新の計算式の定義が使用されます。

操作ダッシュボードの表示および開く手順

既存のダッシュボードの表示

ダッシュボードを表示するには、**ホーム**から「ライブラリ」、「操作ダッシュボード」の順にクリックします。

「操作ダッシュボード」ページには、既存のダッシュボードのリストが表示されます。

ダッシュボードを開く手順

ダッシュボードを開くには:

1. 「操作ダッシュボード」ページにアクセスします。このページには、既存の操作ダッシュボードのリストが表示されます
2. (オプション) 「**検索**」ボックスを使用して、特定のダッシュボードを検索します。
3. 開くダッシュボードの名前をクリックします。
「操作ダッシュボード」タブの横にある新しい動的タブ内にダッシュボードが開きます。

ダッシュボードで次のアクションを実行できます:

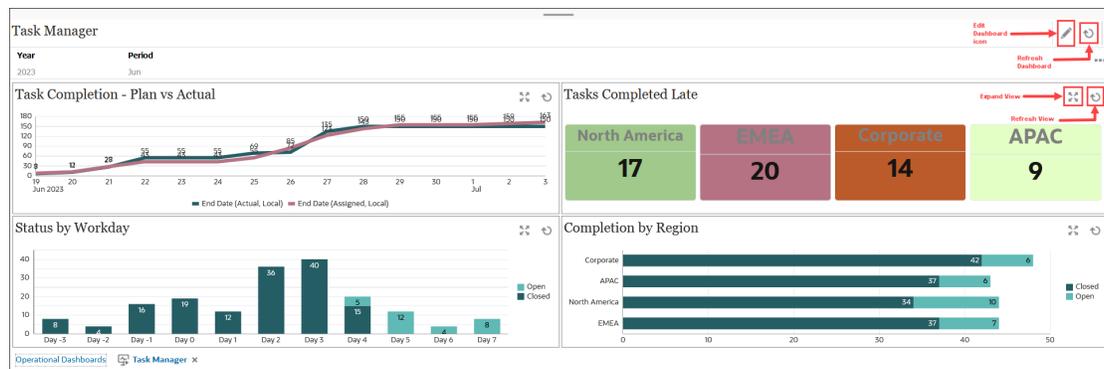
- 任意のビューで任意の領域または合計をクリックし、その領域または合計を構成する個々のレコードにドリルダウンします。
-  アイコンを使用して、ダッシュボードの設定を編集します。

- アイコンを(ダッシュボード・レベルで)使用して、ダッシュボード内のすべてのビューをリフレッシュします。
- ダッシュボード・レベルで作成されたフィルタを使用します。操作ダッシュボードに表示されるデータへのフィルタの適用を参照してください。

ダッシュボード内の各ビューで、次の操作ができます:

- アイコンを(ダッシュボード・レベルで)使用して、ダッシュボード内のすべてのビューをリフレッシュします。
- アイコンを使用して、ダッシュボード・ビュー内のビューを展開または縮小します。
- ビュー・レベルで定義されたフィルタを使用します。操作ダッシュボードに表示されるデータへのフィルタの適用を参照してください。

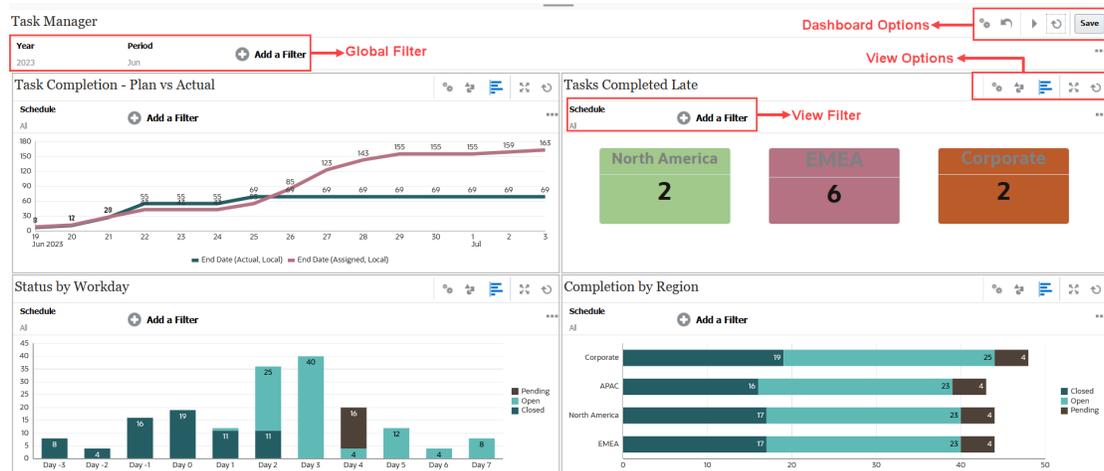
次のイメージは、ダッシュボードを開いたときに使用可能なオプションを示しています。



操作ダッシュボード: 設計モード

ダッシュボードの設計モードでは、ダッシュボードとそのコンポーネント(チャート・ビュー、リスト・ビューおよびピボット・ビュー)を構成および管理できます。

このイメージは、操作ダッシュボードの設計モードを示しています。このダッシュボードには、1つのチャート・ビューと1つのピボット・ビューがあります。



右上には、ダッシュボードを管理するための次のオプションがあります:

-  **設定**
ダッシュボードのプロパティを編集します。
-  **元に戻す**
ダッシュボードのプロパティに加えた変更を元に戻します。
-  **実行**
ダッシュボードを実行します。
データを動的にフェッチしてダッシュボードに表示します。権限を付与されているユーザーのみがダッシュボードのデータを表示できます。
実行モードでは、ユーザーには「リフレッシュ」および「展開」オプションのみが表示されます。
-  **リフレッシュ**
ダッシュボード内のすべてのビューを含め、ダッシュボードに表示されるデータをリフレッシュします。
-  **保存**
ダッシュボードのプロパティに加えた変更を保存します。
ダッシュボード内の各ビュー(リスト、チャートまたはピボット)には、次のオプションが含まれています:

-  **設定**
チャート、リストまたはピボット・ビューのプロパティを編集します。
-  **オブジェクト・タイプ**
オプションは、「タスク」、「アラート」、「補足データ・フォーム」および「補足データ」です
-  **ビュー・セレクタ**
オプションは、「チャート・ビュー」、「リスト・ビュー」または「ピボット・ビュー」です。
-  **展開**
ダッシュボード領域全体にビューを表示します。
このオプションは、ダッシュボードに複数のビューがある場合にのみ表示されます。
-  **リフレッシュ**
ビューに表示されるデータをリフレッシュします。

操作ダッシュボードの作成

サービス管理者および操作ダッシュボード - 管理役割が付与されているユーザーは、ダッシュボードを作成できます。

ダッシュボードを作成するには:

1. **ホーム**から、**ライブラリ**、**ダッシュボード**の順にクリックします。
「操作ダッシュボード」ページに既存のダッシュボードのリストが表示されます。
2. **新規** アイコンをクリックします。
新しいダッシュボードが新しいタブで開きます。次のものが含まれています：
 - 新規ダッシュボード# (数字)という形式のデフォルトの名前。
 - 1つの空のビュー(リスト・ビュー、ピボット・ビューまたはチャート・ビュー)
 - ダッシュボードおよびダッシュボード内のビューのオプションに対応する2セットのアイコン(右上)。 [操作ダッシュボード: 設計モード](#)を参照してください。
 - ダッシュボード・レベルでデータをフィルタリングするためのフィルタ。フィルタを追加するには、**フィルタの追加** をクリックします。
3. ダッシュボードに対応するアイコンのセットで、**設定** アイコンをクリックします。
「ダッシュボードの編集」ダイアログが表示されます。
4. **プロパティ** タブで、必要なダッシュボード・プロパティを指定します。
[操作ダッシュボードのプロパティの定義](#)を参照してください。
5. **アクセス** タブをクリックして、このダッシュボードへのアクセス権をユーザー、グループまたはチームに付与します。アクセス権を付与されたユーザーは、このダッシュボードを実行してそのデータを表示できます。
[操作ダッシュボードへのアクセスの定義](#)を参照してください。
6. **OK** をクリックします。
ダッシュボード・レイアウトで指定された領域ごとに、個別の領域および対応するアイコンが表示されます。たとえば、**レイアウト**を**グリッド**に設定すると、ページには4つの個別の領域が表示されます。
7. ダッシュボード内の領域ごとに、データを視覚化する対象に基づいてオブジェクト・タイプを設定します。 [操作ダッシュボード内でのオブジェクト・タイプの設定](#)を参照してください。
8. ダッシュボード内の各領域で、**ビュー・セレクト** アイコンをクリックして選択し、ビューのタイプを指定します。 [操作ダッシュボードの表示オプションの指定](#)を参照してください。
9. 各ビューで、**設定** をクリックし、そのビューの設定を指定します。
 - [チャート・ビューの作成](#)を参照してください。
 - [リスト・ビューの操作](#)を参照してください。
 - [ピボット・ビューの操作](#)を参照してください。
10. **保存** をクリックしてダッシュボードの設定を保存します。

操作ダッシュボードのプロパティの定義

ダッシュボードのプロパティには、名前、説明、枠線、背景およびレイアウトがあります。

ダッシュボードのプロパティを定義するには:

1. 「ダッシュボードの編集」ダイアログの**プロパティ** タブを開きます。
2. **名前** に、ダッシュボードの一意の名前を入力します。

3. 「説明」に、ダッシュボードの説明(オプション)を入力します。
4. ダッシュボードの各ビューの周囲に枠線を表示するには、「**枠線**」を選択します。
5. ダッシュボードにグローバル・フィルタ・バーを追加するには、「**グローバル・フィルタ・バー**」を選択します。このフィルタ・バーは、ダッシュボード内のすべてのビューに適用されます。
6. ダッシュボードの実行時にビュー・レベルのフィルタを表示するには、「**フィルタ・バーの表示**」を選択します。
7. 「**背景**」で、次のいずれかを選択します:
 - 塗りつぶしなし
 - 単色: 背景色として使用する色を選択します。必要に応じて、「**グラデーション**」を選択し、色を選択します。
8. 「**レイアウト**」で、ダッシュボードを分割する領域の数(各ビューに1つ)を指定します。領域の最大数は4です。

次のいずれかを選択します。

 - 単一
単一のビューを表示します
 - 水平
2つのビューを上下に並べて表示します
「水平分割」を使用して、2つのビュー間で画面の領域を分割する方法を指定します。
 - 垂直
2つのビューを横に並べて表示します
「垂直分割」を使用して、2つのビュー間で画面の領域を分割する方法を指定します。たとえば、「**垂直分割**」を30に設定すると、ダッシュボード上部に表示されるチャートにはダッシュボード領域の30%が使用されます。2つ目のチャートには、ダッシュボードの残りの70%が使用されます。
 - グリッド
ダッシュボードに4つのビューを表示します
9. 「**OK**」をクリックして、ダッシュボードの設定を保存します。

操作ダッシュボードへのアクセスの定義

サービス管理者および操作ダッシュボード - 管理役割が付与されているユーザーは、特定のユーザー、グループまたはチームにこのダッシュボードへのアクセス権を付与できます。このようなユーザーは、ダッシュボードを実行してそのデータを表示できます。

ダッシュボードを実行するためのアクセス権を追加するには:

1. 「ダッシュボードの編集」ダイアログの「**アクセス**」タブを開きます。

デフォルトでは、ダッシュボードを作成したユーザーに対して1つのエントリがあります。
2. 「**追加**」アイコンをクリックします。

「ユーザーの選択」ダイアログが表示されます。

3. 「**ユーザーの選択**」アイコンをクリックし、「**ユーザー**」、「**グループ**」または「**チーム**」のいずれかを選択します。
デフォルトの選択は「**ユーザー**」です。
4. 名前または説明を入力し、「**検索**」をクリックします。
 - 「**検索**」をクリックすると、使用可能なユーザー、グループまたはチームのリスト全体が表示されます。たとえば、グループの名前がわからない場合は、「**ユーザーの選択**」アイコンを使用して「**グループ**」を選択し、「**検索**」をクリックします。使用可能なグループのリストが表示されます。
 - ユーザーを選択する場合は、「**詳細**」をクリックして「**ユーザー ID**」および「**電子メール**」フィールドを表示します。ユーザーの検索時にこれらの属性を使用することもできます。
5. ユーザー名、グループ名またはチーム名をダブルクリックしてアクセス権を付与します。
選択した名前が「**アクセス**」タブに表示されます。この名前をクリックすると詳細が表示されます。
6. 「**OK**」をクリックして、ダッシュボードの設定を保存します。



Note:

サービス管理者およびタスク・マネージャ - ダッシュボードの管理アプリケーション役割を付与されているユーザーは、すべてのダッシュボードを表示および編集できます。

ダッシュボードを実行するためのアクセス権を削除するには:

1. アクセス権を設定しているダッシュボードの「ダッシュボードの編集」ダイアログの「**アクセス**」タブを開きます。
ダッシュボードを実行する権限を付与されているユーザー、グループおよびチームが、「**名前**」の下にリストされます。
2. ダッシュボードを実行する権限を取り消す必要があるユーザー、グループまたはチームの名前をクリックします。
複数のアイテムを選択するには、**[Ctrl]**キーを押したまま必要なアイテムを選択します。
3. 「**削除**」、「**OK**」の順にクリックします

操作ダッシュボード内でのオブジェクト・タイプの設定

プロパティを設定してダッシュボードにアクセスした後に、レポート対象のデータ型を選択したり、各ビューをビジュアル化できます。

ビュー内のすべてのデータ、メタデータ、フィルタなどは、このオブジェクト・タイプに基づきます。各ビューで使用できるオブジェクト・タイプは1つのみですが、ビュー間で異なる場合があります。

Tax Reporting では、次のオブジェクト・タイプが使用可能です:

- タスク

- アラート
- 補足データ
- 補足データ・フォーム

オブジェクト・タイプを指定するには:

1. 「操作ダッシュボード」ページから操作ダッシュボードを開きます。
2. 「**オブジェクト**」アイコンをクリックして、必要なオブジェクトを選択します。
3. 「**保存**」をクリックして、設定を保存します。

オブジェクト・タイプを変更すると、領域内のすべての設定がリセットされます。

Note:

管理者が「**機能の有効化**」オプションを使用して既存の環境(補足データ・マネージャ)でモジュールをオンにした場合、日次メンテナンスが実行されるまで、ユーザーはそのモジュールのオブジェクト・タイプを表示できません。

操作ダッシュボードの表示オプションの指定

ダッシュボード内で、オブジェクト・タイプを指定した後に、リスト・ビュー、ピボット・ビュー、チャート・ビューなどのビューを選択して、ダッシュボード内にデータを表示できます。

表示オプションを指定するには:

1. 「操作ダッシュボード」ページで、表示オプションを指定するダッシュボードを開きます。
2. **ビュー・セレクト**アイコンをクリックして、次のいずれかを選択します:
 - リスト・ビュー
 - ピボット・ビュー
 - チャート・ビュー
3. **ビュー・セレクト**アイコンに対応する「**設定**」アイコンをクリックし、表示オプションを指定します。
 - リスト・ビューについては、[リスト・ビューの操作](#)を参照してください。
 - ピボット・ビューについては、[ピボット・ビューの操作](#)を参照してください。
 - チャート・ビューについては、[チャート・ビューの作成](#)を参照してください。指定した表示設定に基づいて、ダッシュボード内にデータが表示されます。
4. 「**保存**」をクリックします。

操作ダッシュボードの編集

サービス管理者は、ダッシュボードを編集し、そのプロパティおよびアクセス権限を変更できます。

ダッシュボードを編集するには:

1. ホームから、「ライブラリ」、「ダッシュボード」の順にクリックします。
2. 編集するダッシュボードをクリックして「編集」アイコンをクリックするか、「アクション」アイコンをクリックして「編集」をクリックします。
ダッシュボード・デザイナーが表示されます。

また、ダッシュボードを実行モードで表示している場合は、「編集」アイコンをクリックして設計モードに切り替えることができます。
3. 「設定」をクリックして「ダッシュボードの編集」ダイアログを表示します。
4. 「プロパティ」および「アクセス」タブを使用して、必要なプロパティを変更します。
[操作ダッシュボードのプロパティの定義](#)および[操作ダッシュボードへのアクセスの定義](#)を参照してください。
5. 「OK」をクリックします。

操作ダッシュボードの複製

ダッシュボードを複製するには:

1. ホームから、「ライブラリ」、「ダッシュボード」の順にクリックします。
2. 複製するダッシュボードを選択し、「複製」アイコンをクリックします。「アクション」アイコンをクリックしてから、「複製」をクリックすることもできます。
ダッシュボード・デザイナーに「<ダッシュボード名>のコピー」タブが開きます。
3. プロパティ、アクセス権およびビュー・オプションを指定します。
4. 「保存」をクリックしてダッシュボードを保存します。

操作ダッシュボードの削除

ダッシュボードを削除するには:

1. ホームから、「ライブラリ」、「ダッシュボード」の順にクリックします。
2. 削除するダッシュボードをクリックし、「削除」アイコンをクリックします。「アクション」アイコンをクリックしてから、「削除」をクリックすることもできます。

確認を求めるメッセージが表示されます。
3. 「はい」をクリックします。

ダッシュボードが削除され、「操作ダッシュボード」ページに表示されなくなります。

操作ダッシュボードのエクスポート

ダッシュボード定義はXMLファイルにエクスポートできます。エクスポート機能を使用して、あるビジネス・プロセスから別のビジネス・プロセスにダッシュボード定義をコピーできます。

 **Note:**

操作ダッシュボードをエクスポートするには、ダッシュボードの管理権限が必要です。

ダッシュボードをエクスポートするには:

1. **ホーム**から、「**ライブラリ**」、「**ダッシュボード**」の順にクリックします。
「操作ダッシュボード」ページが表示されます。
2. エクスポートする 1 つ以上のダッシュボードを選択し、「**エクスポート**」アイコンをクリックします。
「ダッシュボードのエクスポート」ダイアログが表示されます。
3. 次のいずれかを選択します。
 - **すべての行:** 既存のすべての操作ダッシュボードをエクスポートします
 - **選択した行:** 前のステップで選択したダッシュボードをエクスポートします。
4. 「**エクスポート**」をクリックします。
指定したダッシュボードが *Dashboard.json* という名前の JSON ファイルとしてエクスポートされます。

操作ダッシュボードのインポート

サービス管理者は、「**エクスポート**」オプションを使用して以前にエクスポートされたダッシュボードをインポートできます

 **Note:**

操作ダッシュボードをインポートするには、ダッシュボードの管理権限が必要です。

ダッシュボードをインポートするには:

1. **ホーム**から、「**ライブラリ**」、「**ダッシュボード**」の順にクリックします。
「操作ダッシュボード」ページが表示されます。
2. 「**インポート**」をクリックします。
操作ダッシュボードのインポート・ダイアログが表示されます。
3. 「**ファイル**」で、「**参照**」をクリックし、インポートするダッシュボードが保存されている JSON ファイルを指定します。
4. 「**インポート**」をクリックします。
「**ステータス**」フィールドにインポートのステータスが表示されます。
5. インポートが正常に完了したら、「**OK**」をクリックします。

インポートされたダッシュボードは、「操作ダッシュボード」ページに表示されます。

「ダッシュボード」ページのダッシュボードと同じ名前のダッシュボードがインポート・ファイルに含まれていると、そのダッシュボードが更新されます。

操作ダッシュボードの実行

ユーザーは、アクセス権が付与されているダッシュボードを実行できます。

ダッシュボードを実行すると、最新のデータがダッシュボードの様々なチャートやピボット・ビューに表示されます。

ダッシュボードを実行するには:

1. **ホーム**から、「**ライブラリ**」、「**操作ダッシュボード**」の順にクリックします。
「ダッシュボード」ページが表示されます。
2. 次のいずれかを行います:
 - 実行するダッシュボードをクリックし、「**実行**」アイコンをクリックします。
 - 実行するダッシュボードの「**アクション**」アイコンをクリックし、「**実行**」を選択します。
 - ダッシュボードを開き、「**実行**」アイコンをクリックします。ダッシュボードが新しいタブにランタイム・モードで開き、最新のデータが表示されます。

Note:

実行または編集のためにダッシュボードがすでに開いている場合は、そのタブにフォーカスが移動し、実行モードになります。

3. 必要に応じて、表示されたデータをフィルタします。 [操作ダッシュボードに表示されるデータへのフィルタの適用](#)を参照してください。

操作ダッシュボードを表示するための列の表示

ダッシュボードを表示するための列を表示するには:

1. 「操作ダッシュボード」ページで、「**表示**」、「**列**」の順にクリックします。
2. 「**すべて表示**」をクリックしてすべての列を表示するか、特定の列を選択します。

列を表示または表示された列を非表示にするには:

1. 「**表示**」 > 「**列**」 > 「**列の管理**」の順にクリックします。
2. 移動アイコンを使用して「**非表示列**」と「**表示列**」の間で必要な列を移動して、列を表示または表示されている列を非表示にします。

操作ダッシュボードを表示するための列の順序変更

列の順序を変更して、異なる順序で表示できます。

列を並べ替えるには:

1. 「操作ダッシュボード」ページで、「**表示**」、「**列の順序変更**」の順にクリックします。

2. 順序を変更する列名を選択し、次のアイコンを使用して必要な位置に移動します:
 - : 選択したアイテムをリストの最上位に移動します
 - : 選択したアイテムをリストの 1 つ上に移動します
 - : 選択したアイテムをリストの 1 つ下に移動します
 - : 選択したアイテムをリストの最下位に移動します
3. 「OK」をクリックします。
指定された順序に基づいて列が表示されます。

操作ダッシュボードの URL のコピー

操作ダッシュボードの URL をコピーして、そのダッシュボードにアクセスできるようにすることができます。

操作ダッシュボードの URL をコピーするには:

1. ホームから、「ライブラリ」、「ダッシュボード」の順にクリックします。
「操作ダッシュボード」ページが表示されます。
2. URL をコピーするダッシュボードの「アクション」アイコンをクリックし、「URL のコピー」をクリックします。
3. 表示された URL をコピーします。URL により、ダッシュボードに直接アクセスできるようになります。

操作ダッシュボードに表示されるデータへのフィルタの適用

フィルタを使用して、ダッシュボードとそのビューに表示されるデータを制限できます。

「検索」ボックスの横にある「表示/非表示」切替えアイコンを使用して、フィルタ・バーを表示または非表示にします。

フィルタ・バーでは、次のようにして、表示されているダッシュボードをフィルタできます:

- その他のフィルタを追加します
- 各フィルタに条件を指定します
- フィルタをクリアまたは削除します
- すべてのフィルタをクリアします

ダッシュボードに表示されるデータを制限するには:

1. ダッシュボードを実行し、そのデータを表示します。
2. このダッシュボードにグローバル・フィルタが構成されている場合は、これを使用してダッシュボードのすべてのビューに表示されるデータをフィルタします。

- ビューの場合は、特定のビューに定義されているフィルタを使用して、そのビューに表示されるデータをフィルタします。

グローバル・フィルタは、ダッシュボードのすべてのビューに最初に適用されます。次に、ビューごとに、そのビューに定義されているフィルタが適用されます。

これらの各機能の詳細は、[フィルタの操作](#)を参照してください。

例: タスク・マネージャの操作ダッシュボード

この例では、ダッシュボードの作成方法を示します。

このダッシュボードでは、タスク・マネージャの次のビューを使用します:

- [チャート・ビュー: タスク完了 - プランと実績の対比](#)
- [チャート・ビュー: 遅延完了タスク](#)
- [チャート・ビュー: 労働日別ステータス](#)
- [チャート・ビュー: 地域別完了](#)

完成したダッシュボードがスクリーンショットに示されています。任意のビューで任意の領域をクリックして、その領域を構成する個々のレコードにドリルダウンできます。



この例のダッシュボードを作成するには:

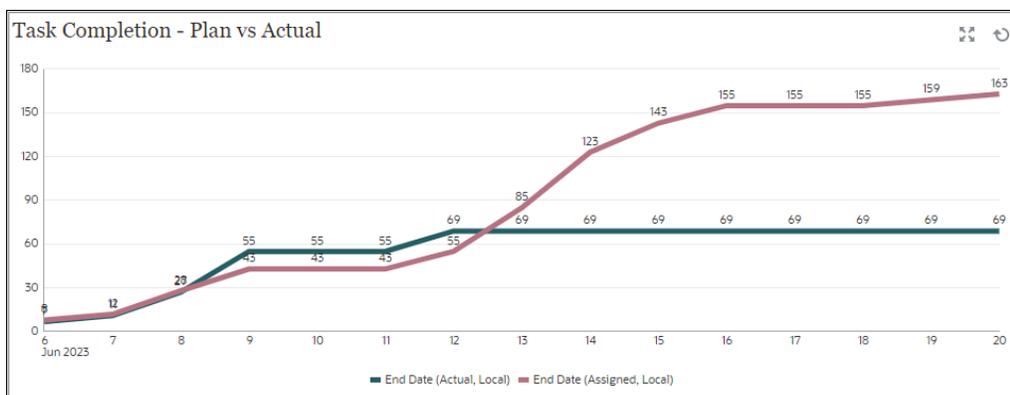
1. ホームで「**ダッシュボード**」をクリックし、「**操作ダッシュボード**」をクリックします。
ホームで「**ライブラリ**」をクリックし、「**操作ダッシュボード**」をクリックします。
既存の操作ダッシュボードが表示されます。
2. 「**新規**」アイコンをクリックして、新しいダッシュボードを作成します。
新しいダッシュボードがデフォルト名で作成され、新しいタブで開きます。
3. ダッシュボードの「**設定**」アイコンをクリックし、「**プロパティ**」タブでプロパティを更新します:
 - **名前:** タスク・マネージャ
 - **枠線:** このチェック・ボックスを選択します
 - **グローバル・フィルタ・バー:** このチェック・ボックスを選択します

- **背景:** 塗りつぶしなし
 - **レイアウト:**
 - **グリッド:** このチェック・ボックスを選択します。
 - **水平分割:** 50
 - **垂直分割:** 50
4. 左上のチャート・ビューを作成するには、[チャート・ビュー: タスク完了 - プランと実績の対比](#)を参照してください。
 5. 右上のチャート・ビューを作成するには、[チャート・ビュー: 遅延完了タスク](#)を参照してください。
 6. 左下のチャート・ビューを作成するには、[チャート・ビュー: 労働日別ステータス](#)を参照してください。
 7. 右下のチャート・ビューを作成するには、[チャート・ビュー: 地域別完了](#)を参照してください。
 8. 「保存」をクリックしてダッシュボードを保存します。

チャート・ビュー: タスク完了 - プランと実績の対比

この例は、時間の経過に伴うタスクの完了を示したもので、タスクが予定より進んでいるか遅れているかを確認できます。

このチャートには、特定の日付以前のすべてのタスクの終了日が含まれます。また、それらのタスクの完了ステータスも表示されます。



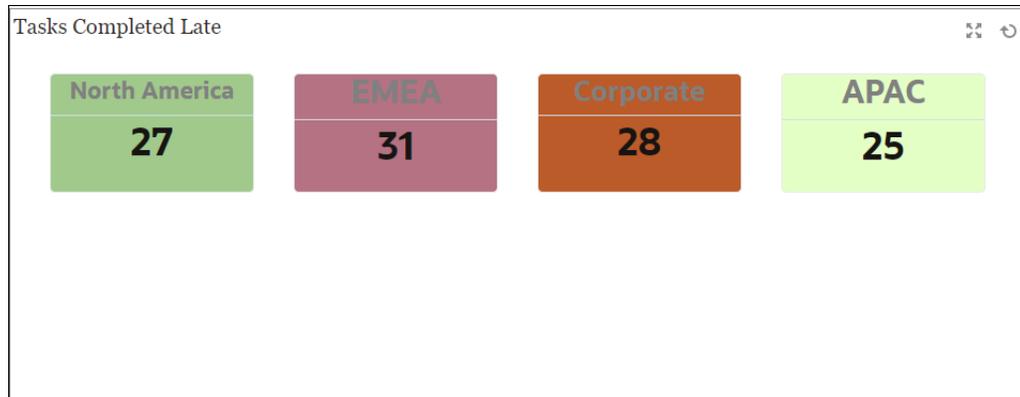
ダッシュボード内の左上のビューで次のようにします:

1. 「オブジェクト・タイプ」アイコンをクリックし、「タスク」を選択します。
2. ビュー・セレクタ・アイコンをクリックし、「チャート・ビュー」を選択します。
3. 「設定」アイコンをクリックし、次の情報を指定します:
 - 「プロパティ」タブで:
 - **タイトル:** タスク完了 - プランと実績の対比
 - **タイプ:** 折れ線
 - **背景:** 塗りつぶしなし
 - **ラベルの位置:** 上の点

- 行の太さ: 5
 - グリッド線: このチェック・ボックスを選択します
 - 期間: 選択
 - 「レイアウト」タブで:
 - X 軸:
 - * タイプ: 日付
 - * ソート: 最初のドロップダウン・メニューでは「X 軸」、2 番目のドロップダウン・メニューでは「降順」
 - 凡例(系列):
 - * 最初の行を追加します:
 - * 値: タスク
 - * 集約: 数
 - * カテゴリ: なし
 - * グループ化基準: 終了日(実際、ローカル)
 - * データ集約: 次以前
 - * 「新規」をクリックして別の行を追加します。次を指定します:
 - * 値: タスク
 - * 集約: 数
 - * カテゴリ: なし
 - * グループ化基準: 終了日(割当済、ローカル)
 - * データ集約: 次以前
 - 「軸」タブで:
 - 「X 軸」を選択します。
 - 間隔: 日次
 - 最小: 自動
 - 最大: 自動
 - 「凡例」タブで:
 - 凡例の位置: 下
 - パレット: レッドウッド
 - 各系列のデフォルトのラベルを選択します: **終了日(実際、ローカル)**および**終了日(割当済、ローカル)**
 - 各系列にデフォルトの色を選択します。
4. 「OK」をクリックします。

チャート・ビュー: 遅延完了タスク

この例は、様々な組織単位で予定より遅れて完了したタスクを示しています。



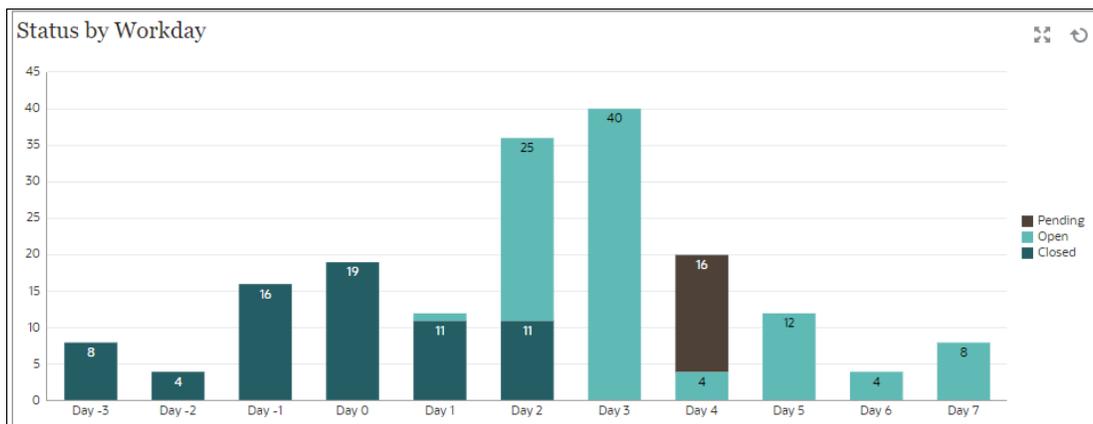
ダッシュボード内の左上のビューで次のようにします:

1. 「オブジェクト・タイプ」アイコンをクリックし、「タスク」を選択します。
2. ビュー・セレクトア・アイコンをクリックし、「チャート・ビュー」を選択します。
3. 「設定」アイコンをクリックし、次の情報を指定します:
 - 「プロパティ」タブで:
 - タイトル: 遅延したタスク完了
 - 背景: 塗りつぶしなし
 - ヘッダー・サイズ: 13
 - データ・サイズ: 14
 - 期間: 選択
 - 「レイアウト」タブで:
 - X 軸:
 - * タイプ: 日付
 - * ソート: 最初のドロップダウン・メニューでは「X 軸」、2 番目のドロップダウン・メニューでは「昇順」
 - 凡例(系列):
 - * 値: タスク
 - * 集約: 数
 - * カテゴリ: 組織単位
 - * フィルタ: 「これまでの遅延(担当者)」が「いいえ」でない
 - 「列」タブで、各系列のデフォルトのラベルを選択します。
4. 「OK」をクリックします。

チャート・ビュー: 労働日別ステータス

このチャートの例は、カスタムの労働日属性に基づいてタスクの完了を示しています。

この例では、カスタム属性が事前に追加され、日-15 から 35 の値を指定して定義されています。その後、計画完了日に基づいて、すべてのタスクに労働日が割り当てられています。



ダッシュボード内の左下のビューで次のようにします:

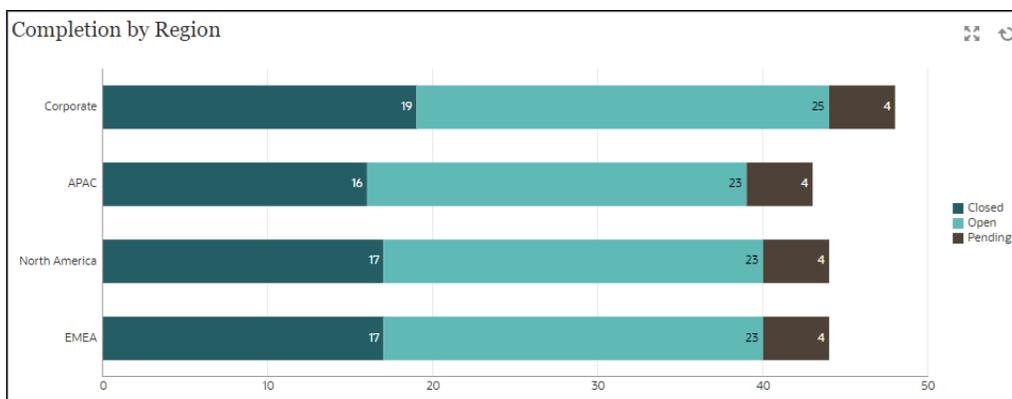
1. 「オブジェクト・タイプ」アイコンをクリックし、「タスク」を選択します。
2. ビュー・セレクタ・アイコンをクリックし、「チャート・ビュー」を選択します。
3. 「設定」アイコンをクリックし、次の情報を指定します:
 - 「プロパティ」タブで:
 - **タイトル:** 労働日別ステータス
 - **タイプ:** 縦棒
 - **背景:** 塗りつぶしなし
 - **ラベルの位置:** エッジの内側
 - **向き:** 垂直
 - **グリッド線:** このチェック・ボックスを選択します
 - **期間:** 選択
 - 「レイアウト」タブで:
 - **X 軸:**
 - * **タイプ:** 属性
 - * **属性 1:** 労働日(このカスタム属性がリストに表示されるには、事前に追加されている必要があります。)
 - * **ソート:** 最初のドロップダウン・メニューでは「労働日」、2 番目のドロップダウン・メニューでは「昇順」。
 - **凡例(系列):** 最初の行で、次の情報を追加します:
 - * **値:** タスク
 - * **集約:** 数
 - * **カテゴリ:** ステータス
 - **Y 軸:** このチェック・ボックスを選択します。
 - **最小:** 自動

- 最大: 自動
- 主ユニット: 自動
- 副ユニット: 自動
- 「凡例」タブで:
 - 凡例の位置: 右
 - パレット: レッドウッド
 - 各系列にデフォルトのラベルを選択します: 「クローズ済」、「エラー」、「オープン」および「保留中」。
 - 各系列にデフォルトの色を選択します。

4. 「OK」をクリックします。

チャート・ビュー: 地域別完了

このチャートの例は、地域に基づいてタスクの完了を示しています。この例では、カスタムの組織単位属性が事前に追加されており、完了したタスクの値が地域に基づいて定義されています。



ダッシュボード内の左下のビューで次のようにします:

1. 「オブジェクト・タイプ」アイコンをクリックし、「タスク」を選択します。
2. ビュー・セレクタ・アイコンをクリックし、「チャート・ビュー」を選択します。
3. 「設定」アイコンをクリックし、次の情報を指定します:
 - 「プロパティ」タブで:
 - タイトル: 地域別完了
 - タイプ: 縦棒
 - 背景: 塗りつぶしなし
 - ラベルの位置: エッジの内側
 - 向き: 水平
 - グリッド線: このチェック・ボックスを選択します
 - 期間: 選択

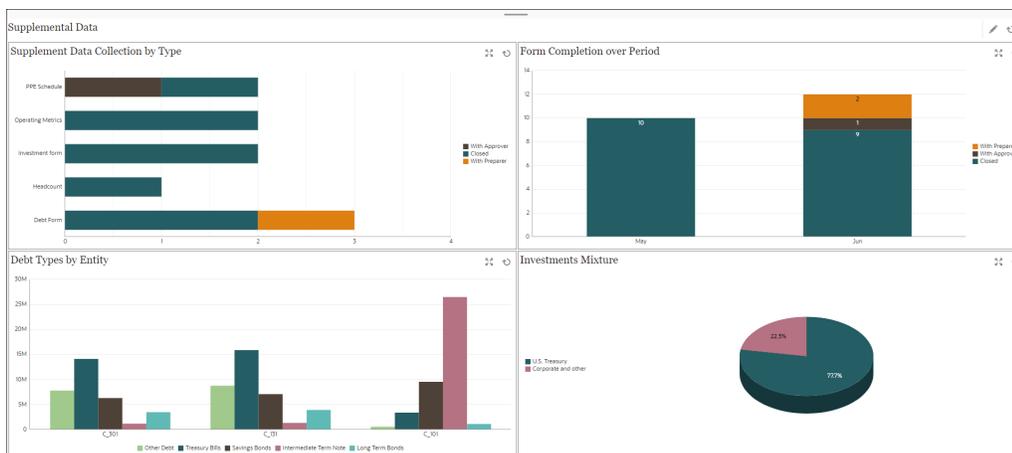
- 「レイアウト」タブで:
 - X 軸:
 - * **タイプ:** 属性
 - * **属性 1:** 組織単位
(このカスタム属性がリストに表示されるには、事前に追加されている必要があります。)
 - * **ソート:** 最初のドロップダウン・メニューでは「組織単位」、2 番目のドロップダウン・メニューでは「降順」。
 - 凡例(系列):
 - * **値:** タスク
 - * **集約:** 数
 - * **カテゴリ:** ステータス
 - 「軸」タブで:
 - Y 軸: このチェック・ボックスを選択します。
 - 最小: 自動
 - 最大: 自動
 - 主ユニット: 自動
 - 副ユニット: 自動
 - 「凡例」タブで:
 - 凡例の位置: 右
 - パレット: レッドウッド
 - 各系列にデフォルトのラベルを選択します: 「クローズ済」、「エラー」、「オープン」および「保留中」。
 - 各系列にデフォルトの色を選択します。
4. 「OK」をクリックします。

例: 補足データ・マネージャのダッシュボード

これは、補足データ・マネージャのフォームとデータのビューを備えたダッシュボードの例です。このダッシュボードはサンプル・データに基づいており、補足データ・マネージャの使用法とは異なります。ビューには次のものが含まれます:

- [チャート・ビュー: タイプ別補足データ収集](#)
- [チャート・ビュー: 期間のフォーム完了](#)
- [チャート・ビュー: エンティティ別債務タイプ](#)
- [チャート・ビュー: 投資組合せ](#)

ダッシュボードは次のように表示されます。任意のビューの領域をクリックして、その領域を構成する個々のレコードにドリルダウンします。

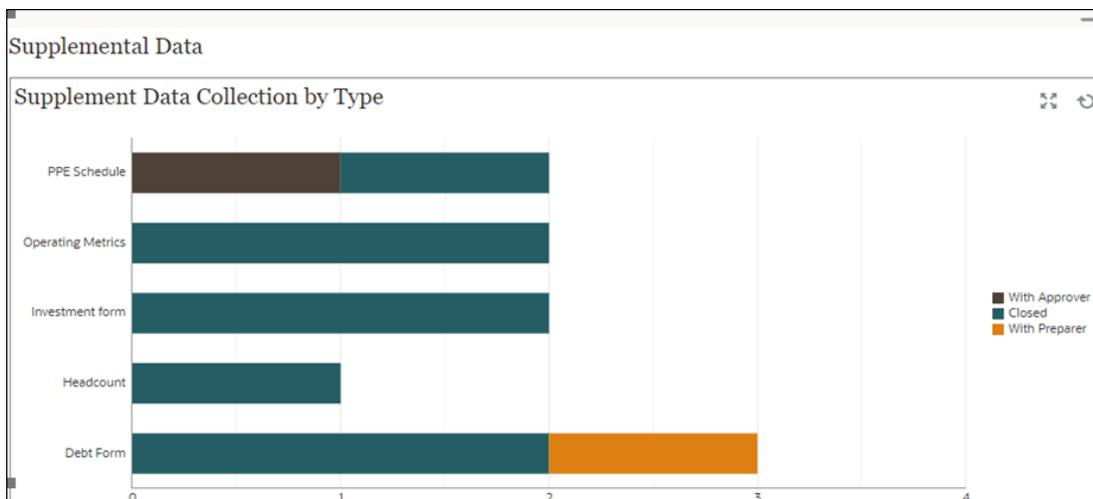


この例のダッシュボードを作成するには:

- ホームで「**ダッシュボード**」をクリックし、「**操作ダッシュボード**」をクリックします。
ホームで「**ライブラリ**」をクリックし、「**操作ダッシュボード**」をクリックします。
既存の操作ダッシュボードが表示されます。
- 「**新規**」アイコンをクリックして、新しいダッシュボードを作成します。
新しいダッシュボードがデフォルト名で作成され、新しいタブで開きます。
- ダッシュボードの「**設定**」アイコンをクリックし、「**プロパティ**」タブでプロパティを更新します:
 - **名前:** 補足データ
 - **枠線:** このチェック・ボックスを選択します
 - **背景:** 塗りつぶしなし
 - **レイアウト:**
 - **グリッド:** このチェック・ボックスを選択します。
 - **水平分割:** 50
 - **垂直分割:** 50
- 左上のチャート・ビューを作成するには、[チャート・ビュー: タイプ別補足データ収集](#)を参照してください。
- 右上のチャート・ビューを作成するには、[チャート・ビュー: 期間のフォーム完了](#)を参照してください。
- 左下のチャート・ビューを作成するには、[チャート・ビュー: エンティティ別債務タイプ](#)を参照してください。
- 右下のチャート・ビューを作成するには、[チャート・ビュー: 投資組合せ](#)を参照してください。
- 「**保存**」をクリックしてダッシュボードを保存します。

チャート・ビュー: タイプ別補足データ収集

次の例は、テンプレート・タイプ別のフォーム完了を示しています。これにより、補足データ収集の進捗状況をデータのタイプごとにすばやく確認できます。



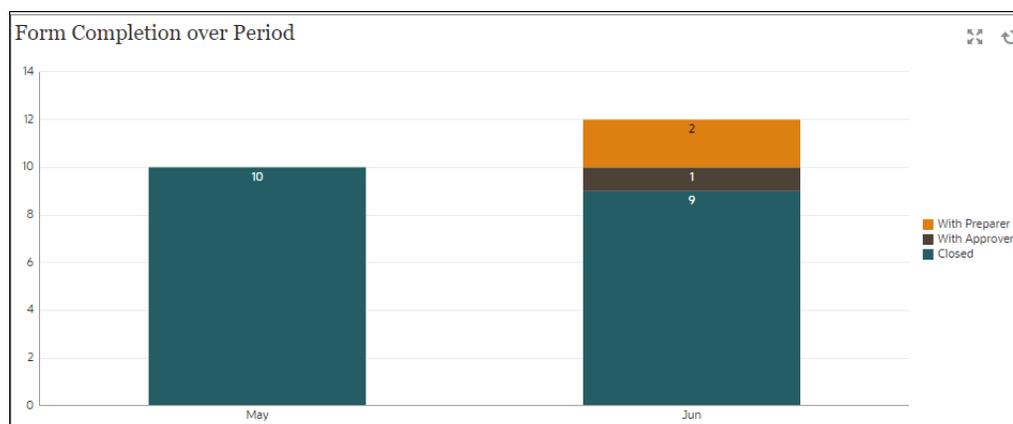
ダッシュボード内の左上のビューで次のようにします:

1. 「オブジェクト・タイプ」アイコンをクリックし、「補足データ・フォーム」 > 「デフォルト」(収集間隔)を選択します。
2. ビュー・セレクタ・アイコンをクリックし、「チャート・ビュー」を選択します。
3. 「設定」アイコンをクリックし、次の情報を指定します:
 - 「プロパティ」タブで:
 - タイトル: タイプ別補足データ収集
 - タイプ: 縦棒
 - 背景: 塗りつぶしなし
 - ラベルの位置: ラベルなし
 - 向き: 水平
 - グリッド線: このチェック・ボックスを選択します
 - 期間: 選択
 - 「レイアウト」タブで:
 - X 軸:
 - * タイプ: 属性
 - * 属性 1: テンプレート
 - * ソート: 最初のドロップダウン・メニューでは「テンプレート」、2 番目のドロップダウン・メニューでは「降順」
 - 凡例(系列):
 - * 値: フォーム
 - * 集約: 数
 - * カテゴリ: ステータス(詳細)
 - 「軸」タブで:
 - 「Y 軸」を選択します。

- 最小: 自動
 - 最大: 自動
 - 主ユニット: 固定
 - 副ユニット: 固定
 - 「凡例」タブで:
 - 凡例の位置: 右
 - パレット: レッドウッド
 - 各系列にデフォルトのラベルを選択します
 - 各系列にデフォルトの色を選択します。
4. 「OK」をクリックします。

チャート・ビュー: 期間のフォーム完了

次の例は、テンプレート・タイプ別のフォーム完了を示しています。これにより、補足データ収集の進捗状況をデータのタイプごとにすばやく確認できます。



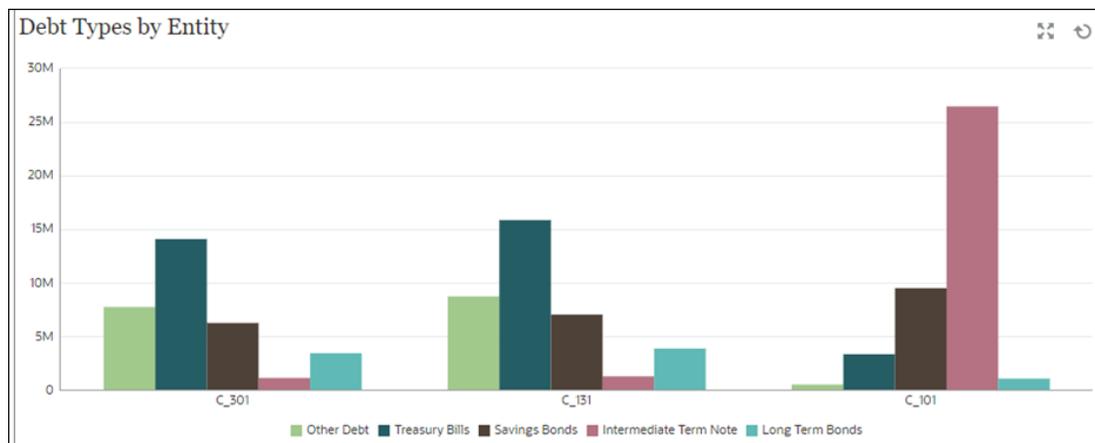
ダッシュボード内の左上のビューで次のようにします:

1. 「オブジェクト・タイプ」アイコンをクリックし、「補足データ・フォーム」 > 「デフォルト」を選択します。
2. ビュー・セレクトア・アイコンをクリックし、「チャート・ビュー」を選択します。
3. 「設定」アイコンをクリックし、次の情報を指定します:
 - 「プロパティ」タブで:
 - タイトル: 期間のフォーム完了
 - タイプ: 縦棒
 - 背景: 塗りつぶしなし
 - ラベルの位置: エッジの内側
 - 向き: 垂直
 - グリッド線: このチェック・ボックスを選択します
 - 期間: 選択

- 「レイアウト」タブで:
 - X 軸:
 - * **タイプ:** 属性
 - * **属性 1:** 期間
 - * **ソート:** 最初のドロップダウン・メニューでは「エンティティ」、2 番目のドロップダウン・メニューでは「降順」
 - 凡例(系列):
 - * **値:** フォーム
 - * **集約:** 数
 - * **カテゴリ:** ステータス(詳細)
 - 「軸」タブで:
 - 「Y 軸」を選択します。
 - **最小:** 自動
 - **最大:** 自動
 - **主ユニット:** 自動
 - **副ユニット:** 自動
 - 「凡例」タブで:
 - **凡例の位置:** 右
 - **パレット:** レッドウッド
 - 各系列にデフォルトのラベルを選択します
 - 各系列にデフォルトの色を選択します。
4. 「OK」をクリックします。

チャート・ビュー: エンティティ別債務タイプ

次の例では、補足データを使用して、様々なタイプの債務証券に関する詳細を収集します。次のチャートは、これらの債務証券の内訳をエンティティ別に示しています。

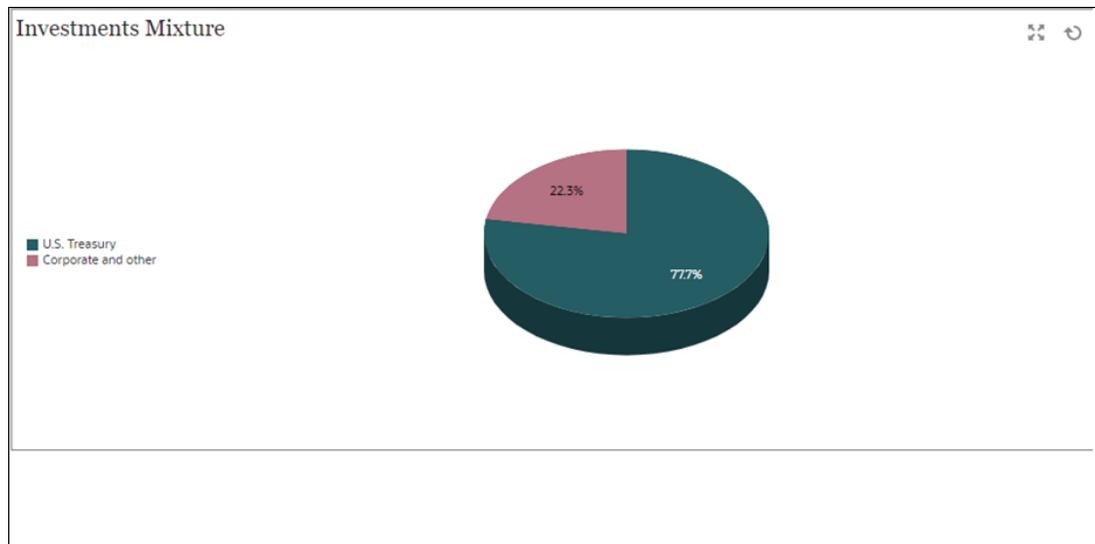


ダッシュボード内の左上のビューで次のようにします:

1. 「オブジェクト・タイプ」アイコンをクリックし、「補足データ」 > 債務詳細(収集) を選択します。
2. ビュー・セクタ・アイコンをクリックし、「チャート・ビュー」を選択します。
3. 「設定」アイコンをクリックし、次の情報を指定します:
 - 「プロパティ」タブで:
 - **タイトル:** エンティティ 別債務タイプ
 - **タイプ:** 棒
 - **背景:** 塗りつぶしなし
 - **ラベルの位置:** ラベルなし
 - **向き:** 垂直
 - **グリッド線:** このチェック・ボックスを選択します
 - **期間:** 選択
 - 「レイアウト」タブで:
 - **X 軸:**
 - * **タイプ:** 属性
 - * **属性 1:** エンティティ
 - * **ソート:** 最初のドロップダウン・メニューでは「エンティティ」、2 番目のドロップダウン・メニューでは「降順」
 - **凡例(系列):**
 - * **値:** 債務金額
 - * **集約:** 合計
 - * **カテゴリ:** 債務タイプ
 - 「軸」タブで:
 - 「Y 軸」を選択します。
 - **最小:** 自動
 - **最大:** 自動
 - **主ユニット:** 自動
 - **副ユニット:** 自動
 - 「凡例」タブで:
 - **凡例の位置:** 下
 - **パレット:** レッドウッド
 - 各系列にデフォルトのラベルを選択します
 - 各系列にデフォルトの色を選択します。
4. 「OK」をクリックします。

チャート・ビュー: 投資組合せ

次の例では、補足データを使用して、様々なタイプの債務証券に関する詳細を収集します。次の円グラフは、これらの債務証券の配分をエンティティ別に示しています。



ダッシュボード内の左上のビューで次のようにします:

1. 「オブジェクト・タイプ」アイコンをクリックし、「補足データ」 > 投資詳細(収集)を選択します。
2. ビュー・セレクタ・アイコンをクリックし、「チャート・ビュー」を選択します。
3. 「設定」アイコンをクリックし、次の情報を指定します:
 - 「プロパティ」タブで:
 - タイトル: 投資組合せ
 - タイプ: 円
 - 3D チャート: このオプションを選択します
 - 背景: 塗りつぶしなし
 - パーcentageとして表示: このオプションを選択します。
 - 期間: 選択
 - 「レイアウト」タブで:
 - X 軸:
 - * タイプ: なし
 - * 属性 1: エンティティ
 - * ソート: 最初のドロップダウン・メニューでは「アルファベット順」、2番目のドロップダウン・メニューでは「降順」
 - 凡例(系列):
 - * 値: 市場価格

- * **集約:** 合計
- * **カテゴリ:** 証券タイプ
- 「**凡例**」タブで:
 - **凡例の位置:** 左
 - **パレット:** レッドウッド
 - 各系列にデフォルトのラベルを選択します
 - 各系列にデフォルトの色を選択します。
- 4. 「**OK**」をクリックします。

A

Tax Reporting のベスト・プラクティス

Tax Reporting には、次のベスト・プラクティスを使用してください。

ベスト・プラクティスでは、機能を効果的に使用する方法について説明します。次の表には、このガイドで説明したベスト・プラクティスへのリンクが用意されています。

カテゴリ	ベスト・プラクティスの対象	この項を参照
代替階層の作成	共有階層の操作	共有メンバーの作成
勘定科目ディメンション	勘定科目の定義	勘定科目プロパティの定義
エンティティ・ディメンション	エンティティの定義	エンティティ・ディメンション
増減ディメンション	増減の定義	増減ディメンション
ディメンション階層	ディメンション階層レベルの設定	ナビゲーションを使用したディメンション階層の操作
税金自動化	資本勘定科目の設定	複数のルールの組合せを使用した税金自動化の作成
ディメンションの操作	管轄および通貨メンバーの追加	ディメンションの概要
カスタム・ディメンション	アプリケーション(ハイブリッド・モード)のニーズに基づくカスタム・ディメンションの作成	カスタム・ディメンションの追加 (ハイブリッド・モードのみ)
データのロード	データ・ファイルのインポート	データ・インポート・ファイルのロード
外国為替(FX)レート	外国為替レートの入力 - 国および地域	<ul style="list-style-type: none"> 国の FX レートの操作 地域の FX レートの操作
アプリケーション・データベース	アプリケーション・データベースの操作	データベースのリフレッシュ
ハイブリッド・モード	パフォーマンス向上のためにハイブリッドに移行	ハイブリッド最適化の一環としての更新の実行
データ統合	データのエクスポート	データ統合のベスト・プラクティス
ナビゲーション・フロー	ホーム・ページ上およびカードやタブ内での過度なスクロールの回避	ナビゲーション・フロー設計のベスト・プラクティスと命名に関する考慮事項
メンバー式の使用	簡易ディメンション・エディタでのメンバー式の定義または編集	メンバー式のベスト・プラクティス
データの監査	監査表のメンテナンス	監査詳細の表示
タスクの監査	監査表の操作	タスク・マネージャおよび補足データの監査詳細の表示
アプリケーションのモニタリング	アプリケーションの使用状況を理解するためのアプリケーションのモニタリング	アクティビティ・レポートとアクセス・ログの操作
アプリケーションの管理	アプリケーションの削除	アプリケーションの削除
補足データ・マネージャ・フォーム・テンプレート	補足データのマッピング	「フォーム・テンプレート」セクション: 「マッピング」タブ

カテゴリ	ベスト・プラクティスの対象	この項を参照
タスク・マネージャのスケジュール	テンプレートからスケジュールを作成する際のパラメータのオーバーライド	タスク・タイプ・パラメータの設定 テンプレートからのスケジュールの作成

詳細は、*Oracle Enterprise Performance Management Cloud* オペレーション・ガイドの EPM Cloud の問題のトラブルシューティングを参照してください

B

EPM Cloud に関するよくある質問(FAQ)

この FAQ には、Oracle Enterprise Performance Management Cloud の管理タスクに関するよくある質問のリソースへのリンクが用意されています。

よくある質問

- EPM Cloud サービスのトラブルシューティング時に、テクニカル・サポートを支援するための「フィードバックの提供」機能をどのように使用しますか。
- EPM Cloud ビジネス・プロセスに関する一般的なトラブルシューティングのヒントはどこで確認できますか。
- EPM Cloud サービスの SOC1 および SOC2 レポートをどのようにして取得できますか。
- EPM Cloud サービスはどのように再起動しますか。
- ユーザーのパスワードをどのようにリセットしますか。
- EPM Cloud で本番からテストへのデータ移行をどのように実行しますか。
- 自分の環境の自動月次更新をどのように延期しますか。
- OAuth 2 for OCI (Gen 2)環境での認証をどのように設定しますか。
- REST API または EPM 自動化を使用した、グループの作成または除去方法、およびそれらに対するユーザーの追加または除去方法
- オラクル社によって本番およびテストのバックアップが保持される期間、および自分の環境へのバックアップ・スナップショットのコピー方法

EPM Cloud サービスのトラブルシューティング時に、テクニカル・サポートを支援するための「フィードバックの提供」機能をどのように使用しますか。

画面の右上に表示されるユーザー名をクリックして「フィードバックの提供」を選択します。

Tip:

サービス管理者の場合、メンテナンス・スナップショットを含めて、テクニカル・サポートがサービスをトラブルシューティングすることを支援できます。「フィードバックの提供」ユーティリティで、「**アプリケーション・スナップショットの送信の確認**」を展開し、「**アプリケーション・スナップショットの送信**」オプションを有効化します。

Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者のためのスタート・ガイドのフィードバックの提供ユーティリティを使用したフィードバックの送信を参照してください

EPM Cloud ビジネス・プロセスに関する一般的なトラブルシューティングのヒントはどこで確認できますか。

[Oracle Enterprise Performance Management Cloud オペレーション・ガイド](#)で、お客様から報告があった一般的な問題に関するトラブルシューティングのヒントや情報と、それらを修正するための手順を確認してください。

EPM Cloud サービスの SOC1 および SOC2 レポートをどのようにして取得できますか。

アプリケーションの「**アクション**」メニューをクリックし、「ドキュメント」タブを選択することで、「個人用サービス」でこれらのレポートにアクセスできます。[Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者のためのスタート・ガイドのコンプライアンス・レポートへのアクセス](#)を参照してください

EPM Cloud サービスはどのように再起動しますか。

- EPM 自動化で **resetService** コマンドを使用して、EPM Cloud サービスを再起動します。[Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作で resetService](#) を参照してください。
- **サービス・インスタンスの再起動** REST API を使用して、EPM Cloud サービスを再起動します。[Enterprise Performance Management Cloud の REST API のサービス・インスタンスの再起動\(v2\)](#)を参照してください。

ユーザーのパスワードをどのようにリセットしますか。

OCI (Gen 2)環境の場合、Oracle Identity Cloud Service を使用してユーザー・アカウントのパスワードをリセットします。[Oracle Cloud の管理とモニタリングのパスワードのリセット](#)に関する項を参照してください。

クラシック環境の場合、「個人用サービス」を使用してユーザー・アカウントのパスワードをリセットします。[Oracle Cloud の管理とモニタリングのユーザーのパスワードのリセット](#)に関する項を参照してください。

EPM Cloud で本番からテストへのデータ移行をどのように実行しますか。

「**クローン**」機能を使用して、本番からテストにデータを移行します。[Oracle Enterprise Performance Management Cloud 移行の管理の EPM Cloud 環境のクローニング](#)を参照してください

または、EPM 自動化の cloneEnvironment コマンドを使用できます。環境のクローニング REST API を使用することもできます。

自分の環境の自動月次更新をどのように延期しますか。

更新のスキップの設定は、**skipUpdate** EPM 自動化コマンドを使用して実行するセルフサービス操作です。[Oracle Enterprise Performance Management Cloud オペレーション・ガイドの環境の自動更新のスキップのリクエスト](#)を参照してください

skipUpdate REST API を使用して、月次更新を延期することもできます。[Enterprise Performance Management Cloud の REST API の更新のスキップ\(v2\)](#)を参照してください。

OAuth 2 for OCI (Gen 2)環境での認証をどのように設定しますか。

EPM 自動化の場合、OAuth 2.0 承認プロトコルを使用して、コマンドを実行するため、特にコマンドの実行を自動化するために OCI (GEN 2) Oracle Enterprise Performance Management Cloud 環境にアクセスできます。Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作で OCI での OAuth 2.0 承認プロトコルの使用を参照してください。

REST API の場合、Oracle Cloud Infrastructure (OCI) Gen 2 アーキテクチャ上の EPM Cloud 環境では、環境でのパスワードの使用を回避するという要件を満たすために、EPM Cloud で OAuth 2 アクセス・トークンを使用して REST API を発行できます。Enterprise Performance Management Cloud の REST API の OAuth 2 での認証 - OCI のみを参照してください。

REST API または EPM 自動化を使用した、グループの作成または除去方法、およびそれらに対するユーザーの追加または除去方法

- グループを追加するには、Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作の createGroups または Enterprise Performance Management Cloud の REST API のグループの追加を参照してください。
- グループを削除するには、Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作の deleteGroups または Enterprise Performance Management Cloud の REST API のグループの削除を参照してください。
- ユーザーをグループに追加するには、Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作の addUsersToGroup または Enterprise Performance Management Cloud の REST API のグループへのユーザーの追加を参照してください。
- ユーザーをグループから削除するには、Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作の removeUsersFromGroup または Enterprise Performance Management Cloud の REST API のグループからのユーザーの削除を参照してください。

オラクル社によって本番およびテストのバックアップが保持される期間、および自分の環境へのバックアップ・スナップショットのコピー方法

OCI (Gen 2)環境の場合、オラクル社によって本番環境のスナップショットが 60 日間保持され、テスト環境のスナップショットは 30 日間保持されます。listBackups および restoreBackup EPM 自動化コマンドを使用して、使用可能なバックアップ・スナップショットをチェックし、自分の環境にコピーします。バックアップのリストおよびバックアップの復元 REST API を使用することもできます。

クラシック環境の場合、(本番およびテスト環境の)過去 3 日間の日次スナップショットと、(本番環境のみの)過去 60 日間の週次バックアップ・スナップショットがオラクル社によってアーカイブされます。オラクル社に、過去 3 日間のテスト・バックアップおよび過去 60 日間の本番バックアップをコピーするようリクエストできます。

Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者のためのスタート・ガイドの日次スナップショットのアーカイブ、保持および取得を参照してください

EPM Cloud 環境をどのようにバックアップおよび復元しますか。

メンテナンス・スナップショット(Artifact Snapshot)を使用して、前日からのアーティファクトおよびデータを回復できます。また、必要に応じて、Artifact Snapshot を使用して、環境を最後の運用メンテナンス中の状態に復元することもできます。次を参照してください:

- *Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者スタート・ガイド*のメンテナンステナンス・スナップショットを使用した環境のバックアップと復元
- *Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作*の `restoreBackup` および `importSnapshot` コマンド。

EPM Cloud ではどのような障害回復オプションを使用できますか。

EPM Cloud には、環境を稼働状態に復元するセルフサービス・オプションが用意されており、それによってほぼ即時の回復時間目標を達成します。次を参照してください:

- *Oracle Enterprise Performance Management Cloud 管理者スタート・ガイド*の障害回復サポート
- *Oracle Enterprise Performance Management Cloud EPM 自動化の操作*の EPM Cloud 環境のレプリケート

自動リグレッション・テストをどのようにリクエストしますか。

オラクルでは、自動リグレッション・テスト・プロセスを円滑に行うことができるよう、EPM 自動化ベースのスクリプトの作成をお手伝いします。*Oracle Enterprise Performance Management Cloud オペレーション・ガイド*の自動リグレッション・テストのリクエストを参照してください